

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第177集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第27集

下高瀬上之原遺跡

1994

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第177集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第27集

下高瀬上之原遺跡

1994

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団



121号土坑出土 刻書土器



1・2号埴輪窯 全景



13号住居出土 八稜鏡・鈴・鉸具



近世土坑出土 陶磁器

序

関越自動車道の藤岡ジャンクションより分岐して、新潟県の上越市にぬける高速自動車道の上信越自動車道は、平成5年3月に長野県佐久市までが開通しました。

この上信越自動車道の建設に伴い、数多くの埋蔵文化財が発掘調査され記録保存されました。富岡市南部の富岡インターチェンジが建設された通称「離れ山」丘陵上の富岡市下高瀬に所在する下高瀬上之原遺跡もその一つであります。

本遺跡は古墳・奈良時代主体の縄文時代から近世にかけての複合遺跡です。県内では藤岡市・太田市以外では検出されなかった古墳時代の埴輪窯跡2基、奈良・平安時代のこの地域の当時の国名・郡名・郷名・戸主名を刻書した甕破片、「玉」・「王」等と刻書された坏、奈良時代の第13号竪穴住居跡の青銅製八稜鏡・青銅製鈴等貴重な遺構・遺物が発見、調査され関係者の注目をあびました。

この度、本遺跡の整理作業が終了しましたので調査報告書を刊行しますが、発掘調査から報告書刊行に至るまで日本道路公団東京第2建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、富岡市教育委員会、地元関係者の方々から種々ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明するうえで広く活用されることを願い序とします。

平成6年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

- 1 本書は関越道自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「^{しもなかせうえのはら}下高瀬上之原遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査地の所在地は以下のとおりである。
群馬県富岡市下高瀬747番地他
- 3 本発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
- 4 実際の発掘調査にあたっては、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された関越道上越線調査事務所（多野郡吉井町南陽台3-15-8所在）が担当した。
- 5 調査期間及び担当者
 - (1) 発掘調査 調査期間 昭和63年11月1日～平成2年5月28日
調査担当者 津金澤吉茂 昭和63～平成2年度
(専門員、現県教育委員会文化財保護課主幹兼専門員)
新井 仁 昭和63・平成2年度（調査研究員）
山口良寛 昭和63年度（調査研究員、現県立渋川女子高校教諭）
飛田野正佳 平成元年度（調査研究員、現赤城村立南中学校教諭）
志塚（旧姓保坂）雅美 平成元・2年度（調査研究員、現富士見村立富士見中学校教諭）
 - (2) 整理 整理期間 平成4年10月1日～平成6年3月31日
整理担当者 新井 仁
 - (3) 事務 常務理事 白石保三郎（昭和63年度）、邊見長雄（平成元～4年度）、
中村英一（平成5年度）
事務局長 松本浩一（昭和63～平成3年度）、近藤 功（平成4・5年度）
管理部長 田口紀雄（昭和62～平成2年度）、佐藤 勉（平成3・4年度）
調査研究部長 上原啓巳（昭和63年度）、神保侑史（平成元～5年度）
関越道上越線事務所長 井上 信（昭和63年度）、高橋一夫（平成元・2年度）
阿部千明（平成3年4月～11月）、松本浩一（平成3年11月～4年3月 兼任）
吉田 肇（平成4・5年度）
総括次長 片桐光一（昭和62～平成元年度）、大澤友治（平成2・3年度）
次長 原田恒弘（昭和62年度）、徳江 紀（昭和63～平成2年度）
調査課長 鬼形芳夫（昭和63～平成2年度）、依田治雄（平成3～5年度）
庶務課 係長代理 黒沢重樹（昭和63年度）、宮川初太郎（平成元・2年度）
主任 国定 均（昭和63・平成元年度）、笠原秀樹（平成2・3年度）
吉田有光（平成4・5年度）
臨時職員 山崎郁夫、神戸市四郎、松井留男、秋山友衛、町田康子、本城美樹、
後閑玲子、田中智恵美、高田千恵、吉田登志子、高橋あゆみ

6 報告書作成担当者

編集担当 新井 仁

本文執筆 依田治雄 (I-1)、東野治之 (IV-2)、関口功一 (IV-3)、坂口 一・南雲芳昭 (IV-3)、坂井 隆 (IV-4)、緑川 順 (付載)、新井 仁 (左記以外)

遺構写真 津金澤吉茂、新井 仁、山口良寛、飛田野正佳、志塚雅美

遺物写真 たつみ写真スタジオ (委託)

保存処理 関 邦一 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団技師)

遺物観察 新井 仁

整理補助員 石井京子、高橋栄子、堤由美子、湯浅美枝子、温井久子、丸澤君枝、吉田京子
小幡由美子 他に多胡蛇黒遺跡・矢田遺跡各整理班の協力を得た。

委託関係 航空写真はK&Mエンタープライズおよび青空館航空写真に、遺構測量は技研測量設計株式会社に、遺物トレースは株式会社測研に、遺物写真はたつみ写真スタジオに委託し、石材鑑定は陣内主一 (元群馬県立自然科学資料館) に依頼した。

7 埴輪については右島和夫・南雲芳昭 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団) に、縄文土器については小野和之、木村 収 (財群馬県埋蔵文化財調査事業団) に、肥前系陶磁器については大橋康二 (佐賀県立九州陶磁文化館) に、瀬戸美濃系陶磁器については仲野泰裕 (愛知県陶磁資料館) にそれぞれ御教示を得た。

8 出土遺物・図面は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターの収蔵庫に保管してある。

9 発掘調査および整理作業・報告書作成に当たり、以下の諸機関、諸氏から御教示、御指導いただいた。記して謝意を表する次第である。(敬称略)

富岡市教育委員会、富岡市農協、井上 太、白石太一郎、徳江 紀

10 発掘調査従事者

相川富士江、新井さと、新井隆之、新井つね、飯塚喜与治、飯島シウ、石井京子、石川トク子、入山清春、岩井定子、岩井トク子、大岡静枝、大岡弥生、大塚ちよ子、岡田ユキ、岡野てる、小川甲子、小川國雄、小田島潤子、金沢房三、加部ノリ、桐渕サダ、工藤恵助、黒沢きみ枝、小井戸てつ、小管弘子、小島良雄、小林茂、小林フミ江、斎藤昇三、斎藤玉江、斎藤つる、斎藤俊夫、坂本豊吉、坂本松雄、佐々木福寿、佐々木敏雄、佐々木裕子、佐藤朝男、佐藤アサノ、佐藤京子、佐藤てる子、佐藤とみ、佐藤信平、佐藤美津江、佐藤ゆき、佐俣幸造、沢田八蔵、重田光治、柴山静弥、白石かね子、神保京子、須賀茂平治、袖山美紀、高田秀介、高橋仁太郎、高橋ツル子、高橋敏子、高橋政雄、田島一布、田中喜代美、田村道恵、土屋満子、中島則子、中村明子、中村福治、永峰うめ子、葦塚 峯、林 通清、林 静江、広木正幸、藤沢フミ子、細野やすの、堀口長太郎、松井松次、松本章子、真砂セツ、丸岡なみ江、丸沢君枝、三田一巳、三田玉江、三田千代子、三田とめ、三田とり、三田はるみ、三田美恵子、三田幸雄、三ッ木國雄、宮下君枝、宮下ヒロ子、宮下保次、茂木恭子、茂木はるえ、茂木礼子、柳沢一子、柳沢一寿、柳沢クマオ、柳沢たね、柳沢としゑ、山田晋三郎、山田春一、山田福一、横山子之吉、吉田美津子、渡辺文江

上記の他、富岡市を中心として、多くの方々の協力を得た。

凡 例

- 1 本書の遺構番号は、基本的に発掘調査時に付したものをそのまま使用している。
また、調査時の遺構名称が適当でないものについては欠番とした。
- 2 本書の遺構・遺物挿図の縮尺率は原則として以下のとおりとしたが、統一できないものも多いためスケールを参照されたい。
遺構 古墳 1/120 竪穴住居・土坑・埴輪窯 1/60 竪穴住居炉・カマド 1/30
遺物 坏等の小型土器・土器破片・小型石器 1/3 甕等の大型土器・埴輪・大型石器 1/4
鉄器 1/2 玉未製品 2/3 石鏃・銅銭・玉完成品 1/1
- 3 遺構図中の方位記号は国家座標の北を表す。
- 4 竪穴住居の面積は上端面積、床面積はカマドを除いた下端の面積であり、他の遺構は上端面積である。
計測にはプランメーターを用い、3回計測してその平均を面積とした。
- 5 主軸方位は、カマド・炉を持つ住居の場合、カマドのある壁・炉の寄っている壁に直角の方向とし、他の遺構の場合は長軸の方向で北から東西90°以内を主軸とした。
- 6 土器実測図中、残存量が二分の一以下の遺物は180°展開して図上復元した。この場合、実測線を中心線から離している。また土器断面図中の実線は輪積痕を、点線はそれ以外の欠損を表す。
- 7 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。
 - ・出土位置は、住居内の平面位置若しくはグリッドを表し、数字は床面からの高さを表す。
 - ・計測値の()は推定値を、[]は現存値を示す。
 - ・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色監修『新版標準土色帖 1988年版』に基づいている。
 - ・胎土表記中の細砂・粗砂・礫は、径2mm以上を礫、径2~0.2mmを粗砂、径0.2mm以下を細砂とした。
- 8 遺構図、遺物実測図、遺物観察表、写真図版の遺物番号は基本的に一致する。なお、遺構図中の丸囲み数字は縄文遺構外の、四角囲み数字は弥生遺構外の遺物番号を表している。
- 9 遺構図中の断面基準線は標高で表し、単位はmを用いた。
- 10 遺構及び遺物図中のスクリーントーンおよびシンボルマークは下記のことを表す。

遺構	遺構下	焼土	炭化物・灰	粘土
遺物	須恵器断面	陶器釉部分	煤・油煙・漆(濃)	煤・油煙・漆(薄)
		黑色処理	石器使用面	
	縄文土器 ●	弥生甕 ■	弥生壺 ▲	弥生高坏 ○
	土師器甕 ■	土師器坏・高坏 ○		
	須恵器 ▲	軟質陶器 ■	土師質土器 ▲	陶磁器 ○
			石器 ▲	金属製品 □

埴輪や滑石等の単一の出土状況の場合は●○で表している。

- 11 周辺遺跡図に使用した地図は、国土地理院発行50,000分の1地形図の「富岡」である。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
第I章 発掘調査の実施と経過	
第1節 調査に至る経緯と調査の経過	3
第2節 調査の方法	5
第3節 基本土層	8
第II章 遺跡をとりまく環境	
第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	12
第III章 検出された遺構と出土遺物	
第1節 縄文時代	19
(1) 遺構・遺物の概要	20
(2) 竪穴住居跡	23
(3) 土 坑	25
(4) 遺構外出土遺物	26
第2節 弥生時代	53
(1) 遺構・遺物の概要	54
(2) 土 坑	54
(3) 遺構外出土遺物	61
第3節 古墳時代前期	75
(1) 遺構・遺物の概要	76
(2) 竪穴住居跡	77
(3) 遺構外出土遺物	91
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代	96
(1) 遺構・遺物の概要	95
(2) 竪穴住居跡	102
(3) 古 墳	277
(4) 埴輪窯	319
(5) 土 坑	326
(6) 溝状遺構	337

(7) 谷津状遺構	340
(8) 遺構外出土遺物	389
第5節 近 世	401
(1) 土 坑	402
(2) 遺構外出土遺物	423
第6節 近代以降・時期不明	425
(1) 土 坑	426
(2) 溝状遺構・ピット群	436
第VII章 調査の成果と問題点	444
第1節 縄文時代～近世の遺構・遺物について	444
第2節 121号土坑出土刻書土器について	453
第3節 121号土坑出土の刻字土器の地域史的意義について	455
第4節 下高瀬上之原遺跡4号墳、5号墳の出土遺物について	464
第5節 13号住居跡出土八稜鏡について	467
付載 近世土坑出土人骨について	468
報告書抄録	471
写真図版	

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置およびグリッド配置図	6	第 58 図	5号住居跡出土遺物(2)	86
第 2 図	旧石器トレンチ位置図	7	第 59 図	6号住居跡および炉	87
第 3 図	基本土層図	8	第 60 図	7号住居跡	88
第 4 図	遺跡周辺地形図	9	第 61 図	7号住居跡遺物出土状況および炉	89
第 5 図	遺跡周辺地形区分図	11	第 62 図	7号住居跡出土遺物	90
第 6 図	簗川周辺古墳・古墳時代集落位置図	13	第 63 図	遺構外出土遺物分布図(1)	91
第 7 図	簗川周辺奈良・平安時代集落位置図	14	第 64 図	遺構外出土遺物分布図(2)	93
第 8 図	周辺の主要遺跡	15	第 65 図	古墳時代～平安時代遺構位置図	96
第 9 図	縄文時代遺構位置図	19	第 66 図	古墳時代後期～平安時代住居跡 主軸方位および規模	97
第 10 図	石器石材別分類グラフ	22	第 67 図	古墳中期～平安時代遺構間接合図	99
第 11 図	15号住居跡	23	第 68 図	1号住居跡	102
第 12 図	15号住居跡掘り方・埋設土器・炉	24	第 69 図	1号住居跡掘り方	103
第 13 図	15号住居跡出土遺物	25	第 70 図	1号住居跡出土遺物	104
第 14 図	34号土坑	26	第 71 図	2号住居跡	105
第 15 図	34号土坑出土遺物	26	第 72 図	2号住居跡遺物出土状況および掘り方	106
第 16 図	遺構外出土土器分布図(1)	27	第 73 図	2号住居跡出土遺物	107
第 17 図	遺構外出土土器分布図(2)	29	第 74 図	3号住居跡	108
第 18 図	遺構外出土石器分布図(1)	31	第 75 図	3号住居跡掘り方	109
第 19 図	遺構外出土石器分布図(2)	33	第 76 図	3号住居跡カマド	110
第 20 図	遺構外出土遺物(1)	35	第 77 図	3号住居跡出土遺物	111
第 21 図	遺構外出土遺物(2)	36	第 78 図	8号住居跡	113
第 22 図	遺構外出土遺物(3)	37	第 79 図	8号住居跡カマド	113
第 23 図	遺構外出土遺物(4)	38	第 80 図	8号住居跡出土遺物	114
第 24 図	遺構外出土遺物(5)	39	第 81 図	9号住居跡	115
第 25 図	遺構外出土遺物(6)	40	第 82 図	9号住居跡掘り方	116
第 26 図	遺構外出土遺物(7)	41	第 83 図	9号住居跡カマド	117
第 27 図	遺構外出土遺物(8)	42	第 84 図	9号住居跡出土遺物	118
第 28 図	遺構外出土遺物(9)	43	第 85 図	10・11・14号住居跡	120
第 29 図	遺構外出土遺物(10)	44	第 86 図	10・11・14号住居跡掘り方	121
第 30 図	遺構外出土遺物(11)	45	第 87 図	11・14号住居跡カマド	122
第 31 図	遺構外出土遺物(12)	46	第 88 図	10号住居跡出土遺物	123
第 32 図	遺構外出土遺物(13)	47	第 89 図	11号住居跡出土遺物(1)	123
第 33 図	遺構外出土遺物(14)	48	第 90 図	11号住居跡出土遺物(2)	124
第 34 図	遺構外出土遺物(15)	49	第 91 図	12号住居跡	125
第 35 図	弥生時代遺構位置図	53	第 92 図	12号住居跡掘り方	126
第 36 図	23・27・32号土坑	57	第 93 図	12号住居跡カマド	127
第 37 図	36・42・43・51・56・57号土坑	58	第 94 図	12号住居跡出土遺物	128
第 38 図	53号土坑	59	第 95 図	13号住居跡	129
第 39 図	23・27・32号土坑出土遺物	59	第 96 図	13号住居跡遺物出土状況	130
第 40 図	32・36・51・53・56号土坑出土遺物	60	第 97 図	13号住居跡掘り方	131
第 41 図	遺構外出土遺物(1)	62	第 98 図	13号住居跡東カマド	132
第 42 図	遺構外出土遺物分布図 中期(1)	63	第 99 図	13号住居跡北カマド	133
第 43 図	遺構外出土遺物分布図 中期(2)	65	第 100 図	13号住居跡周辺遺物出土状況	134
第 44 図	遺構外出土遺物分布図 後期・不明(1)	67	第 101 図	13号住居跡出土遺物(1)	134
第 45 図	遺構外出土遺物分布図 後期・不明(2)	69	第 102 図	13号住居跡出土遺物(2)	135
第 46 図	遺構外出土遺物(2)	71	第 103 図	13号住居跡出土遺物(3)	136
第 47 図	遺構外出土遺物(3)	72	第 104 図	13号住居跡周辺出土遺物	137
第 48 図	古墳時代前期遺構位置図	75	第 105 図	16号住居跡	138
第 49 図	4号住居跡	78	第 106 図	16号住居跡掘り方	139
第 50 図	4号住居跡遺物出土状況	79	第 107 図	16号住居跡カマド	140
第 51 図	4号住居跡掘り方	80	第 108 図	16号住居跡出土遺物	140
第 52 図	4号住居跡炉	80	第 109 図	17号住居跡	141
第 53 図	4号住居跡出土遺物(1)	81	第 110 図	17号住居跡カマド	143
第 54 図	4号住居跡出土遺物(2)	82	第 111 図	17号住居跡出土遺物	144
第 55 図	5号住居跡	84	第 112 図	18号住居跡	145
第 56 図	5号住居跡掘り方および炉	85	第 113 図	18号住居跡遺物出土状況	146
第 57 図	5号住居跡出土遺物(1)	85			

第114図	18号住居跡掘り方	147	第176図	31号住居跡	217
第115図	18号住居跡カマド	148	第177図	31号住居跡出土遺物	217
第116図	18号住居跡拡張前	149	第178図	32号住居跡	218
第117図	18号住居跡出土遺物(1)	150	第179図	32号住居跡カマド	219
第118図	18号住居跡出土遺物(2)	151	第180図	32号住居跡出土遺物	220
第119図	19号住居跡	153	第181図	33号住居跡	221
第120図	19号住居跡カマド	155	第182図	33号住居跡掘り方	222
第121図	19号住居跡カマド掘り方	156	第183図	33号住居跡カマド	222
第122図	19号住居跡出土遺物	157	第184図	34号住居跡	223
第123図	20号住居跡カマド	158	第185図	34号住居跡遺物出土状況および掘り方	224
第124図	20号住居跡	159	第186図	34号住居跡カマド	225
第125図	20号住居跡出土遺物(1)	161	第187図	34号住居跡出土遺物(1)	226
第126図	20号住居跡出土遺物(2)	162	第188図	34号住居跡出土遺物(2)	227
第127図	21号住居跡	163	第189図	35号住居跡遺物出土状況	228
第128図	21号住居跡掘り方	164	第190図	35号住居跡掘り方	229
第129図	21号住居跡カマド	165	第191図	35号住居跡カマド	229
第130図	21号住居跡出土遺物	166	第192図	35号住居跡出土遺物(1)	230
第131図	22号住居跡	167	第193図	35号住居跡出土遺物(2)	231
第132図	22号住居跡遺物出土状況	168	第194図	36号住居跡	233
第133図	22号住居跡炭化材出土状況および掘り方	169	第195図	36号住居跡滑石出土状況	234
第134図	22号住居跡カマド	170	第196図	36号住居跡カマド	235
第135図	22号住居跡出土遺物(1)	171	第197図	36号住居跡出土遺物(1)	235
第136図	22号住居跡出土遺物(2)	172	第198図	36号住居跡出土遺物(2)	236
第137図	23号住居跡	174	第199図	36号住居跡出土遺物(3)	237
第138図	23号住居跡カマド	175	第200図	37号住居跡	238
第139図	23号住居跡出土遺物(1)	175	第201図	37号住居跡カマド	239
第140図	23号住居跡出土遺物(2)	176	第202図	37号住居跡出土遺物	240
第141図	24号住居跡	177	第203図	38号住居跡	241
第142図	24号住居跡遺物出土状況	178	第204図	38号住居跡カマド	242
第143図	24号住居跡掘り方およびカマド	179	第205図	38号住居跡出土遺物	243
第144図	24号住居跡出土遺物(1)	180	第206図	39号住居跡	244
第145図	24号住居跡出土遺物(2)	181	第207図	39号住居跡掘り方およびカマド	245
第146図	25号住居跡	183	第208図	39号住居跡出土遺物	246
第147図	25号住居跡遺物出土状況	184	第209図	40号住居跡	247
第148図	25号住居跡カマド	185	第210図	40号住居跡掘り方	248
第149図	25号住居跡出土遺物(1)	186	第211図	40号住居跡カマド	248
第150図	25号住居跡出土遺物(2)	187	第212図	40号住居跡出土遺物	249
第151図	26号住居跡	189	第213図	41号住居跡および遺物出土状況	250
第152図	25・26号住居跡掘り方	190	第214図	41号住居跡掘り方およびカマド	251
第153図	26号住居跡カマド	191	第215図	41号住居跡出土遺物(1)	252
第154図	26号住居跡出土遺物	192	第216図	41号住居跡出土遺物(2)	253
第155図	27号住居跡	193	第217図	42号住居跡	254
第156図	27号住居跡掘り方	194	第218図	42号住居跡遺物出土状況および掘り方	255
第157図	27号住居跡出土遺物	194	第219図	42号住居跡カマド	256
第158図	28号住居跡	195	第220図	42号住居跡出土遺物(1)	256
第159図	28号住居跡遺物出土状況	196	第221図	42号住居跡出土遺物(2)	257
第160図	28号住居跡掘り方・住居内土坑およびカマド	197	第222図	43号住居跡	259
第161図	28号住居跡出土遺物(1)	198	第223図	43号住居跡カマド	260
第162図	28号住居跡出土遺物(2)	199	第224図	44号住居跡カマド	261
第163図	29号住居跡	201	第225図	44号住居跡出土遺物	261
第164図	29号住居跡掘り方	202	第226図	45号住居跡	263
第165図	29号住居跡遺物出土状況	203	第227図	45号住居跡掘り方	264
第166図	29号住居跡カマド	205	第228図	45号住居跡カマドおよびカヤ炭化物	264
第167図	29号住居跡出土遺物(1)	206	第229図	45号住居跡出土遺物	265
第168図	29号住居跡出土遺物(2)	207	第230図	46号住居跡	267
第169図	29号住居跡出土遺物(3)	208	第231図	46号住居跡掘り方	268
第170図	29号住居跡出土遺物(4)	209	第232図	46号住居跡カマド	268
第171図	29号住居跡出土遺物(5)	210	第233図	46号住居跡出土遺物	269
第172図	29号住居跡出土遺物(6)	211	第234図	47号住居跡および掘り方	270
第173図	29号住居跡出土遺物(7)	212	第235図	47号住居跡カマド	271
第174図	30号住居跡	216	第236図	47号住居跡出土遺物	272
第175図	30号住居跡出土遺物	216	第237図	49号住居跡および掘り方	274

第238図	49号住居跡カマド	275
第239図	49号住居跡出土遺物(1)	275
第240図	49号住居跡出土遺物(2)	276
第241図	古墳群位置図	277
第242図	1号墳	278
第243図	1号墳遺物出土状況	279
第244図	1号墳周溝内石組	280
第245図	1号墳出土遺物(1)	280
第246図	1号墳出土遺物(2)	281
第247図	2号墳	282
第248図	3号墳	283
第249図	4号墳	285
第250図	4号墳遺物出土状況	287
第251図	4号墳礎出土状況	289
第252図	4号墳掘り方	290
第253図	4号墳出土遺物(1)	291
第254図	4号墳出土遺物(2)	292
第255図	4号墳出土遺物(3)	293
第256図	4号墳出土遺物(4)	294
第257図	4号墳出土遺物(5)	295
第258図	4号墳出土遺物(6)	296
第259図	5号墳	299
第260図	5号墳遺物出土状況(1)	301
第261図	5号墳遺物出土状況(2)	303
第262図	5号墳出土遺物(1)	306
第263図	5号墳出土遺物(2)	307
第264図	5号墳出土遺物(3)	308
第265図	5号墳出土遺物(4)	309
第266図	5号墳出土遺物(5)	310
第267図	6号墳	313
第268図	6号墳南西部遺物出土状況	314
第269図	6号墳出土遺物(1)	315
第270図	6号墳出土遺物(2)	316
第271図	7号墳	317
第272図	7号墳礎出土状況	318
第273図	7号墳出土遺物	318
第274図	1号埴輪窯	319
第275図	1号埴輪窯遺物出土状況	320
第276図	1号埴輪窯出土遺物(1)	321
第277図	1号埴輪窯出土遺物(2)	322
第278図	1号埴輪窯出土遺物(3)	323
第279図	2号埴輪窯	324
第280図	2号埴輪窯出土遺物	325
第281図	1・2号土坑	326
第282図	3・22・46号土坑	327
第283図	15・21号土坑	328
第284図	52・58・59号土坑	329
第285図	65号土坑	330
第286図	66・104・121号土坑	331
第287図	1・15・21・46・52・58・ 59・65号土坑出土遺物	332
第288図	65号土坑出土遺物	333
第289図	65・66・104・121号土坑出土遺物	334
第290図	121号土坑出土遺物	335
第291図	7・12号溝	338
第292図	13号溝	339
第293図	7・12・13号溝出土遺物	340
第294図	2号谷津状遺構	341
第295図	2号谷津状遺構埴輪出土状況(1)	342
第296図	2号谷津状遺構埴輪出土状況(2)	343
第297図	2号谷津状遺構埴輪出土状況(3)	343
第298図	2号谷津状遺構出土埴輪(1)	345

第299図	2号谷津状遺構出土埴輪(2)	346
第300図	2号谷津状遺構出土埴輪(3)	347
第301図	2号谷津状遺構出土埴輪(4)	348
第302図	2号谷津状遺構出土埴輪(5)	349
第303図	2号谷津状遺構東側遺物出土状況	353
第304図	2号谷津状遺構西側遺物出土状況	354
第305図	2号谷津状遺構遺物出土状況(1)	355
第306図	2号谷津状遺構遺物出土状況(2)	357
第307図	2号谷津状遺構C23VII15Gr付近 遺物出土状況	359
第308図	2号谷津状遺構礎出土状況	361
第309図	1・2号井戸	361
第310図	2号谷津状遺構出土遺物(1)	362
第311図	2号谷津状遺構出土遺物(2)	363
第312図	2号谷津状遺構出土遺物(3)	364
第313図	2号谷津状遺構出土遺物(4)	365
第314図	2号谷津状遺構出土遺物(5)	366
第315図	2号谷津状遺構出土遺物(6)	367
第316図	2号谷津状遺構出土遺物(7)	368
第317図	2号谷津状遺構出土遺物(8)	369
第318図	2号谷津状遺構出土遺物(9)	370
第319図	2号谷津状遺構出土遺物(10)	371
第320図	2号谷津状遺構出土遺物(11)	372
第321図	2号谷津状遺構出土遺物(12)	373
第322図	2号谷津状遺構出土遺物(13)	374
第323図	2号谷津状遺構出土遺物(14)	375
第324図	2号谷津状遺構出土遺物(15)	376
第325図	2号谷津状遺構出土遺物(16)	377
第326図	2号谷津状遺構出土遺物(17)	378
第327図	2号谷津状遺構出土遺物(18)	379
第328図	2号井戸出土遺物	388
第329図	遺構外出土遺物分布図(1)	389
第330図	遺構外出土遺物分布図(2)	391
第331図	C22VII35Gr付近遺物出土状況	393
第332図	遺構外出土遺物(1)	394
第333図	遺構外出土遺物(2)	395
第334図	遺構外出土遺物(3)	396
第335図	遺構外出土遺物(4)	397
第336図	遺構外出土遺物(5)	398
第337図	江戸時代遺構位置図	401
第338図	江戸時代墳墓位置図	402
第339図	4・5号土坑	406
第340図	9・10号土坑	407
第341図	12・16号土坑	408
第342図	18・19号土坑	409
第343図	20号土坑	410
第344図	24・25号土坑	411
第345図	26号土坑	412
第346図	4号土坑出土遺物	413
第347図	5号土坑出土遺物	414
第348図	9・10号土坑出土遺物	415
第349図	10・12号土坑出土遺物	416
第350図	12・16号土坑出土遺物	417
第351図	16・18号土坑出土遺物	418
第352図	19・20号土坑出土遺物	419
第353図	20・24・25・26号土坑出土遺物	420
第354図	遺構外出土遺物(1)	424
第355図	遺構外出土遺物(2)	425
第356図	近代以降・時期不明遺構位置図	426
第357図	6・7・8・13・14号土坑	429
第358図	17・28・29・30・31・35・39号土坑	430
第359図	33・37・38・40・41号土坑	431

第360図	44・45・47・49号土坑	432
第361図	48・50・54・55・60～64・ 67・90号土坑	433
第362図	68～78・97～103号土坑	434
第363図	80・91～96・115号土坑	435
第364図	81～89・105～112号土坑	436
第365図	116・118～120・123～125号土坑	437
第366図	1～4号溝	439
第367図	5・6・8号溝	440

第368図	9～11・14号溝	441
第369図	1号暗渠	442
第370図	C21VII33Gr付近ピット群	443
第371図	古墳時代後期～奈良時代集落変遷図(1)	448
第372図	古墳時代後期～奈良時代集落変遷図(2)	449
第373図	121号土坑出土遺物	453
第374図	121号土坑刻書土器	454
第375図	古代甘楽郡模式図	456
第376図	富岡市周辺の字名と条形型方格地割	460

写真図版目次

図版 1	遺跡遠景
図版 2	南側調査区古墳群全景・北側調査区全景
図版 3	15号住居跡・34号土坑
図版 4	23・27・32・36・42・51・53・43号土坑
図版 5	56・57号土坑・4号住居跡
図版 6	4・5号住居跡
図版 7	5～7号住居跡
図版 8	7・1号住居跡
図版 9	2・3号住居跡
図版 10	3・8・9号住居跡
図版 11	9・10・11・14号住居跡
図版 12	10・11・14・12号住居跡
図版 13	12・13号住居跡
図版 14	13号住居跡
図版 15	16・17号住居跡
図版 16	17・18号住居跡
図版 17	18・19号住居跡
図版 18	19・20号住居跡
図版 19	21・22号住居跡
図版 20	22～24号住居跡
図版 21	22～24号住居跡
図版 22	24・25号住居跡
図版 23	25号住居跡
図版 24	25・26号住居跡
図版 25	26～28号住居跡
図版 26	28・29号住居跡
図版 27	29号住居跡
図版 28	30～32号住居跡
図版 29	32～34号住居跡
図版 30	34・35号住居跡
図版 31	35・36号住居跡
図版 32	36・37号住居跡
図版 33	37・38号住居跡
図版 34	39・40号住居跡
図版 35	40・41号住居跡
図版 36	42・43号住居跡
図版 37	44・45号住居跡
図版 38	46・47号住居跡
図版 39	47・49号住居跡
図版 40	1・2号墳
図版 41	2・3号墳
図版 42	3・4号墳
図版 43	4・5号墳
図版 44	5・6号墳
図版 45	6・7号墳・1・2号墳輪窠
図版 46	1号墳輪窠
図版 47	1・2号墳輪窠
図版 48	2号谷津状遺構・1～3・15・21・22号土坑

図版 49	46・52・58・59・65・66・104号土坑
図版 50	7・12・13号溝・2号谷津状遺構
図版 51	2号谷津状遺構
図版 52	2号谷津状遺構・1・2号井戸
図版 53	4・5号土坑
図版 54	5・9・10・12号土坑
図版 55	12・16号土坑
図版 56	16・18・19号土坑
図版 57	19・20号土坑
図版 58	24・25号土坑
図版 59	26・6・7・13号土坑
図版 60	17・29・38・39・44・50・54・55号土坑
図版 61	67～80・91～96・115・105～112・ 118～120号土坑・1・2号溝
図版 62	3・6・8・9・11・14号溝・1号暗渠
図版 63	15号住居跡・34号土坑・遺構外出土遺物
図版 64	遺構外出土遺物
図版 65	遺構外・23・27・32・36号土坑出土遺物
図版 66	53号土坑・遺構外・4号住居跡出土遺物
図版 67	4・5・7・1・2号住居跡出土遺物
図版 68	2・3・8・9号住居跡出土遺物
図版 69	9～13号住居跡出土遺物
図版 70	13・16・17号住居跡出土遺物
図版 71	18・19号住居跡出土遺物
図版 72	19～22号住居跡出土遺物
図版 73	22～24号住居跡出土遺物
図版 74	24・25号住居跡出土遺物
図版 75	25～28号住居跡出土遺物
図版 76	28・29号住居跡出土遺物
図版 77	29号住居跡出土遺物
図版 78	29・30・32・34・35号住居跡出土遺物
図版 79	35～38号住居跡出土遺物
図版 80	39～42号住居跡出土遺物
図版 81	42・44～47号住居跡・121号土坑出土遺物
図版 82	47・49号住居跡・1・4号墳出土遺物
図版 83	4号墳出土遺物
図版 84	4・5号墳出土遺物
図版 85	5号墳出土遺物
図版 86	5～7号墳出土遺物
図版 87	1・2号窯・1・21・46・52号土坑出土遺物
図版 88	58・59・65・121号土坑・7・12・13号溝出土遺物
図版 89	2号谷津状遺構出土遺物
図版 90	2号谷津状遺構出土遺物
図版 91	2号谷津状遺構出土遺物
図版 92	2号谷津状遺構出土遺物
図版 93	2号谷津状遺構出土遺物
図版 94	2号谷津状遺構出土遺物
図版 95	2号谷津状遺構出土遺物

図版 96 2号谷津状遺構出土遺物
図版 97 2号谷津状遺構・2号井戸・遺構外出土遺物
図版 98 遺構外・4・5号土坑出土遺物
図版 99 5・9・10・12・16号土坑出土遺物

図版 100 16・18～20・24～26号土坑・遺構外出土遺物
図版 101 遺構外・13・29・34号住居跡・65号土坑出土遺物
図版 102 65・121号土坑・2号谷津状遺構出土遺物

抄 録

1 遺跡の概略

下高瀬上之原遺跡は、群馬県富岡市内匠の鍋川右岸に広がる丘陵上に所在する。この丘陵は通称「離れ山」と呼ばれ、標高220～260mで、幅約600m、長さ約3.3kmの東西に細長い形状をなしている。この丘陵は北に向かう小支谷によって分断されており、遺跡は丘陵の中央部に位置している。

発掘調査により、縄文時代～近世の各時代にわたる、竪穴住居・古墳・埴輪窯・土坑・溝状遺構等の遺構や多くの遺物が検出された。

調査期間は昭和63年10月から平成2年5月までの1年8ヶ月である。(途中中断あり)

2 遺構数量

時代	種別	数量	備考
縄文時代	竪穴住居跡	1	前期後半諸磯a式期
	土坑	1	前期か
弥生時代	土坑	10	中期のものが多い
古墳時代 平安時代	竪穴住居跡	4	古墳時代前期石田川期
	竪穴住居跡	43	古墳時代後期～奈良時代42軒 平安時代1軒
	古墳	7	古墳時代中期 埴輪を伴うものがある
	埴輪窯	2	古墳時代後期 1基は円筒埴輪が多く残る
	土坑	14	刻書土器の出土したものあり
	溝状遺構	3	2条は谷津状遺構に掘り抜かれる
	谷津状遺構	1	水場として利用される 土器多量出土
	井戸	2	谷津状遺構中にある溜井
近世	土坑	12	墓塚 人骨11体出土 陶磁器・銅銭等が副葬される
近代以降 時期不明	土坑	92	
	溝状遺構	10	
	暗渠	1	
	ピット群	1	

3 まとめ

内匠丘陵上には多くの遺跡が存在するが、本遺跡は丘陵の中央部に位置している。縄文時代～近世にかけての多くの遺構・遺物が出土しているが、特に古墳～奈良時代のものが多い。なかでも埴輪窯は、群馬県内では太田・藤岡地区以外で検出されたのは初めてで、小規模ながら各地に窯のある可能性を示す良好な資料である。また遺物では、121号土坑から国郡郷名および戸主名の記された甕破片が出土しており、『和名抄』の記述を裏付ける貴重な資料となっている。

下高瀬上之原遺跡

第I章 発掘調査の実施と経過

第1節 調査に至る経緯と調査の経過

(1) 調査に至る経緯

関越自動車道上越線は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団によって建設される。群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣により日本道路公団が施行命令を受けている。同56年群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町（東部）・松井田町（東部）、同57年松井田町（西部）・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。

関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い及び調査経過は次のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し文化財保護法の遵守、国・県・市町村の指定文化財をさけること、文化財に関する事項は県教委文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教委文化財保護課は路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について、「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県（企画部交通対策課）より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財についてより具体的な調査の依頼が道路公団より県教育委員会にあり、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を行った。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を濃い分布地・淡い分布地・試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した。（後の試掘により52遺跡に変更）そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和66年度末（平成2年度末）とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分に調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の出張所（上越線調査事務所）を開設し、整理作業も併せ行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりとする。

埋文事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

なお、調査実施方法は次のとおりである。

日本道路公団東京第二建設局は群馬県教育委員会に調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はそれを受け、群馬県埋蔵文化財調査事業団及び、各遺跡調査会等に再委託のかたちで委託契約を締結し、調査を実施する。

昭和61年度 4月、埋文事業団上越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足。以後、6班22人体制（昭62）、9班36人体制（昭63）、12班45人体制（平元）、12班45人体制（平2）平成2年度までに一部を残し発掘調査は終了した。整理作業は昭和63年度より併行して実施していたが、平成3年度からはほとんど整理作業のみとなり、平成8年度終了予定である。

今回の発掘調査報告地区は内匠・下高瀬遺跡（事業名称）の一部で、富岡インターチェンジ（仮称）付近

第 I 章 発掘調査の実施と経過

に位置する。県教委文化財保護課の分布調査により、内匠・下高瀬遺跡全体の対象面積は約22万㎡と非常に広大な遺跡とされていた。そこでまず予備的調査として、遺構の有無および範囲の確認、遺構の種別・性格等を把握する目的で試掘調査を実施し、その後本調査を行う事で日本道路公団富岡工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課と合意した。試掘調査は昭和61年6月から8月末までの3ヶ月間行われ、試掘調査の結果、本調査実施面積は内匠・下高瀬遺跡全体で約11万㎡となった。今回報告する下高瀬上之原遺跡は、内匠・下高瀬遺跡群の西寄りに位置し、調査面積は26,000㎡である。

(2) 調査の経過

調査は昭和63年10月から開始された。遺跡は、本線部分の南側調査区とインター・側道部分の北・東・西側調査区（側道部分は一部南側調査区に含まれる）に大きく分かれるが、まず本線部分から開始した。遺構は古墳と近世の土坑墓が主であり、2月にラジコンヘリにより空撮をおこなった。その後ロームの残りの良い場所に旧石器の試掘を行ったが、遺構・遺物は検出されず、平成元年3月で本線部分の調査が終了した。4月から北側のインター部分の調査に入ったが、下高瀬寺山遺跡や内匠日影周地遺跡との並行調査となり、本格的に開始されるのは9月となった。まず東側調査区から行い、南・西・北側調査区と進めて行った。しかしながら、11月下旬から12月下旬まで中高瀬庚申山遺跡と並行調査になり、中心がそちらに移ったため、調査の進捗に影響が出た。平成2年1月からは下高瀬上之原遺跡だけの調査となった。遺構は竪穴住居が中心であるが、北側調査区では、集落に近接して谷津状遺構の谷頭部が検出された。常に水が湧き出しており、水場として利用されていたと考えられる。ここからは、多量の土器や埴輪が出土している。2月以降北側調査区を中心に調査が進められ、4月には大部分の調査が終了したため、4月28・29日に現地説明会を開催し、5月上旬に気球による空撮を行った。その後、一部旧石器の試掘を行ったが遺構・遺物は検出されなかった。ところが、谷津状遺構周辺の精査をしたところ、谷頭部から2基の窯状遺構が検出され、掘り下げると埴輪窯であることが判明した。これにより、谷津状遺構の埴輪はこの埴輪窯のものであることが確認された。このためさらに調査は続けられ、5月28日に終了した。

(3) 整理作業の経過

下高瀬上之原遺跡の整理作業は、平成4年10月1日から行われ、当初1年の予定であったが、遺物量が多いことや、古墳や埴輪窯等遺構の種類が豊富であったこともあって、平成6年3月31日まで1年半行った。作業に当たり、以下の点に特に留意した。

- ① 遺構については、遺物の出土状況を重視し、できるだけその出土遺物の出土位置を図示し、接合関係も図化する。
- ② 遺物については、できるだけ多くの遺物を図化しようとしたが、図化できないものも多いため、それらを含めて、遺構単位で時期・器種・器形別にその数量を把握する。

第2節 調査の方法

(1) 遺跡名の選定

富岡インターチェンジ部分に位置する内匠・下高瀬遺跡は、調査面積だけでも11万㎡あり、地形的にも小支谷で何か所も分割されているため、調査時点で新たに遺跡名をつける必要が生じた。その後63年8月に上越線全線の遺跡名が検討され、埋文事業団担当遺跡については、原則として大字小字の連記を遺跡名とするように変更し、旧遺跡名は廃止せずに事業名称として存続させることとした。これにより内匠・下高瀬遺跡は、内匠上之宿・内匠諏訪前・内匠日影周地・内匠日向周地・下高瀬上之原・下高瀬前田・下高瀬寺山の各遺跡に分割され、今回報告する調査区は下高瀬上之原遺跡となった。

(2) グリッド設定法

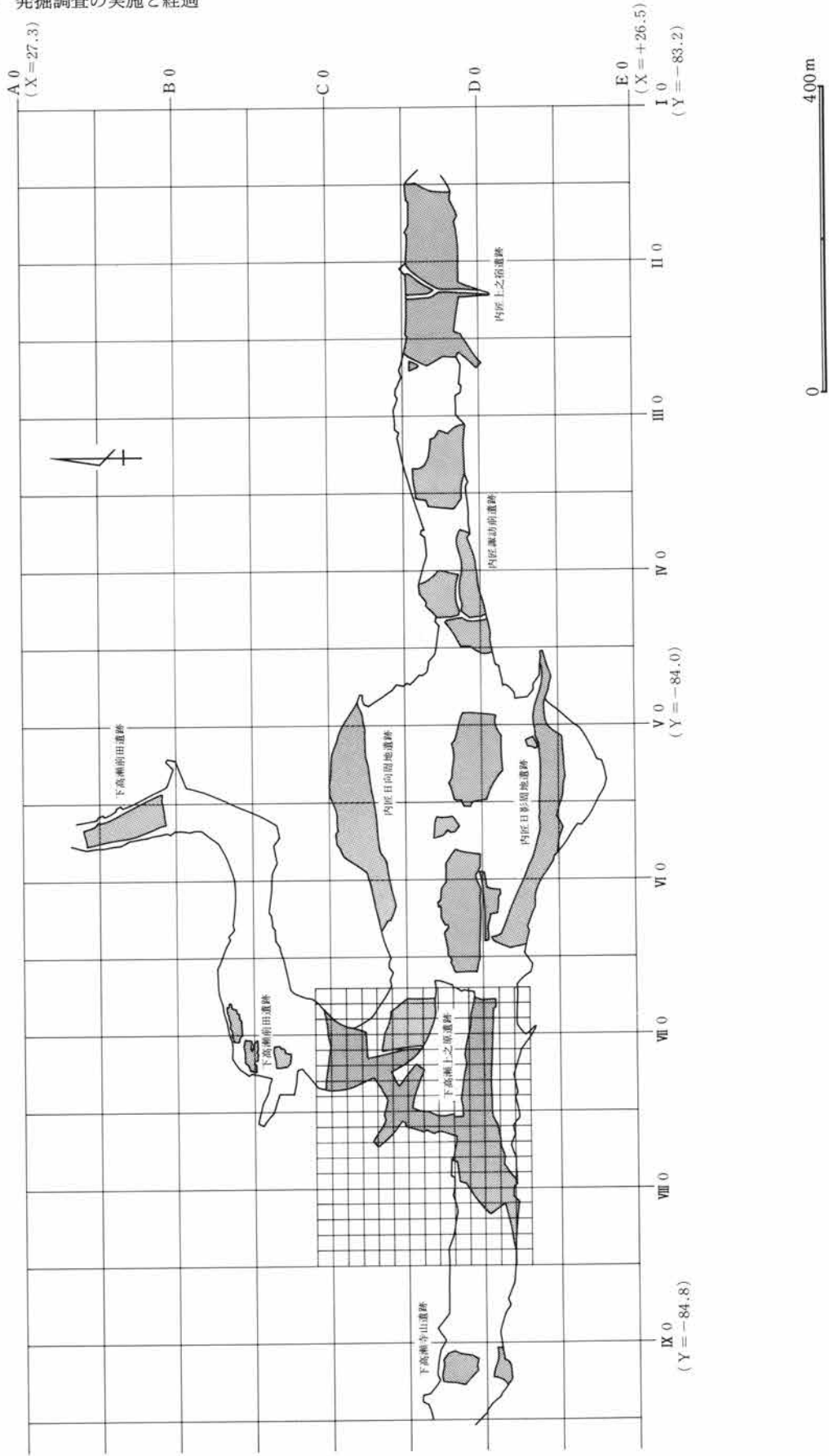
調査区の区割りは、国家座標に乗る形で軸線を設定し、グリッドの呼称は内匠・下高瀬遺跡群の全遺跡を通してできるようにした。

調査原点は、最も東にある内匠上之宿遺跡の北東部、国家座標の $X = +27300.000$ 、 $Y = -83200.000$ の地点とし、ここをA0-I0とした。ここを基準とし、1グリッド2mとして南・西に向かって設定していった。南北ラインは、A0、A1、A2、……A98、A99、B0、B1、……とアルファベットとアラビア数字の併記とし、200mでアルファベットが、2mでアラビア数字が変わるものとした。東西ラインは、I0、I1、I2、……I98、I99、II0、II1、……とローマ数字とアラビア数字の併記とし、200mでローマ数字が、2mでアラビア数字が変わるものとした。そしてA1-I2のように、南北、東西の順で併記してグリッドの呼称とし、各グリッドの呼称は北東隅のポイント名をもってそのグリッドを表すものとした。

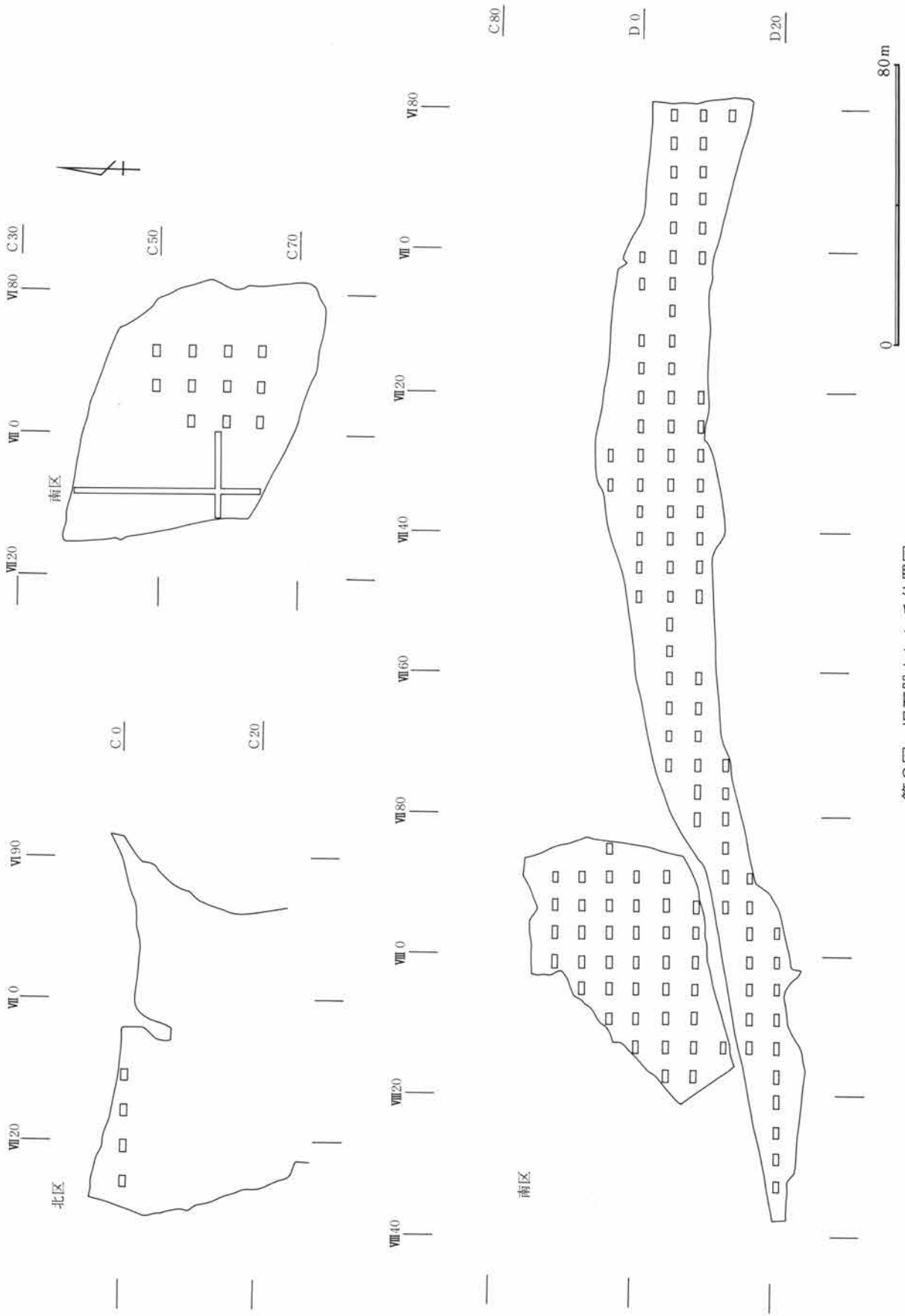
下高瀬上之原遺跡はB90~D30-VI80~VII70Grに位置している。

(3) 遺構の調査

表土は重機により除去し、確認後遺構を掘り下げた。遺構平面図・地形図は20分の1で作成することを基本とし、住居跡のカマド、炉、詳細な遺物出土状況等は10分の1で作成した。遺物は原則として出土位置、高さを記録して取り上げることとしたが、出土位置が不明になったもの、耕作溝等の新しい遺構に伴うものは一括して取り上げた。遺構の調査終了後、ロームの残りの良い場所に旧石器の試掘を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 1 図 遺跡位置およびグリッド配置図



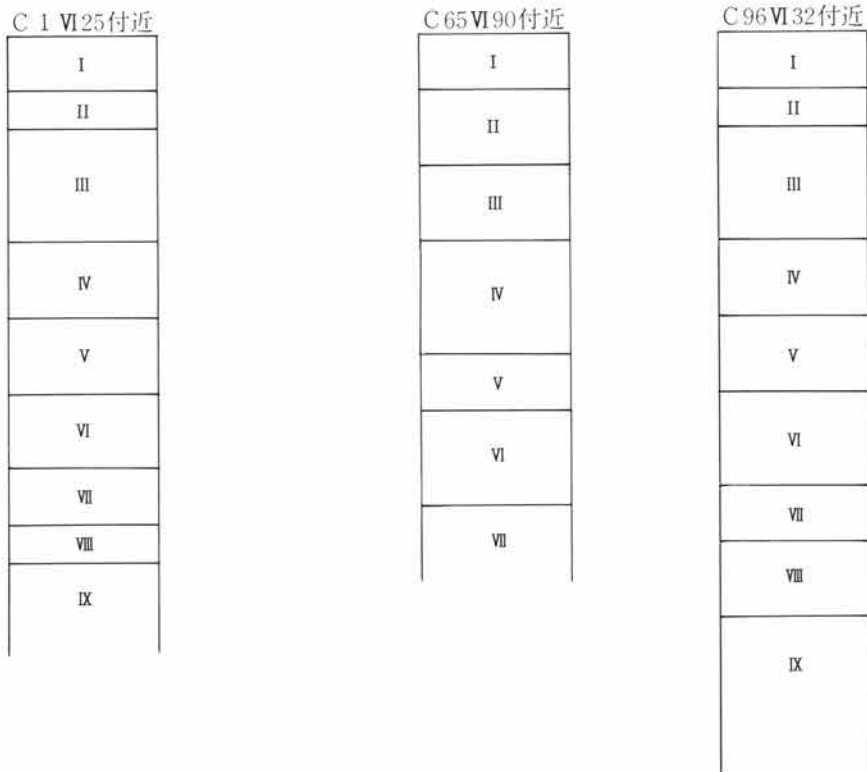
第2図 旧石器トレンチ位置図

第 3 節 基本土層

内匠下高瀬遺跡は第四紀洪積世に形成された、鎗川の上位段丘面上にあるが、上位段丘は第三系の基盤岩の上に、砂礫層、粘土層、上部ローム層の順に堆積しており、その上は表土で、浅間A軽石を混入する耕作土となっている。

第四紀層の下は、新生代第三紀中新世の海成層である富岡層群の砂岩泥岩互層が存在している。

- 第 I 層 暗褐色土 浅間A軽石を含む耕作土
- 第 II 層 黄褐色土 浅間板鼻黄色軽石 (Y. P.) を含む
- 第 III 層 明黄褐色土 褐色軽石を微量含む
- 第 IV 層 明黄褐色土 砂粒を多量含む
- 第 V 層 にぶい黄褐色土 褐色・黄色軽石を少量含む
- 第 VI 層 橙色土 径 5～10mmの褐色軽石の純層
- 第 VII 層 浅黄橙色土 径0.5～3mmの褐色軽石を多量含む
- 第 VIII 層 褐色土 黒色粒子・黄褐色土を含む粘質土
- 第 IX 層 灰白色粘土層



第 3 図 基本土層図



第4图 遗址周边地形图

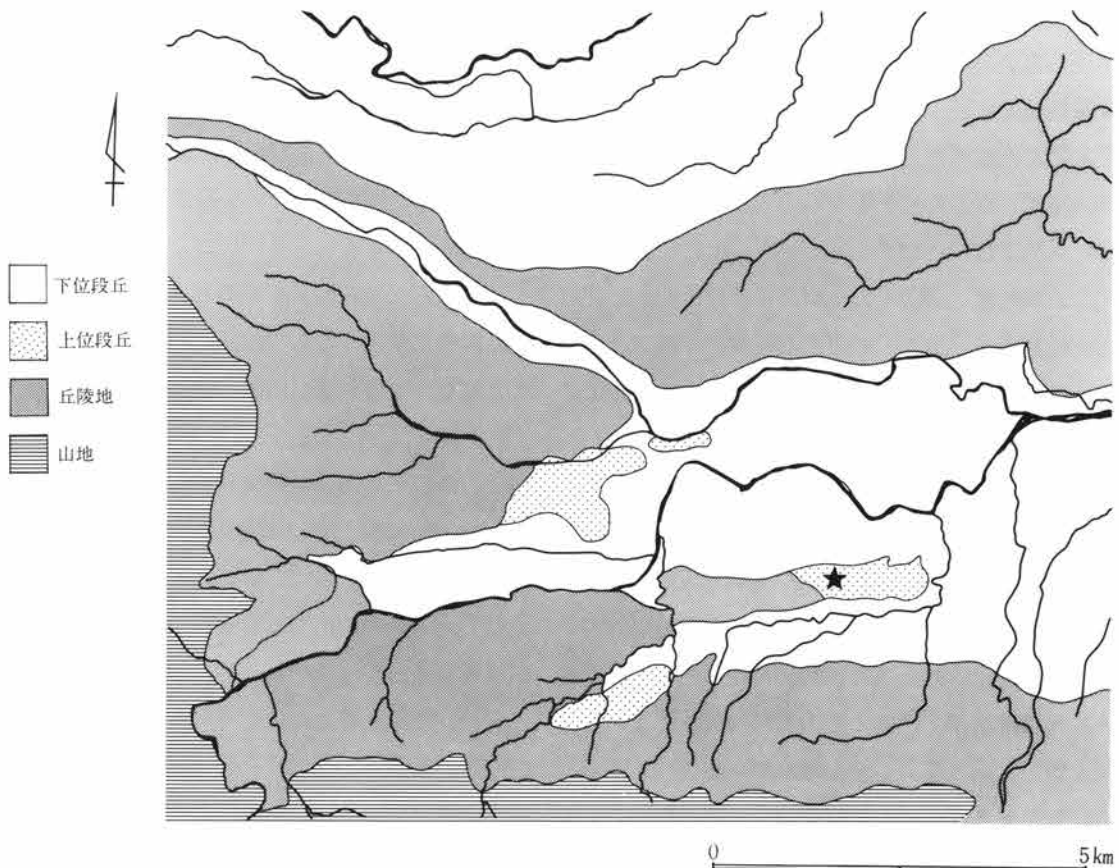
第II章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

本遺跡が所在する富岡市は群馬県南西部に位置し、ほぼ中央を鎗川が西から東へ流れている。鎗川は長野県境付近の矢川峠を源とし、下仁田町、富岡市、甘楽町、吉井町、藤岡市を流れ、高崎市倉賀野町で烏川と合流している。烏川はさらに利根川と合流し、太平洋に流れ込んでいる。鎗川の流れは東西方向であるが、所々で北へ曲がる箇所があり、少しづつ北へ移って行く。支流は、南側に野上川、下川、雄川、北側に丹生川、高田川、星川等がある。南側のものは、山地では北東方向に流れるが、丘陵・段丘では北向きになり、鎗川にほぼ直角に合流している。これに対し、北側のものは鎗川とほぼ平行に流れている。

鎗川の両岸は上下二段の河岸段丘を形成している。段丘面は鎗川の南側が広く北側が狭くなっており、特に上位段丘面での傾向が強くなっている。上位段丘面は、鎗川の北側で標高210～240m、下位面との標高差30～40mで、段丘面の幅は100～800m程である。鎗川の南側の上位段丘面は、標高200～240m、下位面との標高は40～50m程である。下位段丘面は、標高が西部で230m東部で130m程であり、ゆるやかに東に傾斜した連続した平坦面になっている。幅は600～3,000m程であり、鎗川河床との標高差は13～15mである。

河岸段丘の両側には丘陵地になっているが、いずれも小さな谷が複雑に入り組んでいる。北部の丘陵地は標高240～300m程で、丘頂面が広く発達しており、南部の丘陵地は標高250～300mで北へ傾斜している。



第5図 遺跡周辺地形区分図

第II章 遺跡をとりまく環境

市南部および西端部は山地となっている。南部の甘楽町・下仁田町の境界付近は関東山地の一部で、谷が深く尾根筋の狭い壮年期の山地地形を呈している。特に野上川上流から岩染川上流にかけては険しい崖となっている所が多い。西端部も南部に比べれば規模は小さいが、断崖や深い谷が各所に見られる。

遺跡は鑓川の右岸に広がる上位段丘面に所在する。この段丘面は、西と南を下川、東を野上川に侵食され、通称「離れ山」と呼ばれる東西に長い丘陵地形になっている。「離れ山」は、東側は上位段丘であるが、中央から西側は丘陵地となっている。東西約3.3km、南北約600mで、標高が220～250m、下位段丘面との標高差は40～50mである。丘陵内にも南北方向を主とした小支谷が入っており、丘陵上の遺跡を分断している。

地質的には、富岡市は関東山地の北縁に位置しているため、市の南部は関東山地の構成岩である三波川結晶片岩が分布している。市西部の大桁山南東麓には中世代白亜紀の層が分布している。黒色粘板岩を主とする南蛇井層、滑花崗岩、川井山石英閃緑岩などや跡倉層、神農原礫岩層などである。しかしながら、市内のほとんどの地域には、新生代第三紀中新世の海成層である富岡層群が広がっている。富岡層群は、牛伏層、小幡層、井戸沢層、福島層、吉井層、板鼻層に細分されるが、いずれも砂岩と泥岩が交互に積み重なる砂泥互層を基本としている。本遺跡は第四紀洪積世に形成された上位段丘面に立地しているが、上位段丘は第三系の基盤岩の上に、砂礫層、粘土層、上部ローム層、表土の順に堆積している。

第2節 歴史的環境

ここでは、当遺跡の立地する「離れ山」丘陵を中心に、富岡市域周辺の遺跡の様相を時代別に概観したい。

先土器時代 富岡市域内で出土地不明の長さ15.6cmの尖頭器が採集されている他、内匠日影周地遺跡からナイフ型石器2点が、下高瀬寺山遺跡から細石核が出土しているが、遺構として確認できるものはなかった。

縄文時代 この時代の遺跡は、鑓川の上位段丘面および丘陵地に多くの遺跡の分布が見られる。

草創期の可能性のある遺物は、下高瀬寺山遺跡で出土した柳葉形尖頭器以外に検出されていない。

早期の遺構はほとんど検出されていないが、遺物は、上丹生字和田で押型文系土器が採集されている他、内匠日向周地遺跡で押型文土器が出土している。

前期は、本宿郷土遺跡と野上塩之入遺跡で関山式期の住居跡が、内匠諏訪前遺跡で黒浜式期の住居跡・土坑が、南蛇井増光寺遺跡でも黒浜期の集落が検出されている。諸磯式期になると、内匠諏訪前・内匠日影周地・下高瀬寺山・中高瀬観音山・中高瀬庚申山の各遺跡および当遺跡で住居跡が検出されており、内匠諏訪前遺跡では十三菩提式期の住居跡も検出されている。

中期以降は確実に集落を形成するようになると思われるが、遺構の調査例はそれほど多くない。五領ヶ台式期は、小塚遺跡で住居跡1軒と屋外埋設土器3基が、野上塩之入遺跡で住居跡2軒と土坑が、内匠諏訪前・日影周地遺跡で土坑が、内匠上之宿遺跡で土坑と屋外埋設土器が検出されている。勝坂・阿玉台式期の遺構は少なく、内匠上之宿遺跡で住居跡が1軒検出されているだけである。中期後半になると遺構の検出例は増加し、本宿・郷土遺跡で加曾利E4式期の敷石住居跡が、田篠中原遺跡で加曾利E式期の環状列石・敷石住居跡・配石遺構群が、内匠上之宿遺跡で住居跡1軒と土坑が、南蛇井増光寺遺跡で加曾利E式期の竪穴住居跡15軒と敷石住居跡3軒が検出されている。

後期になると遺構の検出例は激減し、内匠上之宿遺跡で称名寺式の竪穴住居跡1軒と土坑、屋外埋設土器、堀之内式期の敷石住居跡1軒と土坑が、南蛇井増光寺遺跡で称名寺式期と堀之内式期の敷石住居跡が各1軒検出されているだけで、後期後半以降は、遺構・遺物はほとんど検出されていない。

弥生時代 この時代は、上位段丘面・丘陵地とともに下位段丘面にも遺跡が増加する。しかしながら、遺跡数は縄文時代に比べ少なく、発掘調査が行われている遺跡も少ない。

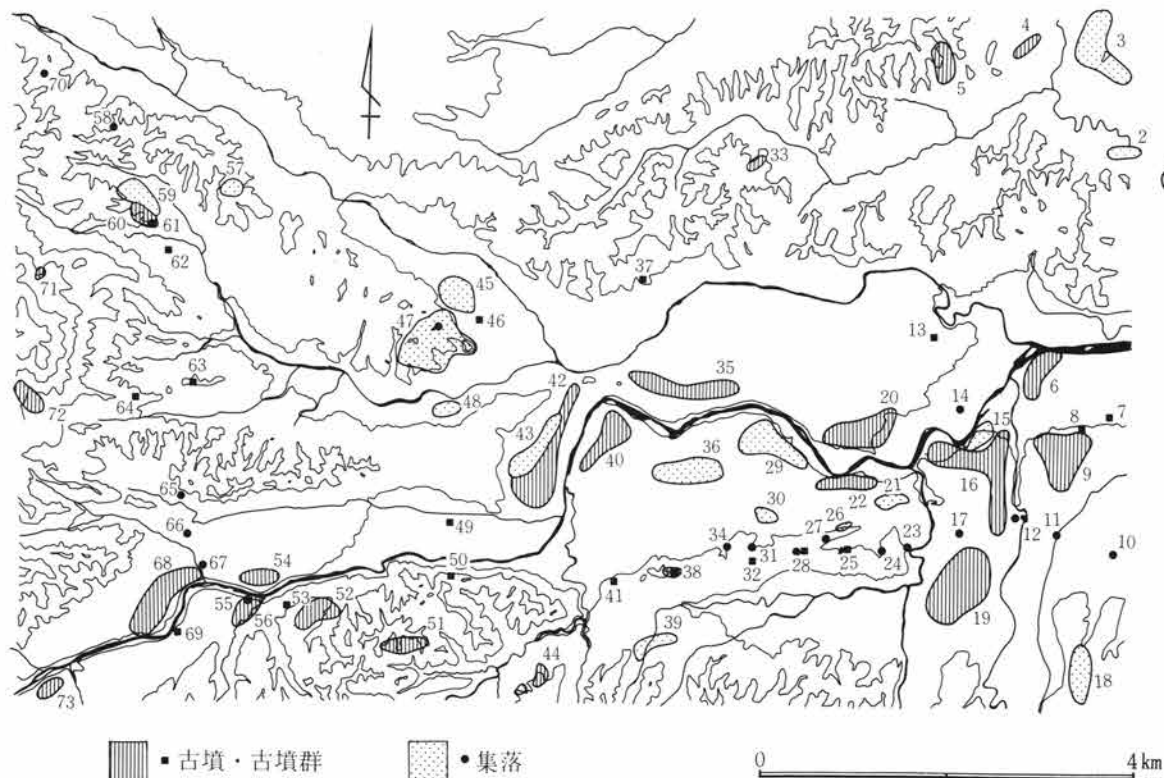
中期の遺構は、小塚遺跡で中期後半の住居跡7軒と環濠と思われる溝が検出されている他は少なく、土坑が、内匠諏訪前遺跡、内匠日影周地遺跡および当遺跡で検出されている程度である。

後期の遺構調査例は多く、住居跡が検出されているのは、内匠上之宿遺跡で4軒、内匠日影周地遺跡で14軒、中高瀬観音山遺跡で103軒、南蛇井増光寺遺跡で154軒である。特に中高瀬観音山遺跡と南蛇井増光寺遺跡では100軒以上と多く、大規模な拠点集落であると言えよう。

古墳時代 この時代になると下位段丘面に古墳群・集落が大規模に展開するが、丘陵地にも存在している。

前期古墳と考えられるのは、径40mの円墳と考えられる北山茶臼山古墳と、全長28mの前方後方墳の北山茶臼山西古墳である。出土土器や墳丘形態より、西古墳が茶臼山古墳に先行する可能性が高い。前期の住居跡は、内匠日影周地遺跡で1軒、内匠日向周地遺跡で1軒、中高瀬観音山遺跡で3軒、中沢平賀界戸遺跡で3軒、当遺跡で4軒検出されており、内匠日影周地遺跡では方形周溝墓1基も検出されている。

中期の古墳は、内匠日影周地遺跡で1基、当遺跡で7基、住居跡は、中高瀬観音山遺跡で9軒検出された。



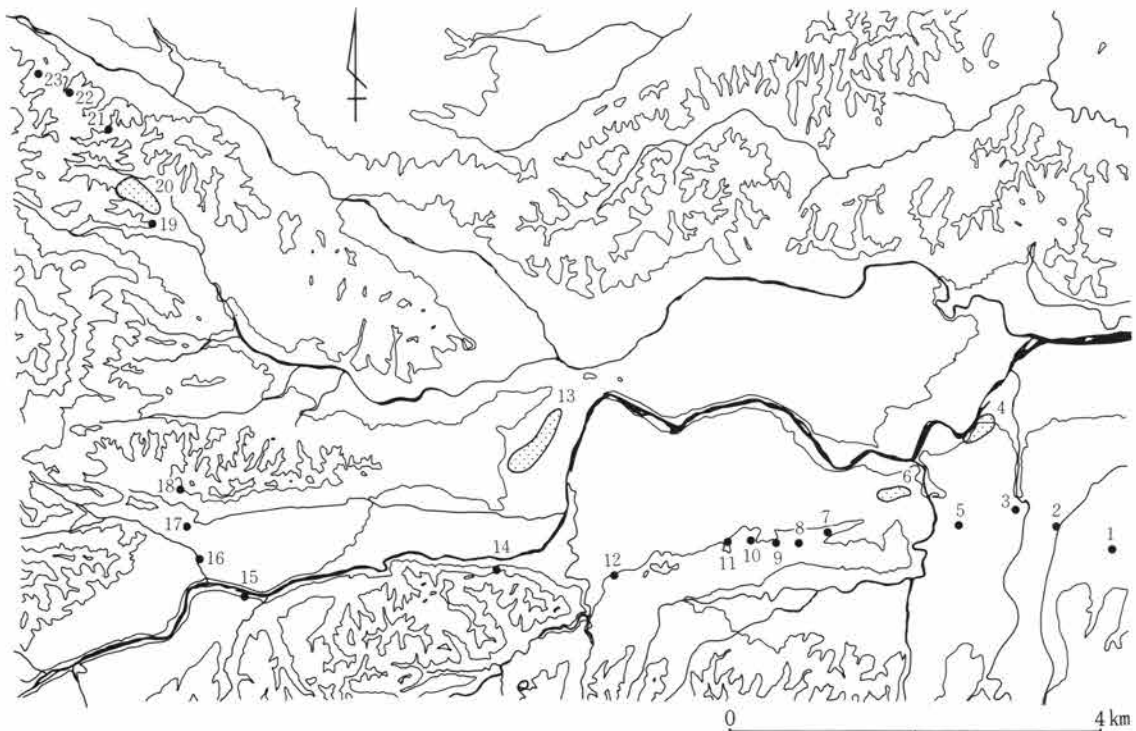
- 1 後賀土橋 2 白岩遺跡 3 相野田 4 諏訪谷古墳群 5 清水入古墳群 6 塚原古墳群 7 天王塚古墳 8 笹の森稻荷塚古墳
- 9 二日市古墳群 10 上野松葉遺跡 11 上野寺場遺跡 12 田篠上平遺跡 13 妙部塚古墳 14 久保遺跡 15 原田篠遺跡 16 上田篠遺跡
- 17 善慶寺早道場遺跡 18 中村遺跡 19 善慶寺古墳群 20 芝宮古墳群 21 内匠遺跡 22 長久保遺跡 23 内匠上之宿遺跡
- 24 内匠諏訪前遺跡 25 内匠日影周地遺跡 26 向山遺跡 27 内匠日向周地遺跡 28 下高瀬上之原遺跡 29 桐瀬古墳群 30 陣屋遺跡
- 31 中高瀬観音山遺跡 32 天皇塚古墳 33 桐谷古墳群 34 中高瀬庚申山遺跡 35 七日市古墳群 36 一本木遺跡 37 黒川遺跡
- 38 北山茶臼古墳・茶臼山の砦跡 39 菅原遺跡 40 横瀬古墳群 41 大島上城遺跡 42 一の宮古墳群 43 本宿・郷土遺跡
- 44 鞆戸原II遺跡 45 山根遺跡 46 不動塚古墳 47 恵下原遺跡・字田城跡 48 押出遺跡 49 神農原古墳群 50 塩之入城遺跡
- 51 中山古墳群 52 杉瀬古墳群 53 杉瀬遺跡 54 上小林古墳群 55 下鎌田遺跡 56 下鎌田古墳群 57 早道場遺跡 58 八木連荒畑遺跡
- 59・61 千足遺跡 60 千足古墳群 62 金乗塚古墳 63 丹生3・4号墳 64 丹生5号墳 65 前畑遺跡 66 中沢平賀界戸遺跡
- 67 南蛇井増光寺遺跡 68 南蛇井古墳群 69 大塚古墳 70 古立中村遺跡 71 和田古墳群 72 山口古墳群 73 竹の上古墳群

第6図 鏡川周辺古墳・古墳時代集落位置図

第II章 遺跡をとりまく環境

後期には市域内の各所に多数の古墳が築かれるようになるが、これらは古墳群をなしているものが多い。主なものは、塚原古墳群、上田篠古墳群、善慶寺古墳群、長久保古墳群、桐洲古墳群、横瀬古墳群、芝宮古墳群、七日市古墳群、一ノ宮古墳群、神成古墳群、上小林古墳群、南蛇井古墳群である。主要な古墳群は、すべて鑄川の両沿岸部の下位段丘面に集中している。古墳群周辺には、同時代の集落遺跡が存在している場合が多く、一ノ宮古墳群と本宿・郷土遺跡、長久保古墳群と内匠遺跡、上田篠古墳群と原田篠遺跡等があげられる。本宿・郷土遺跡から竪穴住居跡126軒、掘立柱建物跡3棟が、内匠遺跡から竪穴住居跡15軒が、原田篠遺跡から竪穴住居跡が8軒検出されている。この他住居跡は、内匠上之宿遺跡で14軒、内匠諏訪前遺跡で8軒、内匠日影周地遺跡で10軒、内匠日向周地遺跡で7軒、中高瀬観音山遺跡で1軒、南蛇井増光寺・中沢平賀界戸遺跡では前期・後期合わせて300軒以上が検出されており、当遺跡でも30軒以上検出されている。また、本宿・郷土遺跡で豪族の居館跡が検出され、当遺跡では埴輪窯が検出された。

奈良・平安時代 奈良・平安時代の集落跡は、古墳時代後期の集落から継続して営まれている場合が多い。実際に発掘調査された例は少なく、住居跡は本宿・郷土遺跡で99軒、内匠遺跡で10軒、原田篠遺跡で10軒、田篠上平遺跡で50軒と掘立柱建物跡23棟、下高瀬寺山遺跡で2軒、中高瀬観音山遺跡で3軒、中高瀬庚申山遺跡で5軒、北山茶臼山古墳で1軒、野上塩之入遺跡で4軒と炭焼窯跡3基、南蛇井増光寺遺跡では100軒以上が検出されている。10軒以下の小規模なものも多く、古墳時代から継続しているもののほとんど規模が縮小している。この時代には、奈良時代に始まる田篠上平遺跡の大規模集落に見られるように、丘陵上や上位段丘面の集落が減少して、下位段丘面にさらに多くの集落が新しく開始されるようになると思われる。また、浅間B軽石の降下以前の水田が内匠日向周地遺跡と南蛇井増光寺遺跡で検出されている。



- 1 上野松葉遺跡 2 上野寺場遺跡 3 田篠上平遺跡 4 原田篠遺跡 5 善慶寺早道場遺跡 6 内匠遺跡 7 内匠日向周地遺跡
 8 下高瀬上之原遺跡 9 下高瀬寺山遺跡 10 中高瀬観音山遺跡 11 中高瀬庚申山遺跡 12 北山茶臼山西古墳 13 本宿・郷土遺跡
 14 野上塩之入遺跡 15 下鎌田遺跡 16 南蛇井増光寺遺跡 17 中沢平賀界戸遺跡 18 前畑遺跡 19・20 千足遺跡 21 八木連荒遺跡
 22 八木連沢遺跡 23 古立中村遺跡

第7図 鑄川周辺奈良・平安時代集落位置図



第8図 周辺の主要遺跡

第II章 遺跡をとりまく環境

中世 中世の遺跡の調査例は少ないが、本宿・郷土遺跡および隣接する稲荷森遺跡で、中世の溝、井戸、掘立柱建物、墓壇と考えられる土坑等が検出されている。内匠上之宿遺跡では、内匠城の外堀に隣接して整地面上に掘立柱建物・堅穴状遺構・配石遺構が検出され、他に井戸・墓壇等が検出されている。内匠日向周地遺跡では中近世の水田2面が、南蛇井増光寺遺跡では中世の掘立柱建物、堀、井戸、土坑が、中沢平賀界戸遺跡では中世の堅穴状遺構、掘立柱建物、塚、墓壇が検出されている。

また城郭は、宮崎城、宇田城、大島上城、塩之入城、内匠城、杣瀬城、下鎌田城等で調査されている。

近世以降 近世以降の遺跡の調査例も少ないが、関越道上越線関係で調査例が増加した。内匠諏訪前遺跡で、近世の屋敷跡、掘立柱建物、井戸が検出されており、他に墓壇が田篠上平遺跡で1基、当遺跡で11基、庚申塔基礎が中高瀬庚申山遺跡で、配石遺構が中沢平賀界戸遺跡で検出されている。農業生産関係の遺構では、浅間A軽石により埋没した畑が下高瀬前田遺跡で検出されている。

周辺主要遺跡一覧表

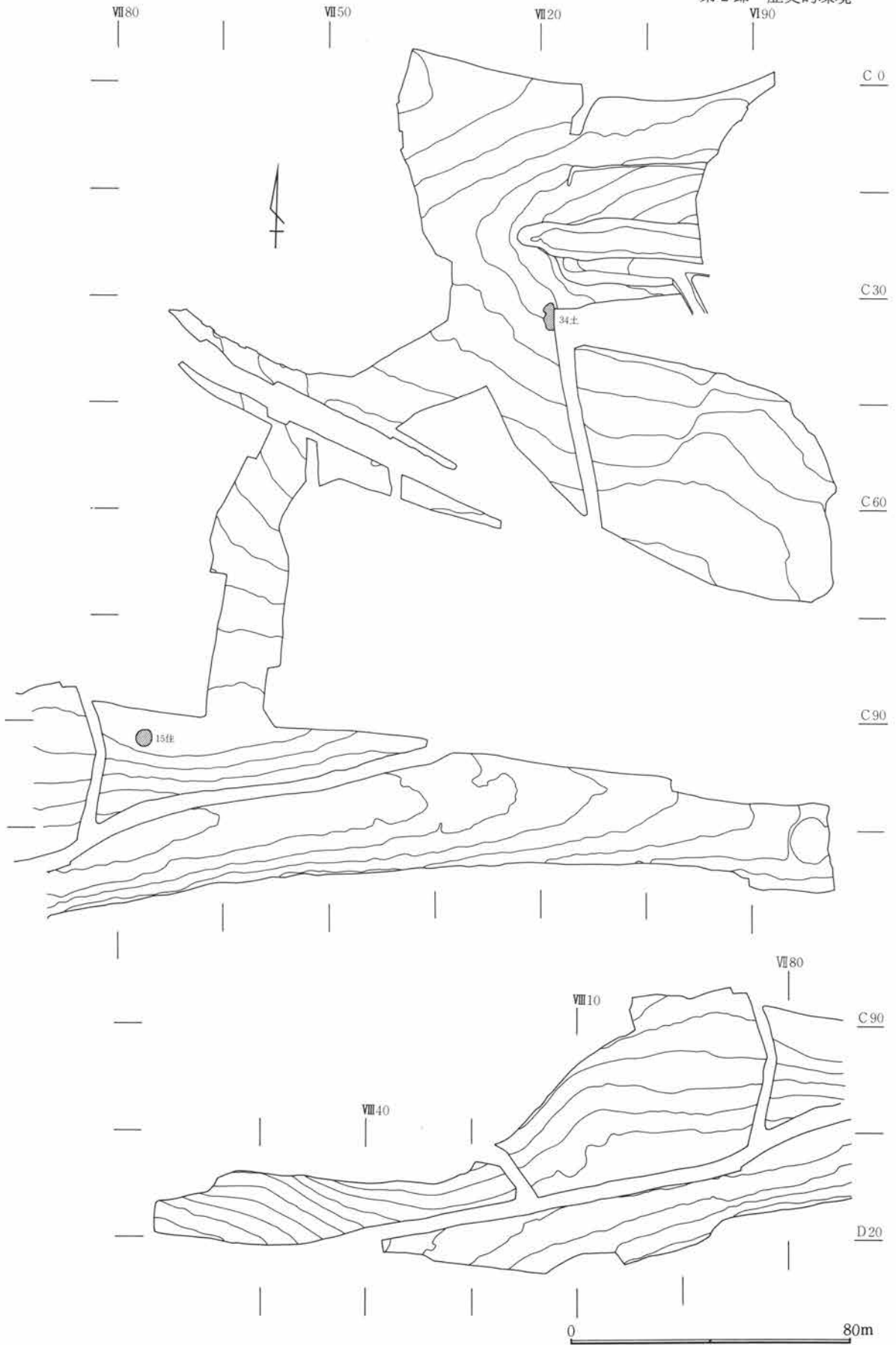
No.	遺跡名	時代	種別	備考
1	蔵城跡	中世	城館跡	
2	白岩遺跡	縄文時代、古墳時代	包蔵地	
3	後賀土橋	古墳時代	墳墓	
4	後賀遺跡	縄文時代	包蔵地	
5	庭谷城跡	中世	城館跡	
6	相野田	古墳時代	包蔵地	
7	諏訪谷古墳群	古墳時代	墳墓	
8	清水入古墳群	古墳時代	墳墓	8基存在。7世紀代の築造。
9	天王山城跡	中世	城館跡	
10	上の山遺跡	縄文時代	包蔵地	
11	桐谷古墳群	古墳時代	墳墓	
12	高林城跡	中世	城館跡	
13	背谷戸遺跡	縄文時代	包蔵地	
14	富岡城跡	中世	城館跡	
15	十王山烽火台	中世	城館跡	
16	妙部塚古墳	古墳時代	墳墓	
17	星田城跡	中世	城館跡	
18	塚原古墳群	古墳時代	墳墓	33基の円墳から成る。7世紀代の築造。
19	天王塚古墳	古墳時代	墳墓	前方後円墳。堅穴系の主体部と考えられる。5世紀前半の築造。
20	笹の森稲荷塚古墳	古墳時代	墳墓	周濠をもつ軸長100mの前方後円墳。両袖型横穴式石室をもつ。
21	二日市古墳群	古墳時代	墳墓	20基程の円墳が残る。5世紀後半からの築造。
22	久保遺跡	古墳時代	祭祀遺跡	滑石製模造品多数出土。
23	原田篠遺跡	古墳～平安時代	集落跡	〔上田篠古墳群・原田篠遺跡〕富岡市教委 1981
24	上田篠古墳群	古墳時代	墳墓	〔上田篠古墳群・原田篠遺跡〕富岡市教委 1981 30数基現存。
25	大類屋敷跡	中世	城館跡	
26	浅場城跡	中世	城館跡	
27	仁井屋城跡	中世	城館跡	
28	倉内城跡	中世	城館跡	
29	下城跡	中世	城館跡	
30	中城跡	中世	城館跡	
31	上野城跡	中世	城館跡	
32	中村遺跡	縄文～古墳時代	包蔵地	
33	熊井戸屋敷跡	中世	城館跡	
34	善慶寺古墳群	古墳時代	墳墓	約20基現存。かつては50基以上存在。
35	内匠城跡	中世	城館跡	
36	岡本堀ノ内	中世	城館跡	
37	国峰城跡	中世	城館跡	
38	峰城跡	中世	城館跡	
39	藤田城跡	中世	城館跡	
40	二ツ山城跡	中世	城館跡	
41	鞆戸原Ⅰ遺跡	縄文～中世	集落跡	〔鞆戸原Ⅰ・鞆戸原Ⅱ・西平原遺跡〕富岡市教委 1992
42	鞆戸原Ⅱ遺跡	縄文～近世	集落跡	〔鞆戸原Ⅰ・鞆戸原Ⅱ・西平原遺跡〕富岡市教委 1992
43	岩染城跡	中世	城館跡	
44	浅香入遺跡	中世	城館跡	

第2節 歴史的環境

No	遺跡名	時代	種別	備考
45	西平原遺跡	縄文時代、中世	集落跡	〔韮戸原Ⅰ・韮戸原Ⅱ・西平原遺跡〕富岡市教委 1992
46	原遺跡	縄文時代	包蔵地	
47	菅原遺跡	縄文時代、古墳時代	包蔵地	
48	大島上城跡	中世	城館跡	
49	中村遺跡	弥生時代	包蔵地	
50	北山茶白山古墳 茶白山の砦跡	古墳時代 中世	墳墓 城館跡	三角縁神人車馬画像鏡出土。径40mの円墳か。
51	天皇塚古墳	古墳時代	墳墓	
52	陣屋遺跡	古墳時代	集落跡	
53	下高瀬前田遺跡	近世	生産跡	江戸時代の畑跡。
54	向山遺跡	古墳時代	集落跡	
55	内匠遺跡	古墳～平安時代	集落跡	〔内匠遺跡〕富岡市教委 1982
56	長久保遺跡	古墳時代	墳墓	
57	芝宮古墳群	古墳時代	墳墓	〔芝宮古墳群〕富岡市教委 1992 105基存在。
58	桐洞古墳群	古墳時代	墳墓	45基程存在。
59	富岡陣屋跡	中・近世	城館跡	
60	小沢西遺跡	縄文時代	集落跡	〔小沢西遺跡〕富岡市教委 1989
61	黒川遺跡	縄文時代	包蔵地	
62	御廟塚古墳	古墳時代	墳墓	終末期古墳。銅製帯金具出土。
63	辻平遺跡	縄文時代	包蔵地	
64	黒川城跡	中世	城館跡	
65	観音前遺跡	縄文時代	包蔵地	
66	七日市遺跡	縄文時代	包蔵地	
67	七日市陣屋跡	中世	城館跡	
68	七日市古墳群	古墳時代	墳墓	26基分布。御三社古墳(前方後円墳)含む。6～7世紀代の築造。
69	一本木遺跡	古墳時代	包蔵地	
70	中高瀬遺跡	弥生時代	包蔵地	
71	大島下城跡	中世	城館跡	
72	神農原遺跡	縄文時代	包蔵地	
73	横瀬古墳群	古墳時代	墳墓	〔横瀬古墳群〕富岡市教委 1989 27基分布。
74	生田遺跡	縄文時代	包蔵地	
75	一の宮古墳群	古墳時代	墳墓	17基存在。前方後円墳2基を含む。(太子堂塚・堂山稲荷)
76	本宿・郷土遺跡	縄文時代、古墳時代 奈良・平安時代、中世	集落跡 居館跡	縄文・古墳～平安の集落跡、古墳時代の豪族居館跡、中世の建物、堀等を検出。〔本宿・郷土遺跡〕富岡市教委 1981
77	小塚遺跡	縄文時代、弥生時代	集落跡	〔小塚・六反田・久保田遺跡〕富岡市教委 1987
78	貫前神社遺跡	縄文時代	包蔵地	
79	押出遺跡	古墳時代	集落跡	
80	阿蘇岡遺跡	縄文時代、弥生時代	包蔵地	
81	不動塚古墳	古墳時代	墳墓	
82	恵下原遺跡 宇田城跡	縄文時代、古墳時代 中世	集落跡 城館跡	滑石製模造品・未製品・剥片等多数発見。
83	山根遺跡	古墳時代	包蔵地	円筒埴輪、形象埴輪散布。
84	金比羅山の砦跡	中世	城館跡	
85	前期高田館	中世	城館跡	
86	高田城跡	中世	城館跡	
87	高田西城跡	中世	城館跡	
88	神成城跡	中世	城館跡	
89	宮崎城跡	中世	城館跡	
90	神農原古墳群	古墳時代	墳墓	
91	胴塚古墳	古墳時代	墳墓	
92	大山城跡	中世	城館跡	
93	中山古墳群	古墳時代	墳墓	
94	野上の砦跡	中世	城館跡	
95	杉瀬古墳群	古墳時代	墳墓	
96	上小林古墳群	古墳時代	墳墓	
97	下鎌田古墳群	古墳時代	墳墓	
98	平賀城跡	中世	城館跡	
99	南蛇井古墳群	古墳時代	墳墓	52基存在。6世紀後半～7世紀代築造。
100	原城跡	中世	城館跡	
101	大塚古墳	古墳時代	墳墓	
102	竹ノ上古墳群	古墳時代	墳墓	

第II章 遺跡をとりまく環境

No	遺跡名	時代	種別	備考
103	馬山東城跡	中世	城館跡	
104	馬山西城跡	中世	城館跡	
105	吉崎城跡	中世	城館跡	
106	鷹ノ巣城跡	中世	城館跡	
107	三笠山岩陰遺跡	弥生時代	岩陰	
108	蚊沼の砦跡	中世	城館跡	
109	原の内出跡	中世	城館跡	
110	丹生5号墳	古墳時代	墳墓	
111	山口古墳群	古墳時代	墳墓	
112	下丹生山口遺跡			
113	和田古墳群	古墳時代	墳墓	
114	和田遺跡	縄文時代	包蔵地	
115	丹生城跡	中世	城館跡	
116	丹生東城跡	中世	城館跡	
117	五分一遺跡	縄文時代	包蔵地	
118	金乗塚古墳	古墳時代	墳墓	
119	松原遺跡	弥生時代		
120	中山遺跡	縄文時代	包蔵地	
121	早道場遺跡	古墳時代	集落跡	
122	千足古墳群	古墳時代	墳墓	
123	千足遺跡	縄文～平安時代	集落跡	
124	郷土ヶ谷津の砦跡	中世	城館跡	
125	筑前上の砦跡	中世	城館跡	
126	長根羽田倉遺跡	縄文～平安時代	集落跡	〔長根羽田倉遺跡〕 〔叢群埋文 1990〕
127	長根安坪遺跡	縄文～平安時代	集落・墳墓	縄文～平安の集落・墳墓が集中する。
128	天引口明塚遺跡	古墳時代	墳墓	〔神保下條遺跡〕 〔叢群埋文 1992〕
129	天引狐崎遺跡	弥生・古墳時代、中世	集落・墳墓	
130	天引向原遺跡	先土器～近世	集落跡	
131	白倉下原遺跡	先土器～近世	集落跡	古墳～平安の大集落。滑石製工房跡検出。
132	白倉東八幡遺跡	縄文・古墳時代	集落跡	
133	白倉南水塚遺跡	縄文・古墳時代	集落跡	
134	上野松葉遺跡	古墳～平安時代	集落跡	
135	上野寺場遺跡	弥生～平安時代	集落跡	
136	田篠上平遺跡	古墳、奈良・平安時代	墳墓・集落	〔田篠上平遺跡〕 〔叢群埋文 1989〕
137	田篠中原遺跡	縄文時代	集落跡	〔田篠中原遺跡〕 〔叢群埋文 1990〕
138	善慶寺早道場遺跡	古墳～平安時代	集落跡	古墳時代後期以降の集落。
139	内匠上之宿遺跡	縄文～古墳時代、中世	集落・城跡	当該遺跡
140	内匠諏訪前遺跡	縄文～古墳時代、近世	集落跡	〔内匠諏訪前遺跡・内匠日影周地遺跡〕 〔叢群埋文 1992〕
141	内匠日影周地遺跡	縄文・弥生・古墳時代	集落・墳墓	〔内匠諏訪前遺跡・内匠日影周地遺跡〕 〔叢群埋文 1992〕
142	内匠日向周地遺跡	古墳～平安時代、中世	生産跡	平安時代・中近世の水田。木製品多数出土。
143	下高瀬上之原遺跡	縄文～平安時代	集落・墳墓	古墳～平安時代の集落、中期古墳群、埴輪窯跡を検出。
144	下高瀬山遺跡	縄文・弥生・平安時代	集落跡	縄文前期の小規模集落。
145	中高瀬観音山遺跡	縄文・弥生～奈良時代	集落跡	弥生時代後期の拠点集落。
146	中高瀬庚申山遺跡	縄文・弥生～平安時代	集落跡	平安時代の住居跡から須恵器の水瓶出土。
147	北山茶臼山西古墳	古墳・平安時代	墳墓	〔大島上城遺跡・北山茶臼山古墳〕 〔叢群埋文 1988〕
148	大島上城遺跡	中近世	城館跡	〔大島上城遺跡・北山茶臼山古墳〕 〔叢群埋文 1988〕
149	野上塩之入遺跡	縄文・奈良・平安時代	集落跡	〔野上塩之入遺跡・塩之入城遺跡〕 〔叢群埋文 1991〕
150	塩之入城遺跡	古墳時代、中世	城館跡	〔野上塩之入遺跡・塩之入城遺跡〕 〔叢群埋文 1991〕
151	杣瀬遺跡	縄文・古墳時代、中世	墳墓・城跡	中世城郭杣瀬城の主郭部を調査。
152	下鎌田遺跡	縄文～平安時代、中世	集落・城跡	縄文時代中期の大集落。中世城郭下鎌田城を調査。
153	南蛇井増光寺遺跡	縄文～平安時代、中世	集落跡	縄文～中世の複合遺跡、各時代の住居跡が大規模に展開。
154	中沢平賀界戸遺跡	縄文～平安時代	集落跡	古墳時代後期の住居が主体。
155	前畑遺跡	縄文・古墳～平安時代	集落跡	
156	丹生3・4号墳	古墳時代	墳墓	
157	丹生城西遺跡	平安～近世	溝・土坑	
158	五分一遺跡	縄文・土師	散布地	
159	千足遺跡	縄文～平安時代	集落跡	
160	八木連荒畑遺跡	縄文～平安時代	集落跡	
161	八木連窪沢遺跡	弥生、奈良・平安時代	集落跡	〔古立東山遺跡・古立中村遺跡・八木連窪沢遺跡・八木連荒畑遺跡〕
162	古立中村遺跡	縄文～平安時代	集落跡	妙義町遺跡調査会 1990
163	古立東山遺跡	縄文～平安時代	集落跡	



第9圖 縄文時代遺構位置図

第III章 検出された遺構と出土遺物

第1節 縄文時代

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

竪穴住居跡1軒、土坑1基が検出されている。竪穴住居跡は前期諸磯a式期のもので、調査区南部で検出されている。土坑は調査区北部で検出されており、前期有尾式の遺物が出土しているが、出土量が少なく小破片のためはっきりとした時期は確定できない。

遺物

① 土器

縄文時代の土器は総数154点出土している。時期的には早期から後期に及ぶが、前期のものが圧倒的に多い。本書では便宜的に、時期によりI～VII群に分類することにする。

I群 早期の土器を一括して本群とする。

II群 前期中葉（黒浜・有尾式期）の土器を一括して本群とする。

1類 黒浜式土器 2類 有尾式系土器

III群 前期後半（諸磯式期）の土器を一括して本群とする。

1類 諸磯a式土器 2類 諸磯b式土器 3類 諸磯c式土器

IV群 前期末～中期初頭（十三菩提式期～五領ヶ台式期）の土器を一括して本群とする。

V群 中期中葉（勝坂・阿玉台式期）の土器を一括して本群とする。

VI群 中期後半（加曾利E式期）の土器を一括して本群とする。

VII群 後期の土器を一括して本群とする。

群別出土土器数量表

群	I	II	III	IV	V	VI	VII	不明	計
遺構内	0	4	13	0	0	0	0	0	17
遺構外	1	27	31	3	19	7	2	47	137
総点数	1	31	44	3	19	7	2	47	154

② 石器

縄文時代の石器・剥片等は総数1,210点出土している。このうち948点が石器製作時の剥片・破片・石核であり、石器（本来の意味の道具としての石器）は262点である。器種は、石鏃、石槍、石匙、打製石斧、磨製石斧、スクレイパー、微細剥離痕のある剥片、磨石、くぼみ石、石皿、多孔石、敲打石、丸石、石錘の計14種類が出土している。石器については、時期を確定することは難しく、個々の石器の属する時期は不明であるが、ほぼ土器と同時期になると考えられる。

石鏃 29点出土している。基部の判明するものは28点あり、基部の形態で分類すると、凹基無茎が17点、平基無茎が3点、凹基有茎が5点、凸基有茎が3点となっている。

石槍 1点出土している。基部形態は不明である。

石匙 2点出土している。平面形態により分類可能なものは2点で、いずれも横型である。

打製石斧 47点出土している。平面形態により分類可能なものは29点あり、分銅型・撥I型（側縁が内湾

する)・撥II型(側縁が直線状)・短冊型の4種類に分類できる。各型の点数は、分銅型4点(13.8%)、撥I型5点(17.2%)、撥II型8点(27.6%)、短冊型12点(41.4%)となり、短冊型が最も多く分銅型が少なくなっている。刃部形態で分類すると、直刃5点、凸刃22点で凸刃が圧倒的に多くなっている。

磨製石斧 4点出土している。刃部形態の分かるものは1点で凸刃である。

スクレイパー 36点出土している。刃部形態の判明するものは18点ですべて側縁に刃部をもち、直刃が11点、凸刃が7点となっている。

微細剥離痕のある剥片 意図的な刃部加工とは考えられない、微細な剥離痕を有する剥片を一括した。一般的に使用痕のある剥片とされるものであるが、必ずしも使用痕と断定できないものもあるためこの名称を用いた。計31点出土している。

磨石・くぼみ石 磨石・くぼみ石については、磨面とくぼみを両方もつものがあり、明確な区別ができないものもあるが、磨面のないもの、磨面があってもくぼみがしっかりしているものをくぼみ石、くぼみのないもの、くぼみのはっきりしないものを磨石とした。計80点出土している。磨面・くぼみの有無により分類可能なものは34点あり、1類-片面に磨面をもつもの、2類-両面に磨面をもつもの、3類-片面に磨面とくぼみをもつもの、4類-両面に磨面とくぼみをもつもの、5類-両面に磨面片面にくぼみをもつもの、6類-片面にくぼみをもつものに分類できる。各級の点数は、1類12点(35.3%)、2類14点(41.2%)、3類1点(2.9%)、4類3点(8.8%)、5類1点(2.9%)、6類3点(8.8%)となっている。

石皿 9点出土している。完形品は少なく平面形態による分類は不能である。磨面・くぼみの有無による分類が可能なものは5点で、磨面が片面だけのもの2点、磨面を両面に持つもの1点、3類-裏面にくぼみを持つもの2点となっている。

多孔石 5点出土している。

敲打石 3点出土している。

丸石 球形もしくはつぶれた球形を呈する。14点出土している。

出土石器数量表

種別	石鏃	石槍	石匙	打斧	磨斧	スク	微剥	磨石	凹石	石皿	多孔	敲打石	丸石	石錘	計	剥片	碎片	石核	総計
点数	29	1	2	47	4	36	31	67	13	9	5	3	14	1	262	895	2	51	1,210
%	11.1	0.4	0.8	17.9	1.5	13.7	11.8	25.6	5.0	3.4	1.9	1.2	5.3	0.4	21.6	74.0	0.2	4.2	100

石材

石器に使用された石材は26種類におよぶ。ここでは器種別の石材組成について見てみることにする。

石鏃 黒曜石が21点(72.4%)で最も多く、他に赤鉄鉱珪岩3点(10.3%)、熱変成岩2点(6.9%)、チャート1点(3.4%)、安山岩1点(3.4%)、玻璃質安山岩1点(3.4%)が出土している。

石槍 黒曜石製が1点である。

石匙 熱変成岩1点、チャート1点である。

打製石斧 熱変成岩が29点(61.7%)で最も多く、続いて安山岩9点(19.1%)、輝緑岩・結晶片岩3点(6.4%)、点紋系結晶片岩2点(4.3%)、流紋岩1点(2.1%)、となっている。

磨製石斧 角閃岩2点、熱変成岩1点となっている。

スクレイパー 熱変成岩が33点(91.7%)で圧倒的に多く、他は黒曜石・硬砂岩・安山岩各1点(2.8%)となっており、打製石斧に比べ、熱変成岩に偏っている特徴がある。

微細剥離痕のある剥片 熱変成岩が26点(83.9%)と非常に多く、他は安山岩4点(12.9%)、放散虫板岩

第三章 検出された遺構と出土遺物

1点 (3.2%) となっている。

磨石 安山岩55点 (82.1%)、石英安山岩7点 (10.4%)、流紋岩2点 (3.0%)、熱変成岩・閃緑岩・輝緑岩各1点 (1.5%) となっており、安山岩系の石材を圧倒的に多く使用している。

くぼみ石 安山岩4点 (30.8%)、結晶片岩4点 (30.8%)、点紋系結晶片岩2点 (15.4%)、砂岩・石英安山岩・熔岩各1点 (7.7%) となっている。磨石に比べ、石材に偏りが無い。

石皿 安山岩6点と最も多く、他は点紋系結晶片岩・砂岩・石英閃緑岩各1点となっている。

多孔石 点紋系の結晶片岩2点、安山岩・石英安山岩・砂岩各1点となっている。

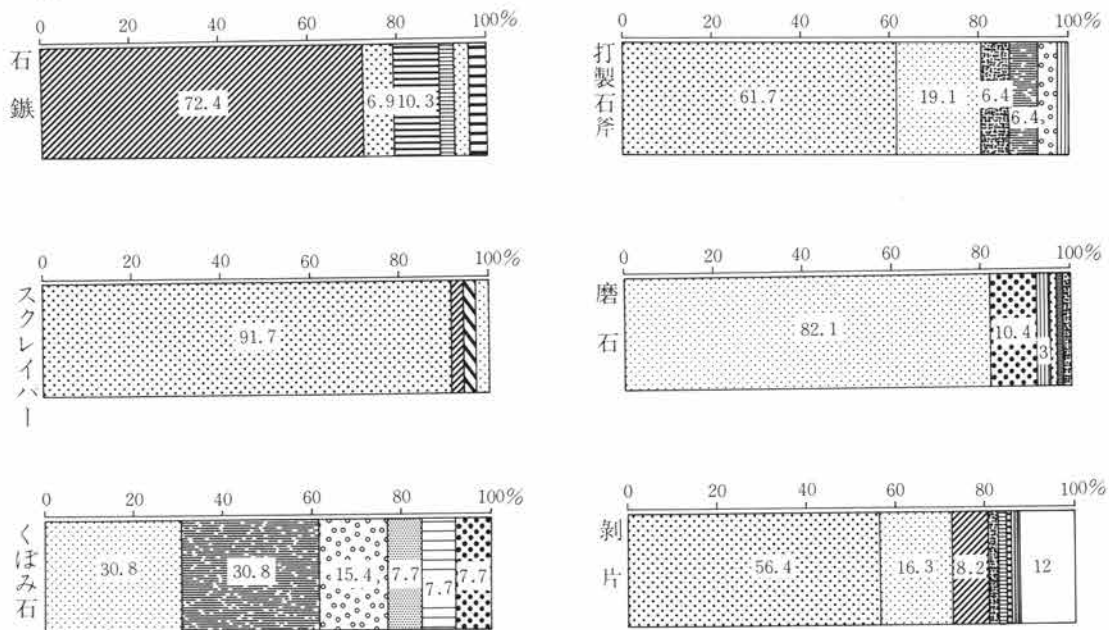
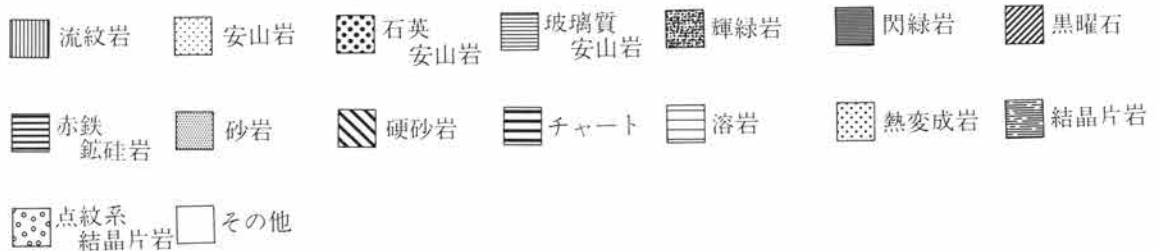
敲打石 結晶片岩・安山岩・凝灰岩各1点である。

丸石 安山岩9点 (64.3%)、石英安山岩3点 (21.4%)、流紋岩・不明各1点 (7.1%) となっており、安山岩系石材が多くなっている。

石錘 輝緑岩1点となっている。

剥片 熱変成岩505点 (56.4%)、安山岩146点 (16.3%)、黒曜石73点 (8.2%)、輝緑岩21点 (2.3%)、玻璃質安山岩16点 (1.8%)、赤鉄鋳珪岩10点 (1.1%)、凝灰岩7点 (0.8%)、チャート・珪石・硬砂岩各5点 (0.6%)、流紋岩・放散虫板岩各4点 (0.4%)、閃緑岩3点 (0.3%)、砂岩・蛇文岩・頁岩各1点 (0.1%)、不明87点 (9.7%) となっている。

石核 熱変成岩34点 (66.7%)、安山岩6点 (11.8%)、石英安山岩6点 (11.8%)、凝灰岩2点 (3.9%)、不明3点 (5.9%) となっている。



第10図 石器石材別分類グラフ

(2) 竪穴住居跡

15号住居跡

位置 C91~93-VII75~77Gr. 重複 なし 平面形態 円形 規模 4.5m×4.42m

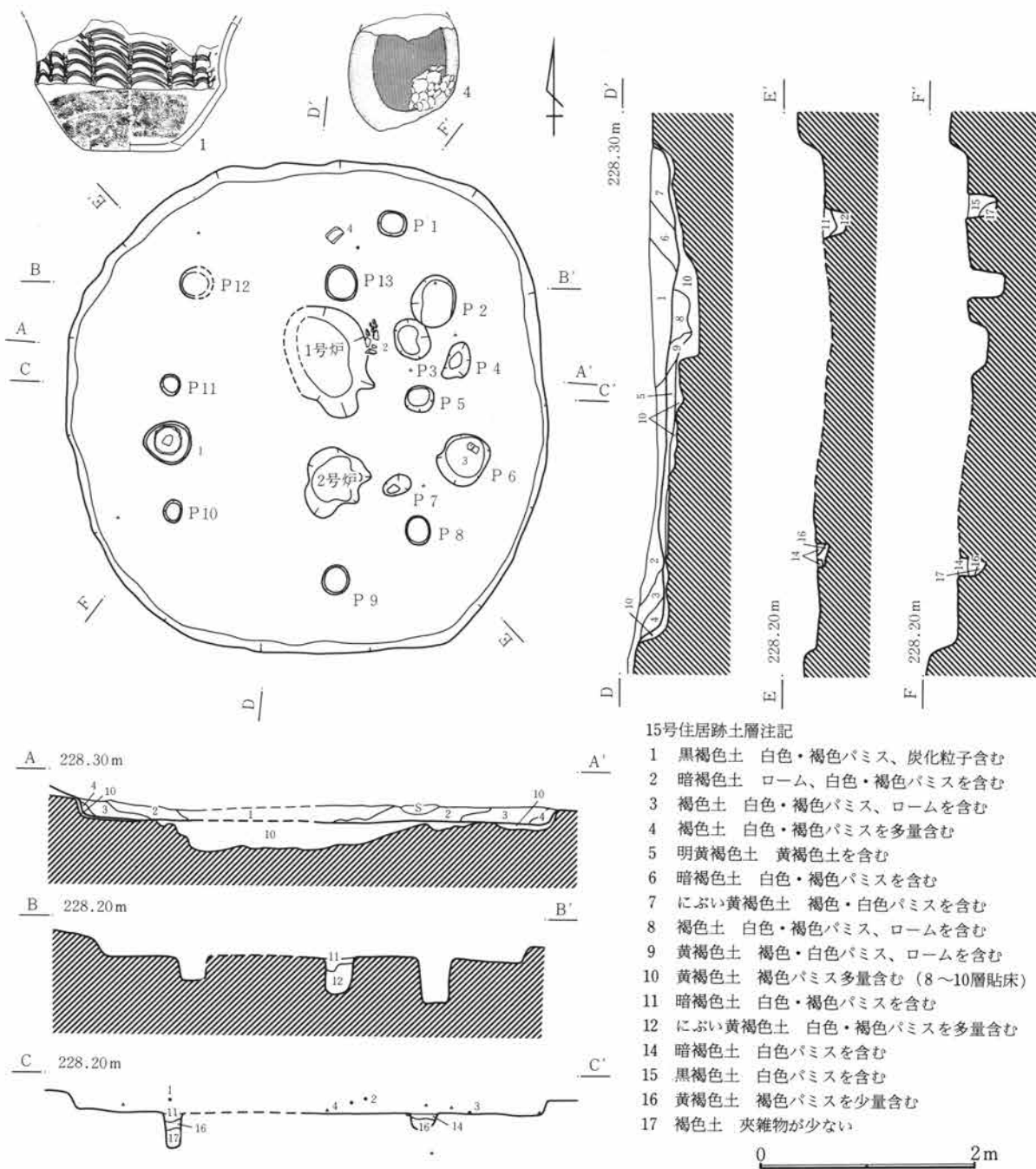
壁高 30cm 面積 16.7m² 床面積 15.5m² 壁溝 なし

柱穴 床面から13基のピットが検出されているが、P3~5・7は柱穴の可能性は低い。

ピット計測値 長径×短径×深さ (cm) P1 26×22×28 P2 48×42×40 P3 38×32×26

P4 36×22×12 P5 28×24×14 P6 50×42×14 P7 26×16×16 P8 28×23×12

P9 26×24×30 P10 20×16×24 P11 20×18×32 P12 30×30×22 P13 34×28×32



第11図 15号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

貯蔵穴 なし

床面 パミスを含む黄褐色土で貼床としており、比較的軟弱である。

掘り方 中央やや北寄りに深さ25cmほどの掘り込みがあり、他に浅いピットが多数検出されている。

遺物出土状況 図示した遺物以外は、土器の小破片や剥片が数点覆土中から出土しただけである。

炉 1号炉 位置 中央やや北寄り 規模 長径1.03m、短径0.7m 深さ 19cm

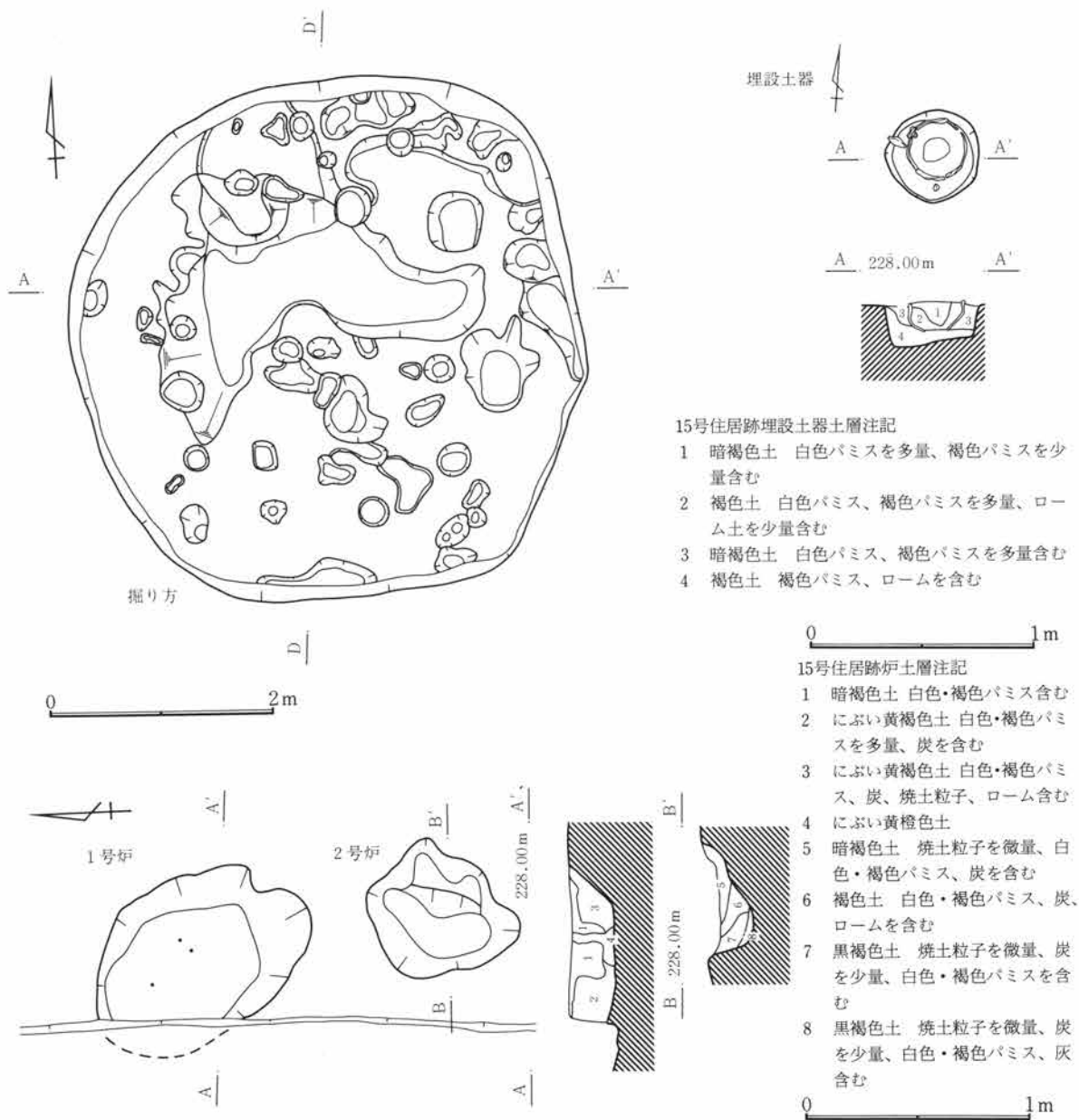
2号炉 位置 中央やや南寄り 規模 長径0.7m、短径0.6m 深さ 21cm

1・2号炉ともはっきりした火床面は検出されず、覆土に少量の焼土を含む程度である。

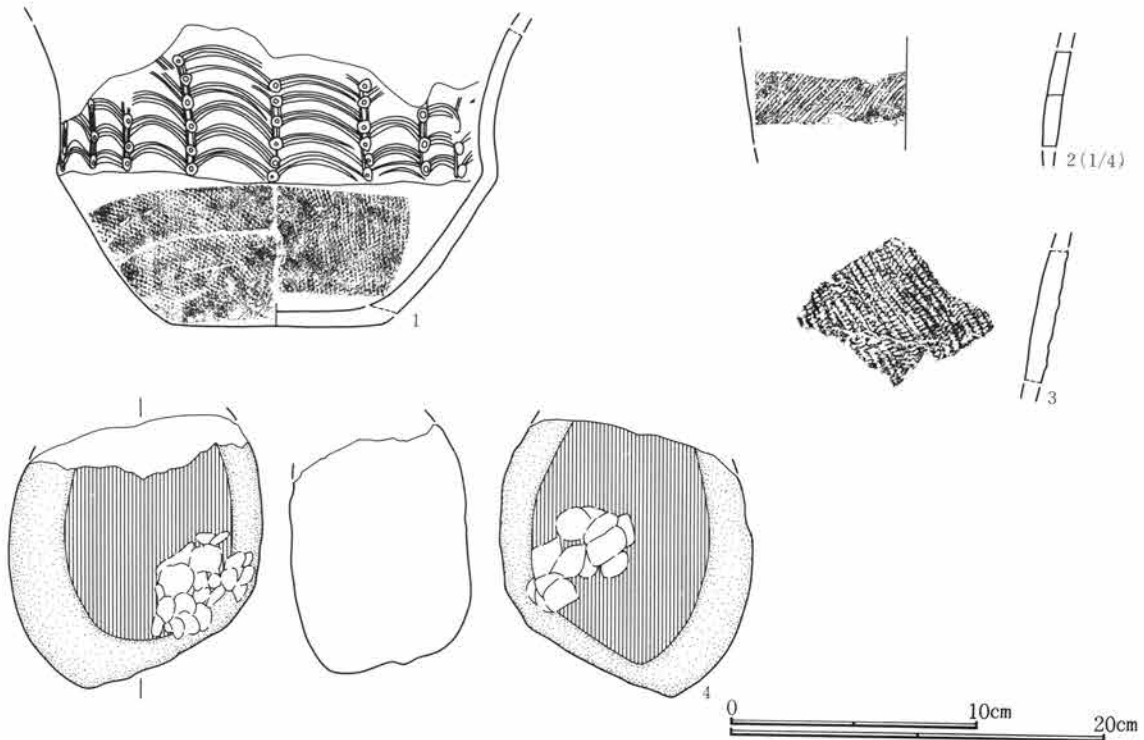
埋設土器 位置 中央西寄り 掘り方 円形 径42cm深さ18cm 底面より8cm上に埋設されている。

出土遺物 図示した土器も含め、II類の土器が13点、石器は磨石が1点、微細剝離痕をもつ剥片が1点、剥片が5点出土している。

所見 埋設土器より遺構の時期は、前期諸磯a式期と考えられる。



第12図 15号住居跡掘り方・埋設土器・炉



第13図 15号住居跡出土遺物

15号住居跡出土土器観察表

No	器種 部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法調 量整	文様要素	分類	備考
1	浅鉢 口~胴	南西 +3	①②にふい橙 ③不良 ④普通 粗砂を多く含む	底径(11.0cm) 内面研磨	円形竹管・半截竹管による肋骨 文 RL縄文横回転	III 1	
2	深鉢 胴部	北東 +14	①にふい褐 ②にふい橙 ③良好 ④普通 粗砂・細砂を含む	最大径17.5cm 内面研磨	単軸絡状帯第1類 1条	III	
3	深鉢 胴部	南東 ±0	①明赤褐 ②にふい橙 ③良好 ④普通 粗砂を多く含む	器厚7~8mm 内面研磨	0段多縄 $\begin{cases} L_r^r & \text{縄文} \\ r_r^r & \text{末端自縄結縛} \\ L_r^r \end{cases}$	III	

15号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
4	磨石	北東+2	10.8	10.2	7.2	1100	2/3	安山岩	両面に磨面・敲打痕

34号土坑

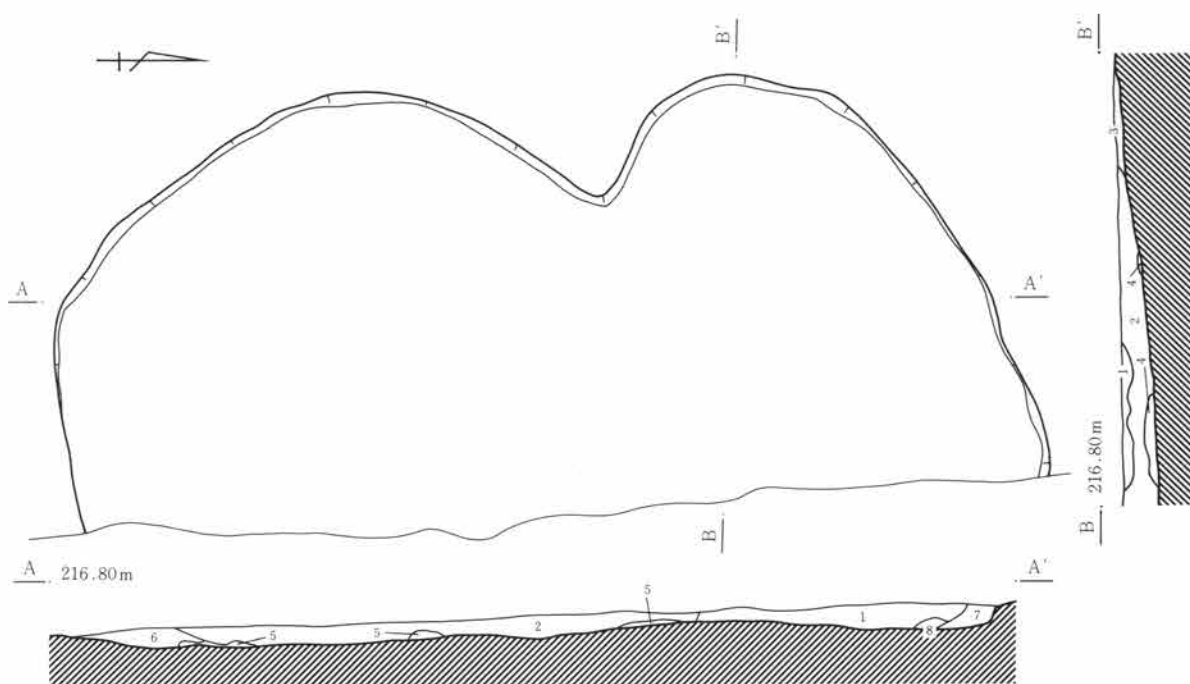
位置 C30~34-VII18・19Gr 重複 なし 平面形態 不正形 規模 8.04m×3.72m

深さ 30cm 面積 22.6m² 主軸方位 N-S

概要 規模の大きい土坑であるが、平面形態は不正形でしっかりした掘り方を持っていない。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考えたが、性格は不明である。

出土遺物 出土遺物は少なく、I類の土器が4点、石器は剥片2点が出土しているだけである。

第三章 検出された遺構と出土遺物



34号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 褐色パミスを含む やや粘質土 2 黒褐色土 炭化物、灰白色パミスを含む 3 暗褐色土 ロームブロックを含む
 4 黒褐色土 炭化物、灰白色パミス、ロームブロックを含む 5 黒褐色土 炭化物、灰白色パミス、鉄分の固まりを含む
 6 黒褐色土 ローム粒子を少量含む 7 黒褐色土 縮まり強い 8 黒褐色土 縮まり弱い

第14図 34号土坑

0 2m



第15図 34号土坑出土遺物

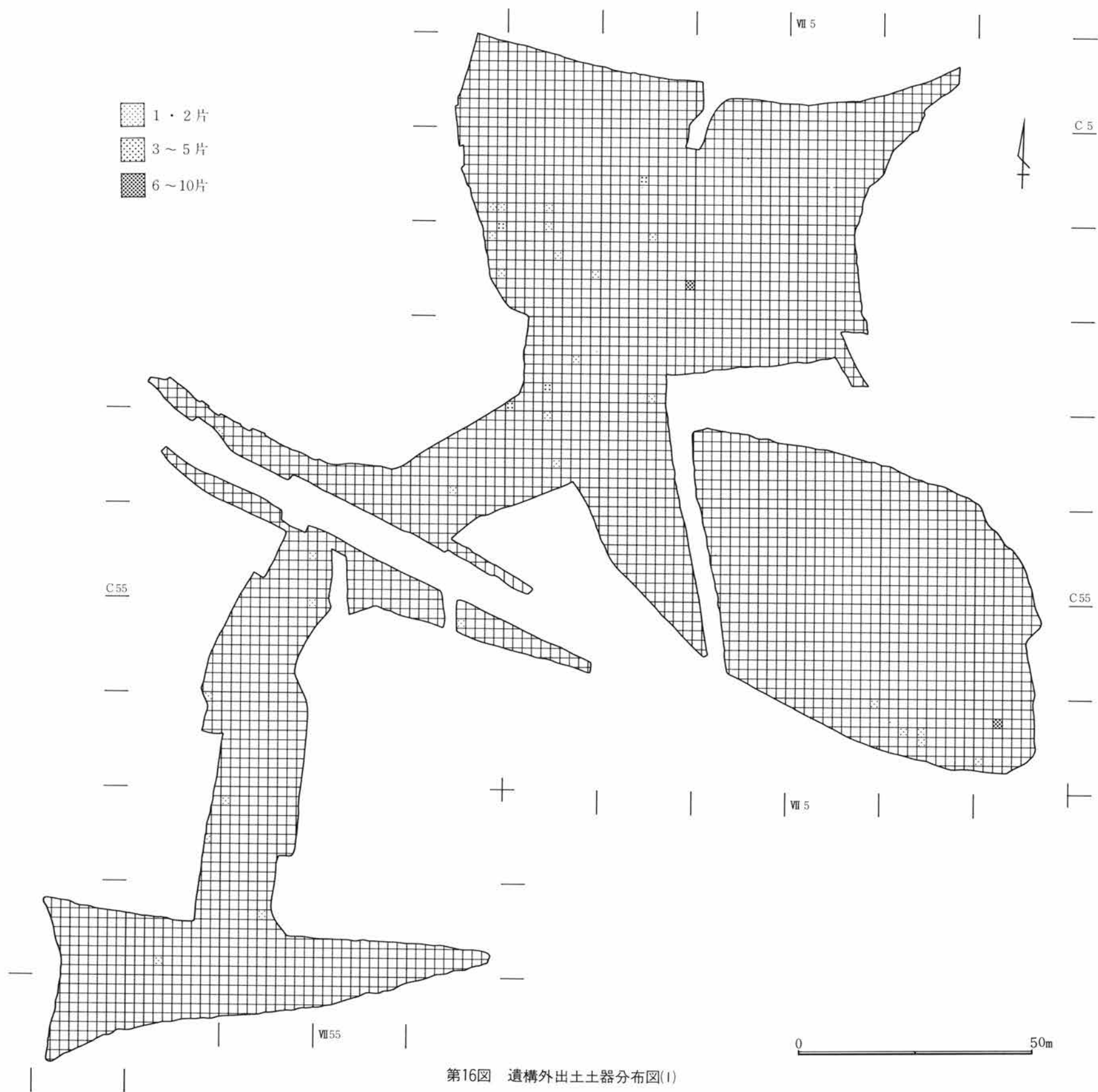
0 10cm

34号土坑出土土器観察表

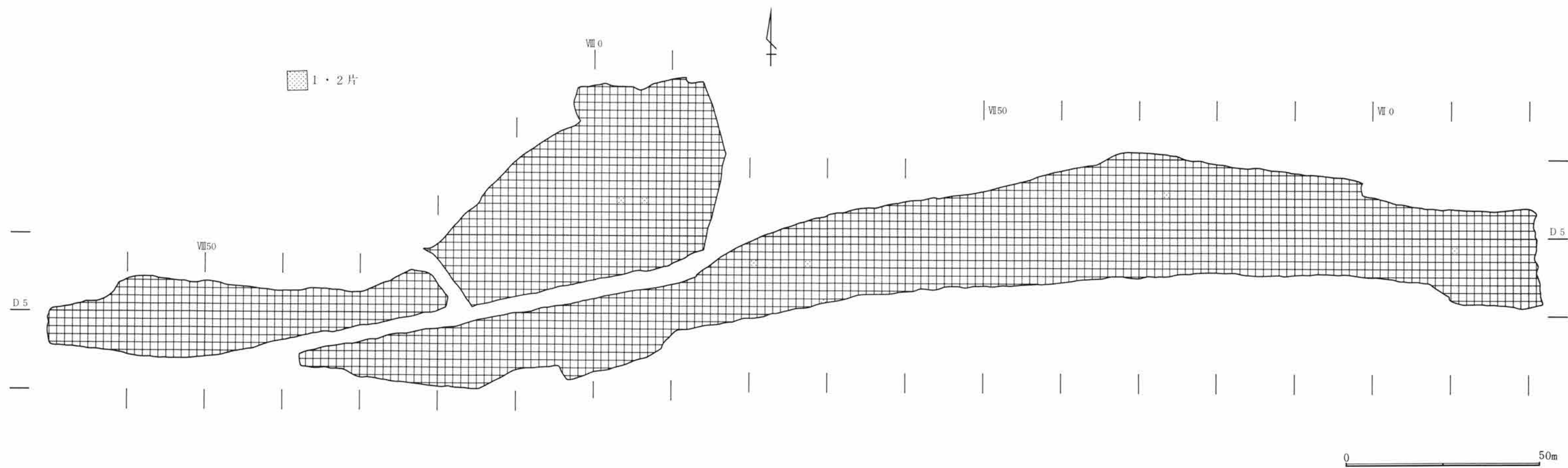
No.	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法量 調整	文様要素	分類	備考
1	深鉢 胴部	覆土	①②褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・繊維を含む	器厚 7~10mm 内面研磨	半截竹管状工具による沈線・刺 突文	II 2	

遺構外出土遺物

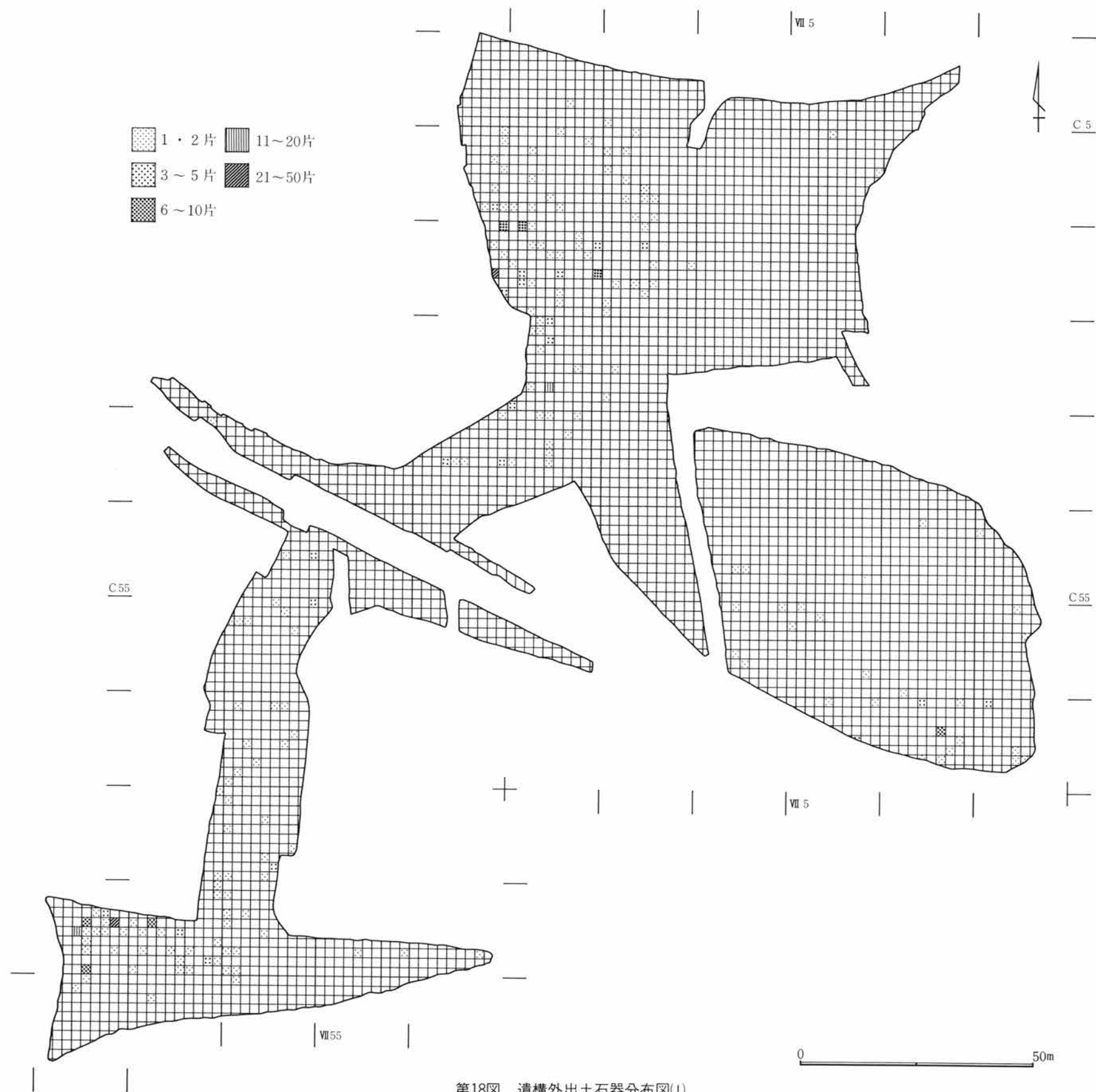
遺構外からも少量の土器と、比較的多量の石器が出土している。出土分布を見ると、土器は、調査区全体に散在しており、特に集中している場所はなく、遺構付近に多く出土している傾向も見られない。石器も調査区全体から出土しているが、特に北側の西寄りと南側の中央部（15号住周辺）に集中して出土している。



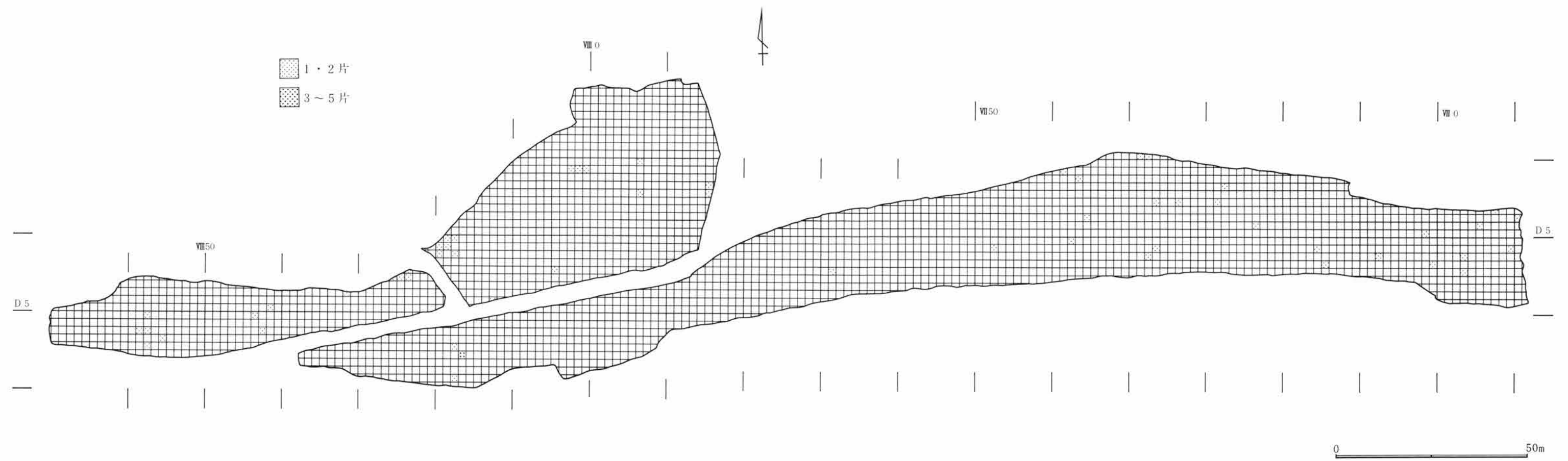
第16図 遺構外出土土器分布図(1)



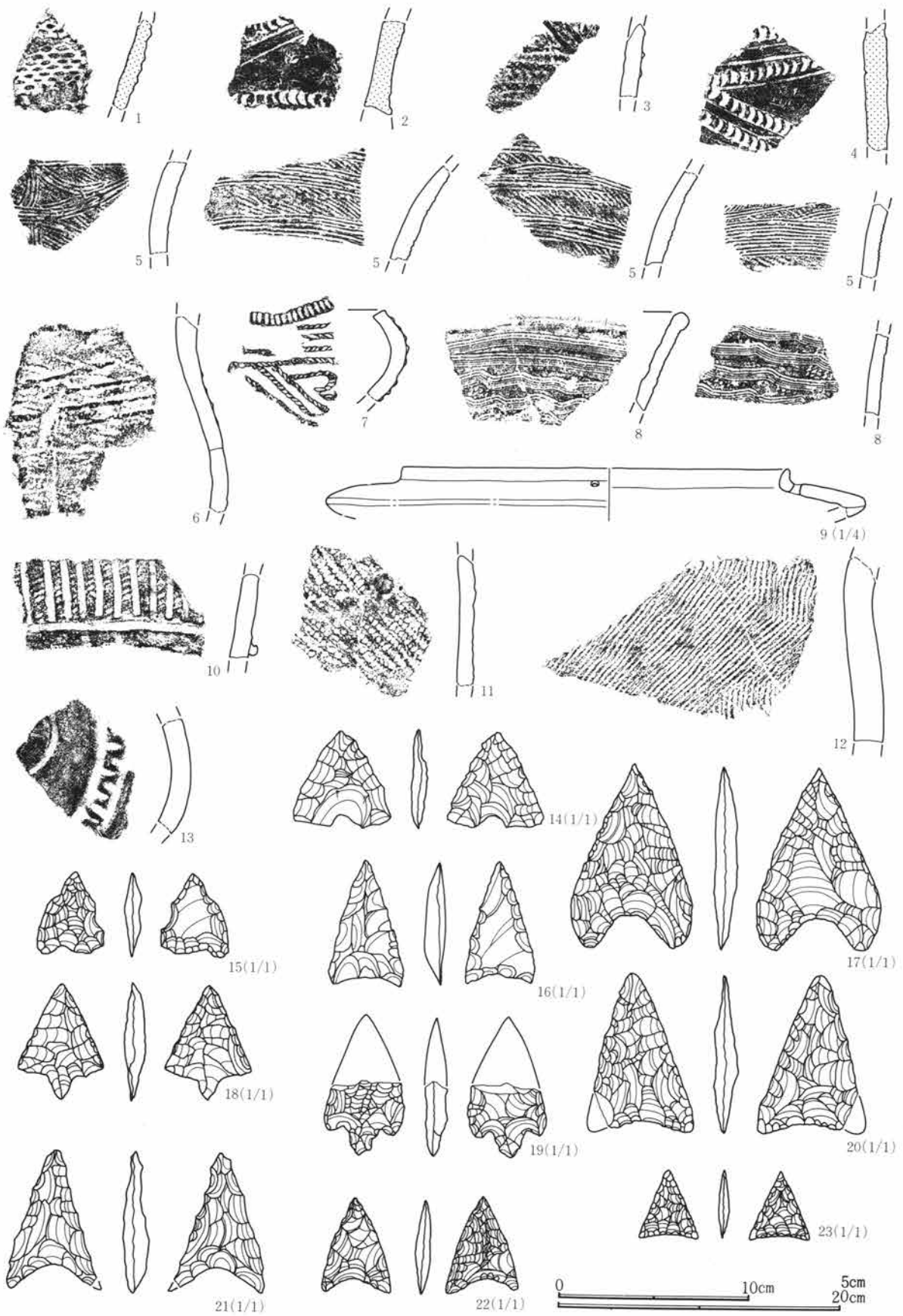
第17图 遺構外出土土器分布图(2)



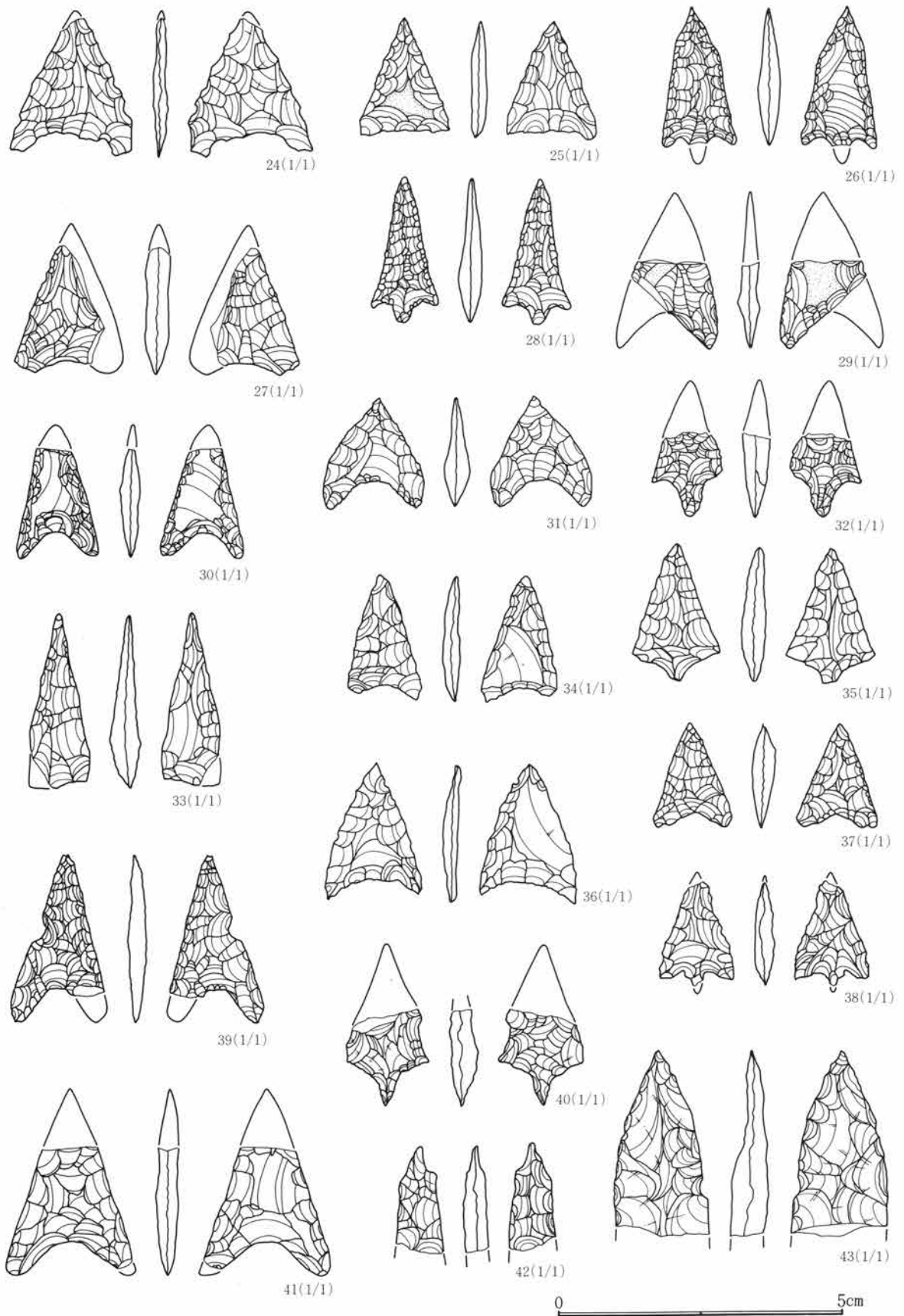
第18图 遺構外出土石器分布图(1)



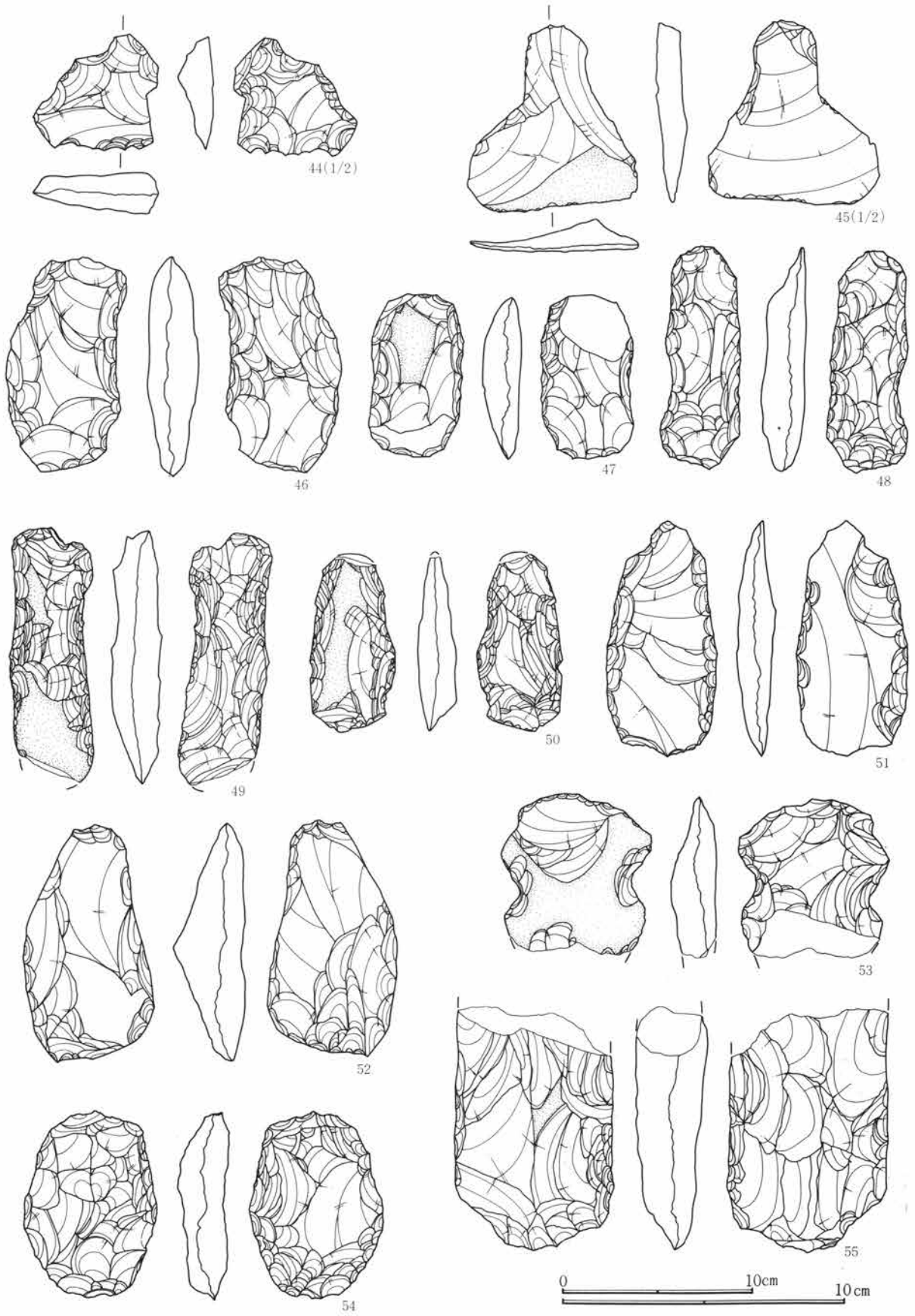
第19图 遺構外出土石器分布图(2)



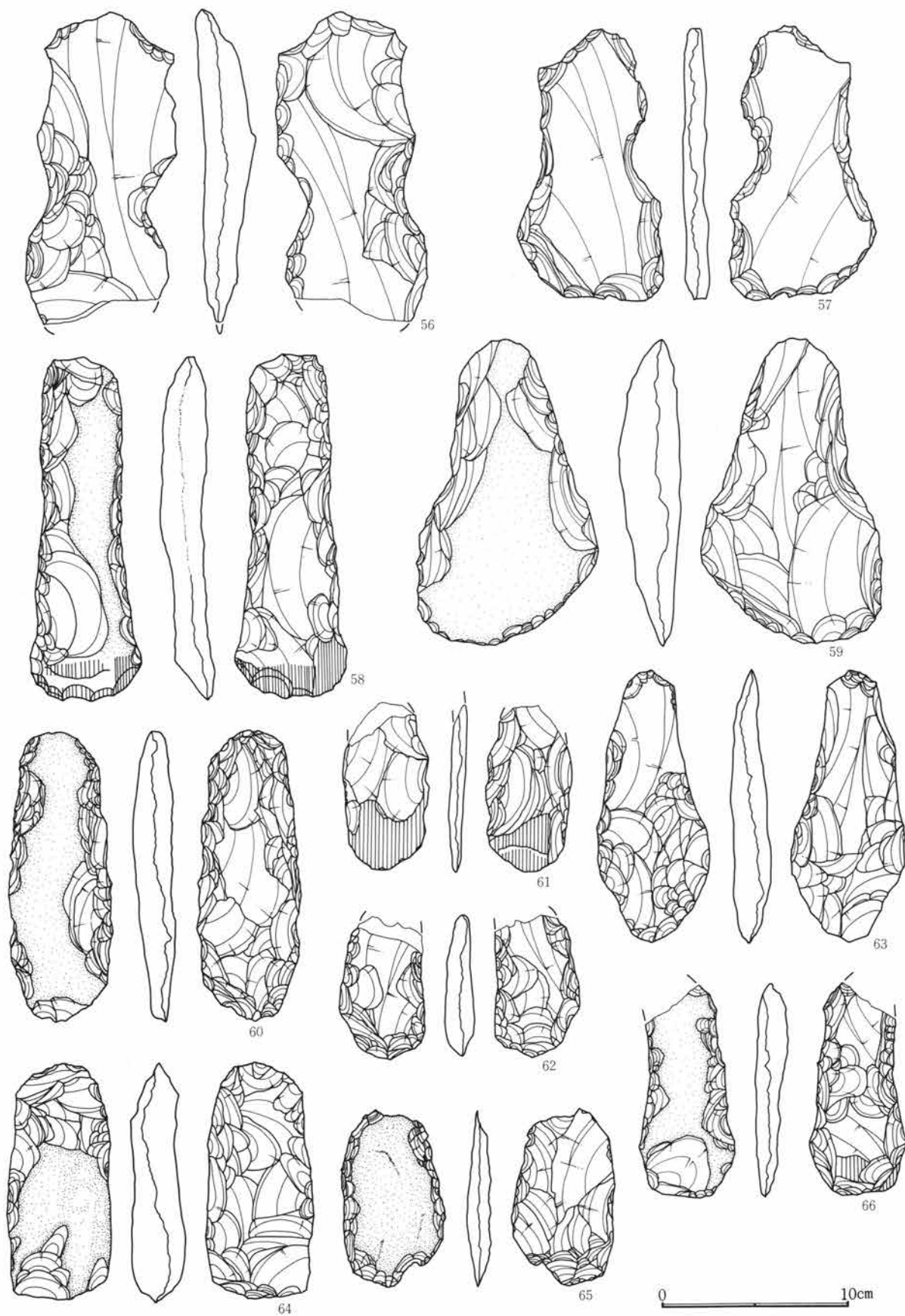
第20図 遺構外出土遺物(1)



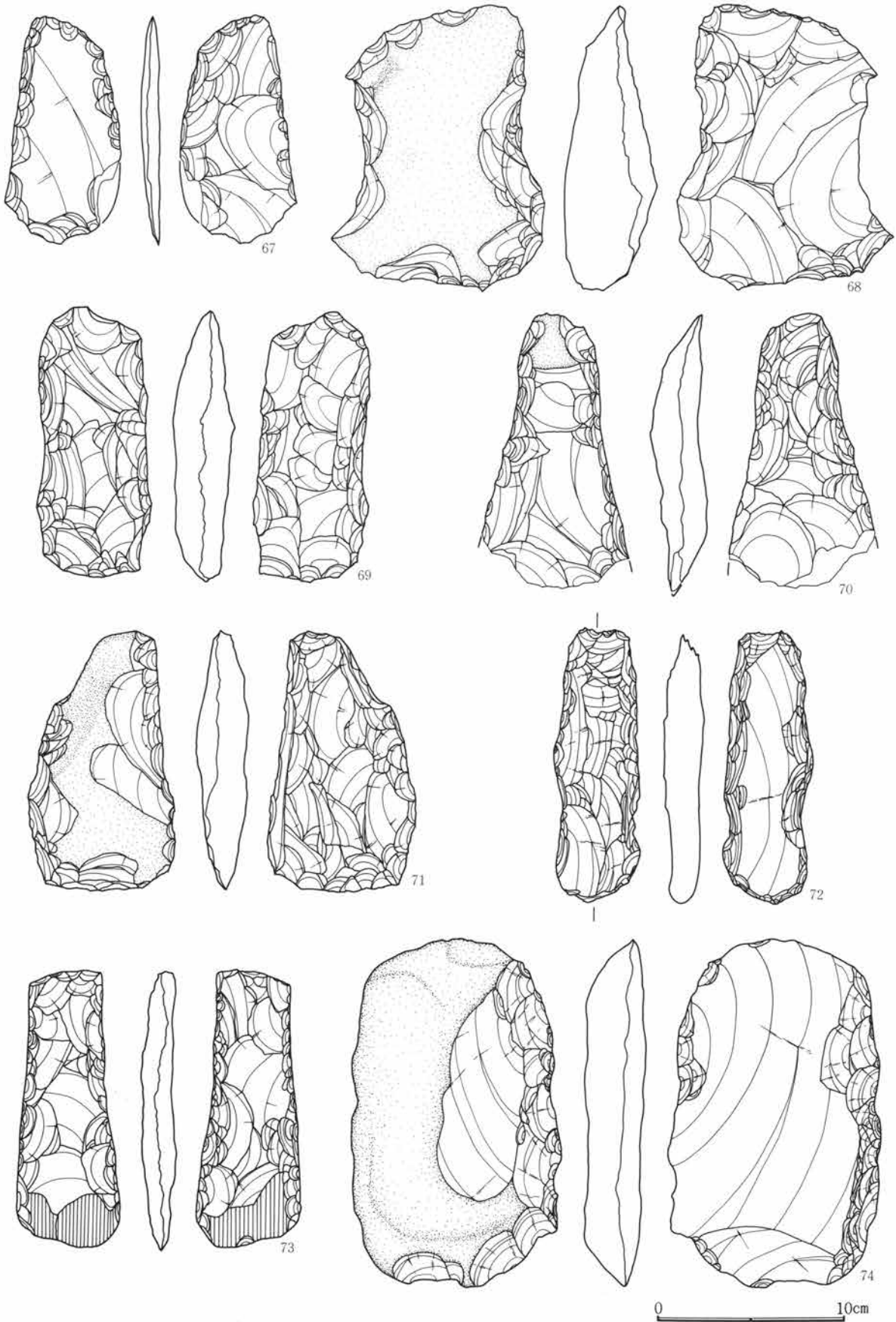
第21図 遺構外出土遺物(2)



第22図 遺構外出土遺物(3)

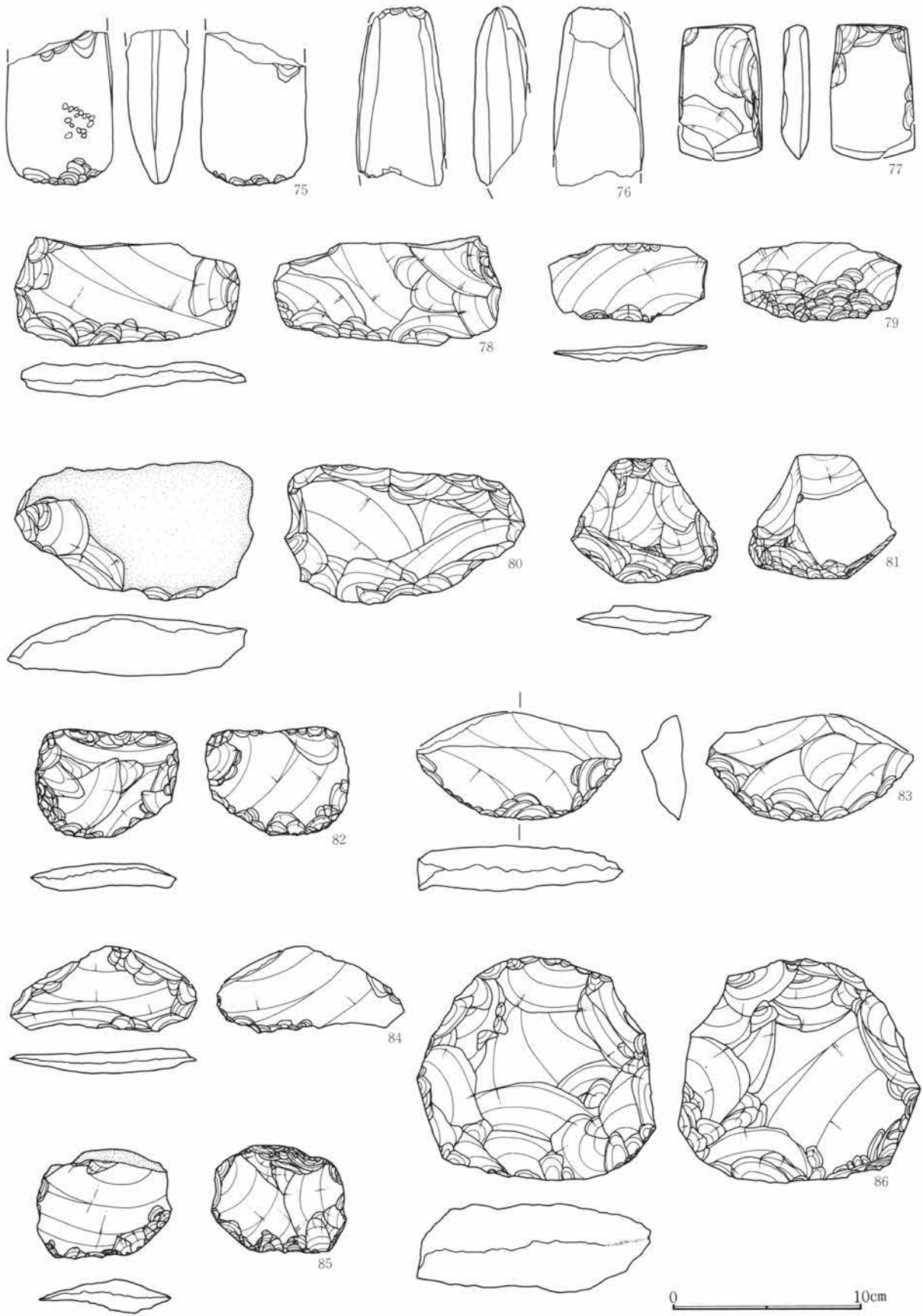


第23図 遺構外出土遺物(4)

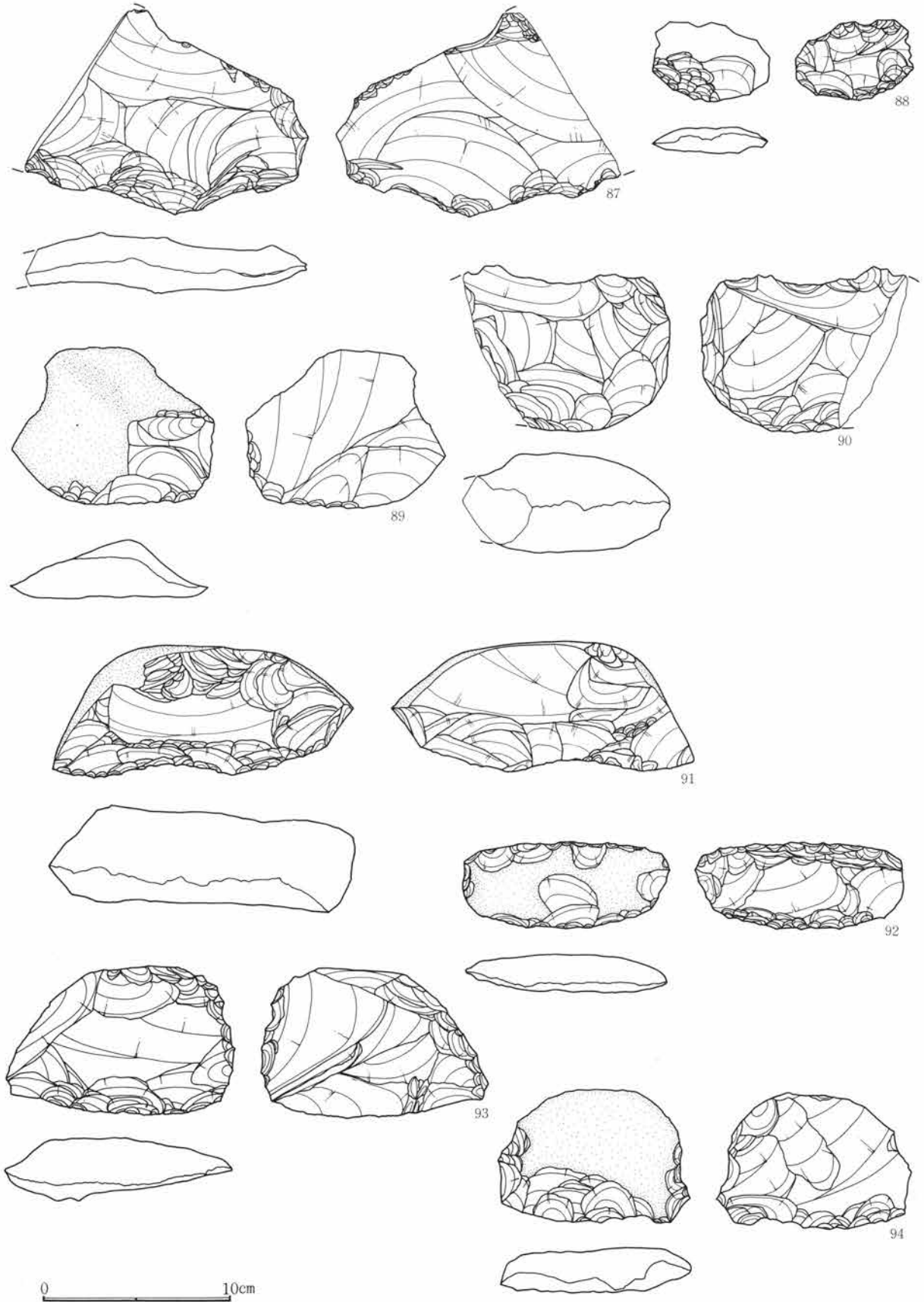


第24図 遺構外出土遺物(5)

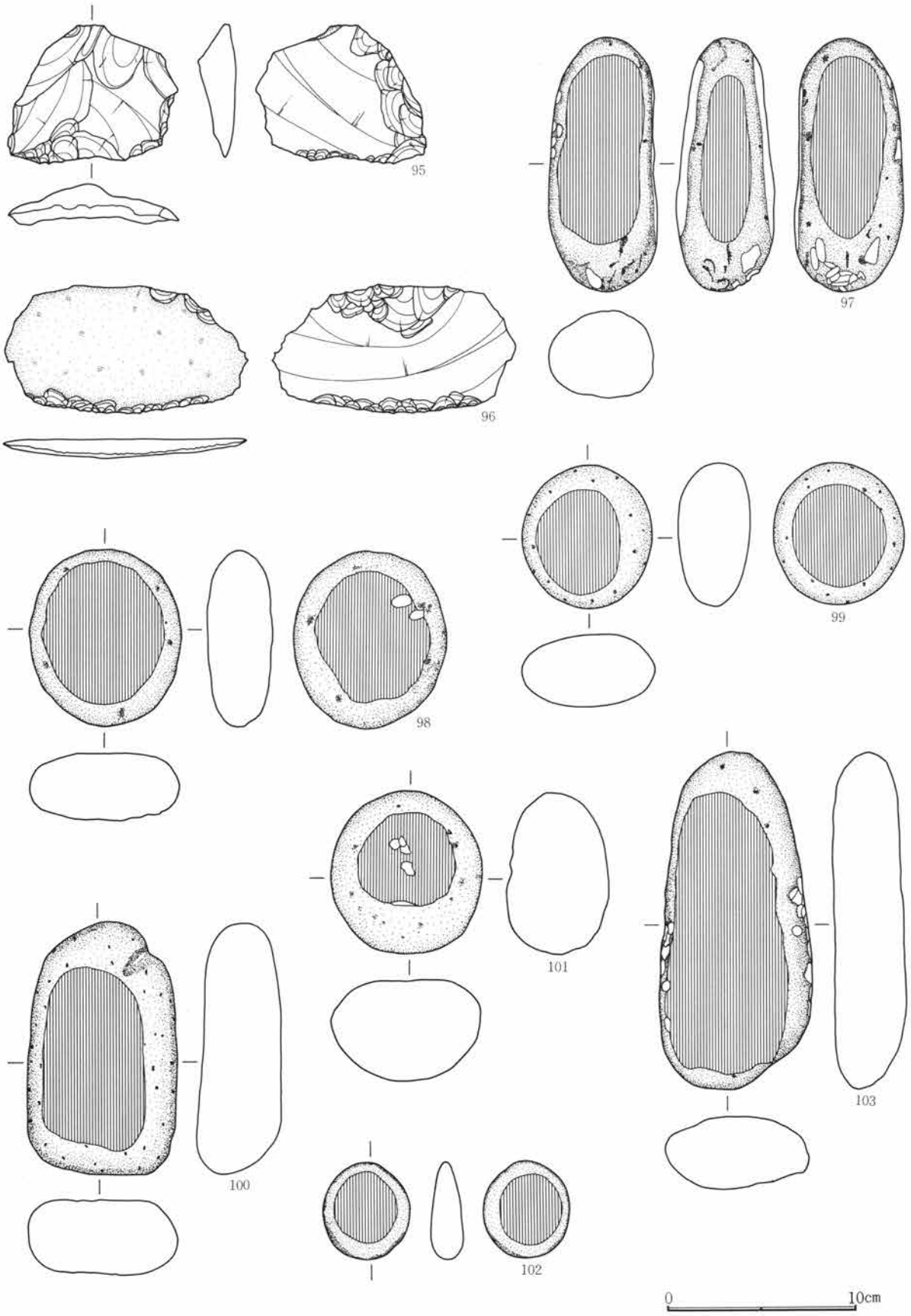
第三章 検出された遺構と出土遺物



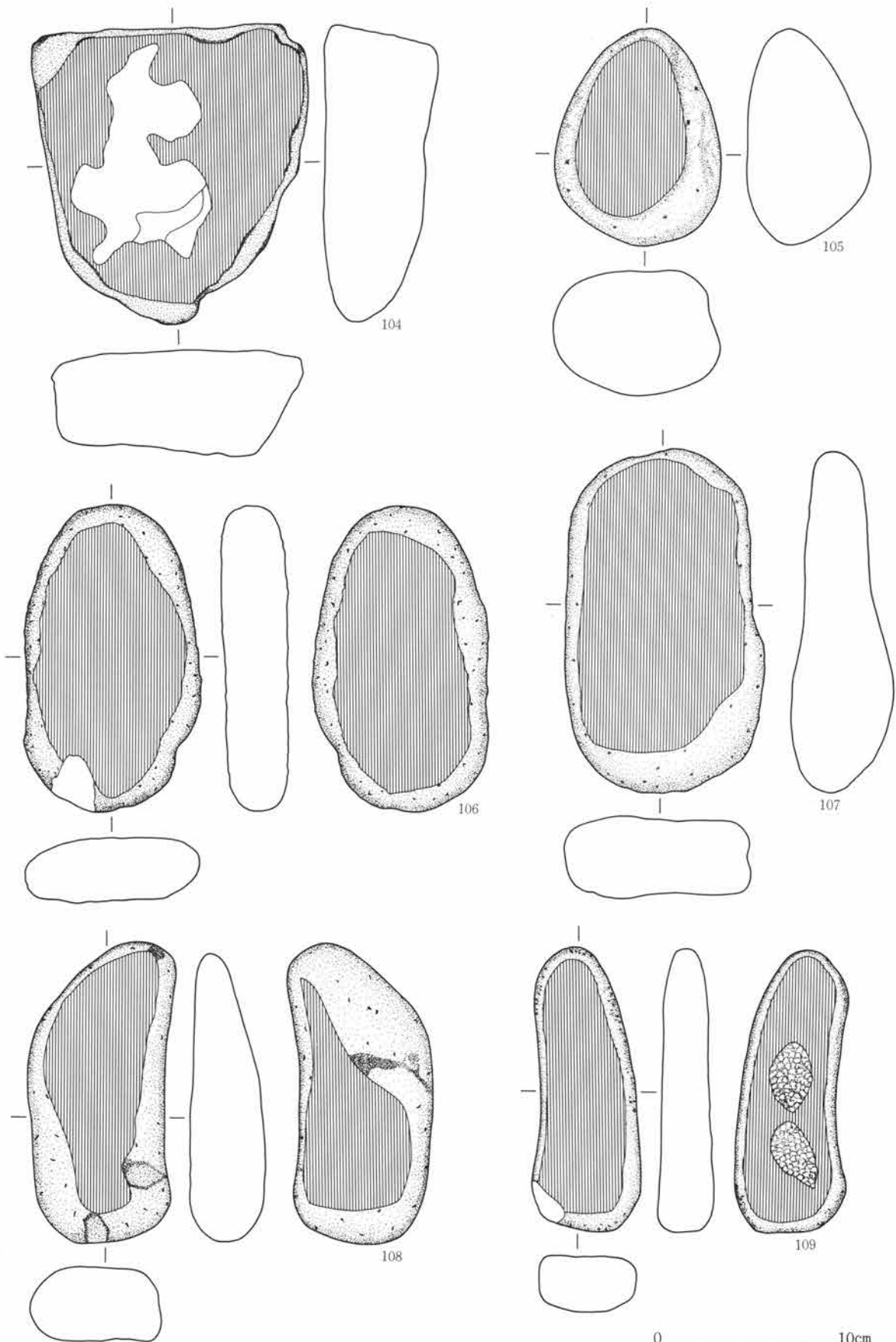
第25図 遺構外出土遺物(6)



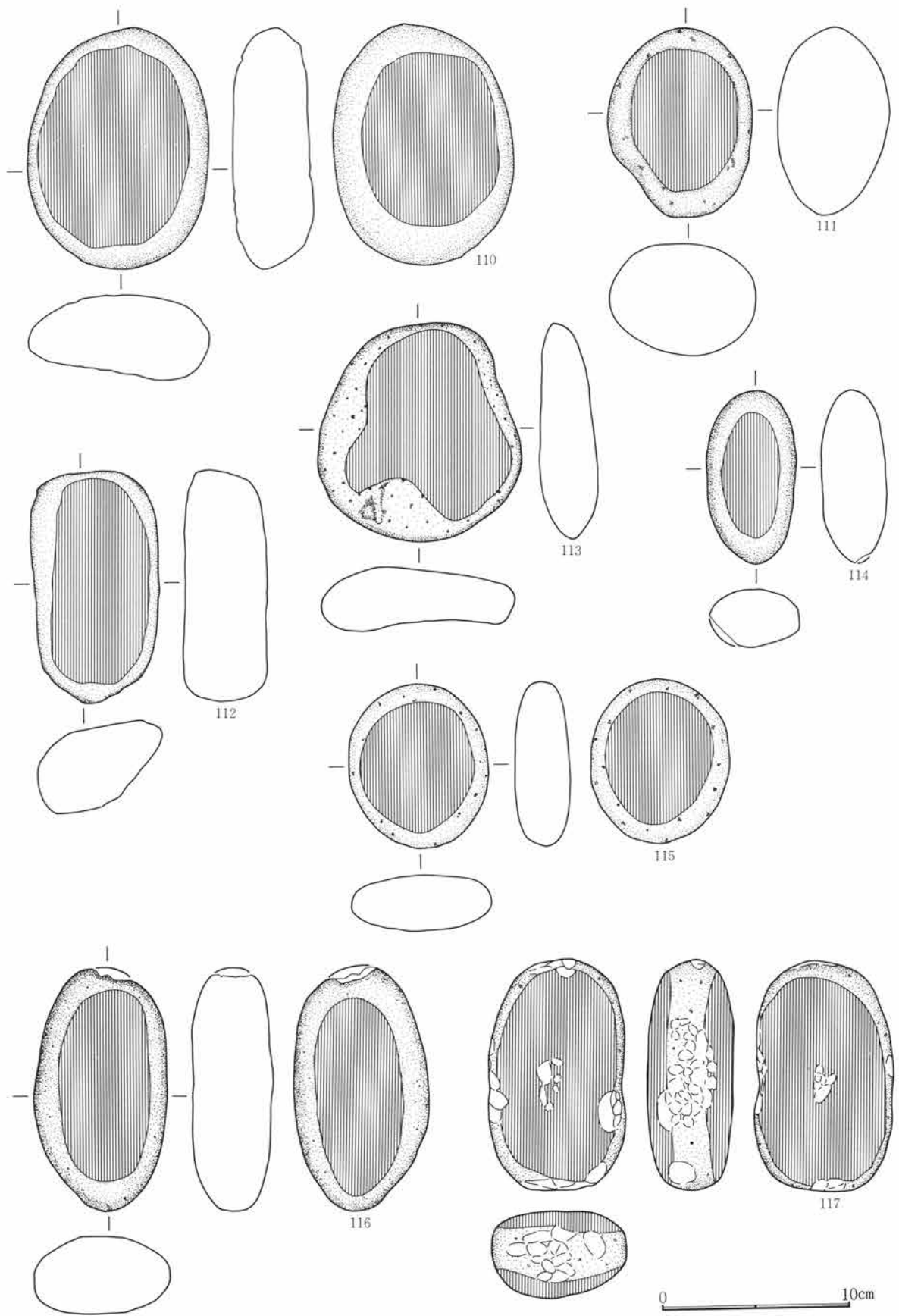
第26図 遺構外出土遺物(7)



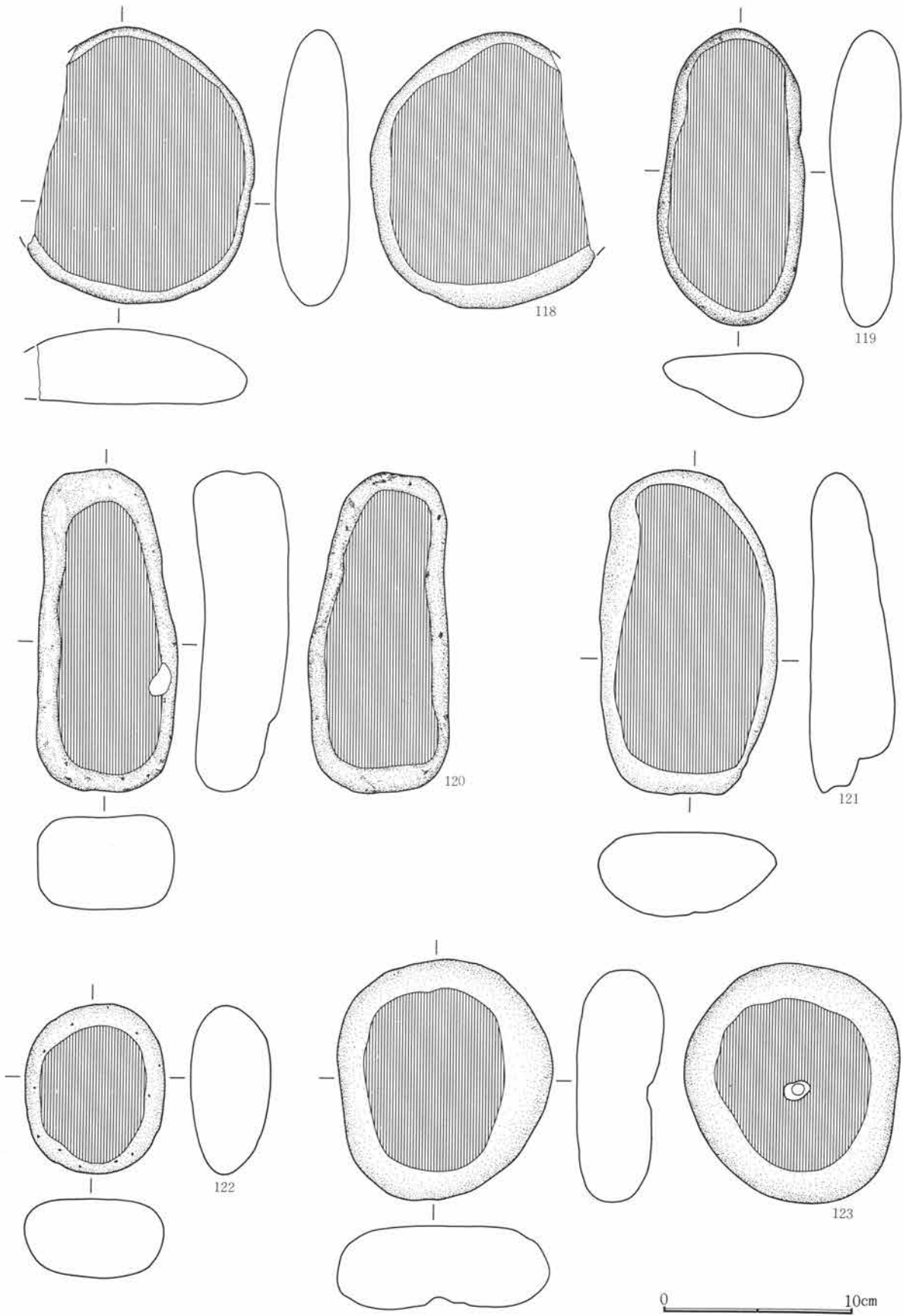
第27図 遺構外出土遺物(8)



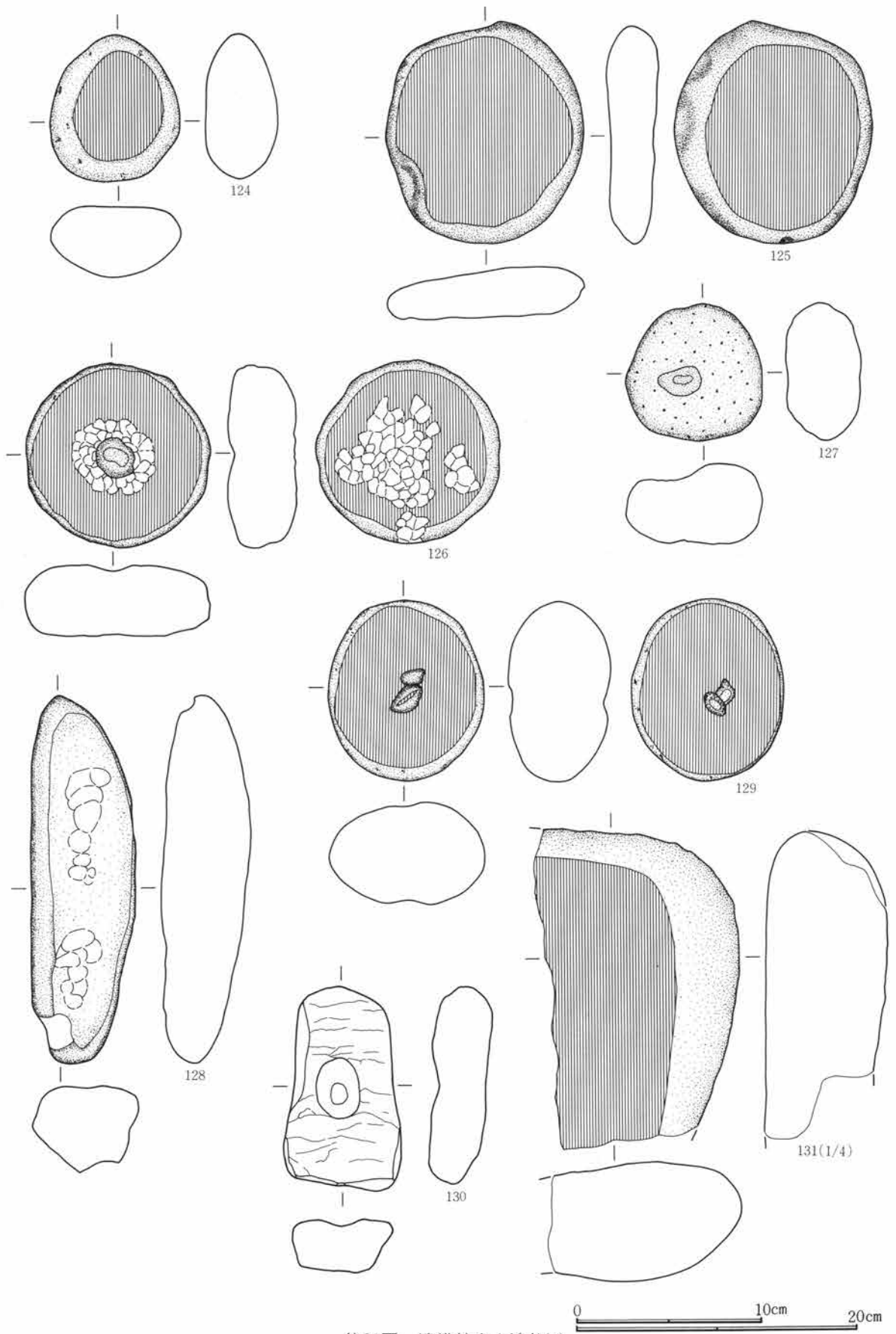
第28図 遺構外出土遺物(9)



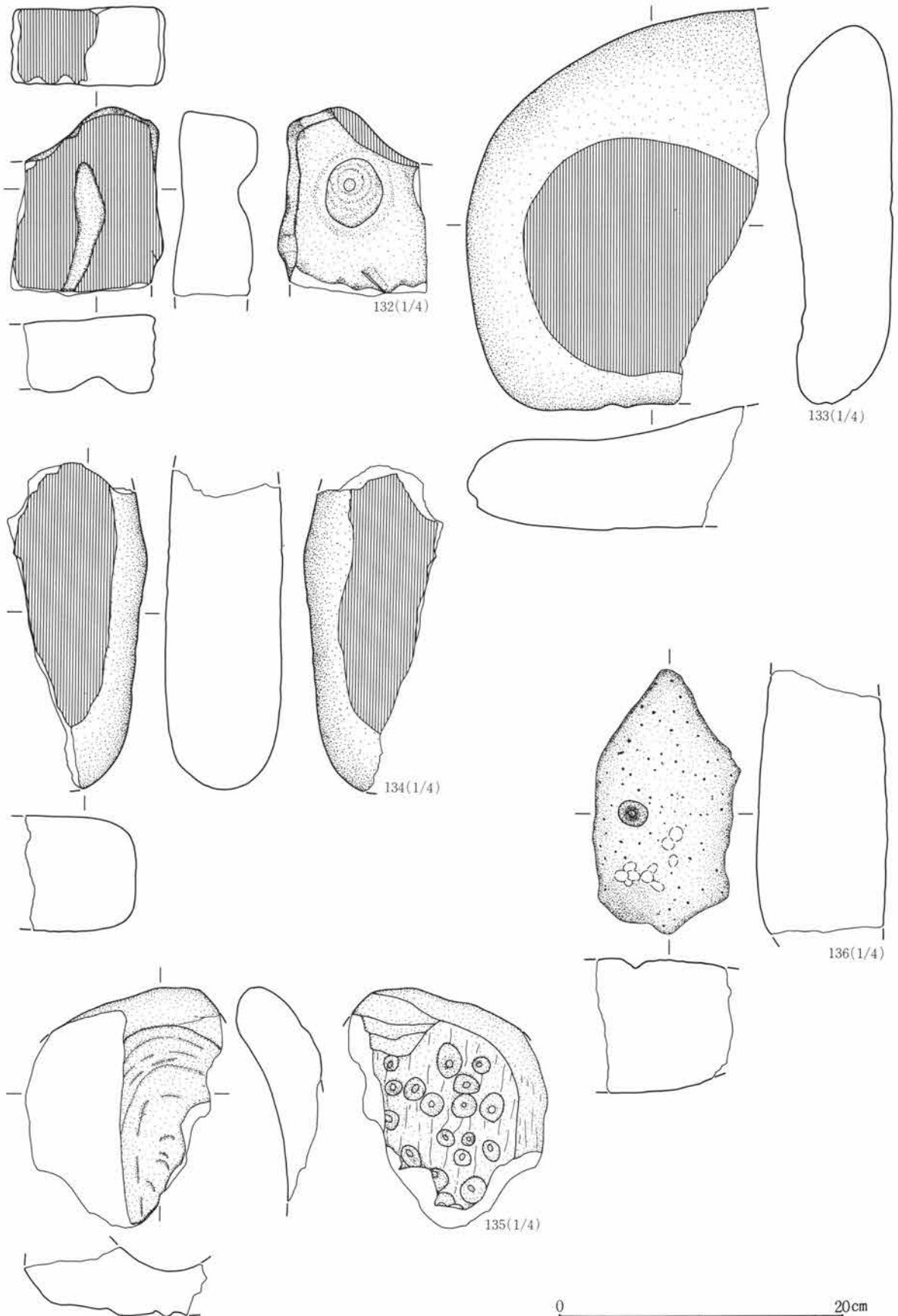
第29図 遺構外出土遺物(10)



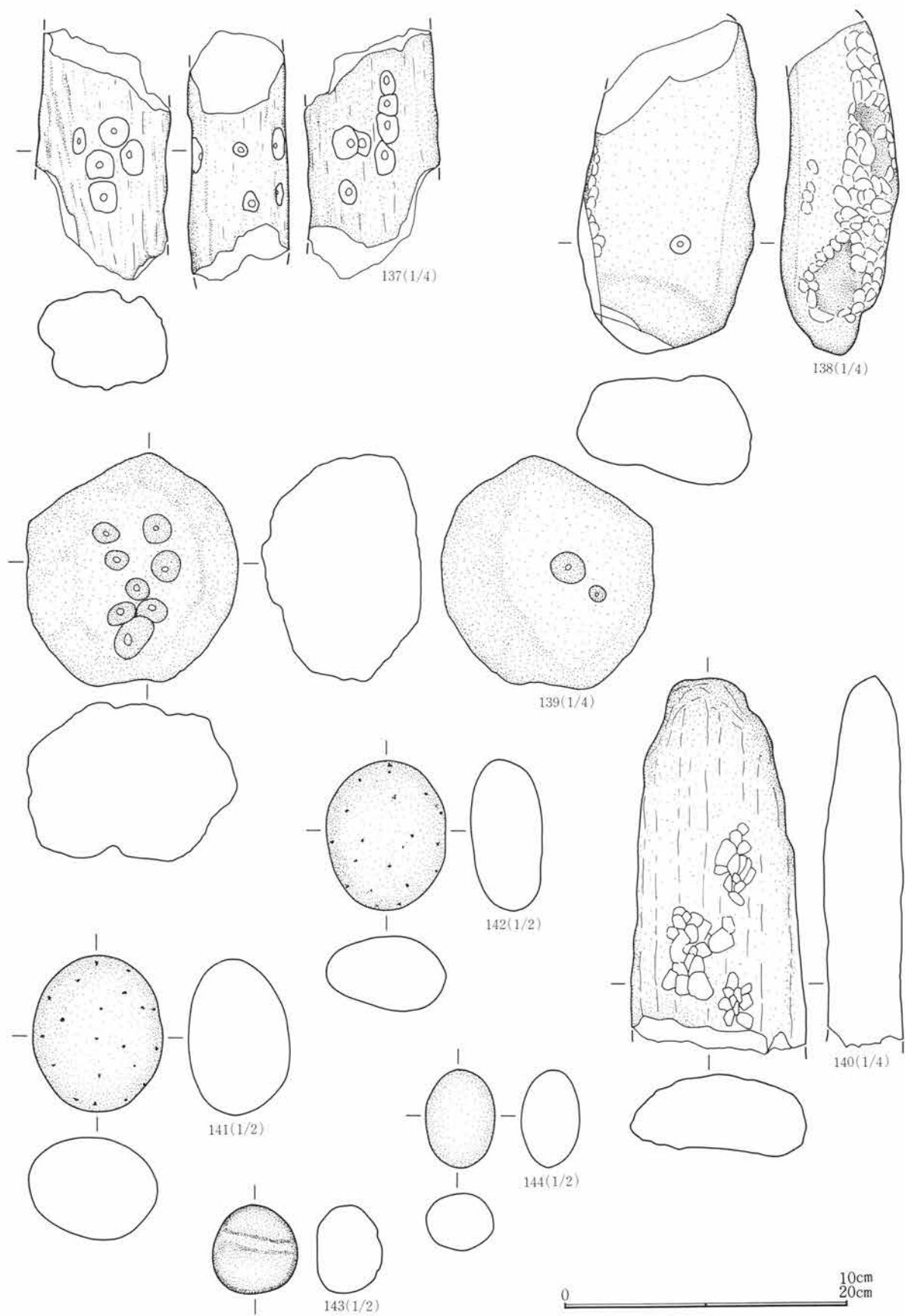
第30図 遺構外出土遺物(II)



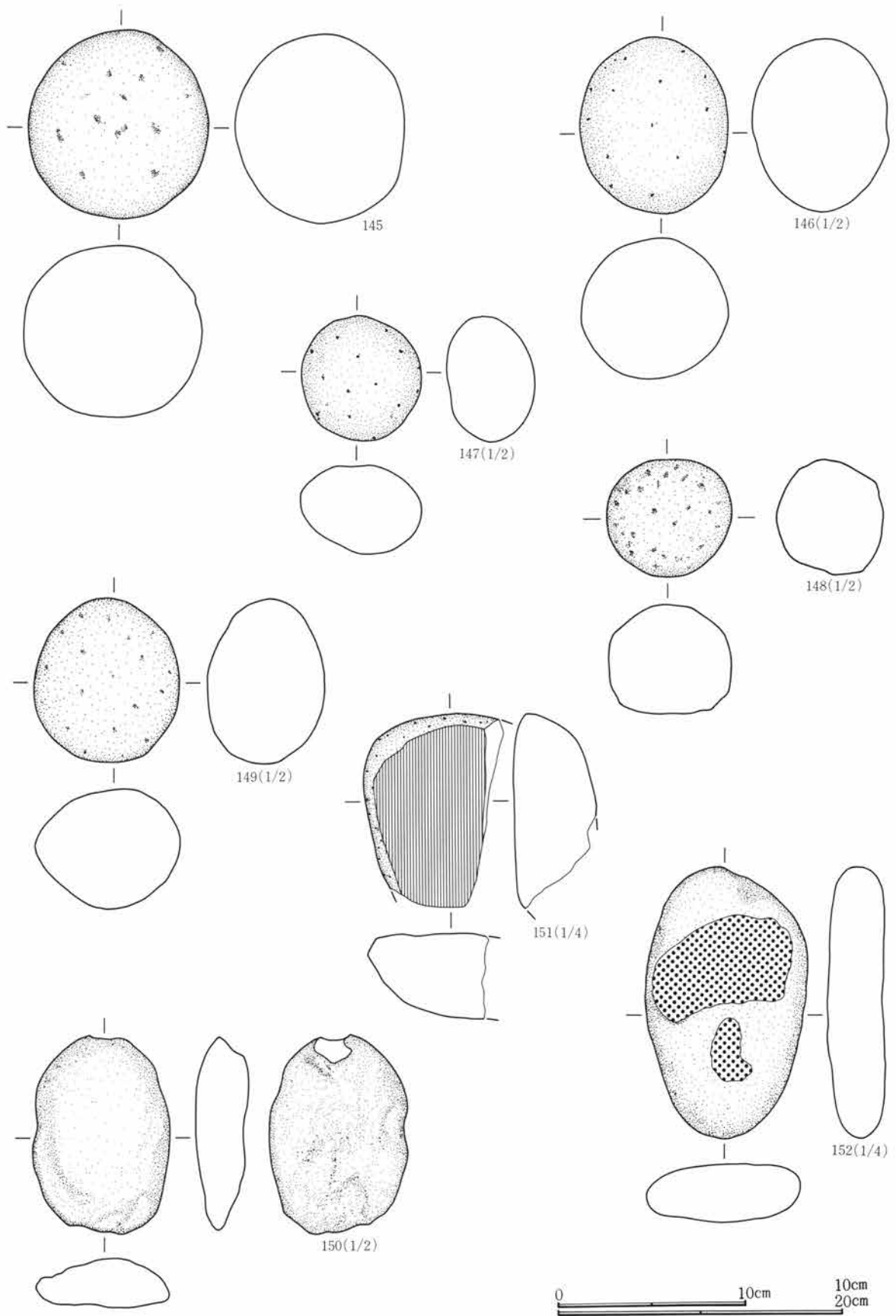
第31図 遺構外出土遺物(12)



第32図 遺構外出土遺物(13)



第33図 遺構外出土遺物(14)



第34図 遺構外出土遺物(15)

第III章 検出された遺構と出土遺物

遺構外出土土器観察表

No	器種部位	出土位置 床高(cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	法 量 調 整	文 様 要 素	分 類	備 考
1	深鉢 胴部	4号住居	①明赤褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・バミス・石英粒・繊維含む	器厚3~9mm 内面研磨	楕円形押型文	I	
2	深鉢 胴部	C32-VII30	①②灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗 砂・バミス・繊維を少量含む	器厚10~15mm 内面研磨	半截竹管状工具による連続刺突 文 沈線	II 1	
3	深鉢 胴部	C65-VI95	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	器厚7~9mm 内面ナデカ	浮線文上にRL縄文 輪積痕上 に刻み	III	
4	深鉢 胴部	C69-VI90	①②にぶい黄橙 断面 黒褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫・繊維を含む	器厚11~12mm 内面ナデ	半截竹管状工具による連続刺突 文 沈線	II 1	
5	深鉢 胴部	C34-VII34 C34-VII31	①②灰黄褐 にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	器厚6~9mm 内面研磨	RL縄文施文後半截竹管状工具 による平行沈線	III 2	
6	深鉢 胴部	D8-VII79	①褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	器厚7~11mm 内面研磨	RL縄文施文後浮線文貼付け さらに一部縄文施文	III	
7	深鉢 口縁部	D16-VII70	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	器厚6~9mm 内面研磨	口唇部に刻み 浮線文上に刻み	III	
8	深鉢 胴部	C15-VII32 C20-VII25	①明赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	器厚6~9mm 内面ナデカ	一部RL縄文施文後半截竹管状工具 による平行沈線	III 2	
9	深鉢 口縁部	C34-VII34 C35-VII27	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口径(27.0cm) 外面研磨	口縁部に透孔あり	III	
10	深鉢 胴部	7号住居	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	器厚8~13mm 内面研磨	LR縄文施文後半截竹管状工具 による平行沈線 隆帯文貼付け	III	
11	深鉢 胴部	7号住居	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	器厚7~9mm 内面研磨	RL縄文 円形貼付文	III	
12	深鉢 胴部	C73-VII87	①②赤褐 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・雲母を含む	器厚15~16mm 内面ナデカ	短軸絡状帯第1類R1条	V	
13	深鉢 胴部	C73-VII87	①②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	器厚10~11mm 内面ナデカ	平行沈線間に竹管状工具による 交互の刺突文	V	

遺構外出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
14	石鏃	表探	1.7	1.7	0.3	0.5	完形	黒曜石	凹基無茎 U字状の抉り
15	石鏃	7号住居	1.5	1.2	0.3	0.7	完形	黒曜石	凹基無茎
16	石鏃	C58-VII57	2.2	1.4	0.4	0.9	完形	赤鉄鉱珪岩	凹基無茎
17	石鏃	29号住居	3.2	2.2	0.4	2.1	完形	黒曜石	凹基無茎
18	石鏃	5号古墳	2.0	1.5	0.4	0.8	完形	黒曜石	凸基有茎
19	石鏃	27号土坑	[1.3]	1.4	0.4	1.0	先端部欠損	黒曜石	凹基有茎
20	石鏃	10号住居	3.0	(1.8)	0.5	1.6	基部一部欠損	黒曜石	凹基無茎
21	石鏃	1号古墳	2.4	[1.6]	0.4	2.0	片端部欠損	熱変成岩	凹基無茎
22	石鏃	6号住居	1.7	1.3	0.3	0.6	完形	黒曜石	凹基無茎
23	石鏃	7号住居	1.2	1.1	0.2	0.5	完形	黒曜石	平基無茎
24	石鏃	2谷津	[2.4]	2.1	0.3	1.2	刃部一部欠損	黒曜石	凹基無茎
25	石鏃	C95-VII75	2.0	1.6	0.3	0.6	完形	安山岩	平基無茎
26	石鏃	7号住居	[2.4]	1.5	0.3	0.9	茎部欠損	黒曜石	凹基有茎
27	石鏃	22号住居	[2.1]	[1.6]	0.4	1.0	一部欠損	黒曜石	凹基無茎
28	石鏃	6号住居	2.5	1.2	0.4	0.7	完形	黒曜石	凹基有茎
29	石鏃	27号住居	[1.5]	(1.5)	0.4	0.6	両端部欠損	黒曜石	凹基無茎
30	石鏃	4号住居	1.9	1.5	0.4	4.0	先端部欠損	安山岩	凹基無茎
31	石鏃	3号住居	1.9	1.7	0.5	0.9	完形	赤鉄鉱珪岩	凹基無茎
32	石鏃	3号住居	[1.5]	1.3	0.5	0.5	先端部欠損	黒曜石	平基有茎
33	石鏃	7号住居	3.0	(1.1)	0.5	0.5	基部一部欠損	赤鉄鉱珪岩	平基無茎か
34	石鏃	C15-VII32	2.1	1.3	0.3	0.7	基部一部欠損	黒曜石	凹基無茎
35	石鏃	C40-VII34	2.3	1.6	0.4	1.1	完形	黒曜石	凸基有茎
36	石鏃	C83-VII64	2.3	3.4	0.3	1.1	完形	チャート	凹基無茎
37	石鏃	22号住居	1.8	1.4	0.4	1.0	完形	黒曜石	凹基無茎
38	石鏃	D8-VII20	[1.8]	1.3	0.7	0.7	刃部・基部一部欠損	黒曜石	凹基有茎
39	石鏃	25号住居	[2.9]	1.8	0.3	0.9	基部欠損	黒曜石	凹基無茎
40	石鏃	32号土坑	[1.6]	1.4	0.5	0.7	刃部欠損	黒曜石	凸基有茎
41	石鏃	D8-VII90	[2.2]	2.2	0.4	1.4	先端部欠損	熱変成岩	凹基無茎

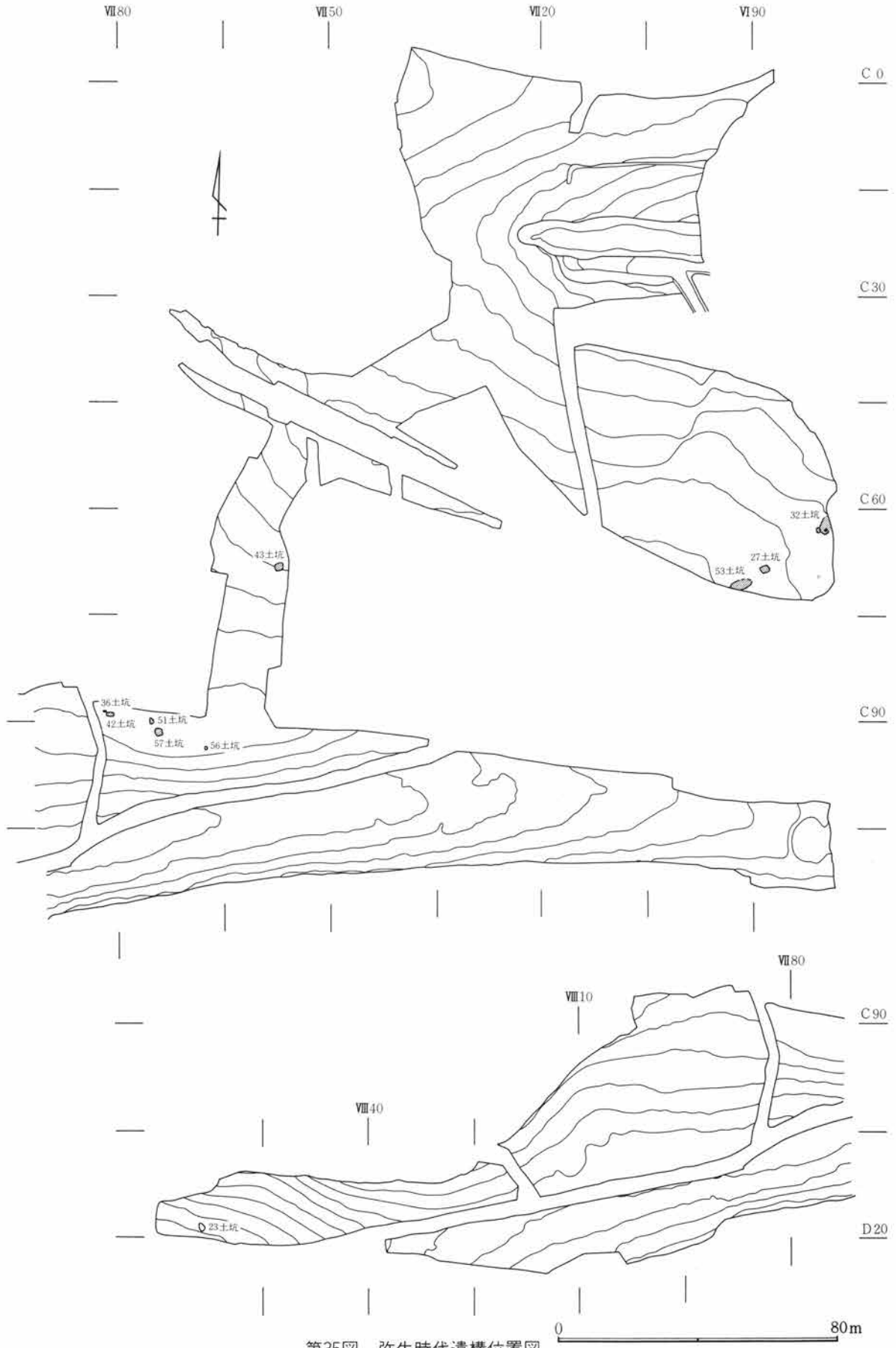
第1節 縄文時代

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
42	石鏃	2谷津	[1.8]	[0.8]	0.4	0.6	基部欠損	黒曜石	基部形態不明
43	石槍	13号溝					基部欠損	黒曜石	基部形態不明
44	石匙	C26-VI37	4.0	4.4	1.5	1.5	完形	チャート	横型
45	石匙	40号土坑	6.5	0.6	1.1	28	完形	熱変成岩	横型 片面に自然面残す
46	打製石斧	C90-VII69	11.2	6.3	2.7	200	完形	安山岩	短冊型 直刃
47	打製石斧	C20-VII25	8.5	4.9	2.1	90	完形	熱変成岩	短冊型 凸刃
48	打製石斧	C35-VII35	11.8	4.2	2.3	120	完形	熱変成岩	短冊型 直刃
49	打製石斧	34号住居	13.2	4.6	2.7	85	刃部欠損	熱変成岩	短冊型 片面に自然面残す
50	打製石斧	39号住居	9.2	4.5	2.0	90	一部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面残す
51	打製石斧	C66-VII59	12.3	5.8	2.1	150	完形	安山岩	撥II型 凸刃
52	打製石斧	C94-VII63	12.2	6.9	3.8	265	基部一部欠損	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に自然面残す
53	打製石斧	C32-VII30	8.3	7.9	2.5	145	刃部欠損	安山岩	分銅型 凸刃か 片面に自然面残す
54	打製石斧	C34-VII30	9.7	7.0	2.7	180	完形	流紋岩	短冊型 凸刃
55	打製石斧	C92-VII72	[12.6]	8.4	3.8	415	基部欠損	安山岩	短冊型 凸刃 片面に一部自然面残す
56	打製石斧	C20-VII29	[16.2]	8.0	3.2	280	刃部欠損	安山岩	分銅型 凸刃か
57	打製石斧	C35-VII30	14.2	7.8	1.4	175	基部一部欠損	点紋網雲母石墨片岩	分銅型 凸刃
58	打製石斧	C20-VII25	18.0	6.0	2.8	270	完形	熱変成岩	撥I型 凸刃 片面に自然面 刃部摩耗
59	打製石斧	C40-VI90	16.8	9.6	3.3	465	完形	輝緑岩	撥I型 凸刃 片面に自然面残す
60	打製石斧	2谷津	15.2	5.5	2.3	180	完形	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に自然面残す
61	打製石斧	2谷津	[4.6]	8.7	0.7	42	刃部欠損	輝緑岩	短冊型 凸刃 刃部摩耗著しい
62	打製石斧	2谷津	[8.0]	5.5	1.6	51	基部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面 刃部摩耗
63	打製石斧	C20-VII35	14.2	5.9	2.1	170	基部一部欠損	安山岩	撥I型 凸刃
64	打製石斧	C84-VII60	12.3	5.6	2.8	197	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面残す
65	打製石斧	22号住居	9.2	5.4	1.3	80	完形	熱変成岩	撥II型 凸刃 片面に自然面残す
66	打製石斧	2谷津	11.1	5.1	1.8	90	基部欠損	安山岩	撥II型 直刃 片面に自然面 刃部摩耗
67	打製石斧	2谷津	11.9	6.2	1.0	74	刃部一部欠損	熱変成岩	撥II型 凸刃
68	打製石斧	2谷津	14.7	11.2	4.9	690	完形	熱変成岩	分銅型 直刃 片面に自然面残す
69	打製石斧	2谷津	14.1	6.0	3.3	280	完形	熱変成岩	短冊型 凸刃
70	打製石斧	2谷津	[14.3]	7.8	3.0	245	刃部欠損	熱変成岩	撥I型
71	打製石斧	2谷津	13.5	7.8	2.7	280	完形	熱変成岩	撥II型 直刃
72	打製石斧	7号住居	14.3	4.6	2.1	170	完形	点紋網雲母石墨片岩	短冊型 凸刃か
73	打製石斧	2谷津	14.5	5.5	1.9	161	完形	熱変成岩	撥I型 凸刃か 刃部摩耗著しい
74	打製石斧	121号土坑	18.2	11.1	3.1	900	完形	熱変成岩	短冊型 凸刃 片面に大部分自然面残す
75	磨製石斧	2谷津	[8.0]	5.6	3.2	200	基部欠損	角閃岩	研磨段階 凸刃
76	磨製石斧	2谷津	[9.2]	4.6	[2.7]	160	刃部欠損	角閃岩	研磨段階
77	磨製石斧	C11-VII67	7.0	[4.4]	1.4	65	刃部欠損	熱変成岩	研磨段階 一部粗割痕残す
78	スクレイパー	D8-VII20	5.7	11.8	2.0	105	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
79	スクレイパー	3号住居	8.3	8.4	0.9	35	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
80	スクレイパー	C65-VII80	7.2	12.5	3.2	330	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 片面に自然面残す
81	スクレイパー	16号住居	6.4	7.6	1.2	65	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
82	スクレイパー	C20-VII25	5.5	7.4	1.5	51	完形	硬砂岩	側縁に刃部 凸刃
83	スクレイパー	C55-VII10	5.7	10.9	2.4	123	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
84	スクレイパー	2谷津	4.4	9.7	1.3	37	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
85	スクレイパー	1号溝	5.6	7.0	1.8	72	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
86	スクレイパー	C92-VII64	11.5	12.4	4.6	715	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
87	スクレイパー	9号住居	[10.6]	[14.9]	3.1	420	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃
88	スクレイパー	C94-VII74	4.1	6.1	1.4	31	完形	熱変成岩	側縁に刃部 凸刃 片面に自然面残す
89	スクレイパー	2谷津	8.2	10.6	3.2	210	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面残す
90	スクレイパー	5号墳	8.6	10.8	5.3	500	一部欠損	熱変成岩	側縁に刃部 直刃か
91	スクレイパー	C14-VII19	6.7	15.9	5.5	661	完形	安山岩	側縁に刃部 直刃
92	スクレイパー	C90-VII69	4.5	10.8	2.0	110	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面残す
93	スクレイパー	C94-VII79	7.2	12.0	3.3	325	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
94	スクレイパー	2谷津	7.0	10.0	2.2	175	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃 片面に自然面残す
95	スクレイパー	C49-VII42	7.2	9.0	2.2	115	完形	熱変成岩	側縁に刃部 直刃
96	微細剝離痕ある剥片	C80-VII72	6.6	12.8	1.0	95	完形	安山岩	側縁に剝離痕あり 片面に自然面残す
97	磨石	2谷津	13.2	5.6	5.1	540	完形	安山岩	3面に磨面 側面に敲打痕
98	磨石	2谷津	9.2	8.0	3.3	355	完形	安山岩	両面に磨面
99	磨石	9号住居	7.4	6.8	3.7	250	完形	石英安山岩	両面に磨面
100	磨石	C90-VII73	13.1	7.7	4.4	780	完形	安山岩	片面に磨面
101	磨石	2谷津	8.4	7.8	5.3	420	完形	安山岩	片面に磨面・くぼみ

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
102	磨石	C20-VII35	5.0	4.5	1.8	51	完形	流紋岩	両面に磨面
103	磨石	2谷津	17.5	8.0	3.8	815	完形	安山岩	片面に磨面 側面に敲打痕
104	磨石	C90-VII75	15.4	14.4	5.6	1800	完形	安山岩	片面に磨面・敲打痕
105	磨石	9号住居	11.2	8.2	6.5	900	完形	安山岩	片面に磨面
106	磨石	17号住居	15.8	9.2	3.5	795	完形	安山岩	両面に磨面・敲打痕
107	磨石	47号住居	17.8	10.4	5.2	1400	完形	安山岩	片面に磨面
108	磨石	C20-VII20	15.5	7.5	3.9	678	完形	安山岩	両面に磨面 側面に敲打痕
109	磨石	46号住居	14.7	5.7	3.0	500	完形	安山岩	両面に磨面・敲打痕
110	磨石	C90-VII79	12.6	9.6	4.5	740	完形	安山岩	両面に磨面 側面に敲打痕
111	磨石	1号集石	9.8	7.6	5.8	600	完形	安山岩	片面に磨面
112	磨石	C76-VII64	12.1	7.8	4.4	810	完形	安山岩	片面に磨面
113	磨石	C21-VII34	15.1	14.3	4.5	1200	完形	安山岩	片面に磨面
114	磨石	24号住居	9.0	3.0	3.4	200	一部欠損	石英安山岩	片面に磨面
115	磨石	29号住居	8.6	7.3	2.9	234	完形	安山岩	両面に磨面
116	磨石	21号住居	12.6	7.2	4.2	600	一部欠損	安山岩	両面に磨面 側面に敲打痕
117	磨石	覆土	12.0	7.2	4.5	600	完形	安山岩	両面に磨面・敲打痕 側縁に敲打痕
118	磨石	C20-VII35	14.3	[11.9]	3.9	1000	一部欠損	安山岩	両面に磨面
119	磨石	覆土	15.3	7.3	3.8	600	完形	安山岩	片面に磨面
120	磨石	21号住居	16.7	7.5	5.0	1000	完形	安山岩	両面に磨面
121	磨石	覆土	16.9	9.1	4.5	1150	完形	輝緑岩	両面に磨面
122	磨石	27号住居	8.8	7.3	4.1	390	完形	石英安山岩	片面に磨面
123	磨石	C36-VII66	12.5	11.3	4.5	850	完形	石英安山岩	両面に磨面 片面にくぼみ 側面に敲打痕
124	磨石	40号住居	7.6	6.9	3.8	235	完形	石英安山岩	片面に磨面
125	磨石	2谷津	11.6	10.5	2.8	520	完形	安山岩	両面に磨面
126	くぼみ石	C17-VII32	9.6	9.7	3.7	487	完形	石英安山岩	両面に磨面・くぼみ・敲打痕 側面敲打痕
127	くぼみ石	32号住居	7.2	7.2	4.2	160	完形	軽石	片面にくぼみ
128	くぼみ石	C75-VII45	14.2	5.5	4.8	737	完形	安山岩	片面にくぼみ・敲打痕
129	くぼみ石	6号住居	9.5	8.2	5.4	530	完形	石英安山岩	両面にくぼみ・磨面
130	くぼみ石	C33-VII24	10.7	6.2	3.4	320	完形	網雲母石墨片岩	片面にくぼみ
131	石皿	2谷津	[22.5]	[16.5]	9.1	4600	1/2	石英閃緑岩	片面に磨面
132	石皿	2谷津	[13.1]	11.7	5.9	1000	破片	砂岩	2面に磨面 片面にくぼみ
133	石皿	南区第2面下溝	[28.1]	[21.2]	[8.7]	6300	1/2	安山岩	片面に磨面
134	石皿	67号土坑	[22.7]	[10.0]	8.2	2500	1/3	安山岩	両面に磨面 一部敲打痕あり
135	石皿	20号住居	[16.9]	[13.9]	[6.0]	1048	破片	点紋網雲母石墨片岩	裏面にくぼみ 孔数18 平均径16mm 深6mm
136	多孔石	C20-VII30	[18.3]	10.0	9.4	2150	完形	流紋岩	片面に孔・敲打痕
137	多孔石	2谷津	[17.5]	9.5	7.0	1800	1/3	点紋緑泥片岩	孔数14 平均径16mm 深さ6mm
138	多孔石	C21-VII34	[23.1]	12.6	8.1	3100	一部欠損	安山岩	片面にくぼみ 側面に敲打痕
139	多孔石	27号住居	16.3	15.3	11.1	3500	完形	砂岩	孔数10 平均径19mm 深さ6mm
140	台石	C22-VII35	[26.7]	12.3	5.6	3000	一部欠損	点紋緑泥片岩	片面に敲打痕
141	丸石	20号住居	5.4	4.6	3.6	110	完形	石英安山岩	
142	丸石	20号住居	5.2	4.2	2.6	75	完形	安山岩	
143	丸石	C18-VII26	3.1	3.0	2.2	30	完形	砂岩	
144	丸石	28号住居	3.4	2.5	2.0	20	完形	安山岩	
145	丸石	2谷津	9.7	9.4	8.9	1000	完形	安山岩	
146	丸石	4号住居	6.1	5.2	4.8	195	完形	石英安山岩	
147	丸石	12号住居	4.3	4.2	3.1	65	完形	石英安山岩	
148	丸石	2谷津	4.0	4.3	3.8	95	完形	安山岩	
149	丸石	2谷津	5.7	5.0	4.2	135	完形	安山岩	
150	石錘	7号住居	6.9	4.8	1.8	190	完形	輝緑岩	端部に刻みあり
151	不明	45号住居	[13.5]	[9.8]	[6.0]	1000	2/3	安山岩	片面に磨面
152	不明	28号住居	18.8	11.4	4.1	1200	完形	安山岩	片面部分的に黒変

第1節 縄文時代



第35図 弥生時代遺構位置図

第2節 弥生時代

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

中期の土坑が7基、時期不明の土坑が3基検出されている。

①分布 調査区東端部に3基、南側中央部に6基(1基は北にやや離れる)、南側西端部に1基と3カ所に分かれて分布している。いずれの群も調査区外にさらに遺構のある可能性がある。

②平面形態 円形2基、楕円形2基、隅丸方形2基、隅丸長方形4基となっている。

③規模 長径0.90~4.10m平均1.99m、短径0.83~2.34m平均1.54m、深さ13~150cm平均61cmであり、長径で4.5倍の差があるが、深さは10倍以上の差があり、深さに比べ平面規模はあまり差がないとすることができる。

④時期 7基は中期の土坑で、3基は時期不明である。

遺物

①土器 壺・甕・蓋が出土している。

I 壺 A類 沈線と縄文で文様を描くもの B類 沈線と刺突文で文様を描くもの

C類 沈線だけで文様を描くもの

II 甕 A類 条痕文を主とするもの B類 縄文を主とするもの

C類 櫛描文を主とするもの(後期)

III 蓋

IV 小型土器

出土土器数量表

器種	壺	甕	高坏	小型土器	蓋	鉢	計
遺構内(中期)	2	162	2	3	0	0	169
遺構外(中期)	73	520	0	3	0	0	596
遺構外(後期)	19	175	0	0	0	0	194
時期不明	11	459	0	0	1	7	478
総計	105	1,316	2	6	1	7	1,437

②石器 砥石が2点、石皿(?)1点が出土しているが、いずれも石器を見るだけでは時期が判別できないため、遺構出土のものをこの時期とした。

(2) 土坑

23号土坑

位置 D17-VII62~65Gr 重複 なし 平面形態 楕円形 規模 2.40m×1.62m 深さ 150cm

面積 20.0m² 主軸方位 N-28°-W

概要 性格は不明であるが、掘り方は2段になっており、150cmと非常に深いことが特徴である。遺物は少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。

出土遺物 図示した土器を含めて、中期の土器片が8点出土している。

27号土坑

位置 C66～68-VI87～89Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形 規模 1.24m×1.08m

深さ 22cm 面積 5.2m² 主軸方位 N-62°-E

概要 中央やや北よりに炉状の掘り込みが検出されており、その周辺に焼土が分布しているため炉であった可能性もある。土坑の掘り方は小さく周辺から柱穴等も検出されていないため、住居の可能性は低いが、土坑周辺からも遺物が出土しているため、遺構の範囲が広がる可能性がある。遺物は小破片が多いが、炉状の掘り込み周辺に集中しており、土坑周辺出土のものは東側から多く出土している。

出土遺物 中期の土器片が37点、砥石が2点、他に縄文土器が3点、石鏃・多孔石が各1点、剥片が16点出土している。

32号土坑

位置 C62・63-VI80・81Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 1.50m×1.38m

深さ 97cm 面積 1.6m² 主軸方位 N-36°-W

概要 円形の掘り方を持つが、その東側にも浅い掘り込みが広がっている。しかしながら掘り方ははっきりせずまた東辺は検出されていないため、土坑に伴うかどうかもまた性格も不明である。出土遺物が弥生であるためほぼ同時期のものと考えられる。東側の掘り込み内にはさらに1.07×0.63m、深さ29cmの掘り込みが存在する。土坑内からは、覆土上層から1～3の土器の他多くの中期の土器片が出土しており、また浅い掘り込み内からも弥生土器が出土しているが、これは前述の小さな掘り込み周辺に集中している。

出土遺物 図示した土器も含めて中期の弥生土器が44点出土している他、石鏃が1点出土している。

36号土坑

位置 C88-VII81・82Gr 重複 なし 平面形態 円形 規模 0.90m×0.83m 深さ 19cm

面積 0.6m² 主軸方位 N-28°-W

概要 浅いが比較的しっかりした2段の掘り方をもつ。遺物は残りの良い1・2の土器が出土しているが、いずれも覆土上層である。

出土遺物 図示した1・2以外は、中期の小破片が4点、他に剥片が1点出土しただけである。

42号土坑

位置 C88・89-VII80・81Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 2.16m×1.53m

深さ 83cm 面積 3.0m² 主軸方位 N-88°-W

概要 掘り方は整った隅丸長方形で深さもかなりあるが、東側の立ち上がりは急で西側はなだらかである。遺物は覆土上層から中層にかけて、小破片ではあるが比較的多く出土している。

出土遺物 中期の土器が21点出土しているが、すべて小破片で図示できるものはない。他に剥片が9点、石核が2点出土している。

43号土坑

位置 C67・68-VII56・57Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形 規模 2.30m×2.25m

深さ 97cm 面積 4.4m² 主軸方位 N-S

第Ⅲ章 検出された遺構と出土遺物

概要 平面形態は隅丸方形であるが、北壁中央部が半円状に張り出している。立ち上がりはやや傾斜しているが垂直に近い。中央やや南西寄りから炭化材が出土している他、土器の小破片が覆土中から出土しているが、時期を確定できるものはない。

出土遺物 甕の小破片（時期不明）が4点出土している他、剝片が2点出土している。

51号土坑

位置 C89・90-VII74・75Gr **重複** なし **平面形態** 楕円形 **規模** 1.80m×1.28m

深さ 38cm **面積** 1.8m² **主軸方位** N-7°-W

概要 掘り方は浅く、あまりしっかりしたものではない。立ち上がりもなだらかである。底部に径40cm程のピットが2基検出されている。出土土器は小破片が多く、覆土中から出土している。

出土遺物 中期の土器片が7点、他に剝片が1点出土している。

53号土坑

位置 C69~71-VI90~93Gr **重複** 7号住より古 **平面形態** 隅丸長方形

規模 4.10m×2.34m **深さ** 13cm **面積** 8.5m² **主軸方位** N-61°-E

概要 長辺が4m以上あり、検出された中で最も大きいものであるが、深さは非常に浅い。遺物は南東部に集中しており、覆土が薄いためすべて底面付近の出土になる。

出土遺物 中期の土器が46点と、検出された土坑中で最も多い。破片が多く器形を復元できるものはないが4点図示している。石器は石皿が1点出土しており、底面付近から出土しているため土坑の遺物に含めたが、縄文の混入の可能性もある。他に縄文土器が1点、剝片が5点出土している。

56号土坑

位置 C93-VII67Gr **重複** なし **平面形態** 隅丸長方形 **規模** 1.12m×0.92m **深さ** 34cm

面積 0.9m² **主軸方位** N-5°-E

概要 長辺が1m強と規模の小さい土坑である。中央から北東寄りに焼土が検出されているが、厚さは厚く上層から底部まである部分もある。遺物は覆土中から少量出土しているだけで時期は不明である。

出土遺物 土器片が2点（時期不明）出土しているだけである。

57号土坑

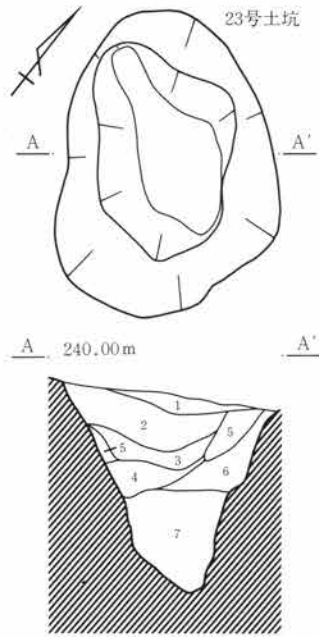
位置 C90・91-VII73・74Gr **重複** (2基重複か) **平面形態** 楕円形 隅丸長方形

規模 2.46m×2.16m (2.16m×1.80m 1.47m×1.26m) **深さ** 54cm **面積** 4.4m²

主軸方位 N-81°-E N-5°-W

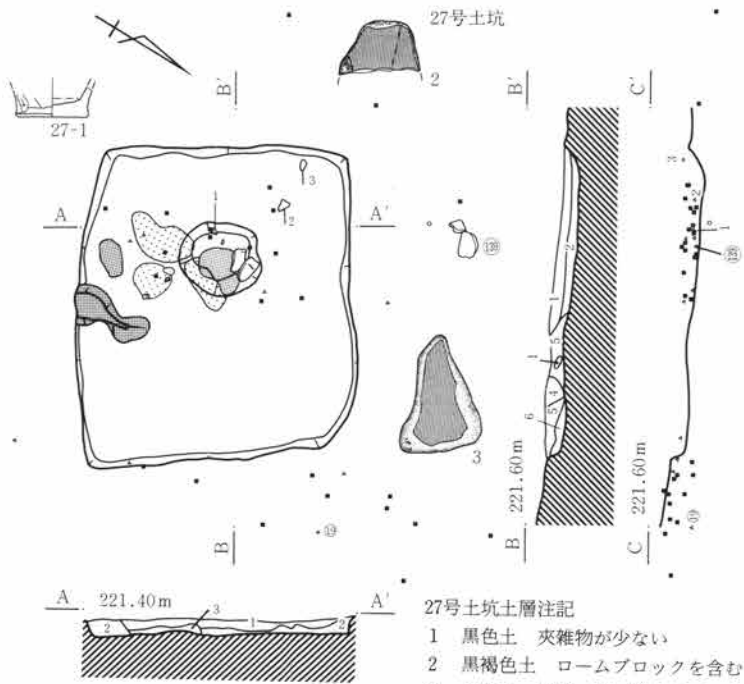
概要 楕円形の土坑と隅丸長方形の土坑がつながった形になっており、2基の重複の可能性もある。(重複ならば楕円形の方が新) 木炭片が楕円形のほぼ全面から出土している。遺物は少ない。

出土遺物 土器片が3点（時期不明）出土しているだけである。



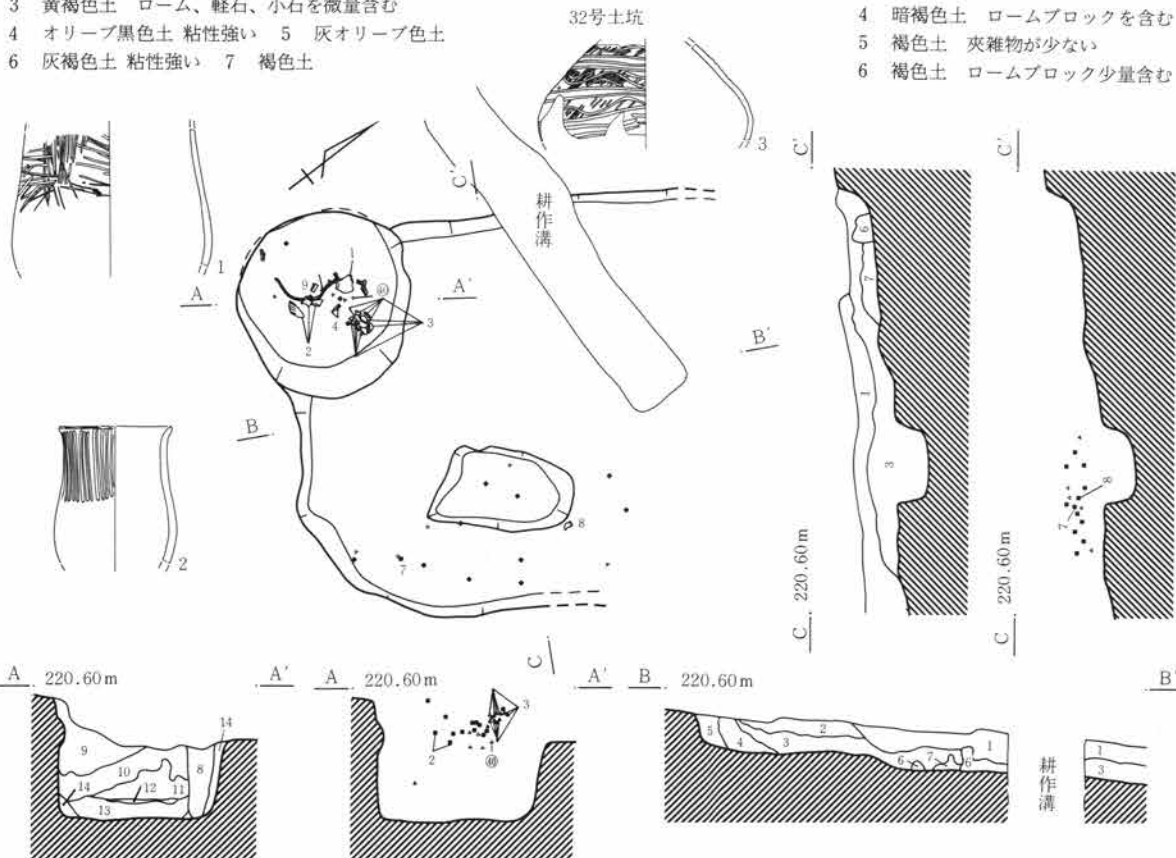
23号土坑土層注記

- 1 オリーブ黒色土 浅間B軽石を微量含む
- 2 暗オリーブ色土 軽石を少量含む
- 3 黄褐色土 ローム、軽石、小石を微量含む
- 4 オリーブ黒色土 粘性強い 5 灰オリーブ色土
- 6 灰褐色土 粘性強い 7 褐色土



27号土坑土層注記

- 1 黒色土 夾雑物が少ない
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む
- 3 黒色土 木炭、灰、焼土ブロック含む
- 4 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 5 褐色土 夾雑物が少ない
- 6 褐色土 ロームブロック少量含む



32号土坑土層注記

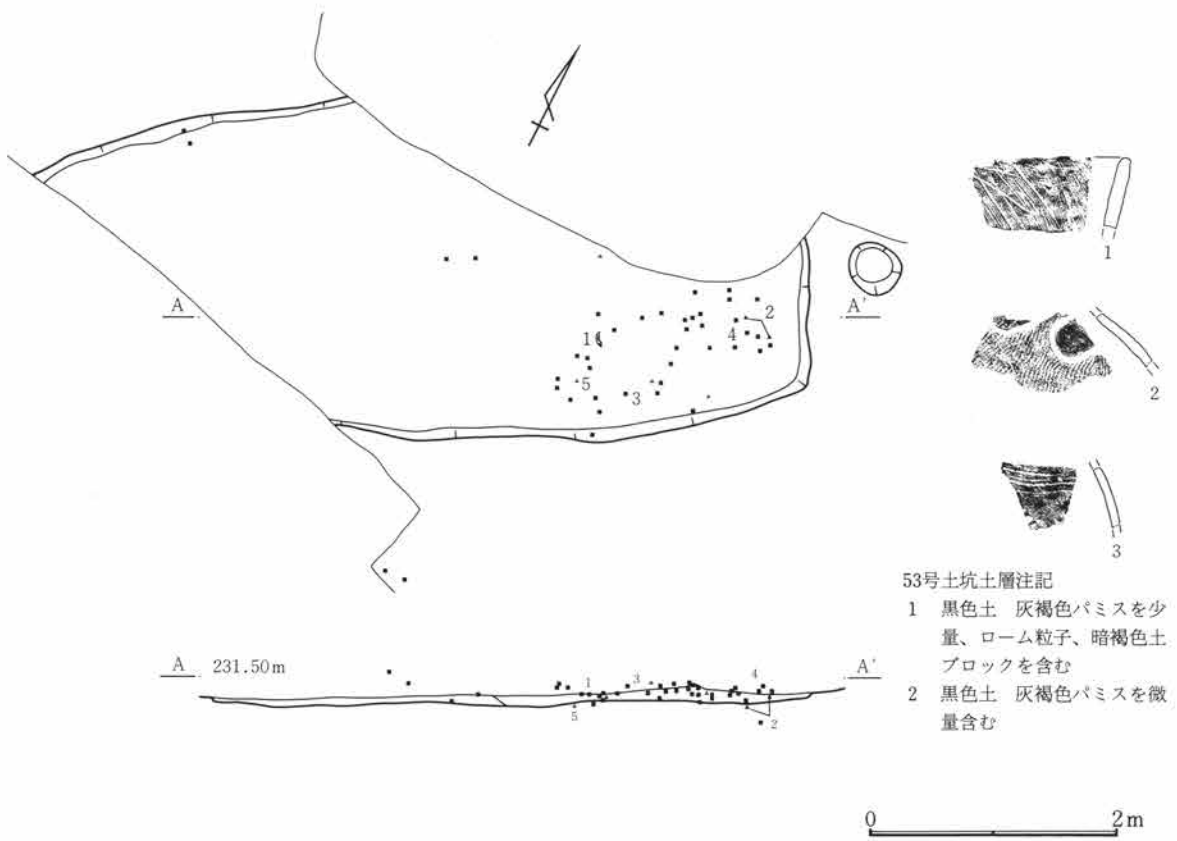
- 1 褐色土 夾雑物少ない 2 褐色土 白色粒子少量含む 3 暗褐色土 夾雑物少ない 4 褐色土 夾雑物少ない
- 5 明褐色土 ロームを主とする 6 橙色土 ロームを主とする 7 褐色土 ロームを主とする
- 8 黒褐色土 ロームブロック含む 9 褐色土 ロームを主とし、締まり弱い 10 黒褐色土 ロームブロックを少量含む
- 11 暗褐色土 ロームを主とする 12 暗褐色土 木炭を含む
- 13 暗褐色土 ロームを主とする 締まり弱い 14 暗褐色土 褐色パミス少量含む

第36図 23・27・32号土坑

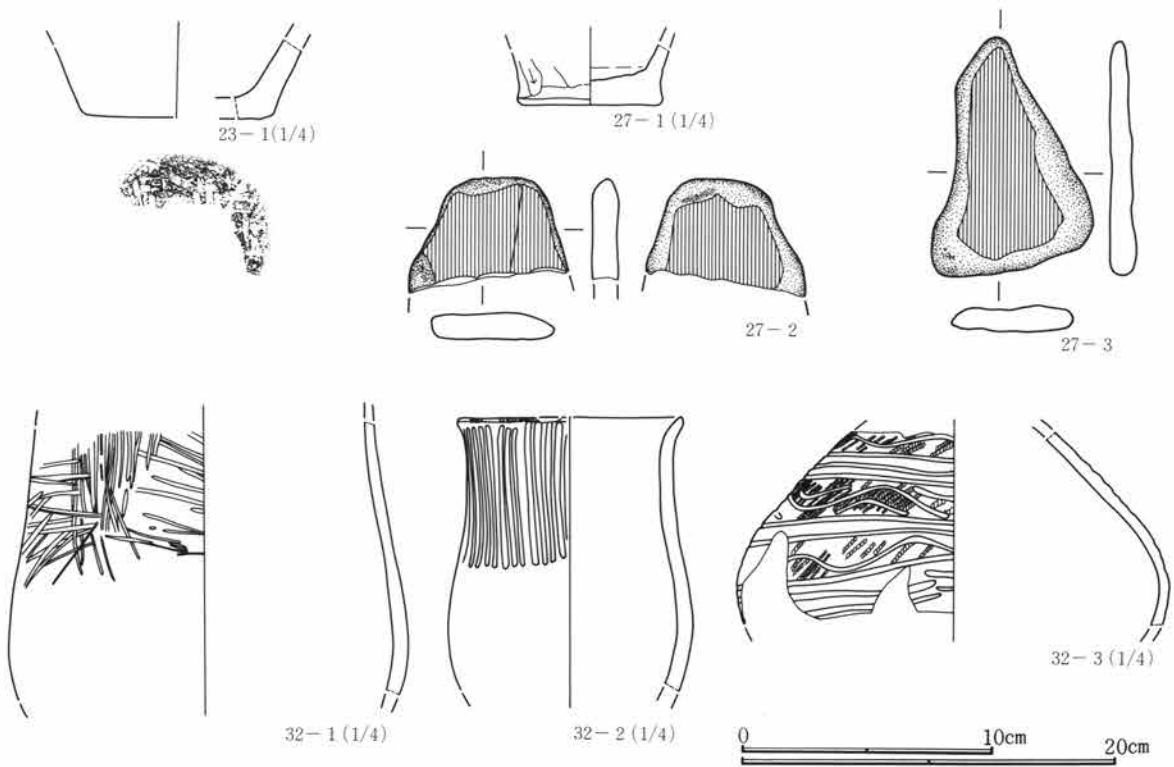
第三章 検出された遺構と出土遺物



第37図 36・42・43・51・56・57号土坑

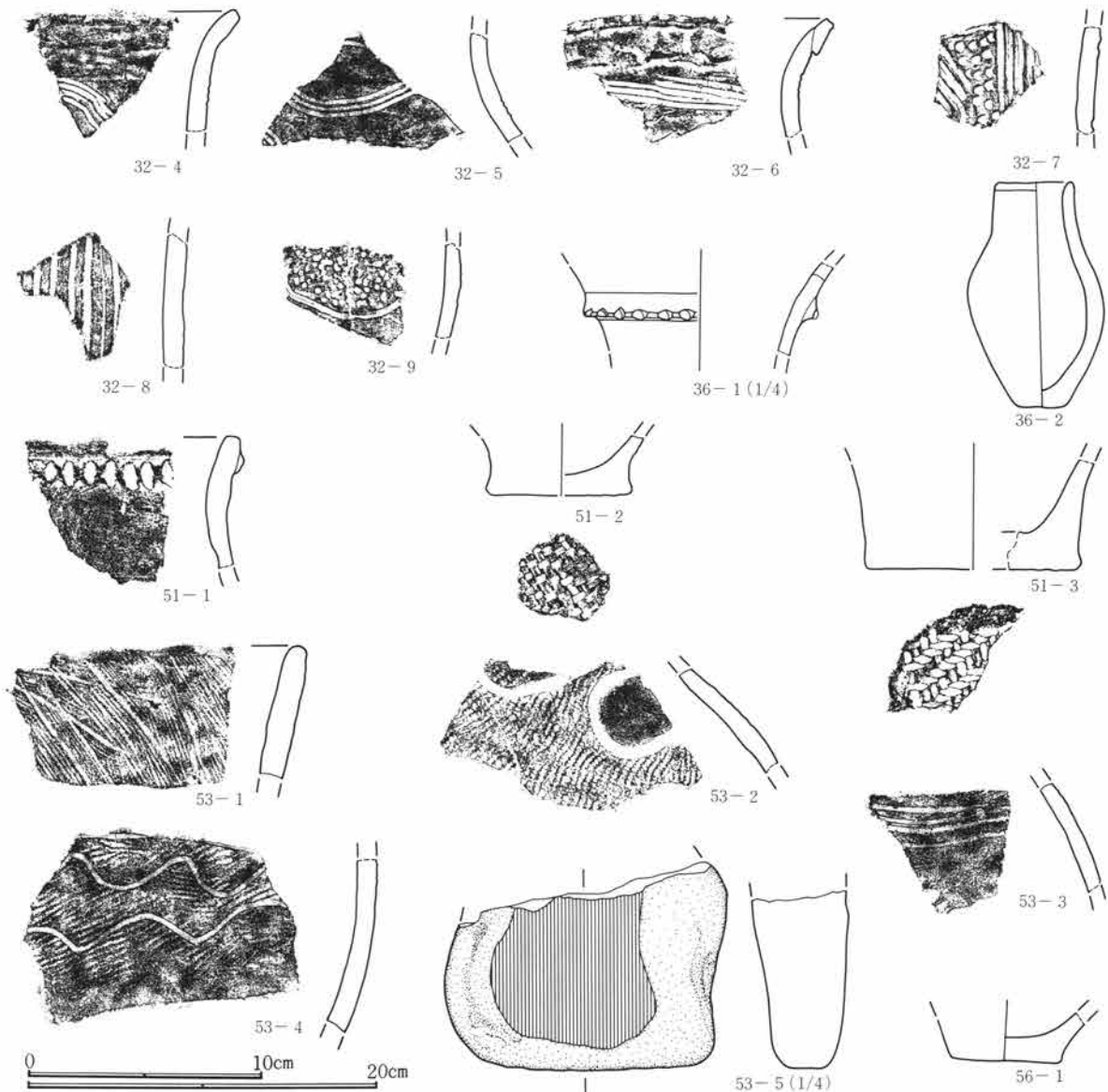


第38図 53号土坑



第39図 23・27・32号土坑出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物



第40図 32・36・51・53・56号土坑出土遺物

土坑出土土器観察表

No	器種	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
23 1	甕	①— ②(10.0cm) ③— ④底部1/3	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	胴部外面削り・ナデ内面ナデ 底部外面網代 痕あり	II	
27 1	甕	①— ②7.4cm ③— ④底部	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面削り 底部内外面ナデ	II	
32 1	甕	①— ②— ③— ④胴部破片	①にぶい橙 灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面ナデ後条痕文 内面篋ナデ	II A	外面に煤 附着
32 2	甕	①(12.0cm)②— ③— ④口〜胴1/2	①にぶい黄褐 黒褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口唇部に刻み 口縁〜胴部上半外面平行沈線 胴部外面下半・内面ナデ	II A	
32 3	壺	①— ②— ③10.6cm ④胴部	①橙 ②明褐 ③不良 ④粗 細砂・粗砂を多く含む	胴部外面平行沈線区内にLR縄文内面篋ナ デ	I A	
32 4	甕	器厚7〜8mm ④口縁部破片	①褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	折返し口縁 胴部外面ナデ後櫛状工具による 平行沈線 内面ナデ	II C	
32 5	甕	器厚7〜8mm ④胴部破片	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	口縁部に浅い刻み 折返し口縁 胴部外面ナ デ後櫛状工具による平行沈線	II C	
32 6	甕	器厚6〜9mm ④口〜胴部破片	5と同一個体			

No	器種	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
32 7	壺	器厚7～8mm ④胴部破片	①黒褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面平行沈線間に竹管状工具による刺突文	II C	
32 8	甕	器厚8～9mm ④胴部破片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	胴部外面ナデ後平行沈線内面ナデ	II C	
32 9	壺(?)	器厚6～7mm ④胴部	①②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面ナデ後沈線区画内に細い竹管状工具による刺突文 内面ナデ	I B	
36 1	壺	最大径15.0cm ④頸部1/4	①灰黄 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	有段口縁隆帯上に刻み 内外面ともナデか	II	
36 2	小型壺	①3.4cm ②2.0cm ③9.4cm ④ほぼ完形	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	内外面ともナデか	IV	
51 1	甕	器厚6～10mm ④口縁部破片	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部外面隆帯上に刻み 内外面とも内面ナデか	I	
51 2	甕	②5.9cm ④底部1/4	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴部内外面ともナデか 底部外面網代痕	II	
51 3	甕	②9.0cm ④底部1/4	①褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部内外面ともナデか 底部外面網代痕	II	
53 1	甕	器厚8～11mm ④口縁部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面ハケメ 内面ナデ	II A	
53 2	壺	器厚6～7mm ④胴部破片	①暗赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面沈線区画内にLR磨消縄文 内面ナデか	I A	
53 3	甕	器厚6～7mm ④胴部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面ナデ後条痕文 内面ナデ	II C	
53 4	壺	器厚8～9mm ④胴部破片	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	外面LR縄文施文後沈線 内面ナデ	I A	
56 1	甕	②4.7cm ④底部	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	内外面ともナデか	II	

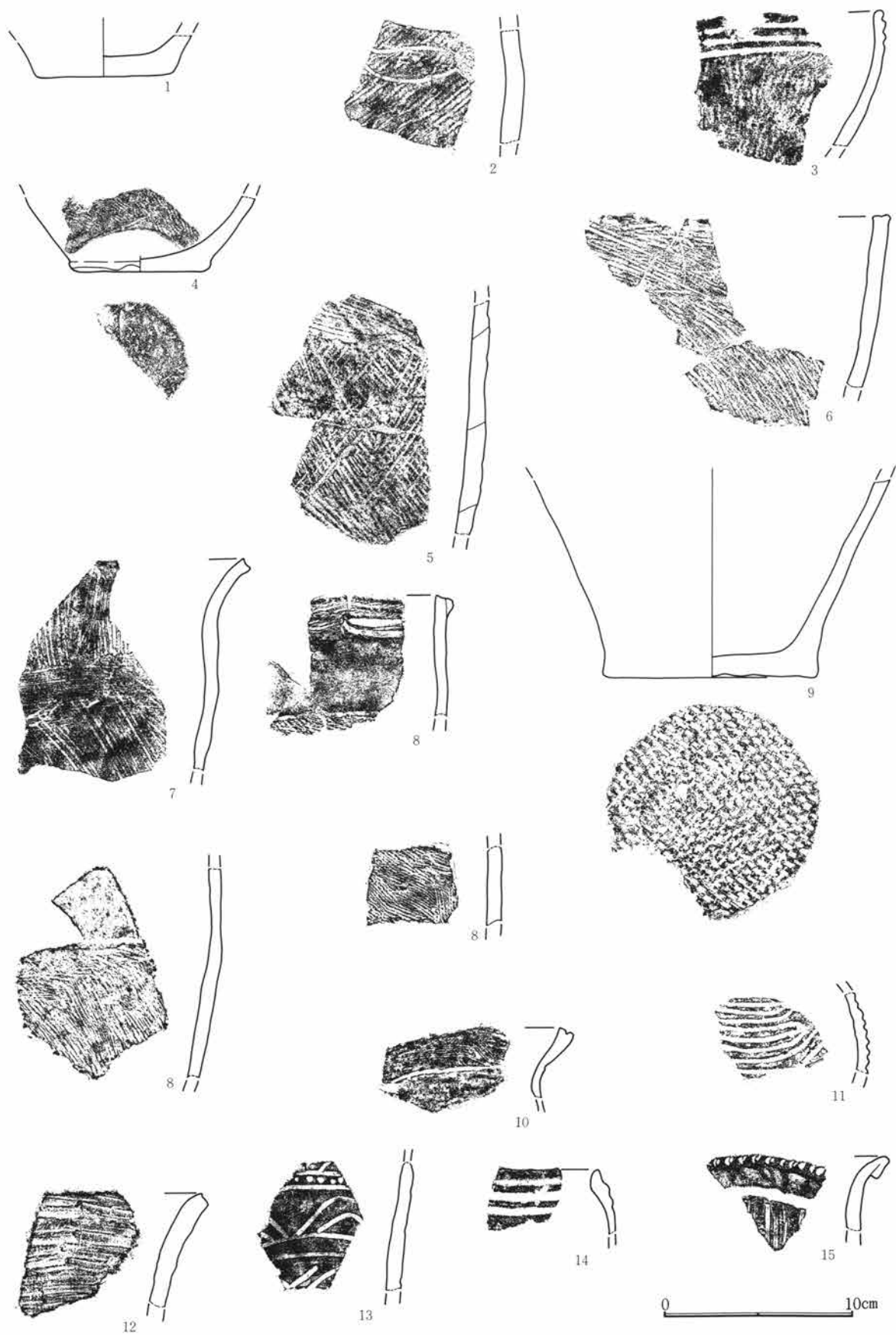
No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
27-2	砥石	[4.0]	6.3	1.0	35	1/2	砂岩	両面使用
27-3	砥石	9.3	6.5	1.0	60	完形	砂岩	
53-5	石皿	[11.7]	16.2	5.5	1600	2/3	安山岩	片面に磨面

遺構外出土遺物

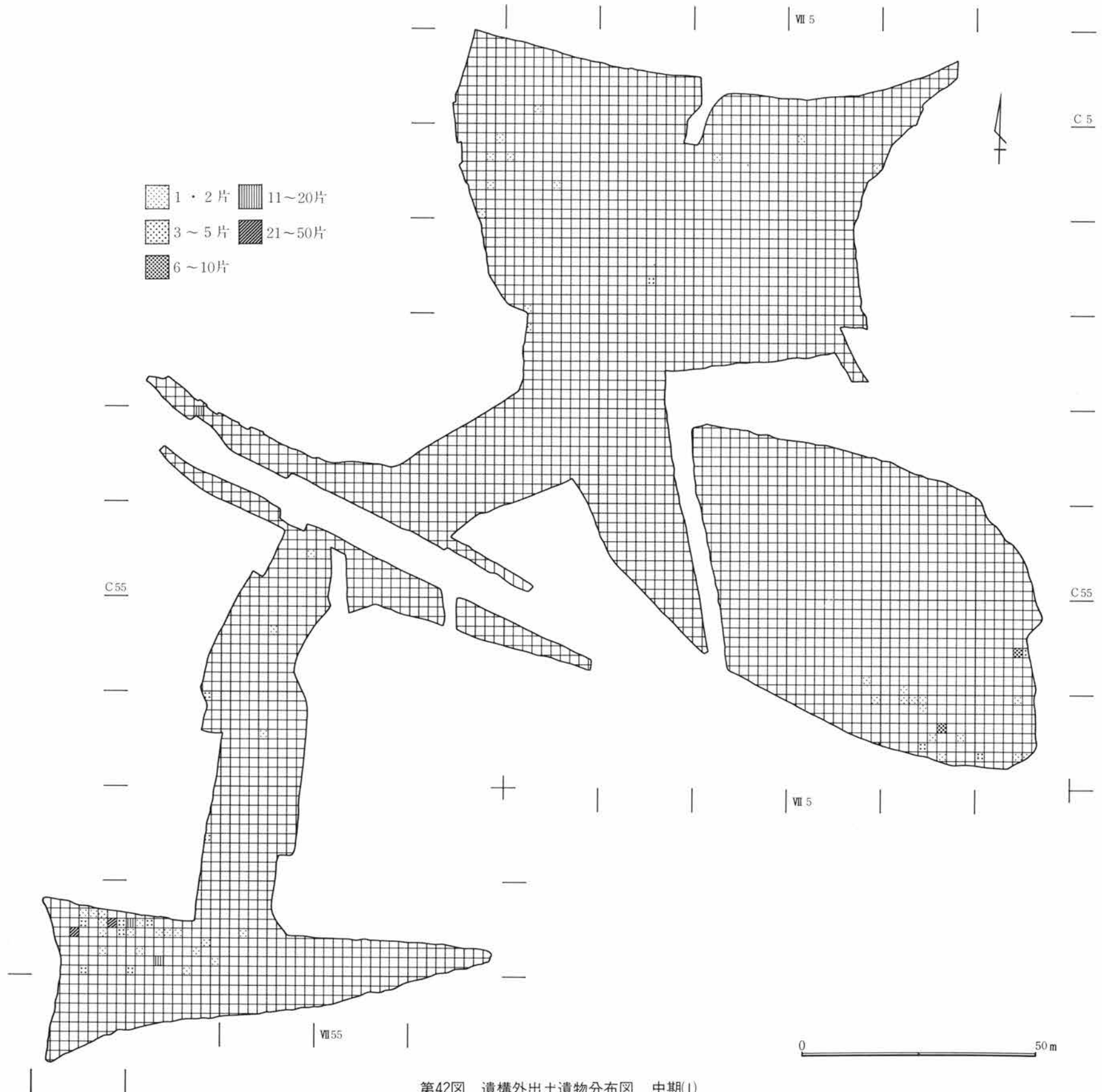
遺構外からも、比較的多量の土器が出土している。出土分布を見ると、中期・後期いずれも、調査区東側の東寄りと調査区南側の中央北寄りから多く出土しているが、後期は調査区北側からも若干出土している。数量的には中期596点、後期194点で中期が圧倒的に多い。

出土土器数量表

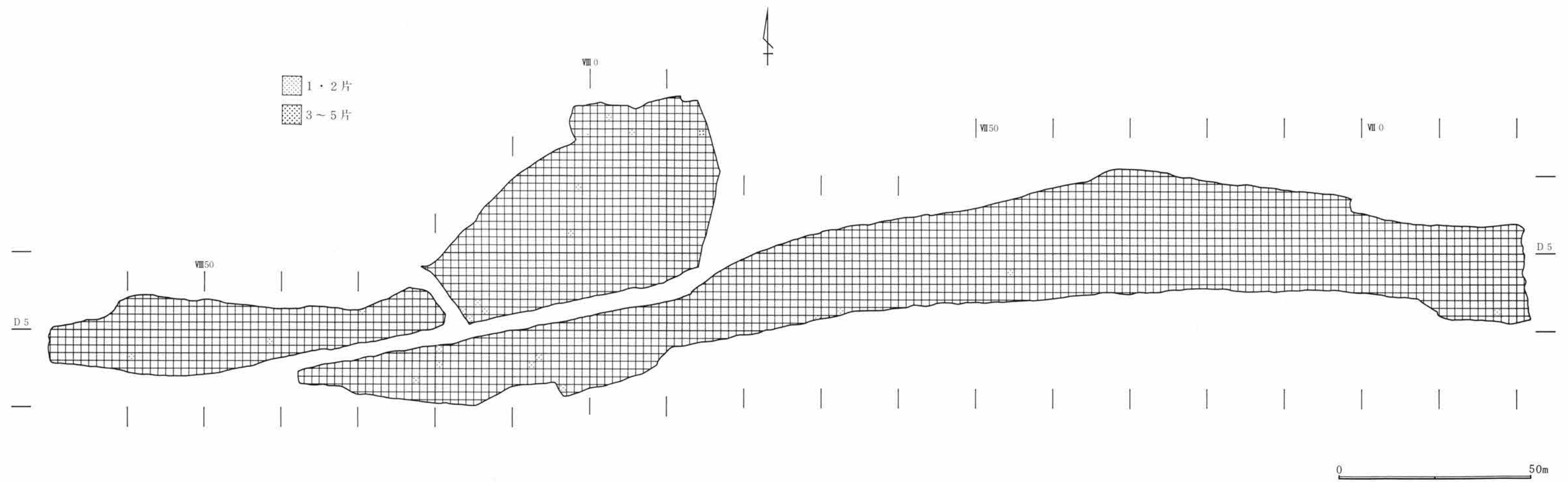
器種	壺	甕	高坏	小型土器	蓋	鉢	計
中期	73	520	0	3	0	0	596
後期	19	175	0	0	0	0	194
時期不明	11	459	0	0	1	7	478
計	103	1,154	0	3	1	7	1,268



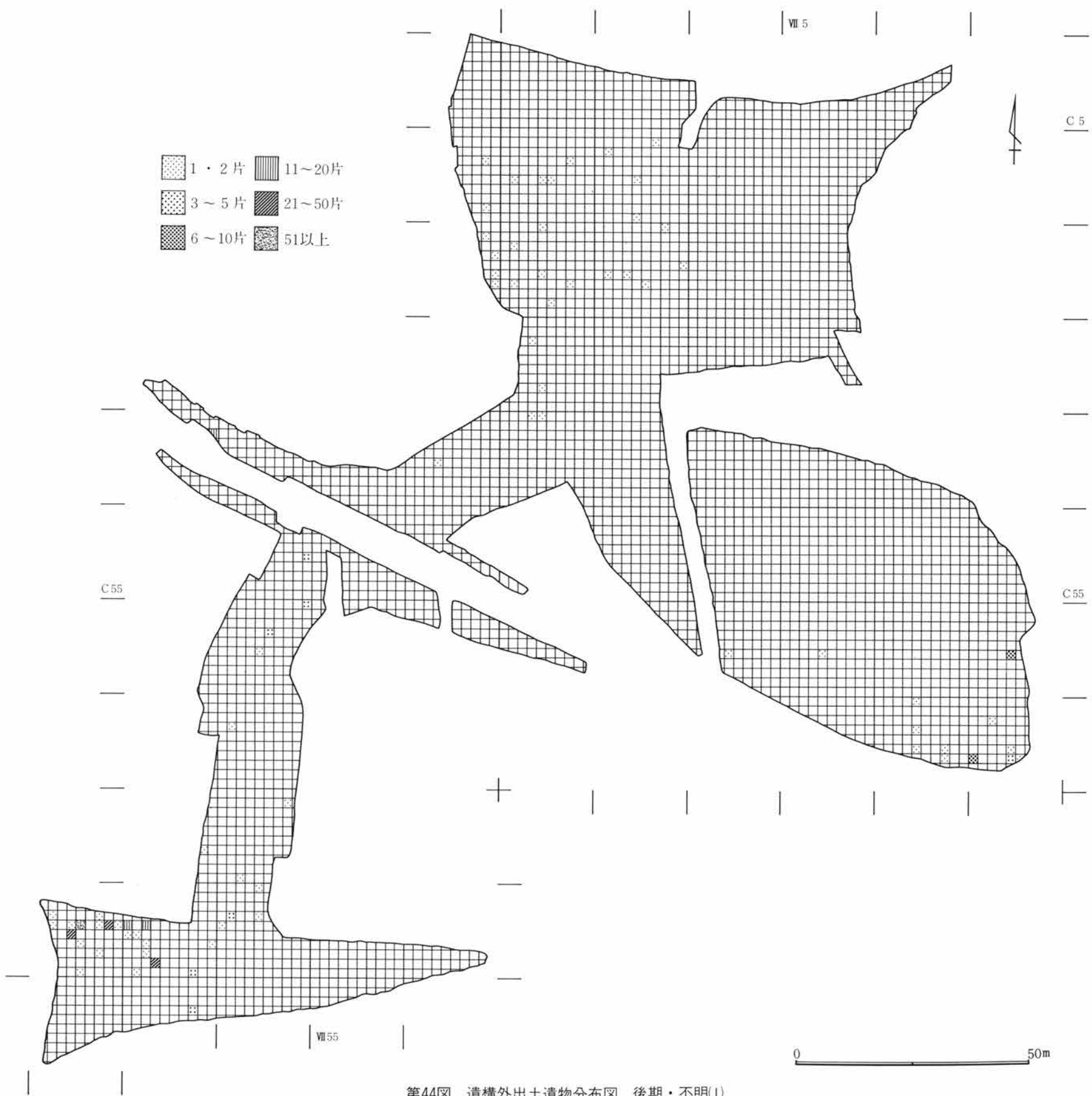
第41図 遺構外出土遺物(1)



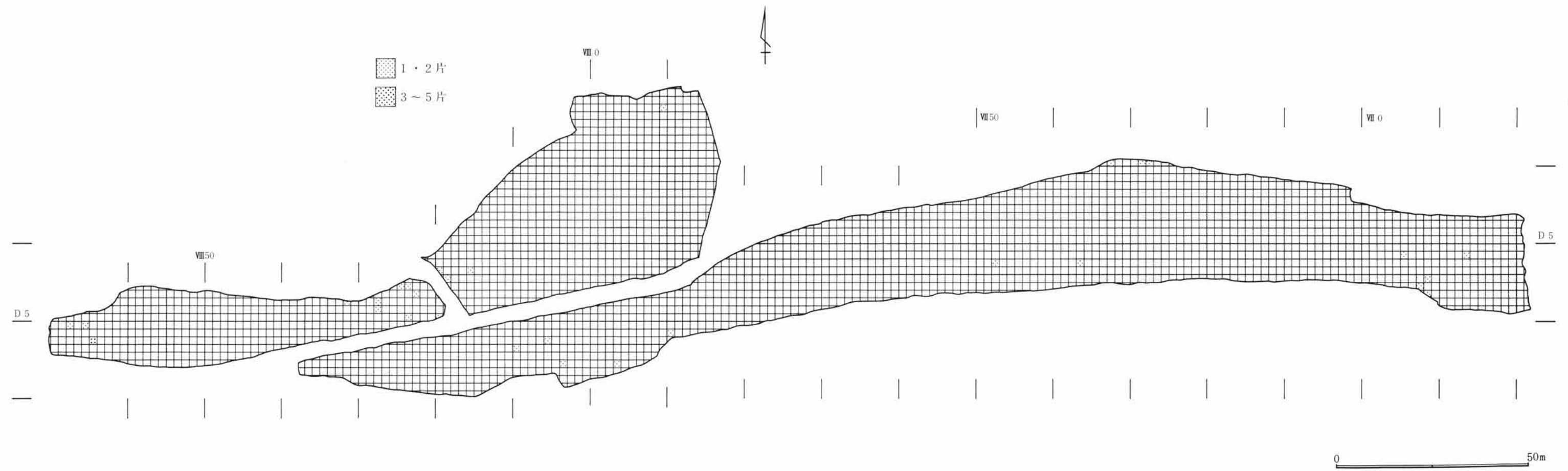
第42図 遺構外出土遺物分布図 中期(1)



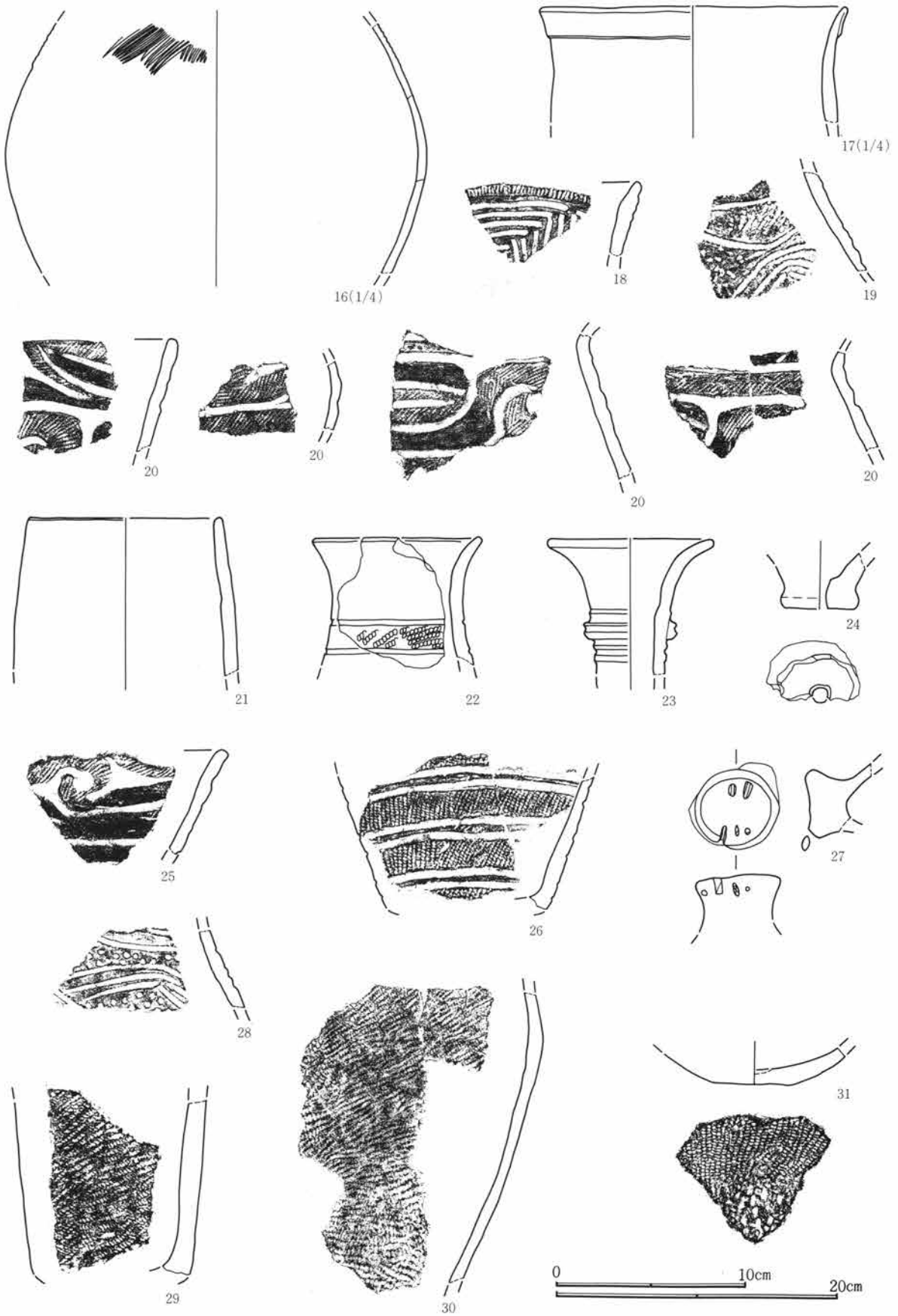
第43図 遺構外出土遺物分布図 中期(2)



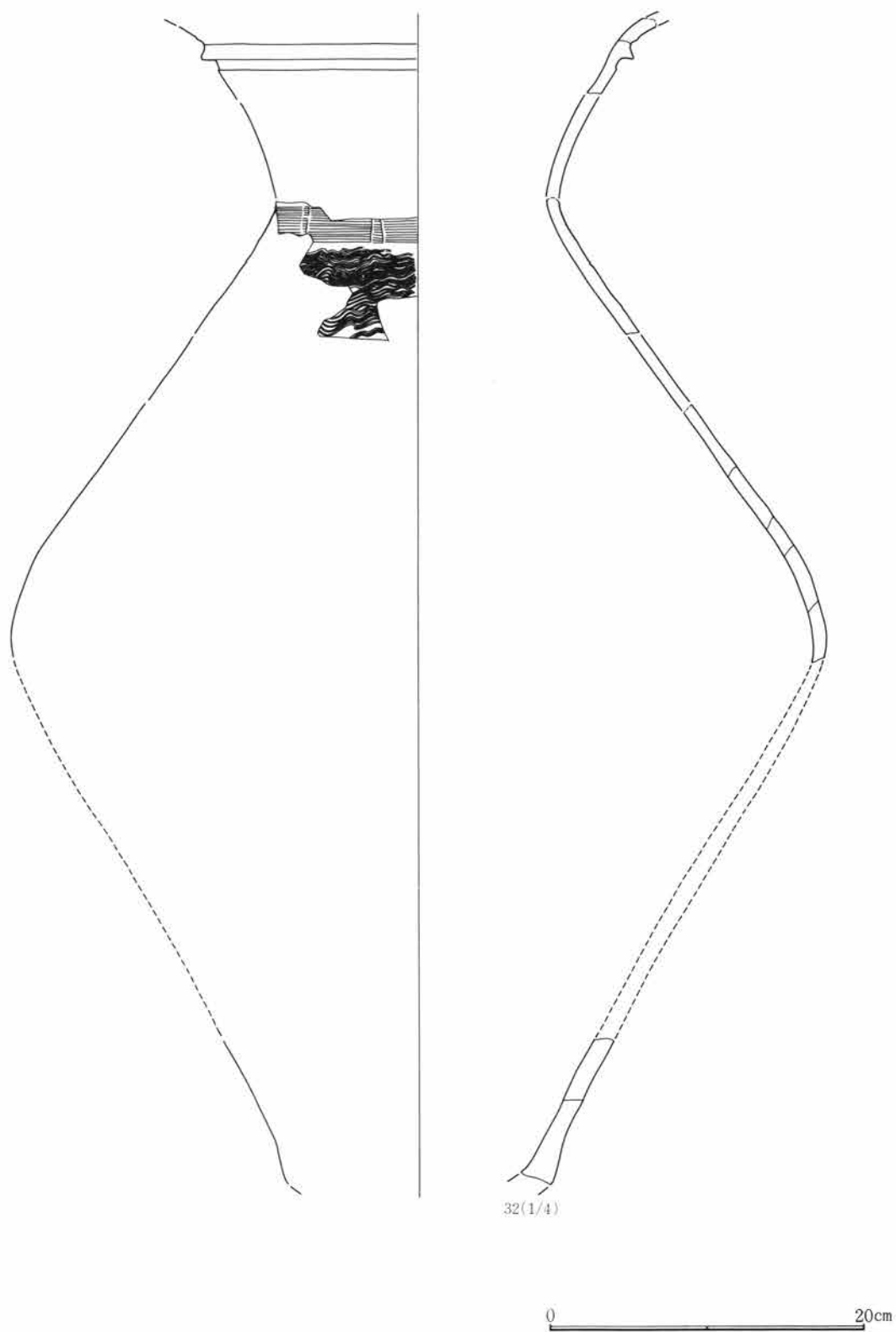
第44図 遺構外出土遺物分布図 後期・不明(I)



第45図 遺構外出土遺物分布図 後期・不明(2)



第46図 遺構外出土遺物(2)



第47図 遺構外出土遺物(3)

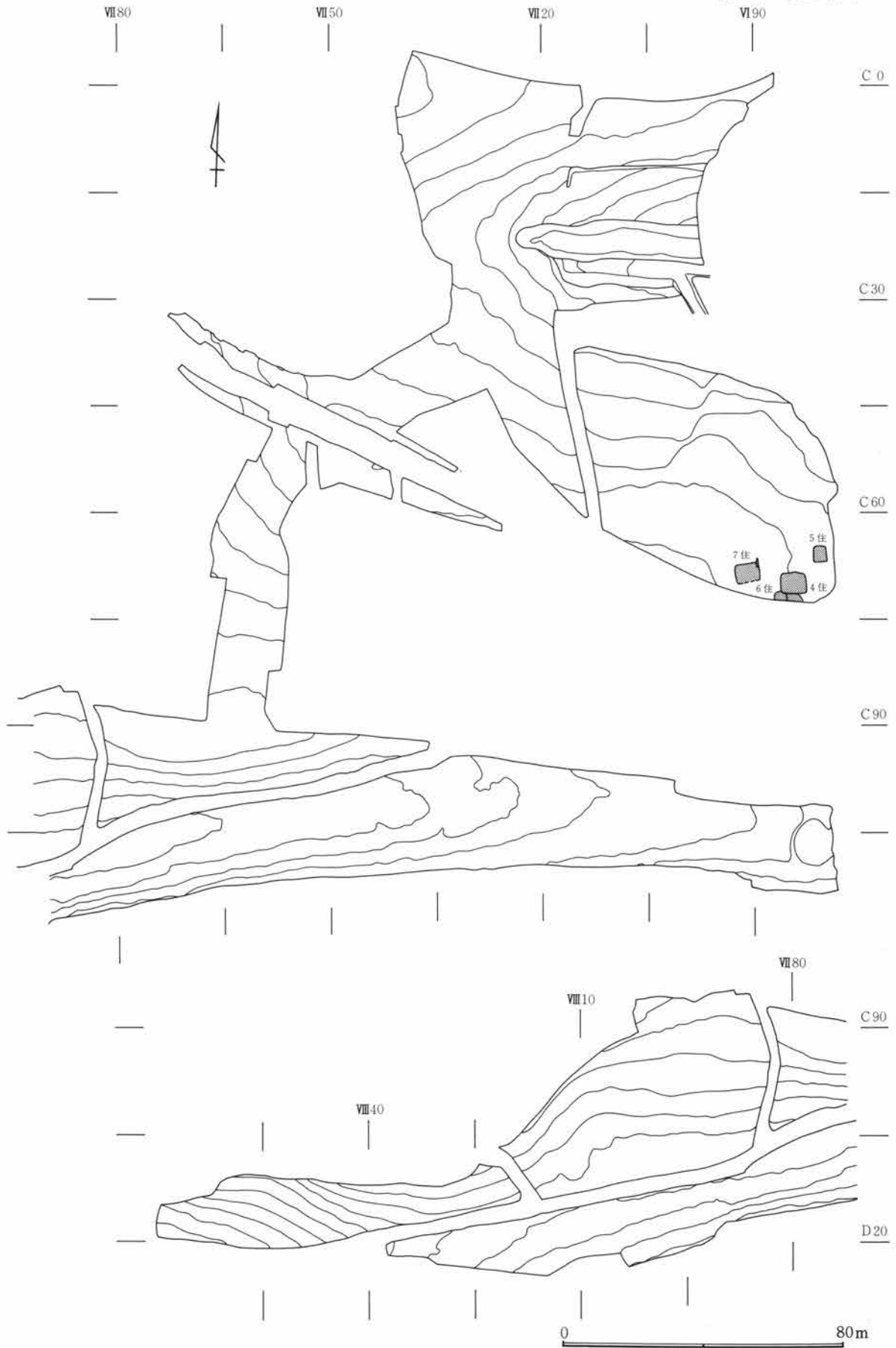
遺構外出土土器観察表

No.	器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
1	甕	C 21 VII14	②7.0cm ④底部	①灰褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂を多く含む	外面ナデ内面粗い研磨か	II	
2	甕	7号住	器厚9~10mm ④胴部破片	①黄灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面LR縄文施文後沈線 内面ナデか	II B	
3	甕	42号 土坑	器厚5~7mm ④口縁部破片	①橙 ②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	口縁部外面3条の沈線 胴部外面 縄文施文(原体不明) 内面ナデか	II B	
4	甕	C 24 VII15	②(6.8cm) ④底部1/2	①にぶい褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	胴部外面LR縄文 底部外面網代 痕か 内面研磨	II B	
5	甕	C 93 VII71	器厚7~9mm ④胴部破片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面条痕文 内面粗い研磨	II A	
6	甕	C 89 VII79	器厚7~8mm ④口~胴部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口唇部に粗い刻み 外面条痕文 内面研磨	II A	
7	甕	7号住	器厚5~7mm ④口縁部破片	①②にぶい黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口唇部に刻み 胴部外面条痕文 内面ナデか	II A	
8	甕	7号住	器厚5~9mm ④口縁部・胴部破片	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口唇部・胴部外面短絡状帯第1類R 1条 口縁部外面に沈線・小突起	II B	
9	甕	3号住	①— ②11.0cm ③— ④胴~底部	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	胴部外面ハケメ 底部外面網代痕 内面ナデ	II	
10	甕	C 89 VII79	器厚4~8mm ④口縁部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口唇部一部肥厚・短沈線 外面縄 文施文後ハケメ 沈線 内面ナデ	II	
11	壺	C 89 VII79	器厚4~6mm ④胴部破片	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	外面沈線 内面研磨	I C	
12	甕	D 19 VII 7	器厚11~12mm ④口縁部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面粗い条痕文 内面ナデ	II A	
13	壺	5号住	器厚7~8mm ④胴部破片	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面ナデ後沈線・沈線間に刺突文	I B	
14	無頸壺	C 89 VII79	器厚3~8mm ④口縁部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面平行沈線・研磨 内面研磨	I C	
15	壺	7号住	器厚5~8mm ④口縁部破片	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	折り返し口縁 口唇部に刻み 外 面条痕文 内面研磨か	I	
16	甕	C 35 VII67	胴部最大径29.6cm ④胴部1/4	①黒褐 にぶい黄褐 ②灰黄 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	外面上部条痕文 外面下部・内面 粗い研磨	II A	
17	甕	C 90 VII75	①(27.4cm)②— ③— ④口縁部1/5	①②黄灰 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	折り返し口縁 口縁部外面オサエ 胴部外面篋ナデ内面ナデ	II	
18	壺	5号住	器厚5~7mm ④口縁部破片	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口唇部に刻み 外面に平行沈線 内面ナデ	I C	
19	壺	C 90 VII80	器厚4~7mm ④胴部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	外面沈線区画内にLR縄文・刺突 文 内面ナデ	I A	
20	壺	41号住	器厚4~8mm ④口縁部・胴部破片	①浅黄 黒褐 ②浅黄 灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	外面沈線区画内にLR磨消縄文 内面研磨	I A	
21	壺	C 79 VII57	①(10.0cm) ④口縁部1/4	①②にぶい黄橙 黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面研磨 内面ナデ	I	
22	壺	C 89 VII79	①(8.5cm) ④口縁部1/4	①明赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	外面平行沈線間にLR縄文 内面 ナデ	I A	
23	壺	D 9 VIII19	①(8.3cm) ②— ③— ④口縁部1/2	①②明褐 にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面隆帯貼付け・沈線	I	
24	壺(?)	C 40 VII41	②(3.6cm) 孔径(8mm) ④底部1/2	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	内外面とも粗い研磨か 底部に焼 成前穿孔	I	
25	壺	C 8 VII12	器厚6~7mm ④口縁部破片	①灰黄 ②灰黄 黄灰 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	外面沈線区画内にLR磨消縄文・ 円孔 内面研磨	I A	
26	壺	C 89 VII79	①— ②(8.6cm) ③— ④胴~底部1/5	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 細砂を多く含む	外面沈線区画内にLR磨消縄文 内面研磨	I A	
27	蓋	D 10 VIII24	把手径4.5cm ④把手部	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	天井部から側面に2個1組一対の 透孔あり 内外面ともナデか	III	
28	壺	C 90 VII69	器厚6~7mm ④胴部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面沈線区画内に刺突文 内面ナ デ	I B	
29	甕	C 94 VII68	①— ②(8.4cm) ③— ④胴~底部1/2	①明赤褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面RL縄文 内面篋ナデ	II B	

第III章 検出された遺構と出土遺物

No.	器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整・文様	分類	備考
30	甕	C 92 VII77	器厚 6 ~ 8 mm ④胴部破片	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	外面 L R 縄文 内面粗い研磨	II B	
31	甕	C 90 VII80	①— ②(4.2cm) ③— ④底部1/4	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	胴部外面 L R 縄文 底部外面網代 痕 内面研磨	II B	
32	壺	20号住	①— ②(16.5cm) ③— ④胴部 4 片	①にぶい橙 橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 細砂を多く含む	頸部外面 15 + α 本 1 単位の櫛状工 具による 2 連止め廉状文・波状文 胴部外面鏡磨き内面ナデ	I D	

第2節 弥生時代



第48図 古墳時代前期遺構位置図

第3節 古墳時代前期

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

竪穴住居跡が4軒検出されている。

①分布 調査区東端部に4軒集中して1つの群をなしており、調査区外（南側および東側）にもさらに存在する可能性がある。

②平面形態・規模 6号住は形態不明であるが、他はすべて隅丸長方形である。規模は、長辺4.48～7.26m平均6.11m、短辺3.50～5.90m平均4.57mで、床面積は14.3～39.4m²平均28.7m²、壁高は24～50cm平均35cmである。

③主軸方位 北1軒、東1軒、西1軒、南東1軒とすべて違っている。

④床面・掘り方 すべての住居にロームを含む暗褐色土で貼床が施されており、厚さは5～20cmと比較的薄い。掘り方は、床の外周や一部を部分的に掘り下げてあるものが多い。また、比較的小規模なピットが数基～数十基検出されている。

⑤炉 1軒で2基検出されているものが3軒、1基が1軒で計7基の炉が検出されている。5号住は重複しているため同時使用の可能性はないが、他の2軒は同時使用した可能性がある。規模は長径0.45～1.10m平均0.68m、短径0.38～0.83m平均0.60mである。火床面のはっきりしているものは少なく、覆土に焼土を含む程度である。枕石は2基で検出されているが、他は検出されなかった。

⑥時期 すべて古墳時代前期石田川期に属する。

遺物

①土器 土師器甕・台付甕・壺・鉢・高坏等が出土している。

I 甕 A類 器面を研磨するもの B類 器面がナデのもの C類 縄文を施すもの

D類 櫛描文を施すもの

II 台付甕 いわゆる「S字状」の口縁部を有する 外面はハケ調整

A類 肩部に横位のハケを施すもの B類 肩部に横位のハケのないもの

III 壺 A類 器面がハケ調整のもの B類 器面がナデ・研磨のもの

IV 鉢 A類 片口がつくもの B類 片口がつかないもの

V 高坏 A類 脚部に孔のあるもの B類 脚部に孔のないもの

出土土器数量表

器種	甕・台付甕	壺	鉢	高坏	小型甕	不明	計
遺構内	776	136	1	20	2	1	936
遺構外	132	33	0	5	0	0	170
総計	908	169	1	25	2	1	1,106

②石器 砥石・用途不明の石が出土している。

砥石 竪穴住居2軒から3点出土している。断面紡錘形のもの、側面に自然面を残すもの、断面方形で3面使用のものがある。石材は、すべて砂岩を使用している。

不明石 3軒から4点出土している。表面に付着物のあるもの、キズのあるもの等がある。

(2) 竪穴住居跡

4号住居跡

位置 C68~71-VI83~86Gr 重複 6号住より新 平面形態 隅丸長方形 規模 7.26m×5.9m

壁高 32cm やや傾斜している 面積 41.6m² 床面積 39.4m² 主軸方位 N-94°-W

壁溝 なし 貯蔵穴 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出されている。ピット計測値 長径×短径×深さ (cm) (以下同じ)

P1 72×60×68 P2 60×52×66 P3 94×60×62 P4 70×54×22

床面 暗褐色土で貼床としており厚さ5~20cm(部分的に30cm)である。北西部から壁沿いに南東部までと南西部の掘り方の深い部分(図中の実線内)にロームと黒褐色土の混合土を入れてある。

掘り方 床の周囲を壁際から幅1~1.5m、深さ床面より20~30cm溝状に掘り下げて、中央部を長方形に掘り残している。中央部には長径15~40cmのピットが多数検出されている。

遺物出土状況 遺物は全面から多量に出土しており、器形を復元できるものもかなりあるが、出土時点では完形に近い状態のものはほとんど無く、破片で出土しており、それが接合して復元できたものが多い。垂直分布を見ると、床面付近出土のものが多く、覆土が薄いこともあるが、上層・中層のものは非常に少ない。接合関係の判明するものは12点あるが、かなり広範囲で接合しており、住居跡の東端と西端の破片が接合しているものもある。また、ほとんどが下層から床面付近の破片が接合している。

炉 1号炉 位置 北東部 主軸方位 N-7°-W 規模 全長0.50m 幅0.38m 深さ33cm

概要 主軸は住居の短軸方向を向いており、枕石が検出されている。火床面ははっきりせず覆土に焼土ブロックを含む程度である。

2号炉 位置 南西部 主軸方位 N-103°-W 規模 全長0.88m 幅0.74m 深さ10cm

概要 主軸は住居の長軸方向を向いており、枕石は検出されなかった。火床面は比較的是っきりしており、底部全面が焼けている。

出土遺物 出土量は多く、甕、台付甕、壺、高坏、小型甕、器種不明が出土しており、特に甕(S字状口縁をもつ台付甕が大部分と考えられる)が多くなっている。一部に櫛描文を施す甕や、頸部に輪積痕を残し口縁部外側に縄文を施す甕(赤井戸式と考えられる)も出土している。石製品は砥石1点、不明石製品1点が出土している。

所見 遺物の出土状態・接合関係から考えると、ほとんどの出土遺物は住居に遺棄されたものではなく、住居廃絶後に他から廃棄されたものの可能性が高いと言えよう。ただし、床面付近のものが多いため、廃棄は住居埋没以前になされていたと考えられる。

出土土器数量表

器種	甕・台付甕	壺	高坏	小型甕	不明	計
点数	613	24	6	1	1	645
重量(g)	7,910	960	450	205	60	9,585

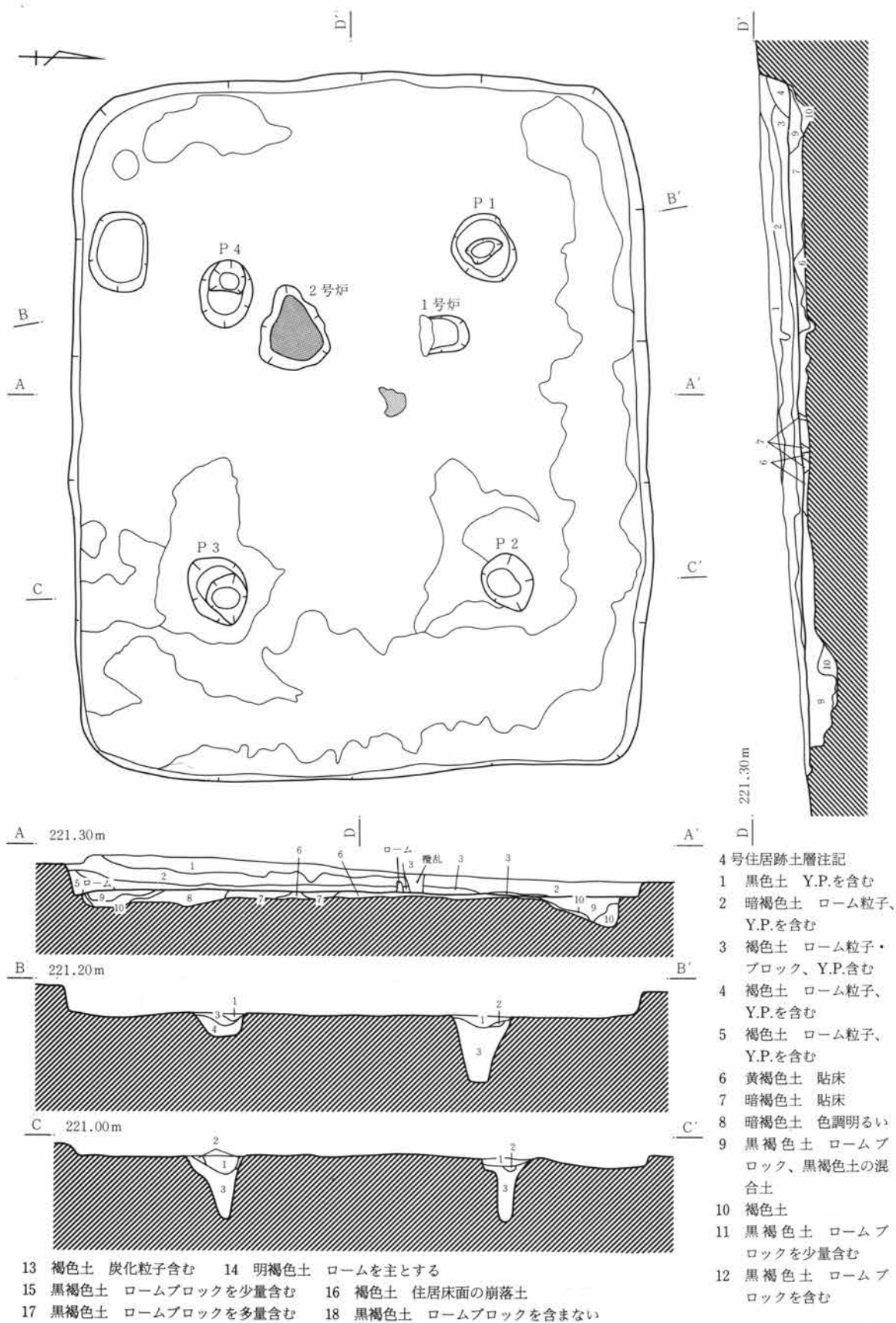
5号住居跡

位置 C64~67-VI80~82Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 3.88m×0.5m

壁高 50cm やや傾斜している 面積 16.8m² 床面積 14.3m² 主軸方位 N-1°-E

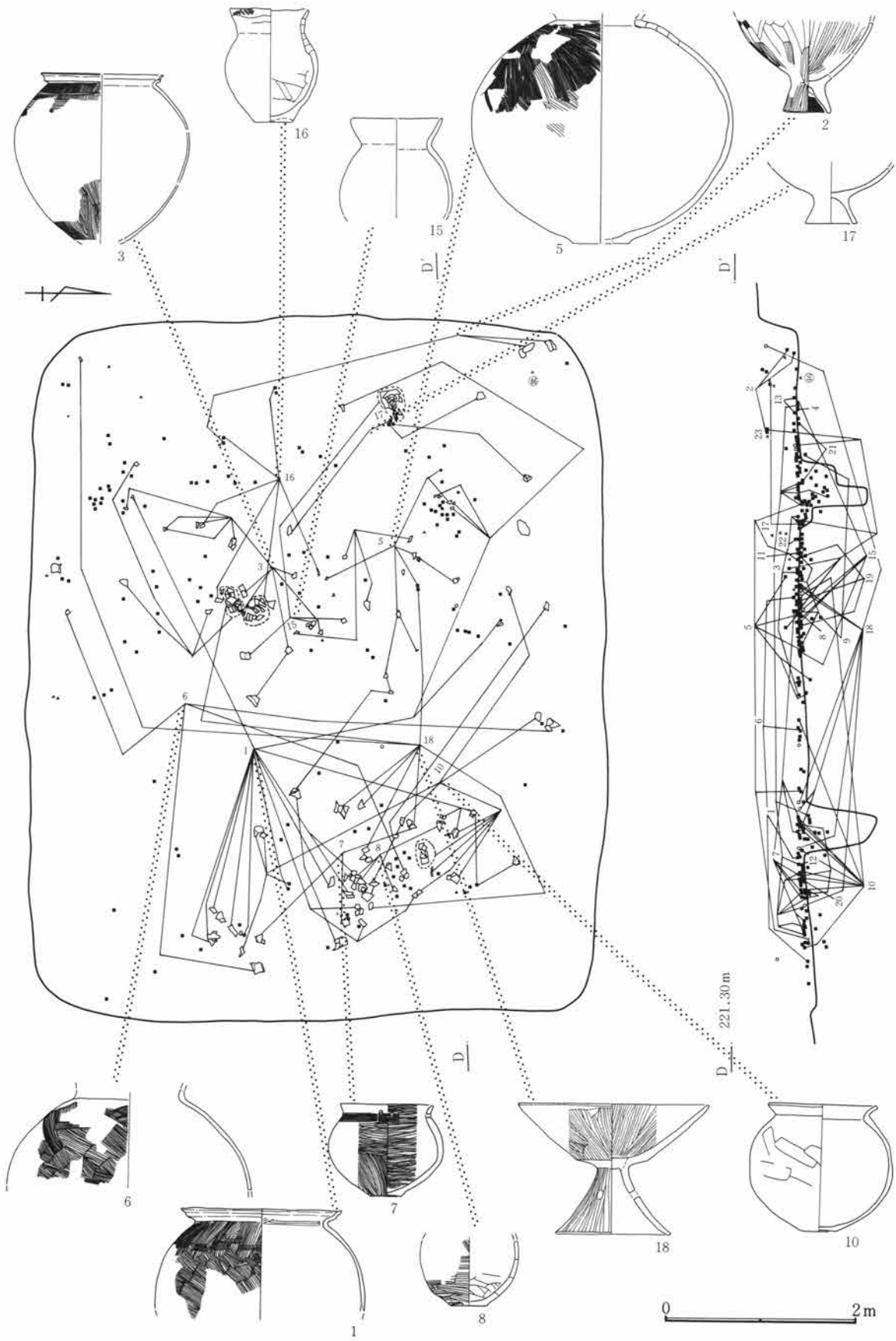
壁溝 なし 貯蔵穴 なし

柱穴 比較的小規模なピットが計16基、ほぼ長方形に並んで検出された。位置がややずれるものもあり、す

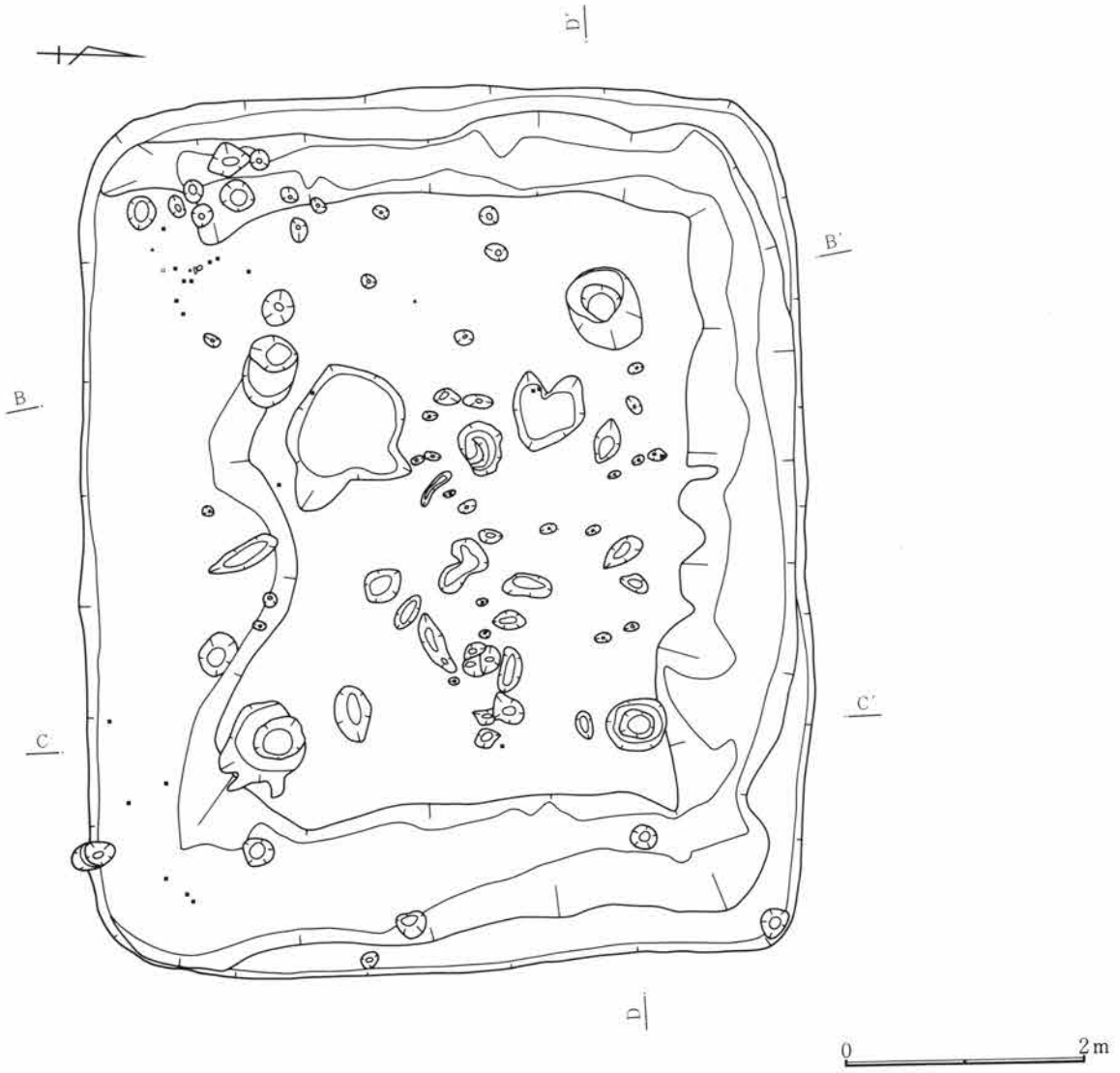


第49図 4号住居跡

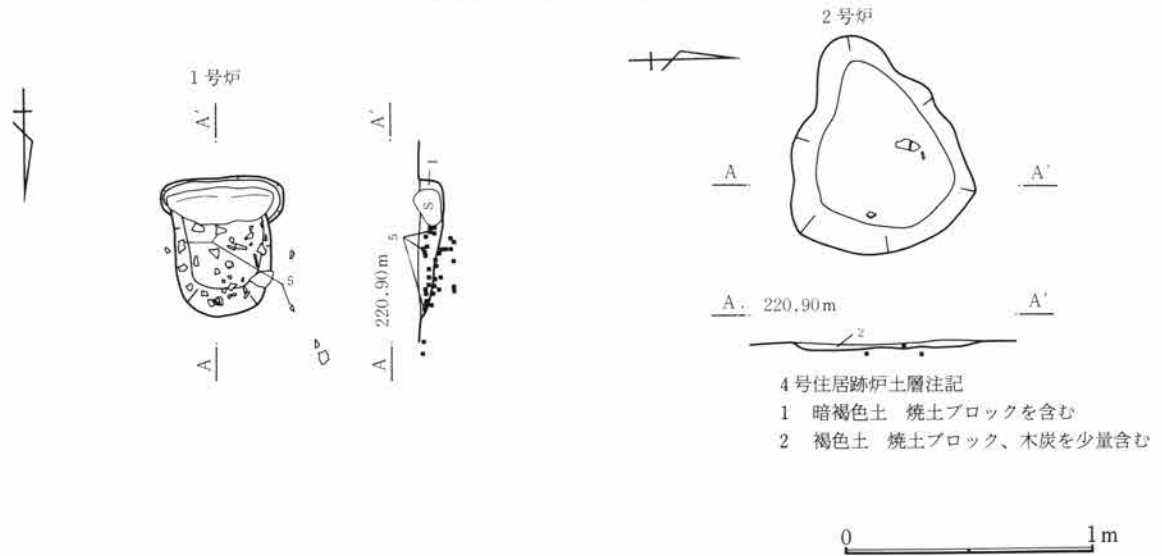
0 2m



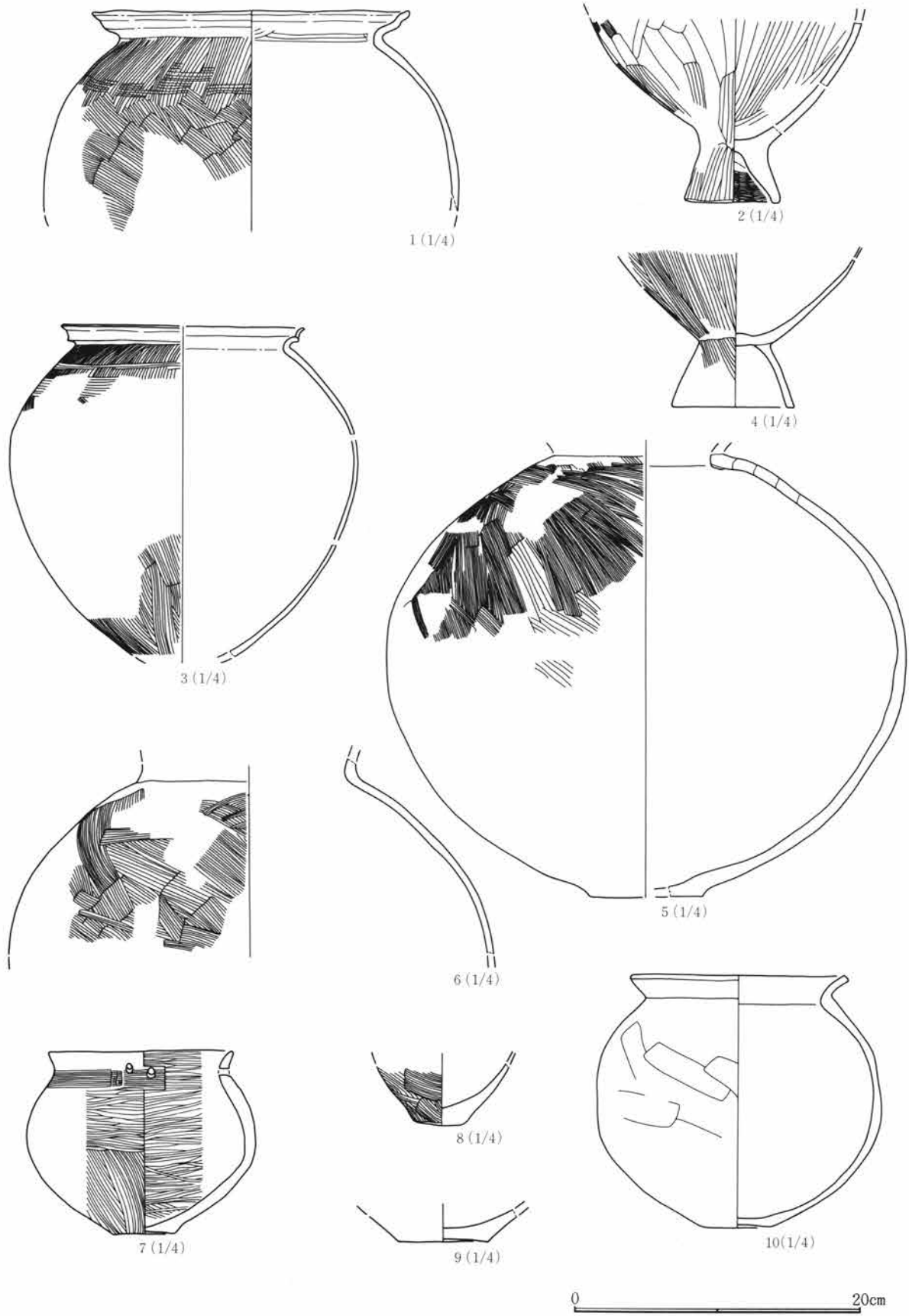
第50図 4号住居跡遺物出土状況



第51図 4号住居跡掘り方

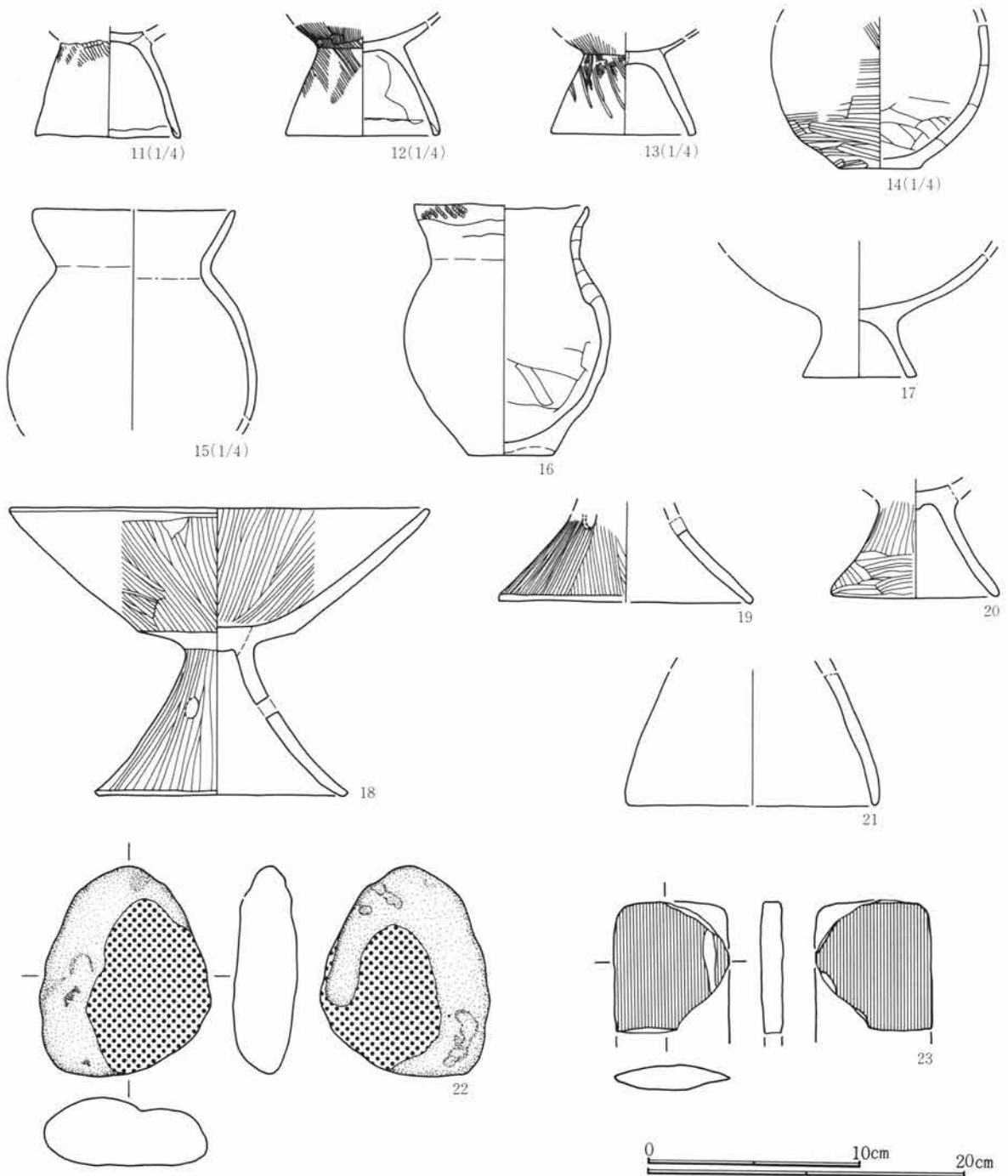


第52図 4号住居跡炉



第53図 4号住居跡出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第54図 4号住居跡出土遺物(2)

4号住居跡出土土器観察表

No.	器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	台付甕	南東 -28	①(22.0cm)②- ③[14.8cm]④口~胸部	①黒褐 ②黄灰 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 胸部外面縦ハケメ 粗い斜めハケメ 肩部横ハケメ 頸部内面ハケメ	II A	
2	台付甕	北西 +4	①- ②6.8cm ③[12.5cm]④胴~底部	①暗褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂を多く含む	胴部上半ハケメ 下半粗いハケメ	II	
3	台付甕	南西 -24	①(16.8cm)②- ③-④口縁部・胸部1/3	①にぶい黄橙 ②暗灰黄 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	口縁部横ナデ 胸部外面ハケメ 肩部に横方向のハケメ	II A	

第3節 古墳時代前期

No	器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
4	台付甕	北西 ±0	①— ②8.4cm ③[10.8cm]④胴~脚3/4	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	胴~脚部外面ハケメ脚部一部磨消内面ナデ	II	
5	甕	北西 -10	胴部最大径(36.2cm) ③(8.0cm) ④頸~胴1/3	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 細砂を含む	胴部外面上半ハケメ中位ハケメ後磨消下半ナデ 内面ナデ		
6	甕	北東 +6	①— ②— ③— ④頸~胴1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面ハケメ内面削りに近いナデ		
7	甕	北東 -6	①12.6cm ②4.4cm ③12.6cm ④口~底1/2	①灰黄褐 ②灰黄褐 黒 ③良好 ④普通 細砂を含む	口~胴部内外面とも篋磨き 肩部に三連止め廉状文 頸部に2孔以上一組一對の孔あり		
8	甕	北西 -4	①— ②3.8cm ③— ④底部	①にぶい黄 ②灰黄 ③良好 ④普通 細砂を多く含む	胴部外面ハケメ内面ナデ		
9	甕	南西 -3	①— ②6.4cm ③— ④底部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	胴部外面下半ナデ 胴最下部~底部外面篋削り内面ナデ		
10	甕	南東 ±0	①14.8cm ②4.7cm ③17.4cm ④口~底3/4	①黒褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面粗いハケメ内面ナデ		
11	台付甕	南西 ±0	①— ②9.0cm ③— ④脚部	①②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	脚部外面ハケメ後磨消内面ナデ 内面に赤彩		
12	台付甕	北東 ±0	①— ②9.6cm ③— ④脚部	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂を多く含む	胴部~脚部外面ハケメ後磨消内面ナデ 内面赤彩		
13	台付甕	北西 ±0	①— ②(9.0cm) ③— ④脚部1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂を多く含む	胴~脚部外面ハケメ内面ナデ		
14	小型甕	北東 -6	①— ②(4.5cm) ③— ④胴~底1/3	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面下半粗いハケメ 内面下半一部ハケメ		
15	甕	北西 -4	①(12.6cm)②— ③— ④口~胴1/4	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂を含む	口縁部横ナデ 胴部内外面ともナデ		
16	小型甕	南西 ±0	①8.0cm ②4.3cm ③11.4cm ④口~底3/4	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部RL縄文 輪積痕を残す 胴部外面ナデ内面一部ハケメ		
17	高 坏	南西 -4	①— ②6.8cm ③(7.6cm) ④胴~脚部片	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂を多く含む	胴~脚部内外面ともナデ		
18	高 坏	北東 -6	①19.6cm ②11.8cm ③13.3cm ④口~脚3/4	①②赤褐 ③良好 ④細 粗砂・礫を少量含む	口縁~底部内外面とも篋磨き 脚部外面ハケメ後磨消内面ナデ		
19	高 坏	北西 -6	①— ②(12.0cm) ③— ④脚部1/3	①褐灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂を少量含む	脚部外面篋磨き内面ナデ 脚部に透孔あり(孔径0.8cm)		
20	高 坏	南東 ±0	①— ②(10.4cm) ③— ④脚部1/3	①灰黄褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂を多く含む	底部内面および脚部内面篋磨き 脚部内面ナデ		
21	不 明	北西 ±0	①— ②(11.6cm) ③— ④脚部1/3	①②黒褐 橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	脚部外面篋磨き内面ナデ		

4号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
22	砥石	南西+30	[6.1]	[5.5]	1.0	44	2/3	砂岩	両面使用
23	不明	北西+4	13.1	10.2	4.3	775	完形	安山岩	表面に黒色付着物あり

べて柱穴であるとは限らないが、他の住居の在り方とは大きく異なっている。

P 1 16×14×21 P 2 20×20×14 P 3 22×20×14 P 4 20×20×11 P 5 18×15×14
P 6 22×15×16 P 7 21×18×26 P 8 25×22×14 P 9 16×16×13 P 10 16×14×10
P 11 24×23×26 P 12 22×14×20 P 13 24×20×58 P 14 21×18×4 P 15 22×21×39
P 16 44×36×32

床面 暗褐色土で貼床としているが、厚いところ(最大30cm)と薄いところの差が顕著である。部分的に、焼土・灰が検出されている。

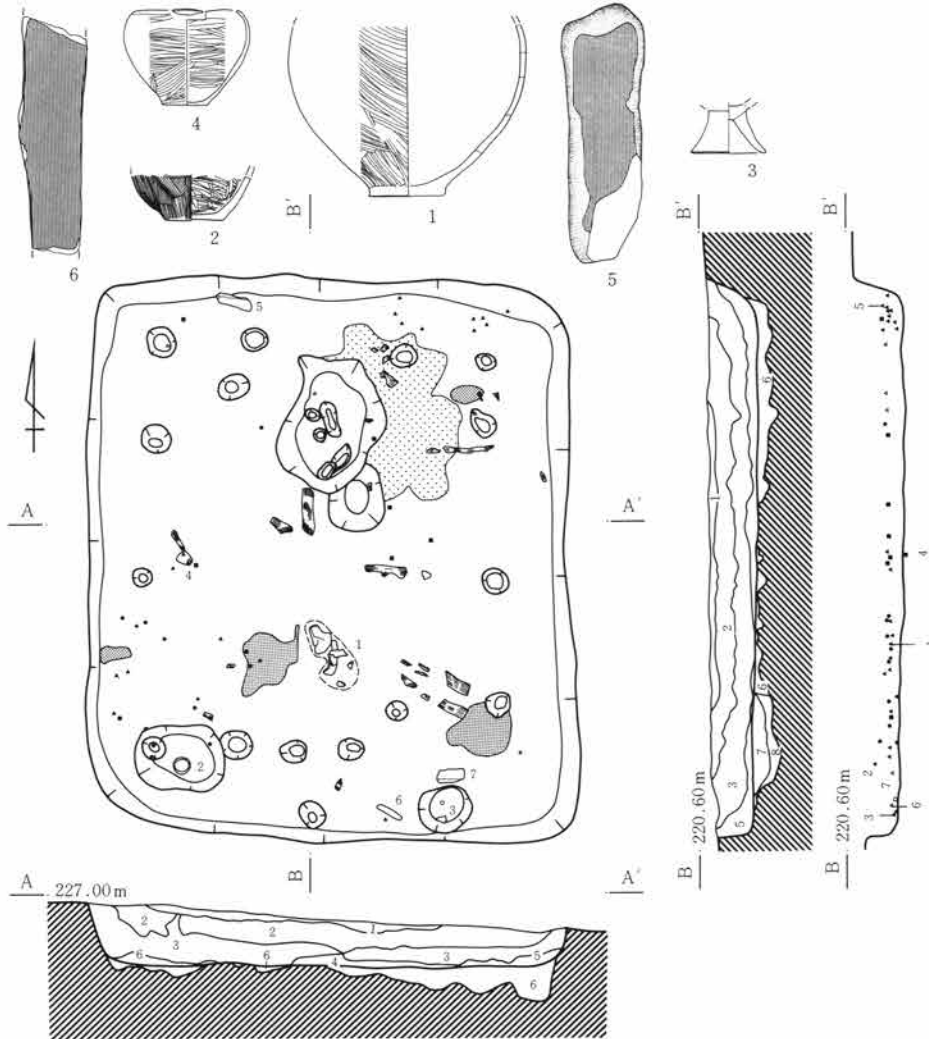
掘り方 北東から南西にかけて深く掘り込まれている。また、ピットが十数基検出されている。

遺物出土状況 出土量は少なく住居内に散在しているが、北東部と南西部に比較的集中している。垂直分布を見ると、床面よりやや高いが、床面付近のものが多くなっている。

第三章 検出された遺構と出土遺物

- 炉 1号炉 位置 中央部北寄り 主軸方位 N-6°-E 規模 全長1.10m 幅0.83m
 概要 主軸は住居の長軸方向を向いており、規模は大きい。はっきりした火床面は検出されず、覆土に若干焼土を含む程度である。炉東側の床面上に灰が検出されている。
- 2号炉 位置 中央部北寄り 主軸方位 N-6°-E 規模 全長0.52m 幅0.45m
 概要 1号炉と重複し1号炉より古い。規模は小さく1号炉の1/2である。火床面ははっきりせず覆土に若干の焼土を含む程度である。

出土遺物 出土量は少なく、図示した以外は小破片である。石製品は砥石2点、不明1点が出土している。

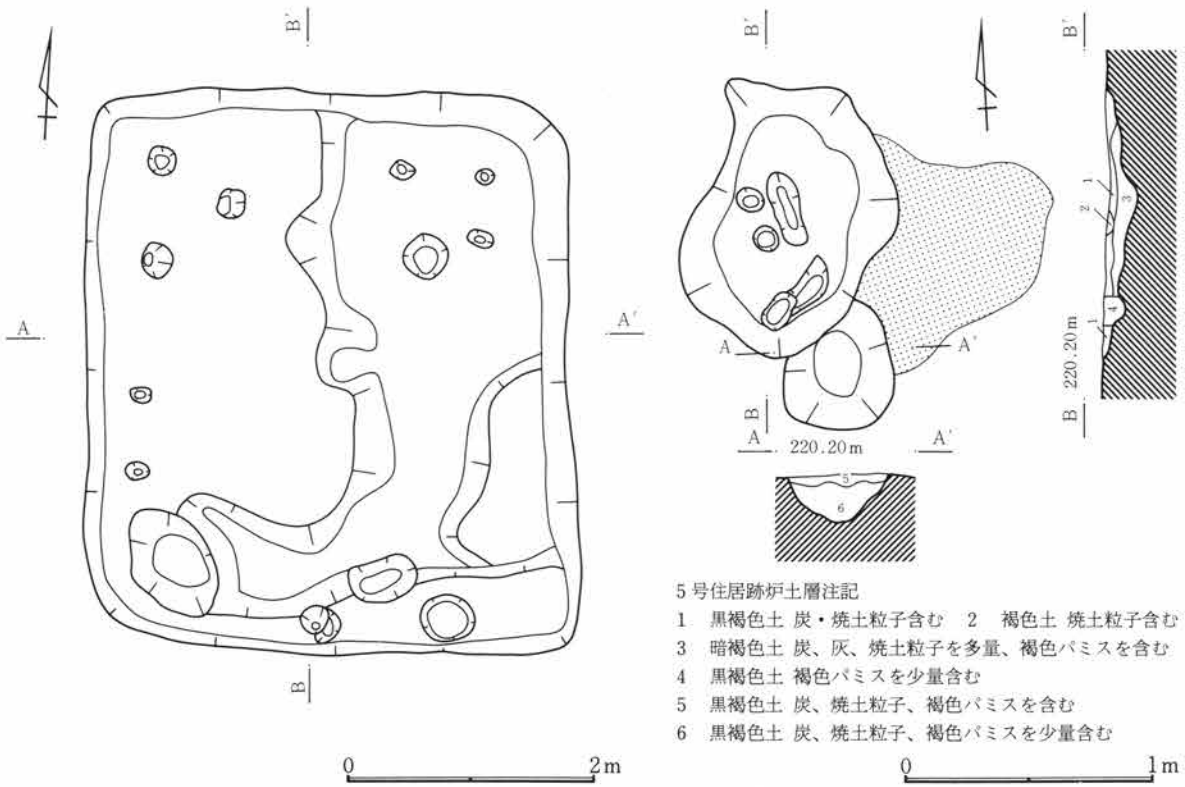


5号住居跡土層注記

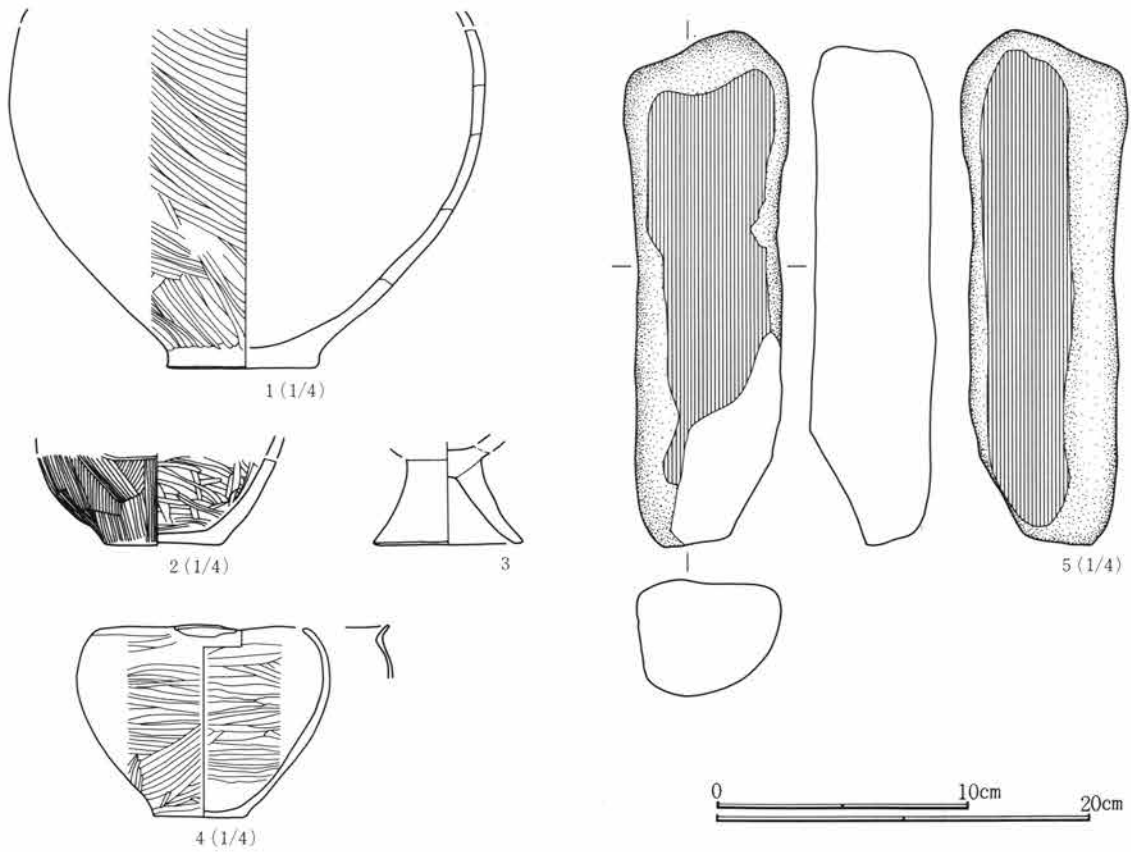
- 1 黒色土 夾雑物の少ない土 2 黒褐色土 浅間B軽石、ロームブロックを少量含む
 3 明褐色土 ローム土と暗褐色土の混合、浅間B軽石を多量含む 4 褐色土 ロームブロックを少量、炭化粒子を含む
 5 褐色土 ロームブロック、暗褐色ブロック、焼土ブロックの混合土 6 暗褐色土 褐色パミス、褐色土ブロック、木炭を含む
 7 褐色土 褐色パミス、明褐色土ブロック、炭化粒子を含む 8 黒褐色土 ロームブロックを少量含む

0 2m

第55図 5号住居跡

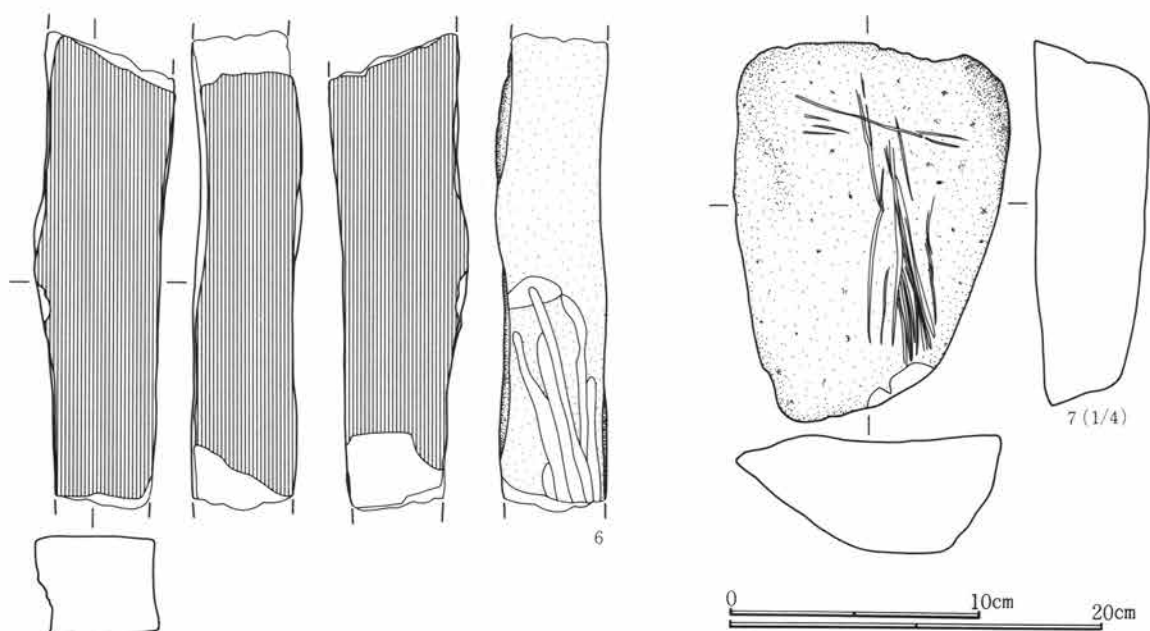


第56図 5号住居掘り方および炉



第57図 5号住居跡出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第58図 5号住居跡出土遺物(2)

5号住居跡出土土器観察表

No	器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	壺	南西+8	①— ②8.0cm ③[17.9cm]④胴~底部	①灰黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂を含む	胴部外面ハケメ後篋磨きか 内面ナデ 底部外面篋削り		
2	壺	南西+20	①— ②6.0cm ③— ④胴~底部	①明褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・雲母を含む	胴~底部外面ハケメ 内面粗い篋磨き		
3	高 坏	南東+3	①— ②5.8cm ③— ④脚部	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂を少量含む	底部内面脚部内外面ともにナデ		
4	鉢 (片口)	南西±0	①— ②4.9cm ③10.0cm ④口~底4/5	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部内外面とも篋磨き 底部外面篋削り		

5号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
5	砥石	北西+18	27.4	8.9	6.8	2000	完形	砂岩	両面使用
6	砥石	南東+6	[18.9]	[5.6]	4.0	550	1/2	砂岩	3面使用
7	不明	南東+8	20.0	14.8	6.3	2500	完形	安山岩	表面に線状のキズあり

所見 炭化材が若干出土しているため、焼失住居の可能性はあるが、遺棄された遺物が少ないため、失火ではなく住居を廃棄した後、燃やした可能性が高い。

出土土器数量表

器 種	壺・台付壺	鉢	高坏	計
点 数	24	48	1	74
重量(g)	160	2,000	220	2,425

6号住居跡

位置 C71・72-VI85~87Gr 重複 4号住より古 平面形態 隅丸長方形 規模 [3.07m] × 3.5m
 床面積 [8.9m²] 主軸方位 N-22°-W 壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし
 床面 ロームを含む暗褐色土で貼床としているが、比較的軟弱である。

掘り方 長径30~150cmと様々な規模のピットが検出されている。

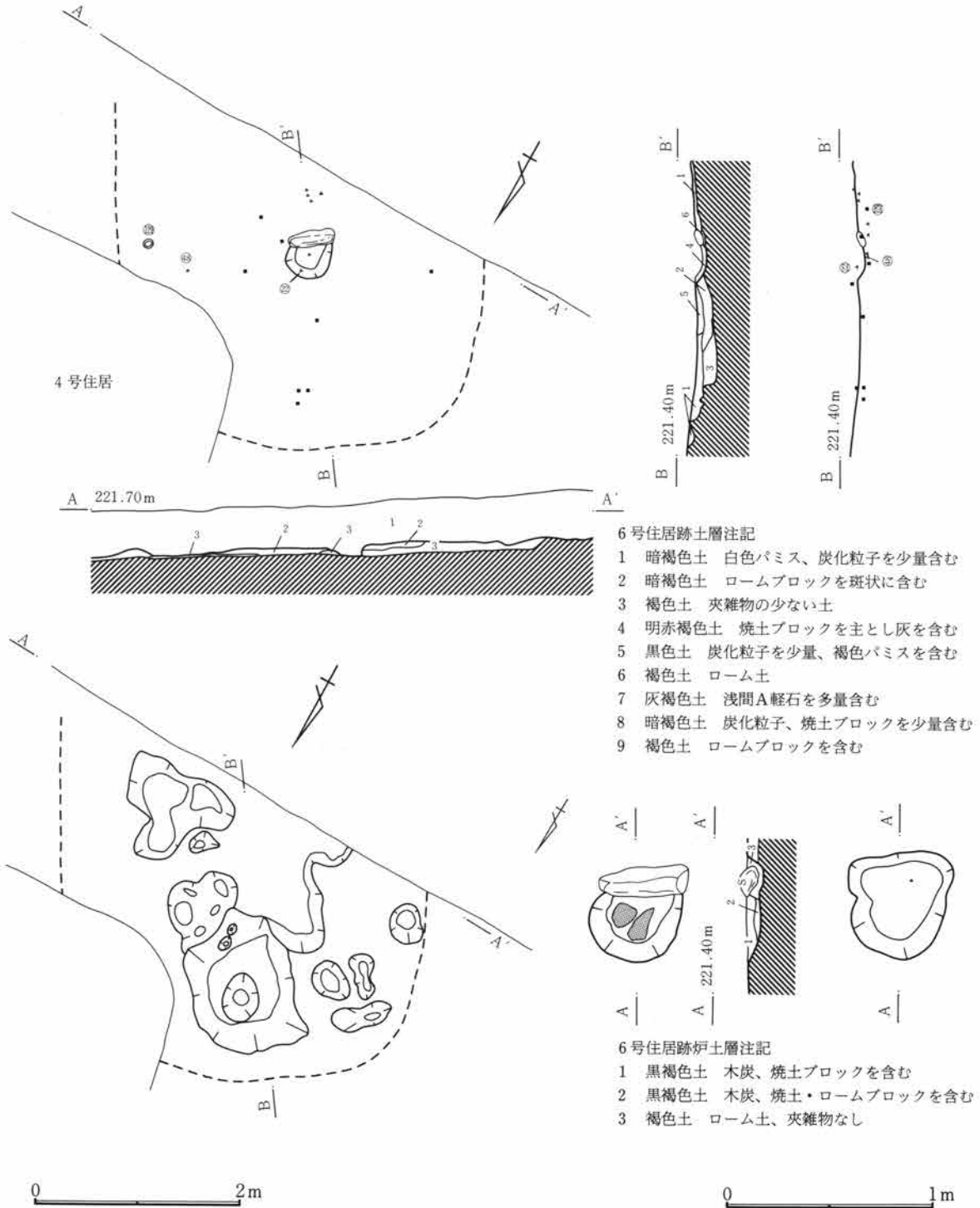
遺物出土状況 覆土が削平されているため、貼床内から弥生土器が数点出土しただけである。

炉 位置 不明 主軸方位 N-31°-W 規模 全長0.45m 幅0.45m

概要 枕石が検出されている。火床面は比較的是っきりしており、底面が部分的に焼けている。

出土遺物 住居の時期のものはなく、弥生土器が6点出土している。

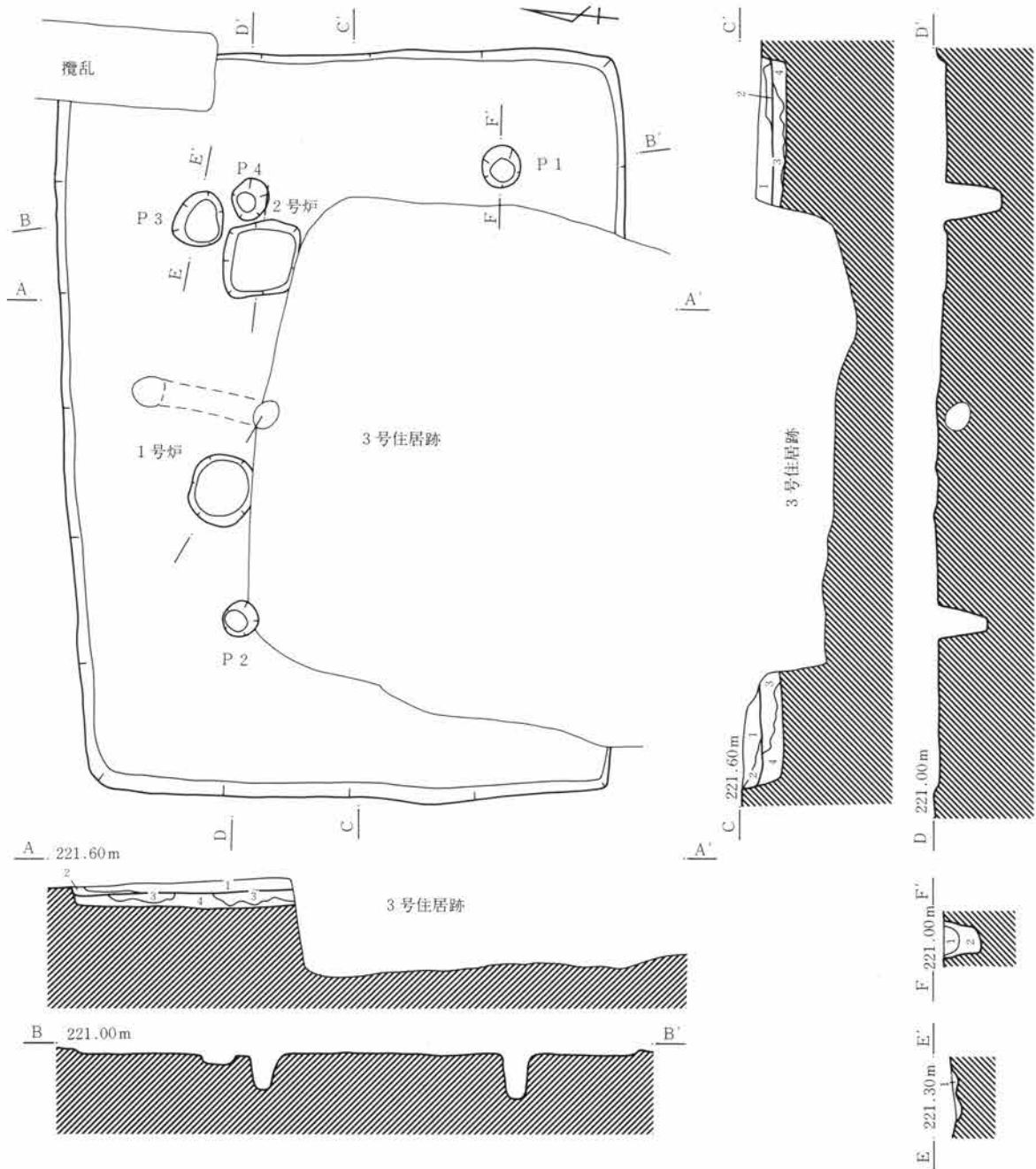
所見 覆土はすべて削平されており、形態も不明であり、時期もはっきりしない。



第59図 6号住居跡および炉

7号住居跡

位置 C 65~67-VI68・69Gr 重複 3号住より古 平面形態 隅丸長方形 規模 6.6m×5.0m
 壁高 18cm やや傾斜している 面積 36.5m² 床面積 32.3m² 主軸方位 N-4°-W
 壁溝 なし 貯蔵穴 なし



7号住居跡

- 1 暗褐色土 ロームブロック、炭化粒子を微量含む 2 黒褐色土 夾雑物少ない
 3 暗褐色土 ローム土・黒褐色土の混合、褐色パミスを含む 4 黒褐色土 夾雑物少ない

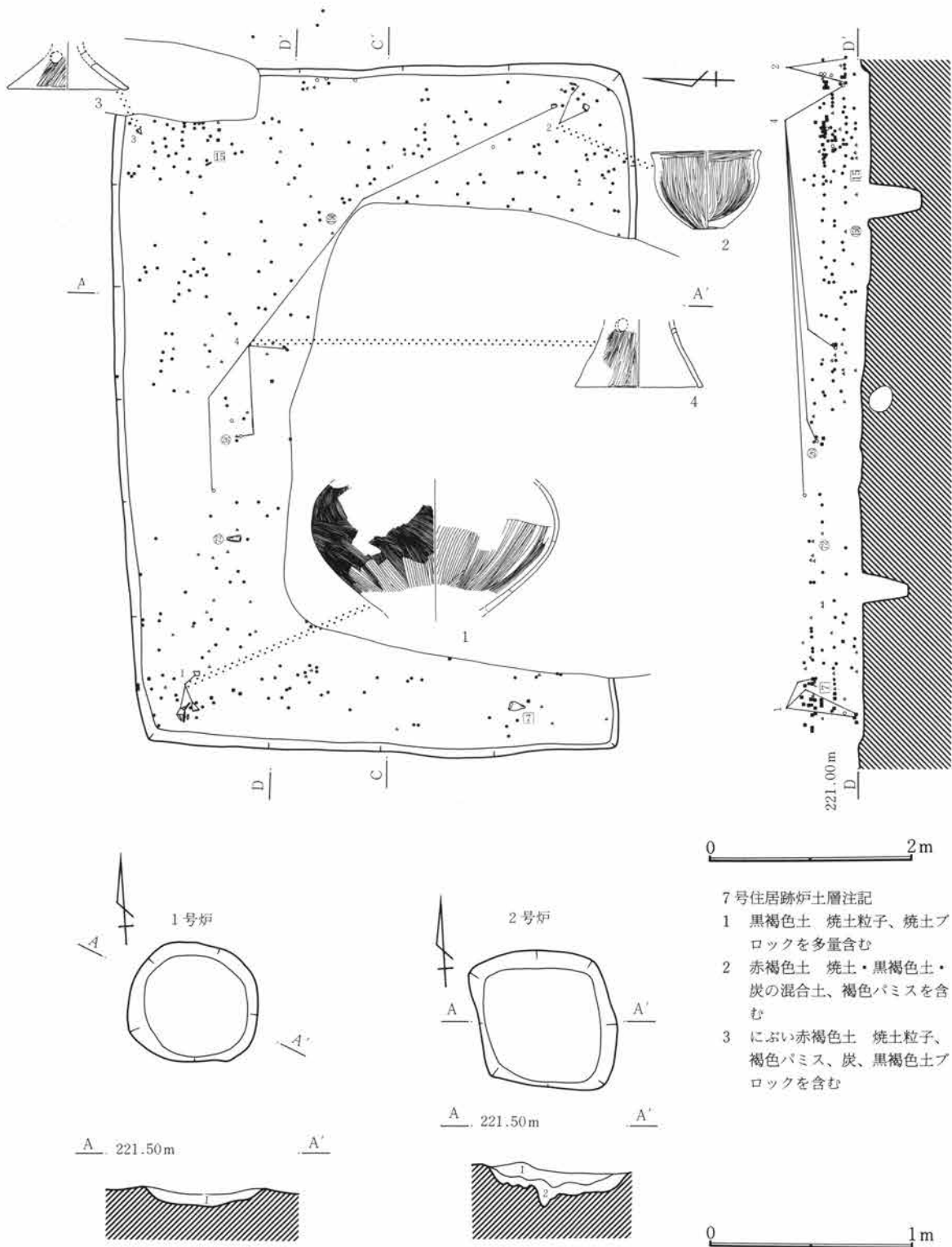
0 2m

第60図 7号住居跡

柱穴 住居の対角線上に3基(P3は位置がややずれ浅いため柱穴とは考えられない。もう1基は3号住により削平されていると思われる) 検出されている。

P 1 40×32×52 P 2 38×34×34 P 3 50×46×8 P 4 32×32×34

床面 ロームを含む暗褐色土で貼床としており、比較的軟弱な床面である。



第61図 7号住居跡遺物出土状況および炉

第三章 検出された遺構と出土遺物

掘り方 凹凸が少なく、平坦な掘り方である。

遺物出土状況 小破片が多いが、全面から出土している。垂直分布を見ると、床面付近のものは少なく、覆土上・中層のものが多い。接合関係の判明するものは3点あり、覆土上層と下層が接合しているものが1点あり、他は覆土中のものが接合している。

炉 1号炉 位置 北西部 主軸方位 N-85°-W 規模 全長0.64m 幅0.64m

概要 円形で枕石は検出されていない。火床面ははっきりしないが、覆土に多量に焼土を含んでいる。

2号炉 位置 北東部 主軸方位 N-6°-W 規模 全長0.68m 幅0.68m

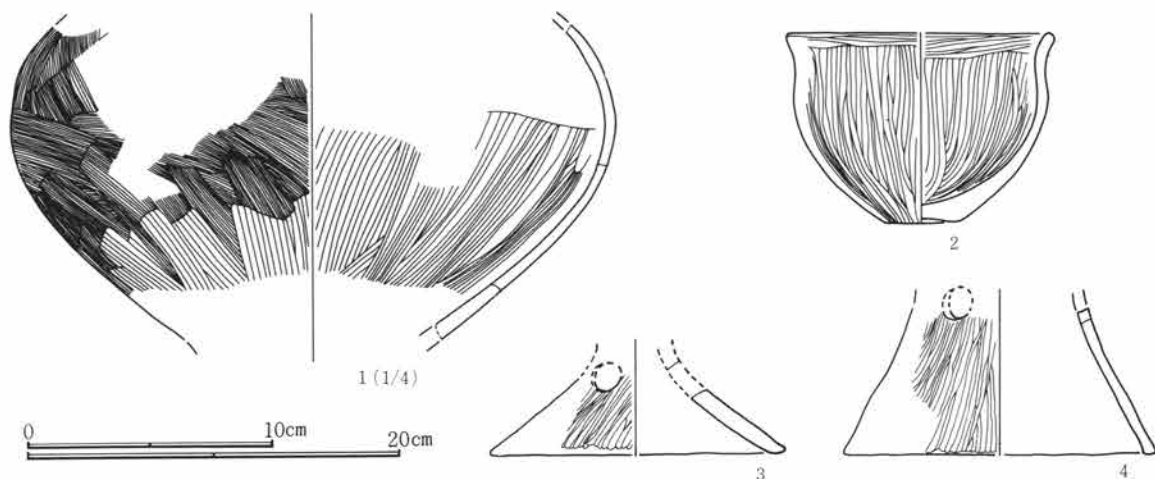
概要 方形に近い形態で枕石は検出されていない。火床面ははっきりしないが、覆土には多量に焼土が含まれる。

出土遺物 出土量はやや多いが、破片が多く器形を復元できるものは少ない。他の住居に比べ高坏が多く出土している特徴がある。石製品は不明2点が出土している。

所見 遺物出土状況を見ると、床面上のものは少なく、図示した遺物中でも、かなり広範囲で接合しているものもあるため、遺棄されたものはほとんど無く、他から廃棄されたものであると考えられる。

出土土器数量表

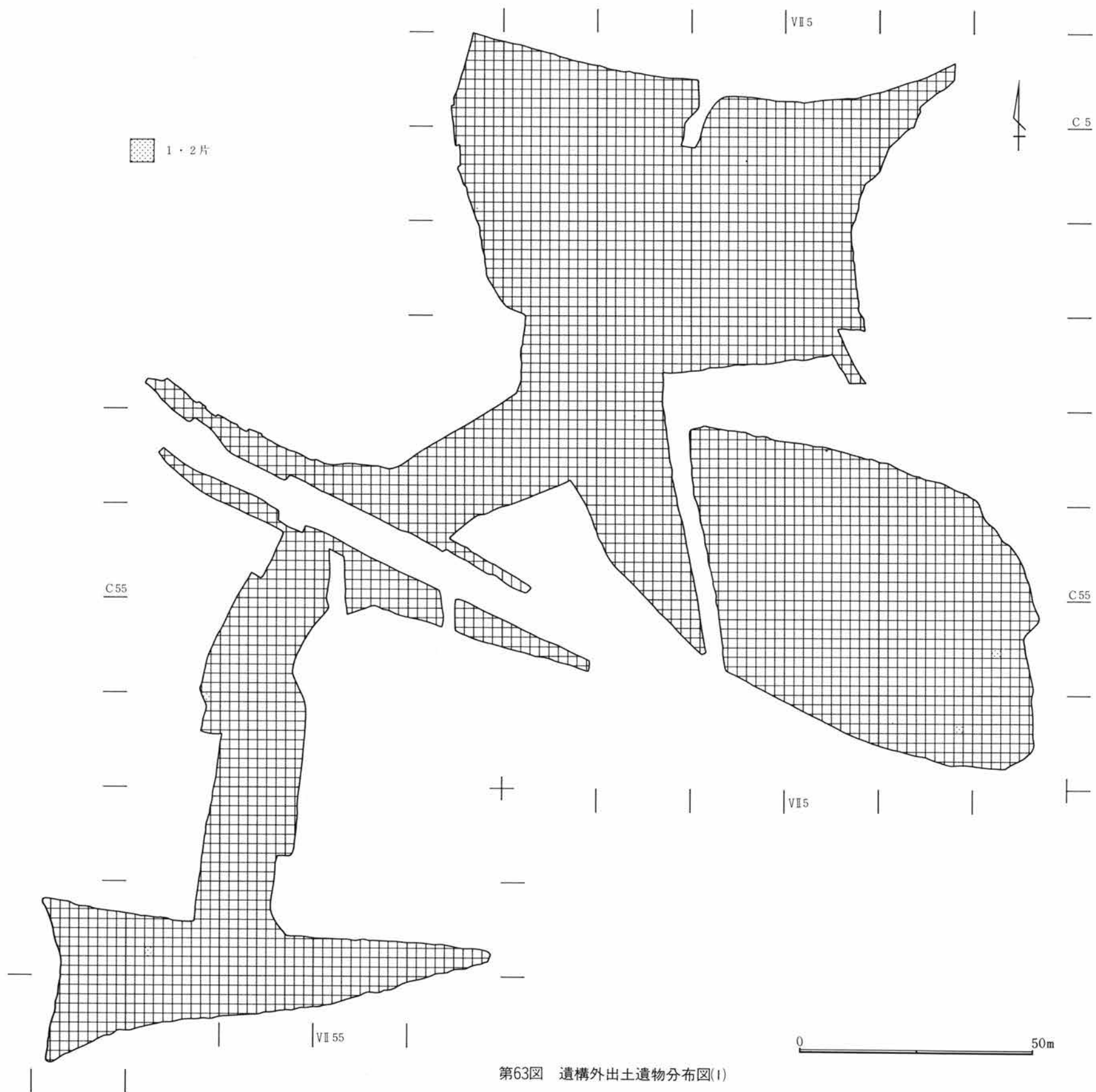
器種	甕・台付甕	壺	高坏	小型甕	計
点数	139	64	13	1	217
重量(g)	1,900	900	130	60	2,990



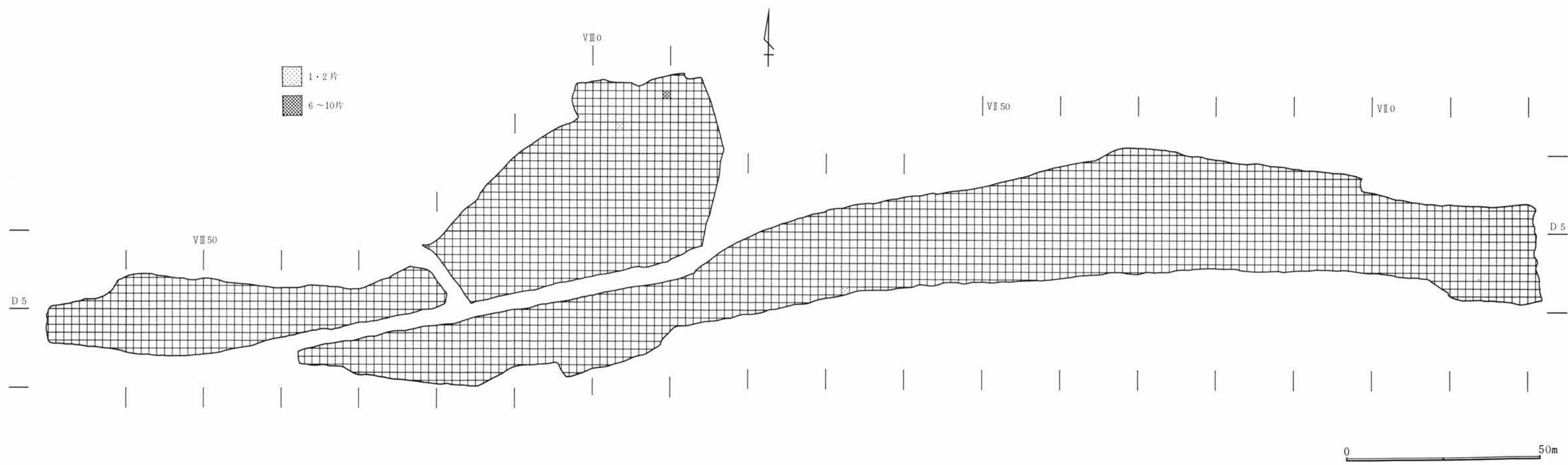
第62図 7号住居跡出土遺物

7号住居跡出土土器観察表

No.	器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	甕	北西 +8	胴部最大径32.2cm ③— ④胴部1/3	①灰褐 ②灰黄褐 黒 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面上半ハケメ下半粗いハケメ 内面篋磨き		
2	小型甕	南東 +24	①(10.4cm)②2.9cm ③7.5cm ④口~底1/3	①②にふい黄橙 ③良好 ④細 細砂を少量含む	口縁部横方向の篋磨き 胴部内外面とも縦方向の篋磨き		
3	高坏	北東 +36	①— ②(11.0cm) ③— ④脚部破片	①②にふい黄橙 ③良好 ④細 細砂を少量含む	脚部外面篋磨き内面ナデ		
4	高坏	北西 +30	①— ②(12.4cm) ③— ④脚部破片	①②にふい橙 ③良好 ④細 粗砂・石英粒を含む	脚部外面篋磨き内面ナデ		



第63図 遺構外出土遺物分布図(1)



第64図 遺構外出土遺物分布図(2)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

竪穴住居跡43軒、古墳7基、埴輪窯跡2基、土坑13基、溝状遺構3条、谷津状遺構1が検出されている。

竪穴住居跡

①分布 調査区北端部に29軒と特に集中しており、他は調査区北側中央部に5軒、北側東端部に2軒、北側西端部に5軒(1軒はやや離れる)、調査区南側やや東寄りに2軒と、5つの群を形成している。いずれも調査区外にさらに遺構のある可能性がある。

②平面形態・規模 平面形態は、正方形が7軒、隅丸方形が12軒、長方形が1軒、隅丸長方形が17軒、正方形もしくは長方形が3軒、隅丸方形もしくは隅丸長方形が2軒、不明が1軒となっている。規模は、長辺が2.68～7.20m平均4.56m、短辺が2.31～6.42m平均4.08m、面積が4.2～38.7m²平均17.3m²、壁高が6～88cm平均47cmとなっている。

③主軸方位 カマドのある辺に直角の方向を主軸とすると、北方向のものが33軒と圧倒的に多く、他は東方向のものが3軒、西方向のものが1軒、不明が5軒となっている。東方向のものはすべて奈良・平安時代の住居である。北方向のものは、N-5°-EからN-12°-Wの間に特に集中している。

④床面・掘り方 ほとんどの住居の床面全面に貼床が施されており、厚さは5～35cmと差がある。床面は比較的よく踏み固められているものが多いが、はっきりした硬化面が検出されたのは14軒である。掘り方は凹凸の多いものも多く、ピットや溝状の掘り込みがあるものが多い。

⑤カマド 全面調査できた中でカマドの検出されなかった住居は1号住1軒だけであり、他の37軒からはすべてカマドが検出された。調査区外にかかる住居も基本的にはカマドを持っているものと考えられる。位置は、北壁中央部のものが10軒、北壁東寄りものが23軒、東壁北寄りものが1軒、東壁南寄りものが2軒、西壁中央のものが1軒、不明・なしが6軒となっている。規模は、長さ(煙道部の残るもの)1.23～2.50m平均1.96m、幅0.53～1.35m平均0.89mとなっている。

⑥柱穴 24軒で検出され、16軒で検出されていない。3軒は不明である。基本的に4本で、住居の対角線上の四隅にあるが、43号住は6本の可能性がある。

⑦貯蔵穴 26軒で検出されており、10軒で検出されていない。6軒は不明である。基本的にカマドの右脇に位置している。

⑧時期 1軒(37号住)は平安時代(9世紀後半か)の住居で、他は古墳時代後期～奈良時代(6世紀後半～8世紀後半)の住居と考えられる。

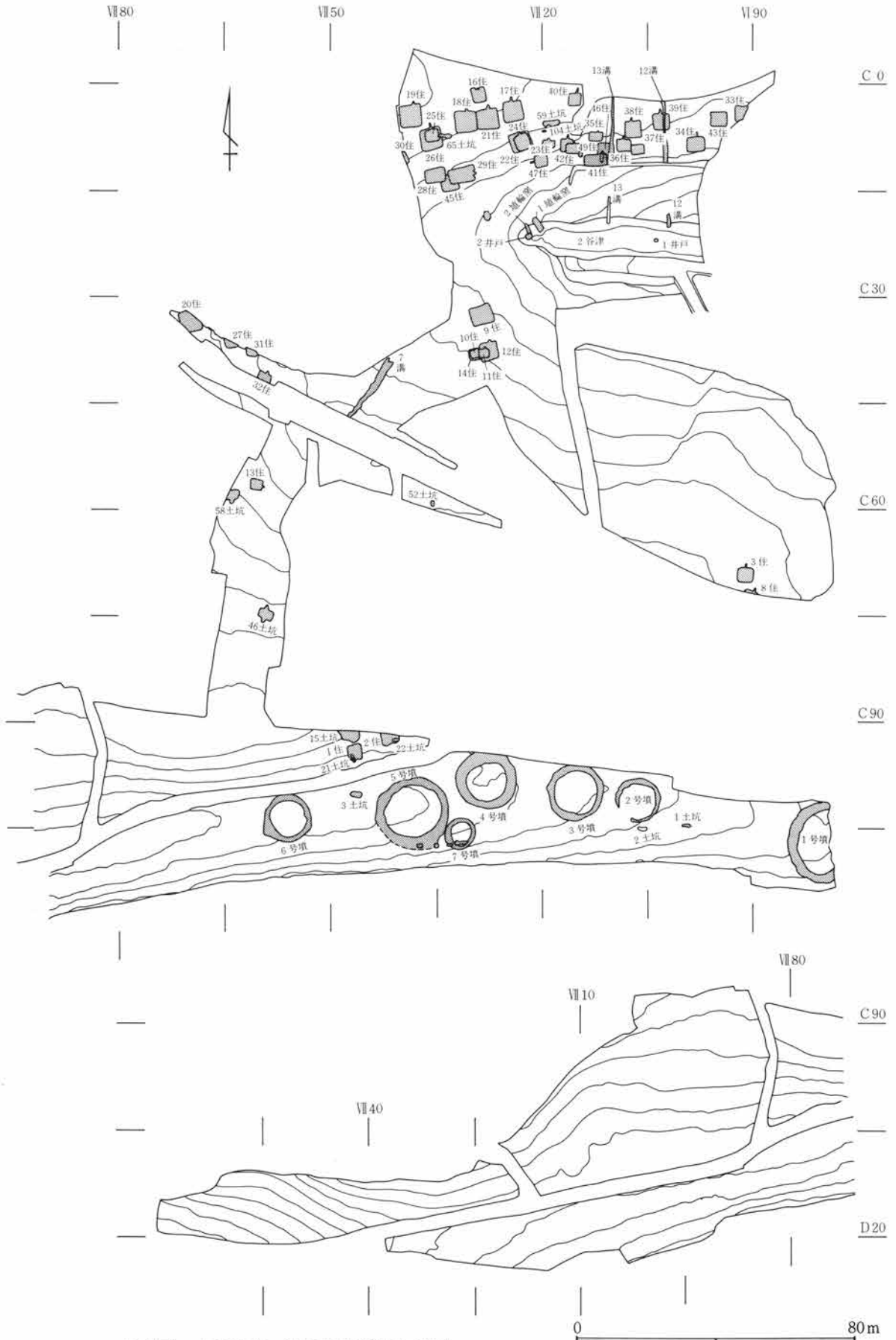
古墳

①分布 7基とも調査区南側に位置し、東西に長く分布している。

②平面形態・規模 すべて円墳で、主体部・墳丘等は削平され、周溝のみ残存している。規模は、周溝外径8.6～22.3m平均15.9m、周溝内径6.45～17.2m平均11.9m、深さ50～145cm平均94cmとなっている。

③葺石 4・7号墳周溝からは葺石と考えられる礫が出土しているが、1・2・3・5・6号墳からは出土していない。

第三章 検出された遺構と出土遺物



第65図 古墳時代～平安時代遺構位置図

- ④埴輪 4・5・7号墳から円筒埴輪が出土しており、1・2・3・6号墳からは出土していない。
- ⑤時期 各古墳とも若干の差があるが、5世紀後半から6世紀初頭のなかにはいるものと考えられる。

埴輪窯

調査区北側、2号谷津状遺構の谷頭部に2基近接して検出されている。いずれも天井部は崩壊して残っていないが、平面形態はほぼ同形であり、規模は2号窯が小さい。遺物残存状態は1号窯が良く、完形の埴輪が多く残っているが、2号窯は少なく破片だけである。

土坑

- ①分布 調査区南側に3基、調査区中央部に1基、調査区北側に10基、計14基検出されている。
- ②平面形態・規模 平面形態は隅丸長方形6基、隅丸方形1基、楕円形4基、不整形2基、不明1基となっており、不整形が最も多くなっている。規模は、長径1.48～6.04m平均3.25m、短径0.40～4.18m平均1.89m、深さ14～192cm平均72cmとなっており、土坑によって差が大きい。

溝

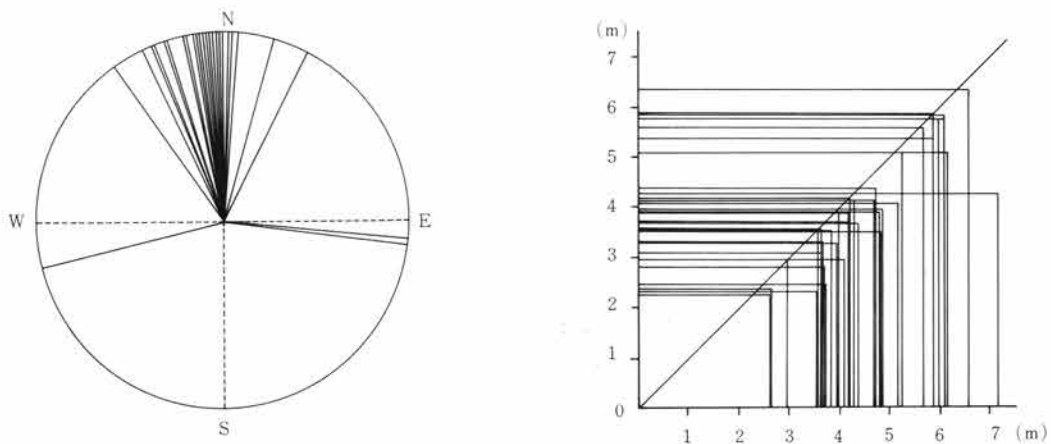
調査区北側から3条検出されているが、12・13号溝はほぼ平行に走っており、調査区北側の境界から2号谷津状遺構まで続いている。

谷津状遺構

調査区北側に東西に長く存在している。自然の谷と考えられるが、水が沸き出しているため、水場として利用されていたものであろう。遺物が多量に出土している。

遺構間遺物接合関係

調査区北側では、遺構内の接合以外に遺構間でも一部接合関係が見られた。竪穴住居間では18号住と34号住の土師環、28号住と29号住間の土師環・土師甕の3点であり、他に谷津状遺構と9号住の土師環、11号住の須恵環、23号住の土師環の3点と、遺構外の土師甕、須恵環の2点である。



第66図 古墳時代後期～平安時代住居跡主軸方位および規模

第三章 検出された遺構と出土遺物

遺物

①土器 土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。

土師器

坏・埴・皿・蓋・高坏・埴・甕・小型甕・台付甕・鉢・小型鉢・甌等の器種が出土している。

- I 坏 1類 丸底で内湾する体部に内斜する口縁がつくもの
2類 丸底もしくは小さな平底で口縁部が直立もしくはやや内傾するもの
3類 底部は丸底で口縁部と体部を画す稜線から直立もしくは外傾するもの
4類 底部は丸底で湾曲する体部から短い口縁部が直立もしくはやや内傾するもの
5類 底部と体部を画す稜線がはっきりしており丸みを帯びた平底を呈するもの
6類 底部と体部を画す稜線がはっきりしており完全な平底のもの
- II 埴 坏よりも深い器形
- III 皿
- IV 蓋 傘形の体部に鈕がつく
- V 高坏 1類 脚部が短く内面に強い稜をもって大きく開くもの 暗文をもつ
2類 脚部が長く比較的大きく開くもの
3類 脚部が細く直線的なもの
4類 脚部が短く広いもの
- VI 埴 小型丸底の壺
- VII 甕 1類 いわゆる長胴甕で口縁から頸部にかけては「く」の字状をなすもの
2類 口縁部から頸部にかけて2段の稜をもち「コ」の字状をなすもの
3類 いわゆる胴張甕で1類に比べ胴が張るもの
- VIII 小型甕 甕よりも小さく胴部は丸みを帯びている。
- IX 台付甕 甕に台がつく器形で、やや小ぶりである。
- X 鉢 1類 胴部が直線的に立ち上がるもの
2類 口縁部が外反し胴部は緩やかに立ち上がって鍋形を呈するもの
3類 口縁部が直立もしくはやや内傾し埴形を呈するもの
- XI 小型鉢 底部は平底もしくはやや丸みを帯びた平底で体部は直線的に立ち上がる
- XII 甌 1類 底部がなく胴部が直線的もしくはやや内傾して立ち上がるもの
2類 丸みを帯びた底部に円形の孔が1つあくもの

須恵器

坏・埴・蓋・高坏・瓶・甕・小型壺・甌・羽釜等の器種が出土している。

- I 坏 1類 丸底でかえりをもつもの
2類 平底で底部回転篋切りのもの
3類 平底で底部回転糸切り後外周回転篋削りのもの
4類 平底で底部回転糸切り後無調整のもの
5類 底部が小さく高台がつくもの
6類 全体に小ぶりで底部は小さく酸化焙焼成気味のもの
- II 埴 坏よりも深い器形 高台がつくものが多い

- III 蓋 1類 天井部が丸みを帯びかえりのないもの
- 2類 天井部が丸みを帯びかえりをもつもの
- 3類 天井部が直線的で宝珠状の鈕がつくもの
- 4類 天井部が直線的で高台状の鈕がつくもの
- IV 高坏 脚部に透孔のあるものとないものがある
- V 瓶 長頸瓶・横瓶が出土している
- VI 甕 胴部外面平行叩きを施す 頸部には波状文を施すものが多い
- VII 小型壺 VIII 甕 IX 羽釜

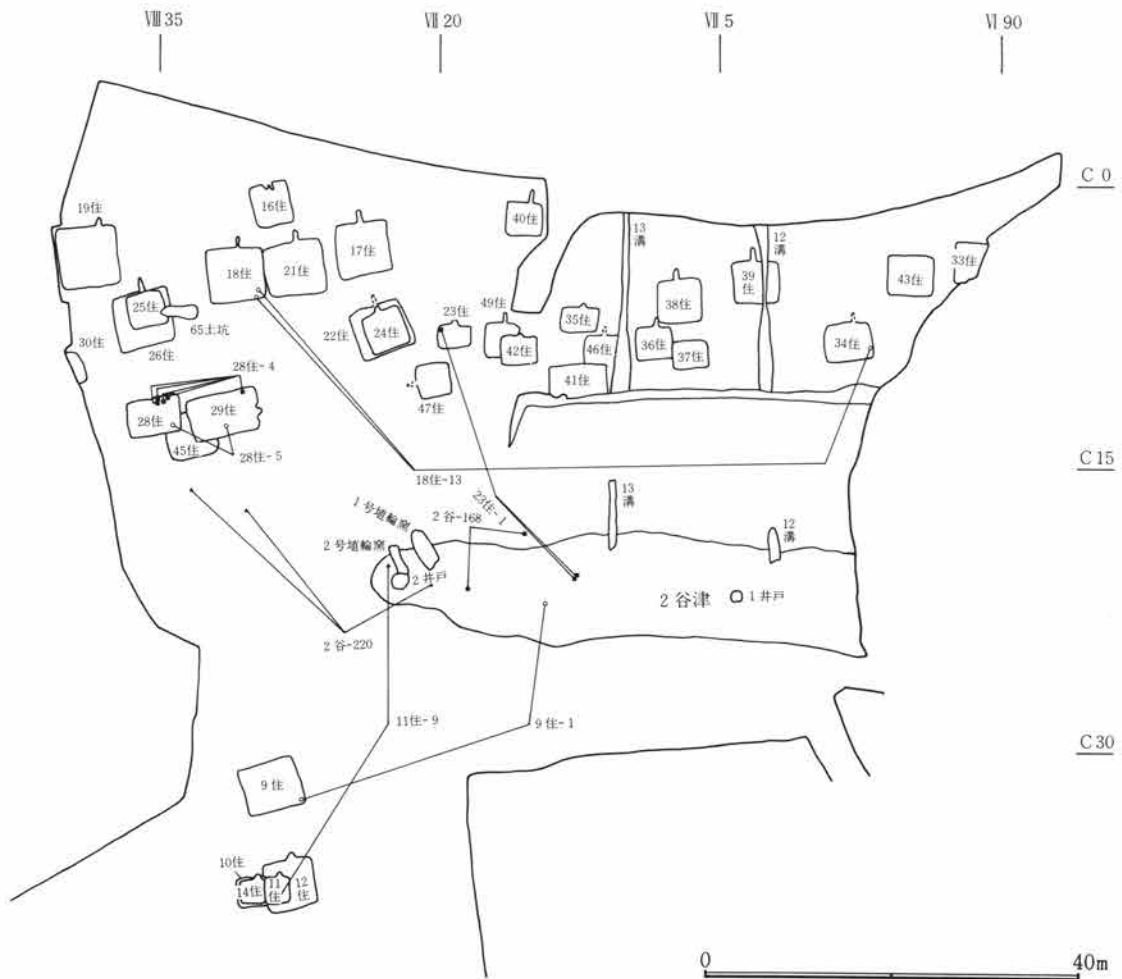
灰釉陶器

碗・瓶等の器種が出土している。

出土土器数量表

種別	土 師 器													
器種	坏	埴	皿	蓋	高坏	埴	甕	小型甕	台付甕	鉢	小型壺	甕	不明	計
点数	8,089	21	1	3	223	3	29,596	121	7	83	4	114	19	38,284

種別	須 恵 器										灰釉陶器	総計	
器種	坏	埴	蓋	高坏	瓶	甕	小型甕	甕	羽釜	不明	計		
点数	462	6	85	6	65	154	3	3	14	5	803	6	39,092



第67図 古墳中期～平安時代遺構間接合図

第三章 検出された遺構と出土遺物

②土製品 紡錘車1点、小玉2点、土錘3点が出土している。

③埴輪 円筒埴輪・朝顔型埴輪・形象埴輪が出土している。

I 円筒埴輪 計3,435点出土している。

3段構成のものがほとんどであるが、4段構成、5段構成のものも数点出土している。

器面調整はハケが主であるが、外面に縦ハケ後横ハケを施すものと縦ハケのみ施すものがある。横ハケのものは非常に少なく、4号墳だけの出土である。

凸帯は、断面が台形のもの、断面が三角形のもの、断面がM字形のものがある。

II 朝顔型埴輪 確実なもので12点出土しているが、小破片は円筒埴輪と区別できないため円筒埴輪中にさらに含まれている可能性がある。

III 形象埴輪 靱2点、靱1点、不明1点、計4点出土しているが、基部破片が円筒埴輪中に含まれている可能性がある。

④石製品 玉類10点(完成品 白玉3点、小玉4点、管玉1点、勾玉2点)、玉未製品52点、紡錘車10点、玉製作時の石核84点・破片3,353点、砥石21点、台石13点、こも編石179点、不明41点が出土している。

⑤鉄製品 鎌3点、刀子9点、鉄鏃8点、鉄斧1点、鉸具1点、角釘5点、不明4点が出土している。

⑥銅製品 八稜鏡1点、鈴1点が出土している。

古墳後期～平安時代住居跡一覧表

住居 No.	平面形態	規模 (m)	床面積 (㎡)	壁高 (cm)	主軸方位	カマド	貯蔵穴	柱穴	出土遺物
1	隅丸方形	3.92×4.30	11.3	60	N-11°-W	-	-	-	土師器
2	方形	4.62×?	[8.4]	88	N-22°-W	?	?	-	土師器
3	隅丸長方形	4.74×4.16	15.6	72	N-2°-W	北	○	4	土師器、須恵器、こも編石
8	隅丸方形?	3.98×?	[0.8]	87	N-16°-E	北	?	?	土師器、台石
9	隅丸長方形	6.22×5.14	26.1	52	N-18°-W	北	○	5	土師器、台石、こも編石
10	隅丸方形	2.72×2.40	5.6	30	N-4°-W	?	-	-	土師器、須恵器
11	隅丸方形	3.00×3.00	7.9	31	N-8°-W	北	-	-	土師器、須恵器
12	正方形	5.28×5.14	25.8	32	N-12°-W	北	○	4	土師器、砥石、敲打石、こも編石
13	隅丸長方形	3.70×3.12	8.9	48	N-98°-E	東	-	-	土師器、須恵器
14	隅丸長方形	3.99×3.31	11.2	25	N-10°-W	北	-	-	
16	正方形	4.25×4.22	16.1	15	N-9°-W	北	○	4	土師器、須恵器
17	正方形	5.72×5.64	29.6	32	N-9°-W	北	○	4	土師器、滑石製白玉
18	正方形	6.16×5.80	31.2	70	N-S	北	○	4	土師器、小玉、滑石、こも編石
19	隅丸方形	6.60×6.42	38.7	40	N-7°-W	北	○	4	土師器、こも編石
20	正方形	5.90×5.90	26.0	56	N-17°-W	北	-	3	土師器、須恵器、土錘、土製玉、紡錘車、こも編石
21	隅丸方形	6.06×5.80	31.5	20	N-11°-W	北	○	4	土師器、土製玉
22	隅丸長方形	5.90×5.40	27.3	62	N-18°-W	北	○	3	土師器、台石、管玉、紡錘車、玉未製品
23	隅丸長方形	3.60×2.36	4.2	38	N-1°-W	北	-	-	土師器
24	隅丸長方形	4.34×4.16	15.9	58	N-18°-W	北	○	4	土師器、土製玉、台石、こも編石
25	隅丸方形	4.24×3.74	13.2	72	N-9°-W	北	○	4	土師器、滑石製白玉・玉未製品、滑石、こも編石
26	正方形	6.14×5.88	32.8	34	N-12°-W	北	○	3	土師器、須恵器、砥石、滑石製玉、紡錘車、滑石、こも編石
27	?	?×?	[5.6]	78	N-21°-W	?	?	1	土師器、台石
28	隅丸長方形	5.19×4.09	18.4	41	N-6°-W	北	○	-	土師器、須恵器、台石、管玉、こも編石
29	隅丸長方形	7.20×4.30	28.6	60	N-96°-E	北・東	○	-	土師器、須恵器、土製玉、台石、砥石、紡錘車、こも編石
30	隅丸長方形	3.50×?	[2.9]	38	N-25°-W	?	?	?	土師器
31	隅丸長方形	3.04×?	[5.0]	46	N-3°-E	?	?	-	土師器
32	隅丸方形	4.00×?	[7.6]	66	N-27°-E	北	?	1	土師器
33	正方形?	4.40×3.70	11.0	30	N-3°-W	北	-	2	
34	隅丸長方形	4.92×4.02	15.7	84	N-7°-W	北	○	-	土師器、砥石、滑石製玉未製品、滑石
35	隅丸長方形	3.78×2.52	7.7	34	N-35°-W	北	○	-	土師器、須恵器
36	隅丸方形	4.06×3.96	14.0	64	N-6°-W	北	○	4	土師器、砥石、紡錘車、滑石製玉・玉未製品
37	隅丸長方形	3.76×2.86	8.6	72	N-6°-W	東	○	-	土師器、須恵器、灰釉陶器
38	隅丸長方形	4.84×3.56	15.5	20	N-7°-W	北	○	4	土師器、土製玉、滑石製玉・玉未製品
39	隅丸方形	4.78×4.42	18.8	20	N-5°-W	北	○	4	土師器

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

住居 No	平面形態	規模 (m)	床面積 (m ²)	壁高 (cm)	主軸方位	カマド	貯蔵穴	柱穴	出土遺物
40	正方形	3.64×3.56	12.0	40	N-5°-E	北	○	4	土師器
41	長方形	5.94×?	[17.5]	26	N-6°-W	北	○	—	土師器、台石
42	隅丸長方形	4.14×3.00	10.1	22	N-3°-W	北	—	—	土師器、須恵器
43	長方形	4.86×3.94	18.2	6	N-2°-E	北	○	6	
44	?	?×?	?	?	?	北	?	?	土師器、砥石
45	隅丸長方形	2.68×2.31	14.8	23	N-1°-W	北	?	—	土師器、須恵器、鞆羽口、滑石、こも編石
46	隅丸方形	3.87×3.58	11.0	60	N-9°-W	北	○	4	土師器、砥石、こも編石
47	隅丸方形	3.70×3.34	10.6	80	N-104°-W	西	○	5	土師器、台石
49	隅丸方形	3.68×3.60	11.7	40	N-4°-W	北	○	2	土師器

第三章 検出された遺構と出土遺物

(2) 竪穴住居跡

1号住居跡

位置 C88~90-VII50・51Gr 重複 21号土坑より古 平面形態 隅丸方形 規模 4.3m×3.92m

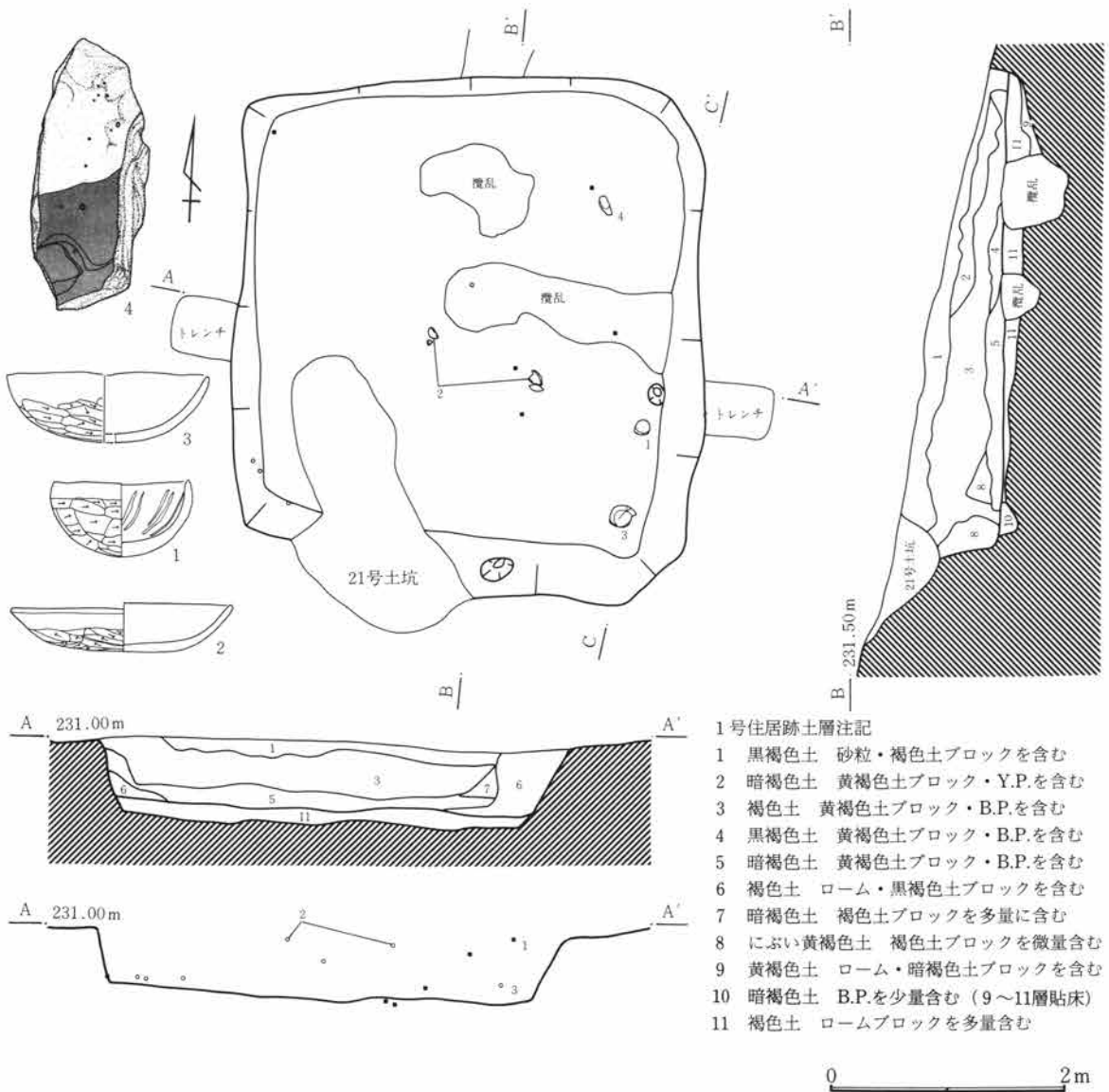
壁高 60cm やや傾斜している 面積 16.2m² 床面積 11.3m² 主軸方位 N-11°-W

壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

床面 ロームを含む褐色土で厚さ5~15cmの貼床を施しているが、比較的軟弱である。ほぼ平坦な床面であるが、一部地下棲息動物等により攪乱されている。

掘り方 若干の凹凸はあるが比較的平坦な掘り方で、ピット等は検出されていない。北東隅に壁をピット状に掘り込んで、床面付近をテラス状に掘り残してある部分がある。

遺物出土状況 遺物は少なく、住居内に散在している。垂直分布も上層から下層まで出土しており、偏りが無い。接合関係の判明するものは1点だけで、上層の遺物が接合している。



第68図 1号住居跡

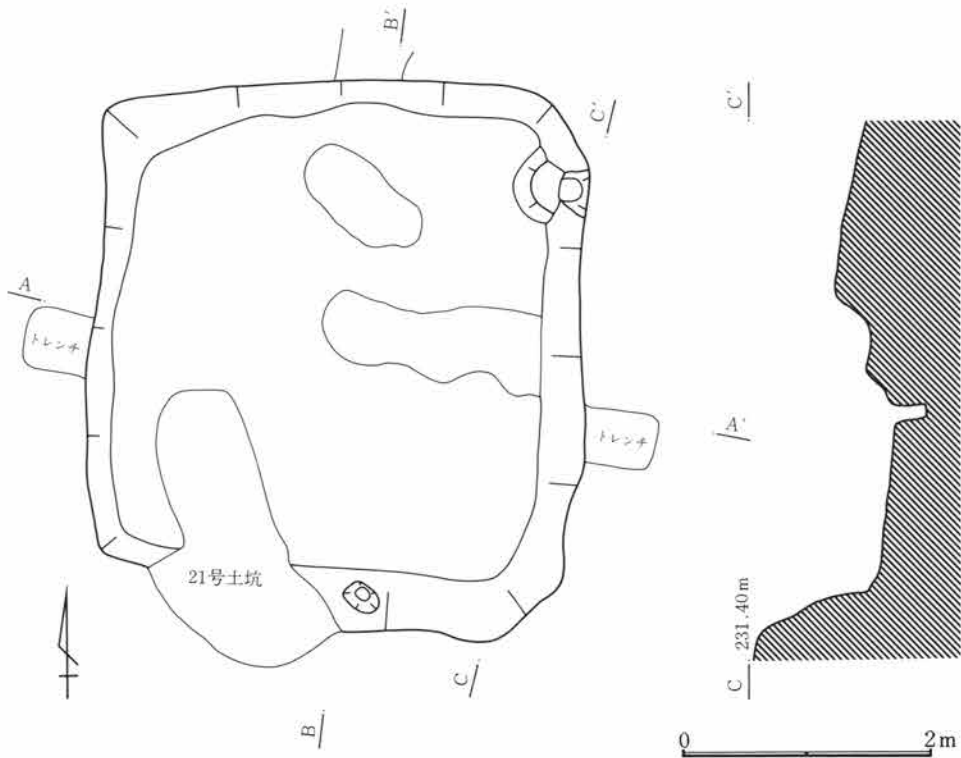
カマド 21号土坑と重複している部分以外は全面調査できたが、カマドは検出されなかった。住居内に焼土・粘土・灰等の痕跡も無く、カマドの無い住居だった可能性が高い。

出土遺物 出土量は少なく、土器は土師器坏・甕が少量と須恵器甕が1点出土しているだけで、図示した遺物以外は小破片である。石製品は、こも編石状のものが1点と4の用途不明の石が出土している。他に弥生土器が5点、縄文土器が12点出土している。

所見 確実に住居で使用されたものとは言えないが、出土遺物を見ると古墳時代後期の住居になり、この時期でカマドのない住居はほとんど無いため、一般の住居と異なる性格をもつ可能性もある。

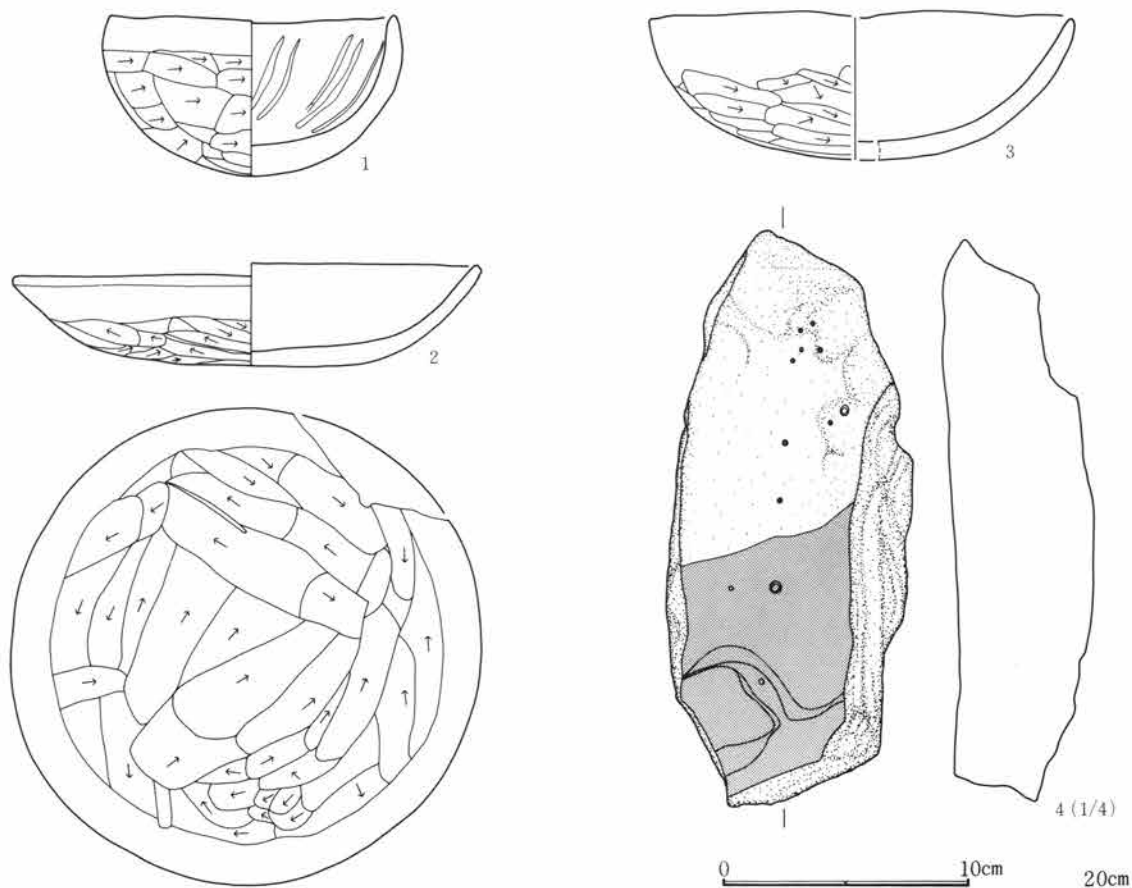
出土土器数量表

種別	土師器		須恵器	計
	坏	甕	甕	
点数	10	6	1	17
重量(g)	600	75	7	682



第69図 1号住居跡掘り方

第三章 検出された遺構と出土遺物



第70図 1号住居跡出土遺物

1号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 杯	北西 +54	①11.3cm ②— ③6.1cm ④ほぼ完形	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ一部放射状暗文	I D	
2	土師器 杯	北西 +46	①(16.8cm)②— ③6.0cm ④口～底1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
3	土師器 皿	北西 +18	①18.4cm ②— ③4.0cm ④ほぼ完形	①②暗褐 にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	III	

1号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
4	不明	南西	30.6	13.2	8.0	2500	完形	凝灰岩	片面に小孔あり 一部赤変

2号住居跡

位置 C91・92-VII44～46Gr 重複 22号土坑より古 平面形態 隅丸方形もしくは隅丸長方形
 規模 4.62m×[3.12m] 壁高 88cm やや傾斜している 面積 [13.2m²] 床面積 [8.4m²]
 主軸方位 N-22°-W 柱穴 なし 貯蔵穴 不明
 壁溝 南壁部分に検出されたが(東側は22号土坑に壊されているため不明)、東壁・西壁(調査部分)には検出されていない。幅25cm深さ18cm程度である。
 床面 ロームを含む暗褐色土で貼床としているが、5～10cmと薄く、中央部は貼床が施されていない。平坦であるが、比較的軟弱な床面である。

掘り方 西側に、南北に長く溝状に掘り下げた部分があるが、他は平坦である。また東壁際には径1.2m深さ30cm程の円形になると思われる土坑状の掘り込みが検出されている。

遺物出土状況 遺物は多く、住居全面から出土しているが、西側がやや多くなっている。垂直分布も、上層から下層まで平均して出土している。接合関係の判明するものは2点で、中層と下層が接合しているものと中層で接合しているものがある。

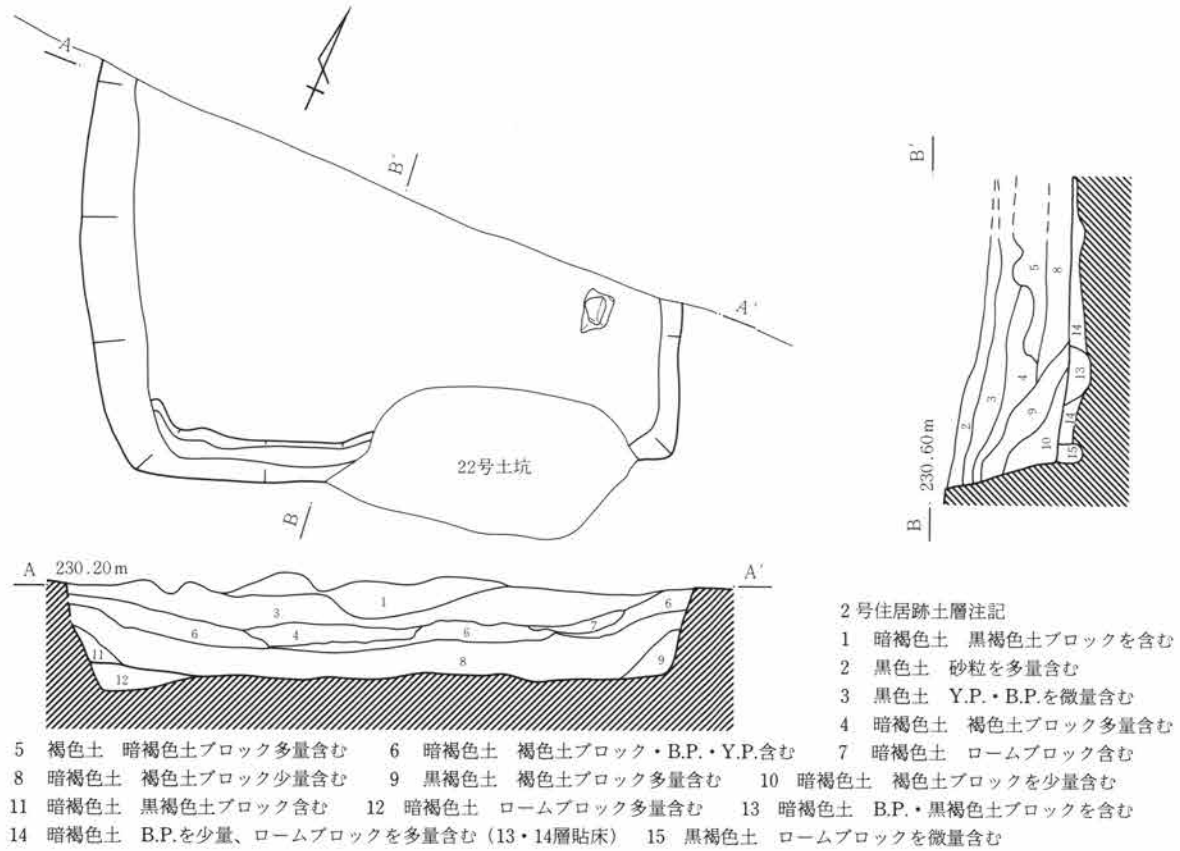
カマド 調査区外の北壁あるいは東壁に存在すると考えられるが、焼土・粘土・灰等の分布は認められず、詳細は不明である。

出土遺物 出土量は多いが、完形に近いものは少なくほとんど小破片である。土師器坏・甕・鉢・甗、須恵器坏・甕が出土しているが、土師器鉢が26点と、他の住居に比べ多いのが特徴である。他に弥生土器が3点出土している。

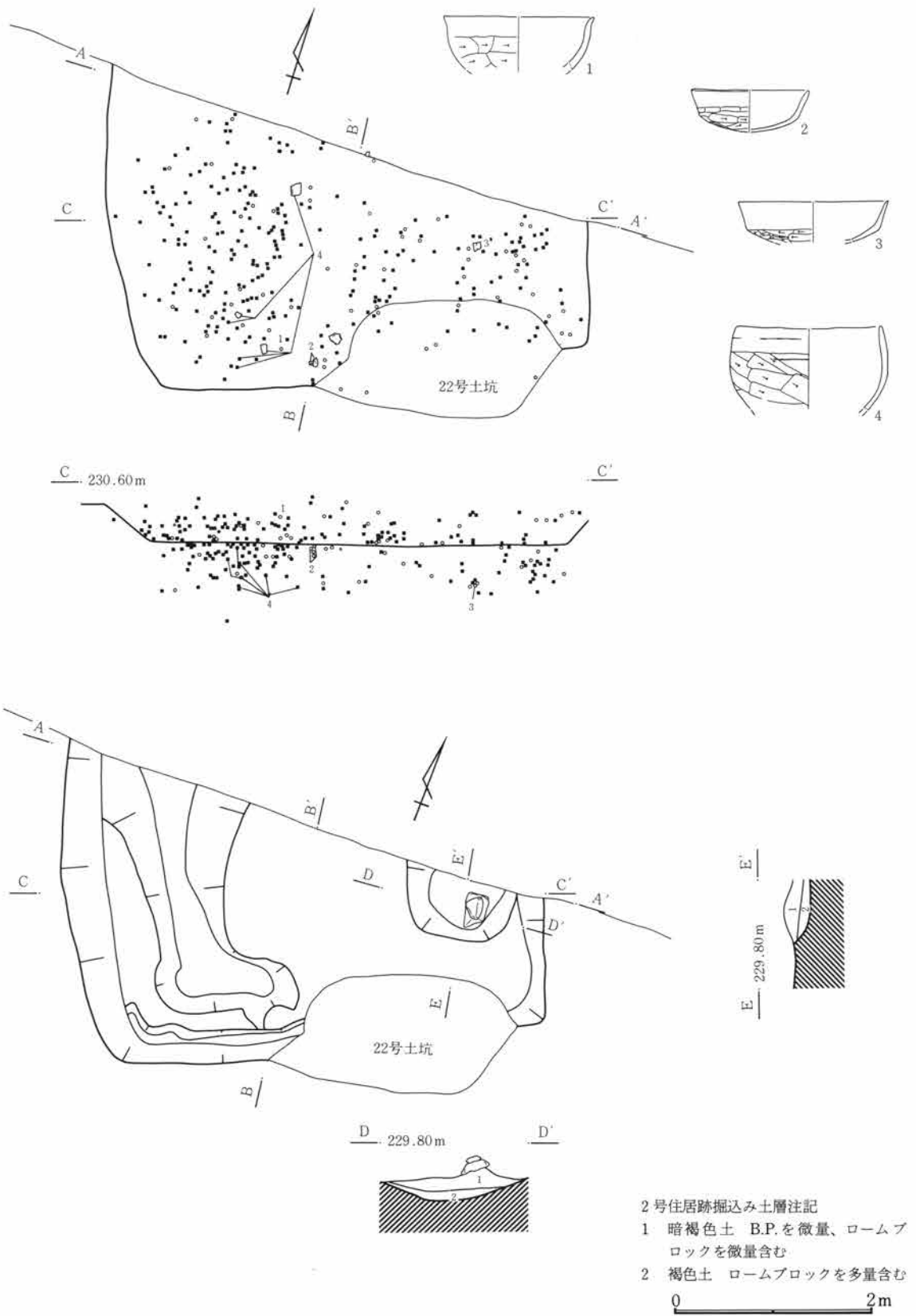
所見 遺物の出土量は多いが小破片が多く、前時代の遺物の混入か後世廃棄されたものがほとんどであると考えられる。このため住居の詳細な時期は不明であるが、6世紀後半～7世紀前半代になると思われる。

出土土器数量表

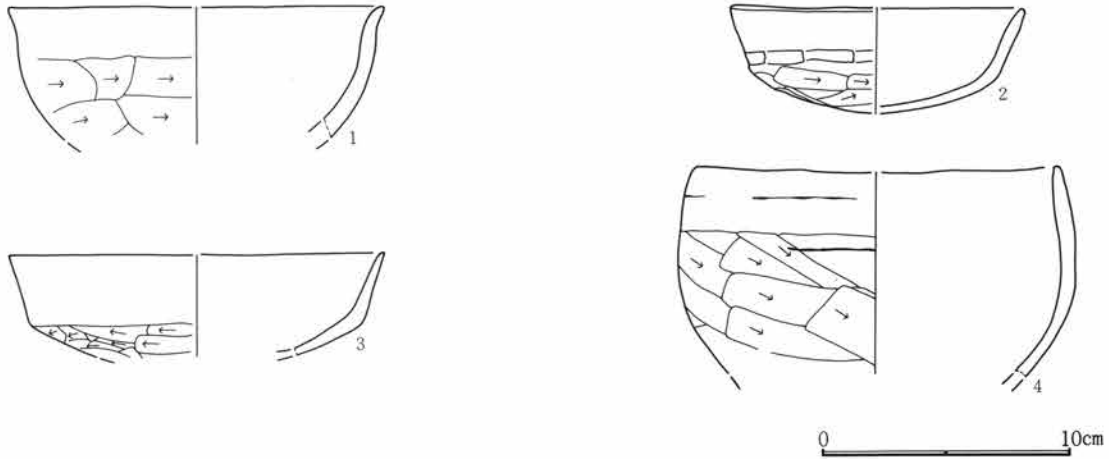
種別	土師器				須恵器		計
	坏	甕	鉢	甗	坏	甕	
点数	63	233	26	1	1	1	325
重量(g)	600	2,800	910	50	2	12	4,374



第71図 2号住居跡



第72図 2号住居跡遺物出土状況および掘り方



第73図 2号住居跡出土遺物

2号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 坏	北東 +28	①(11.5cm)②— ③— ④口~体1/4	①灰黄褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ	I C	
2	土師器 坏	南西 -4	①(11.6cm)②— ③4.2cm ④口~底1/3	①②胎土にふい褐 表面黒褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ 内外面に漆塗布か	I C	
3	土師器 坏	南東 -40	①(15.0cm)②— ③— ④口~底1/5	①にふい黄褐 ②にふい褐 ③良好 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ	I C	
4	土師器 鉢	南西 -44	①(19.0cm)②— ③— ④口~胴1/2	①にふい橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面篋ナデ後ナデ 輪積痕一部残す	X C	

3号住居跡

位置 C 67~70-VI91・92Gr 重複 7号住より新

平面形態 東西に長い隅丸長方形であるが、西壁に幅30~35cm深さ25cmのテラスが存在している。

規模 4.74m×4.16m 壁高 72cm やや傾斜している 面積 18.5m² 床面積 15.6m²

主軸方位 N-2°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出されているが、P3は2基重複しており、建て替えた可能性がある。柱間は東西南北とも1.48mと、他の住居よりかなり狭くなっている。

P1 長径50cm短径40cm深さ48cm P2 長径24cm短径18cm深さ44cm P3 長径34cm短径26cm深さ46cm

P4 長径40cm短径32cm深さ44cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.62m 短径0.6m 深さ46cm

形状 平面形態は円形であるが南西部がやや張り出している。底部は広く平坦で、断面形態は台形になっている。

床面 ロームを含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土で厚さ10~30cmの貼床としており、平坦な床面である。比較的硬く、特にカマドから南壁際やや西寄りにかけての部分(図中の実線の内側)はよく踏み固められた硬化面が検出されている。

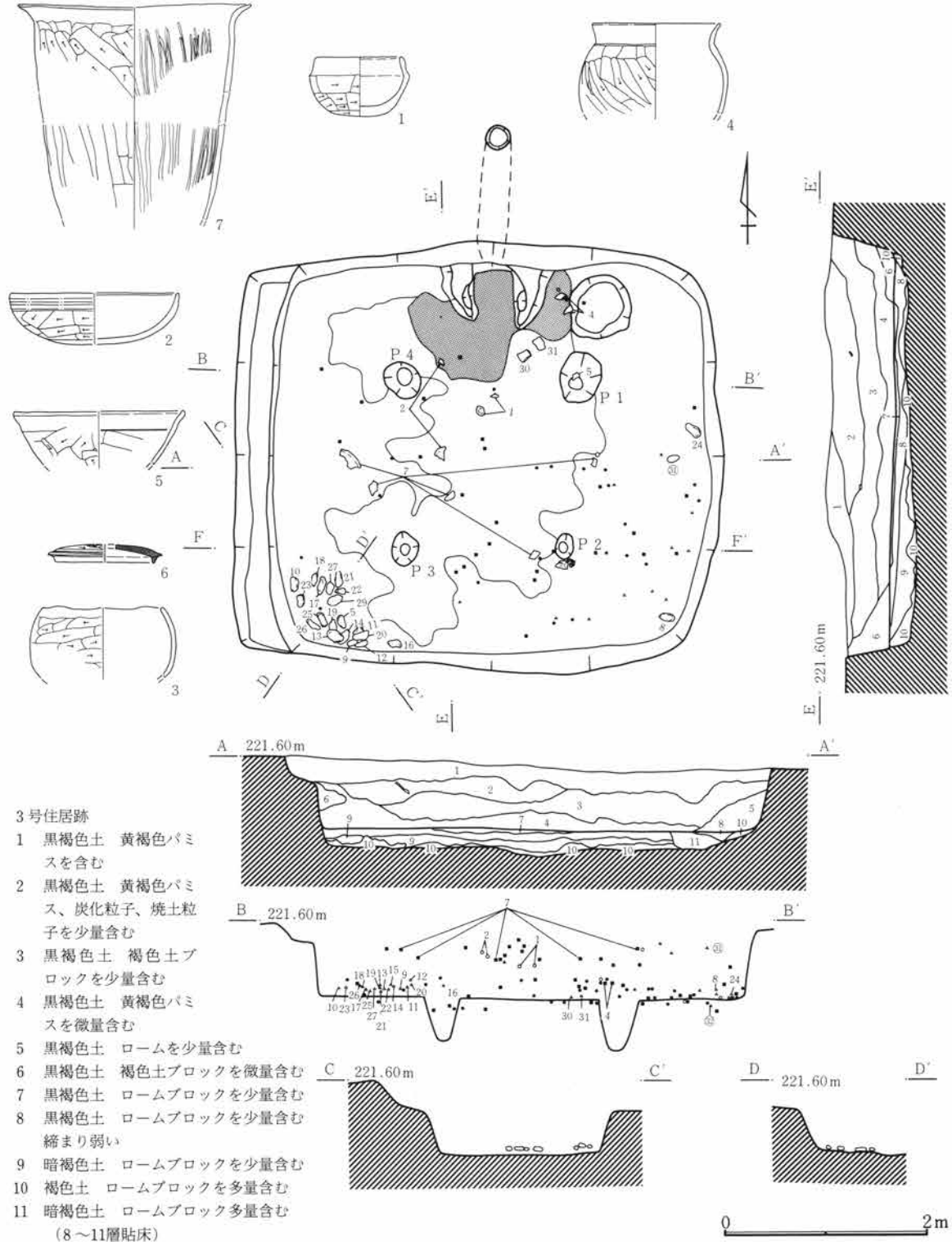
掘り方 比較的平坦であり、長径30~150cmのピットが数基検出されている。

遺物出土状況 南東部にやや多く出土しており、北および西の壁際は少ない。垂直分布では上層から下層まで出土しているが、下層に多く出土している。こも編石は南西隅に集中している。接合関係の判明するものは4点あり、上層、中層で接合している。

カマド

位置 北壁中央部 主軸方位 N-1°-E 規模 全長2.07m 幅1.18m 煙道部長1.25m

構築 暗褐色土で袖を構築しているが、袖石等は検出されていない。火床面は床面とほぼ同じ高さで、よく焼けており、焚き口手前や袖両脇まで焼土が検出されている。煙道部はかなり斜め上に延びて垂直に立



第74図 3号住居跡

ち上がっており、10～35cm天井部の地山が残存している。掘り方は、袖部を残して焚き口が掘り込まれており、両袖部にはそれぞれピットが検出されているが、袖石は検出されなかった。

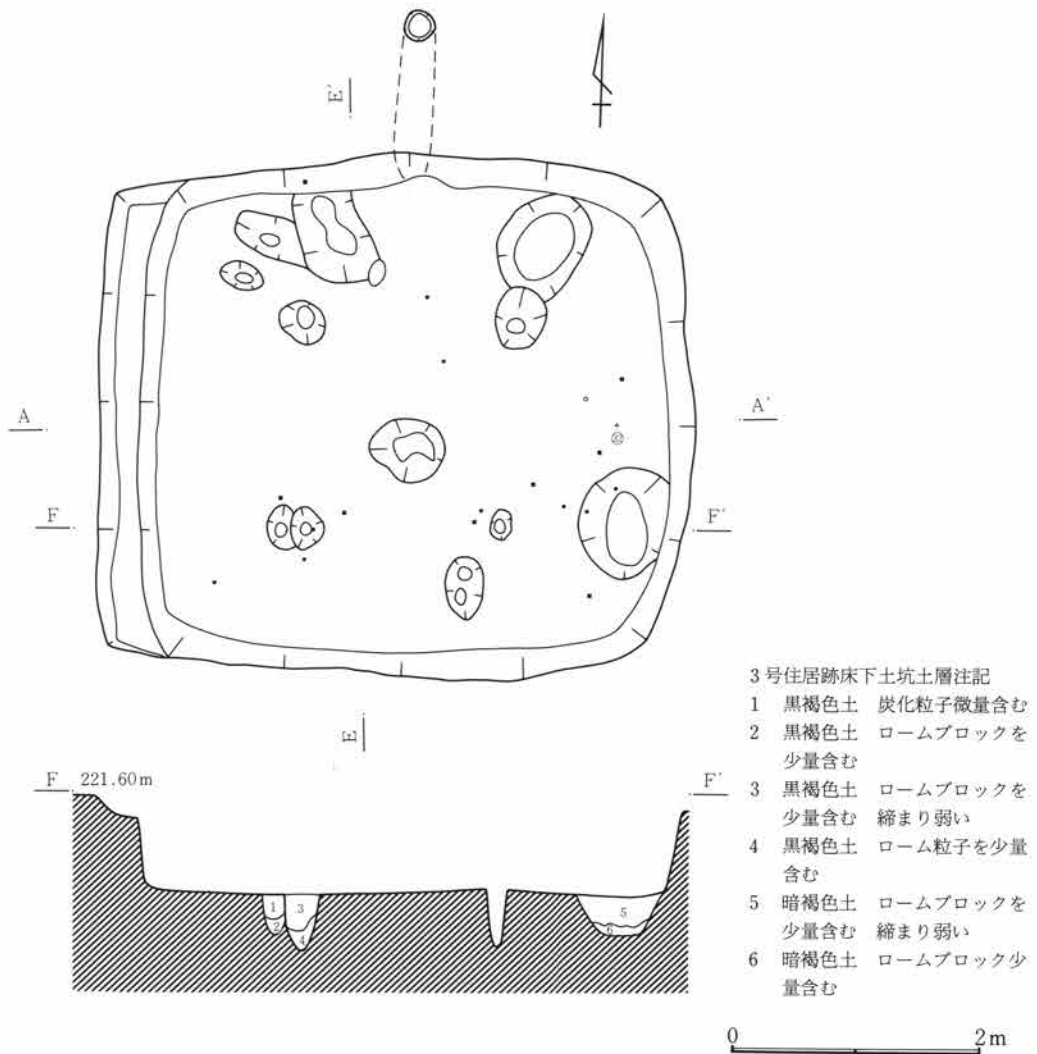
遺物出土状況 土師器甕の破片が数点出土しているだけで、他の遺物は出土していない。

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器坏・甕・鉢・甗、須恵器蓋が出土しており、他の住居に比べ土師器甕の割合が高い。石製品は、こも編石22点と加工痕のある凝灰岩の破片が2点出土している。他に古式土師器が80点、弥生土器が145点、縄文土器が25点と混入土器が多量に出土している。

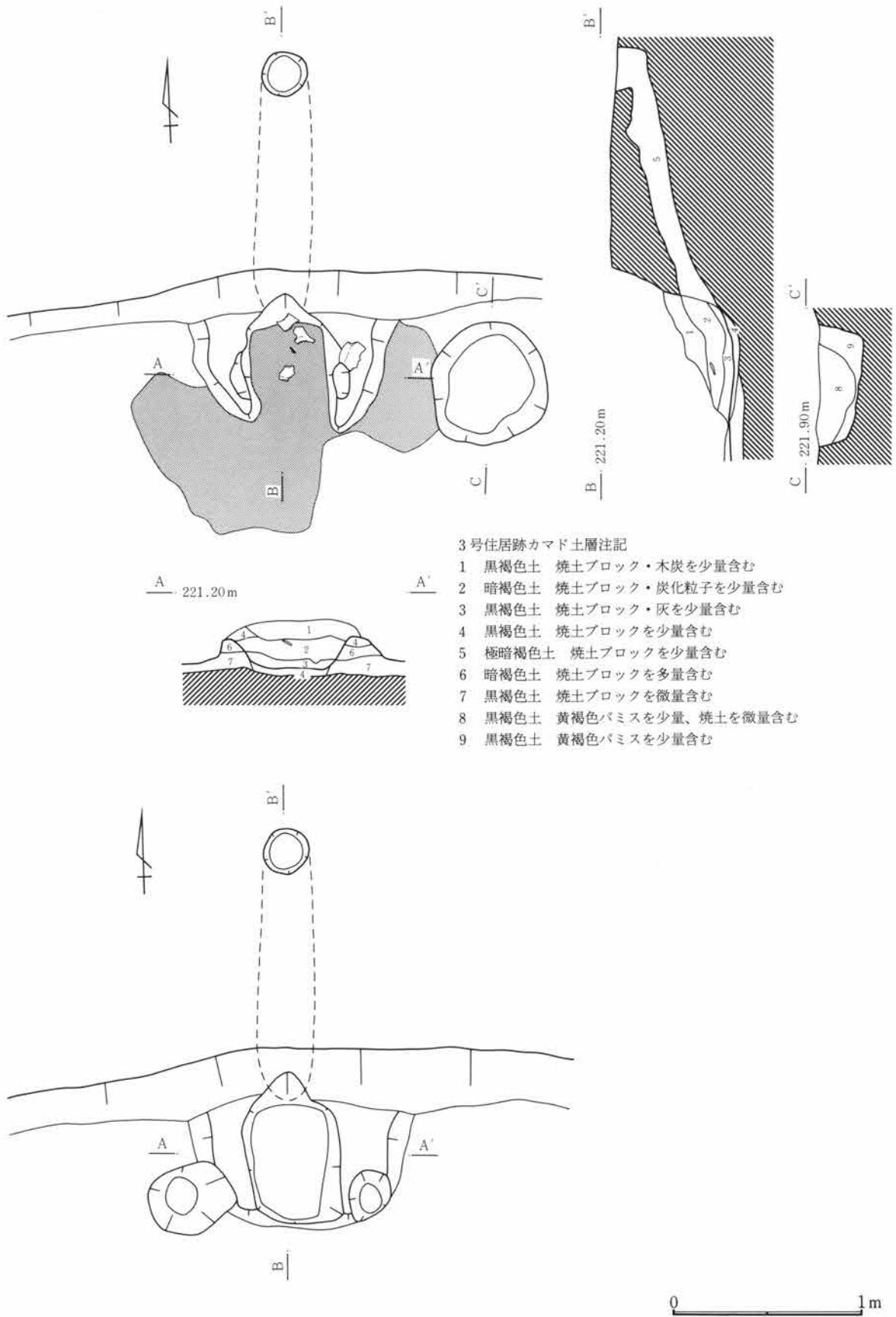
所見 図示した遺物はほとんど覆土中の出土で、住居で使用されたものがないため詳しい時期は不明であるが、6世紀後半～7世紀前半の住居と考えられる。

出土土器数量表

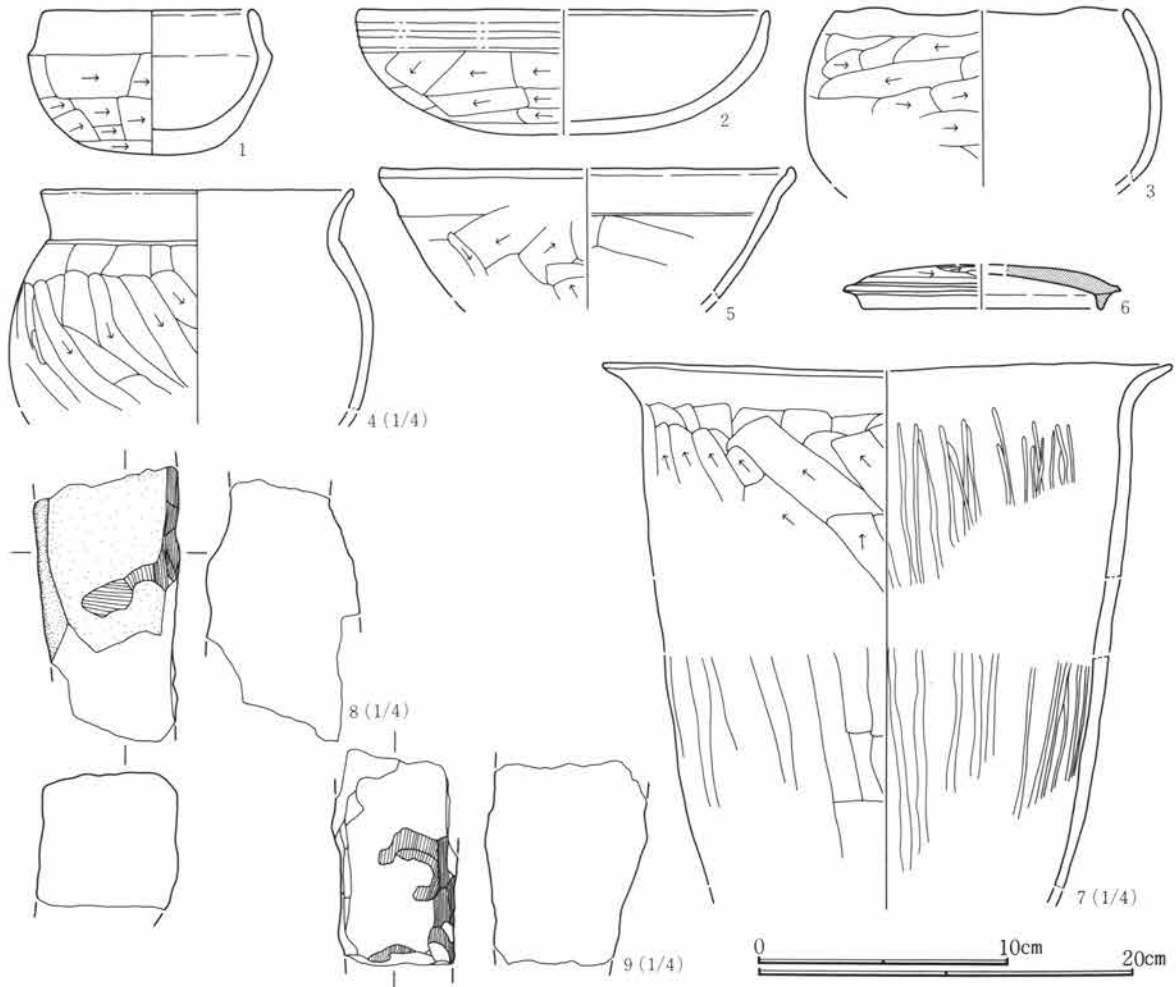
種別	土師器			須恵器	計
	坏	甕	鉢	蓋	
点数	64	461	6	1	532
重量(g)	990	6,860	350	15	8,215



第75図 3号住居跡掘り方



第76図 3号住居跡カマド



第77図 3号住居跡出土遺物

3号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北西 +36	①8.1cm ②5.6cm ③5.7cm ④ほぼ完形	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	北西 +40	①(16.2cm)②— ③4.9cm ④口～底1/2	①②にぶい黄褐 にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 3段の段あり 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
3	土師器 鉢(?)	覆土	①(15.6cm)②— ③[9.2cm] ④口縁部1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・バミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	X C	
4	土師器 甕	北東 +16	①(16.6cm)②— ③[11.6cm]④口～胴部	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④細 細砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII C	
5	土師器 鉢	北東 +32	①(22.0cm)②— ③— ④口縁部片	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂・細砂・バミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	X A	
6	須恵器 蓋	覆土	①(9.4cm) ②— ③1.7cm ④口縁部片	①灰白 黄灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整 天井部手持ち篋削り	III B	
7	土師器 甕(?)	南西 +36	①(30.4cm)②— ③[25.6cm]④口～胴1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・バミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ後放射状研磨	XI A	

3号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
8	不明	北東+6	14.6	7.9	8.2	900	破片	凝灰岩	側面鑿状工具による加工
9	不明	北東+6	10.3	6.8	8.6	705	破片	凝灰岩	側面鑿状工具による加工
10	こも編石	南東+10	15.2	8.5	3.7	720	完形	流紋岩	
11	こも編石	南西+6	14.4	5.8	4.4	580	完形	流紋岩	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
12	こも編石	南西+6	14.8	7.5	3.7	480	完形	砂岩	
13	こも編石	南西+8	13.0	8.0	3.3	465	完形	砂岩	
14	こも編石	南西+14	14.2	6.8	4.3	565	完形	安山岩	
15	こも編石	南西+10	14.0	8.4	4.1	790	完形	安山岩	
16	こも編石	南西+8	14.0	7.1	4.1	670	完形	安山岩	両面に敲打痕あり
17	こも編石	南西+10	12.6	6.3	3.7	470	完形	安山岩	
18	こも編石	南西+10	15.0	9.0	3.8	570	完形	安山岩	
19	こも編石	南西+6	15.8	7.2	4.0	650	完形	安山岩	
20	こも編石	南西+6	13.5	6.6	4.4	505	完形	安山岩	
21	こも編石	南西+8	13.5	6.2	3.4	420	完形	流紋岩	
22	こも編石	南西+10	15.3	7.8	3.7	580	完形	流紋岩	側面に一部敲打痕あり
23	こも編石	南西+6	13.6	8.2	3.9	625	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
24	こも編石	南西+6	11.6	10.6	4.0	410	完形	流紋岩	
25	こも編石	南西+8	11.4	8.1	3.1	500	完形	安山岩	
26	こも編石	北東+4	14.8	7.2	4.2	695	完形	安山岩	
27	こも編石	南西+4	13.7	7.9	4.7	790	完形	安山岩	
28	こも編石	南西+10	14.9	5.7	4.9	585	完形	玻璃質安山岩	
29	こも編石	南西+5	11.1	6.4	4.2	520	完形	安山岩	
30	こも編石	覆土	14.1	8.1	3.6	620	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
31	こも編石	南西+4	12.7	8.1	4.1	520	完形	安山岩	

8号住居跡

位置 C71・72-VI89~91Gr 重複 28号土坑より古 平面形態 隅丸方形もしくは隅丸長方形

規模 3.98m×[0.46m] 壁高 87cm やや傾斜している 面積 2.1㎡ 床面積 0.8㎡

主軸方位 N-16°-E 壁溝 不明 柱穴 不明 貯蔵穴 不明

床面 褐色土・黄褐色土で10~20cmの貼床を施している。北壁際しか調査できなかったため、全体は不明であるが、平坦な床面で、比較的軟弱である。

掘り方 調査区内だけでも長径20~60cmのピットが数基検出され、またカマド前から東壁際まで土坑状の掘り込みが検出された。

遺物出土状況 カマドから東壁にかけて集中して出土しており、またやや西よりも集中している部分がある。西壁際からはほとんど出土していない。垂直分布を見ると、上層から下層まで出土しているが、カマド焚き口付近には特に集中している。接合関係の判明するものは1点だけで、覆土中層の破片と焚き口付近のものが接合している。

カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-32°-E 規模 全長1.70m 幅1.15m 煙道部長1.07m

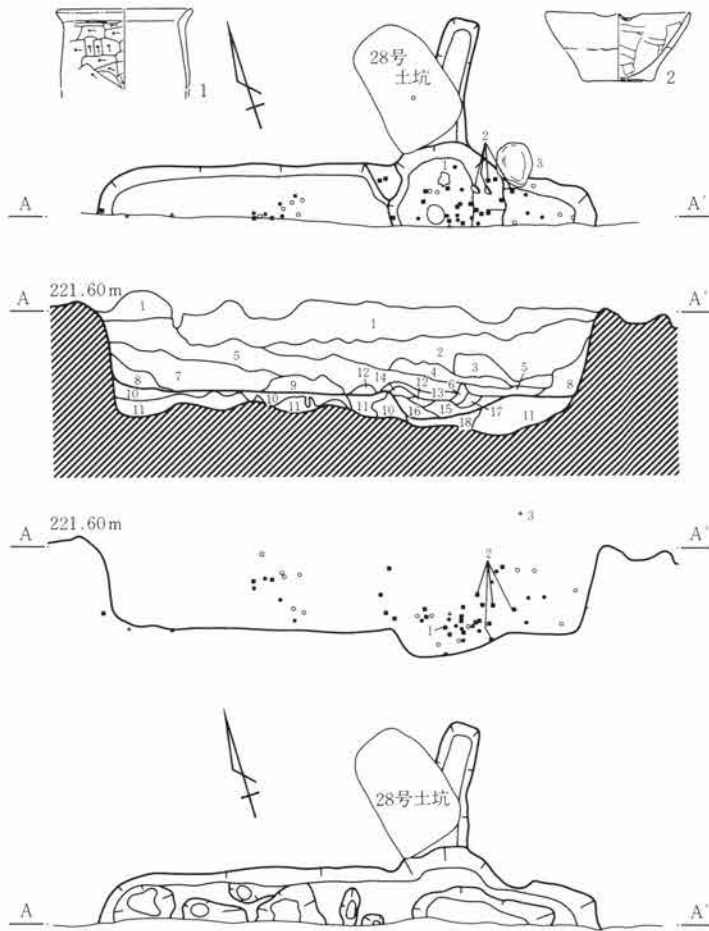
構築 褐色土で袖を構築している。焚き口からかなり深く掘り込まれており、火床面はあまり焼けていないためはっきりしないが、床面よりもかなり低くなっていたと考えられる。煙道部は手前は水平に近く延びているが、次第になだらかに立ち上がってくる。

遺物出土状況 焚き口部・燃焼部から多くの破片が出土しており、右袖上部から台石が出土している。

出土遺物 土器は、土師器・高坏・甕・小型鉢が出土しており、出土量はそれほど多くない。石製品は台石1点と用途不明の石が1点出土している。他に古式土師器が48点、弥生土器が13点出土している。

所見 出土遺物が少なく、残りの悪いものが多いため、住居の時期は不明であるが、6・7世紀代のものであることは間違いない。

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

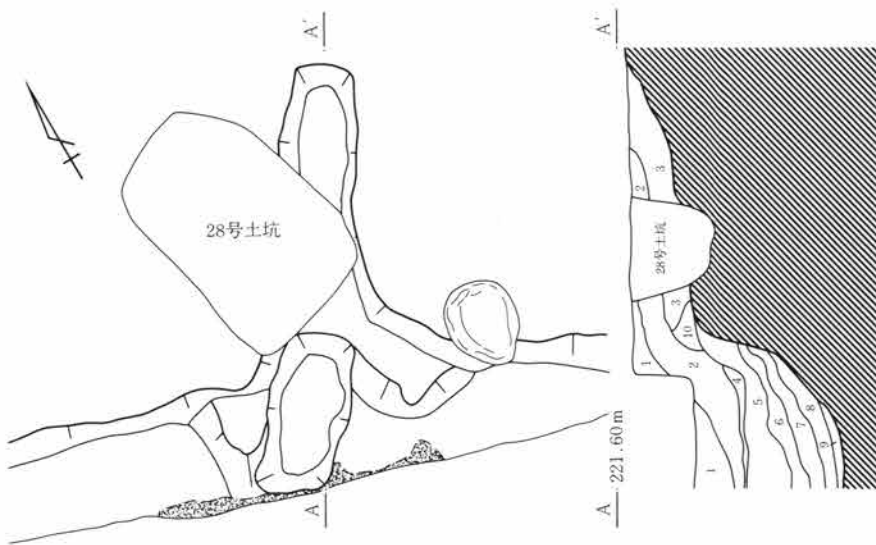


8号住居跡土層注記

- 1 黒褐色土 ローム・焼土粒子を少量含む
- 2 明褐色土 ロームブロック含む
- 3 黒褐色土 ロームブロック含む
- 4 黒褐色土 ローム・焼土ブロックを含む
- 5 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒子を少量含む
- 6 黒褐色土 木炭を含む
- 7 黒褐色土 ロームブロック、焼土粒子を含む
- 8 黒褐色土 ローム土を含む
- 9 褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む
- 10 褐色土 黄褐色土ブロックを斑状に含む(10・11層貼床)
- 11 黄褐色土 ローム土を主とし、黒褐色土ブロックを少量含む
- 12 黄褐色土 ロームブロック
- 13 明褐色土 ロームと黒褐色土の混合土
- 14 黒褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを含む
- 15 褐色土 灰、焼土を含む
- 16 にぶい褐色土 ロームブロック、焼土、木炭を含む
- 17 褐色土 木炭、焼土、灰、ロームブロックを含む
- 18 褐色土 褐色パミスを含む

第78図 8号住居跡

0 2m



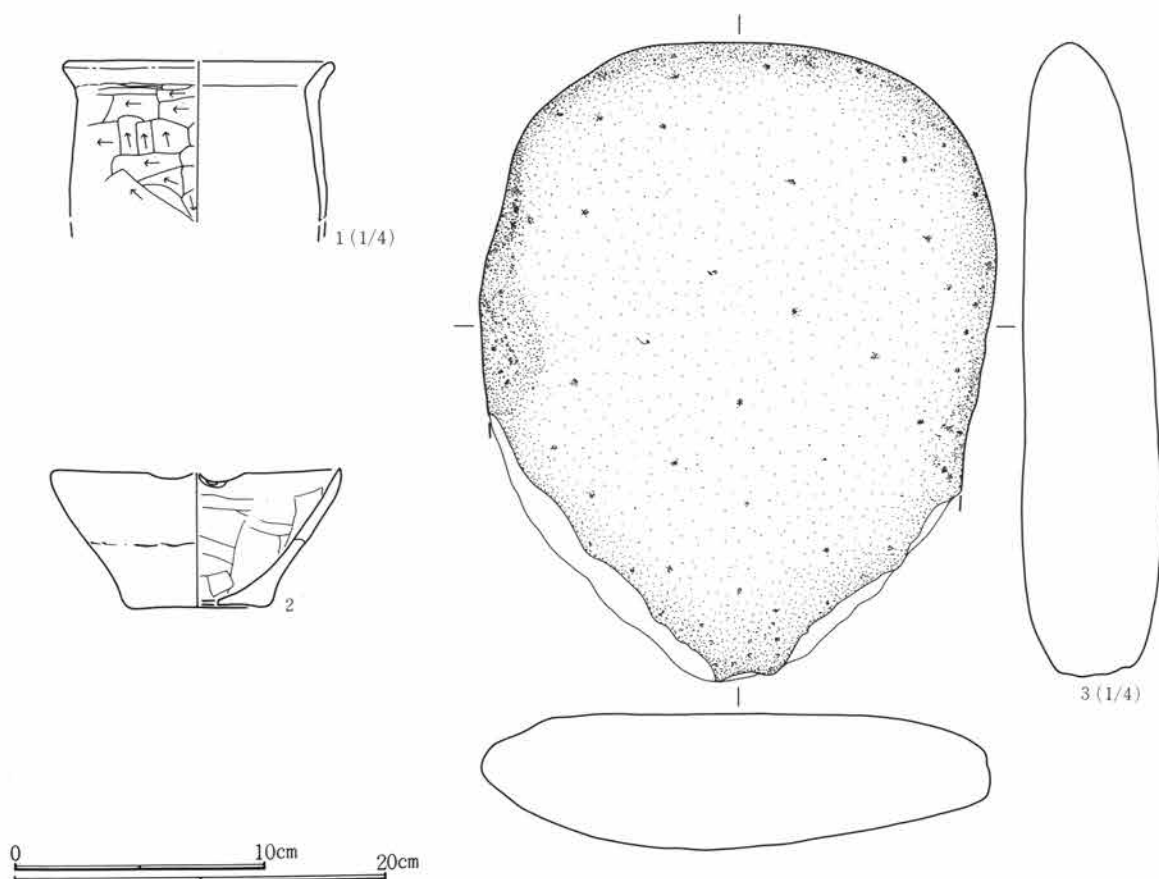
8号住居跡カマド土層注記

- 1 黒褐色土 ローム粒子含む
- 2 黒褐色土 ロームブロックを微量含む
- 3 褐色土 焼土ブロック含む
- 4 褐灰色土 粘土とロームの混合土、焼土ブロック含む
- 5 黒褐色土 ロームブロック、焼土ブロックを含む
- 6 暗赤褐色土 焼土ブロック、灰を多量含む
- 7 黒褐色土 焼土ブロック、灰を多量含む
- 8 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
- 9 褐色土 灰・焼土を主とし、褐色パミスを含む

第79図 8号住居跡カマド

0 1m

第三章 検出された遺構と出土遺物



第80図 8号住居跡出土遺物

8号住居跡出土土器観察表

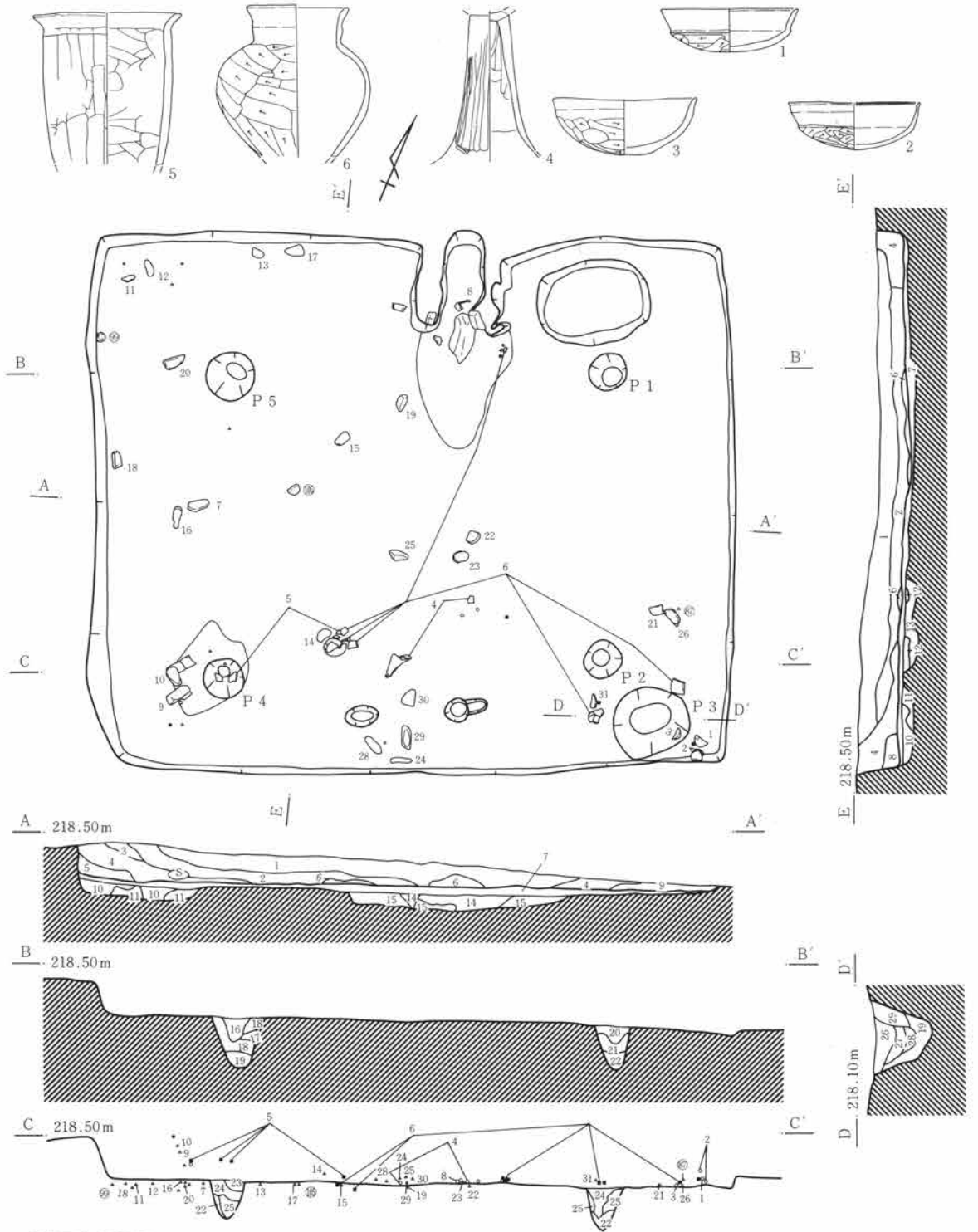
No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 甕	北東 +20	①(14.0cm)②- ③- ④口~胴1/5	①②にふい褐 ③良好 ④細 細砂・雲母を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面削り内 面ナデ	VII 1	
2	土師器 小型鉢	北東 +4	①(15.3cm)②(8.0cm) ③7.6cm ④口~底1/3	①②にふい橙 ③良好 ④普通 粗砂・細砂を含む	口~胴外面指頭圧痕内面篋ナデ 底部外面木葉痕	XI	口縁部片 口状の凹

8号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
3	台石	北東+94	33.8	27.2	7.5	11000	一部欠損	安山岩	表面摩滅

出土土器数量表

種 別	土 師 器				計
	坏	高坏	甕	小型鉢	
点 数	15	1	34	1	51
重量(g)	100	25	495	170	790



9号住居跡土層注記

- 1 黒褐色土 褐色パミス、炭化粒子含む 2 黒色土 褐色パミス、ローム・炭化粒子含む 3 暗褐色土 褐色パミス、ローム・炭化粒子含む
- 4 暗褐色土 褐色パミス、炭化・ローム粒子多量含む 5 暗褐色土 褐色パミス・ローム粒子含む 6 黒褐色土 ロームブロックを含む
- 7 黒褐色土 ローム粒子を多量含む 8 暗褐色土 褐色パミス、炭化粒子、ロームブロック含む 9 黄褐色土 褐色パミス、ローム粒子含む
- 10 黒褐色土 褐色パミス、ローム含む 11 黄褐色土 褐色パミスを多量含む 12 黒褐色土 褐色パミスを少量含む
- 13 明黄褐色土 MPを少量含む 14 褐色土 褐色・白色パミス、黒褐色土、ローム含む 15 明黄褐色土 褐色パミスを含む
- 16 黒褐色土 17 黒褐色土 褐色パミス含む 18 褐色土 ロームブロック含む 19 暗褐色土 ローム土 20 黒褐色土 ロームブロック含む
- 21 褐色土 ロームを主とする 22 褐色土 色調やや暗い 23 褐色土 ローム土 24 暗褐色土 ロームブロック少量含む
- 25 暗褐色土 ロームブロック少量含む 26 暗褐色土 褐色パミス少量含む 27 暗褐色土 褐色パミス、炭化粒子を少量含む
- 28 暗褐色土 夾雑物の少ない土 29 褐色土 ロームブロック含む

第81図 9号住居跡

9号住居跡

位置 C30~34-VII26~30Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形
規模 6.22m×5.14m 壁高 52cm 垂直に近い 面積 28.3m² 床面積 26.1m²
主軸方位 N-18°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出されている(P3は位置・規模から見て柱穴とは考えられない)。また南壁際中央に1対の小ピットが検出されており、入り口施設の可能性がある。

P1 長径38cm短径34cm深さ42cm P2 長径38cm短径32cm深さ42cm P3 長径72cm短径62cm深さ58cm

P4 径38cm深さ36cm P5 長径48cm短径46cm深さ48cm

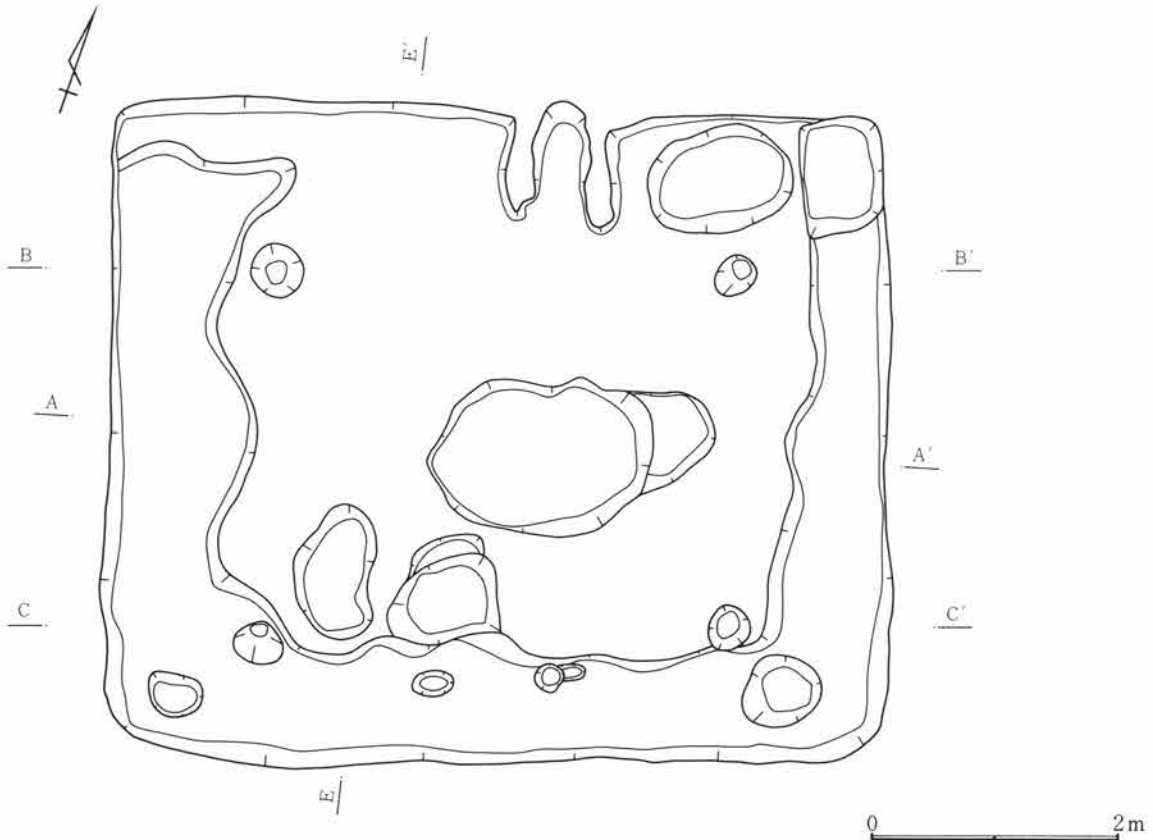
貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径1.1m 短径0.8m 深さ41cm

形状 平面形態は楕円形で底部は広がっているが、東に傾斜している。立ち上がりは垂直に近い。

床面 黒褐色土で貼床としているが、溝状・土坑状に掘り込まれている部分以外は約5cmと非常に薄い。

掘り方 東壁・南壁・西壁にかけて、壁際に幅60~120cm深さ10~20cmの溝状の掘り込みが検出され、中央部には180×120cm深さ15cmの土坑状の掘り込みが検出されており、他にピットが数基検出されている。

遺物出土状況 出土量は少なく住居内に散在しているが、比較的大きな破片が多い。またこも編石も住居内に散在している。垂直分布を見ると、床面付近から出土しているものが多く、こも編石も大部分は床面付近出土である。接合関係の判明するものは4点あるが、かなり広範囲で接合しているものもあり、1点覆土中の破片が接合しているが、他はすべて床面付近のものが接合している。



第82図 9号住居跡掘り方

カマド

位置 北壁やや東寄り 主軸方位 N-15°-W 規模 全長1.01m 幅0.91m

構築 砂岩の切り石を袖石とし、黄褐色土で袖を構築しており、天井石と思われる砂岩も焚き口付近から出土している。火床面は床面とほぼ同レベルでよく焼けている。掘り方は比較的浅いが、床面よりやや深くなっている。

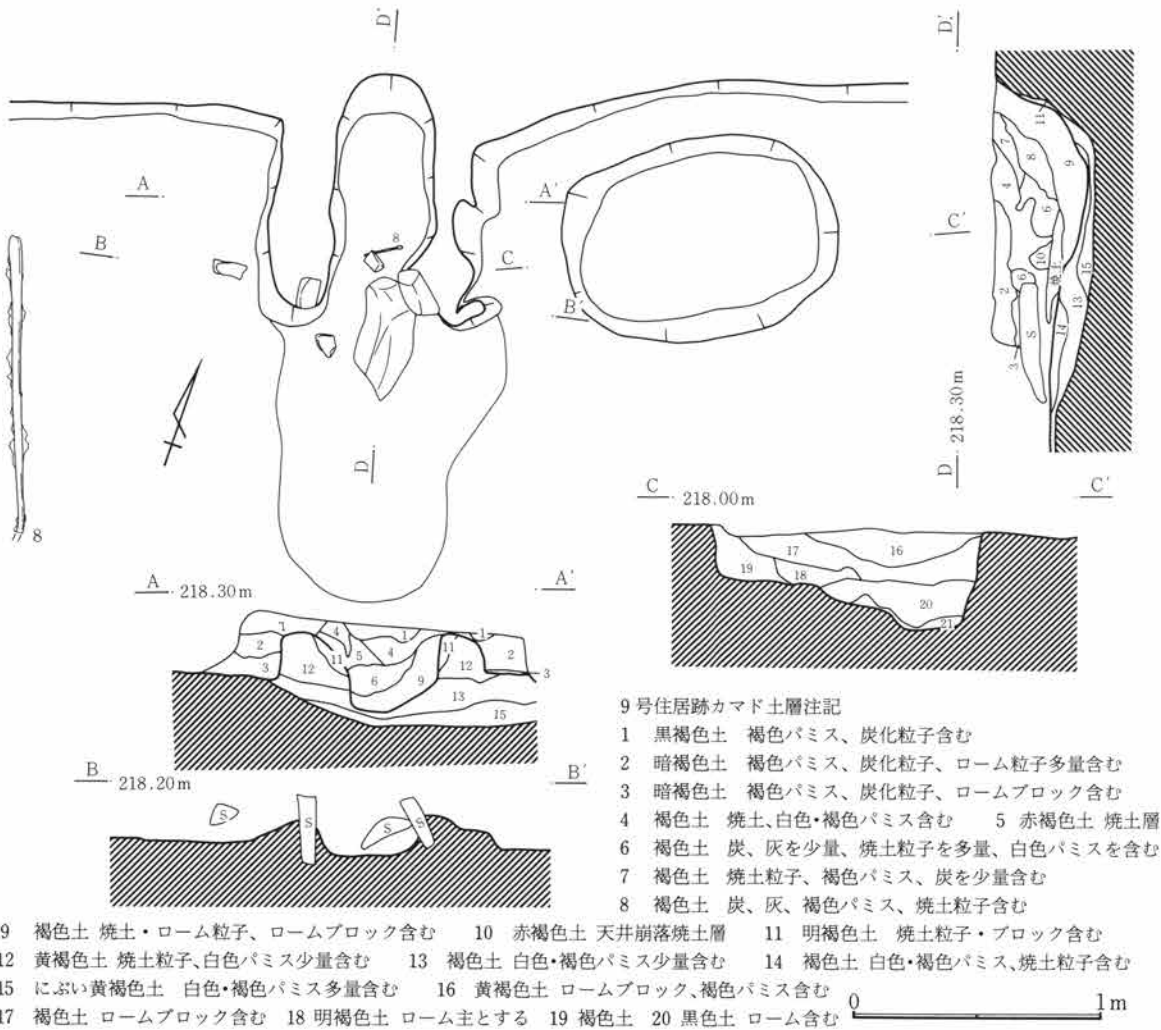
遺物出土状況 焚き口部付近から鉄鏝が出土している他は土器が数点出土しているだけである。

出土遺物 土器は、出土量は少ないが残りの良いものが多く、6点図示できた。土師器坏・高坏・埴・甕が出土しており、石製品は台石1点、こも編石26点が出土している。他に、古式土師器2点、弥生土器1点が出土している。

所見 床面付近出土の1～4の坏・高坏は、住居で使用もしくは非常に近い時期のものの可能性が高いため、住居の時期は6世紀後半～7世紀前半と考えられる。

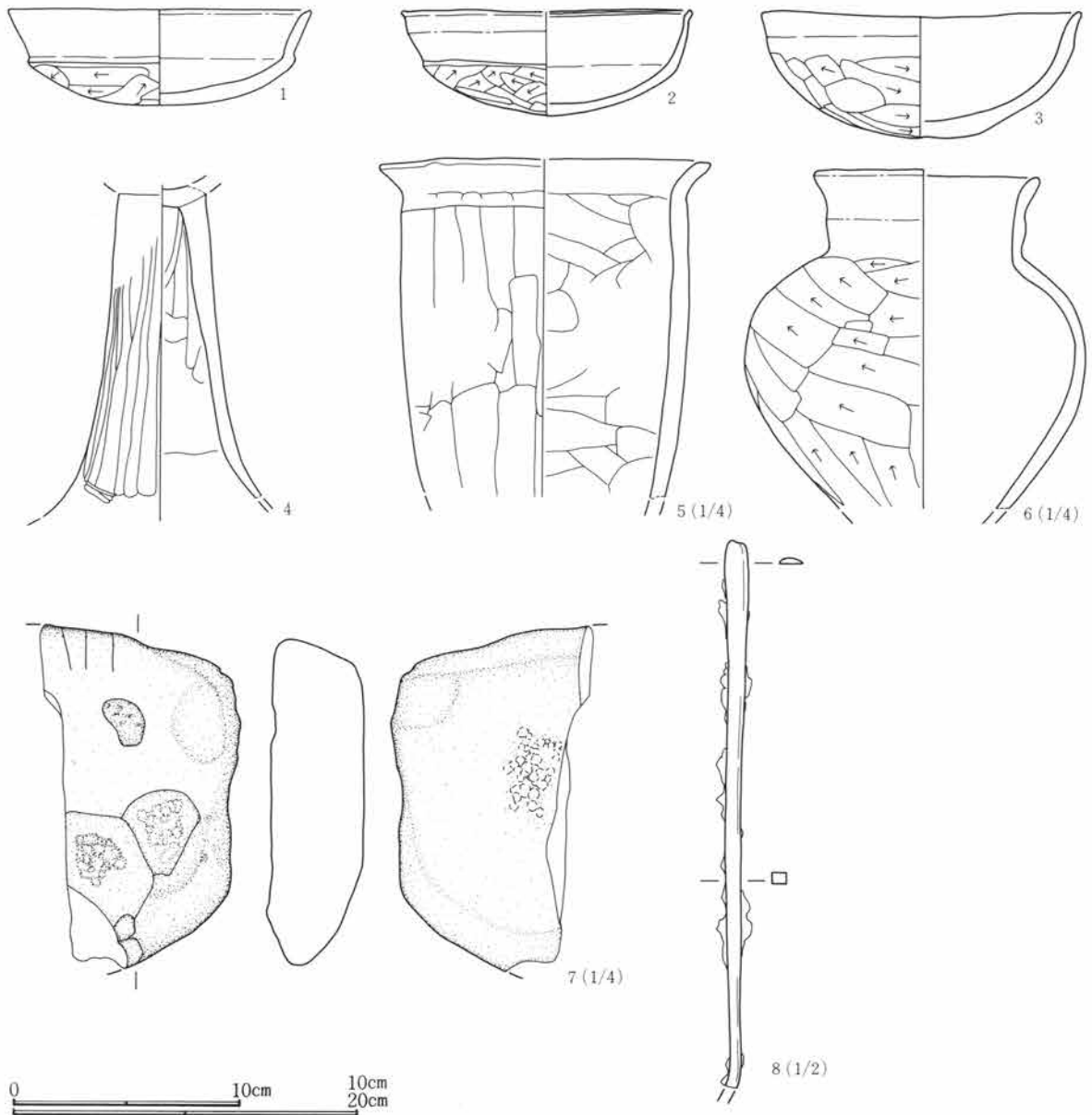
出土土器数量表

種別	土師器				計
器種	坏	高坏	埴	甕	
点数	9	2	6	14	31
重量(g)	455	545	105	805	1,910



第83図 9号住居跡カマド

第III章 検出された遺構と出土遺物



第84図 9号住居跡出土遺物

9号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	南東 +8	①11.8cm ③4.1cm	②- ④ほぼ完形	①②明赤褐 ③良好 ④細 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	南東 +6	①12.5cm ③4.5cm	②- ④口～底2/3	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 粗砂・パミスを含む	口唇部に沈線 口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
3	土師器 坏	南東 +2	①13.0cm ③4.5cm	②- ④口～底2/3	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ 体部に一部指頭圧痕	I C	
4	土師器 高 坏	南西 +4	①- ③-	②- ④脚部3/4	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂・パミスを多く含む	脚部外面篋削り内面篋磨きか 脚端部横ナデ	V C	
5	土師器 甕	南西 +6	①(19.4cm) ③-	②- ④口～胴1/5	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面横ナデ 胴部外面に粘土附着	VII A	
6	土師器 甕	南東 -5	①(13.0cm) ③[19.5cm]	②- ④口～胴2/3	①②にぶい橙 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VII C	

9号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
7	台石	北西-2	19.6	11.6	5.5	1000	1/2	安山岩	表面に敲打痕裏面に線状のキズあり
9	こも編石	南西-3	18.2	7.3	5.9	1100	完形	千枚岩	
10	こも編石	南西+28	23.0	7.5	7.8	2300	完形	流紋岩	
11	こも編石	南西+32	20.6	8.2	5.7	1500	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
12	こも編石	北西-5	15.8	8.7	6.0	1200	完形	礫岩	
13	こも編石	北西-3	15.0	7.4	7.1	1200	完形	安山岩	
14	こも編石	北西-3	12.6	7.6	4.4	560	完形	安山岩	
15	こも編石	南西+8	16.0	8.3	5.5	1000	完形	安山岩	
16	こも編石	北西-3	14.9	8.6	7.8	1300	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
17	こも編石	南西-2	18.8	8.7	5.7	1100	ほぼ完形	安山岩	
18	こも編石	南西-3	17.7	9.1	4.2	1000	完形	緑簾緑泥片岩	
19	こも編石	北西-3	14.8	6.0	5.5	770	完形	安山岩	
20	こも編石	北西-2	15.7	7.1	6.8	1300	完形	閃緑岩	
21	こも編石	南東+2	16.6	10.2	5.8	1500	完形	安山岩	
22	こも編石	南東-1	15.0	8.4	4.3	900	完形	安山岩	
23	こも編石	南東+2	13.8	6.6	4.4	520	完形	安山岩	
24	こも編石	南西+7	18.6	10.4	5.1	1300	完形	安山岩	
25	こも編石	南西+9	12.8	7.8	7.1	830	完形	安山岩	
26	こも編石	南東+8	15.3	10.5	6.6	1200	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
27	こも編石	覆土	15.3	7.1	6.2	900	完形	安山岩	
28	こも編石	南西+6	20.8	8.9	6.5	1800	完形	流紋岩	
29	こも編石	南西+3	20.2	8.8	7.1	1900	完形	流紋岩	
30	こも編石	南西+6	13.9	9.7	3.5	630	完形	緑簾緑泥片岩	
31	こも編石	南東+20	16.5	8.1	6.6	1100	完形	輝岩	

9号住居跡出土鉄器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
8	鉄鏃	カマド	15.8	0.7	0.4	12.1	茎部一部欠損	端刃鑿箭式 茎部やや曲がる

10号住居跡

位置 C37・38-VII28・29Gr 重複 11・14号住より新 平面形態 隅丸方形

規模 2.72m×2.4m 壁高 30cm やや傾斜している 面積 6.2m² 床面積 5.6m²

主軸方位 N-8°-W 壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

床面 暗褐色土で10~20cmの貼床を施しているが、軟弱な床面である。

掘り方 ピットが2基検出されているが、他は平坦な掘り方である。

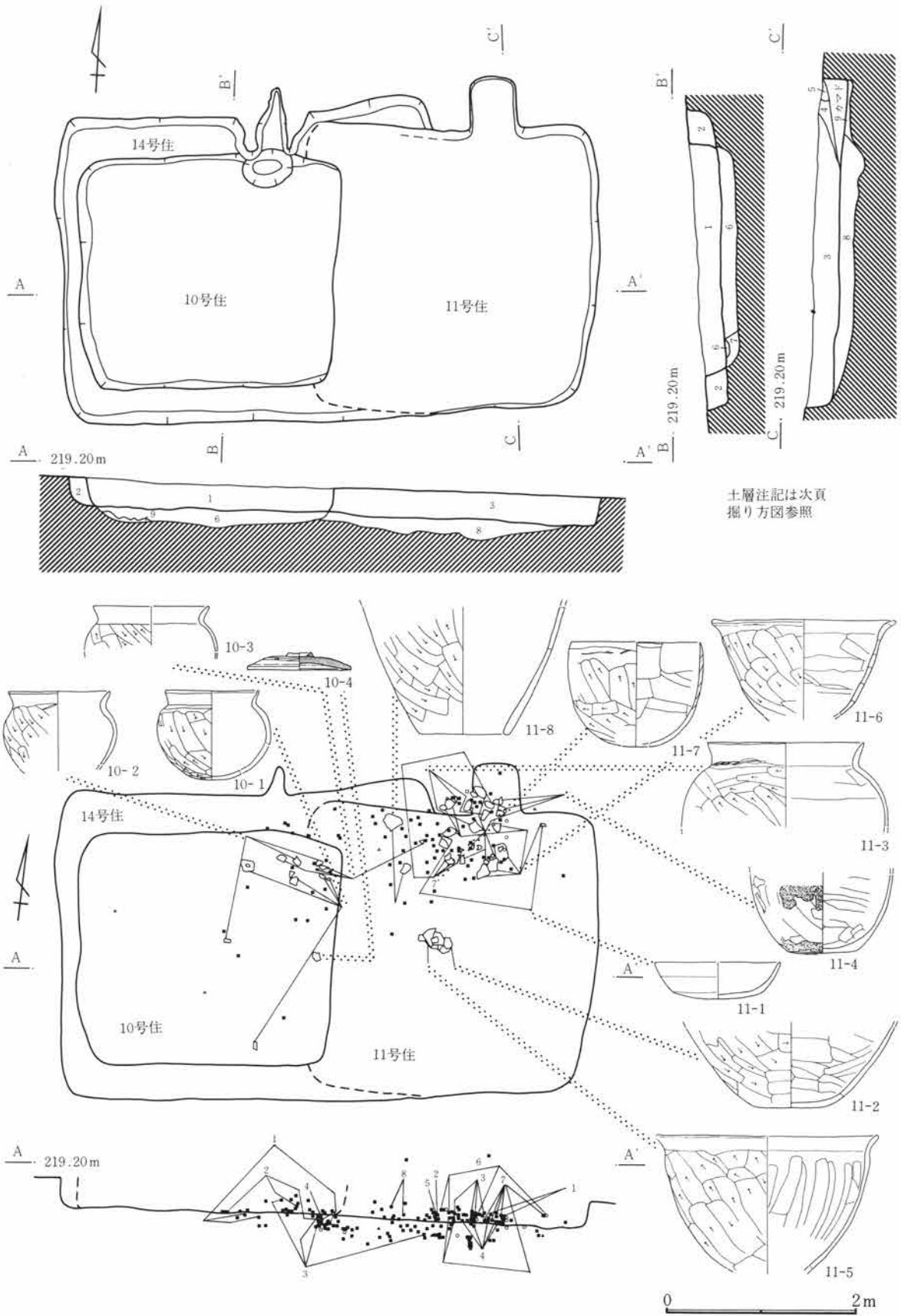
遺物出土状況 出土量は多いが、出土位置の記録できた遺物は少ない。出土位置の分かるもので見ると、住居の東側から集中して出土しており、西側からはほとんど出土していない。垂直分布では床面付近のものが多くなっている。接合関係の判明するものは3点あり、すべて床面付近の破片が接合しているが、11号住の破片と接合しているものが1点ある。

カマド 北壁東寄りにピットが存在し、その北側にカマドがあるが、北壁の位置から考えるとカマドは10号住のものとするはできず(14号住のカマドと考えられる)、またピットもこのカマドに伴うと考える方が自然であるため、10号住のカマドは不明である。

出土遺物 土器は土師器坏・甕・小型甕、須恵器蓋が出土しており、出土量はやや多いが、坏に比べ甕の割合が非常に高い。他に弥生土器1点、縄文土器1点が出土している。

所見 規模が小さくカマドも検出されていないため、住居とするには疑問も残るが、土層断面ではっきり確認できた。残りの良い遺物が少ないため詳しい時期は不明であるが、8世紀中～後半代の住居と考えられる。

第III章 検出された遺構と出土遺物



第85図 10・11・14号住居跡

出土土器数量表

種別	土器			計
	器種	坏	甕 <small>、</small> 小型甕	
点数	18	127	3	148
重量(g)	135	1,500	685	2,320

11号住居跡

位置 C37・38-VII27～29Gr 重複 14号住より新・10号住より古

平面形態 隅丸方形であるが北西隅部がやや北に出ており、歪んだ形になっている。

規模 3.0m×3.0m 壁高 31cm やや傾斜している 面積 8.4㎡ 床面積 7.9㎡

主軸方位 N-4°-W 壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

床面 ロームを含む黒褐色土で10～20cmの貼床を施しているが、軟弱な床面である。

掘り方 東壁際を幅30～70cmでテラス状に掘り残しており、北西部には長径150cm短径70cmの土坑状の掘り込みがあり、他にピットが2基検出されている。

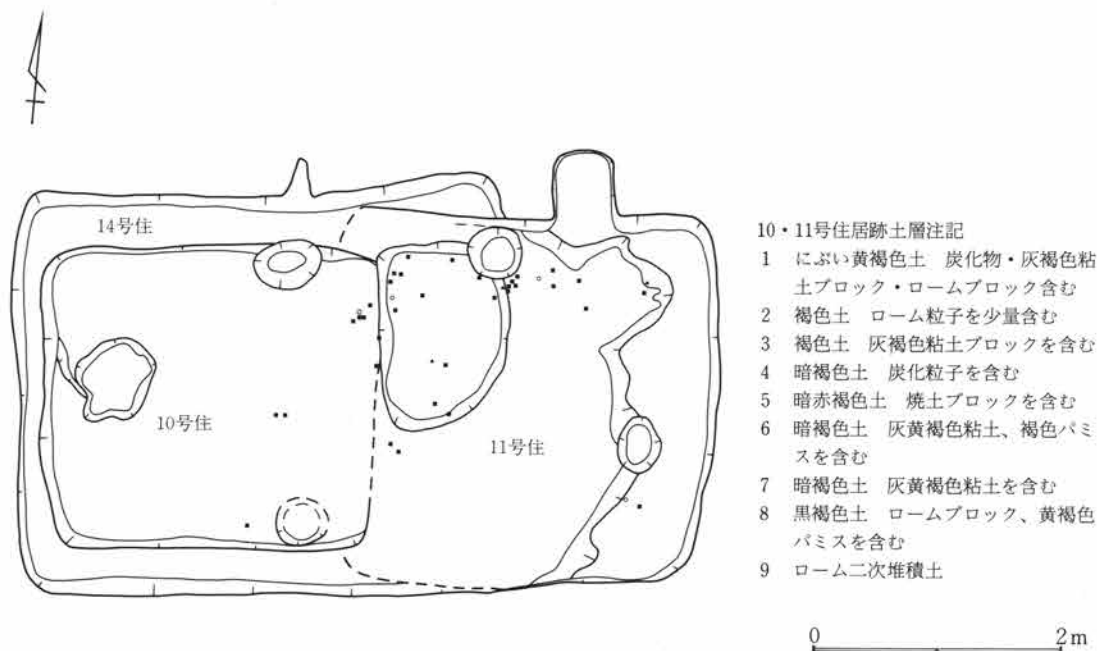
遺物出土状況 カマドおよびその周辺に集中しており、住居南部からはほとんど出土していない。垂直分布を見ると、覆土下層・床面付近から多く出土しており、覆土上層からはほとんど出土していない。また、床下からも比較的多くの土器が出土している。接合関係の判明するものは6点あり、覆土下層～床面のものが接合している。1点10号住の土器と接合しているものがある。

カマド

位置 北壁やや東寄り 主軸方位 N-6°-W 規模 全長0.65m 幅0.48m

構築 北壁にカマドと考えられる掘り込みが検出されているが、形態は長方形に近く、また袖石は右側に1点出土してはいるが、他に袖石・天井石等は出土しておらず、粘土・焼土等もほとんど検出されていないため、カマドの構造ははっきりしない。

遺物出土状況 出土量は多く、土器の大部分がカマド周辺から出土している。接合する破片も多い。



第86図 10・11・14号住居跡掘り方

第三章 検出された遺構と出土遺物

出土遺物 土師器坏・甕・鉢・甗、須恵器瓶・不明土器が出土している。土師器坏・甕が圧倒的に多く、他のものは1～3点だけである。他に弥生土器が1点出土している。

所見 確実に住居使用の遺物が少ないため詳しい時期は不明であるが、8世紀中～後半代の住居と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器				須恵器		計
	坏	甕	鉢	甗	瓶	不明	
点数	12	38	1	1	1	3	56
重量(g)	257	3,350	375	375	40	55	4,452

14号住居跡

位置 C37・38-VII27～29Gr

重複 10・11号住より古

平面形態 東西に長い隅丸長方形であるが、北東隅部が北にずれて歪んだ形となっている。

規模 3.99m×3.31m **壁高** 25cm 垂直に近い **面積** 13.0m² **床面積** 11.2m²

主軸方位 N-10°-W **壁溝** なし

柱穴 なし **貯蔵穴** なし

床面 ほとんど10・11号住に切られているため不明な点が多いが、残っている部分には貼床は施されておらず、軟弱な床面である。

掘り方 10・11号住に切られているため不明。

カマド

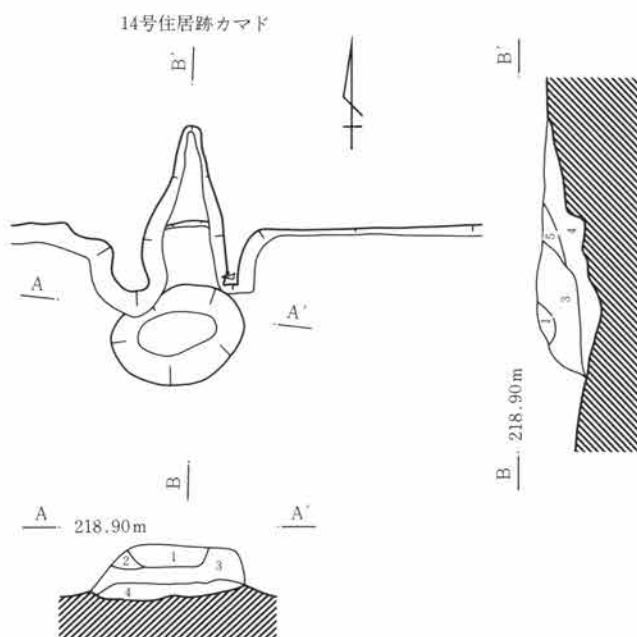
位置 北壁やや東寄り

主軸方位 N-2°-W

規模 全長1.23m 幅1.35m 煙道部長0.4m

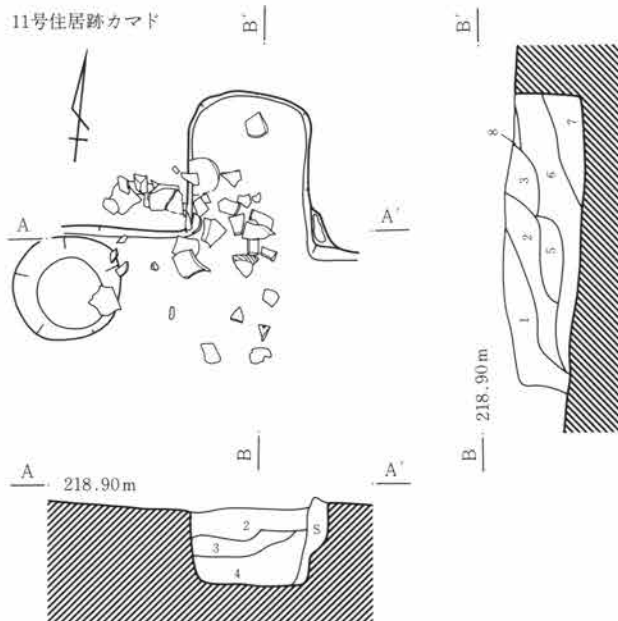
構築 粘土を含む黄褐色土で袖を構築しており、袖石・天井石等は出土していない。焚き口部には浅いピット状の掘り込みがあるが、ほとんど焼けていない。煙道部は、途中段をもって緩やかに立ち上がっている。

出土遺物 14号住として取り上げた遺物はないが、10・11号住の遺物中に混入の可能性あり。



14号住居跡カマド土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 焼土粒子、灰褐色粘土ブロックを含む
- 2 にぶい黄褐色土 焼土粒子、灰褐色粘土ブロックを含む
- 3 暗褐色土 ローム粒子を含む 4 黒褐色土 ローム粒子を少量含む
- 5 黒褐色土 ローム粒子を含む



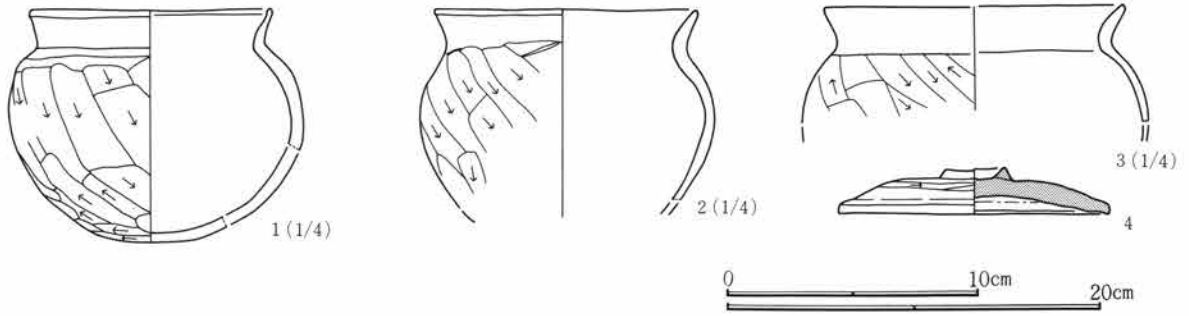
11号住居跡カマド土層注記

- 1 黒褐色土 焼土粒子、炭化物、灰褐色パミスを含む
- 2 黒褐色土 焼土粒子、炭化物、灰褐色パミスを少量含む
- 3 にぶい赤褐色土 焼土を主とする 4 明黄褐色土 焼土粒子、炭化物含む
- 5 黒褐色土 焼土粒子、炭化物を少量、灰褐色パミスを含む
- 6 にぶい黄褐色土 焼土ブロック、炭化物、褐色パミスを含む
- 7 褐色土 炭化物を少量含む 8 暗褐色土

0 1m

第87図 14・11号住居跡カマド

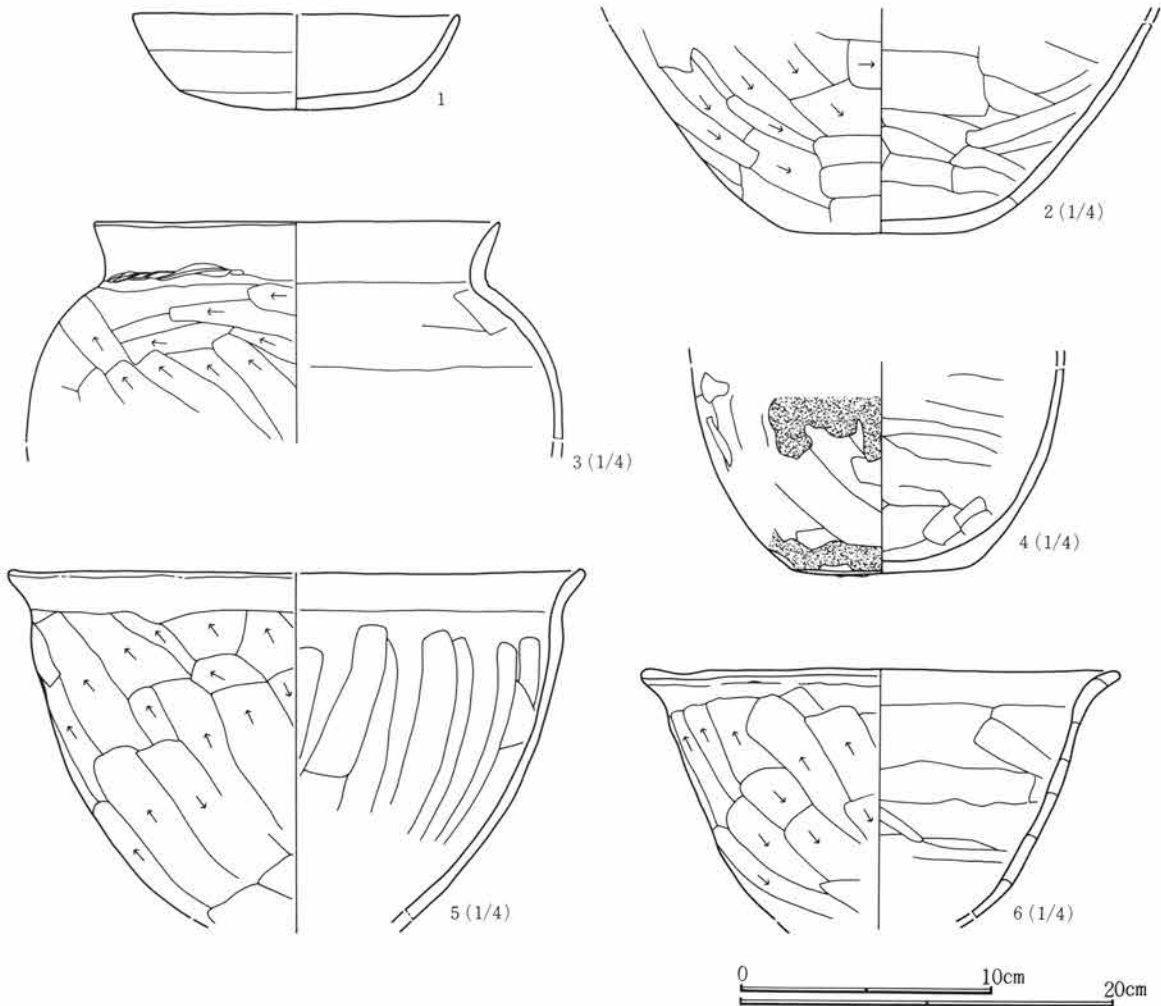
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第88図 10号住居跡出土遺物

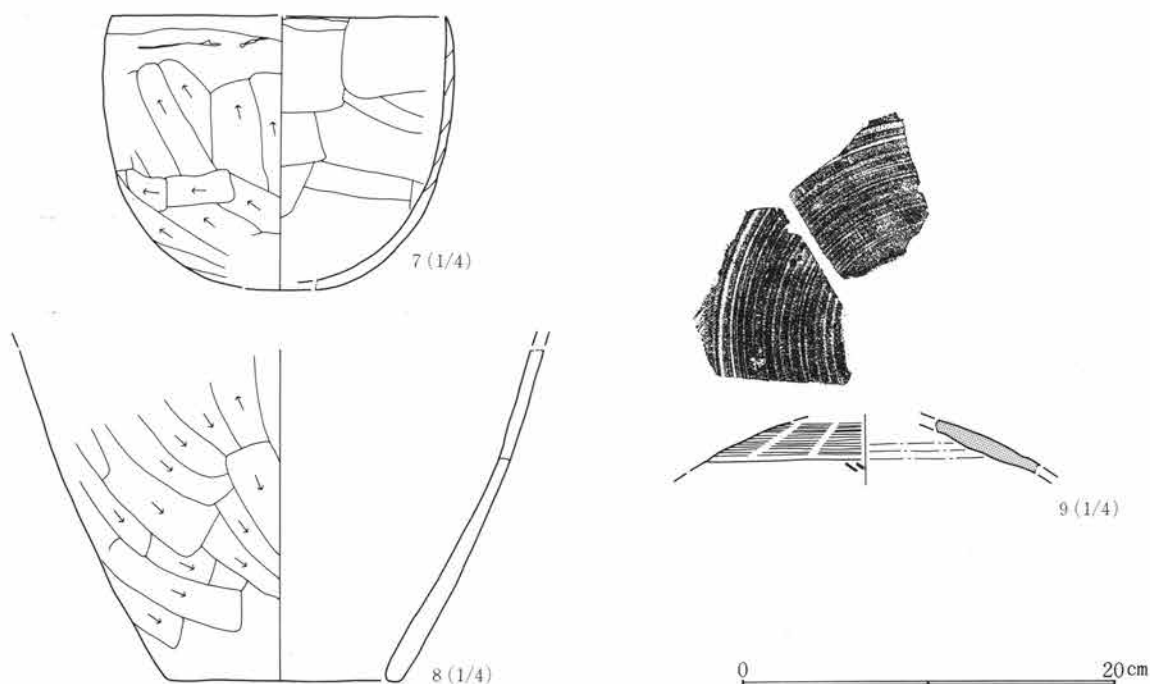
10号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 小型甕	北東 - 8	①12.8cm ②- ③12.2cm ④口~底2/3	①にふい橙 ②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VIII	
2	土師器 小型甕	北東 - 6	①(14.0cm)②- ③[10.0cm]④口~胴部	①②褐 ③良好 ④普通 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VIII	
3	土師器 小型甕	北東 - 14	①(16.0cm)②- ③- ④口~胴1/2	①にふい褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VIII	
4	須恵器 蓋	南東 - 2	①10.8cm 鈕径2.4cm ③1.8cm ④天井~口2/3	①②灰白 ③還元焰 不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整 天井部外面回転篋削 り 鈕部貼付け	III D	



第89図 11号住居跡出土遺物(I)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第90図 11号住居跡出土遺物(2)

11号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北西 + 4	①(13.0cm)②(9.4cm) ③3.8cm ④口~底1/3	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り 内面ナデか	I E	
2	土師器 甕	北東 - 6	①- ②10.0cm ③- ④胴~底部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂・礫を少量含む	胴~底部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
3	土師器 甕	北東 + 5	①(21.4cm)②- ③- ④口~胴1/4	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
4	土師器 甕	北東 - 3	①- ②9.2cm ③- ④胴~底2/3	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂・礫を少量含む	胴~底部外面篋削り内面篋ナデ 胴部外面に一部粘土附着	VII A	
5	土師器 鉢	北西 + 6	①(31.0cm)②- ③- ④口~胴1/3	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	X B	
6	土師器 鉢	北東 ± 0	①25.0cm ②- ③- ④口~胴部	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面一部篋ナデ	X B	
7	土師器 鉢	北西 ± 0	①(17.8cm)②- ③14.5cm ④口~胴1/2	①②橙 ③不良 ④普通 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	X A	
8	土師器 甕	北西 + 6	①- ②(12.6cm) ③- ④胴~底1/4	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	胴部外面篋削り内面ナデ	XII A	
9	須恵器 瓶	覆土	①- ②- ③- ④肩部片	①②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・白色粒子を少量含む	ロクロ調整 櫛状工具による列点 文	V	

所見 出土遺物がないため時期不明。

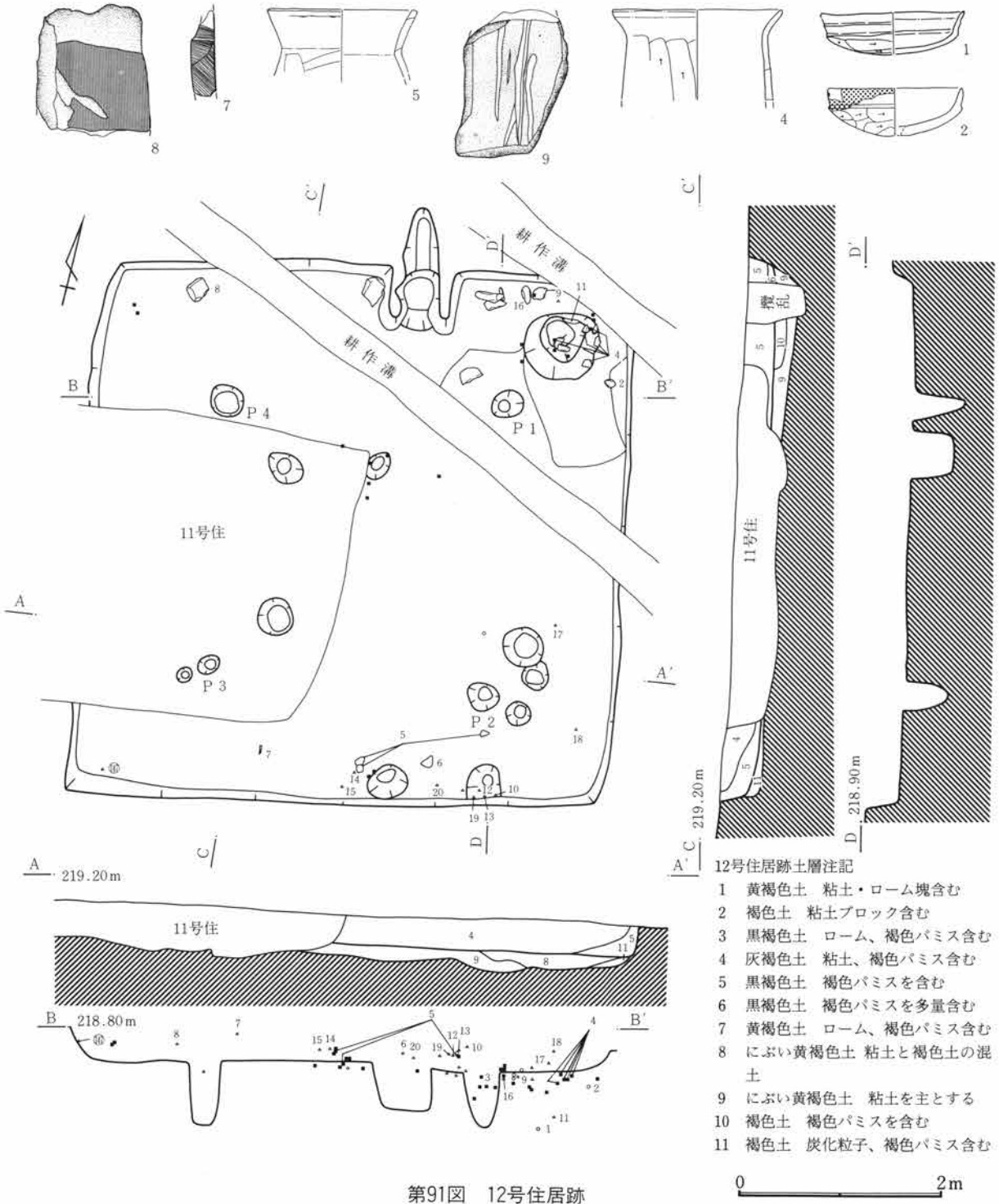
12号住居跡

位置 C 36～39-VII26～29Gr 重複 11号住居より古 平面形態 正方形 規模 5.28m×5.14m

壁高 32cm 垂直に近い 面積 26.6m² 床面積 25.8m² 主軸方位 N-12°-W

壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出されている。他に床面から数基ピットが検出されているが、いずれも位置、規模等から柱穴とは考えられない。ただ南壁際の2基は、やや東に寄ってはいるが、入り口施設の可能性がある



第91図 12号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

考えられる。

P 1 長径32cm短径28cm深さ54cm P 2 長径32cm短径28cm深さ46cm P 3 長径24cm短径16cm深さ52cm

P 4 長径36cm短径32cm深さ64cm

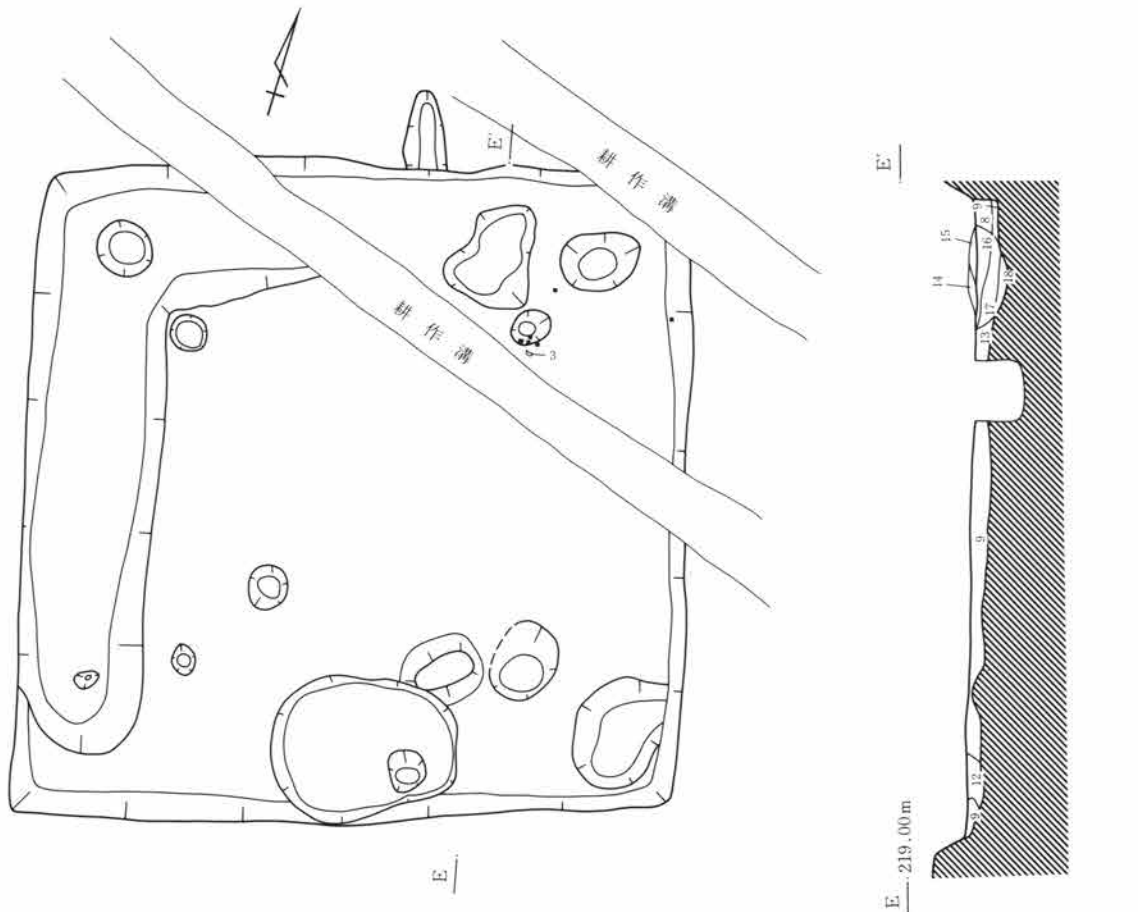
貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.75m 短径0.64m 深さ59cm

形状 平面形態は東西にやや長い楕円形で、断面形態は、底部がやや丸みを帯び、途中に緩い段をもって立ち上がっている。

床面 粘土を含む黄褐色土で貼床としているが、厚さは5～20cmと薄い。

掘り方 西壁際から北壁際の一部にかけて溝状に掘り込まれており、その底部からピットが2基検出されている。また、カマド右脇、南壁際中央、南東隅に土坑状の掘り込みがある。カマド右脇の掘り込み覆土には、粘土・焼土が含まれているため、カマドの作り替えの可能性がある。

遺物出土状況 出土量は少なく住居内に散在しているが、貯蔵穴内およびその周辺と南壁際やや東寄りから比較的多く出土している。貯蔵穴から多くの遺物が出土している特徴がある。垂直分布を見ると、覆土中層から床面付近にかけて多くなっている。接合関係の判明するものは2点あり、床面付近が接合しているものと、覆土下層と床面付近が接合しているものがある。



12号住居跡貼床土層注記

- 12 褐色土 灰黄褐色粘土ブロック含む 13 暗褐色土 褐色パミス、炭化物を含む 14 暗褐色土 焼土粒子を少量、黒色灰含む
 15 褐色土 焼土・炭化粒子、褐色パミスを含む 16 褐色土 焼土粒子を少量、灰黄褐色粘土粒子、灰褐色パミスを含む
 17 暗褐色土 焼土・炭化粒子、褐色パミス少量含む
 18 褐色土 焼土粒子、灰黄褐色粘土ブロック、灰褐色パミスを含む

第92図 12号住居跡掘り方

カマド

位置 北壁やや東寄り 主軸方位 N-10°-W 規模 全長1.22m 幅0.53m

構築 灰黄褐色粘土で袖を構築しており、内側は強く焼けている。袖石・天井石等は出土していない。火床面は床面より若干低くなっておりこも強く焼けている。煙道部はやや斜めに立ち上がっているため、北側は削平されていて不明である。

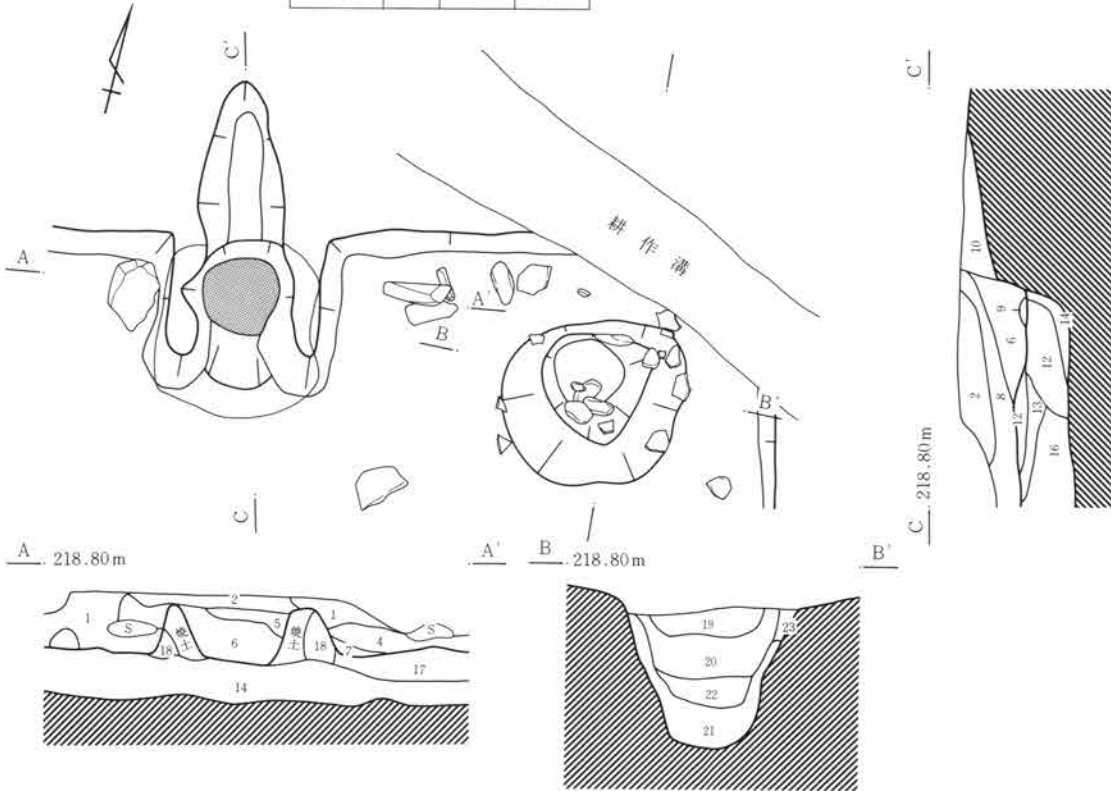
遺物出土状況 カマド内からの出土遺物はほとんど無い。

出土遺物 出土量は少なく、土器は土師器坏・甕が出土しており、石器は、滑石製模造品1点、砥石2点、こも編石12点が出土している。他に弥生土器が1点出土している。

所見 残りの良い遺物は少ないが、床面付近および貯蔵穴出土の坏は当住居のものである可能性が高いため、住居の時期は、6世紀後半～7世紀前半と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器		計
	坏	甕	
点数	6	88	94
重量(g)	275	1,580	1,855



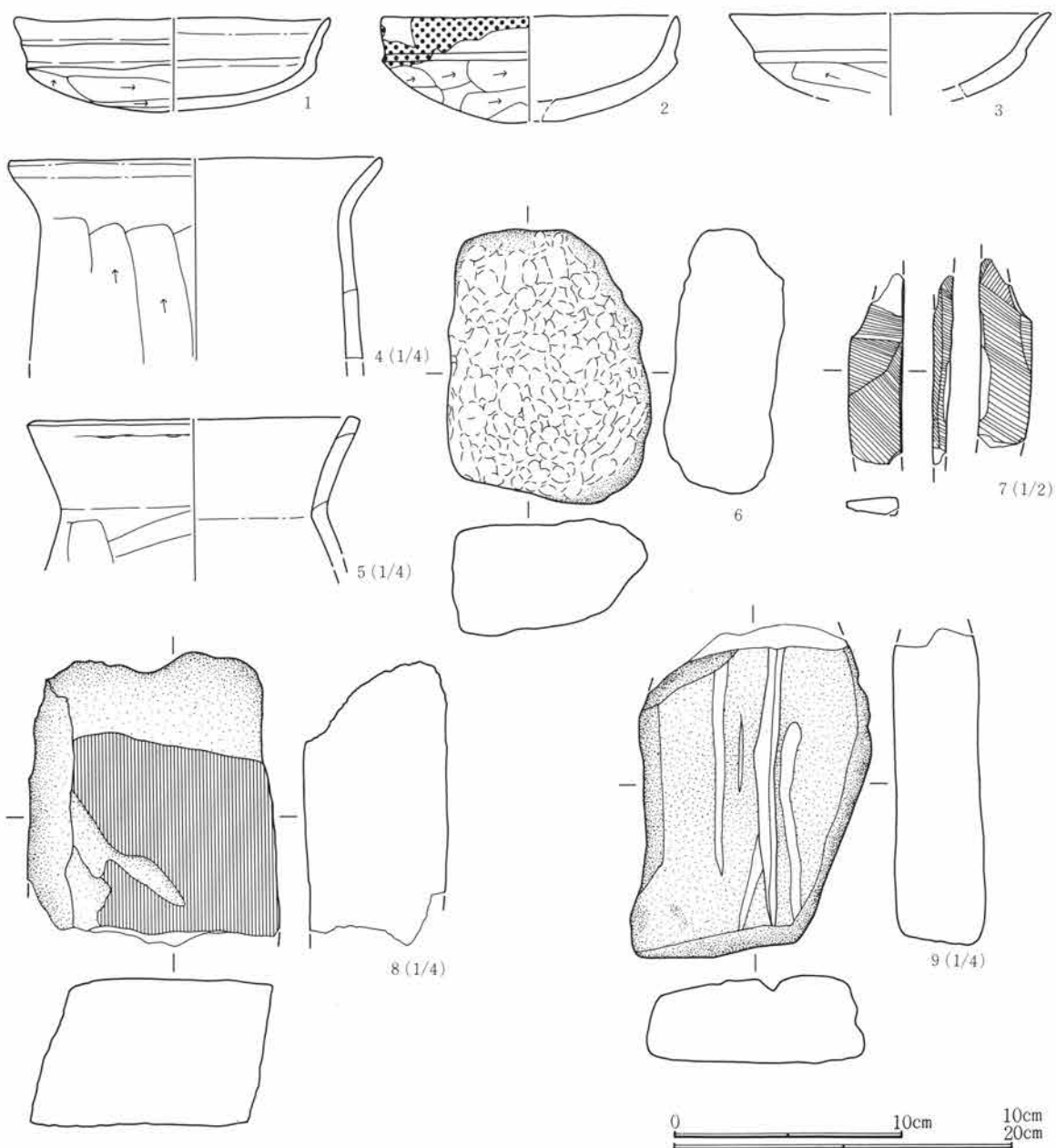
12号住居跡カマド土層注記

- 1 褐色土 褐色パミスを含む
- 2 褐色土 焼土粒子、褐色パミスを含む
- 3 灰黄褐色粘土 焼土粒子を含む
- 4 褐色土 焼土粒子含む
- 5 におい赤褐色土 焼土粒子多量含む
- 6 におい赤褐色土 焼土粒子、灰褐色粘土ブロック多量含む
- 7 におい黄褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを多量含む
- 8 におい赤褐色土 焼土粒子を多量、灰褐色粘土ブロックを含む
- 9 焼土層 灰を含む
- 10 褐色土 焼土粒子を少量含む
- 11 褐色土 焼土粒子、褐色パミスを含む
- 12 におい赤褐色土 焼土粒子を多量、炭化物を少量含む
- 13 におい赤褐色土 炭化物を少量、焼土ブロックを含む
- 14 暗褐色土 黄褐色パミスを含む
- 15 におい黄褐色土 黄褐色パミス、灰褐色パミス、鉄分凝集ブロックを含む
- 16 におい黄褐色土 黄褐色パミス、灰褐色パミスを含む
- 17 褐色土 焼土ブロック、炭化物を含む
- 18 灰黄褐色土 粘土層
- 19 黒褐色土 褐色パミス含む
- 20 黒褐色土 褐色パミス含む 色調暗い
- 21 暗褐色土 褐色パミス、ローム・粘土ブロック含む
- 22 暗褐色土 粘土ブロック、褐色パミス含む
- 23 褐色土 ローム粒子を含む

0 1m

第93図 12号住居跡カマド

第三章 検出された遺構と出土遺物



第94図 12号住居跡出土遺物

12号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 坏	貯蔵穴	①(13.6cm)②— ③4.0cm ④口~底1/2	①にぶい褐 ②明赤褐 黒褐 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	北東 -16	①(13.0cm)②— ③4.5cm ④口~底1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ 口縁部に漆(?)附着	I C	
3	土師器 坏	北東 -6	①(14.0cm)②— ③— ④口~体1/4	①②橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
4	土師器 甕	北東 -6	①(22.0cm)②— ③— ④口縁部1/3	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	
5	土師器 甕	南東 +8	①(18.0cm)②— ③— ④口縁部1/3	①②褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII A	

12号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
6	敲打石(?)	南東+12	12.8	8.9	4.8	470	完形	凝灰岩	片面に敲打痕あり
7	石製模造品(?)	南西+28	5.7	16.0	0.5	5	完形	輝緑岩	表面粗い研磨
8	砥石	北西+22	[17.0]	14.7	8.7	2900	1/2	砂岩	片面使用
9	砥石	北東-8	14.4	10.6	3.7	700	完形	砂岩	片面使用 研ぎ溝3条
10	こも編石	南東+28	15.6	6.9	4.9	815	完形	流紋岩	
11	こも編石	貯蔵穴	16.6	7.5	4.0	675	完形	流紋岩	
12	こも編石	南東+18	14.3	8.2	3.7	760	完形	流紋岩	
13	こも編石	南東+22	14.1	7.0	3.5	590	完形	緑泥片岩	
14	こも編石	南東+14	13.6	7.5	5.8	900	完形	安山岩	
15	こも編石	南東+14	11.6	6.3	5.0	515	完形	安山岩	
16	こも編石	北東-12	16.9	8.0	4.2	650	完形	安山岩	
17	こも編石	南東+10	14.3	5.4	5.1	670	完形	絹雲母石墨片岩	
18	こも編石	南東+22	14.4	6.7	3.7	620	完形	絹雲母石墨片岩	
19	こも編石	南東+20	14.2	6.8	6.0	520	完形	絹雲母石墨片岩	
20	こも編石	南東+8	14.5	8.0	8.0	745	完形	絹雲母片岩	

13号住居跡

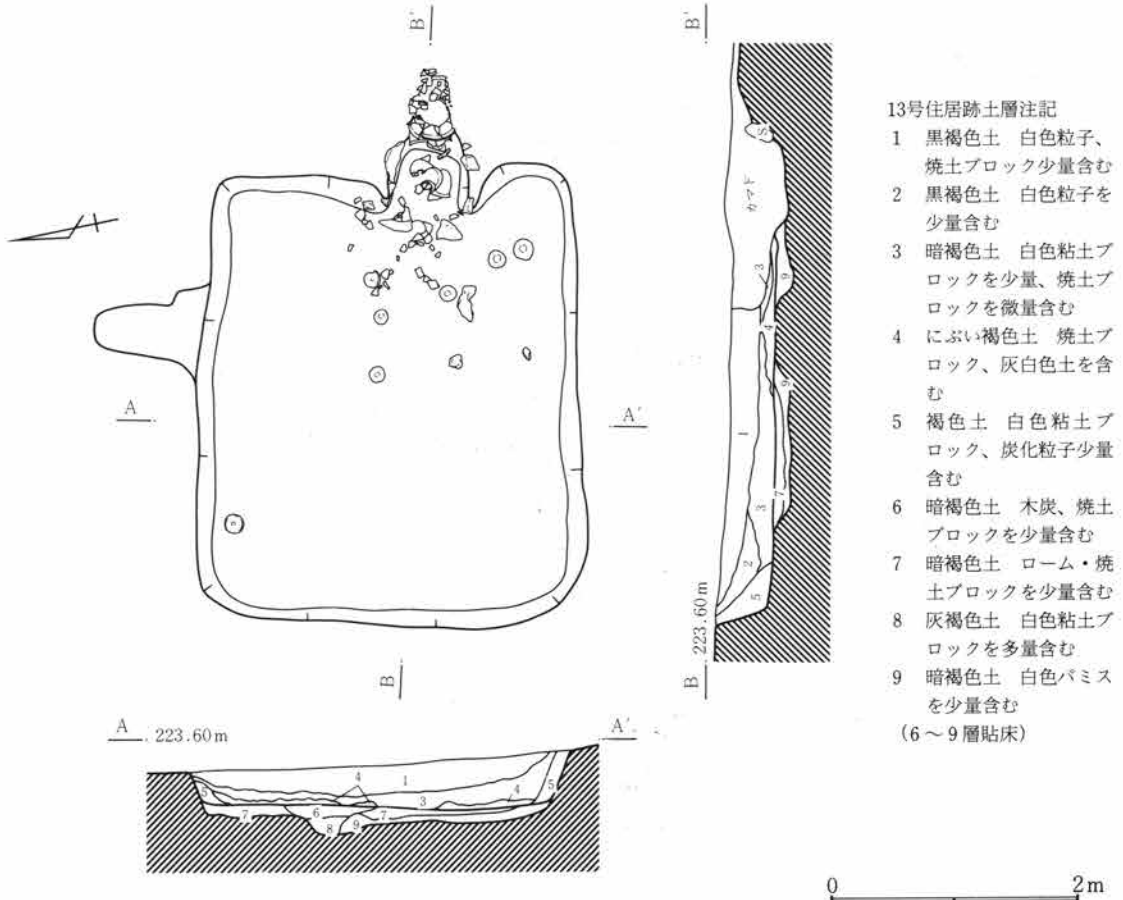
位置 C55~57-VII59~61Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 3.7m×3.12m 壁高 48cm やや傾斜している 面積 11.2m² 床面積 8.9m²

主軸方位 N-98°-E 壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

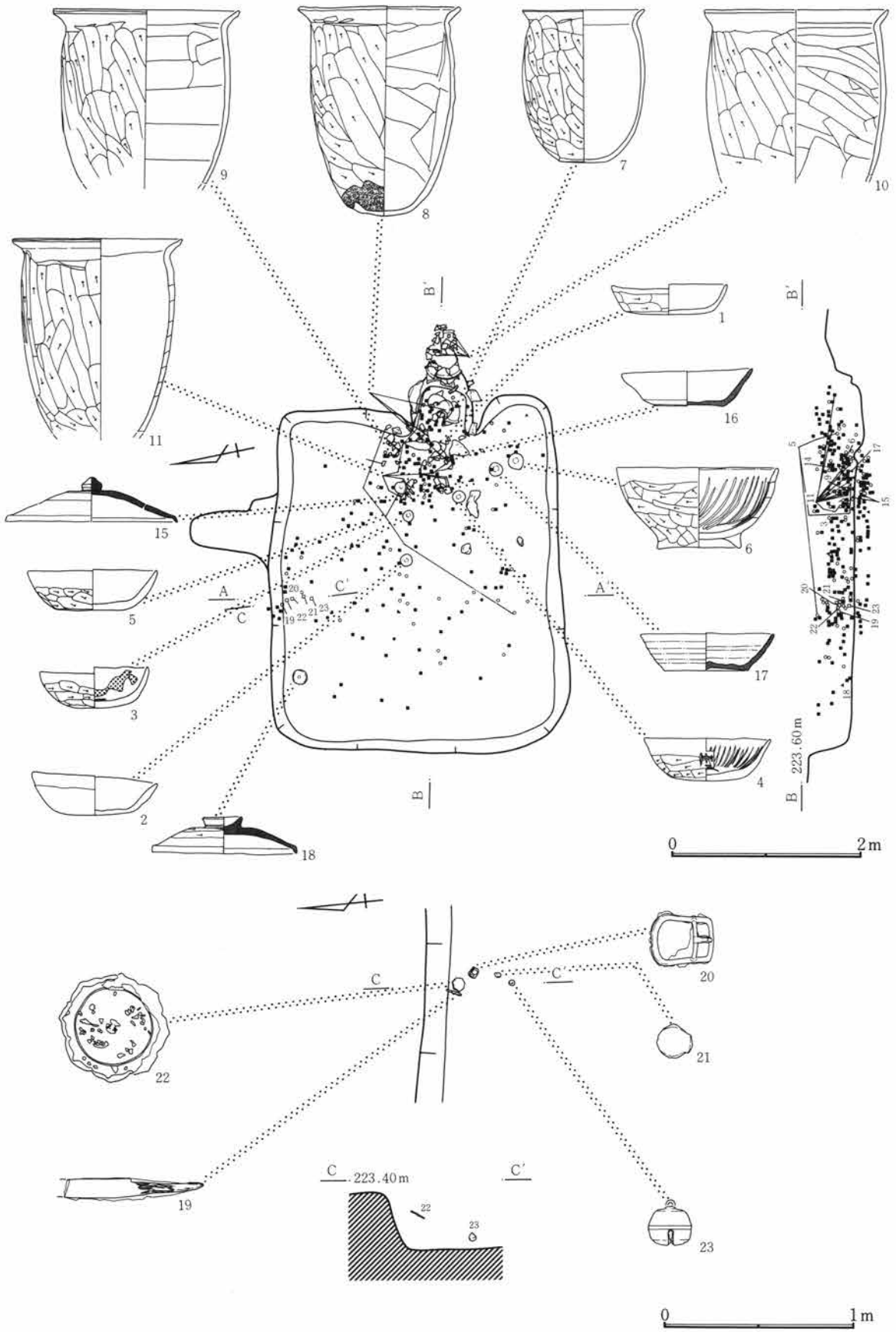
床面 ローム・焼土を含む暗褐色土で厚さ10~25cmの貼床としているが、貼床の施されていない部分もある。

ほぼ水平で平坦な床面であり、比較的良好に踏み固められている。



第95図 13号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物



第96図 13号住居跡遺物出土状況

掘り方 四隅と中央に規模の大きい掘り込みが存在し(特に南側はほとんど掘り込みになる)、掘り込み以外の部分は直接床面として使用されている。

遺物出土状況 住居全面から出土しているが、特にカマド前面に完形の土器が集中している。垂直分布を見ると、上層から下層まで満遍なく出土しており、床下出土のものも多い。鉄製品・銅製品は北壁際に集中して出土しており、銅製鈴以外は覆土上層からの出土である。接合関係の判明するものは3点あり、上層と下層が接合しているものがある。また、南側の住居外からも数十点の土器が出土している。

カマド

東カマド(新カマド)

位置 東壁やや南寄り **主軸方位** N-5°-E **規模** 全長1.02m 幅0.73m

構築 砂岩の切石を袖石として、暗褐色土で袖を構築している。袖石は両側に各2個並べて立てられている。火床面は床面とほぼ同レベルである。煙道部には土師器甕が使われている。

遺物出土状況 燃焼部から土師器甕が2個体出土している他、焚き口部前面およびその周辺に、土師器および須恵器の坏・蓋が8個体床面付近に集中して出土している。また、煙道部に使われた甕2~3個体が潰れた状態で出土している。

北カマド(旧カマド)

位置 北壁やや東寄り **主軸方位** N-92°-E **規模** 全長1.27m 幅0.74m

構築 旧カマドのため袖部の構造は不明である。火床面もはっきりしないが焼土ブロックを多量に含む層が検出されている。煙道部は東カマド同様土師器甕を3個体使用している。

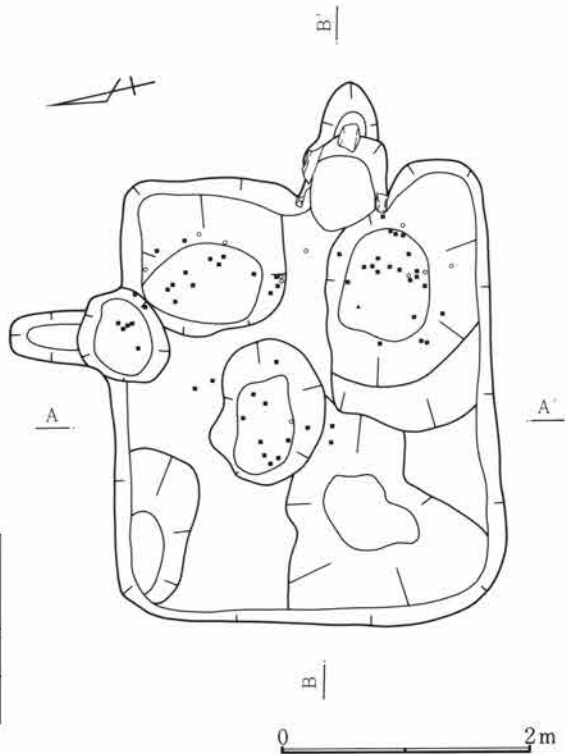
遺物出土状況 煙道部に使用された甕3個体が潰れた状態で出土している他、燃焼部内から小破片が数点出土している。

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器坏・壙・高坏・蓋・甕、須恵器坏・蓋が出土している。特に、坏2点(1点は住居外出土)には、焼成後に書かれた「玉」の刻書がある。鉄製品は、鉸具・刀子・不明鉄製品各1点が、銅製品は八稜鏡・鈴各1点が出土している。これらはすべて覆土中から集中して出土しており、一括して廃棄(あるいは埋納)された可能性が高い。

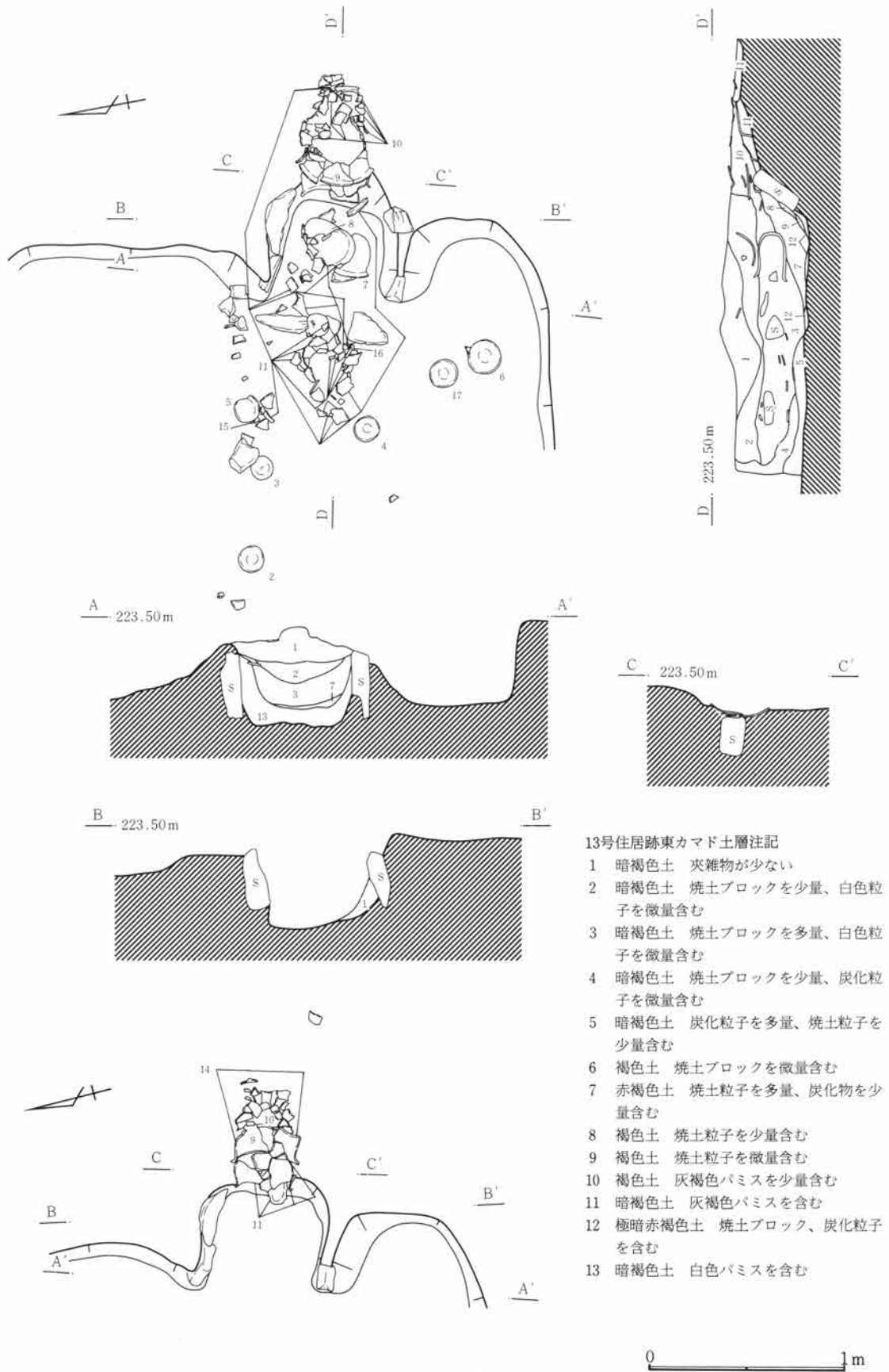
所見 出土遺物から時期は8世紀中葉～後半と考えられる。八稜鏡・鈴・鉸具・刀子等は、覆土が堆積してから置かれており、時期も住居よりかなり下のため、鏡の住居内埋納の可能性が高い。

出土土器数量表

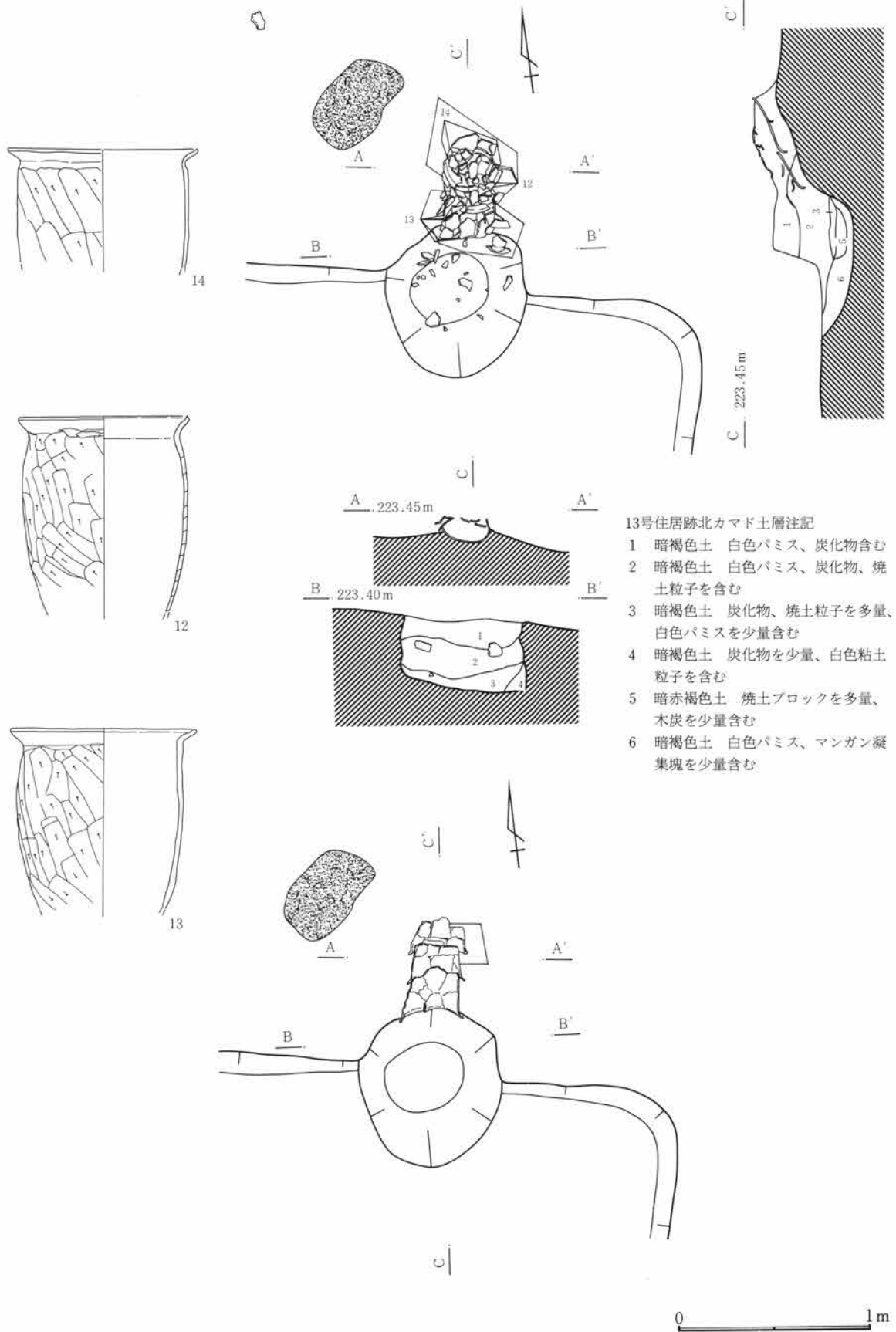
種別	土師器					須恵器		計
	坏	高坏	蓋	壙	甕	坏	蓋	
点数	134	1	1	1	606	5	3	751
重量(g)	2,900	55	375	460	16,700	405	260	21,155



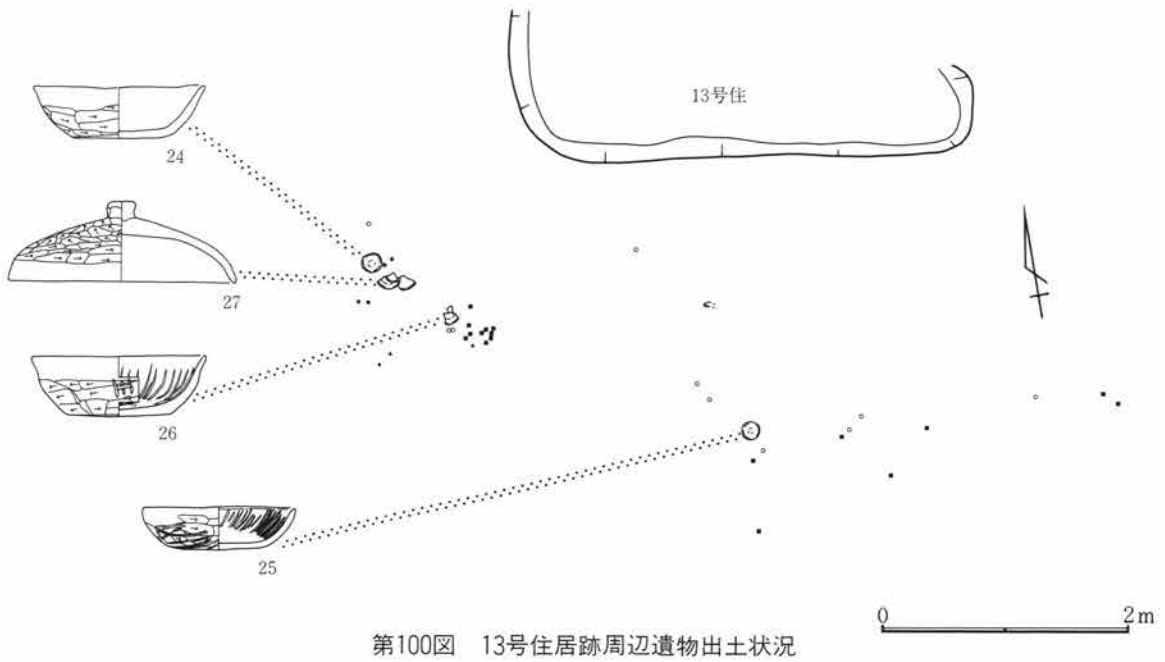
第97図 13号住居跡掘り方



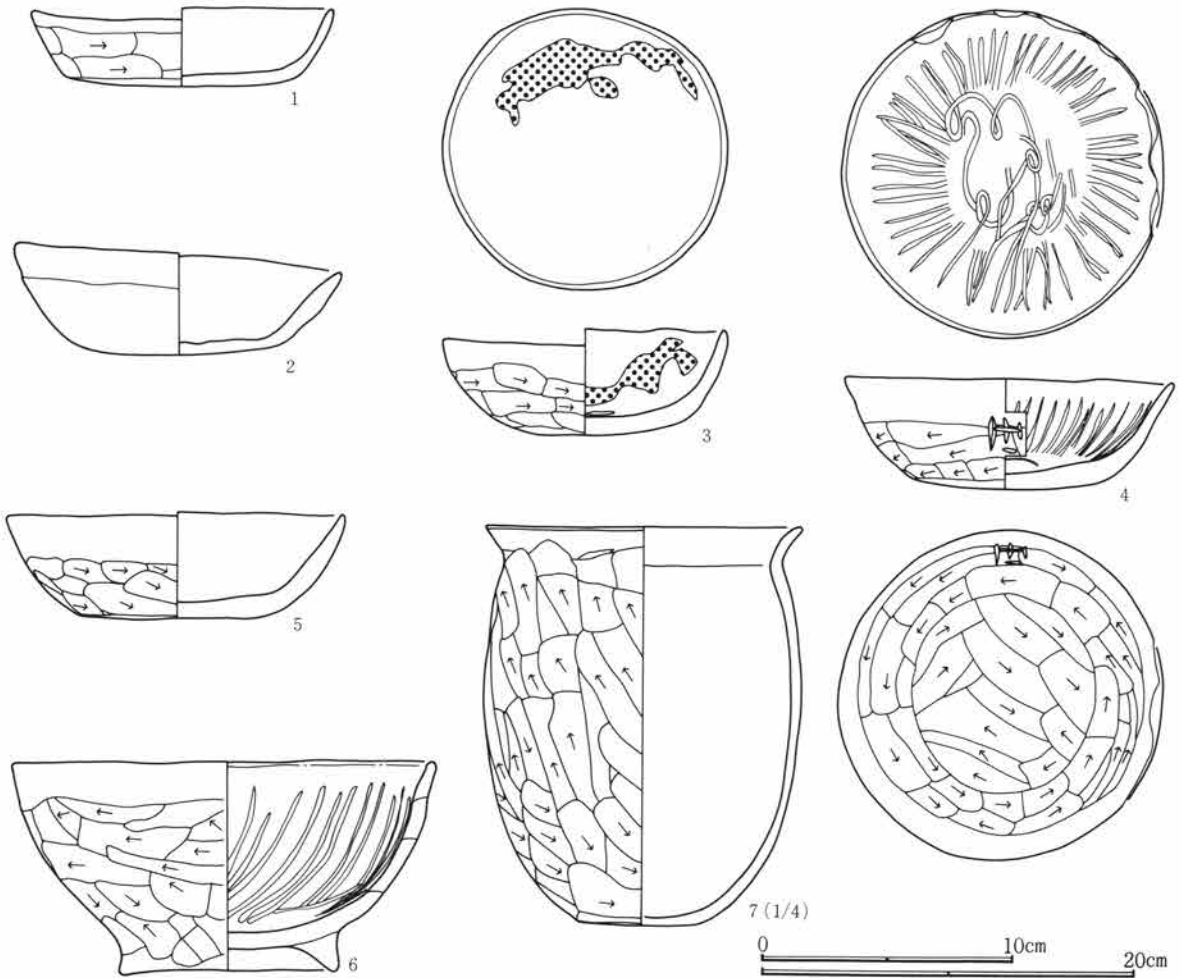
第98図 13号住居跡東カマド



第99図 13号住居跡北カマド

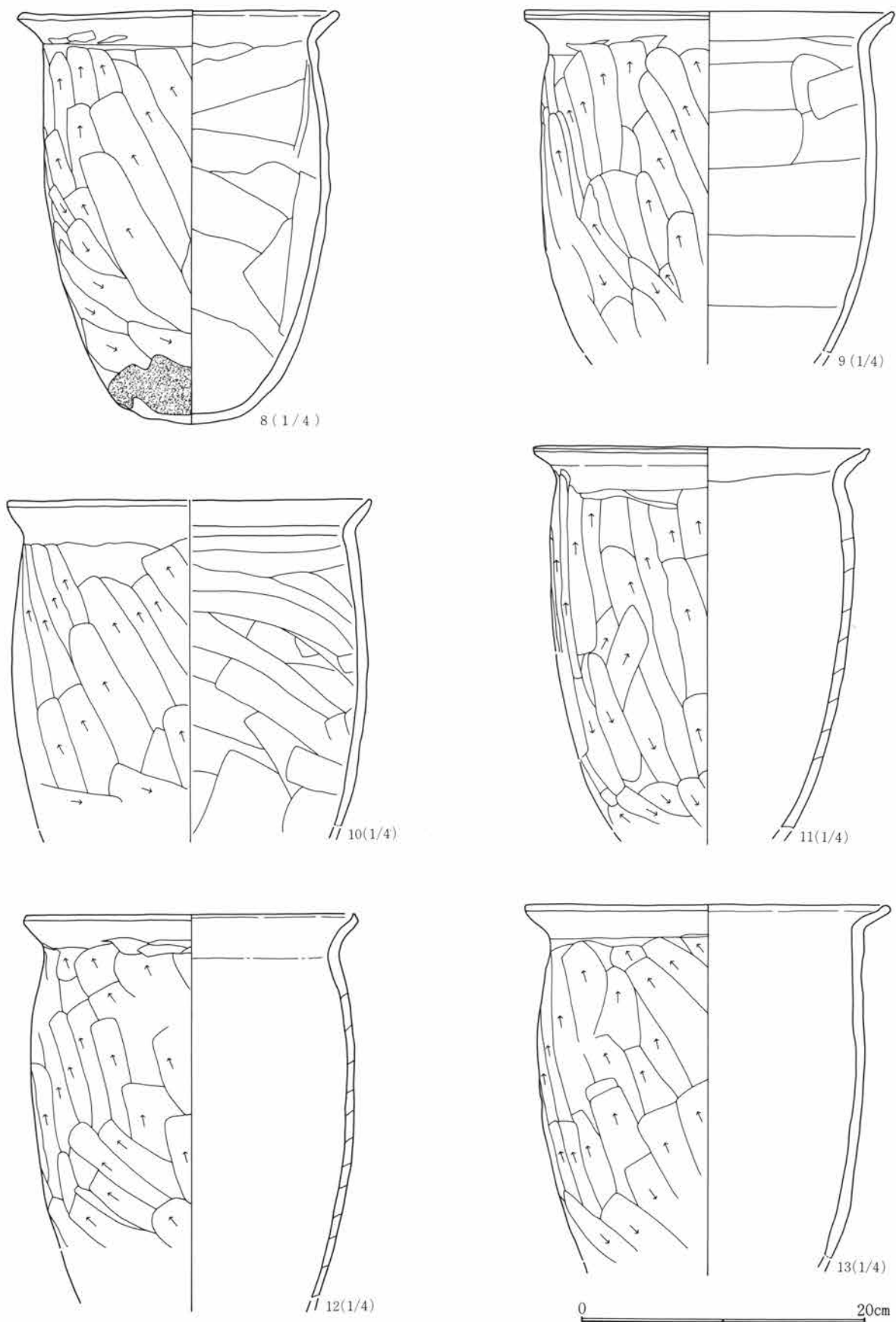


第100図 13号住居跡周辺遺物出土状況

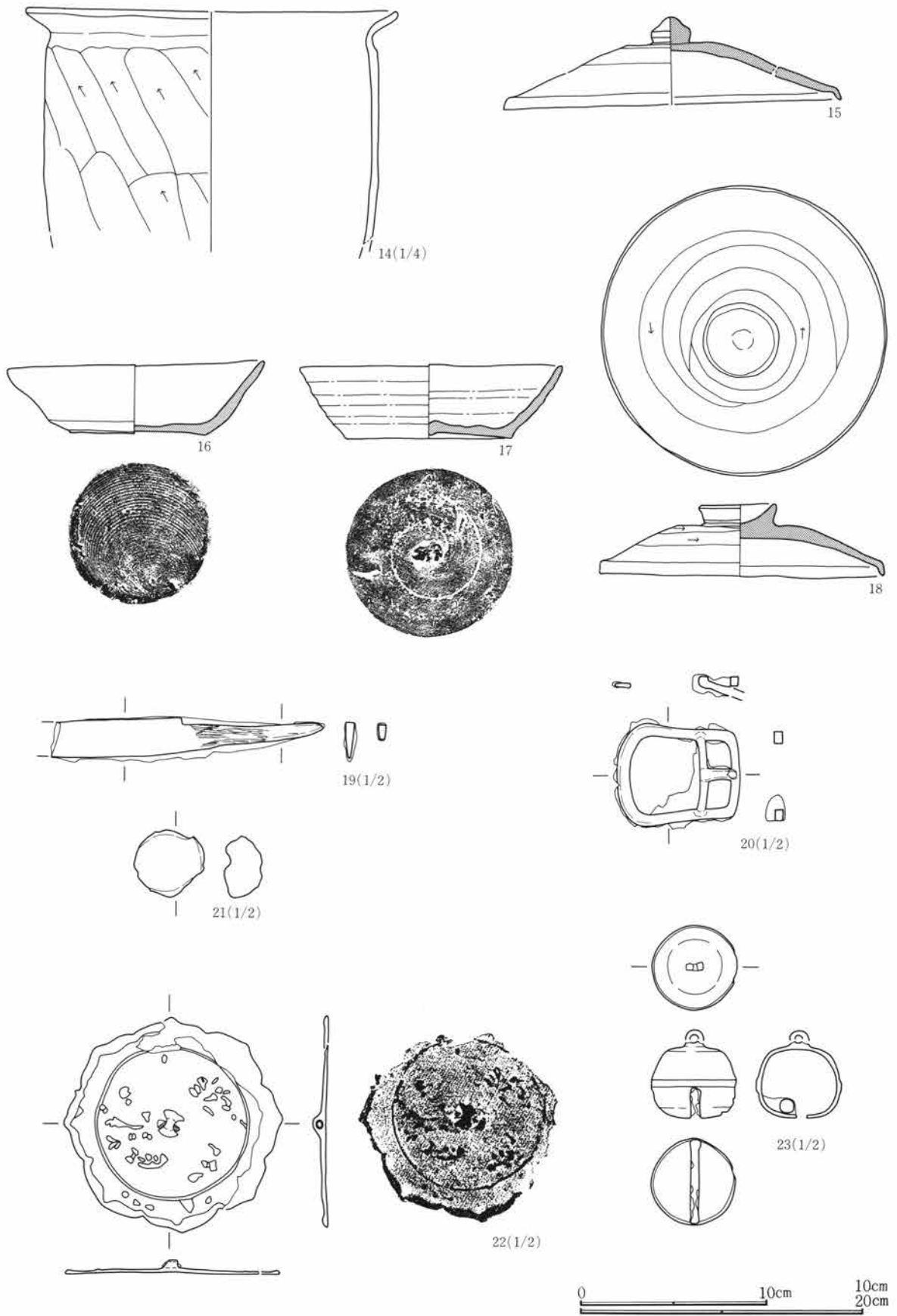


第101図 13号住居跡出土遺物(1)

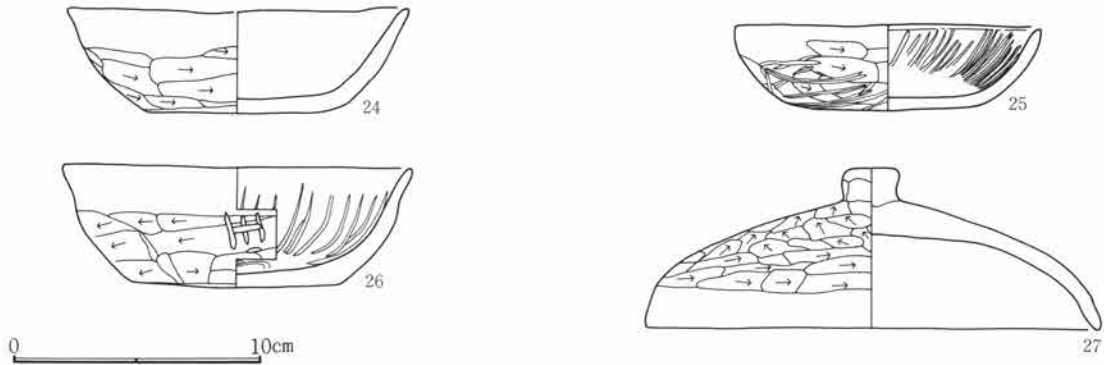
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第102図 13号住居跡出土遺物(2)



第103図 13号住居跡出土遺物(3)



第104図 13号住居跡周辺出土遺物

13号住居跡出土土器観察表

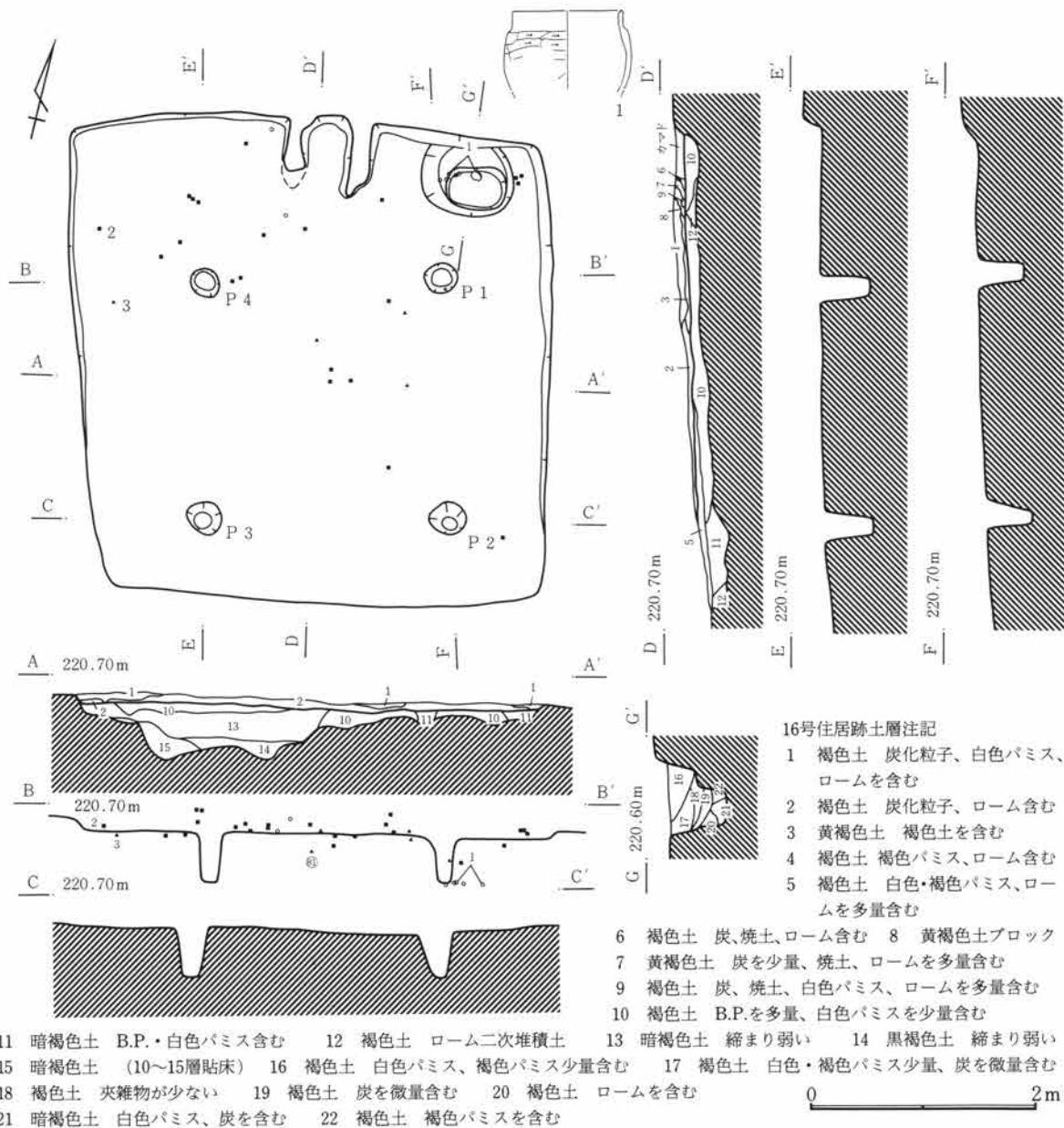
No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	東 カマド	①12.0cm ③3.0cm	②6.0cm ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ 器面摩滅著しい	I F	
2	土師器 坏	北東 +2	①12.8cm ③3.8cm	②8.0cm ④ほぼ完形	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文か	I F	
3	土師器 坏	北東 +26	①10.8cm ③4.2cm	②— ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ 内面に漆(?)附着	I E	
4	土師器 坏	南東 +12	①13.2cm ③4.4cm	②7.4cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 外面焼成後刻書「玉」	I E	
5	土師器 坏	北東 +8	①13.6cm ③4.1cm	②7.0cm ④ほぼ完形	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I F	
6	土師器 堿	南東 +14	①16.8cm ③8.3cm	②8.2cm ④完形	①にぶい褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	II	
7	土師器 甕	東 カマド	①16.8cm ③20.8cm	②6.0cm ④完形	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VII A	
8	土師器 甕	東 カマド	①22.6cm ③28.7cm	②— ④口～胴部	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ 胴部外面に粘土附着	VII A	
9	土師器 甕	東 カマド	①25.9cm ③—	②— ④口～胴部	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII A	
10	土師器 甕	東 カマド	①(25.6cm) ③—	②— ④口～胴1/2	①にぶい褐 ②褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII A	
11	土師器 甕	東 カマド	①23.6cm ③—	②— ④口～胴部	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII A	
12	土師器 甕	北 カマド	①(23.2cm) ③—	②— ④口～胴2/3	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VII A	
13	土師器 甕	北 カマド	①(25.4cm) ③—	②— ④口～胴部	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VII A	
14	土師器 甕	北 カマド	①(25.8cm) ③—	②— ④口～胴1/2	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VII A	
15	須恵器 蓋	北東 -9	①18.0cm ③3.9cm	鈕径2.0cm ④破片	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り 宝珠状鈕貼付け	III C	
16	須恵器 坏	東 カマド	①13.6cm ③3.8cm	②7.1cm ④ほぼ完形	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整	I D	
17	須恵器 坏	南東 +5	①13.7cm ③3.7cm	②8.6cm ④完形	①灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・黒色粒子を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り	I B	
18	須恵器 蓋	北西 +10	①15.0cm ③3.7cm	鈕径4.1cm ④完形	①②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・黒色粒子を多く含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り高台状鈕貼付け 外面に自然釉	III D	
24	土師器 坏	C57 -VII63	①13.6cm ③4.0cm	②6.7cm ④ほぼ完形	①②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I F	
25	土師器 坏	C58 -VII60	①12.0cm ③3.3cm	②7.0cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り後磨き内面ナデ後放射状暗文	I F	
26	土師器 坏	C57 -VII61	①13.8cm ③4.8cm	②8.0cm ④口～底2/3	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 外面焼成後刻書「玉」	I F	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
27	土師器 蓋	C57 -VII61	①18.0cm ③6.3cm	②口径2.3cm ④完形	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④細 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 天井部外面篋削り 内面ナデ 鈕部篋削り	IV	

13号住居跡出土鉄器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
19	刀子	北西+12	[9.6]	1.4	0.3	13.3	先端部欠損	関は背部にあり 木質一部残る
20	鉸具	北西+12	4.4	3.6	0.7	11.9	ほぼ完形	止め具が錆びて癒着
21	不明	北西+23	2.5	2.3	1.3	12.8	完形	
22	八稜鏡	北西+10	7.3	7.0	1.0	15.4	一部欠損	瑞花双鳥文系の文様か 鈕に繊維残る
23	鈴	北西±0	2.7	3.0		15.6	ほぼ完形	鉄製玉が内部に錆びて癒着



第105図 16号住居跡

16号住居跡

位置 C 0～2-VII27～30Gr 重複 なし 平面形態 正方形 規模 4.25m×4.22m

壁高 15cm 面積 16.8m² 床面積 16.1m² 主軸方位 N-9°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出されているが、南北方向を見ると全体に南に寄っている。東西方向はほぼ中央に位置している。

P1 長径39cm短径37cm深さ40cm P2 長径34cm短径28cm深さ39cm P3 長径31cm短径28cm深さ43cm

P4 長径27cm短径25cm深さ44cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.82m 短径0.58m 深さ62cm

形状 平面形態は東西に長い楕円形で、北壁に接している。断面形態は台形であるが、北側の立ち上がりにテラス状の段が1段存在する。底部は平坦で立ち上がりは急である。

床面 ロームを含む褐色土で厚さ5～15cmの貼床としているが、南側は削平により残存しない。比較的凹凸の多い床面である。

掘り方 西側中央部に、長径1.9m短径1.3m深さ30cmの土坑状の掘り込みがあり、他にも浅い土坑状の掘り込みが3基、径30～60cmのピットが十数基検出されているが、他の部分は平坦である。

遺物出土状況 住居の残りが悪いこともあり、出土量は少なくほとんど小破片である。覆土が薄いため下層の遺物しか残っていないが、比較的壁の残りの良い北側および貯蔵穴内から多く出土している。接合関係の判明するものは1点で、貯蔵穴内の破片が接合している。

カマド

位置 北壁中央部 主軸方位 N-7°-W 規模 全長0.67m 幅0.81m

構築 上部を大きく削平されているため不明な点が多いが、褐灰色粘質土で袖を構築しており、内側は強く焼けている。袖石・天井石等は出土していない。火床面は床面より若干低いレベルで、あまり焼けていない。煙道部は削平により不明である。

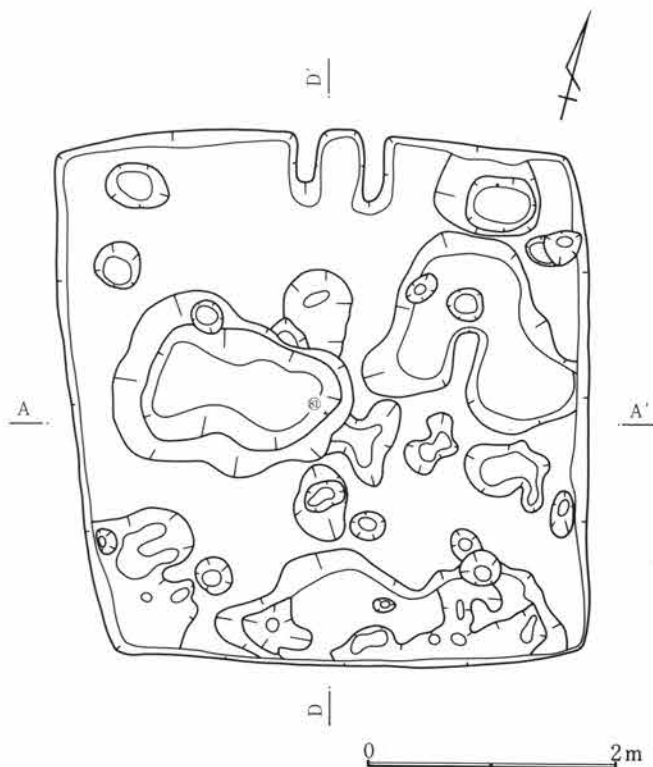
遺物出土状況 燃焼部内から小礫が1点出土しているだけである。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕、須恵器甕・瓶が出土しているが、図示したものも含めてほとんどが小破片である。石製品は白玉1点、砥石1点が出土している。

所見 出土遺物が少ないため詳しい時期は不明であるが、住居形態から古墳時代後期の住居である可能性が高い。

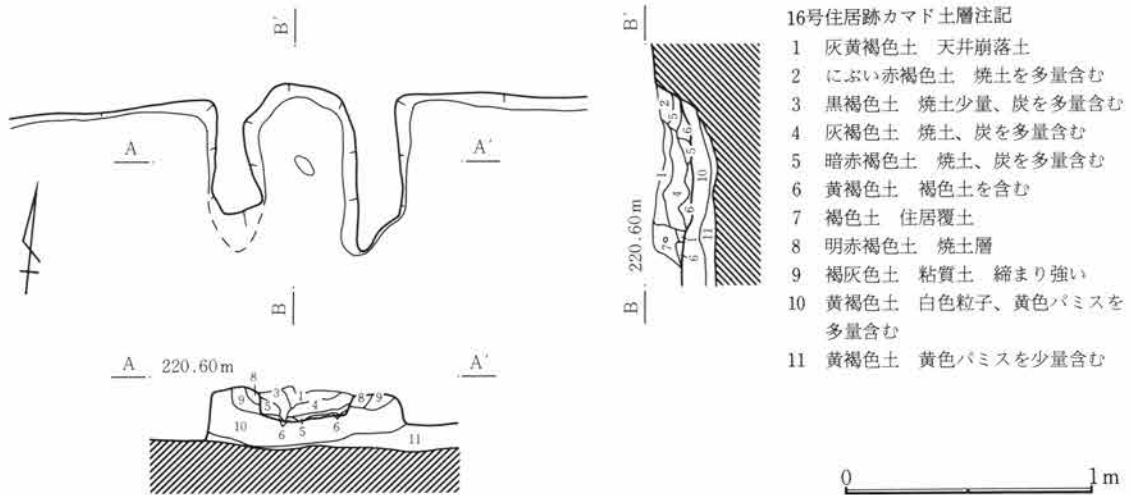
出土土器数量表

種別	土師器		須恵器		計
	器種	坏	甕	瓶	
点数	10	31	4	1	46
重量(g)	95	230	35	15	375

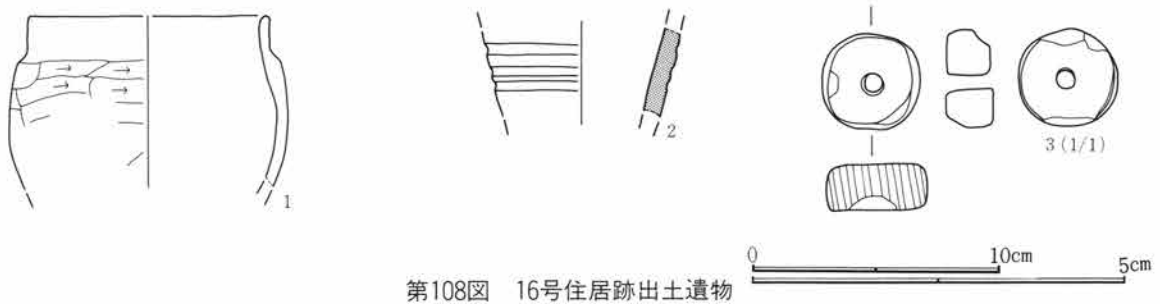


第106図 16号住居跡掘り方

第III章 検出された遺構と出土遺物



第107図 16号住居跡カマド



第108図 16号住居跡出土遺物

16号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	貯蔵穴	①(9.4cm)	②— ③— ④口縁部片	①灰褐 ②褐灰 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面削り内 面ナデ	I	
2	須恵器 瓶	北西 +5	①— ③—	②— ④頸部片	①灰 ②黄灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整 頸部外面に3条以上 の沈線 内面に自然袖付着	V	

16号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
3	白玉	北西-2	1.3	0.3	0.7	4	完形	滑石	側面粗い研磨 上下面研磨

17号住居跡

位置 C 2~5-VII22~25Gr 重複 なし 平面形態 正方形 規模 5.72m×5.64m

壁高 32cm やや傾斜している 面積 32.0m² 床面積 29.6m² 主軸方位 N-9°-W

壁溝 なし

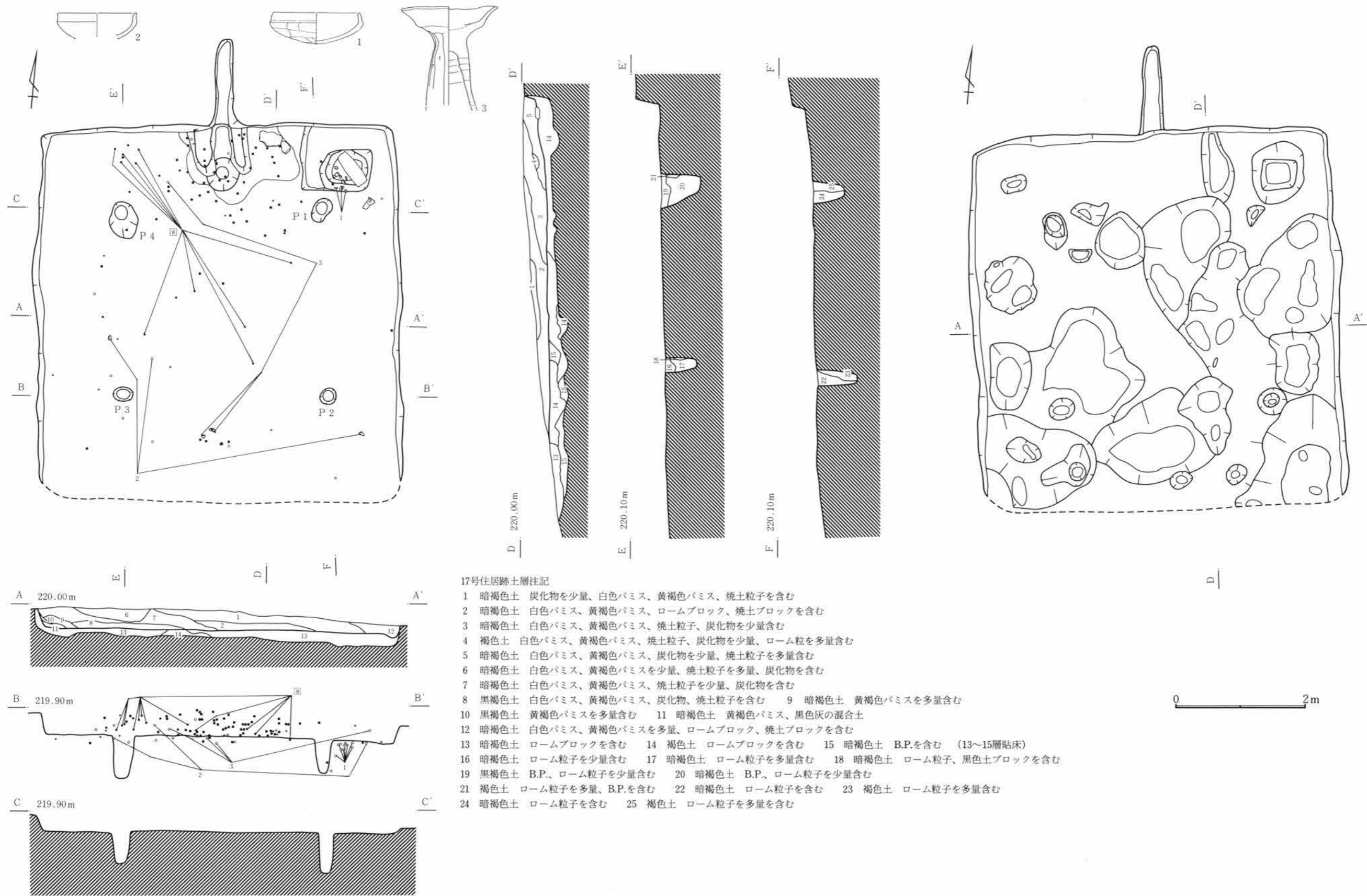
柱穴 住居の対角線上に4基検出されている。

P 1 長径38cm短径26cm深さ48cm P 2 長径28cm短径24cm深さ60cm P 3 長径30cm短径22cm深さ48cm

P 4 長径58cm短径32cm深さ60cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.78m 短径0.63m 深さ49cm

形状 平面形態は東西に長い隅丸長方形で、断面形態は、底部が平坦で、途中立ち上がりの傾斜が変わっている。また貯蔵穴の西側に方形の段が存在している。



第109図 17号住居跡

床面 ロームを含む暗褐色土で厚さ10～25cmの貼床としているが、南側は削平されて残っていない。

掘り方 比較的浅い土坑状の掘り込みやピットが多数検出されている。

遺物出土状況 カマド周辺に多く出土し、東西の壁際からはほとんど出土していない。また削平されている南壁際も少ない。垂直分布を見ると、上層から下層まで満遍なく出土している。接合関係の判明するものは3点あり、覆土下層と床面付近が接合しているものと、貯蔵穴内で接合しているものがある。

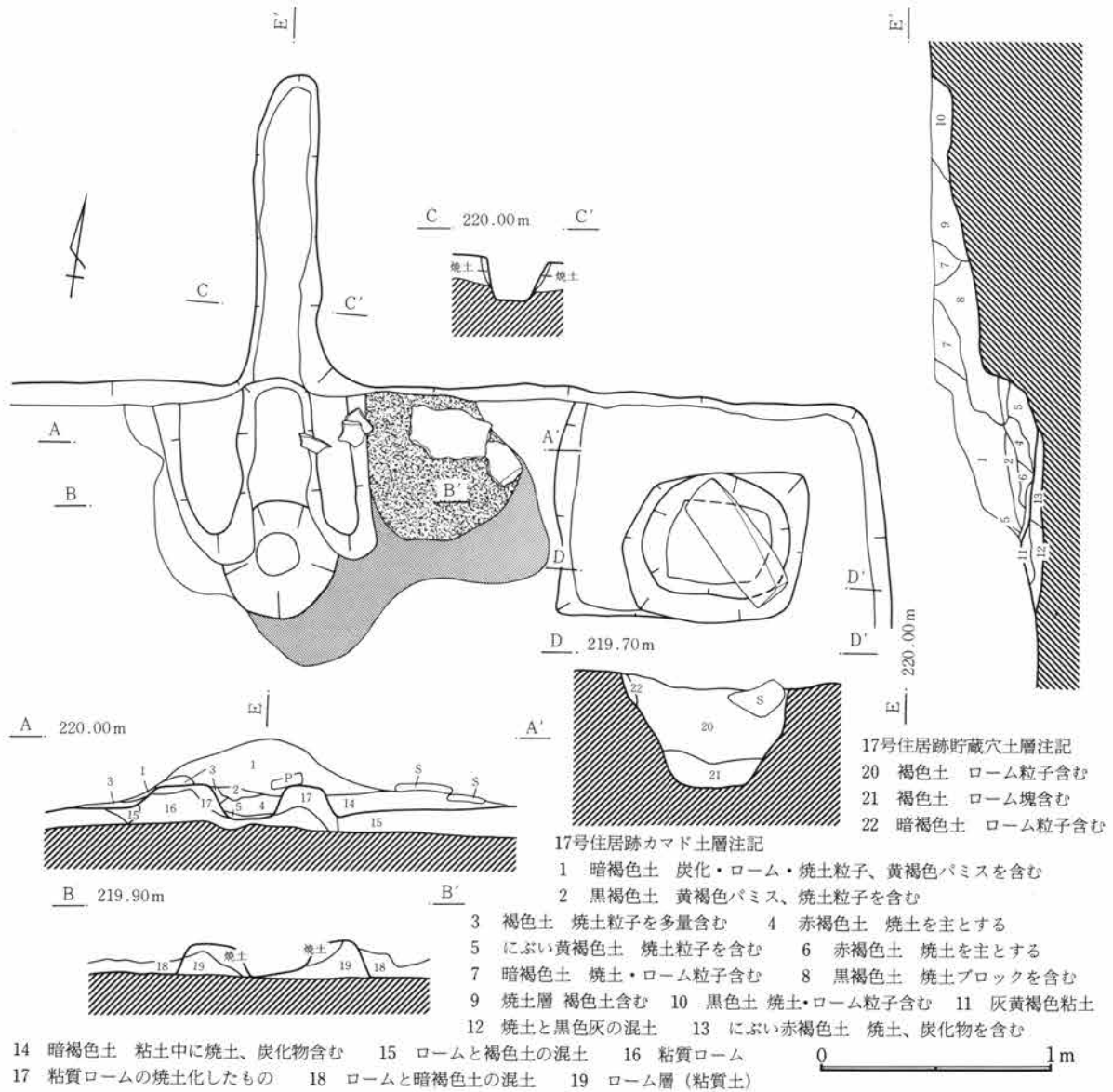
カマド

位置 北壁中央部 **主軸方位** N-7°-W **規模** 全長2.05m 幅0.87m 煙道部長1.32m

構築 粘質ロームで袖を構築しており、内側は強く焼けている。袖石・天井石等は出土していない。火床面は床面とほぼ同レベルで、あまり焼けていない。煙道部は緩く傾斜して立ち上がっており、東西の立ち上がりは両側が強く焼けている。また、カマド右脇に焼土と粘土が検出されている。

遺物出土状況 右袖上面および右脇から、カマド部材と思われる石が出土している。

出土遺物 出土量は比較的少なく、土器は、土師器杯・甕・鉢・不明土器、須恵器杯・甕が出土しており、他に弥生土器が5点出土している。



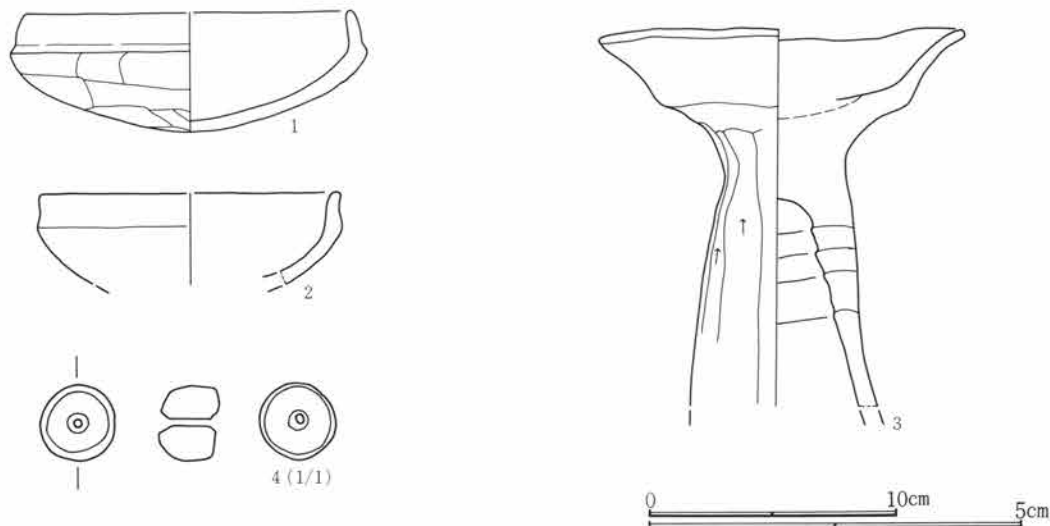
第110図 17号住居跡カマド

第III章 検出された遺構と出土遺物

所見 完形に近い遺物がなく、図示した遺物も破片が接合したものであるため、住居で使用されたものとは言えないが、貯蔵穴出土の坏等から考えると時期は6世紀後半～7世紀前半と推定される。

出土土器数量表

種別	土師器				須恵器		計
	器種	坏	甕	鉢	不明	坏	
点数	16	66	1	1	3	1	88
重量(g)	130	2,270	10	45	10	5	2,470



第111図 17号住居跡出土遺物

17号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	貯蔵穴	①13.0cm ②- ③4.7cm ④口～底2/3	①②にふい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・バミスを少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面笕削り内面ナデ 内外面に漆(?)付着	I C	
2	土師器 坏	南西 -2	①(12.0cm)②- ③- ④口縁部片	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面笕削り内面ナデか	I C	
3	土師器 高 坏	北東 -10	①14.7cm ②- ③14.7cm ④口～脚部	①②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・バミスを少量含む	口縁部横ナデ 体～脚部外面笕削り内面ナデ	V B	
4	土製品 小 玉	南西 +2	径1.0cm 孔径2mm ④完形	①褐 ③良好 ④細 雲母を少量含む	外面磨き		

18号住居跡(新)

位置 C 3～6-VII29～32Gr 重複 21号住と重複(新旧不明) 平面形態 正方形

規模 6.16m×5.8m 壁高 70cm やや傾斜している 面積 34.2m² 床面積 31.2m²

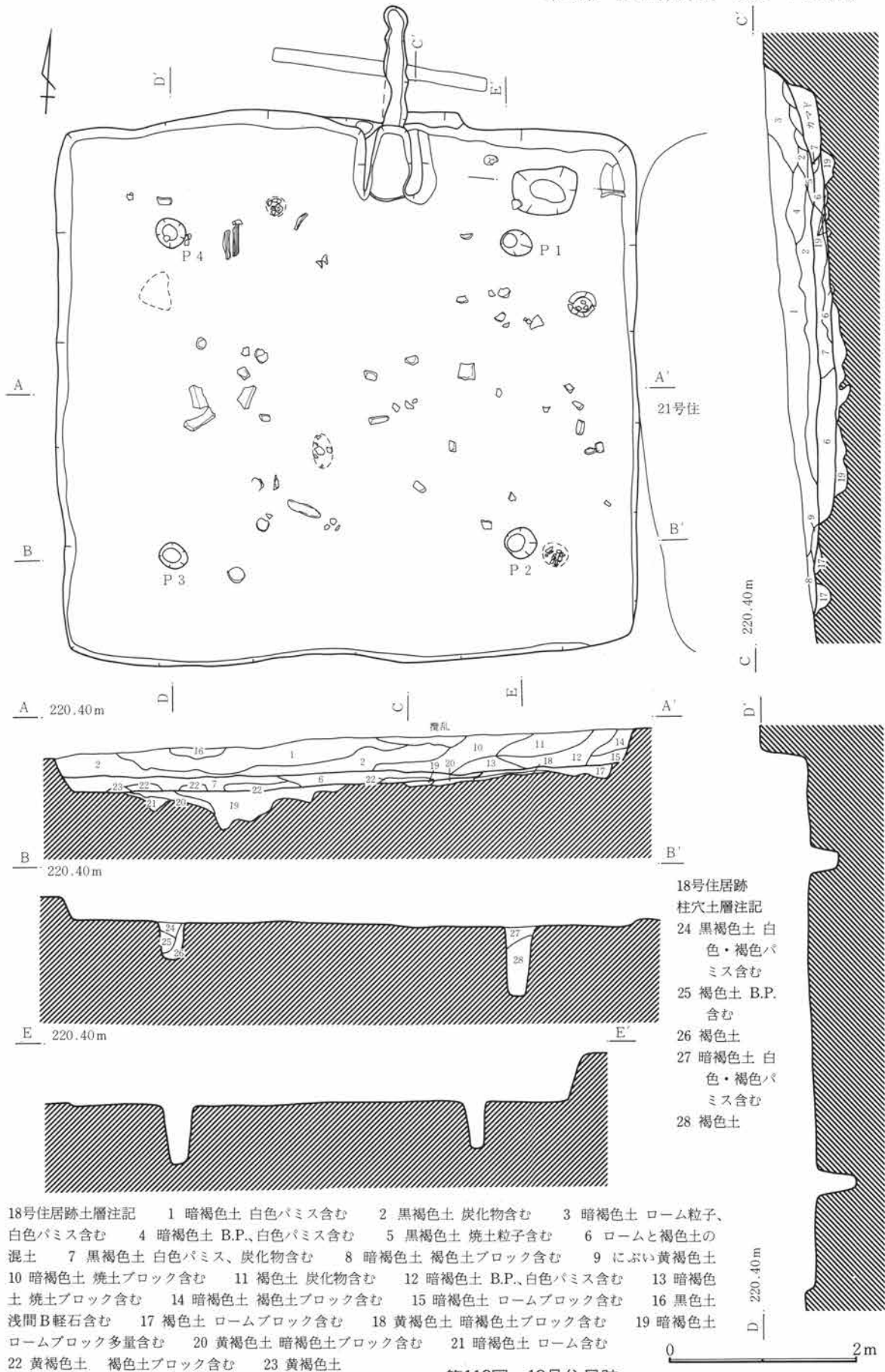
主軸方位 N-S 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出されている。柱間距離が他に比べ長くなっている。(東西6.2m 南北5.5m)

P 1 長径34cm短径27cm深さ47cm P 2 長径35cm短径34cm深さ61cm P 3 長径40cm短径37cm深さ40cm

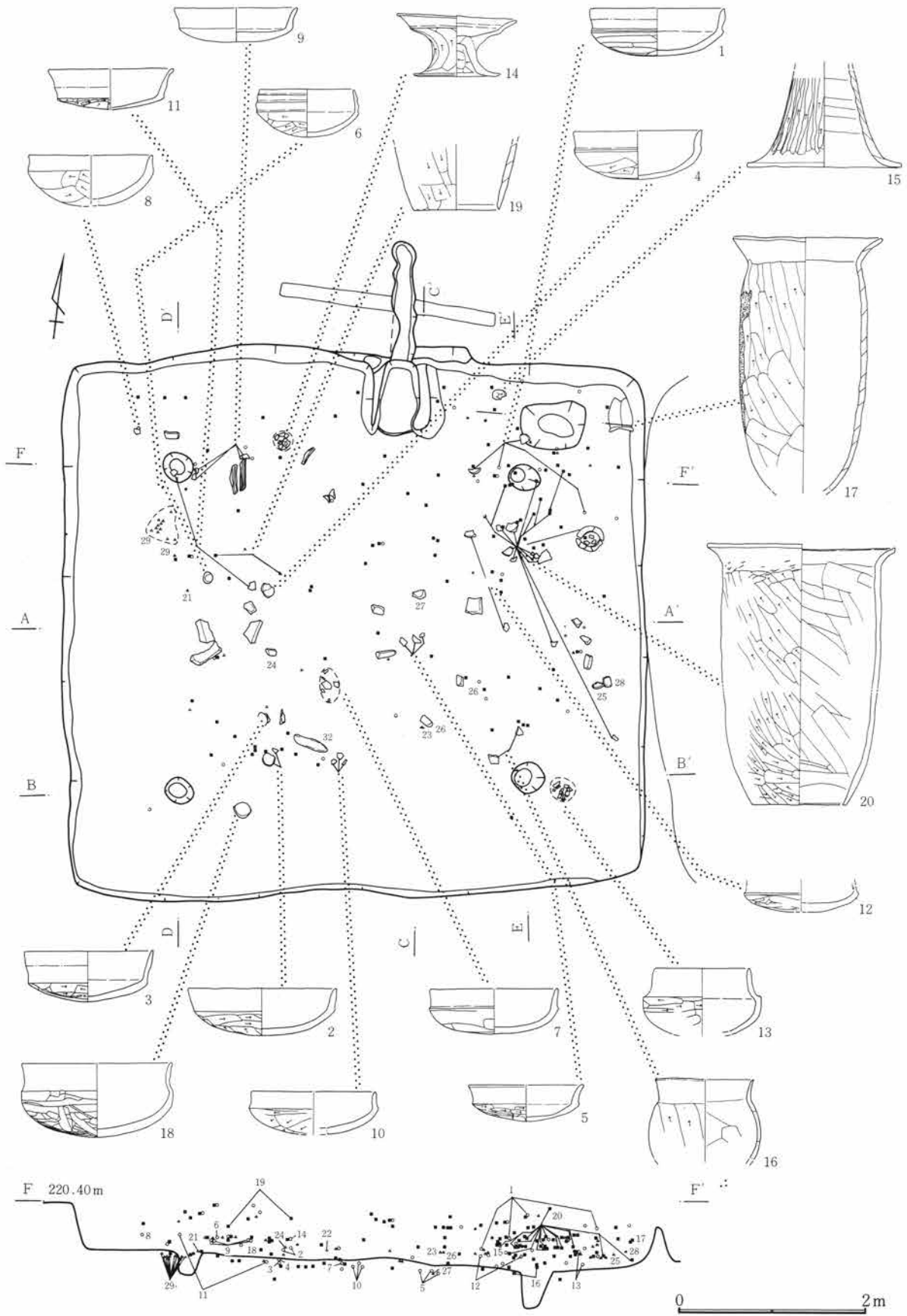
P 4 長径32cm短径28cm深さ31cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.69m 短径0.43m 深さ65cm



第112図 18号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物



第113図 18号住居跡遺物出土状況

形状 平面形態は丸みを帯びた長方形で、底部は楕円形である。断面形態を見ると、丸みを帯びた底部から斜めに立ち上がっている。

床面 旧住居の覆土（あるいは人為的埋土）上面を床面としており、拡張部は地山を直接床面としている。やや凹凸の多い床面である。

掘り方 拡張部分からはピットが数基検出されただけである。

遺物出土状況 南・西壁際からはほとんど出土していないが、他の部分ではほぼ全面から出土している。垂直分布を見ると、上層から下層まで満遍なく出土している。接合関係の判明するものは11点と多く、床面付近で接合するもの、覆土中で接合するもの、覆土中と床面付近が接合するものがある。

カマド（新カマド）

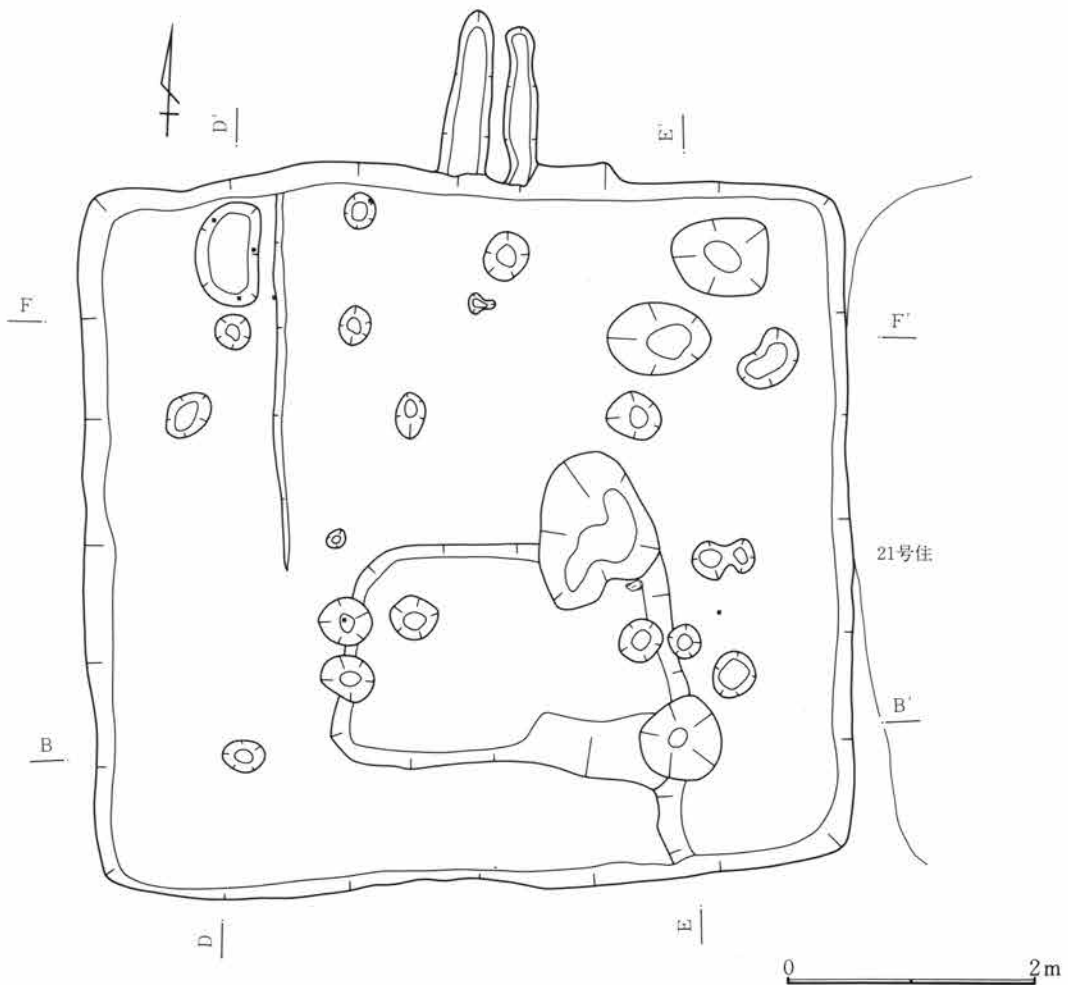
位置 北壁やや東寄り **主軸方位** N-3°-W **規模** 全長2.02m 幅0.87m 煙道部長1.25m

構築 褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は検出されていない。火床面は床面より若干低いがほぼ同レベルで、あまり焼けていない。煙道部底面はごく緩やかに立ち上がっており、また天井部が残存している部分もある。

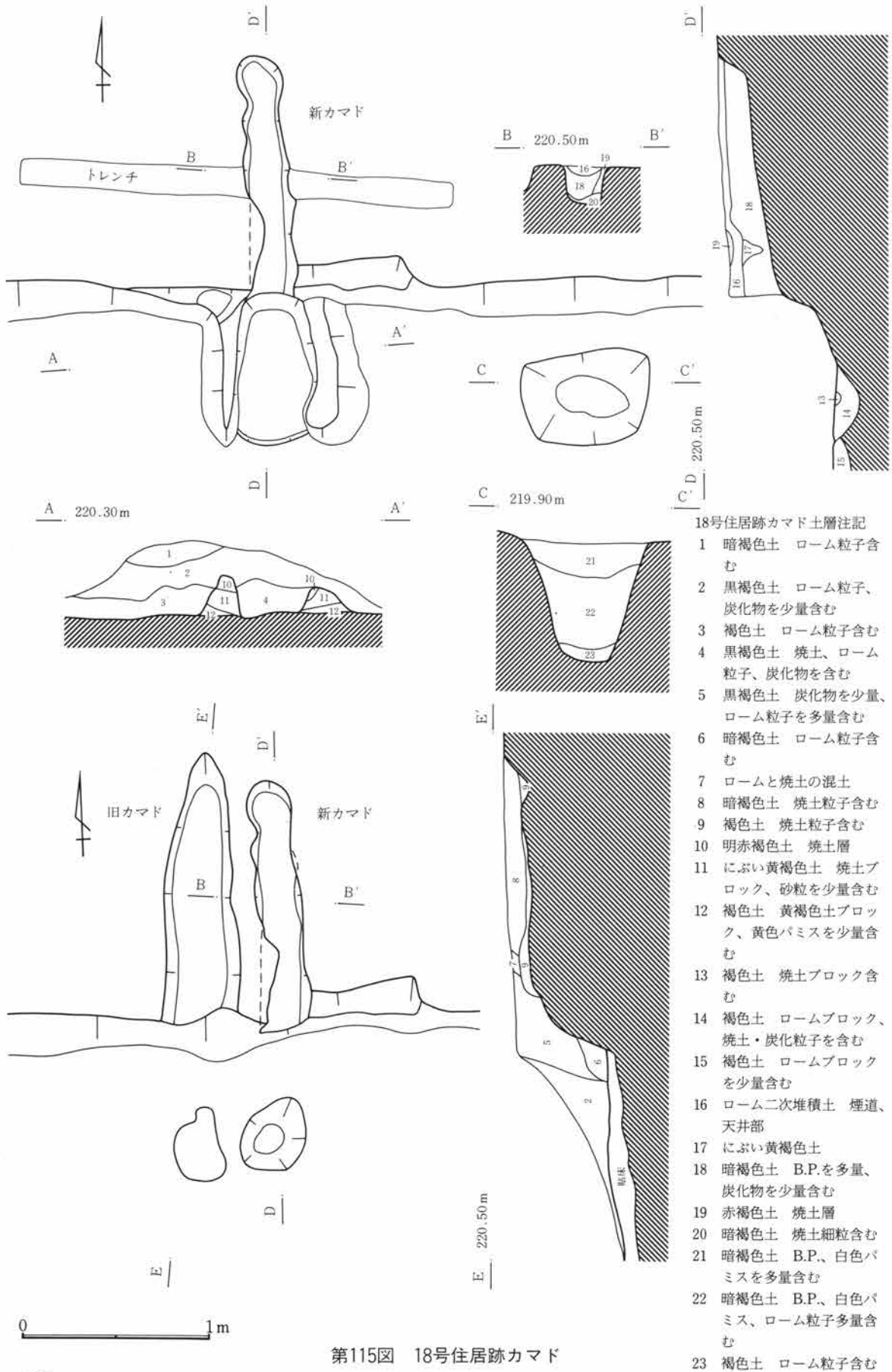
カマド（旧カマド）

位置 北壁中央 **主軸方位** N-5°-E **規模** 現存長2.22m 現存幅0.38m 煙道部長1.41m

構築 旧カマドのため詳細は不明。煙道部底面はほぼ水平に延びている。出土遺物なし。



第114図 18号住居跡掘り方



18号住居跡 (旧)

平面形態 隅丸方形 規模 4.02m×3.96m 壁高 33cm 面積 14.9m² 床面積 14.0m²

主軸方位 N-1°-W

柱穴 対角線上に4基検出された。

P 1 長径45cm短径39cm深さ60cm P 2 長径37cm短径36cm深さ30cm P 3 長径40cm短径39cm深さ45cm

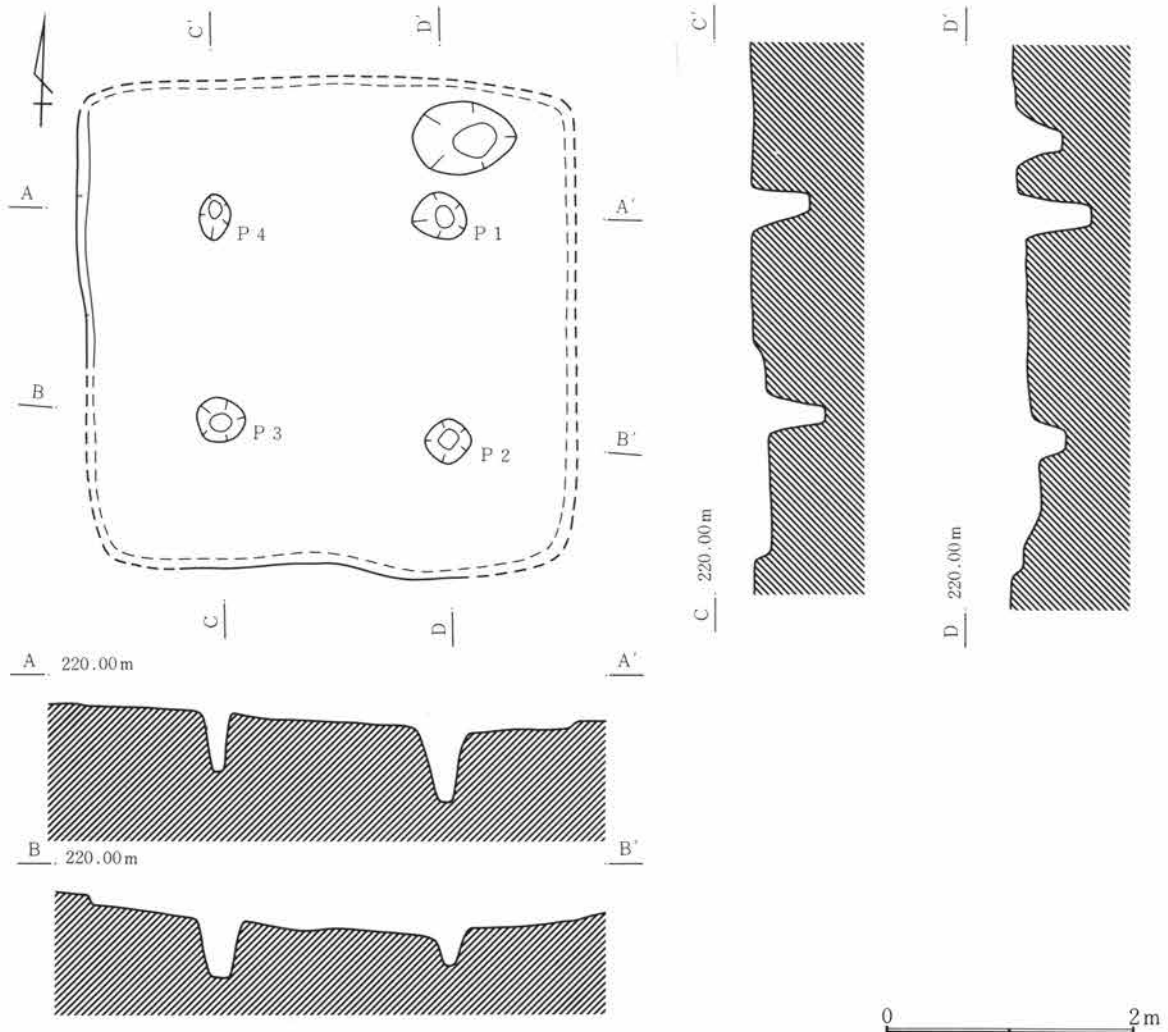
P 4 長径40cm短径26cm深さ46cm

出土遺物 出土量はやや多く、土器は、土師器(坏・高坏・甕・鉢・甗)が出土しており、石製品では滑石の石核が9点、碎片が3点、こも編石が6点出土している。

所見 新住居は旧住居の拡張の可能性もある。新住居の時期は、出土遺物より6・7世紀代と考えられる。

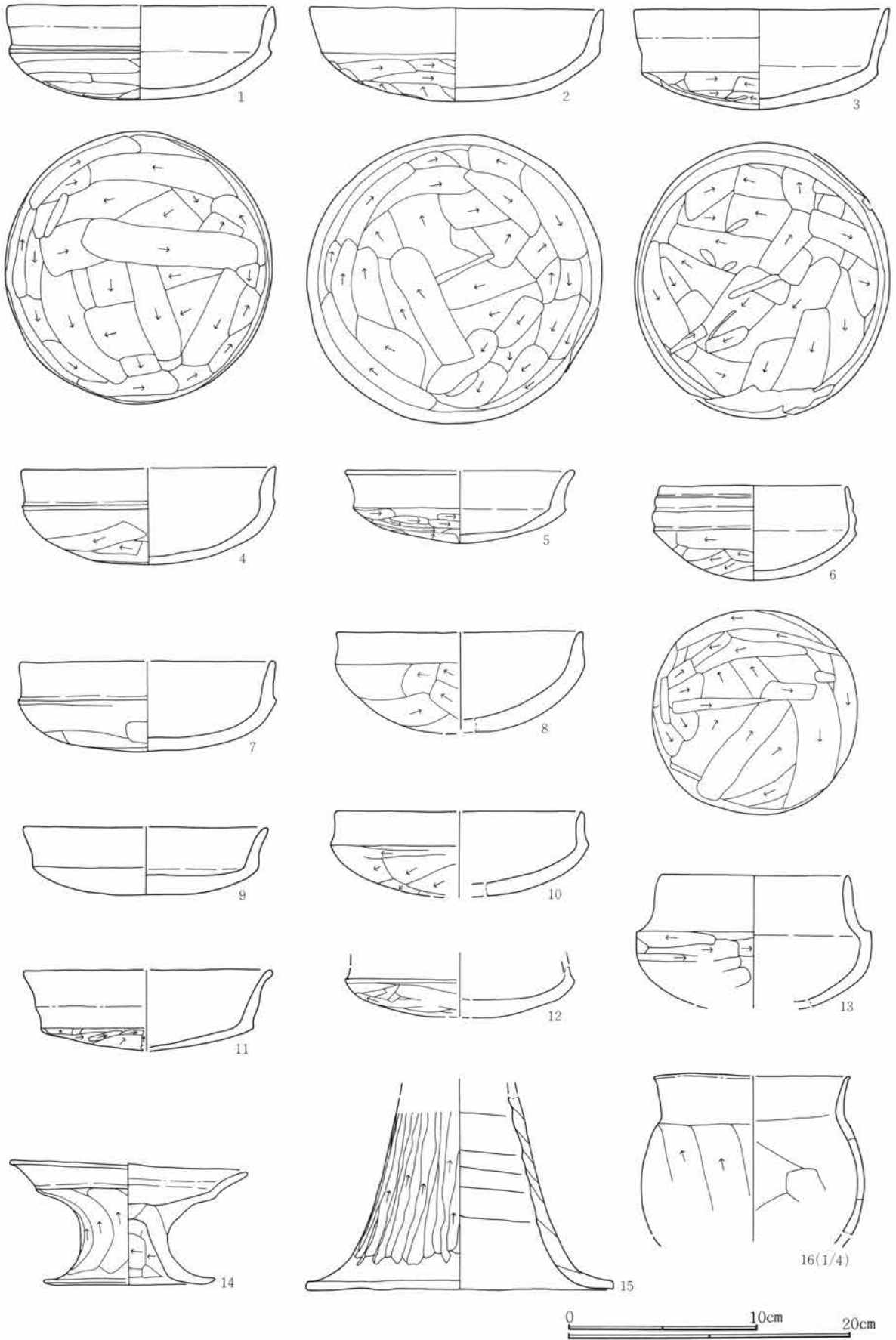
出土土器数量表

種別	土 師 器						計
	坏	高坏	甕	小型甕	鉢	甗	
点数	75	2	205	1	1	2	286
重量(g)	640	485	7,685	130	390	2,170	11,500



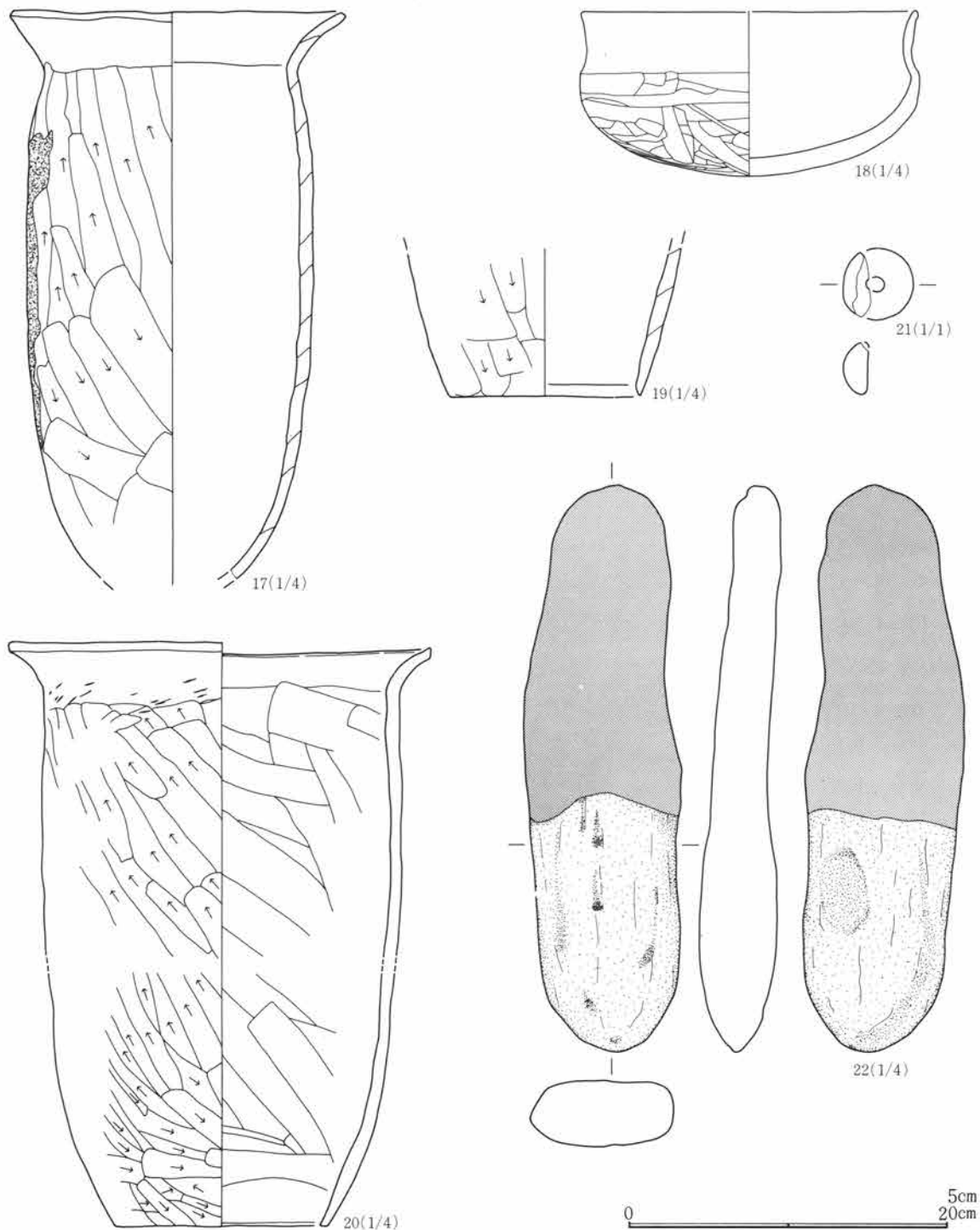
第116図 18号住居跡拡張前

第III章 検出された遺構と出土遺物



第117図 18号住居跡出土遺物(1)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



18号住居跡出土石器観察表

第118図 18号住居跡出土遺物(2)

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
22	不明	南西+10	35.2	9.9	4.9	2500	完形	点紋緑泥片岩	上半部赤変 カマド支脚等に使用か
23	こも編石	覆土	15.3	8.0	3.5	670	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
24	こも編石	南西+8	14.5	6.7	4.4	480	完形	石英安山岩	
25	こも編石	南東+15	13.3	7.5	4.3	575	完形	絹雲母石墨片岩	
26	こも編石	南東+14	13.9	8.0	3.8	610	完形	安山岩	
27	こも編石	北東-10	13.5	8.6	3.3	505	完形	絹雲母石墨片岩	
28	こも編石	南東+16	11.1	8.7	6.4	750	完形	絹雲母石墨片岩	

第三章 検出された遺構と出土遺物

18号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北東 +16	①14.0cm ②— ③4.9cm ④完形	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	南西 +8	①15.4cm ②— ③4.8cm ④完形	①②にぶい橙 ③良好 ④細 粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
3	土師器 坏	南西 -6	①13.5cm ②— ③5.2cm ④完形	①②にぶい橙 ③良好 ④細 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
4	土師器 坏	北西 -2	①(13.4cm)②— ③5.0cm ④口～底2/3	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
5	土師器 坏	南東 -8	①12.0cm ②— ③3.8cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
6	土師器 坏	北西 +6	①9.8cm ②— ③4.8cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細 砂・粗砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ段あり 体～底部外 面内面ナデ	I C	
7	土師器 坏	南西 -3	①13.8cm ②— ③4.7cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
8	土師器 坏	北西 +16	①(13.0cm)②— ③5.0cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデか	I C	
9	土師器 坏	北西 +10	①(13.0cm)②— ③4.0cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデか	I C	
10	土師器 坏	南西 -7	①(12.6cm)②— ③4.5cm ④口～底1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
11	土師器 坏	北西 -4	①(12.0cm)②— ③4.2cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを多く含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
12	土師器 坏	北東 +14	①— ②— ③— ④体～底1/2	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	体～底部外面内面ナデ	I C	
13	土師器 坏	南東 +6	①(9.8cm) ②— ③— ④口～体部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	I C	
14	土師器 高 坏	北西 +11	①12.4cm ②9.2cm ③6.3cm ④一部欠損	①②にぶい橙 内面黒変 ③良好 ④細 細砂を含む	口縁部および脚端部横ナデ 体～ 脚部外面および脚部内面内面ナデ	III D	
15	土師器 高 坏	北東 +16	①— ②16.2cm ③— ④脚部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・パミスを少量含む	脚部巻き上げ成形 外面内面 内面ナデ 脚端部横ナデ	III B	
16	土師器 小型甕	南東 -2	①(13.6cm)②— ③— ④口～胴1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面内面 内面ナデ	VIII	
17	土師器 甕	北東 +24	①20.5cm ②— ③— ④口～胴2/3	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面内面 内面ナデ 胴部外面に粘土附着	VII A	
18	土師器 鉢	南西 +8	①(20.8cm)②— ③10.2cm ④口～底1/3	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ	X C	
19	土師器 甕	北西 +28	①— ②(12.0cm) ③— ④底部片	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面内面ナデ	XI A	
20	土師器 甕	北東 +28	①26.3cm ②13.2cm ③36.2cm ④口～底部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面内面 内面ナデ	XI A	
21	土製品 小 玉	北西 +2	長さ0.9cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm ④1/3	①黒褐 ③良好 ④細 細砂・パミスを少量含む	外面磨きか		

19号住居跡

位置 C 2～6-VII37～40Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形 規模 6.6m×6.42m

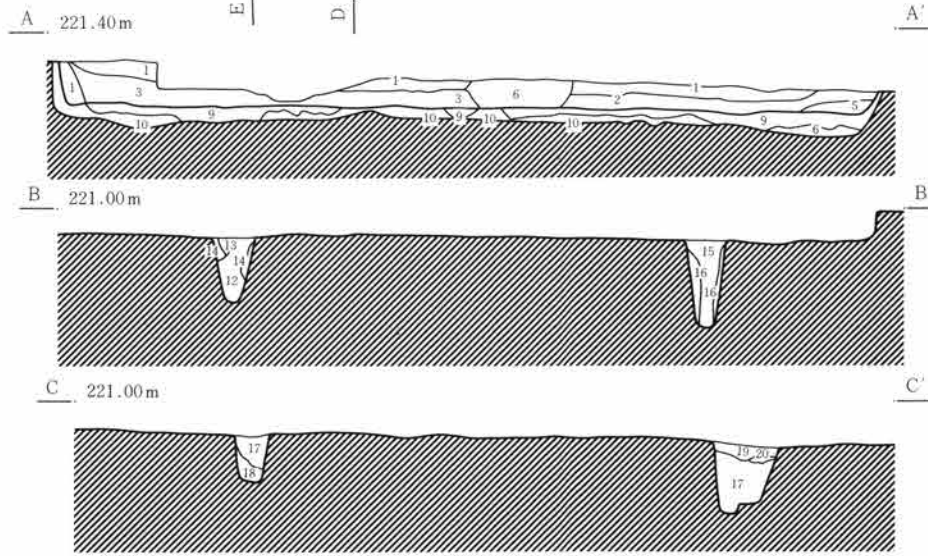
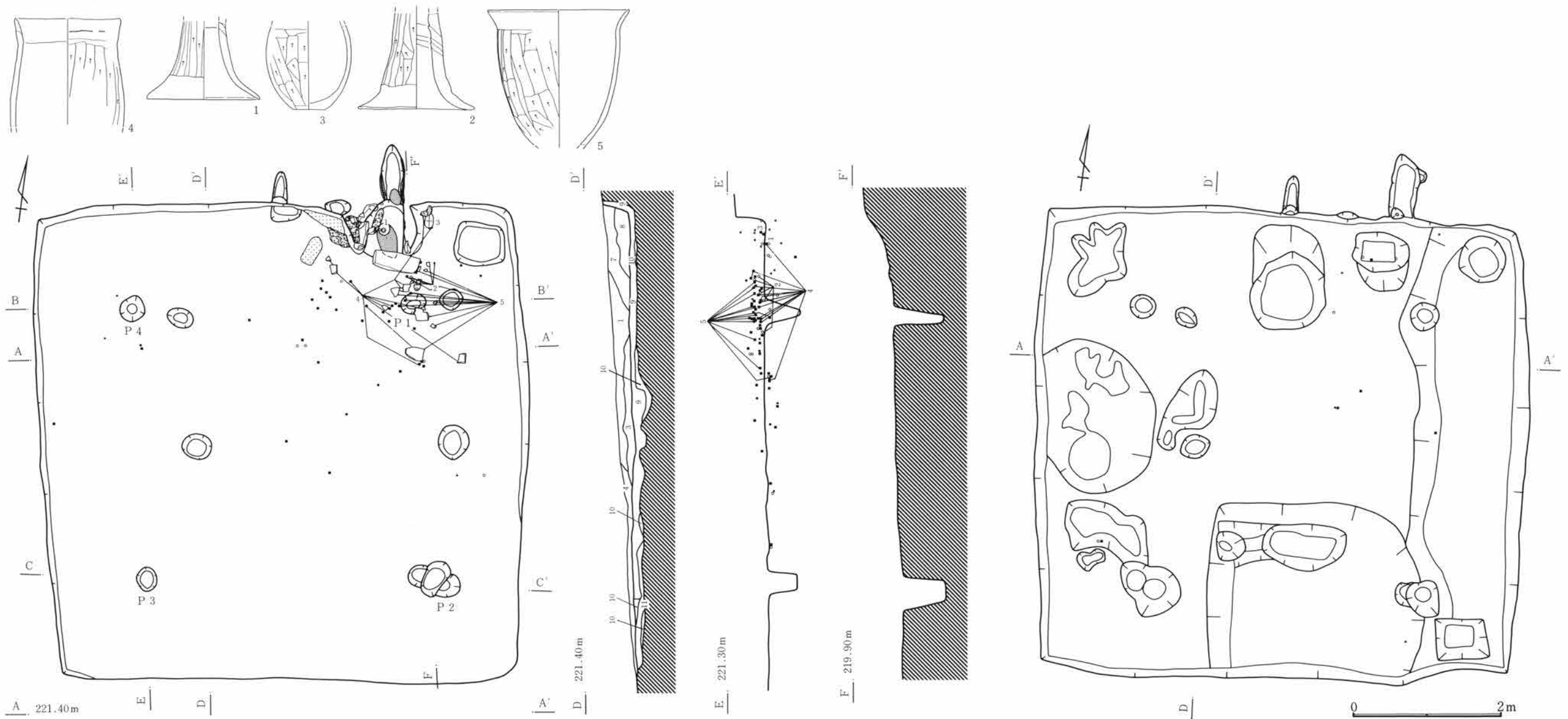
壁高 40cm 垂直に近い 面積 41.4m² 床面積 38.7m² 主軸方位 N-7°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出された。他に床面上から4基のピットが検出されているが、位置・規模等から柱穴とは考えられない。

P 1 長径30cm短径26cm深さ68cm P 2 長径72cm短径50cm深さ58cm P 3 長径32cm短径28cm深さ38cm

P 4 長径36cm短径26cm深さ42cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.68m 短径0.58m 深さ21cm



- 19号住居跡土層注記
- 1 暗褐色土 白色バミス、ローム粒子を含む
 - 2 暗褐色土 白色バミス、ローム粒子を含む 黒色土ブロックが斑状に混入
 - 3 暗褐色土 白色バミス、黄褐色バミス、ロームブロックを含む
 - 4 褐色土 ローム粒子を多量含む
 - 5 暗褐色土 ローム粒子を多量、白色バミスを含む 黒色土ブロックが斑状に混入
 - 6 褐色土 ロームブロック、黄褐色バミスを含む 土坑状の掘り込み
 - 7 暗褐色土 B.P.を少量、白色バミス、ローム粒子を含む
 - 8 暗褐色土 白色バミス、ローム粒子とB.P.を含む
 - 9 黄褐色土 ロームを主とする B.P.を多量含む
 - 9~11層貼床
 - 10 ローム二次堆積土
 - 11 黄褐色土 ロームを主とする B.P.を少量含む 色調やや暗い
 - 12 暗褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 13 褐色土 ローム粒子を少量含む
 - 14 暗褐色土 ローム粒子とロームブロックの混合土
 - 15 黒褐色土 炭化物を少量含む
 - 16 褐色土 貼床
 - 17 褐色土 ローム粒子を多量含む
 - 18 ローム二次堆積土
 - 19 褐色土 ローム粒子を多量、B.P.を少量含む
 - 20 B.P.層

第119図 19号住居跡

形状 平面形態は東西に長い隅丸長方形で、断面形態は底部が広く平坦で、台形を呈する。

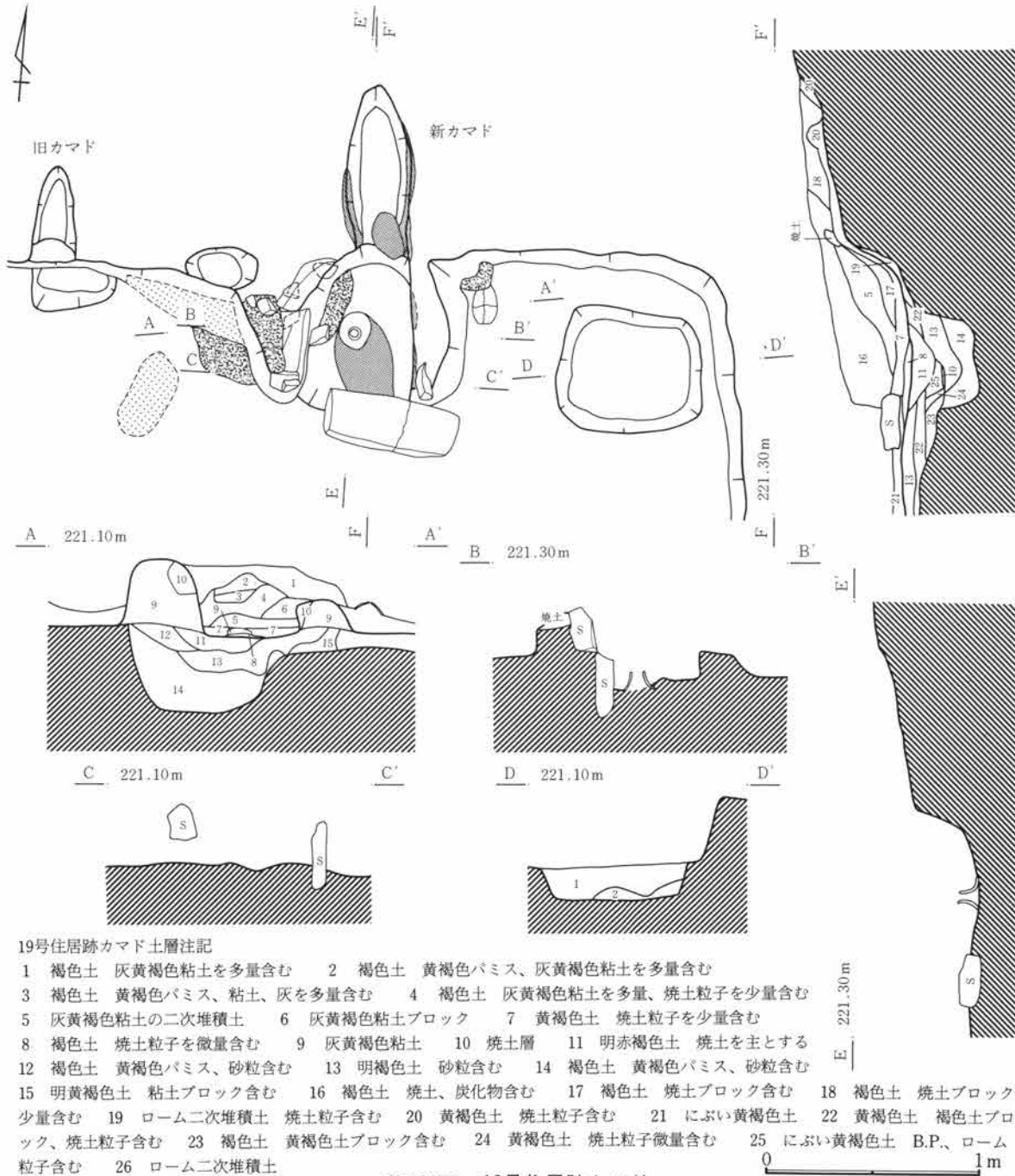
床面 ロームを主とする黄褐色土で5～20cmの貼床としている。若干凹凸があるがほぼ平坦な床面で、比較的良く踏み固められている。

掘り方 旧カマド前方に土坑状の掘り込みがあり、東壁際に溝状の、南壁・西壁際に大規模な土坑状の掘り込みが検出され、他に小規模な土坑、ピットが数基、また南東隅から、長方形の掘り込みが検出されている。

遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺に集中している。垂直分布は、覆土下層から床面付近のものが多。接合関係の判明するものは3点あり、床面付近、覆土下層が接合している。

カマド (新カマド)

位置 北壁東寄り **主軸方位** N-6°-W **規模** 全長1.51m 幅1.09m 煙道部長 0.72m



第120図 19号住居跡カマド

第III章 検出された遺構と出土遺物

構築 砂岩の切石を袖石として、灰黄褐色粘土で袖を構築しており、内側は強く焼けている。また天井石が、袖手前の床面上から出土している。火床面は床面より低くなっており、強く焼けている。煙道部はほぼ水平に延びて立ち上がっており、東西の立ち上がりの内側は強く焼けている。カマド左脇から灰層が検出されている。

遺物出土状況 燃焼部使用面直上から高坏が立った状態で出土しており、支脚に転用されたものと考えられる。また右脇から甕の破片が出土している。

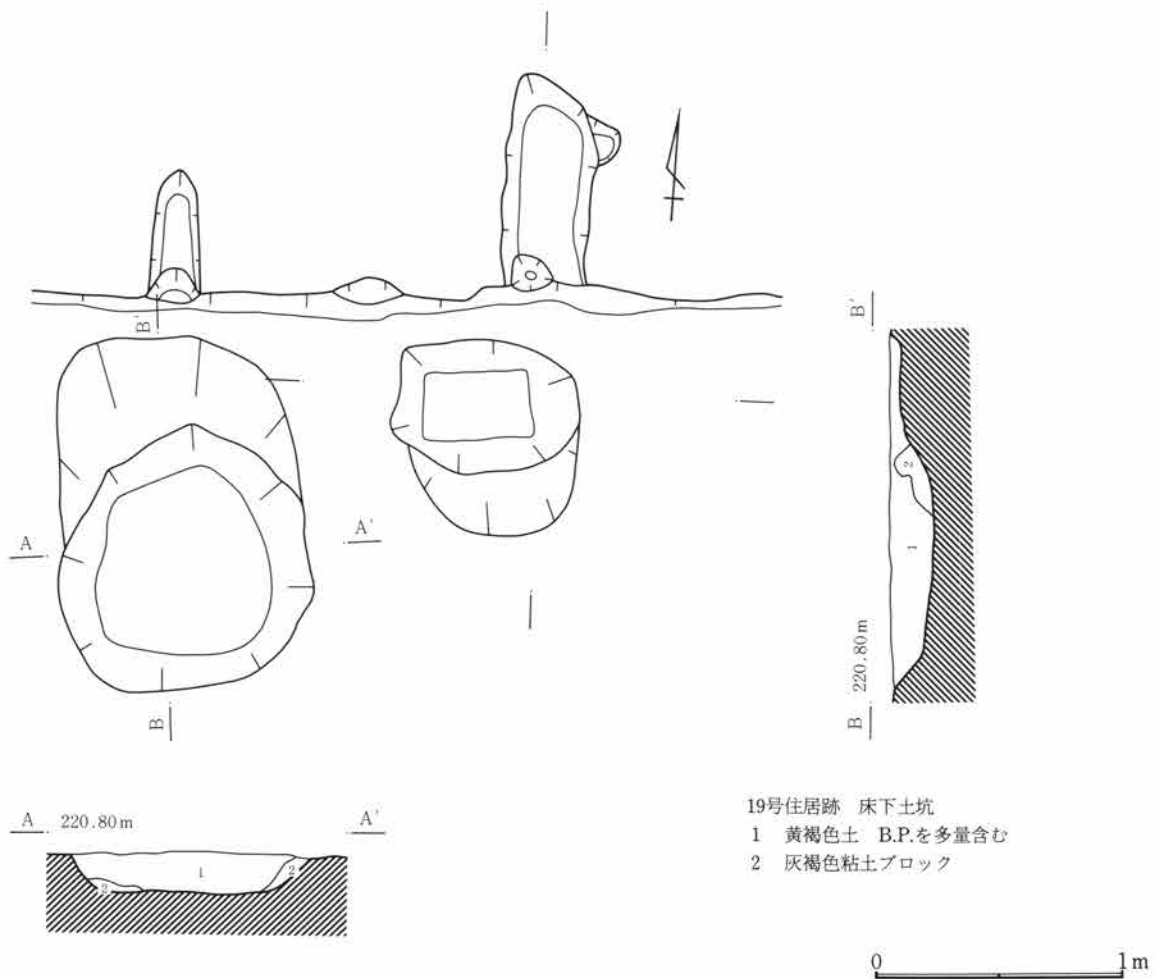
カマド (旧カマド) 位置 北壁やや東寄り 主軸方位 N-3°-W 規模 煙道部長0.53m

出土遺物 出土量は少なく、土師器坏・高坏・甕が出土しているが、甕に比べ坏の量が少なくなっている。他に古式土師器が1点出土している。

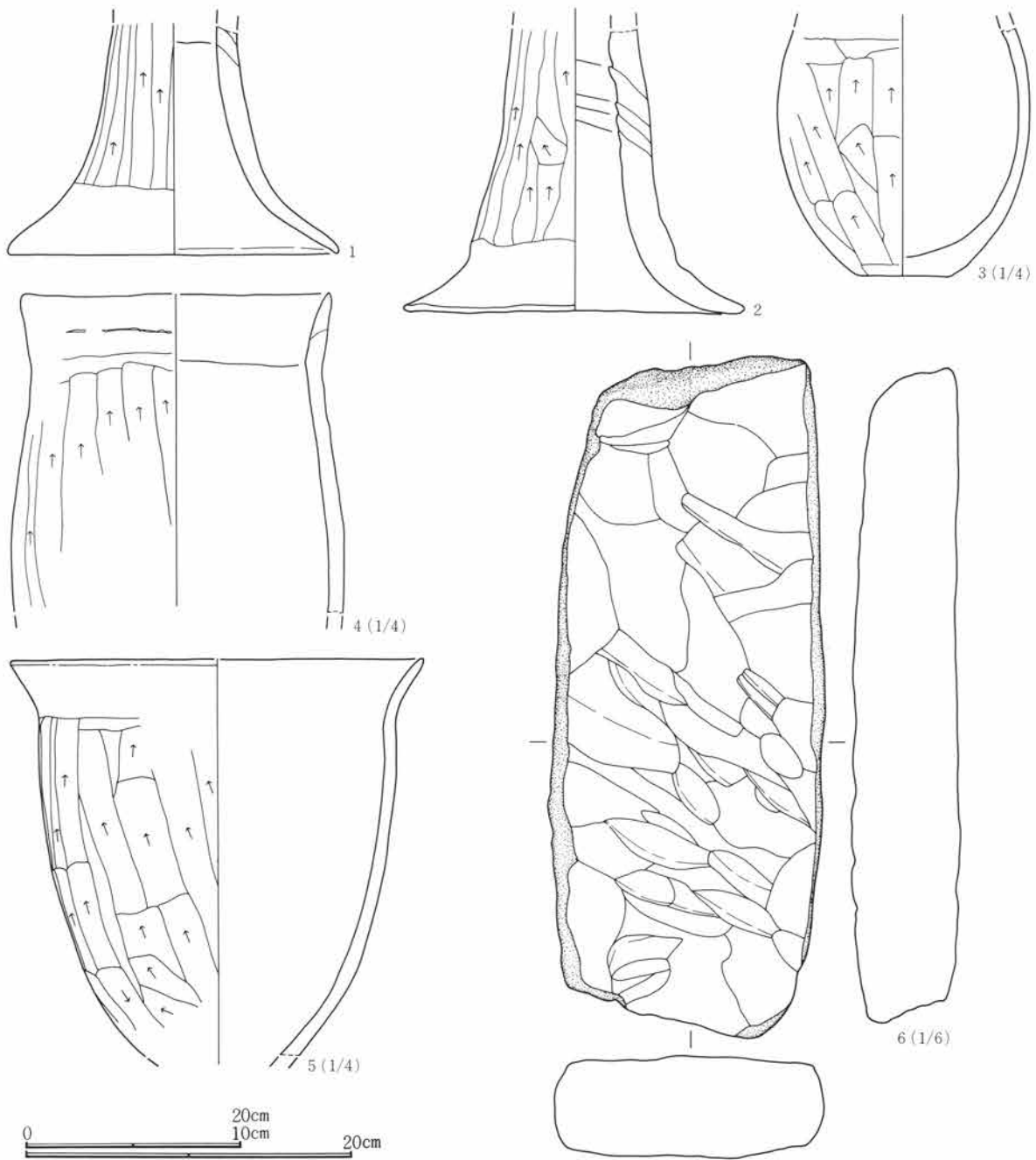
所見 出土遺物中に時期の分かるものが少ないが、新カマド出土の高坏等から6世紀後半代と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器			計	
	器種	坏	高坏		甕
点数		10	8	58	76
重量(g)		135	1,095	3,200	4,430



第121図 19号住居跡カマド掘り方



第122図 19号住居跡出土遺物

19号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 高 坏	カマド	①— ③—	②15.2cm ④脚部	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	脚部外面篋削り内面ナデ 脚端部 横ナデ	V B	
2	土師器 高 坏	北東 ± 0	①— ③—	②15.4cm ④脚部	①明黄褐 ②橙 ③良好 ④細 粗砂・礫・パミスを含む	脚部巻き上げ成形 外面篋削り内 面ナデ 脚端部横ナデ	V B	
3	土師器 甕	北東 + 4	①— ③—	②5.0cm ④胴～底1/2	①褐 ②黒褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	胴部外面篋削り内面ナデ	VII	
4	土師器 甕	北東 - 3	①(18.8cm)②— ③—	④口～胴1/3	①②にふい黄橙 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 輪積痕を残す 胴部外面篋削り内面ナデ	VII A	
5	土師器 甕	北東 - 10	①25.2cm ②— ③—	④口～胴2/3	①にふい橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	

第三章 検出された遺構と出土遺物

19号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
6	カマド部材	カマド	61.8	25.0	9.8	19200	完形	砂岩	鑿状工具による加工痕あり
7	こも編石	南東-10	16.9	7.8	3.2	720	完形	輝緑岩	側面に刻みあり

20号住居跡

位置 C 31~35-VII67~71Gr 重複 なし (調査区外は不明) 平面形態 正方形

規模 5.9m×5.9m 壁高 56cm 垂直に近い 面積 [29.2m²] 床面積 [26.0m²]

主軸方位 N-17°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に3基 (1基は調査区外にあると考えられる) 検出されている。

P 1 長径80cm短径70cm深さ50cm P 2 長径88cm短径74cm深さ60cm P 3 長径78cm短径72cm深さ80cm

貯蔵穴 カマド右脇にあると考えられるが、調査区外のため不明。

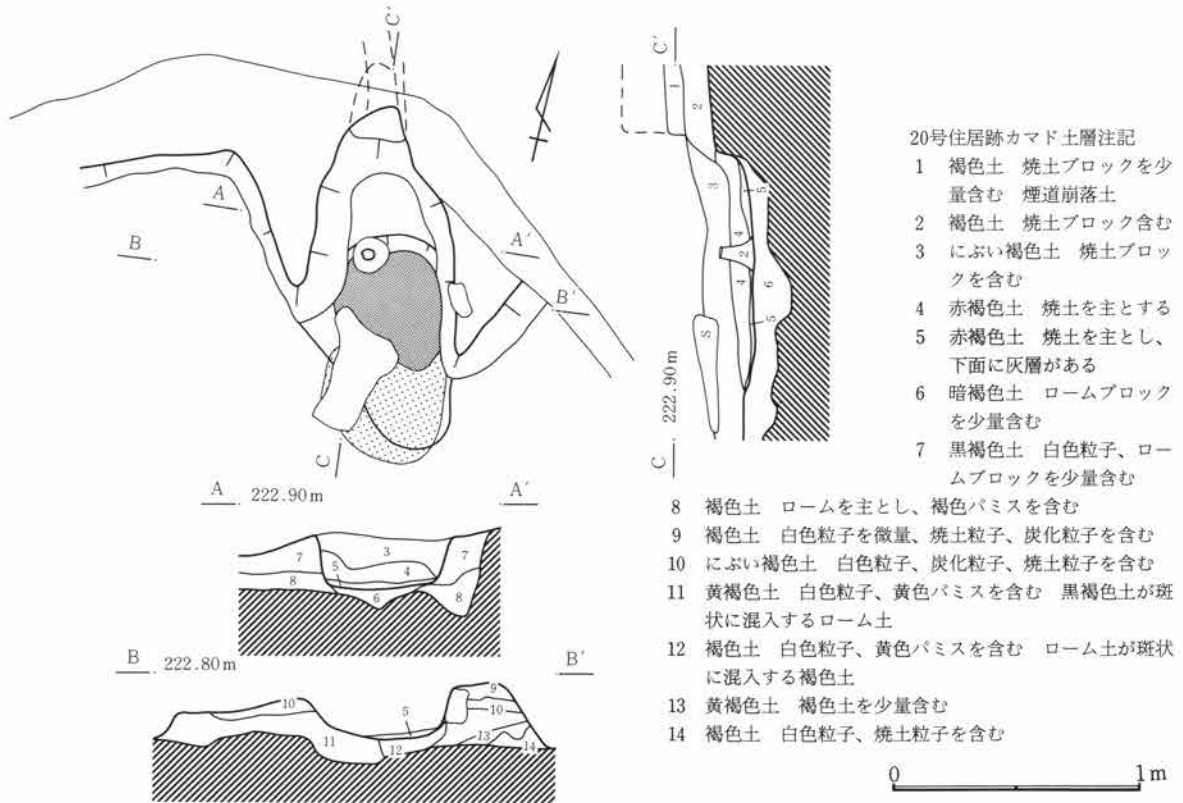
床面 ロームを含む暗褐色土で貼床とし、ほぼ平坦な床面となっている。

掘り方 小さな凹凸の多い掘り方で、中央部が周囲より若干高くなっている。土坑状の掘り込み・ピットが数基検出されている。

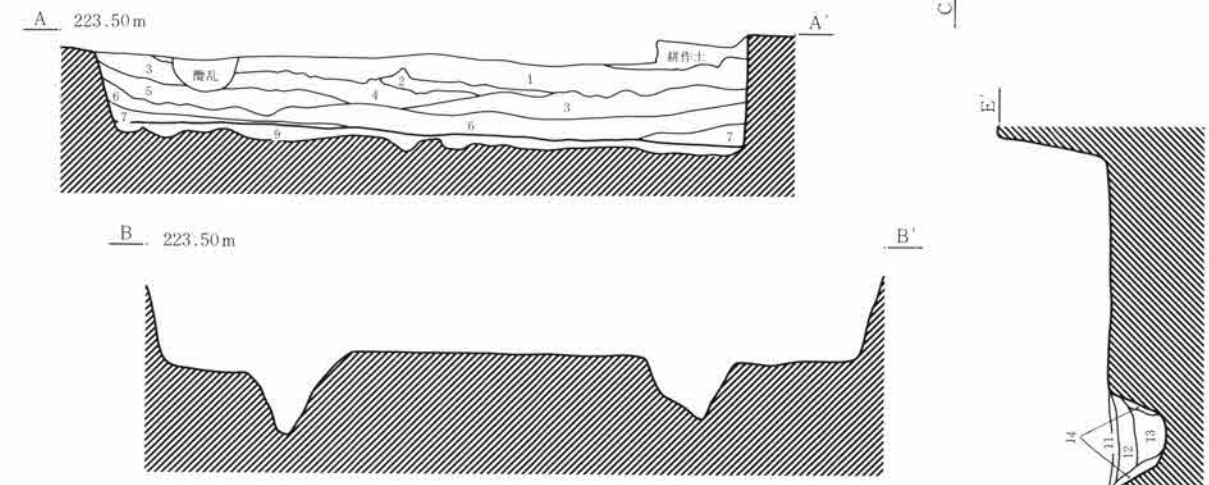
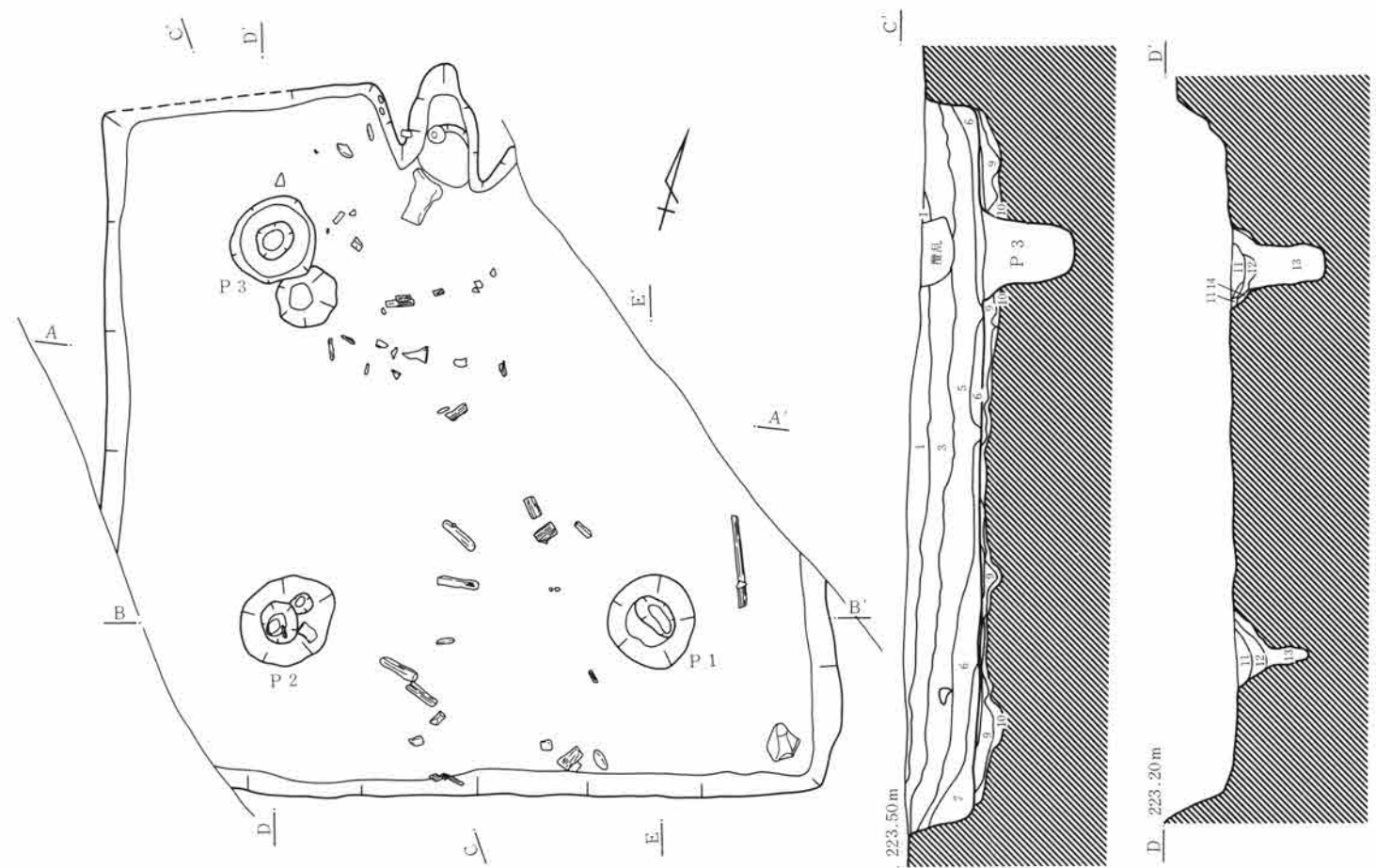
遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、西壁際がやや薄くなっている。垂直分布も、上層から下層まで満遍なく出土している。接合関係の判明するものは9点あり、床面付近で接合しているものが多いが、上層と下層が接合しているものもある。また、建築材と思われる炭化材が南東部から少量出土している。

カマド

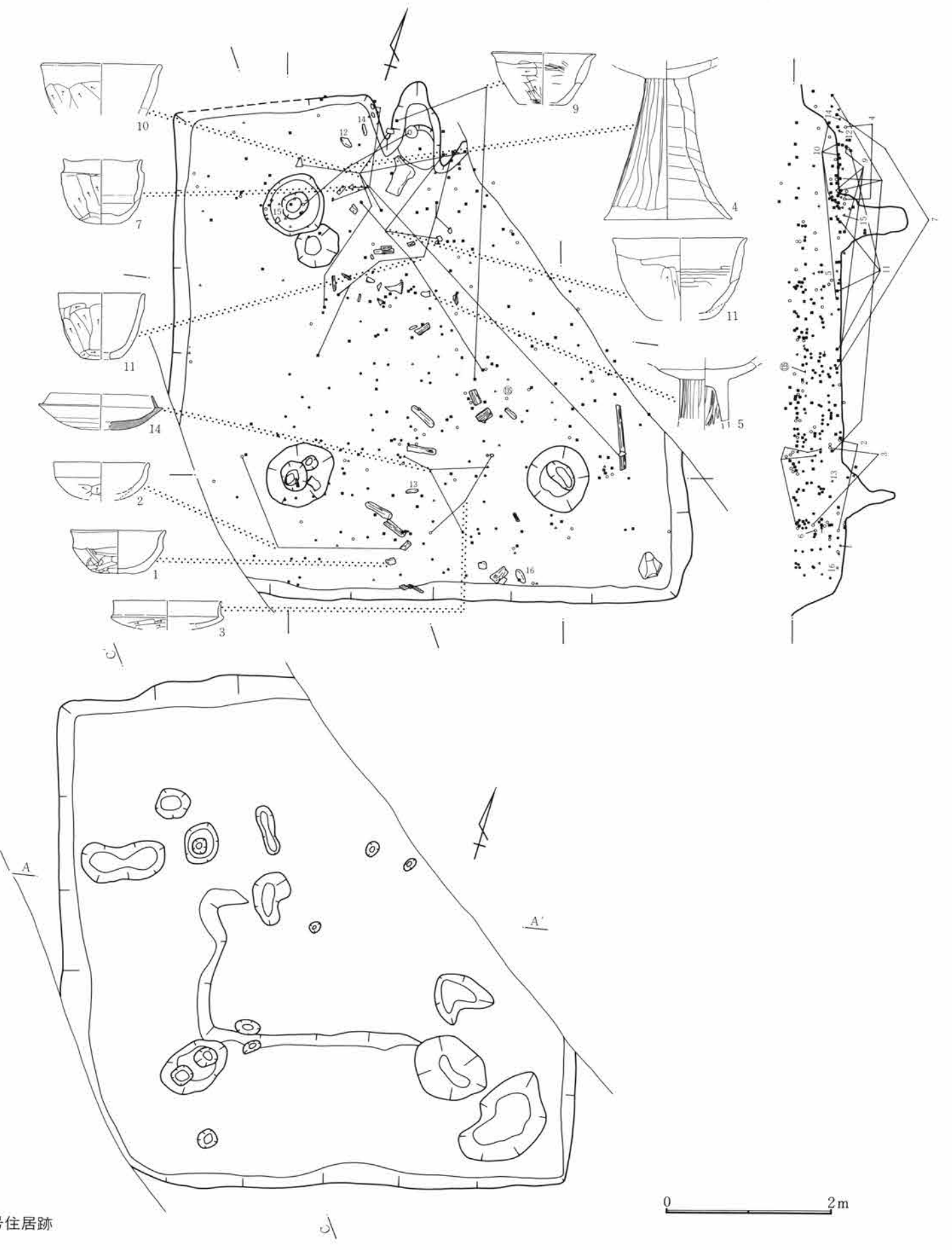
位置 北壁ほぼ中央 主軸方位 N-14°-W 規模 全長1.1m 幅0.75m



第123図 20号住居跡カマド



- 20号住居跡土層注記
- 1 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 2 黒褐色土 木炭、灰を含む
 - 3 暗褐色土 ロームブロックを多量含む
 - 4 暗褐色土 ロームブロックを多量、木炭を少量含む
 - 5 暗褐色土 ロームブロックを多量含む 色調やや暗い
 - 6 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 7 暗褐色土 ロームブロックを少量、木炭を含む
 - 8 暗褐色土 ロームブロック、黒褐色土を含む
 - 9 暗褐色土 ロームブロックを多量、黒褐色土を含む
 - 10 褐色土 ロームブロックを少量含む (9・10層貼床)
 - 11 褐色土 ロームブロック多量含む
 - 12 褐色土 ロームブロック多量含む 縮まり弱い
 - 13 明褐色土 ローム土を主とする



第124図 20号住居跡

構築 褐色土で袖を構築しており、袖石は左側だけに出土した。火床面は床面より若干低く、よく焼けている。またその手前に灰層が検出されている。煙道部は調査区外のため不明である。

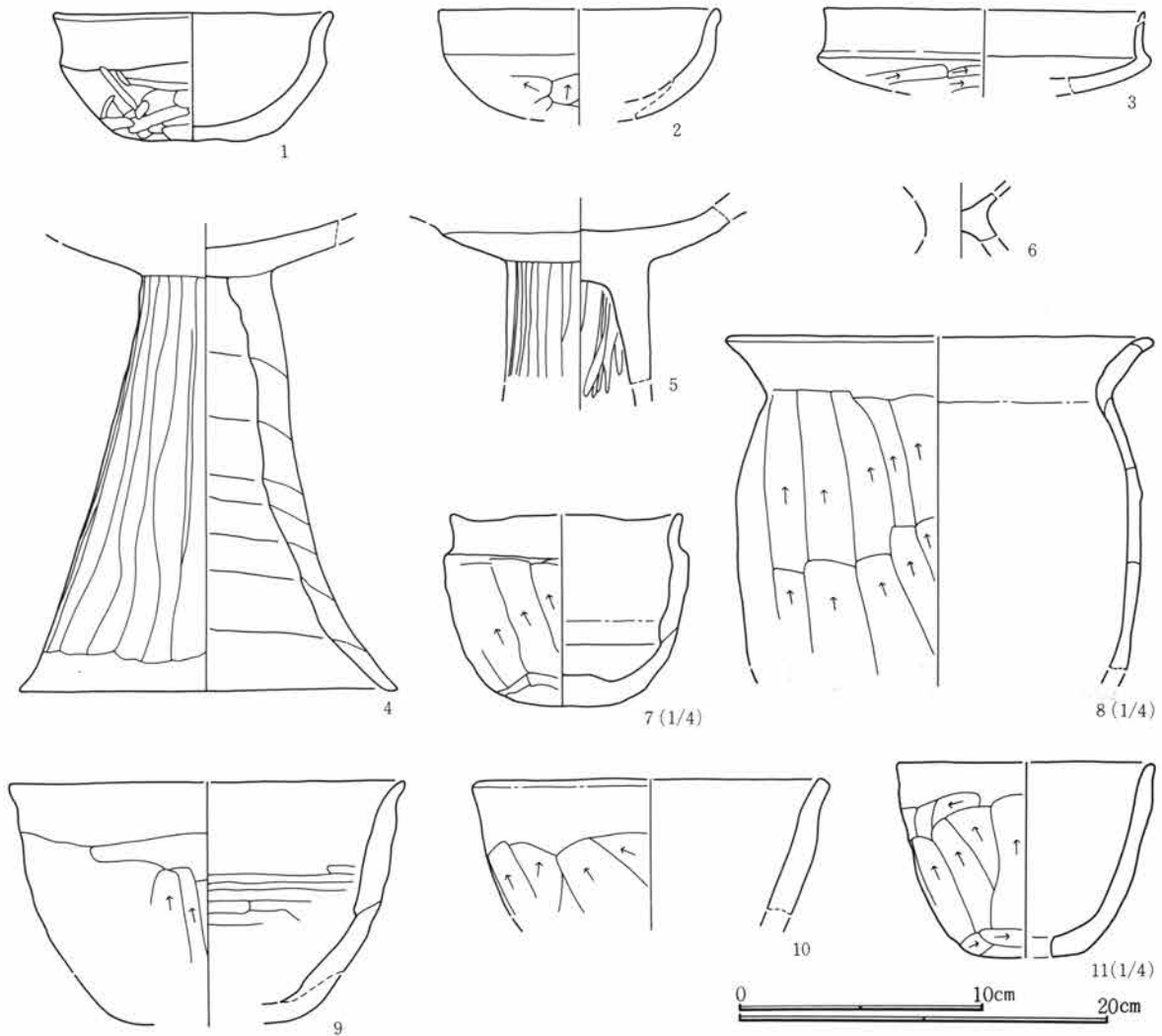
遺物出土状況 土師器高坏が立った状態で使用面直上から出土しており、支脚として使用されていたと考えられる。

出土遺物 出土量はやや多く、土器は、土師器坏・高坏・甕・鉢・甗・小型甕、須恵器坏が出土しており、土錘、紡錘車、土製玉も出土している。石製品は、こも編石5点、不明石製品1点が出土している。他に、弥生土器115点、縄文土器1点が出土している。

所見 完形に近い形で出土した土器は少なく、破片が接合したものが多いため、厳密に住居の時期を示しているものは少ないが、6世紀後半代の住居と考えられる。

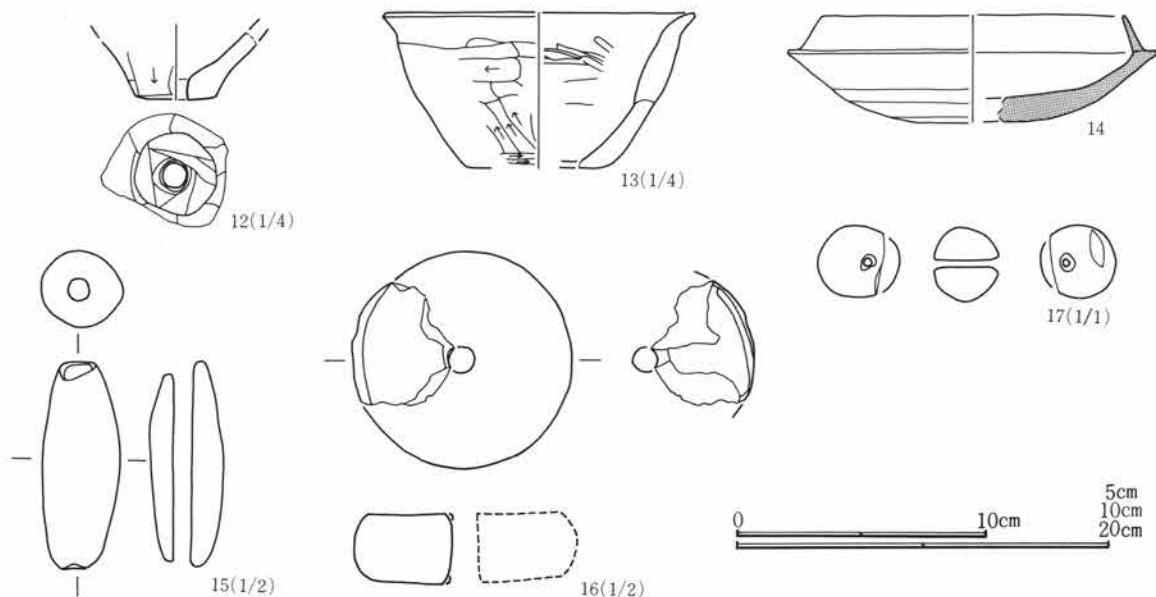
出土土器数量表

種別	土師器						須恵器	計
	坏	高坏	甕	小型甕	鉢	甗		
点数	58	9	162	17	5	10	6	267
重量(g)	630	1,070	2,540	680	440	325	100	5,785



第125図 20号住居跡出土遺物(1)

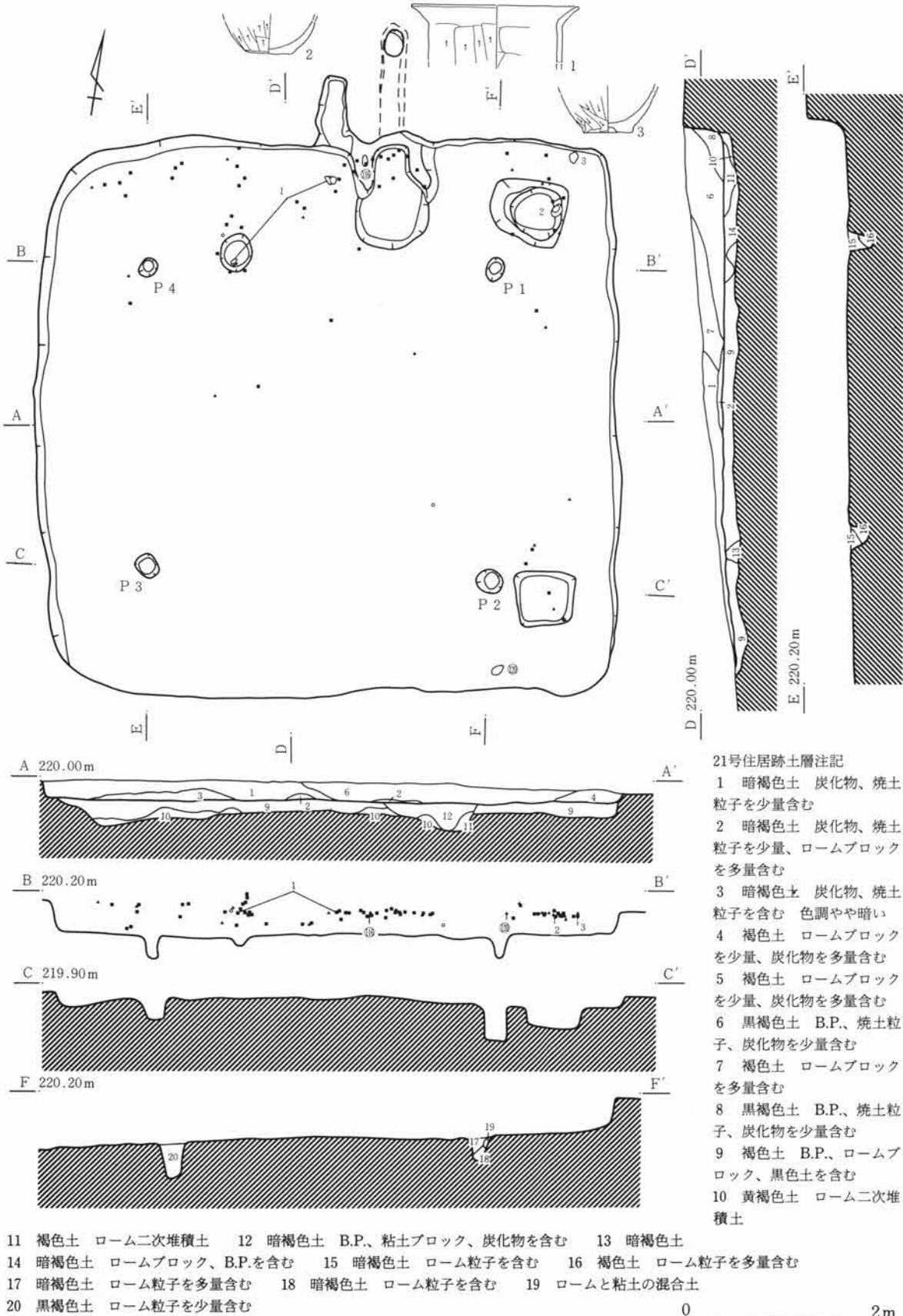
第III章 検出された遺構と出土遺物



第126図 20号住居跡出土遺物(2)

20号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 杯	南西 +7	①(11.2cm)②4.2cm ③5.0cm ④口~底1/3	①にぶい黄褐 ②黒褐 ③良好 ④細 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面上半無調 整下半~底部外面磨き内面磨き	I C	
2	土師器 杯	南西 +3	①(11.1cm)②- ③- ④口~体1/3	①②褐灰 ③良好 ④細 粗砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体部外面磨削り内 面ナデ	I C	
3	土師器 杯	南東 +12	①(12.8cm)②- ③- ④口~体1/4	①②橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面磨削り内 面ナデ	I C	
4	土師器 高 杯	カマド	①- ②(15.0cm) ③- ④脚部	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	脚部外面磨削り内面ナデ 脚端部 横ナデ	V B	
5	土師器 高 杯	北東 +14	①- ②- ③- ④底~脚部	①②橙 脚内面にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂を含む	体部内外面ナデ 脚部外面磨削り 内面磨ナデか	V C	
6	土師器 高 杯	南東 +36	①- ②- ③- ④底~脚部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	外面磨削り内面ナデ	V	
7	土師器 小型壺	北西 -2	①(12.4cm)②- ③10.3cm ④口~底1/3	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 細砂・礫・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴~底部外面磨削り 内面ナデ	VIII	
8	土師器 甕	北東 +42	①(22.5cm)②- ③- ④口~胴部片	①②にぶい赤褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多量に含む	口縁部横ナデ 胴部外面磨削り内 面ナデ	VII A	
9	土師器 鉢	北東 -12	①16.0cm ②- ③(8.1cm) ④口~胴1/3	①にぶい黄橙 ②褐灰 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面磨削り内 面粗い磨き	X A	
10	土師器 鉢	北西 ±0	①(11.1cm)②- ③- ④口縁1/2	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 体部外面磨削り内 面ナデ	X A	
11	土師器 甕	北東 ±0	①(13.6cm)②(6.3cm) ③10.4cm ④口~底1/4	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面磨削り内 面ナデ	XII B	
12	土師器 甕	北東 +22	①- ②4.3cm ③- ④底部	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・雲母・礫を含む	外面磨削り 内面ナデ 底部中央 に径1.2cmの孔あり	XII B	
13	土師器 甕	南東 ±0	①(16.5cm)②(7.9cm) ③8.2cm ④口~底1/5	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面磨削り内 面一部磨き	XII B	
14	須恵器 杯	南東 +22	①(12.0cm)②- ③4.2cm ④口~底1/4	①②灰 ③還元焙 良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転磨削り	I A	
15	土製品 土 錘	南西 +34	径2.1cm 孔径5mm 長さ5.4cm ④完形	①にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂を少量含む	外面ナデか		
16	土製品 紡錘車	北西 +34	径5.8cm 孔径6mm 厚さ1.9cm ④1/4	①にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面ナデか		
17	土製品 小 玉	南東 +5	径1.0cm 孔径1mm ④一部欠損	①黒褐 ③良好 ④細 細砂を微量含む	外面磨きか		



第127図 21号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

20号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
18	こも編石	北西-5	15.6	9.1	4.5	1000	完形	輝緑岩	
19	こも編石	南西+12	12.8	6.8	5.3	650	完形	石英安山岩	
20	こも編石	北西-4	14.6	7.0	6.0	680	完形	石英安山岩	
21	こも編石	北西-6	16.0	6.8	4.0	610	完形	輝緑岩	側面に敲打痕あり
22	こも編石	南東+6	14.2	8.2	3.8	625	完形	絹雲母緑泥片岩	

21号住居跡

位置 C 3~6-VII26~29Gr 重複 18号住と重複(新旧不明) 平面形態 隅丸方形

規模 6.06m×5.8m 壁高 20cm 垂直に近い 面積 34.0m² 床面積 31.5m²

主軸方位 N-11°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。柱間が広く南北3.18m東西3.66mある。

P 1 長径24cm短径18cm深さ26cm P 2 長径28cm短径26cm深さ26cm P 3 長径26cm短径22cm深さ38cm

P 4 長径20cm短径18cm深さ20cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.8m 短径0.68m 深さ73cm

形状 平面形態は東西に長い隅丸長方形で、断面形態を見ると、底部は丸みを帯び垂直に近く立ち上がっているが、西側には途中段がある。



第128図 21号住居跡掘り方

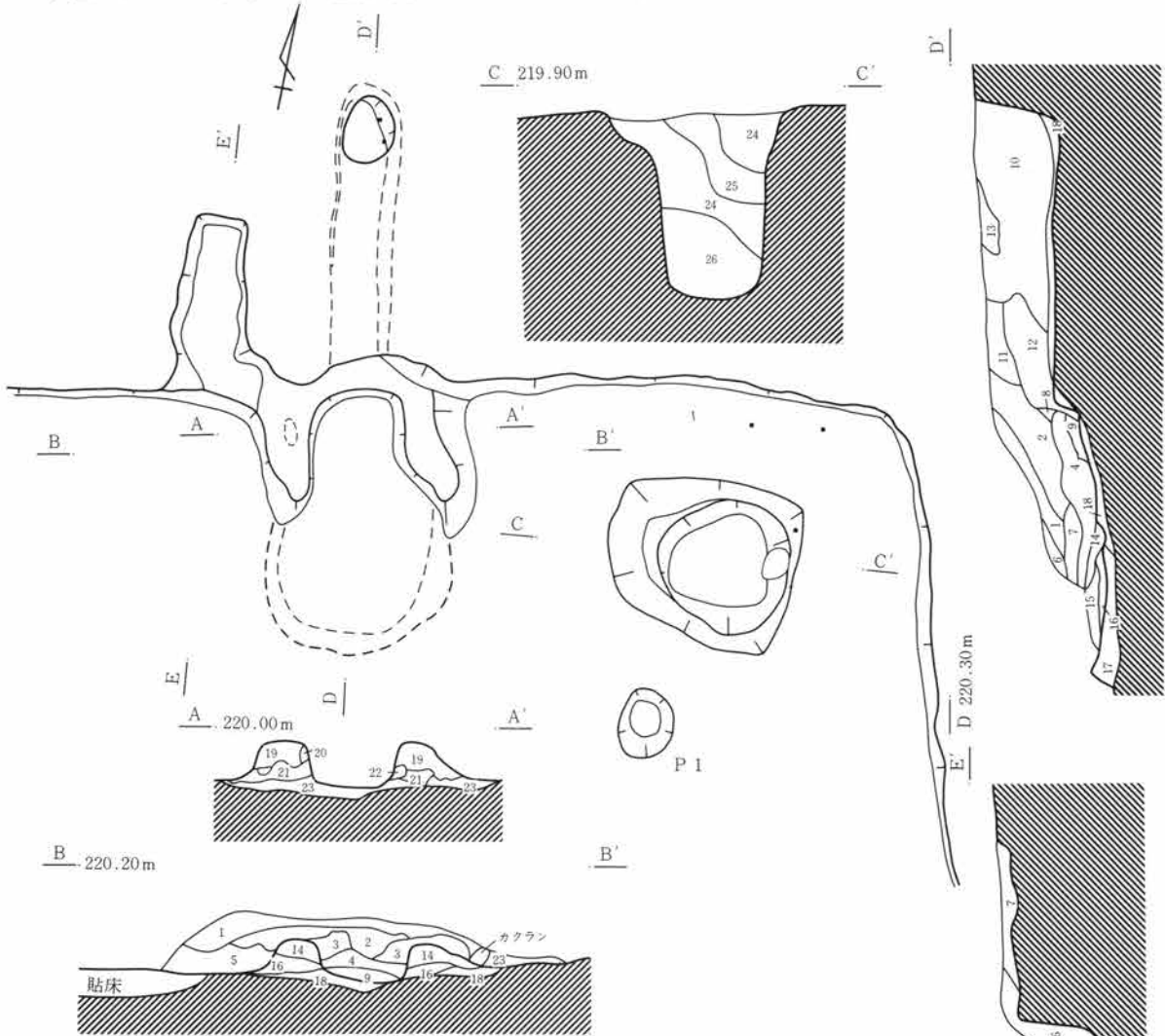
床面 ロームを主とする黄褐色土で10～25cmの貼床としており、ほぼ平坦な床面である。

掘り方 東壁際から南壁・西壁際にかけて、不定型な溝状の落ち込みが検出されている。また、南壁際にはほぼ直線上に等間隔で3基のピットが検出されており、他に十数基のピットが検出されている。

遺物出土状況 出土量は少なく、北側に多く出土している。垂直分布を見ると、覆土中層が多く床面付近は少ない。接合関係の判明するものは1点だけで、覆土中の破片が接合している。

カマド (新カマド)

位置 北壁やや東寄り **主軸方位** N-7°-W **規模** 全長2.35m 幅0.86m 煙道部長1.11m



21号住居跡カマド土層注記

- 1 暗褐色土 焼土粒子を少量、ローム粒子を含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子、炭化物を含む
- 3 黒褐色土 ローム粒子、炭化物、青灰色粘土ブロック含む
- 4 褐色土 焼土ブロック多量含む
- 5 黒褐色土 ローム粒子を少量、炭化物を含む
- 6 暗褐色土 焼土・ローム粒子を少量含む
- 7 暗褐色土 焼土粒子を多量、ローム粒子を含む
- 8 褐色土 灰褐色粘土粒子、焼土粒子含む
- 9 赤褐色土 焼土を主とする
- 10 黒色土 白色パミス少量含む
- 11 赤橙色土 煙道天井部焼土
- 12 褐色土 焼土ブロックを含む 天井部崩落土
- 13 褐色土 焼土ブロックを含む
- 14 赤褐色土 焼土を主とする 暗褐色土ブロック含む
- 15 暗褐色土 焼土・黒褐色土ブロック含む
- 16 赤褐色土 焼土を主とする 暗褐色土ブロック含む
- 17 褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 18 褐色土 暗褐色土ブロック、焼土粒子少量含む
- 19 におい黄褐色土 粘土を主とする
- 20 におい黄褐色土 焼土ブロックを含む
- 21 暗褐色土 黄色パミスを微量含む
- 22 暗褐色土 焼土粒子を多量含む
- 23 黄褐色土 暗褐色土ブロックを多量含む
- 24 黒褐色土 炭化物含む
- 25 黒色土 ロームブロック含む
- 26 黒褐色土 ローム粒子含む

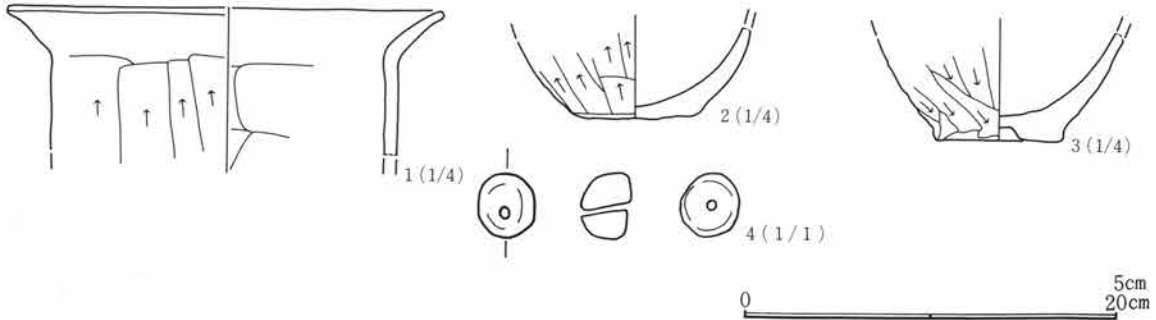
第129図 21号住居跡カマド

第III章 検出された遺構と出土遺物

構築 黄褐色粘土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は出土していない。火床面は床面とほぼ同レベルで、比較的良好に焼けている。煙道部はほぼ水平に延びており、一部天井の焼土が残っている部分もある。

遺物出土状況 焼土部覆土から、土器小破片が出土しているだけである。

カマド (旧カマド) 位置 北壁中央 **主軸方位** N-2°-W **規模** 煙道部長0.71m



第130図 21号住居跡出土遺物

21号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 甕	北西 +22	①(23.0cm)②— ③— ④口縁部片	①明褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII A	
2	土師器 甕	北東 +18	①— ②6.1cm ③— ④底部	①褐 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ	VII	
3	土師器 甕	北東 +22	①— ②6.8cm ③— ④底部	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 粗砂を多く含む	胴部外面篋削り内面ナデ 底部外面 木葉痕中央に孔(径1.8cm、深7mm)	VII	
4	土製品 小 玉	覆土	径0.9cm 孔径1mm ④完形	①黒褐 ③良好 ④細 細砂・雲母を少量含む	外面磨きか		

出土遺物 土器は、土師器坏・甕、須恵器甕・瓶が出土しており、他に弥生土器が4点出土している。

所見 出土土器はほとんど小破片で覆土中出土のものであるため、詳しい時期は不明であるが、古墳時代後期の住居になると考えられる。

出土土器数量表

種 別	土師器				計
	坏	甕	甕	瓶	
点 数	23	90	8	1	122
重量(g)	155	1,410	120	25	1,710

22号住居跡

位置 C 6～9-VII21～24Gr **重複** 24号住居より古 **平面形態** 隅丸方形 東壁やや短く台形に近い

規模 5.9m×5.4m **壁高** 62cm やや傾斜している **面積** 29.9m² **床面積** 27.3m²

主軸方位 N-18°-W **壁溝** なし

柱穴 P 1 長径24cm短径20cm深さ56cm P 2 長径32cm短径26cm深さ80cm P 3 長径38cm短径26cm深さ80cm

貯蔵穴 **位置** 北東隅 **規模** 長径0.56m 短径0.50m 深さ48cm

形状 平面形態は丸みを帯びた隅丸方形で、断面形態は台形であるが北側の立ち上がりが急である。

床面 ロームを含む褐色土で厚さ5～25cmの貼床としているが、24住に大きく壊されているため詳細は不明。

掘り方 24号住に大きく壊されているが、西壁際に溝状の掘り込みが検出されている。

遺物出土状況 北側カマド周辺に完形に近い遺物が多く出土している。垂直分布を見ると、上層から床面付近まで満遍なく出土しているが、完形に近い遺物はほとんど床面直上である。また炭化材が北壁および西壁

際から出土しているが、一部放射状の部分もあるため屋根材の可能性はある。

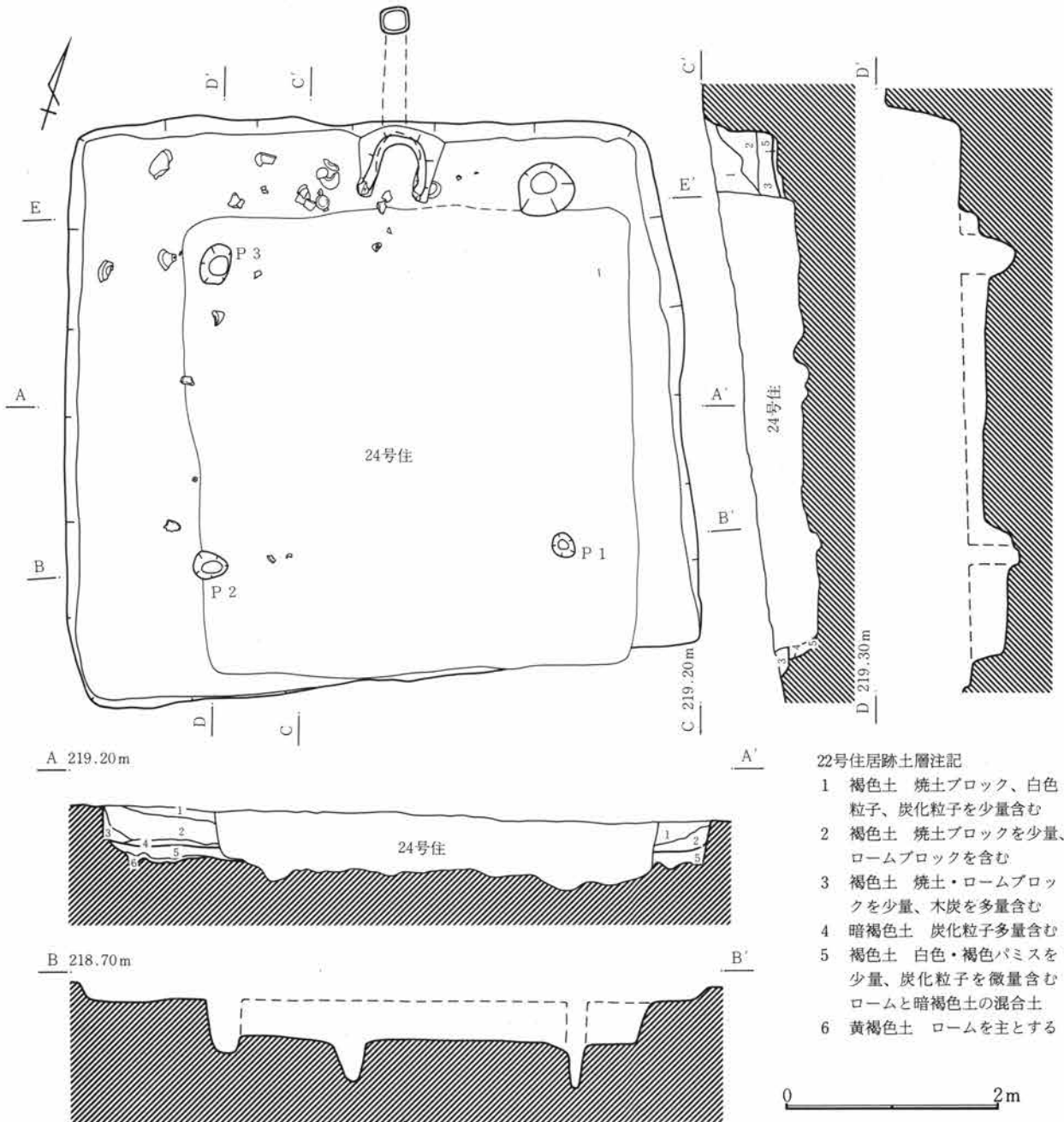
カマド

位置 北壁中央部 主軸方位 N-16°-W 規模 全長1.84m 幅0.81m 煙道部長1.06m

構築 小さなピットに石を埋め、それを袖石として褐色粘質土で袖を構築しており、内側は強く焼けている。火床面は平坦で、あまり焼けていない。

遺物出土状況 右袖石脇から坏が2枚重なって出土した他、周辺から多くの遺物が出土している。

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器坏・高坏・甕・鉢・器形不明、須恵器坏・甕・瓶が出土し、石製品は、管玉、玉末製品、紡錘車、台石、不明石製品が出土している。他の住居に比べ高坏が多く出土している特徴がある。他に弥生土器が8点出土している。



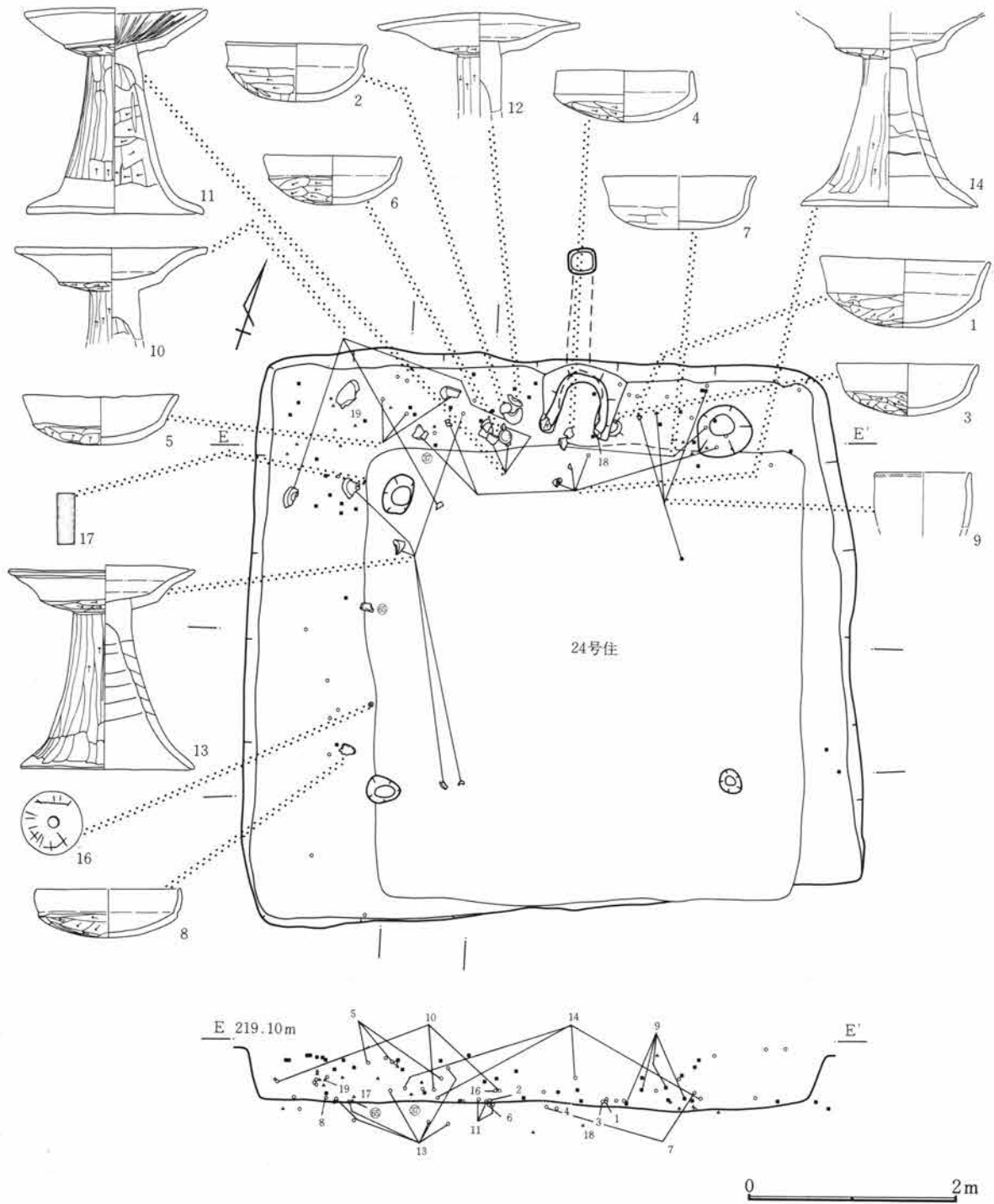
第131図 22号住居跡

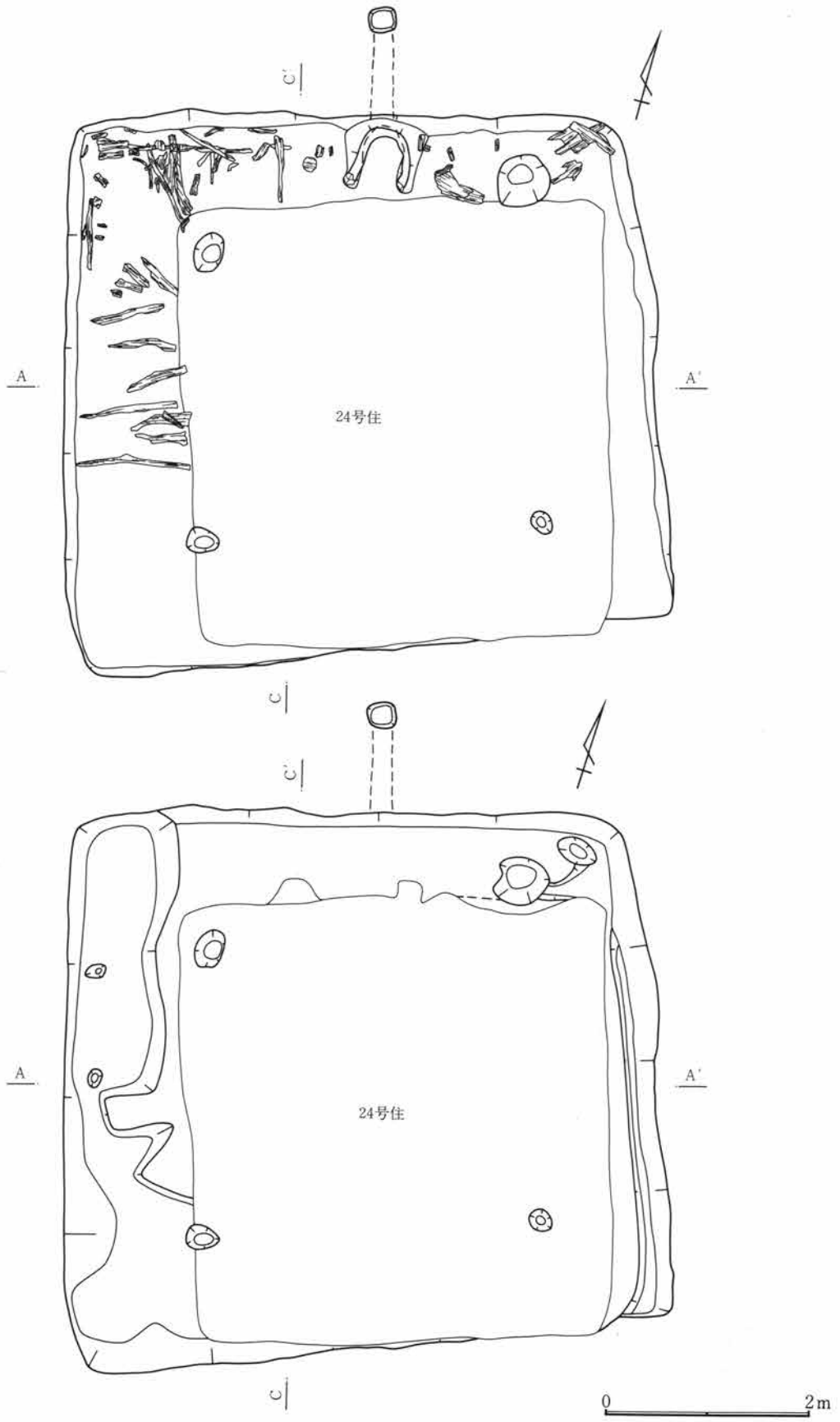
第三章 検出された遺構と出土遺物

所見 カマド周辺から住居に遺棄された遺物が多数出土しており、これらの遺物から住居の時期は6世紀後半代になると考えられる。

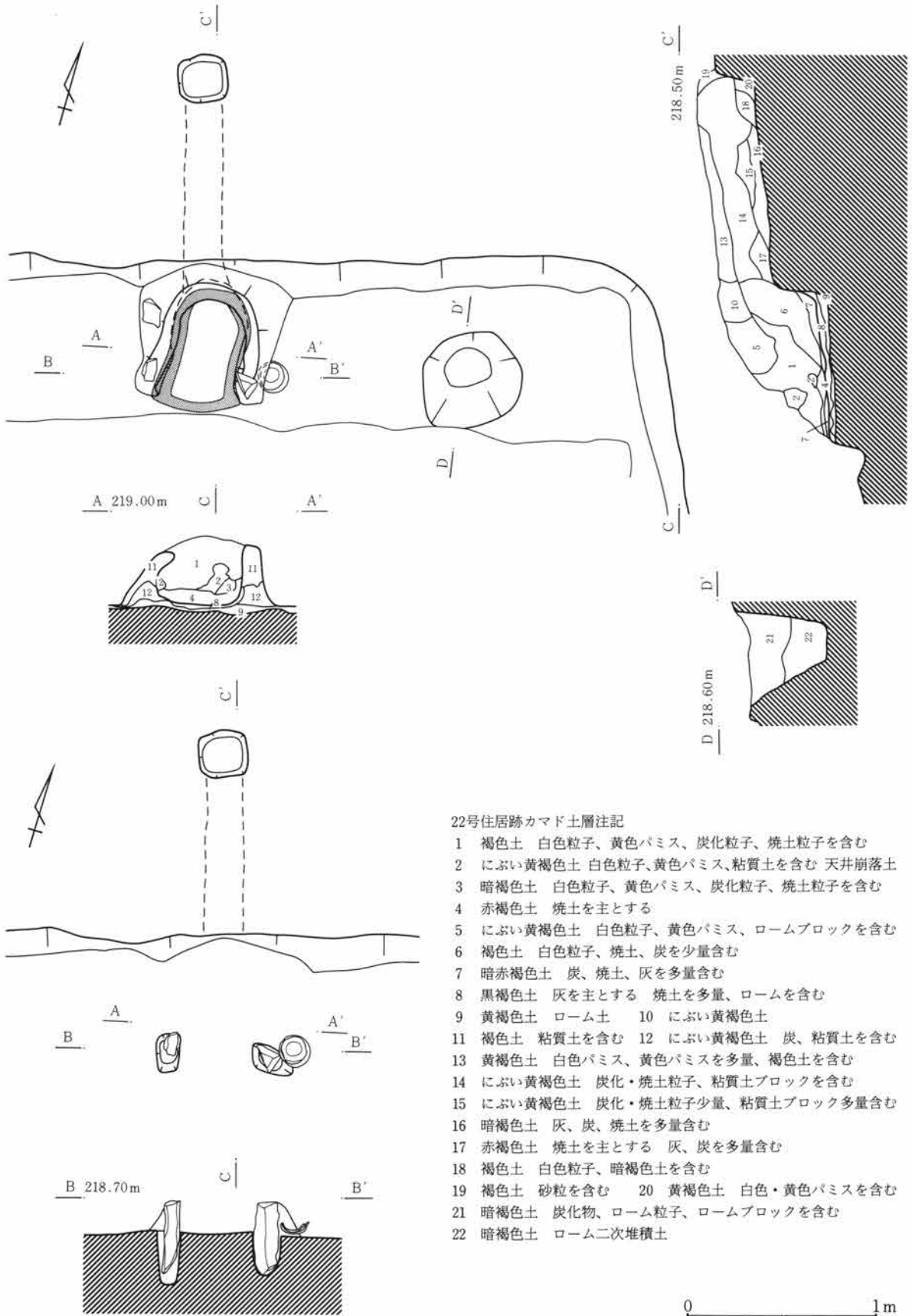
出土土器数量表

種別	土 師 器					須恵器			計
	坏	高坏	甕	鉢	不明	坏	甕	瓶	
点数	130	11	272	2	1	4	4	3	427
重量(g)	2,795	3,410	3,720	705	5	20	70	55	10,780





第133図 22号住居跡炭化材出土状況および掘り方

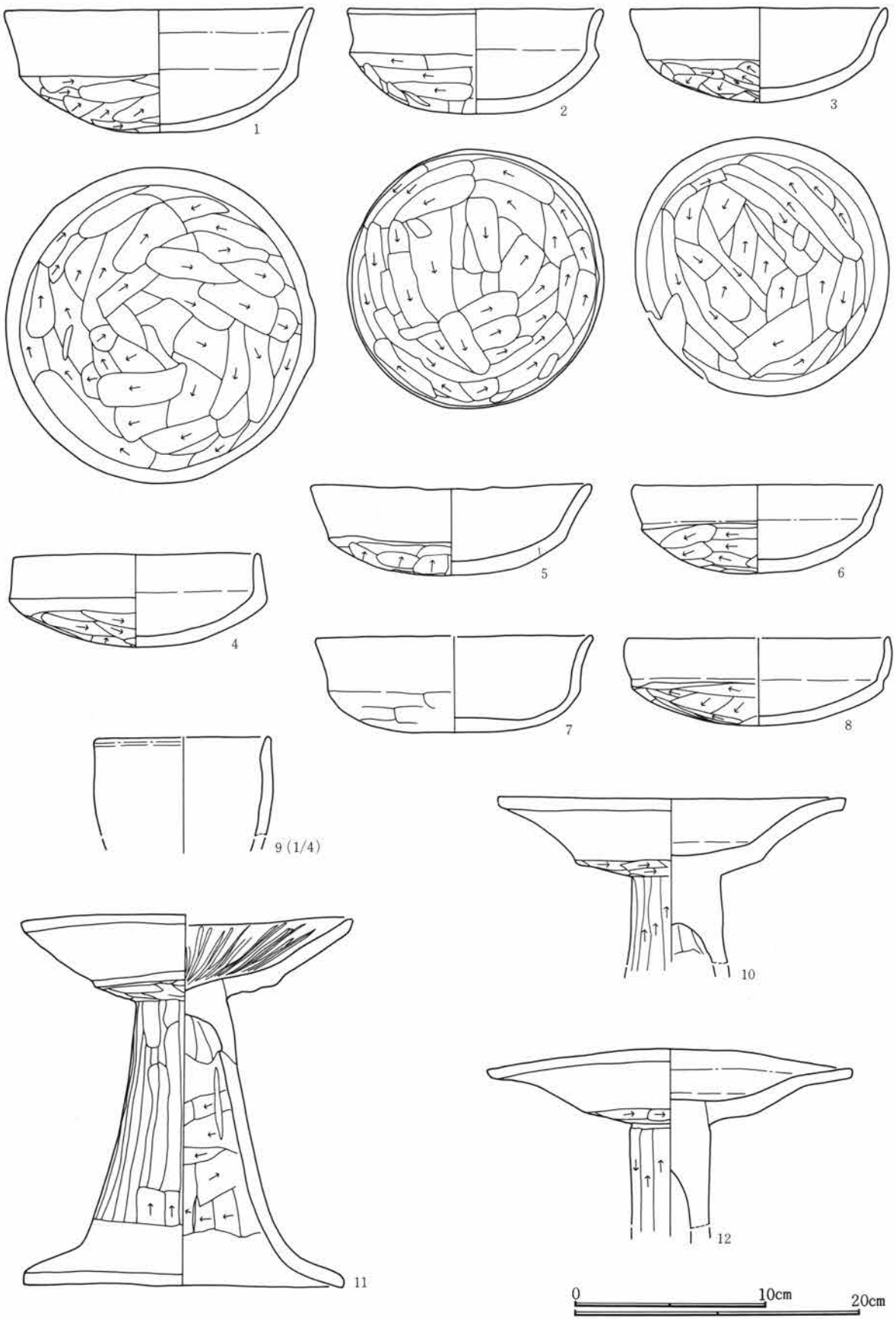


22号住居跡カマド土層注記

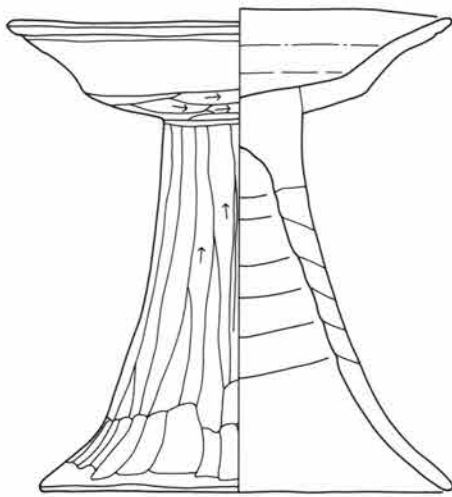
- 1 褐色土 白色粒子、黄色パミス、炭化粒子、焼土粒子を含む
- 2 におい黄褐色土 白色粒子、黄色パミス、粘質土を含む 天井崩落土
- 3 暗褐色土 白色粒子、黄色パミス、炭化粒子、焼土粒子を含む
- 4 赤褐色土 焼土を主とする
- 5 におい黄褐色土 白色粒子、黄色パミス、ロームブロックを含む
- 6 褐色土 白色粒子、焼土、炭を少量含む
- 7 暗赤褐色土 炭、焼土、灰を多量含む
- 8 黒褐色土 灰を主とする 焼土を多量、ロームを含む
- 9 黄褐色土 ローム土 10 におい黄褐色土
- 11 褐色土 粘質土を含む 12 におい黄褐色土 炭、粘質土を含む
- 13 黄褐色土 白色パミス、黄色パミスを多量、褐色土を含む
- 14 におい黄褐色土 炭化・焼土粒子、粘質土ブロックを含む
- 15 におい黄褐色土 炭化・焼土粒子少量、粘質土ブロック多量含む
- 16 暗褐色土 灰、炭、焼土を多量含む
- 17 赤褐色土 焼土を主とする 灰、炭を多量含む
- 18 褐色土 白色粒子、暗褐色土を含む
- 19 褐色土 砂粒を含む 20 黄褐色土 白色・黄色パミスを含む
- 21 暗褐色土 炭化物、ローム粒子、ロームブロックを含む
- 22 暗褐色土 ローム二次堆積土

第134図 22号住居跡カマド

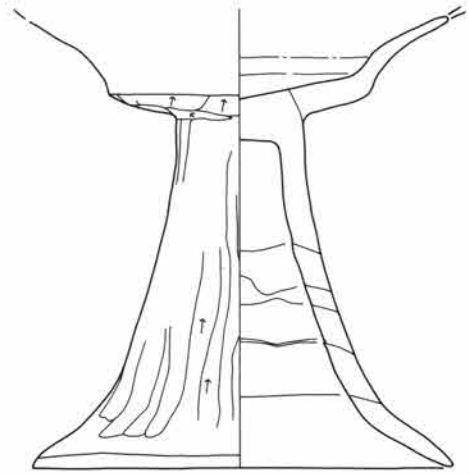
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



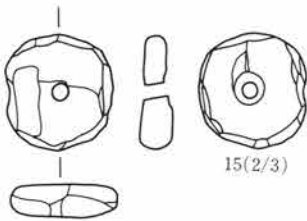
第135図 22号住居跡出土遺物(1)



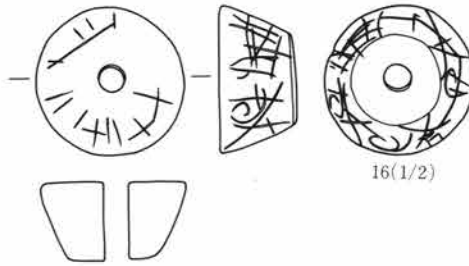
13



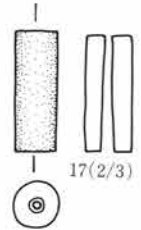
14



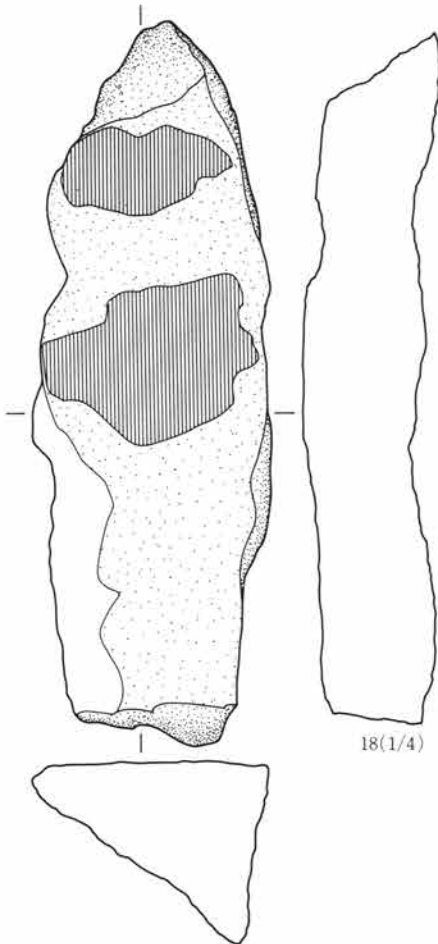
15(2/3)



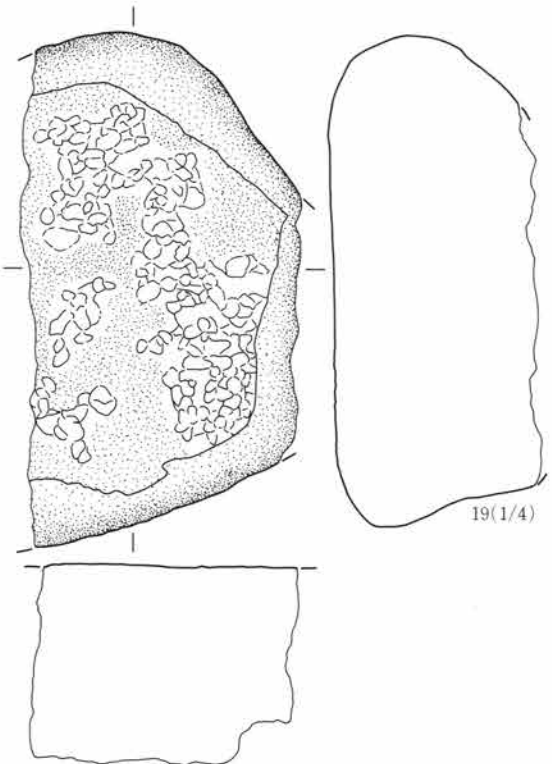
16(1/2)



17(2/3)



18(1/4)



19(1/4)



第136図 22号住居跡出土遺物(2)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

22号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	カマド	①16.2cm ②— ③6.3cm ④完形	①②にふい黄橙 灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 底部外面一部黒変	I C	
2	土師器 坏	北西 +2	①13.2cm ②— ③5.4cm ④完形	①②にふい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 内外面とも一部黒変	I C	
3	土師器 坏	カマド	①1.4cm ②— ③— ④ほぼ完形	①②にふい黄褐 にふい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 内外面とも一部黒変	I C	
4	土師器 坏	カマド	①12.8cm ②— ③— ④口～底2/3	①にふい黄橙 ②灰黄 ③良好 ④細 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
5	土師器 坏	北西 +13	①14.5cm ②— ③4.7cm ④口～底1/2	①②にふい黄橙 ③良好 ④細 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 底部外面一部黒変	I C	
6	土師器 坏	北西 ±0	①12.8cm ②— ③4.6cm ④完形	①にふい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 内外面とも一部黒変	I C	
7	土師器 坏	カマド	①(15.0cm)②— ③5.0cm ④口～底1/2	①②にふい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
8	土師器 坏	南西 ±0	①(13.6cm)②— ③4.5cm ④口～底1/2	①暗灰黄 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
9	土師器 小型甕	北東 +5	①(12.0cm)②— ③— ④口縁部破片	①にふい赤褐 ②褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を多量に含む	摩滅により外面調整痕不明 口縁 部横ナデ胴部篋削りか 内面ナデ	VIII	
10	土師器 高 坏	北西 +10	①18.0cm ②— ③— ④口～脚部	①②にふい黄橙 にふい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を少量含む	口縁部横ナデ 体～脚部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文か	V C	
11	土師器 高 坏	北西 ±0	①17.3cm ②16.6cm ③19.2cm ④一部欠損	①②にふい黄褐 にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・パミス・雲母を含む	口縁部・脚部横ナデ 体～脚部 外面・脚部内面篋削り 体部内面 内ナデ後放射状暗文	V B	
12	土師器 高 坏	北西 +12	①19.0cm ②— ③— ④口(1/2)～脚部	①②にふい黄橙 ③良好 ④細 細砂・雲母を少量含む	口縁部横ナデ 体～脚部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文か	V C	
13	土師器 高 坏	北西 +32	①17.8cm ②16.2cm ③19.0cm ④ほぼ完形	①②明赤褐 にふい赤褐 ③不良 ④普通 細砂・雲母を含む	口縁部・脚部横ナデ 体～脚部 外面篋削り内面ナデ後放射状暗文 か	V B	
14	土師器 高 坏	北東 +5	①— ②16.6cm ③— ④体～脚部	①②明赤褐 橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部・脚部横ナデ 体～脚部 外面篋削り内面ナデ	V B	

22号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
15	玉 未製品	覆土	2.3	2.1	0.7	8	完形	滑石	孔径3mm 側面一部鑿状工具による加工
16	紡錘車	南西	3.7	3.9	2.1	48	完形	滑石	孔径7.5mm 表面に工具痕 線刻
17	管玉	北西+6	2.4	1.0	1.0	5	完形	ヒスイ	孔径1～2.5mm 全面研磨 穿孔は1方向
18	不明	北東-18	[38.4]	12.8	9.7	4300	完形	砂岩	片面一部研磨
19	台石	北西+20	27.2	15.0	10.5	7500	完形	安山岩	片面に敲打痕あり

23号住居跡

位置 C7・8-VII18～20Gr 重複 なし

平面形態 東西に長い隅丸長方形であるが、東側に幅80cm深さ15cm程のテラス状の張り出しを持つ。

規模 3.60m×2.36m 壁高 38cm やや傾斜している 面積 7.9m² 床面積 4.2m²

主軸方位 N-1°-W 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

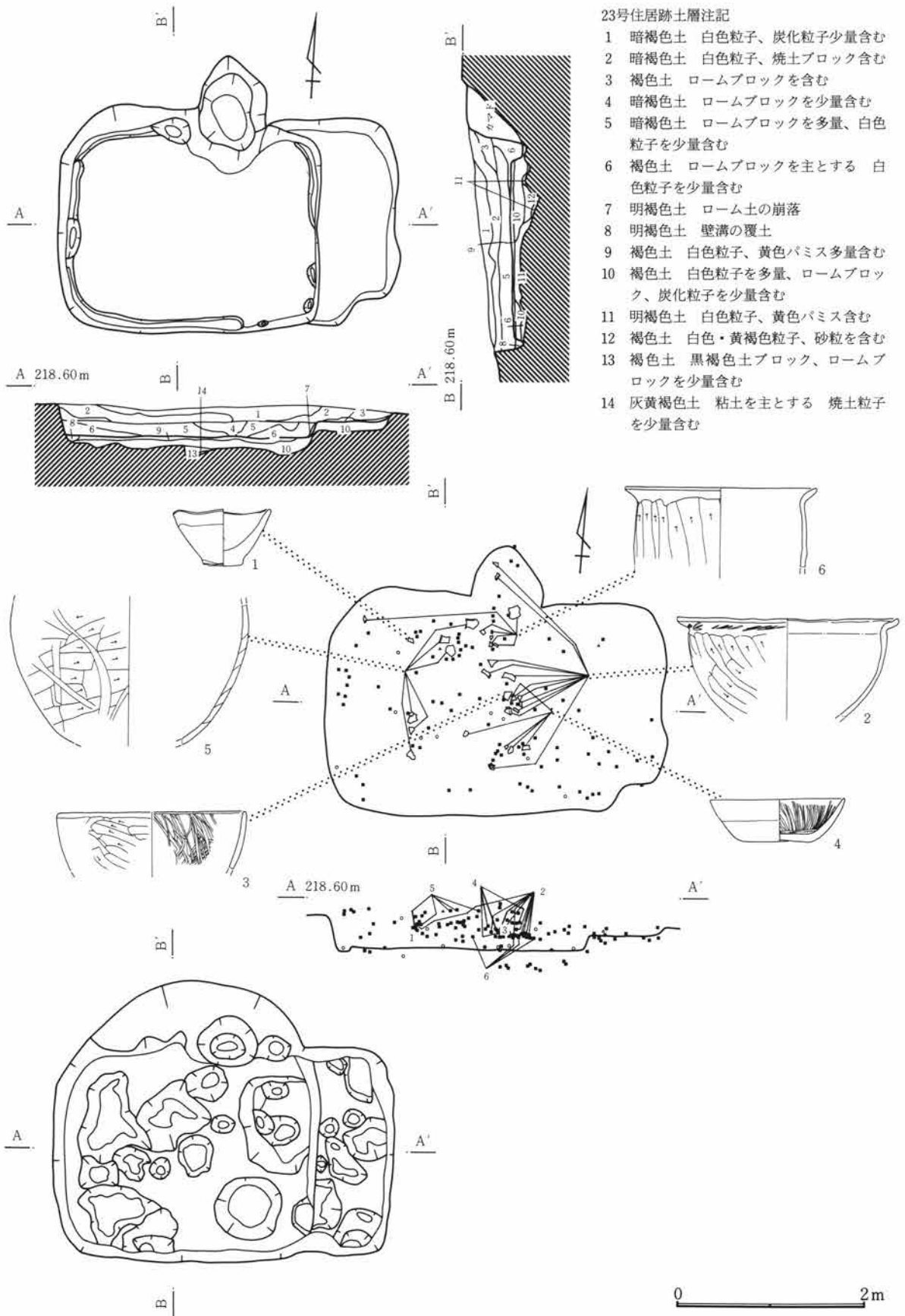
壁溝 カマドおよび南東隅部を除いて検出された。幅5～15cm深さ7～8cmである。

床面 ロームを含む褐色土で5～15cmの貼床としており、平坦な床面である。

掘り方 ピットおよび土坑状の掘り込みが十数基検出されており、テラスにもピットが数基検出されている。

遺物出土状況 全面から出土しているが、テラス上はやや少なくなっている。垂直分布も上層から下層まで満遍なく出土している。接合関係の判明するものは4点あり、覆土中・上層の破片が接合している。

第III章 検出された遺構と出土遺物



第137図 23号住居跡

カマド

位置 北壁中央部 主軸方位 N-3°-W 規模 全長1.20m 幅0.80m

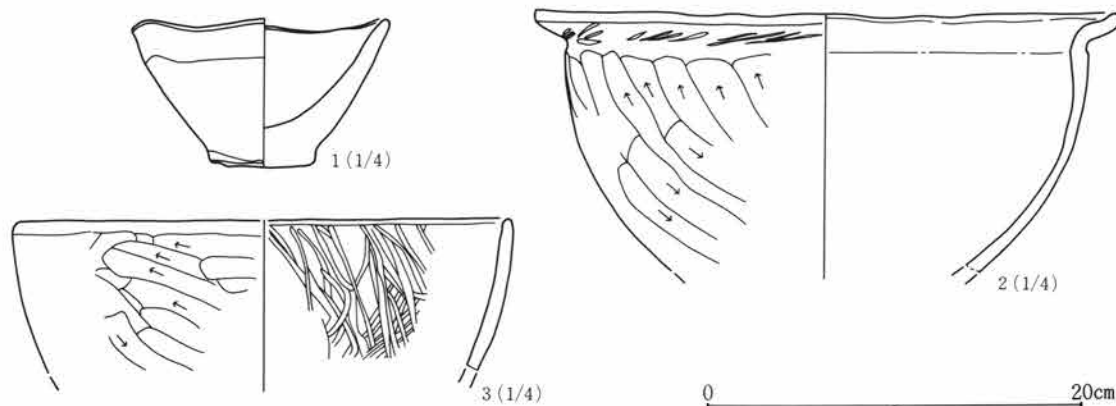
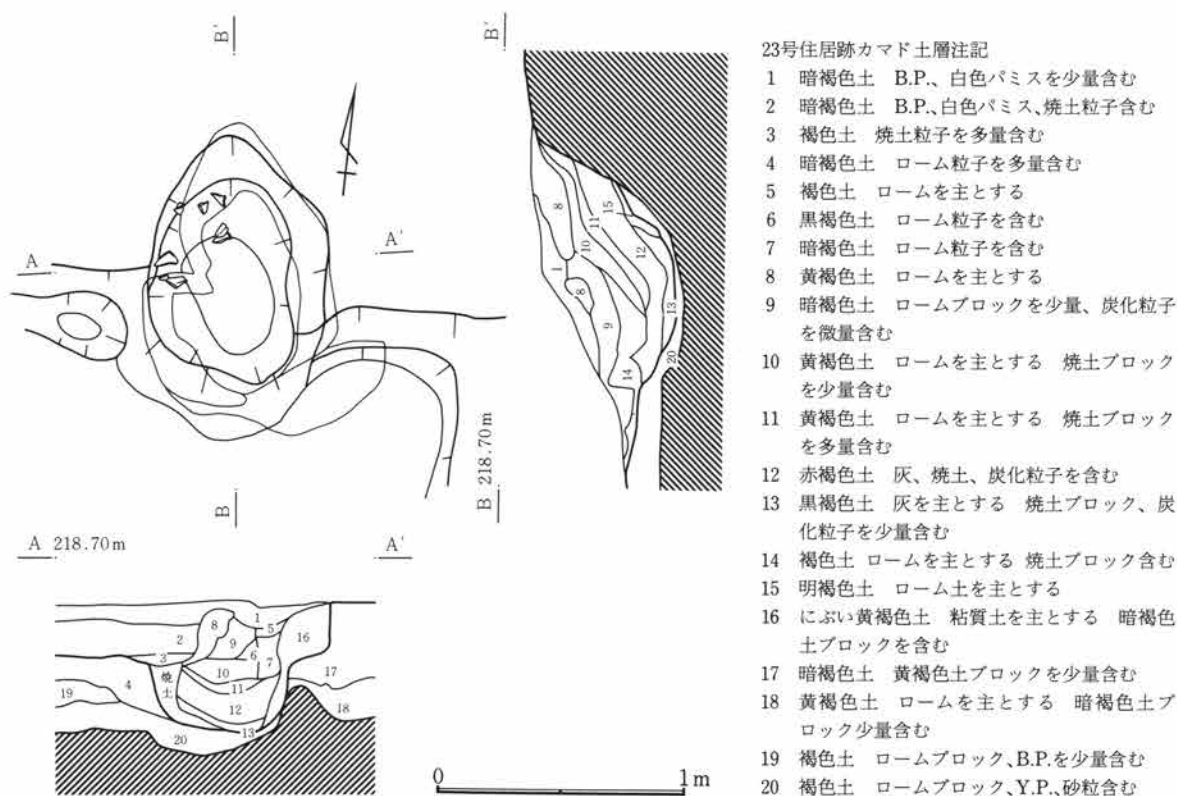
構築 黄褐色粘質土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は出土していない。内側は強く焼けている。

火床面は床面より低く掘り込まれており、あまり焼けていない。

遺物出土状況 燃焼部覆土中から土器小破片が出土しただけである。

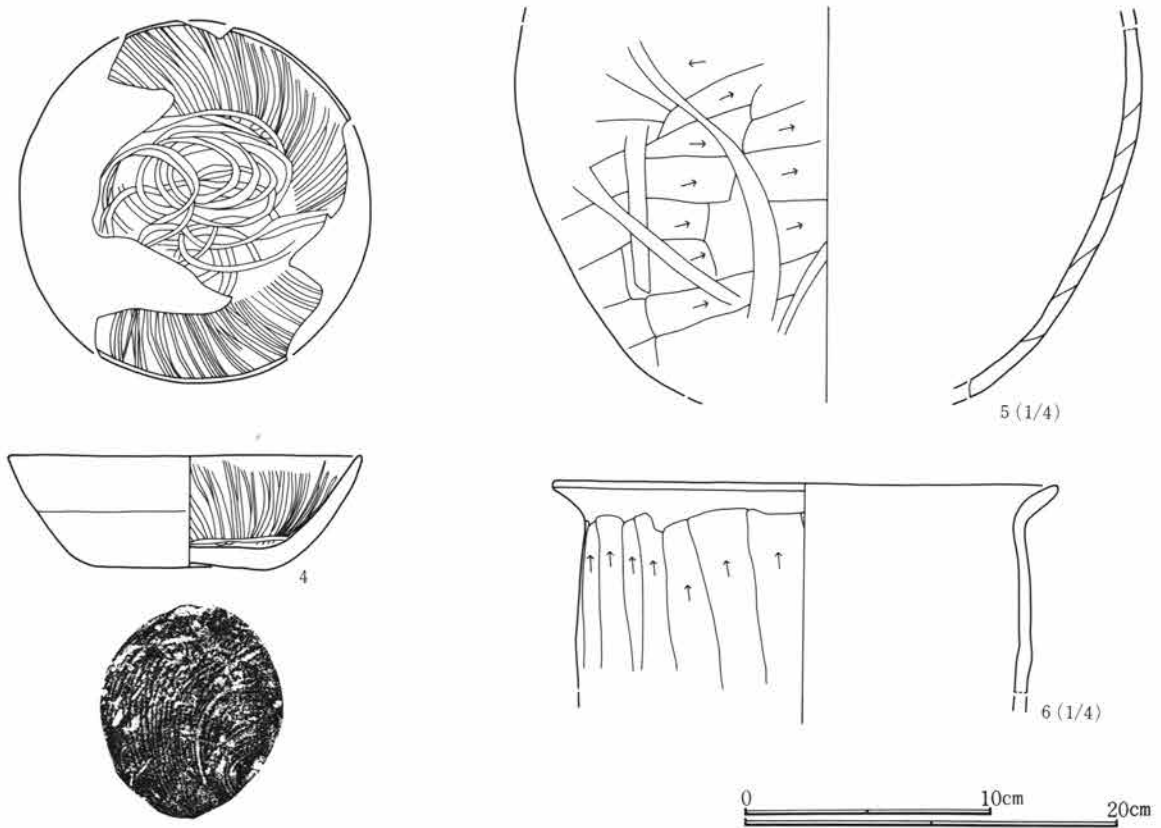
出土遺物 土器は、土師器杯・高杯・小型鉢・皿・甕・鉢・甗、須恵器蓋・甕が出土している。

所見 図示できた遺物はすべて覆土中の破片が接合したもので、住居に遺棄されたものでは無いため、遺物から詳しい時期は推定できないが、8世紀中～後半代の住居と考えられる。



第139図 23号住居跡出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第140図 23号住居跡出土遺物(2)

23号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 小型鉢	北西 +32	①13.4cm ③7.8cm	②5.4cm ④ほぼ完形	①にふい橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面指頭 によるオサエ内面ナデ	XI	
2	土師器 鉢	北東 +12	①30.6cm ③—	②— ④口縁部1/2	①にふい黄橙 ②にふい黄褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	X B	
3	土師器 鉢	北東 +14	①(26.0cm) ③—	②— ④口縁部破片	①にふい黄橙 ②にふい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後格子状暗文か	X C	
4	土師器 坏	南東 +12	①14.0cm ③4.5cm	②6.5cm ④口～底2/3	①にふい橙 黒褐 ②にふい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り 底部外面回転糸切り無調整 内面 ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
5	土師器 甕	北西 +30	③—	胴部最大径(33.2cm) ④胴部	①②黒褐 にふい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫・雲母を含む	胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
6	土師器 甕	北東 +28	①(26.6cm) ③—	②— ④口縁部1/2	①にふい橙 ②にふい赤褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII A	

出土土器数量表

種 別	土 師 器								計	
	坏	高坏	皿	甕	鉢	小型鉢	甌	蓋		甕
点 数	50	1	1	249	2	1	2	3	1	310
重量(g)	605	15	15	3,370	285	495	30	35	5	4,855

24号住居跡

位置 C 7～9-VII21～24Gr 重複 22号住居より新 平面形態 隅丸方形
 規模 4.34m×4.16m 壁高 58cm 垂直に近い 面積 17.1m² 床面積 15.9m²
 主軸方位 N-18°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出されているが、南東部P2はやや北にずれている。

P 1 長径32cm短径30cm深さ48cm P 2 長径56cm短径34cm深さ44cm P 3 長径34cm短径28cm深さ24cm
 P 4 長径46cm短径46cm深さ26cm

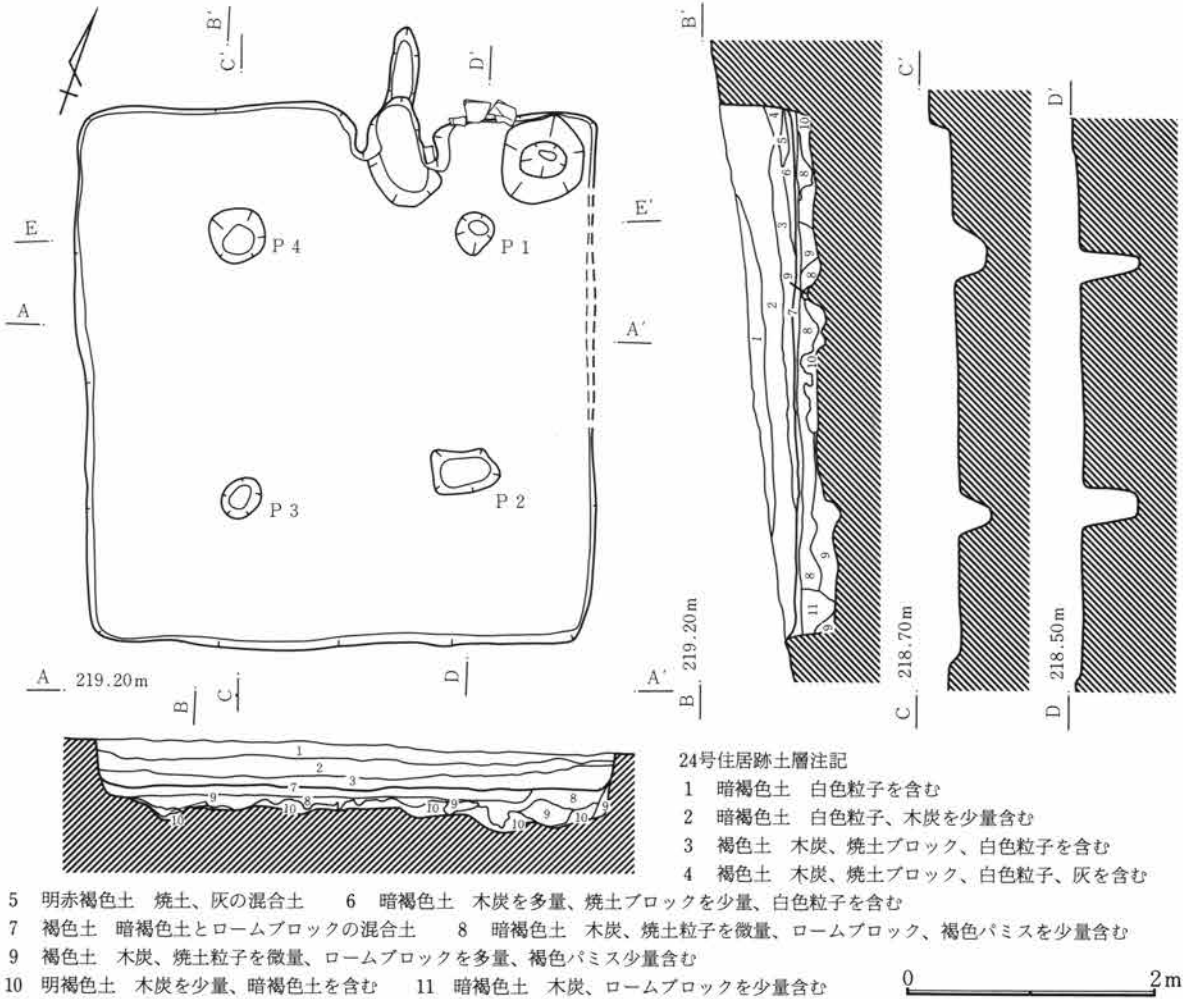
貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.75m 短径0.68m 深さ46cm

形状 平面形態は丸みを帯びた隅丸方形で、断面形態は小さい底部から斜めに立ち上がっており途中段が1段形成されている。

床面 ロームを含む暗褐色土で厚さ15～30cmの貼床としており、平坦な床面になっている。

掘り方 凹凸の多い掘り方で、小ピットおよび土坑状掘り込みが十数基検出されている。

遺物出土状況 住居全面から多量に出土しており、垂直分布でも上層から下層まで出土しているが、下層から床面にかけて完形に近い土器が多い。接合関係の判明するものは13点と多く、覆土中、床面付近、覆土中と床面付近で接合しているものがある。またこも編石は1ヶ所に集中せず、住居中央付近から東寄りにかけ



第141図 24号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

て散在している。

カマド

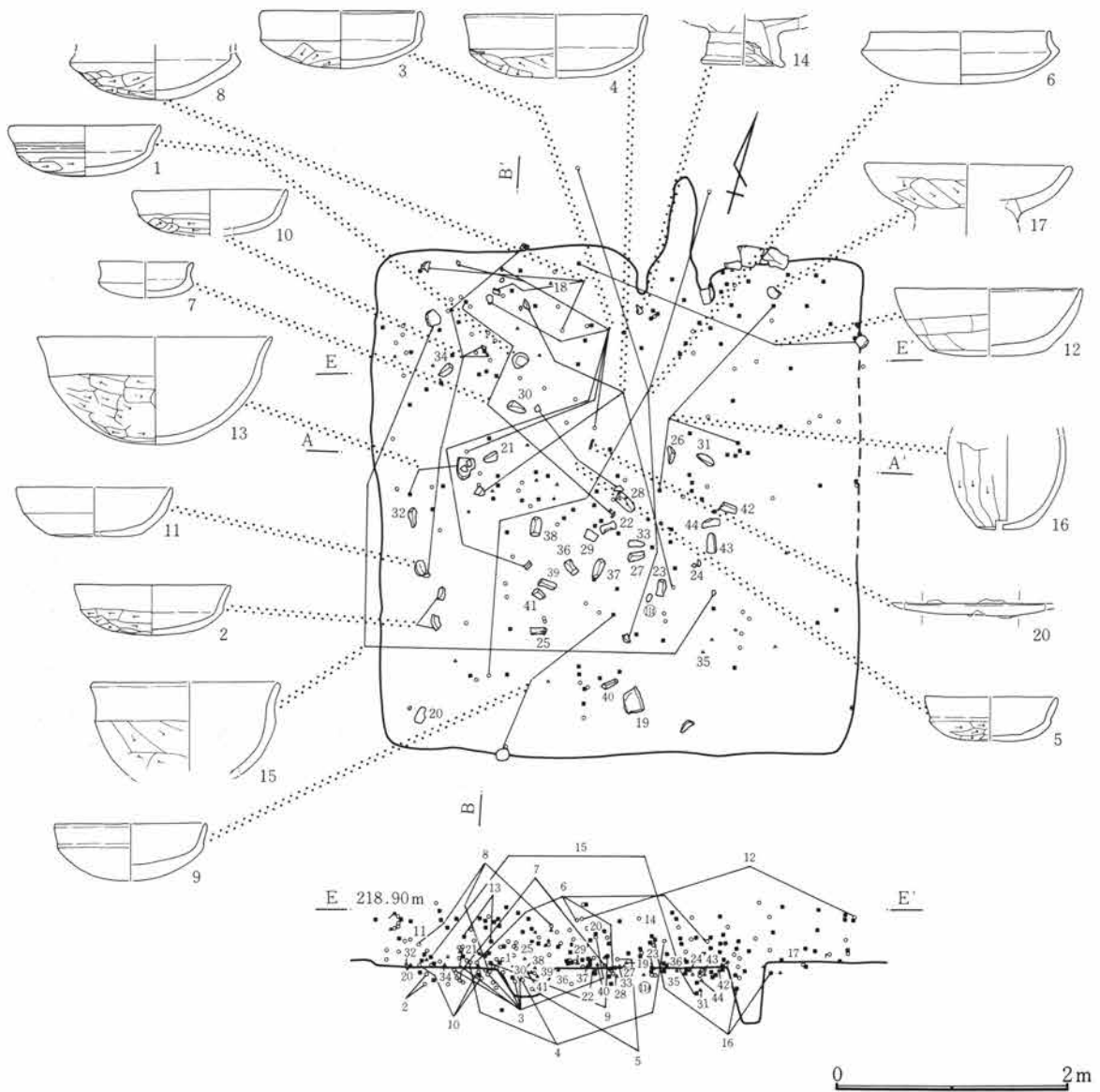
位置 北壁やや東寄り 主軸方位 N-14°-W 規模 全長1.41m 幅0.86m 煙道部長0.56m

構築 褐色粘質土で袖を構築しているが、右側しか袖石は検出されていない。火床面は床面より若干低く、比較的良好に焼けており、その前面に灰層が検出されている。煙道部は他の住居より深く、斜めに立ち上がっている。

遺物出土状況 カマド内の出土遺物はほとんど無く、構築材と考えられる石が右脇から出土している。

出土土器数量表

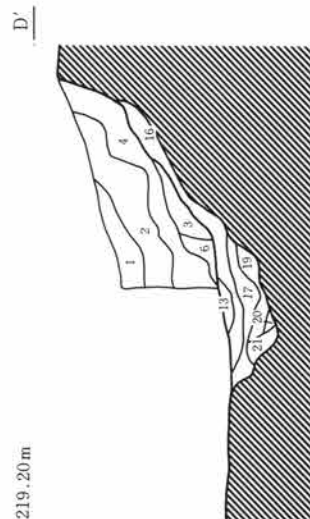
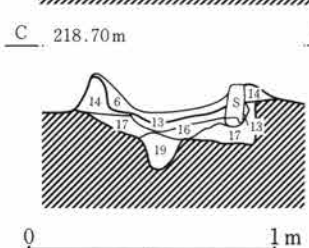
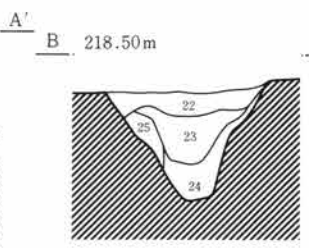
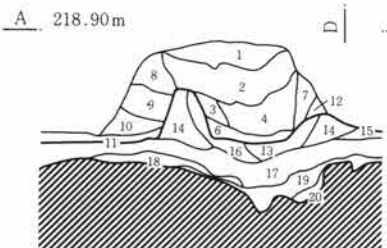
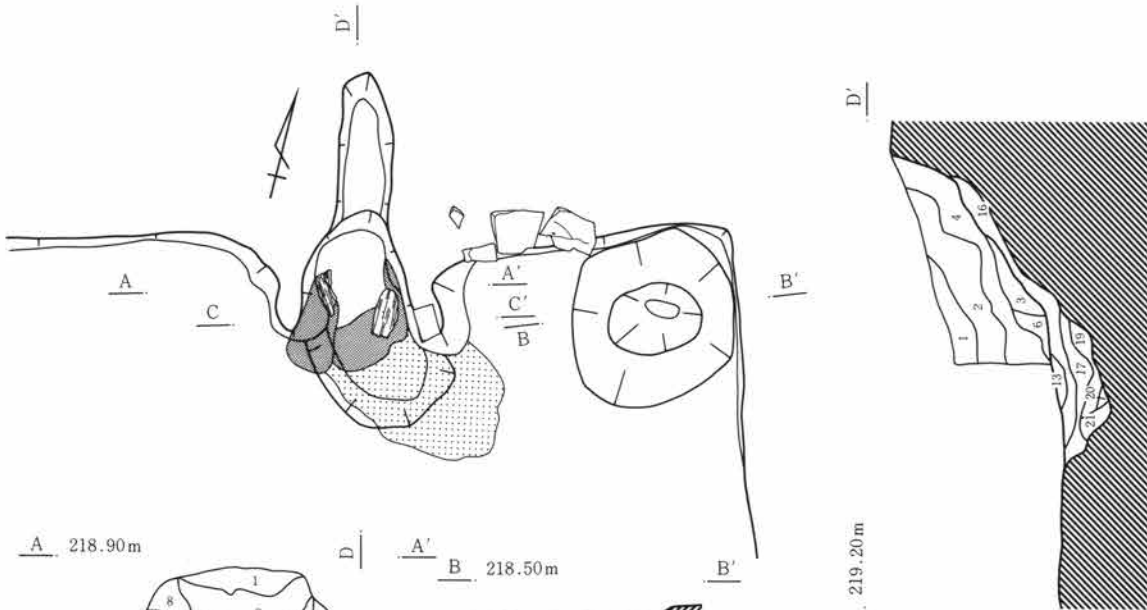
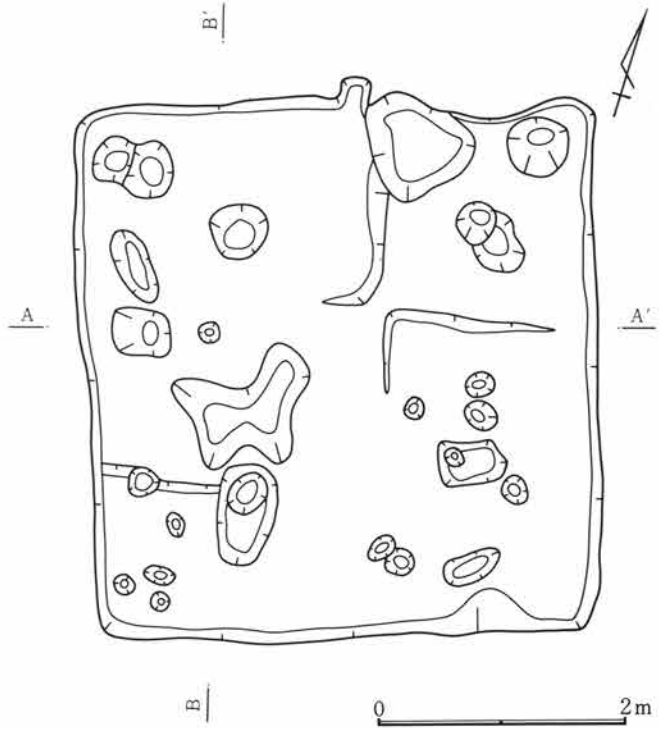
種別	土器					須恵器	計
	坏	高坏	甕	鉢	甔		
点数	72	4	46	1	1	5	129
重量(g)	1,680	145	690	185	185	100	2,985



第142図 24号住居跡遺物出土状況

出土遺物 出土量はやや少ないが、器形を復元できるものが多い。土器は、土師器坏・高坏・甕・鉢・甗、須恵器甕、土製小玉が、石製品は、台石2点、こも編石25点が、鉄製品は刀子1点が出土している。土師器坏の量が非常に多く、甕が少ない特徴がある。

所見 出土状況を見ると、他から廃棄された遺物が多いと考えられるが、床面付近出土のものもかなりあるため、住居の時期に比較的近い遺物が多いと考えられる。住居の時期は6世紀後半～7世紀前半と推定される。

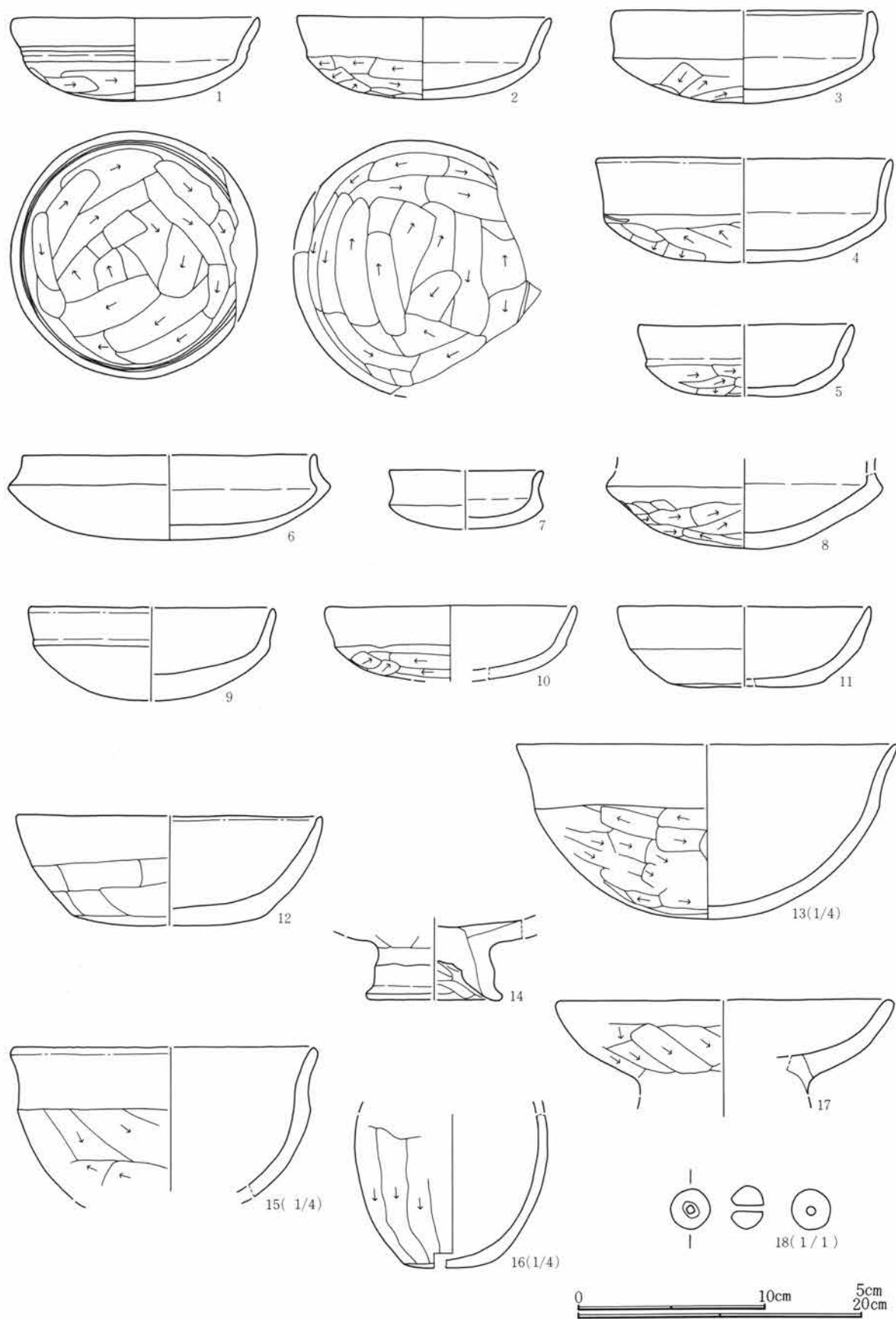


24号住居跡カマド土層注記

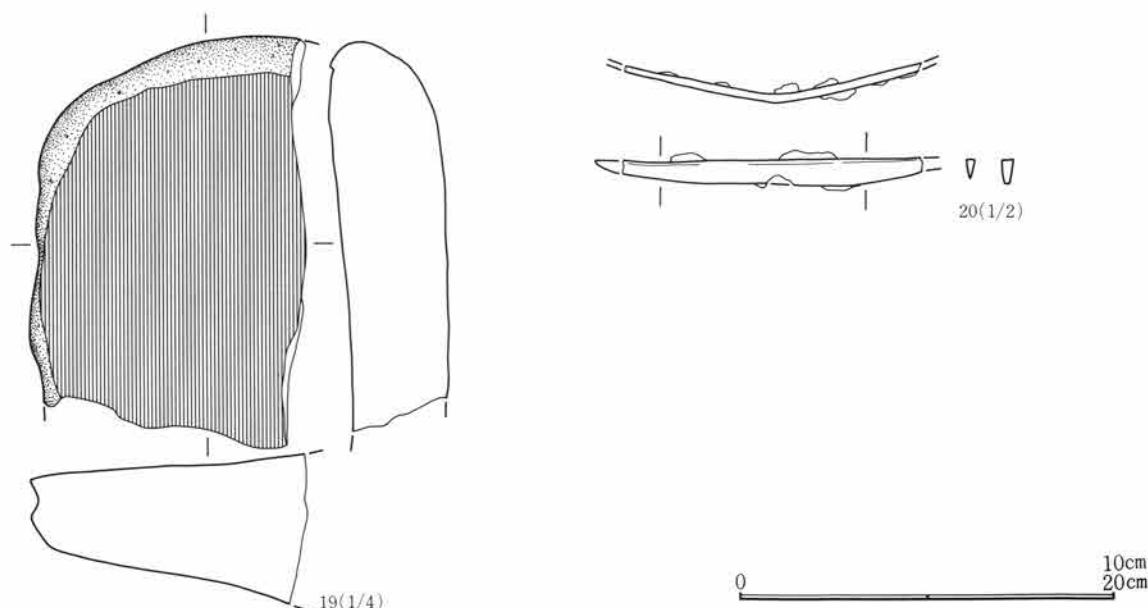
- 1 褐色土 白色粒子、焼土ブロック含む
- 2 褐色土 焼土ブロック、炭化粒子含む
- 3 褐色土 ローム・焼土ブロックを含む
- 4 褐色土 炭化粒子、焼土ブロック含む
- 5 明褐色土 ロームを主とする
- 6 褐色土 焼土ブロック、灰、炭化粒子を多量含む
- 7 褐色土 炭化粒子含む
- 8 褐色土 焼土ブロック含む
- 9 褐色土 焼土ブロック含む
- 10 褐色土 ローム・焼土ブロック含む
- 11 褐色土 ローム含む
- 12 におい黄褐色土 砂粒、焼土粒子微量含む
- 13 暗褐色土 焼土ブロック、炭化粒子含む
- 14 褐色土 粘質土
- 15 暗褐色土 焼土粒子含む
- 16 暗褐色土 焼土・粒子含む
- 17 暗褐色土 ロームブロック、木炭含む
- 18 暗褐色土 ロームブロック含む
- 19 暗褐色土 ローム粒子含む
- 20 暗褐色土 ロームブロック含む
- 21 黄褐色土 暗褐色土ブロック含む
- 22 暗褐色土 炭化粒子含む
- 23 暗褐色土 白色パミス、炭化粒子含む
- 24 褐色土 ローム粒子多量含む
- 25 暗褐色土 ローム粒子多量含む

第143図 24号住居跡掘り方およびカマド

第III章 検出された遺構と出土遺物



第144図 24号住居跡出土遺物(1)



第145図 24号住居跡出土遺物(2)

24号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北西 +14	①12.6cm ②— ③4.2cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 褐灰 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	北西 -14	①15.2cm ②— ③4.2cm ④口～底3/4	①にぶい褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
3	土師器 坏	北西 -10	①13.4cm ②— ③4.8cm ④口～底1/2	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後漆塗布か	I C	
4	土師器 坏	北西 +6	①(15.4cm)②— ③5.4cm ④口～底1/3	①②黒褐 にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
5	土師器 坏	北西 -16	①11.0cm ②— ③3.7cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
6	土師器 坏	南西 -6	①15.4cm ②— ③4.4cm ④口～底1/2	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I C	
7	土師器 坏	北西 -10	①(8.0cm) ②— ③3.1cm ④口～底1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I C	
8	土師器 坏	北西 +7	①— ②— ③[3.9cm] ④体～底1/2	①明赤褐 黒褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を少量含む	体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
9	土師器 坏	北西 -2	①12.8cm ②— ③4.8cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③不良 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I C	
10	土師器 坏	北西 -10	①(15.0cm)②— ③[3.8cm] ④口～底2/3	①②にぶい黄橙 灰黄褐 ③不良 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
11	土師器 坏	南西 +24	①(13.0cm)②(6.8cm) ③4.2cm ④口～底1/3	①②にぶい黄橙 ③不良 ④細 細砂・パミスを含む	摩滅により調整痕不明 口縁部横 ナデ体～底部外面篋削りか	I E	
12	土師器 坏	北東 +38	①(16.0cm)②5.0cm ③(5.6cm) ④口～底1/3	①橙 にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
13	土師器 鉢	北西 +26	①(26.4cm)②— ③12.1cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	X A	
14	土師器 高 坏	北西 +42	①— ②(6.8cm) ③— ④底～脚1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	体部外面篋削り内面ナデ 脚端部 横ナデ 脚部内面ナデ	V D	
15	土師器 鉢	北西 -22	①(20.8cm)②— ③— ④口～胴1/5	①②にぶい黄橙 黒褐 ③良好 ④普通 細砂・礫・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	X A	
16	土師器 甕(?)	北東 -20	①— ②6.5cm ③— ④胴～底部	①にぶい赤褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ 焼 成後底部に穿孔の可能性あり	Ⅱ B	
17	土師器 高 坏	北東 +14	①(17.2cm)②— ③— ④口～底1/5	①にぶい褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ	V	
18	土製品 小 玉	南西 +44	径0.7cm 孔径1mm ④完形	①灰黄褐 黒褐 ③良好 ④細 細砂を少量含む	外面磨きか		

第三章 検出された遺構と出土遺物

24号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
19	台石	南西+6	[21.8]	[14.8]	[6.4]	4000	1/2	石英閃緑岩	片面摩滅
21	こも編石	南西+2	13.4	7.2	3.0	580	完形	輝緑岩	側面に敲打痕あり
22	こも編石	北西+14	10.7	7.8	4.8	785	完形	安山岩	
23	こも編石	南西±0	13.5	8.9	4.5	765	完形	熟変成岩	
24	こも編石	南東±0	11.9	8.3	3.8	650	完形	安山岩	
25	こも編石	南東-4	16.2	7.4	4.3	600	完形	熟変成岩	
26	こも編石	南西+16	12.9	8.2	5.4	760	完形	安山岩	
27	こも編石	北東+4	13.2	6.7	4.2	490	完形	硬砂岩	
28	こも編石	南西+3	14.4	7.7	4.5	650	完形	緑泥片岩	
29	こも編石	南西-8	17.3	8.0	4.0	770	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
30	こも編石	南西+4	11.7	7.3	5.0	590	完形	安山岩	
31	こも編石	北西+4	16.3	7.5	3.8	675	完形	安山岩	
32	こも編石	北東-19	16.9	6.4	3.3	530	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
33	こも編石	南西+4	14.2	6.5	5.5	685	完形	安山岩	
34	こも編石	南西+2	13.2	6.9	4.0	540	完形	安山岩	
35	こも編石	北西+3	13.0	8.0	4.0	840	完形	安山岩	
36	こも編石	南東-4	18.0	6.3	6.0	900	完形	安山岩	
37	こも編石	南西-2	13.1	7.1	6.4	850	完形	花崗斑岩	
38	こも編石	南西+2	16.0	6.8	4.4	775	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
39	こも編石	南西+2	13.3	8.2	5.0	850	完形	安山岩	
40	こも編石	南西+2	16.3	6.9	4.6	760	完形	安山岩	
41	こも編石	南西+4	13.4	5.5	5.5	730	完形	安山岩	
42	こも編石	南西-4	14.3	7.3	4.1	575	完形	安山岩	
43	こも編石	南東-2	14.7	6.0	5.5	745	完形	安山岩	
44	こも編石	南東-6	17.0	8.4	4.7	1000	完形	安山岩	
45	こも編石	南東-10	14.2	7.8	4.0	715	完形	安山岩	

24号住居跡出土鉄器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
20	刀子	北西+29	[8.0]	0.8	0.3	4.4	両端部欠損	関は刃部にあるが斜めではっきりしない

25号住居跡

位置 C 5～8-VII34～36Gr 重複 26号住居より新 65号土坑より古 平面形態 隅丸方形

規模 4.24m×3.74m 壁高 72cm 垂直に近い 面積 14.6m² 床面積 13.2m²

主軸方位 N-9°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4本検出された。他の住居に比べ径が小さく深い柱穴である。

P 1 長径18cm短径16cm深さ58cm P 2 長径26cm短径24cm深さ70cm P 3 長径16cm短径14cm深さ72cm

P 4 長径28cm短径18cm深さ66cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.54m 短径0.52m 深さ34cm

形状 平面形態は円形で、断面形態は台形であるが北側の立ち上がりはかなり急である。覆土上面から土器器甕2個体(底部なし)が重なった状態で出土している。

床面 ロームを含む暗褐色土で5～30cmの貼床とし、やや凹凸の多い床面である。カマド前から南壁際にかけて良く踏み固められている(図中の実線の内側)。

掘り方 凹凸の多い掘り方で、ピットおよび土坑状掘り込みが十数基検出されている。

遺物出土状況 住居全面から出土しているが、カマド周辺と南東隅部に特に集中している。垂直分布は上層から下層まで満遍なく出土しているが、完形に近いものは床面付近が多くなっている。接合関係の判明するものは16点と多く、平面で見ても住居の北端と南端で接合しているように、かなり広範囲で接合しており、

断面でも上層と床面付近で接合しているものがある。

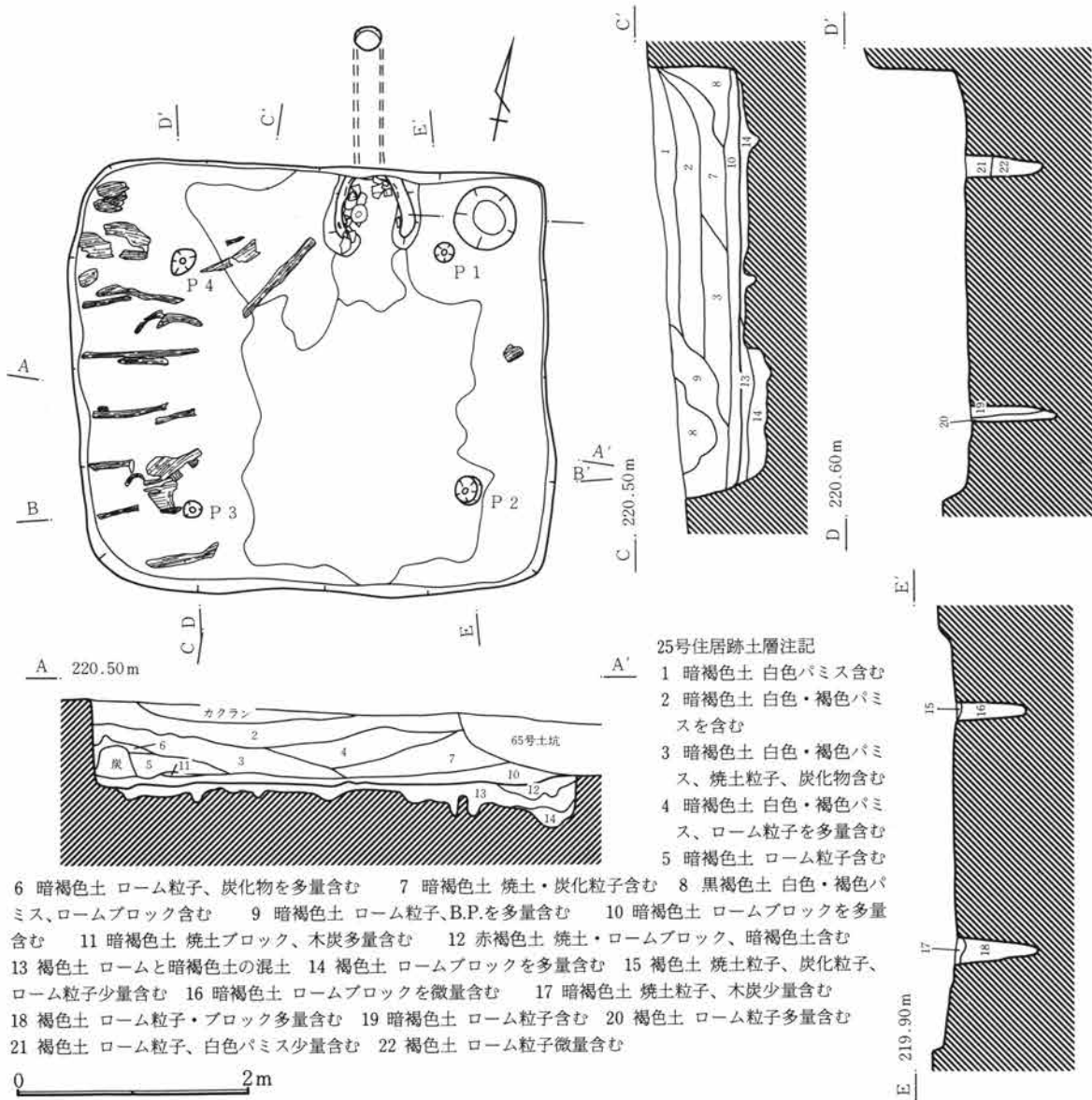
カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-12°-W 規模 全長1.94m 幅0.82m 煙道部長1.19m

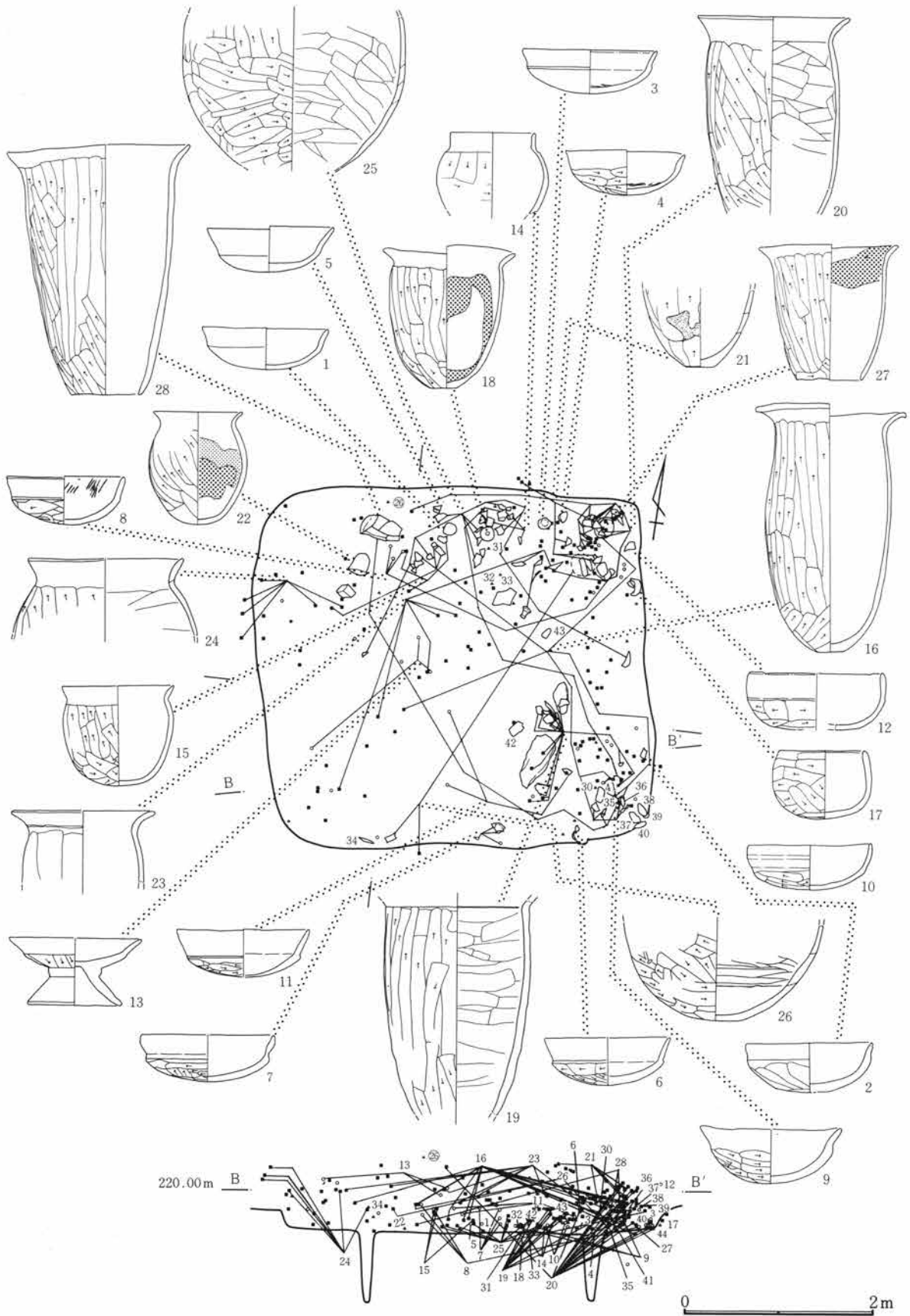
構築 暗褐色土で袖を構築しており、内側は良く焼けている。袖石・天井石等は出土しなかった。火床面は床面と同レベルで、焚き口手前まで広く焼けている。煙道部はほぼ水平に延び、垂直に立ち上がっている。26号住の覆土を掘り込んでおり、天井が厚く残存していた。

遺物出土状況 燃焼部およびカマド両脇から、多くの残りの良い土器が出土している。

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器杯・高杯・小型甕・甕・鉢・甑が出土し、石製品は白玉1点、玉1点、玉未製品1点、滑石石核10点、こも編石10点が出土している。他に弥生土器6点、縄文土器1点が出土している。



第146図 25号住居跡

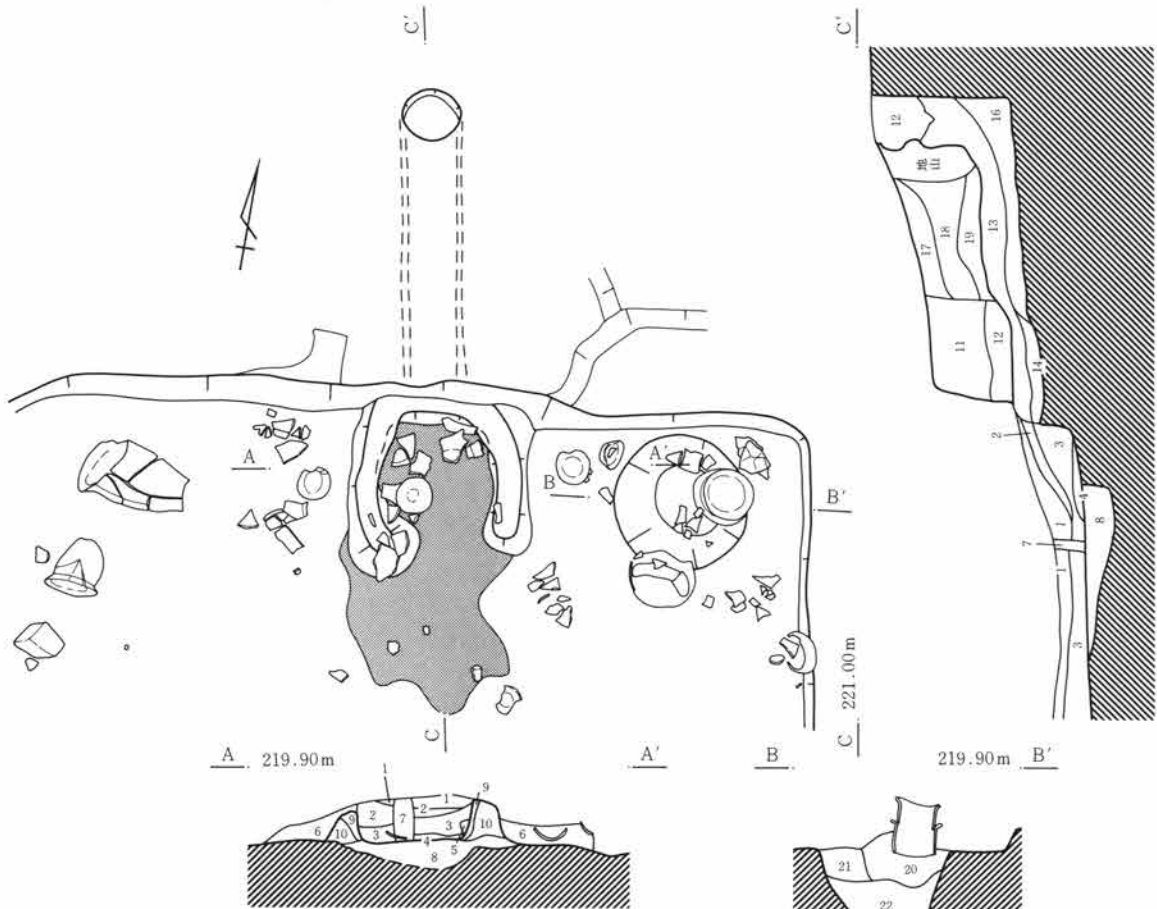


第147図 25号住居跡遺物出土状況

所見 遺物出土状況を見ると、覆土中で広範囲に接合しているものがあるが、これらは他から廃棄された遺物と考えられる。しかしながら、カマド周辺には住居に遺棄された遺物もかなりあるため、これらの遺物から住居の時期は6世紀後半～7世紀前半と考えられる。

出土土器数量表

種別	土 師 器						計
	坏	高坏	甕	小型甕	鉢	甔	
点数	93	1	267	3	1	3	368
重量(g)	2,480	185	10,500	680	590	2910	17,345

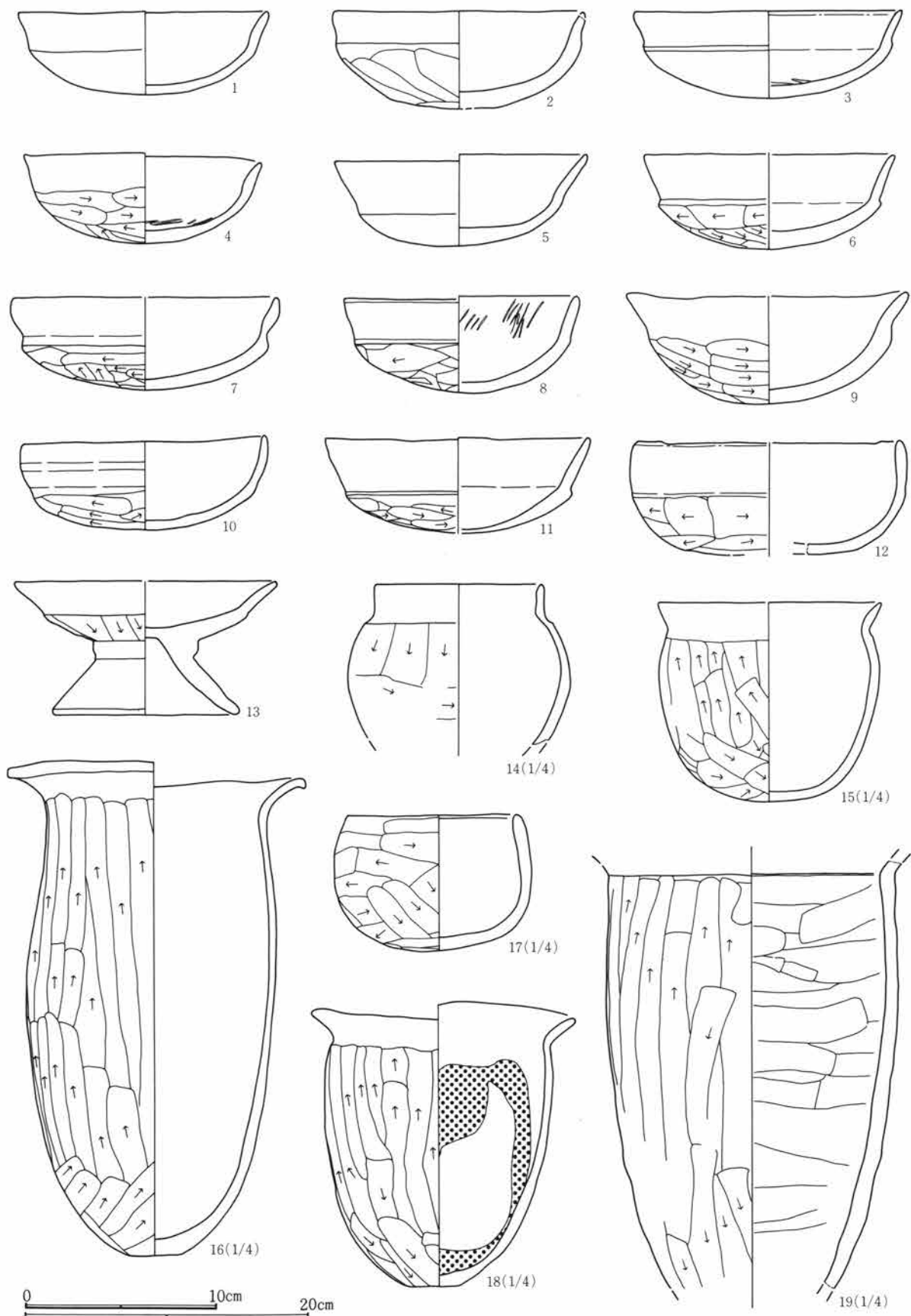


25号住居跡カマド土層注記

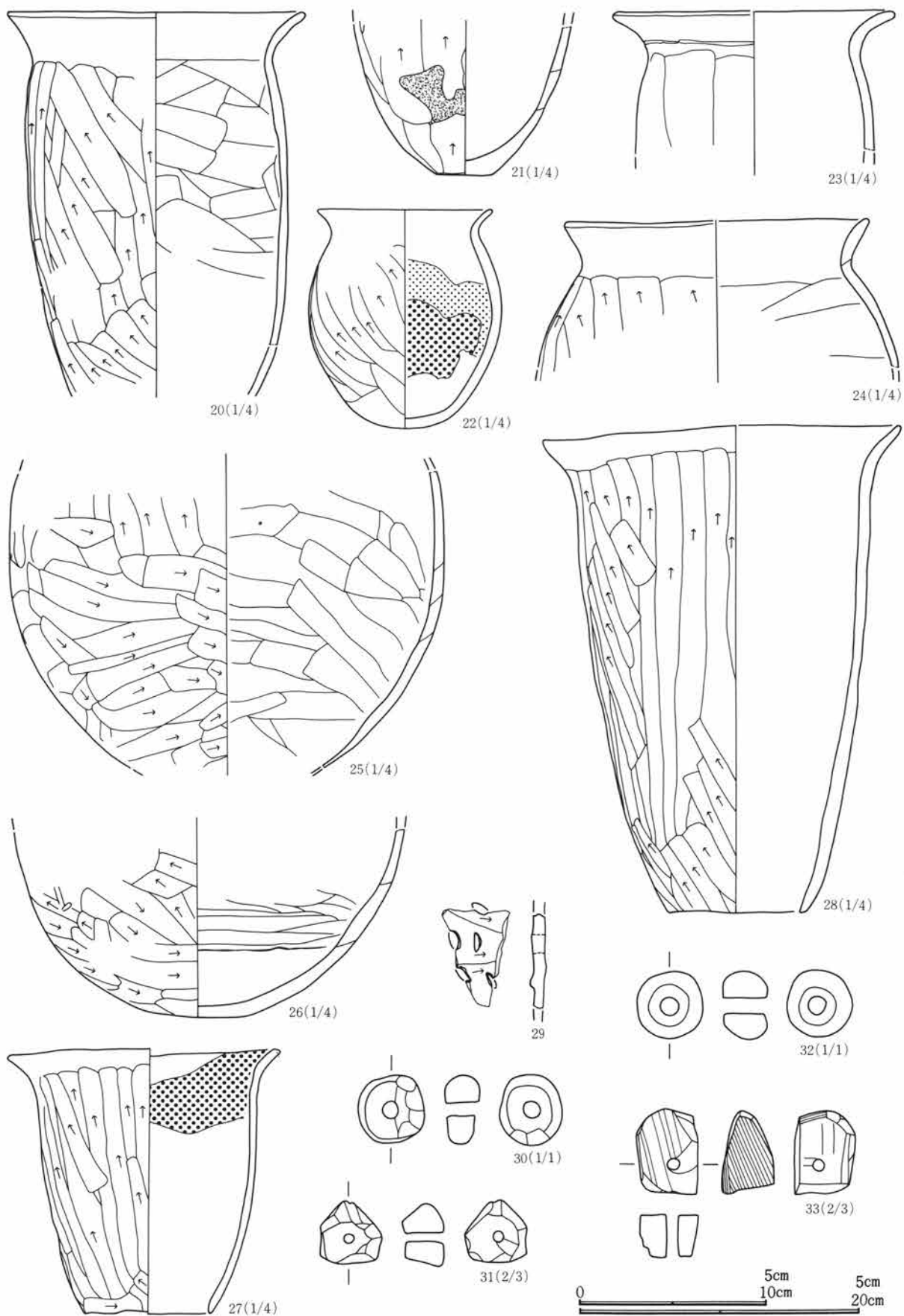
- 1 褐色土 焼土・炭化粒子を少量含む 2 赤褐色土 焼土層 暗褐色土ブロック含む
- 3 褐色土 焼土粒子・ブロック、灰多量含む 4 暗褐色土 焼土ブロック、灰を含む
- 5 褐色土 焼土・炭化粒子多量含む 6 暗褐色土 砂粒、黄色パミス、炭化粒子含む 7 褐色土 砂粒、焼土・炭化粒子微量含む
- 8 褐色土 焼土粒子、炭化粒子を少量含む 9 明赤褐色土 スサを含む 10 暗褐色土 白色粒子多量、炭化粒子微量、礫を含む
- 11 褐色土 白色粒子、黄色パミス含む 12 褐色土 白色・焼土・炭化粒子、黄色パミス含む 13 赤褐色土 焼土、炭、灰を多量含む
- 14 暗褐色土 黄色パミス、焼土粒子少量含む 15 褐色土 白色粒子、焼土含む 16 暗赤褐色土 灰、炭、焼土多量含む 天井崩落土
- 17 褐色土 白色パミスを含む 18 暗褐色土 ロームブロックを含む 19 暗褐色土 焼土を微量含む
- 20 暗褐色土 ロームブロックを微量含む 21 暗褐色土 ロームブロックを多量含む
- 22 褐色土 ロームブロックを多量含む

第148図 25号住居跡カマド

第III章 検出された遺構と出土遺物



第149図 25号住居跡出土遺物(1)

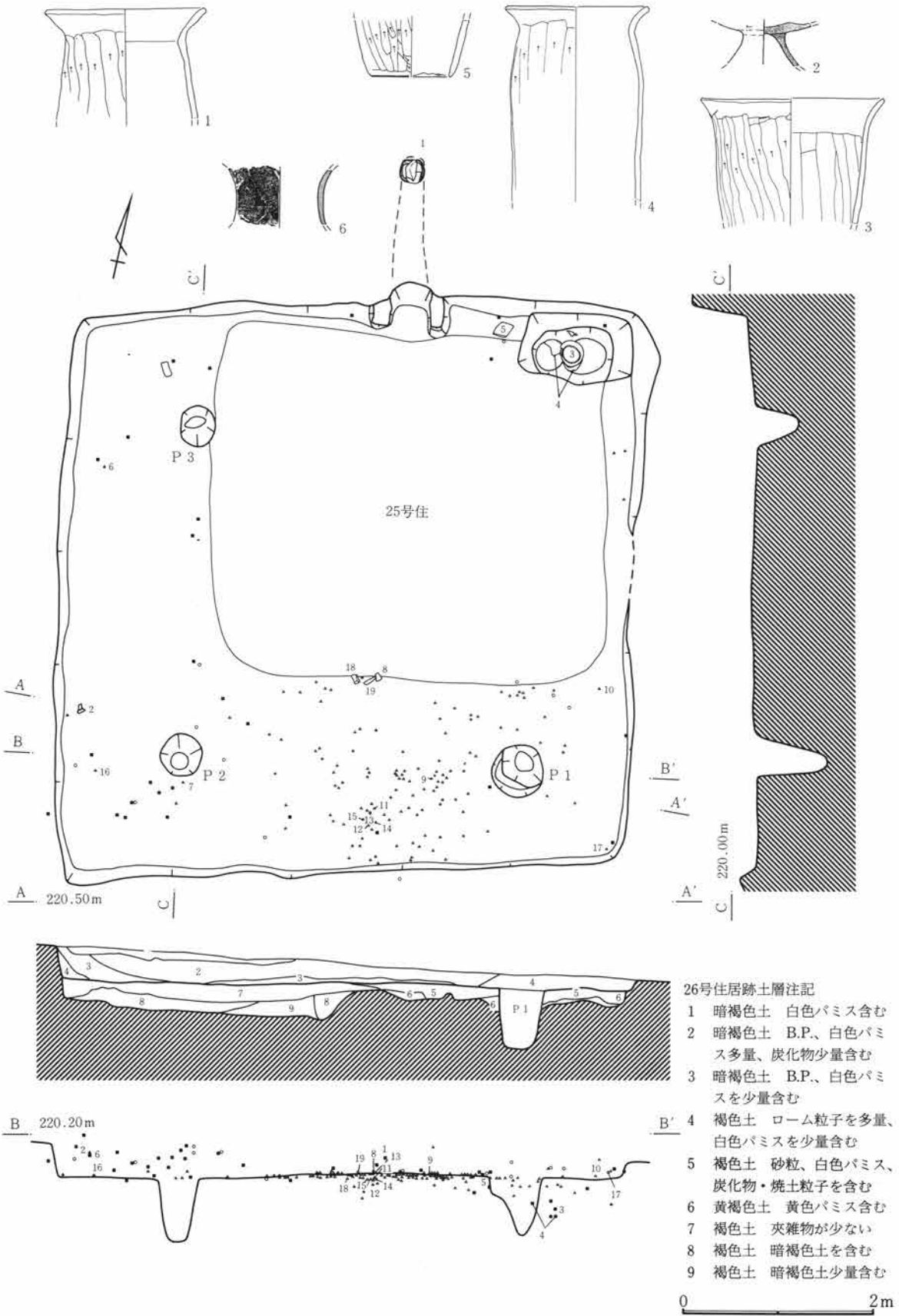


第150図 25号住居跡出土遺物(2)

第三章 検出された遺構と出土遺物

25号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北西 +8	①12.9cm ②— ③4.3cm ④一部欠損	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデか	I C	
2	土師器 坏	南東 +10	①(14.6cm)②— ③(4.8cm) ④口～底4/5	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデか 体部上半無調整	I C	
3	土師器 坏	北東 +6	①14.0cm ②— ③4.5cm ④口～底4/5	①灰黄褐 にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデか	I C	
4	土師器 坏	北東 +4	①12.3cm ②— ③4.7cm ④一部欠損	①②にぶい黄橙 灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
5	土師器 坏	北西 +10	①13.2cm ②— ③4.7cm ④口～底3/4	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデか 底部外面一部黒変	I C	
6	土師器 坏	南東 +24	①13.0cm ②— ③4.8cm ④口～底2/3	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
7	土師器 坏	南東 +8	①14.0cm ②— ③4.8cm ④口～底4/5	①にぶい橙 ②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
8	土師器 坏	北西 +3	①12.2cm ②— ③5.0cm ④口～底3/4	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I C	
9	土師器 坏	北東 +6	①14.6cm ②— ③5.8cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
10	土師器 坏	北東 +8	①12.7cm ②— ③4.8cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
11	土師器 坏	南東 +18	①13.8cm ②— ③5.0cm ④口～底3/4	①にぶい橙 ②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
12	土師器 坏	北東 +46	①(13.8cm)②— ③5.9cm ④口～底1/4	①にぶい黄橙 ②黒 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
13	土師器 高 坏	南西 +38	①(13.6cm)②9.4cm ③6.9cm ④口～脚部	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部・脚端部横ナデ 体部外面篋削り内面ナデ 脚部外面オサエ	V D	
14	土師器 小型甕	北東 +4	①(11.6cm)②— ③— ④口～胴1/3	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VIII	
15	土師器 小型甕	北西 +12	①15.4cm ②— ③13.8cm ④口～底2/3	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り内面ナデ 内外面とも一部黒変	VIII	
16	土師器 甕	北西 -4	①20.5cm ②3.5cm ③33.8cm ④口～底3/4	①にぶい黄褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ 底部外面木葉痕あり	VII A	
17	土師器 鉢	北東 +8	①11.7cm ②— ③9.5cm ④一部欠損	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	X C	
18	土師器 小型甕	北東 -4	①18.4cm ②3.8cm ③14.6cm ④完形	①橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り内面ナデ 内外面黒変(煤・コゲか)	VIII	
19	土師器 甕	南東 +16	①— ②— ③— ④頸～胴部	①明褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII A	
20	土師器 甕	北東 ±0	①(21.0cm)②— ③— ④口～胴部	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII A	
21	土師器 甕	北東 +34	①— ②4.0cm ③— ④胴～底部	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ	VII	
22	土師器 小型甕	北西 +18	①12.4cm ②— ③15.5cm ④口～底3/4	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り内面ナデ 内面黒変(コゲか)	VIII	
23	土師器 甕	北東 +38	①19.8cm ②— ③— ④口縁部4/5	①にぶい橙 ②灰褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VII A	
24	土師器 甕	北西 +18	①(21.2cm)②— ③— ④口縁部1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
25	土師器 甕	北東 +6	胴部最大径30.8cm ④胴部1/2	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ 外面方形に黒変	VII C	
26	土師器 甕	北東 +2	①— ②— ③— ④胴～底部	①②にぶい褐 黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ 内外面とも環状に黒変	VII C	
27	土師器 甕	北東 +4	①19.3cm ②9.1cm ③18.5cm ④完形	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ 外面2カ所黒変 口縁部内面環状に黒変(煤・コゲか)	XII A	
28	土師器 甕	北西 +8	①25.4cm ②9.9cm ③34.5cm ④口～底2/3	①②にぶい橙 黄灰 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ後篋磨きか	XII A	
29	土師器 甕(?)	覆土	器厚7mm ④底部破片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂を含む	底部外面篋削り内面ナデか 底部に半円形の孔多数あり	XII	



第151図 26号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

25号住居跡出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
30	白玉	北東-2	1.2	1.2	0.7	1.7	完形	滑石	孔径3mm 全面研磨
31	玉未製品	北東+2	1.7	1.7	1.0	4.5	完形	滑石	孔径2.5mm 側面鑿状工具による加工
32	玉	南東+20	1.2	1.2	0.6	2.1	完形	滑石	孔径2.5mm 全面研磨
33	玉未製品	北東+6	2.3	1.6	1.5	6.7	完形	滑石	孔径3mm 全面粗い研磨 一部鑿状工具による加工
34	こも編石	南西+26	14.0	6.5	4.5	510	完形	石英安山岩	
35	こも編石	南東+6	14.3	10.9	4.6	720	完形	絹雲母石墨片岩	
36	こも編石	南東+24	13.0	9.0	4.1	480	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
37	こも編石	南東+26	13.8	6.8	4.5	600	完形	絹雲母石墨片岩	
38	こも編石	南東+26	13.1	7.4	3.8	550	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
39	こも編石	北東+26	13.1	7.5	4.0	575	完形	安山岩	
40	こも編石	南東+16	14.7	8.1	4.0	650	完形	石英安山岩	
41	こも編石	南東+12	14.8	8.7	4.7	900	完形	輝緑岩	
42	こも編石	南東+8	13.3	7.1	4.6	640	完形	絹雲母石墨片岩	
43	こも編石	北東+15	10.1	7.0	6.1	490	完形	安山岩	側面に敲打痕あり

26号住居跡

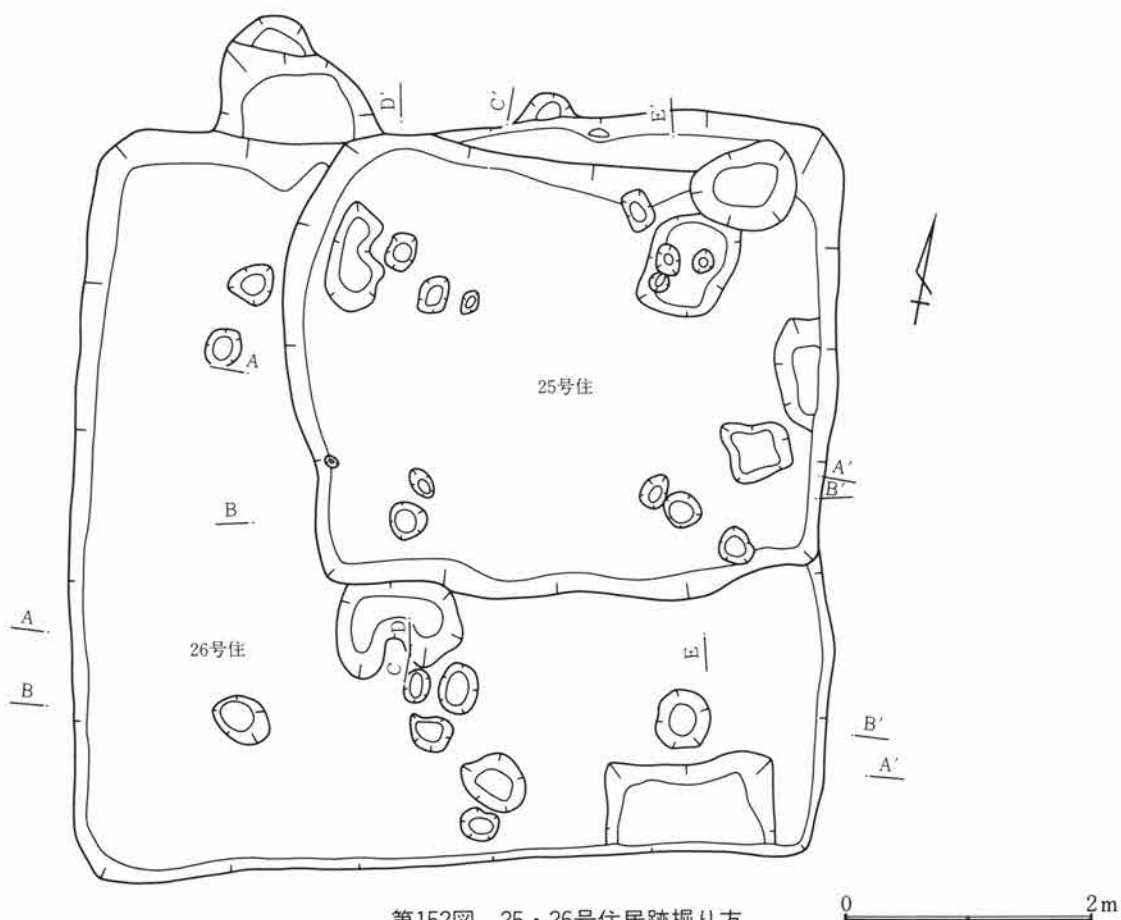
位置 C 5～10-VII34～37Gr 重複 25号住・65号土坑より古 平面形態 正方形

規模 6.14m×5.88m 壁高 68cm やや傾斜している 面積 35.5m² 床面積 32.8m²

主軸方位 N-12°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に検出されているが、北東部は25号住に切られているためか検出されなかった。

P 1 長径54cm短径52cm深さ60cm P 2 長径42cm短径44cm深さ64cm P 3 長径42cm短径34cm深さ44cm



第152図 25・26号住居跡掘り方

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径1.16m 短径0.72m 深さ43cm

形状 平面形態は東西に長い隅丸長方形で、断面形態は台形である。

床面 褐色土で5～35cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。

掘り方 東側に比べ西側がかなり低くなっている。ピットおよび土坑状掘り込みが数基検出されている。

遺物出土状況 西壁際に少なく南壁際から多く出土している。垂直分布を見ると、中央から東側は床面付近に集中している。接合関係の判明するものは1点だけで、貯蔵穴中の破片が接合している。

カマド

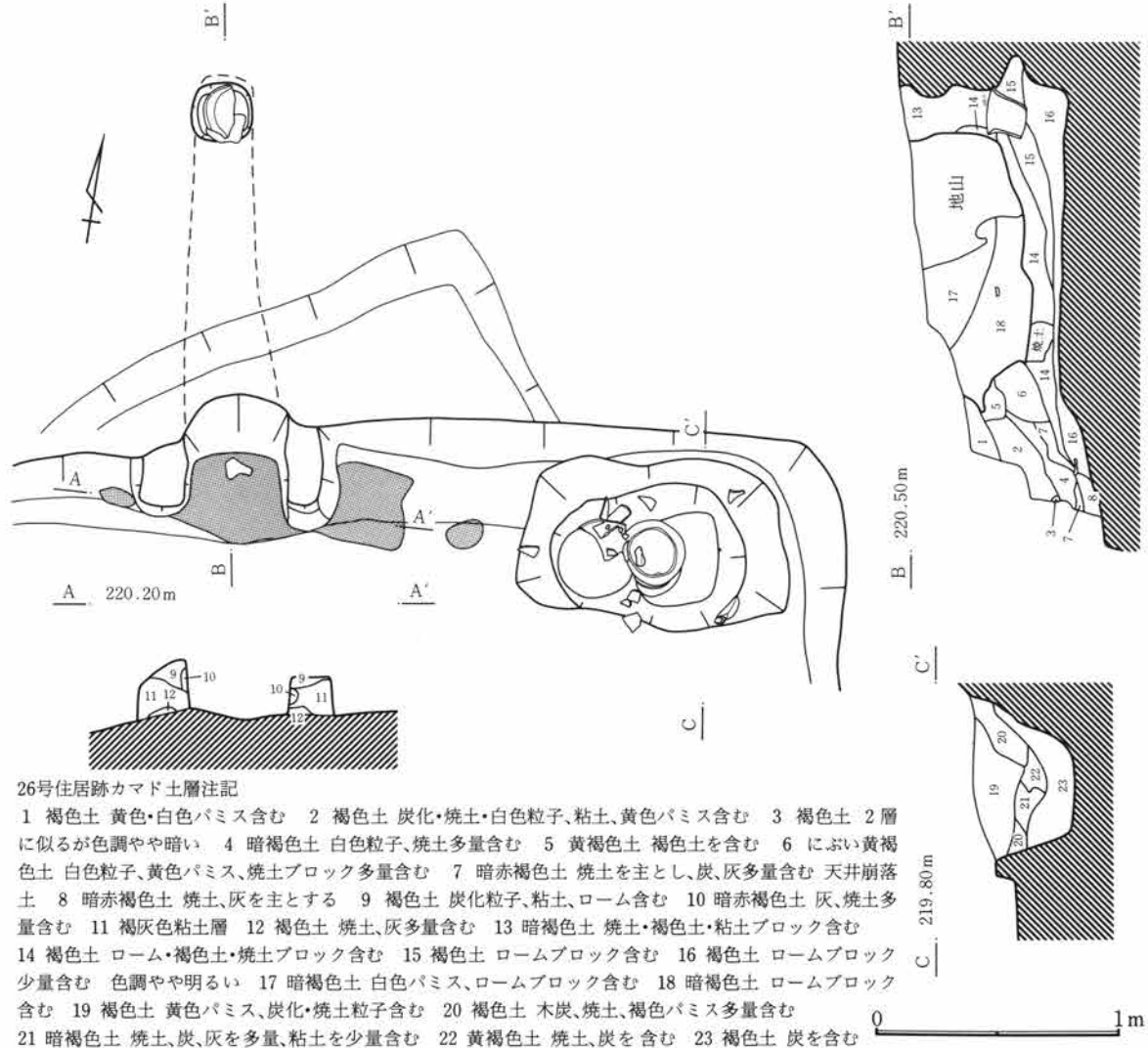
位置 北壁やや東寄り **主軸方位** N-12°-W **規模** 全長1.88m 幅0.85m 煙道部長1.29m

構築 25号住により前面を削平されている。褐灰色粘土で袖を構築している。火床面は床面とほぼ同レベルで、カマド右脇までよく焼けている。煙道部はほぼ水平に延びて垂直に立ち上がっている。

遺物出土状況 ほとんど出土していない。

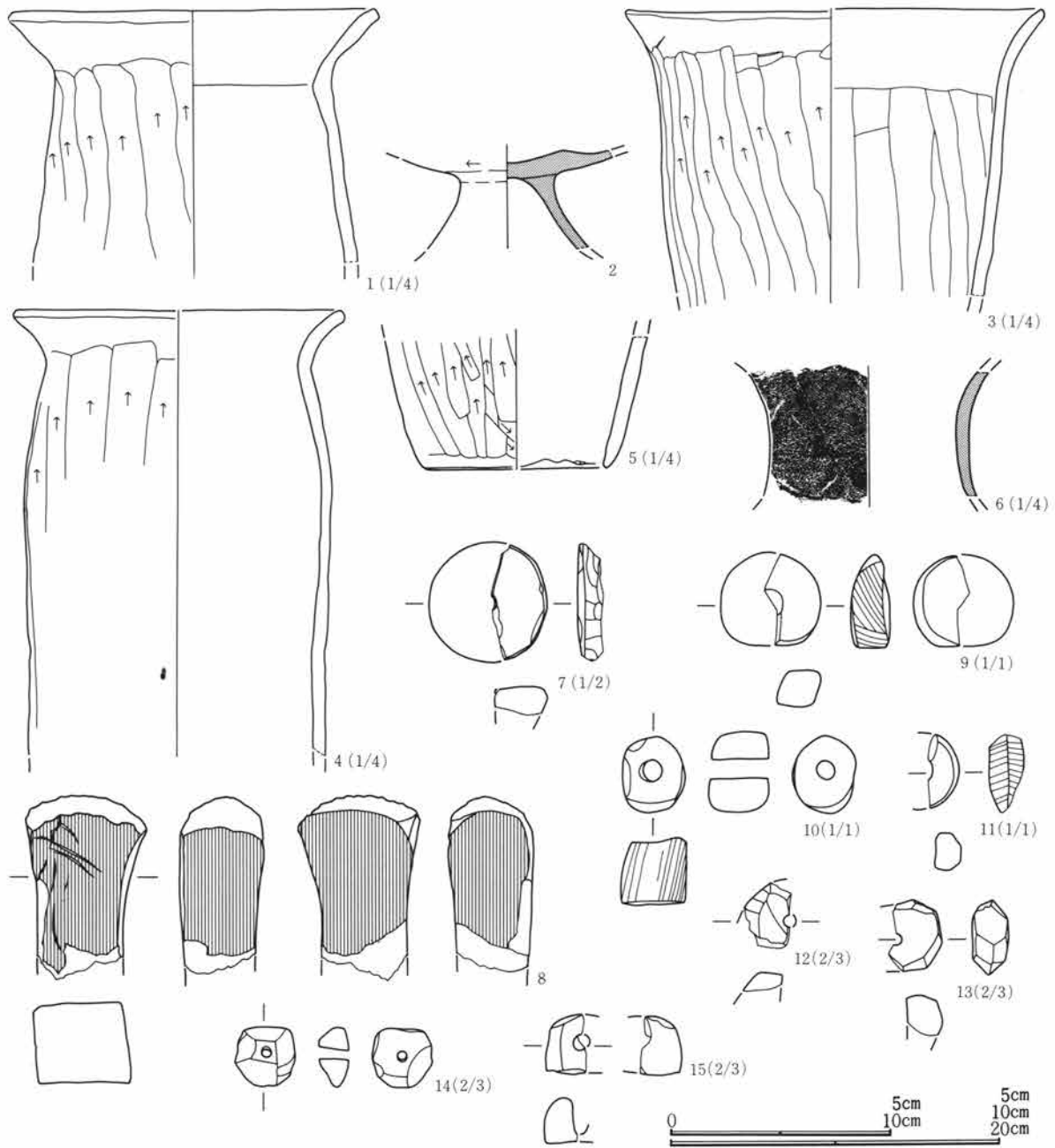
出土遺物 土器は、土師器坏29点、甕89点、甑1点、須恵器坏2点、高坏1点、甕1点が出土し、石製品は、白玉1点、玉未製品6点、紡錘車1点、滑石碎片266点、砥石1点、不明石製品1点が出土している。

所見 時期の分かる遺物が少ないが、25号住より古いため6世紀後半代になると考えられる。



第153図 26号住居跡カマド

第三章 検出された遺構と出土遺物



26号住居跡出土土器観察表

第154図 26号住居跡出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 甕	貯蔵穴	①22.2cm ②— ③— ④口~胴3/4	①②にふい褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	
2	須恵器 高 坏	貯蔵穴	①— ②— ③— ④底~脚部	①②灰 ③良好 ④細 細砂・粗砂・石英粒を含む	ロクロ調整(右) 底部外面回転篋 削り	IV	
3	土師器 甕	貯蔵穴	①25.0cm ②— ③— ④口~胴部	①②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII A	
4	土師器 甕	貯蔵穴	①(19.6cm)②— ③— ④口~胴1/3	①にふい褐 ②褐 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	
5	土師器 甕	北東 + 2	①— ②(11.0cm) ③— ④底部破片	①橙 ②にふい橙 ③良好 ④細 粗砂・パミスを含む	胴部外面篋削り内面ナデ	XII A	
6	須恵器 甕	北西 + 26	①— ②— ③— ④頸部破片	①灰 ②灰黄 ③還元焰 良好 ④普通 粗砂を含む	ロクロ調整 外面10本1単位の櫛 描波状文	VI	

26号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
7	紡錘車	南西±0	3.5	[1.8]	0.9	7.0	1/3	滑石	上面・側面研磨
8	砥石	南東+2	[8.2]	5.4	3.7	204	2/3	流紋岩	4面使用
9	玉未製品	南東+2	1.4	[0.8]	0.6	0.8	1/2	滑石	側面粗い研磨
10	玉未製品	南東+5	1.1	1.0	0.9	1.8	完形	滑石	孔径2.5mm 側面粗い研磨
11	白玉	南東-2	1.1	[0.5]	0.6	0.6	1/3	滑石	孔径3.5mm 側面粗い研磨
12	玉未製品	南東±0	[1.4]	[1.0]	0.5	0.8	1/2	滑石	側面鑿状工具による加工か
13	玉未製品	南東-2	1.5	[1.2]	0.8	1.7	1/2	滑石	側面鑿状工具による加工
14	玉未製品	南東-8	1.4	1.4	0.7	1.6	完形	滑石	孔径2mm 一部粗い研磨
15	玉未製品	南東-6	1.3	[0.9]	0.8	1.7	1/2	滑石	孔径4mm 穿孔途中 側面一部鑿状工具による加工
16	こも編石	南西+2	15.5	7.8	6.4	830	完形	硬砂岩	
17	こも編石	南東+8	14.7	7.0	5.3	675	完形	石英粗面岩	
18	こも編石	南西-6	14.7	6.1	3.3	430	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
19	こも編石	南東+4	13.6	7.9	3.4	525	完形	絹雲母石墨片岩	

27号住居跡

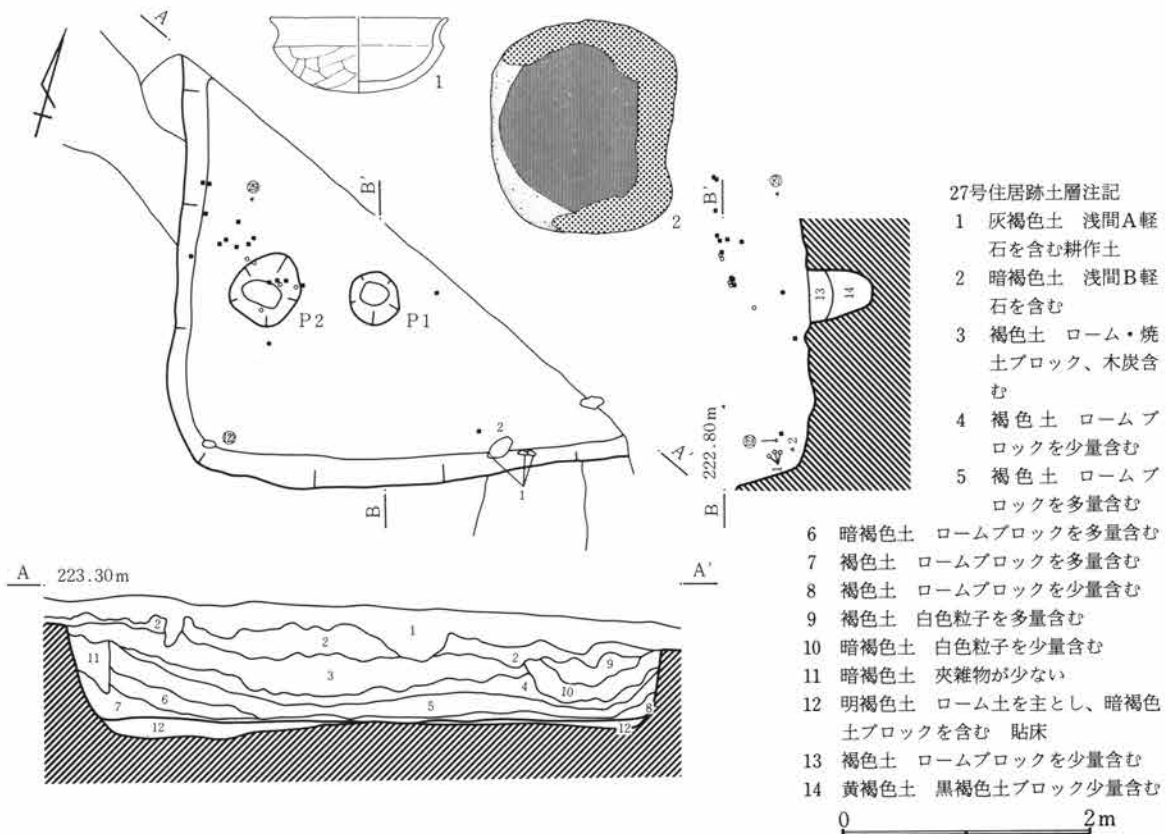
位置 C 35～37-VII63～65Gr 重複 なし 平面形態 不明 規模 [3.6m×3.4m]

壁高 78cm やや傾斜している 面積 [6.7m²] 床面積 [5.6m²] 主軸方位 N-21°-W

壁溝 なし 貯蔵穴 不明

柱穴 調査区外の部分が多く、1基しか検出されなかった。 P 1 長径42cm短径40cm深さ50cm

床面 ロームを主とする明褐色土で5～15cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。



第155図 27号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

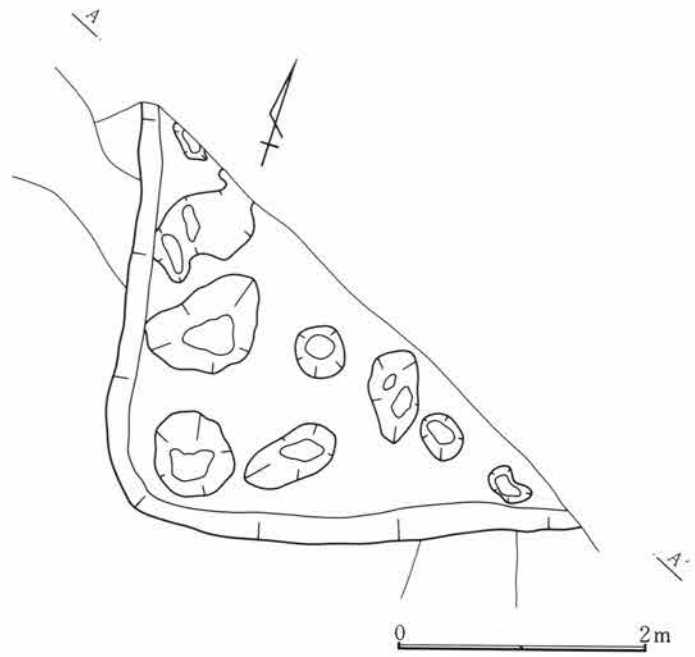
カマド 調査区外にあると考えられるため詳細は不明であるが、位置は北壁か東壁の可能性が高い。

掘り方 長径0.3~1.0mのピットが9基検出されているが、他は平坦な掘り方である。

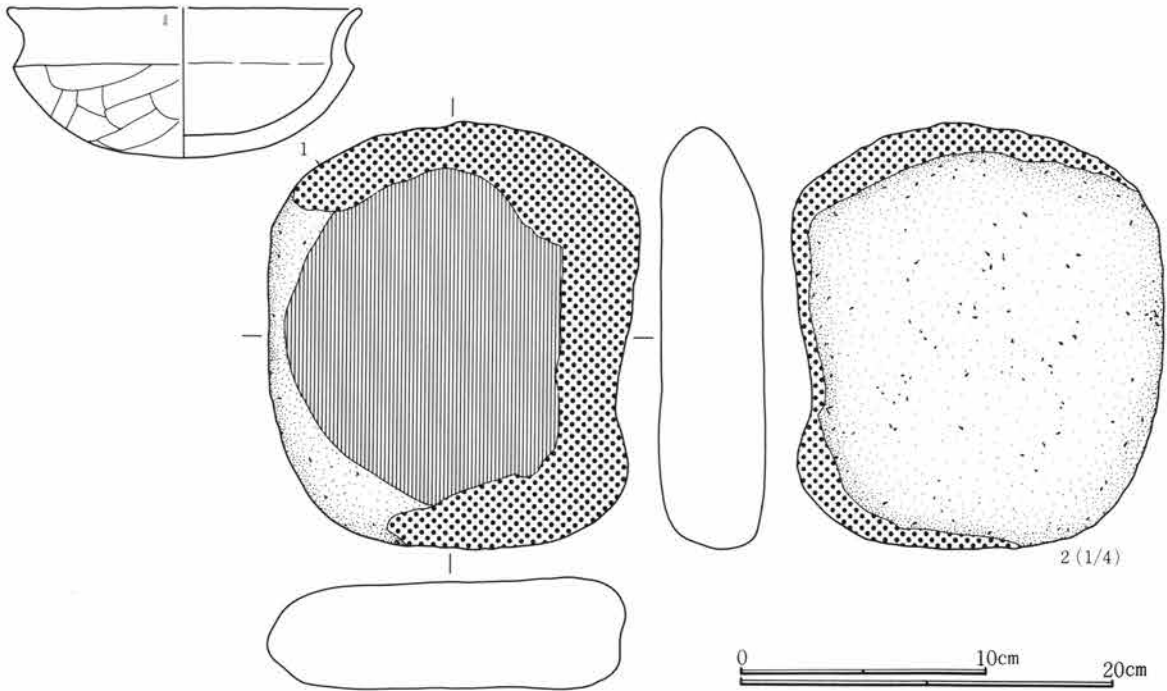
遺物出土状況 西壁際にやや集中している。

出土遺物 土器は土師器坏13点、甕64点が、石製品は台石1点が出土し、他に弥生土器が5点出土している。

所見 1の坏は覆土中の出土で住居に遺棄されたものではないが、住居に比較的近い時期のものと考えられるため、住居の時期は古墳時代後期のものと考えられる。



第156図 27号住居跡掘り方



第157図 27号住居跡出土遺物

27号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
1	土師器 坏	南東 +16	①14.0cm ③5.9cm	②- ④口~底1/2	①にふい褐 ②にふい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 内面ナデ	体~底部外面篋削 外面一部黒変(煤?)	I C	

27号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
2	台石	南東+10	22.5	19.6	6.0	4400	完形	石英安山岩	上面周辺～側面赤変・煤(?)付着

28号住居跡

位置 C11～14-VII33～36Gr 重複 45号住より新

平面形態 東西に長い隅丸長方形であるが、カマド右側と左側で壁が食い違っており、左側に浅いテラスがあったものと考えられる。

規模 5.19m×4.09m 壁高 41cm やや傾斜している 面積 22.0m² 床面積 18.4m²

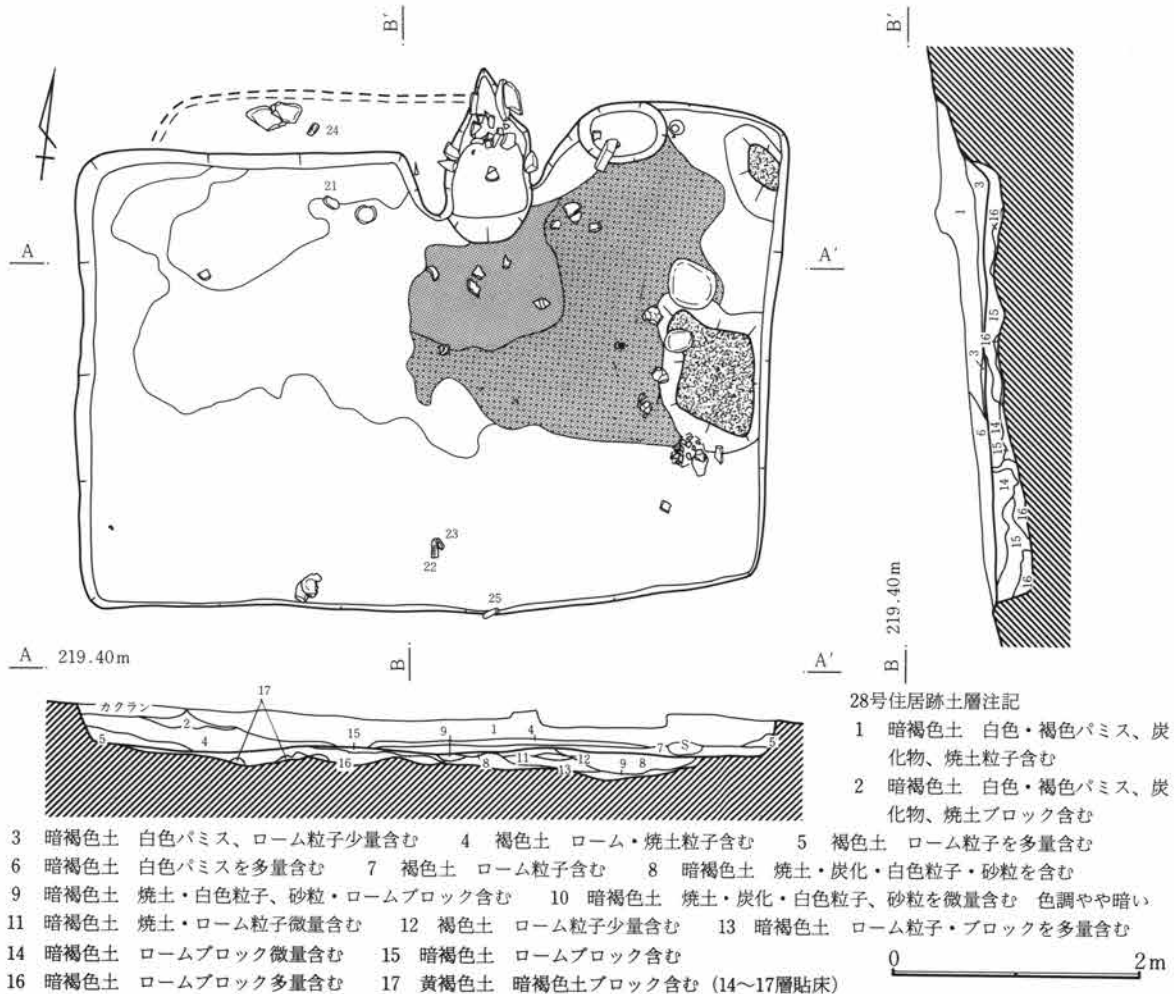
主軸方位 N-6°-W 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.73m 短径0.49m 深さ55cm

形状 平面形態は東西に長い楕円形で、断面形態は台形である。

床面 ロームを含む暗褐色土で貼床としているが、かなり凹凸のある床面である。中央から北西部にかけてよく踏み固められており(図中の実線の内側)、また北東部には焼土および灰が分布している。さらに、北東隅および東壁際に粘土ブロックが検出されている。

掘り方 中央やや東よりから長径2.58m短径1.68m深さ26cmの土坑が検出されている。土坑全面から多くの土器片が出土している。他に、ピットおよび土坑状掘り込みが数基検出されている。



第158図 28号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

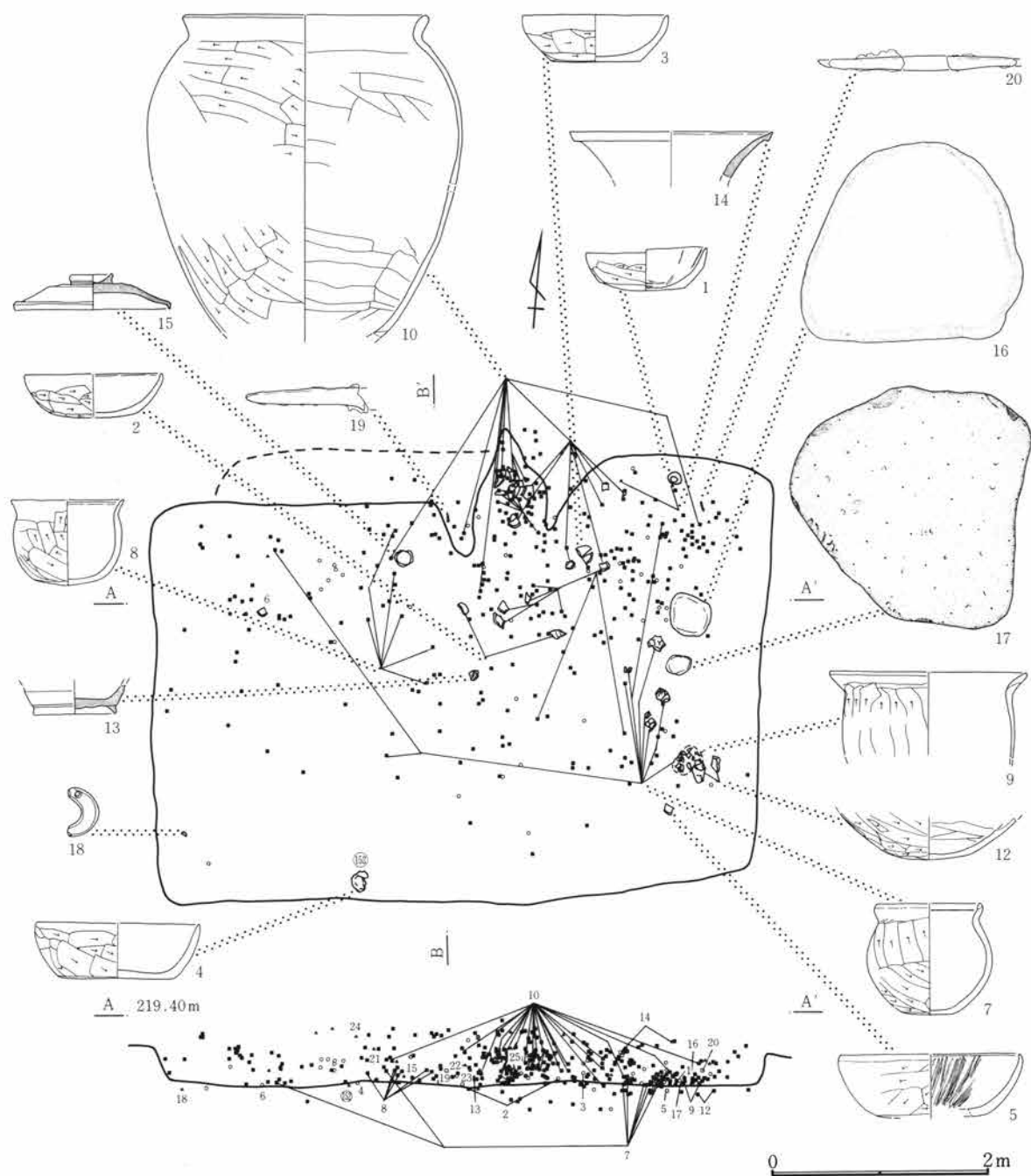
遺物出土状況 住居全面から出土しているが、北側のカマド付近が最も分布が濃く、南ほど薄くなっている。垂直分布を見ると、上層から床面付近まで出土しているが、下層がやや多くなっている。

カマド

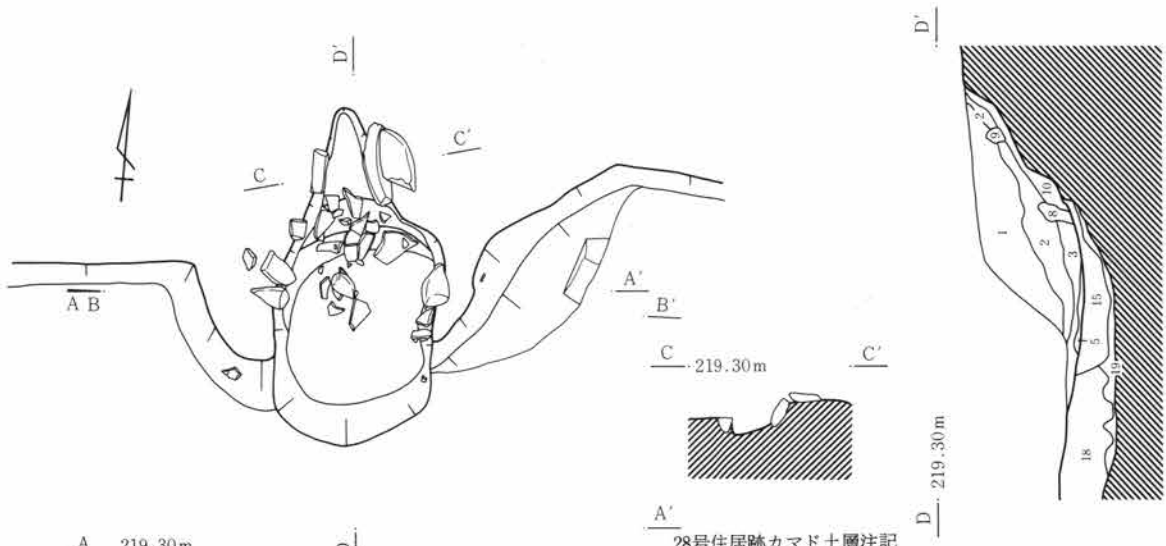
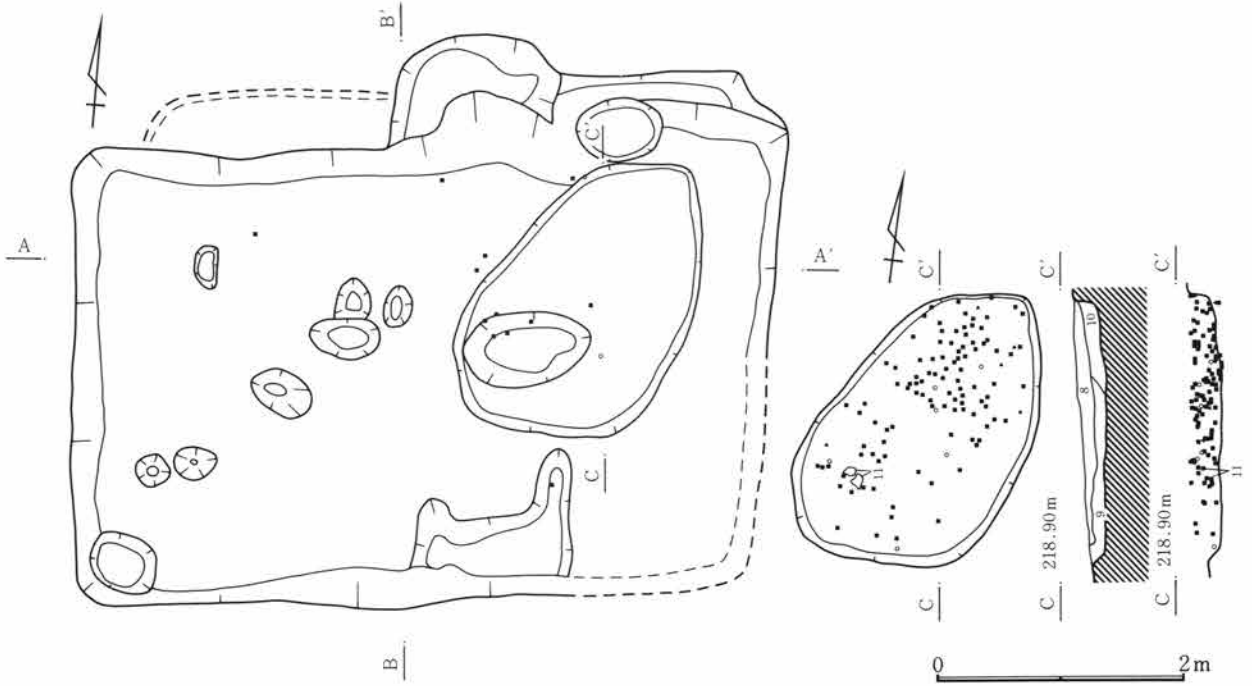
位置 北壁やや東寄り **主軸方位** N-12°-W **規模** 全長1.34m 幅1.17m

構築 細長い礫を袖石として、褐色土で袖を構築している。火床面は床面より低く、あまり焼けていない。煙道部にも両側の補強材に礫を使用しており、斜めに立ち上がっている。

遺物出土状況 燃焼部から煙道部にかけて土師器甕の破片が多数出土している。



第159図 28号住居跡遺物出土状況



A 219.30m

B 219.30m

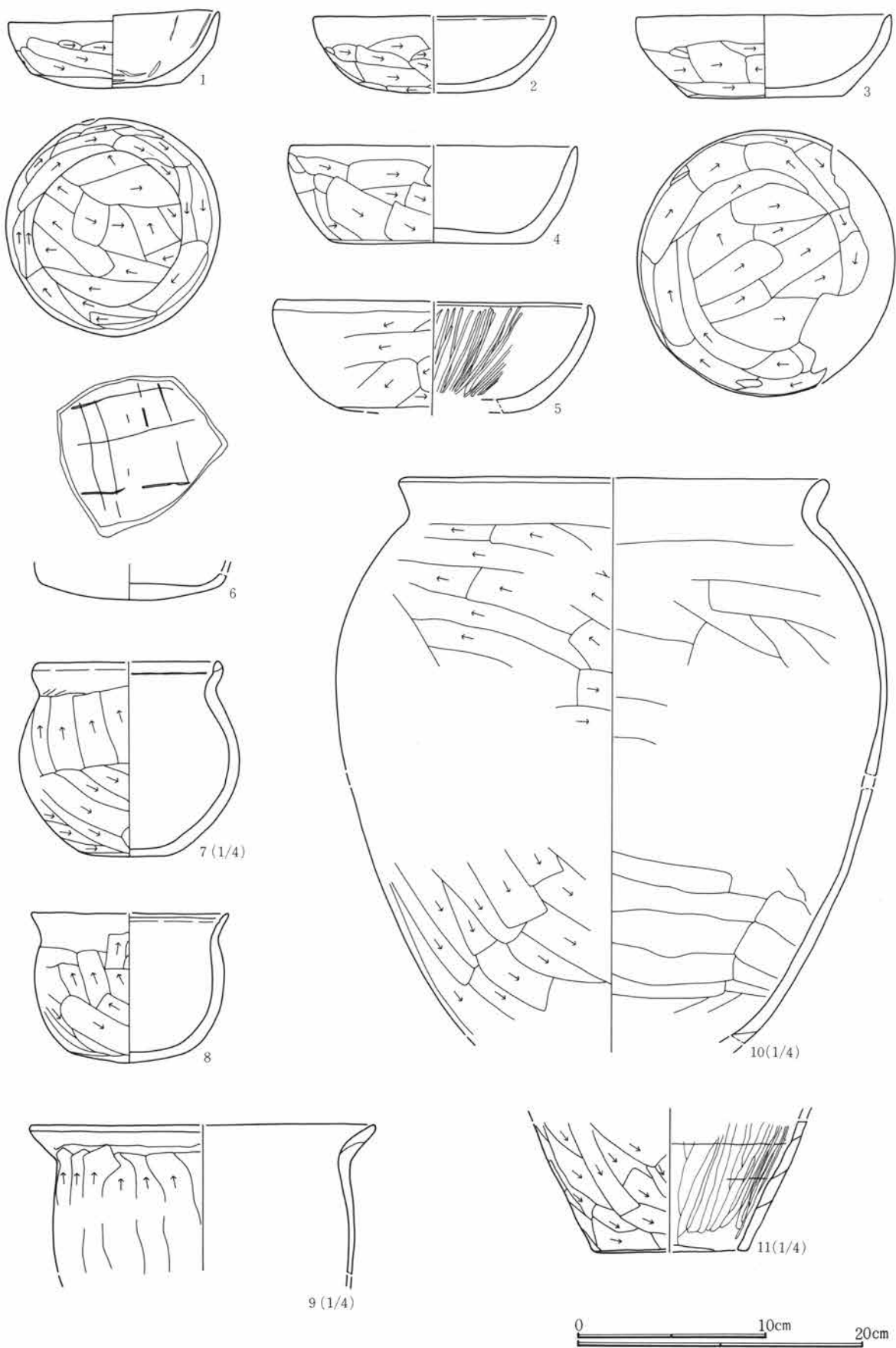
28号住居跡カマド土層注記

- 1 暗褐色土 白色バミスを含む
- 2 褐色土 白色バミス、焼土ブロックを少量含む
- 3 赤褐色土 焼土層 4 褐色土 焼土ブロック多量含む
- 5 褐色土 焼土ブロックを多量、ロームブロック少量含む
- 6 褐色土 焼土ブロック多量含む
- 7 黄褐色土 ロームを主とする 焼土ブロックを少量含む
- 8 焼土ブロック 9 褐色土 焼土ブロック・粒子を含む
- 10 褐色土 焼土粒子含む 11 暗褐色土 焼土粒子含む
- 12 褐色土 炭化・焼土粒子含む
- 13 褐色土 焼土ブロック含む 14 明赤褐色土 焼土層
- 15 暗褐色土 ローム・焼土粒子含む
- 16 黄褐色土 暗褐色土含む
- 17 暗褐色土 焼土粒子を含む
- 18 暗褐色土 ロームブロック、黄色バミスを微量含む
- 19 暗褐色土 ロームブロック多量含む

0 1m

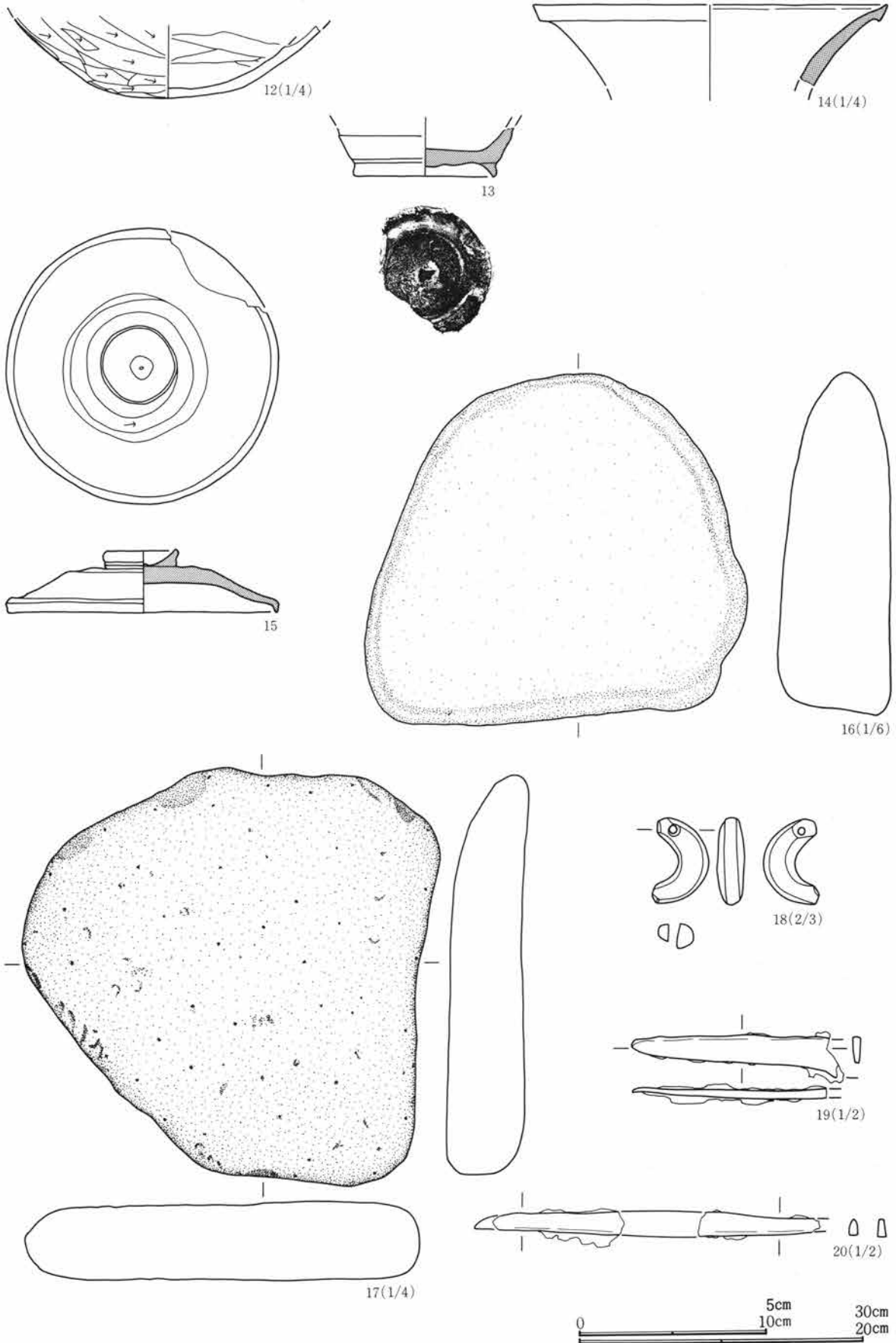
第160図 28号住居跡掘り方・住居内土坑およびカマド

第三章 検出された遺構と出土遺物



第161図 28号住居跡出土遺物(1)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第162図 28号住居跡出土遺物(2)

第三章 検出された遺構と出土遺物

28号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北東 +4	①10.9cm ③4.0cm	②7.6cm ④完形	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 外面環状に黒変	I E	
2	土師器 坏	北東 ±0	①12.6cm ③4.0cm	②— ④口～底1/2	①明褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
3	土師器 坏	北東 +7	①13.6cm ③4.2cm	②8.0cm ④口～底2/3	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I F	
4	土師器 坏	南西 -2	①14.8cm ③5.0cm	②10.0cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I F	
5	土師器 坏	南東 -6	①(16.1cm)②(10.0cm) ③(5.6cm)	④口～底1/5	①にぶい赤褐 ②褐 ③良好 ④普通 粗砂・パミスを含む	口縁部ナデ 体部外面篋削り内面 ナデ後放射状暗文	I E	
6	土師器 坏	北西 ±0	①— ③—	②— ④底部片	①②にぶい黄橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	底部外面篋削り内面ナデ 底部内 面に焼成後格子状線刻	I	
7	土師器 小型甕	南東 -6	①12.4cm ③13.4cm	②5.0cm ④口～胴1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面ナデ	VIII	
8	土師器 小型甕	北西 +8	①10.2cm ③7.7cm	②— ④一部欠損	①にぶい黄褐 ②暗褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面篋ナデ	VIII	
9	土師器 甕	南東 -2	①(18.0cm)②— ③—	④口縁1/5	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	
10	土師器 甕	カマド	①(23.4cm)②— ③—	④口縁1/5 胴部片	①にぶい橙 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ 外面一部黒変	VII C	
11	土師器 甕	土坑内	①— ③—	②(11.0cm) ④胴～底1/3	①にぶい黄橙 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴部外面篋削り内面ナデ後篋磨き	XII A	
12	土師器 甕	南東 -8	①— ③—	②— ④胴～底部	①②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
13	須恵器 坏	北東 +10	①— ③—	②7.2cm ④体～底2/3	①②灰白 ③良好 ④普通 粗砂を含む	ロクロ調整(右?) 底部回転篋削 り後高台貼付け	I E	
14	須恵器 甕	北東 +30	①(24.8cm)②— ③—	④口縁部片	①黄灰 ②褐灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 内面に自然釉付着	VI	
15	須恵器 蓋	北西 +6	①14.2cm ③3.2cm	鈕径3.9cm ④一部欠損	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・黒色粒子含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削 り 高台状鈕貼付け	III D	

28号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
16	台石	北東+3	39.6	35.4	12.0	31000	完形	安山岩	
17	台石	北東+2	29.2	29.3	5.4	9500	完形	安山岩	
18	勾玉	南西-8	2.3	0.5~0.8	0.7	2.7	完形	滑石	孔径1.5~2.5mm 全面研磨 穿孔1方向か
21	こも編石	北西+30	13.7	7.2	4.1	485	完形	絹雲母石墨片岩	
22	こも編石	南西+20	16.6	3.3	2.3	290	完形	緑泥片岩	
23	こも編石	南西+16	13.1	5.1	3.3	290	完形	輝緑岩	
24	こも編石	北西+40	13.2	4.8	3.8	305	完形	絹雲母石墨片岩	
25	こも編石	南東+14	17.0	5.3	3.1	440	完形	緑泥片岩	

28号住居跡出土鉄器観察表

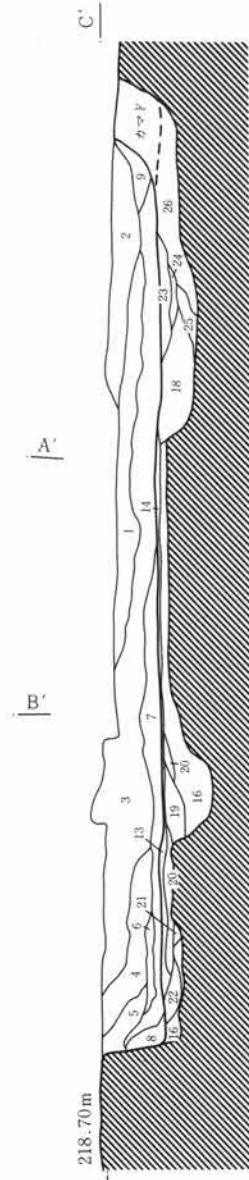
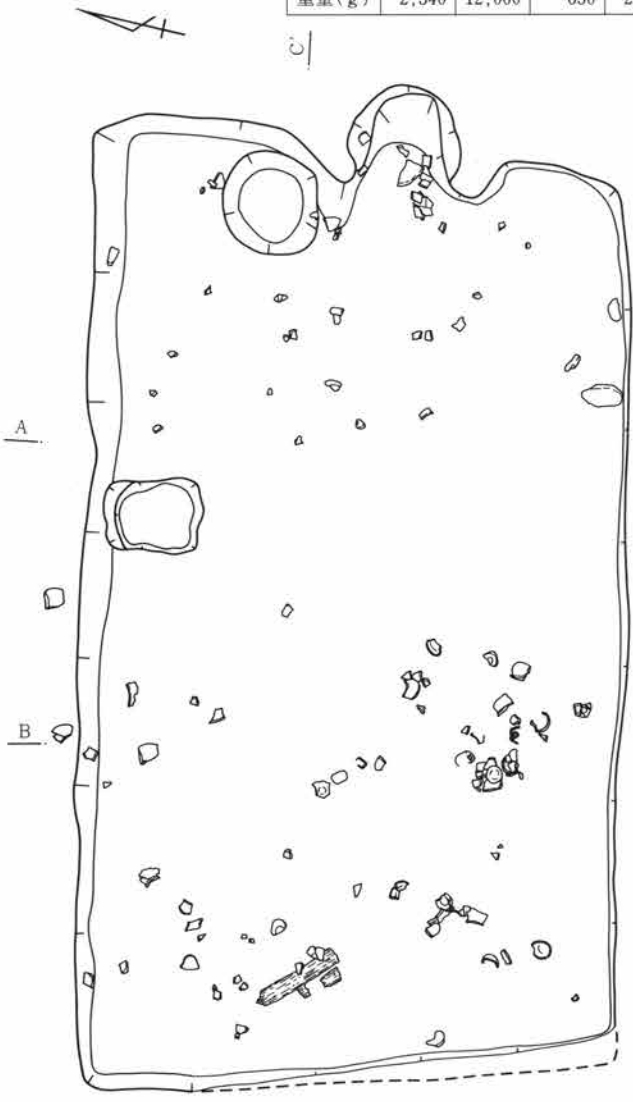
No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
19	刀子	貼床内	[7.3]	1.5	0.3	10.8	茎部欠損	関は刃部にあり
20	刀子	北東±0	[9.0]	0.9	0.3	9.5	刃・茎部残存	関ははっきりしない

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器坏・甕・小型甕・器形不明、須恵器坏・蓋・甕が出土し、石製品は勾玉1点、こも編石5点が出土している。他に弥生土器1点、古式土師器6点が出土している。

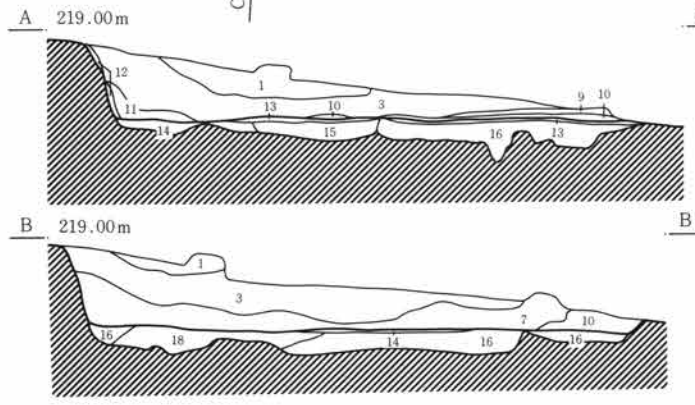
所見 出土遺物中には住居に遺棄されたと思われるものもかなりあり、時期は8世紀中葉～後半代と考えられる。29号住居出土土器と接合関係をもつ遺物があるが、距離的には同時存在はしていない可能性が高い。

出土土器数量表

種別	土師器			須恵器			計
	坏	甕	小型甕	坏	蓋	甕	
点数	103	756	4	13	3	1	880
重量(g)	2,340	12,000	630	230	210	125	15,535



- 29号住居跡土層注記
- 1 暗褐色土 ロームブロックを斑状に含む
 - 2 暗褐色土 焼土ブロックを斑状に含む
 - 3 暗褐色土 木炭、ローム・焼土ブロック含む
 - 4 暗褐色土 ロームと焼土の混合土
 - 5 暗褐色土 ローム・焼土ブロックを微量含む
 - 6 暗褐色土 木炭、灰含む
 - 7 暗褐色土 焼土ブロックを多量含む
 - 8 褐色土 粘質土を主とし、暗褐色土を含む
 - 9 褐色土 焼土・ロームブロック、炭化粒子を含む
 - 10 褐色土 焼土ブロック、炭化粒子を少量含む
 - 11 暗褐色土 焼土ブロック、炭化粒子を多量含む
 - 12 黄褐色土 ロームを主とする
 - 13 暗褐色土 焼土ブロック少量含む
 - 14 黒褐色土 焼土ブロックを斑状に含む
 - 15 黒褐色土 ロームブロックを斑状に含む
 - 16 暗褐色土 ロームブロックを含む
 - 17 褐色土 ロームを主とし、暗褐色土ブロックを含む
 - 18 ロームと暗褐色土の混土 焼土ブロックを少量含む
 - 19 暗褐色土 ローム・焼土ブロックを含む
 - 20 暗褐色土 ロームブロックを含む
 - 21 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む
 - 22 暗褐色土 焼土ブロックを微量含む
 - 23 暗褐色土 焼土・ローム・暗褐色土ブロックを含む
 - 24 黒褐色土 ローム・焼土ブロックを微量含む
 - 25 暗褐色土 灰白色粘土、ロームブロック多量含む
 - 26 暗褐色土 灰白色粘土、ロームブロックを含む



第163図 29号住居跡

29号住居跡

位置 C11~14-VII29~33Gr 重複 45号住より新 平面形態 東西に長い隅丸長方形
規模 7.2m×4.3m 壁高 60cm やや傾斜している 面積 32.9m² 床面積 28.6m²
主軸方位 N-96°-E 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 位置 東壁北寄り 規模 長径0.81m 短径0.75m 深さ20cm

形状 平面形態は円形で、底部
が広く断面形態は台形である。

床面 ロームを含む黒褐色土で5~20cm
の貼床とし、若干凹凸があるが、ほぼ平
坦な床面である。

掘り方 東側中央に土坑状の掘り込みが
あり、その北西部に溝状・土坑状の掘り
込みやピットが集中している。しかしな
がら、南壁際から西壁際にかけては比較
的平坦な掘り方となっている。

遺物出土状況 住居全面から多量に出土
しており、垂直分布でも上層から下層ま
で出土しているが、東側の下層から床面
付近に集中して出土している。接合関係
の判明するものは34個体あり、覆土下層
から床面付近のものが接合しているもの
が多いが、上層のものと接合しているも
のもある。

東カマド (新カマド)

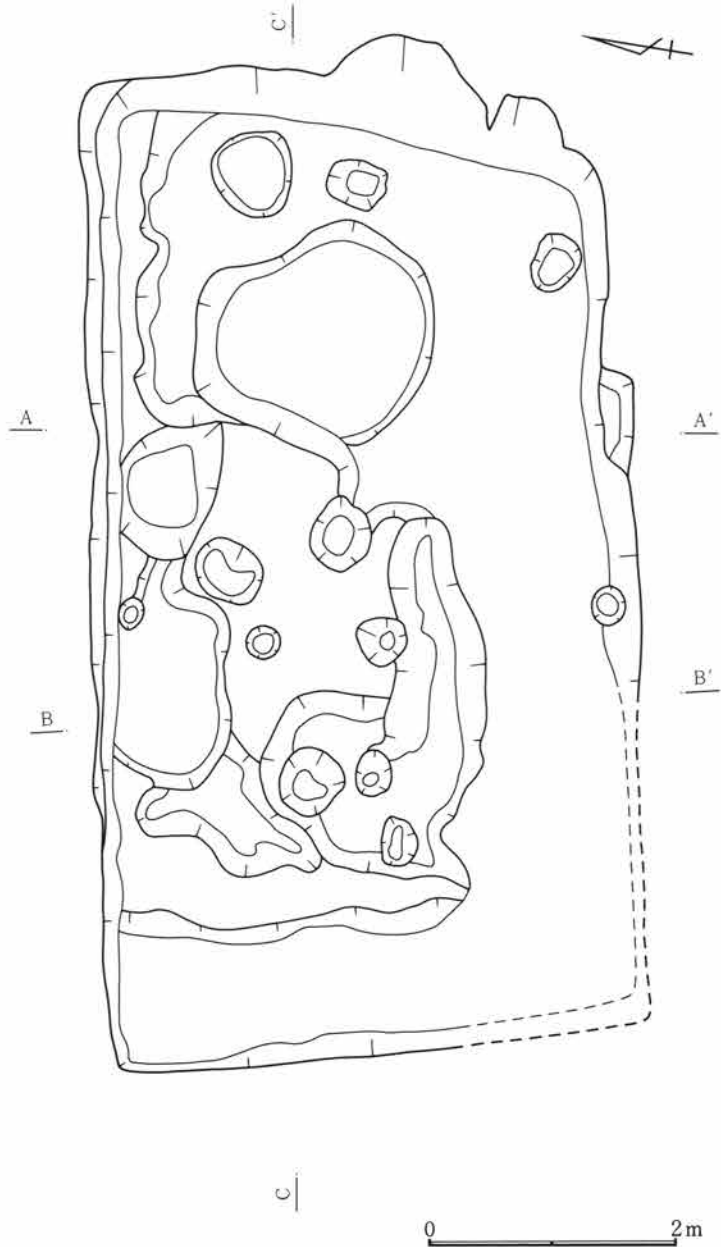
位置 東壁やや北寄り

主軸方位 N-102°-E

規模 全長1.04m 幅1.08m

構築 黄褐色土で袖を構築しているが、
袖石・天井石等は出土していない。火
床面は床面より低く、よく焼けており、
焚き口手前まで焼土が分布している。

遺物出土状況 燃焼部から甕の破片が
集中して出土している。



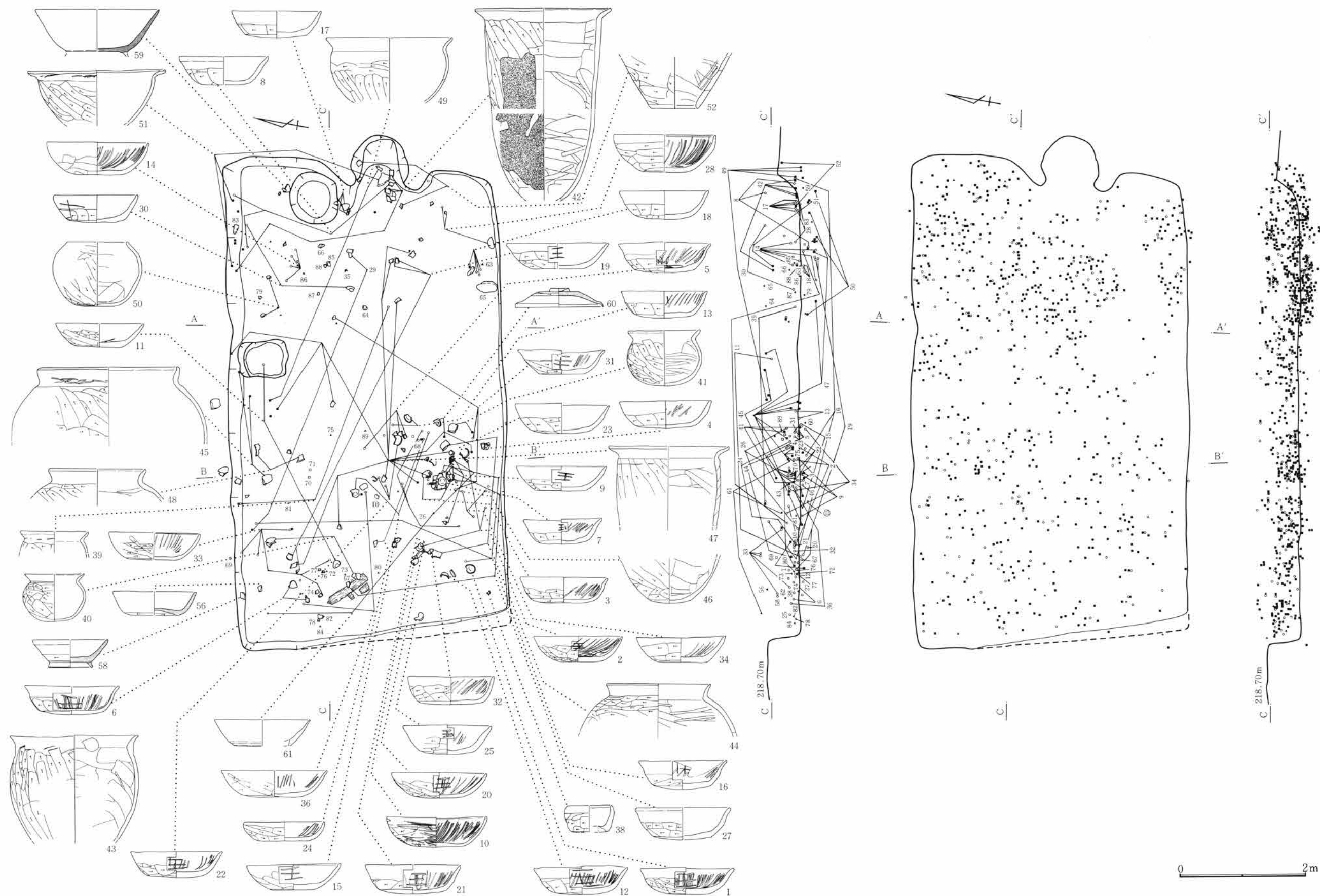
第164図 29号住居跡掘り方

北カマド (旧カマド)

位置 北壁やや東寄り 主軸方位 N-10°-W 規模 全長0.78m 幅0.60m

構築 旧カマドと考えられるため、掘り方の一部 (隅丸長方形) が確認されただけである。

出土遺物 出土量は非常に多く、竪穴住居中で最も多い。土器は、土師器坏・甕・小型甕・鉢・甑・器形不明、須恵器坏・高坏・蓋・甕が出土しており、石製品は、紡錘車1点、滑石石核1点、砥石1点、台石1点、

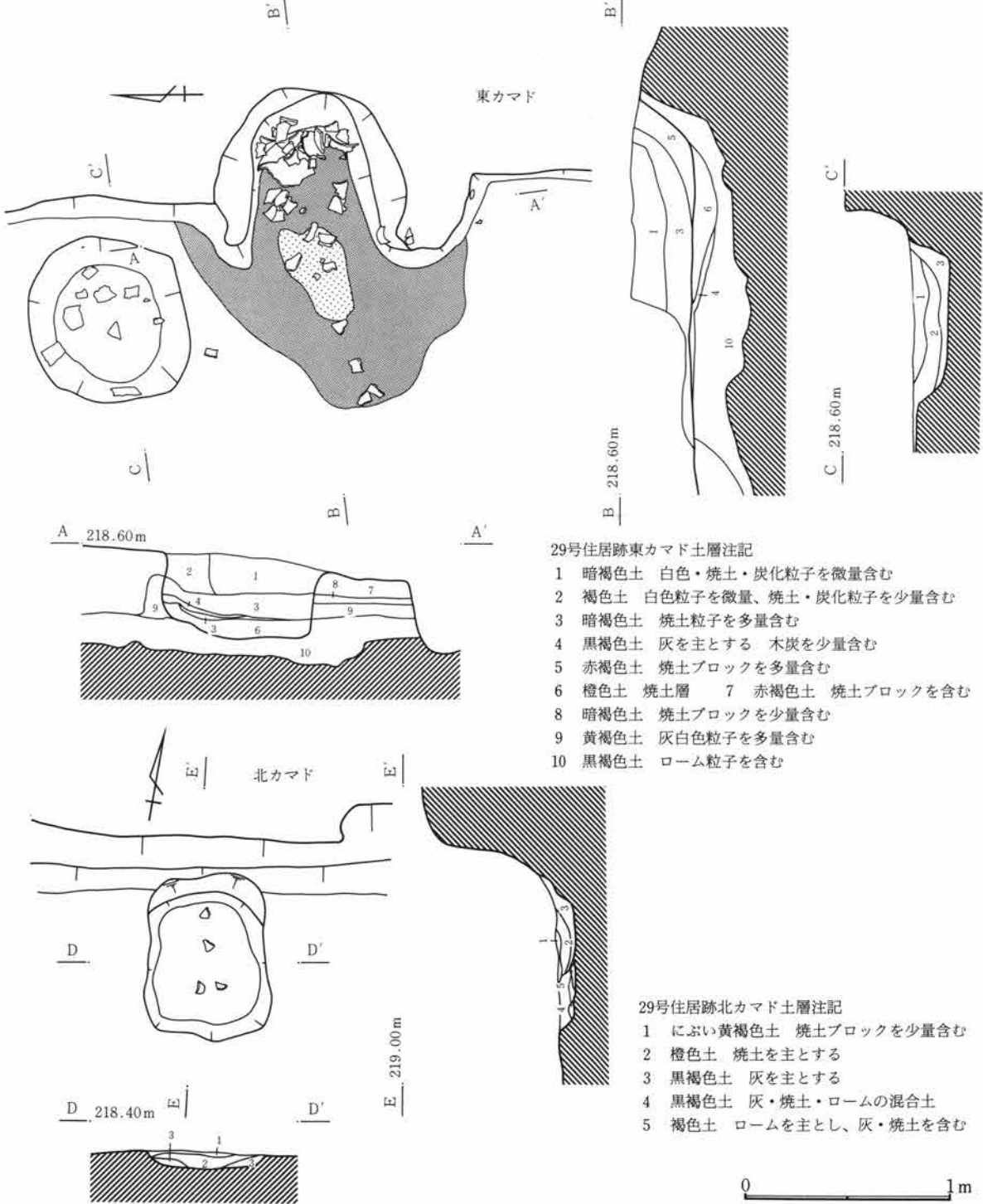


第165图 29号住居跡遺物出土状況

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

こも編石18点が出土している。土師器坏中に、「王」の刻書12点、「玉」の刻書3点、「甲」の墨書1点、須恵器坏中に「王」墨書1点が確認され、文字資料の多い点が注目される。他に、円筒埴輪2点、弥生土器3点、縄文土器2点が出土している。

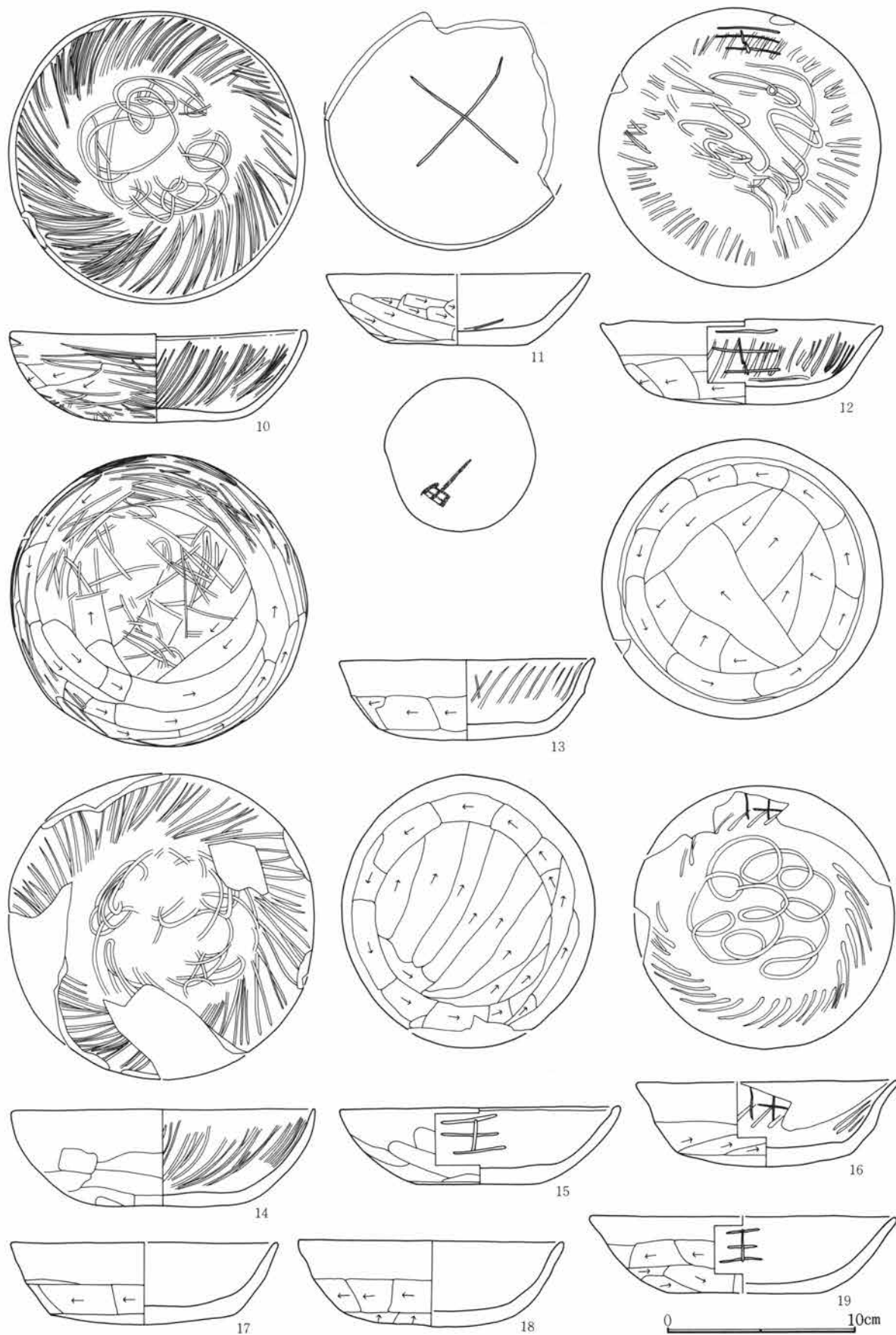
所見 多量の出土土器は多くは他から廃棄されたものと考えられるが、住居に遺棄されたものもかなりある。時期は8世紀後半代と推定される。「王」の刻書土器は遺棄されたものが多く、この住居で使用されていたと考えられる。他に「王」の刻書土器が出土した遺構もあるが、この住居から圧倒的に多く出土している。



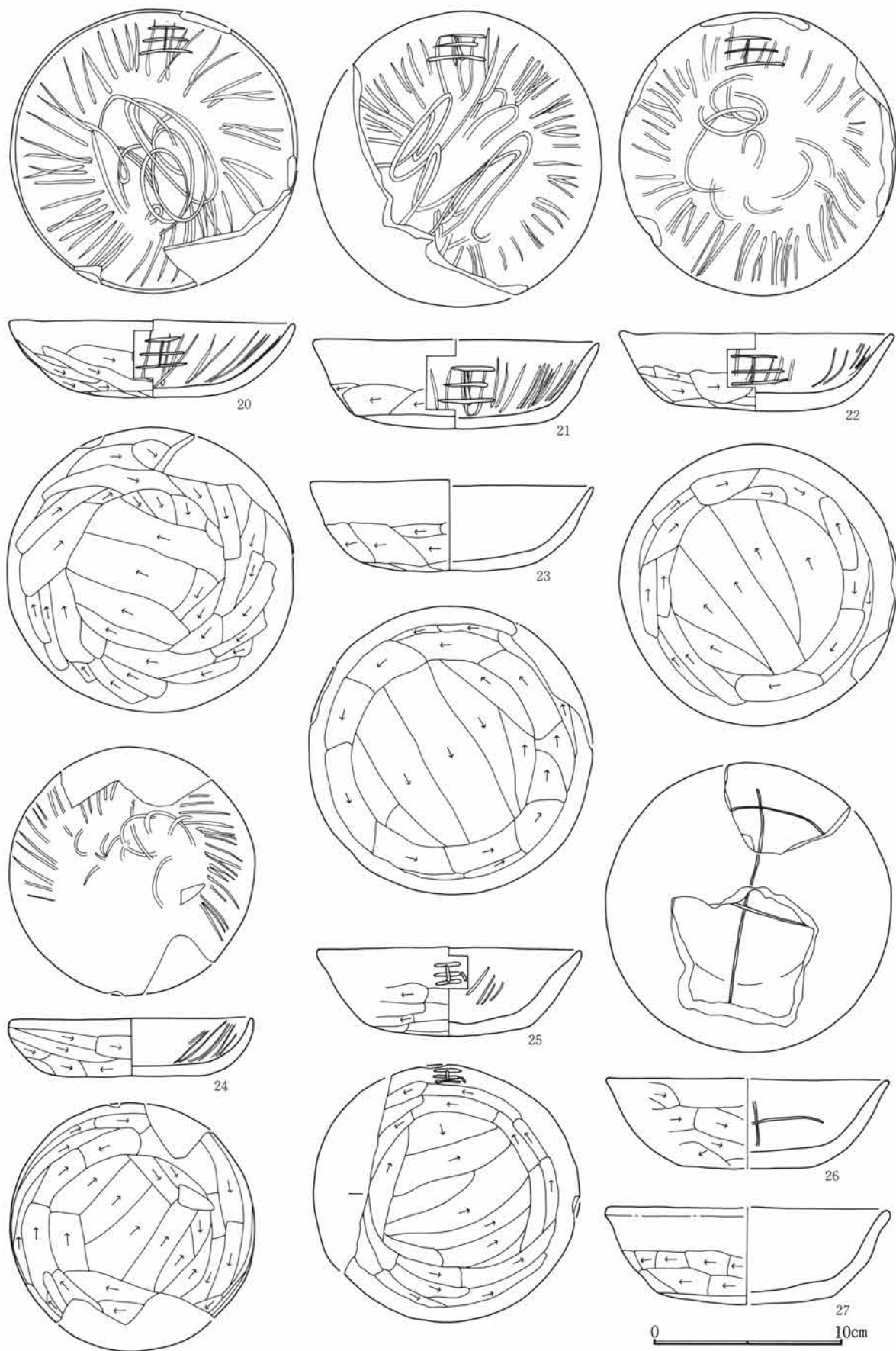
第166図 29号住居跡カマド



第167図 29号住居跡出土遺物(1)

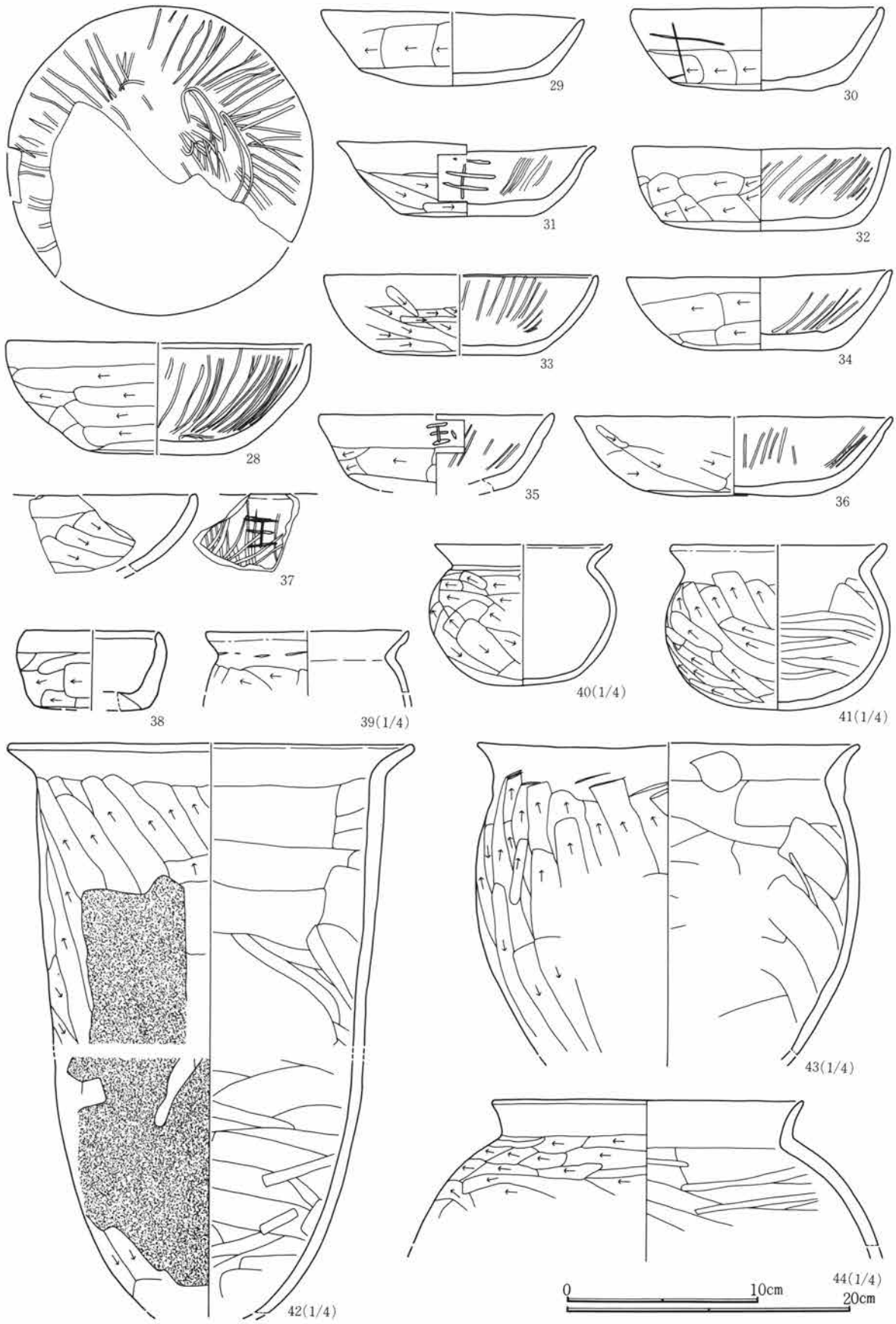


第168図 29号住居跡出土遺物(2)

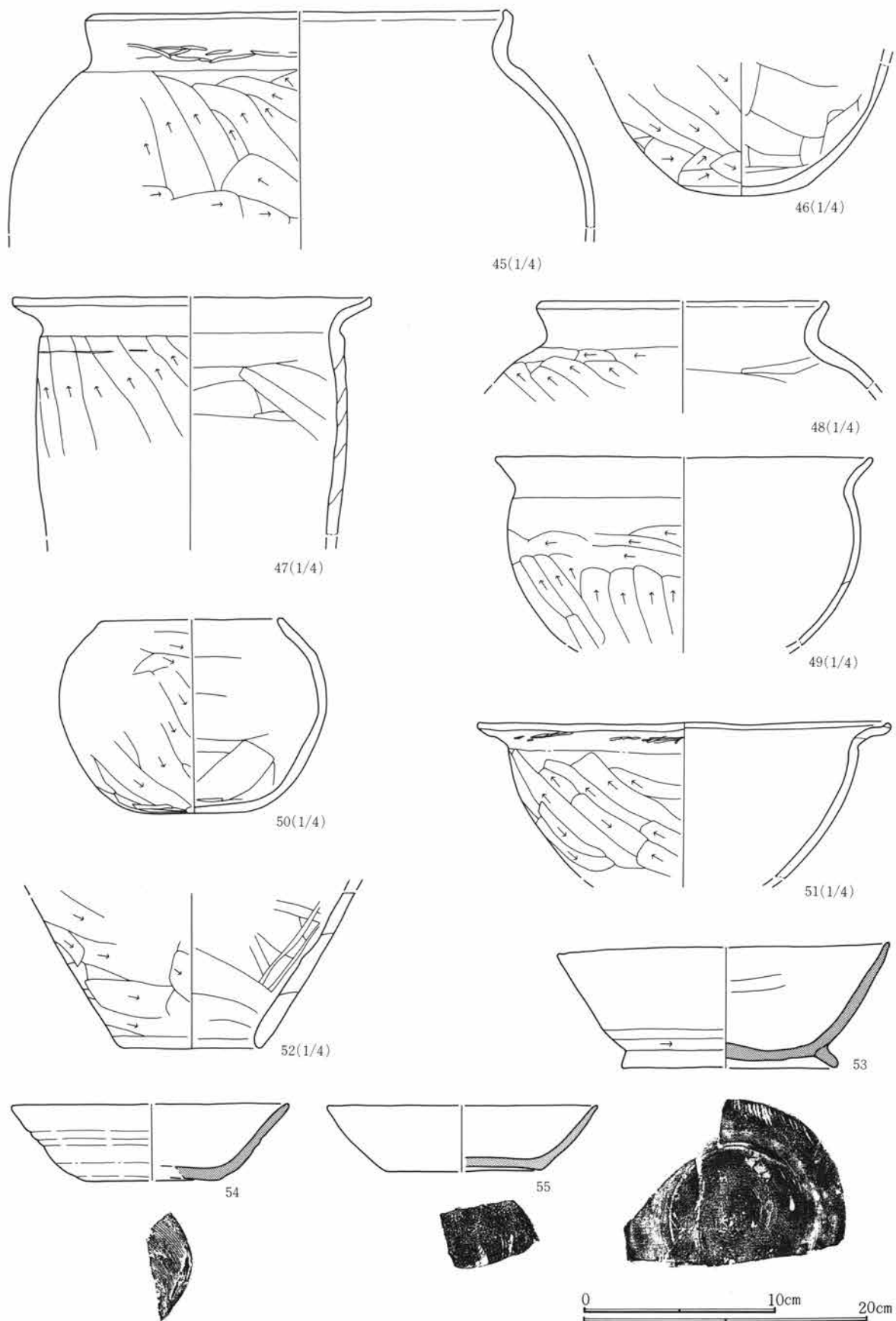


第169図 29号住居跡出土遺物(3)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

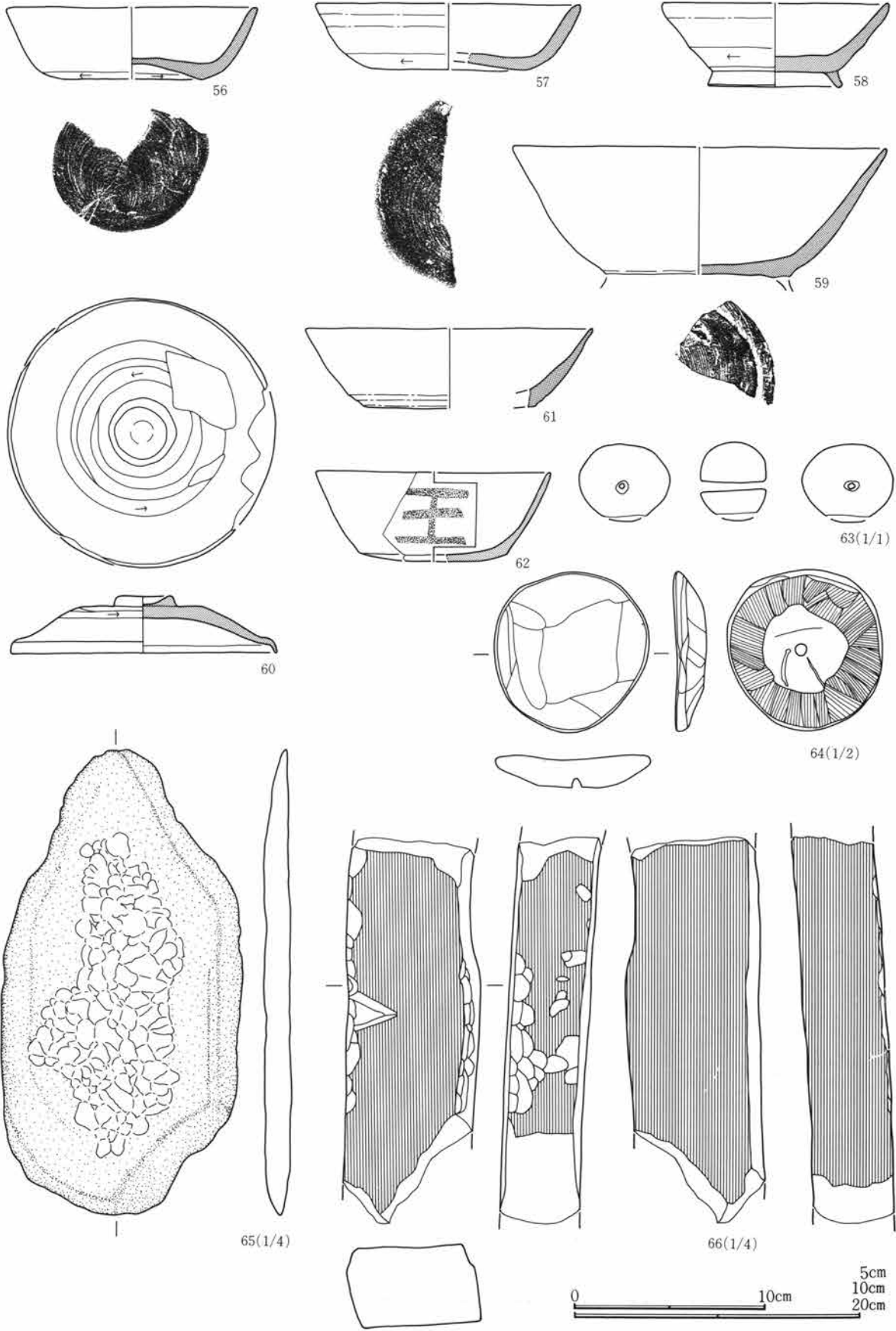


第170図 29号住居跡出土遺物(4)



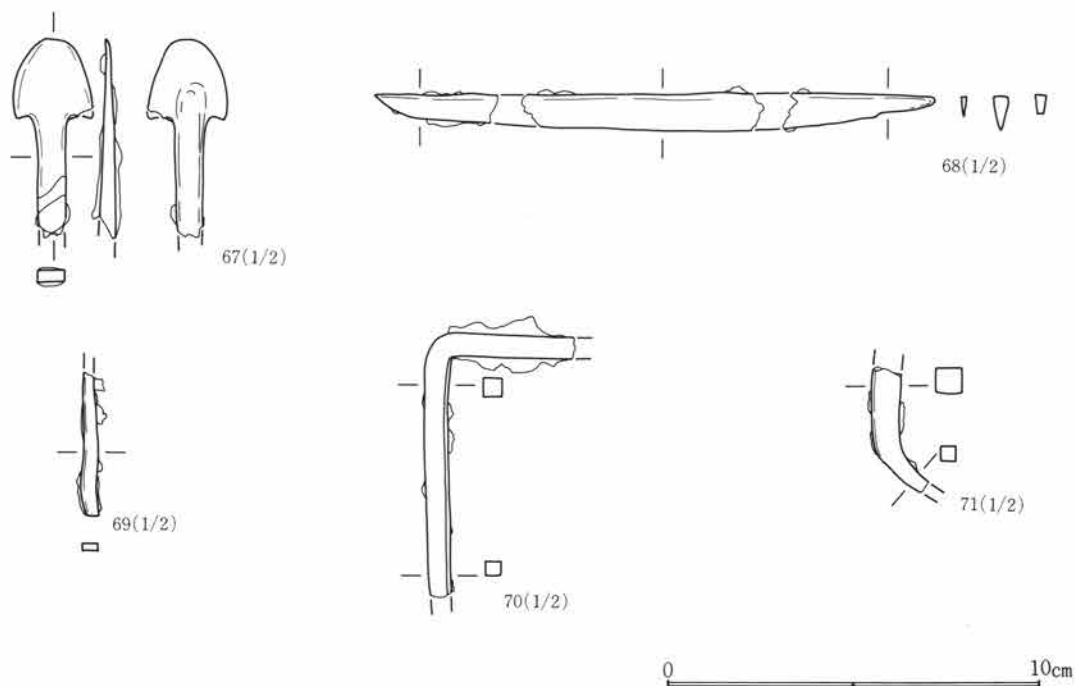
第171図 29号住居跡出土遺物(5)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第172図 29号住居跡出土遺物(6)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第173図 29号住居跡出土遺物(7)

29号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 坏	南西 +17	①14.6cm ②7.5cm ③4.2cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面に焼成後刻書「王」	I E	
2	土師器 坏	南西 -2	①14.0cm ②7.1cm ③4.0cm ④一部欠損	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面焼成後刻書「王」	I E	
3	土師器 坏	南西 -6	①13.4cm ②6.5cm ③3.9cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・バミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
4	土師器 坏	南西 -14	①13.8cm ②9.8cm ③4.0cm ④口～底3/4	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ 底部内面に焼成後線刻	I E	
5	土師器 坏	南西 +2	①12.4cm ②9.4cm ③4.7cm ④口～底2/3	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・バミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面焼成後刻書「玉」	I E	
6	土師器 坏	北西 +8	①14.8cm ②9.6cm ③4.4cm ④口～底2/3	①②橙 明褐 ③良好 ④普通 細砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面焼成後刻書「王」	I E	
7	土師器 坏	南西 -4	①12.3cm ②7.9cm ③3.9cm ④完形	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文 口縁部 外面に焼成後刻書「玉」	I E	
8	土師器 坏	北東 -14	①(13.8cm)②(6.0cm) ③4.4cm ④口～底1/3	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデか	I F	底部外面 黒変
9	土師器 坏	南西 -4	①14.0cm ②8.9cm ③3.8cm ④一部欠損	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ 内面に焼成後刻書「王」	I F	
10	土師器 坏	南西 +6	①15.6cm ②9.4cm ③4.8cm ④完形	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 後暗文状磨き 内面螺旋状・放 射状暗文	I F	
11	土師器 坏	北西 -2	①(13.8cm)②8.0cm ③3.8cm ④口～底3/4	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ 底部内面に焼成後線 刻「×」外面に墨書「甲」	I F	

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
12	土師器 坏	南西 +6	①14.8cm ②10.4cm ③4.5cm ④ほぼ完形	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面焼成後刻書「王」	I E	
13	土師器 坏	南西 ±0	①13.6cm ②8.8cm ③4.1cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I E	
14	土師器 坏	北東 -24	①16.0cm ②— ③5.0cm ④口～底部	①②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
15	土師器 坏	北西 +8	①14.6cm ②6.8cm ③5.0cm ④口～底3/4	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 内面焼成後刻書「王」	I F	
16	土師器 坏	南東 +4	①13.6cm ②3.0cm ③4.4cm ④口～底3/4	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面に焼成後刻書「王」	I E	
17	土師器 坏	北東 +5	①14.0cm ②9.6cm ③4.3cm ④口～底3/4	①橙 ②黒褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
18	土師器 坏	南東 +3	①14.0cm ②9.2cm ③4.4cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
19	土師器 坏	北西 -24	①16.0cm ②(9.0cm) ③4.5cm ④口～底2/5	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 内面焼成後刻書「王」	I F	
20	土師器 坏	南西 +38	①14.7cm ②8.7cm ③4.0cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面焼成後刻書「王」	I E	
21	土師器 坏	南西 +8	①14.6cm ②10.4cm ③3.9cm ④口～底2/3	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面焼成後刻書「王」	I E	
22	土師器 坏	南西 +5	①14.4cm ②9.2cm ③4.0cm ④ほぼ完形	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面に焼成後刻書「王」	I E	
23	土師器 坏	南西 -10	①14.7cm ②7.2cm ③4.7cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
24	土師器 坏	南西 +5	①12.8cm ②8.2cm ③3.0cm ④口～底3/4	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
25	土師器 坏	南西 +18	①13.6cm ②8.5cm ③4.5cm ④一部欠損	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文 口縁部 外面に焼成後刻書「玉」	I E	
26	土師器 坏	北西 -4	①(14.6cm)②(6.8cm) ③(4.6cm) ④口～底1/5	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 内面に焼成後の線刻	I F	
27	土師器 坏	南西 -4	①14.6cm ②9.0cm ③4.1cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
28	土師器 坏	南東 -2	①(16.0cm)②(7.2cm) ③5.7cm ④口～底1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
29	土師器 坏	北東 -4	①(13.6cm)②9.4cm ③3.7cm ④口～底1/3	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
30	土師器 坏	北東 +12	①13.6cm ②8.8cm ③4.0cm ④一部欠損	①②橙 ③不良 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 外面に焼成後線刻	I E	
31	土師器 坏	南西 +4	①13.5cm ②7.0cm ③3.9cm ④口～底4/5	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文 内面に 焼成後刻書「王」	I F	
32	土師器 坏	南西 +8	①13.3cm ②10.3cm ③4.3cm ④口～底3/4	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I E	
33	土師器 坏	北西 +18	①(14.2cm)②7.0cm ③4.0cm ④口～底1/3	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I F	内面一部 黒変
34	土師器 坏	南西 -10	①13.9cm ②7.8cm ③3.8cm ④口～底2/3	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I F	
35	土師器 坏	北東 -4	①(12.2cm)②(8.8cm) ③— ④口縁部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 口縁部外面に焼成後刻書「玉」	I E	
36	土師器 坏	北西 +12	①(16.5cm)②9.0cm ③4.1cm ④口～底1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④細 粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I E	
37	土師器 坏	南西 -24	①— ②— ③— ④口縁部片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 粗砂を少量含む	口縁部ナデ 体部外面篋削り内面 ナデ後格子状暗文 内面に焼成後 刻書「王」	I	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
38	土師器 坏	北東 +20	①(6.0cm) ②(5.0cm) ③4.2cm ④口～底1/2	①②明褐 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	I F	
39	土師器 小型甕	南東 +12	①(14.0cm)②— ③— ④口縁1/2	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VIII	
40	土師器 小型甕	北西 +6	①(12.4cm)②— ③9.7cm ④口～底1/2	①②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面篋ナデか	VIII	
41	土師器 小型甕	南西 ±0	①15.2cm ②— ③11.4cm ④口～底2/3	①灰褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面篋ナデ	VIII	
42	土師器 甕	カマド	①(28.4cm)②— ③— ④口～胴1/3	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ 胴部外面に粘土附着	VII A	
43	土師器 甕	南西 +18	①(26.7cm)②— ③— ④口～胴1/3	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
44	土師器 甕	南西 +12	①(21.8cm)②— ③— ④口～胴1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
45	土師器 甕	北東 -2	①(29.0cm)②— ③— ④口～胴1/4	①明赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
46	土師器 甕	北西 -5	①— ②9.1cm ③— ④胴～底部	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 粗砂・礫・パミスを含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
47	土師器 甕	南西 -26	①(25.0cm)②— ③— ④口～胴2/3	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII A	
48	土師器 甕	南東 -14	①(20.0cm)②— ③— ④口縁1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
49	土師器 甕	カマド	①(26.2cm)②— ③— ④口～胴1/4	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	X B	
50	土師器 鉢	南東 -22	①(12.8cm)②7.0cm ③13.4cm ④口～底1/3	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面篋ナデ	X C	
51	土師器 鉢	カマド	①(28.2cm)②— ③— ④口～胴1/3	①②にぶい褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデか	X B	
52	土師器 甕	カマド	①— ②(10.0cm) ③— ④胴～底1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	胴部外面篋削り内面篋ナデ	XI A	
53	須恵器 塊	北西 +40	①(17.3cm)②11.2cm ③6.3cm ④口～底1/2	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 粗砂を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り 高台貼付け 内面に焼成後線刻	II	
54	須恵器 坏	北東 -11	①(17.4cm)②(10.2cm) ③[3.9cm] ④口～底部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転系切り 無調整	I D	
55	須恵器 坏	覆土	①(15.6cm)②(10.0cm) ③[3.4cm] ④口～底部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転系切り 後外周篋削り	I C	
56	須恵器 坏	南西 +52	①(12.8cm)②(7.2cm) ③[3.7cm] ④口～底1/3	①②灰白 ③還元焰 良好 ④粗 細砂を含む	ロクロ調整(右) 底部回転系切り 後外周回転篋削り	I C	
57	須恵器 坏	南東 -24	①(13.6cm)②(8.0cm) ③[3.4cm] ④口～底1/3	①②灰白 ③還元焰 不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 底部回転系切り 後外周篋削り	I C	
58	須恵器 坏	北西 +34	①11.3cm ②7.0cm ③4.4cm ④口～底3/4	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り 後高台貼付け	I E	
59	須恵器 塊	北東 -9	①(19.4cm)②(7.6cm) ③[6.5cm] ④口～底1/4	①②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整(左?) 底部回転系切 り無調整 貼付け部から高台剥離	II	
60	須恵器 蓋	南西 -12	①13.8cm 鈕径2.8cm ③3.0cm ④一部欠損	①②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り 高台状鈕貼付け	III D	
61	須恵器 坏	南西 +17	①(15.0cm)②(9.0cm) ③[5.1cm] ④口～体1/4	①灰 ②にぶい黄橙 ③酸化焰 良好 ④細 細砂・パミスを含む	ロクロ調整	I	
62	須恵器 坏	北西 +23	①(13.0cm)②(8.2cm) ③4.3cm ④口～底1/5	①②灰 断面にぶい褐 ③酸化焰 良好 ④細 細砂を含む	ロクロ調整(右) 底部外面磨きか 体部外面に墨書「王」	I	
63	土製品 玉	南東 +4	短径1.2cm 長径1.5cm 孔径2mm ④一部欠損	①にぶい褐 ③良好 ④細 細砂・黒色粒子を少量含む	外面磨きか		

29号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
64	紡錘車	南東+58	5.5	5.5	1.1	50	完形	滑石	未製品 穿孔途中 全面やや粗い研磨
65	台石	南東+58	32.3	16.8	1.8	1900	完形	点紋緑泥片岩	片面に敲打痕あり
66	砥石	北東+20	[20.1]	7.2	5.3	900	一部欠損	砂岩	4面使用

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
72	こも編石	北西+4	12.4	5.9	4.3	280	完形	安山岩	
73	こも編石	北西-14	12.0	4.3	3.4	250	完形	安山岩	
74	こも編石	北西-4	13.1	6.4	3.9	320	完形	安山岩	
75	こも編石	北西+20	15.5	6.9	3.1	370	完形	絹雲母石墨片岩	
76	こも編石	北西+3	13.4	5.4	3.8	345	完形	安山岩	
77	こも編石	北西+3	12.1	5.6	2.5	245	完形	熱変成岩	
78	こも編石	北西+8	14.1	5.7	3.1	270	完形	安山岩	
79	こも編石	北東-8	10.8	4.8	3.3	145	完形	点紋絹雲母石墨片岩	
80	こも編石	南西+10	16.5	4.7	6.0	550	完形	安山岩	
81	こも編石	北西+8	13.2	6.8	6.2	900	完形	安山岩	
82	こも編石	北西+10	14.1	6.2	4.3	400	完形	安山岩	
83	こも編石	北東-20	13.3	4.3	2.6	195	完形	絹雲母石墨片岩	
84	こも編石	北西+11	11.6	5.0	2.5	250	完形	安山岩	
85	こも編石	北東+12	12.1	4.0	2.6	185	完形	絹雲母石墨片岩	
86	こも編石	北東+4	11.0	5.1	3.4	335	完形	輝緑岩	
87	こも編石	北東+10	10.1	5.8	5.4	385	完形	安山岩	
88	こも編石	北東+8	11.0	3.8	3.1	190	完形	絹雲母石墨片岩	
89	こも編石	南西+28	14.4	3.7	2.0	160	完形	絹雲母石墨片岩	

29号住居跡出土鉄器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
67	鉄鏃	北西-2	[5.1]	2.1	0.4	6.5	茎部一部欠損	
68	刀子	北西+32	(22.5)	1.1	0.4	13.2	刃部一部欠損	関は刃部にあるが小さい
69	不明	北西+36	[3.8]	0.5	0.2	1.6	一部欠損	細長い板状の鉄製品
70	角釘(?)	北西+21	[7.0]	0.6	0.5	20.8	両端部欠損	約1/3で直角に曲がる
71	角釘	北西+19	[3.3]	1.5	0.7	4.3	両端部欠損	中央でやや曲がる

出土土器数量表

種別	土師器						須恵器				計	
	器種	坏	甕	小型甕	鉢	甗	不明	坏	高坏	蓋		甕
点数		377	1,164	35	2	4	1	23	2	7	1	1,616
重量(g)		10,400	27,200	730	640	440	15	585	295	210	10	40,525

30号住居跡

位置 C 9～11-VII36・37Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形もしくは隅丸長方形

規模 3.5m×[1.1m] 壁高 38cm やや傾斜している 面積 [3.6㎡] 床面積 [2.9㎡]

主軸方位 N-25°-W 壁溝 なし 柱穴 不明 貯蔵穴 不明

床面 褐色土で厚さ5～20cmの貼床としており、ほぼ平坦な床面である。

掘り方 住居跡南東隅に長径100cm以上、深さ35cmの土坑状の掘込み(床下土坑の可能性有り)が検出され、北東隅にも長径60cmの浅い掘込みが検出されている。

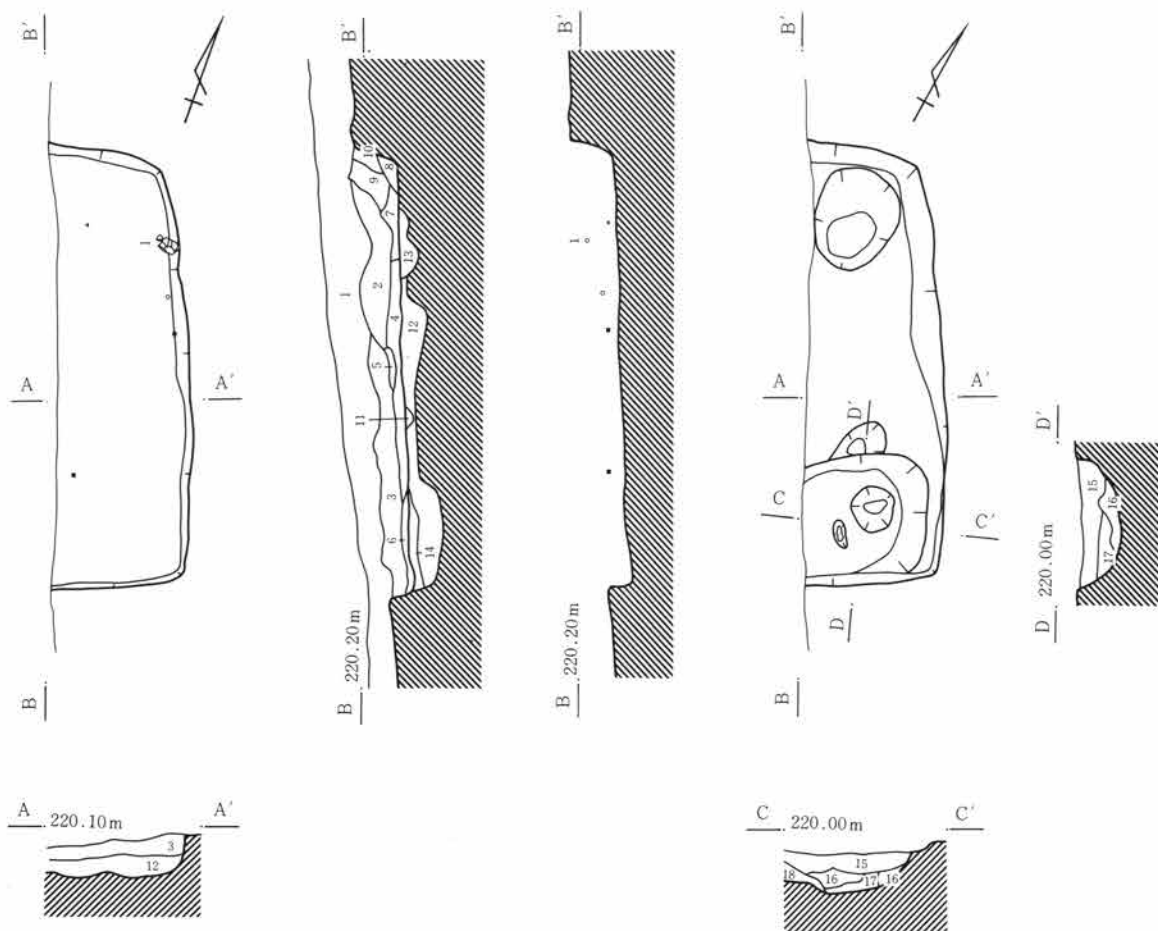
遺物出土状況 1の坏が北東部の覆土上層から出土している以外は、小破片が数点出土しているだけである。

カマド 未検出であるが、調査区外にあるとすると、他の住居の状況等から北壁に存在する可能性が高い。

出土遺物 出土量は少なく、土器は、土師器坏3点、甕1点が出土しているだけである。他に弥生土器が2点出土している。

所見 出土遺物が非常に少なく、1も覆土上層出土であるため時期を確定できないが、7世紀後半～8世紀前半の住居と考えられる。

第三章 検出された遺構と出土遺物

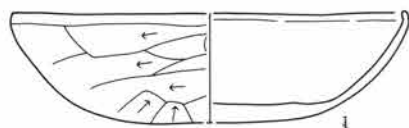


30号住居跡土層注記

- 1 表土 浅間A軽石を多量含む 2 黒褐色土 ロームを主とし、褐色土ブロックを含む
- 3 暗褐色土 ロームを主とし、褐色土ブロックを含む 4 褐色土 B.P.を少量、褐色土、ローム粒子を含む
- 5 黒褐色土 ロームを主とし、褐色土ブロックを含む 6 暗褐色土 B.P.、炭化物を少量含む
- 7 暗褐色土 炭化物を少量、B.P.を多量含む 8 暗褐色土 炭化物を少量、B.P.を多量、ローム粒子を含む
- 9 暗褐色土 ロームブロック、B.P.を多量含む 10 暗褐色土 ロームブロックを多量、B.P.を少量含む
- 11 褐色土 砂粒を含む 12 褐色土 B.P.を多量含む 13 褐色土 B.P.を多量含む 色調やや暗い
- 14 褐色土 B.P.を多量含む 色調やや明るい 15 暗褐色土 白色バミス、ローム粒子を含む 16 黒褐色土 ローム粒子を含む
- 17 褐色土 ロームブロックを含む 18 暗褐色土 ローム粒子を含む (11~14層貼床)

0 2m

第174図 30号住居跡



0 10cm

第175図 30号住居跡出土遺物

30号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 坏	北東 +26	①(15.6cm)②— ③4.3cm ④口~底1/3	①にぶい黄褐 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・バミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I D	

31号住居跡

位置 C37・38-VII60・61Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 3.04m×[2.32m] 壁高 46cm 垂直に近い 面積 [5.8m²] 床面積 [5.0m²]

主軸方位 N-3°-E 壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 不明

床面 ロームを含む暗褐色土で厚さ5～25cmの貼床としているが、凹凸の多い床面である。

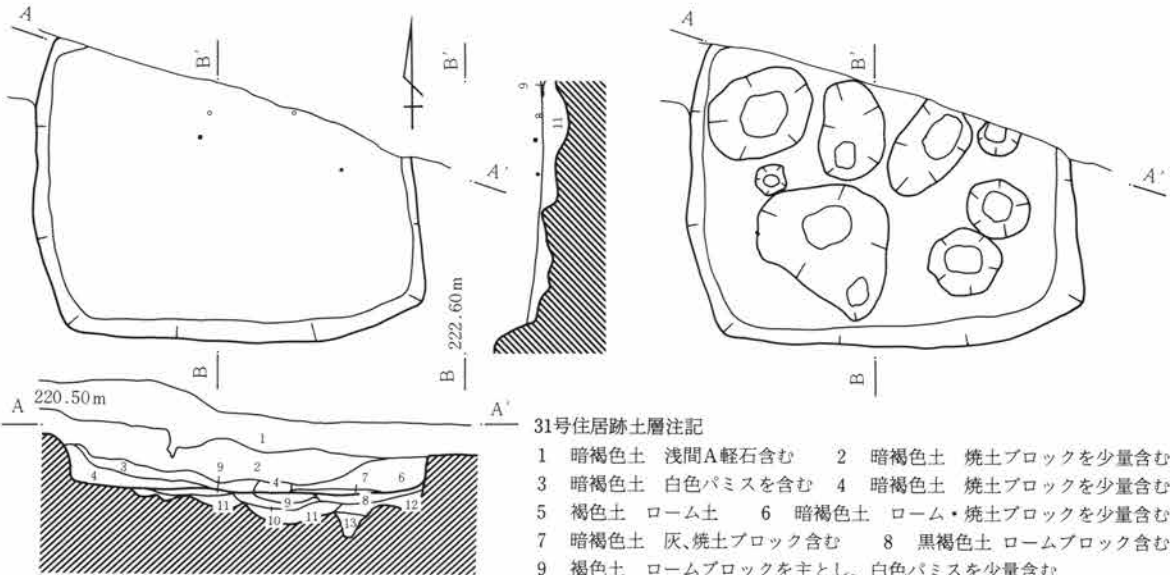
掘り方 長径25～100cmのピットが8基検出されている。

遺物出土状況 中央北寄りに床面付近から、土器の小破片が数点出土しているだけである。

カマド 未検出であり、調査区外に存在するならば北壁の可能性が高い。

出土遺物 出土量は少なく、土器は、土師器坏11点、甕4点が出土しており、他に弥生土器、縄文土器が各1点出土している。

所見 出土遺物が非常に少なく時期を確定できないが、1の坏から古墳時代後期以降の住居であろう。

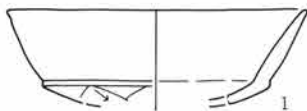


31号住居跡土層注記

- 1 暗褐色土 浅間A軽石含む
 - 2 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む
 - 3 暗褐色土 白色パミスを含む
 - 4 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む
 - 5 褐色土 ローム土
 - 6 暗褐色土 ローム・焼土ブロックを少量含む
 - 7 暗褐色土 灰、焼土ブロック含む
 - 8 黒褐色土 ロームブロック含む
 - 9 褐色土 ロームブロックを主とし、白色パミスを少量含む
 - 10 黒褐色土 ロームを含む
 - 11 暗褐色土 ローム・黒褐色土ブロック含む
 - 12 暗褐色土 ロームブロックを少量、黒褐色土ブロックを含む
 - 13 暗褐色土 ロームブロックを微量、黒褐色土ブロックを含む
- (9～13層貼床)

第176図 31号住居跡

0 2m



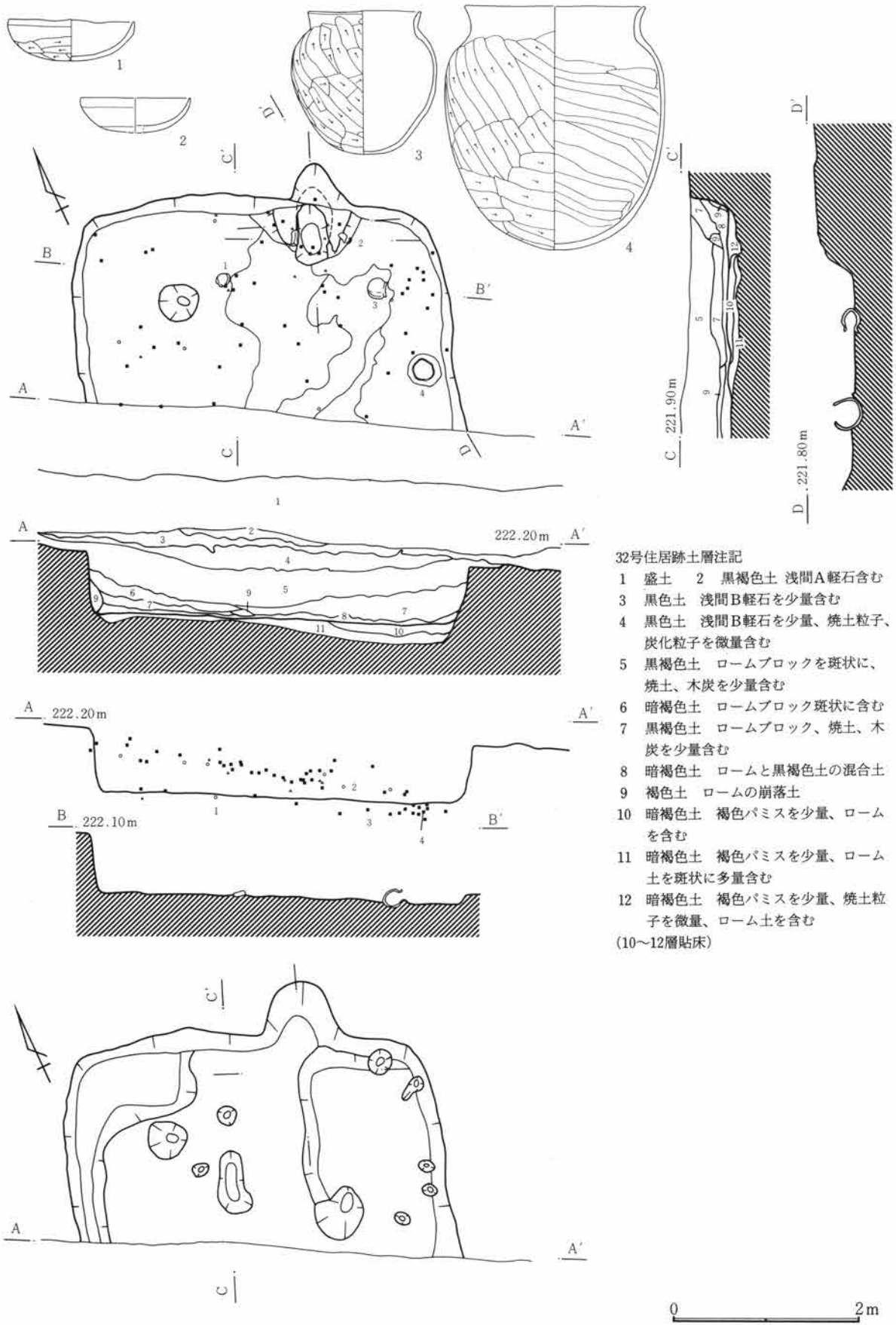
第177図 31号住居跡出土遺物

0 10cm

31号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
1	土師器 坏	覆土	①(11.8cm)②— ③— ④口～底部片	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・雲母を少量含む	口縁部横ナデ	体部外面篋削り内 面ナデ	I C	内面黒変

第三章 検出された遺構と出土遺物



第178図 32号住居跡

32号住居跡

位置 C40～42-VII58～60Gr 重複 なし

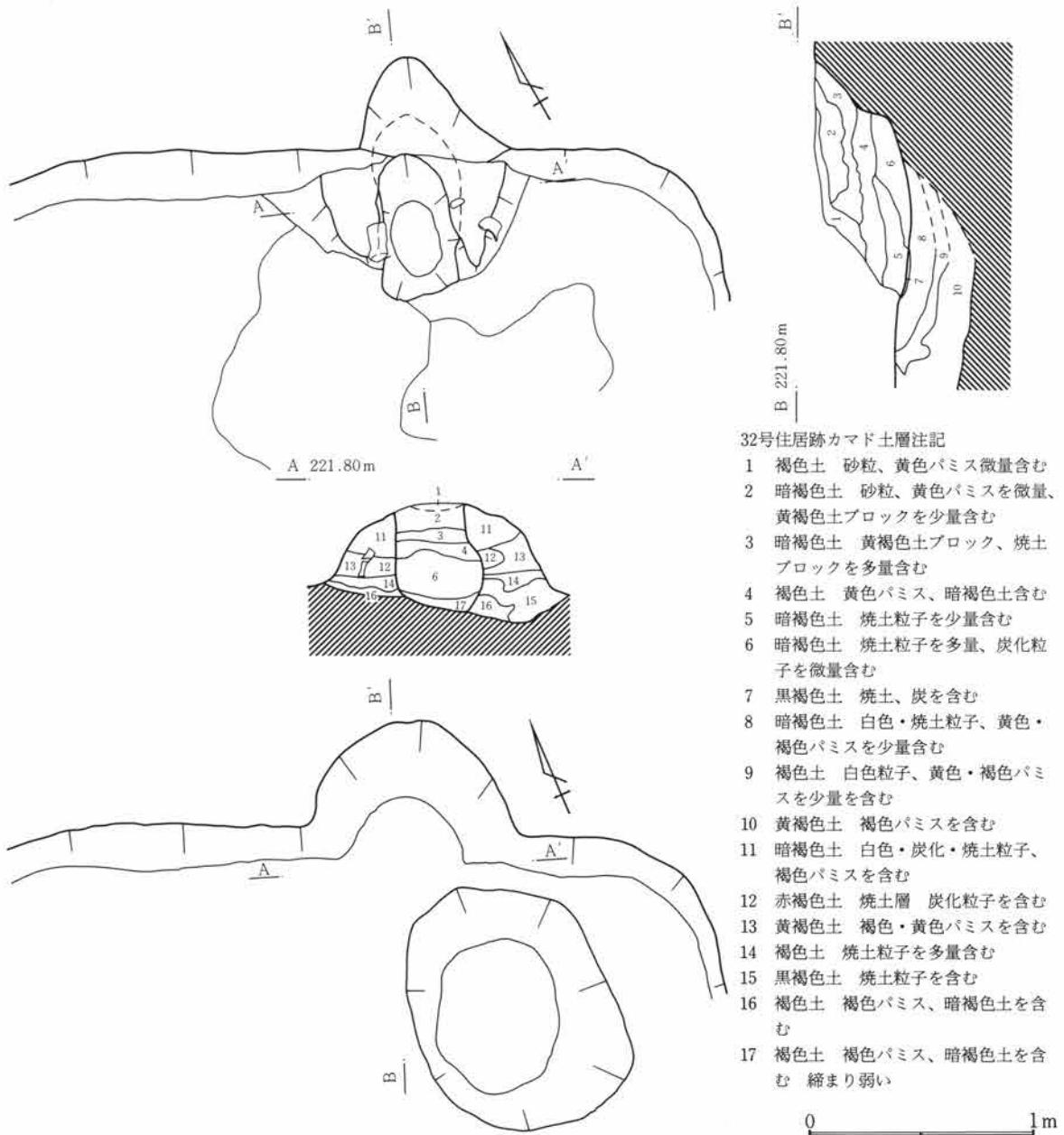
平面形態 南側が調査区外のため不明であるが、隅丸方形もしくは隅丸長方形になると考えられる。東西の壁がやや斜めになっており、やや潰れた形になっている。

規模 4.0m×[2.2m] 壁高 66cm 垂直に近い 面積 8.8㎡ 床面積 7.6㎡

主軸方位 N-27°-E 壁溝 なし 貯蔵穴 なし

柱穴 北西部にP1が検出されているが、北東部にはピットが検出されなかったため、柱穴である可能性は低い。P1 長径42cm短径38cm深さ20cm

床面 ロームを含む暗褐色土で5～20cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。カマド前から南壁に向かって広い帯状に硬化面（図中の実線の内側）が検出されている。



第179図 32号住居跡カマド

第三章 検出された遺構と出土遺物

掘り方 西壁際から溝状の掘り込みが、東壁際から土坑状もしくは溝状の掘り込みが検出されており、他に小規模なピットが数基検出されている。

遺物出土状況 出土量は少ないが、全面から出土している。垂直分布を見ると、西側が覆土上層が多く東に向かって次第に低い位置のものが多くなる傾向にある。4の甕は床面上に立った状態で出土している。

カマド

位置 北壁やや東寄り **主軸方位** N-23°-E **規模** 全長1.08m 幅1.14m

構築 暗褐色土で袖を構築しているが、右側の袖石だけが出土しており、左袖石や天井石は出土していない。火床面は床面より低く、あまり焼けていない。

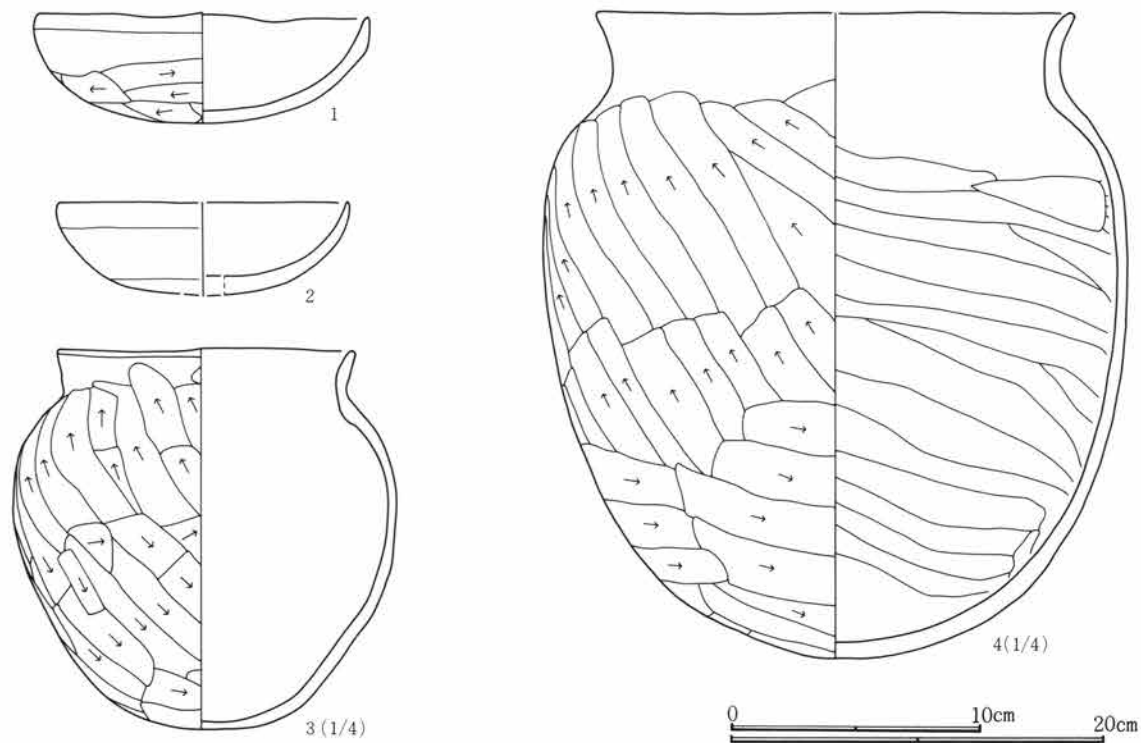
遺物出土状況 土器の小破片が数点出土しただけである。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕、須恵器甕が出土し、他に弥生土器5点、縄文土器1点が出土している。

所見 出土遺物から7世紀後半～8世紀前半の住居と考えられる。

出土土器数量表

種別 器種	土師器		計
	坏	甕	
点数	17	44	61
重量(g)	275	4,200	4,475



第180図 32号住居跡出土遺物

32号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 坏	北西 -2	①13.2cm ②- ③4.3cm ④完形	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C		
2	土師器 坏	北東 +15	①(11.6cm)②- ③43.7cm ④口～底1/3	①②橙 ③不良 ④細 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I C		

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
3	土師器 甕	北東 -10	①15.9cm ②- ③20.1cm ④ほぼ完形	①②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ	胴～底部外面篋削 り内面篋ナデ	VII C	口縁部に 煤付着
4	土師器 甕	南東 -9	①25.6cm ②- ③34.1cm ④ほぼ完形	①②にふい褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ	胴～底部外面篋削 り内面篋ナデ	VII C	

33号住居跡

位置 C 3～5-VII91・92Gr 重複 なし 平面形態 正方形もしくは長方形

規模 4.4m×[3.7m] 壁高 30cm 垂直に近い 面積 [12.2m²] 床面積 [11.0m²]

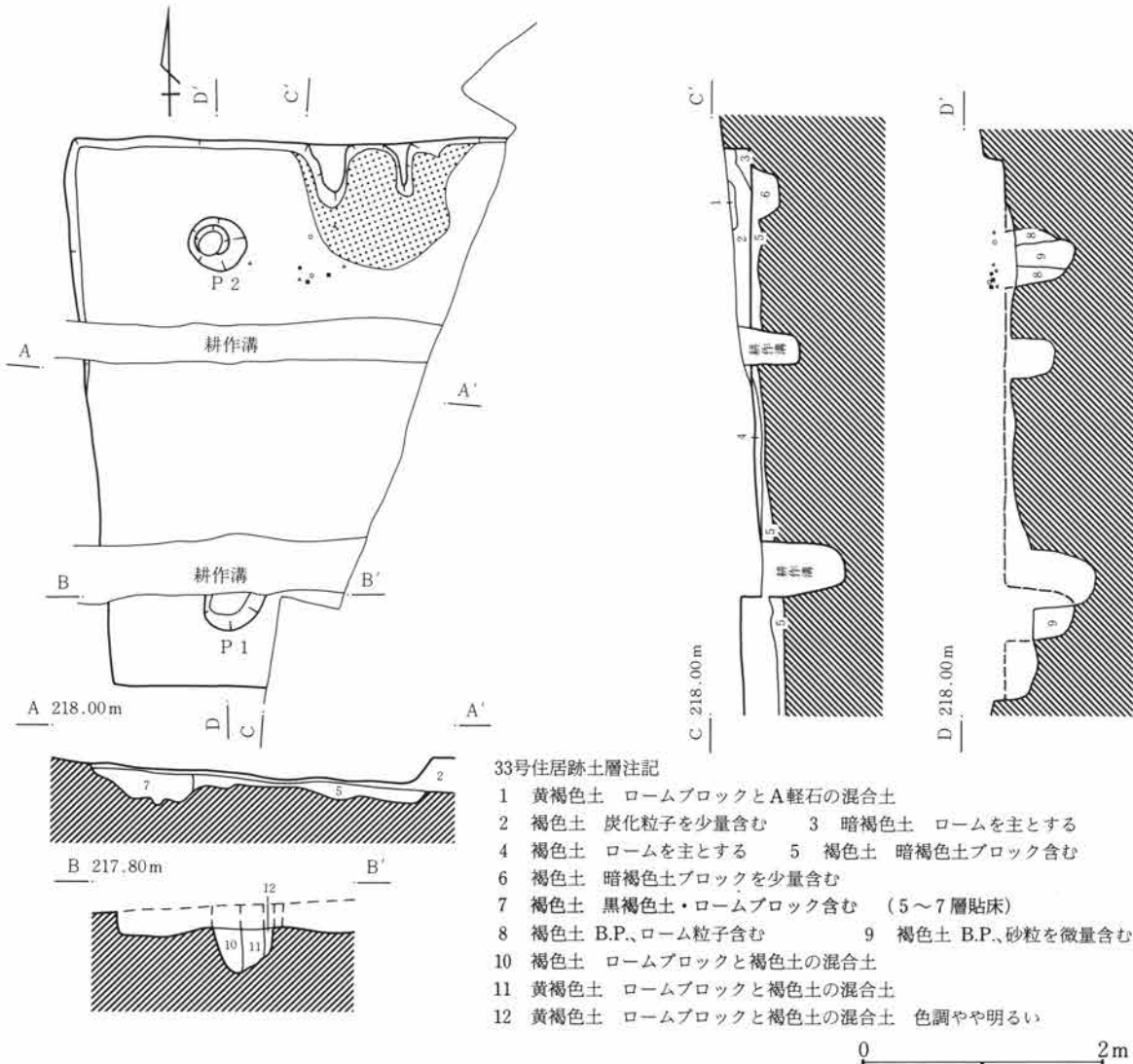
主軸方位 N-3°-W 壁溝 なし

柱穴 東側は調査区外のため不明であるが、北西部、南西部に2基検出された。

P 1 長径50cm短径30cm深さ56cm P 2 長径50cm短径40cm深さ58cm

貯蔵穴 東側が調査区外のため不明であるが、北東隅にある可能性がある。

床面 削平により南部は不明であるが、褐色土で厚さ5～25cmの貼床としており、平坦な床面である。



第181図 33号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

掘り方 西壁際および中央部に土坑状の掘り込みが検出されており、北壁際にも小規模な掘り込みがある。

遺物出土状況 出土量は少なく、小破片がカマド左袖手前の覆土下層に集中して出土している。

カマド

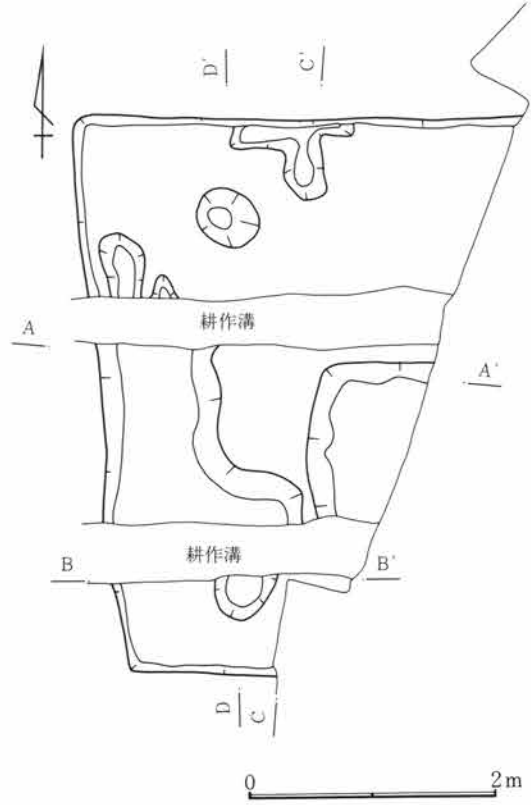
位置 北壁東寄り **主軸方位** N-4°-W **規模** 全長0.51m 幅0.94m

構築 暗褐色土で袖を構築しているが、上部は大半削平されている。火床面は床面とほぼ同レベルで、焼土および灰が広範に分布している。

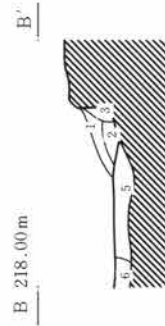
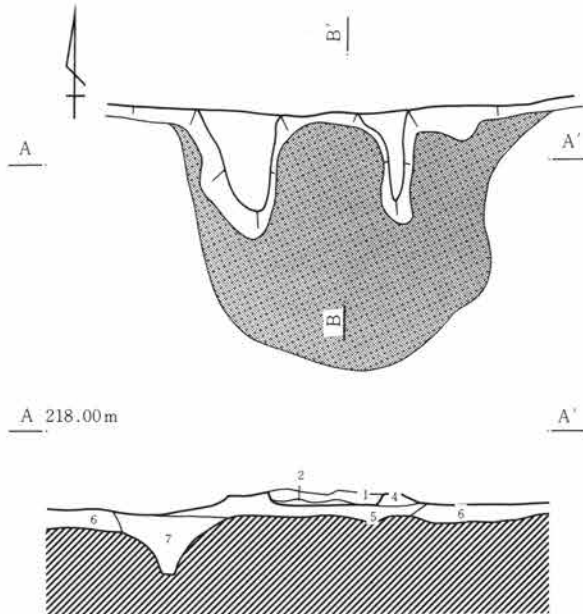
遺物出土状況 ほとんどなし

出土遺物 出土量は非常に少なく、土師器坏2点、甕2点が出土しているだけである。他に弥生土器が1点出土している。

所見 出土遺物が非常に少なく、時期は不明であるが、住居形態から古墳時代後期の住居と考えられる。



第182図 33号住居跡掘り方



33号住居跡カマド土層注記

- 1 灰黄褐色土 灰白色粘土・焼土ブロックを含む
- 2 褐色土 焼土ブロックを少量、灰を含む
- 3 褐色土 焼土ブロックを多量含む
- 4 暗褐色土 におい黄褐色粘土ブロックを多量含む
- 5 黄褐色土 B.P.少量含む
- 6 褐色土 暗褐色ブロックを少量含む
- 7 褐色土 粘土ブロックを少量、B.P.を微量含む



第183図 33号住居跡カマド

34号住居跡

位置 C 6～9-VI97～99Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 4.92m×4.02m 壁高 84cm やや傾斜している 面積 19.3m² 床面積 15.8m²

主軸方位 N-7°-W 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.41m 短径0.39m 深さ60cm

形状 平面形態は円形で、断面形態は台形であるが、底部が丸みを帯び立ち上がりは直線的である。

床面 ロームを含む褐色土で厚さ5～15cmの貼床とし、やや凹凸のある床面で南側が若干下がっている。カマドから南壁中央部にかけて非常に硬い面が存在し、その西側も硬化面となっている（図中の実線の内側）。

掘り方 長径1.0～2.4mの土坑状の掘り込みが7基検出されている他、小ピットが数基検出されている。

遺物出土状況 全面から出土しているが、東側特に東壁際中央に集中している。垂直分布を見ると、床面付近に集中しており、覆土上～中層は少ない。接合関係の判明するものは5点あり、覆土中層と床面付近が接合しているものが1点あるが、他はすべて床面付近のものが接合している。

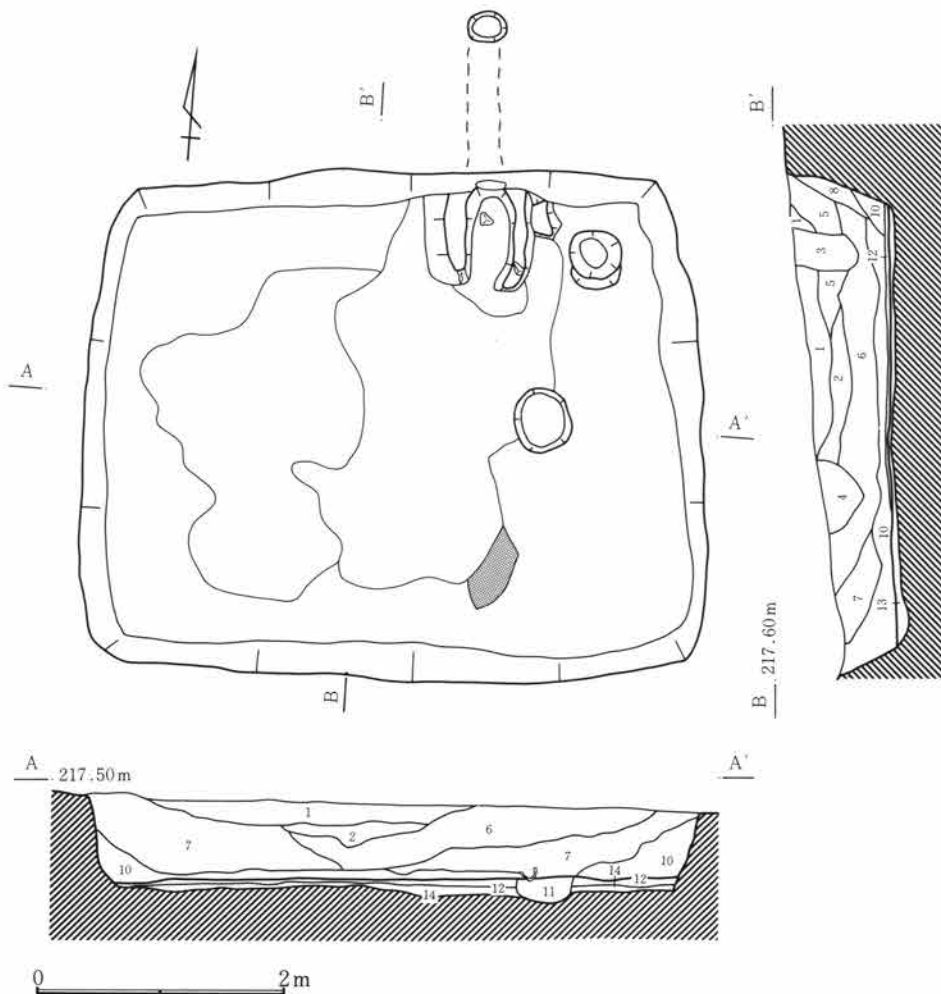
カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-5°-W 規模 全長2.20m 幅0.85m 煙道部長1.23m

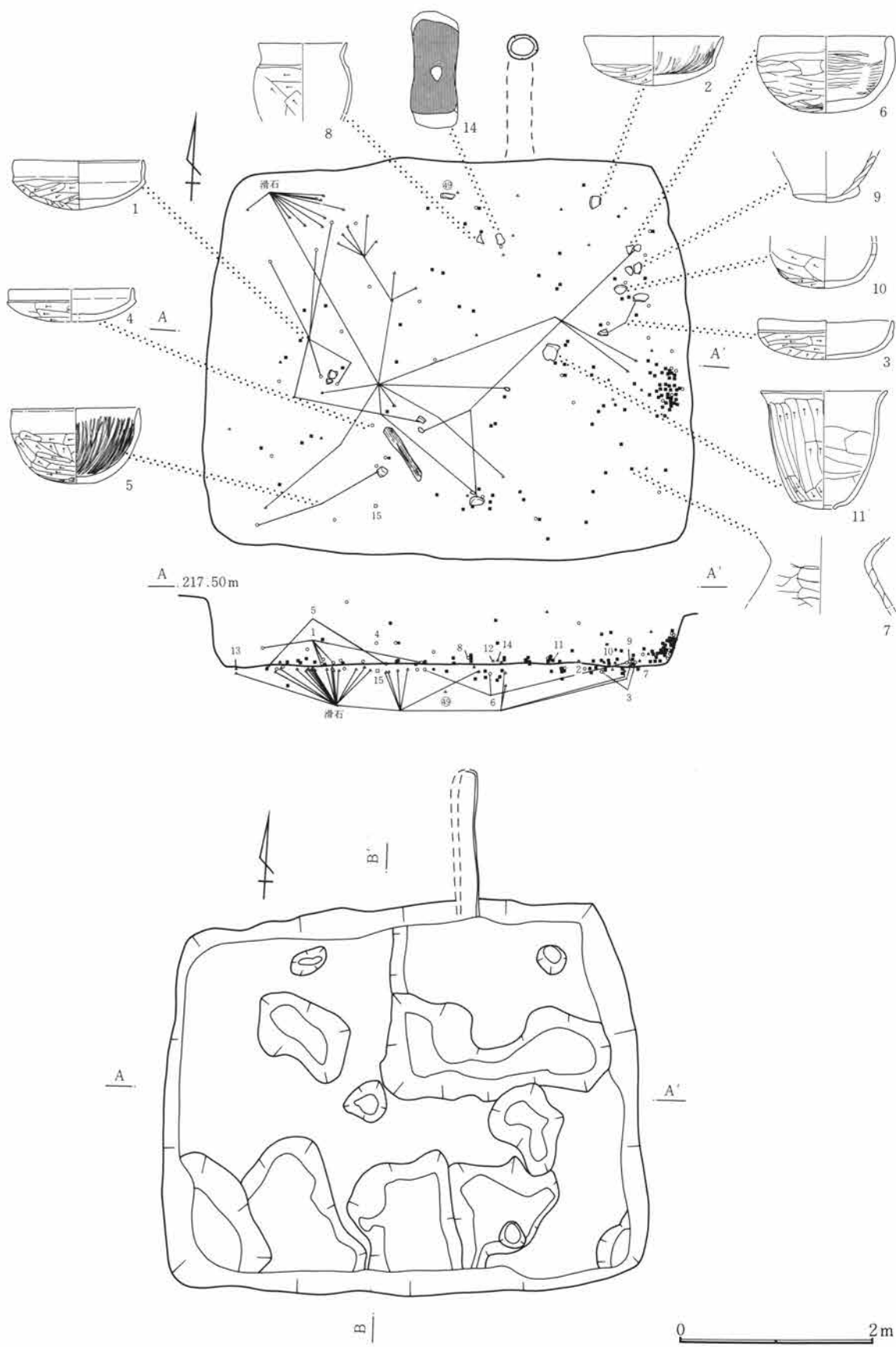
構築 黄褐色土で袖を構築しており、両袖から袖石が検出されている。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けている。またその手前に灰が分布している。

34号住居跡土層注記

- 1 褐色土 白色・褐色パミスを含む
- 2 褐色土 黄褐色土、白色・褐色パミス含む
- 3 におい黄褐色土 褐色・白色パミスを含む
- 4 黄褐色土 白色・褐色パミス、炭を含む
- 5 褐色土 白色・褐色パミス、褐色ブロックを含む
- 6 褐色土 白色・褐色パミスを多量、におい黄褐色土ブロック含む
- 7 黄褐色土 褐色・白色パミスを含む 褐色土ブロックを含む
- 8 褐色土 白色・褐色パミスを含む におい黄褐色土ブロック含む
- 9 暗褐色土 褐色パミスを含む
- 10 黄褐色土 褐色・白色パミスを含む
- 11 暗褐色土 ロームブロックを多量含む
- 12 褐色土 ロームブロックを多量含む
- 13 褐色土 白色粒子、黄色パミスを少量含む
- 14 黄褐色土ブロック含む (12～14層貼床)



第184図 34号住居跡



第185図 34号住居跡遺物出土状況および掘り方

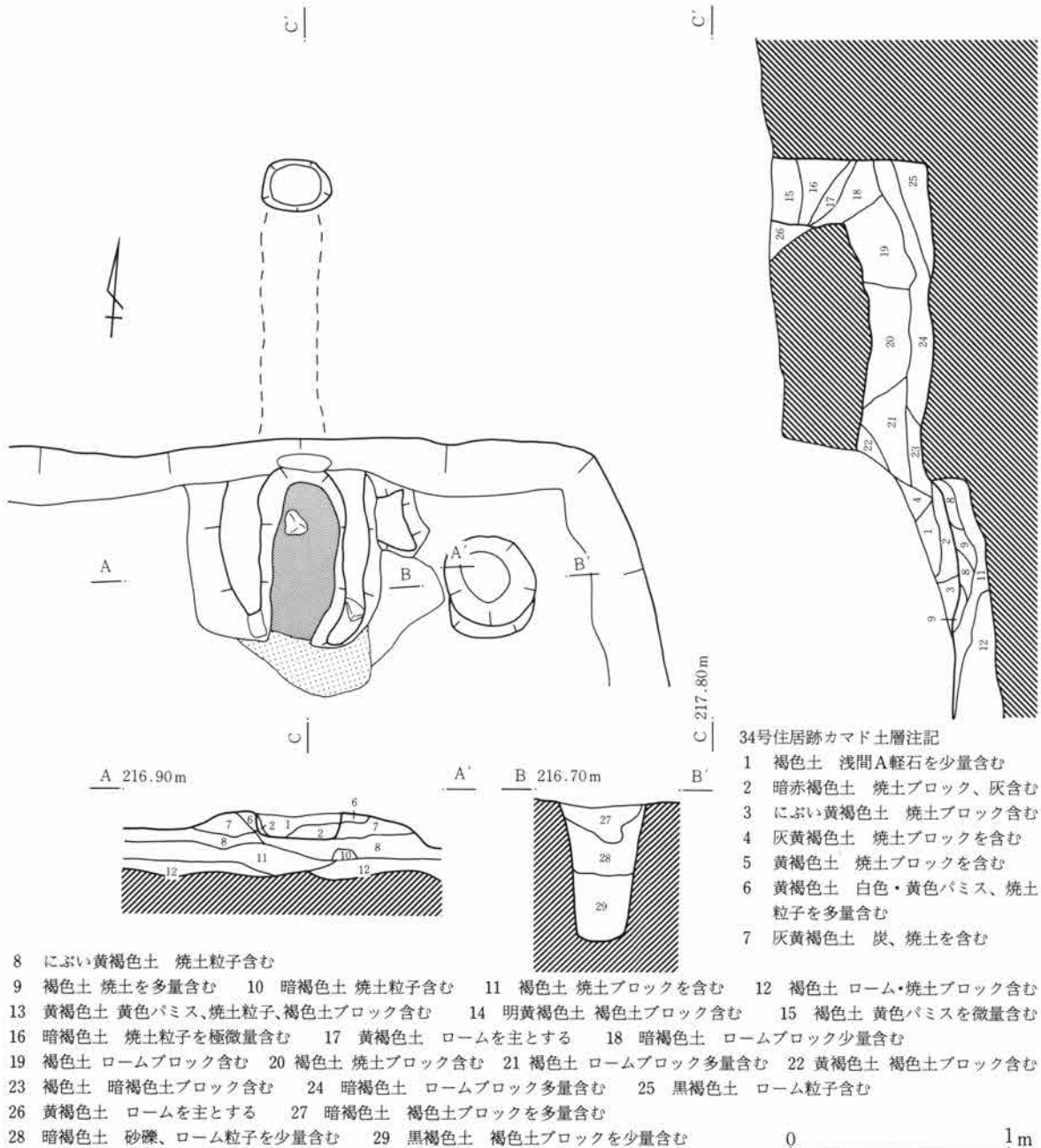
遺物出土状況 遺物はほとんど出土していない。

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器坏・高坏・埴・甕・甑が出土し、石製品は、玉未製品2点、滑石の碎片が37点、砥石が1点、また、金属製品では針金状の銅製品が出土している。他に、弥生土器が25点、古式土師器が3点出土している。

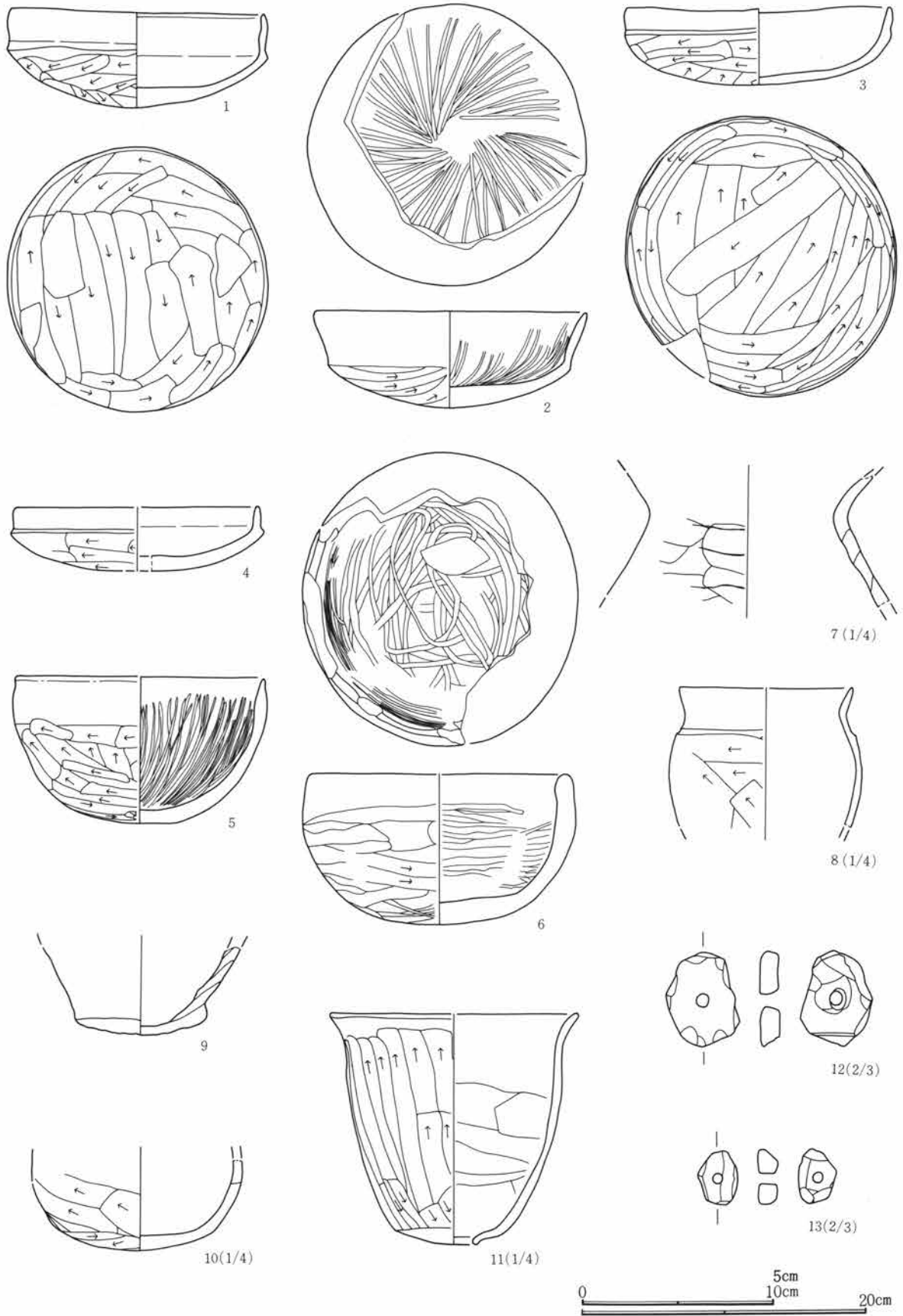
所見 住居に遺棄された遺物が多く、時期は6世紀代と考えられる。

出土土器数量表

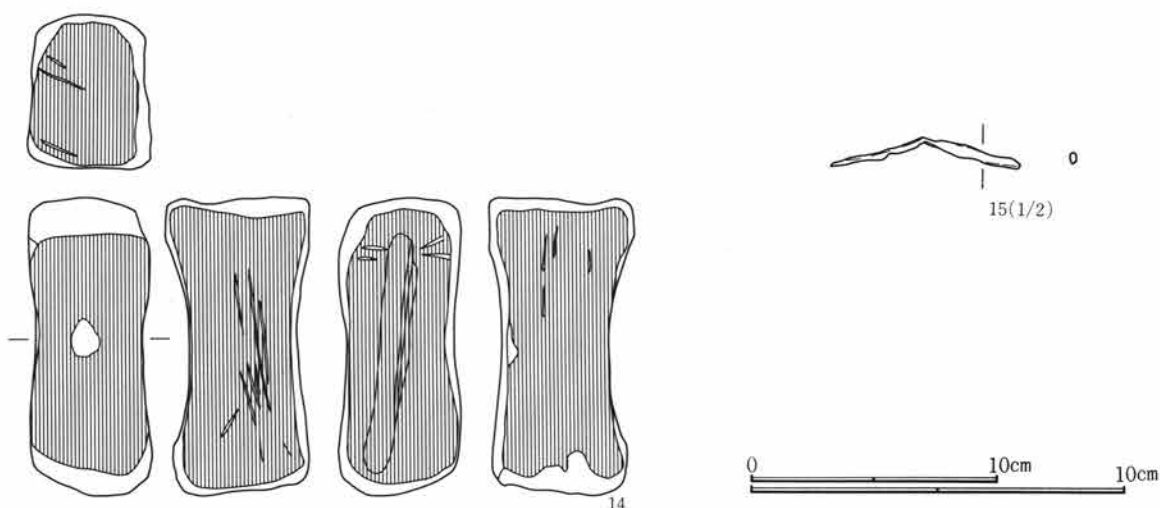
種別	土 師 器					計
	坏	高坏	埴	甕	甑	
点数	61	2	2	161	2	228
重量(g)	1,065	60	440	3,755	145	5,465



第186図 34号住居跡カマド



第187図 34号住居跡出土遺物(1)



第188図 34号住居跡出土遺物(2)

34号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	南西 +2	①13.1cm ③4.9cm	②- ④ほぼ完形	①②にぶい黄 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	北東 -6	①14.0cm ③4.9cm	②- ④口～底2/3	①にぶい褐 ②明褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ後放射状暗文	I C	
3	土師器 坏	北東 -6	①14.0cm ③4.0cm	②- ④ほぼ完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I C	
4	土師器 坏	南西 +22	①(12.6cm) ③3.3cm	②- ④口～底1/4	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・礫・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I C	
5	土師器 壺	南西 -2	①(13.0cm) ③7.5cm	②- ④口～底1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミス・雲母含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ後放射状暗文	II	
6	土師器 壺	南東 -10	①(13.4cm) ③7.2cm	②- ④口～底1/3	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ後内外面とも磨き	II	
7	土師器 甕	南東 -3	①- ③-	②- ④頸部片	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデか 胴部外面 削り内面ナデか	VII	
8	土師器 小型甕	北東 +4	①(12.0cm) ③-	②- ④口～胴部	①暗赤褐 ②赤褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を多量に含む	口縁部横ナデ 胴部外面 削り内面ナデ	VIII	
9	土師器 甕(?)	北東 +8	①- ③-	②9.0cm ④胴～底部	①にぶい橙 ②灰黄褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面削り内面ナデか	VII	
10	土師器 甕	北東 +9	①- ③-	②- ④底部	①にぶい褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面削り内面ナデ	VII	
11	土師器 甕	南東 +6	①17.0cm ③15.9cm	②7.5cm ④口～底1/2	①明褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面 削り内面ナデ	XI B	孔径2.7 cm

34号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
12	玉 未製品	北東+4	2.0	1.9	0.5	3.0	完形	滑石	孔径4.5mm 側面一部鑿状工具による加工
13	玉 未製品	南西-2	1.4	1.0	0.5	1.0	完形	滑石	孔径2.5mm 側面鑿状工具による加工
14	砥石	北東+6	11.8	4.9	5.8	475	ほぼ完形	流紋岩	4面使用 一部刃ならしのキズあり

34号住居跡出土鉄器観察表

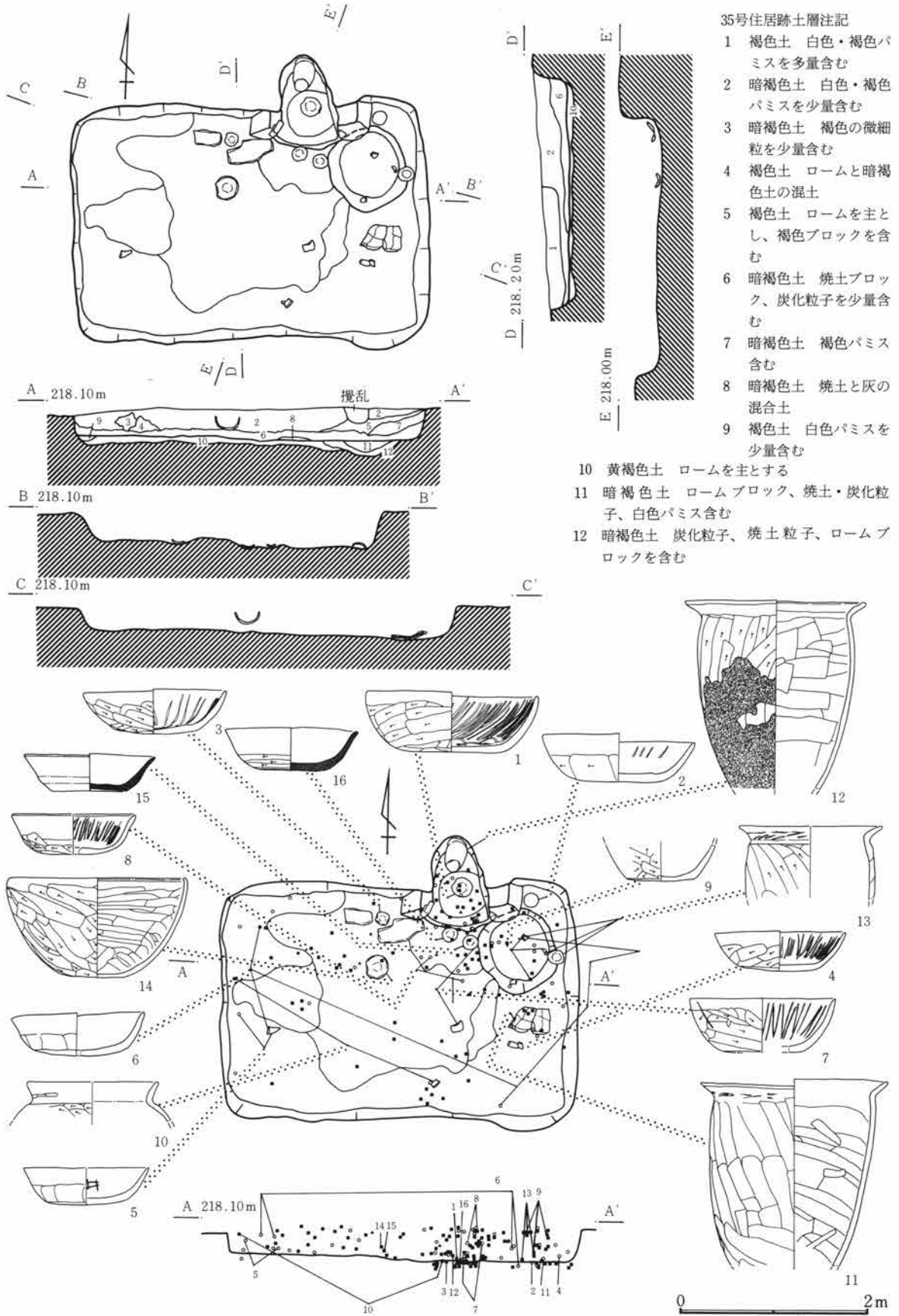
No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
15	不明	南西-6	5.0	0.8	0.2	1.7	完形か	針金状の銅製品

35号住居跡

位置 C 6～8 - VII11～13Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 3.78m×2.52m 壁高 34cm 垂直に近い 面積 9.4m² 床面積 7.7m²

第三章 検出された遺構と出土遺物



第189図 35号住居跡遺物出土状況

主軸方位 N-35°-W 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.9m 短径2.52m 深さ20cm

形状 平面形態は円形で、断面形態は鍋底型を呈し、底部と立ち上がりの境がはっきりしない。

床面 ロームを主とする黄褐色土で厚さ5~10cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。床面中央部が非常に強く踏み固められている(図中の実線の内側)。

掘り方 ピットおよび土坑状の掘り込みが数基検出されている。

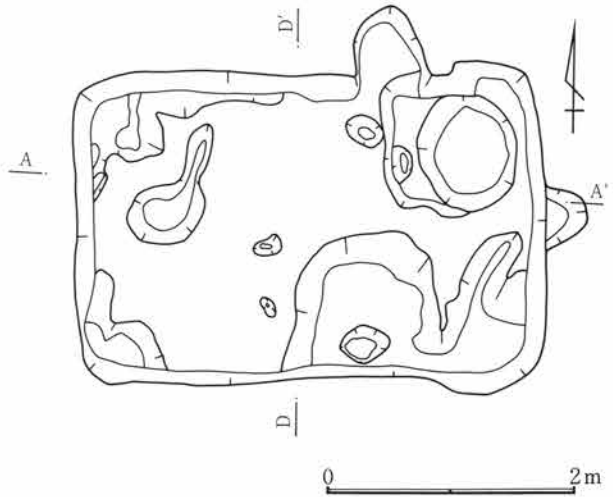
遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、カマド周辺に完形に近い土器が集中している。垂直分布を見ると、上層から下層まで出土しているが、カマド周辺は床面付近が多い。接合関係の判明するものは7点あり、覆土中と床面付近が接合しているものが多い。

カマド

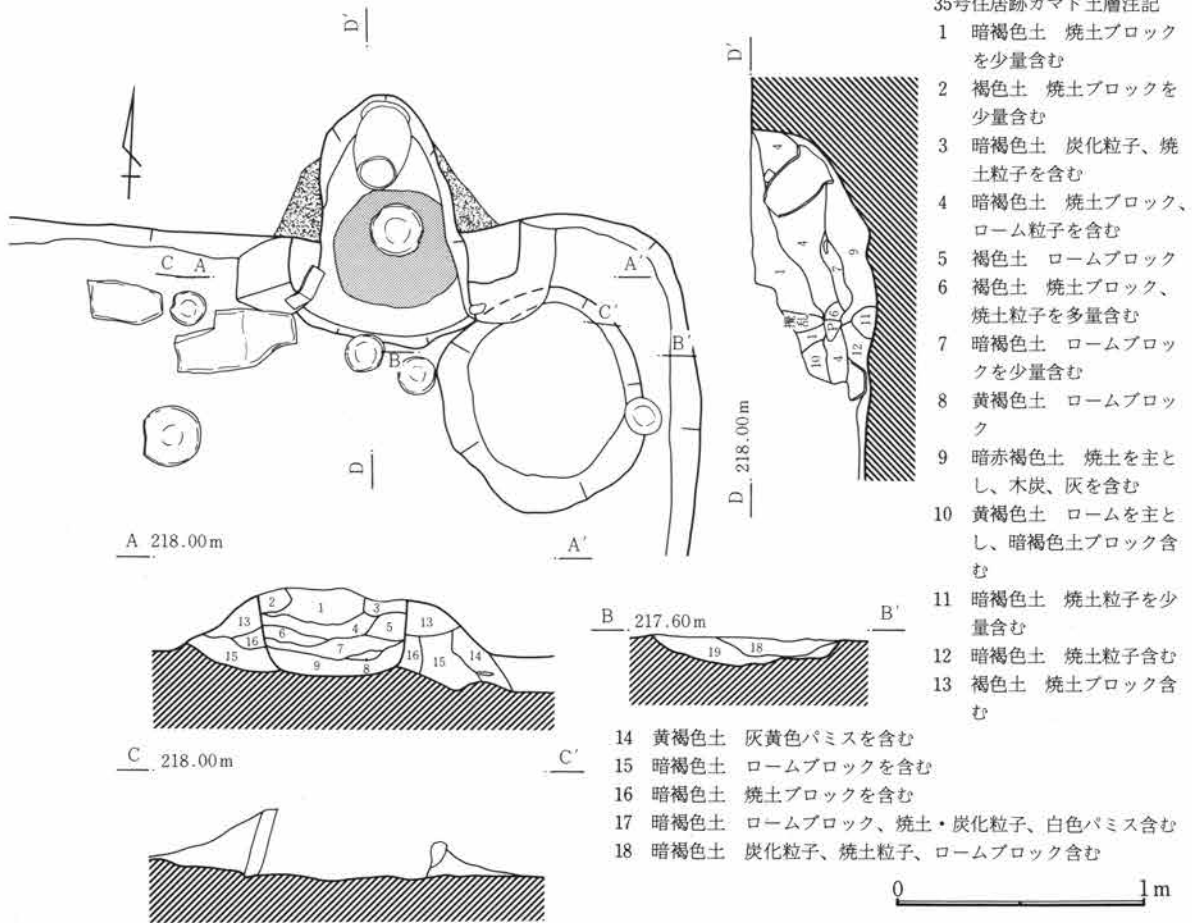
位置 北壁東寄り 主軸方位 N-10°-W

規模 全長0.99m 幅1.13m

構築 暗褐色土で袖を構築しており、砂岩の切



第190図 35号住居跡掘り方



第191図 35号住居跡カマド

第III章 検出された遺構と出土遺物

石の袖石が出土しているが、左袖のものは小さい。火床面は床面より若干低く、よく焼けている。

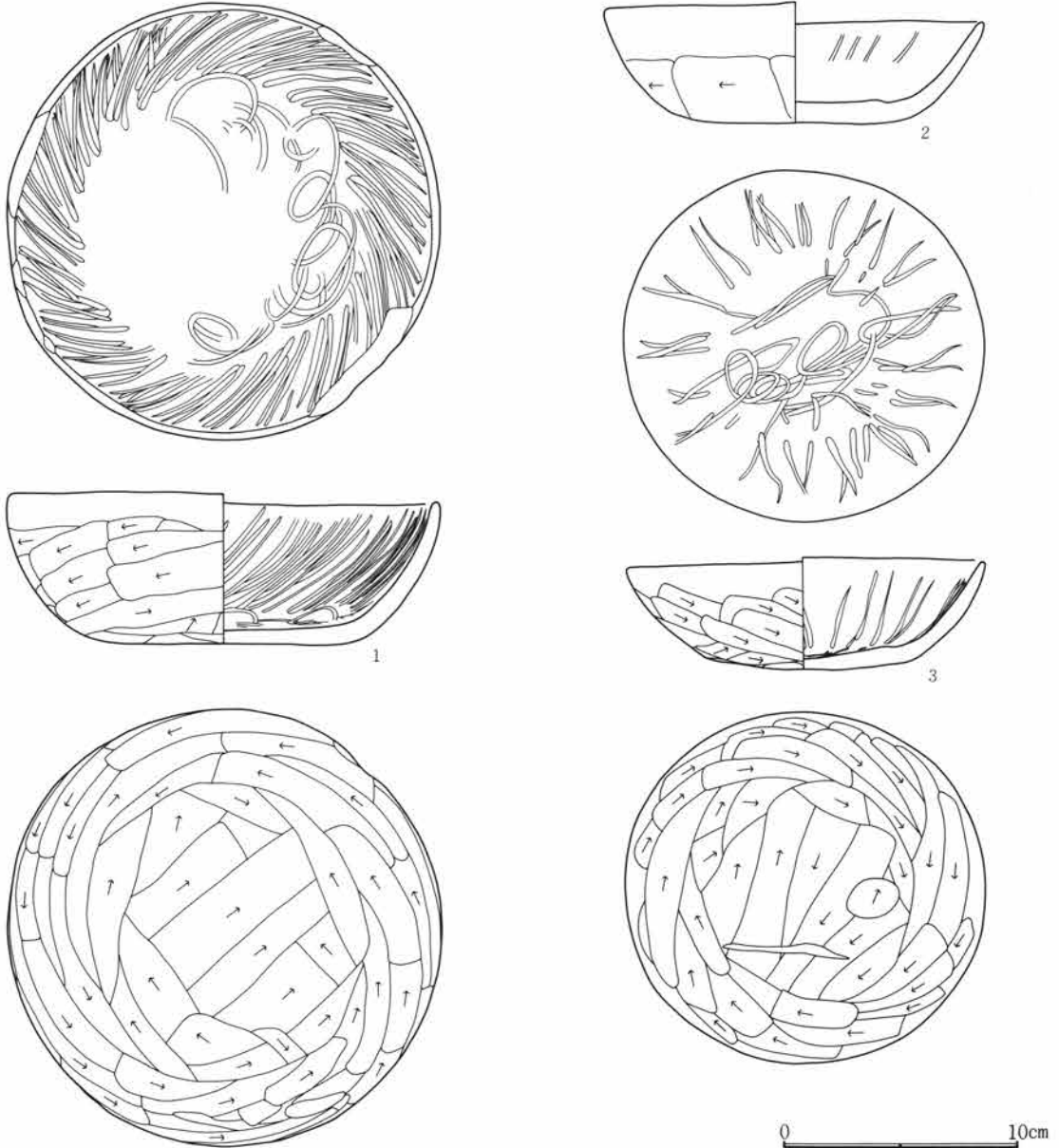
遺物出土状況 煙道部下から底部のない甕が出土しているが、カマドにかけたものか、煙道部に使ったものかははっきりしない。また火床面上から1の坏が出土している。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕・鉢・甔、須恵器坏が出土しており、石製品は滑石の碎片が1点出土している。完形に近い土器が多く出土している。

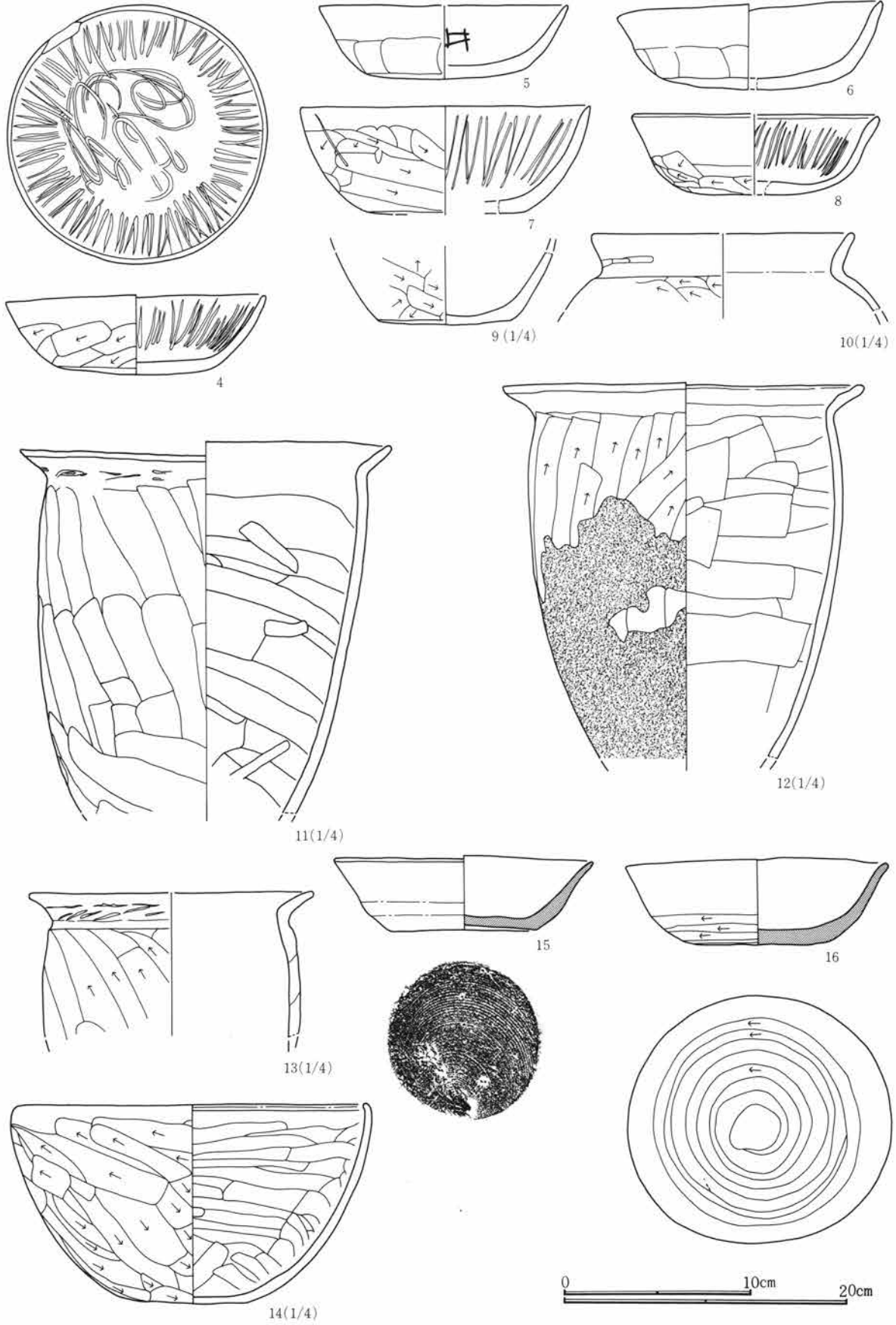
所見 カマド周辺には遺棄された遺物が多く、住居の時期は8世紀中～後半代になると考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器				須恵器	計
	坏	甕	鉢	甔		
器種	坏	甕	鉢	甔	坏	
点数	45	162	4	1	7	219
重量(g)	2,180	6,870	1,200	15	465	10,730



第192図 35号住居跡出土遺物(1)



第193図 35号住居跡出土遺物(2)

第三章 検出された遺構と出土遺物

35号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 坏	カマド	①18.2cm ②11.8cm ③6.3cm ④完形	①②にふい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
2	土師器 坏	北東 ±0	①16.0cm ②9.7cm ③5.0cm ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	I F	
3	土師器 坏	カマド	①15.0cm ②8.7cm ③4.7cm ④完形	①にふい橙 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
4	土師器 坏	北東 +6	①13.7cm ②8.7cm ③4.3cm ④完形	①にふい黄橙 ②にふい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
5	土師器 坏	南西 +6	①13.0cm ②8.4cm ③3.9cm ④口～底1/2	①にふい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ 内面焼成後刻書「王」か	I E	
6	土師器 坏	北東 +16	①14.0cm ②9.8cm ③4.5cm ④口～底1/2	①灰黄褐 ②にふい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	I E	
7	土師器 坏	南東 +2	①(15.2cm)②— ③(5.6cm) ④口～底1/3	①にふい橙 ②橙 ③良好 ④普通 粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文	I E	
8	土師器 坏	北東 +20	①12.5cm ②— ③4.2cm ④口～底2/3	①②にふい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文	I E	
9	土師器 甕	北東 +28	①— ②9.0cm ③— ④底部片	①灰褐 黒 ②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VII	
10	土師器 甕	南東 ±0	①(18.0cm)②— ③— ④口縁1/3	①②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
11	土師器 甕	南東 +2	①26.4cm ②— ③— ④口～胴部	①②にふい赤褐 黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII A	
12	土師器 甕	カマド	①25.5cm ②— ③— ④口～胴部	①にふい褐 ②赤褐 にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ 胴部外面に粘土付着	VII A	
13	土師器 甕	北東 +4	①(20.0cm)②— ③— ④口縁部片	①黒褐 ②にふい褐 ③良好 ④粗 粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	
14	土師器 鉢	北西 +10	①24.2cm ②8.0cm ③13.9cm ④一部欠損	①②明褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面篋ナデ	X C	
15	須恵器 坏	北西 +6	①13.6cm ②7.8cm ③4.7cm ④ほぼ完形	①灰オリーブ ②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・礫を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整 体部外面に自然釉付着	I D	
16	須恵器 坏	カマド	①13.8cm ②6.9cm ③4.5cm ④完形	①灰オリーブ ②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・礫を少量含む	ロクロ調整(右) 体部下半～底部 全面回転篋削り	I C	

36号住居跡

位置 C 7～10-VII 7～9 Gr 重複 37号住居より古 平面形態 隅丸方形

規模 4.06m×3.96m 壁高 64cm 垂直に近い 面積 15.7m² 床面積 14.0m²

主軸方位 N-6°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出されている。柱間は南北1.50m東西1.78mと狭く、柱穴径も小さい。

P 1 長径17cm短径15cm深さ44cm P 2 径16cm深さ22cm P 3 長径19cm短径21cm深さ70cm

P 4 長径18cm短径16cm深さ41cm

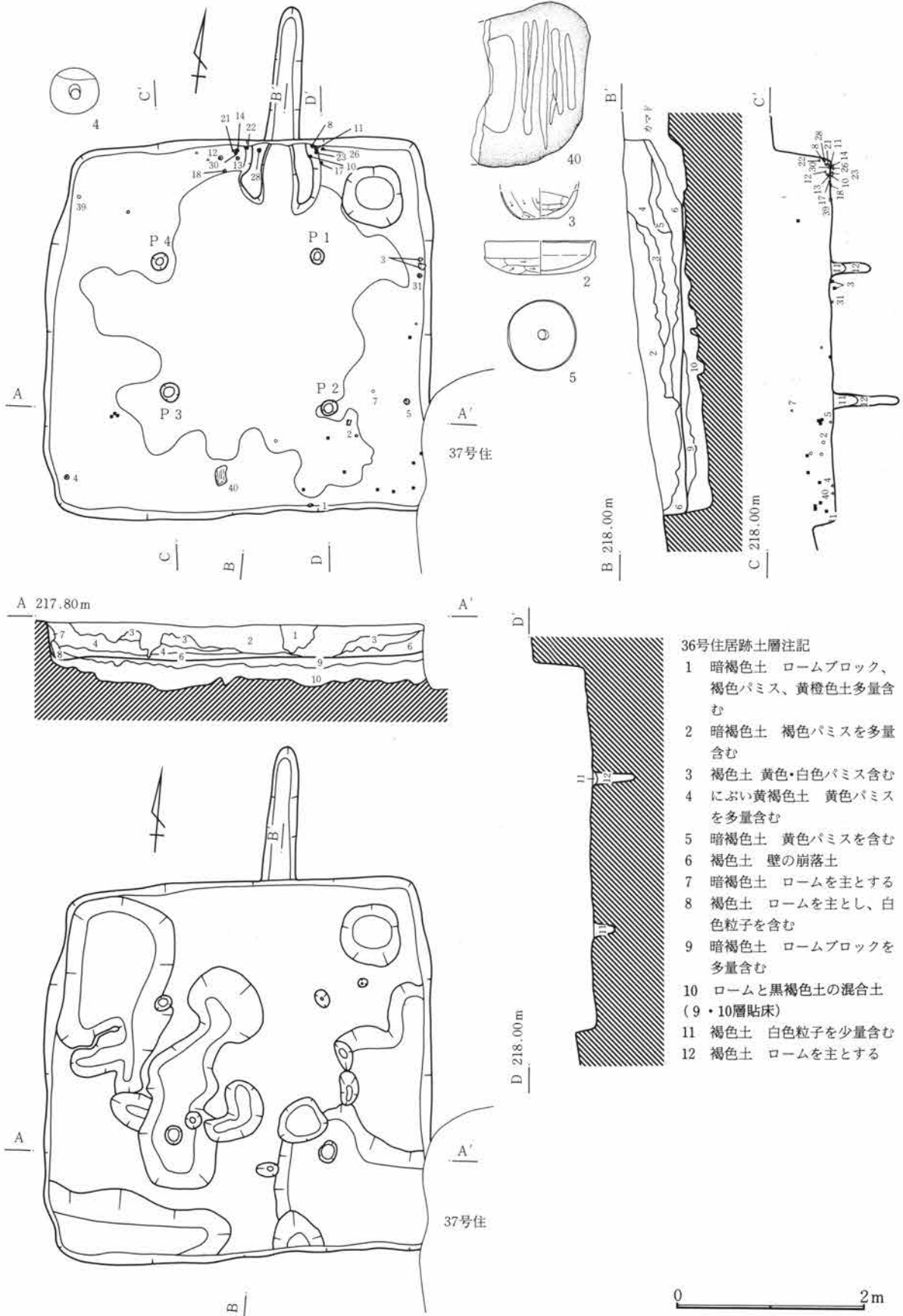
貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.64m 短径0.64m 深さ56cm

形状 平面形態はやや角のある円形で、断面形態は、底部が丸みを帯び比較的急に立ち上がるが、途中段がありやや緩やかになっている。

床面 ロームを含む暗褐色土で厚さ5～30cmの貼床としており、ほぼ平坦な床面である。カマド前から床面のほぼ中央部が硬化面となっている(図中の実線の内側)。

掘り方 土坑状の掘り込みやピットが数基検出されている。

遺物出土状況 土器の出土量は少なく、住居中央部からはほとんど出土していない。カマド両脇の床面付近からは滑石製玉未製品が多数出土している。また、南東部からは多量の滑石の碎片が出土しているが、床面付近だけでなく覆土中からも多く出土している。



第194図 36号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

カマド

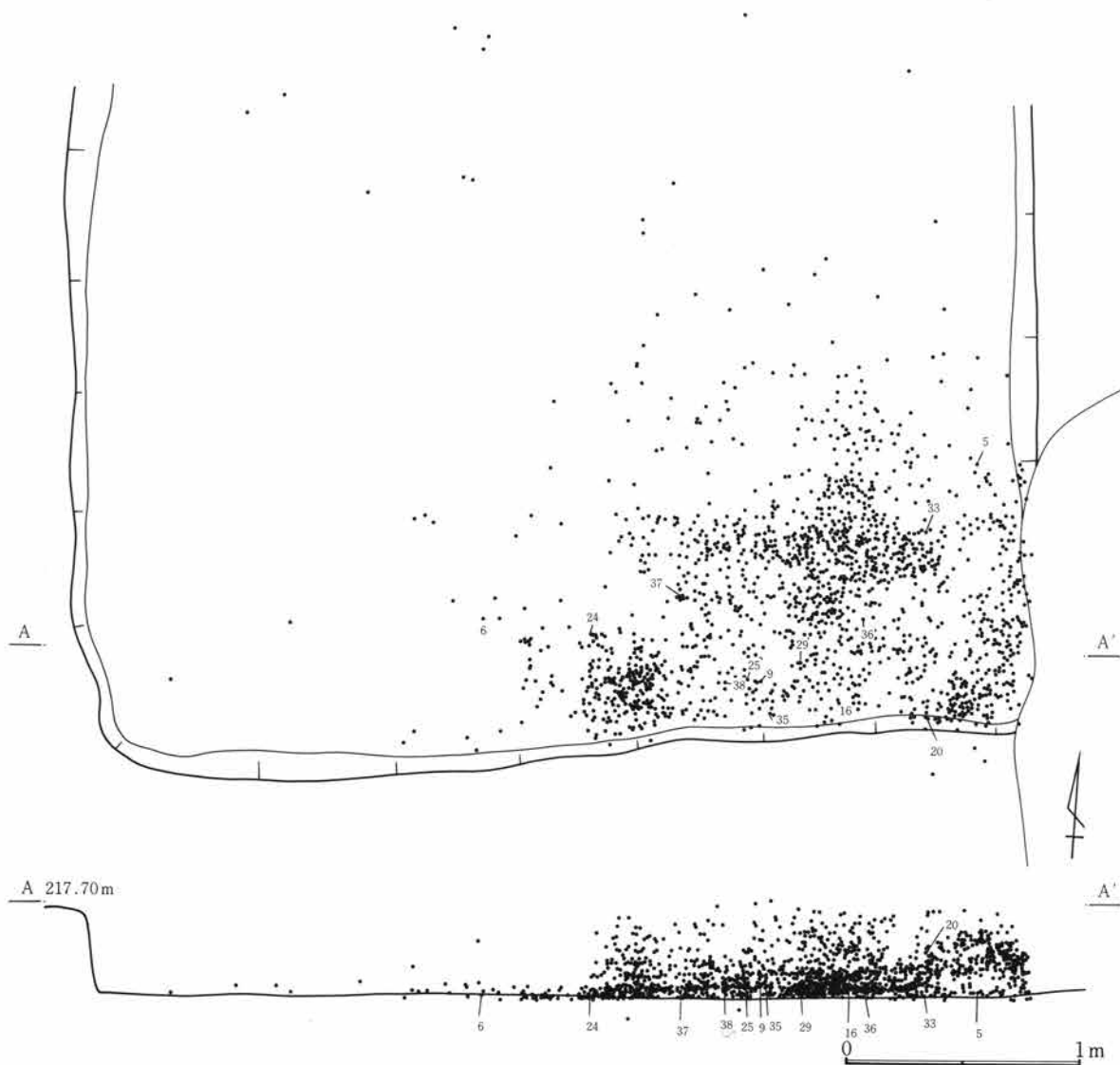
位置 北壁やや東寄り **主軸方位** N-3°-W **規模** 全長2.13m 幅0.86m 煙道部長1.44m

構築 灰黄褐色粘土で袖を構築しており、内側は強く焼けている。袖石・天井石等は出土していない。火床面は床面と同レベルで、右袖脇にかけてよく焼けている。煙道部はほぼ水平に延びて、垂直に近い角度で立ち上がっている。

遺物出土状況 燃焼部内からはほとんど出土していないが、両脇から玉末製品や碎片が出土している。

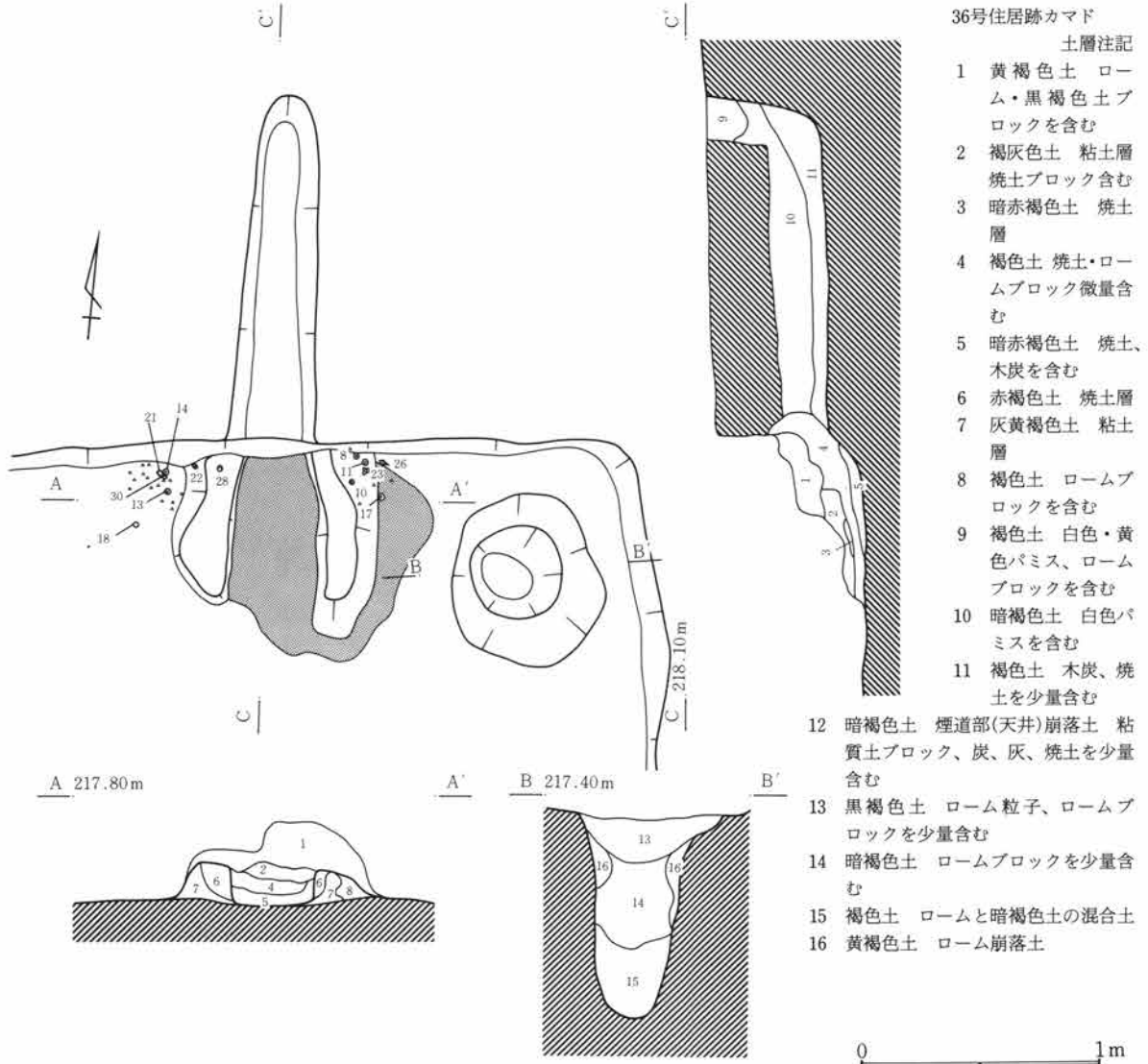
出土遺物 土器は、土師器坏16点、甕18点が出土しているだけであるが、石製品は、紡錘車2点、玉3点、玉末製品30点、滑石石核65点、滑石碎片3,025点、玉砥石1点が出土している。他に弥生土器が1点出土している。

所見 多量の滑石碎片が出土しているため、滑石製品の工房跡と考えられるが、住居の構造は他の住居と変わらない。時期は出土土器から6世紀後半～7世紀前半と考えられる。

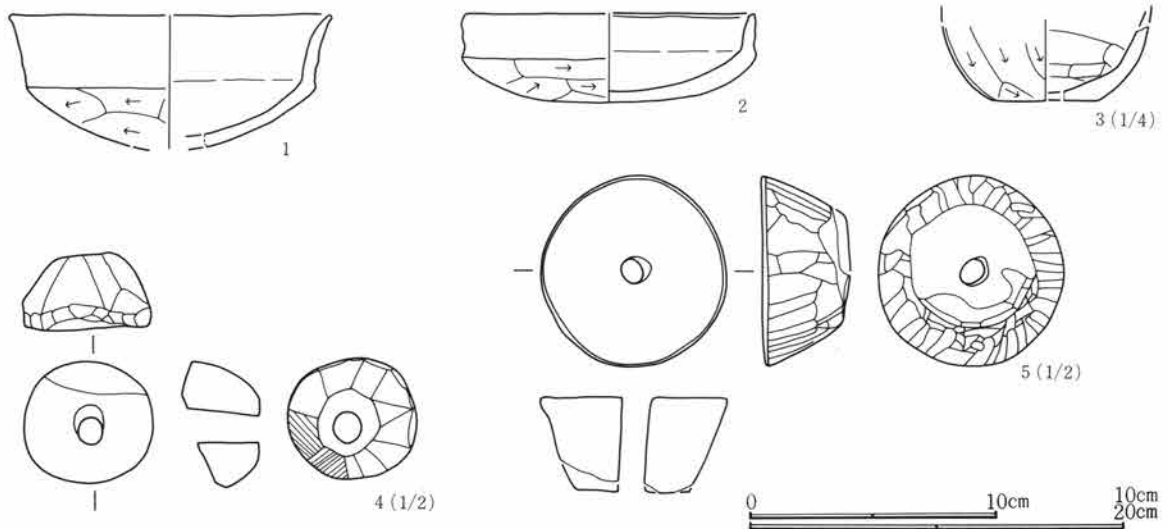


第195図 36号住居跡滑石出土状況

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

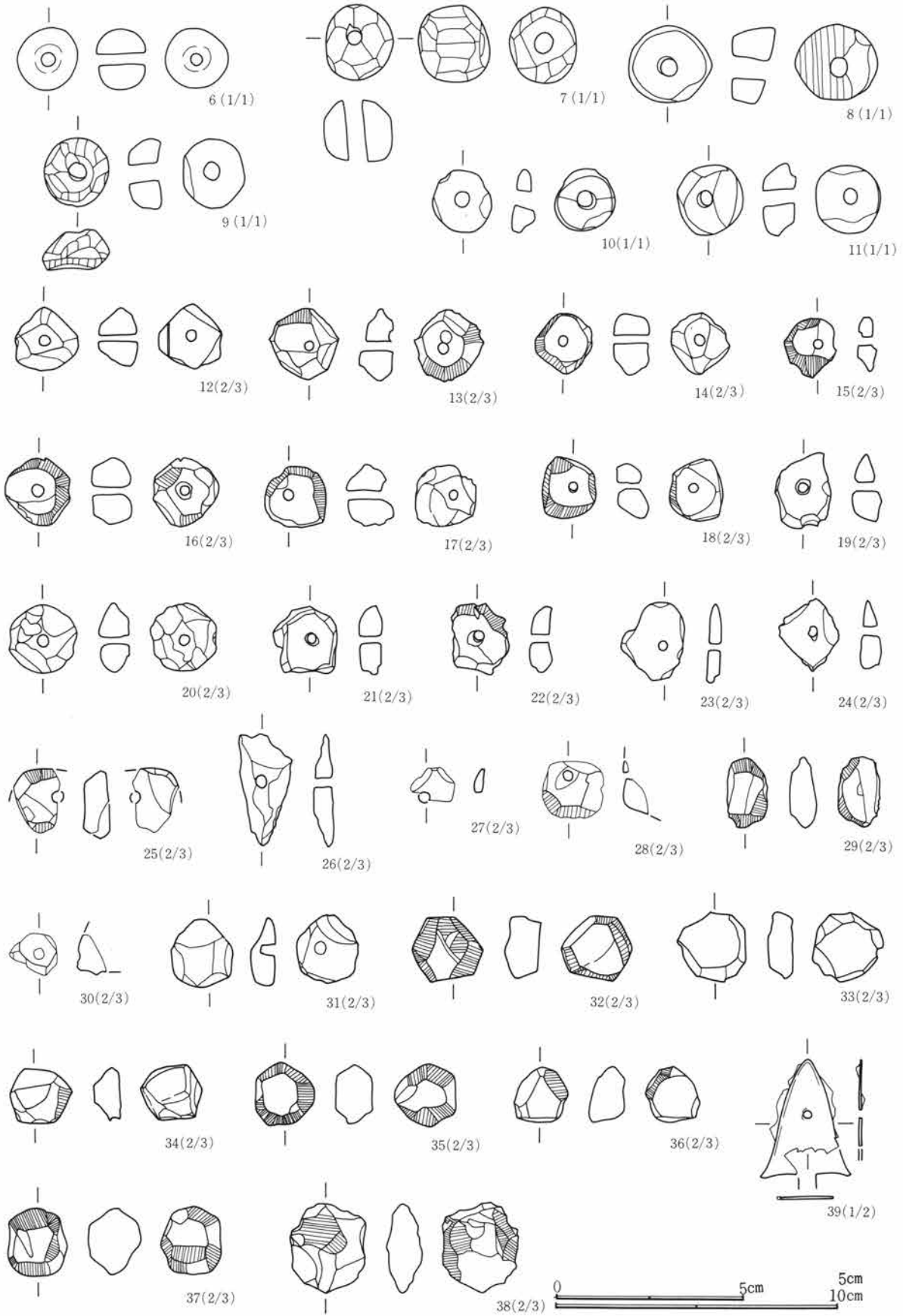


第196図 36号住居跡カマド

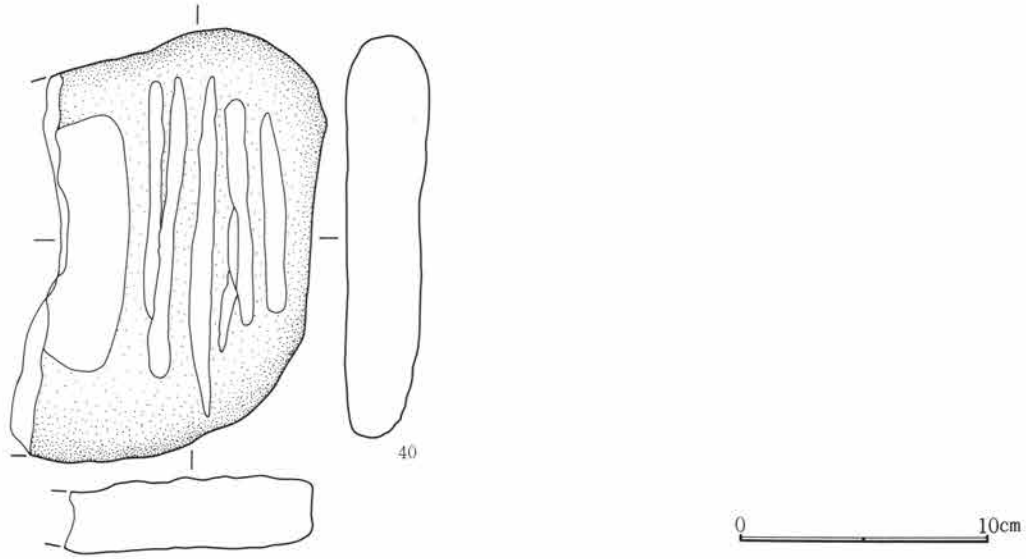


第197図 36号住居跡出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第198図 36号住居跡出土遺物(2)



第199図 36号住居跡出土遺物(3)

36号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	南東 +8	①(12.8cm)②- ③- ④口~体1/6	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 粗砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	南東 +9	①(11.6cm)②- ③3.6cm ④口~胴1/6	①黄灰 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
3	土師器 甕	北東 -6	①- ②(5.6cm) ③- ④底部片	①灰褐 ②黒 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	胴~底部外面篋削り内面篋ナデか	VII	

36号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
4	紡錘車	南西+4	3.4	3.2	2.0	25	一部欠損	滑石	孔径8mm 側面粗い研磨 一部工具痕あり
5	紡錘車	南東+6	5.0	2.0	2.2	80	一部欠損	滑石	孔径7~8mm 外面やや粗い研磨
6	玉	南西±0	1.0	1.0	0.8	1.3	完形	滑石	孔径2.5mm 外面研磨
7	玉	南東+44	1.3	1.2	1.3	3.0	完形	滑石	孔径3mm 外面研磨 ほぼ完成品か
8	玉 未製品	カマド	1.5	1.3	0.8	2.2	一部欠損	滑石	孔径2.5~3mm 外面粗い研磨
9	玉 未製品	南東+14	1.2	1.1	0.6	1.3	完形	滑石	孔径3mm 外面研磨 一部粗い研磨痕残す 完成品か
10	玉 未製品	カマド	1.1	1.1	0.4	0.5	完形か	滑石	孔径2.5mm 側面粗い研磨
11	玉 未製品	カマド	1.2	1.2	0.6	1.3	完形	滑石	孔径2.5mm 外面研磨途中 粗い研磨痕残す
12	玉 未製品	北西+6	1.6	1.6	1.0	3.4	完形	滑石	孔径2.5mm 側面粗い研磨
13	玉 未製品	北西+2	1.9	1.8	0.9	3.7	完形	滑石	孔径2.5mm 側面鑿状工具による加工
14	玉 未製品	北西-2	1.5	1.5	0.9	3.0	完形	滑石	孔径2.5mm 側面粗い研磨
15	玉 未製品	覆土	1.6	1.3	0.5	1.3	1/3	滑石	孔径3mm 側面鑿状工具による加工
16	玉 未製品	南東+20	1.8	1.7	1.0	3.9	完形	滑石	孔径3mm 側面一部鑿状工具による加工
17	玉 未製品	カマド	1.6	1.6	1.2	3.6	完形	滑石	孔径2.5mm 側面鑿状工具による加工
18	玉 未製品	北西±0	1.6	1.4	0.8	2.9	完形	滑石	孔径2.5mm 側面一部粗い研磨 鑿状工具痕残す
19	玉 未製品	覆土	2.0	1.5	0.8	2.4	一部欠損か	滑石	孔径2.5~3mm
20	玉 未製品	南東+38	1.8	1.8	0.8	3.3	完形	滑石	孔径3mm 側面一部鑿状工具による加工
21	玉 未製品	北西+4	1.8	1.7	0.6	3.4	完形	滑石	孔径2.5mm 側面鑿状工具による加工
22	玉 未製品	カマド	1.8	1.6	0.6	2.4	完形	滑石	孔径2.5mm 側面一部鑿状工具による加工
23	玉 未製品	カマド	2.0	1.7	0.4	1.7	破片か	滑石	孔径3mm
24	玉 未製品	南東+8	1.8	1.6	0.6	0.9	破片か	滑石	孔径2mm
25	玉 未製品	南東+4	1.7	1.2	0.6	1.4	1/2	滑石	孔径2.5mm 鑿状工具による加工
26	玉 未製品	北東-2	3.0	1.4	0.5	2.0	完形か	滑石	孔径2.5mm
27	玉 未製品	覆土	1.2	[0.9]	0.3	0.3	破片	滑石	孔径2.5mm
28	玉 未製品	カマド	1.7	1.6	0.6	2.7	1/3	滑石	孔径2.5mm 側面鑿状工具による加工

第三章 検出された遺構と出土遺物

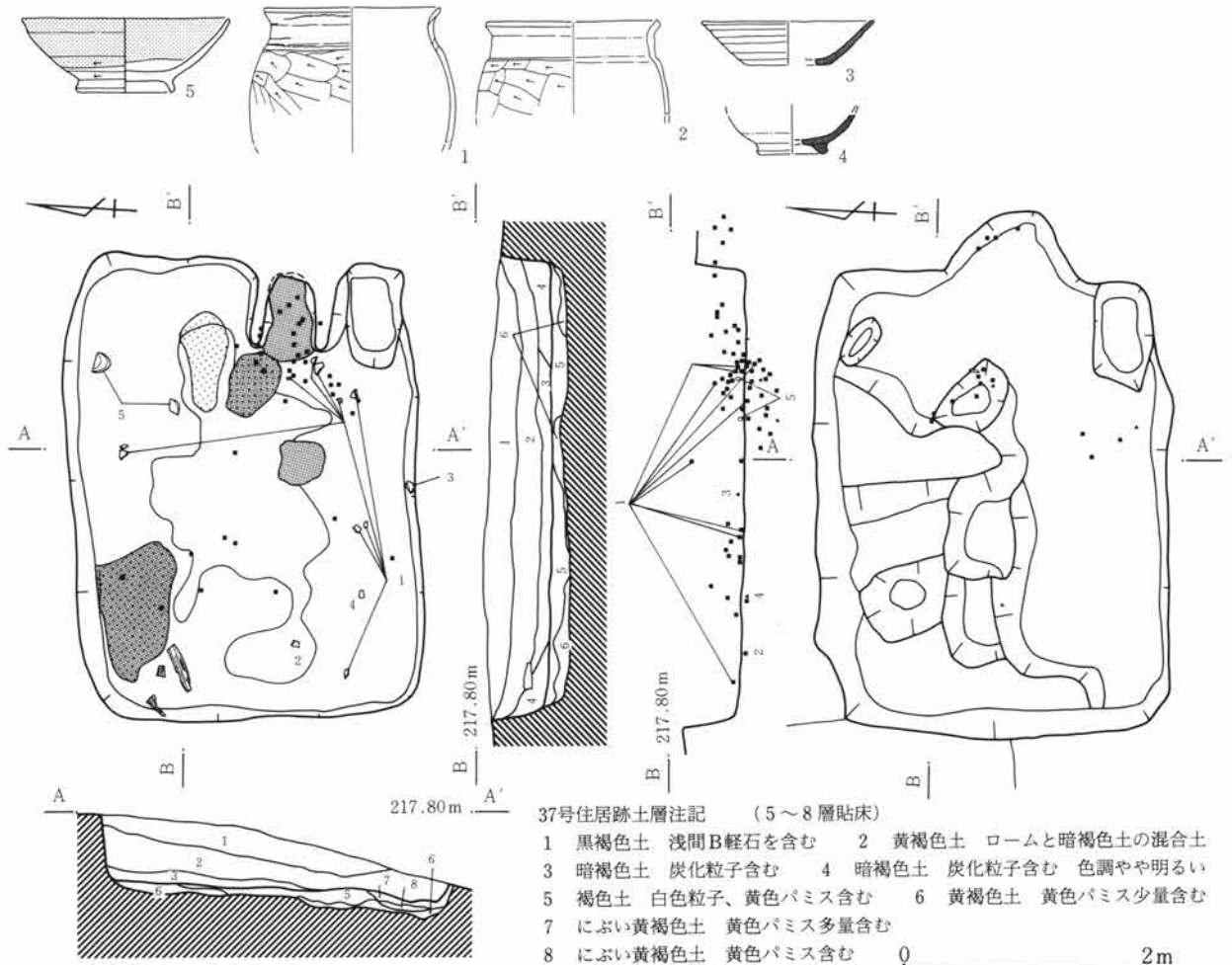
No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
29	玉未製品	南東+14	1.8	1.0	0.7	1.6	1/2	滑石	側面鑿状工具による加工 穿孔途中の欠損か
30	玉未製品	カマド	1.4	1.2	0.7	1.3	2/3	滑石	側面一部鑿状工具による加工
31	玉未製品	北東-2	1.8	1.6	0.7	2.4	完形	滑石	孔径3mm 穿孔途中 側面一部鑿状工具による加工
32	玉未製品	覆土	1.9	1.7	1.0	4.2	完形	滑石	側面鑿状工具による加工
33	玉未製品	南東+2	1.9	1.8	0.7	3.5	完形	滑石	側面一部鑿状工具による加工
34	玉未製品	覆土	1.7	0.7	0.7	2.5	完形	滑石	側面一部鑿状工具による加工
35	玉未製品	南東+22	1.6	1.6	1.0	3.3	完形	滑石	側面鑿状工具による加工
36	玉未製品	南東+12	1.4	1.4	0.9	2.7	完形	滑石	側面一部鑿状工具による加工
37	玉未製品	南東+10	1.8	1.6	1.4	6.2	完形	滑石	側面鑿状工具による加工
38	玉未製品	南東+18	2.3	1.9	0.9	5.3	完形	滑石	外面一部鑿状工具による加工
40	砥石	南西+14	17.0	[12.6]	3.3	800	1/3	砂岩	玉砥石 荒砥か 研ぎ溝6条あり

36号住居跡出土鉄器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
39	鉄鏃	覆土	[4.1]	[2.7]	0.1	3.5	茎部欠損	

37号住居跡

位置 C 8~10-VII 6・7 Gr 重複 36号住より新 平面形態 東西に長い隅丸長方形
 規模 3.76m×2.86m 壁高 72cm やや傾斜している 面積 10.0m² 床面積 8.6m²
 主軸方位 N-6°-W 壁溝 なし 柱穴 なし
 貯蔵穴 位置 南東隅 規模 長径0.82m 短径0.45m 深さ42cm



第200図 37号住居跡

形状 平面形態は隅丸長方形で南東壁に接して作られている。断面形態は台形で、平坦な底部から比較的急に立ち上がっている。

床面 褐色土で厚さ5～15cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。カマド手前から西壁際にかけて中央に硬化面（図中の実線の内側）が検出されている。また、カマド前と北西隅に4ヶ所に、焼土および炭化粒子が分布している。

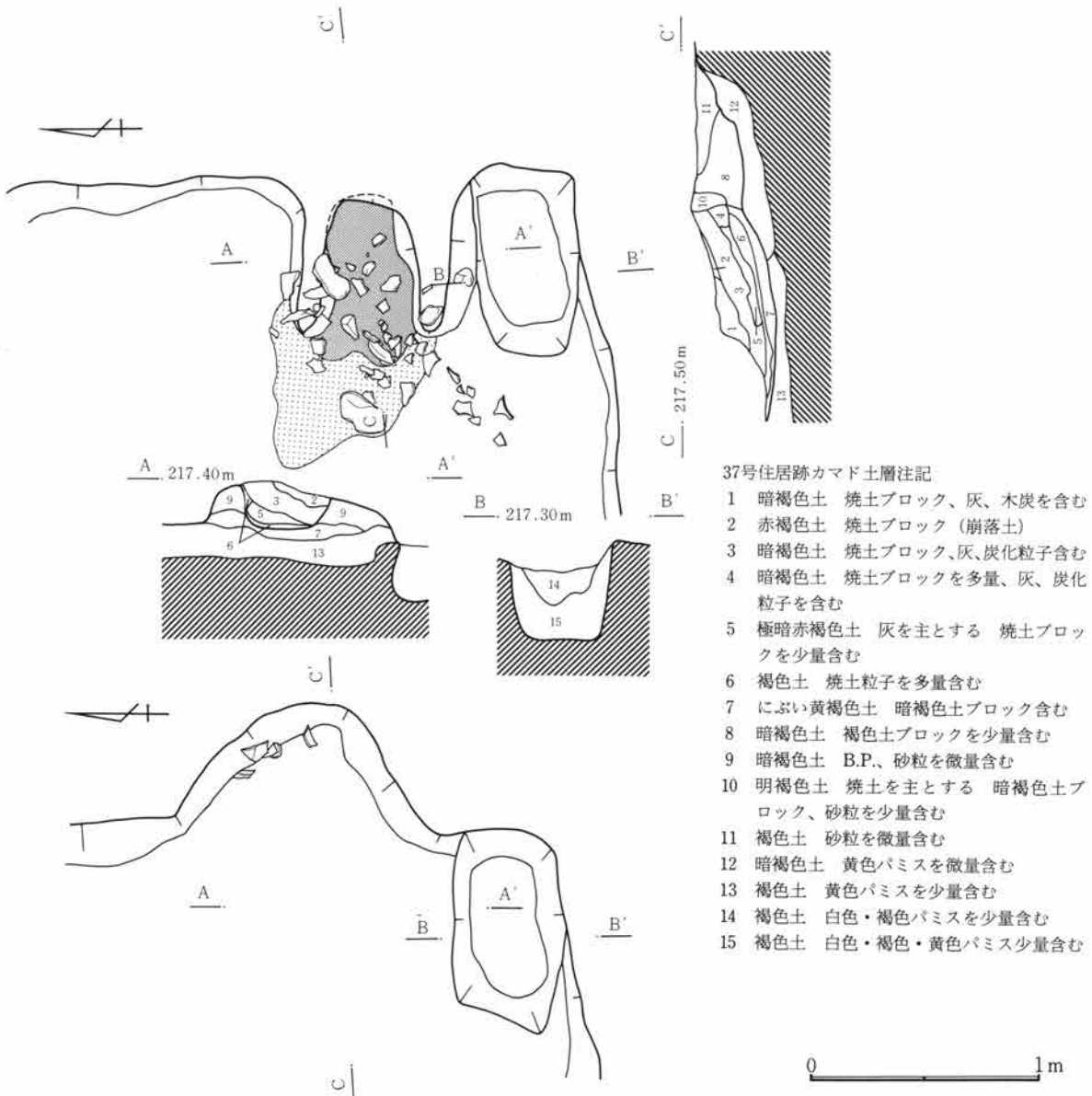
掘り方 中央から北西部にかけて、土坑状の掘り込みやピット、段状の掘り込みが検出されている。

遺物出土状況 出土量は少なく、全面に散在しているが、カマド前に比較的集中している。垂直分布を見ると、上層から下層まで出土しており、床下からも出土している。接合関係の判明するものは2点で、床面付近で接合しているものと、上層と床面付近が接合しているものがある。

カマド

位置 東壁やや南寄り **主軸方位** N-5°-E **規模** 全長0.62m 幅0.80m

構築 暗褐色土で袖を構築しており、袖石は、右袖から礫が出土しているがはっきりせず、天井石は出土



第201図 37号住居跡カマド

第三章 検出された遺構と出土遺物

していない。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けており、また手前に灰層が分布している。

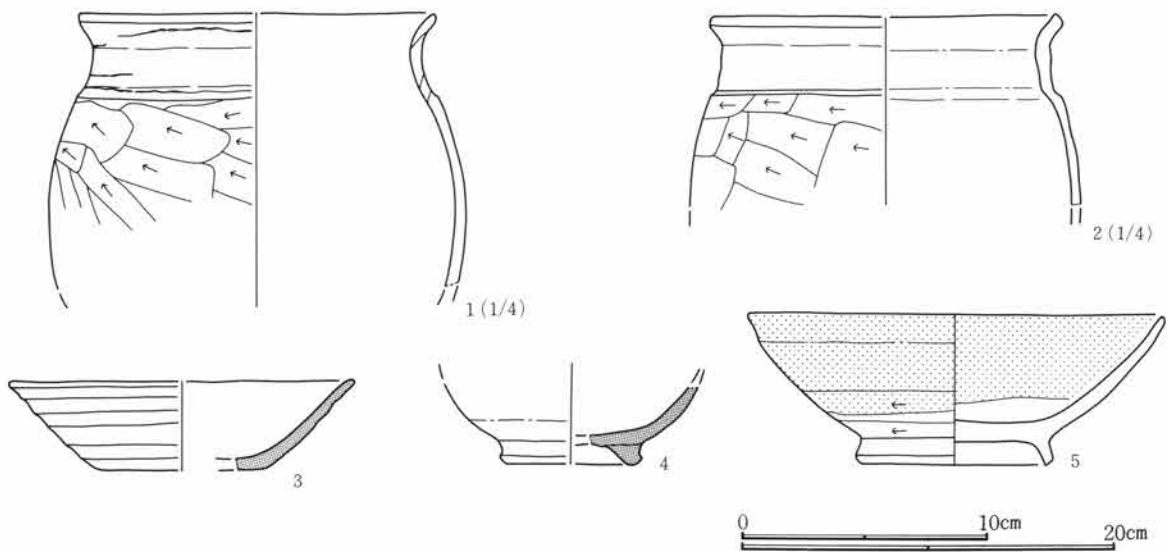
遺物出土状況 燃焼部から多くの土器片が出土している。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器碗が出土している。

所見 1軒だけ検出されている平安時代の住居である。出土した灰釉陶器から9世紀後半代の住居と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器		須恵器		灰釉陶器	計
	坏	甕	坏	甕	碗	
点数	4	114	6	1	1	126
重量(g)	65	1,875	95	5	230	2,270



第202図 37号住居跡出土遺物

37号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 甕	南東 -9	①(19.0cm)②- ③- ④口~胴1/3	①②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII B	
2	土師器 甕	南西 -3	①(18.4cm)②- ③- ④口~胴1/4	①②におい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII B	
3	須恵器 坏	南東 +6	①(13.8cm)②(6.9cm) ③3.4cm ④口~体1/3	①②灰白 ③還元焰 不良 ④普通 細砂・礫を含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整	I D	
4	須恵器 坏	南西 -6	①- ②(5.0cm) ③- ④底部片	①②におい黄橙 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂を少量含む	ロクロ調整 貼付け高台	I E	
5	灰釉陶器 碗	北東 +4	①16.4cm ②7.4cm ③5.9cm ④ほぼ完形	胎土 黄灰 釉 灰白 ③良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整(右) 体部下半~底部 全面回転篋削り後高台貼付け		釉は刷毛 塗り

38号住居跡

位置 C5~7-VII6~8Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 4.84m×3.56m 壁高 20cm やや傾斜している 面積 16.3m² 床面積 15.5m²

主軸方位 N-7°-W 壁溝 なし

柱穴 4基検出されているが、柱間が南北1.26m東西1.92mと、特に南北の柱間が非常に狭い。

P1 長径24cm短径22cm深さ36cm P2 長径24cm短径22cm深さ34cm P3 長径22cm短径20cm深さ44cm

第三章 検出された遺構と出土遺物

P 4 長径32cm短径26cm深さ23cm

貯蔵穴 位置 カマド東 規模 長径0.69m 短径0.59m 深さ23cm

形状 平面形態は、北西にやや膨らんだ隅丸方形で、断面形態は、底部が東に上がった台形を呈している。覆土中から1の坏や、3の甕の破片が出土している。

床面 南側は削平されて不明であるが、褐色土で5～20cmの貼床としている。凹凸の多い床面で東側がかなり下がっている。

掘り方 中央部に長径2.10m短径1.08m深さ25cmの土坑状の掘り込みがあり、他にも数ヶ所ピット、土坑状の掘り込みがある。

遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺に集中している。垂直分布をみると、覆土中から床面まで出土している。接合関係の判明するものは2点あり、床面付近および貯蔵穴内の遺物が接合している。

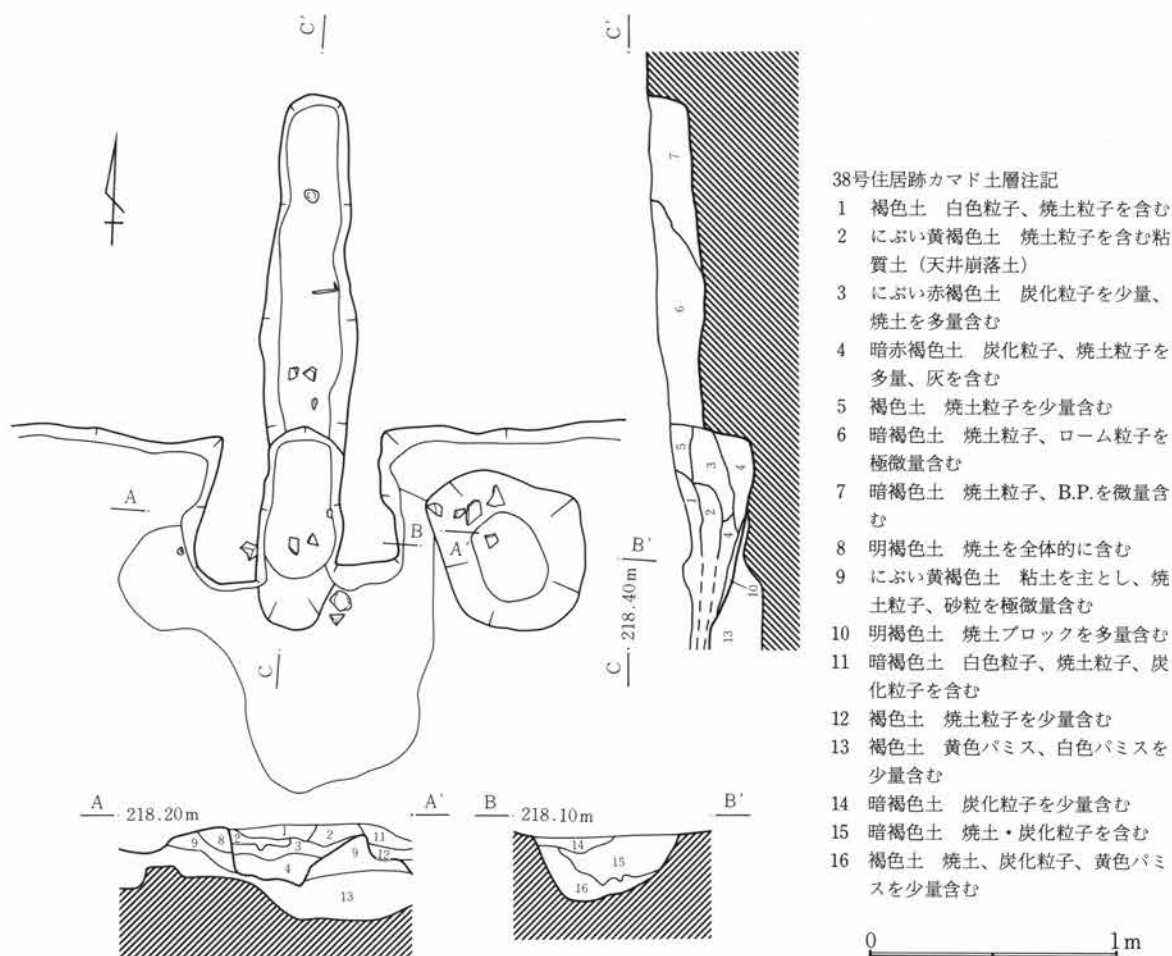
カマド

位置 北壁中央部 主軸方位 N-2°-W 規模 全長2.11m 幅0.90m 煙道部長1.32m

構築 黄褐色粘土で袖を構築しているが、袖石・天井石は検出されていない。火床面は床面より低くあまり焼けていない。煙道部はほぼ水平に延びている。

遺物出土状況 燃焼部、煙道部から土器片が数点出土している。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕、土製玉1点が出土し、石製品は、玉末製品が2点、滑石碎片が5点、また不明鉄製品が1点出土している。他に弥生土器が4点出土している。

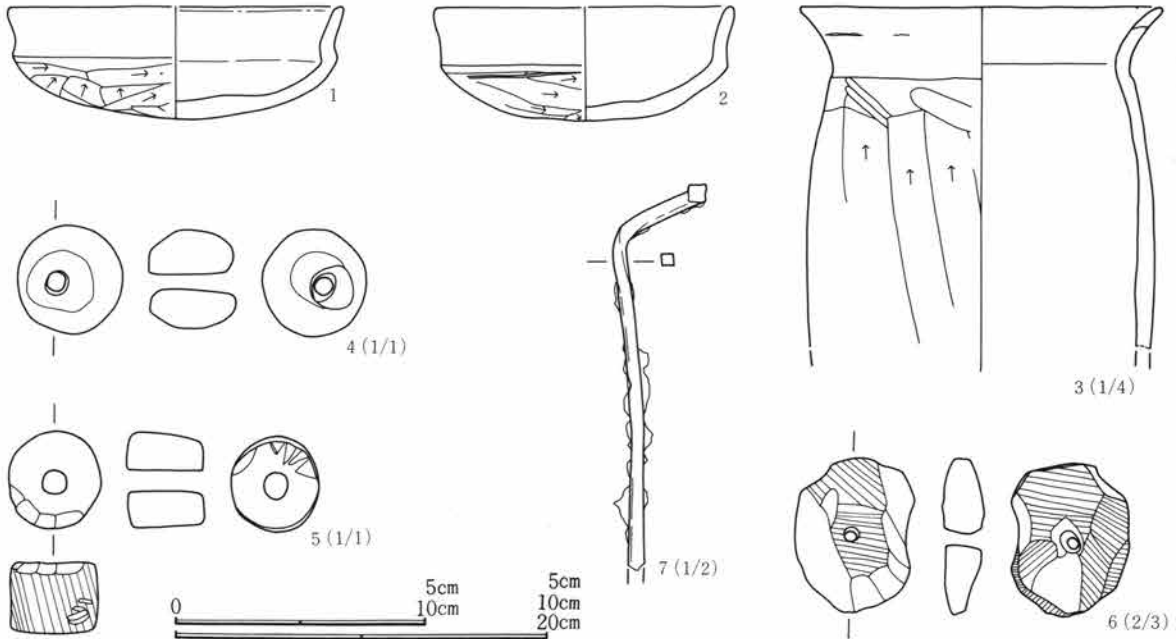


第204図 38号住居跡カマド

所見 出土遺物は少なく、時期のわかる遺物も少ないが、図示した1・2の坏から時期は6世紀後半～7世紀前半と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器		計
	坏	甕	
点数	9	30	39
重量(g)	305	1,330	1,635



第205図 38号住居跡出土遺物

38号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 坏	北東 - 6	①13.2cm ②- ③4.5cm ④口～底1/2	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を多く含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	北西 + 6	①11.8cm ②- ③4.5cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ	I C	
3	土師器 甕	北東 - 2	①19.0cm ②- ③- ④口～胴部片	①暗灰黄 ②暗褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ 胴部外面に粘土附着	VII A	
4	土製品 小玉	覆土	短径1.4cm 長径1.2cm 孔径3mm ④完形	①にぶい褐 ③良好 ④細 細砂を少量含む	外面磨きか		

38号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
5	白玉末製品	北西+2	1.2	1.2	1.0	2.5	完形	滑石	孔径3mm 側面粗い研磨
6	玉末製品	北西±0	3.1	2.3	0.8	8.2	完形	滑石	孔径3mm 外面鑿状工具による加工

38号住居跡出土鉄器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
7	角釘	カマド	[10.2]	0.4	0.4	9.1	両端部欠損	上部で曲がり更に換える

39号住居跡

位置 C 3～6-VII 5・6 Gr 重複 12号溝より古 平面形態 隅丸方形 規模 4.78m×4.42m

壁高 20cm やや傾斜している 面積 20.6m² 床面積 18.8m² 主軸方位 N-5°-W

壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出されているが、他の住居に比べ深さは浅い。

P 1 長径42cm短径40cm深さ18cm P 2 長径28cm短径26cm深さ22cm P 3 長径34cm短径28cm深さ16cm

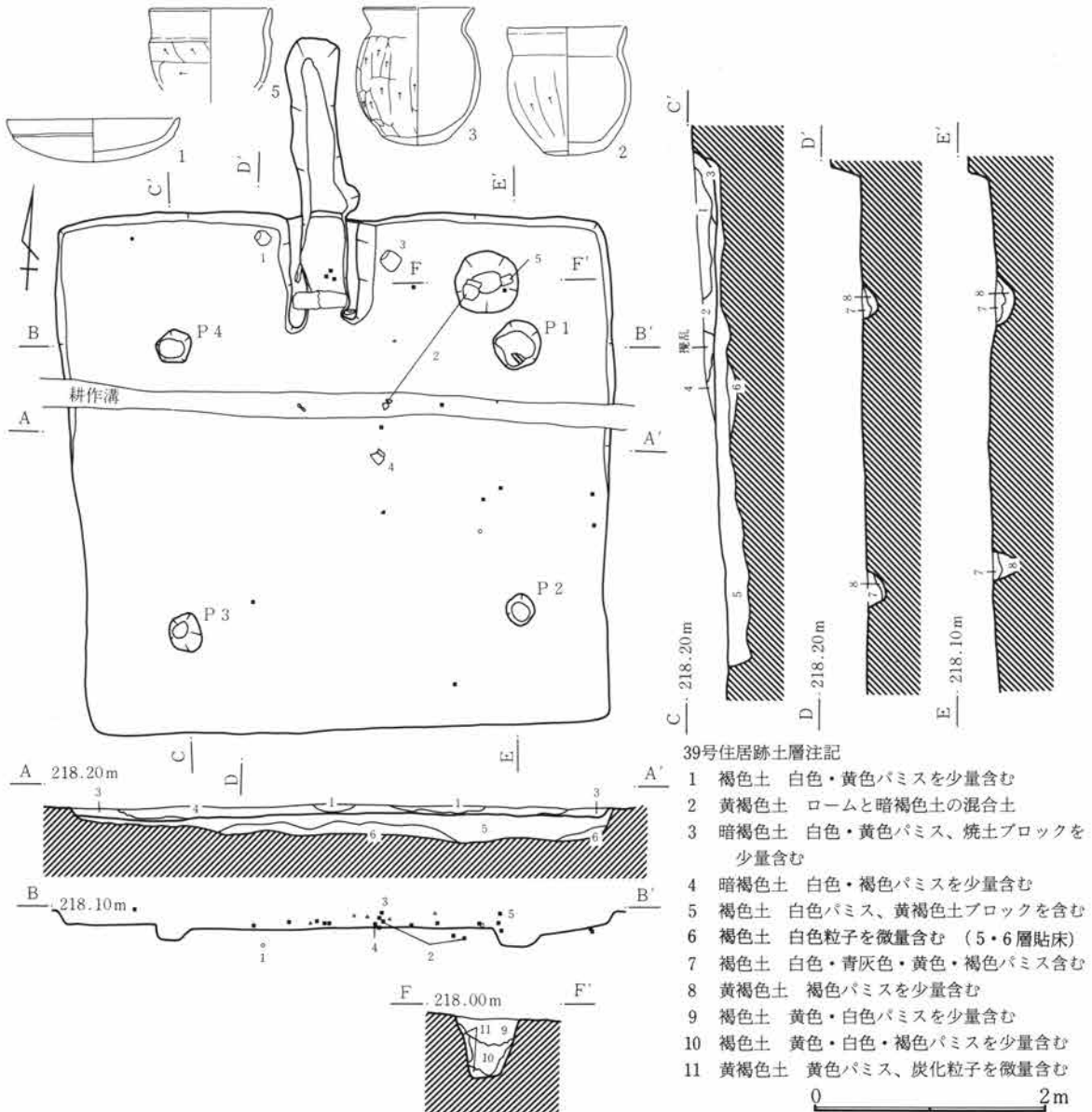
P 4 長径30cm短径28cm深さ14cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.54m 短径0.52m 深さ52cm

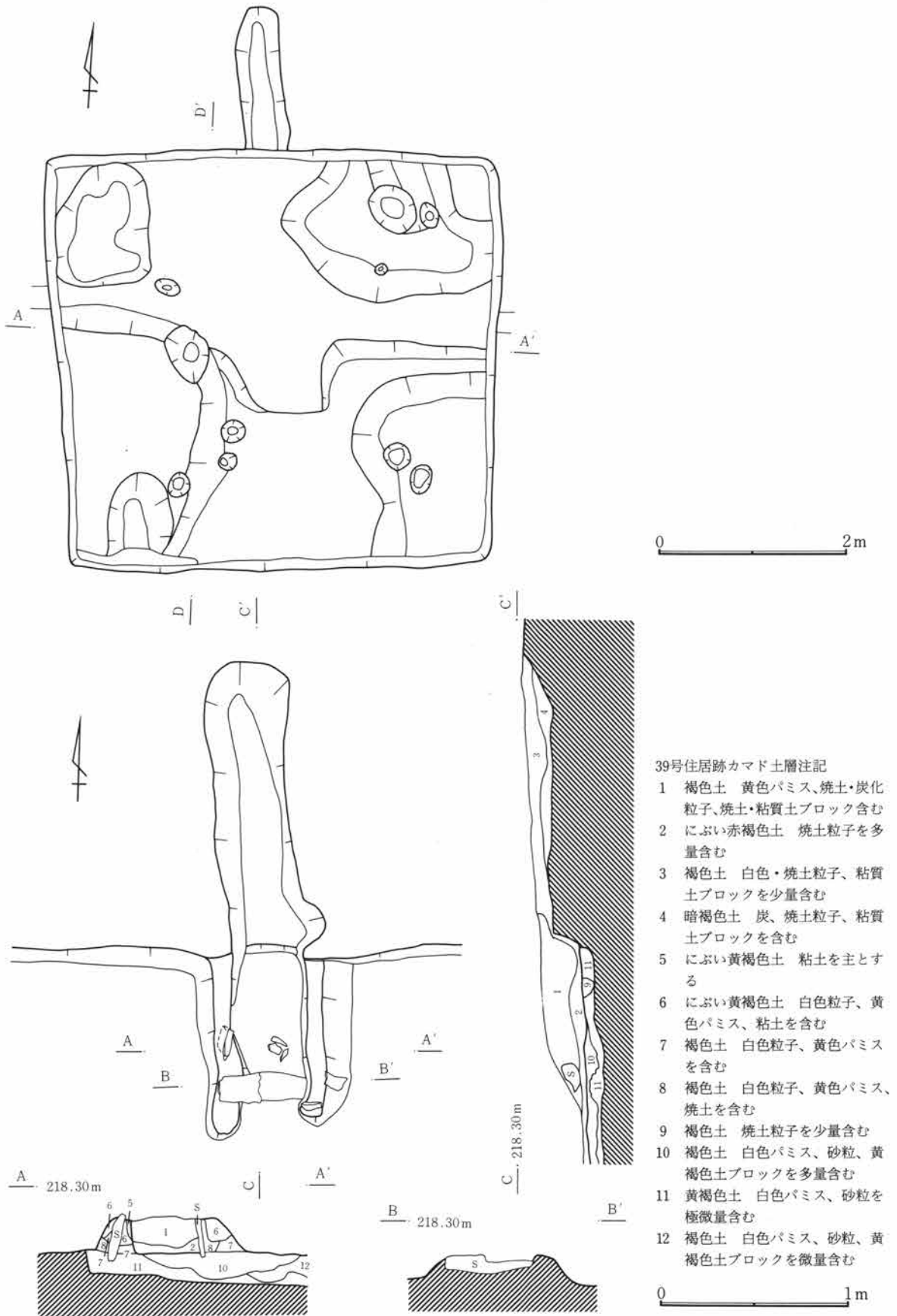
形状 平面形態は東西に長い楕円形で、断面形態は台形である。覆土中から2・5の小型甕が出土している。

床面 褐色土で厚さ5～25cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。

掘り方 土坑状・段状の掘り込みが数ヶ所検出されている。



第206図 39号住居跡



第207図 39号住居跡掘り方およびカマド

第三章 検出された遺構と出土遺物

遺物出土状況 出土量は少なく、住居の東側から多く出土している。垂直分布を見ると、覆土が薄いこともあるが、床面付近からの出土が多い。

カマド

位置 北壁中央部 **主軸方位** N-8°-W **規模** 全長2.50m 幅0.82m 煙道部長1.47m

構築 砂岩の切石を袖石として黄褐色土で袖を構築しているが、右袖石は出土していない。手前に砂岩の天井石が出土している。火床面は床面とほぼ同レベルで、あまり焼けていない。煙道部はほぼ水平に延びているが上部は削平されているため不明である。

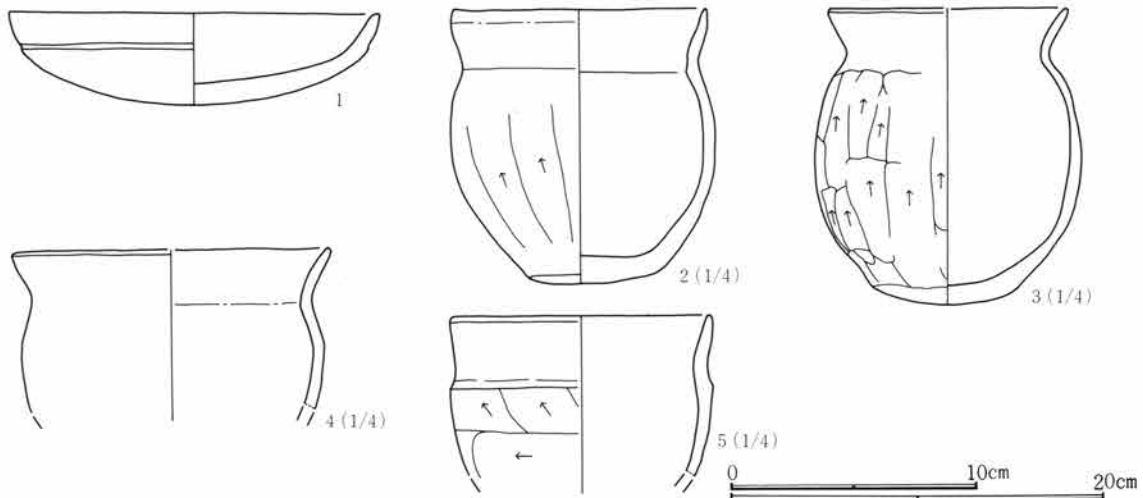
遺物出土状況 燃焼部から土器片が数点出土しているだけである。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕・小型甕・甔、石製品は、滑石の碎片が1点出土している。他に弥生土器が1点出土している。

所見 出土遺物は少ないが、他の住居に比べ小型甕の割合が高くなっている。時期の分かる遺物は少ないが、6世紀後半から7世紀前半にかけての住居と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器				計
	器種	坏	甕	小型甕	
点数	10	14	4	7	35
重量(g)	335	650	1,280	390	2,655



第208図 39号住居跡出土遺物

39号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北西 -16	①14.6cm ②- ③3.6cm ④一部欠損	①②にふい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I C	
2	土師器 小型甕	北東 -10	①13.6cm ②2.5cm ③14.5cm ④一部欠損	①②にふい赤褐 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面ナデ	VIII	
3	土師器 小型甕	北東 +13	①12.6cm ②7.7cm ③15.6cm ④口～底2/3	①②にふい褐 ③不良 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面ナデ	VIII	
4	土師器 小型甕	北東 +13	①(16.9cm)②- ③- ④口～胴部片	①にふい橙 ②にふい褐 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデか	VIII	
5	土師器 小型甕	北東 +12	①(13.3cm)②- ③- ④口～胴部片	①②にふい橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VIII	

40号住居跡

位置 C 0～3-VIII14～16Gr 重複 なし 平面形態 正方形 規模 3.64m×3.56m

壁高 40cm 垂直に近い 面積 13.0m² 床面積 12.0m² 主軸方位 N-5°-E

壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上に4基検出されているが、東側の柱穴と東壁の間が西に比べ非常に狭くなっている。

P 1 長径28cm短径20cm深さ20cm P 2 長径28cm短径24cm深さ20cm P 3 長径34cm短径30cm深さ22cm

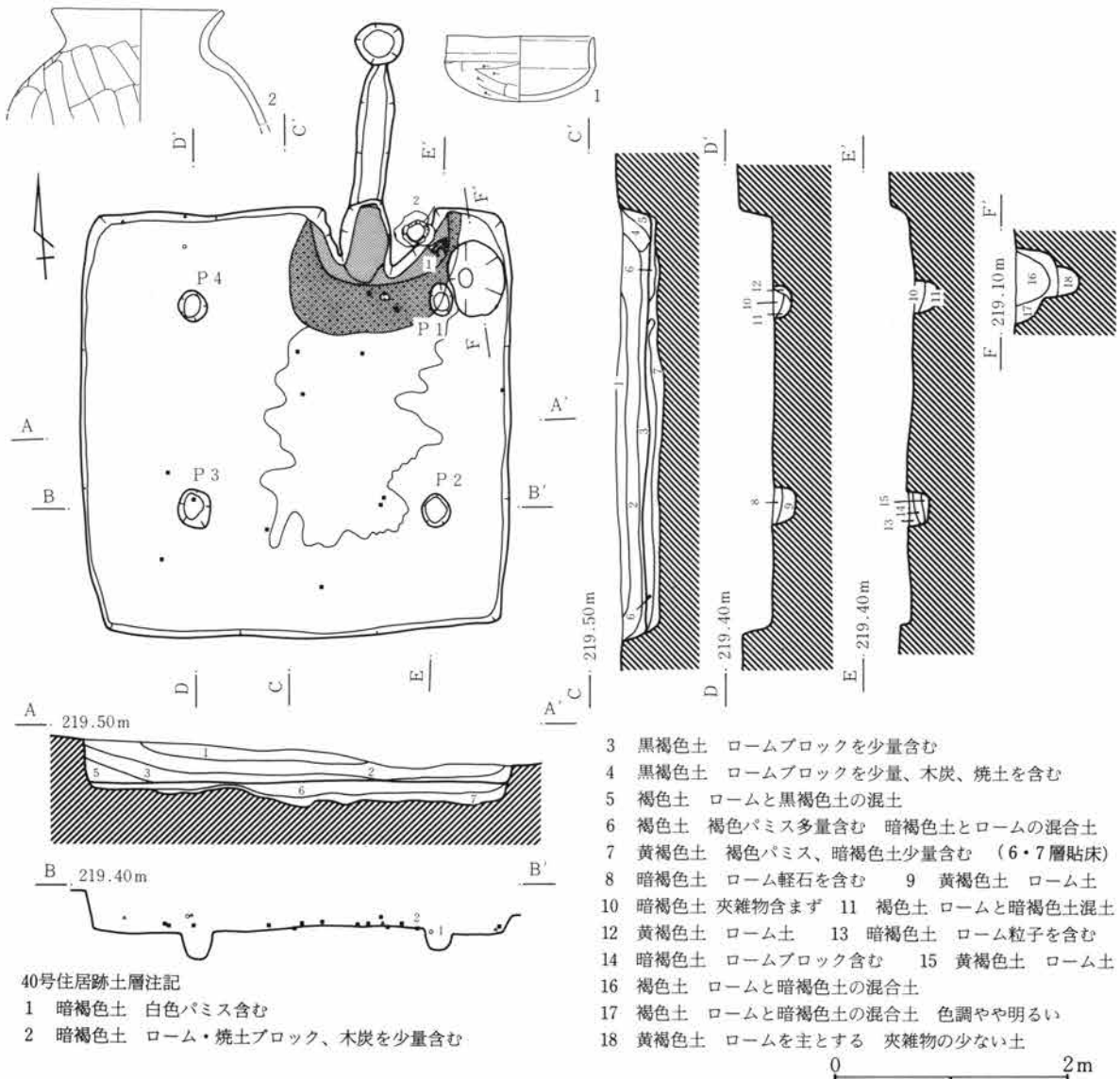
P 4 長径26cm短径24cm深さ16cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.64m 短径0.48m 深さ58cm

形状 平面形態は南北に長い楕円形で、断面形態は、小さな底部から段をもって立ち上がっている。

床面 ロームを含む暗褐色土で厚さ5～20cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。カマド前から南側柱穴付近まで幅約1.5mの硬化面が検出されている。

掘り方 長径0.3～0.9mのピットが5基検出されているが、他の部分は平坦である。



第209図 40号住居跡

遺物出土状況 出土量は少なく、住居内に散在している。

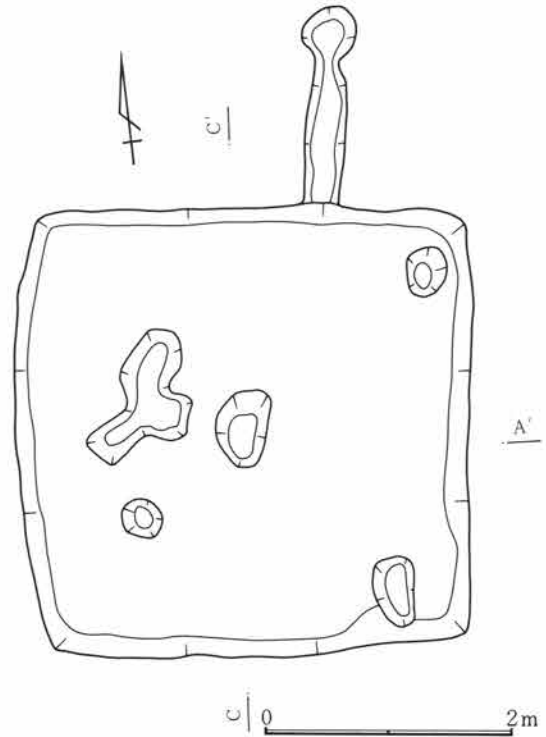
カマド

位置 北壁東寄り **主軸方位** N-10°-E
規模 全長2.13m 幅0.80m 煙道部長1.50m
構築 褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は検出されなかった。火床面は床面より若干低く、袖両脇まで良く焼けている。さらにその手前に焼土と灰の混入層が検出されている。煙道部は途中までやや下がりぎみに延び、さらに水平に延びて垂直に立ち上がっている。

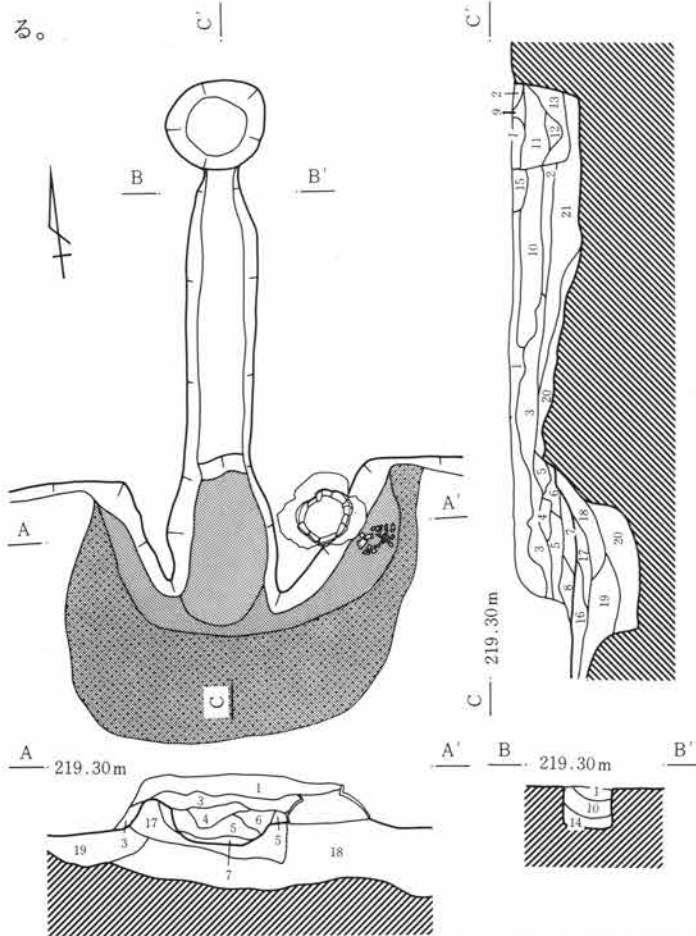
遺物出土状況 右袖に土師器胴張甕の上半部が置かれた状態で出土している。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕・鉢が出土しており、他に弥生土器5点が出土している。

所見 時期のわかる遺物は少ないが、図示した土器は遺棄された可能性が高いため、これらの土器から、6世紀後半～7世紀前半の住居と考えられる。



第210図 40号住居跡掘り方



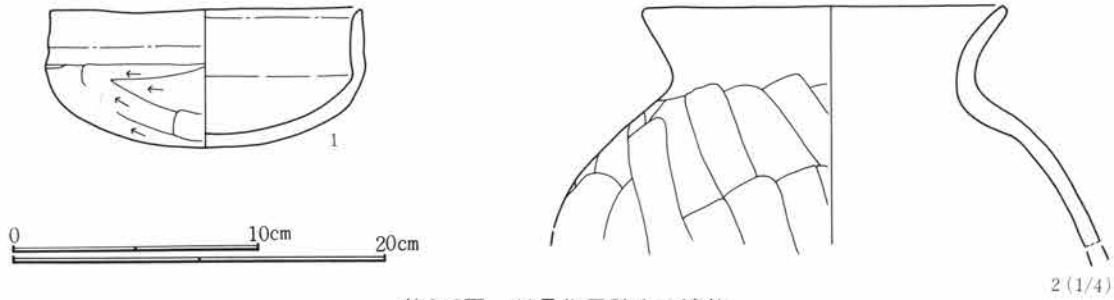
40号住居跡カマド土層注記

- 1 褐色土 焼土粒子を含む
- 2 褐色土 焼土粒子、黄色バミスを含む
- 3 褐色土 炭、焼土を含む
- 4 にぶい黄褐色土 夾雑物の少ない粘質土（天井崩落土）
- 5 暗赤褐色土 炭と焼土を含む
- 6 極暗赤褐色土 焼土を多量、炭、灰を含む
- 7 明赤褐色土 焼土ブロック、灰を含む
- 8 極暗赤褐色土 灰を多量、炭、焼土を含む
- 9 褐色土 焼土粒子、炭化粒子を多量、灰黄褐色土ブロックを含む
- 10 褐色土 砂粒、黄色バミスを少量含む
- 11 暗褐色土 灰黄褐色土ブロックを少量、砂粒、黄色バミスを微量含む
- 12 黄褐色土 ロームの崩れた土を主とする
- 13 褐色土 夾雑物をほとんど含まない
- 14 暗褐色土 灰黄褐色土ブロックを多量含む
- 15 黄褐色土 砂粒、黄色バミスを少量含む
- 16 暗褐色土 焼土粒子、炭化粒子を微量含む
- 17 明赤褐色土 焼土を主とし、暗褐色土ブロックを少量含む
- 18 褐色土 黄色バミス、黄褐色土ブロックを微量含む
- 19 褐色土 黄色バミスを多量含む
- 20 黄褐色土 黄色バミスを微量含む
- 21 暗褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む

第211図 40号住居跡カマド

出土土器数量表

種別	土師器			計
	器種	坏	甕	
点数	8	33	1	42
重量(g)	140	1,110	35	1,285



第212図 40号住居跡出土遺物

40号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
1	土師器 坏	カマド	①(12.4cm)②- ③5.3cm ④口~底1/4	①灰黄褐 ②黒褐 ③不良 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面削り 内面ナデ	I C	
2	土師器 甕	カマド	①(18.0cm)②- ③- ④口~胴1/2	①②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面削り内 面ナデ	VII C	

41号住居跡

位置 C10~12-VIII11~15Gr 重複 46号住より新 44号住・121号土坑より古

平面形態 南側が削平されているため全景は不明であるが、柱穴の位置・柱間距離から推定すると正方形に近くなると考えられる。

規模 5.94m×[4.1m] 壁高 60cm やや傾斜している 面積 [20.1m²] 床面積 [17.5m²]

主軸方位 N-6°-W 壁溝 なし

柱穴 削平のため南側は不明であるが、北側の2基が検出されている。柱間が3.9mと広いが、柱穴と壁の間は狭く、特に東側の柱穴は西側に比べ壁に寄っている。

P1 長径45cm短径42cm深さ34cm P2 長径43cm短径41cm深さ39cm

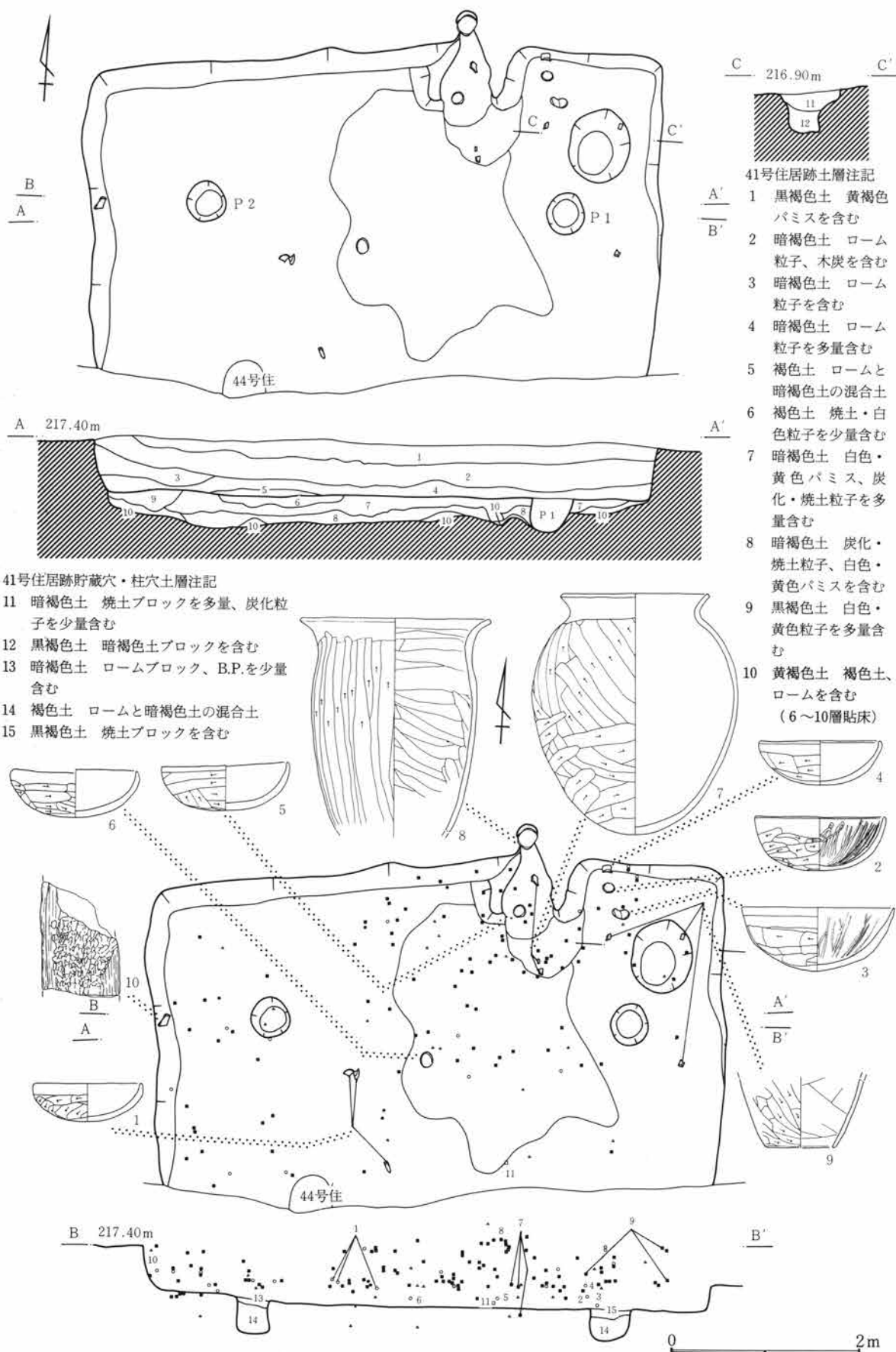
貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.78m 短径0.62m 深さ42cm 形状 円形

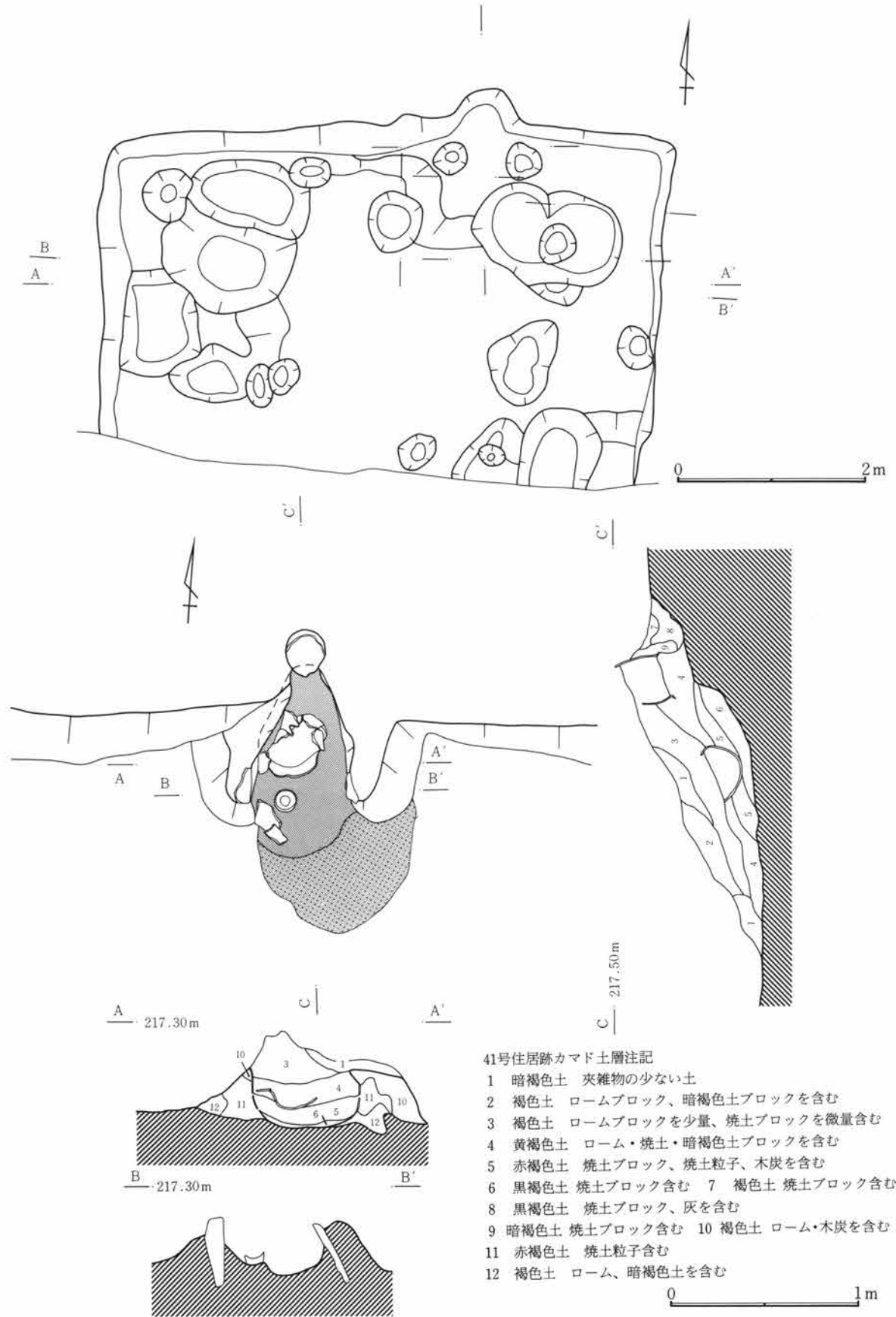
床面 暗褐色土で厚さ10~35cmの貼床としており、ほぼ平坦な床面である。カマド前から東西2.3m南北2.8mの範囲で硬化面(図中の実線の内側)が検出されている。

掘り方 長径1.0~1.5mの土坑状の掘り込みが、西側に4基接して、また東側に5基集中して検出されており、他にピットが数基検出されている。

遺物出土状況 ほぼ全面から出土しているが、カマドおよびその周辺にやや集中している。垂直分布も上層から下層まで出土しているが、床面付近はやや少なくなっている。接合関係の判明するものは3点あり、床面付近と中層が接合しているものと、覆土上層・中層が接合しているものがある。

第三章 検出された遺構と出土遺物





第214図 41号住居跡掘り方およびカマド

カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-4°-E 規模 全長1.02m 短径1.23m

構築 砂岩の切り石を袖石とし、褐色土で袖を構築している。火床面は床面とほぼ同レベルでよく焼けており、その手前には灰と焼土の混入土が検出されている。煙道部から8の甕が出土しており、構築材としていた可能性が高い。

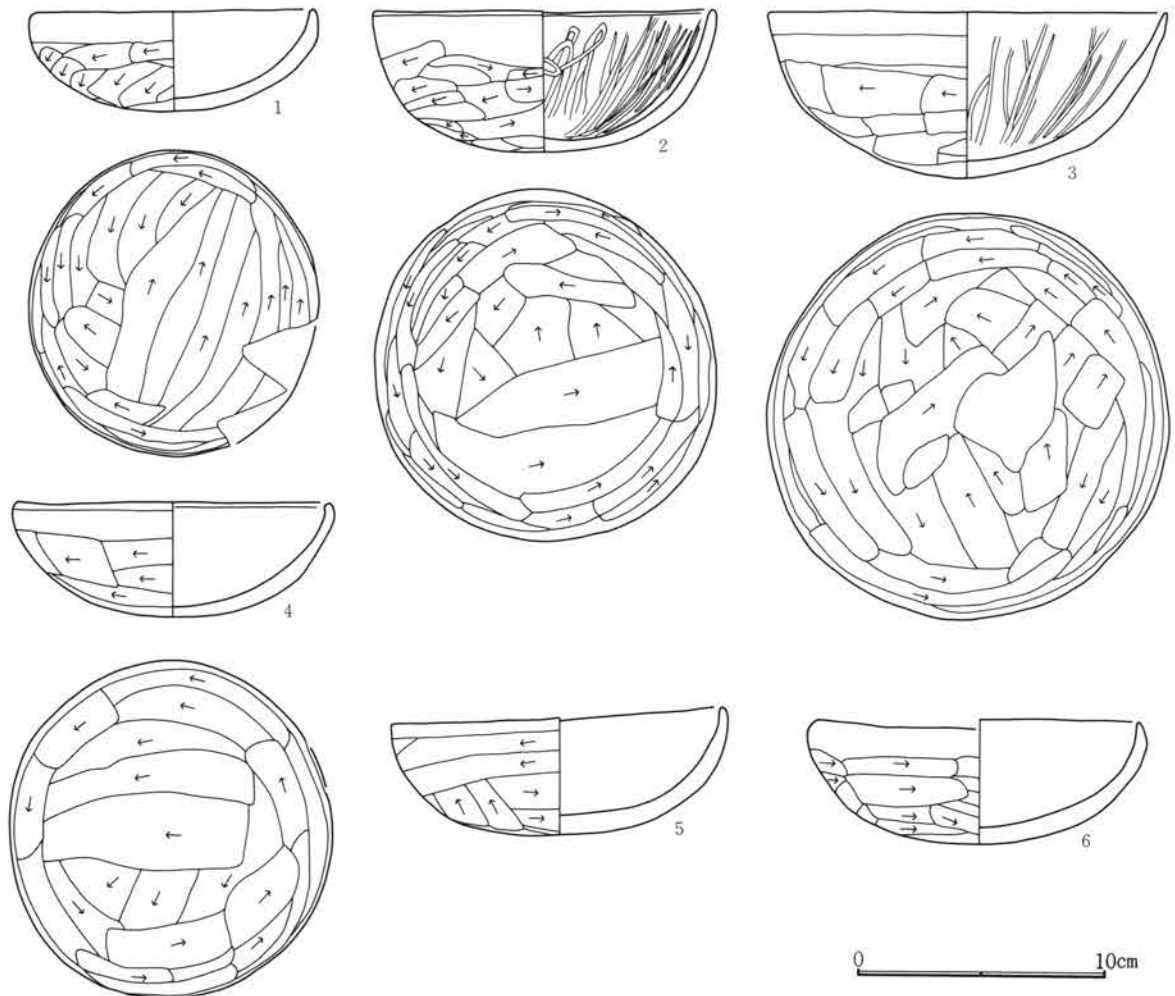
遺物出土状況 燃焼部から、5の坏と7の甕が出土しており、煙道部から8の甕が出土している。また右脇から2・3・4の坏が出土している。

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器坏・高坏・甕・甗・器形不明、須恵器坏が出土し、石製品は滑石碎片が1点出土している。

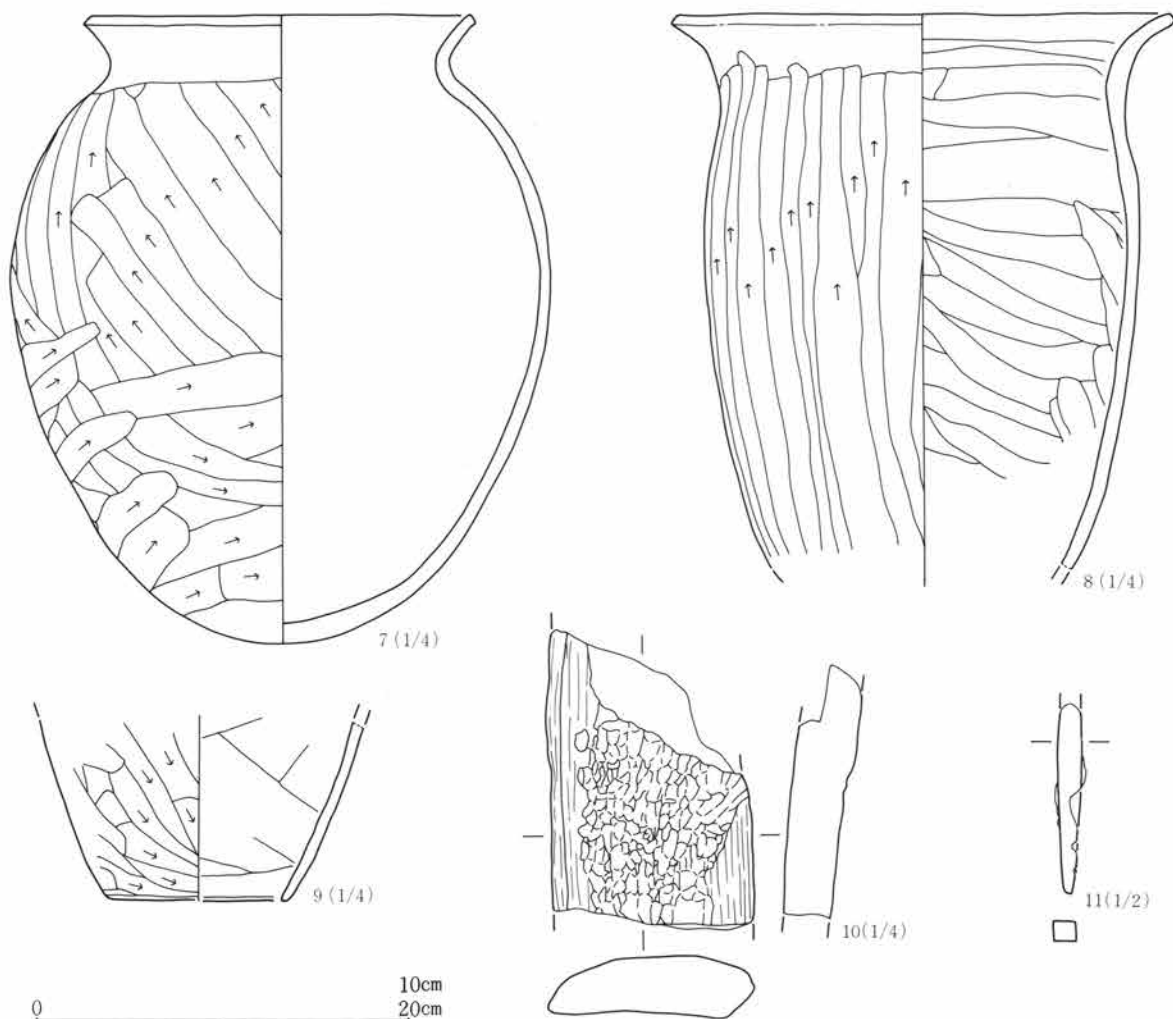
所見 完形に近い遺物は多いが、床面直上出土のものは無く覆土中～下層から多く出土している。このため住居に遺棄されたものとは言えないが、時期的には近いものと考えられる。これらの遺物から、7世紀後半～8世紀前半の住居と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器					須恵器	計
	坏	高坏	甕	甗	不明		
器種	坏	高坏	甕	甗	不明	坏	
点数	51	1	218	18	1	2	291
重量(g)	1,615	40	8,050	375	10	10	10,100



第215図 41号住居跡出土遺物(1)



第216図 41号住居跡出土遺物(2)

41号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北西 +20	①11.4cm ②— ③3.9cm ④ほぼ完形	①②橙 ③良好 ④細 細砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
2	土師器 坏	北東 +12	①13.5cm ②— ③5.5cm ④完形	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I D	
3	土師器 坏	北東 +4	①16.0cm ②— ③6.5cm ④ほぼ完形	①②明赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I D	体部上半 無調整
4	土師器 坏	北東 +25	①12.4cm ②— ③4.5cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
5	土師器 坏	カマド	①13.3cm ②— ③4.6cm ④完形	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 外面円形に黒変	I D	
6	土師器 坏	北東 +9	①12.7cm ②— ③4.9cm ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I D	
7	土師器 甕	カマド	①20.6cm ②— ③33.3cm ④口～底4/5	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面ナデ	VII C	
8	土師器 甕	カマド	①26.6cm ②— ③— ④口～胴部	①にぶい橙 黄灰 ②にぶい褐 ③良好 ④粗 粗砂・細砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII A	
9	土師器 甕	北東 +32	①— ②(8.4cm) ③— ④底部1/4	①明赤褐 黒 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	胴部外面篋削り内面篋ナデ	XII A	

第三章 検出された遺構と出土遺物

41号住居跡出土石器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
10	台石	北西+44	[15.9]	[11.1]	4.2	800	1/2	絹雲母石墨片岩	片面に敲打痕あり

41号住居跡出土鉄器観察表

No.	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
11	角釘	覆土	5.0	0.6	0.6	5.3	上半部欠損	

42号住居跡

位置 C 8・9-VII15~17Gr 重複 49号住居より新 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 4.14m×30m 壁高 22cm 垂直に近い 面積 11.3m² 床面積 10.1m²

主軸方位 N-3°-W 壁溝 なし 柱穴 なし 貯蔵穴 なし

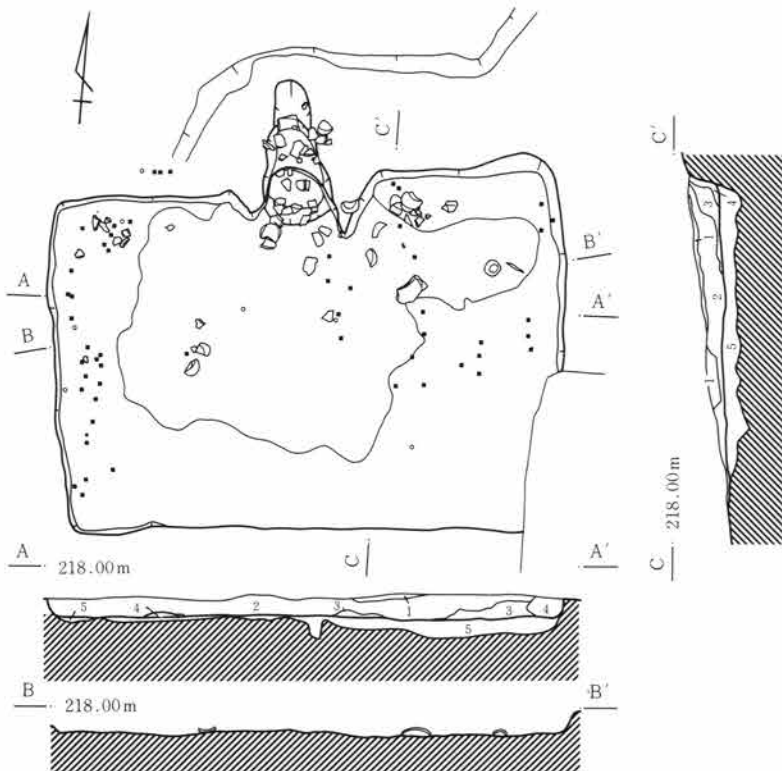
床面 暗褐色土で厚さ5~15cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。カマド前から住居中央部にかけて硬化面が検出されている。(図の実線の内側)

掘り方 北東部に長径1.3m短径1.1m深さ15cmの土坑状の掘り込みが検出されており、他に段状の掘り込みや小規模なピットが数基検出されている。

遺物出土状況 カマドおよび北東部と西壁際に集中しており、中央部から南側からはほとんど出土していない。垂直分布を見ると、下層から床面付近が多く、床下からも出土している。接合関係の判明するものは3点あり、床面付近と覆土中が接合しているもの、覆土中・床面付近が接合しているものがある。

カマド

位置 北壁中央部 主軸方位 N-8°-W 規模 全長1.23m 幅1.13m



42号住居跡土層注記

- 1 暗褐色土 炭化粒子、焼土粒子、黄色バミスを少量含む
- 2 暗褐色土 炭化粒子、焼土粒子、黄色バミスを多く含む
- 3 褐色土 炭化粒子、焼土粒子、褐色バミスを含む
- 4 黄褐色土 褐色土、ロームを含む
- 5 暗褐色土 白色粒子、黄色バミス、炭化粒子を少量、焼土粒子を微量含む 貼床

0 2m

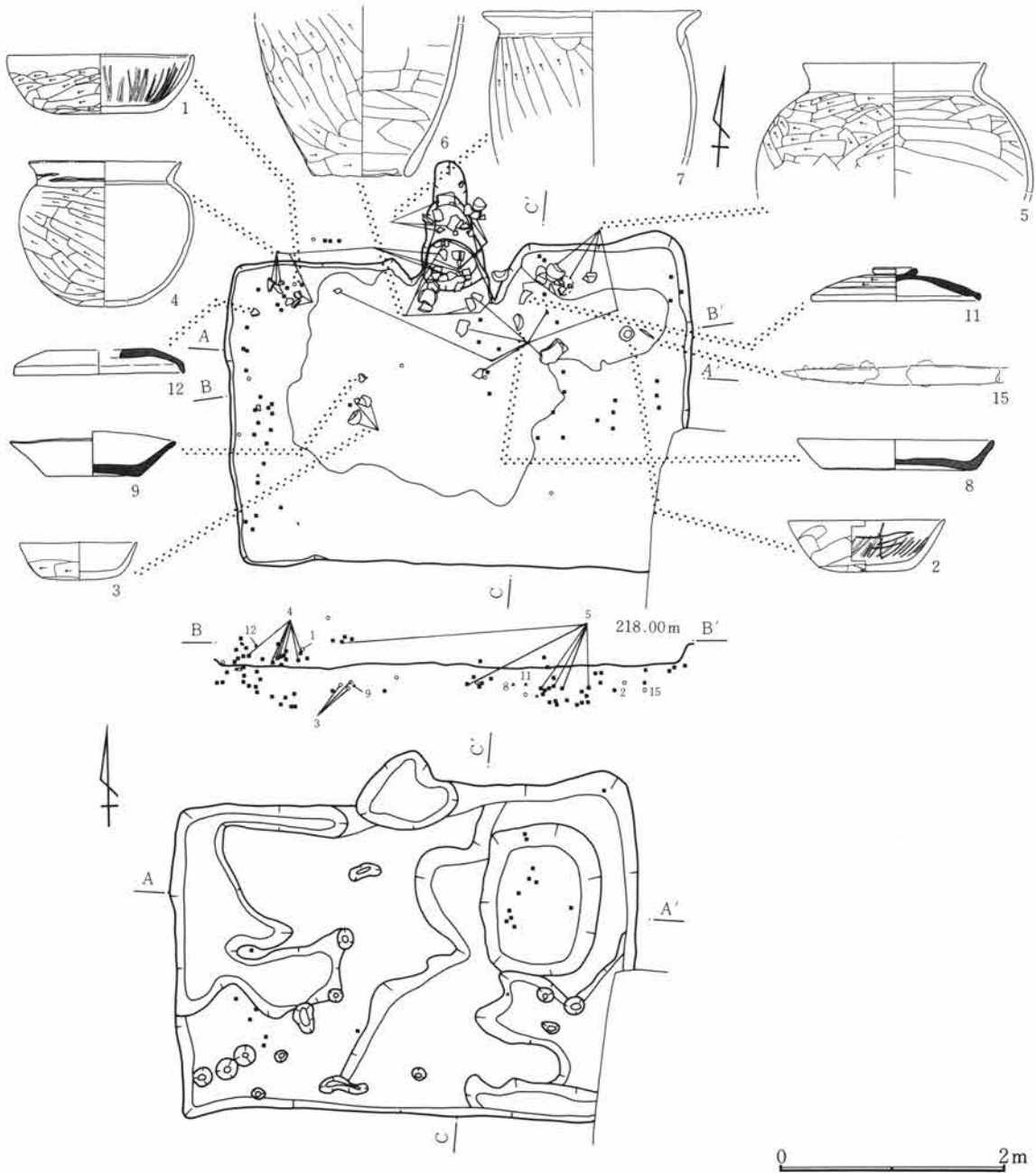
第217図 42号住居跡

構築 褐色土で袖を構築しているが、左袖は残りが悪く、また袖石・天井石等は出土していない。火床面は床面より若干低く、あまり焼けていない。煙道部は斜めに立ち上がっている。

遺物出土状況 燃烧部から、4・5・6・7の甕・甔の破片が多量に出土しており、右脇からも破片が出土している。

出土遺物 出土量は多く、土器は、土師器坏・埴・甕・甔、須恵器坏・蓋・甕が出土し、不明石製品が1点、鉄製刀子が1点出土している。他に弥生土器が1点出土している。

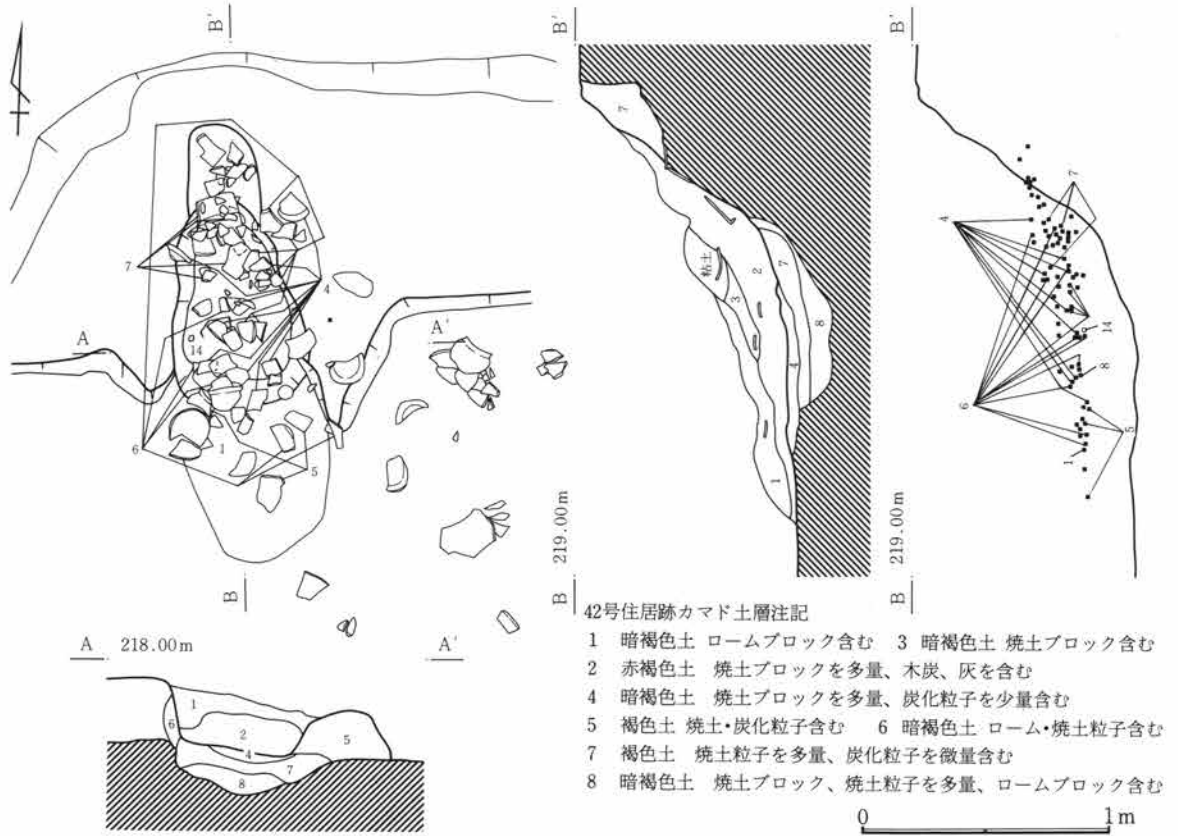
所見 床面直上出土で住居に遺棄されたと考えられる遺物がかなりあるため、これらの土器から8世紀中～後半代の住居と考えられる。



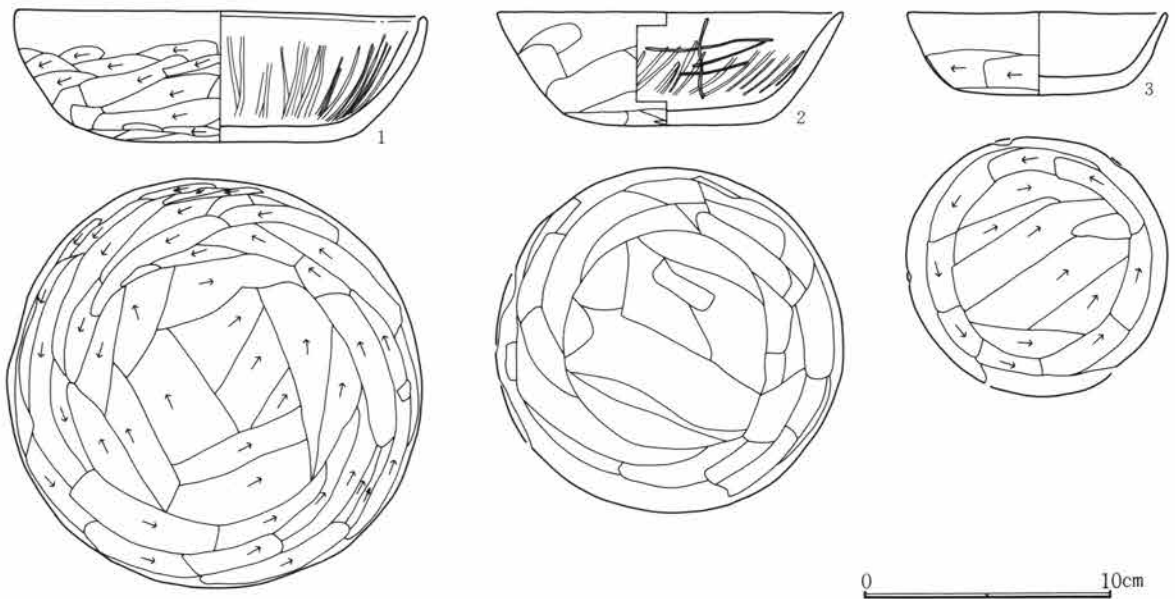
第218図 42号住居跡遺物出土状況および掘り方

出土土器数量表

種別	土師器				須恵器			計
	坏	埴	甕	甗	坏	蓋	甕	
点数	63	1	458	1	3	9	5	540
重量(g)	1,380	70	8,680	215	425	335	100	11,205

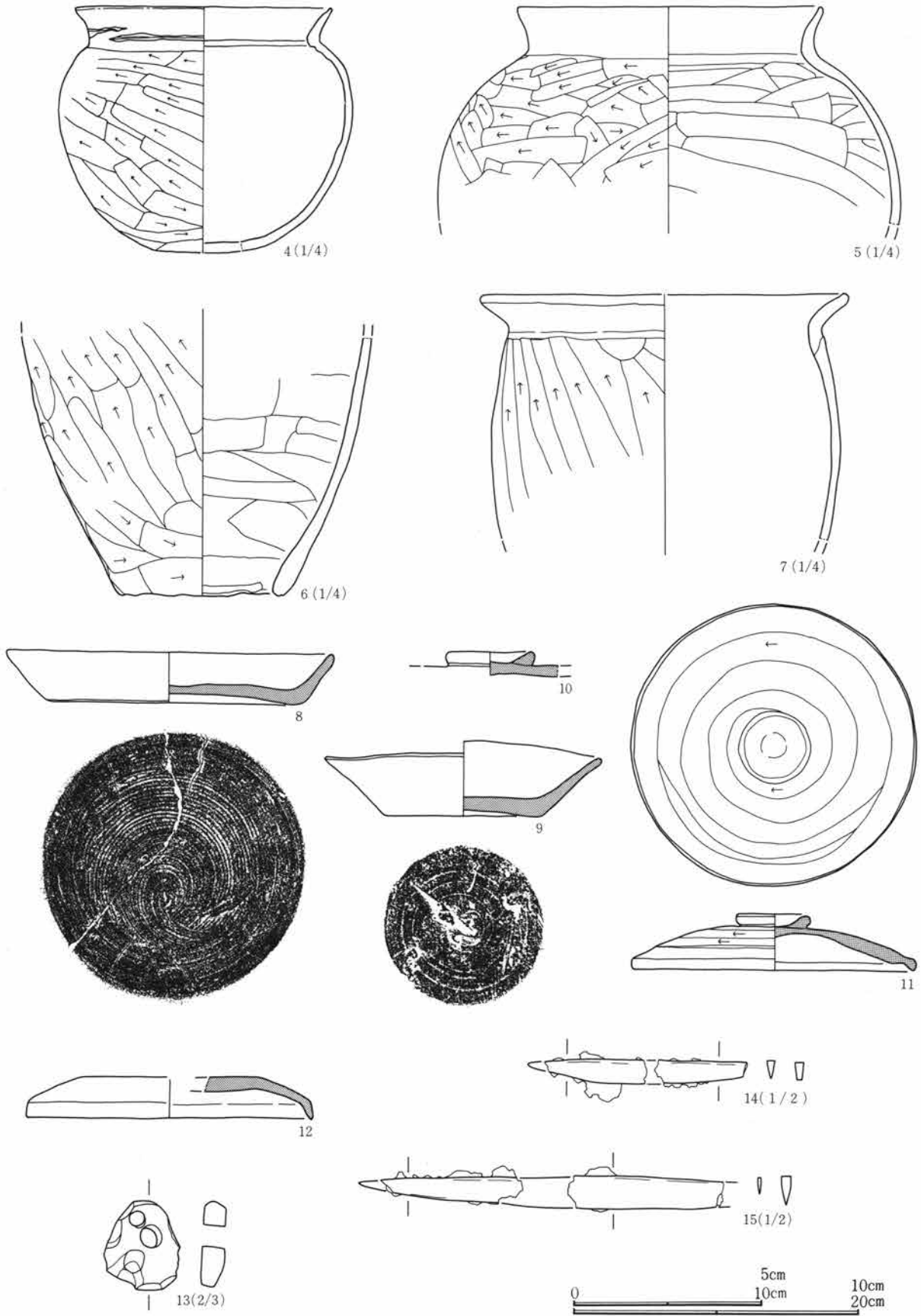


第219図 42号住居跡カマド



第220図 42号住居跡出土遺物(1)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第221図 42号住居跡出土遺物(2)

第三章 検出された遺構と出土遺物

42号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	カマド	①16.1cm ②10.7cm ③5.1cm ④ほぼ完形	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I	F
2	土師器 坏	北東 -18	①13.6cm ②8.3cm ③4.4cm ④ほぼ完形	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文 内面に 焼成後刻書「王」か	I	E
3	土師器 坏	南西 -20	①13.8cm ②9.6cm ③4.3cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	I	E
4	土師器 甕	カマド	①(18.0cm)②- ③(17.1cm)④口～底1/2	①にぶい褐 黒 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面篋ナデ	VII	C
5	土師器 甕	カマド	①21.0cm ②- ③- ④口～胴部	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII	C
6	土師器 甕	カマド	①- ②11.6cm ③- ④胴～底部	①にぶい褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴部外面篋削り内面篋ナデ	XI	A
7	土師器 甕	カマド	①(25.0cm)②- ③- ④口～胴2/3	①にぶい赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII	A
8	須恵器 坏	カマド	①17.0cm ②13.0cm ③2.6cm ④完形	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・礫・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 後外周回転篋削り	I	C
9	須恵器 坏	北西 -19	①14.3cm ②8.0cm ③3.9cm ④完形	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り	I	B
10	須恵器 蓋	覆土	①- 鈕径4.2cm ③- ④鈕部	①②黄灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整 高台状鈕貼付け	III	D
11	須恵器 蓋	北東 -14	①14.7cm 鈕径3.6cm ③2.9cm ④完形	①②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り 後高台状鈕貼付け	III	D
12	須恵器 蓋	北西 +19	①(15.0cm)②- ③- ④天井～口縁部片	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂を少量含む	ロクロ調整 天井部回転篋削り	III	

42号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
13	不明	覆土	2.3	2.0	0.7	5	完形	凝灰岩	径6mmと4mmの孔あり

42号住居跡出土鉄器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
14	刀子	北東-20	[6.8]	1.1	0.3	7.4	刃部残存	関は刃部にあるが斜めではっきりしない
15	刀子	カマド	[10.4]	0.9	0.3	5.6	刃部残存	関は不明

43号住居跡

位置 C 4～6-VI94～96Gr 重複 なし 平面形態 東西に長い長方形 規模 4.86m×4.14m

壁高 6cm 面積 19.0m² 床面積 18.2m² 主軸方位 N-2°-E 壁溝 なし

柱穴 床面上に、東西方向に3基ずつ計6基のピットが検出されており、他の住居と様相を異にしている。対角線上にあるのは1基だけであり、また柱間も一定でなく、深さも浅いものが多いため柱穴とするには疑問が残る。

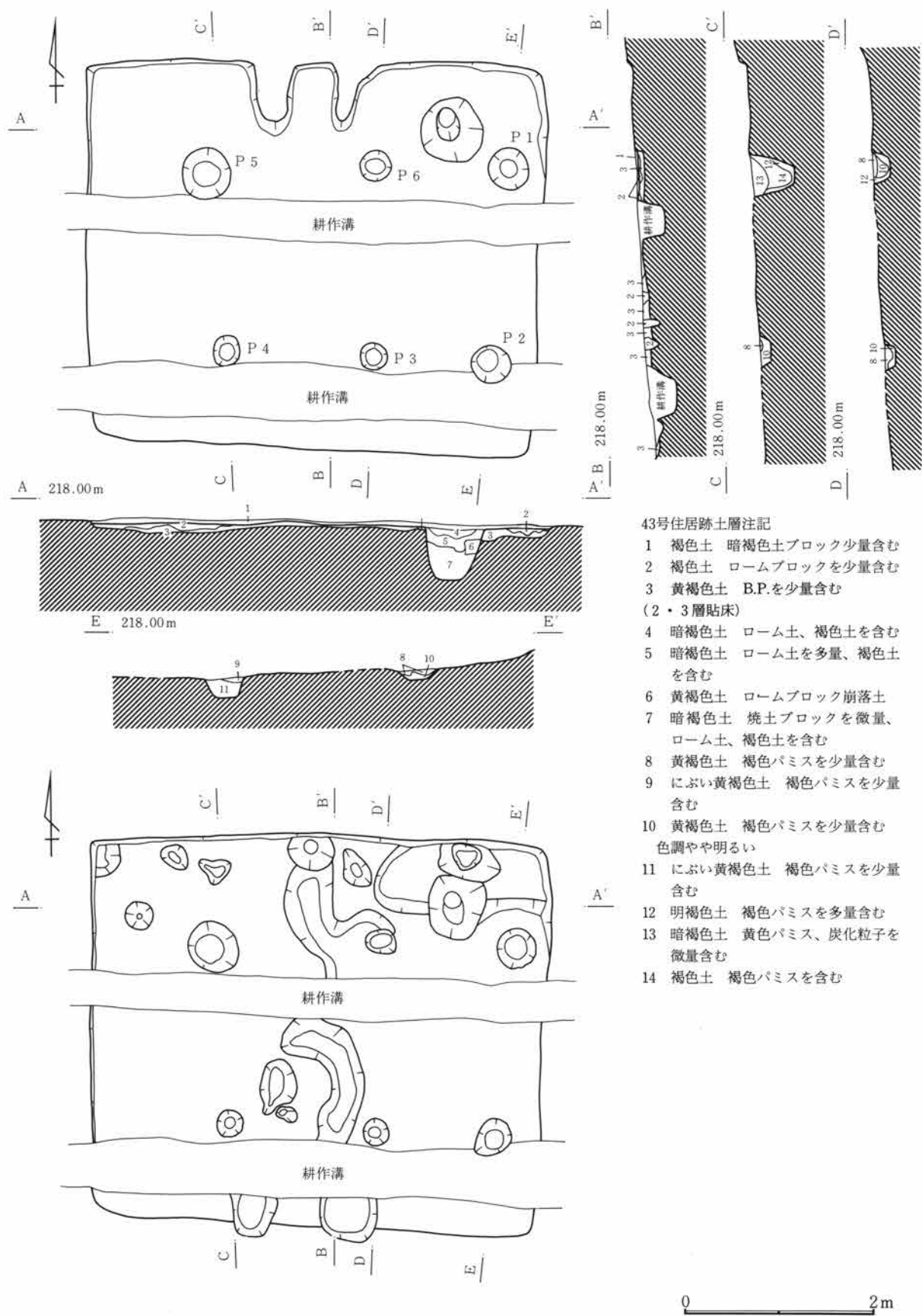
P 1 径42cm深さ10cm P 2 長径38cm短径40cm深さ20cm P 3 径28cm深さ12cm

P 4 長径32cm短径28cm深さ12cm P 5 長径54cm短径50cm深さ44cm P 6 長径34cm短径32cm深さ18cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.66m 短径0.66m 深さ52cm

形状 平面形態は円形で、断面形態は台形に近いが、やや小さく平坦な底部から丸みをもって立ち上がっている。

床面 削平が著しく南側は床面が残っていないが、褐色土で厚さ3～10cmの貼床とし、やや凹凸のある床面となっている。



第222図 43号住居跡

第三章 検出された遺構と出土遺物

掘り方 ピットおよび土坑状の掘り込みが数基検出されている。

遺物出土状況 出土遺物なし

カマド

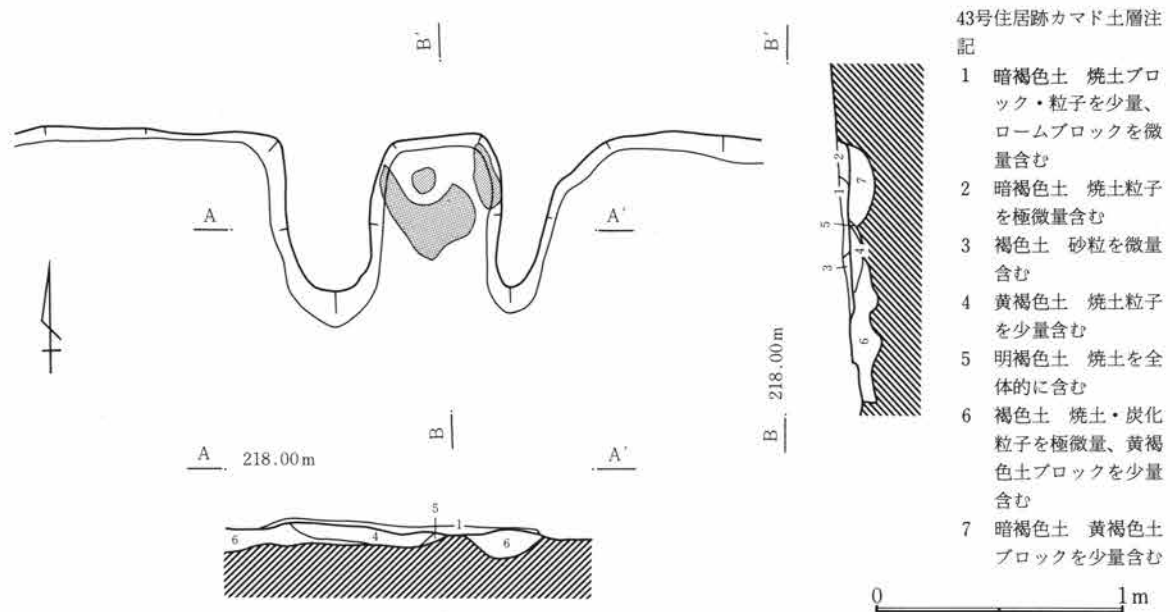
位置 北壁中央部 **主軸方位** N-3°-E **規模** 全長0.76m 幅1.14m

構築 褐色土で袖を構築していると考えられるが、上部はほとんど削平されている。火床面は床面とほぼ同レベルで、部分的に焼けている。

遺物出土状況 なし

出土遺物 なし

所見 出土遺物が無いため遺物から時期を推定することはできない。柱穴に位置的に疑問が残るが、形態から考えると、古墳時代後期の住居の可能性が高い。



44号住居跡

位置 C11-VII13Gr **重複** 41号住居より新 **平面形態** カマド以外すべて削平されているため不明

カマド

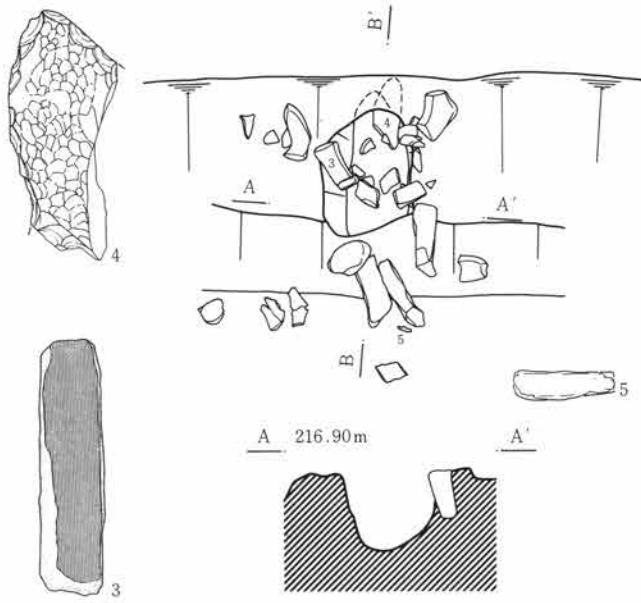
位置 北壁 **主軸方位** N-2°-E **規模** 全長 [0.74m] 幅 [0.45m]

構築 削平が著しく詳細は不明であるが、右袖石が出土している。

遺物出土状況 燃焼部内から土師器片およびカマド構築材と思われる石が出土している。3・4は、砥石・台石であるが、カマド構築材に転用されている可能性がある。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕が、石製品は、砥石1点、台石1点が出土し、また不明鉄製品が1点出土している。

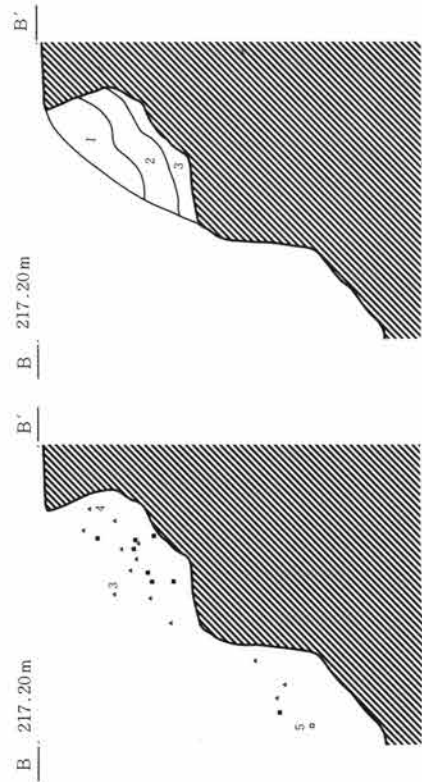
所見 カマドしか検出されていないため、詳しい時期も不明であるが、41号住より新しく、図示した土器の時期が8世紀代と考えられるため、8世紀代の住居と考えられる。



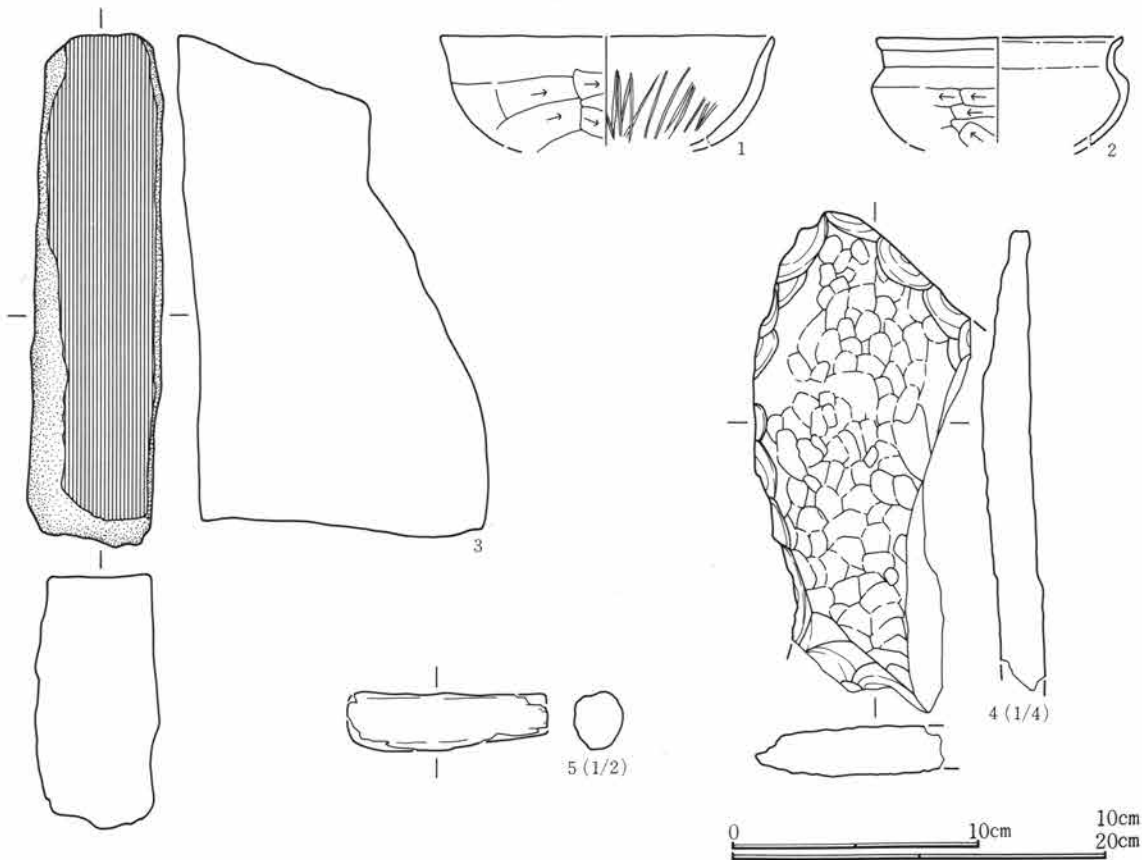
44号住居跡カマド土層注記

- 1 褐色土 粘土を主とする
- 2 赤褐色土 焼土ブロックを主とする
- 3 暗褐色土 灰を少量含む
- 4 黄褐色土 ローム土

0 1m



第224図 44号住居跡カマド



第225図 44号住居跡出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物

44号住居跡出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	覆土	①(13.2cm)②- ③- ④口縁部片	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後放射状暗文	I	
2	土師器 坏	覆土	①(9.8cm)②- ③- ④口～胴部片	①②橙 ③良好 ④細 粗砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ	I	

44号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
3	台石か	カマド	[26.6]	[11.6]	2.8	900	3/4	絹雲母石墨片岩	片面に敲打痕あり
4	砥石	カマド	20.1	5.3	12.3	1400	完形	砂岩	1面使用

44号住居跡出土鉄器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
5	不明	カマド	[5.4]	1.5	1.3	19.4	ほぼ完形	短い棒状の鉄製品

出土土器数量表

種 別	土 師 器		計
	器 種	坏 甕	
点 数	4	47	51
重量(g)	60	1,000	1,060

45号住居跡

位置 C13～15-VII31～34Gr 重複 28・29号住より古 平面形態 東西に長い隅丸長方形

規模 5.46m×4.59m 壁高 57cm やや傾斜している 面積 15.7㎡ 床面積 14.8㎡

主軸方位 N-1°-W 壁溝 なし 柱穴 なし

貯蔵穴 北東部は削平されているが、カマドと東壁の位置を考えると北東隅には存在しない可能性が高い。

床面 ロームを含む黒褐色土で5～20cmの貼床としているが、凹凸の多い床面である。北東部は29号住に切られているため不明であるが、中央部から西側にかけて硬化面(図中の実線の内側)が検出されている。また、南壁際中央から南西隅にかけて、浅い掘り込みが3カ所検出されているが、南壁際中央の掘り込みから、38×25cmの範囲でカヤ状炭化物が出土している。

掘り方 北東部を除き、長径25～65cmのピットが9基検出されているが、他の部分は、若干の凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

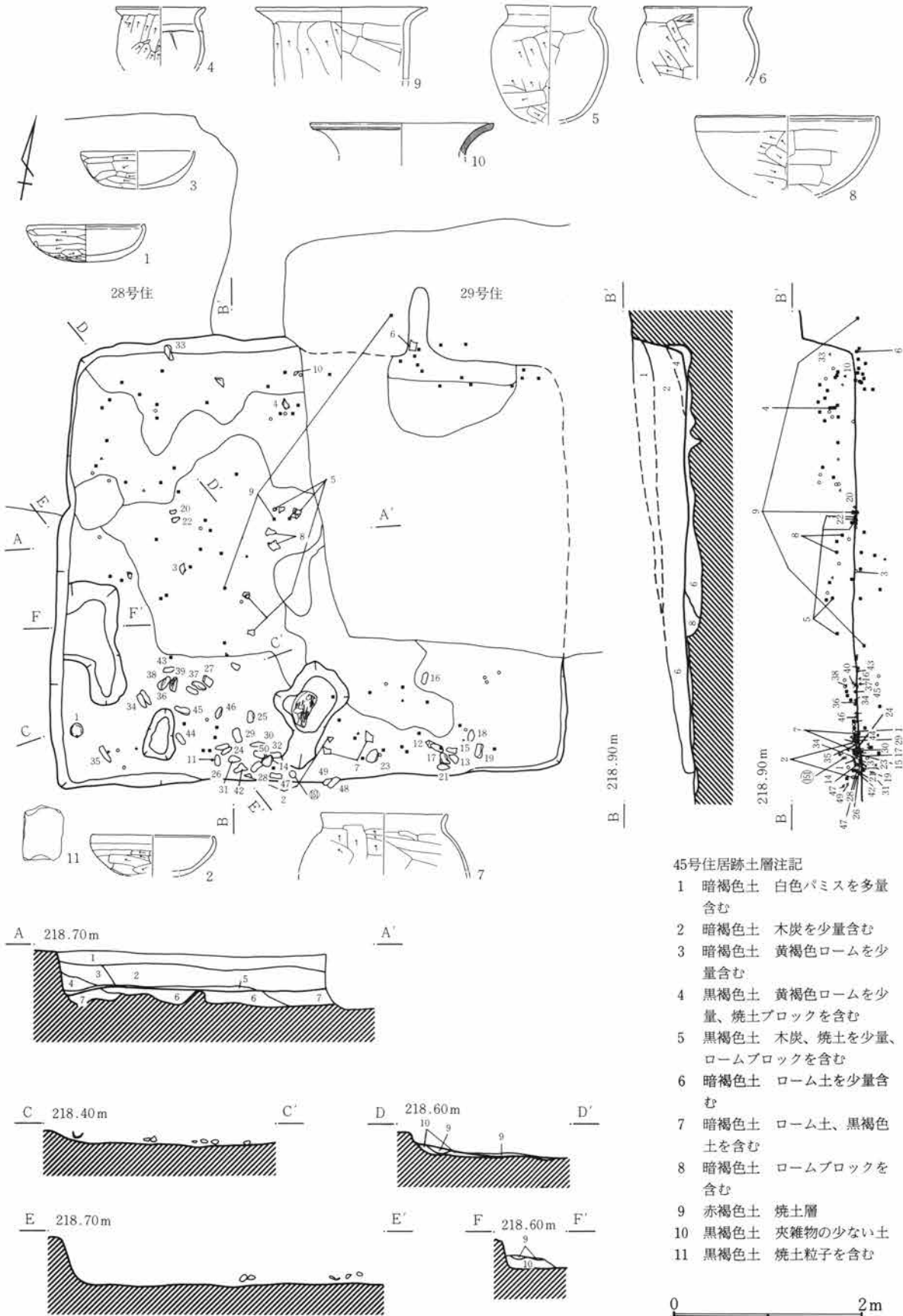
遺物出土状況 出土量は少なく、住居のほぼ全面から出土しているが、北西部にやや多い。垂直分布は、上層から下層まで出土している。こも編石は、南壁際中央から北西にかけてと、南壁際東寄りの2カ所に集中して出土した。接合関係の判明するものは5点あり、床面付近が接合しているものが多いが、覆土中と床面付近が接合しているものもある。9の甕は29号住出土の破片と接合している。

カマド

位置 北壁東寄り 主軸方位 N-9°-W 規模 全長0.76m 幅0.66m

構築 上部をほとんど29号住に壊されており、燃烧部と煙道部の底面が一部残存し、若干の焼土粒子が検出されただけで、詳細は不明である。

遺物出土状況 6の小型甕の他、土師器の小破片が少量出土している。



第226図 45号住居跡

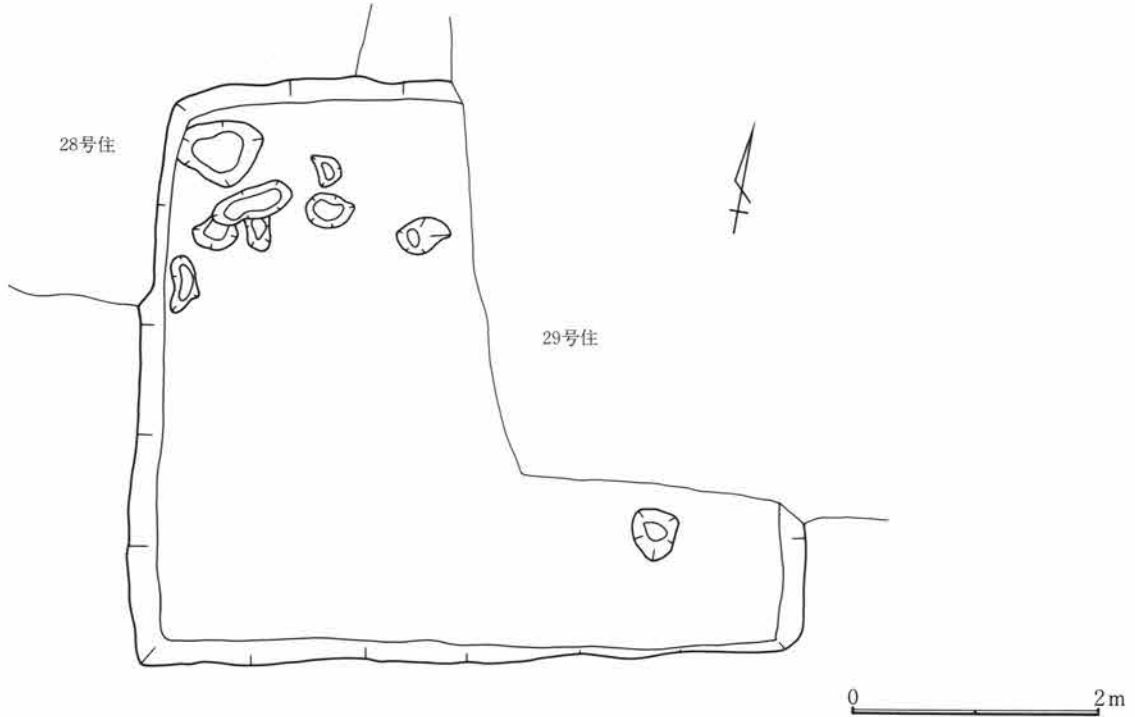
第三章 検出された遺構と出土遺物

出土遺物 土器は、土師器坏・埴・甕・小型甕・鉢・甗、須恵器甕が、石製品は、滑石碎片が8点、こも編石が39点出土している。他に弥生土器が3点出土している。

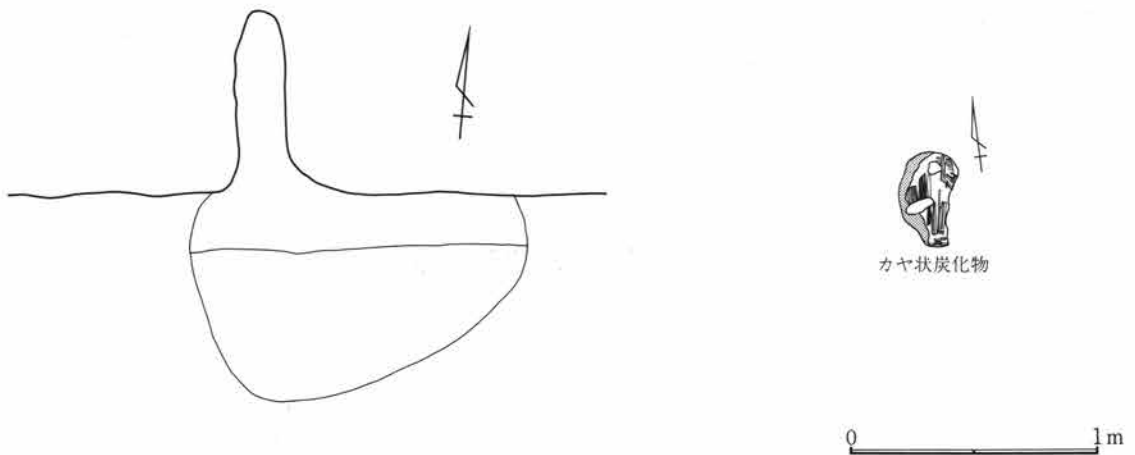
所見 覆土中の遺物もかなりあるが、1～3の坏等の、床面直上出土で住居に遺棄されたと考えられる遺物もある。これらの遺物から、住居の時期は、8世紀前半代と考えられる。

出土土器数量表

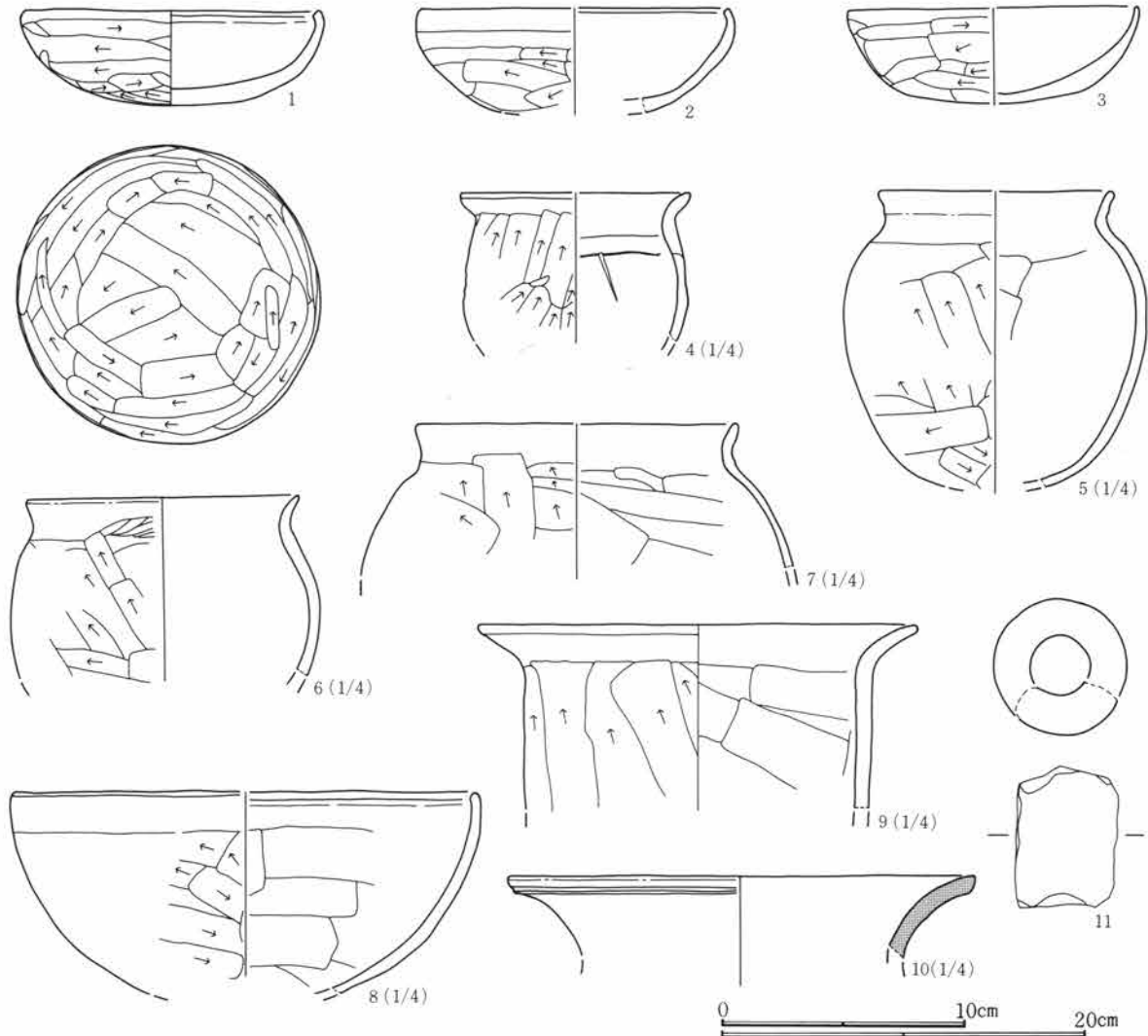
種別	土師器							須恵器	計
	坏	埴	甕	小型甕	鉢	甗	甕		
点数	42	1	97	3	2	1	1	147	
重量(g)	820	45	2,295	400	145	55	110	3,870	



第227図 45号住居跡掘り方



第228図 45号住居跡カマドおよびカヤ状炭化物



第229図 45号住居跡出土遺物

45号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
1	土師器 坏	南西 +5	①12.0cm ③3.8cm	②— ④完形	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ り内面ナデ	体～底部外面 篋削り	I D	
2	土師器 坏	北西 +5	①13.0cm ③—	②— ④口～体1/3	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ り内面ナデ	体～底部外面 篋削り	I D	体部外面 一部黒変
3	土師器 坏	南西 -2	①(12.0cm) ③3.8cm	②— ④口～底1/2	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ り内面ナデ	体～底部外面 篋削り	I D	
4	土師器 小型甕	北西 +24	①(12.4cm) ③—	②— ④口～胴1/3	①にぶい褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ	胴部外面篋削り内 面ナデ	VIII	
5	土師器 小型甕	北西 -2	①(12.8cm) ③—	②— ④口～胴1/4	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ	胴部外面篋削り内 面一部篋ナデ	VIII	
6	土師器 小型甕	カマド	①14.6cm ③—	②— ④口～胴部片	①にぶい橙 ②灰褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ	胴部外面篋削り内 面ナデ	VIII	
7	土師器 甕	南東 ±0	①(17.4cm) ③—	②— ④口～胴1/4	①にぶい赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ	胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
8	土師器 鉢	北西 +12	①(26.0cm) ③—	②— ④口～胴部片	①②橙 ③良好 ④普通 粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ り内面篋ナデ	体～底部外面 篋削り	X C	
9	土師器 甕	北西 -12	①(24.0cm) ③—	②— ④口～胴1/3	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗 砂・礫・パミスを多く含む	口縁部横ナデ	胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
10	須恵器 甕	北西 +12	①(25.4cm)②— ③— ④口縁部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整 内外面に自然釉付着	VI	
11	土製品 鞠羽口	南西 +8	長さ[5.6cm]孔径2.4cm ④破片	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	外面ナデか 外面に鉍滓付着		

45号住居跡出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
12	こも編石	南東+3	14.3	6.1	2.6	330	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
13	こも編石	南東+3	12.3	6.0	4.0	465	完形	石墨緑泥片岩	
14	こも編石	南西+8	15.6	5.5	3.8	485	完形	絹雲母石墨片岩	
15	こも編石	南東+4	12.0	5.6	4.7	415	完形	絹雲母石墨片岩	
16	こも編石	南東-8	13.0	7.1	2.4	370	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
17	こも編石	南東+6	15.6	6.6	3.5	450	完形	絹雲母石墨片岩	
18	こも編石	南東+2	13.7	6.1	3.7	335	完形	絹雲母石墨片岩	
19	こも編石	南東+6	14.0	9.0	2.6	320	完形	絹雲母石墨片岩	
20	こも編石	北西+4	10.0	4.7	1.5	125	完形	絹雲母石墨片岩	
21	こも編石	南東+2	12.0	6.2	3.6	300	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
22	こも編石	北西+4	8.4	4.7	3.1	155	完形	絹雲母石墨片岩	
23	こも編石	南東+8	15.8	7.8	6.0	720	完形	安山岩	側面に敲打痕あり
24	こも編石	南西+6	12.7	5.3	2.3	205	完形	緑泥片岩	
25	こも編石	南西+2	13.5	6.1	2.7	275	完形	絹雲母石墨片岩	
26	こも編石	南西+6	11.7	5.7	4.0	345	完形	絹雲母石墨片岩	
27	こも編石	南西+4	10.9	6.2	3.3	370	完形	絹雲母石墨片岩	
28	こも編石	南西+6	13.9	6.3	3.0	310	完形	安山岩	
29	こも編石	南西+2	14.8	12.4	3.4	500	完形	閃緑岩	側面に敲打痕あり
30	こも編石	南西+4	16.4	4.9	3.3	440	完形	点紋絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
31	こも編石	南西+3	13.4	5.8	3.8	355	完形	緑泥片岩	
32	こも編石	南西+8	14.8	6.9	4.0	650	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
33	こも編石	北西+26	14.2	5.8	1.7	210	完形	緑簾緑泥片岩	
34	こも編石	南西+3	12.1	4.1	3.0	265	完形	絹雲母石墨片岩	
35	こも編石	南西+4	15.6	6.9	3.5	475	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり
36	こも編石	南西+2	15.5	6.3	4.0	435	完形	緑簾緑泥片岩	
37	こも編石	南西-5	14.7	7.1	3.4	490	完形	石墨絹雲母片岩	
38	こも編石	南西+8	15.1	5.5	3.5	415	完形	緑泥片岩	
39	こも編石	南西+2	15.6	4.5	3.8	425	完形	緑簾緑泥片岩	
40	こも編石	南西-2	7.0	4.8	3.1	200	完形	絹雲母石墨片岩	
41	こも編石	南西-2	12.5	5.6	3.2	330	完形	絹雲母石墨片岩	
42	こも編石	南西+10	13.2	5.1	3.6	400	完形	石墨緑泥片岩	
43	こも編石	南西±0	11.5	5.9	4.4	400	完形	絹雲母石墨片岩	
44	こも編石	南西+3	12.7	6.4	3.3	315	完形	絹雲母石墨片岩	
45	こも編石	南西±0	13.5	5.3	2.6	275	完形	緑簾緑泥片岩	
46	こも編石	南西+2	14.6	6.1	2.2	295	完形	緑簾緑泥片岩	
47	こも編石	南西+6	10.2	5.3	2.5	215	完形	緑泥片岩	
48	こも編石	南東+20	12.0	6.1	5.6	555	完形	石英閃緑岩	
49	こも編石	南東+16	16.4	6.5	3.6	570	完形	絹雲母石墨片岩	
50	こも編石	南西+2	11.7	3.6	3.3	310	完形	石墨片岩	

46号住居跡

位置 C 7～10-VIII10～12Gr 重複 41号住・121号土坑・13号溝より古

平面形態 東壁が13号溝に切られ、南壁もはっきり検出できなかったため不明であるが、柱穴の位置等から推定すると東西に長い隅丸長方形になるものと考えられる。

規模 3.87m×3.58m 壁高 55cm 面積 [12.7m²] 床面積 [11.0m²]

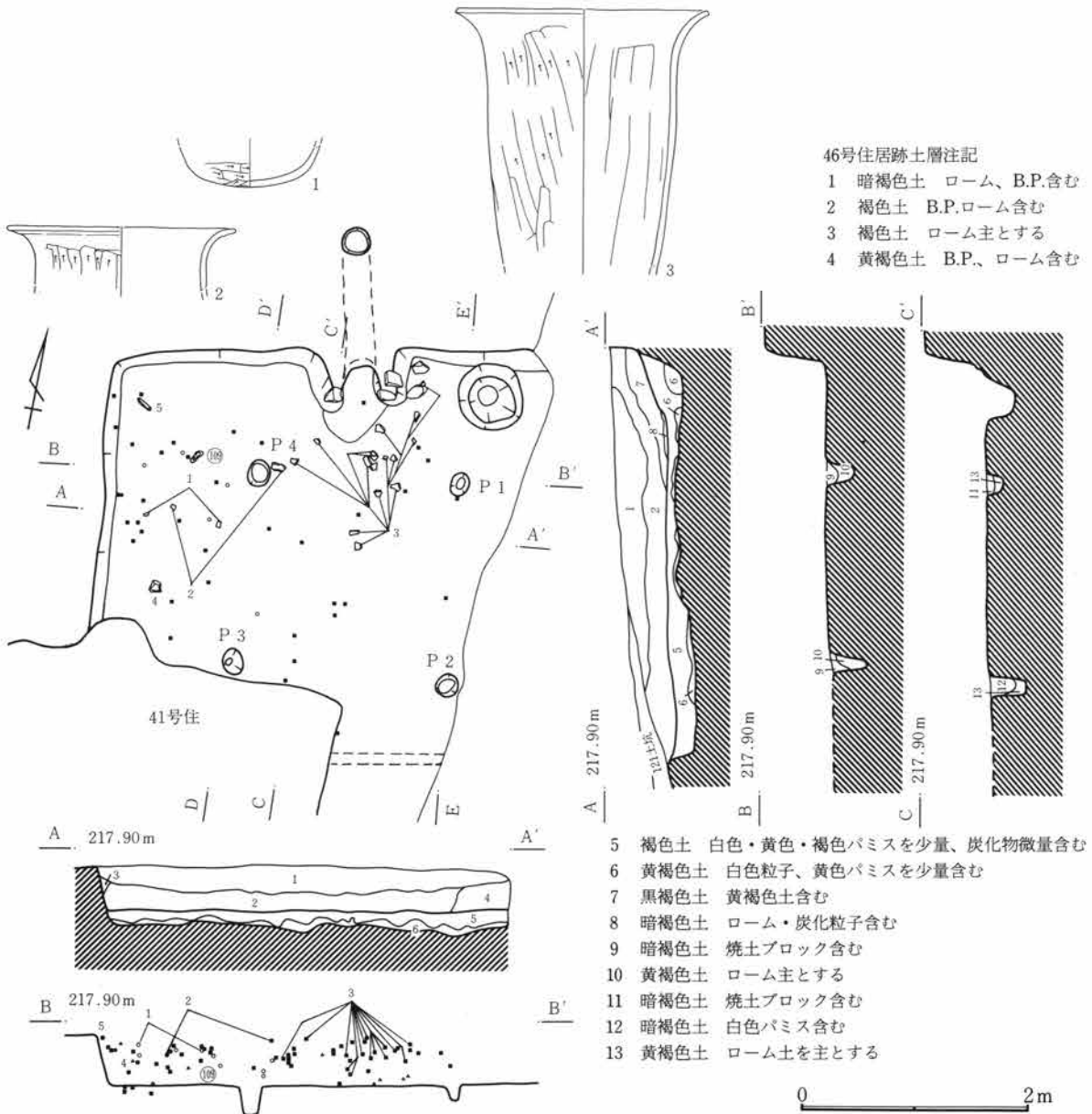
主軸方位 N-9°-W 壁溝 なし

柱穴 住居の対角線上と考えられる位置に4基検出されているが、南西部のP3の位置がやや北西にずれている。また、径の非常に小さい柱穴である。

P 1 長径20cm短径16cm深さ16cm P 2 長径21cm短径19cm深さ34cm P 3 長径22cm短径18cm深さ33cm

P 4 長径22cm短径19cm深さ24cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.6m 短径0.58m 深さ43cm



第230図 46号住居跡

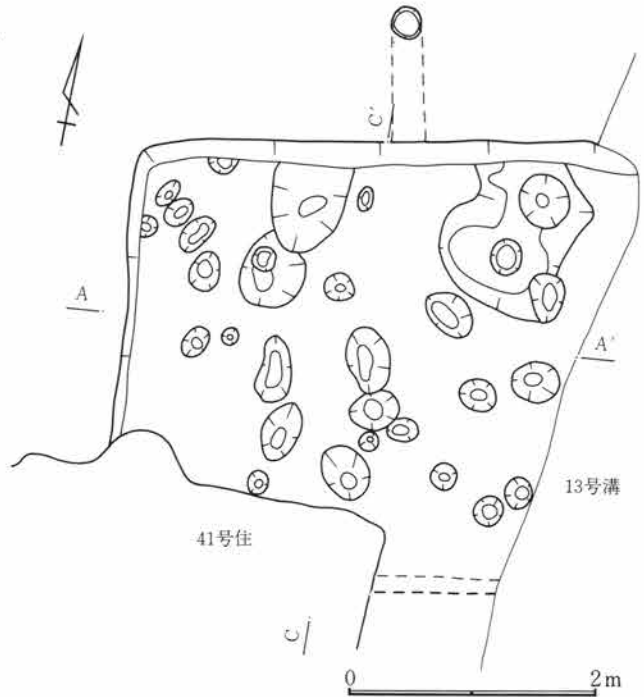
第三章 検出された遺構と出土遺物

形状 平面形態は円形で、断面形態は、小さく丸みを帯びた底部から、途中段をもって斜めに立ち上がっている。

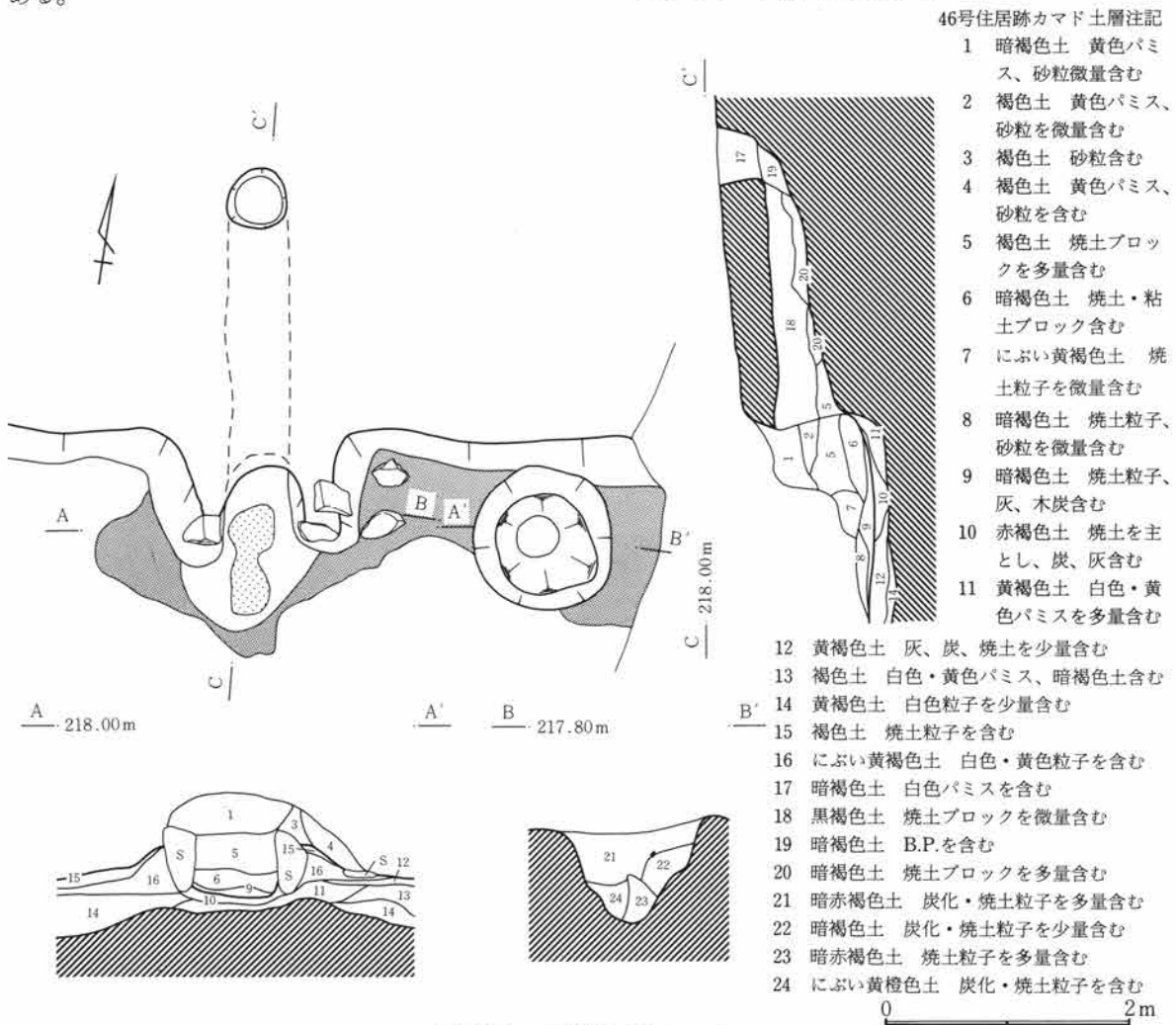
床面 褐色土で厚さ10~20cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。

掘り方 北壁際西寄りと東寄りに土坑状の掘り込みが検出されており、他に長径15~60cmのピットが多数検出されている。

遺物出土状況 カマド前から中央西寄りにかけて比較的多く出土しており、北壁際や南東部からはほとんど出土していない。垂直分布を見ると、上層から下層まで出土しているが、上~中層から出土しているものが多い。接合関係の判明するものは3点あり、すべて覆土中で接合しており、覆土上層と中層が接合しているものがある。



第231図 46号住居跡掘り方



第232図 46号住居跡カマド

カマド

位置 北壁やや東寄り 主軸方位 N-10°-W 規模 全長1.86m 幅0.88m 煙道部長1.16m
 構築 長さ約25cmの礫を袖石として、黄褐色土で袖を構築している。火床面は床面より若干低く、灰層が検出されている。またカマド左脇から右脇・貯蔵穴にかけて、広範囲に焼土の分布が確認されている。煙道部はやや斜め上に延び、ほぼ垂直に立ち上がっており、天井部が15～20cm残存している。

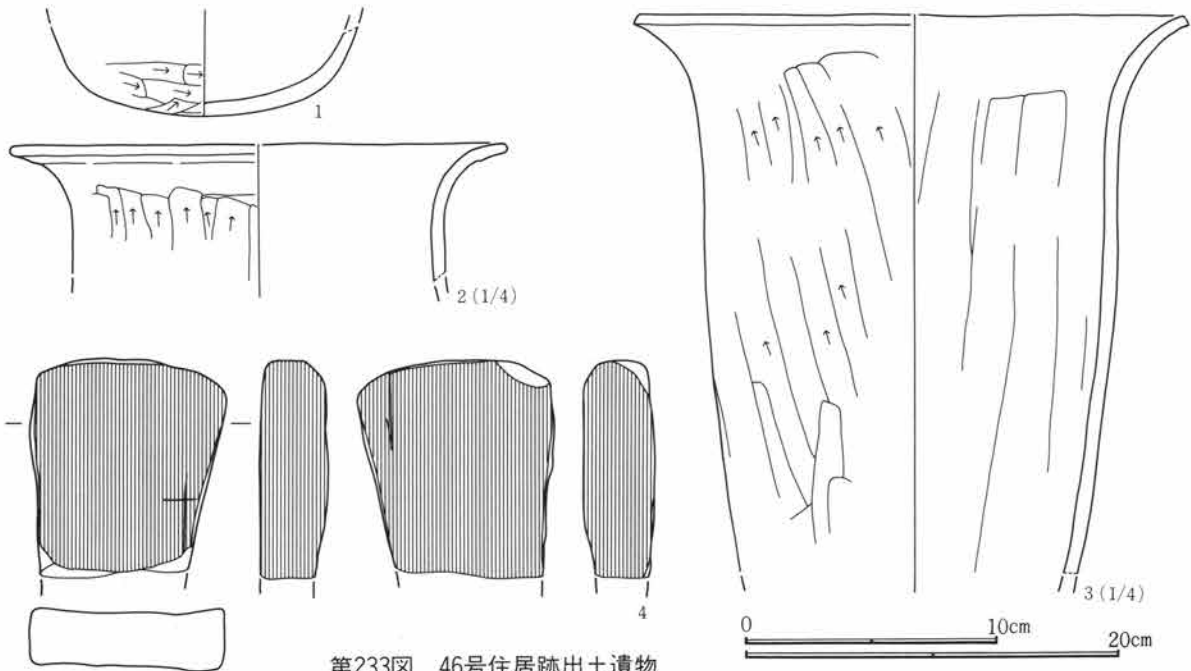
遺物出土状況 右脇からカマド構築材と考えられる石が出土している。

出土遺物 土器は、土師器坏・甕・甔、須恵器甕が出土しており、他に弥生土器が1点出土している。

所見 図示した遺物は覆土中の出土で、詳しい時期のわかるものは無いが、41号住より古いことと、住居形態から考えると、古墳時代後期の住居と想定される。

出土土器数量表

種別	土師器			須恵器	計
	器種	坏	甕		
点数		74	179	22	276
重量(g)		675	3,075	360	4,135



第233図 46号住居跡出土遺物

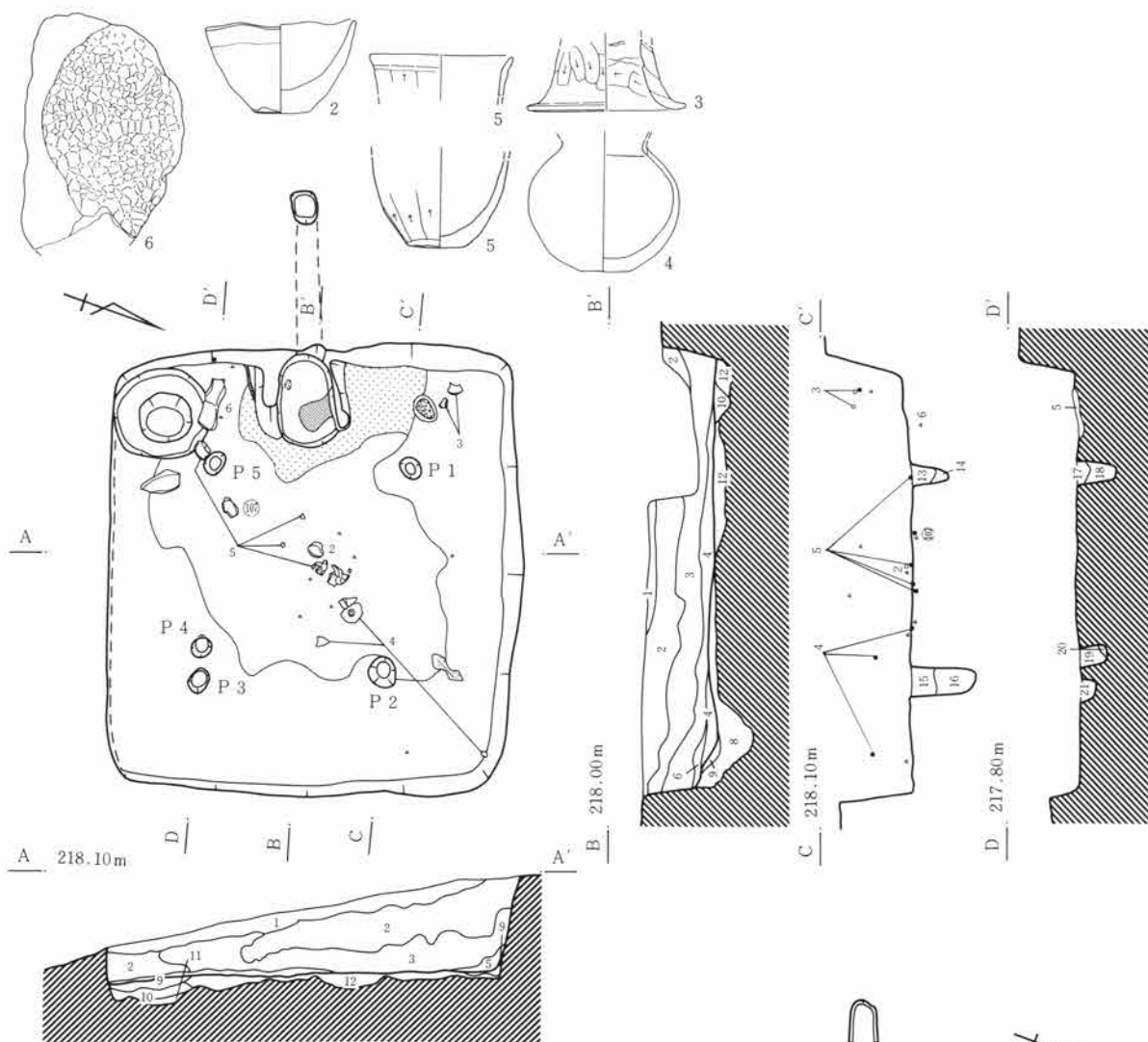
46号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	北西 +25	①-	② ③- ④体~底1/4	①にぶい黄橙 ②黒 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面篋磨き後黒色処理	I	
2	土師器 甕	北西 +28	①(26.6cm)②-	③- ④口縁部片	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII A	
3	土師器 甔(?)	北東 +8	①(29.0cm)②-	③- ④口~胴部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	XII	

46号住居跡出土石器観察表

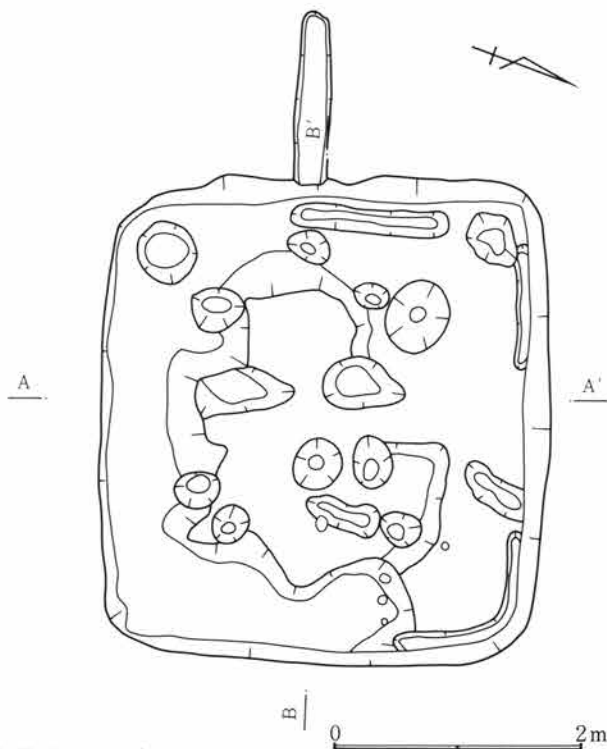
No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
4	砥石	南西+2	[8.1]	7.9	2.7	330	1/2	流紋岩	4面使用 一部刃ならしキズあり
5	こも編石	北西+20	14.1	6.4	4.4	560	完形	絹雲母石墨片岩	側面に敲打痕あり

第三章 検出された遺構と出土遺物



47号住居跡土層注記

- 1 褐色土 白色粒子を多量、ロームブロックを少量含む
- 2 黒褐色土 ローム橙色粒、木炭を含む
- 3 褐色土 ロームブロックを多量、焼土ブロック、炭化粒子を微量含む
- 4 暗褐色土 木炭を含む
- 5 にぶい黄褐色土 ローム土と暗褐色土の混合土
- 6 暗褐色土 焼土ブロックを多量、木炭、ロームブロックを少量含む (カマド覆土)
- 7 黄褐色土 灰白色ブロックを少量含む
- 8 褐色土 ロームブロック、黒褐色土ブロックを含む
- 9 黒褐色土 ロームブロックを少量含む
- 10 黒褐色土 ロームを含む
- 11 褐色土 ロームを主とし、暗褐色土ブロックを含む
- 12 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 13 暗褐色土 ロームブロック、褐色土ブロックを含む
- 14 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
- 15 褐色土 ロームブロック、暗褐色土ブロックを含む
- 16 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 17 暗褐色土 ロームブロックを含む 縮まり弱い
- 18 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
- 19 黄褐色土 ロームを主とし、暗褐色土ブロックを少量含む
- 20 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
- 21 褐色土 ロームブロックを含む



第234図 47号住居跡および掘り方

47号住居跡

位置 C 9～10-VII19～22Gr 重複 なし 平面形態 隅丸方形 規模 3.7m×3.34m

壁高 80cm やや傾斜している 面積 12.3m² 床面積 10.6m²

柱穴 住居の対角線上に検出されているが、南東部には東西に並んで2基検出された。

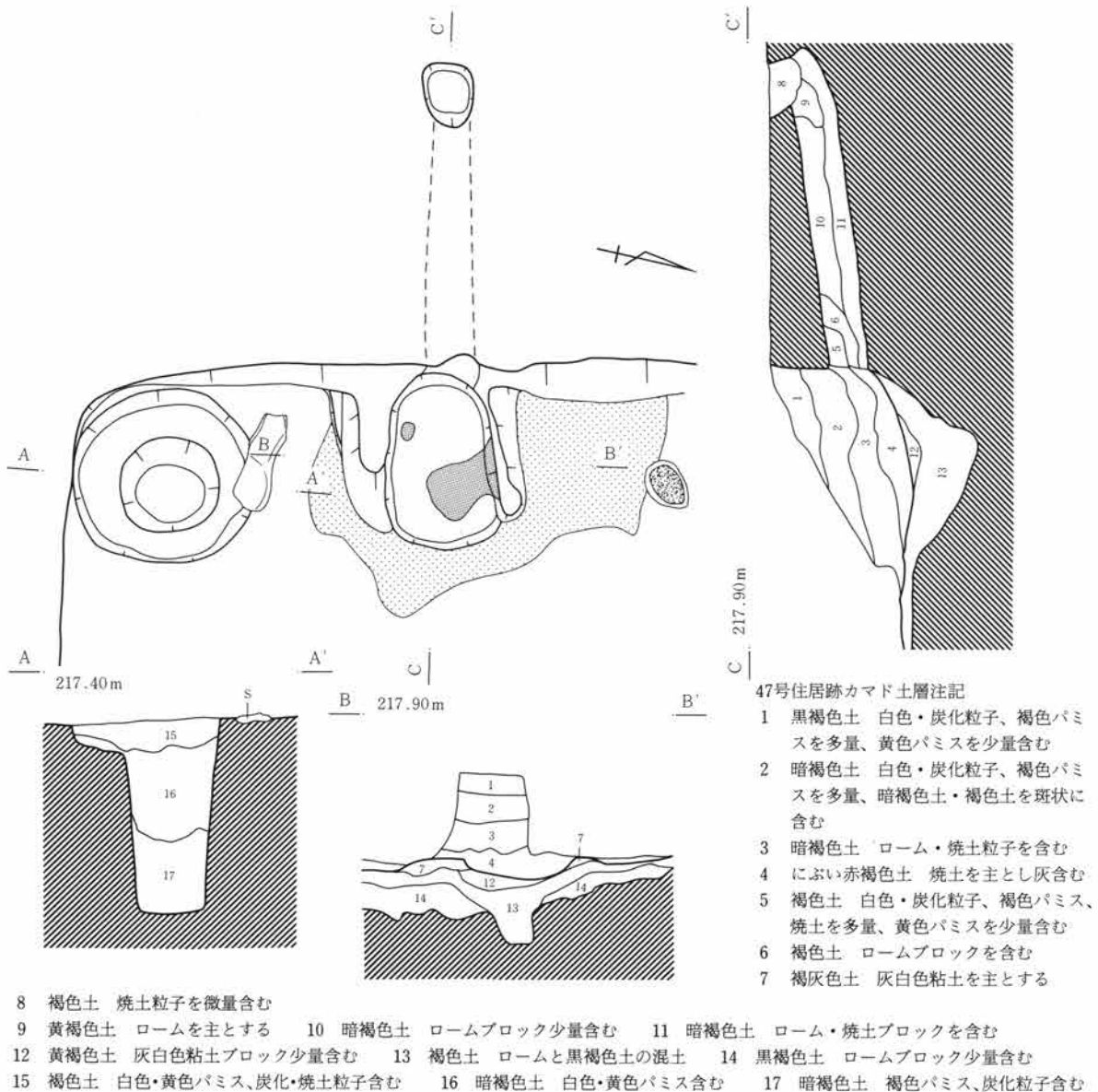
P 1 長径20cm短径15cm深さ30cm P 2 長径26cm短径22cm深さ56cm P 3 長径20cm短径14cm深さ12cm

P 4 長径18cm短径14cm深さ22cm P 5 長径22cm短径16cm深さ32cm

貯蔵穴 位置 南西隅 規模 長径0.80m 短径0.74m 深さ83cm

形状 平面形態は円形で、断面形態は、平坦な底部から垂直に近く立ち上がっているが、深さ10cmの部分でテラス状に段が形成されている。

床面 暗褐色土で5～15cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面である。カマド両脇からほぼ柱穴の内側にかけて硬化面が検出されている。



第235図 47号住居跡カマド

第三章 検出された遺構と出土遺物

掘り方 西壁から南壁・東壁にかけて、溝状の掘り込みがあり、北東部および北西部の壁際に壁溝状の細かい掘り込みが検出されている。他にピットが数基検出されている。

遺物出土状況 出土量は非常に少なく、住居中央部に比較的集中している。垂直分布を見ると、覆土上層と床面付近に多くなっている。接合関係の判明するものは3点あり、覆土上層、床面付近、覆土上層と床面付近が接合している。

カマド

位置 西壁中央部 **主軸方位** N-105°-W **規模** 全長2.10m 幅0.76m 煙道部長1.25m

構築 灰白色粘土で袖を構築しているが、袖石・天井石は出土していない。火床面は床面より低く、部分的に焼けている。また、焚き口手前から両袖脇にかけて灰層が分布している。煙道部はやや斜め上に延び、立ち上がっている。天井部が10~30cm残存している。

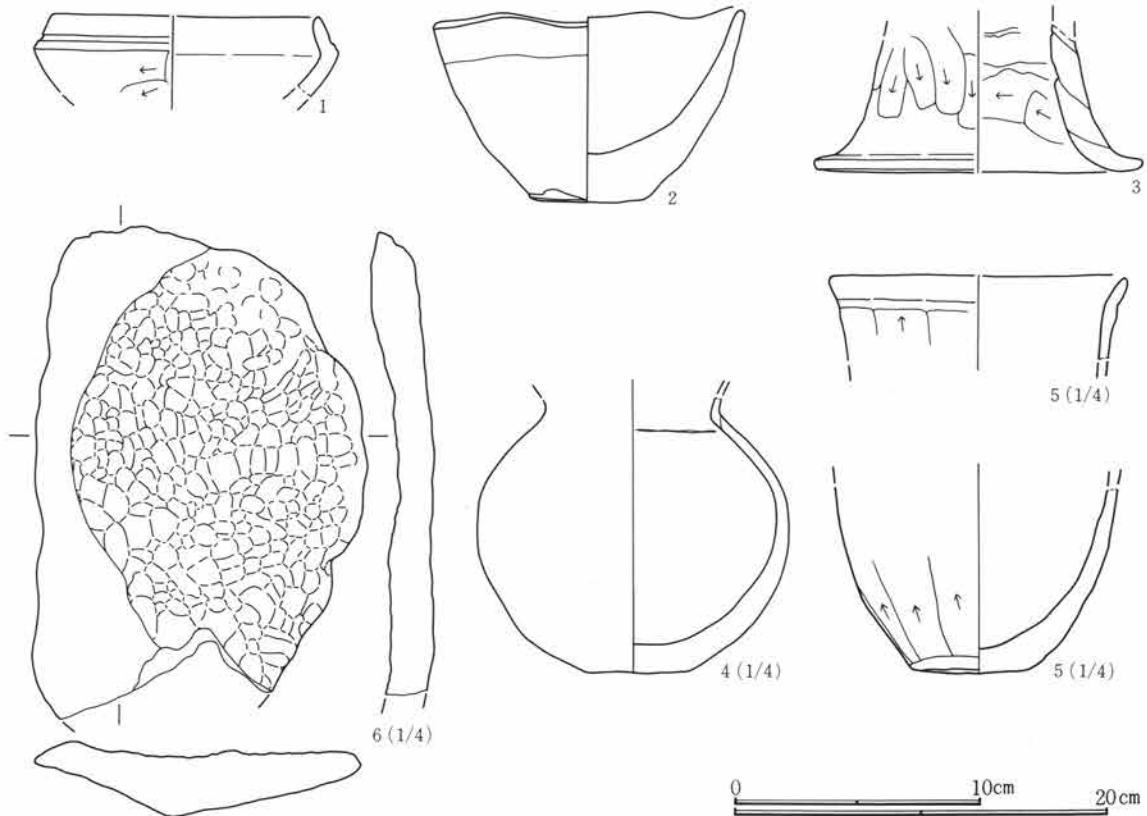
遺物出土状況 遺物はほとんど出土していない。

出土遺物 土器は、土師器杯・高杯・埴・甕が出土し、石製品は、台石が2点出土している。他に弥生土器が1点出土している。

所見 出土遺物が少なく、住居に遺棄されたものもほとんど無いが、床面付近出土の遺物から、古墳時代後期、おそらく6世紀後半~7世紀前半の住居と考えられる。

出土土器数量表

種別	土師器				計
	器種	杯	高杯	埴	
点数	2	1	1	5	9
重量(g)	25	155	425	1,160	1,765



第236図 47号住居跡出土遺物

47住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	覆土	①(10.6cm)②- ③- ④口縁部片	①灰黄褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後漆(?)塗布か	I C	
2	土師器 小型鉢	南西 +6	①12.0cm ②4.2cm ③7.3cm ④完形	①にぶい橙 ②黒 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面指頭 によるオサエか	XI	
3	土師器 高 坏	北西 +38	①- ②13.0cm ③- ④脚1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	脚部内外面とも篋削り 脚端部横 ナデ	V B	
4	土師器 小型甕	北東 -2	①- ②5.6cm ③- ④頸部片 胴～底2/3	①にぶい黄橙 ②黒 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ 器 面剥落著しい	VIII	
5	土師器 甕	北東 -4	①16.6cm ②6.8cm ③- ④口縁1/3 胴～底2/3	①にぶい赤褐 ②黒褐 ③不良 ④粗 粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	

47号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
6	台石	南西-2	[26.0]	18.0	4.0	1400	一部欠損	砂岩	片面に敲打痕あり

49号住居跡

位置 C7～10-VII18～21Gr 重複 42号住居より古 平面形態 隅丸方形 規模 3.68m×3.6m

壁高 40cm 垂直に近い 面積 13.1m² 床面積 11.67m² 主軸方位 N-4°-W

壁溝 なし

柱穴 北西部・南西部に2基のピットが検出されている。南東部は42号住に切られているため不明であるが、北東部にはピットが検出されておらず、2基のピットも非常に浅いため、柱穴になるか疑問である。

P1 径18cm深さ20cm P2 長径30cm短径24cm深さ6cm

貯蔵穴 位置 北東隅 規模 長径0.56m 短径0.56m 深さ46cm

形状 平面形態は丸みを帯びた隅丸方形で、断面形態は台形であるが、急に立ち上がっている北側に比べ南の立ち上がりはなだらかで、途中に段をもっている。

床面 ロームを含む暗褐色土で厚さ3～30cmの貼床としているが、やや凹凸のある床面で、カマド手前から北東部にかけてよく踏み固められている。

掘り方 長径15～30cmの小規模なピットが10基検出されている。

遺物出土状況 出土量は少なく、カマド周辺に集中しており、垂直分布では中層から床面付近にかけて多く出土している。接合関係の判明するものは4点あり、いずれもカマド周辺で中～下層の破片が接合している。

カマド

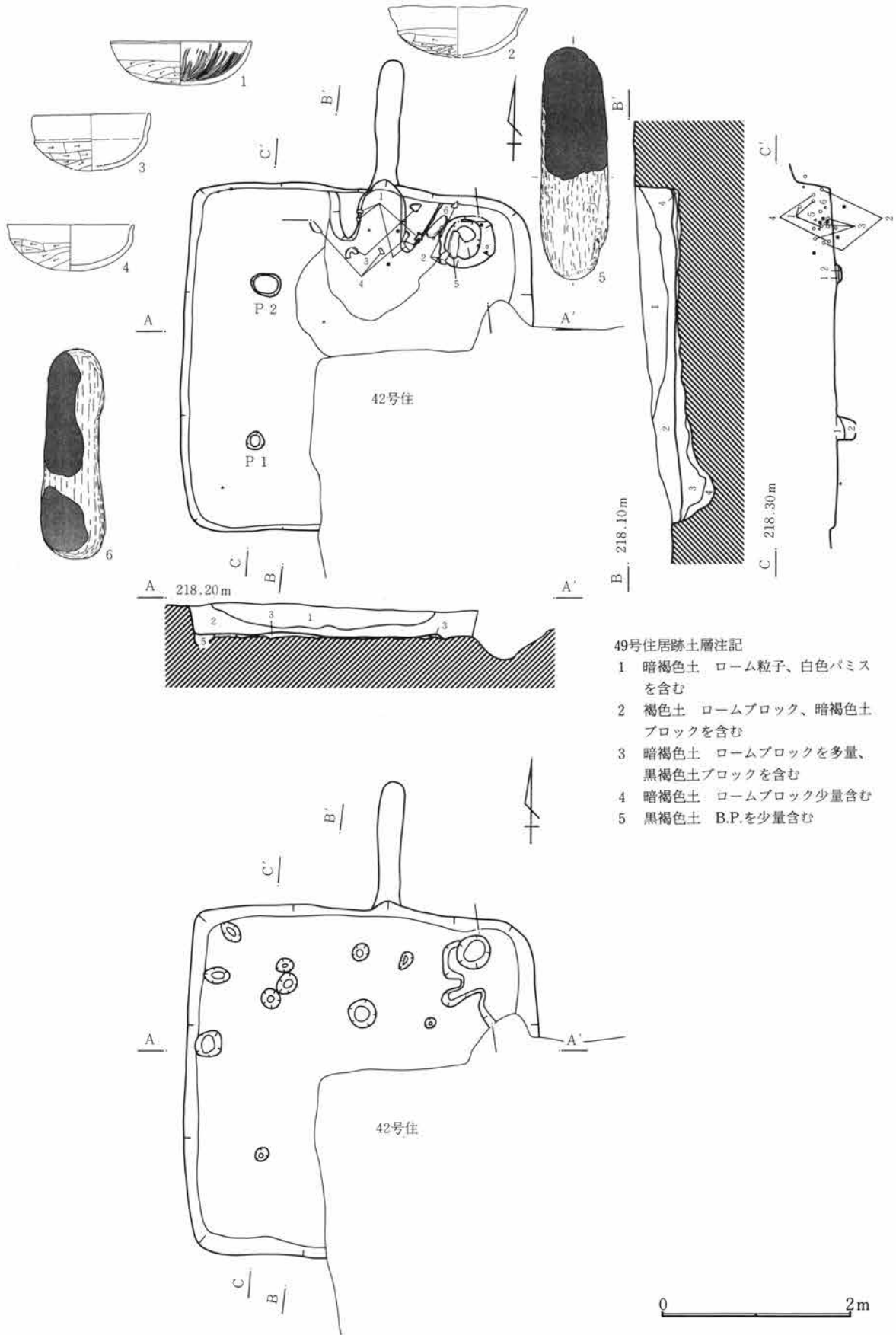
位置 北壁東寄り 主軸方位 N-S 規模 全長1.92m 幅1.04m 煙道部長1.25m

構築 褐色土で袖を構築しているが、袖石・天井石等は出土していない。火床面は床面とほぼ同レベルで、よく焼けており、カマド手前80cm程度まで焼土と灰の混入層が分布している。

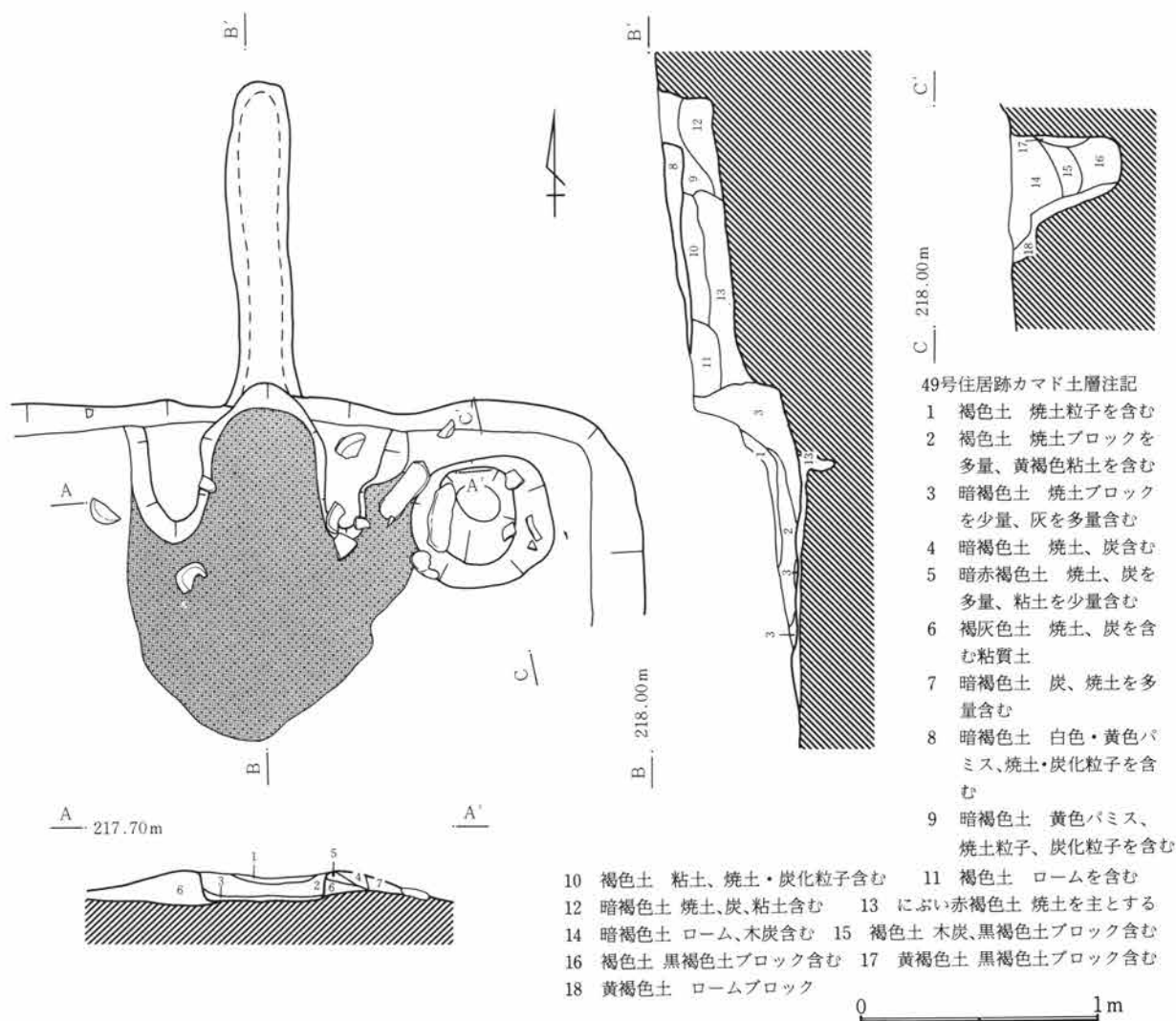
遺物出土状況 図示した土師器坏はすべてカマド周辺から出土しており、カマド構築材と考えられる石も右袖脇から出土している。

出土遺物 土器は、土師器坏13点、甕11点が出土し、石製品は、滑石碎片が1点出土している。

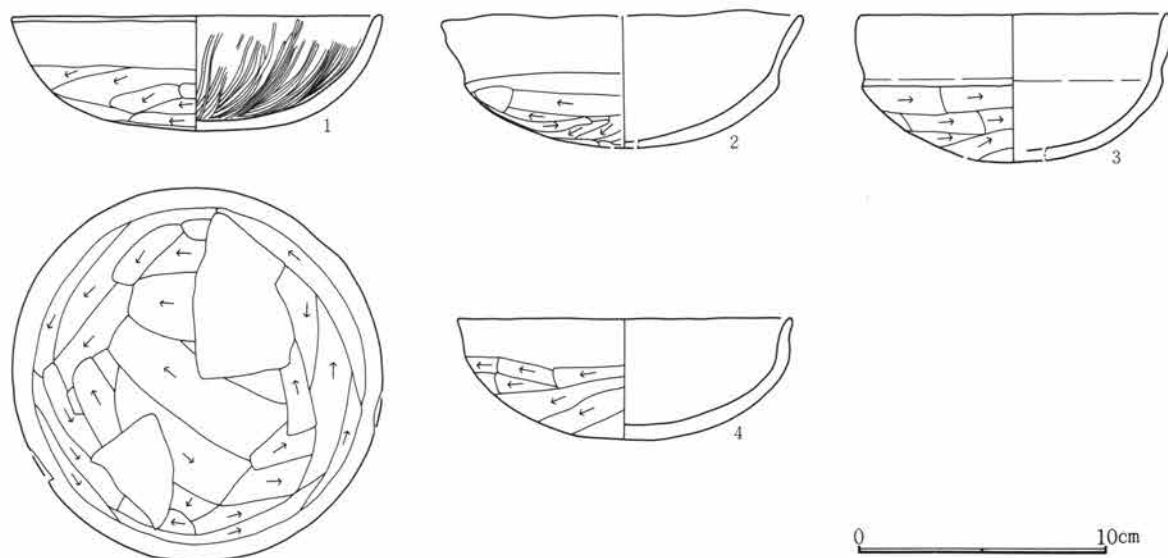
所見 住居に遺棄されたと考えられる遺物は無いが、図示した遺物から、6世紀後半～7世紀前半の住居と考えられる。



第237図 49号住居跡および掘り方

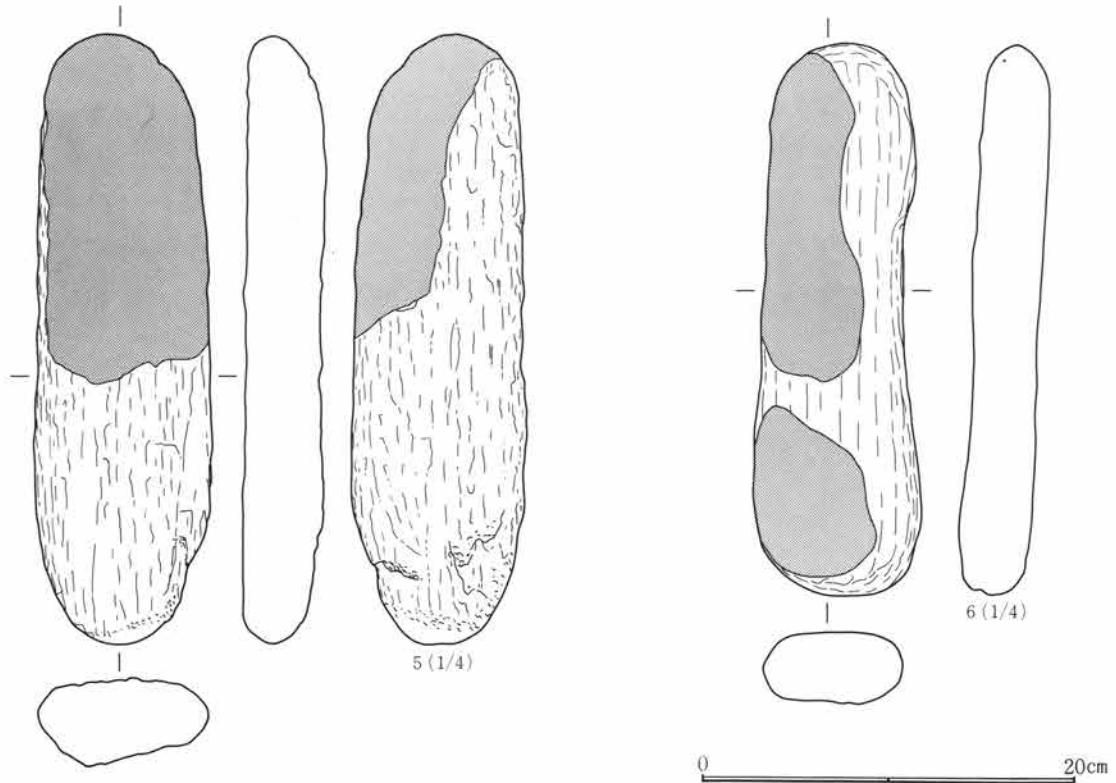


第238図 49号住居跡カマド



第239図 49号住居跡出土遺物(1)

第III章 検出された遺構と出土遺物



第240図 49号住居跡出土遺物(2)

49号住居跡出土土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	カマド	①14.6cm ②— ③4.5cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面寛削 り内面ナデ後放射状暗文	I C	
2	土師器 坏	北東 +9	①14.3cm ②— ③5.4cm ④口～底1/3	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面寛削 り内面ナデ	I C	
3	土師器 坏	カマド	①12.1cm ②— ③5.8cm ④ほぼ完形	①②にぶい黄橙 灰 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面寛削 り内面ナデ	I C	
4	土師器 坏	カマド	①13.2cm ②— ③4.8cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面寛削 り内面ナデ	I C	

49号住居跡出土石器観察表

No.	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
5	カマド袖石	北東+19	32.2	9.5	4.4	2200	完形	点紋絹雲母石墨片岩	一部赤変
6	カマド袖石	北東+8	29.2	9.1	4.6	1900	完形	絹雲母石墨片岩	一部赤変

(3) 古墳

古墳一覧表

No	規 模(m)		周 溝			葺石	埴輪	出 土 遺 物
	周溝外径	周溝内径	上端幅(m)	底部幅(m)	深 さ(cm)			
1	22.3	17.2	1.86~3.32	0.44~0.90	60~95	なし	なし	土師器坏・埴・埴・甕、石製紡錘車、不明石製品
2	12.9×12.3	10.6×10.3	0.30~1.79	0.06~0.74	5~50	なし	なし	なし
3	16.6×15.7	12.4×10.5	1.14~2.76	0.14~0.68	30~100	なし	なし	土師器甕、須恵器坏
4	17.2×15.8	13.8×11.9	1.40~4.17	0.37~0.98	35~140	あり	あり	土師器坏・埴・甕、須恵器埴、石製模造品
5	21.8×21.5	15.5×14.0	2.17~4.46	0.28~2.10	50~145	なし	あり	土師器坏・高坏・埴・甕、鉄鎌、鉄斧、鉄鏝、不明
6	13.5×13.0	10.2×10.1	1.19~1.93	0.30~0.57	42~70	なし	なし	土師器坏・高坏・甕、須恵器坏、石製模造品
7	9.2×7.9	7.0×5.9	0.80~2.13	0.16~0.86	10~60	あり	不明	土師器甕、須恵器蓋

1号墳

位置 D 2~12-VI78~85Gr 重複 なし

平面形態 東半部が削平されていて不明であるが、円形もしくは楕円形になると考えられる。

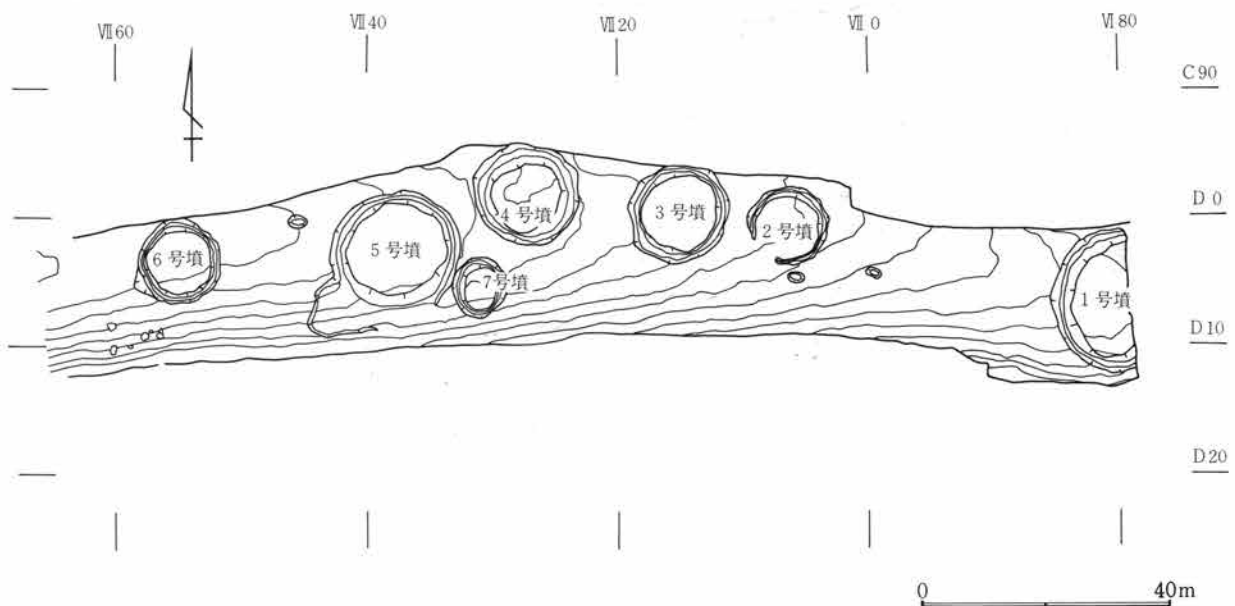
規模 周溝外径22.3m 周溝内径17.2m 墳丘・主体部 削平のため不明

周溝 東側は削平のため不明である。上端幅1.86~3.32m、底部幅0.44~0.90mで、深さは60~95cmである。底部は西部が最も高くなっており、北部で60cm、南部で80cm低くなっている。断面形態はどの場所もV字形に近いが、底部は丸みを帯び、内側は弱い段をもちならかに立ち上がり、外側は直線的で急に立ち上がっている。

葺石 検出されていない

埴輪 埴輪は円筒埴輪の破片が出土しているが、1点だけで当古墳のものとはできず、他古墳からの混入と考えられ、埴輪を伴わない古墳とすることができる。

遺物出土状況 周溝内に散在しているが、南側からはほとんど出土していない。接合関係の判明するものは4点あり、いずれも比較的狭い範囲で接合している。4の埴は破片が1ヶ所に集中している。また北西部に、周溝底部を周囲より若干掘り下げて、そこに偏平な砂岩の切り石を4枚立て並べたものが出土している。性格は不明であり、古墳築造段階のものか、後年周溝埋没以前に作られたものかもはっきりしない。

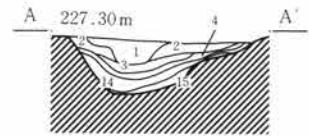


第241図 古墳群位置図

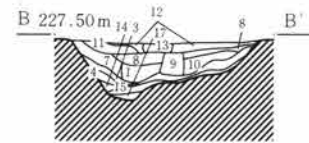


1号墳土層注記

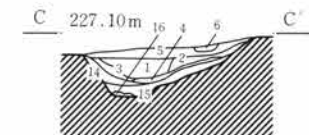
- 1 黒色土 ロームブロックを少量含む
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多量含む
- 3 黒褐色土 ロームブロック、B.P.を含む



- 4 黄褐色土 ローム多量含む
- 5 黄褐色土 ローム多量含む 締まり強い
- 6 暗褐色土 B.P.を含む
- 7 暗褐色土 ロームブロックを少量含む



- 8 暗褐色土 ローム粒子含む
- 9 暗褐色土 ロームブロック、B.P.を含む
- 10 暗褐色土 B.P.を少量含む 色調やや明るい
- 11 にぶい黄褐色土 B.P.を少量、黒色土、ロームを含む



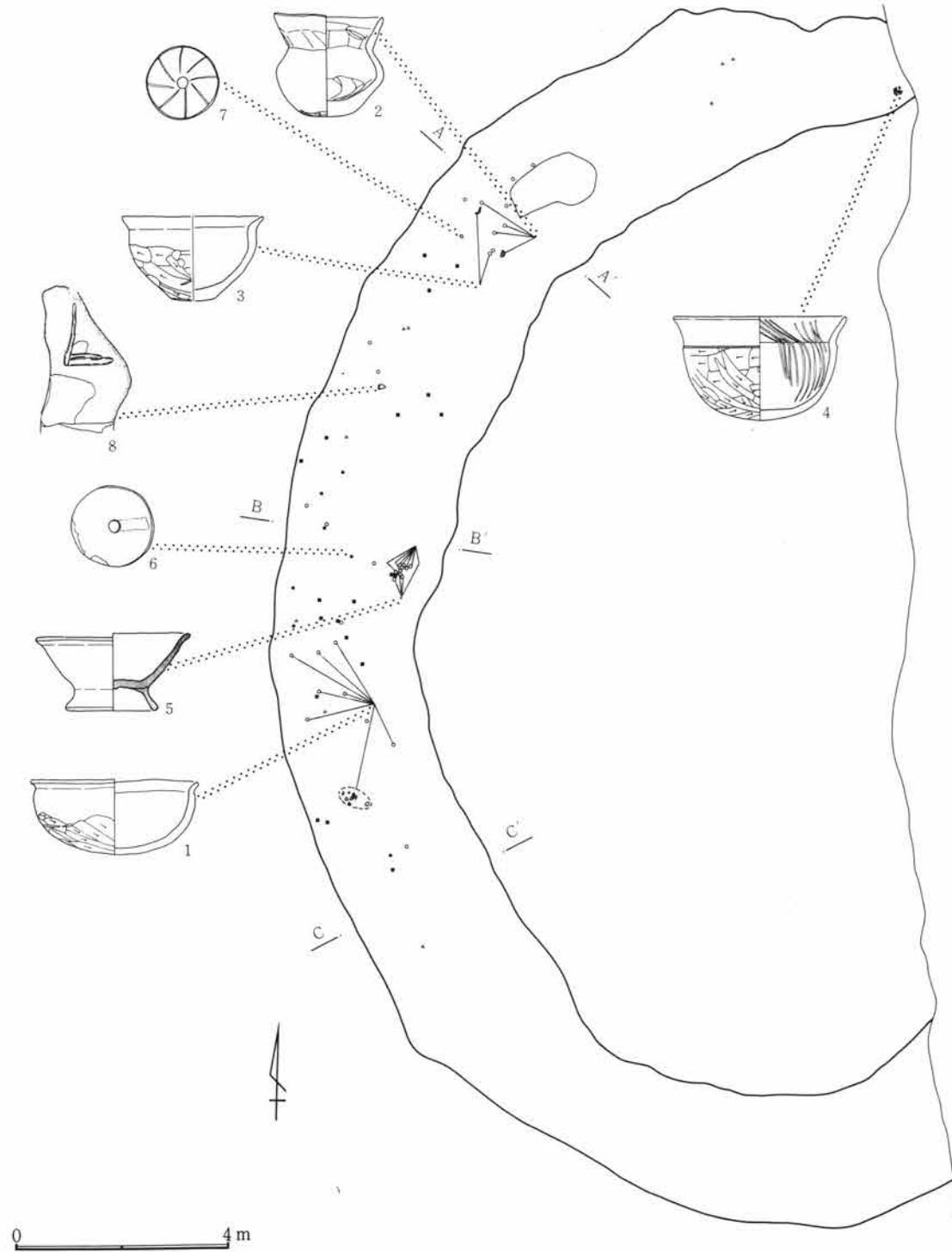
- 12 褐色土 B.P.を微量含む
- 13 暗褐色土 ロームを含む 締まり強い
- 14 暗褐色土 ローム、B.P.を含む
- 15 にぶい黄褐色土 ローム、B.P.を斑状に含む
- 16 橙色土 B.P.を含む
- 17 橙色土 白色粒子、B.P.を含む
- 18 褐色土 B.P.を多量、白色粒子を少量含む
- 19 黄褐色土 白色粒子を含む

0 4 m

第242図 1号墳

出土遺物 埴輪は混入と考えられる円筒埴輪が1点、土器は、土師器坏・埴・埴・甕、須恵器埴が出土しているが、須恵器埴は平安時代のものである。石製品は、滑石製の紡錘車が2点、不明石製品が1点出土している。他に弥生土器が5点、縄文土器が1点出土している。

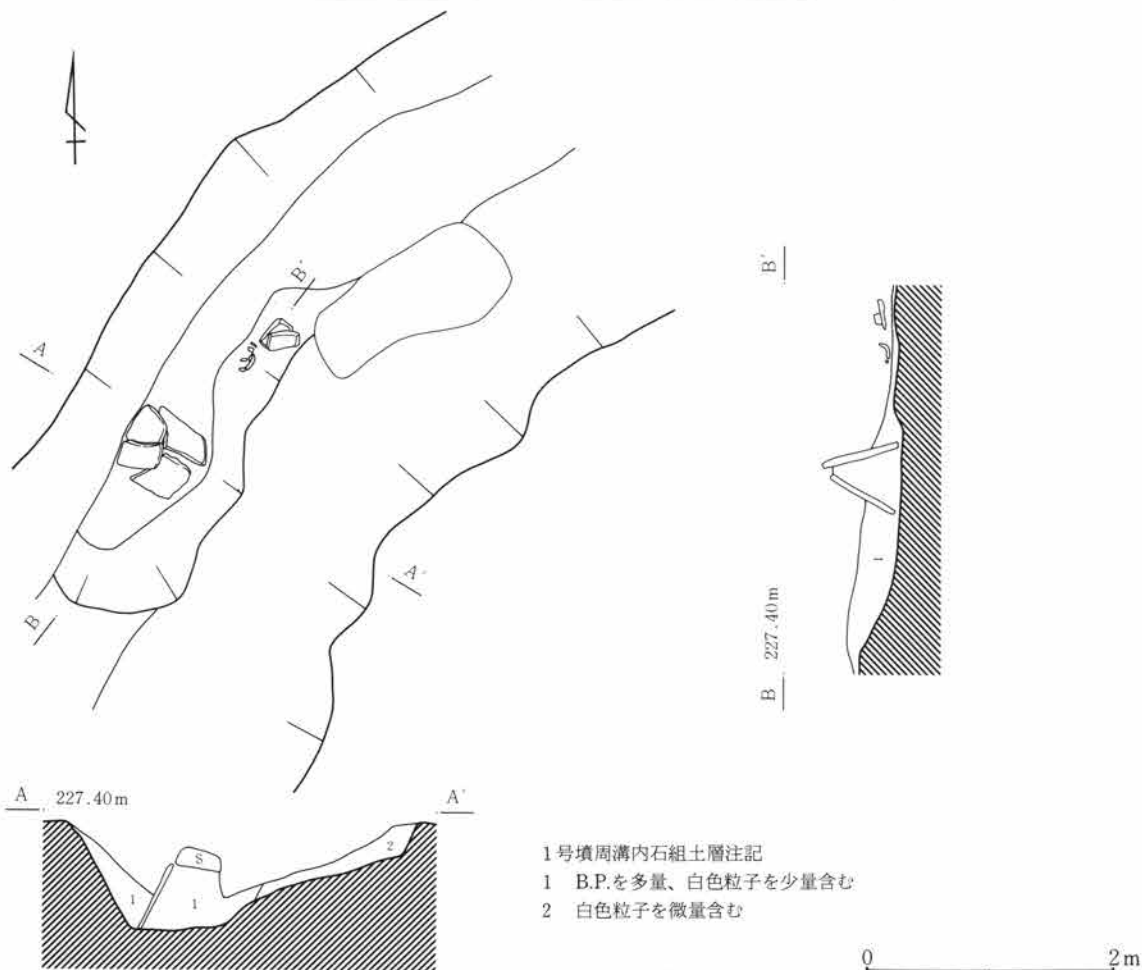
所見 出土遺物から、他の古墳同様5世紀後半代の古墳と考えられるが、出土遺物中に埴等の器形を含むため、他の古墳より若干古い様相がうかがえる。



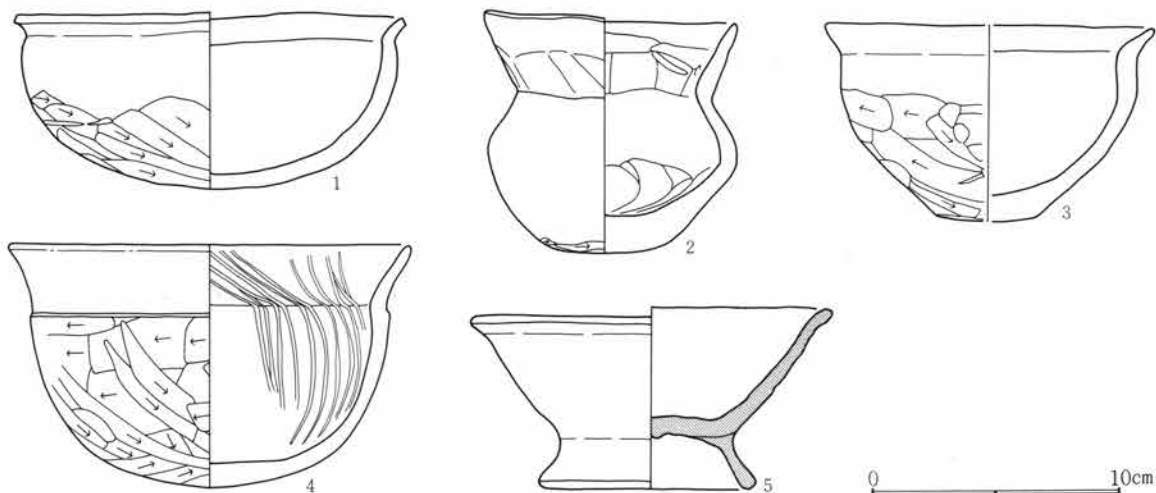
第243図 1号墳遺物出土状況

出土遺物数量表

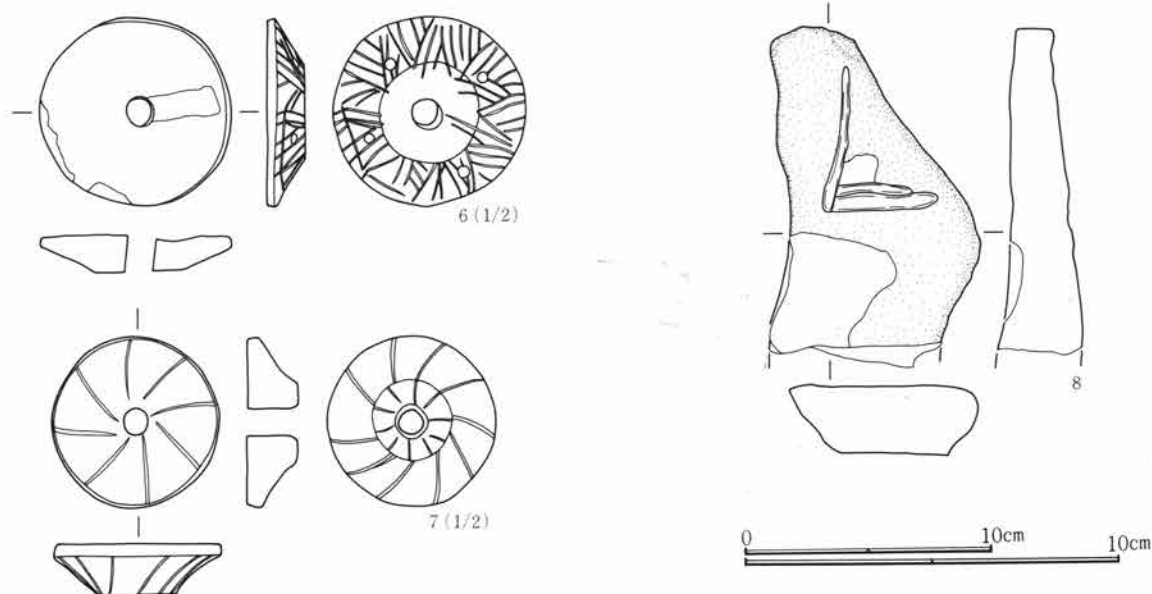
種別	埴輪		土師器				須恵器	計
	円筒	坏	埴	甕	埴	計	埴	
点数	1	13	2	20	1	36	1	38
重量(g)	20	450	350	100	300	1,200	150	1,390



第244図 1号墳周溝内石組



第245図 1号墳出土遺物(1)



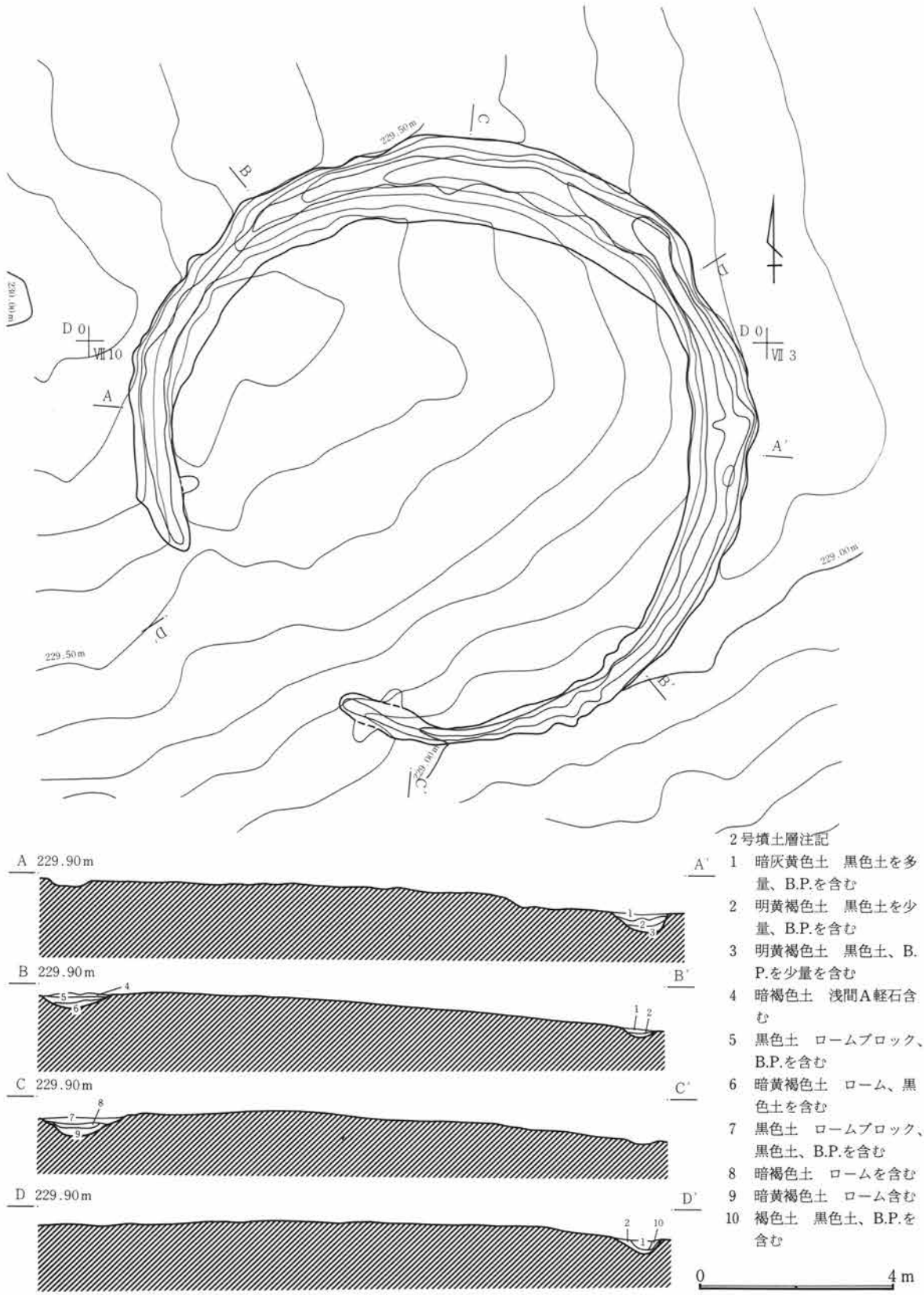
第246図 1号墳出土遺物(2)

1号墳出土土器観察表

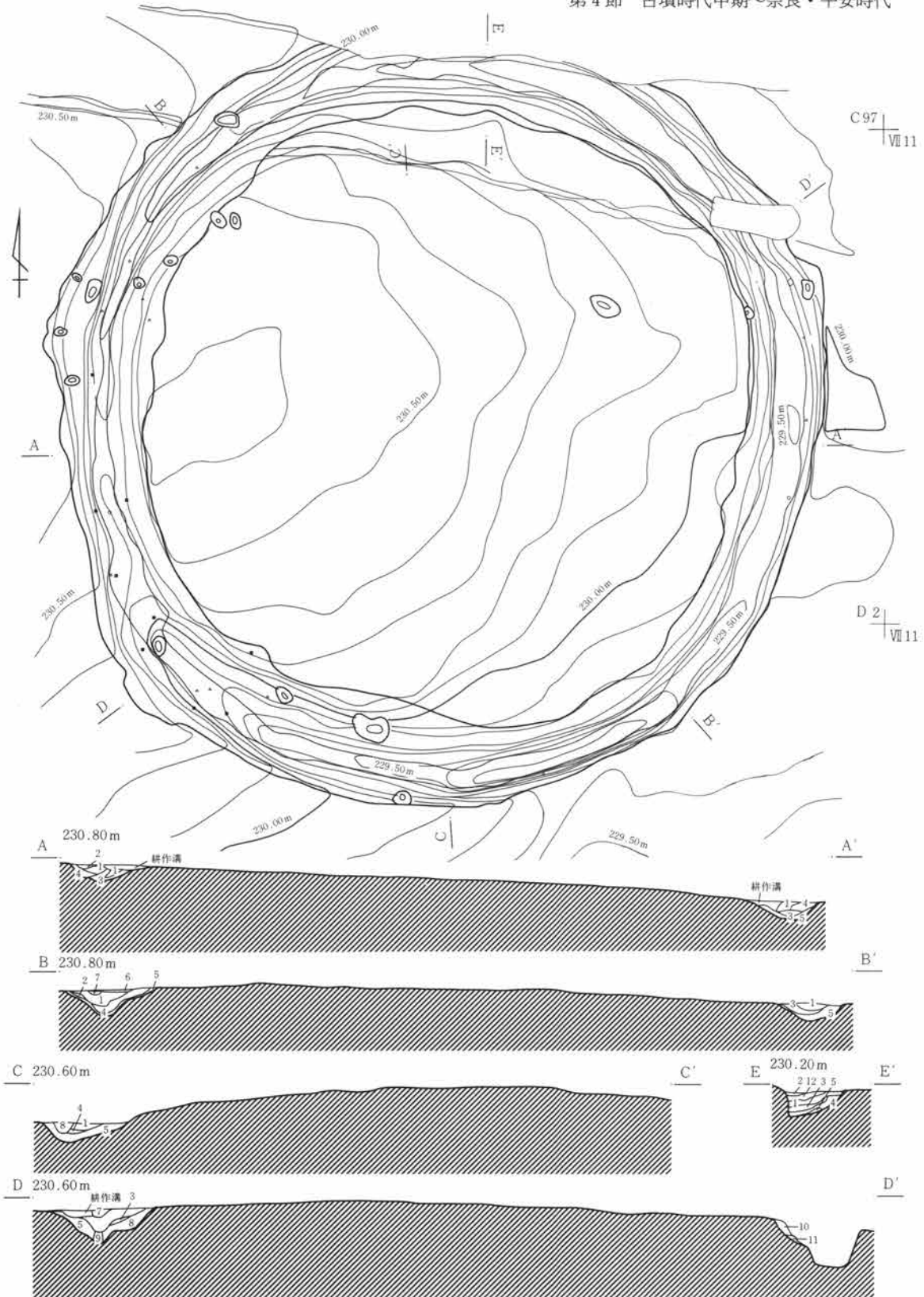
No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	南西	①15.4cm ②— ③6.8cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②明赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口～体部上半横ナデ 体部下半～ 底部外面篋削り内面ナデ	I A	
2	土師器 埴	北西	①10.0cm ②4.2cm ③9.3cm ④ほぼ完形	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 頸～体部内外面ナ デ 底部外面篋削り内面指頭によ るナデ	VI	
3	土師器 埴	北西	①(13.0cm)②4.0cm ③7.7cm ④口～底1/2	①にぶい橙 ②褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面篋ナデ	II	
4	土師器 埴	北東	①16.0cm ②— ③9.6cm ④口～底2/3	①明褐 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	II	
5	須恵器 埴	北西	①14.1cm ②8.2cm ③7.2cm ④口～底2/3	①灰黄 ②にぶい黄橙 ③還元焰 不良 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 高台貼付け 平安時代の遺物	I E	

1号墳出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
6	紡錘車	北西	5.1	5.1	1.0	35	完形	蛇紋岩	孔径8mm 全面やや粗い研磨 上下面に線刻
7	紡錘車	南西	4.5	4.5	1.3	35	完形	蛇紋岩	孔径7mm 上面研磨 下面やや粗い研磨・線刻・穴4個
8	砥石(?)	北西	[13.5]	8.5	3.4	415	一部欠損	安山岩	片面に溝あり



第247図 2号墳



3号墳土層注記 1 黒褐色土 黄色パミス含む 2 黒褐色土 ロームブロック含む 3 オリーブ褐色土 ロームブロック含む
 4 オリーブ褐色土 ロームを含む 5 黄褐色土 ロームブロック含む 6 黄褐色土 黄色パミス含む 7 黒褐色土 黄色パミス極微量含む
 8 褐色土 ローム・黒褐色土ブロック含む 9 黒褐色土 ロームブロック・粒子少量含む 10 黒色土 浅間B軽石を含む
 11 黄褐色土 ローム・黒色土ブロック含む 12 黒褐色土 黄色パミス含む 13 黒褐色土 黄色パミス含む 粘性弱い
 14 オリーブ褐色土 ロームブロック含む 15 オリーブ褐色土 16 黄褐色土 ロームブロック含む

第248図 3号墳

0 4m

第三章 検出された遺構と出土遺物

2号墳

位置 C98～D4-VII3～9Gr 重複 なし 平面形態 円形

規模 周溝外径12.9m×12.3m 周溝内径10.6m×10.3m 墳丘・主体部 削平のため不明

周溝 上端幅0.30～1.79m、底部幅0.06～0.74m、深さ5～50cmである。南東部に周溝が切れている部分が約4.5m存在している。底部が最も高いのは西部で、最も低いのは東部であるが北東部から南部までほぼ平坦な面が続いている。周溝の切れている部分には当初から周溝がなかったのか、浅い部分が削平によりなくなったかは不明であるが、底部の高い部分に近く、また削平の最も著しい部分であるため、後者の可能性が高いと言えよう。

葺石・埴輪 いずれも出土していない。

出土遺物 なし

所見 出土遺物がないため詳しい時期は不明であるが、群集墳中にあることから他の古墳と近い時期であったとすることができる。

3号墳

位置 C96～D3-VII11～19Gr 重複 なし 平面形態 円形

規模 周溝外径16.6m×15.7m 周溝内径12.4m×10.5m 墳丘・主体部 削平のため不明

周溝 北側の立ち上がりが一部未調査区になるため不明であるが、上端幅1.14～2.76m、底部幅0.14～0.68m、深さ30～100cmである。底部は西部が最も高く、南東部やや南よりが最も低く100cmの差がある。東部はほぼ水平である。断面形態はV字形に近いが、底部は丸みを帯び内側の立ち上がりに段をもっている。南部は内側に比べ外側の立ち上がりが急であるが、北部はほぼ同様の角度で立ち上がっている。

葺石・埴輪 いずれも出土していない。

遺物出土状況 少量の土器が出土しているが、周溝東部に集中している。

出土遺物 出土量は少なく、土師器甕、須恵器坏が出土しているだけで、他に弥生土器が1点出土している。

所見 出土遺物が少なく詳しい時期が不明であるが、群集墳中にあるため他の4・5・6号墳等と近い時期と考えられる。

出土遺物数量表

種別	土師器	須恵器	計
点数	8	1	9
重量(g)	100	10	110

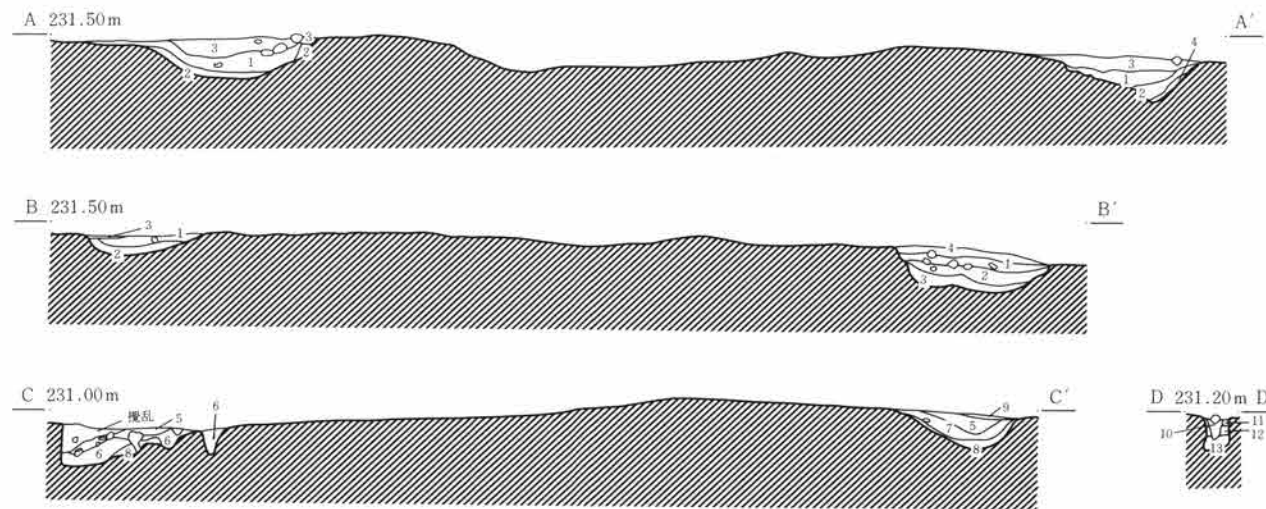
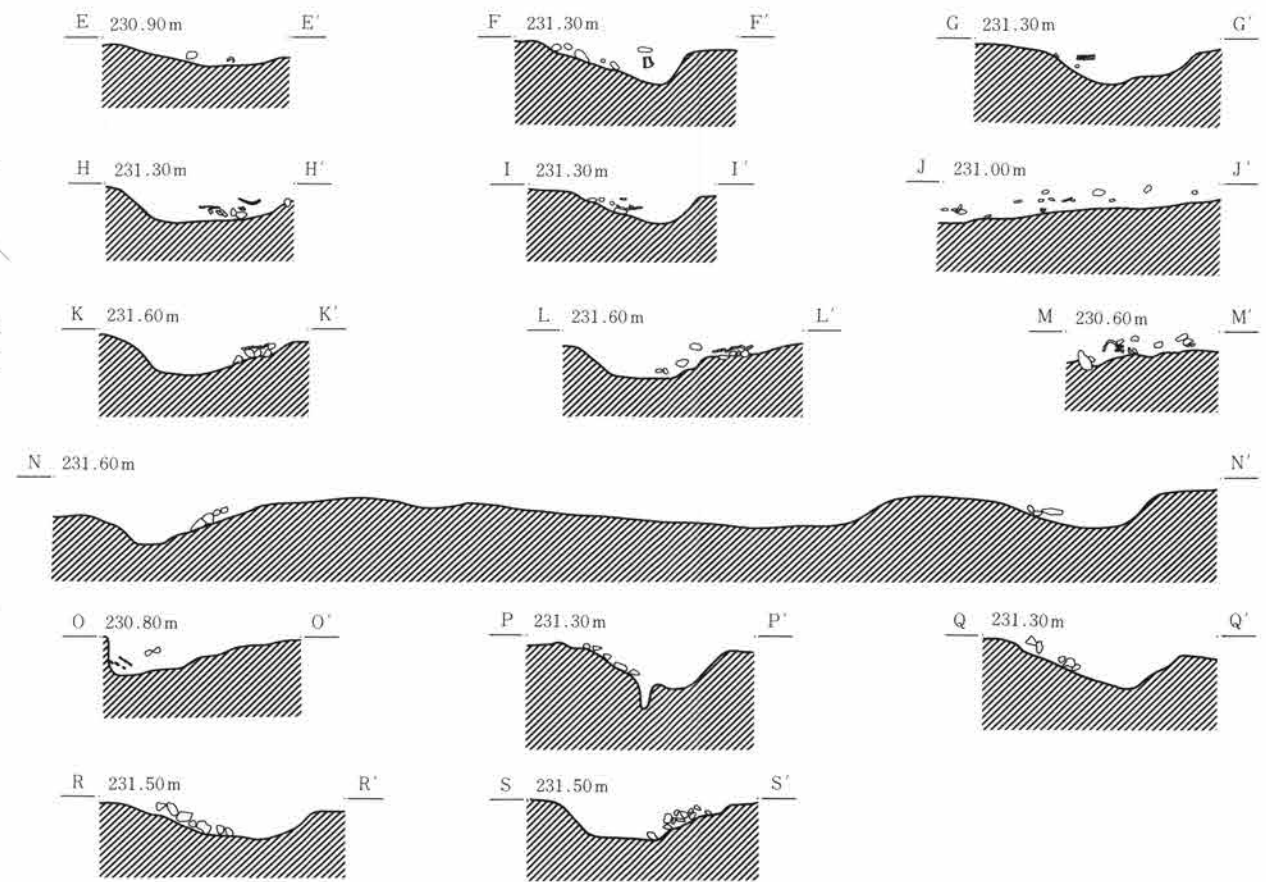
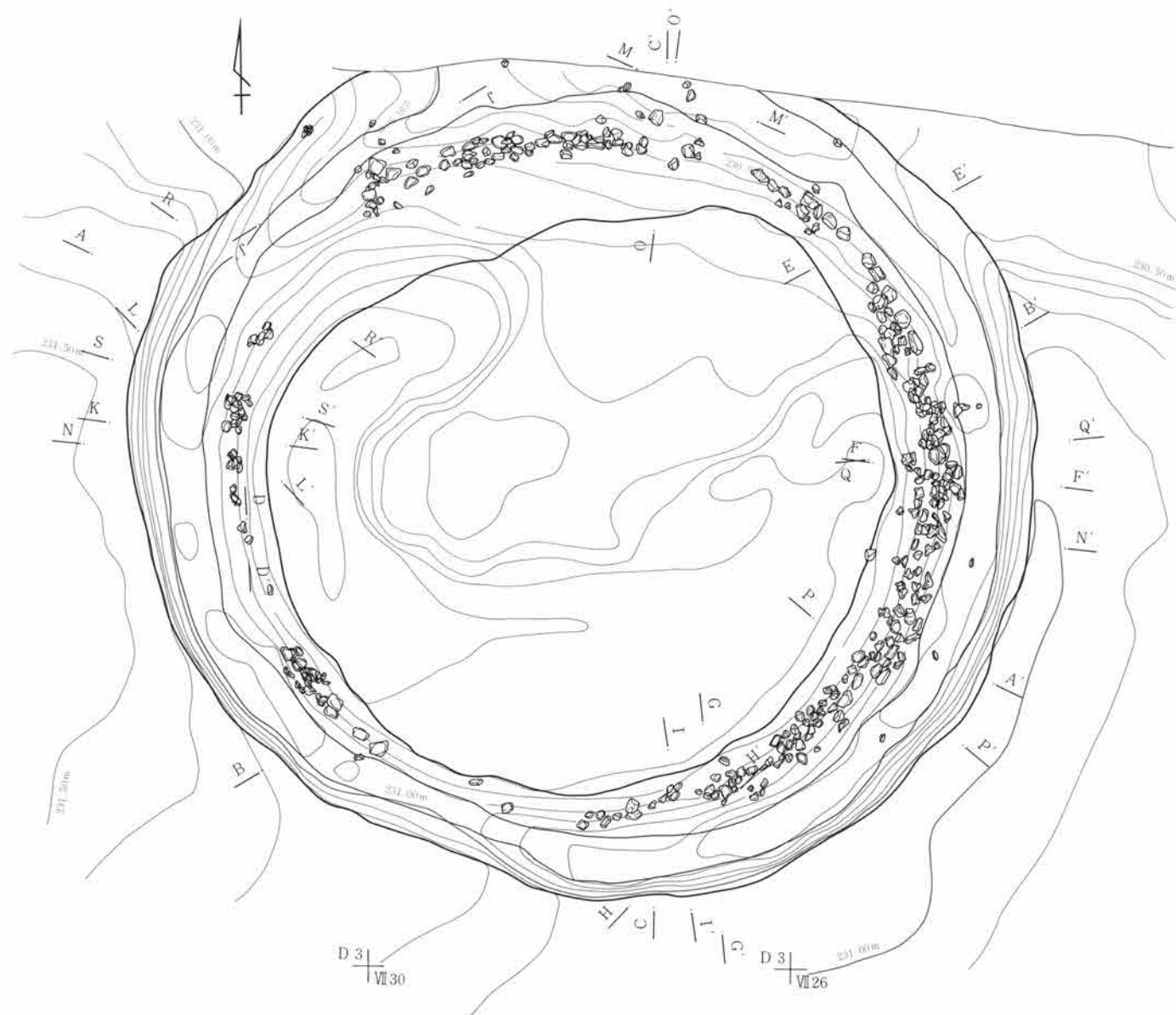
4号墳

位置 C90～D3-VII21～30Gr 重複 なし 平面形態 円形

規模 周溝外径17.2m×15.8m 周溝内径13.8m×11.9m 墳丘・主体部 削平のため不明

周溝 北側の立ち上がりが一部未調査区に入り不明であるが、上端幅1.40～4.17m、底部幅0.37～0.98m、深さ35～140cmである。底部は南西部が最も高く、最も低い北東部とは60cmの差がある。断面形態は、南部はV字形に近く、外側の立ち上がりが内側よりも急になっているが、北部はU字形に近く、立ち上がりの角度は両側とも同様になっている。

葺石 周溝内から多量の礫(径5～30cm)が出土しており、葺石が存在したことが確認できた。多くは覆土

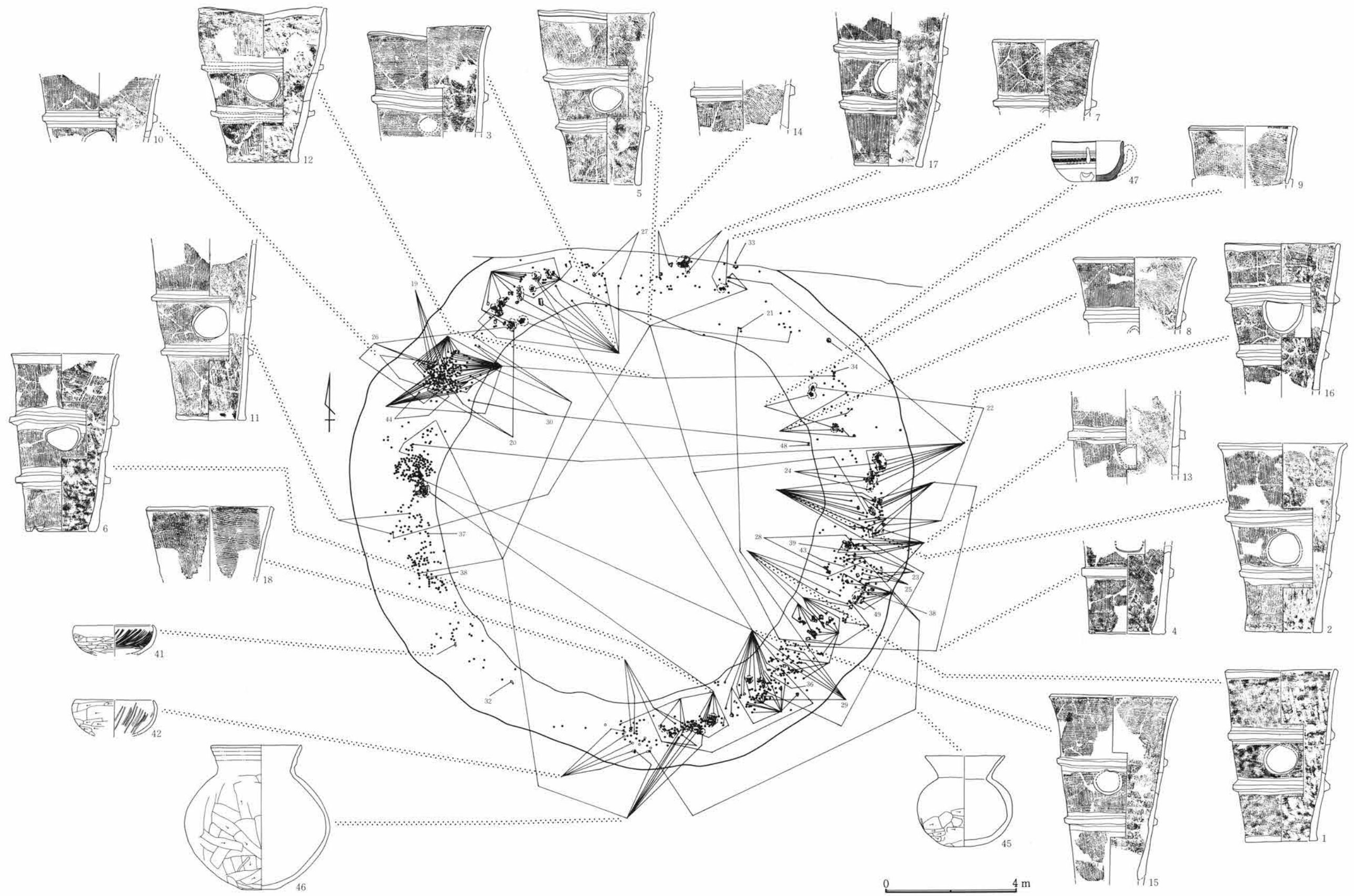


4号墳土層注記

- 1 黒色土 B.P.を少量含む
- 2 明黄褐色土 黒色土、B.P.を少量含む
- 3 暗褐色土 黒色土を含む
- 4 明黄褐色土 純粋なローム
- 5 黒色土 B.P.を含む 締まりやや強い
- 6 黒茶褐色土 B.P.を含む
- 7 黄褐色土 B.P.を少量含む
- 8 黄褐色土 黒色土、B.P.を含む
- 9 暗褐色土 黒色土を含む
- 10 黒褐色土 B.P.、炭化粒子を含む
- 11 明黄褐色土 地山
- 12 橙色 B.P.を主とする地山
- 13 橙色 地山 色調やや暗い



第249図 4号墳



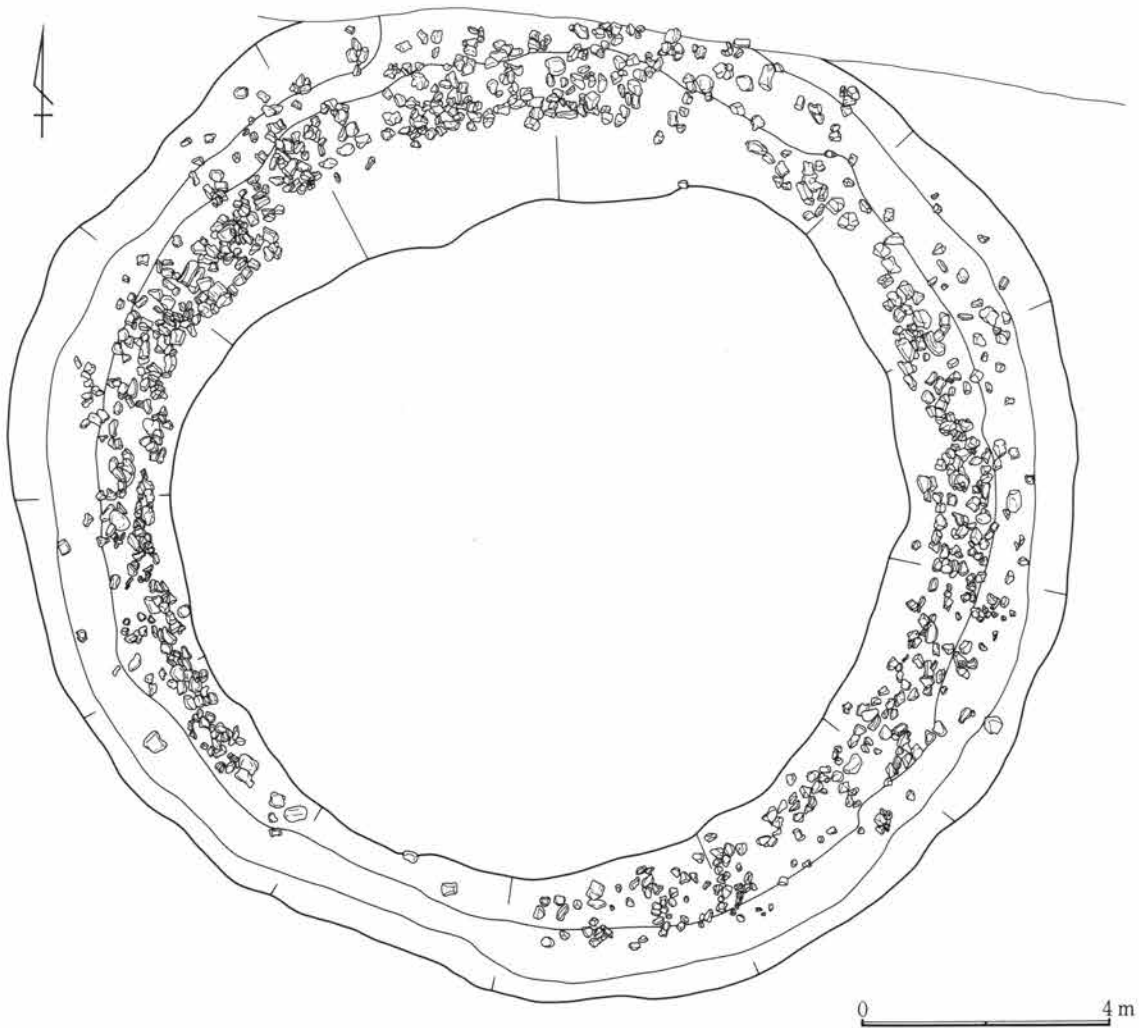
第250图 4号墳遺物出土状況

中の出土で、墳丘の葺石が落ちたものであるが、一部原位置をとどめていると考えられるもの(第249図)もあり、墳丘下の周溝立ち上がり部分にも葺石が施されていたことが想定できる。周溝部分の葺石は東側で残りがよく、西側は何ヶ所か途切れている部分がある。しかしながら、覆土中の葺石は遺構の残りの悪い南部を除いて全面から出土しており、特に西部に多くなっているため、築造当初は全面に葺石が施されていたと考えられる。なお葺石の石材は安山岩系とチャート系のものがほとんどである。

埴輪 周溝内から多量の円筒埴輪が出土しており、円筒埴輪が立て並べてあったことは間違いのないであろう。完形に近い形で出土したものは少なく、ほとんど破片で出土しているが、南部を除いて全面から出土しており、墳丘の周囲全面に置かれていたことが想定できる。接合関係はほとんどの埴輪で認められ、かなり広範囲に接合しており、反対側の周溝から出土した破片と接合しているものもある。このことは完形の埴輪が直接周溝に落ちたのではなく、落ちる以前にすでに割れた状態にあったことを示している。

掘り方 長径25～50cmのピットが、内側の立ち上がりから多数検出されており、葺石敷設のためのピットであると考えられる。

遺物出土状況 土器は、南西部から坏・甕が、南東部から埴が、北東部から須恵器把手付埴が出土しており、ほぼ完形で出土したのは須恵器埴だけで埴と甕は広範囲に接合している。



第251図 4号墳礫出土状況

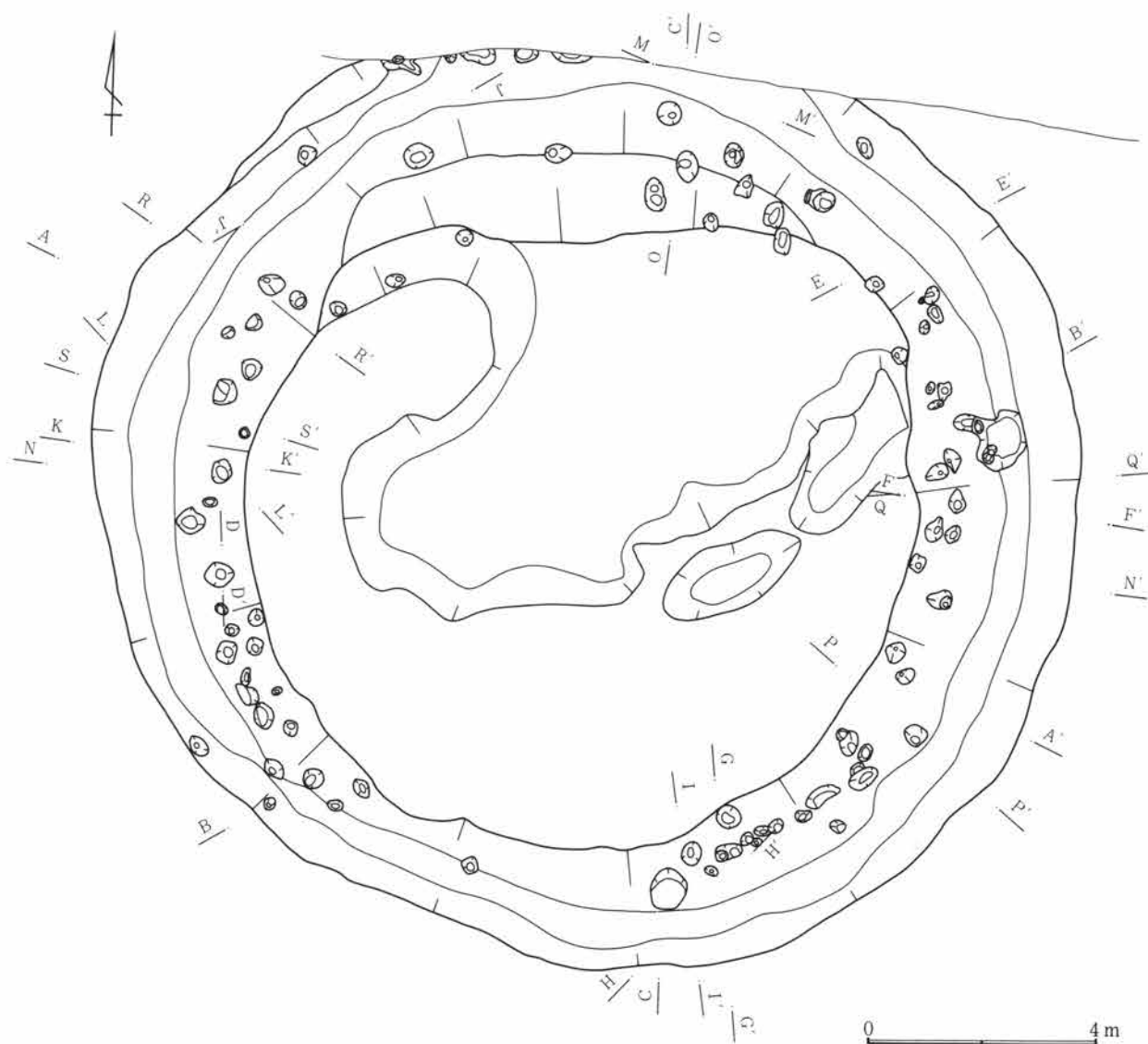
第三章 検出された遺構と出土遺物

出土遺物 出土した埴輪は円筒埴輪だけで、横ハケを施すものが数点あるが、あとは縦ハケである。土器は、土師器坏・埴・甕、須恵器把手付埴が出土しており、石製品は滑石製模造品が出土している。

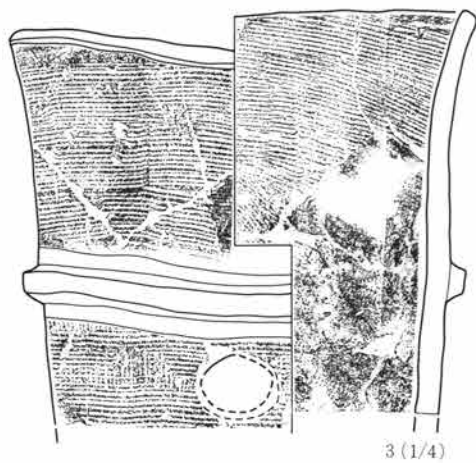
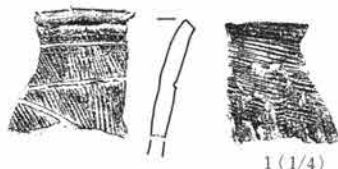
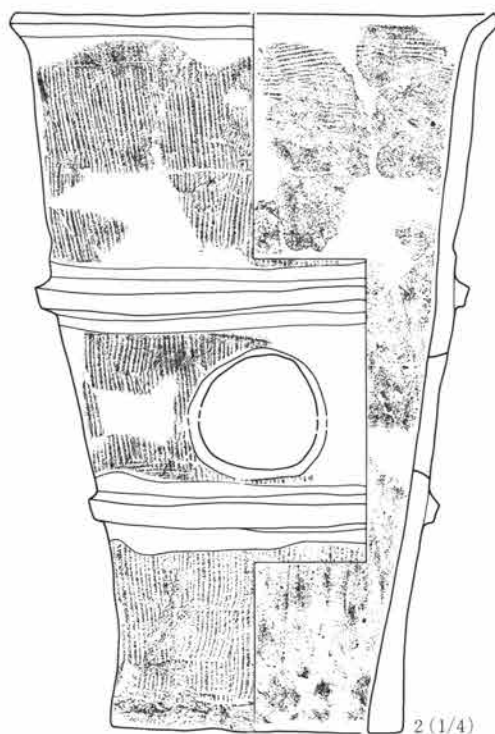
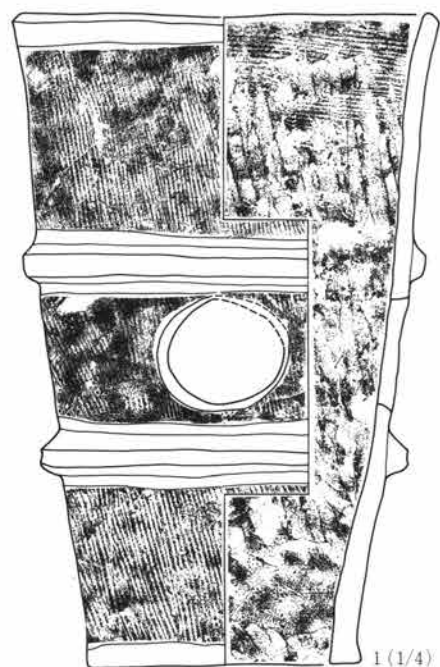
所見 出土遺物から、5世紀後半代の古墳と考えられる。出土した埴輪には、横ハケのものがふくまれるため、同様に埴輪が出土した5号墳よりもやや古い様相を示している。

出土遺物数量表

種別	埴輪	土師器				須恵器	計
		坏	甕	小型甕	計		
器種	円筒					埴	
点数	1,003	29	78	1	108	1	1,112
重量(g)	47,700	500	2,800	500	3,800	200	51,700

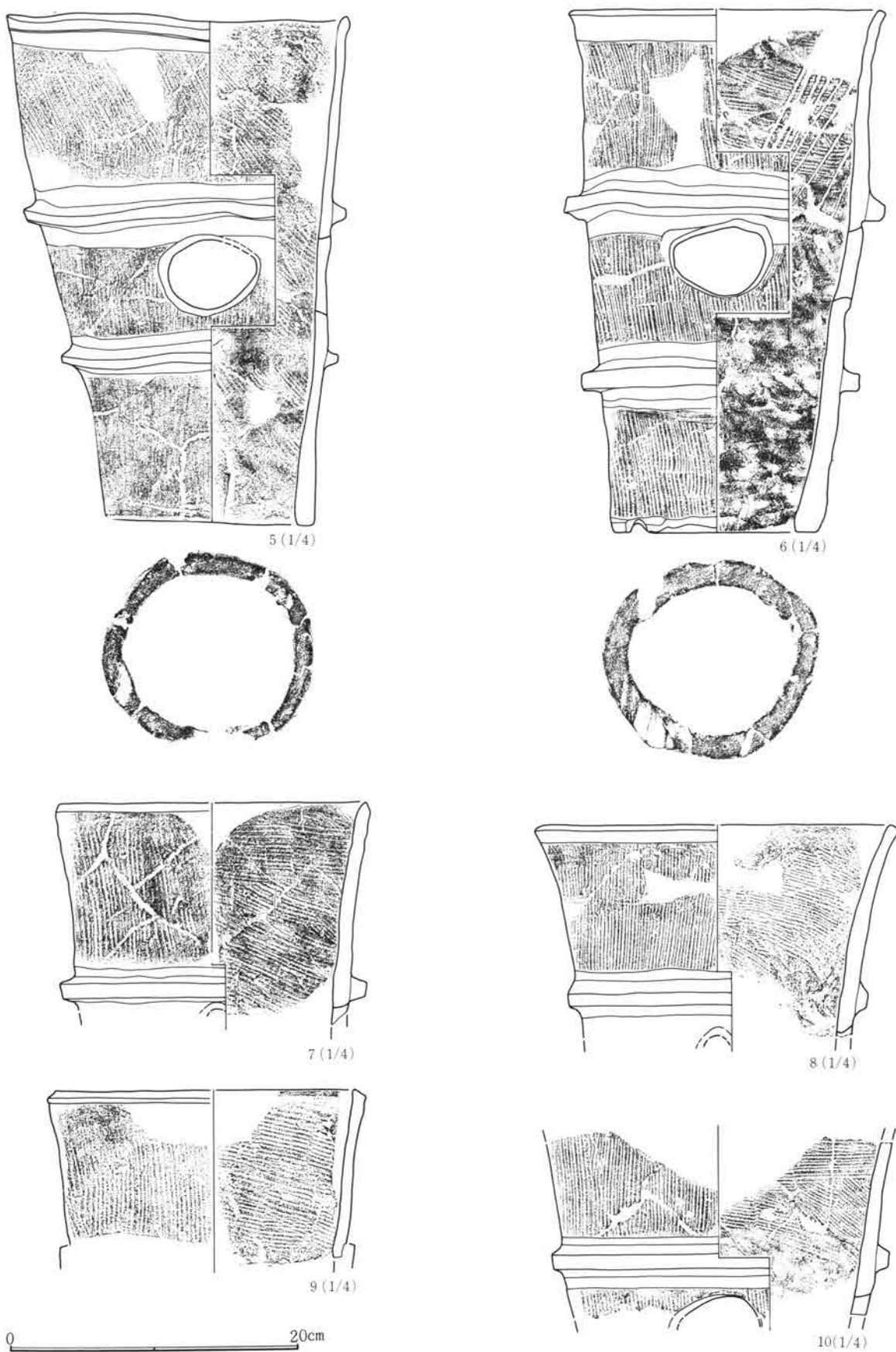


第252図 4号墳掘り方

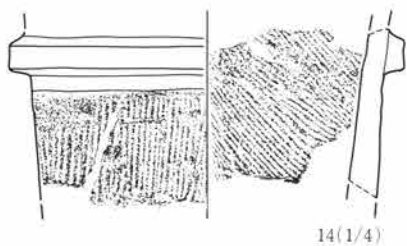
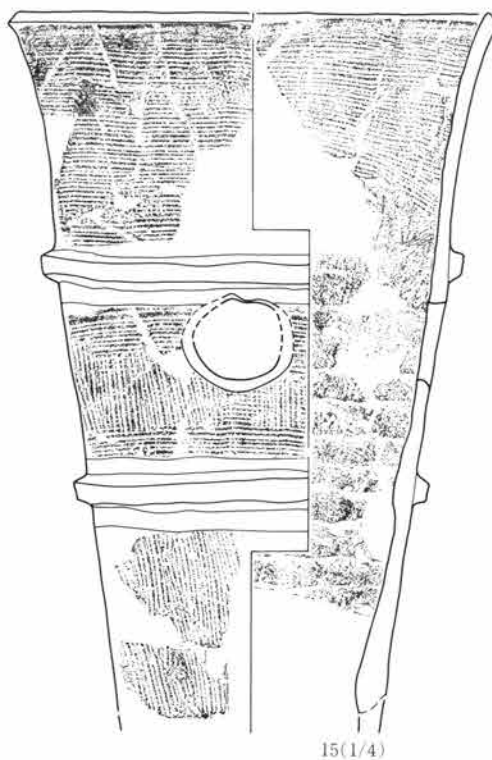
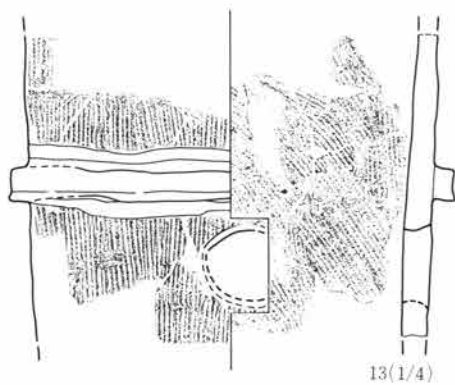
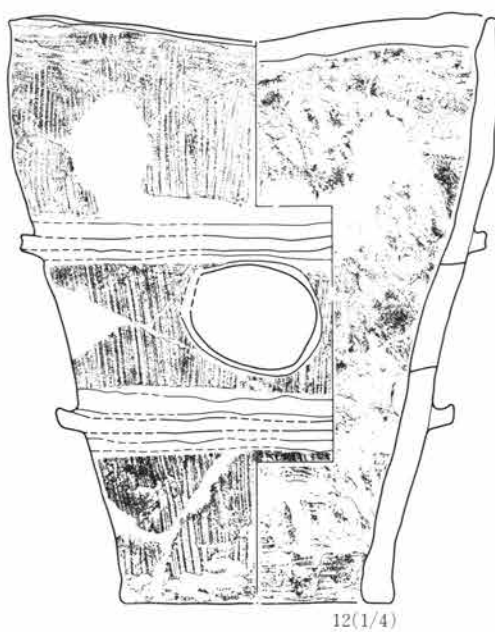
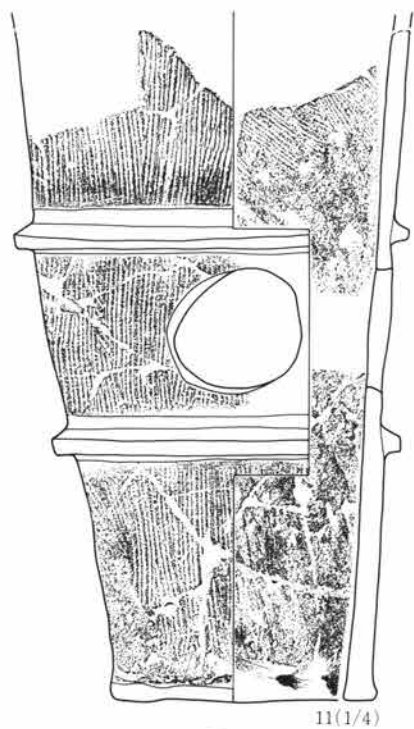


0 20cm

第253図 4号墳出土遺物(1)

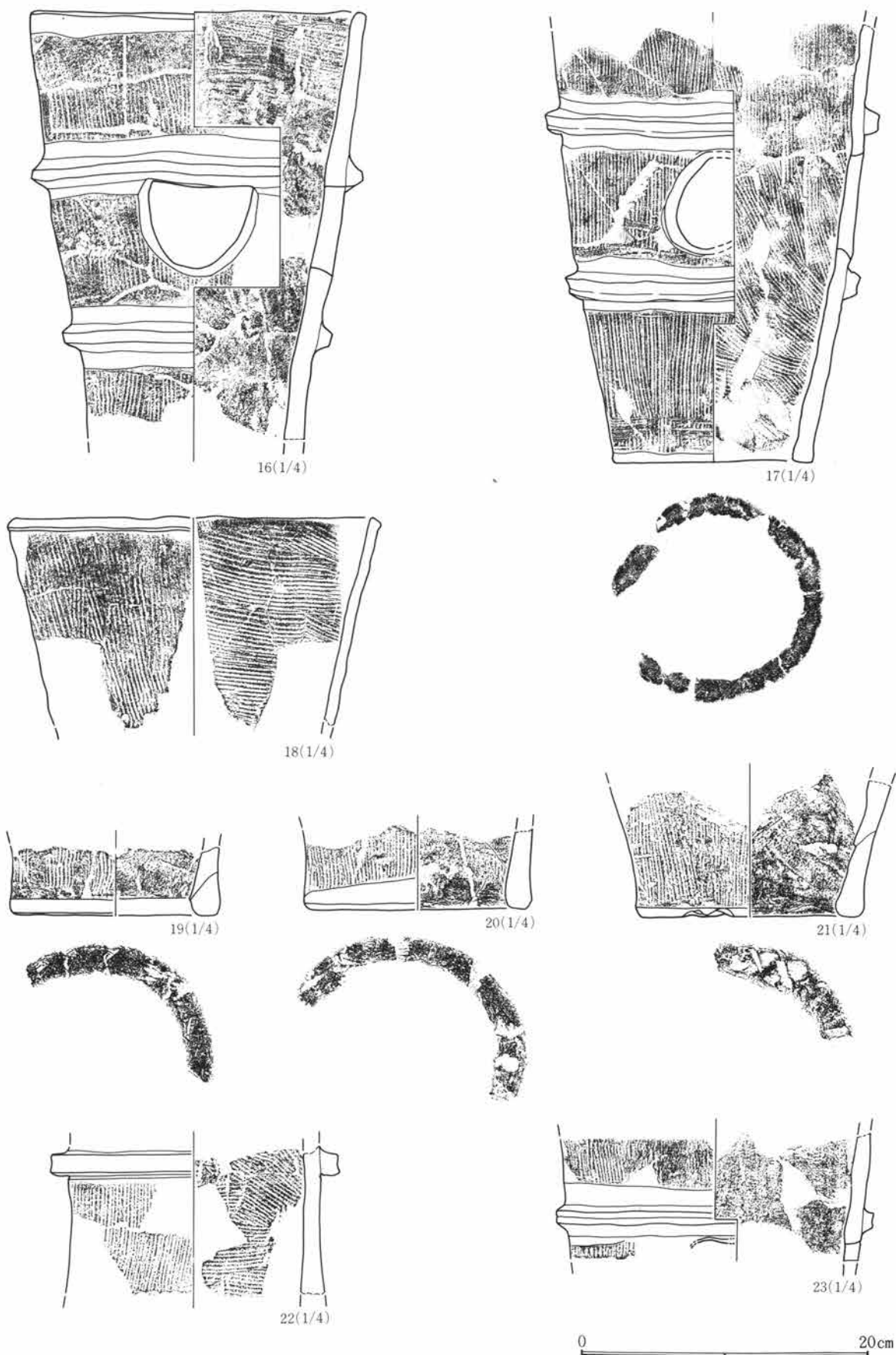


第254図 4号墳出土遺物(2)



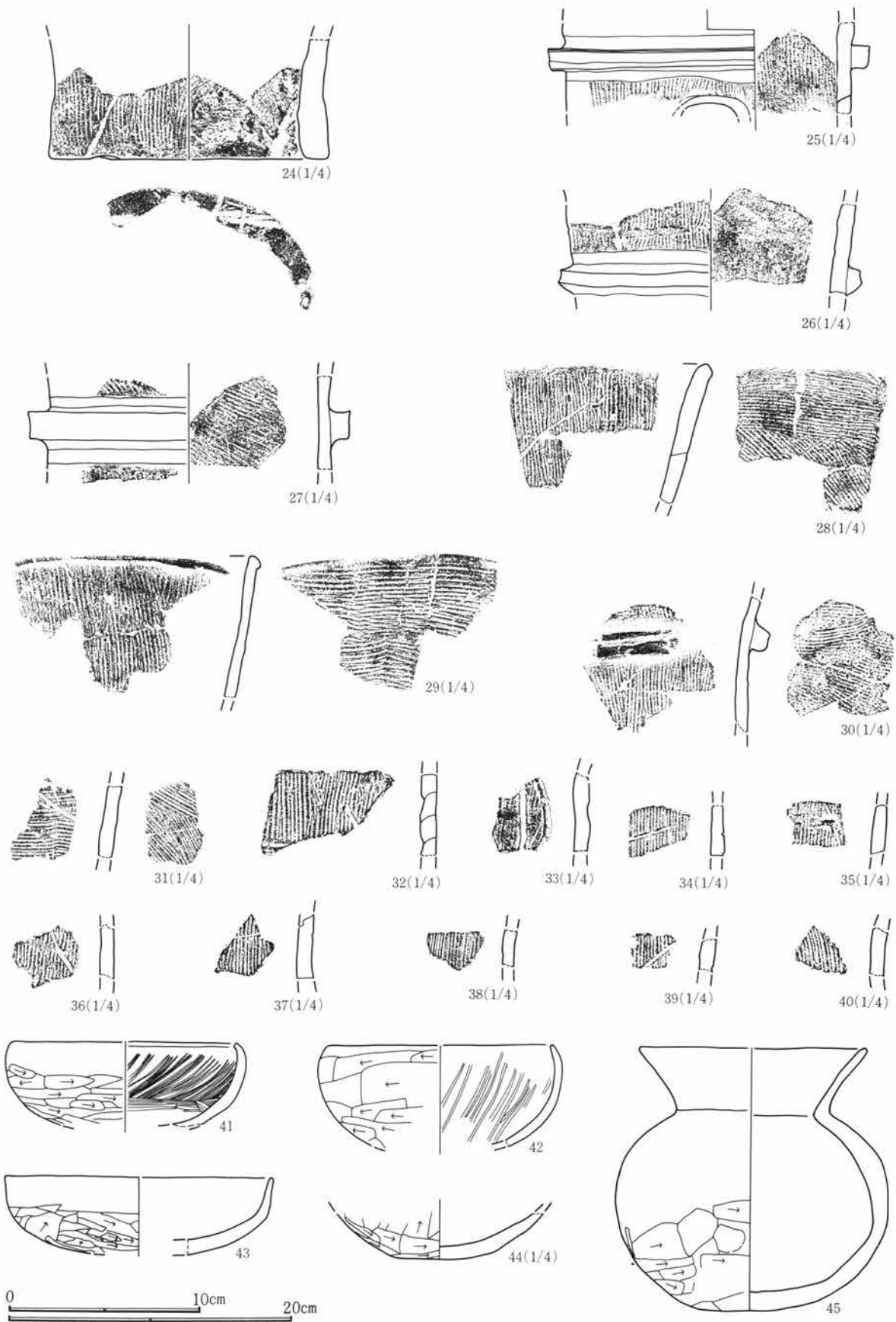
0 20 cm

第255図 4号墳出土遺物(3)



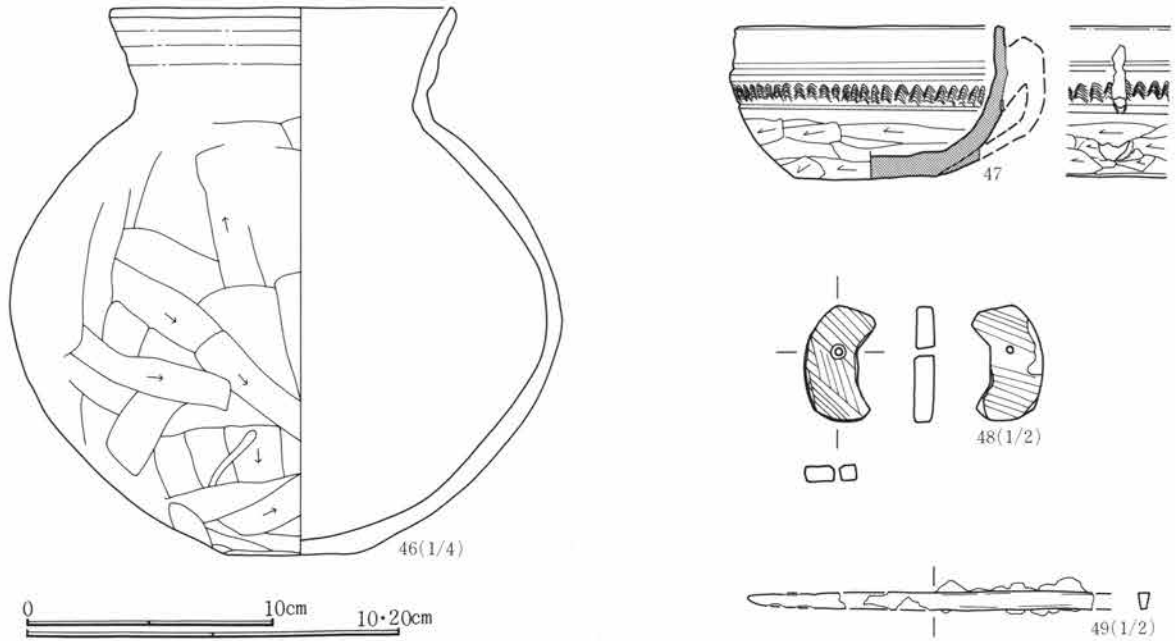
第256図 4号墳出土遺物(4)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第257図 4号墳出土遺物(5)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第258図 4号墳出土遺物(6)

4号墳出土埴輪観察表

No	出土位置	法量①口径②底径 ③高さ④残存 (cm)	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸帯	透孔	ハケ	成形・整形の特徴	備考
1	南東	①22.8cm ②(15.4cm)③34.6cm ④口~底2/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	台形 1 10.9 2 21.1	円・楕円 5.8×6.8 (5.6)×6.9	13 14	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口縁部横ハケ胴部指ナデ 底面に植物圧痕 外面第3段篋描き	
2	北東	①(26.0cm) ②15.6cm③38.0cm ④口~底2/3	①灰黄褐 ②灰黄褐 橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	台形 1 11.7 2 23.0	円・楕円 6.7×6.7 (5.6×7.6)	9 10	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口縁部下横ハケ胴部指ナデ 底面に植物圧痕	
3	北東	①24.9cm ②- ③[21.0cm] ④口~胴部	①灰黄 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・少量の礫を含む	台形	円 (4.0×4.2)	13 14	外面縦ハケ後横ハケ 口縁部・凸帯貼付部一部横ナデ 内面上部横ハケ下部指ナデ	器形著しく歪む
4	南東	①- ②(15.0cm) ③[17.4cm] ④胴~底部1/3	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	M字形 1 12.4	円か	11 12	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面横・斜めハケ 底部付近指ナデ 底面に植物圧痕	
5	北西	①23.8cm②14.6cm ③34.5cm ④一部欠損	①②橙 にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	台形 1 11.2 2 21.1	楕円・円 5.3×6.8 (5.4×6.0)	10 12	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口~胴部横・斜めハケ胴下部指ナデ 外面第3段篋描き	
6	南東	①(21.1cm) ②14.0cm③35.7cm ④一部欠損	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	台形 1 10.3 2 22.1	半円 4.5×7.2 4.4×(5.3)	10 11	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面上部横ハケ篋描き中~下部指ナデ 底面に植物・棒状圧痕	
7	北東	①(21.2cm)②- ③- ④口縁部1/5	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	台形		10 13	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面横ハケ	
8	北東	①(24.0cm)②- ③- ④口縁部1/5	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	M字形		9 13	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面上部横ハケ 中部指ナデ	
9	北東	①(20.5cm)②- ③- ④口縁部1/5	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む			8 9	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面横ハケ	
10	北西	凸帯部径(23.2cm) ④胴部1/3	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	M字形	円か	7 8	外面縦ハケ 内面上部横ハケ下部指ナデ	
11	南西	①- ②13.8cm ③[35.4cm] ④胴~底部	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫・雲母を含む	台形 1 13.6 2 24.5	円 6.1×7.2 6.6×6.9	10 12	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面上部横・斜めハケ 中~下部指ナデ 底面に植物圧痕・棒状圧痕	

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No.	器種	出土位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸帯	透孔	ハケ	成形・整形の特徴	備考
12	円筒	北西	①(25.7cm)②14.2cm ③31.3cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・ 礫・雲母を含む	台形 1 9.9 2 19.1	楕円・円 5.7×6.8 (6.5×6.8)	9 10	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横 ナデ 内面口縁部・底面付近横ハケ 中央指ナデ 底面に植物圧痕	
13	円筒	南東	凸帯部径(23.8cm) ④胴部1/3	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・ 粗砂・礫を少量含む	M字形	円か	13 14	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横 ナデ 内面斜めハケ	
14	円筒	北東	凸帯部径(21.2cm) ④胴部1/4	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を少量含む	台形		7 8	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面斜めハケ	
15	円筒	南東	①(25.0cm)②— ③[37.0cm] ④口～底1/2	①②橙 褐灰 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を 含む	台形	円 4.9×5.6 6.0×6.5	12 13	外面縦ハケ後第2段・3段横ハケ 口縁 部・凸帯貼付部横ナデ 内面上部横ハケ 中～下部指ナデ	
16	円筒	北東	①23.5cm ②— ③[28.8cm] ④口～胴部	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を 少量含む	台形	半円 6.3×7.8 6.0×7.5	7 8	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横 ナデ 内面上部横ハケ 中～下部指 ナデ	
17	円筒	北東	①— ②14.0cm ③[29.5cm] ④胴～底1/2	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗 砂・礫・雲母を含む	M字形 1 12.3 2 23.5	楕円か 7.0×?	8 10	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面縦・斜めハケ底面付近指ナデ	
18	円筒	南東	①(24.9cm)②— ③— ④口縁部1/3	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・雲母を 含む			12 13	外面縦ハケ 口縁部横ナデ 内面横 ハケ	
19	円筒	北西	①— ②(13.8cm) ③— ④底部1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫・ 雲母を含む			7 8	外面縦ハケ 内面指ナデ 底面付近 指オサエ 底面に植物圧痕	
20	円筒	北西	①— ②15.8cm ③— ④底部1/2	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫・ 雲母を含む			7 8	外面縦ハケ 内面指ナデ 底面付近 一部指オサエ 底面に植物圧痕	
21	円筒	北東	①— ②(15.0cm) ③[9.4cm] ④底部1/3	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含 む			9 10	外面縦ハケ 内面指ナデ 底面に棒 状圧痕	
22	円筒	南東	凸帯部径(20.2cm) ④胴部1/5	①にぶい褐 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・ 粗砂を含む	M字形		9	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面横・斜めハケ	
23	円筒	南東	凸帯部径(21.9cm) ④胴部1/3	①②橙 にぶい黄橙 ③良好 ④細砂・粗砂・雲 母を含む	M字形	半円か	10 11	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面指ナデ	
24	円筒	北東	①— ②(19.4cm) ③[8.4cm] ④底部1/3	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を 含む			8 9	外面縦ハケ 内面指ナデ 底面に棒 状圧痕	
25	円筒	南東	凸帯部径(22.6cm) ④胴部1/5	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含 む	台形	円か	8 9	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面斜めハケ	
26	円筒	北西	凸帯部径(21.1cm) ④胴部1/3	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫・ 雲母を含む	M字形		12 13	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面指ナデ	
27	円筒	北西	凸帯部径22.6cm ④胴部1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を含む	M字形		7 8	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面斜めハケ	
28	円筒	南東	器厚10～12mm ④胴部片	①②橙 黄灰 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を 含む			11	外面縦ハケ 口縁部横ナデ 内面横 ハケ・斜めハケ 外面に窺描きあり	
29	円筒	南東	器厚6～7mm ④口縁部片	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む			12 13	外面縦ハケ 内面横ハケ	
30	円筒	北西	器厚6～7mm ④胴部片	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を含む	M字形		12 13	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内 面横ハケ・斜めハケ	
31	円筒	覆土	器厚9～11mm ④胴部片	①灰 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多 く含む			11 13	外面横ハケ 内面斜めハケ 外面に 窺描きあり	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸帯	透孔	ハケ	成形・整形の特徴	備考
32	円筒	南西	器厚8~12mm ④胴部片	①②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む			10 11	外面縦ハケ 内面指ナデ一部斜めハケ 外面に篋描き	
33	円筒	北東	器厚9~11mm ④胴部片	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む		円または半円か	12 13	外面縦ハケ 内面横ハケ 外面に篋描き	
34	円筒	北東	器厚7~10mm ④胴部片	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む			12 13	外面縦ハケ 内面横ハケ 外面に篋描き	
35	円筒	覆土	器厚8~9mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む			12 13	外面縦ハケ 内面横ハケ 外面に篋描き	
36	円筒	南東	器厚9~10mm ④胴部片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む			12	外面縦ハケ 内面横ハケ 外面に篋描き	
37	円筒	南西	器厚9~11mm ④胴部片	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む			11	外面縦ハケ 内面指ナデ 外面に篋描き	
38	円筒	南西	器厚8~9mm ④胴部片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む			11	外面縦ハケ 内面指ナデ 内面に篋描き	
39	円筒	北東	器厚10mm ④胴部片	①にぶい黄橙②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む			11	外面縦ハケ 内面指ナデ 外面に篋描き	
40	円筒	覆土	器厚9~10mm ④胴部片	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む			12	外面縦ハケ 内面斜めハケ 外面に篋描き	

※円筒植輪各部の名称は、下端部の下面を「底面」、胴部周囲に貼り付けられた「凸帯」を境に下から順に、「第1段」「第2段」「第3段」「第4段」……とし、上端部を口縁部、胴部にあけられた孔は「透孔」とする。(以下すべて同じ)

4号墳出土土器観察表

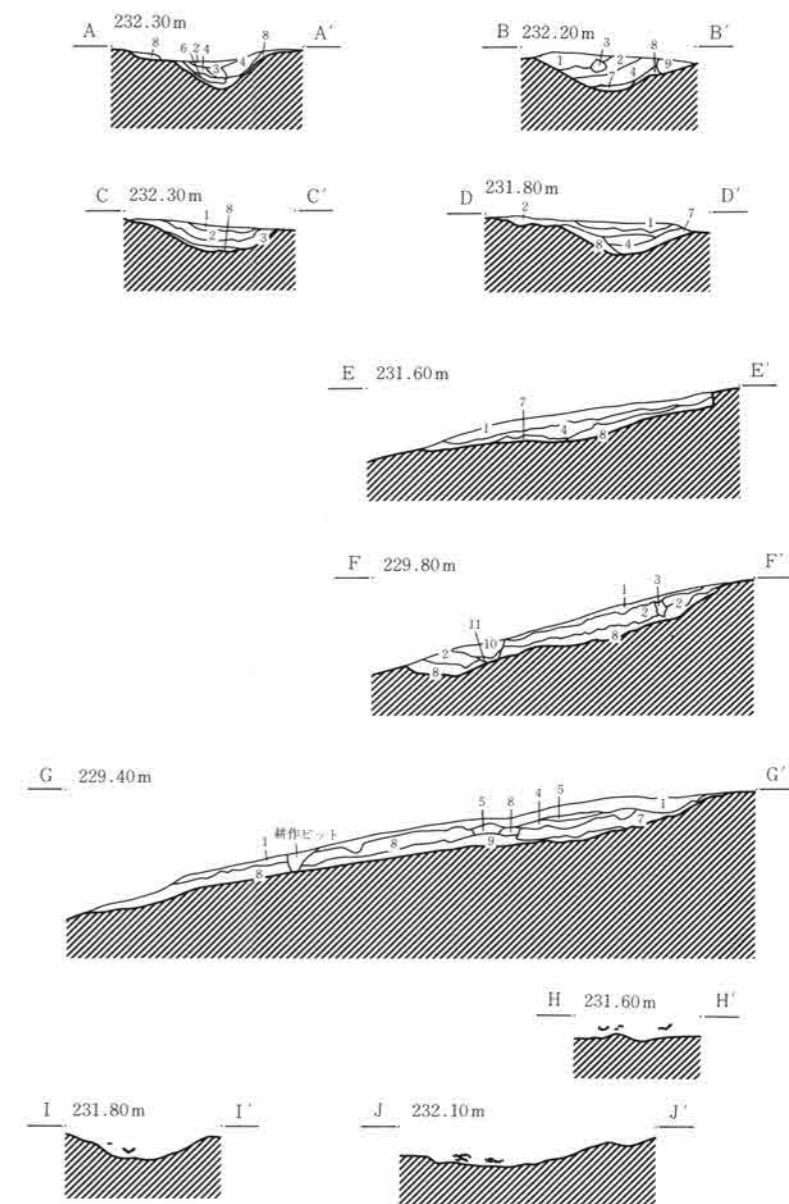
No	種別器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
41	土師器 坏	南西	①(11.6cm)②- ③- ④口~体1/2	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ	体~底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文・磨き	I B	
42	土師器 坏	南西	①(12.0cm)②- ③- ④口~体1/3	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ	体部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I B	
43	土師器 坏	南東	①(14.0cm)②- ③- ④口~底1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ	体~底部外面篋削り内面ナデ	I B	
44	土師器 甕	北西	①- ②- ③- ④底部	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴~底部外面篋削り内面ナデ		I C	
45	土師器 埴	南東	①(12.0cm)②- ③13.6cm ④口~底2/3	①明赤褐 ②にぶい赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ	胴部外面上半ナデ下半~底部篋削り内面ナデ	VI	
46	土師器 甕	南東	①(18.1cm)②7.5cm ③30.0cm ④口~底2/3	①橙 ②明赤褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ	胴~底部外面篋削り内面ナデ	VII C	
47	須恵器 把手付 埴	北東	①10.9cm ②5.6cm ③6.0cm ④完形	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整	体部に5本1単位の櫛描き波状文 体部下半~底部外面手持ち篋削り 内外面に自然釉付着 把手は貼付部より剥がれる	II	

4号墳出土石器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
48	石製模造品	北東	2.6	1.8	0.5	7.0	完形	滑石	外面粗い研磨

4号墳出土鉄器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
49	不明	南東	[4.5]	0.5	0.3	7.5	茎部残存	鉄鍍もしくは刀子の茎か

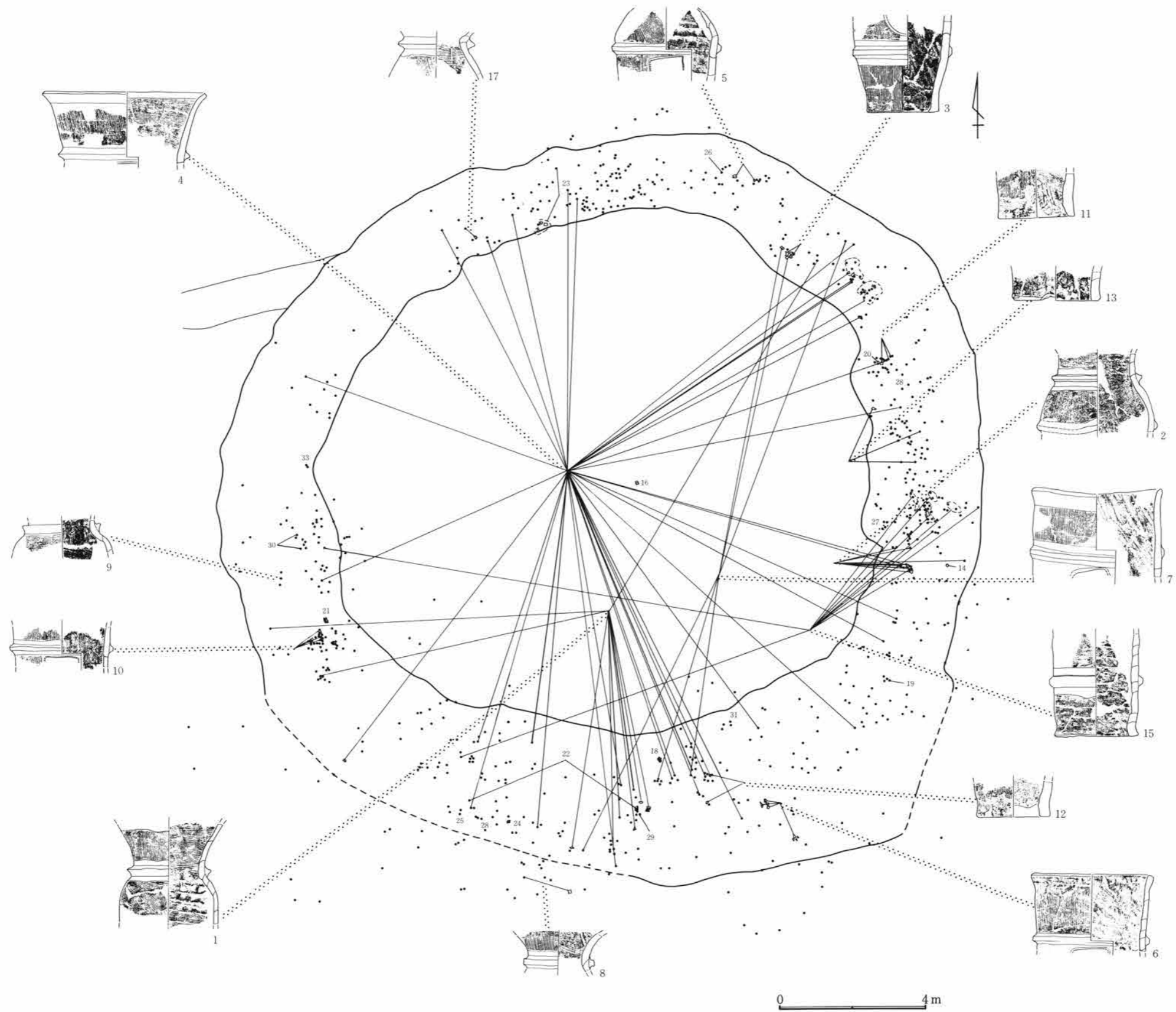


5号墳土層注記

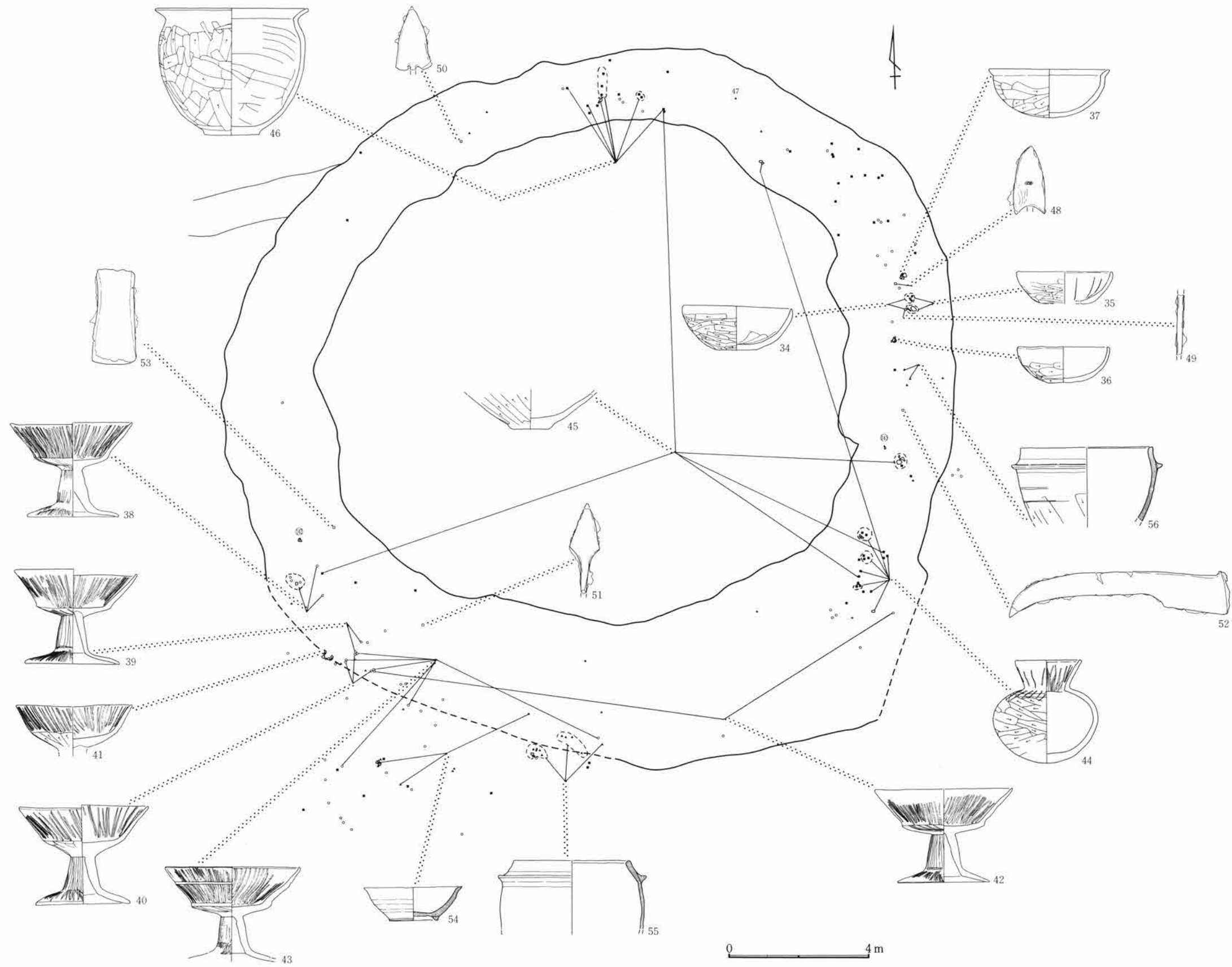
- 1 暗褐色土 浅間B軽石を多量含む 2 褐色土 黄褐色土・黒褐色土ブロックを少量含む
- 3 褐色土 黄褐色土ブロックを多量、黒褐色土ブロックを少量含む
- 4 黒褐色土 褐色土ブロック、黄色粒子を微量含む 5 黒褐色土 褐色土ブロック、黄色粒子を極微量含む
- 6 黒褐色土 褐色土・黄褐色土ブロック、黄色粒子を含む 7 褐色土 ロームブロック多量含む 締まり強い
- 8 褐色土 ロームブロックを多量含む 9 褐色土 ロームを主とする
- 10 暗褐色土 黄褐色土ブロック、黄色粒子を微量含む 11 褐色土 暗褐色土ブロック、黄色粒子を少量含む
- 12 浅間B軽石の純粹層に近い

0 4 m

第259図 5号墳



第260图 5号墳遺物出土状況(1)



第261图 5号墳遺物出土状況(2)

5号墳

位置 C98～D7-VII33～43Gr 重複 なし 平面形態 円形

規模 周溝外径21.8m×21.5m 周溝内径15.5m×14.0m 墳丘・主体部 削平のため不明

周溝 上端幅2.17～4.46m、底部幅0.28～2.10m、深さ50～145cmである。底部は西部やや北寄りが最も高く、最も低い部分は南東部と考えられるが、削平によりはっきりしない。標高差は100cm程である。断面形態は南部は削平により不明であるが、V字形に近い。底部は丸みを帯び、立ち上がりは緩やかであるが、外側がやや急になっている部分もある。

葺石 検出されていない。

埴輪 出土量が多いが、4号墳よりもさらに小破片が多く、全体を復元できたものもほとんど無い。ほぼ全面から出土しているが、北西部にはほとんど出土していない部分がある。接合関係はほとんどの埴輪でみられ、4号墳よりも更に広範囲に接合しており、特に4はほぼ全面から出土した破片が接合している。出土量・出土状況から5号墳に置かれた埴輪であることは疑いないが、完形に近いものがなく、広範囲に接合しているということは、周溝に落ちる以前に、4号墳よりもさらに小さく割れていたと言えよう。

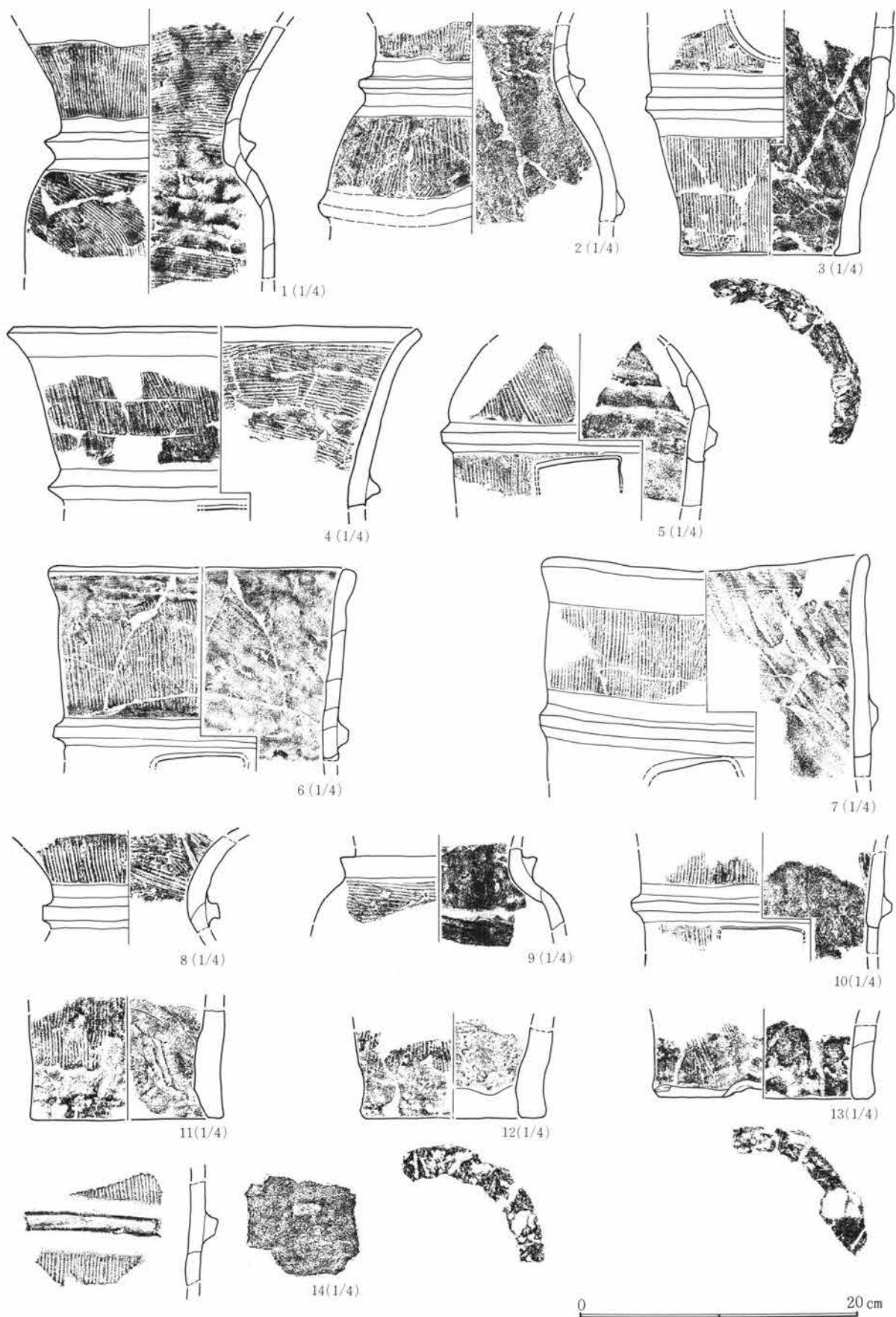
遺物出土状況 土器は、南西部から高坏6点が、東部から坏・埴が、北部から甕が出土している。ほとんど接合関係が認められるが、比較的狭い範囲で接合している。ただ高坏には広範囲に接合しているものがあり、また45の甕は北部・南東部・南西部の破片が接合している。鉄製品は、鉄鏃が北東部・北西部・南東部、鎌が東部、鉄斧が南西部と、ほぼ全面から出土している。

出土遺物 埴輪は円筒埴輪920点と朝顔型埴輪7点が出土している。円筒埴輪はすべて縦ハケを施すもので、横ハケのものはない。朝顔型埴輪の7点は口縁部～頸部破片で確実に朝顔型とわかるものだけで、胴部小破片は円筒埴輪と区別できないため、円筒埴輪破片中に朝顔型埴輪の破片がかなり混入していると考えられる。このため朝顔型埴輪の出土していない4号墳とは埴輪の様相を異にしていると言えよう。土器は、土師器坏・高坏・埴・甕、須恵器坏・羽釜が出土しているが、須恵器坏と羽釜は平安時代の遺物である。鉄製品は、鎌1点、鉄斧1点、鉄鏃3点、不明1点の計6点出土している。

所見 出土遺物から、5世紀後半代の古墳と考えられる。4号墳同様埴輪が出土しているが、朝顔形埴輪が多い特徴がある。また横ハケのものは出土していないため、4号墳よりやや新しい様相を示している。

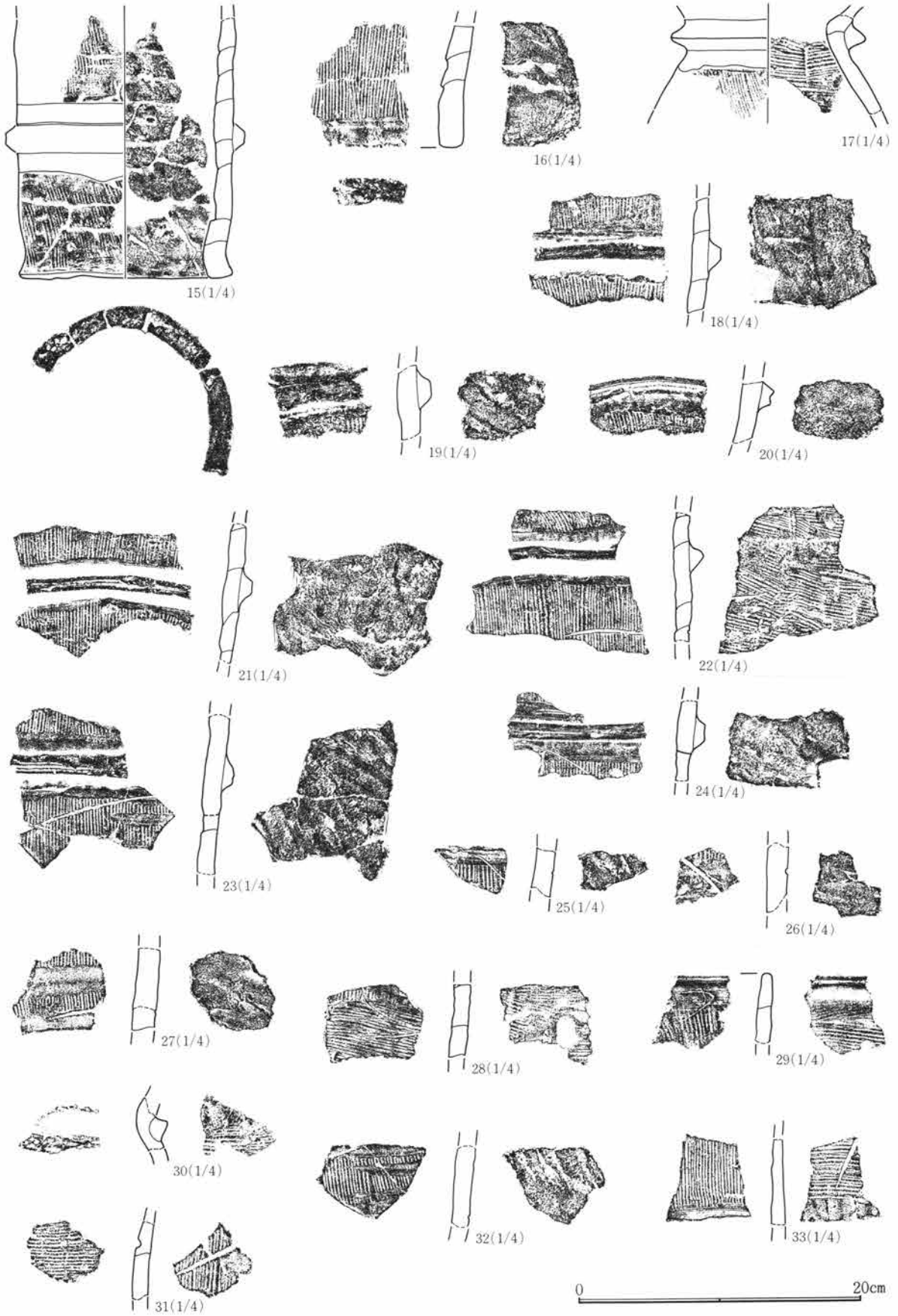
出土遺物数量表

種別	埴輪			土師器					須恵器			計
	円筒	朝顔	計	坏	高坏	甕	埴	計	坏	羽釜	計	
点数	920	7	927	17	93	40	1	151	4	2	6	1,084
重量(g)	48,500	2,000	50,500	1,100	3,600	4,150	570	9,420	205	1,200	1,405	61,325



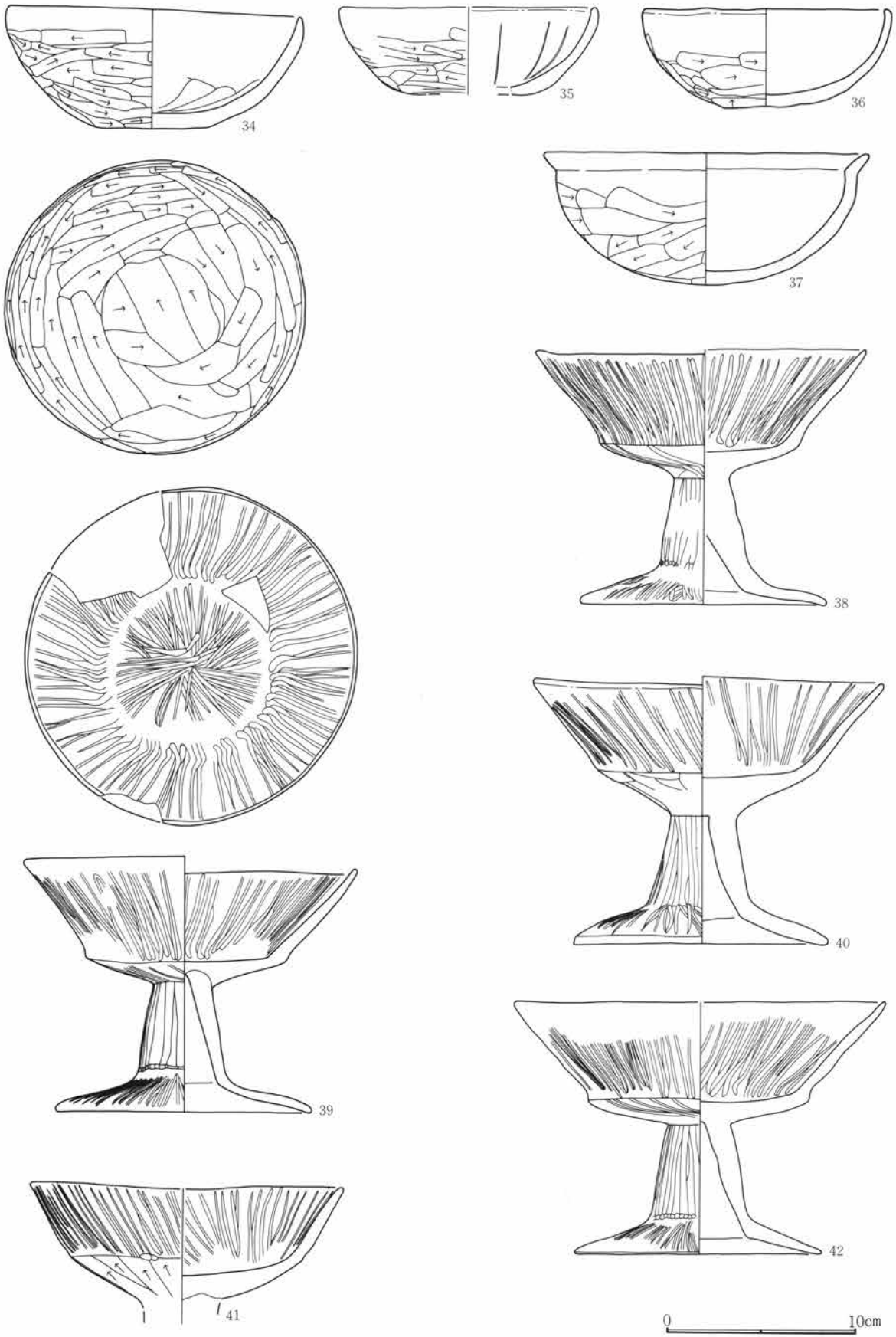
第262図 5号墳出土遺物(1)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



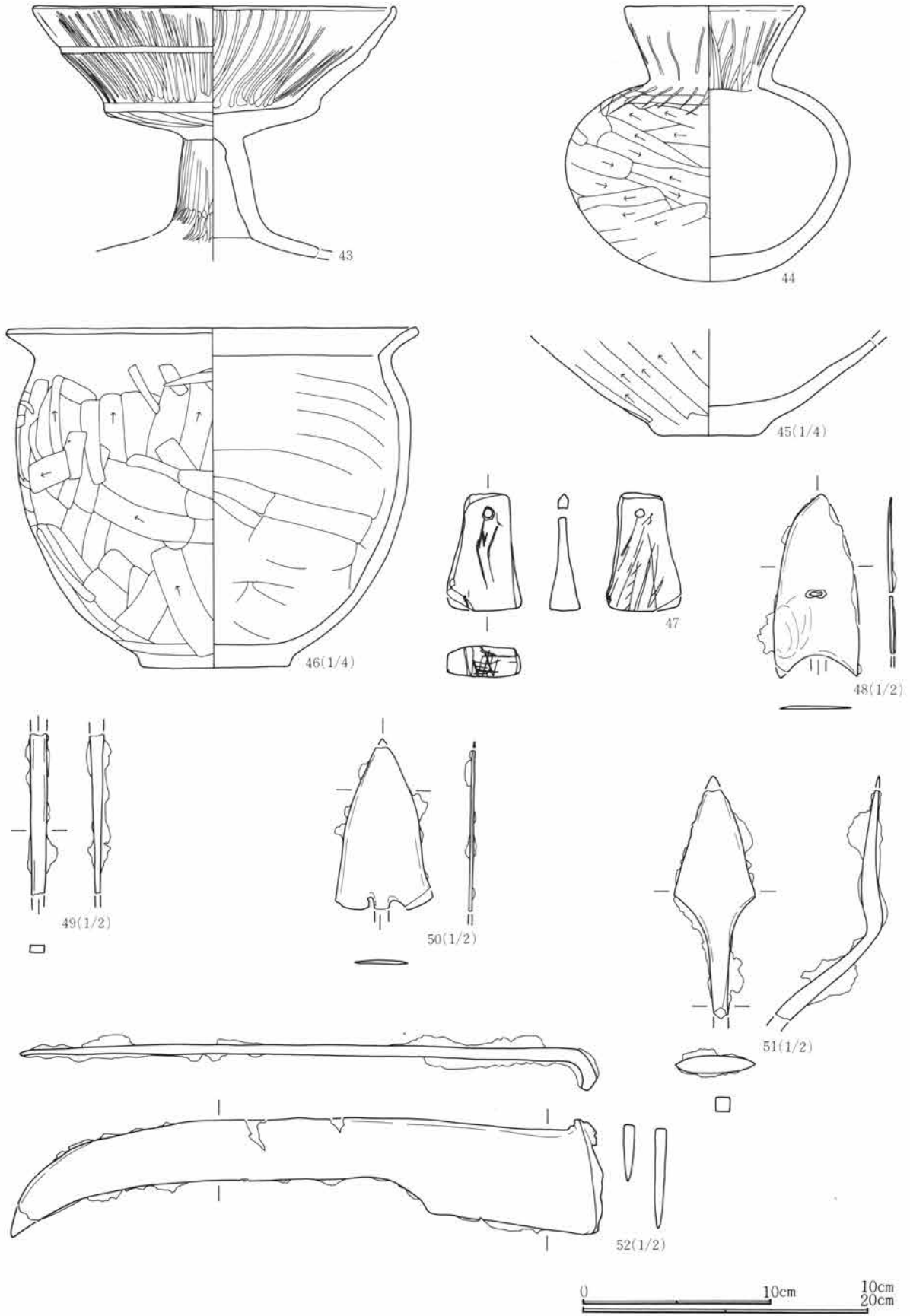
第263図 5号墳出土遺物(2)

第三章 検出された遺構と出土遺物



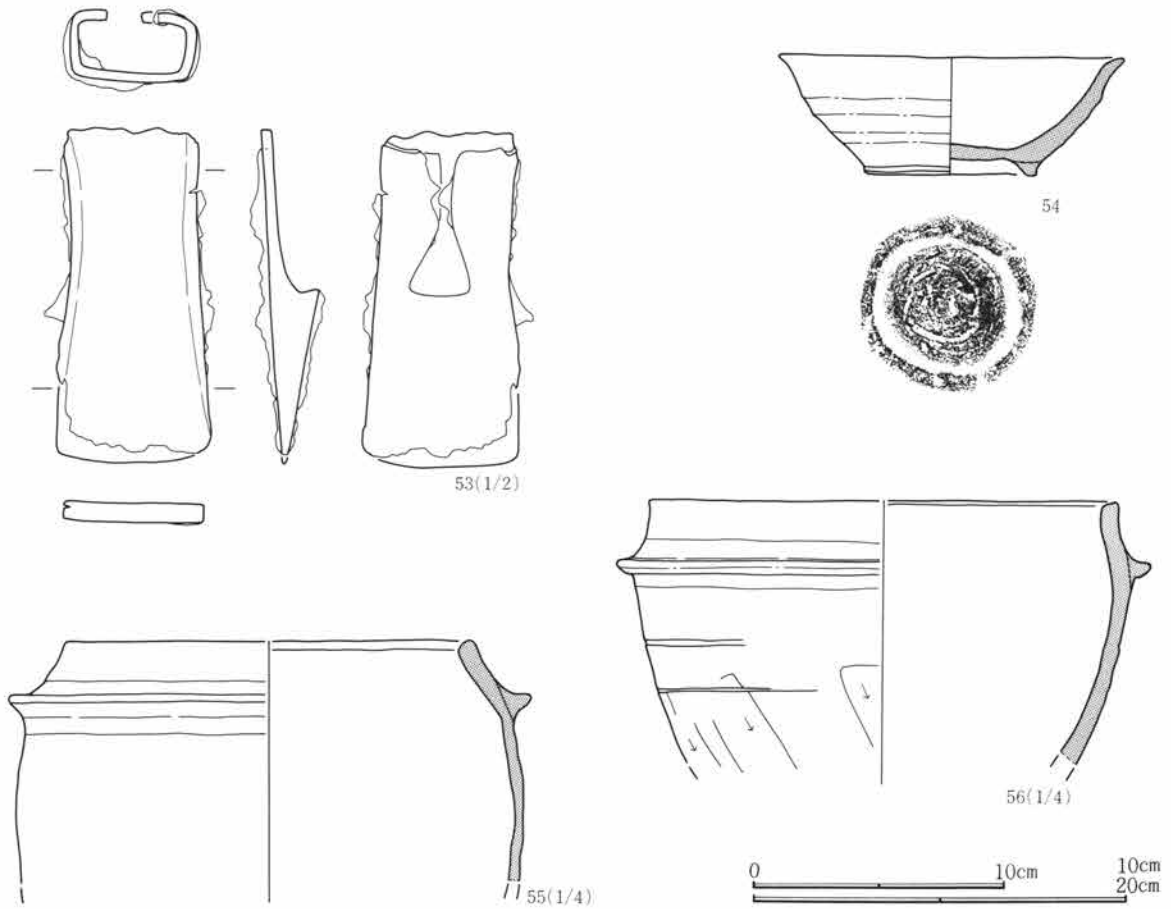
第264図 5号墳出土遺物(3)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第265図 5号墳出土遺物(4)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第266図 5号墳出土遺物(5)

5号墳出土埴輪観察表

No 器種	出土 位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸 帯	透 孔	成形・整形の特徴	備 考
1 朝顔	南東	最大径(18.8cm) ④頸～胴1/2	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を含む	三角形		頸部外面縦ハケ内面横ハケ 肩～胴部 外面斜めハケ内面肩部指ナデ胴部横ハ ケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ	
2 朝顔	南東	凸帯部径(21.8cm) ④頸～胴部1/4	①②にふい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を多く含む	三角形 台形		外面縦ハケ 内面指ナデ 凸帯貼付部 横ナデ 外面に篋描き	
3 円筒	北東	①— ②(12.6cm) ③[16.5cm] ④胴～底部1/3	①②にふい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を含む	台形 1 10.8	円か	外面縦ハケ 内面指ナデ 凸帯貼付部 横ナデ 底面に植物圧痕	
4 円筒	全面	①(28.8cm)②— ③— ④口～胴1/2	①②にふい黄橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・雲母を 含む	三角形		外面縦ハケ 内面横ハケ 口縁部・凸 帯貼付部横ナデ 外面に篋描き	
5 朝顔	北東	凸帯部径(19.9cm) ④胴部1/4	①②にふい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を 含む	台形	半円か	外面縦ハケ 内面ナデ 凸帯貼付部横 ナデ	
6 円筒	南東	①(20.8cm)②— ③— ④口～胴部1/2	①②にふい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を 含む	台形	半円か	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面指ナデ	
7 円筒	北東	①(19.4cm)②— ③— ④口～胴1/3	①②にふい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を少量含む	台形	半円か	外面縦ハケ 一部縦ハケ後再度縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ 外面 第3段に赤彩	
8 朝顔	南西	凸帯部径(12.8cm) ④頸部1/3	①②にふい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母 を少量含む	台形		外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面横ハケ・斜めハケ・ナデ 外面 赤彩か	

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No	器種	出土位置	法量①口径②底径(cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸帯	透孔	成形・整形の特徴	備考
9	朝顔	南西	凸帯部径(14.0cm) ④頸部1/5	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を少量含む	三角形		肩部外面横ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ	
10	円筒	南西	凸帯部径(18.9cm) ④胴部1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	台形	半円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ	
11	円筒	北東	①— ②(13.8cm) ③[7.5cm] ④胴～底部1/3	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む			外面縦ハケ 内面指ナデ底部付近指オサエ	
12	円筒	南東	①— ②(12.8cm) ③[6.4cm] ④底部1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫・雲母を含む			外面縦ハケ底部付近ナデ 内面指ナデ 底部付近指オサエ 底面に植物圧痕	
13	円筒	北東	①— ②(15.8cm) ③— ④底部1/3	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫・パミスを含む			外面縦ハケ 内面指ナデ 底面に棒状圧痕	
14	円筒	南東	器厚9～10mm ④胴部片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	台形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ハケ 内面指ナデ	
15	朝顔?	北東	①— ②15.0cm ③[17.9cm] ④胴～底部	①橙 にぶい橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	不明 1 10.5		外面縦ハケ 内面指ナデ底部付近指オサエ	
16	円筒	南東	器厚14～19mm ④底部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む			外面縦ハケ底部付近ナデ 内面指ナデ 底面に棒状圧痕	
17	朝顔	北西	凸帯部径(13.6cm) ④頸部1/4	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	三角形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面横ハケ・指ナデ	
18	円筒	南東	器厚8～13mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫・雲母を含む	台形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ	
19	円筒	南東	器厚10～12mm ④胴部片	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を多く含む	台形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ	
20	円筒	北東	器厚11～13mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	M字形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ	
21	円筒	南西	器厚8～11mm ④胴部片	①にぶい橙②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫・パミスを含む	M字形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ	
22	朝顔?	南西	器厚8～11mm ④胴部片	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を少量含む	三角形に近い台形	円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面横ハケ 外面に筥描き	
23	円筒	北西	器厚10～11mm ④胴部片	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	M字形	円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ 外面に筥描き	
24	円筒	南西	器厚8～11mm ④胴部片	①にぶい褐②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	M字形	半円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ 外面に筥描き	
25	円筒	南西	器厚13～15mm ④胴部片	①にぶい黄橙②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む			外面縦ハケ一部横ナデ(凸帯か) 内面指ナデ	
26	円筒	北東	器厚13～15mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む			外面縦ハケ 内面指ナデ 外面に筥描き	
27	円筒	南東	器厚15～16mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む		円または半円か	外面縦ハケ後一部横ナデ 内面指ナデ 外面に筥描き	
28	円筒	北東	器厚12～13mm ④胴部片	①にぶい橙②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む			外面縦ハケ・横ハケ一部横ナデ(凸帯か) 内面横ハケ 外面に筥描き	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	出土器種	位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸 帯	透 孔	成形・整形の特徴	備 考
29	南東 円筒		器厚7~10mm ④口縁部片	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を少量含む			外面縦ハケ 口縁部横ナデ 内面横ハケ	
30	南西 朝顔		器厚8~13mm ④頸部片	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を少量含む	貼付部より剝離		内面横ハケ	
31	南東 円筒		器厚9~10mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む			外面縦ハケ 内面横ハケ 外面に篋描きか(かなり深い)	
32	南西 円筒		器厚11~13mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む			外面縦ハケ一部横ナデ 内面指ナデ 外面に篋描き	
33	北西 円筒		器厚7~10mm ④胴部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む			外面縦ハケ一部横ナデ(凸帯か) 内面横ハケ	

5号墳出土土器観察表

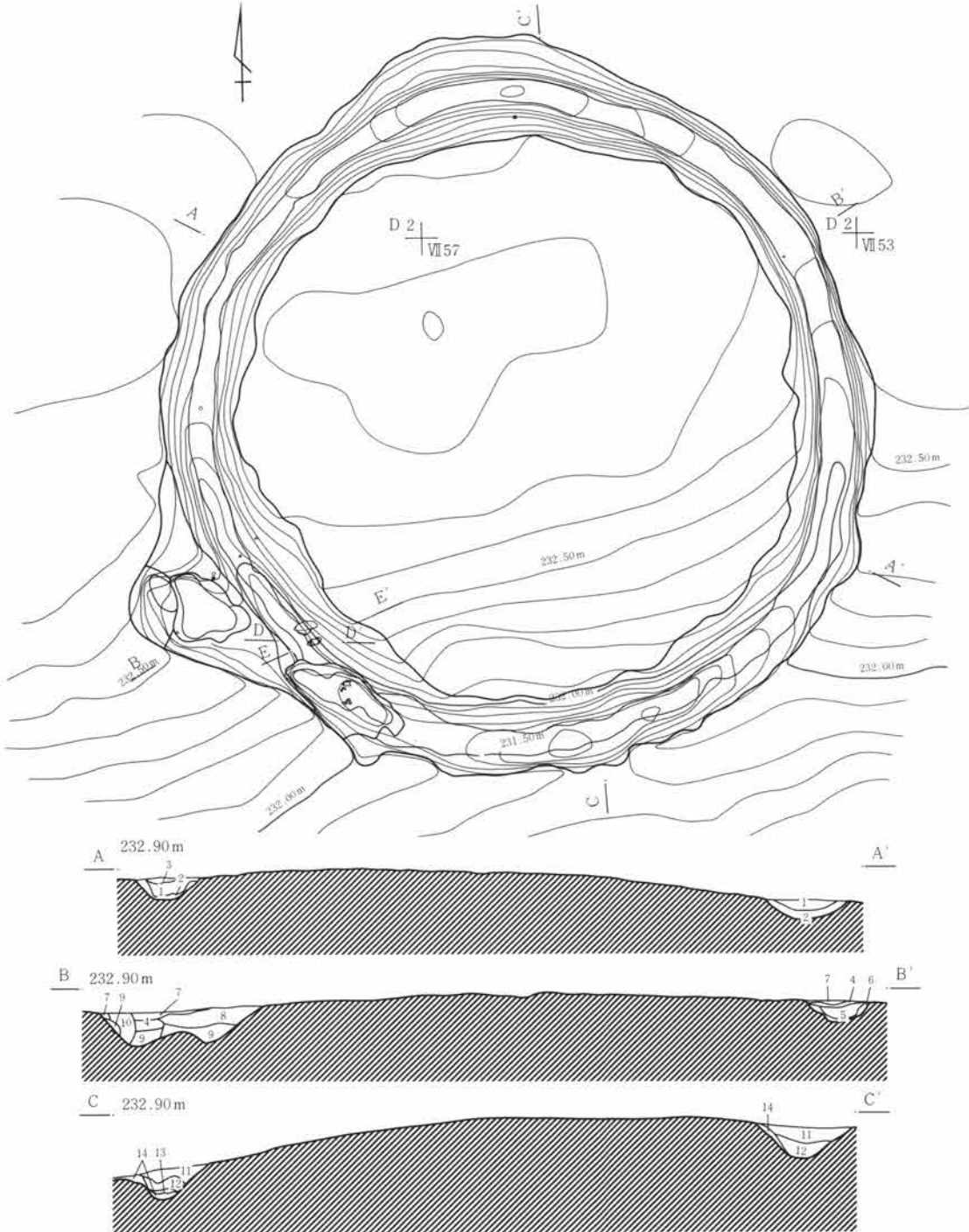
No	種別器種	出土位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
34	土師器 坏	北東	①15.2cm ②5.8cm ③6.2cm ④ほぼ完形	①②にぶい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面篋ナデ	I B	
35	土師器 坏	北東	①(13.4cm)②- ③[4.5cm] ④口~底1/3	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面篋ナデ	I B	
36	土師器 坏	北東	①12.5cm ②- ③5.1cm ④口~底3/4	①②にぶい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ	I B	
37	土師器 坏	北東	①16.8cm ②- ③6.8cm ④ほぼ完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口~体部上半横ナデ 体部下半~底部外面篋削り内面ナデ	I A	
38	土師器 高 坏	南西	①17.3cm 脚径12.8cm ③13.2cm ④口~脚1/2	①②明赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	内外面ともナデ後篋磨き・放射状暗文 底部外面・脚部内面篋削り	V A	
39	土師器 高 坏	南西	①17.2cm 脚径13.4cm ③13.3cm ④一部欠損	①橙 ②明赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	内外面ともナデ後篋磨き・放射状暗文 底部外面・脚部内面篋削り	V A	
40	土師器 高 坏	南西	①18.0cm 脚径13.2cm ③13.8cm ④一部欠損	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	内外面ともナデ後篋磨き・放射状暗文 底部外面・脚部内面篋削り	V A	
41	土師器 高 坏	南西	①(16.3cm)②- ③- ④坏部1/3	①明褐 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂を含む	口縁部内外面とも横ナデ放射状暗文 底部外面篋削り内面篋磨き	V A	
42	土師器 高 坏	南東	①19.2cm 脚径12.8cm ③13.0cm ④口~脚2/3	①明赤褐 ②褐灰 ③良好 ④細 細砂を含む	内外面ともナデ後篋磨き・放射状暗文 底部外面・脚部内面篋削り	V A	
43	土師器 高 坏	南西	①19.0cm ②- ③- ④口~脚3/4	①②明赤褐 ③良好 ④細 細砂を含む	内外面ともナデ後篋磨き・放射状暗文 底部外面・脚部内面篋削り	V A	
44	土師器 埴	南東	①9.1cm ②- ③14.3cm ④一部欠損	①②明赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴~底部外面篋削り内面ナデ 口縁部内外面・肩部外面に放射状暗文	VI	
45	土師器 甕	南東	①- ②7.0cm ③- ④胴~底部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴~底部外面篋削り内面ナデ	VII C	
46	土師器 甕	北西	①28.6cm ②10.4cm ③23.6cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴~底部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	内外面一部黒変
54	須恵器 坏	南西	①13.8cm ②6.8cm ③4.6cm ④一部欠損	①浅黄 ②灰黄 ③還元焰 不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り 高台貼付け 平安時代の遺物	I E	
55	須恵器 羽 釜	南西	①(21.6cm)②- ③- ④口~胴1/3	①②にぶい黄橙 ③酸化焰 良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 平安時代の遺物	IX	
56	須恵器 羽 釜	北東	①(24.6cm)②- ③- ④口~胴1/2	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③酸化焰 良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整 胴部下半篋削り 平安時代の遺物	IX	

5号墳出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
47	砥石	北東	6.1	3.9	1.6	35	一部欠損	流紋岩	5面使用 径4mmの孔あり 外面にキズあり
48	鉄鏃	北東	[6.3]	3.0	0.1	11.6	基部欠損		
49	不明	北東	[5.6]	0.6	0.6	4.8	基部		鉄鏃か刀子の基部か

5号墳出土鉄器観察表

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
50	鉄鏃	北西	[5.6]	3.3	0.1	11.5	茎部欠損	
51	鉄鏃	南西	[7.9]	2.8	0.6	24.0	茎部一部欠損	
52	鎌	南東	[20.4]	4.0	0.5	63.0	ほぼ完形	
53	鉄斧	南西	[8.6]	4.1	1.9	143	一部欠損	



6号墳土層注記 1 黒色土 B.P.微量含む 2 明黄褐色土 黒色土含む 3 黄褐色土 縮まり強い 4 黒色土 縮まり強い
 5 黄褐色土 B.P.を少量、黒色土を含む 6 明黄褐色土 ロームを主とする 7 黄褐色土 粘性強い 8 黒褐色土 B.P.を
 多量、黒色土を含む 9 褐色土 黒色土を含む 10 暗褐色土 黒色土を含む 11 黒色土 キメ細かく縮まり強い 12 明黄
 褐色土 黒色土を含む 13 黒褐色土 粘性強い 14 黄褐色土 ロームを主とする

第267図 6号墳

0 4m

6号墳

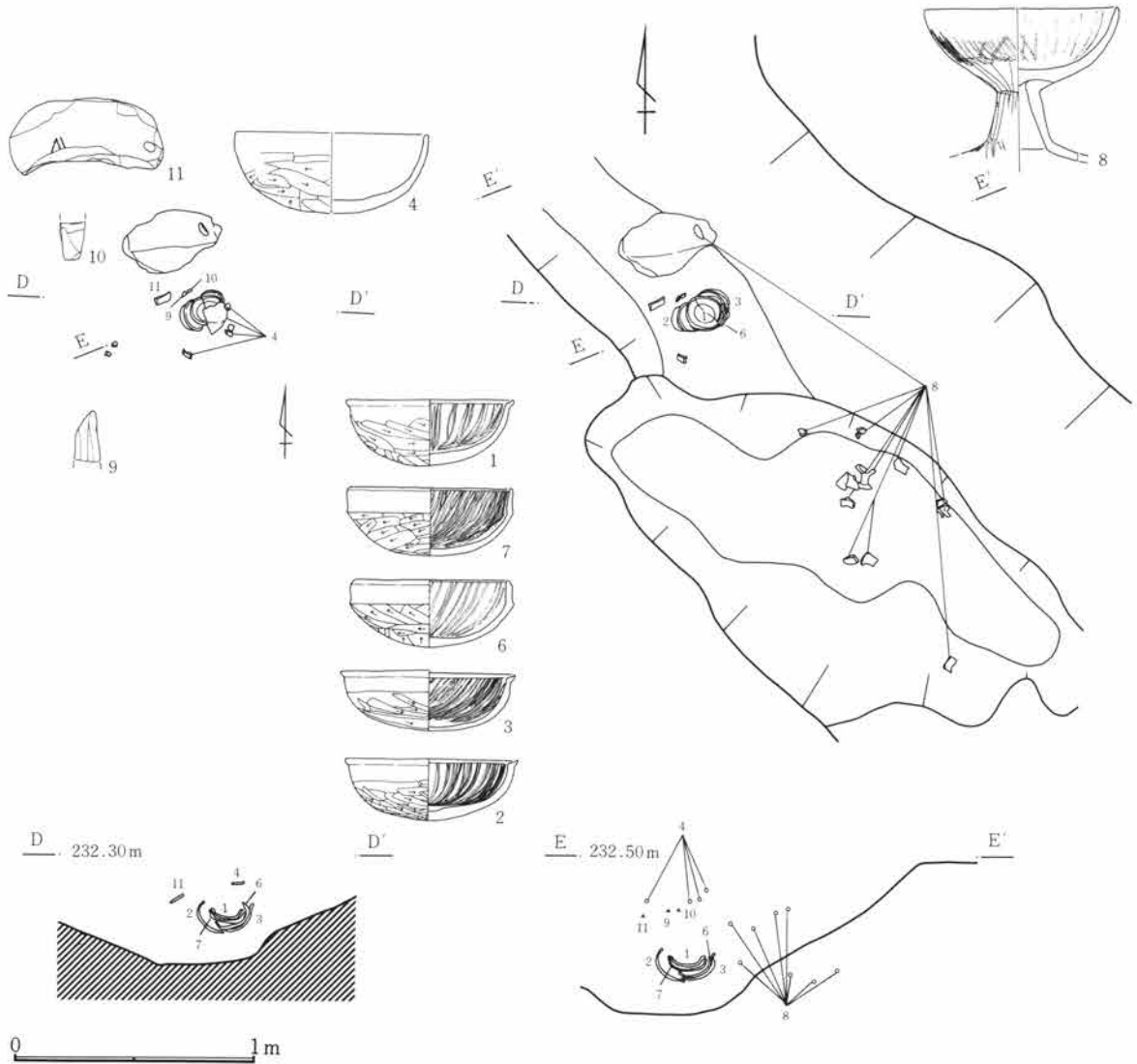
位置 D 0～6-VII52～59Gr 重複 なし 平面形態 円形。南西部に張り出しが存在している。

規模 周溝外径13.5m×13.0m 周溝内径10.2m×10.1m 墳丘・主体部 削平のため不明

周溝 上端幅1.19～1.93m(張り出し部を除く)、底部幅0.30～0.57m、深さ42～70cmである。底部が最も高いのは北西部と北東部の2ヶ所で、最も低いのは南部で標高差は100cmであるが、北部も約40cm両側より低くなっており、当古墳のみ2ヶ所ずつ頂部と谷部が存在しており、頂部が北に寄った形になっている。断面形態はどれも台形に近いが、底部は丸みを帯び、立ち上がりはなだらかで両側ともほぼ同様の角度である。土層断面によると張り出し部と周溝には新旧関係は認められないが、いずれも立ち上がりが存在するため、同時に作られていない可能性が高い。

葺石・埴輪 いずれも出土していない。

遺物出土状況 周溝南西部から、ほぼ完形の土師器杯が5個体重なって出土しており、また近辺から石製模造品が3点出土している。底部から13cm上で出土しているが、出土状況から見ると墳丘から落ちたものではなく、周溝に置かれたものと考えられ、周溝がかなり埋まった段階で置かれている。石製模造品が伴出して



第268図 6号墳南西部遺物出土状況

いることから、祭祀に関係する遺物であることが想定される。また、近くから高坏・坏が出土しているが、いずれも破片で狭い範囲で接合している。周溝の他の場所からは遺物はほとんど出土せず、土器片が数点出土しただけである。

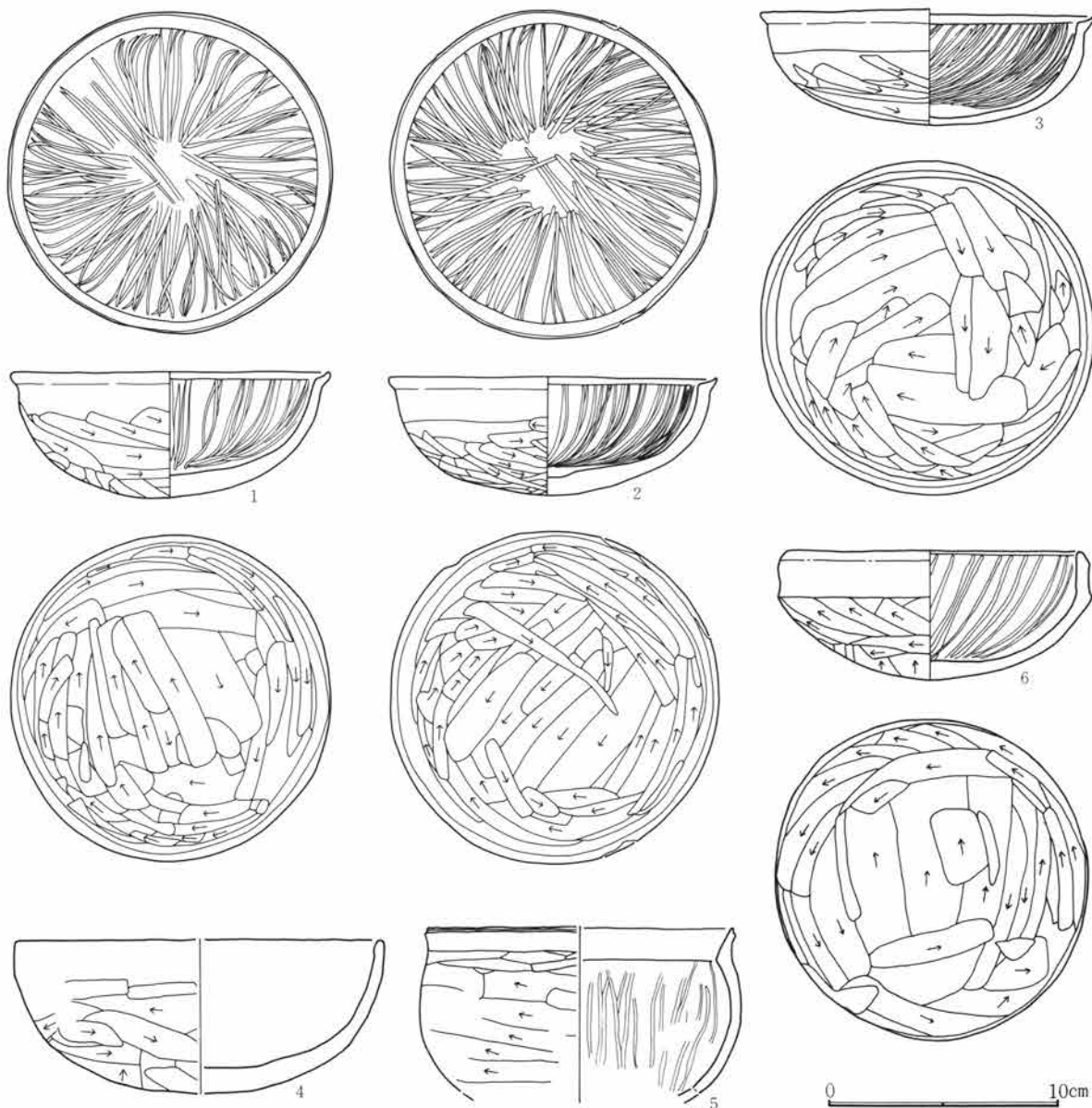
出土遺物 出土量は少なく、土器は、土師器坏・高坏・甕、須恵器坏が出土しており、石製品は、石製模造品が3点出土している。

所見 周溝出土の土器は古墳築造時と若干時期がずれると考えられるが、5世紀後半代の古墳と考えられる。

4・5号古墳と同様の時期であるが、埴輪・葺石はなく、様相を異にしている。

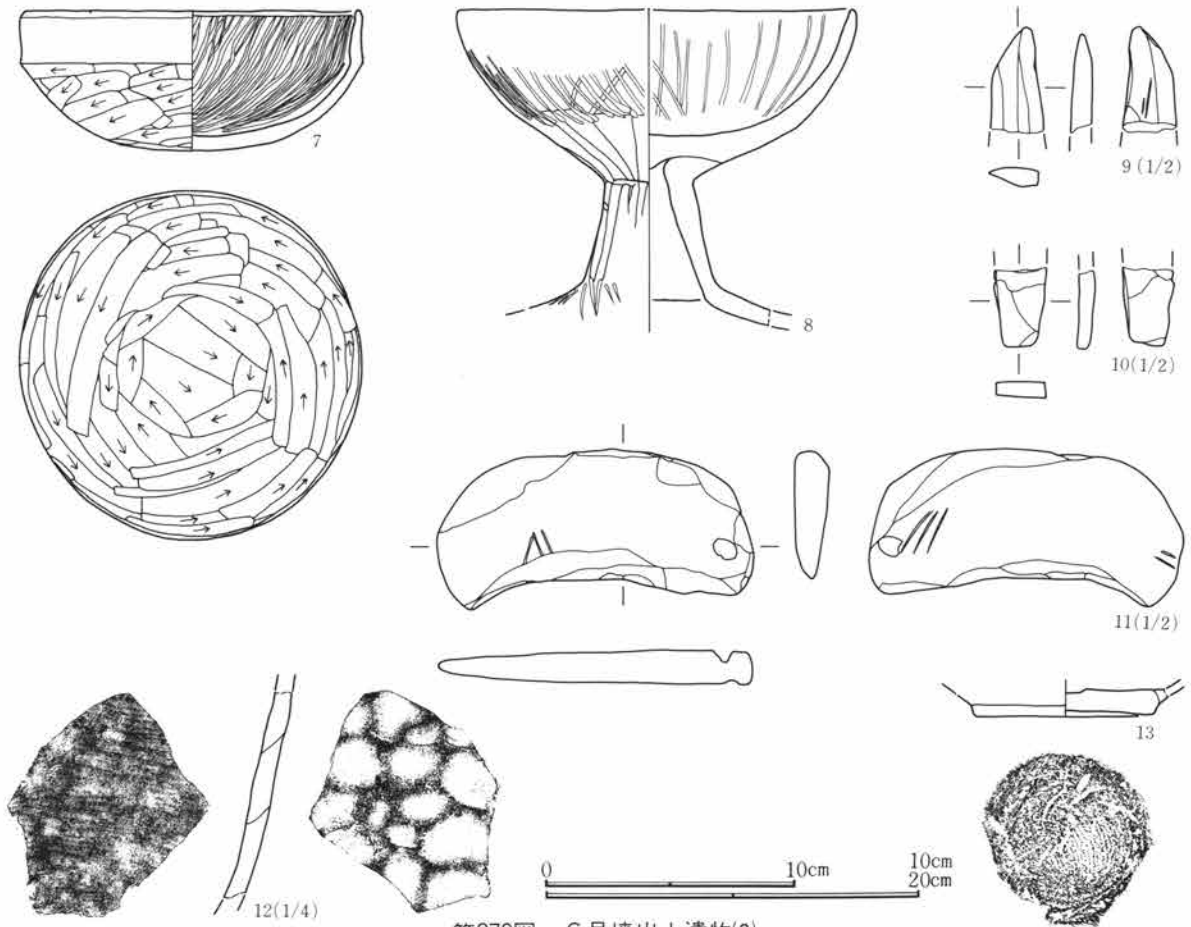
出土遺物数量表

種別 器種	土師器				須恵器 坏	計
	坏	高坏	甕	計		
点数	7	1	1	9	1	10
重量(g)	1,390	310	90	1,790	75	1,865



第269図 6号墳出土遺物(1)

第三章 検出された遺構と出土遺物



6号墳出土土器観察表

第270図 6号墳出土遺物(2)

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備 考
1	土師器 坏	南西	①13.8cm ②- ③5.4cm ④完形	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・石英粒を含む	口～体部上半横ナデ 体下半～底部 外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I A	外面一部 黒変
2	土師器 坏	南西	①14.1cm ②- ③5.1cm ④完形	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・石英粒を含む	口～体部上半横ナデ 体下半～底部 外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I A	外面一部 黒変
3	土師器 坏	南西	①14.2cm ②- ③4.9cm ④ほぼ完形	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・石英粒を含む	口～体部上半横ナデ 体下半～底部 外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I A	底部外面 黒変
4	土師器 坏	南西	①(15.8cm)②- ③6.5cm ④口～底1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ	I B	
5	土師器 塊	北西	①(13.4cm)②- ③- ④口～体1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文	II	
6	土師器 坏	南西	①12.8cm ②- ③5.5cm ④完形	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文	I B	
7	土師器 坏	南西	①13.6cm ②- ③5.5cm ④ほぼ完形	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文	I B	
8	土師器 高坏	南西	①(15.8cm)②- ③- ④口～脚2/3	①②明赤褐 ③良好 ④細 細砂を含む	内外面ともナデ後篋磨き・放射状 暗文 底部外面篋削り	V A	
12	須恵器 甕	南西	器厚9～11mm ④胴部片	①灰 ②浅黄 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	外面平行叩き 内面ナデ	VI	
13	須恵器 坏	南西	①- ②(7.0cm) ③- ④底部片	①灰白 ②浅黄 ③還元焰 不良 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	ロクロ調整 底部回転糸切り無調 整 平安時代の遺物	I D	

6号墳出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
9	石製模造品	南西	[2.8]	1.4	0.6	2.6	1/3	滑石	研磨・鑿状工具による加工
10	石製模造品	南西	[2.1]	1.4	0.5	2.2	1/4	滑石	研磨・鑿状工具による加工

No	器種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
11	石製模造品	南西	4.1	8.5	0.9	48	完形	滑石	鎌 粗い研磨 刃部は鬚状工具による加工 穿孔途中

7号墳

位置 D 3～7-VII29～33Gr 重複 なし 平面形態 楕円形

規模 周溝外径9.2m×7.9m 周溝内径7.0m×5.9m 墳丘・主体部 削平のため不明

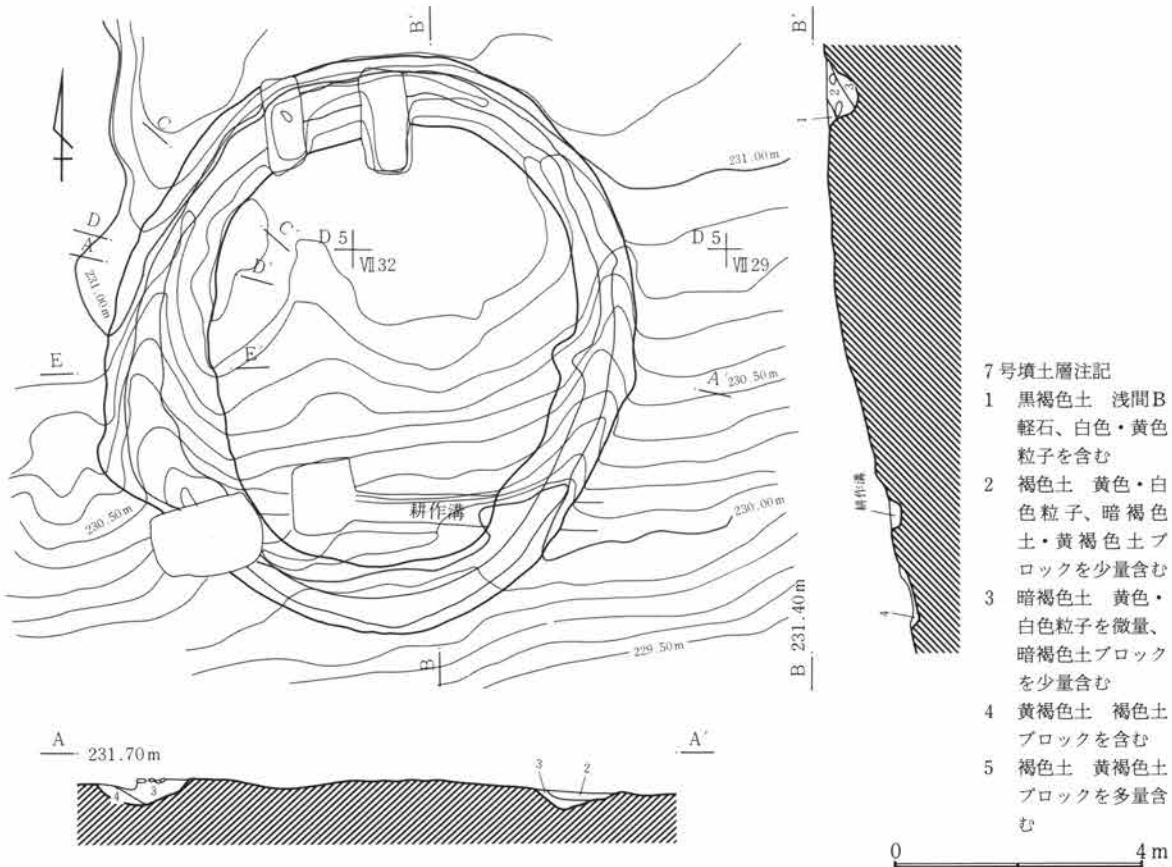
周溝 上端幅0.80～2.13m、底部幅0.16～0.86m、深さ10～60cmである。底部は北東部やや北寄り最も高く、南部が最も低くなっており標高差は約100cmである。断面形態は北部・西部がU字形、東部がV字形、南部が台形になっているが、削平が著しく上部の形態は不明である。

葺石 周溝北東部から南西部にかけて径10～40cmの礫が内側の立ち上がりに沿って検出されており、葺石と考えられる。覆土中から出土したものは少なく、原位置を保っているものが多いと思われる。

埴輪 周溝北部から南西部にかけて円筒埴輪の破片が4点出土しているが、削平の度合いが高いため、これだけでは当古墳に伴うものか、他の古墳からの混入かははっきりしない。

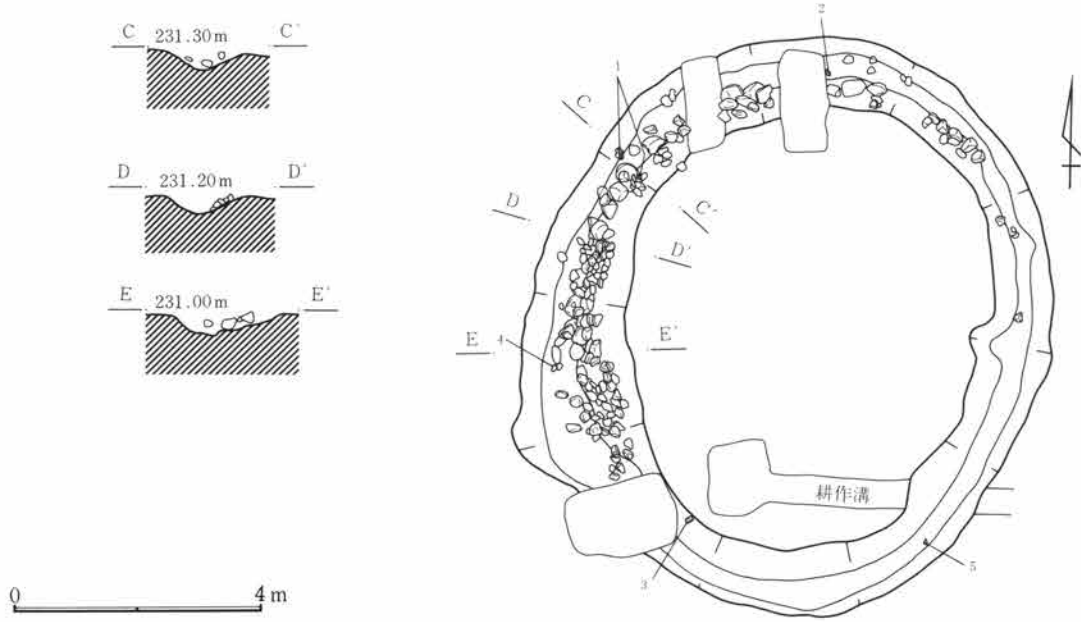
出土遺物 土器は南東部から須恵器の蓋が1点出土しており、他に土師器甕が1点出土している。

所見 出土遺物は少ないが、5の須恵器から、他の古墳同様5世紀後半代の古墳と考えられる。また、埴輪・葺石が伴う可能性があるため、規模は小さいが4号墳と似た様相を呈している。

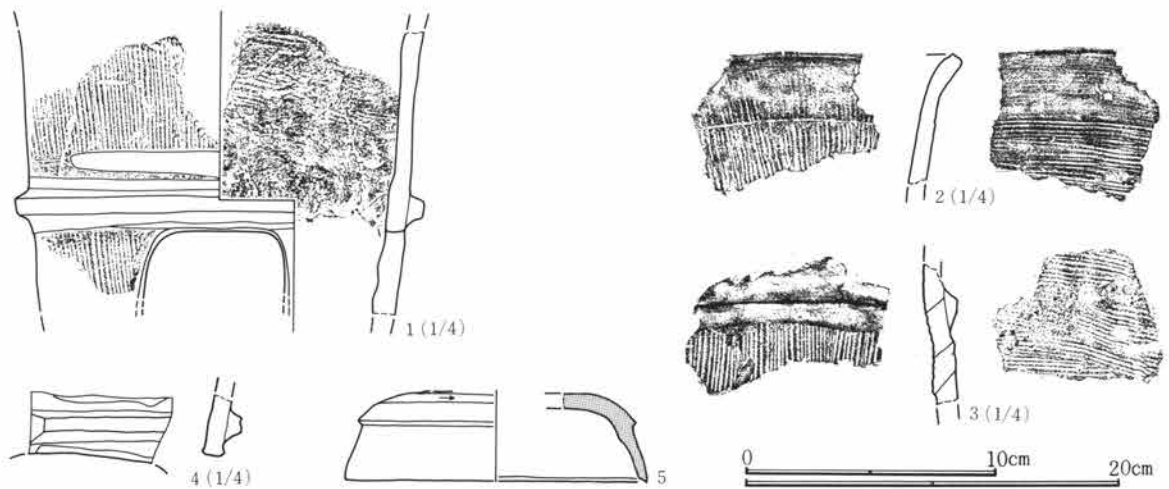


第271図 7号墳

第III章 検出された遺構と出土遺物



第272図 7号墳礫出土状況



第273図 7号墳出土遺物

7号墳出土埴輪観察表

No	出土位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸帯	透孔	成形・整形の特徴	備考
1	北西	凸帯部径(21.9cm) ④胴部1/3	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を多く含む	M字形	半円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 外面上部横ハケ下部ナデ	
2	北東	器厚7~10mm ④口縁部片	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む			外面縦ハケ 口縁部横ナデ 口縁部に沈線 内面横ハケ	
3	南西	器厚10~14mm ④胴部片	①灰黄褐 にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を多く含む	三角形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面横ハケ	
4	南西	器厚10~12mm ④胴部片	①橙 灰黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	M字形	半円か	外面凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ	

7号墳出土土器観察表

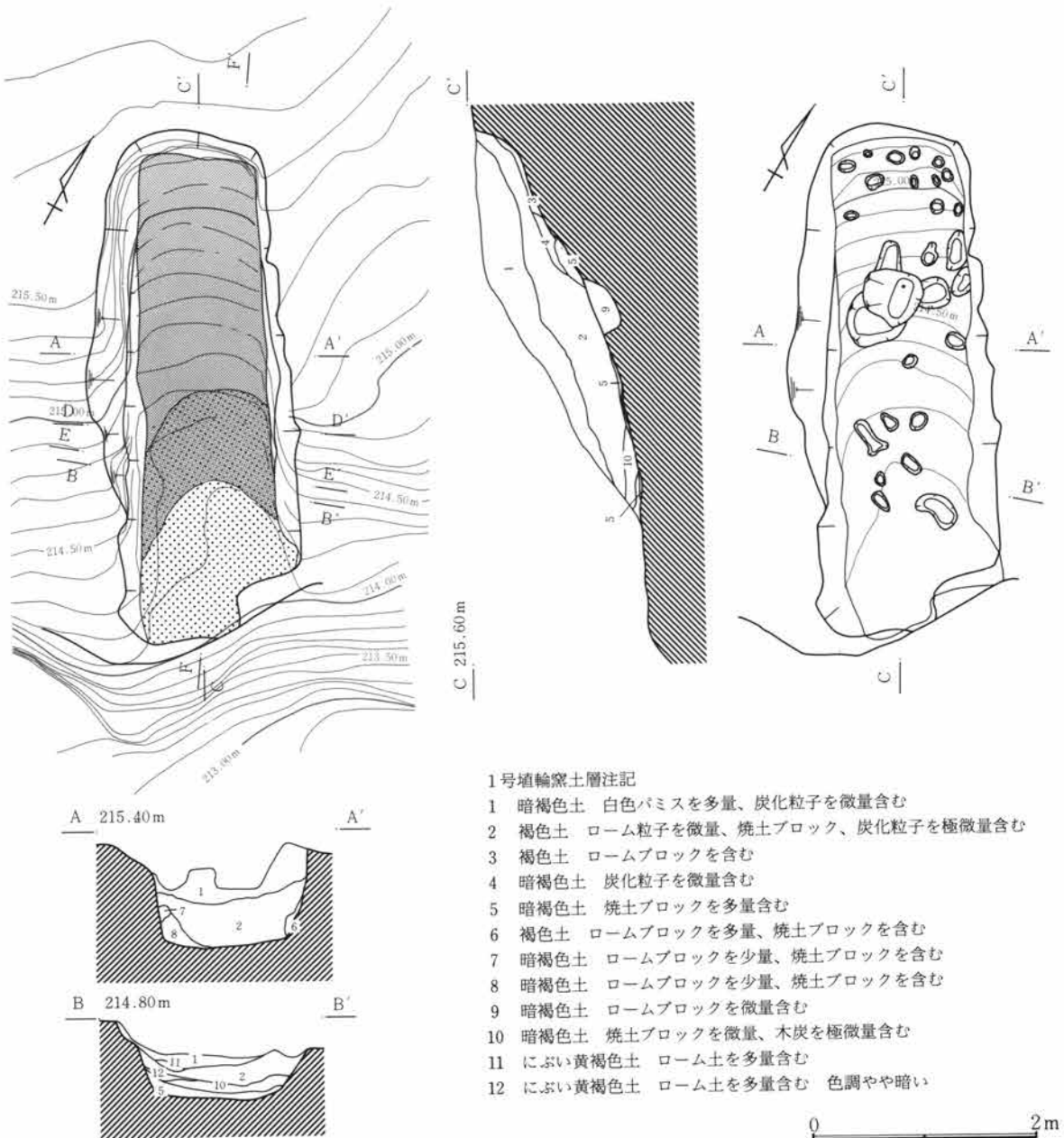
No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
5	須恵器 蓋	南東	①(12.0cm)②- ③- ④口縁部	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整(右か) 天井部回転篋 削り	III A	

(4) 埴輪窯

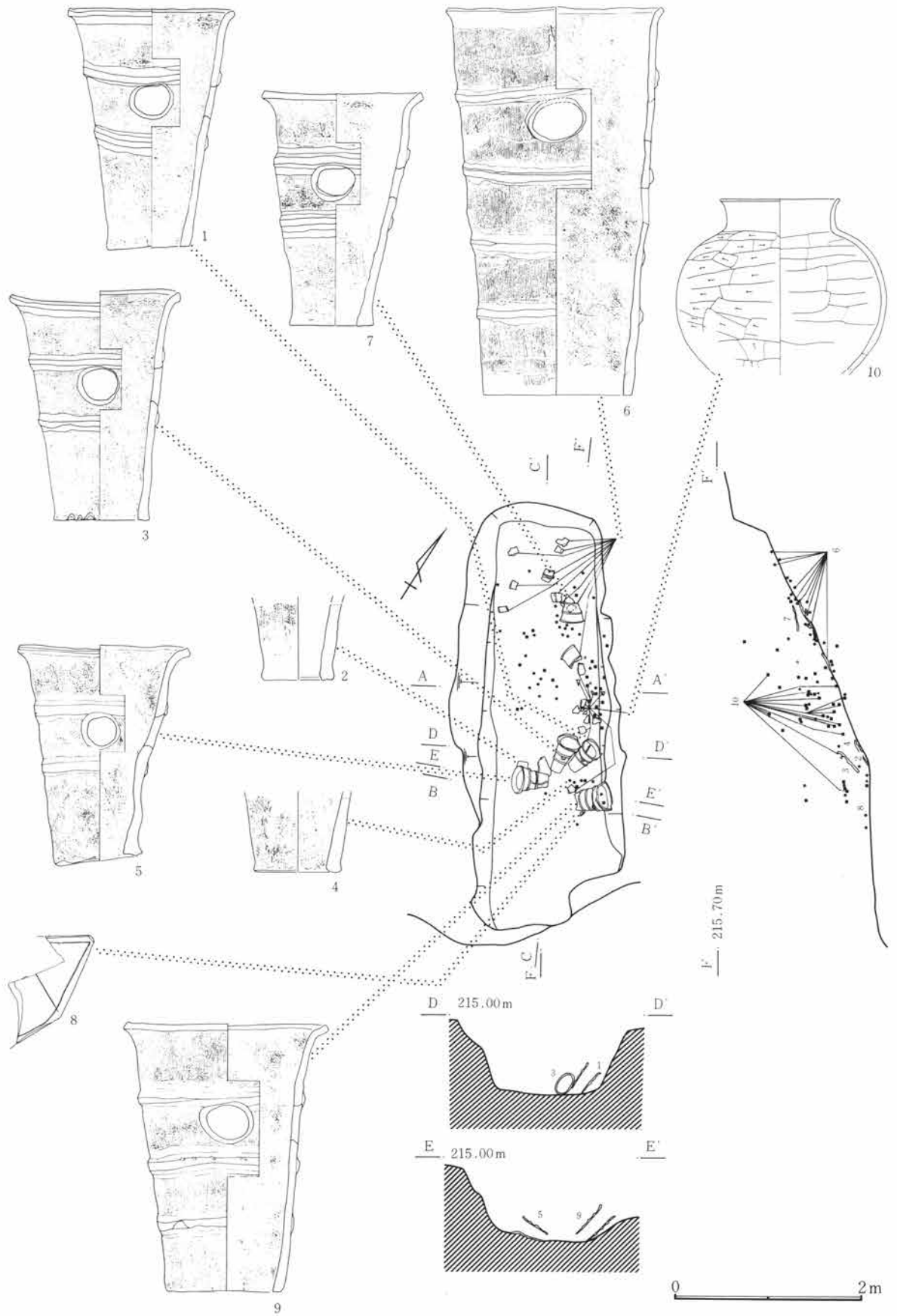
1号埴輪窯

位置 C 18~20-VII20・21Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 全長4.5m幅1.72m
深さ 146cm 面積 6.6m² 主軸方位 N-33°-E

概要 2号谷津状遺構の北側の立ち上がり部分に作られており、南側は2号谷津状遺構に掘り抜かれている。側壁は直線的で、燃焼部、焼成部の区別ははっきりしない。底部はやや丸みを帯びるがほぼ平坦で、立ち上



第274図 1号埴輪窯



第275図 1号埴輪窯遺物出土状況

がりの角度は約20°である。底部北側に焼土の広がりが見られ、南側の北1/2の範囲には焼土と灰の広がり、南1/2の範囲には焼土と灰と木炭の広がりが見られる。側壁はやや傾斜して立ち上がっており、あまり焼けていない。奥壁の立ち上がりはほぼ垂直である。削平のため天井部は残っておらず、煙道部も不明である。

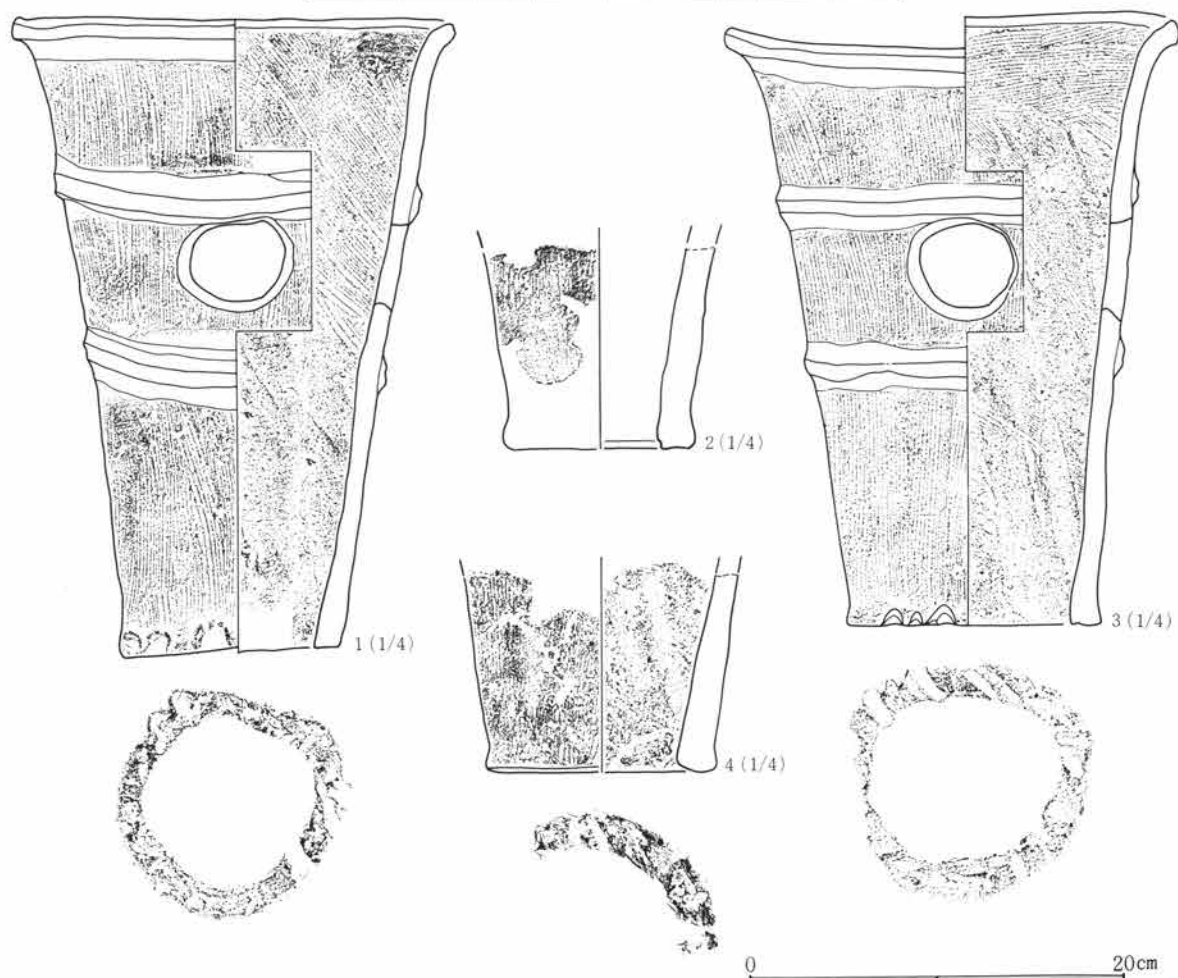
遺物出土状況 南側約1/4を除いて、ほぼ全面から埴輪が出土している。中央やや南寄りに完形に近いものを4個立て並べたものが、倒れた状態で出土している。また北部からは6の埴輪が出土しているが、多くの破片が接合しており、2号谷津状遺構の破片とも接合している。土器は西壁際中央から10の甕が出土しているが、これも多くの破片が接合している。垂直分布をみると、底面付近から多く出土しているが、覆土中からもかなり出土している。

出土遺物 円筒埴輪と形象埴輪の靱の破片が出土しており、土器は、土師器坏・甕・甔が出土している。

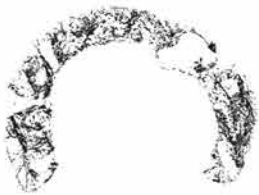
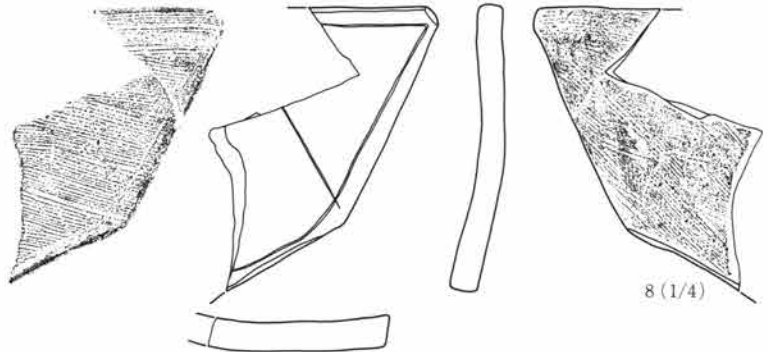
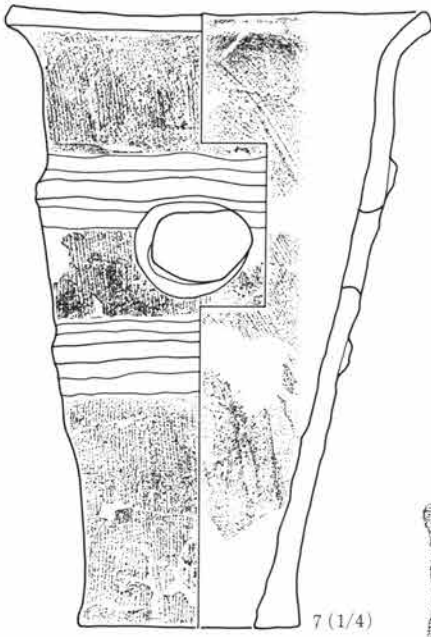
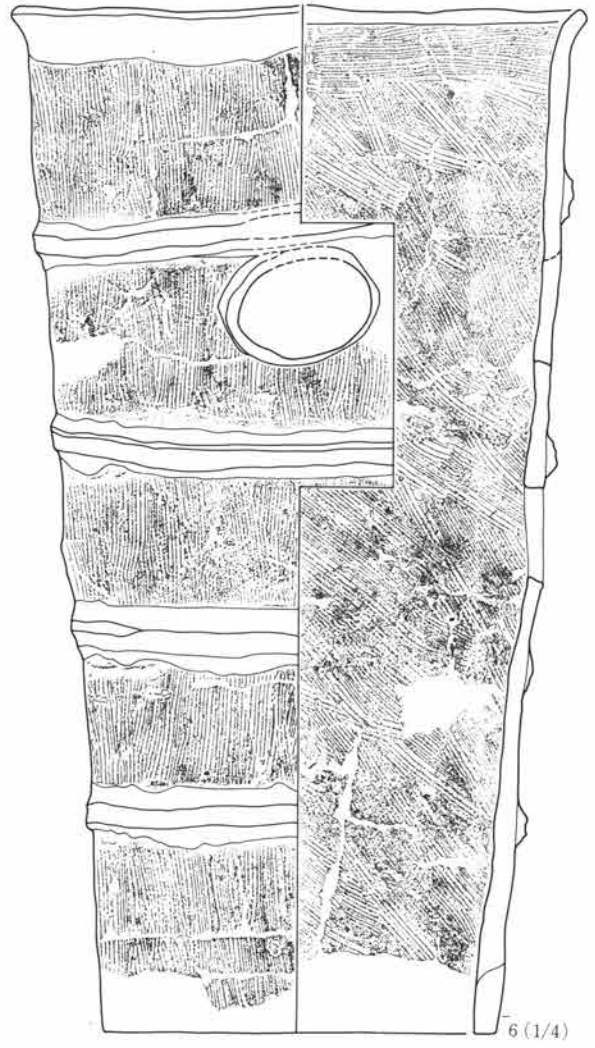
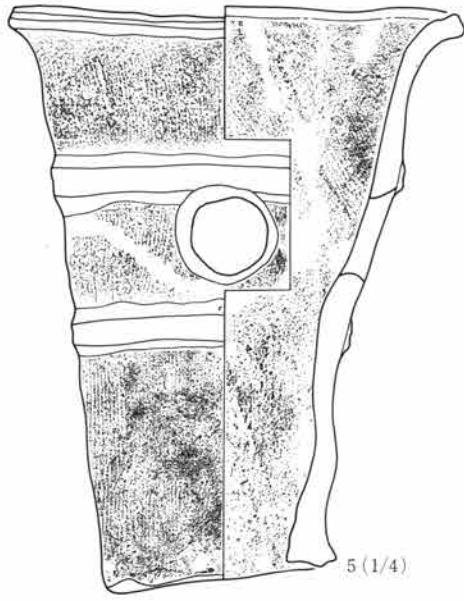
所見 円筒埴輪は焼成時の状態に近い形で出土しているものが多く、またそれは焼成不良のものが多いため、焼成に失敗したものを遺棄したまま廃棄されたものと考えられる。側壁はあまり焼けていないため、焼成の回数は少なかったと想定される。

出土遺物数量表

種別	埴輪			土師器				計
	円筒	形象	計	坏	甕	鉢	計	
点数	175	1	176	4	43	1	48	224
重量(g)	26,100	210	26,310	25	1,810	25	1,860	28,170

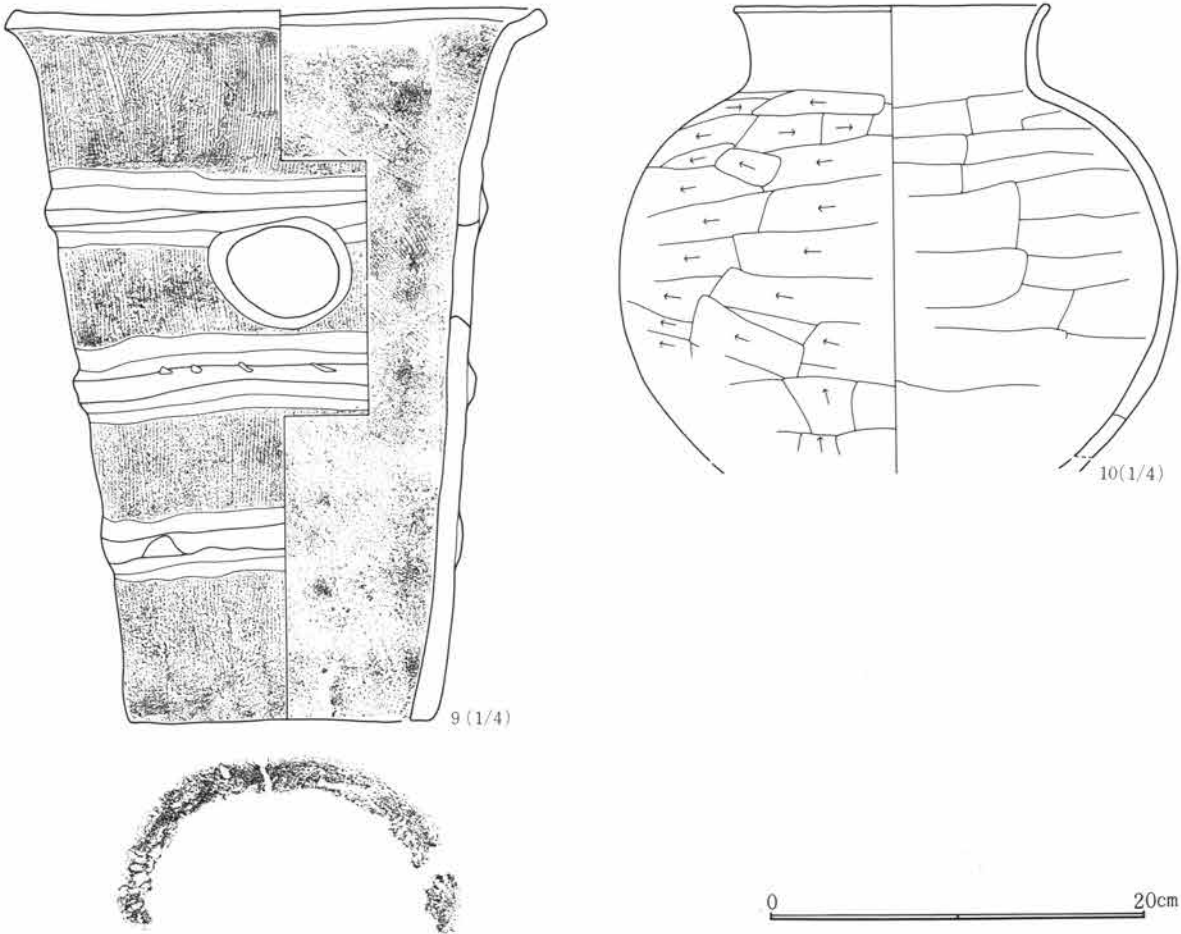


第276図 1号埴輪窯出土遺物(1)



0 20cm

第277図 1号埴輪窯出土遺物(2)



1号埴輪窯出土埴輪観察表

第278図 1号埴輪窯出土遺物(3)

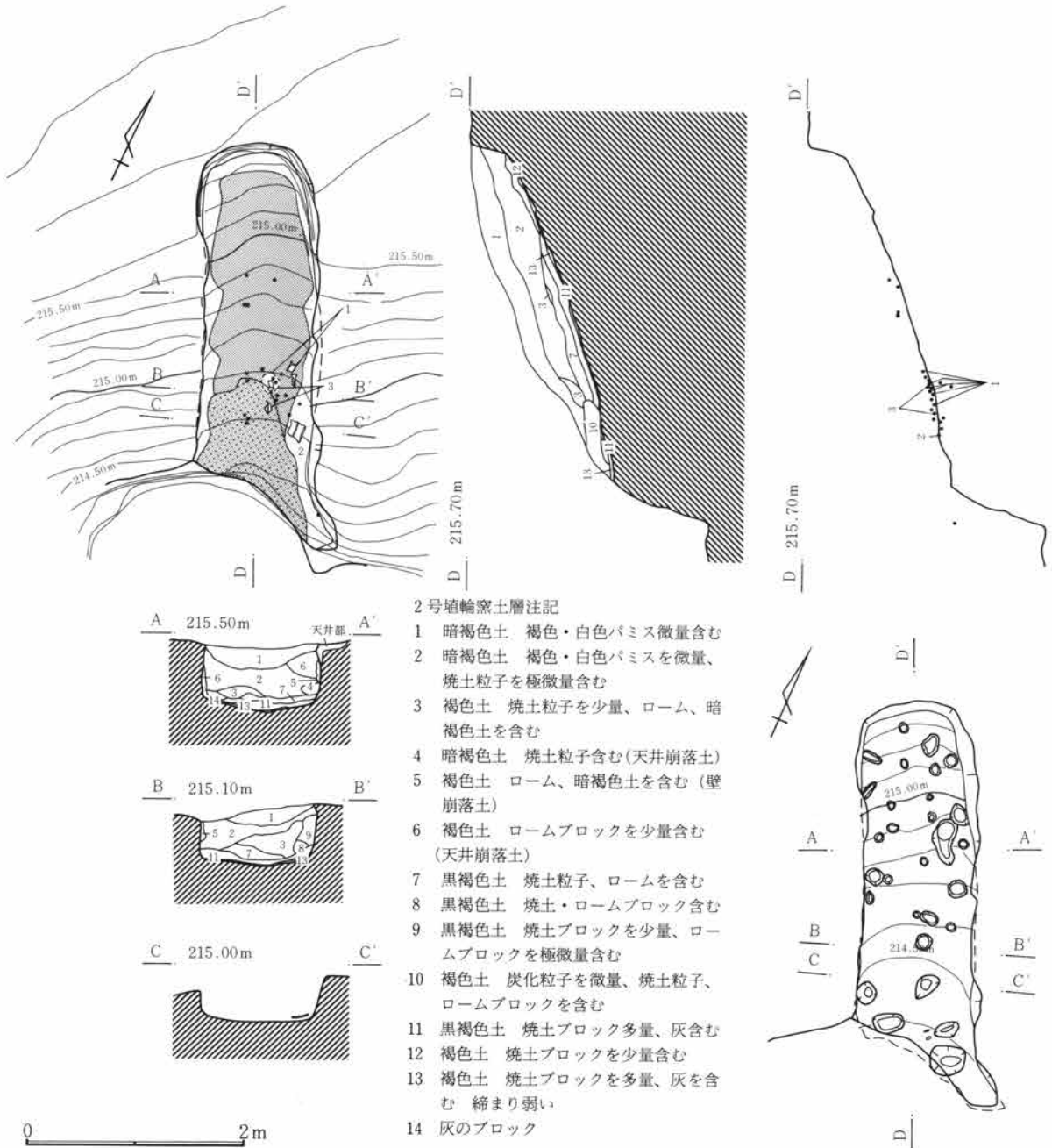
No	器種	出土位置	法量①口径②底径 ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸帯	透孔	成形・整形の特徴	備考
1	円筒	南	①23.6cm ②10.6cm ③33.5cm ④完形	①②明赤褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	M字形 1 15.8 2 24.8	円 5.0×6.2 5.2×5.6	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面上部斜めハケ下部指ナデ 底面に棒状圧痕	
2	円筒	南	①— ②(9.6cm) ③[10.6cm] ④底部1/4	①②にぶい赤褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫を含む			外面縦ハケ 内面指ナデ	
3	円筒	南	①23.4cm ②13.4cm ③32.5cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	M字形 1 14.0 2 22.8	楕円・円 4.8×5.9 5.3×5.8	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面上部横ハケ中部斜めハケ下部指ナデ 底面に棒状圧痕	
4	円筒	南	①— ②(11.3cm) ③[10.4cm] ④底部1/4	①②明褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む			外面縦ハケ 内面指ナデ 底面に植物圧痕	
5	円筒	南	①23.6cm ②12.2cm ③31.3cm ④一部欠損	①②にぶい橙 橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	M字形 1 13.8 2 22.2	円 5.3×5.7 4.7×5.5	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面上部斜めハケ下部指ナデ 底面に棒状圧痕	
6	円筒	北	①30.0cm ②20.7cm ③54.3cm ④口～底3/4	①②明褐 にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	M字形 1 11.5 2 19.9 3 31.6 4 43.0	楕円・円 (5.7)×8.2 (5.2)×5.7 (5.4×5.2)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口縁部下横ハケ 中～下部斜めハケ	
7	円筒	北	①22.0cm ②11.0cm ③32.5cm ④口～底2/3	①②明褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	M字形 1 14.6 2 23.4	楕円 4.7×6.0	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面上部斜めハケ下部指ナデ 底面に棒状圧痕	
8	形象 靴	南	器厚11～15mm ④破片	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む			表面横ハケ 線刻あり 裏面斜めハケ	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No 器種	出土 位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸 帯	透 孔	成形・整形の特徴	備 考
9 円筒	南	①28.2cm ②15.7cm ③38.5cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫を含 む	M字形 1 9.5 2 17.7 3 26.7	楕円 5.1×7.7 5.1×6.6	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面上部斜めハケ下部指ナ デ	

1号埴輪窯出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
10	土師器 甕	南	①(16.8cm)②— ③— ④口~胴1/3	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	



第279図 2号埴輪窯

2号埴輪窯

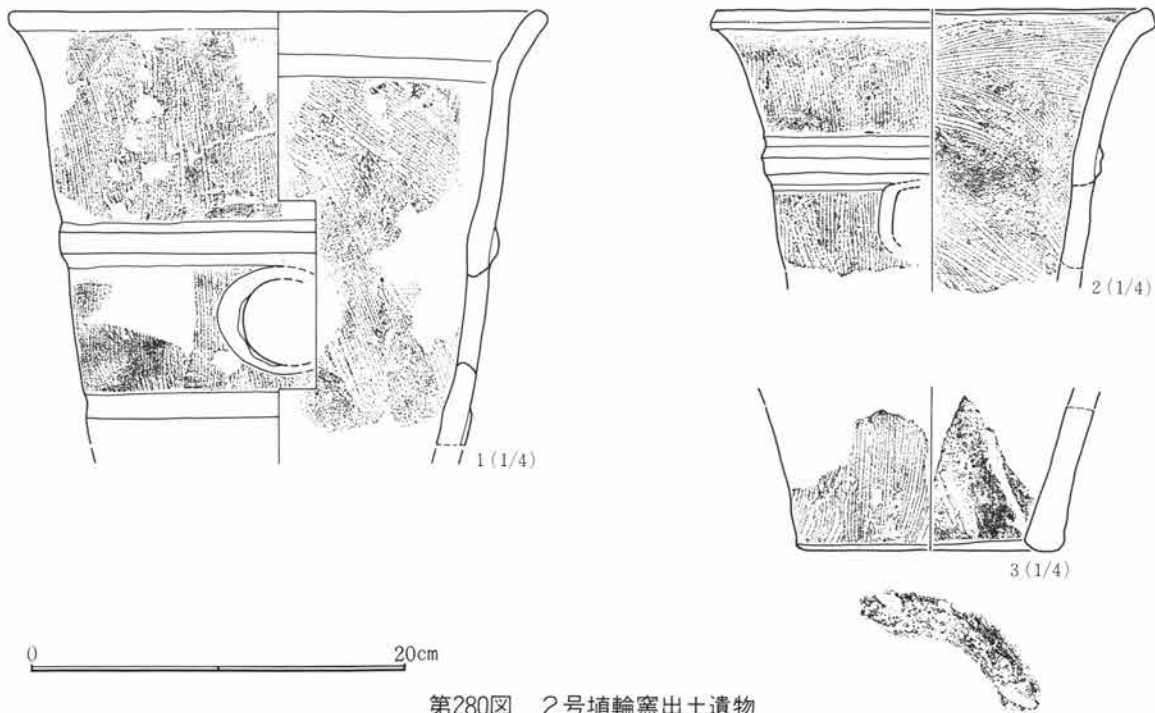
位置 C19～21-VII21・22Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 全長3.67m 幅1.14m
 深さ 129cm 主軸方位 N-25°-E

概要 1号埴輪窯の西に位置し、1号埴輪窯同様南は2号谷津状遺構に掘り抜かれている。1号埴輪窯同様側壁は直線的で、燃烧部、焼成部の区別ははっきりしない。底部はほぼ平坦で、立ち上がり角度は約17°である。底部北側2/3の範囲に焼土の広がりがあり、南側1/3の範囲には焼土と灰の広がりが見られる。側壁はほぼ垂直に立ち上がっており、両壁とも北壁から70cmから190cmの間が強く焼けている。奥壁の立ち上がりはほぼ垂直であり焼けていない。天井部は削平されているが、東壁に若干残存している部分があり（貼付け天井と考えられる）、また覆土中に崩落土が検出されている。

遺物出土状況 出土量は少ないが、南側のやや東壁よりに集中している。垂直分布では底面付近のものがほとんどである。接合関係の判明するものは2点で、1点は2号谷津状遺構の破片とも接合している。

出土遺物 円筒埴輪が25点出土しているだけである。

所見 位置、主軸方位等から考えて、1号埴輪窯とほぼ同時期のものと考えられる。側壁が強く焼けていることから、比較的長期の使用が考えられる。



第280図 2号埴輪窯出土遺物

2号埴輪窯出土埴輪観察表

No	器種	出土位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸帯	透孔	成形・整形の特徴	備考
1	円筒	南	①(28cm) ②- ③- ④口～胴1/4	①②明褐色 ③よい ④細 細砂・粗砂・礫を少量含む	台形	楕円 5.2×(6.4)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口縁部下指ナデ 上部～中部斜めハケ	
2	円筒	南	①(23.0cm)②- ③[13.7cm] ④口縁部1/4	①②明褐色 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	M字形	半円か	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面横・斜めハケ	
3	円筒	南	①- ②(12.3cm) ③- ④底部1/4	①明赤褐色 ②よい ③細 細砂・粗砂を含む			外面縦ハケ 内面指ナデ 底面に植物圧痕	

(5) 土 坑

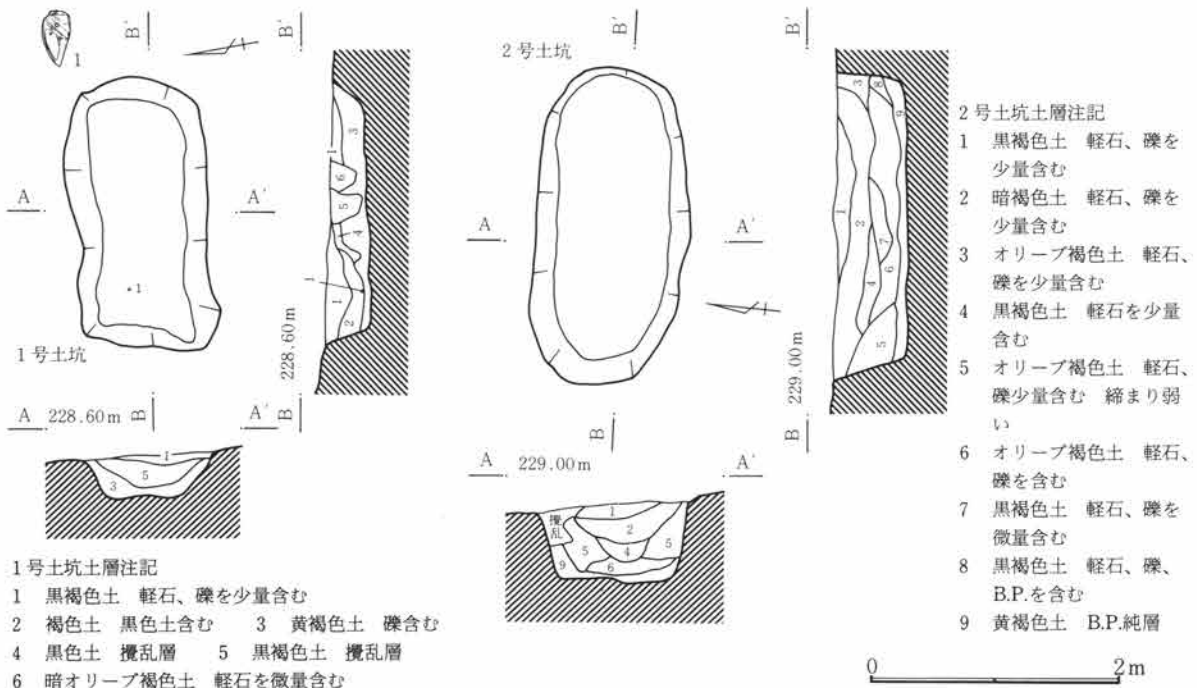
14基検出されている。1・2・3号土坑は古墳群中から検出されており、時期が古墳と近接していると考えられ、性格は不明であるが、形態・規模から墓塚の可能性もある。65号土坑は、土器が多量に出土しており、土器廃棄用の土坑の可能性もある。29号住同様、「王」の刻書のある土師器坏が6点出土している。121号土坑も奈良時代の土坑と考えられるが、41・46号住居覆土中に掘り込まれているため、平面形態は不明である。「□野国甘楽郡湍上郷戸主物□□□□」の刻書のある土師器甕口縁部が出土している。

古墳中期～平安時代土坑一覧表

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	規模(m)	深さ (cm)	面積 (㎡)	主軸方位	備 考
1	D 4-VI98・99	なし	隅丸長方形	2.14 × 1.14	36	2.2	N-83°-W	古墳時代、石製模造品1点出土
2	D 4・5-VII5・6	なし	隅丸長方形	2.56 × 1.22	60	2.6	N-87°-W	古墳時代
3	C99~D 0-VII45~47	なし	隅丸長方形	3.12 × 1.88	70	4.6	N-88°-W	古墳時代
15	C91~93-VII45~48	なし	不正形	6.04 × [3.20]	192	12.8	N-70°-W	古墳時代後期、粘土探掘坑か
21	C89・90-VII51・52	1住より新	楕円形	2.90 × (1.58)	61	3.5	N-38°-W	平安時代
22	C92-VII40~42	2住より新	楕円形	2.06 × (1.40)	156	3.0	N-12°-W	古墳時代後期
46	C73~75-VII58~60	なし	隅丸長方形	4.98 × 4.18	76	13.2	N-22°-E	奈良時代
52	C58・59-VI35	なし	楕円形	1.68 × 1.01	14	1.4	N-12°-E	古墳時代後期
58	C57~59-VII62~64	なし	不正形	[3.84] × 3.82	58	9.5	N-86°-E	奈良時代
59	C 5・6-VII17~20	なし	隅丸長方形	4.72 × 1.72	14	5.8	N-82°-E	奈良時代
65	C 7-VII33・34	25・26住より新	隅丸長方形	3.98 × 1.68	48	5.5	N-90°-W	奈良時代、鉄製刀子1点出土
66	C18・19-VII27・28	なし	隅丸方形	2.66 × 2.06	18	4.7	N-1°-E	奈良時代
104	C 6-VII19・20	なし	楕円形	1.48 × 0.4	64	0.7	N-88°-W	奈良時代
121	C 9~11-VIII1	41・46住より新	不明	(3.4×1.2)	64	不明	不明	奈良時代、刻書土器出土

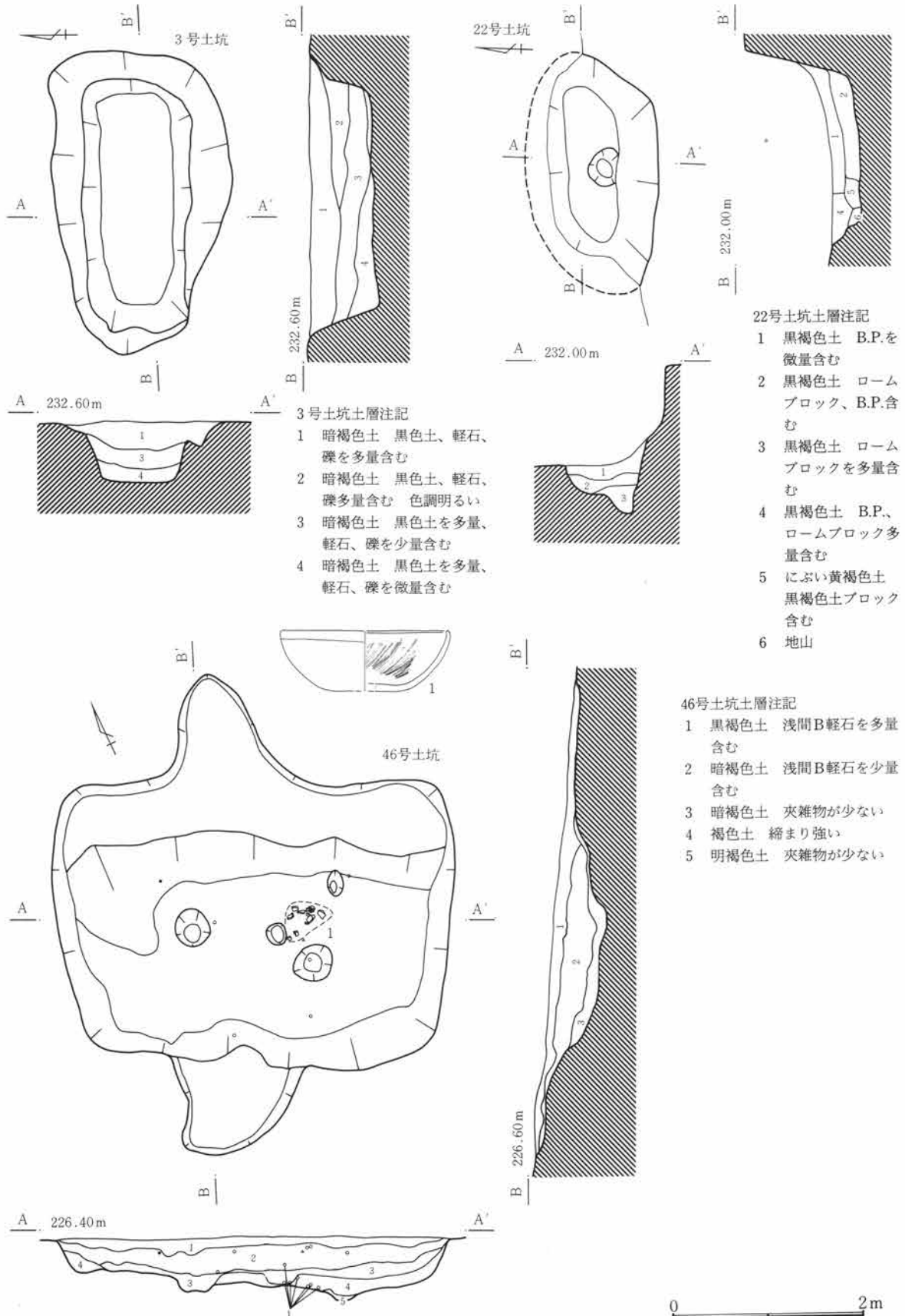
土坑出土土器数量表

No	土 師 器					須恵器	計	No	土 師 器					須恵器	計	No	土 師 器								
	坏	甕	鉢	甗	計				坏	甕	鉢	甗	計				坏	甕	鉢	甗	計	坏	蓋	甕	鉢
3	0	1	0	0	1	0	0	15	7	0	10	0	1	0	18	0	0	18	21	3	0	0	0	0	3
22	1	1	0	0	2	0	0	52	0	0	1	0	0	1	0	0	1	58	8	1	40	0	0	49	
59	5	24	0	0	29	1	0	65	114	0	235	0	1	0	350	1	1	352	66	11	0	18	0	0	29
104	5	1	0	0	6	0	0	121	7	0	32	19	0	1	59	0	0	59							



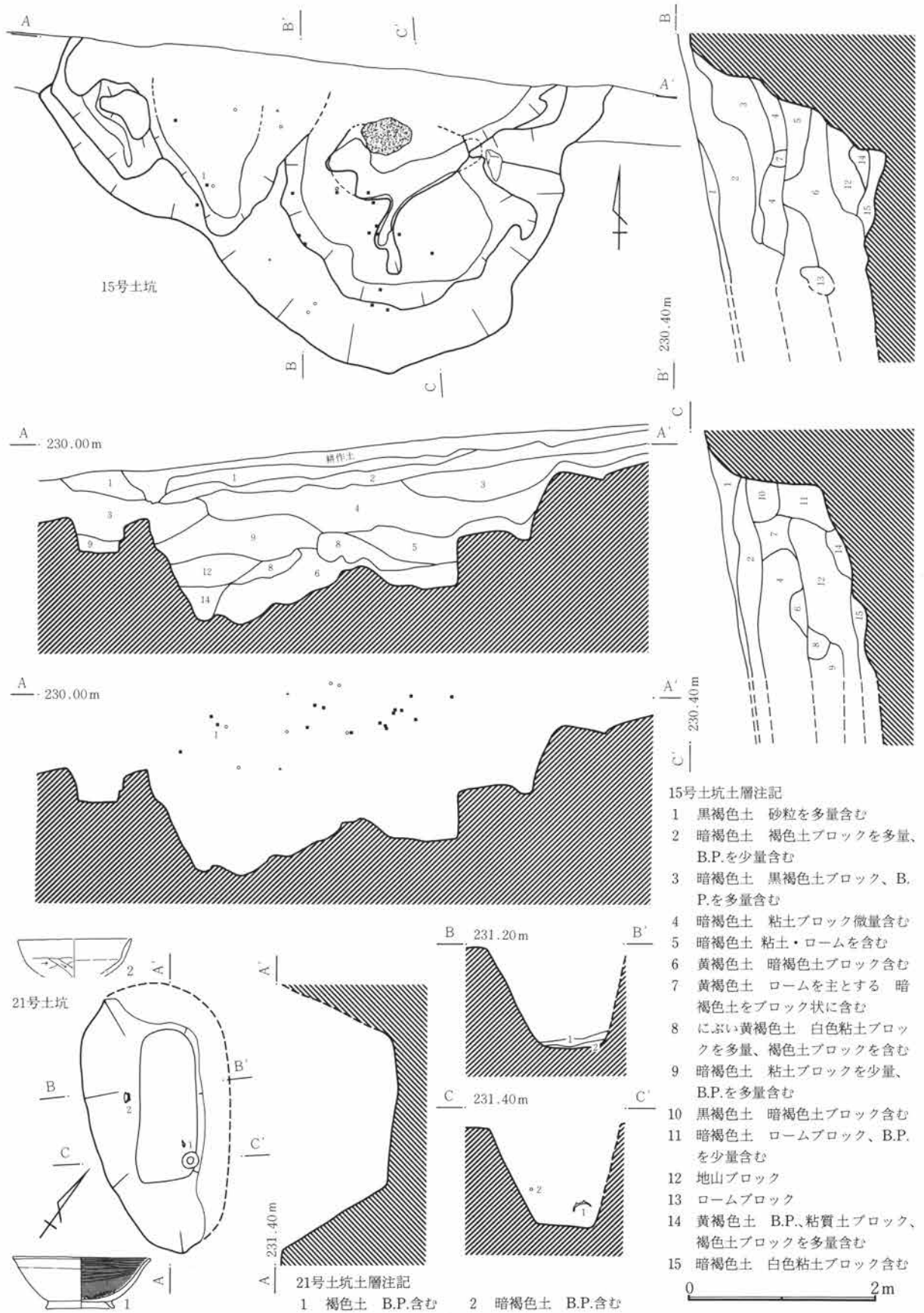
第281図 1・2号土坑

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

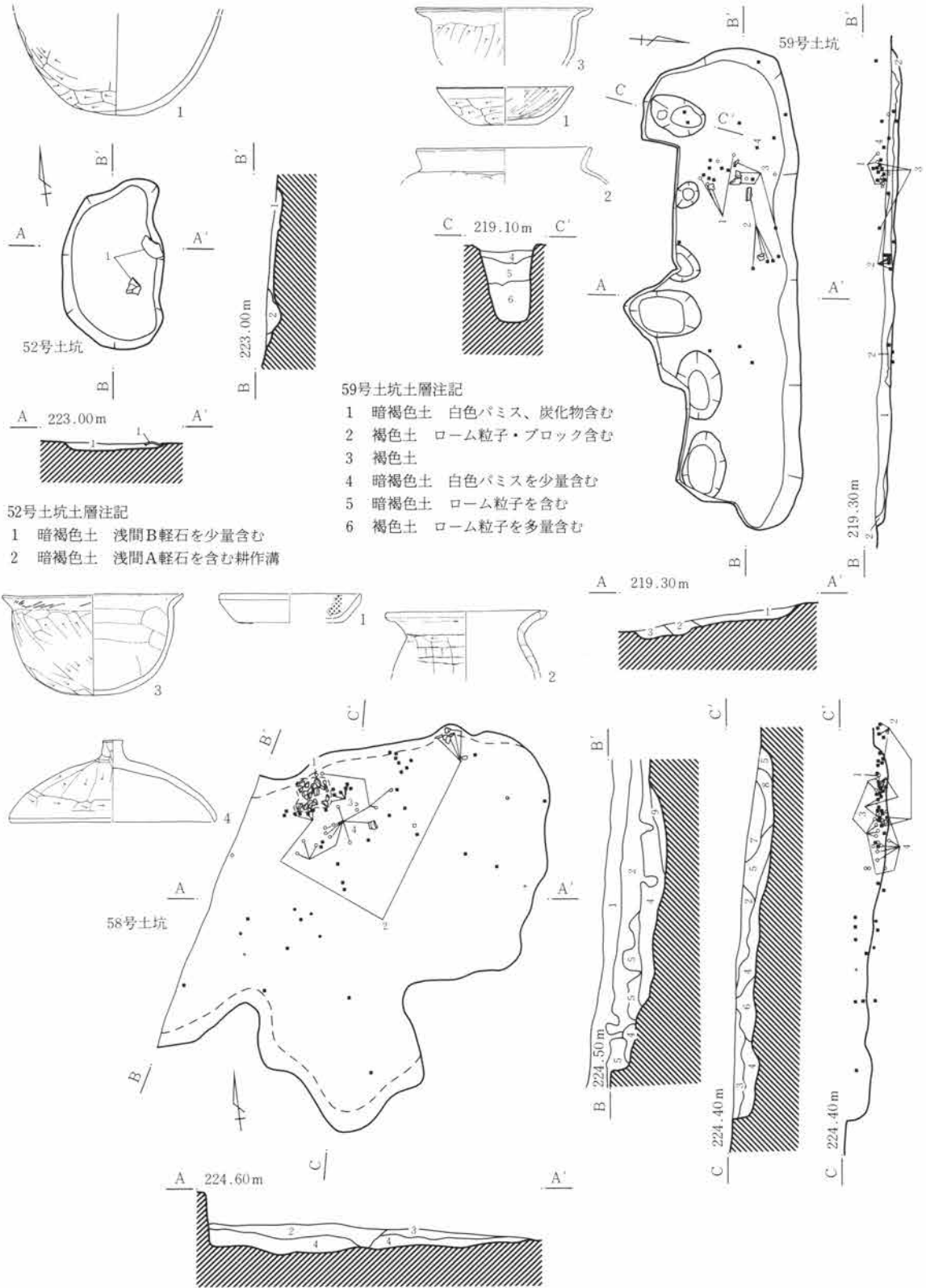


第282図 3・22・46号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



第283図 15・21号土坑



52号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 浅間B軽石を少量含む
- 2 暗褐色土 浅間A軽石を含む耕作溝

59号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 白色パミス、炭化物含む
- 2 褐色土 ローム粒子・ブロック含む
- 3 褐色土
- 4 暗褐色土 白色パミスを少量含む
- 5 暗褐色土 ローム粒子を含む
- 6 褐色土 ローム粒子を多量含む

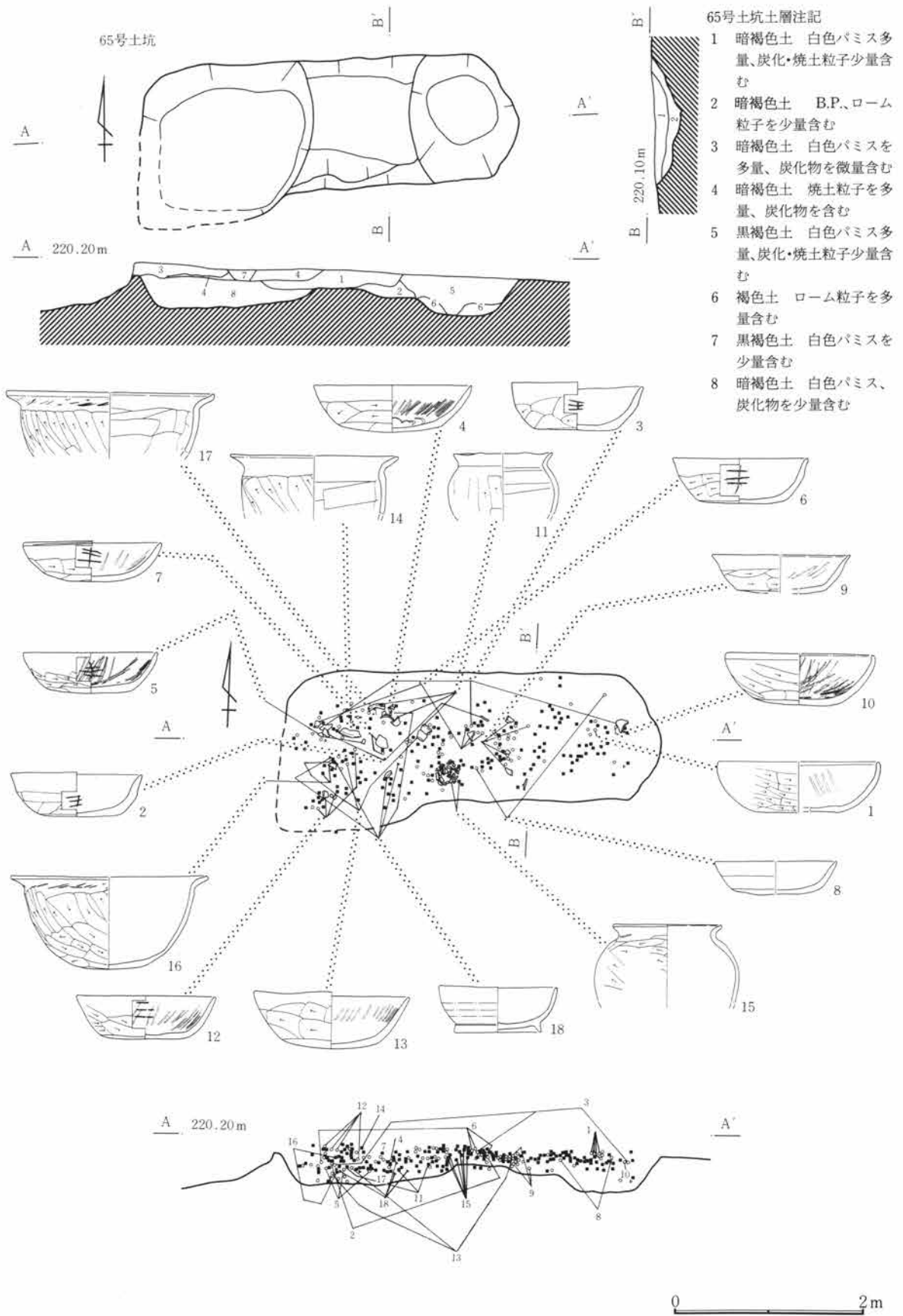
58号土坑土層注記

- 1 にぶい黄褐色土 浅間A軽石を主とする
- 2 暗褐色土 白色パミスを含む
- 3 黒褐色土 白色パミスを含む
- 4 褐色土 白色・褐色パミスを含む
- 5 暗褐色土 白色・褐色パミスを含む
- 6 黄褐色土 白色・褐色パミス、ロームを含む
- 7 黒褐色土 炭を少量含む
- 8 暗褐色土 炭を少量、焼土粒子を微量含む
- 9 褐色土 焼土粒子を少量含む

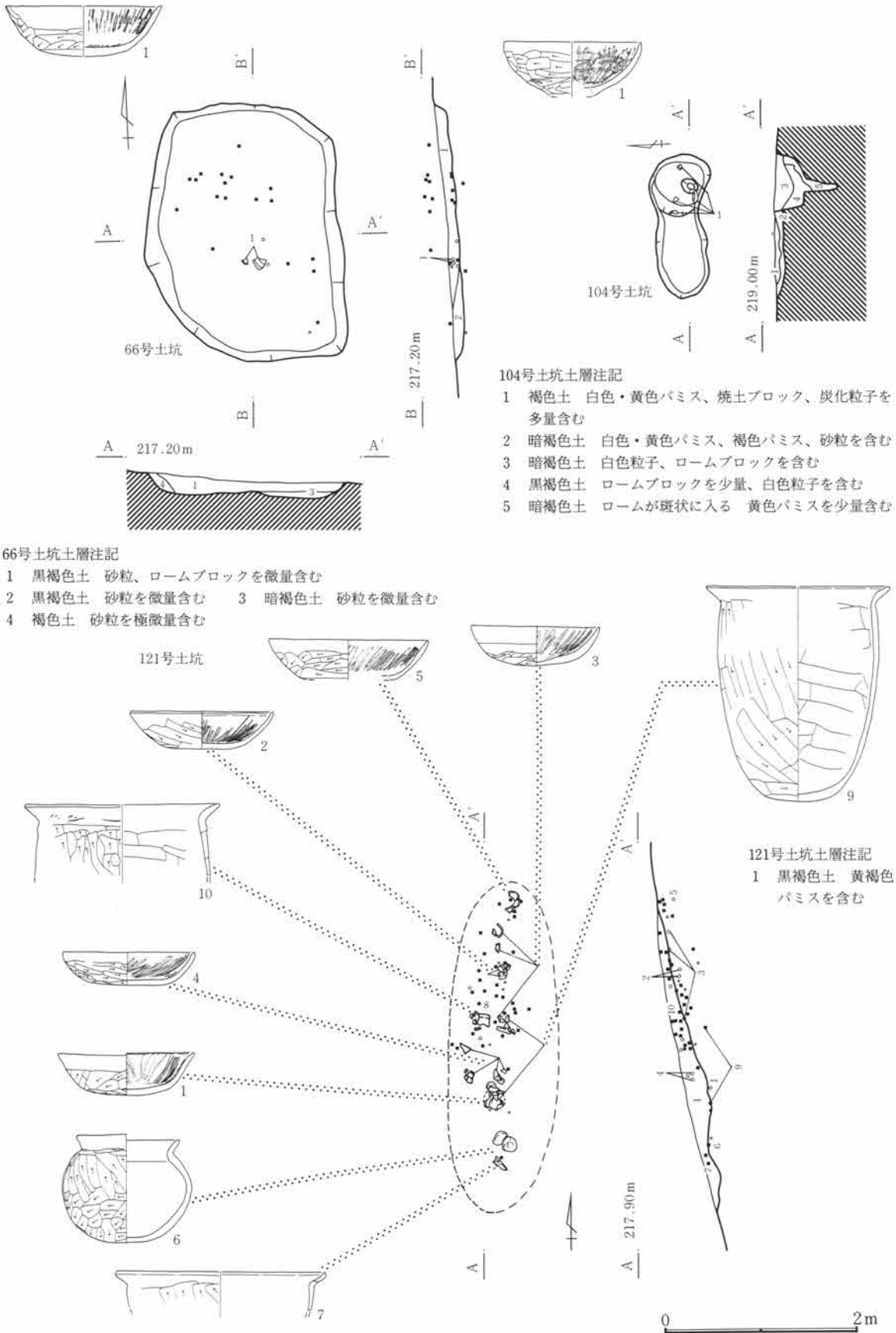
0 2m

第284図 52・58・59号土坑

第III章 検出された遺構と出土遺物

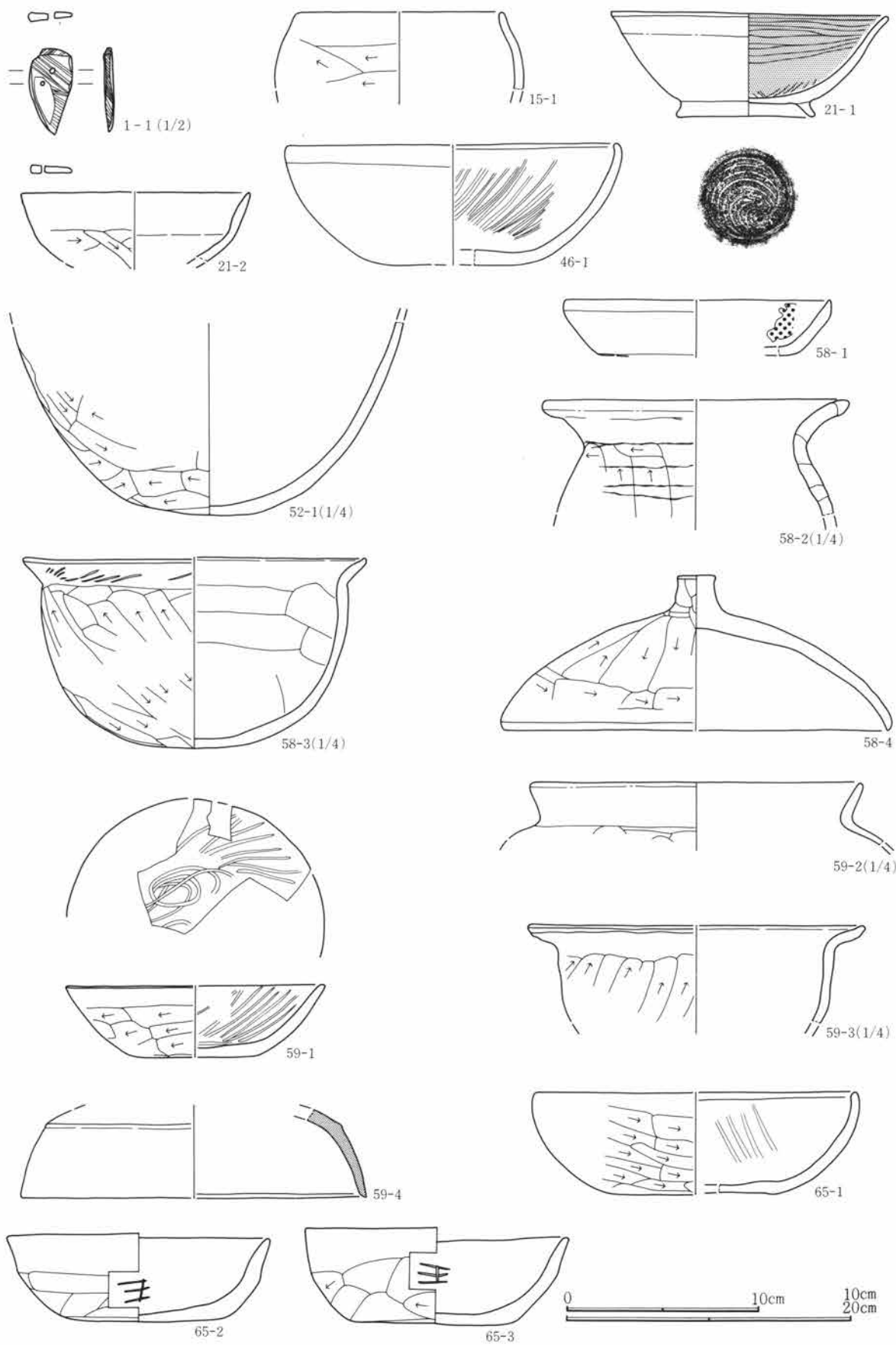


第285図 65号土坑



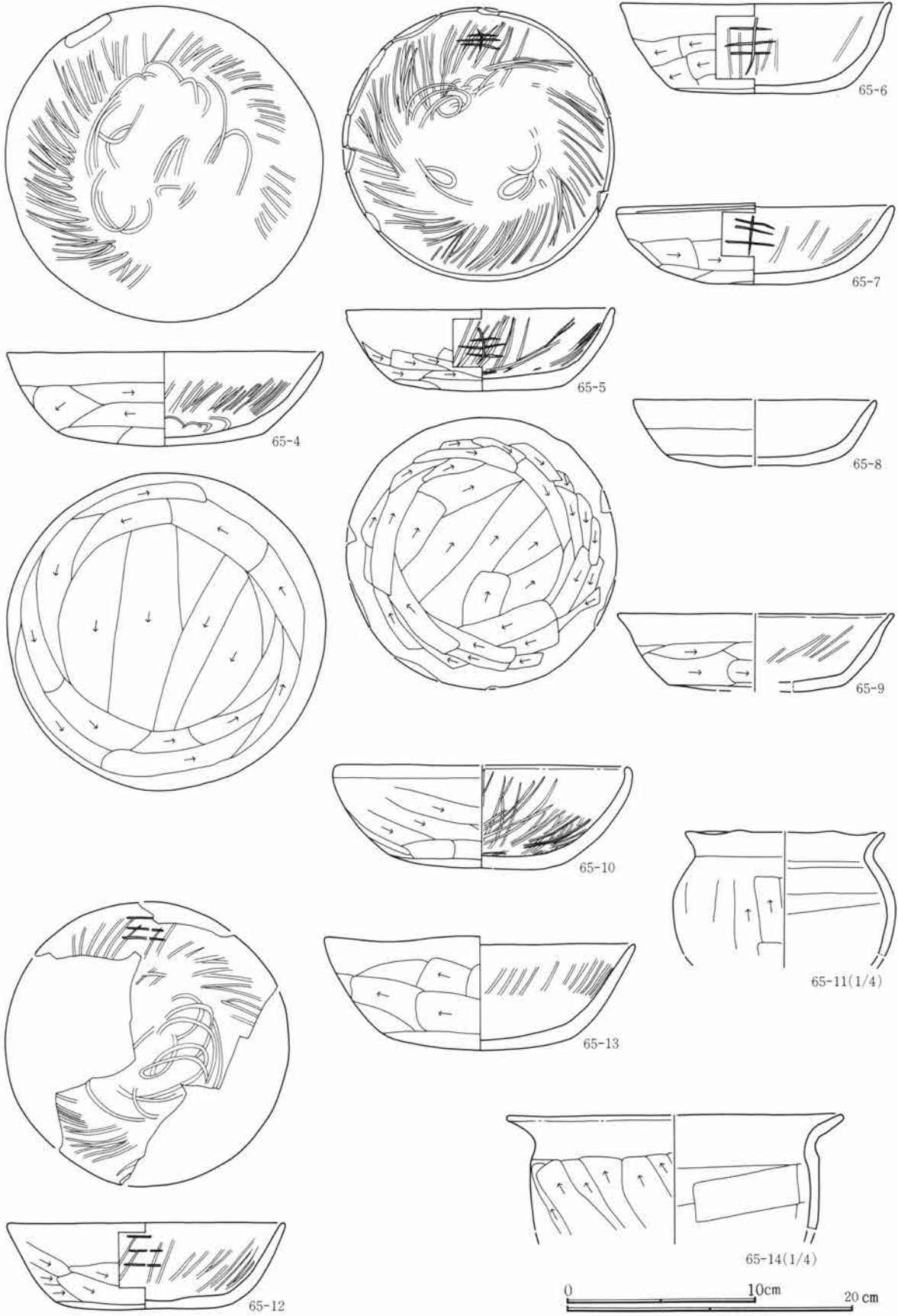
第286図 66・104・121号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



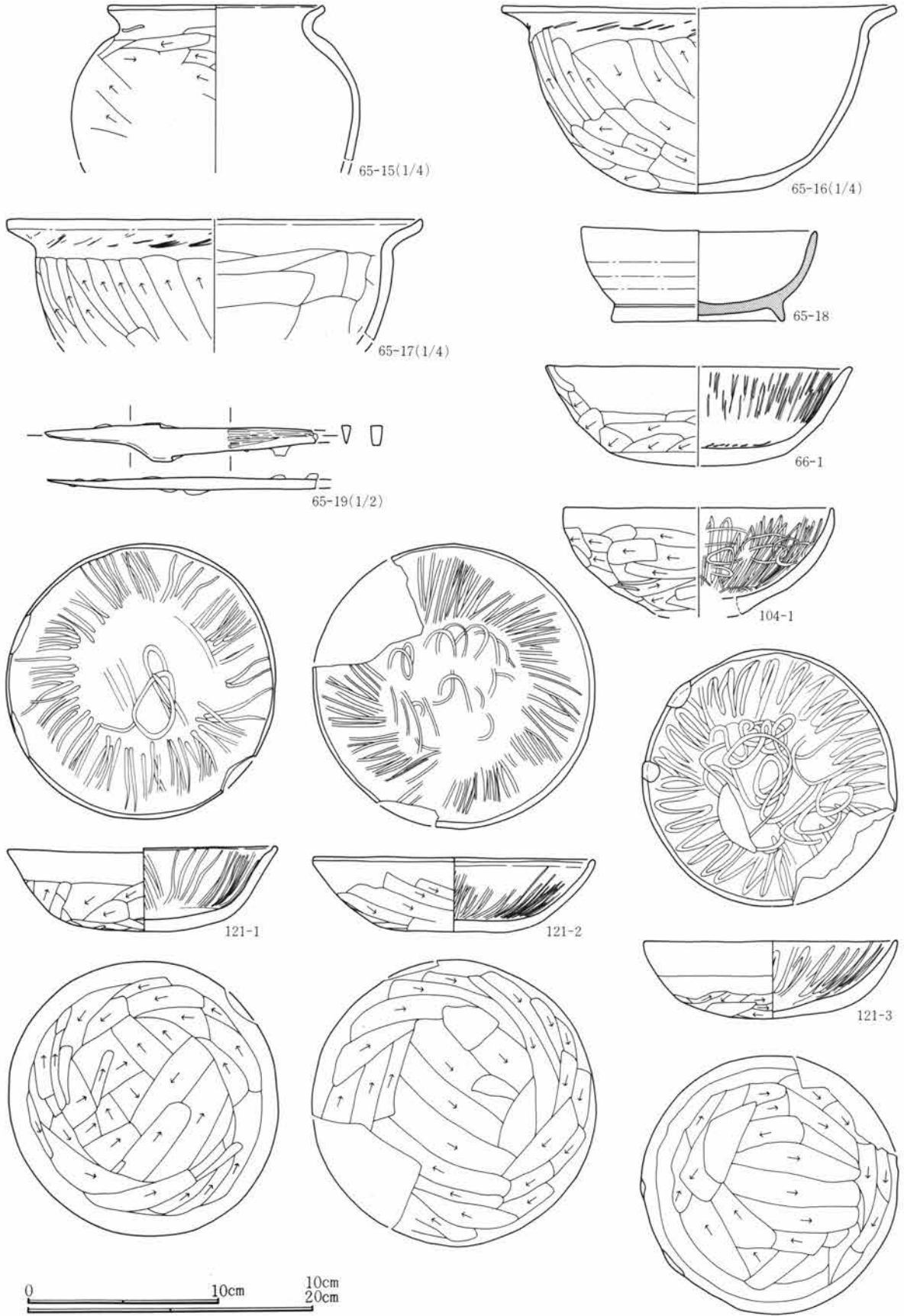
第287図 1・15・21・46・52・58・59・65号土坑出土遺物

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



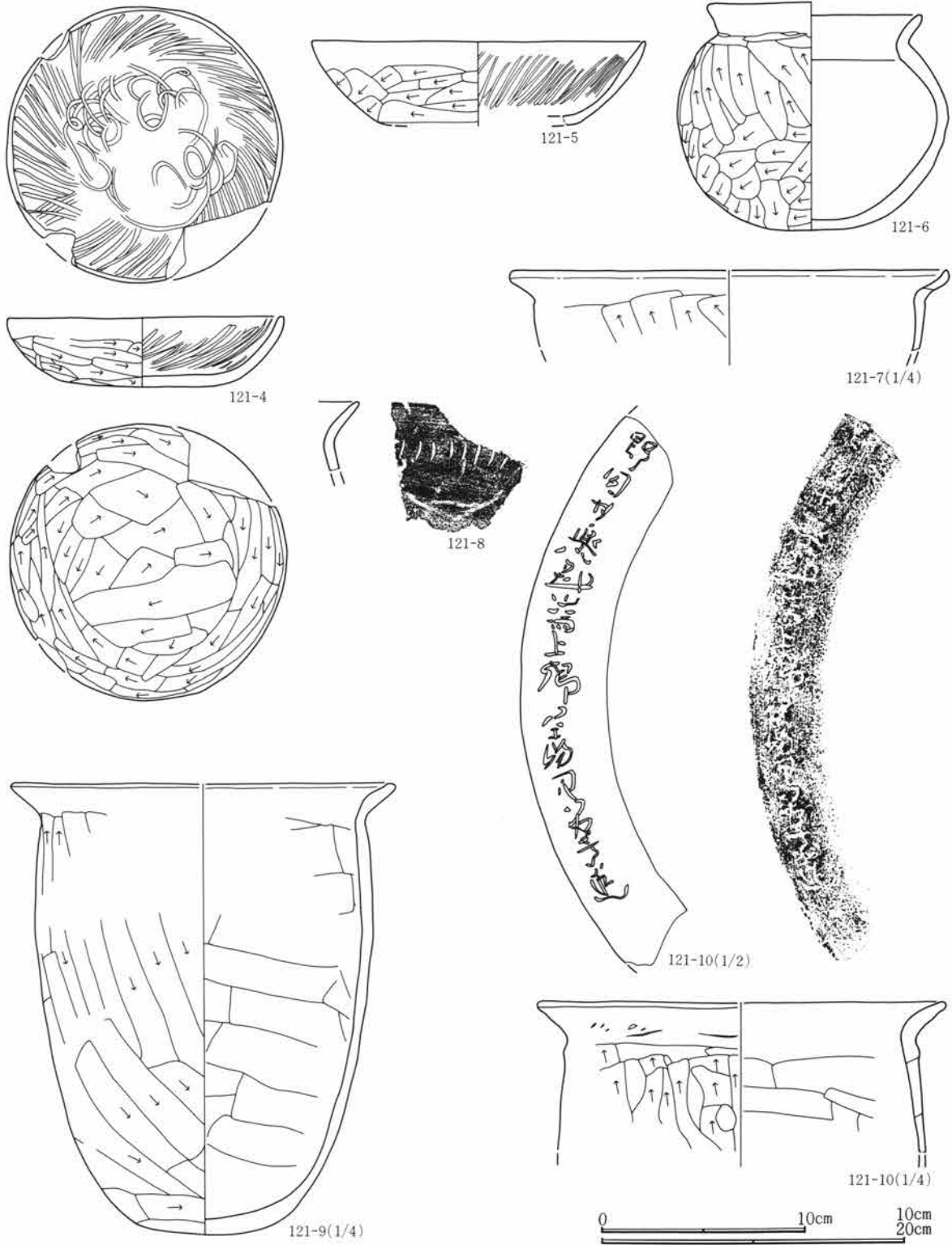
第288図 65号土坑出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物



第289図 65・66・104・121号土坑出土遺物

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第290図 121号土坑出土遺物

土坑出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
15	土師器	①(10.4cm)②-	①②におい橙 ③良好	口縁部横ナデ 体部外面笥削り内面ナデ	VII	
1	鉢	③- ④口縁部片	④普通 細砂・パミスを含む		C	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
21	土師器 1 坏	①14.4cm ②7.2cm ③5.3cm ④ほぼ完形	①橙 ②黒 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整 底部回転糸切り後高台貼付け 内面磨き後黒色処理	I G	
21	土師器 2 坏	①(11.7cm)②- ③- ④口縁部片	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内面ナデ	I C	
46	土師器 1 埴	①(17.3cm)②7.0cm ③(6.1cm) ④口～底1/2	①橙 ②明褐 黄灰 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後放射状暗文	II	
52	土師器 1 甕	①- ②- ③- ④胴～底部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ	VII C	
58	土師器 1 坏	①(23.7cm)②- ③(3.1cm) ④口縁部1/4	①②明黄褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デか 内面に煤(?)付着	I F	
58	土師器 2 甕	①(21.0cm)②- ③- ④口縁部片	①にぶい褐 ②灰褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部に輪積痕を残す	VII A	
58	土師器 3 鉢	①(23.8cm)②- ③13.3cm ④口～底2/3	①②明褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り内面篋 ナデ	X B	
58	土師器 4 蓋	①21.8cm 鈕径2.0cm ③8.0cm ④口～鈕1/3	①にぶい赤褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 鈕～天井部外面篋削り内面 ナデ	IV	
59	土師器 1 坏	①(13.3cm)②(6.5cm) ③3.7cm ④口～底1/4	①②にぶい赤褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後螺旋状・放射状暗文	I F	
59	土師器 2 甕	①(22.6cm)②- ③- ④口縁部1/3	①②にぶい赤褐 灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
59	土師器 3 甕	①(23.4cm)②- ③- ④口～胴1/3	①にぶい褐 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	X B	
59	須恵器 4 蓋	①(18.0cm)②- ③- ④口縁部片	①にぶい黄 ②黄褐 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 天井部回転カキ目痕	III A	
65	土師器 1 坏	①(16.8cm)②(8.8cm) ③5.1cm ④口～底1/3	①にぶい褐 ②黒褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後放射状暗文 内面に煤または油煙付着	I F	
65	土師器 2 坏	①13.4cm ②8.4cm ③4.5cm ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デか 内面に焼成後刻書「王」	I F	
65	土師器 3 坏	①13.6cm ②8.3cm ③4.9cm ④一部欠損	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ 内面に焼成後刻書「王」	I F	
65	土師器 4 坏	①16.4cm ②10.9cm ③4.0cm ④完形	①②にぶい黄橙 にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後螺旋状・放射状暗文	I E	
65	土師器 5 坏	①14.1cm ②8.3cm ③4.3cm ④ほぼ完形	①②にぶい褐 暗灰黄 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後螺旋状・放射状暗文 内面に焼成後刻 書「王」か	I E	
65	土師器 6 坏	①13.9cm ②9.0cm ③4.6cm ④一部欠損	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後放射状暗文 内面に焼成後刻書「王」か	I F	
65	土師器 7 坏	①14.3cm ②9.5cm ③4.2cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後放射状暗文	I E	
65	土師器 8 坏	①(12.6cm)②(5.0cm) ③3.5cm ④口～底1/2	①橙 ②にぶい黄橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デか 器面摩滅著しい	I E	
65	土師器 9 坏	①(14.2cm)②(8.0cm) ③[4.0cm] ④口～底1/3	①明赤褐 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後放射状暗文	I E	
65	土師器 10 坏	①(15.2cm)②(9.0cm) ③5.3cm ④口～底1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後螺旋状・格子状暗文	I E	
65	土師器 11 小型甕	①(13.8cm)②- ③- ④口縁部1/3	①明褐 ②灰黄褐 明褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VIII	
65	土師器 12 坏	①14.4cm ②9.2cm ③4.5cm ④口～底1/2	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後螺旋状・放射状暗文 内面に焼成後刻 書「王」か	I F	
65	土師器 13 坏	①16.2cm ②10.2cm ③5.8cm ④一部欠損	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナ デ後放射状暗文	I E	
65	土師器 14 甕	①(23.2cm)②- ③- ④口縁部1/3	①にぶい褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	VII A	
65	土師器 15 甕	①15.0cm ②- ③- ④口縁部	①赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	VII C	
65	土師器 鉢	①(27.3cm)②- ③12.8cm ④口～底1/2	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	X B	

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No	種別 器種	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
65 17	土師器 鉢	①(28.9cm)②- ③- ④口～胴1/3	①②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ	X B	
65 18	須恵器 坏	①(12.4cm)②(8.8cm) ③4.5cm ④口～底1/2	①②灰白 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り後外周篋削り 貼付け高台	I C	
66 1	土師器 坏	①(16.0cm)②- ③5.1cm ④口～底1/2	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I E	
104 1	土師器 坏	①(14.0cm)②- ③- ④口～底1/3	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・波状暗文	I E	
121 1	土師器 坏	①14.0cm ②8.4cm ③4.3cm ④完形	①②にぶい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	外面一部 黒変
121 2	土師器 坏	①14.8cm ②8.5cm ③3.9cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	底部黒変
121 3	土師器 坏	①13.3cm ②- ③4.0cm ④一部欠損	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・波状暗文	I E	底部黒変
121 4	土師器 坏	①13.4cm ②8.4cm ③3.3cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
121 5	土師器 坏	①(16.2cm)②(10.0cm) ③- ④口～底1/2	①②褐 橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I F	
121 6	土師器 小型甕	①(10.5cm)②- ③11.0cm ④口～底3/4	①にぶい赤褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VIII	
121 7	土師器 鉢	①(28.4cm)②- ③- ④口縁部片	①にぶい黄橙 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面ナデ	X B	
121 8	土師器 甕	①(25.0cm)②8.7cm ③29.5cm ④口～底1/2	①にぶい黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VII	外面一部 黒変
121 9	土師器 甕	器厚4～7mm ④口縁部片	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ 口縁部内面に焼成前線刻(連続する短沈線)あり	VIII	
121 10	土師器 甕	①(26.8cm)②- ③- ④口縁1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ 外面に粘土付着 口縁部内面に焼成前刻書 (本文参照)	VII A	

土坑出土石器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
1-1	石製模造品	3.0	1.5	0.4	3.0	完形	滑石	刀子 径2mmの孔2個あり 外面粗い研磨

土坑出土鉄器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
65-19	刀子	[9.5]	1.3	0.4	9.2	茎部一部欠損	関は刃部にあり 研ぎ減り著しい 茎部に木質残る

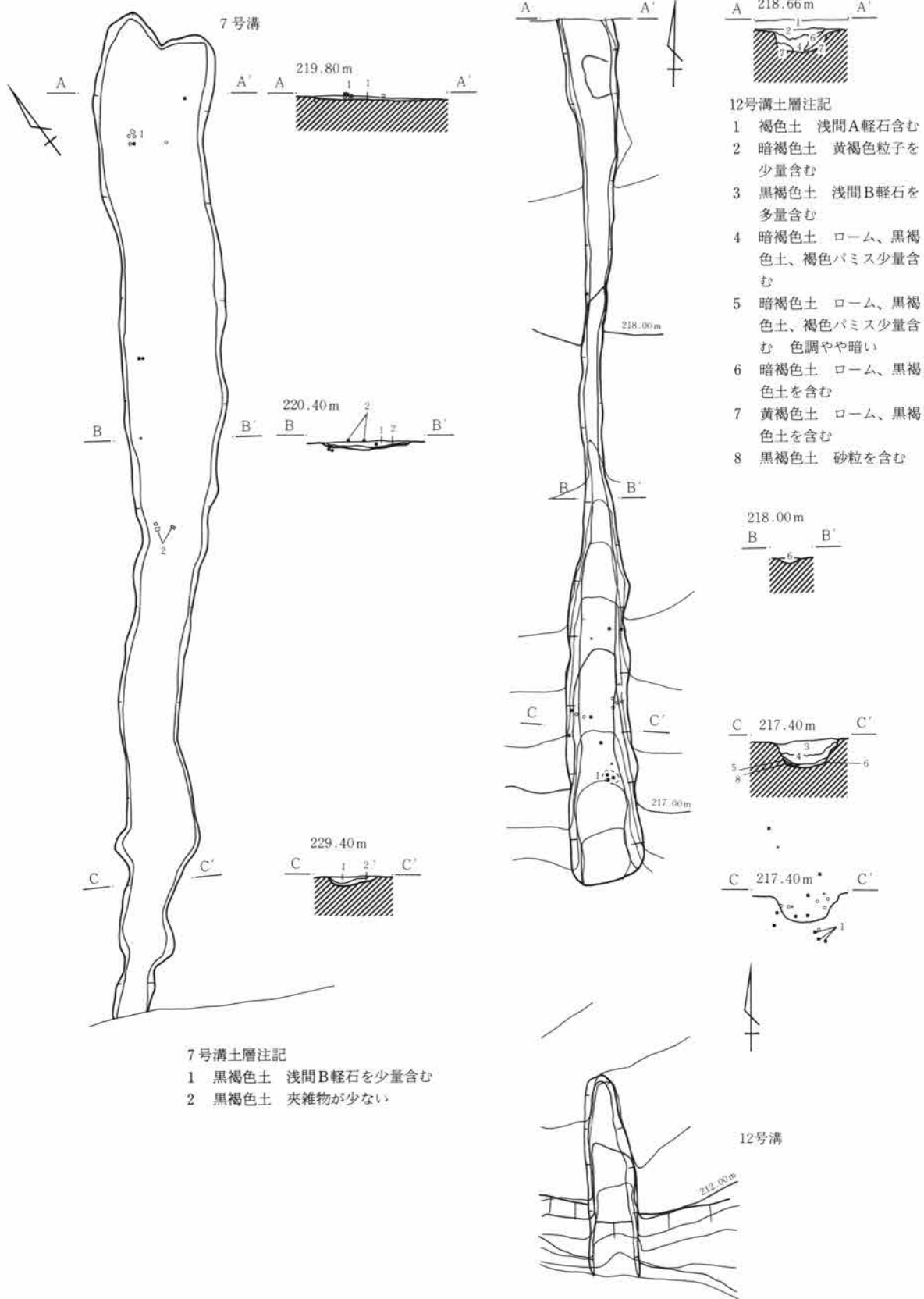
(6) 溝状遺構

3条検出されている。7号溝は、南側は調査区外に延びているが、北側は立ち上がっており、性格不明である。非常に浅く、形状も整然としていないため、区画の溝や排水用の溝の可能性は低い。12・13号溝は、いずれも調査区北側にあつて、ほぼ平行に走っており、2号谷津まで続いていて、同じ性格の溝と考えられる。時期は、出土遺物によると、12号が9世紀代で13号が8世紀後半代とややずれるが、いずれも破片のため確実ではない。南に向かって低くなっており、2号谷津に続いているため、排水用の溝の可能性もある。

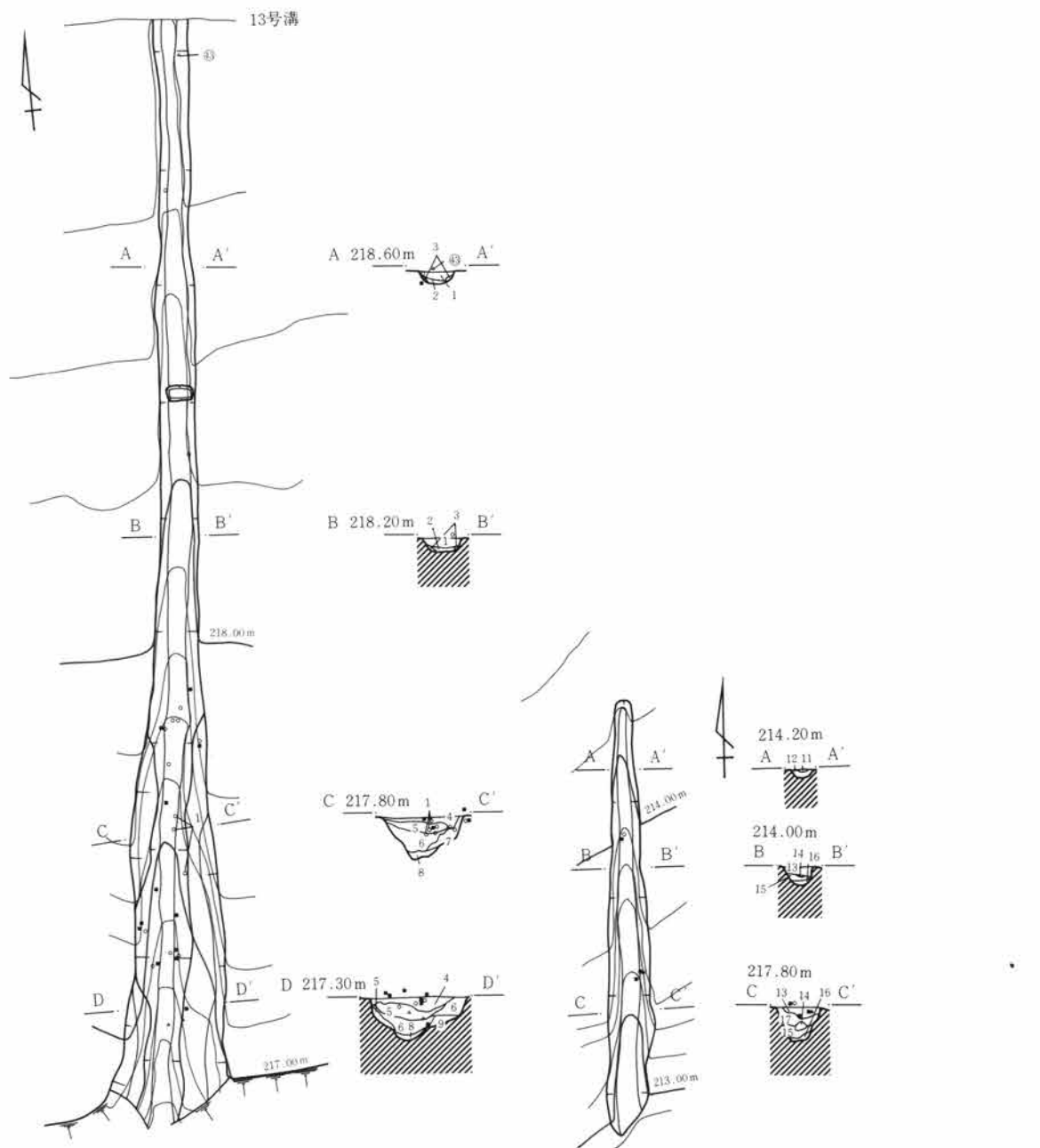
古墳中期～平安時代溝状遺構一覧表

No	位置 (Gr)	重複	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	走向	出土遺物
7	C38～47-VII41～47	なし	[20.5]	0.64～2.44	24	N-35°-W	土師器坏6・甕8・台付甕1、弥生土器1
12	C2～12-VII2～4	39号住より新	[17.6]	0.44～1.56	56	N-8°-W	土師器坏6・甕9・小型甕1
13	C1～19-VII9～11	46号住より新	[14.2]	0.32～2.12	80	N-2°-E	土師器坏31・高坏1、須恵器蓋1・羽釜1、弥生土器1

第三章 検出された遺構と出土遺物



第291図 7・12号溝

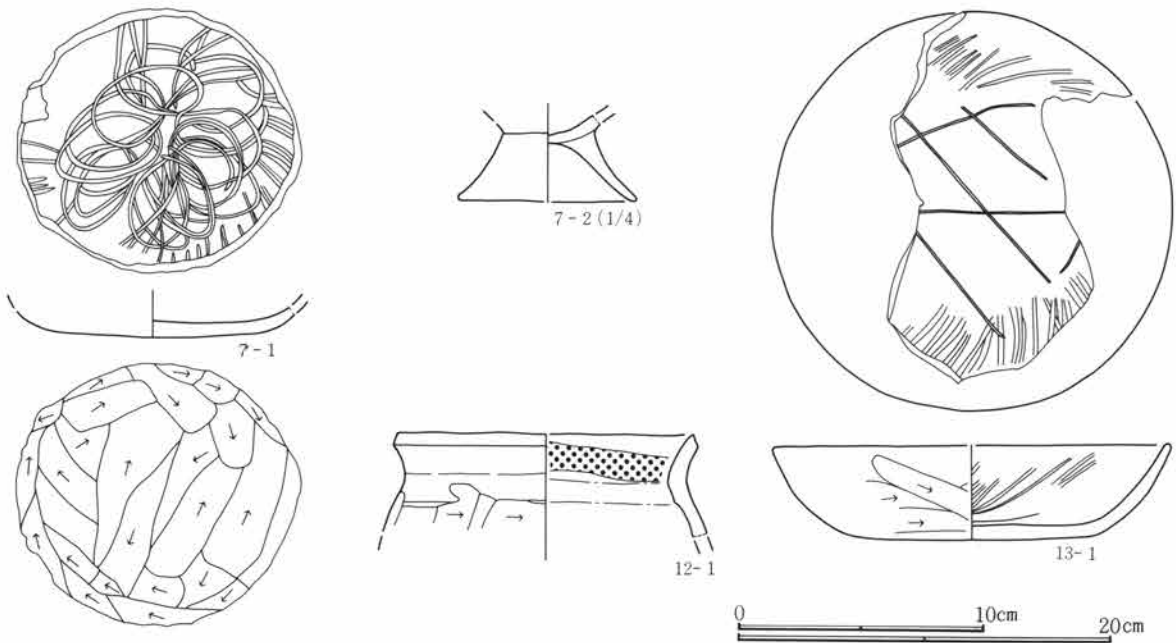


13号溝土層注記

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む
- 2 褐色土 ロームブロックを含む
- 3 黄褐色土 ロームを主とし、褐色パミス多量含む
- 4 黒褐色土 白色パミス、褐色土ブロックを含む
- 5 暗褐色土 白色パミスを含む
- 6 褐色土 白色・褐色パミスを少量含む
- 7 褐色土 ロームブロック含む
- 8 褐色土 ロームを主とし、暗褐色土を含む
- 9 黄褐色土 ロームを主とし、褐色パミス含む
- 10 褐色土 ロームブロック少量含む
- 11 黒褐色土 白色・黄色パミス多量含む
- 12 黒褐色土 黒色土・1層のブロックを含む
- 13 暗褐色土 ロームブロックを少量含む
- 14 暗褐色土 砂粒を主とする
- 15 黒褐色土 褐色パミスを少量含む
- 16 褐色土 ロームを主とし、暗褐色土ブロックを含む
- 17 黒褐色土 白色パミスを少量含む

第292図 13号溝

第III章 検出された遺構と出土遺物



第293図 7・12・13号溝出土遺物

溝出土土器観察表

No	種別 器種	法量 (cm)	①口径②底径 ③高さ③残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
7 1	土師器 坏	①-	②- ③- ④底部	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状 暗文	I E	
7 2	土師器 台付壺	①-	②(5.4cm) ③- ④脚1/2	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂を多く含む	脚部横ナデ 底部内面ナデ	IX	
12 1	土師器 小型壺	①(11.8cm)②-	③- ④口縁1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナデ 内外面に煤(?)付着	VII A	
13 1	土師器 坏	①(15.8cm)②(9.4cm) ③3.7cm ④口~底1/2		①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナ デ後放射状暗文 底部内面に斜格子状の線 刻あり	I F	

(7) 谷津状遺構

2号谷津状遺構

位置 C18~24-VI97~VII23Gr 規模 長さ [52.6m] 上端幅5.9~12.2m 底部幅1.7~7.8m

深さ 6.26m 走向 N-87°-W

概要 調査区北側、竪穴住居群の南に位置している。自然の谷と考えられ、西端部が谷頭となっている。調査時点でも湧水があり、当時は水場として利用されていたことが想定され、溜井と考えられる井戸が2基検出されている(1・2号井戸)。多量の埴輪・土器が出土しており、廃棄場所としての機能も有していた可能性がある。底面全面に礫が出土しているが、地山の礫層が露呈しているものであろう。

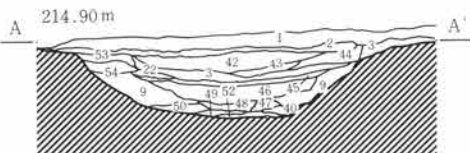
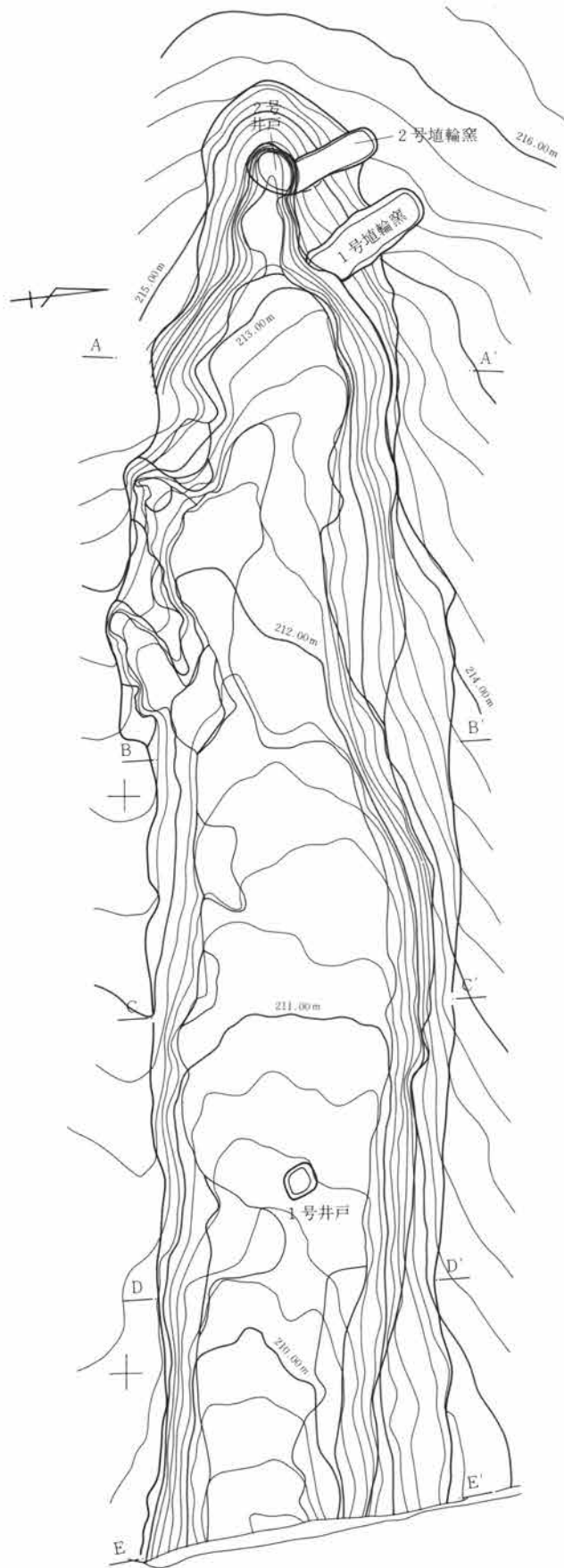
埴輪出土状況 谷頭部に埴輪窯が2基検出されており、そこで廃棄されたと考えられる埴輪が多量に出土している。西端部から20m以内の範囲ですべて出土しており、特に埴輪窯に近い谷頭部に集中している。接合関係を見るとかなり広範囲で接合しており、特に1号埴輪窯と接合関係のあるものが1点、2号埴輪窯とあるものが1点あり、埴輪窯のものが廃棄されていることを裏付けている。

土器出土状況 土器は全面から多量に出土しているが、特に西側から多く出土している。垂直分布を見ると上層から下層まで出土しているが、西側の谷頭部は上層に集中し中~下層は少なくなっており、特に底面付近はほとんど無い。中央部は上層と底面付近に多く中~下層は少なくなっており、東側は下層~底面付近が

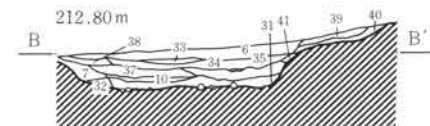
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

2号谷津状遺構土層注記

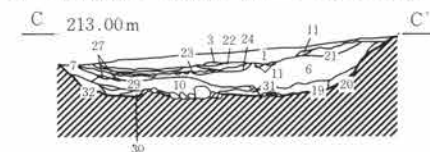
- 1 暗褐色土 浅間B軽石を多量含む
- 2 暗褐色土 締まり弱い
- 3 黒褐色土 浅間B軽石を少量含む
- 4 黒褐色土 浅間B軽石を多量、ローム粒子を含む
- 5 黒褐色土 浅間B軽石を多量含む 粘性がある
- 6 暗褐色土 黄褐色・白色パミス、炭化粒子を含む
- 7 黒褐色土 黄褐色・白色パミスを含む
- 8 黒色土 黄褐色・白色パミス含む 色調やや明るい
- 9 褐色土 白色・褐色パミス、炭化物を含む
- 10 黒色土 黄褐色・白色パミスを少量含む



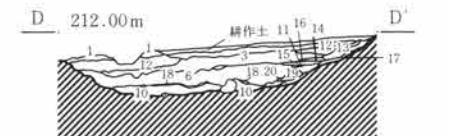
- 11 暗褐色土 炭化粒子、浅間B軽石を含む
- 12 暗褐色土 浅間B軽石多量含む 色調やや明るい
- 13 暗褐色土 浅間B軽石を多量含む 色調やや暗い
- 14 暗褐色土 浅間B軽石を少量含む



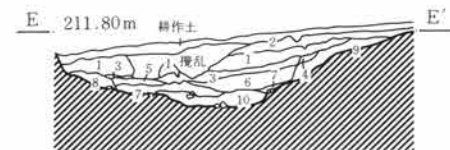
- 15 黒褐色土 浅間B軽石を多量含む
- 16 黒褐色土 浅間B軽石を含む
- 17 暗褐色土 浅間B軽石を少量含む
- 18 暗褐色土 浅間B軽石を含む
- 19 暗褐色土 炭化物を含む
- 20 黒褐色土 白色パミスを多量含む
- 21 明赤褐色土 鉄分もしくはマンガンの凝集層



- 22 黒褐色土 浅間B軽石を多量含む 色調やや暗い
- 23 暗褐色土 浅間B軽石を多量含む
- 24 黒褐色土 浅間B軽石を多量含む 粘性がある
- 25 黒色土 黄褐色・白色パミス、鉄分の塊含む



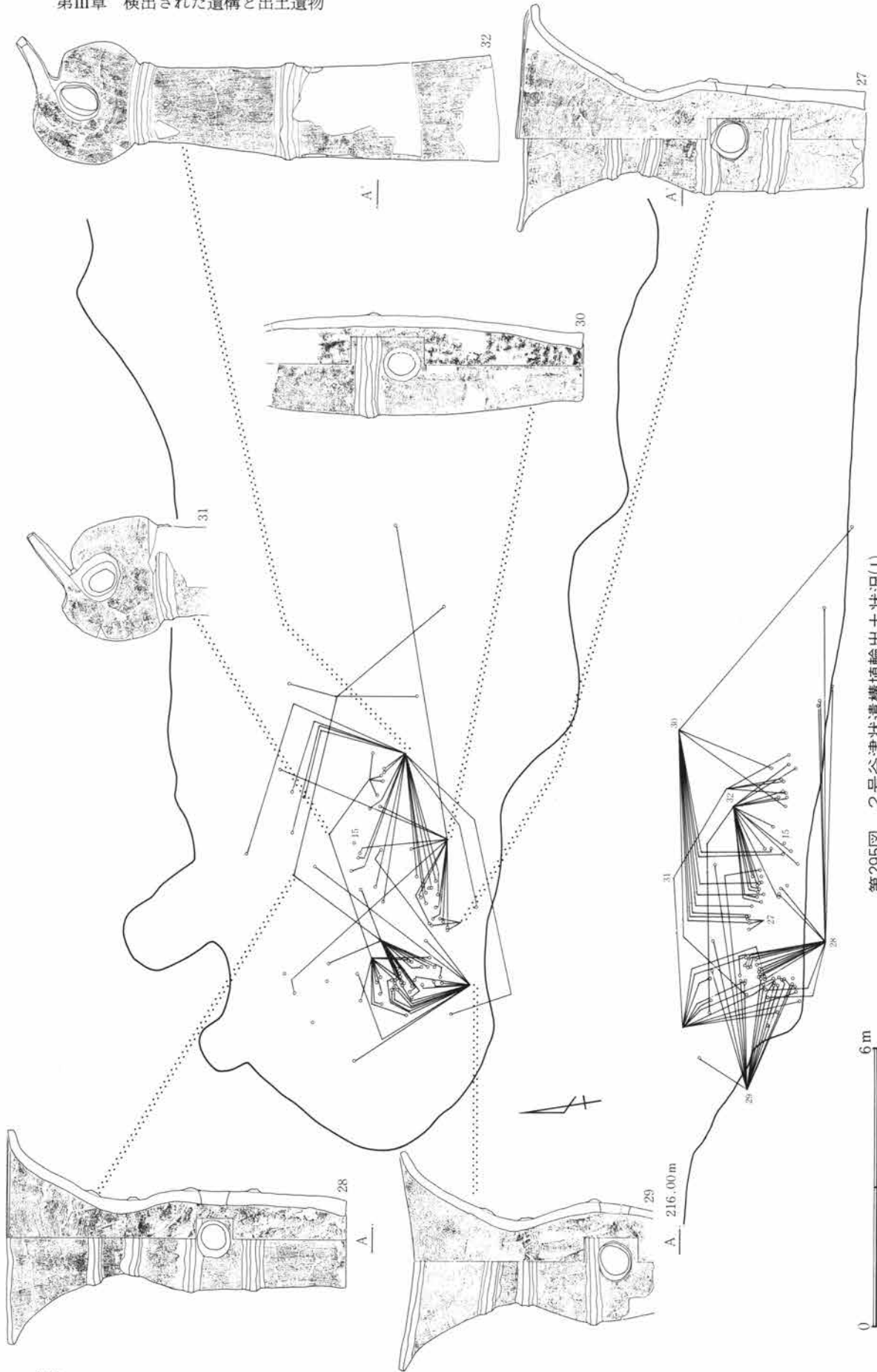
- 26 黒色土 黄褐色土パミス、白色パミス、浅間B軽石、鉄分もしくはマンガンの塊を含む
- 27 にぶい褐色土 シルト質
- 28 黒色土 マンガンの塊を含む 粘性強い
- 29 黒褐色土 マンガンの塊を含む 粘性強い



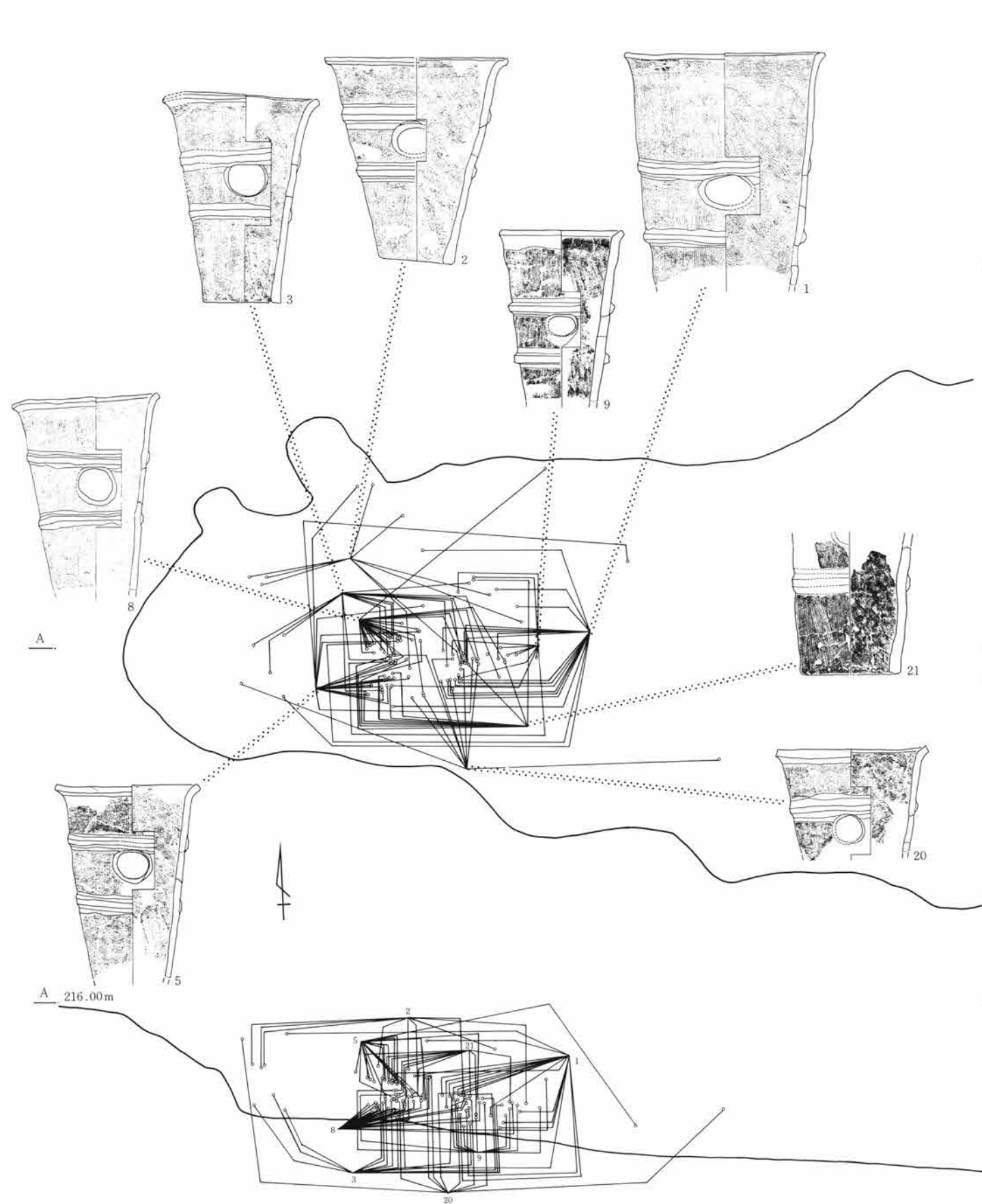
- 30 黒褐色土 粘性強い
- 31 黒褐色土 砂粒を含む 鉄分を斑状に含む

0 12m

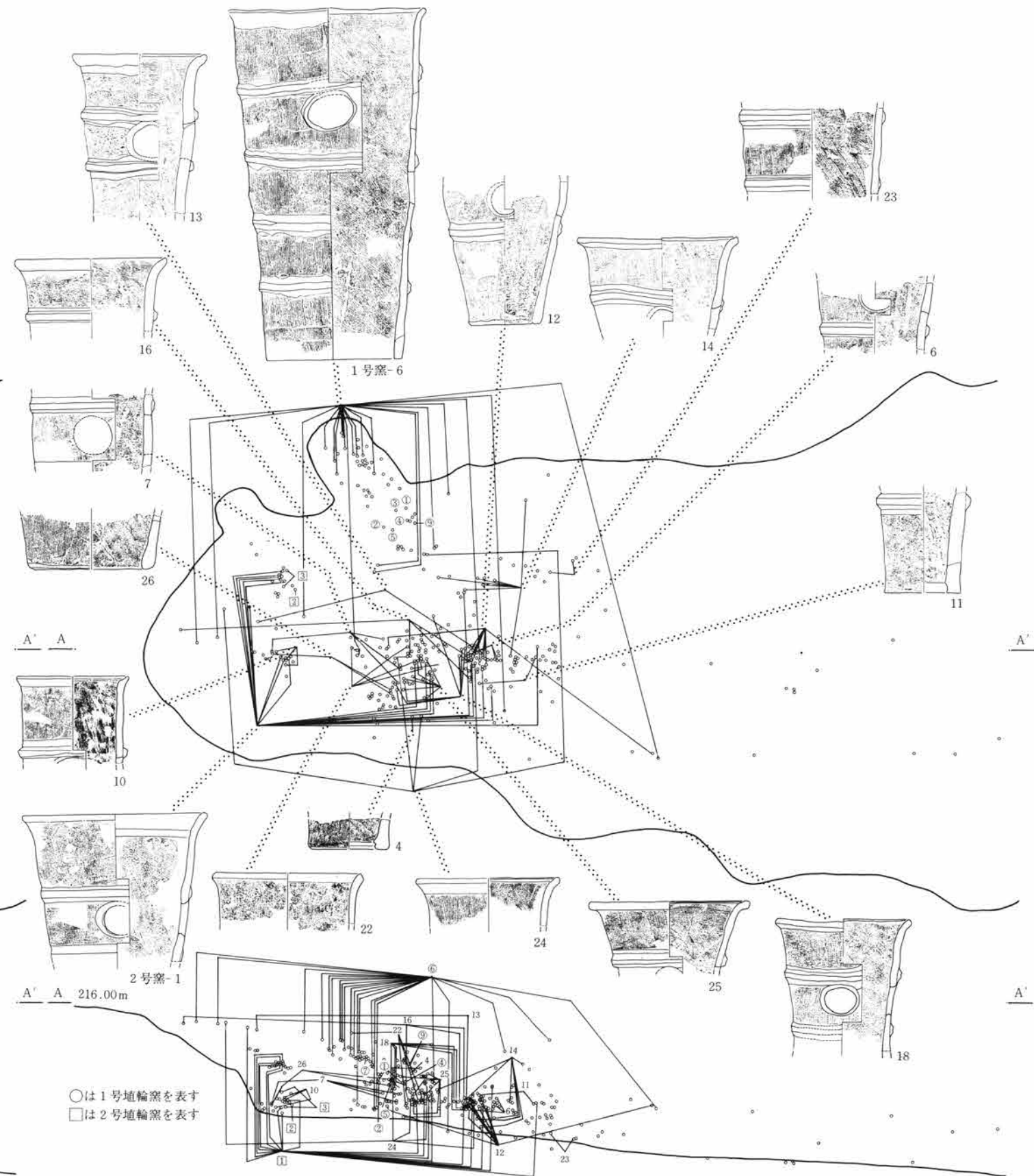
第294図 2号谷津状遺構



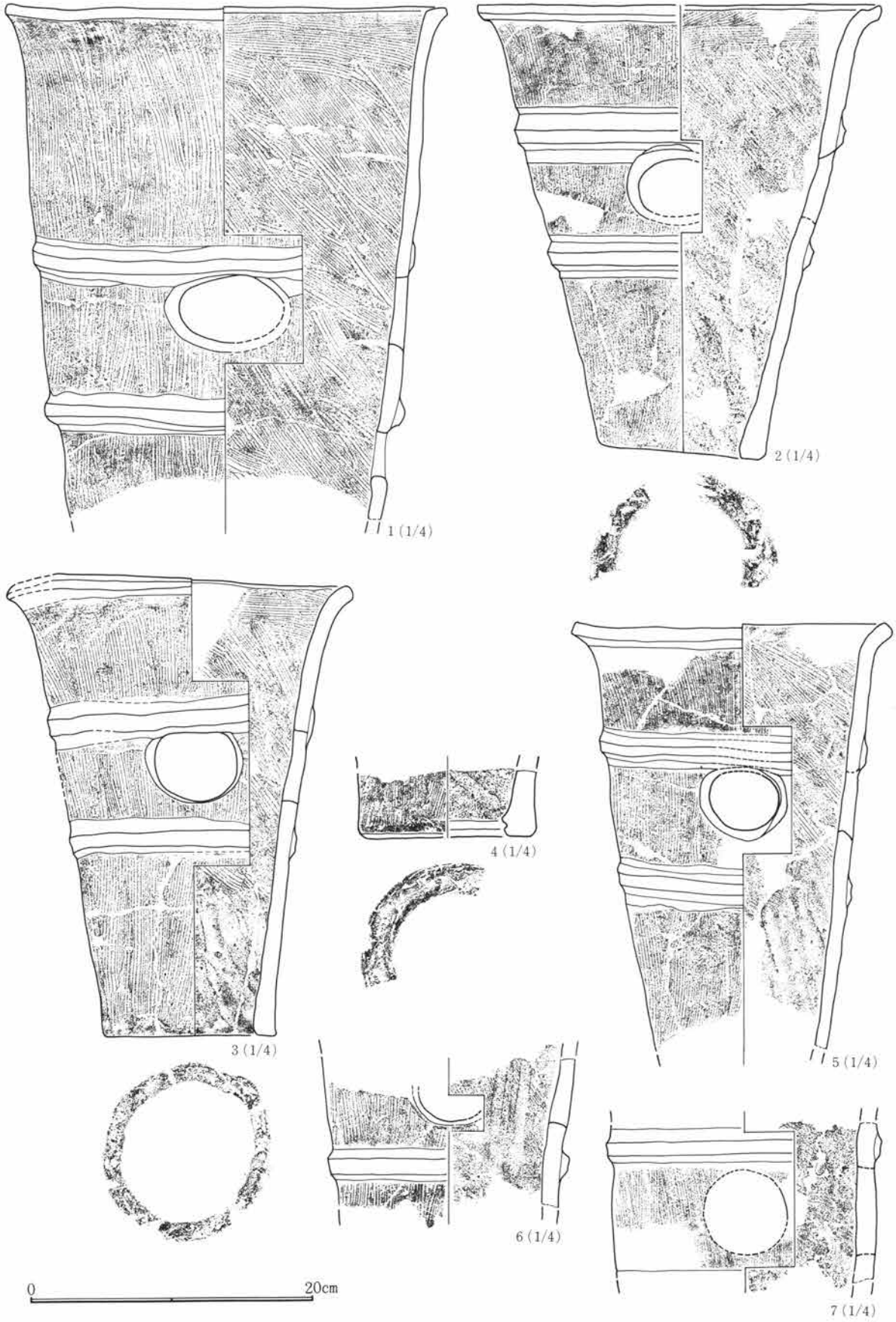
第295図 2号谷津状遺構埴輪出土状況(1)



第296図 2号谷状遺構埴輪出土状況(2)



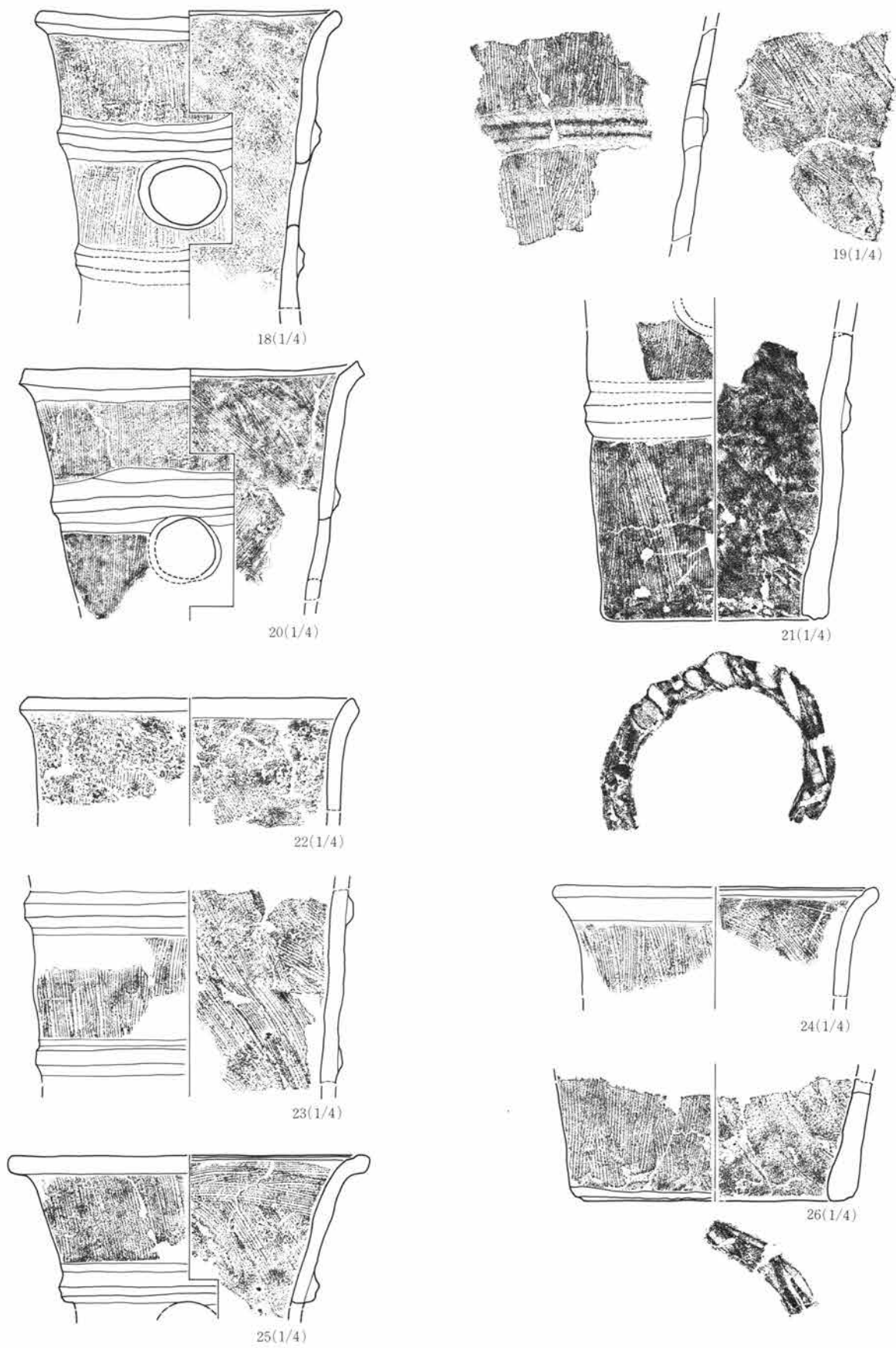
第297図 2号谷状遺構埴輪出土状況(3)



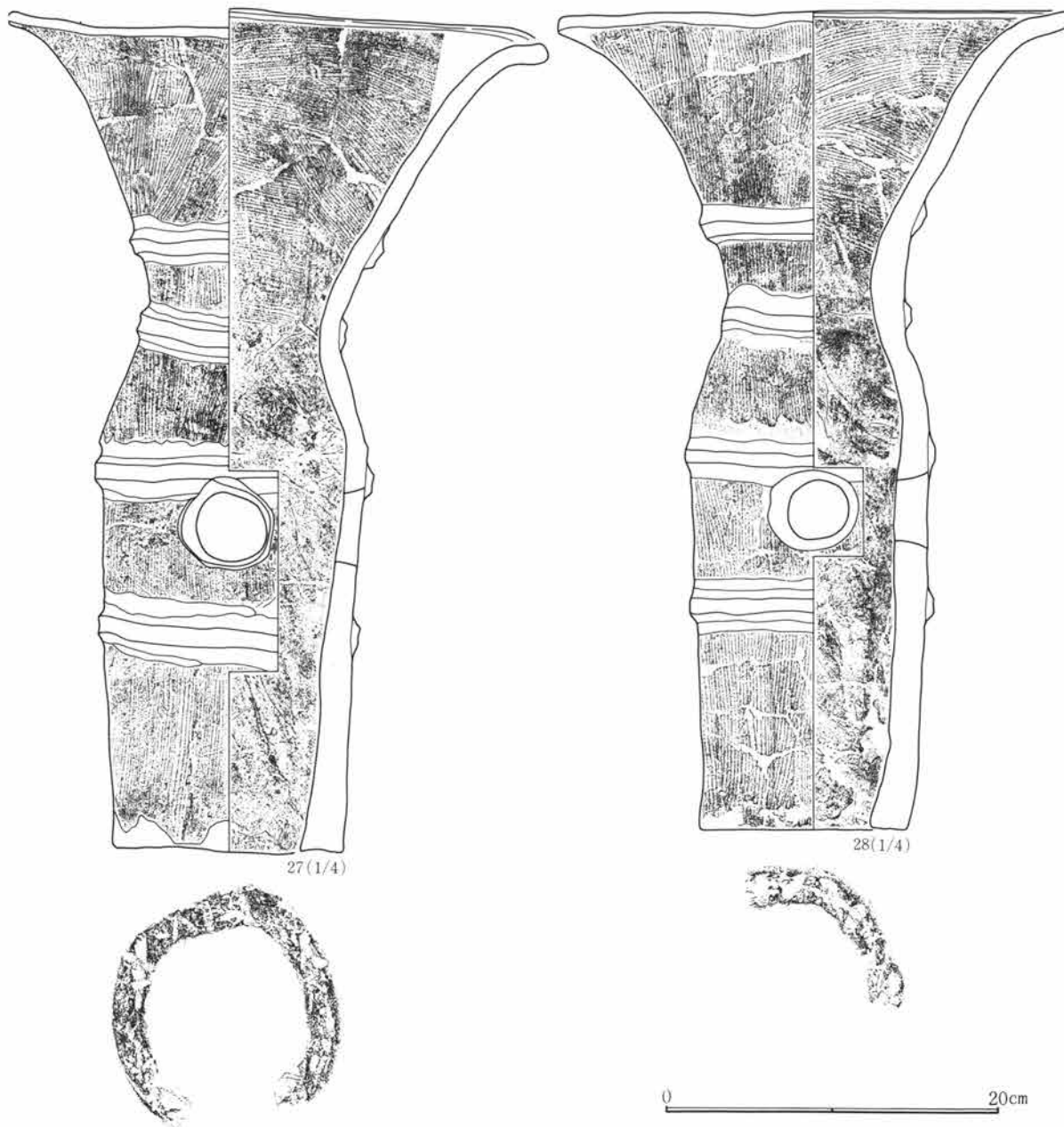
第298図 2号谷津状遺構出土埴輪(1)



第299図 2号谷津状遺構出土埴輪(2)



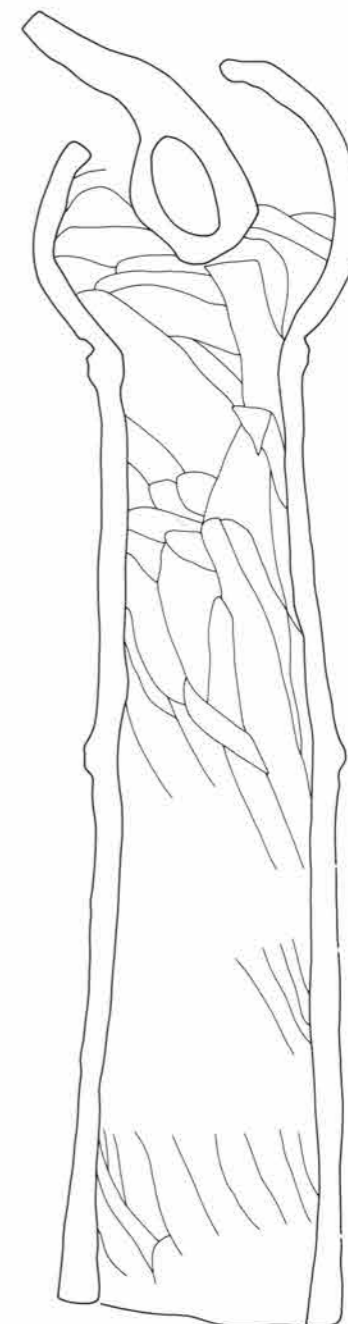
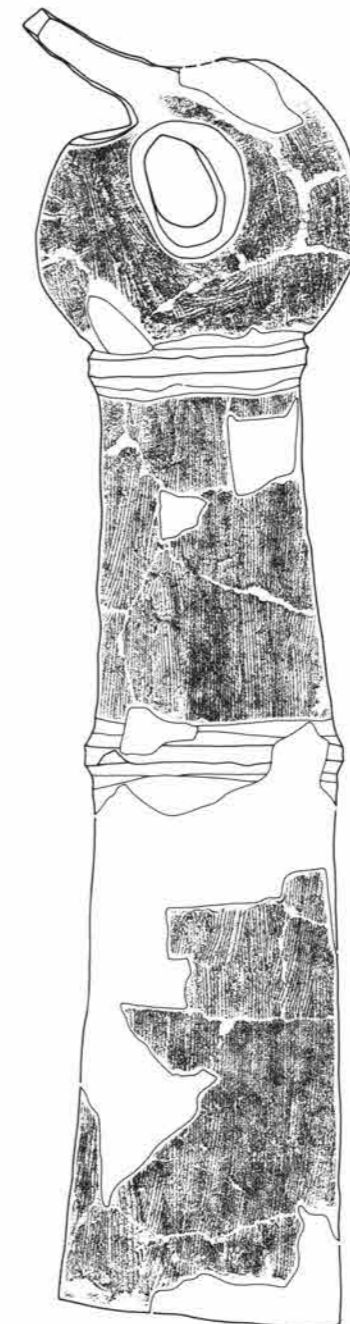
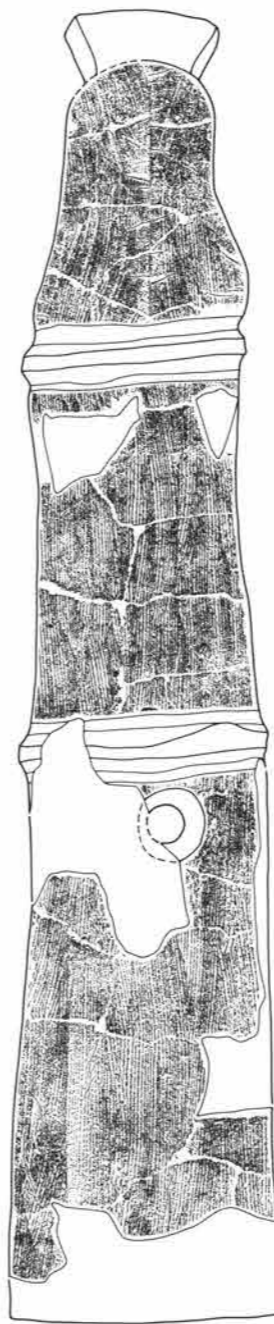
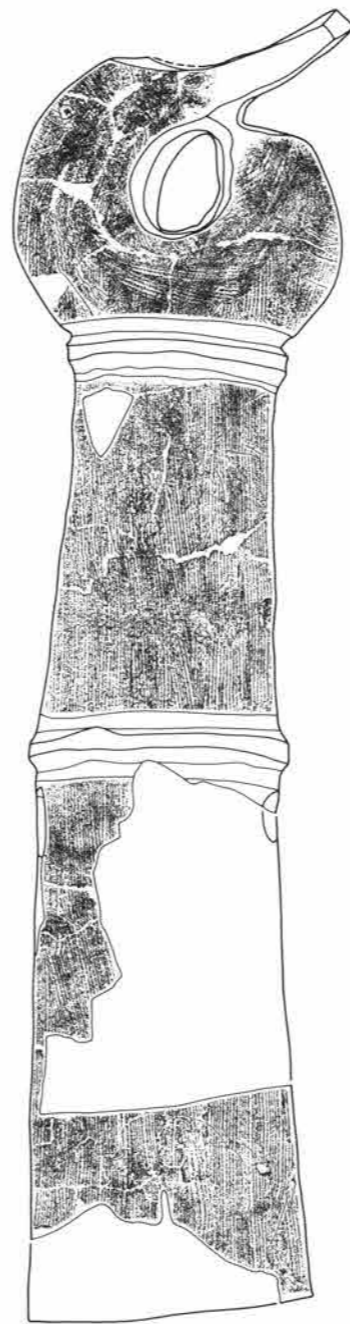
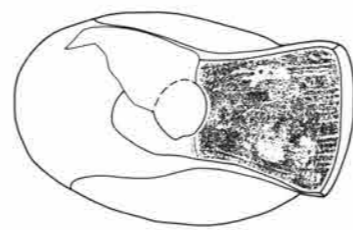
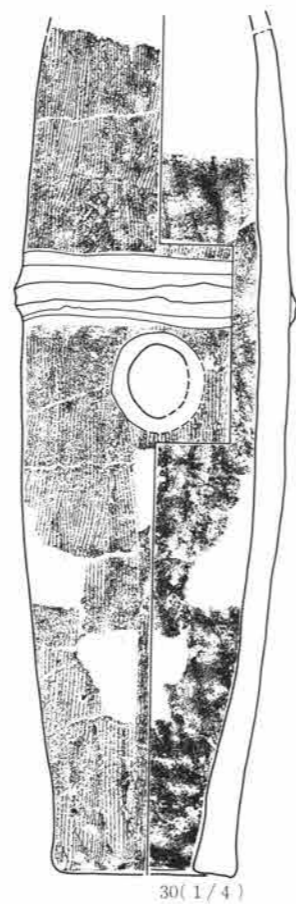
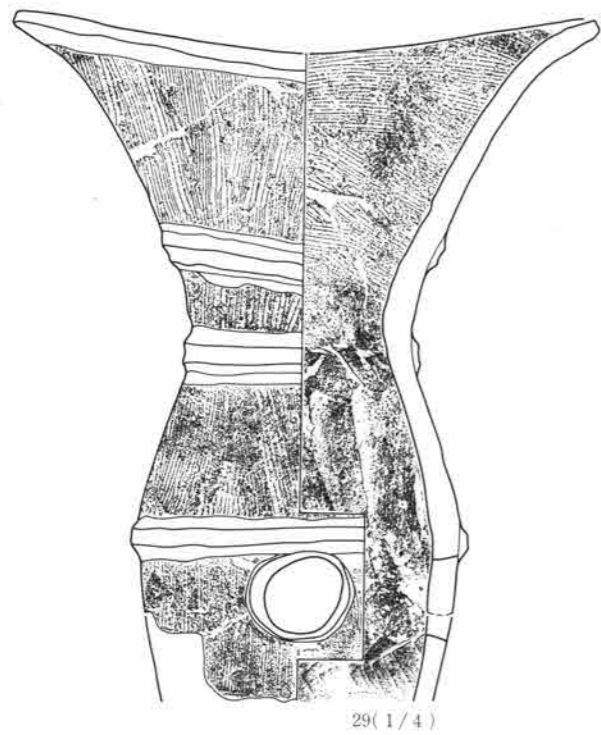
第300図 2号谷津状遺構出土埴輪(3)



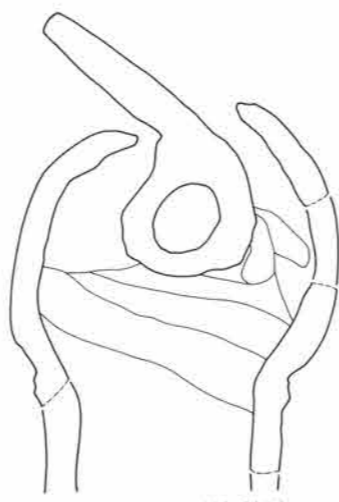
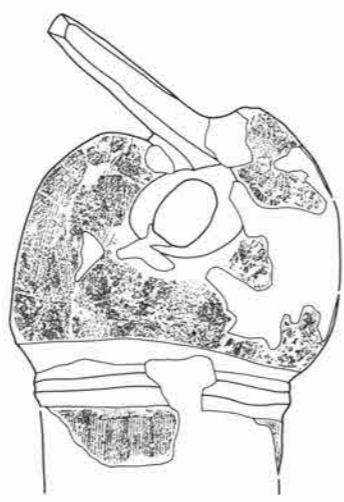
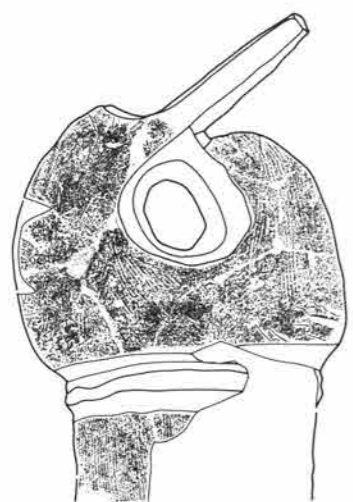
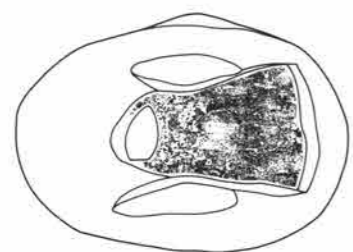
第301図 2号谷津状遺構出土埴輪(4)

2号谷津状遺構出土埴輪観察表

No 器種	出土 位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸 帯	透 孔	成形・整形の特徴	備 考
1 円筒	C 21 VII19	①31.2cm ②— ③[36.0cm] ④口～胴部	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	台形	楕円・円 5.2×8.4 5.4×(6.6) 5.1×(3.8)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面口縁部下横ハケ中～下部斜め ハケ	
2 円筒	C 19 VII21	①(22.5cm)②(11.0cm) ③32.0cm ④口～底1/2	①②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む	M字形 1 14.3 2 22.8	楕円・円 5.1×6.0 (5.4×5.0)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面口縁部下横ハケ 上～中部横 ハケ 下部指ナデ 底面に棒状圧痕	
3 円筒	C 21 VII19	①23.5cm ②11.4cm ③32.5cm ④一部欠損	①②明赤褐 にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を 含む	台形 1 13.6 2 22.9	楕円・半円 4.7×5.6 4.7×6.0	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面口縁部下横ハケ 上～中部斜めハ ケ 下部指ナデ 底面に棒状圧痕	



32(1/4)



31(1/4)



第302図 2号谷津状遺構出土埴輪(5)

0 20cm

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No	出土 器種	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸 帯	透 孔	成形・整形の特徴	備 考
4	C22 円筒 VII20	①— ②(11.8cm) ③— ④底部片	①明黄褐 ②暗灰黄 ③良好 ④細 細砂・粗 砂を含む			外面縦ハケ 内面指ナデ 底面に植物 圧痕	
5	C21 円筒 VII20	①22.0cm ②— ③— ④口～胴部1/2	①②赤褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む	台形	楕円 4.7×5.6	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面上部斜めハケ下部指ナデ	
6	C21 円筒 VII19	凸帯部径17.2cm ④胴部1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む	M字形	円または半 円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部一部横ナデ 内面上部斜めハケ 下部指ナデ	
7	C21 円筒 VII20	凸帯部径(19.6cm) ④胴部1/4	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミ スを含む	M字形	円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面 斜めハケ・指ナデ	
8	C21 円筒 VII20	①22.2cm ②— ③[30.0cm] ④口～胴部	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・ 粗砂・礫を多く含む	台形	円 5.5×5.6 5.7×(5.7)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面口縁部下横ハケ 上～中部斜 めハケ 下部指ナデ	
9	C21 円筒 VII19	①19.4cm ②— ③[26.4cm] ④口～胴部	①②にぶい黄橙 ③不良 ④細 細砂・粗 砂・礫を含む	M字形	楕円 3.3×(4.5)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面上部横・斜めハケ 下部指ナ デ	
10	C21 円筒 VII21	①(18.4cm)②— ③13.2cm ④口～胴1/4	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・ 粗砂を含む	台形か	円か	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面指ナデ	
11	C21 円筒 VII19	①— ②(16.2cm) ③[15.5cm] ④底部1/2	①明黄褐 ②褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む	台形 1 14.5		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面 斜めハケ・棒状(?)工具によるナデ 底面に棒状圧痕	
12	C21 円筒 VII19	①— ②10.8cm ③[22.3cm] ④胴～底部	①②明赤褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を多 く含む	M字形 1 14.6	円または半 円か	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面 上部斜めハケ 下部指ナデ 底面に植 物圧痕	
13	C21 円筒 VII22	①(20.2cm)②— ③[24.8cm] ④口～胴1/3	①橙 ②褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミ スを含む	台形	円か	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面上部横ハケ 下部指ナデ	
14	C20 円筒 VII19	①25.0cm ②— ③14.4cm ④口～胴部	①②明赤褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫・パ ミスを含む	台形	円か 4.6×5.6	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面口縁部下横ナデ 上部斜めハ ケ	
15	C21 円筒 VII20	凸帯部径16.9cm ④胴部1/2	①明褐 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む	台形 三角形	円 4.2×5.0	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面 指ナデ・棒状工具によるナデ	
16	C21 円筒 VII19	①(23.0cm)②— ③11.6cm ④口縁1/2	①にぶい黄橙 ②明黄褐 ③不良 ④普通 細砂・ 粗砂を含む	台形		外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面横ハケ	
17	C21 円筒 VII20	器厚12mm ④口縁部片	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミ スを含む			外面縦ハケ 口縁部横ナデ 内面横ハ ケ	
18	C21 円筒 VII19	①20.6cm ②— ③[20.3cm] ④口～胴2/3	①②明赤褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂・礫を含 む	M字形	円 4.9×5.8	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面口縁部下横ナデ 上～中部斜 めハケ	
19	覆土 円筒	器厚9～12mm ④胴部片	①橙 ②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミ スを多く含む	M字形	形態不明	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面 斜めハケ	
20	C21 円筒 VII19	①23.0cm ②— ③16.4cm ④口～胴部	①明褐 ②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗 砂を含む	M字形	円 (4.7×4.9)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナ デ 内面斜めハケ	
21	C21 円筒 VII20	①— ②(14.8cm) ③[20.5cm] ④胴～底部2/3	①②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む	M字形 1 14.4		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面 指ナデ 底面に棒状圧痕	
22	C21 円筒 VII20	①(22.6cm)②— ③— ④口縁1/2	①②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含 む			外面縦ハケ 口縁部横ナデ 内面口縁 部下ナデ・斜めハケ	
23	C20 円筒 VII18	凸帯部径(22.8cm) ④胴部1/5	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミ スを含む	M字形		外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面 斜めハケ	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No 器種	出土 位置	法量①口径②底径 (cm)③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	凸 帯	透 孔	成形・整形の特徴	備 考
24 円筒	C22 VII20	①(21.0cm)②- ③- ④口縁部1/2	①②明赤褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む			外面縦ハケ 口縁部横ナデ 内面口縁部下横ナデ・斜めハケ	
25 円筒	C21 VII20	①(24.6cm)②- ③- ④口～胴部1/5	①②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	台形か	円か	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口縁部下横ハケ・斜めハケ	
26 円筒	C21 VII20	①- ②(21.0cm) ③- ④底部1/2	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む			外面縦ハケ 内面指ナデ 底面に棒状圧痕	
27 朝顔	C22 VII21	①31.8cm ②13.9cm ③50.3cm ④ほぼ完形	①②にぶい橙 橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	M字形 1 13.5 2 22.7 3 32.3 4 36.1	円 4.9×5.4 5.2×5.8	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口縁～頸部横ハケ 頸～底部指ナデ	
28 朝顔	C21 VII21	①20.8cm②(12.3cm) ③48.8cm ④ほぼ完形	①②明赤褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を多く含む	M字形 1 13.0 2 22.3 3 30.8 4 36.1	円 (4.0×4.3) 4.1×4.6	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口縁～頸部横ハケ 頸～底部指ナデ	
29 朝顔	C21 VII21	①30.8cm ②- ③[36.4cm] ④口～胴部	①②にぶい赤褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	M字形 台形	円 4.5×(5.1)	外面縦ハケ 口縁部・凸帯貼付部横ナデ 内面口～頸部横ハケ 頸～胴部指ナデ	
30 形象 不明	C22 VII21	縦[45.3cm] 横[15.0cm] ④基部1/2	①②明赤褐 にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	M字形 1 30.2	円 4.6×(4.3)	外面縦ハケ 凸帯貼付部横ナデ 内面指ナデ 底面に植物圧痕	
31 形象 甗	C21 VII21	縦[24.3cm] 横17.6cm 奥行12.3cm ④甗部残存	①②明赤褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを多く含む	台形か		甗部外面ハケ・ナデ 基部外面縦ハケ 内面指ナデ	
32 形象 甗	C22 VII20	縦69.4cm 横18.0cm 奥行11.4cm ④一部欠損	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	台形 1 30.2 2 51.5	円 3.3×(3.0)	甗部外面ハケ・ナデ 基部外面縦ハケ 内面指ナデ	

多くなっている。接合関係はかなり広範囲であり、15m離れているものもある。またC23VII15Gr付近では、比較的完形に近い土器が集中して出土しており、垂直分布でも、底面から10～20cmの所に集中している。

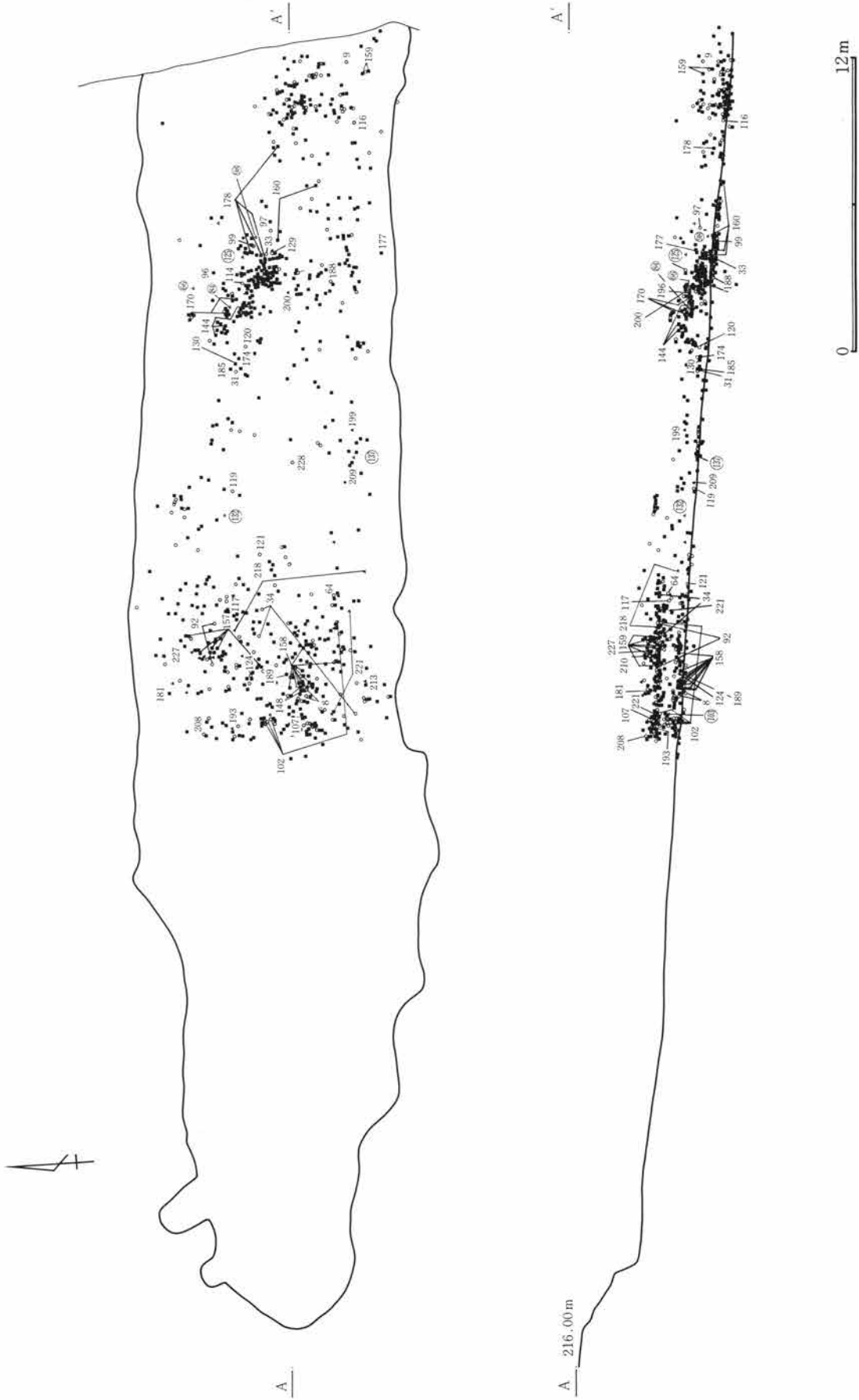
出土遺物数量表

種 別	繩 文	弥 生	古 式 土師器	土 師 器									
				坏	高坏	埴	甕	台付甕	小型甕	鉢	甗	小型土器	計
点 数	6	18	3	3,239	34	3	14,215	3	19	9	11	2	17,535
重量(g)	85	195	40	46,000	4,230	370	227,355	75	815	565	955	70	280,435

種 別	須 恵 器								埴 輪				総 計
	坏	高坏	埴	蓋	羽釜	竈	不明	計	円筒	朝顔	形象	計	
点数	171	2	4	24	8	3	2	214	1,251	5	2	1,258	19,034
重量(g)	8,430	580	570	690	375	80	60	10,785	57,125	13,800	8,320	79,245	370,785

1号井戸

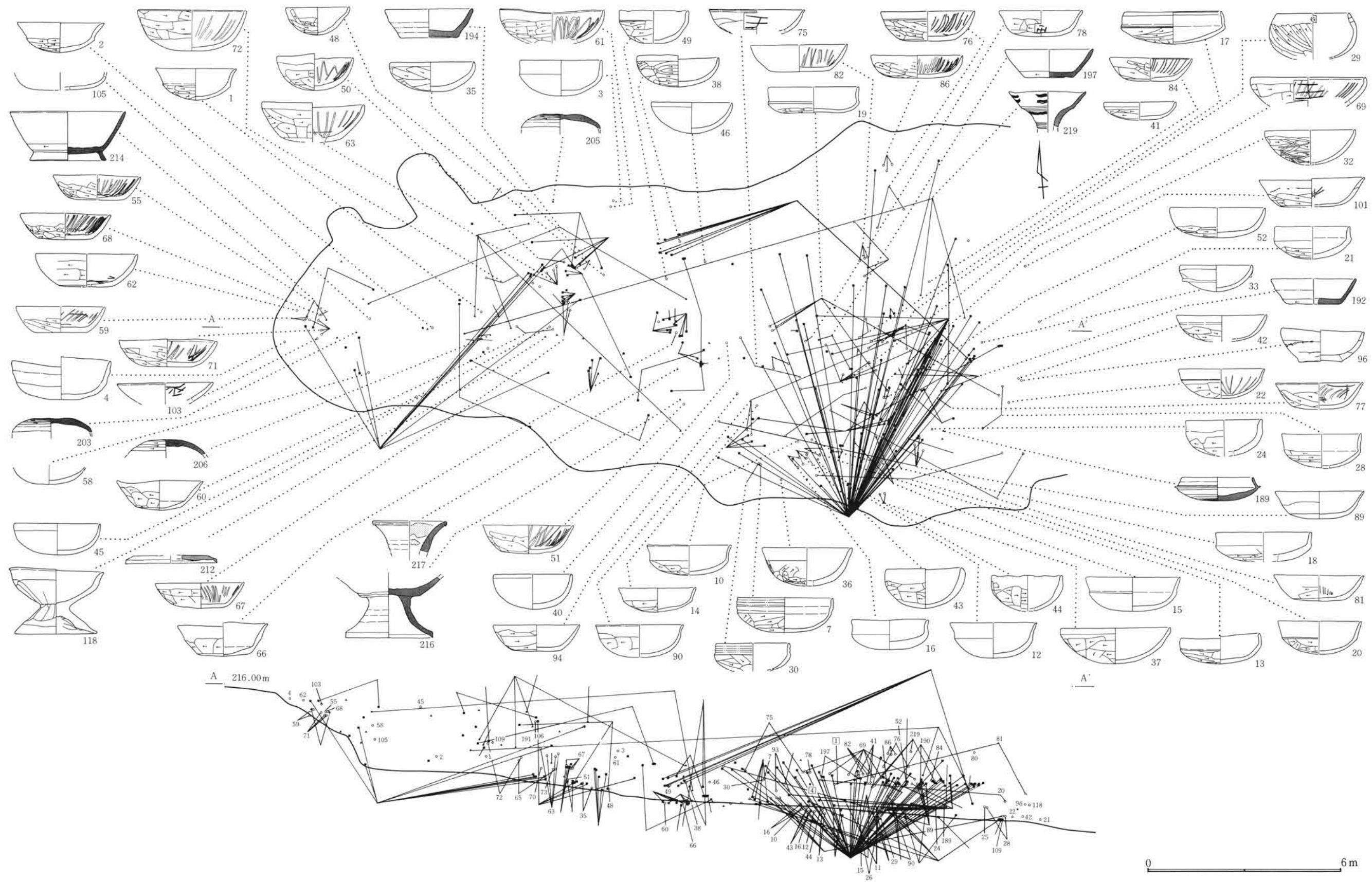
位置 C21・22-VII3・4Gr 平面形態 円形 規模 1.4m×1.2m 深さ 66cm 面積 1.2m²
 遺物出土状況 径10～30cmの礫が多数出土し、土器は土師器坏122点・甕41点・鉢3点が出土している。



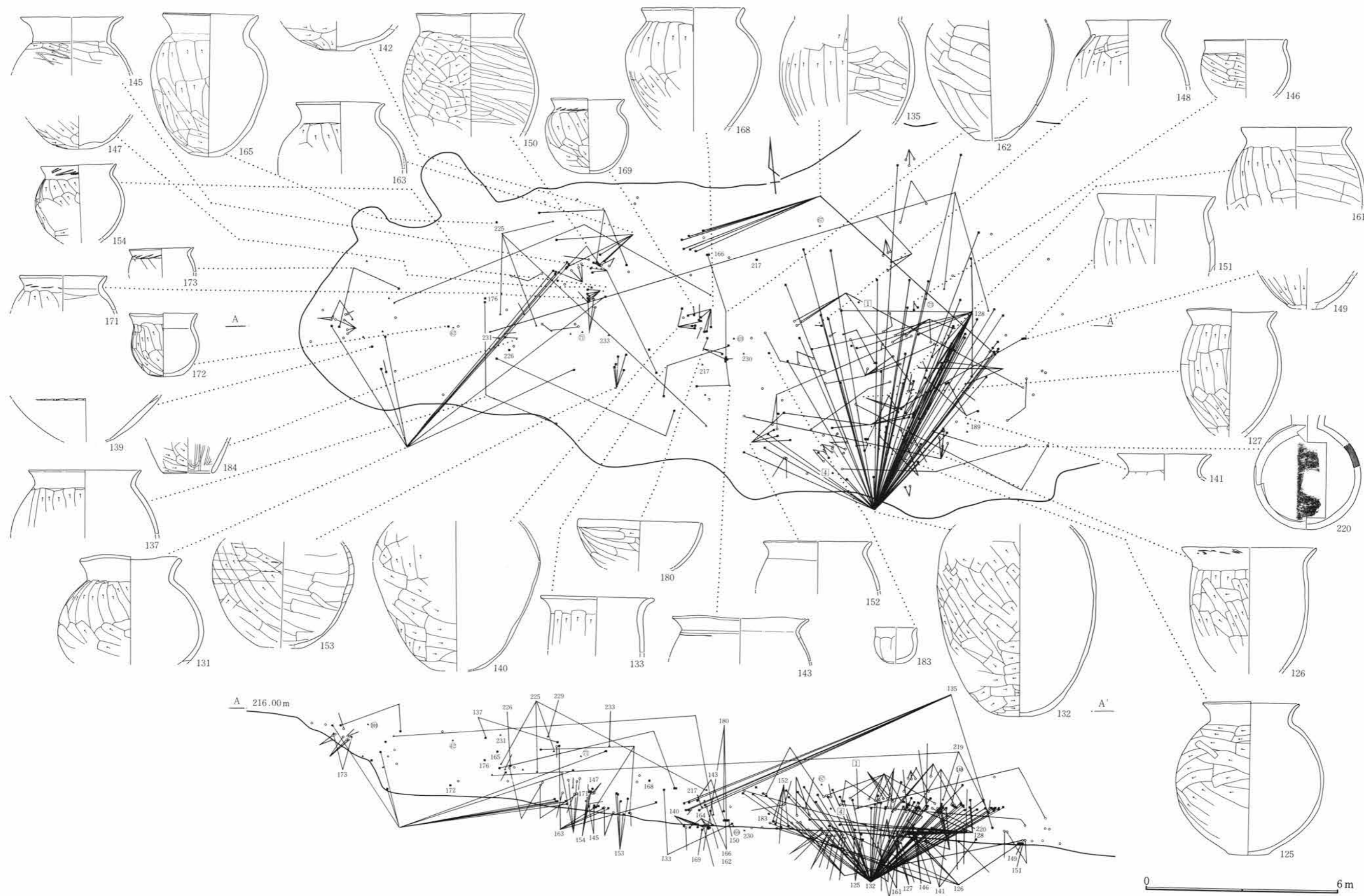
第303図 2号谷津状遺構東側遺物出土状況



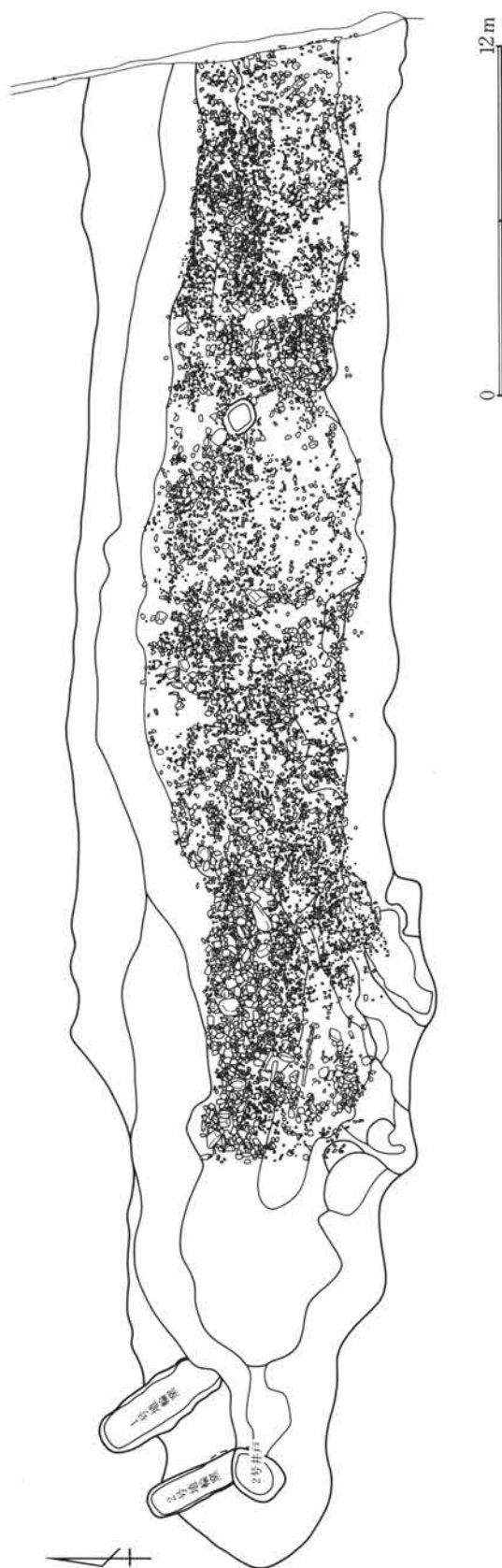
第304図 2号谷津状遺構西側遺物出土状況



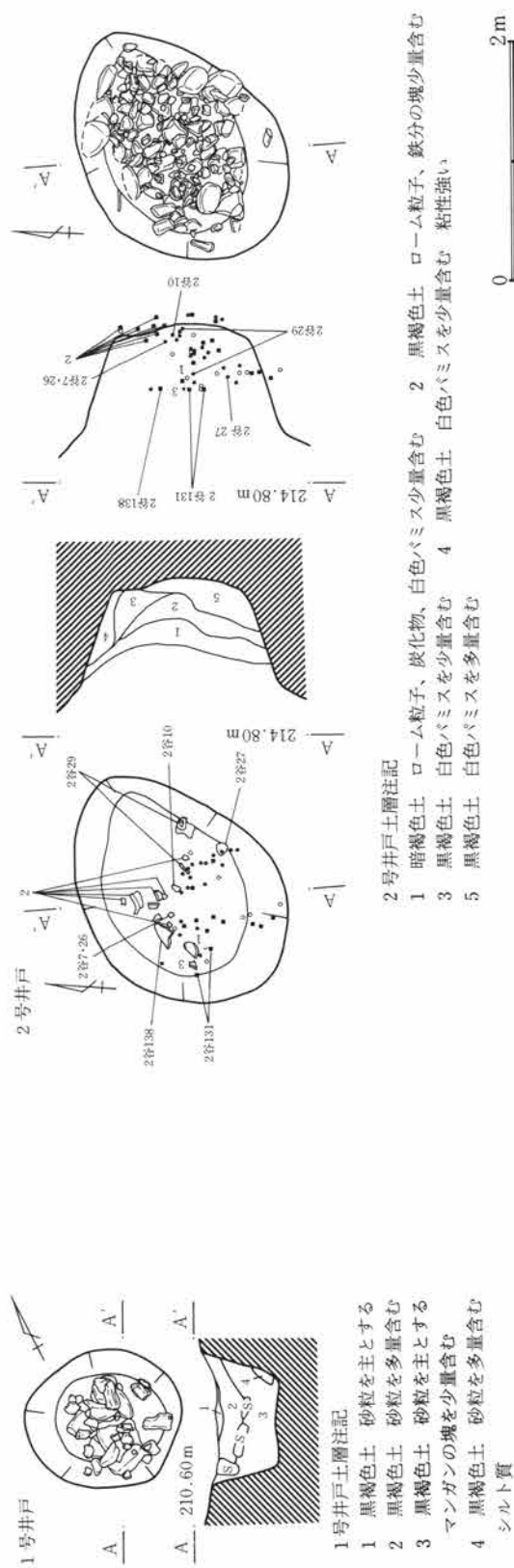
第305图 2号谷津状遺構遺物出土状況(I)



第306图 2号谷津状遺構遺物出土状況(2)



第308図 2号谷津状遺構出土状況



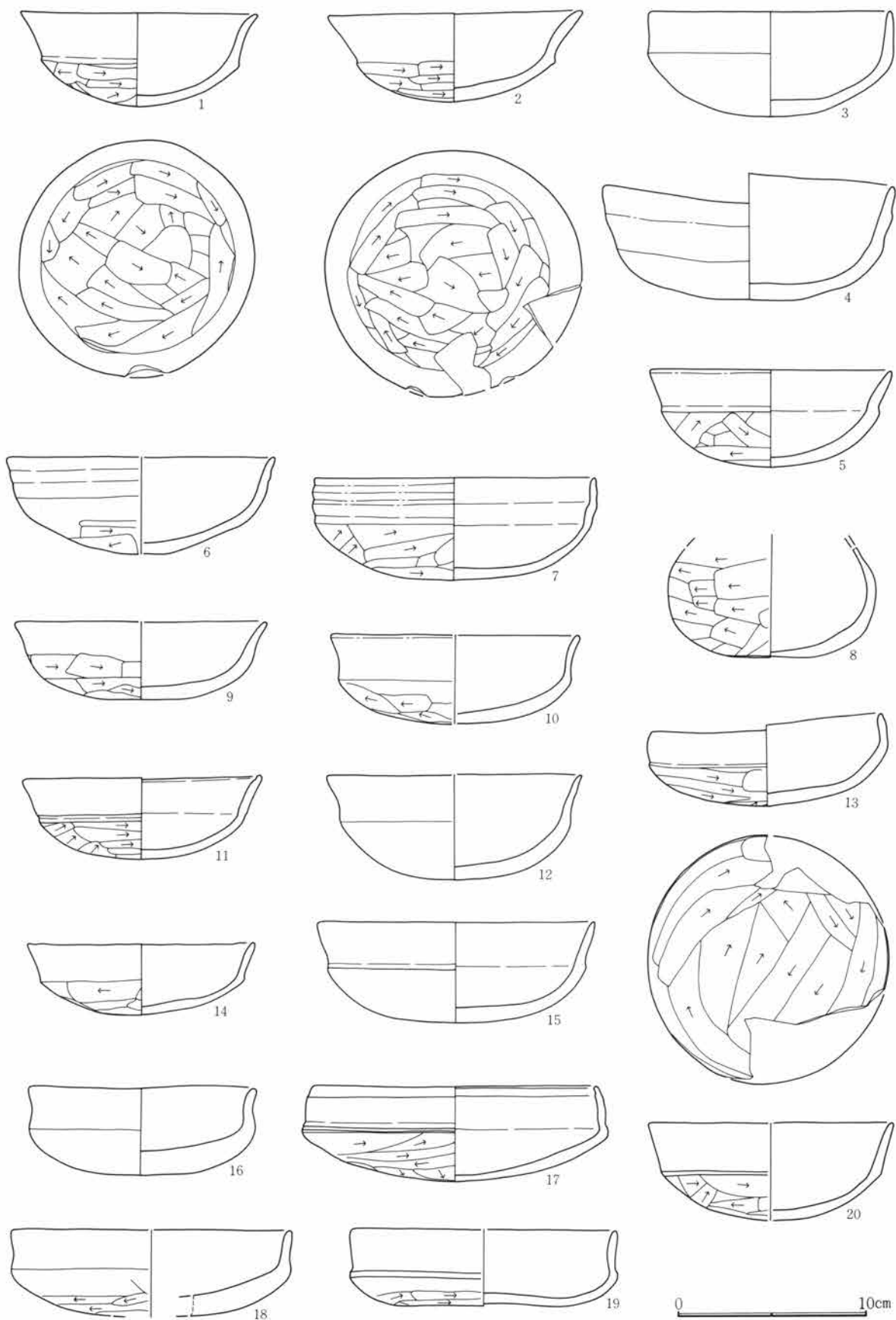
第309図 1・2号井戸

1号井戸土層注記

- 1 黒褐色土 砂粒を主とする
- 2 黒褐色土 砂粒を多量含む
- 3 黒褐色土 砂粒を主とする
マンガンの塊を少量含む
- 4 黒褐色土 砂粒を多量含む
シルト質

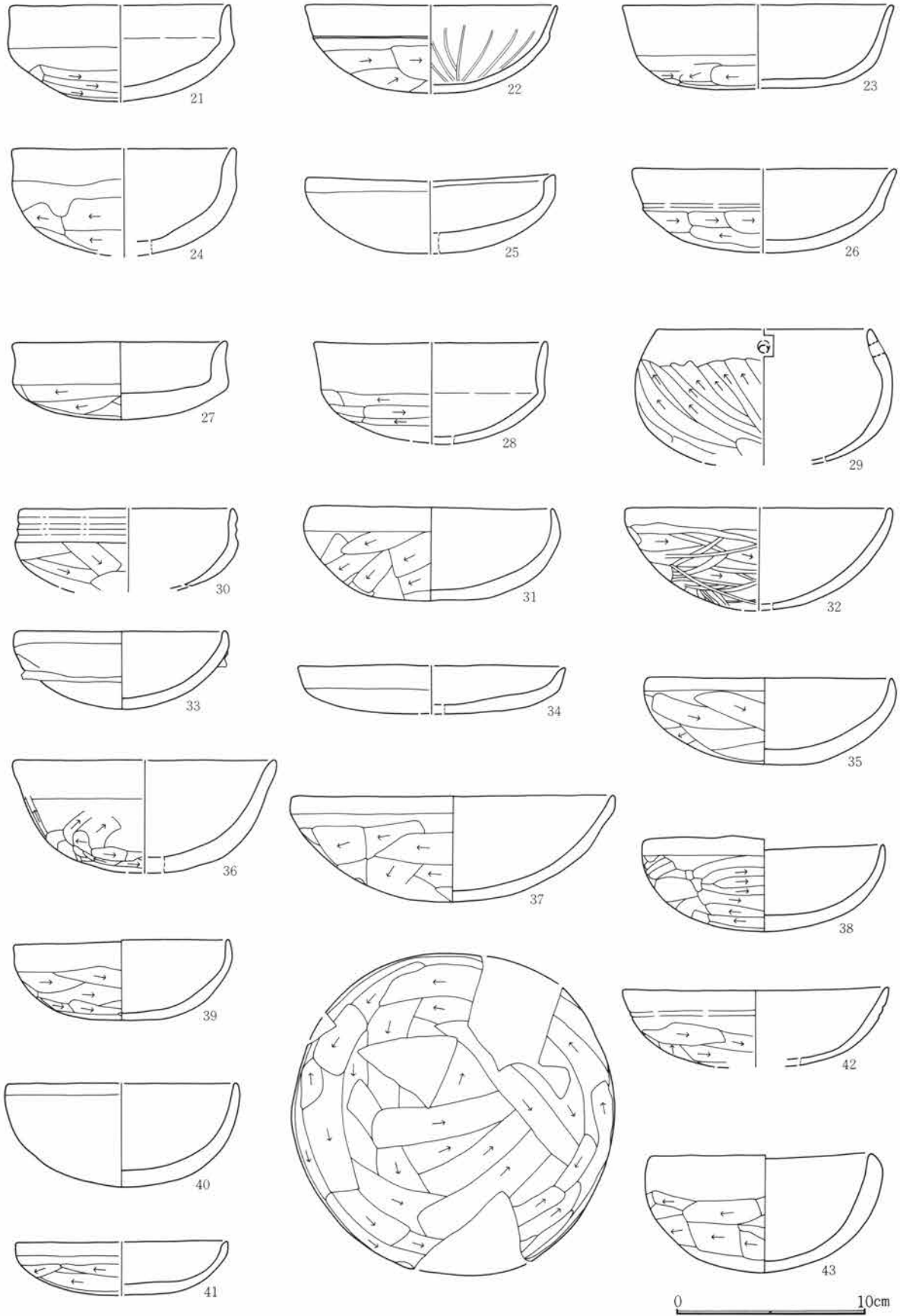
2号井戸土層注記

- 1 暗褐色土 ローム粒子、炭化物、白色バミスを少量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒子、鉄分の塊少量含む
- 3 黒褐色土 白色バミスを少量含む
- 4 黒褐色土 白色バミスを少量含む 粘性強い
- 5 黒褐色土 白色バミスを多量含む



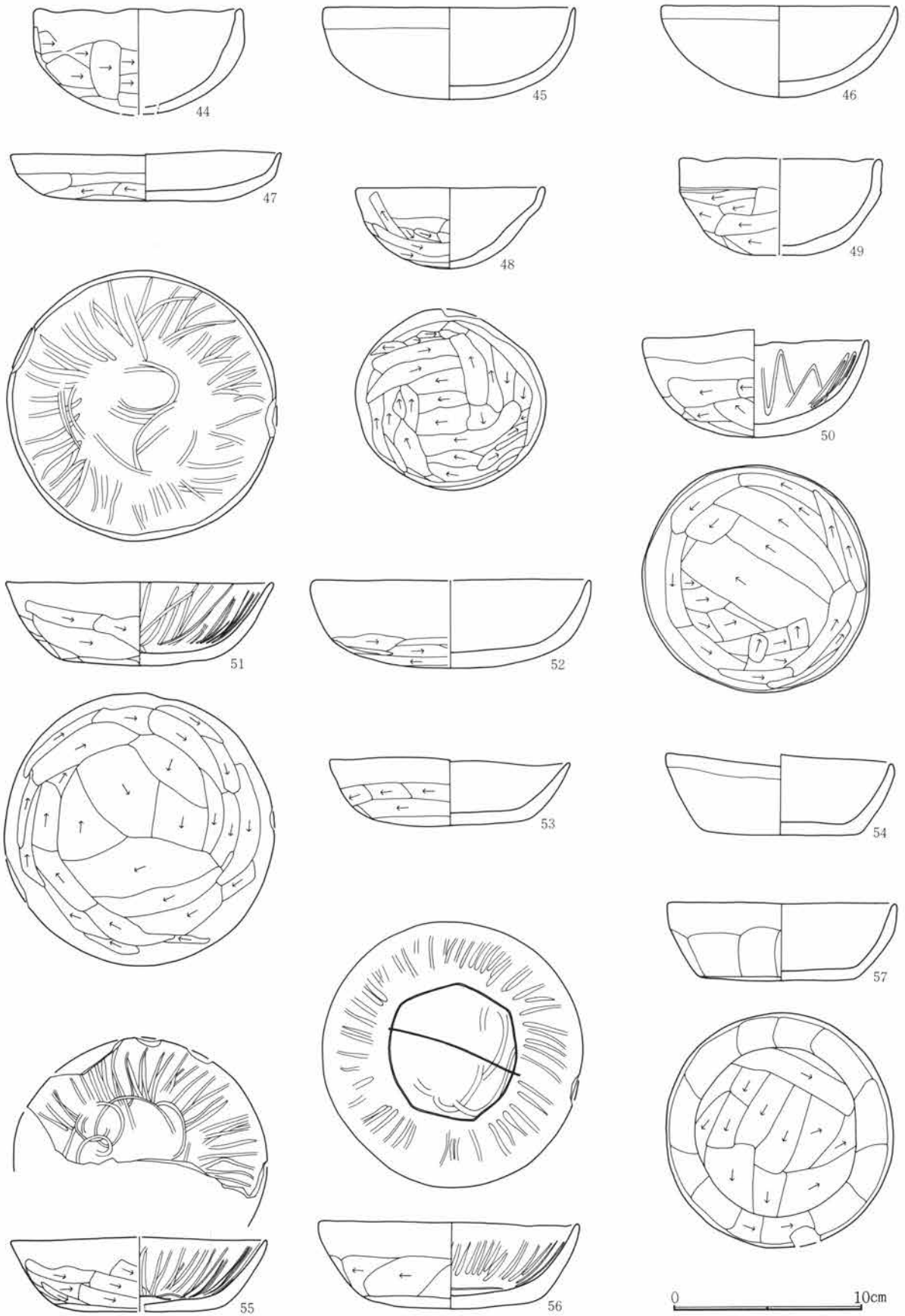
第310図 2号谷津状遺構出土遺物(1)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第311図 2号谷津状遺構出土遺物(2)

第III章 検出された遺構と出土遺物



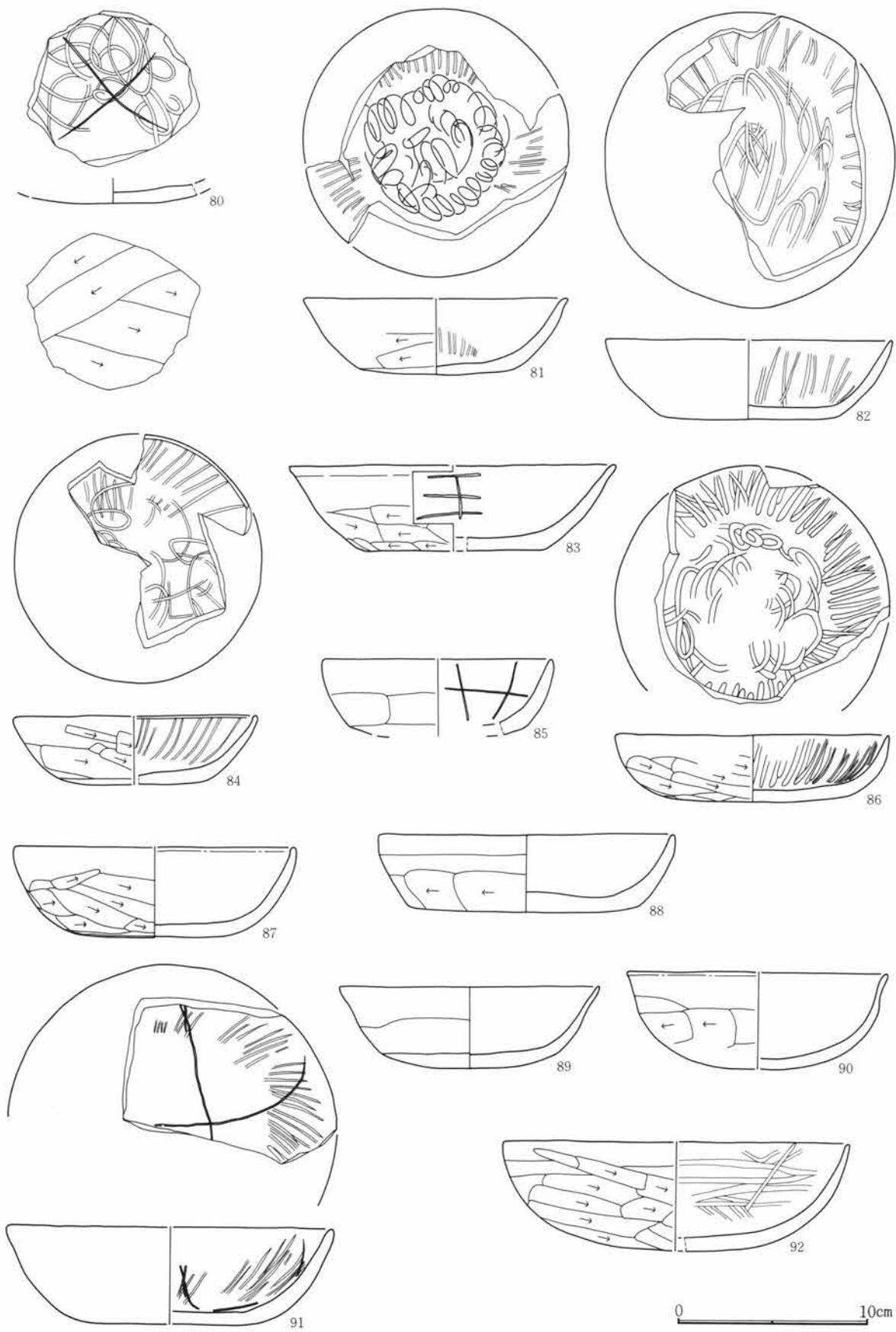
第312図 2号谷津状遺構出土遺物(3)



第313図 2号谷津状遺構出土遺物(4)

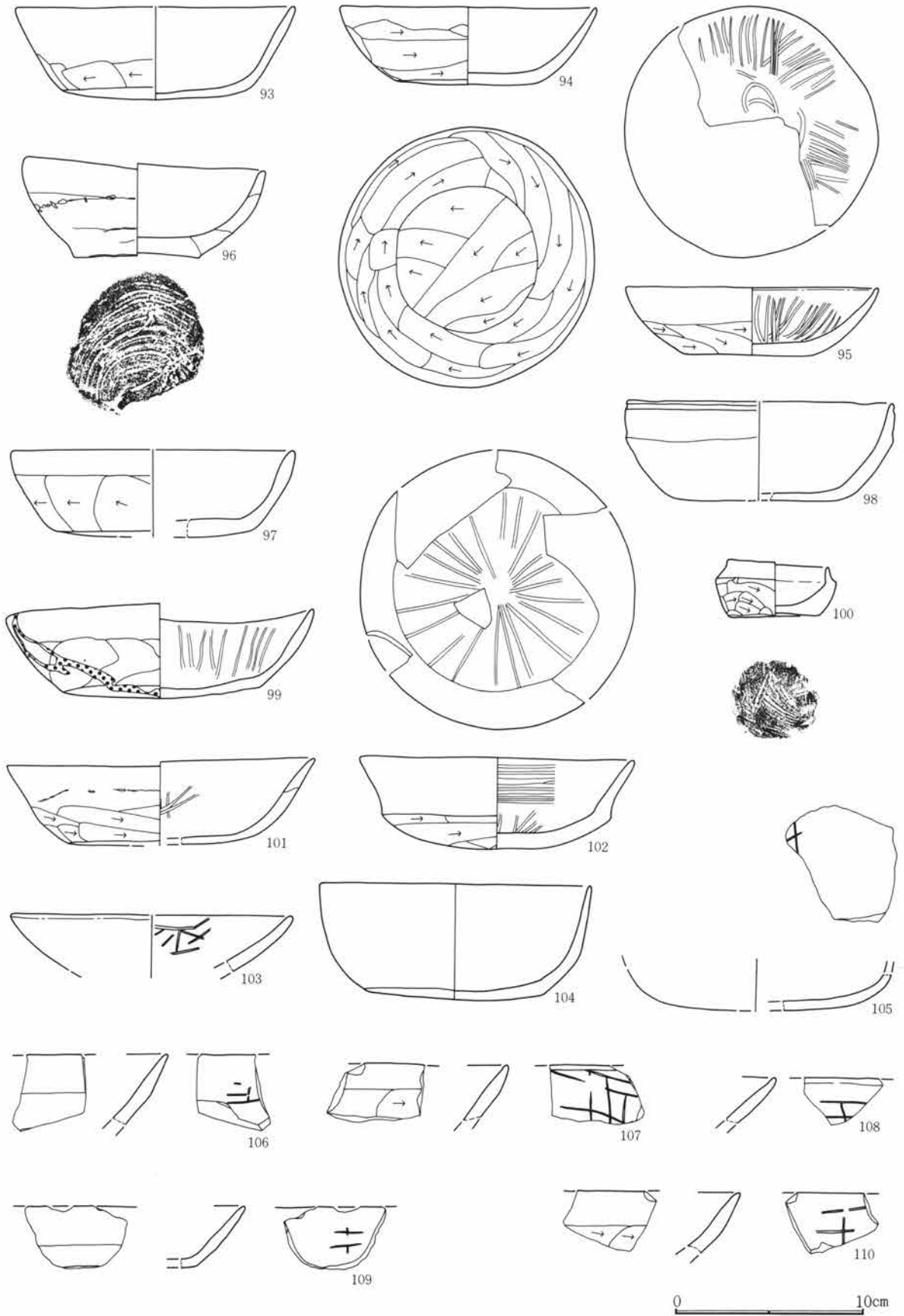


第314図 2号谷津状遺構出土遺物(5)



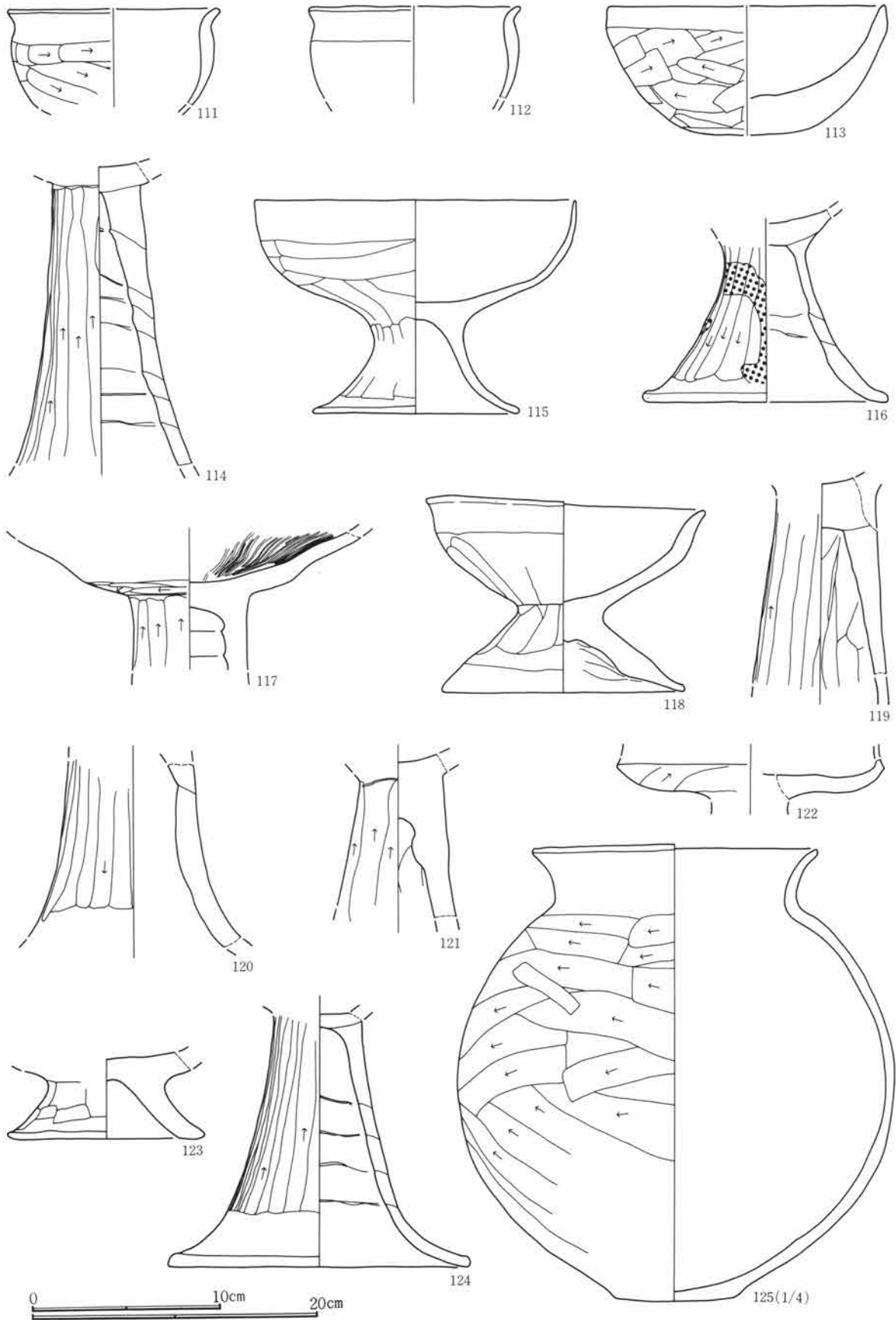
第315図 2号谷津状遺構出土遺物(6)

第III章 検出された遺構と出土遺物



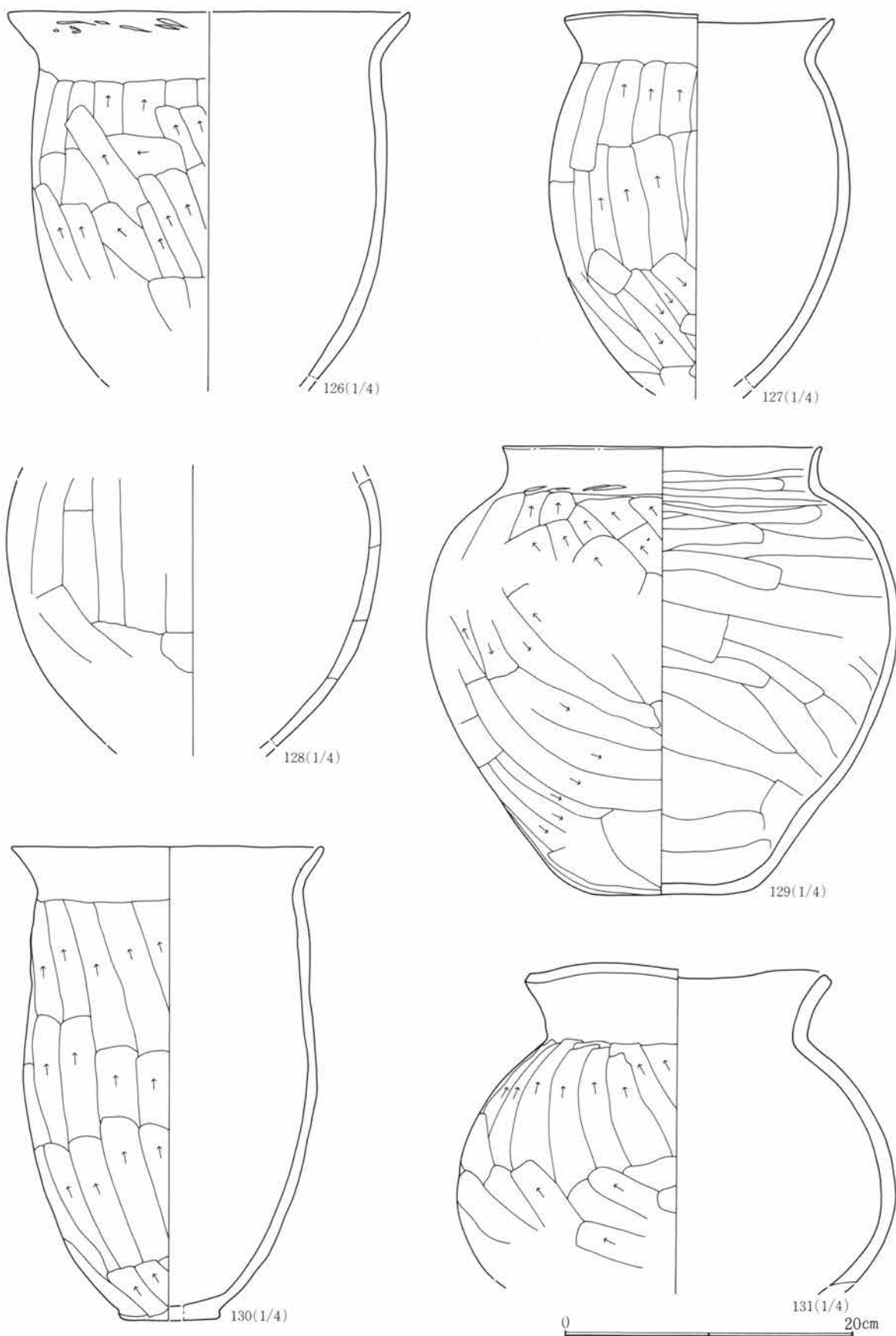
第316図 2号谷津状遺構出土遺物(7)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



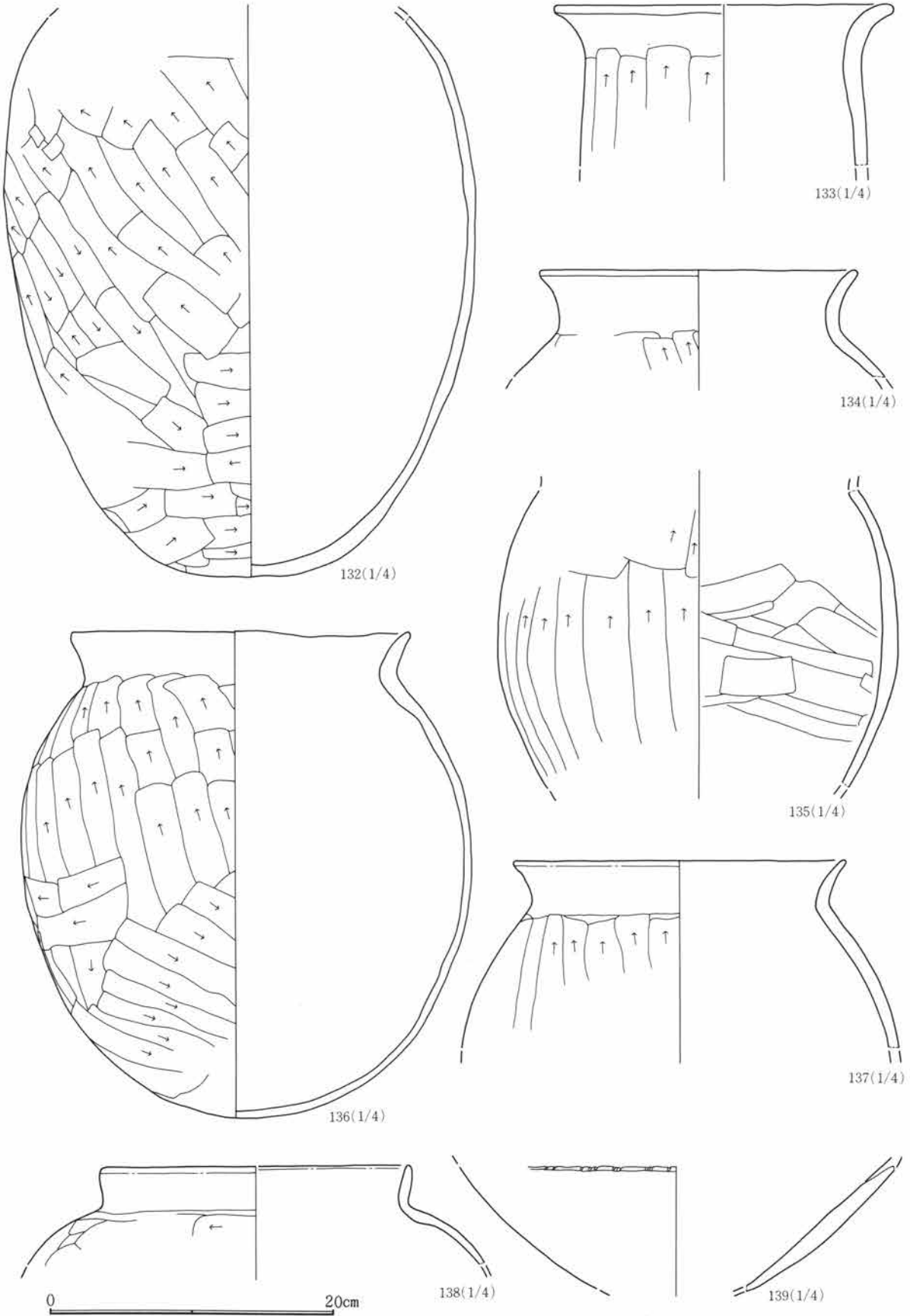
第317図 2号谷津状遺構出土遺物(8)

第三章 検出された遺構と出土遺物



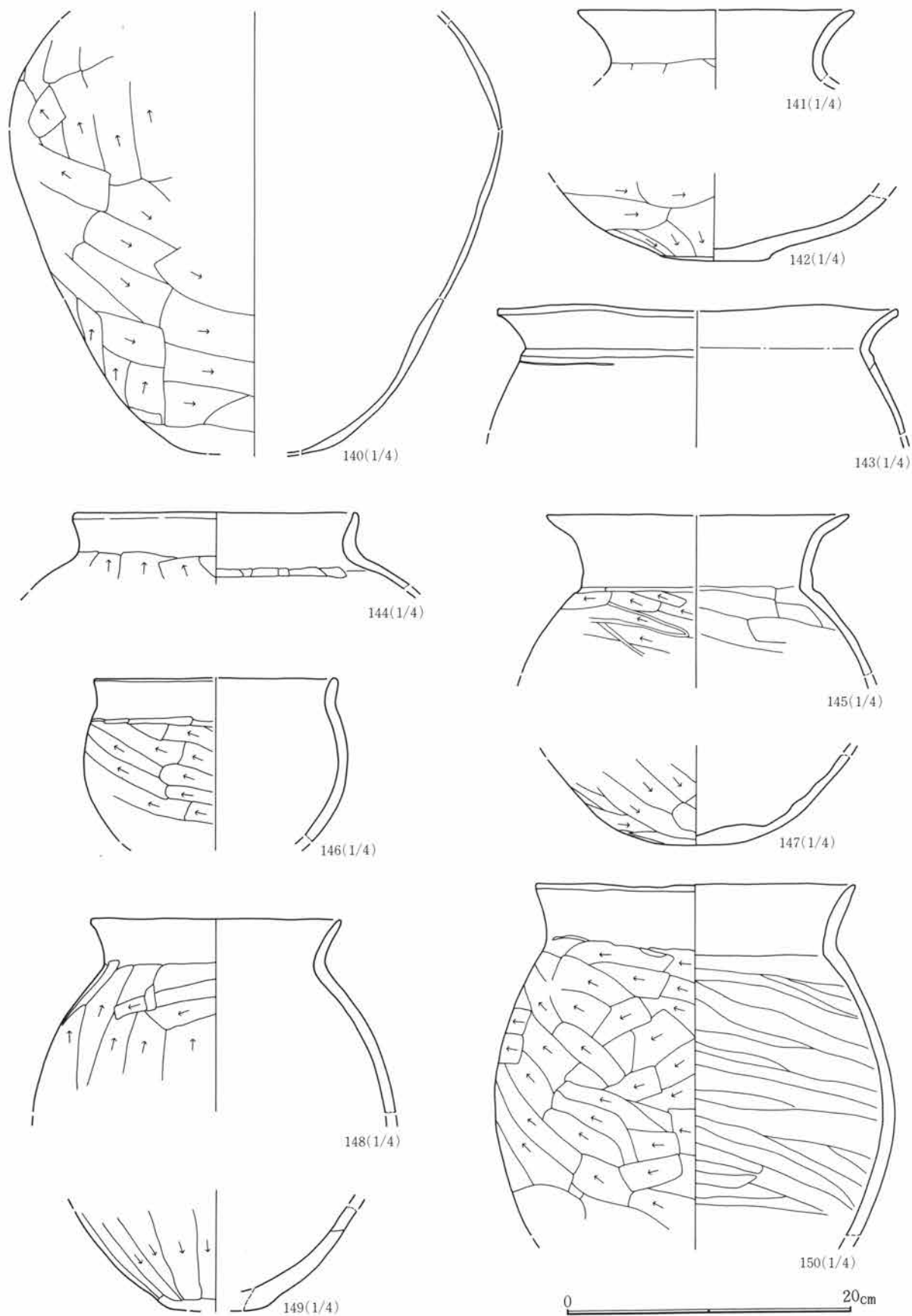
第318図 2号谷津状遺構出土遺物(9)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



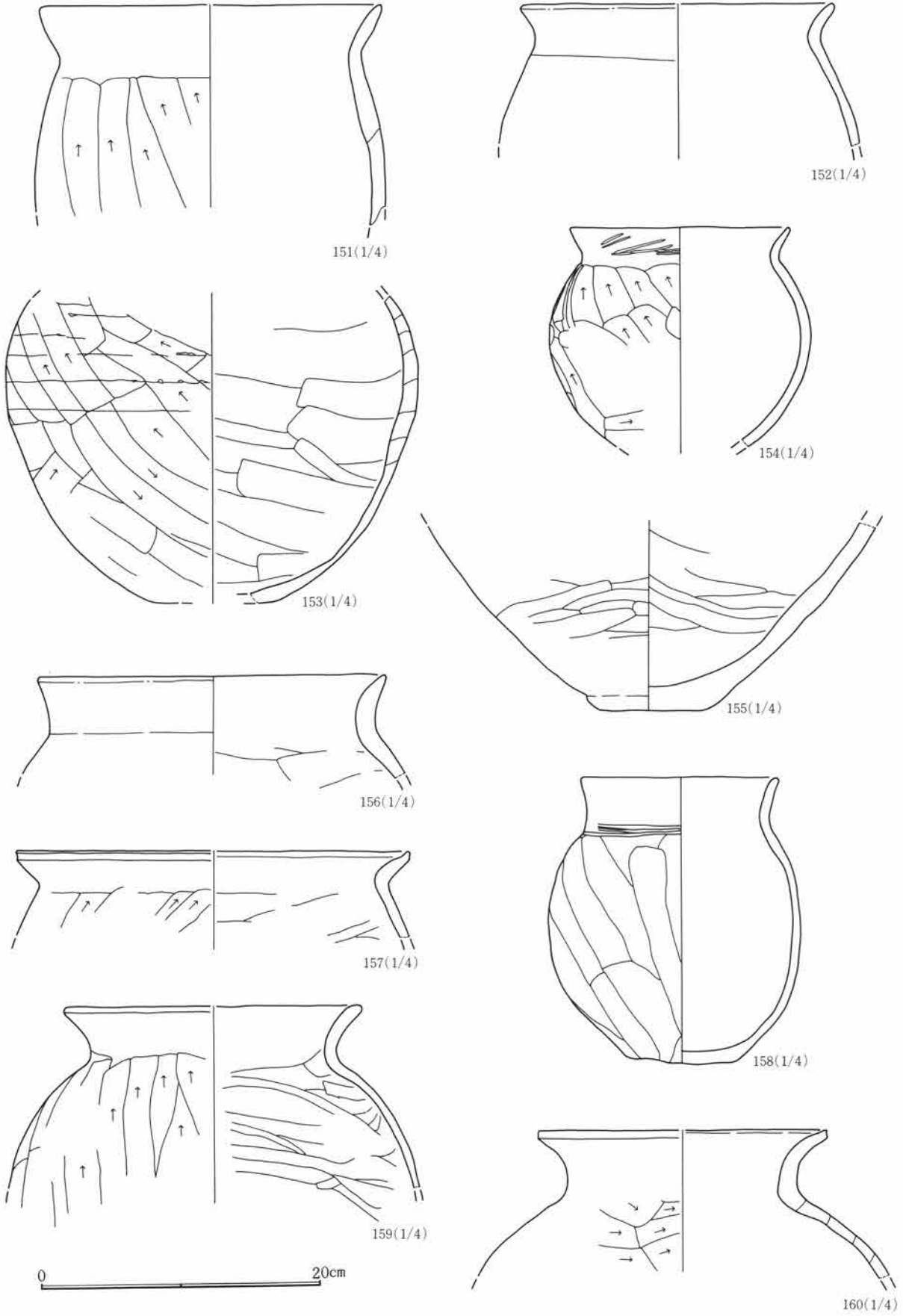
第319図 2号谷津状遺構出土遺物(10)

第III章 検出された遺構と出土遺物



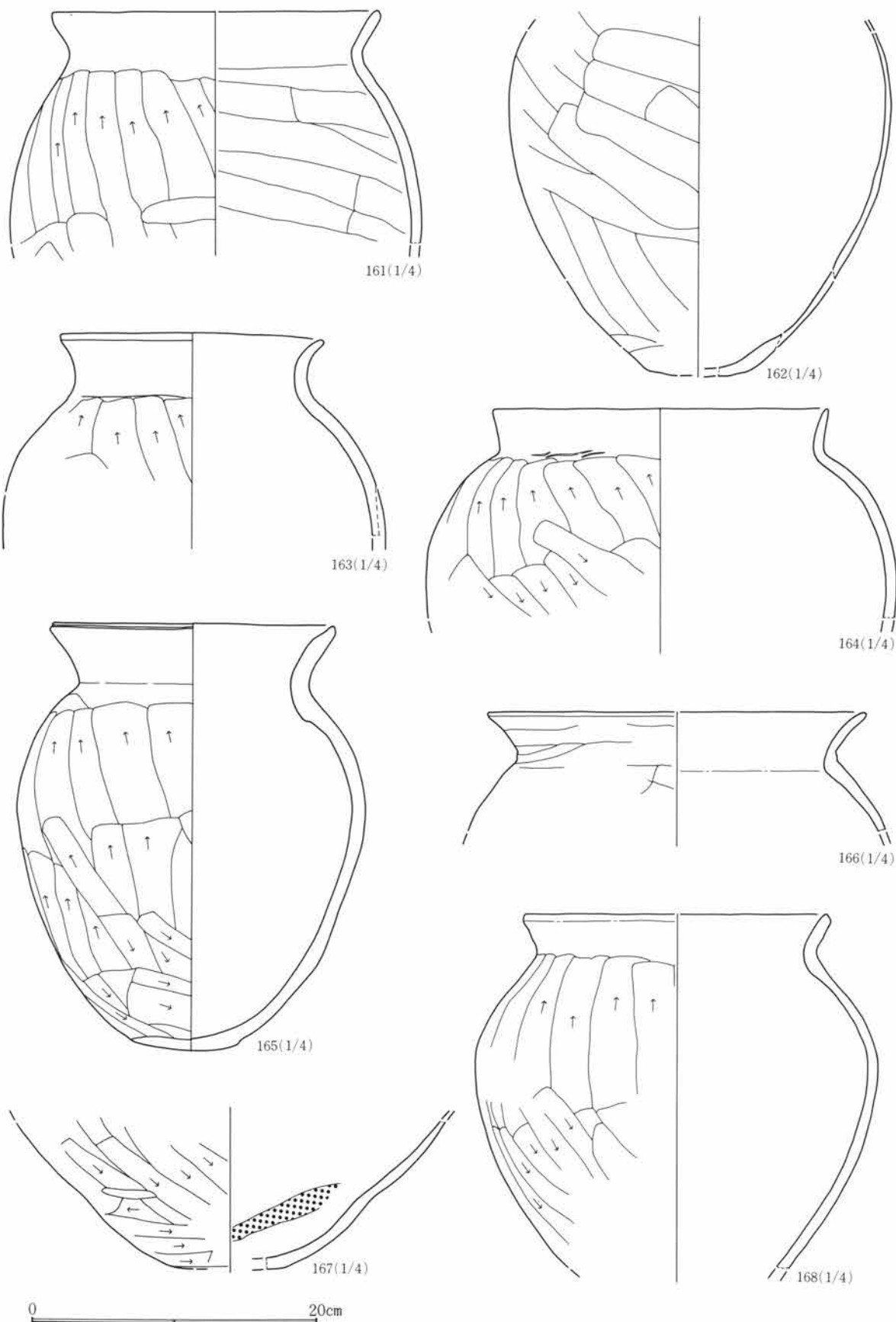
第320図 2号谷津状遺構出土遺物(II)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



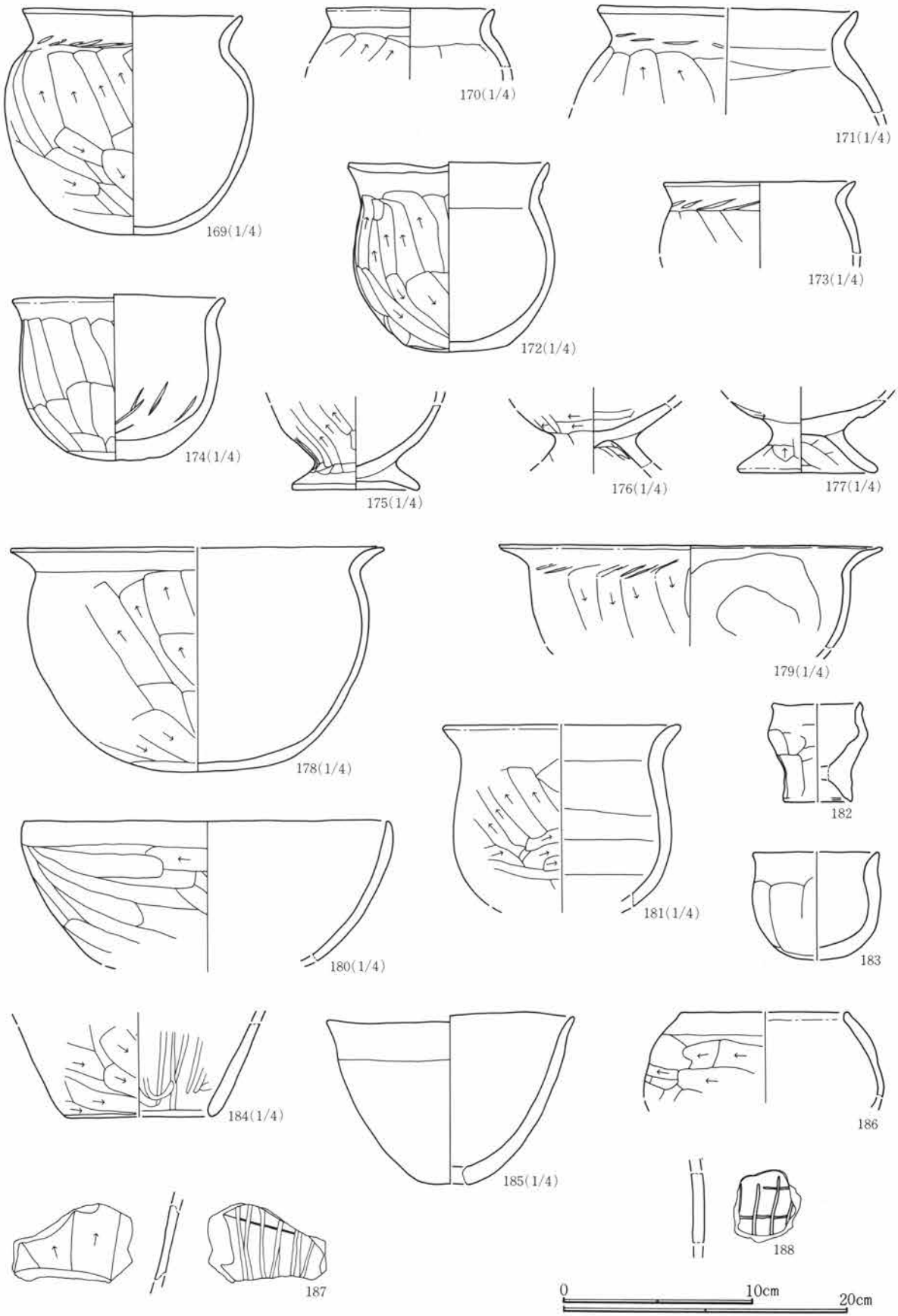
第321図 2号谷津状遺構出土遺物(12)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第322図 2号谷津状遺構出土遺物(13)

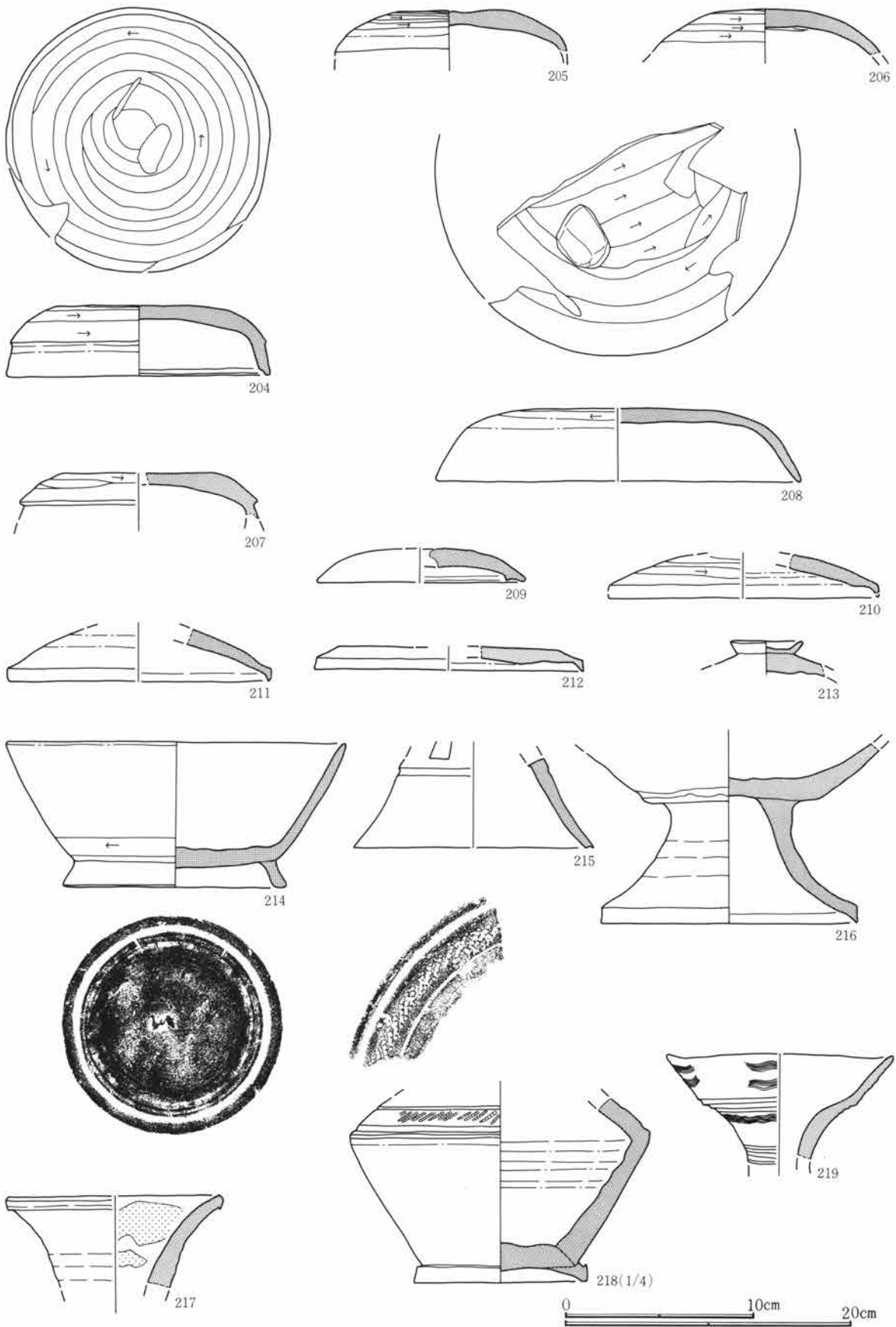
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



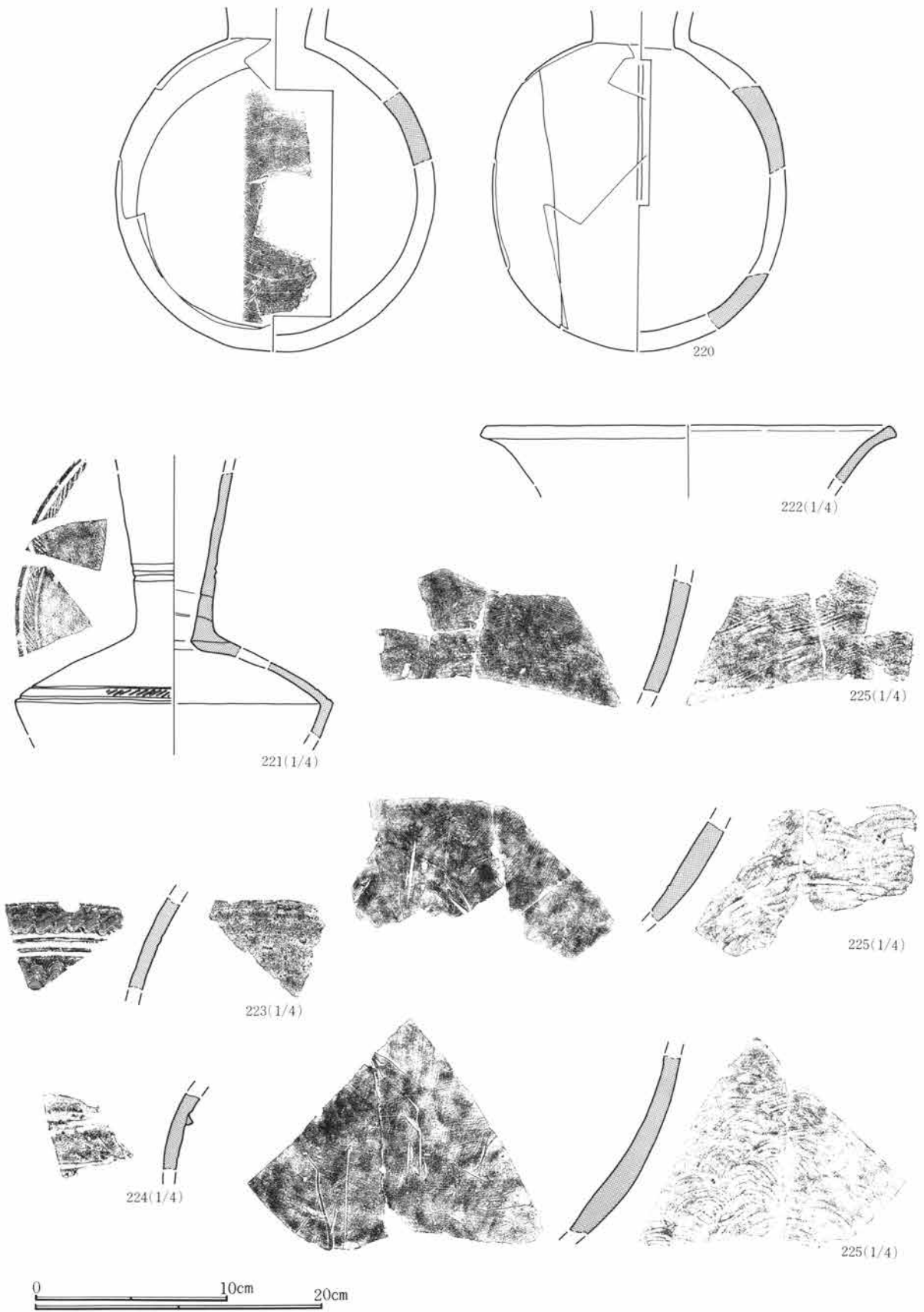
第323図 2号谷津状遺構出土遺物(14)



第324図 2号谷津状遺構出土遺物(15)

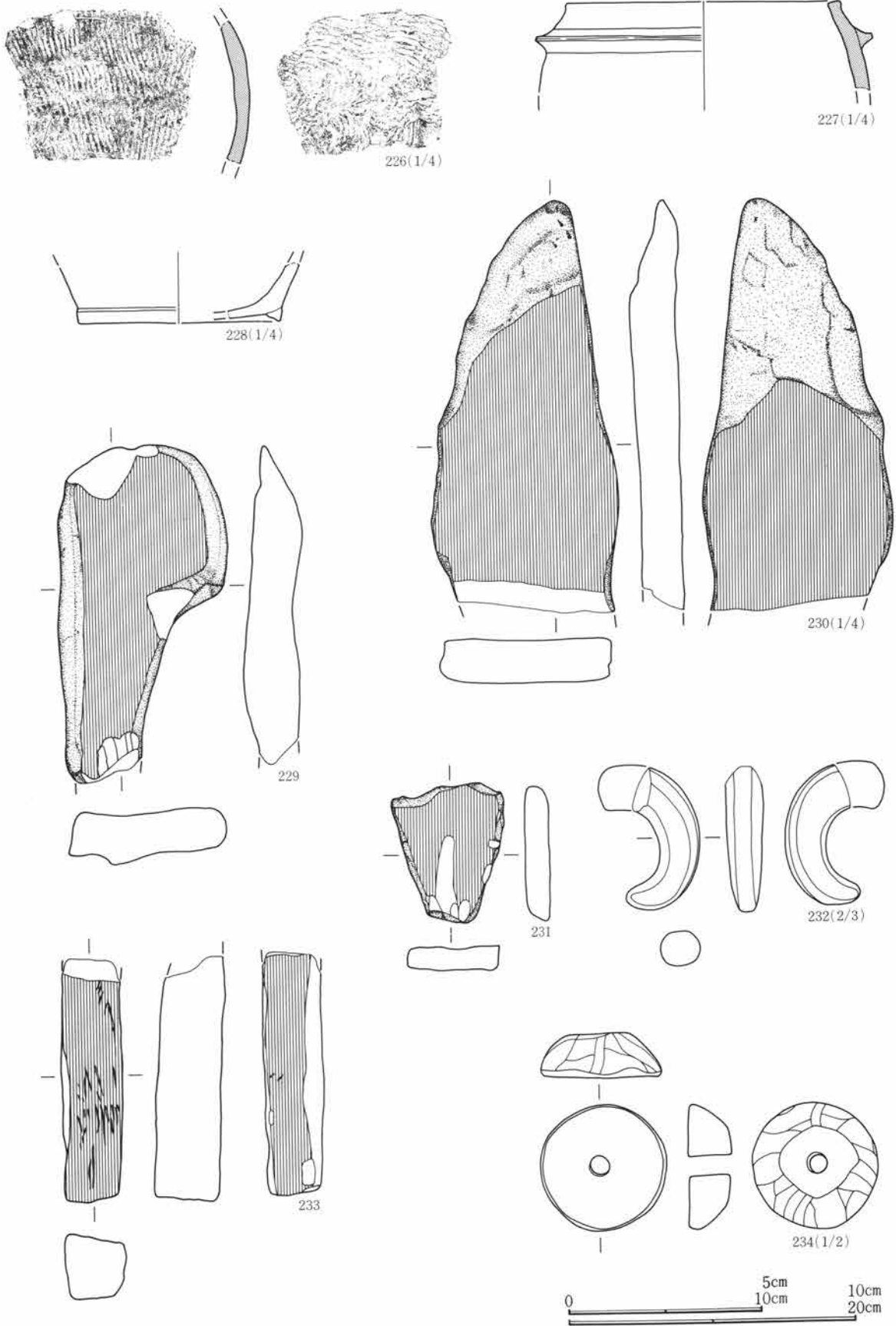


第325図 2号谷津状遺構出土遺物(16)



第326図 2号谷津状遺構出土遺物(17)

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第327図 2号谷津状遺構出土遺物(18)

第三章 検出された遺構と出土遺物

2号谷津状遺構出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	C21- VII20	①12.2cm ②- ③4.8cm ④完形	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	C21- VII21	①13.4cm ②- ③4.8cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②黒 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面黒色処理か	I C	
3	土師器 坏	C19- VII18	①(12.8cm)②- ③5.4cm ④口～底1/2	①にぶい橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面黒色処理か	I C	
4	土師器 坏	C21- VII23	①14.8cm ②- ③6.0cm ④ほぼ完形	①にぶい黄橙 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
5	土師器 坏	C23- VII16	①12.6cm ②- ③5.0cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
6	土師器 坏	C23- VII15	①14.4cm ②- ③5.3cm ④口～底2/3	①明褐 ②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
7	土師器 坏	C23- VII14	①14.0cm ②- ③5.0cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口～体部上半横ナデ 体部下半～ 底部外面内面ナデ	I C	
8	土師器 坏	C22- VII10	①- ②- ③- ④体～底2/3	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	体～底部外面内面ナデ	I	底部外面 黒変
9	土師器 坏	C23- VI97	①13.2cm ②- ③4.0cm ④口～底1/2	①にぶい橙 ②黒 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面磨き後黒色処理	I C	
10	土師器 坏	C23- VII15	①12.8cm ②- ③4.5cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口～体部上半横ナデ 体部下半～ 底部外面内面ナデ	I C	
11	土師器 坏	C22- VII14	①12.5cm ②- ③4.1cm ④ほぼ完形	①②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
12	土師器 坏	C23- VII15	①13.2cm ②- ③5.4cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
13	土師器 坏	C23- VII15	①12.0cm ②- ③3.6cm ④口～底3/4	①灰褐 ②褐灰 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
14	土師器 坏	C22- VII16	①11.8cm ②- ③3.7cm ④口～底3/4	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
15	土師器 坏	C23- VII14	①14.4cm ②- ③5.2cm ④口～底2/3	①②にぶい黄橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
16	土師器 坏	C21- VII19	①11.9cm ②- ③4.6cm ④ほぼ完形	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
17	土師器 坏	C21- VII14	①14.8cm ②- ③5.0cm ④口～底3/4	①にぶい黄褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
18	土師器 坏	C23- VII15	①(14.4cm)②- ③[4.4cm] ④口～底1/3	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面黒色処理か	I C	
19	土師器 坏	C21- VII15	①(13.8cm)②9.4cm ③4.0cm ④口～底1/3	①明褐 ②褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
20	土師器 坏	C23- VII12	①(12.8cm)②- ③5.0cm ④口～底1/3	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
21	土師器 坏	C21- VII11	①11.3cm ②- ③5.0cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④細 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面黒色処理か	I C	
22	土師器 坏	C23- VII12	①(13.2cm)②- ③4.5cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ後放射状暗文	I C	
23	土師器 坏	C23- VII14	①(14.0cm)②(6.0cm) ③4.3cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
24	土師器 坏	C23- VII13	①(11.6cm)②- ③[5.4cm] ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
25	土師器 坏	C22- VII12	①(13.0cm)②- ③[4.0cm] ④口～底1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I	
26	土師器 坏	C21- VII14	①(13.6cm)②- ③4.3cm ④口～底1/4	①明黄褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
27	土師器 坏	C20- VII14	①(11.0cm)②- ③4.0cm ④口～底1/3	①黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	
28	土師器 坏	C22- VII12	①(12.2cm)②- ③[5.2cm] ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ	I C	底部一部 黒変
29	土師器 坏	C22- VII14	①(11.3cm)②- ③[6.1cm] ④口～底1/2	①灰黄褐 ②明褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 内面ナデ 内面ナデ 口縁部に一對の孔あり	I	

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
30	土師器 坏	C23- VII16	①(11.0cm)②- ③- ④口～体1/4	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
31	土師器 坏	C21- VII 4	①12.7cm ②- ③5.8cm ④一部欠損	①褐灰 ②灰黄 ③良好 ④細 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
32	土師器 坏	C22- VII14	①13.6cm ②- ③[5.2cm] ④口～底1/2	①②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り後一部篋磨き	I D	
33	土師器 坏	C21- VII 1	①(11.0cm)②- ③4.0cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I D	外面に鉄 分付着
34	土師器 皿	C21- VII 8	①(14.0cm)②- ③2.5cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	III	
35	土師器 坏	C20- VII18	①12.8cm ②- ③4.5cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
36	土師器 坏	C24- VII15	①(13.6cm)②- ③5.8cm ④口～底1/2	①にぶい赤褐 ②黒 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ 内面黒色処理か	I D	
37	土師器 坏	C24- VII4	①17.0cm ②- ③5.5cm ④一部欠損	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
38	土師器 坏	C20- VII17	①12.5cm ②- ③4.8cm ④完形	①②橙 黒褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
39	土師器 坏	C23- VII16	①11.3cm ②- ③4.2cm ④口～底3/4	①②にぶい褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
40	土師器 坏	C21- VII16	①(12.0cm)②- ③5.4cm ④口～底1/3	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I D	
41	土師器 坏	C20- VII14	①(11.0cm)②- ③2.8cm ④口～底1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を多く含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	外面一部 黒変
42	土師器 坏	C23- VII16	①13.8cm ②- ③- ④口～底1/2	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I D	
43	土師器 坏	C23- VII15	①11.6cm ②- ③6.0cm ④ほぼ完形	①②褐灰 にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
44	土師器 坏	C23- VII15	①10.7cm ②- ③[5.4cm] ④口～底1/2	①②にぶい黄褐 灰黄褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
45	土師器 坏	C22- VII21	①13.2cm ②- ③4.8cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I D	
46	土師器 坏	C20- VII16	①12.6cm ②- ③4.7cm ④ほぼ完形	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I D	
47	土師器 皿	C21- VII16	①14.2cm ②8.8cm ③2.5cm ④一部欠損	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	III	
48	土師器 坏	C20- VII18	①9.8cm ②- ③4.2cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
49	土師器 坏	C20- VII17	①(10.3cm)②- ③5.0cm ④口～底1/3	①にぶい褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
50	土師器 坏	C20- VII18	①11.9cm ②- ③5.1cm ④完形	①②明赤褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面上半指頭 によるオサエ下半～底部外面篋削 り内面ナデ後波状暗文	I D	
51	土師器 坏	C22- VII17	①14.2cm ②- ③4.4cm ④完形	①にぶい橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
52	土師器 坏	C22- VII14	①(14.4cm)②- ③4.5cm ④口～底1/2	①明褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	内面一部 黒変
53	土師器 坏	C23- VII15	①12.6cm ②8.2cm ③3.4cm ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
54	土師器 坏	C22- VII15	①11.7cm ②8.1cm ③4.2cm ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデか	I F	
55	土師器 坏	C21- VII22	①(13.2cm)②(8.5cm) ③3.9cm ④口～底1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
56	土師器 坏	C23- VII16	①13.6cm ②9.4cm ③4.5cm ④完形	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 底部内面に焼成後線刻	I E	
57	土師器 坏	C22- VII16	①12.0cm ②8.5cm ③4.1cm ④完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削 り内面ナデ	I F	
58	土師器 坏	C22- VII22	①- ②- ③- ④底部片	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	底部外面篋削り内面ナデ 内面に 焼成後線刻	I	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
59	土師器 坏	C21- VII22	①(13.8cm)②(8.0cm) ③4.0cm ④口~底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
60	土師器 坏	C21- VII17	①13.4cm ②7.1cm ③4.6cm ④完形	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ	I E	底部外面 黒変
61	土師器 坏	C19- VII18	①(16.2cm)②- ③- ④口~体1/3	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後波状暗文	I D	
62	土師器 坏	C21- VII22	①(15.6cm)②(8.3cm) ③[5.0cm] ④口~底1/5	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後線刻	I F	
63	土師器 坏	C20- VII19	①15.9cm ②9.2cm ③6.1cm ④口~体2/3	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
64	土師器 坏	C22- VII 8	①(15.5cm)②(9.1cm) ③4.0cm ④口~底1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
65	土師器 坏	C21- VII19	①(14.0cm)②(7.6cm) ③4.1cm ④口~底1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I F	
66	土師器 坏	C21- VII17	①13.8cm ②8.0cm ③5.1cm ④完形	①にぶい橙 黒 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ	I F	外面黒変
67	土師器 坏	C21- VII19	①13.7cm ②8.5cm ③3.9cm ④口~底2/3	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	底部外面 黒変
68	土師器 坏	C21- VII22	①(14.0cm)②(8.4cm) ③4.1cm ④口~底1/3	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
69	土師器 坏	C22- VII14	①(17.9cm)②- ③- ④口~体1/3	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文 内面に焼成後刻書「王」	I E	
70	土師器 皿	C20- VII19	①18.2cm ②- ③3.7cm ④一部欠損	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後暗文	III	
71	土師器 坏	C21- VII22	①15.3cm ②9.0cm ③4.2cm ④口~底3/4	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	外面黒変
72	土師器 坏	C20- VII19	①(16.8cm)②- ③6.2cm ④口~底1/2	①にぶい橙 橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後放射状暗文	I E	
73	土師器 坏	C21- VII 8	①(15.2cm)②9.0cm ③4.0cm ④口~底1/2	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ	I F	
74	土師器 坏	C22- VII16	①12.2cm ②8.0cm ③4.0cm ④ほぼ完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ	I F	
75	土師器 坏	C22- VII15	①(14.8cm)②- ③[3.5cm] ④口縁部片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ 内面に焼成後刻書「王」	I E	
76	土師器 坏	C19- VII13	①(14.5cm)②(9.3cm) ③4.5cm ④口~底1/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
77	土師器 坏	C22- VII13	①13.2cm ②7.4cm ③- ④口~底2/3	①黒褐 橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 内面に焼成後線刻あり	I E	底部外面 黒変
78	土師器 坏	C21- VII15	①12.9cm ②- ③3.9cm ④口~底1/3	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ内面に焼成後刻書「玉」	I E	
79	土師器 坏	C22- VII16	①11.9cm ②4.2cm ③4.1cm ④ほぼ完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデか	I F	
80	土師器 坏	C20- VII12	①- ②- ③- ④底部	①にぶい黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状暗文 内面に焼成後線刻「+」	I	
81	土師器 坏	覆土	①(13.8cm)②5.8cm ③4.0cm ④口~底1/3	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
82	土師器 坏	覆土	①(14.0cm)②(7.2cm) ③4.5cm ④口~底1/2	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
83	土師器 坏	C23- VII13	①(17.0cm)②(9.1cm) ③[4.4cm] ④口~底1/3	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ内面に焼成後刻書「王」	I F	
84	土師器 坏	C21- VII13	①(13.0cm)②(6.0cm) ③3.5cm ④口~底1/3	①黒褐 ②暗褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
85	土師器 坏	C22- VII16	①(12.0cm)②- ③- ④口縁部1/3	①にぶい黄褐 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ 内面に焼成後線刻	I E	
86	土師器 坏	C19- VII13	①(14.2cm)②7.4cm ③3.5cm ④口~底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
87	土師器 坏	C22- VII16	①14.6cm ②8.2cm ③4.7cm ④口~底2/3	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナデ	I F	底部一部 黒変

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
88	土師器 坏	C23- VII15	①15.5cm ②12.0cm ③4.0cm ④口～底2/3	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I F	
89	土師器 坏	C23- VII13	①13.6cm ②- ③4.2cm ④ほぼ完形	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I E	
90	土師器 坏	C23- VII16	①(13.6cm)②- ③5.0cm ④口～底1/3	①橙 ②にぶい黄褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I	
91	土師器 坏	C22- VII12	①(17.0cm)②(8.0cm) ③5.0cm ④口～底1/5	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ後放射状暗文 内面に焼成後線刻あり	I F	
92	土師器 坏	C20- VII 9	①(18.0cm)②- ③5.7cm ④口～底1/3	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ後暗文状磨き	I E	
93	土師器 坏	C22- VII15	①14.6cm ②9.8cm ③4.8cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I E	
94	土師器 坏	C22- VII16	①13.4cm ②7.4cm ③4.0cm ④完形	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I F	
95	土師器 坏	C22- VII13	①(13.2cm)②(6.2cm) ③3.5cm ④口～底1/2	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I F	
96	土師器 坏	C22- VII12	①12.5cm ②6.6cm ③4.5cm ④一部欠損	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体部内外面とも ナデ 底部回転(静止)糸切り無調整	I	巻き上げ 成形
97	土師器 坏	C22- VII 1	①(14.3cm)②(10.4cm) ③4.5cm ④口～底1/3	①②橙 ③不良 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデか	I E	
98	土師器 坏	C23- VII15	①(13.8cm)②(8.7cm) ③5.0cm ④口～底1/4	①②橙 ③不良 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデか	I F	
99	土師器 坏	C21- VII 1	①16.0cm ②10.3cm ③4.9cm ④一部欠損	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ後放射状暗文	I E	内外面に 煤付着
100	土師器 小型坏	C21- VII16	①5.2cm ②4.6cm ③3.0cm ④完形	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面削り内 面ナデ 底部糸切り後一部削り	I	
101	土師器 坏	覆土	①16.2cm ②9.4cm ③4.3cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面 削り内面ナデ	I F	
102	土師器 坏	C21- VII11	①14.2cm ②- ③4.7cm ④口～底2/3	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部外面横ナデ内面磨き 体 ～底部外面削り内面ナデ後放射 状暗文	I C	
103	土師器 坏	C21- VII22	①(14.6cm)②- ③- ④口縁部片	①②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 内面に焼成後線刻 か	I	
104	土師器 坏	C21- VII17	①(14.2cm)②9.4cm ③6.0cm ④口～底1/2	①浅黄 ②明黄褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	摩滅により調整痕不明 体～底部外面削りか	I E	
105	土師器 坏	C21- VII22	①- ②- ③- ④底部片	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・パミスを含む	体～底部外面削り内面ナデか 底部内面に焼成後線刻か	I	
106	土師器 坏	C20- VII19	器厚4～7mm ④口縁部片	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 内面に焼成後刻書 「王」か	I	
107	土師器 坏	C22- VII11	器厚7mm ④口縁部片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面削り内 面ナデ 内面に焼成後線刻あり	I	
108	土師器 坏	覆土	器厚4～6mm ④口縁部片	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 内面に焼成後刻書 「王」か	I	
109	土師器 坏	C21- VII20	器厚4～5mm ④口縁部片	①②橙 ③不良 ④細 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面削り内 面ナデか 内面焼成後刻書「王」か	I	
110	土師器 坏	C23- VII14	器厚4～7mm ④口縁部片	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面削り内 面ナデ 内面に焼成後刻書「王」か	I	
111	土師器 坏	覆土	①(11.0cm)②- ③- ④口～底1/3	①②橙 ③不良 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面削り内 面ナデか	II	
112	土師器 坏	C22- VII17	①(11.0cm)②- ③- ④口～底1/3	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④細 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体部外面削り内 面ナデか	II	
113	土師器 坏	覆土	①(14.3cm)②- ③6.7cm ④口～底1/2	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面削り 内面ナデ 内面黒色処理か	II	
114	土師器 高坏	C21- VII 2	①- ②- ③- ④脚部	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	脚部外面削り 内面輪痕残す 底部内面ナデ	V B	
115	土師器 高坏	C23- VII16	①16.8cm ②10.8cm ③(11.1cm)④口～脚部	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部・脚端部横ナデ 体～脚部 外面削り内面ナデか	V D	
116	土師器 高坏	C23- VII99	①- ②(12.4cm) ③- ④脚部	①②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	脚端部横ナデ 脚部外面削り内 面ナデ 巻き上げ痕残す	V D	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調	整	分類	備考
117	土師器 高 坏	C 20- VII 8	①- ②- ③- ④体~脚部	①②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・雲母を含む	口縁部横ナデ 体~脚部外面篋削り 内面ナデ後放射状暗文		V C	
118	土師器 高 坏	C 20- VII 11	①14.6cm ②12.6cm ③9.9cm ④一部欠損	①②にぶい黄橙 にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部・脚端部横ナデ 体~脚部 外面篋削り内面ナデ 脚部内面指 頭によるナデ		V D	
119	土師器 高 坏	C 20- VII 6	①- ②- ③- ④脚部	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	脚部内外面とも篋削り 底部内面 ナデ		V C	
120	土師器 高 坏	C 20- VII 3	①- ②- ③- ④脚部	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	脚部外面篋削り内面ナデ		V B	
121	土師器 高 坏	C 21- VII 8	①- ②- ③- ④脚部	①橙 ②にぶい橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	脚部外面篋削り内面指頭によるナ デ 底部内面ナデ		V C	
122	土師器 高 坏	覆土	①- ②- ③- ④体~底1/5	①黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	体~底部外面篋削り内面ナデ		V	
123	土師器 高 坏	C 23- VII 13	①- ②10.2cm ③- ④脚部	①②にぶい橙 橙 ③良好 ④粗 細砂を含む	脚端部横ナデ 体~脚部外面篋削り 内面ナデ		V D	
124	土師器 高 坏	C 21- VII 10	①- ②15.3cm ③- ④脚部	①にぶい橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを含む	脚端部横ナデ 脚部外面篋削り内 面ナデ 巻き上げ痕残す		V B	
125	土師器 甕	C 23- VII 14	①9.8cm ②8.4cm ③31.6cm ④口~底2/3	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴~底部外面篋削り 内面ナデ		VII C	外面一部 黒変
126	土師器 甕	C 23- VII 14	①(27.7cm)②- ③- ④口~胴1/2	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ		VII A	
127	土師器 甕	C 23- VII 14	①18.8cm ②- ③- ④口~胴部	①橙 ②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ		VII A	外面 2 カ 所黒変
128	土師器 甕	C 23- VII 13	胴部最大径26cm ④胴部	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を少量含む	胴部外面篋削り内面篋ナデ		VII C	
129	土師器 甕	C 22- VII 1	①22.0cm ②(11.0cm) ③30.8cm ④口~底2/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴~底部外面篋削り 内面篋ナデ		VII C	
130	土師器 甕	C 20- VII 3	①21.5cm ②6.5cm ③32.5cm ④口~底3/4	①②橙 褐灰 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴~底部外面篋削り 内面ナデ		VII A	
131	土師器 甕	C 20- VII 19	①21.2cm ②- ③- ④口~胴部	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ		VII C	
132	土師器 甕	C 22- VII 12	胴部最大径31.8cm ④胴~底1/2	①にぶい褐 ②黄褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴~底部外面篋削り内面篋ナデ		VII C	
133	土師器 甕	C 23- VII 15	①(23.6cm)②- ③- ④口縁部1/3	①②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ		VII A	
134	土師器 甕	C 23- VII 15	①(22.2cm)②- ③- ④口縁部1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ		VII C	
135	土師器 甕	C 20- VII 17	胴部最大径27.8cm ④胴部1/2	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴部外面篋削り内面篋ナデ		VII C	
136	土師器 甕	C 20- VII 17	①23.7cm ②- ③33.8cm ④一部欠損	①②橙 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を少量含む	口縁部横ナデ 胴~底部外面篋削り 内面ナデ		VII C	
137	土師器 甕	C 21- VII 20	①(23.2cm)②- ③- ④口~胴1/2	①にぶい橙 ②橙 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ		VII C	
138	土師器 甕	C 23- VII 15	①(21.4cm)②- ③- ④口縁部1/3	①橙 にぶい褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ		VII C	
139	土師器 甕	C 21- VII 22	①- ②- ③- ④胴~底1/3	①②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴部外面篋削り内面ナデか 輪積 痕上に刻み目あり		VII	
140	土師器 甕	C 21- VII 17	①- ②- ③- ④胴~底1/3	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴~底部外面篋削り内面篋ナデ		VII C	
141	土師器 甕	C 22- VII 13	①(18.4cm)②- ③- ④口縁部1/4	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデか		VII	
142	土師器 甕	C 20- VII 18	①- ②7.8cm ③- ④底部	①明褐 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴~底部外面篋削り内面ナデ		VII C	
143	土師器 甕	C 22- VII 17	①(27.0cm)②- ③- ④口~胴1/3	①明褐 ②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ		VII C	
144	土師器 甕	C 20- VII 3	①(19.8cm)②- ③- ④口縁部1/2	①にぶい橙 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ		VII C	
145	土師器 甕	C 20- VII 18	①(21.2cm)②- ③- ④口~胴1/3	①にぶい橙 ②にぶい赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ		VII C	
146	土師器 甕	C 21- VII 13	①(17.2cm)②- ③- ④口~底1/4	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ		VII	

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分類	備考
147	土師器 甕	C20- VII18	①- ②- ③- ④底部片	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	外面一部 黒変
148	土師器 甕	C32- VII10	①(17.6cm)②- ③- ④口～胴1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII C	
149	土師器 甕	C22- VII12	①- ②(7.5cm) ③- ④胴～底1/3	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ 内 面に漆?付着	VII C	
150	土師器 甕	C20- VII18	①22.4cm ②- ③- ④口～底2/3	①②にぶい黄橙 にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
151	土師器 甕	C22- VII12	①(24.2cm)②- ③- ④口～胴1/4	①②にぶい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII	
152	土師器 甕	C23- VII16	①(21.8cm)②- ③- ④口～胴1/3	①②にぶい黄橙 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデか	VII C	
153	土師器 甕	C22- VII18	胴部最大径29.2cm ②(15.2cm)④胴～底1/3	①②にぶい橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
154	土師器 甕	C21- VII19	①15.6cm ②- ③- ④口～胴部	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII C	外面一部 黒変
155	土師器 甕	C20- VII15	①- ②7.5cm ③- ④胴～底部	①にぶい褐 ②浅黄 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴～底部外面篋削り内面篋ナデ	VII C	
156	土師器 甕	C20- VII14	①22.5cm ②- ③- ④口縁部	①にぶい橙 ②橙 黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
157	土師器 甕	C20- VII 9	①(31.6cm)②- ③- ④口縁部1/3	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
158	土師器 甕	C22- VII10	①(13.7cm)②8.0cm ③20.4cm ④口～底部	①橙 にぶい橙 ②明褐 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデか	VII C	
159	土師器 甕	C24- VI98	①(21.0cm)②- ③- ④口～胴1/2	①にぶい褐 ②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
160	土師器 甕	C23- VII 0	①(20.2cm)②- ③- ④口～胴1/2	①にぶい橙 ②にぶい橙 黄灰 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
161	土師器 甕	C23- VII14	①(22.8cm)②- ③- ④口～胴1/3	①橙 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
162	土師器 甕	C22- VII17	胴部最大径26.4cm ②(7.1cm)④胴～底1/3	①橙 褐 ②明褐 ③不良 ④粗 細砂・粗砂を含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ	VII C	
163	土師器 甕	C20- VII18	①(18.4cm)②- ③- ④口～胴2/3	①②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
164	土師器 甕	C21- VII17	①23.2cm ②- ③- ④口～胴1/2	①にぶい黄橙 ②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII C	
165	土師器 甕	C19- VII20	①19.7cm ②7.5cm ③29.6cm ④完形	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面篋ナデ	VII C	外面2カ 所黒変
166	土師器 甕	C20- VII17	①(26.0cm)②- ③- ④口縁部1/3	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④粗 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
167	土師器 甕	C22- VII14	①- ②(8.0cm) ③- ④胴～底部片	①にぶい黄褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ	VII C	内面に漆 ?付着
168	土師器 甕	C21- VII18	①(12.4cm)②- ③- ④口～胴1/3	①橙 ②明褐 ③不良 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII C	
169	土師器 甕	C21- VII17	①(15.4cm)②- ③15.7cm ④口～底1/2	①②にぶい褐 にぶい黄橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面ナデ	VII C	
170	土師器 小型甕	C21- VII2	①(11.8cm)②- ③- ④口縁部1/2	①②明褐 にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VIII	
171	土師器 小型甕	C21- VII19	①(13.4cm)②- ③- ④口縁部1/3	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VIII	
172	土師器 小型甕	C21- VII21	①14.0cm ②6.8cm ③13.2cm ④ほぼ完形	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面ナデ	VIII	外面一部 黒変
173	土師器 小型甕	C20- VII21	①(13.4cm)②- ③- ④口縁部2/3	①にぶい赤褐 ②灰褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VIII	
174	土師器 小型甕	C21- VII 3	①14.7cm ②7.2cm ③11.2cm ④完形	①にぶい黄橙 ②にぶい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削 り内面篋ナデ	VIII	
175	土師器 台付甕	C23- VII15	①- ②9.0cm ③- ④胴～脚部	①にぶい赤褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	胴部外面篋削り内面ナデ 脚部横 ナデ	IX	
176	土師器 台付甕	C21- VII20	①- ②- ③- ④底～脚部	①②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴～脚部外面篋削り 胴～底部内面 篋ナデ 脚部内面指頭によるナデ	IX	

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
177	土師器 台付甕	C24- VII 1	①- ②11.0cm ③4.8cm ④脚部	①にぶい赤褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴～脚部外面篋削り内面ナデ 脚内面 指頭によるナデ 脚端部横ナデ	IX	
178	土師器 鉢	C21- VII 1	①(26.0cm)②- ③15.6cm ④口～底1/5	①②にぶい黄橙 灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴～底部外面篋削り 内面ナデ	X B	
179	土師器 鉢	C35- VII15	①(27.0cm)②- ③- ④口縁部1/5	①にぶい褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	X B	内面に漆 ?付着
180	土師器 鉢	C22- VII16	①(12.8cm)②- ③- ④口～胴1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	X C	
181	土師器 鉢?	C19- VII10	①(16.4cm)②- ③- ④口～胴1/5	①にぶい褐 ②にぶい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	X	外面一部 黒変
182	土師器 小型土器	覆土	①(4.6cm) ②(3.6cm) ③5.1cm ④口～底1/2	①②にぶい黄橙 ③良好 ④細 細砂・パミスを少量含む	口縁部横ナデ 体部内外面ナデ内 面一部篋削り		
183	土師器 小型土器	C22- VII16	①(6.6cm) ②- ③5.6cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂を少量含む	口縁部横ナデ 体～底部外面篋削り 内面ナデか		
184	土師器 甕	C21- VII20	①- ②(10.1cm) ③- ④底部片	①にぶい赤褐 ②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	胴部外面篋削り内面ナデ後暗文状 磨き	XII A	
185	土師器 甕	C21- VII 4	①17.4cm ②3.2cm ③11.7cm ④完形	①にぶい橙 ②明褐 ③不良 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	XII B	
186	土師器 鉢	覆土	①(8.8cm) ②- ③- ④口～底1/3	①褐 ②灰黄 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ	X C	
187	土師器 甕	覆土	器厚4～5mm ④胴部片	①②にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	外面篋削り内面ナデ後線刻後放射 状磨き	XII	
188	土師器 不明	C23- VII 2	器厚6mm ④胴部片	①にぶい黄橙 ②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	外面ナデ 内面篋ナデか 内面に 焼成前線刻あり		
189	須恵器 坏	C23- VII13	①10.8cm ②- ③3.6cm ④ほぼ完形	①灰 にぶい赤褐 ②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り	I A	
190	須恵器 坏	C22- VII13	①12.0cm ②8.6cm ③3.4cm ④口～底1/2	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り	I B	
191	須恵器 坏	C21- VII20	①(13.9cm)②8.7cm ③4.0cm ④口～底1/3	①灰 灰褐 ②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り	I B	
192	須恵器 坏	覆土	①(12.3cm)②(8.0cm) ③3.9cm ④口～底1/4	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 体部下半～底部 回転篋削り	I C	
193	須恵器 坏	C20- VII11	①- ②6.8cm ③- ④底部1/2	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋削り	I B	
194	須恵器 坏	C21- VII17	①(13.4cm)②(8.7cm) ③4.4cm ④口～底1/4	①灰 ②灰白 ③還元焰 不良 ④粗 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整	I D	
195	須恵器 坏	覆土	①- ②(9.1cm) ③- ④底部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整 底部に沈線あり	I	
196	須恵器 坏	C21- VII 2	①- ②4.2cm ③- ④底部	①にぶい黄橙 ②浅黄橙 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整	I D	
197	須恵器 坏	C21- VII14	①(13.6cm)②7.5cm ③4.2cm ④口～底1/2	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・黒色粒子含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整 体部下半回転篋削り	I D	
198	須恵器 坏	覆土	①(13.5cm)②5.6cm ③5.2cm ④口～底1/3	①②黒褐 ③還元焰 不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 後高台貼付け	I E	
199	須恵器 坏	C23- VII 5	①- ②5.2cm ③- ④体～底部	①にぶい黄褐 ②にぶい褐 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂・パミスを含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 後高台貼付け	I E	
200	須恵器 坏	C22- VII 2	①- ②5.8cm ③- ④底部1/2	①②灰 ③還元焰 不良 ④普通 細砂を含む	ロクロ調整 底部回転糸切りか 貼付け高台	I E	
201	須恵器 坏	覆土	①- ②7.6cm ③- ④底部3/4	①にぶい黄橙 ②黒褐 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 後高台貼付け	I E	
202	須恵器 坏	覆土	①- ②5.8cm ③- ④底部2/3	①②黒褐 にぶい褐 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂・パミスを含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 後高台貼付け	I E	
203	須恵器 蓋	C21- VII22	①- 天井径10.9cm ③- ④天井部	①にぶい黄橙 ②灰白 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り	III	
204	須恵器 蓋	C23- VII14	①13.8cm 天井径9.6cm ③3.6cm ④一部欠損	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り	III A	
205	須恵器 蓋	C19- VII19	①- 天井径6.4cm ③- ④天井部	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り	III	
206	須恵器 蓋	C21- VII20	①- ②- ③- ④天井部	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り 天井部内面篋ナデ	III	

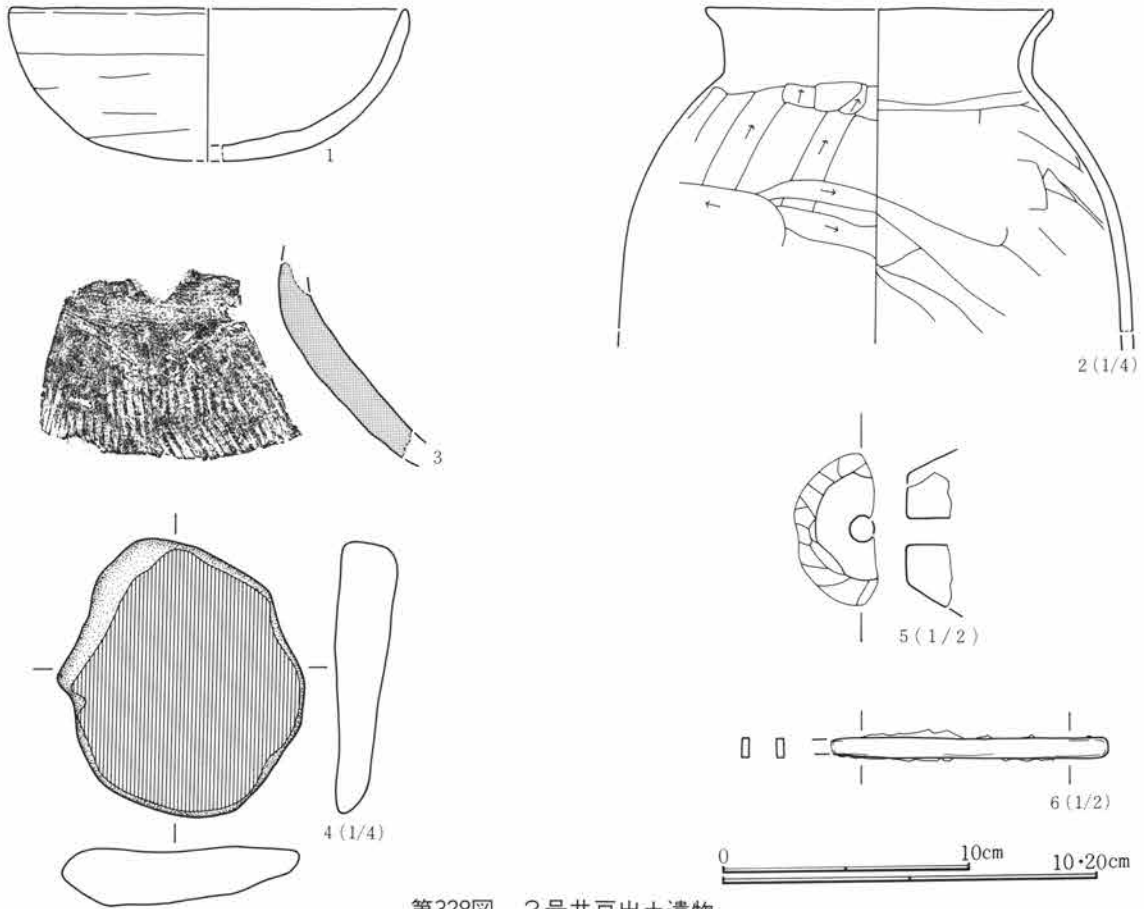
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
207	須恵器 蓋	覆土	①- 天井径8.0cm ③- ④天井部1/3	①灰白 ②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り	III	
208	須恵器 蓋	C20- VII11	①19.0cm天井径10.7cm ③3.8cm ④天~口1/3	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 天井部手持ち篋削り	III A	
209	須恵器 蓋	C23- VII 6	①(10.7cm)天井径- ③1.8cm ④天~口1/4	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・礫を含む	ロクロ調整 反り貼付け	III B	
210	須恵器 蓋	C20- VII 9	①(14.0cm)天井径- ③- ④天井部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り	III	
211	須恵器 蓋	覆土	①13.1cm 天井径- ③- ④天~口1/4	①灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り	III	
212	須恵器 蓋	C21- VII19	①(14.0cm)天井径(11.5 cm) ③- ④天~口1/3	①灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 天井部回転篋削り	III	
213	須恵器 蓋	C23- VII10	①- 鈕径(3.2cm) ③- 天井部片(鈕)	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右か) 天井部回転篋削り 高台状鈕貼付け	III D	
214	須恵器 埴	C21- VII22	①17.5cm ②11.5cm ③7.5cm ④ほぼ完形	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 体部下半~底部 全面回転篋削り後高台貼付け	II	
215	須恵器 高 坏	覆土	①- ②脚径12.6cm ③- ④脚部1/6	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂を含む	ロクロ調整 脚部上半に透孔	IV	
216	須恵器 高 坏	C22- VII17	①- ②脚径13.2cm ③- ④体~脚部	①灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(左か) 体部下半回転 篋削り	IV	
217	須恵器 瓶	C22- VII17	①(11.0cm)②- ③- ④口縁部1/4	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整	V	内外面に 自然釉
218	須恵器 瓶	C20- VII 9	胸部最大径20.9cm ②12.1cm ④胸~底2/3	①②灰白 ③還元焰 良好 ④粗 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整 肩部沈線間に櫛状工 具による刺突文 貼付け高台	V	
219	須恵器 罍	C21- VII13	①(11.8cm)②- ③- ④口~頸1/3	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 口縁部・頸部外面に 5本1単位の櫛描き波状文・沈線	VIII	
220	須恵器 瓶	C23- VII13	幅(16.5cm)厚さ(15.1cm) ④胴部片	①灰 ②灰黄 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 胴部に沈線・回転カ キ目痕	V	外面に自 然釉付着
221	須恵器 瓶	C23- VII 9	胸部最大径(22.0cm) ④頸部・肩部片	①灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整 頸部2条の沈線 肩 部沈線間に櫛状工具による刺突文	V	外面に自 然釉付着
222	須恵器 甕	C23- VII14	①(27.8cm) ④口縁部片	①灰黄 ②灰黄褐 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整	VI	
223	須恵器 甕	C21- VII22	器厚9~10mm ④頸部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	頸部外面に粘土紐貼付け・5本1 単位の櫛描き波状文	VI	
224	須恵器 甕	覆土	器厚9~14mm ④胴部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	頸部外面に16本1単位の櫛描き波 状文・沈線	VI	
225	須恵器 甕	C21- VII19	器厚9~16mm ④胴部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	外面平行叩き 内面青海波文当て 具痕	VI	
226	須恵器 甕	C21- VII20	器厚7~11mm ④胴部片	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂・バミス含む	外面平行叩き 内面青海波文当て 具痕	VI	
227	須恵器 羽 釜	C19- VII 9	①(18.8cm)②- ③- ④口縁部片	①②にぶい橙 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整	IX	
228	灰輪陶器 瓶	C22- VII 5	①- ②(14.0cm) ③- ④底部1/4	素地 灰白 釉 灰オリーブ ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 胴部下半~底部回転 篋削り 貼付け高台		

2号谷津状遺構出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
229	砥石(?)	C19-VII19	[17.3]	9.0	2.8	350	一部欠損	石英安山岩	片面使用か
230	砥石	C22-VII16	[28.4]	13.1	3.2	1500	一部欠損	砂岩	両面使用
231	砥石	C21-VII19	7.2	5.8	1.3	70	完形	砂岩	片面使用 浅い溝あり
232	勾玉	覆土	[3.7]	[1.2~4.8]	1.0	10	一部欠損	蛇紋岩	外面研磨
233	砥石	C21-VII18	15.0	3.1	3.8	240	完形	流紋岩	両面使用 片面は摩滅少ない 刃ならしキズあり
234	紡錘車	覆土	4.4	4.4	[1.5]	40	一部欠損	滑石	外面研磨

第三章 検出された遺構と出土遺物



第328図 2号井戸出土遺物

2号井戸

位置 C 21-VII21・22Gr 平面形態 楕円形 規模 2.1m×1.58m 深さ 90cm 面積 2.5㎡

遺物出土状況 径10~30cmの礫が1号井戸よりさらに多く出土し、土器は、土師器坏32点・高坏4点・甕45点、須恵器坏1点・蓋1点・甕2点、弥生土器3点、円筒埴輪53点が出土している。

2号井戸出土土器観察表

No	種別 器種	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調整	分類	備考
1	土師器 坏	①(15.7cm)②- ③6.0cm ④口~底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削り内面ナ デ	I E	
2	土師器 甕	①18.4cm ②- ③- ④口~胴部	①橙 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内面篋ナ デ	VII C	
3	須恵器 甕	器厚11~13mm ④口縁部片	①黒褐 ②にぶい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を多く含む	外面平行叩き 内面青海波文当て具痕	VI	

2号井戸出土石器観察表

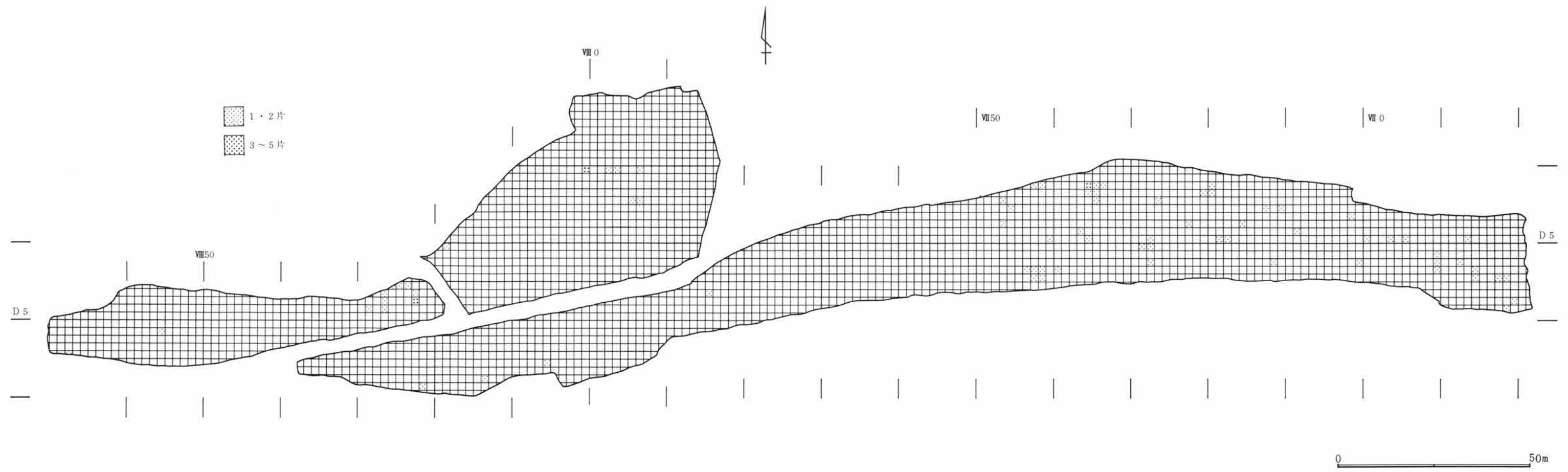
No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石材	特徴
4	不明	14.5	12.7	3.0	790	完形	安山岩	片面に磨面
5	紡錘車	4.0	[2.1]	1.2	16	1/2	滑石	外面研磨

2号井戸出土鉄器観察表

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特徴
6	不明	7.3	0.6	0.2	4.0	一部欠損	細長い板状の鉄製品



第329図 遺構外出土遺物分布図(1)



第330図 遺構外出土遺物分布図(2)

(8) 遺構外出土遺物

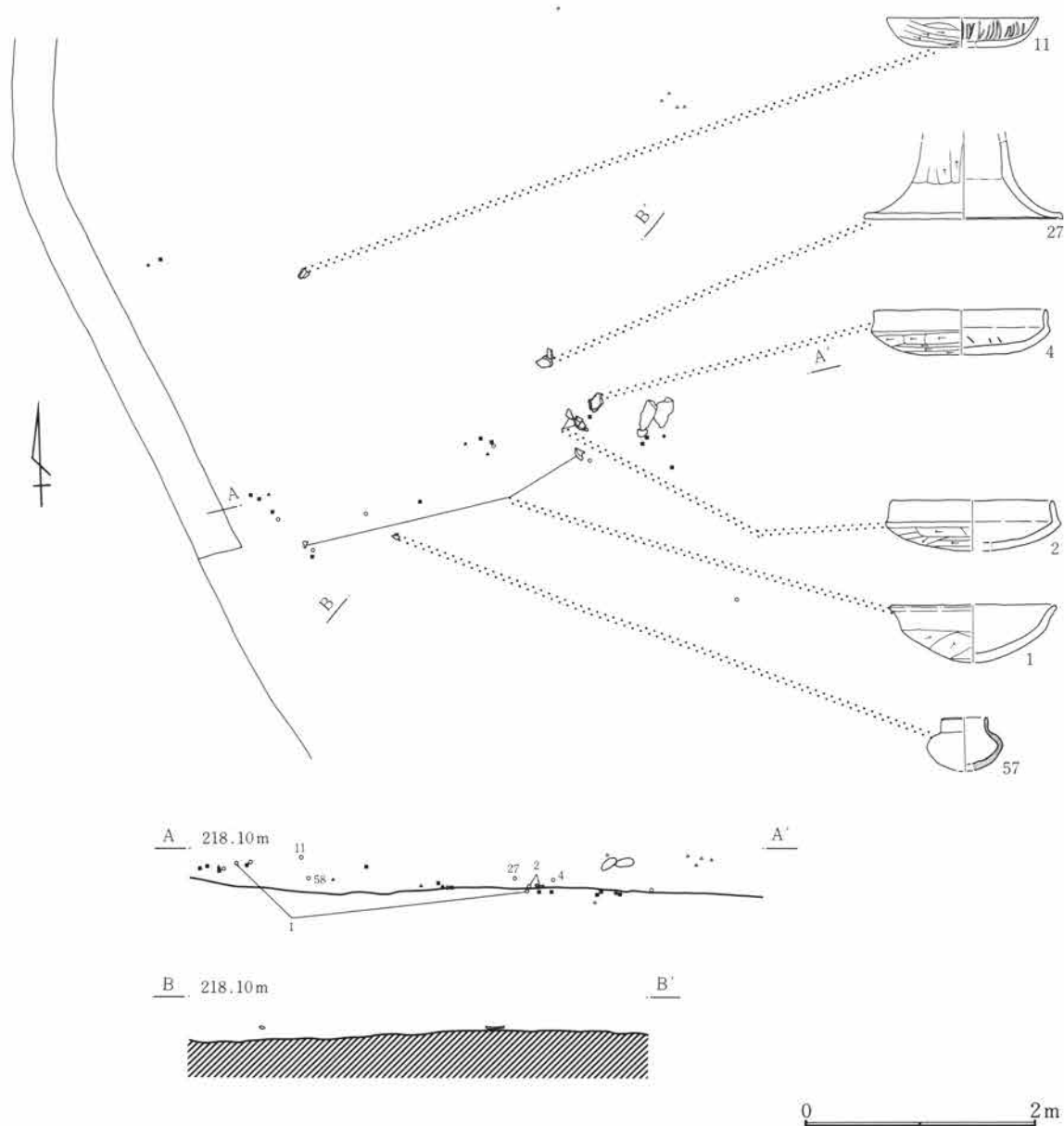
C 22-VII35Gr付近出土遺物

北側調査区の西に、南北5.0m東西5.5mの範囲で、比較的残りの良い土器が数点集中して出土している。垂直分布を見ると、確認面付近のものが多いが、確認面より10～30cm高い位置から出土しているものもある。接合関係の判明するものも1点あり、確認面付近の破片と、確認面より約20cm上の破片が接合している。

出土遺物 土器は土師器坏・高坏・甕、須恵器坏・蓋・小型壺・瓶、円筒埴輪が出土しており、他に磨石2点、石皿1点、台石3点、多孔石1点、石核1点が出土している。

出土遺物数量表

種別	土師器				須恵器				埴輪	計
	坏	高坏	甕	不明	坏	蓋	小型壺	瓶	円筒	
点数	12	2	13	1	1	2	1	1	1	34
重量(g)	490	170	335	15	10	50	125	45	5	1,245



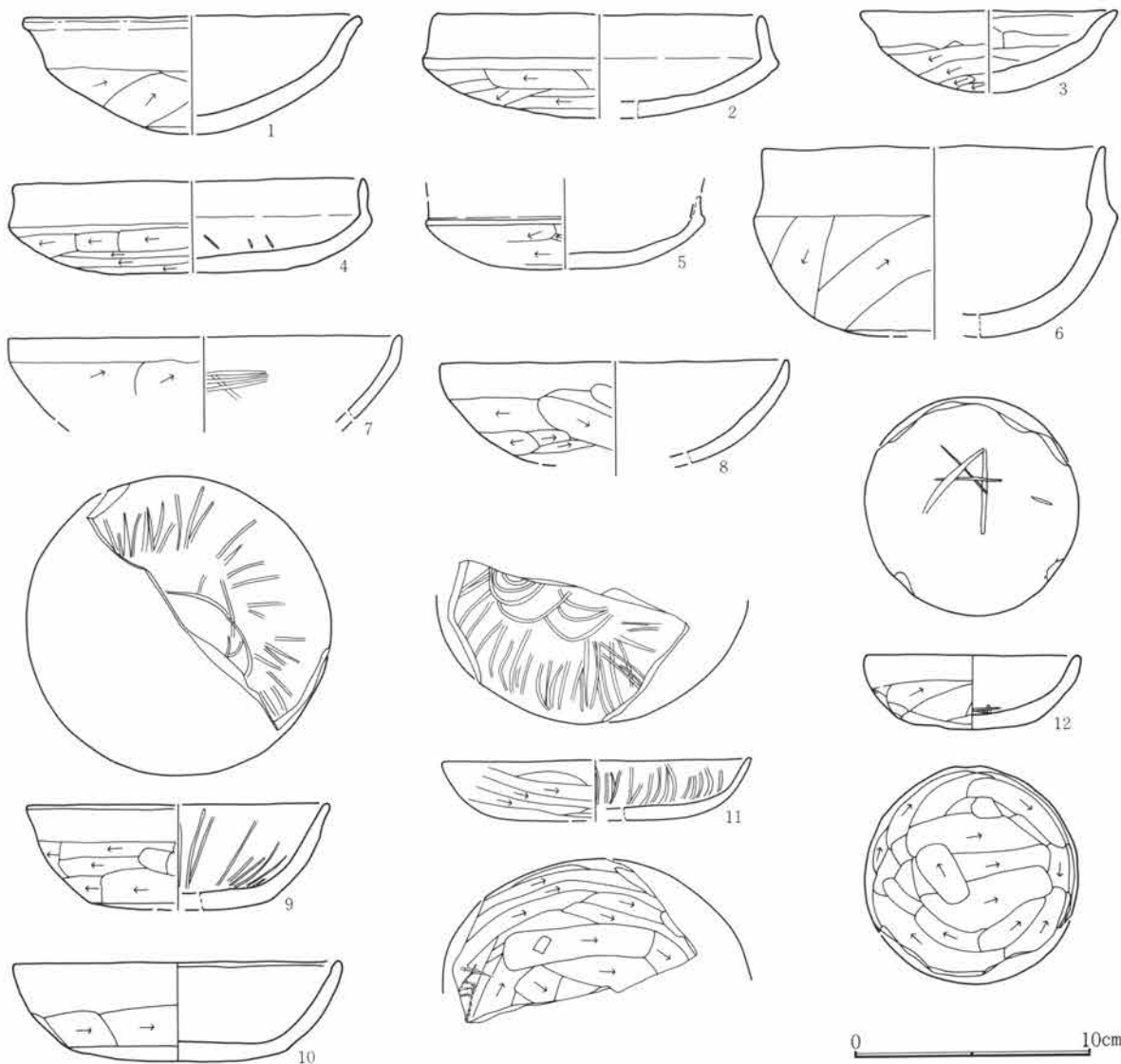
第331図 C 22VII 35Gr付近遺物出土状況

遺構外出土遺物

遺構外や中世以降の遺構からも、この時代の遺物が多量に出土している。土器は、土師器10,741点、須恵器390点、灰釉陶器5点が出土しており、埴輪は円筒埴輪224点が、石製品は紡錘車1点、玉木製品9点、砥石5点、台石3点、こも編石5点が、鉄製品は鎌2点、刀子1点、角釘1点が出土している。出土状況を見ると、遺構の集中する調査区北側から圧倒的に多く出土しているが、特に西側の28・29・45号住付近から2号谷津状遺構の谷頭部にかけて濃密に分布している。谷津状遺構の北側に比べ遺構は少なく、必ずしも遺構の多い部分に遺構外の遺物が多くなるとは言えないことを示している。他に、調査区東側の3・8号住周辺、遺構はないがその西側にやや離れた地点、13号住周辺、ここも遺構はないが調査区南側の中央北寄りの地点から多く出土している。調査区南側の他の地区は、住居がないためかごく少量しか出土していない。

遺構外出土遺物数量表

種別	土 師 器											須 恵 器						灰釉陶器	総計			
	坏	高坏	蓋	埴	甕	小型甕	台付甕	鉢	小型鉢	甗	不明	計	坏	高坏	蓋	甕	瓶			小型壺	羽釜	計
点数	2,584	46	1	5	8,038	10	3	19	2	25	8	10,741	207	1	31	100	45	3	3	390	5	11,136

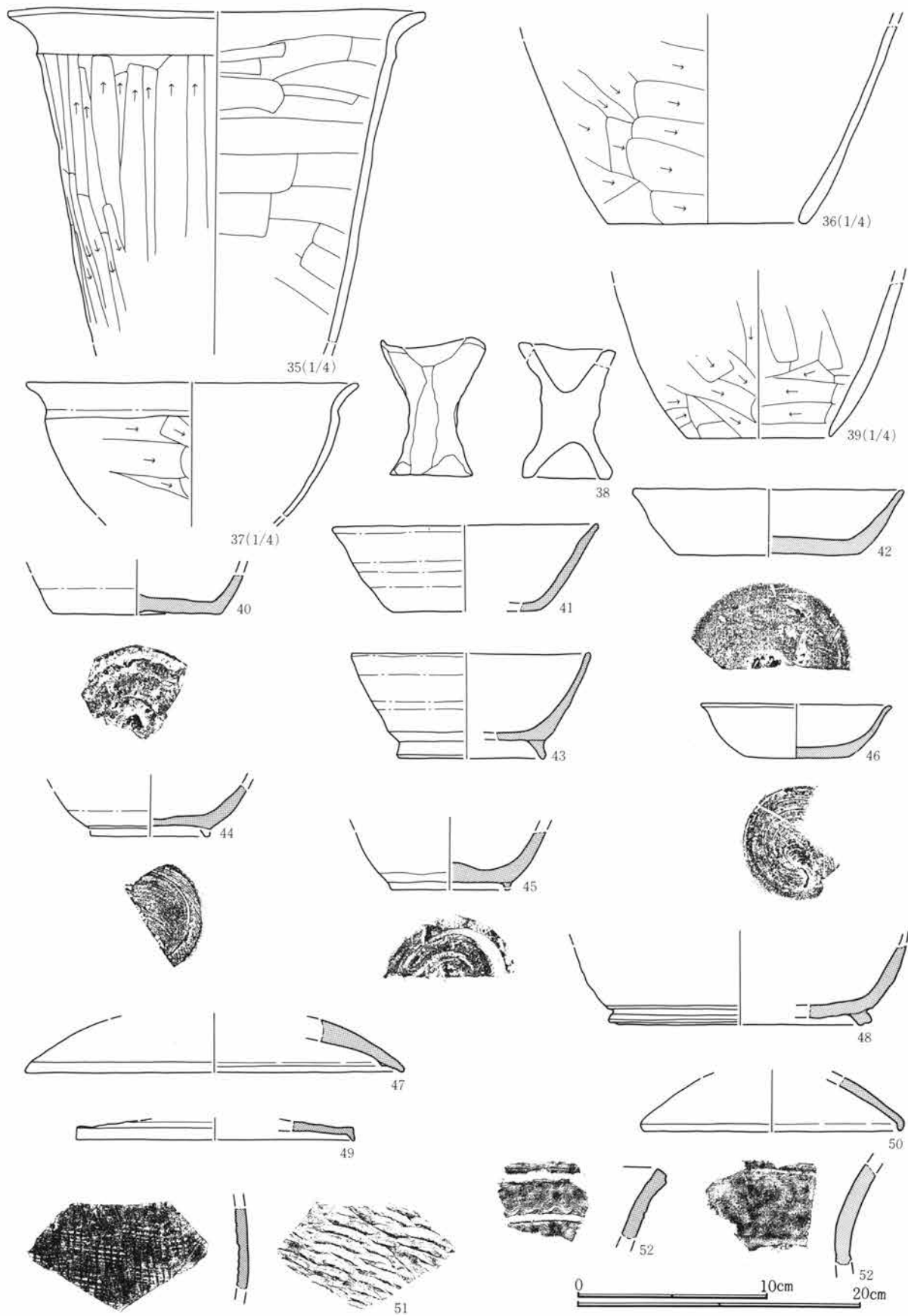


第332図 遺構外出土遺物(1)

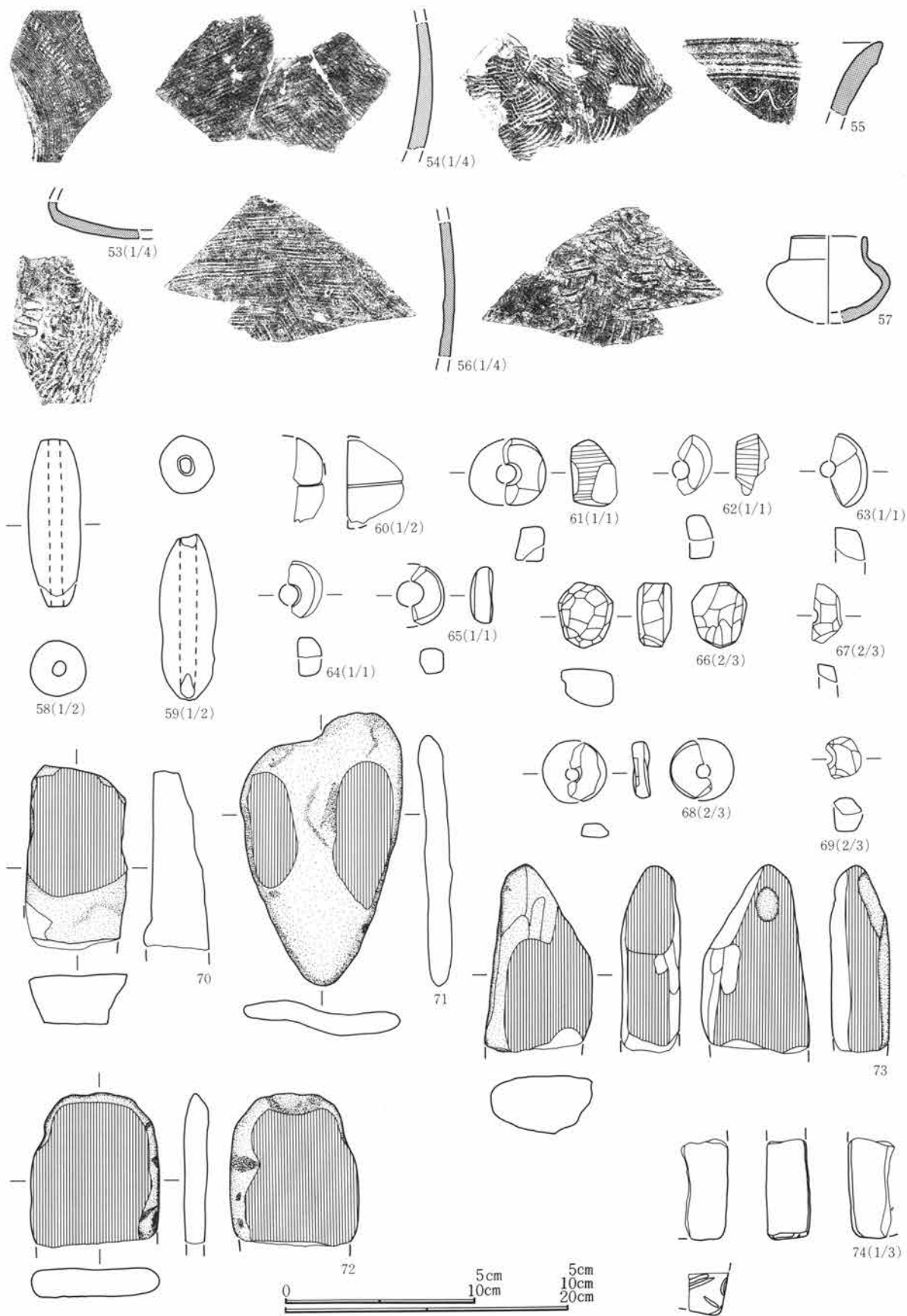
第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第333図 遺構外出土遺物(2)

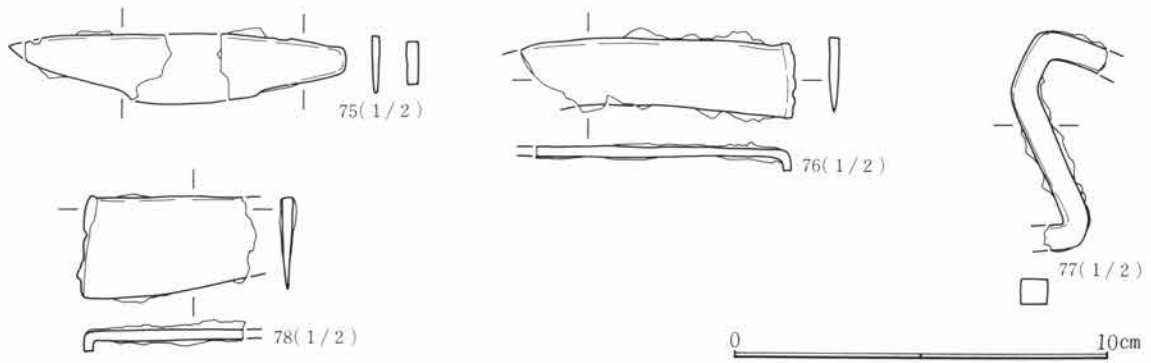


第334図 遺構外出土遺物(3)



第335図 遺構外出土遺物(4)

第三章 検出された遺構と出土遺物



第336図 遺構外出土遺物(5)

遺構外出土器観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
1	土師器 坏	C21- VII34	①(14.0cm)②- ③[4.9cm] ④口~底1/3	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
2	土師器 坏	C21- VII34	①(13.2cm)②- ③3.4cm ④口~底1/4	①②におい橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
3	土師器 坏	C20- VII30	①(10.1cm)②- ③3.4cm ④口~底1/4	①におい黄橙 ②黒褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ・篋ナデ	I C	
4	土師器 坏	C21- VII34	①14.5cm ②(7.9cm) ③3.8cm ④口~底1/3	①明褐 ②におい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
5	土師器 坏	122号 土坑	①- ②- ③- ④体~底1/5	①におい黄橙 黒褐 ②灰黄褐 ③良好 ④普通 細砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
6	土師器 坏	C15- VII20	①(14.2cm)②- ③7.9cm ④口~底1/2	①②におい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I C	
7	土師器 坏	60号 土坑	①(16.4cm)②- ③- ④口縁部片	①明赤褐 黒 ②明赤褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後格子状暗文か	I D	
8	土師器 坏	C17- VII35	①(14.4cm)②- ③- ④口~底1/3	①②明褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I D	
9	土師器 坏	C10- VII31	①(12.6cm)②(7.4cm) ③4.4cm ④口~底1/3	①②におい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文	I E	
10	土師器 坏	C14- VII20	①8.6cm ②8.9cm ③4.1cm ④ほぼ完形	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
11	土師器 坏	C21- VII35	①(12.8cm)②(4.0cm) ③2.5cm ④口~底1/3	①明褐 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ後螺旋状・放射状暗文 体部外面に墨書「真」「直」「有」等か	I F	底部外面 黒変
12	土師器 坏	C60- VII60	①9.0cm ②- ③3.1cm ④ほぼ完形	①褐 ②黒褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
13	土師器 坏	C26VII32 C17VII35	①(16.8cm)②- ③- ④口~胴部片	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I E	
14	土師器 坏	C20- VII33	①(15.0cm)②(9.0cm) ③[3.1cm] ④口縁部片	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂を含む	摩滅により調整不明 内面に焼成 後刻書「王」	I E	
15	土師器 坏	C34- VII34	①(14.8cm)②(9.1cm) ③4.4cm ④口~底1/4	①②におい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ後放射状暗文	I F	
16	土師器 坏	C11- VII30	①(14.4cm)②- ③- ④口縁部片	①におい黄橙 ②明褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後放射状暗文 内面に焼成 後刻書「王」	I E	
17	土師器 坏	C59VII61 C60VII60	①11.1cm ②6.6cm ③3.0cm ④口~底1/2	①におい褐 ②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面ナデ	I F	内外面に 煤(?)付着
18	土師器 坏	C15- VII35	器厚4mm ④口縁部片	①②におい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後放射状暗文 内面に焼成 後刻書「王」	I	
19	土師器 坏	C11- VII31	器厚3~5mm ④口縁部片	①②におい褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後放射状暗文 内面に焼成 後刻書「王」	I	
20	土師器 坑	C76- VII57	①(11.6cm)②6.0cm ③7.1cm ④口~底1/3	①②におい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫・パミスを含む	口縁部横ナデ 体~底部外面篋削 り内面篋ナデ	II	

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代

No.	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
21	土師器 蓋	C 45- VII54	鈕径16mm ④鈕部	①②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面篋削り内面ナデ	IV	
22	土師器 高 坏	C 20VII35 C 31VII30	①- ②(9.6cm) ③- ④底～脚1/2	①②にふい橙 灰褐 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	底部内面ナデ 脚部外面篋削り内 面ナデ 脚端部横ナデ	V D	
23	土師器 高 坏	C 20- VII30	①- ②- ③- ④体～脚1/3	①②にふい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	体～脚部外面篋削り 脚部内面篋 ナデか	V B	
24	土師器 高 坏	C 35- VII27	①(17.7cm)②- ③- ④口～体1/5	①②橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ	V	
25	土師器 高 坏	表採	①(17.7cm)②14.2cm ③17.3cm ④口～底1/2	①②橙 ③不良 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部・脚端部横ナデ 体～脚部 外面篋削り内面ナデ脚部内面篋ナ デ	V B	
26	土師器 高 坏	C 20VII30 C 23VII29	①- ②- ③- ④体部1/4	①②にふい黄橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	口縁部横ナデ 体部外面篋削り内 面ナデ後放射状暗文	V	
27	土師器 高 坏	C 21- VII34	①- 脚径(17.0cm) ③- ④脚部1/3	①②橙 ③不良 ④細 細砂・粗砂・パミスを含む	脚部内外面篋削り 脚端部横ナデ	V B	
28	土師器 小型土器	D 4- VI91	①(9.4cm)②- ③- ④口～胴部片	①②にふい橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面上半ナデ 下半篋削り内面篋ナデ		
29	土師器 甕	C 32- VII30	①(20.3cm)②- ③- ④口縁部1/4	①②明褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	VII A	
30	土師器 甕	C 24- VII32	①(16.8cm)②- ③- ④口～胴部片	①褐 ②黒褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	VII C	
31	土師器 不明	表採	①- ②(6.6cm) ③- ④底部片	①②にふい橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	胴～底部外面篋削り内面ナデ	VII	
32	土師器 甕か鉢	C 13VII32 C 15VII35	器厚7mm ④胴部片	①にふい褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を少量含む	胴部外面篋削り内面ナデ 内面に 漆(?)付着		
33	土師器 台付甕	C 25- VII30	①- ②脚径10.0cm ③- ④底～脚1/3	①②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミス少量含む	胴部外面篋削り内面ナデ 脚部横 ナデ	IX	
34	土師器 甕	C 6- VII30	①(15.0cm)②(8.8cm) ③15.2cm ④口～底1/5	①明褐 ②にふい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ下部篋削り	XI A	
35	土師器 甕(?)	表採	①(29.4cm)②- ③- ④口～胴1/3	①にふい橙 ②にふい黄橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・礫を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面篋ナデ	XI	
36	土師器 甕	C 37- VII28	①- ②(14.0cm) ③- ④胴～底1/4	①にふい黄橙 ②にふい褐 ③良好 ④粗 細砂・粗砂・礫を含む	胴部外面篋削り内面ナデ	XI	
37	土師器 鉢	8号溝	①(23.4cm)②- ③- ④口～胴1/4	①②にふい黄橙 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部横ナデ 胴部外面篋削り内 面ナデ	X B	
38	土製品 不明	C 56- VII54	①5.4cm ②4.4cm ③7.2cm ④ほぼ完形	①②にふい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	内外面ともナデか 鼓型の土製品		
39	土師器 甕	C 3- VII38	①- ②(10.0cm) ③- ④胴～底1/4	①②橙 ③良好 ④普通 細砂・粗砂・パミスを含む	胴部外面篋削り内面ナデ下部篋削 り	XI A	
40	須恵器 坏	C 14- VII29	①- ②(8.8cm) ③- ④底部片	①灰 灰白 ②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 底部回転篋切り	I B	
41	須恵器 坏	C 19- VII34	①(7.0cm)②(7.7cm) ③[4.5cm] ④口～底1/4	①灰黄褐 ②灰黄 ③酸化焰 不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右か)	I	
42	須恵器 坏	C 35- VII30	①(14.2cm)②(8.0cm) ③3.5cm ④口～底1/3	①②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整 底部回転篋切り後ナ デか	I B	
43	須恵器 坏	C 8- VII19	①(13.0cm)②(8.0cm) ③5.5cm ④口～底1/4	①②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整 貼付け高台	I E	
44	須恵器 坏	C 13- VII32	①- ②(6.0cm) ③- ④底部1/3	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 後高台貼付け 剥かれる	I E	
45	須恵器 坏	C 20- VII20	①- ②6.4cm ③- ④底部1/2	①灰オリーブ ②灰白 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整 底部回転篋削り後高 台貼付けか	I E	
46	須恵器 坏	C 90- VII80	①(10.0cm)②(4.6cm) ③2.8cm ④口～底1/3	①②橙 ③酸化焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 底部回転糸切り 無調整	I D	
47	須恵器 蓋	C 37- VII66	①(19.8cm)②- ③- ④口縁部1/4	①②灰 ③還元焰 不良 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整 反りあり	III B	
48	須恵器 坏	C 59- VII54	①- ②13.0cm ③- ④体～底1/5	①灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④粗 細砂・粗砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右か) 底部回転篋削 り後高台貼付け	I B	
49	須恵器 蓋	63号土 坑	①(14.6cm)②- ③- ④口縁部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・黒色粒子を含む	ロクロ調整(右?) 天井部回転篋 削り	III	
50	須恵器 蓋	C 57- VII59	①(13.3cm)②- ③- ④口縁部1/5	①灰白 ②灰黄 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	ロクロ調整	III	内面に自 然釉付着

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	分 類	備 考
51	須恵器 甕	C 60- VII78	器厚 6~8 mm ④胴部片	①黒 ②黄灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を少量含む	外面平行叩き 内面青海波文当て 具痕	VI	
52	須恵器 甕	C 21VII29 C 21VII32	器厚 9~12mm ④口縁部片	①にぶい黄 ②暗灰黄 ③酸化焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	口唇部~頸部外面に 4~11本 1単 位の櫛描き波状文・沈線	VI	
53	須恵器 甕	C 65- VII86	器厚 6~7 mm ④頸部片	①灰オリーブ ②灰 ③還元焰 良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面回転カキ目痕 内面青海波文 当て具痕	VI	外面に自然 釉付着
54	須恵器 甕	C 20- VII30	器厚 8~11mm ④胴部片	①灰白 ②灰 ③還元焰 不良 ④粗 細砂・粗砂を含む	外面平行叩き 内面青海波文当て 具痕	VI	
55	須恵器 甕	C 12- VII13	器厚 11~13mm ④口縁部片	①灰 ②灰白 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を含む	口縁部外面に 3~4本 1単位の櫛 描き波状文	VI	
56	須恵器 甕	C 52- VII13	器厚 6~8 mm ④胴部片	①②灰 ③還元焰 良好 ④細 細砂・粗砂を多く含む	外面平行叩き 内面青海波文当て 具痕	VI	外面に自然 釉付着
57	須恵器 小型壺	C 22- VII35	①(13.4cm)②- ③[4.6cm] ④口~底1/2	①②灰 ③還元焰 不良 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整	VII	内外面に 自然釉
58	土製品 土 鍾	C 20- VII34	長さ[5.3cm]幅1.8cm ④ほぼ完形	①にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面磨きか		
59	土製品 土 鍾	C 55- VII10	長さ5.7cm 幅2.2cm ④完形	①にぶい褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面ナデカ		

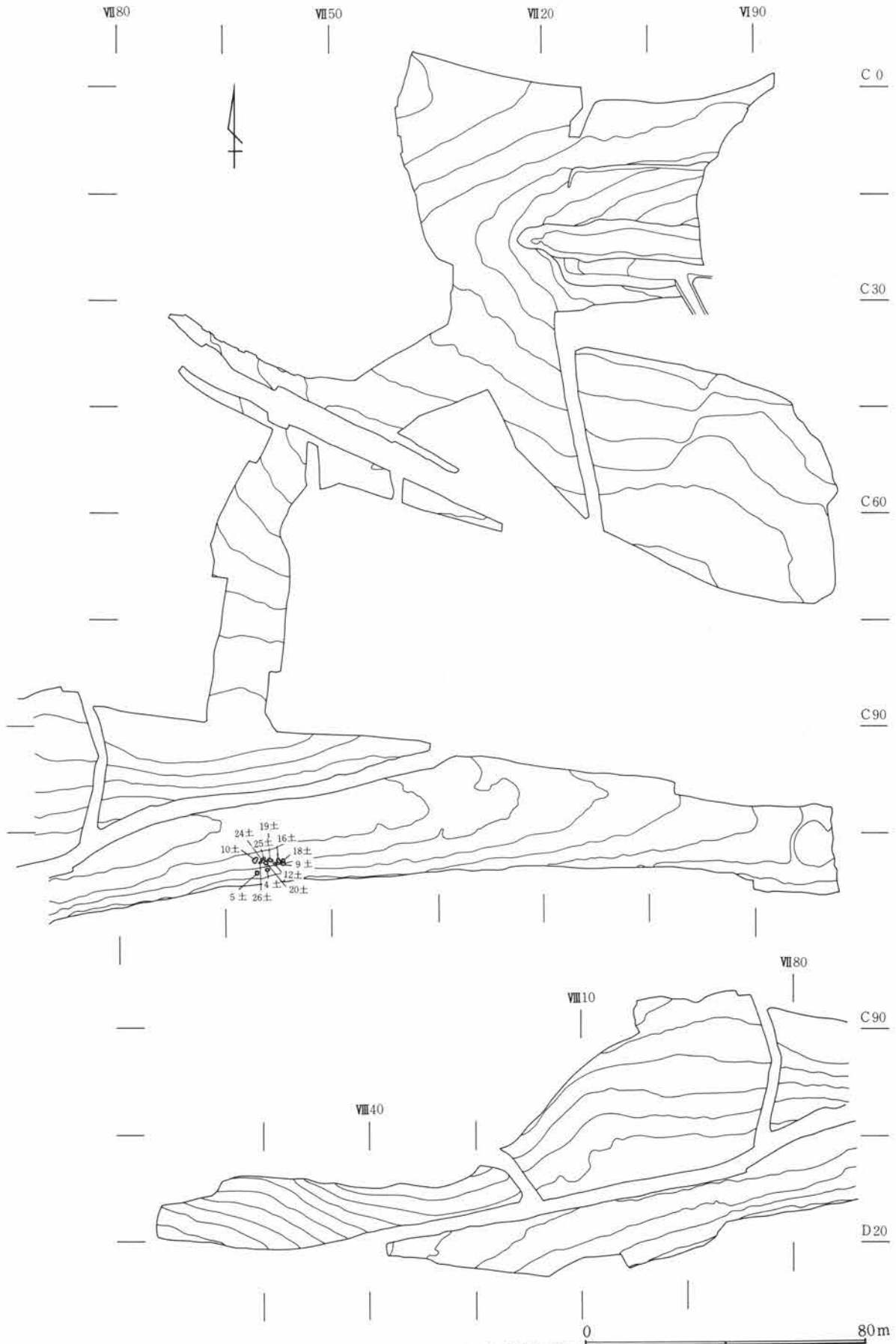
遺構外出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
60	紡錘車(?)	C 13-VII36	[1.9]	[1.1]	1.9	10	1/2	滑石	外面研磨 擦り切り痕あり再加工途中か
61	玉 未製品	表探	1.2	[0.8]	0.6	0.9	1/2	滑石	孔径 3mm 側面粗い研磨
62	玉 未製品	表探	[1.1]	[0.7]	0.6	0.4	1/2	滑石	孔径 4mm 側面粗い研磨
63	玉 未製品	表探	[1.3]	[0.8]	0.6	0.5	1/3	滑石	孔径 3mm 側面粗い研磨
64	玉 未製品	表探	[1.0]	[0.6]	0.4	0.3	1/2	滑石	孔径 4mm 側面粗い研磨
65	玉 未製品	表探	1.1	[0.6]	0.4	0.3	1/2	滑石	孔径 4mm 側面粗い研磨
66	玉 未製品	表探	1.7	1.5	1.1	3.5	完形	滑石	鑿状工具による加工
67	玉 未製品	表探	1.5	[0.7]	0.9	0.9	1/2	滑石	孔径 3mm 側面一部鑿状工具による加工
68	玉 未製品	表探	1.5	[1.1]	0.5	0.9	1/2	滑石	孔径 3mm 側面粗い研磨
69	玉 未製品	表探	1.1	[1.0]	0.4	0.4	2/3	滑石	孔径 4mm
70	砥石	C 20-VII35	[9.6]	5.3	3.5	190	一部欠損	砂岩	片面使用
71	砥石	C 90-VII80	13.0	8.2	10.0	173	完形	砂岩	片面部分的に使用
72	砥石	C 68-VII88	[8.0]	6.7	1.5	90	1/2	砂岩	両面使用
73	砥石	39号土坑	[7.8]	5.7	3.2	150	1/2	砂岩	3面使用
74	砥石	C 38-VII44	[5.2]	[2.4]	2.2	35	破片	流紋岩	4面使用 刃ならしキズあり

遺構外出土鉄器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
75	刀子	C 17-VII20	(9.0)	1.7	0.3	7.9	中央部欠	関は刃部にあり
76	鎌	C 58-VII60	[7.3]	2.1	0.3	12.6	先端部欠	
77	角釘	C 20-VII35	[5.8]	0.7	0.7	19.9	両端部欠	両側折れ曲がる
78	鎌	C 14-VII20	[4.7]	2.8	0.3	14.7	先端部欠	柄は左側につく

第4節 古墳時代中期～奈良・平安時代



第337図 江戸時代遺構位置図

第5節 近世

(1) 遺構・遺物の概要

遺構

墓壙と考えられる土坑が12基検出されている。

①分布 調査区南側中央に12基集中しており、墓地となっていたと考えられる。

②遺物出土状況 12基中11基から人骨が出土している。残存状況は様々であるが、頭蓋骨の残っているものが多い。また、陶磁器の碗・皿が副葬されているが、5・10・12・16・20土坑からは同様のものが2枚ずつ出土している。また、24号土坑以外からは銅銭が出土しており、癒着しているものや、繊維の付着しているものもある。他に煙管や火打金等が副葬されている。

③平面形態 隅丸方形2基、隅丸長方形8基、楕円形2基で、隅丸長方形が圧倒的に多い。

④規模 長径0.60～1.34m平均1.11m、短径0.59～1.08m平均0.88m、深さ37～165cm平均81cm、面積0.4～1.3㎡平均0.9㎡である。

⑤時期 出土陶磁器から、17世紀後半から18世紀にかけての土坑と考えられる。

遺物

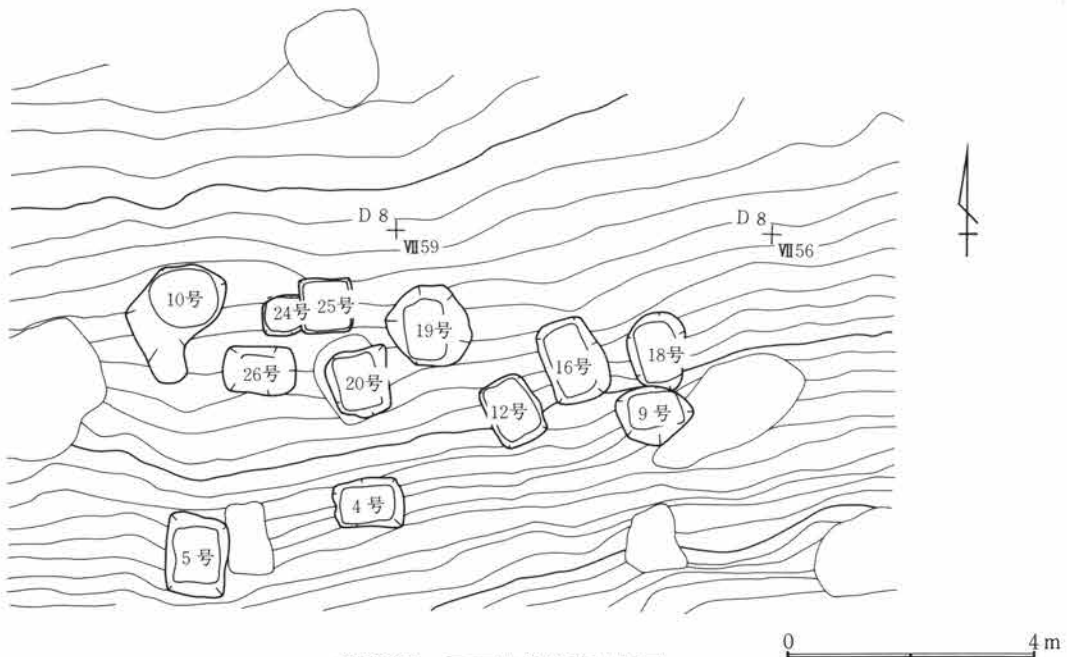
陶器・磁器・土師質土器・軟質陶器・鉄製品・銅製品等が出土している。

陶器 碗・皿・甕・壺・瓶・こね鉢・搦鉢が出土している。生産地は瀬戸美濃系と肥前系がある。

磁器 碗・皿が出土しているが出土量は少なく、5号土坑から肥前系の皿2点が出土している以外は、染付けの小破片がほとんどである。

土師質土器 皿が3点出土しているだけである。

軟質陶器 土鍋と焙烙が少量出土している。



第338図 江戸時代墳墓位置図

出土土器・陶磁器数量表

種別	陶 器						磁 器		土師質土器	軟質陶器		計
	碗	皿	甕	壺	こね鉢	播鉢	碗	皿	皿	鍋	焙烙	
点数	64	14	13	3	3	14	15	2	3	17	2	150

石製品 砥石1点が出土している。

鉄製品 火打金4点、刀子1点、角釘18点、環状鉄製品1点、不明鉄製品1点が出土している。

銅製品 煙管雁首6点、煙管吸口3点、輪宝状の飾り金具6点、刀切羽1点、銅銭塊4点が出土している。

鉛製品 鉄砲玉1点が出土している。

銅銭 熙寧元寶・永樂通寶各1点、寛永通寶103点、不明1点が出土している。癒着して塊で出土したものが16点あり、繊維の残っているものもあるため、布袋等に入れて副葬されていたと考えられる。

(2) 土 坑

4号土坑

位置 D9・10-VII58・59Gr **重複** なし **平面形態** 隅丸長方形 **規模** 1.09m×0.8m

深さ 50cm **面積** 0.8m² **主軸方位** N-90°-E

概要 南側はかなり削平されているが、掘り方は2段で、中段まではほぼ垂直に立ち上がっている。上層からは、径10~30cmの礫約30点が積まれた状態で出土している。人骨の残りは比較的良く、1の鉢をかぶったまま頭蓋骨が出土した他、大腿骨・脛骨・脊椎・寛骨・鎖骨・肋骨・上腕骨等が出土している。また、布片に付いた状態で銅製の飾り金具が出土しており、袈裟等の衣類が副葬されていた可能性がある。

出土遺物 陶器は、頭蓋骨にかぶせられた片口鉢1点の他碗1点が出土している。銅製品は、布片に付いた輪宝状の飾り金具が6点（うち台座のもの1点）、煙管雁首1点、吸口1点、布袋に入った銅銭1塊（寛永通寶11枚）が出土している。

5号土坑

位置 D10-VII60Gr **重複** なし **平面形態** 隅丸長方形 **規模** 1.23m×0.96m **深さ** 80cm

面積 1.1m² **主軸方位** N-84°-W

概要 南側がやや削平されているが、しっかりした掘り方をもち、立ち上がりは垂直に近い。4号土坑同様上層から、径10~30cmの礫が積まれた状態で出土している。人骨の残りは4号より悪く、頭蓋骨の他、大腿骨・脛骨・腓骨・上腕骨・尺骨等が出土している。青磁皿2枚の内1枚は置かれた状態で出土しているが、1枚は破損している。

出土遺物 肥前系青磁皿2点の他、銅銭2塊（寛永通寶10枚と6枚）が出土している。

9号土坑

位置 D9-VII56~58Gr **重複** なし **平面形態** 楕円形 **規模** 1.12m×0.88m **深さ** 48cm

面積 0.7m² **主軸方位** N-90°-W

概要 平面形態は楕円形であるが、南側には段があり、底部は隅丸長方形となっている。人骨は頭蓋骨・上腕骨・大腿骨・脛骨等が出土している。陶器碗は土坑の東側の先端の外から出土している。

出土遺物 肥前系陶器碗1点と銅銭1塊（寛永通寶11枚・判読不能1枚）が出土している。

10号土坑

位置 D 8 - VII60・61Gr 重複 なし 平面形態 楕円形 規模 1.23m×1.02m 深さ 70cm
面積 1.0m² 主軸方位 N-1°-W

概要 楕円形の整然とした掘り方をもっている。南東部に不正形の掘り込みがあるが、土坑に伴うものかどうかは不明であり、前時代のものとも考えられる。人骨は頭蓋骨・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・大腿骨・脛骨等が出土している。土師質土器皿は、2枚とも置かれた状態で出土している。

出土遺物 土師質土器皿2点、銅銭2塊（永樂通寶1枚・寛永通寶3枚と寛永通寶6枚）が出土している。

12号土坑

位置 D 9 - VII57・58Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 1.1m²×0.84m²
深さ 37cm 面積 0.8m² 主軸方位 N-18°-W

概要 南側はかなり削平されており、立ち上がりはほとんどなくなっているが、比較的斜めに立ち上がっている。覆土上層から径10~20cmの礫が数点出土しており、点数は少ないが、4・5号土坑と同様な状況であったと考えられる。人骨は頭蓋骨・上腕骨・寛骨・大腿骨・脛骨等が出土している。陶器皿は1枚は底面に伏せられて、1枚は上層から出土している。

出土遺物 陶器皿2点、火打金1点、銅銭塊2点（熙寧元寶1枚・寛永通寶7枚と寛永通寶5枚）、銅銭1枚（寛永通寶1枚）が出土している。

16号土坑

位置 D 8・9 - VII57Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 1.34m×0.91m
深さ 59cm 面積 1.14m² 主軸方位 N-20°-W

概要 底面は南にかなり下がっており、斜面を意識して作られたことを窺わせる。覆土上層に径10~25cmの礫が5点出土している。人骨は頭蓋骨・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・大腿骨・脛骨・腓骨等が出土している。陶器碗・皿は近接して人骨の下から出土している。

出土遺物 陶器碗1点、皿2点、火打金1点、銅銭塊2点（寛永通寶4枚と6枚）、銅銭2枚（寛永通寶）が出土している。

18号土坑

位置 D 8・9 - VII57・58Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 1.22m×0.98m
深さ 68cm 面積 1.0m² 主軸方位 N-14°-W

概要 底面は比較的平坦で、立ち上がりは垂直に近い。覆土上層から径10~30cmの礫約20点が出土している。人骨は頭蓋骨・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・寛骨・大腿骨・脛骨・椎骨等が出土している。

出土遺物 角釘1点、煙管雁首・吸口各1点、銅銭塊2点（寛永通寶6枚と7枚）が出土している。

19号土坑

位置 D 8・9-VII58Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 1.05m×0.8m

深さ 87cm 面積 0.9m² 主軸方位 N-2°-W

概要 整然とした隅丸長方形で、底面は平坦で立ち上がりはほぼ垂直である。覆土上層から10~30cmの礫約30点が積まれた状態で出土している。人骨は頭蓋骨・上腕骨・寛骨・大腿骨・脛骨等が出土している。

出土遺物 銅銭塊2点(寛永通寶6枚2点)が出土している。

20号土坑

位置 D 8・9-VI59Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 1.33m×1.08m

深さ 165cm 面積 1.3m² 主軸方位 N-87°-W

概要 隅丸長方形の土坑であるが、西側から南側にかけて浅い掘り込みが存在している。深さが165cmと最も深い。人骨は、頭蓋骨が、中層下部から1点、底面付近から1点計2点出土しているため、2体埋葬されていたと考えられる。他に中層下部からは上腕骨・大腿骨・脛骨等が、床面付近からは椎骨・大腿骨等が出土している。陶器皿が、中層下部から1点、下層から1点と、それぞれ別の遺体の近くから出土しており、また明確に掘り直した形跡もないため、2体同時に埋葬された可能性が高い。

出土遺物 陶器皿2点、火打金1点、角釘16点、煙管雁首・吸口各1点、銅銭塊1点(寛永通寶5枚)、銅銭1枚(寛永通寶)が出土している。

24号土坑

位置 D 9-VII59~61Gr 重複 25号土坑より古 平面形態 隅丸方形 規模 0.6m×0.59m

深さ 55cm 面積 0.4m² 主軸方位 N-90°-W

概要 整然とした掘り方で、底面は平坦で立ち上がりはほぼ垂直である。覆土上層から径20~30cmの礫約15点が積まれた状態で出土している。人骨は小破片が出土しただけである。陶器碗は底面からやや浮いた状態で出土している。

出土遺物 陶器碗1点、銅製刀切羽1点が出土している。

25号土坑

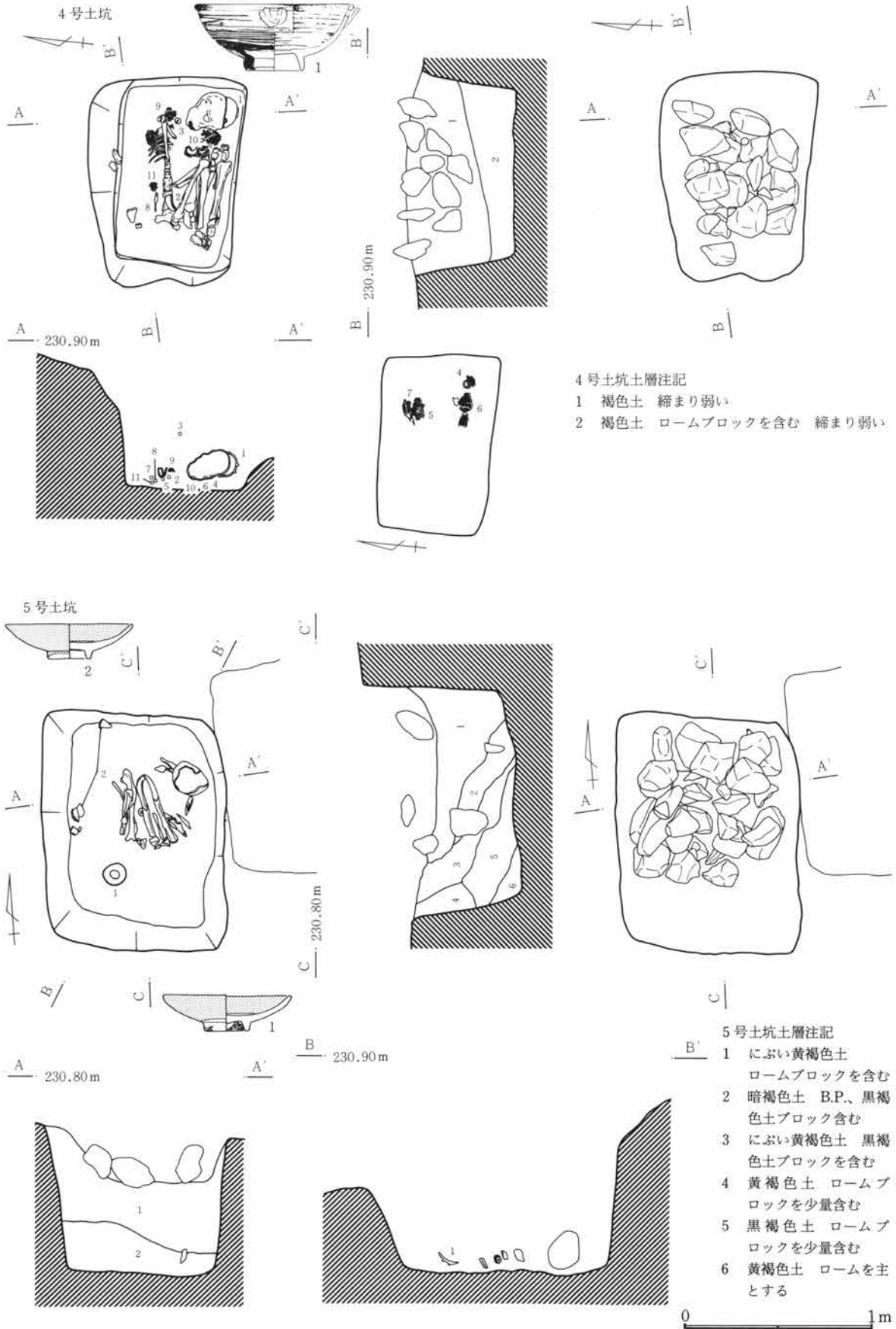
位置 D 8-VII59Gr 重複 24号土坑より新 平面形態 隅丸方形 規模 0.88m×0.81m

深さ 130cm 面積 0.56m² 主軸方位 N-4°-W

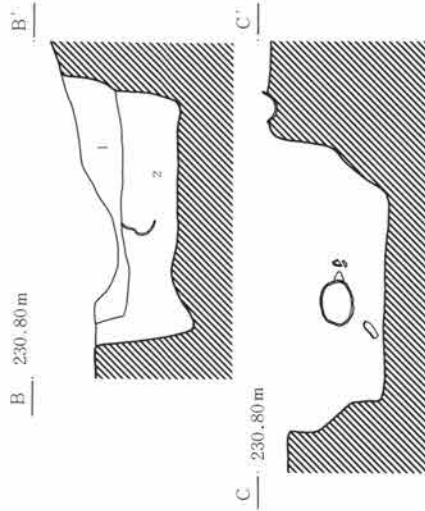
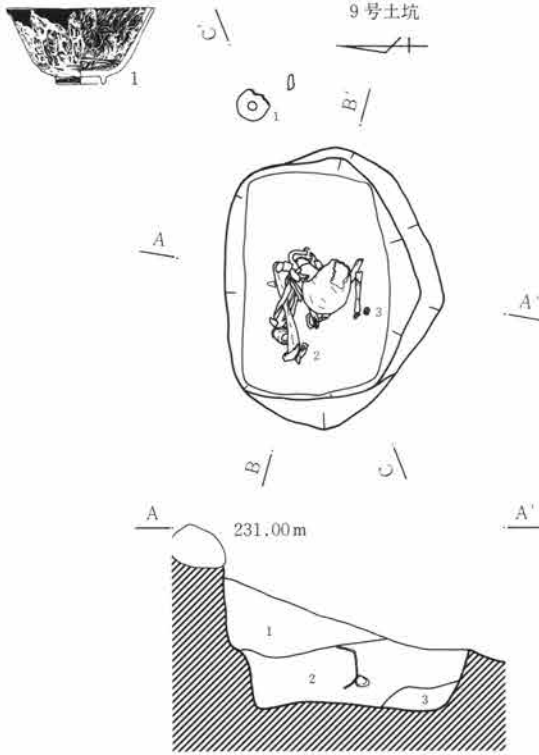
概要 整然とした方形で、底面は平坦、立ち上がりはほぼ垂直である。深さが130cmと深いのが、人骨は底面付近から1体分出土しただけである。頭蓋骨・椎骨・大腿骨・脛骨等が出土している。人骨の下の底面直上から板状の木製品が出土しており、棺材と考えられる。

出土遺物 銅銭塊1点が出土している。

第三章 検出された遺構と出土遺物

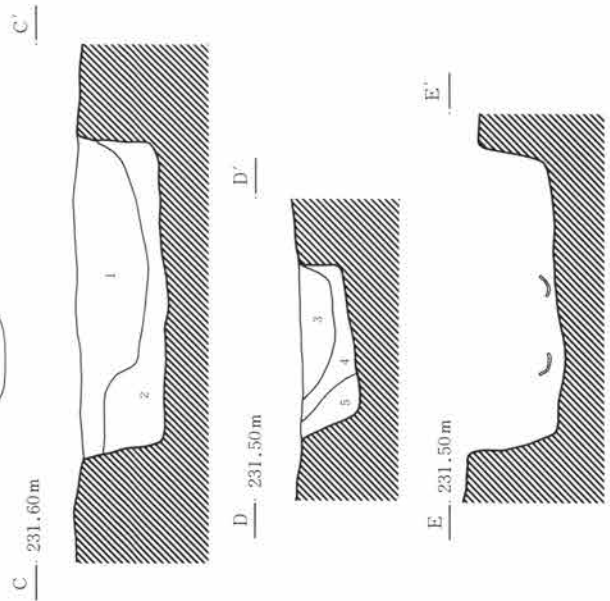
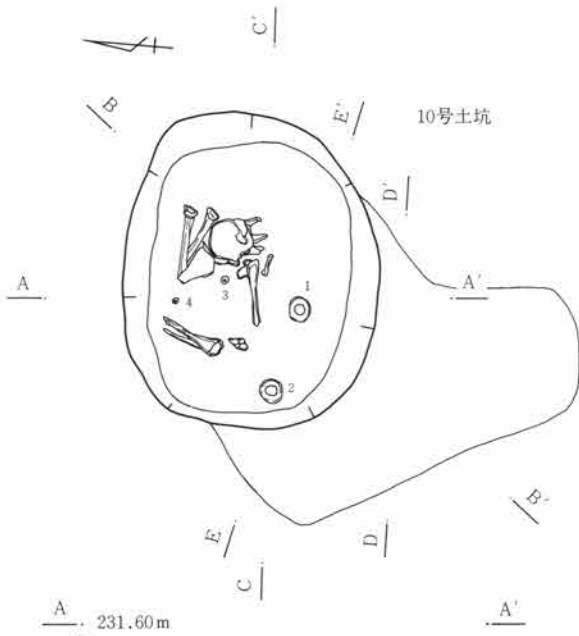


第339図 4・5号土坑



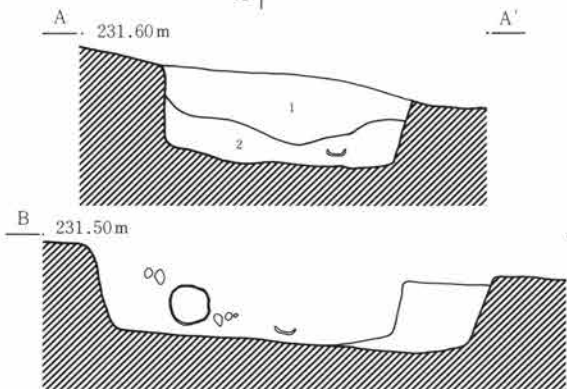
9号土坑土層注記

- 1 褐色土 ローム粒子を少量含む
- 2 黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む
- 3 明黄褐色土 ロームを主とし、褐色土ブロックを含む



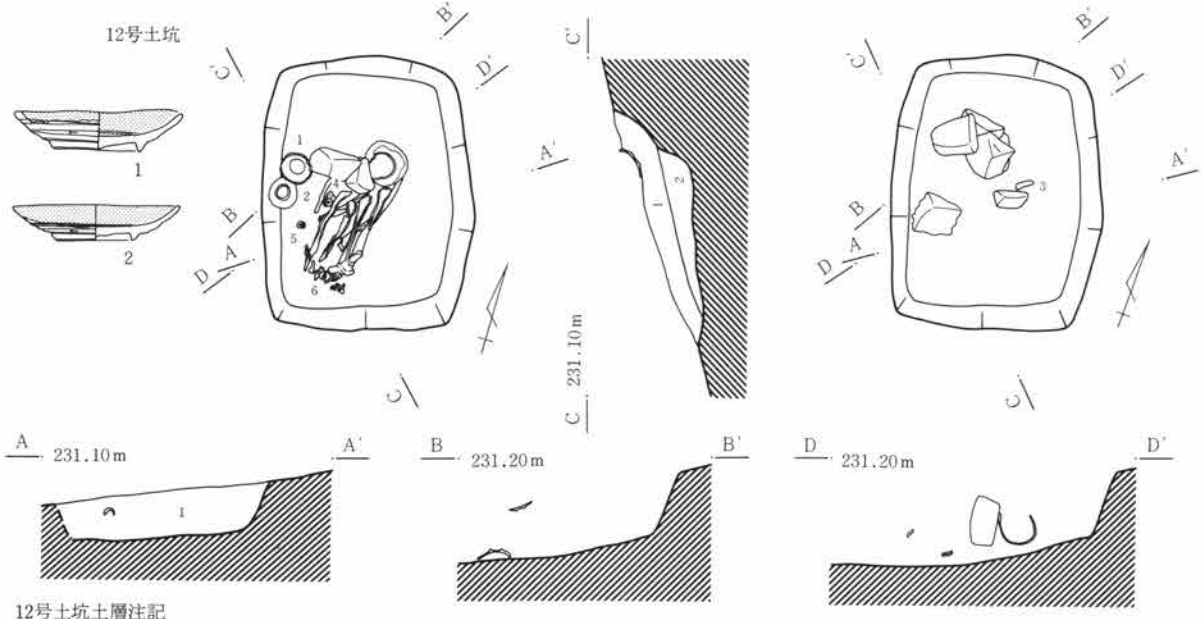
10号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を少量含む
- 2 黒褐色土 ロームブロック、黒色土ブロックを微量含む
- 3 黒色土 縮まり強い
- 4 にぶい黄褐色土 B.P.を少量含む
- 5 黄褐色土 ローム土を主とする

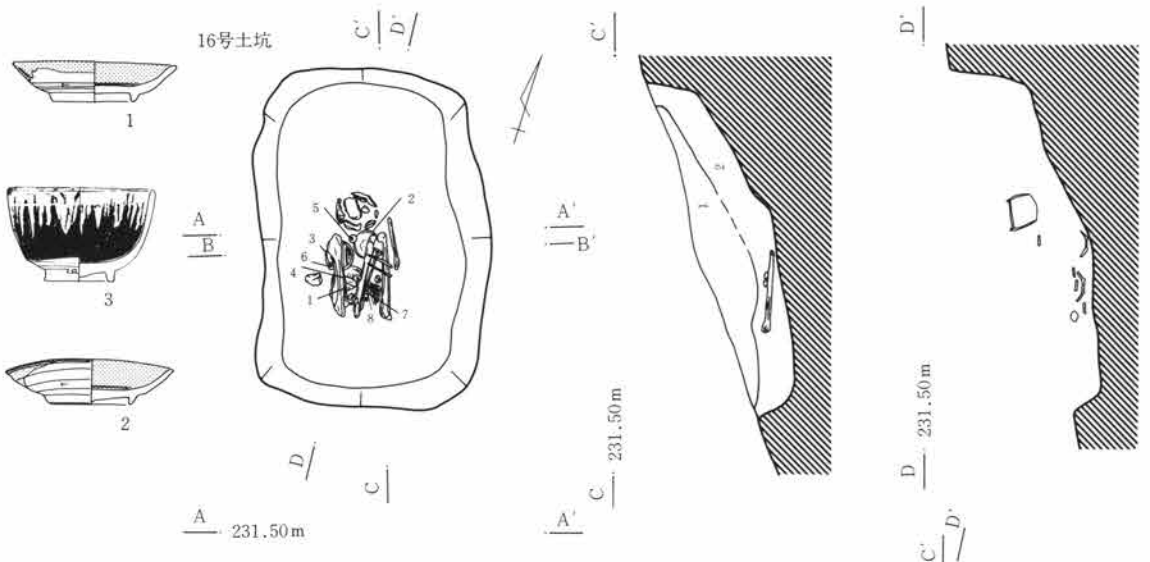


第340図 9・10号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



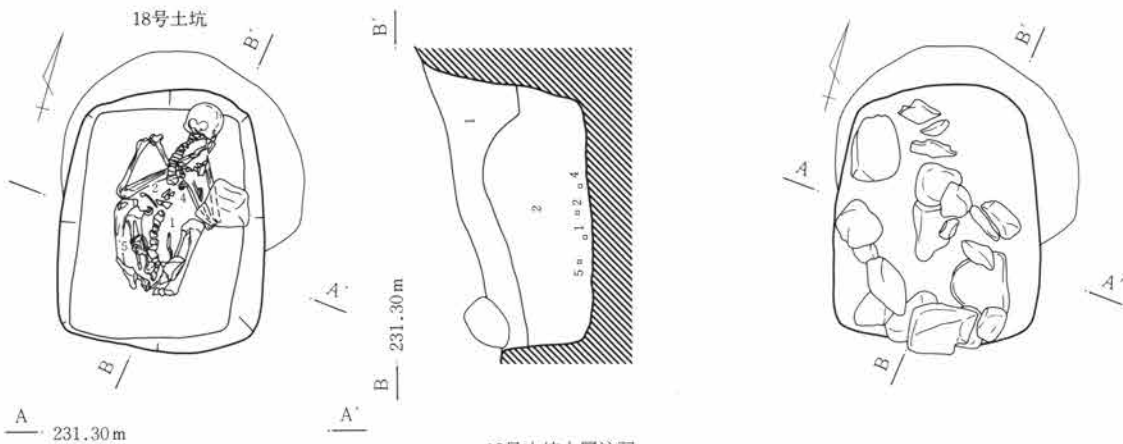
- 12号土坑土層注記
- 1 明黄褐色土 B.P.を少量含む
 - 2 明黄褐色土 ロームブロック含む



- 16号土坑土層注記
- 1 にぶい褐色土 ロームブロックを少量含む
 - 2 にぶい橙色土 ロームブロックを含む

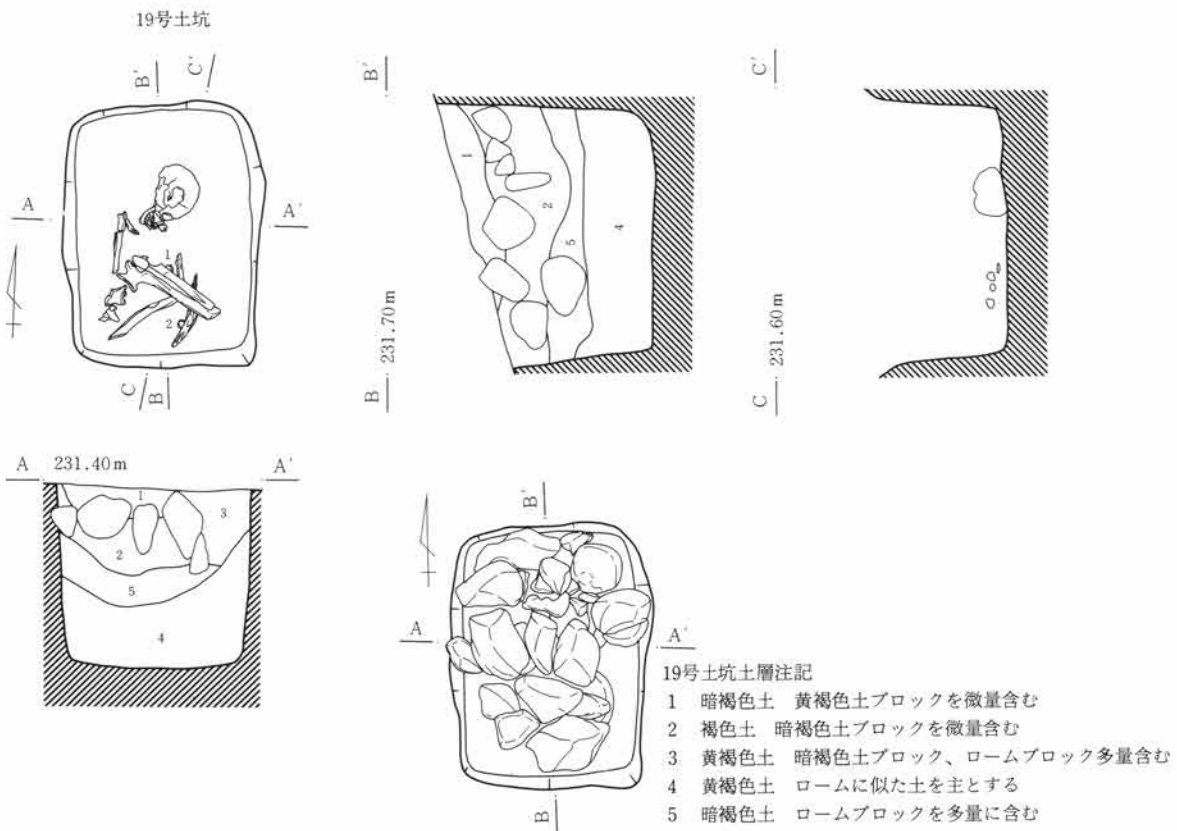


第341図 12・16号土坑



18号土坑土層注記

- 1 褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む
- 2 暗褐色土 黄色粒子を少量含む



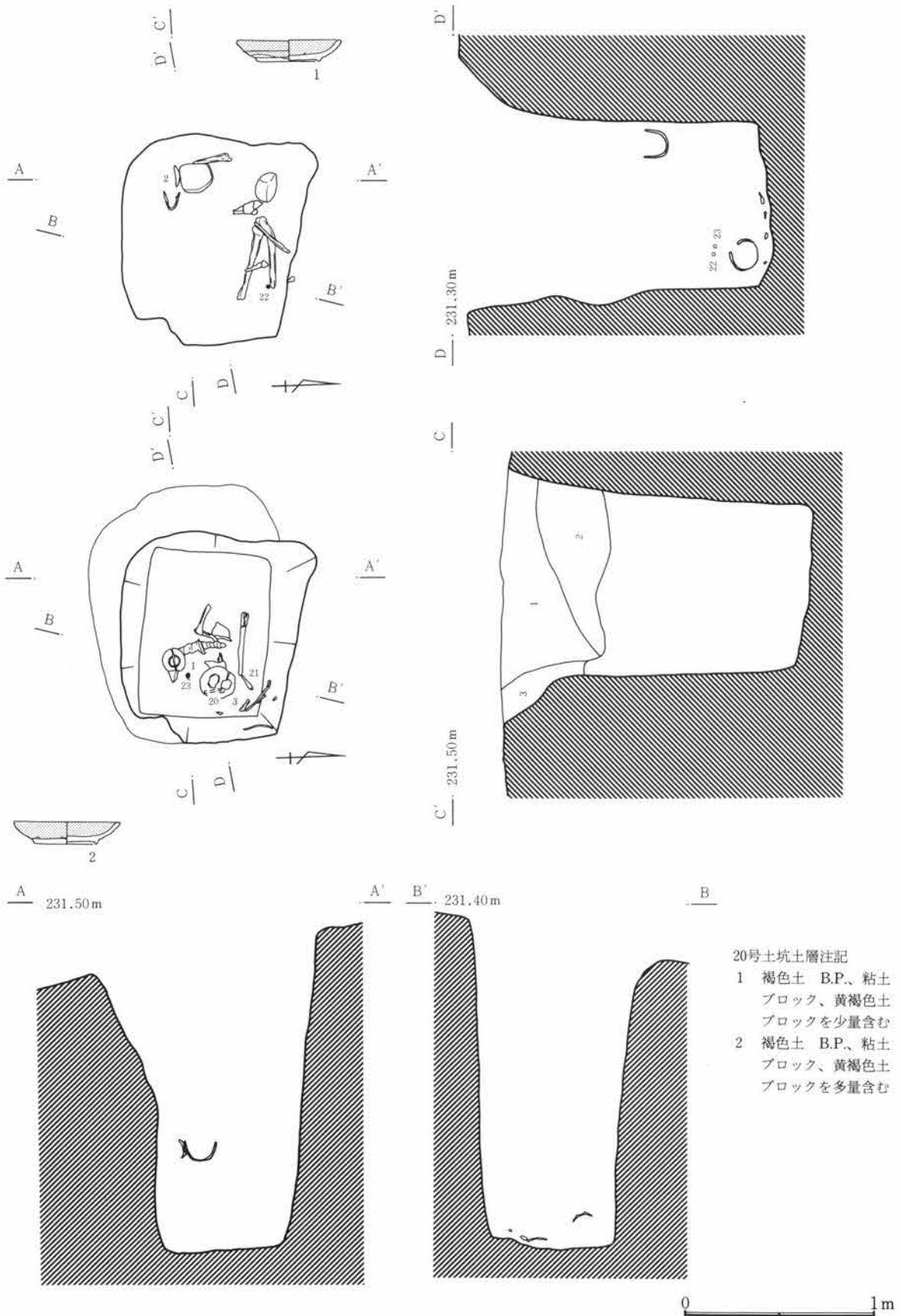
19号土坑土層注記

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロックを微量含む
- 2 褐色土 暗褐色土ブロックを微量含む
- 3 黄褐色土 暗褐色土ブロック、ロームブロック多量含む
- 4 黄褐色土 ロームに似た土を主とする
- 5 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む

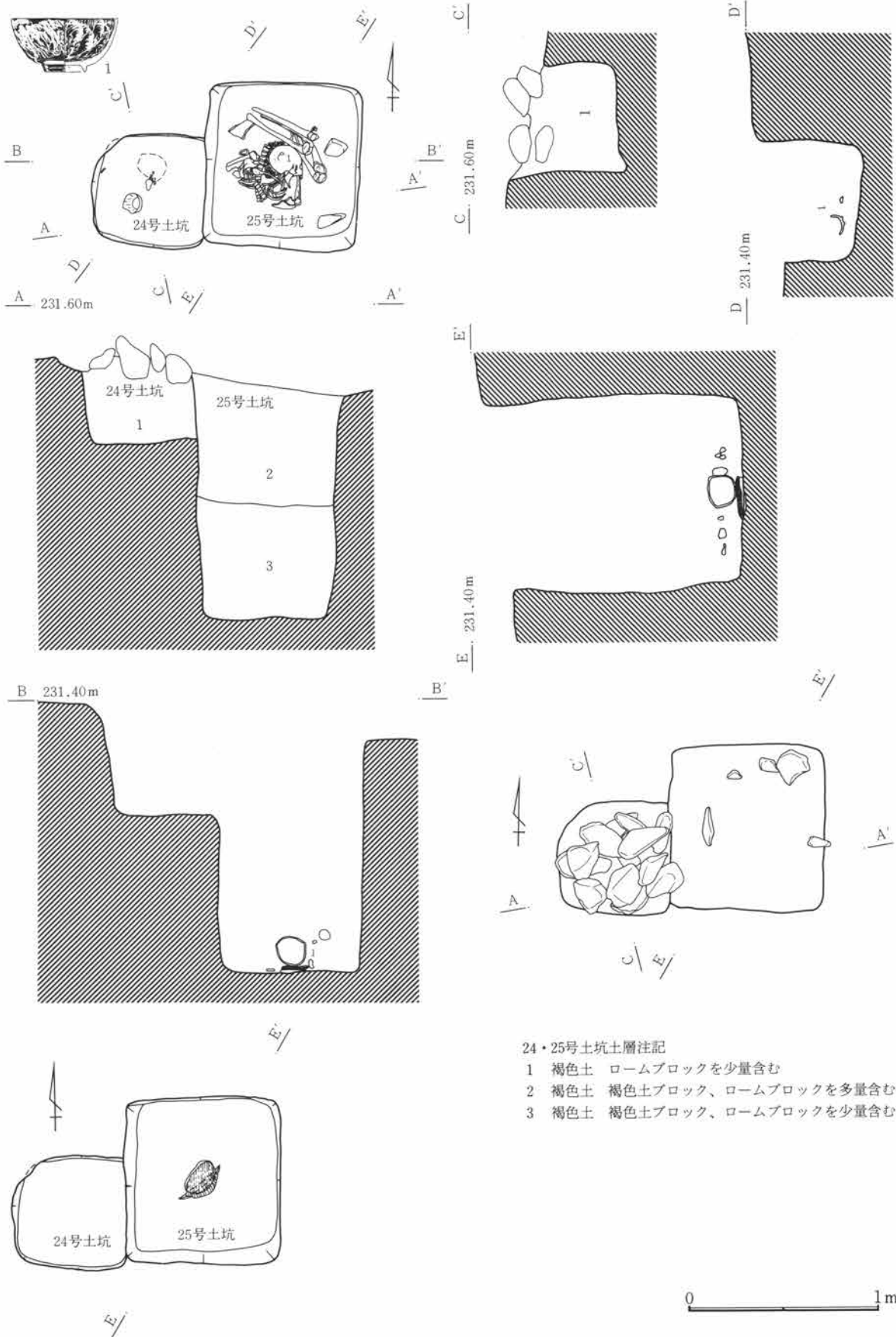
0 ————— 1m

第342図 18・19号土坑

第III章 検出された遺構と出土遺物



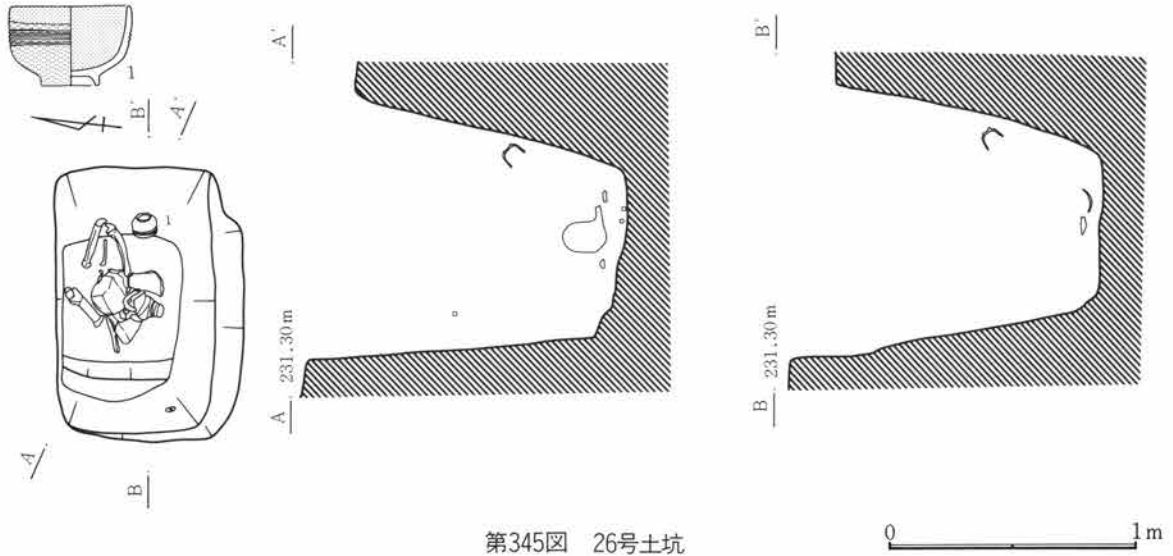
第343図 20号土坑



24・25号土坑土層注記

- 1 褐色土 ロームブロックを少量含む
- 2 褐色土 褐色土ブロック、ロームブロックを多量含む
- 3 褐色土 褐色土ブロック、ロームブロックを少量含む

第344図 24・25号土坑



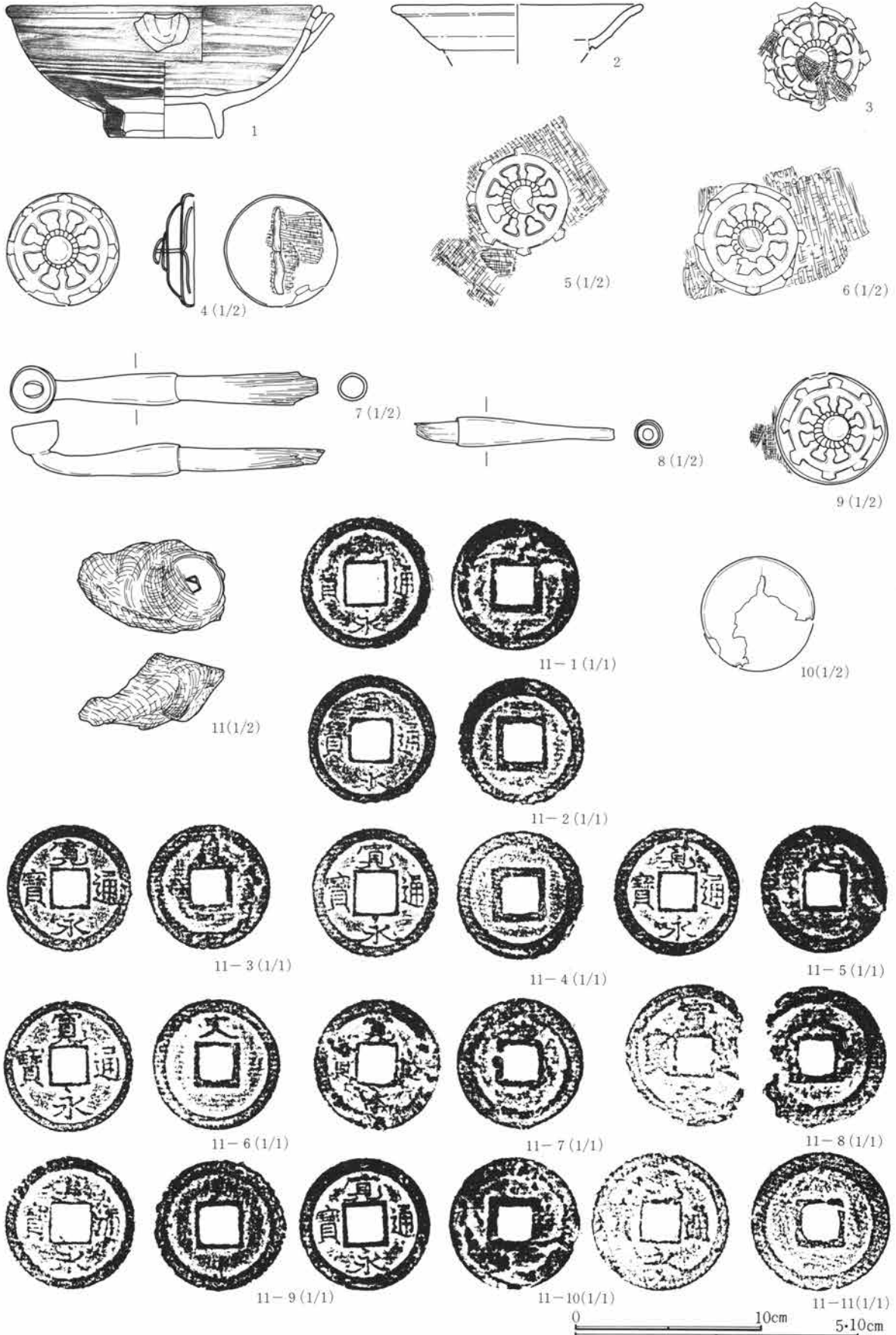
26号土坑

位置 D 8・9-VII59・60Gr 重複 なし 平面形態 隅丸長方形 規模 2.18m×1.5m

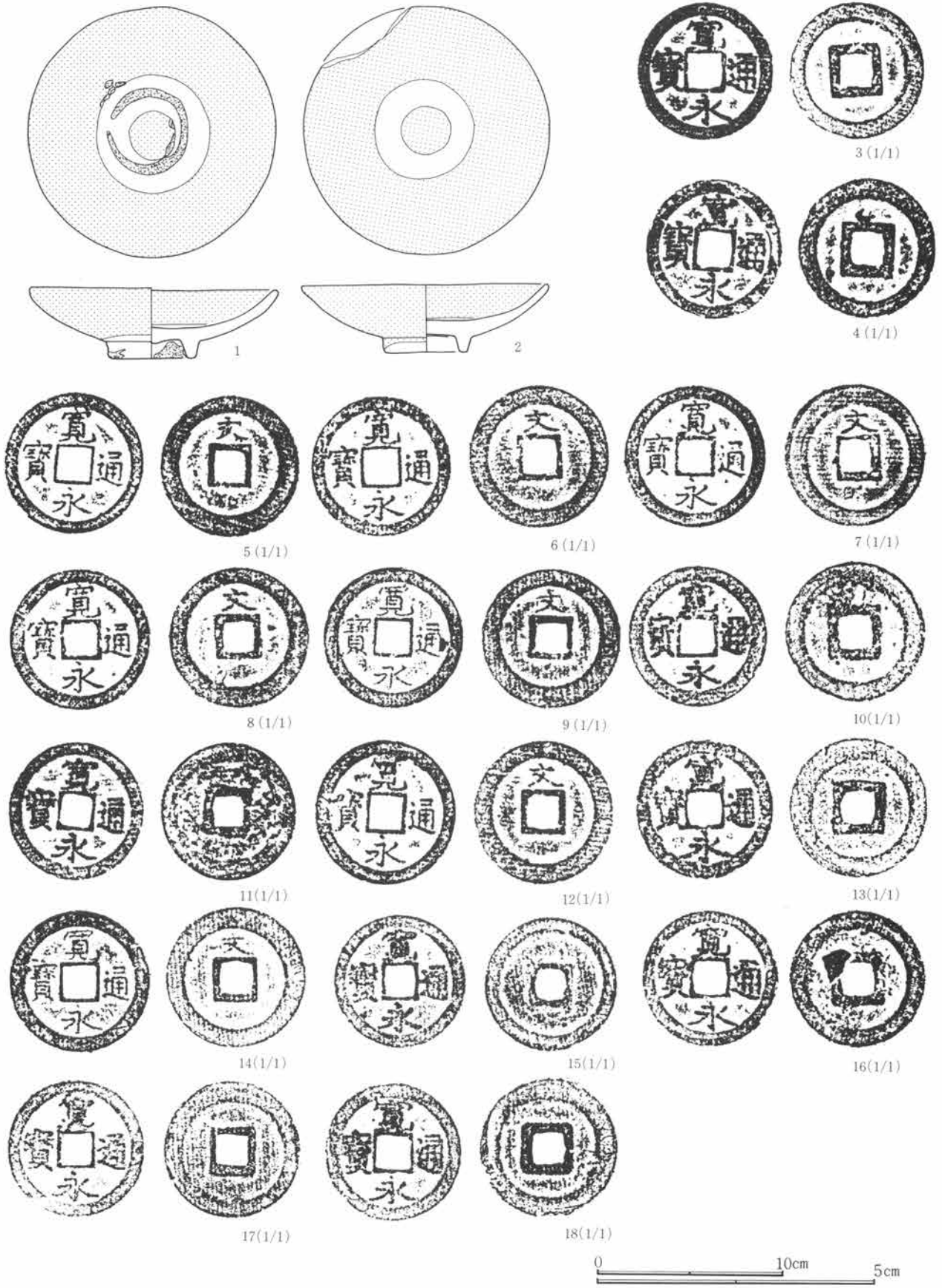
深さ 121cm 面積 0.8m² 主軸方位 N-89°-E

概要 隅丸長方形の掘り方であるが、北側の立ち上がりがほぼ垂直なだけで、他の3辺はかなり斜めに立ち上がっている。また、底部西側に低い段が1段ある。人骨は下層から出土しており、頭蓋骨・大腿骨等が出土している。陶器碗は人骨よりかなり上の、覆土中層から出土している。

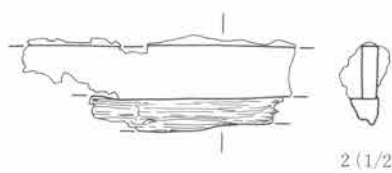
出土遺物 陶器碗1点、煙管雁首・吸口各1点、銅銭1点（寛永通寶）が出土している。



第346图 4号土坑出土遺物



第347図 5号土坑出土遺物



3-1(1/1)

3-2(1/1)

3-3(1/1)



3-4(1/1)

3-5(1/1)

3-6(1/1)



3-7(1/1)

3-8(1/1)

3-9(1/1)

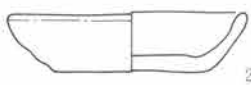
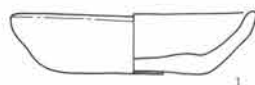


3-10(1/1)

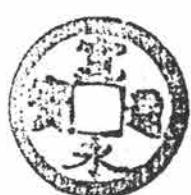
3-11(1/1)

3-12(1/1)

10号土坑



3-1(1/1)



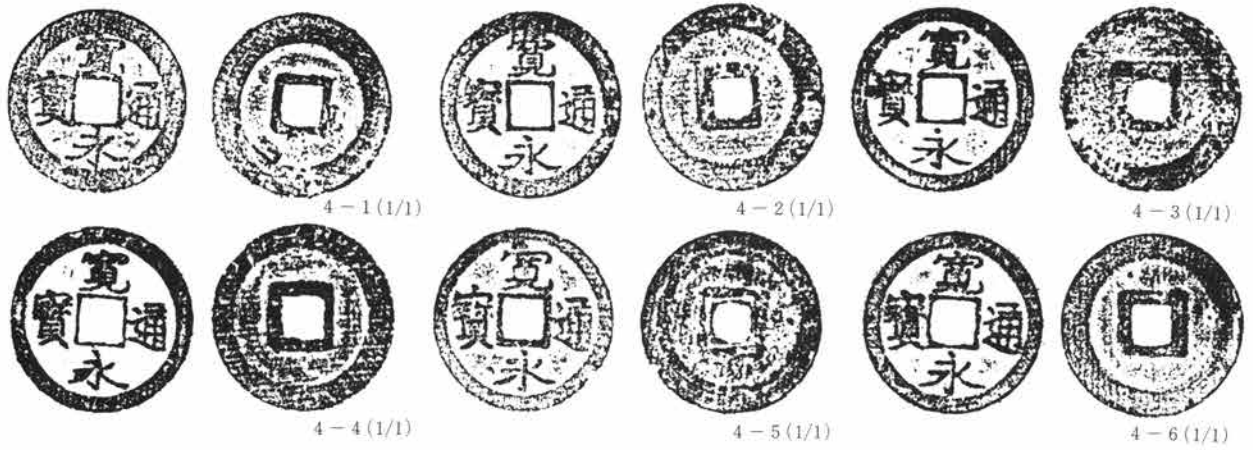
3-2(1/1)

3-3(1/1)

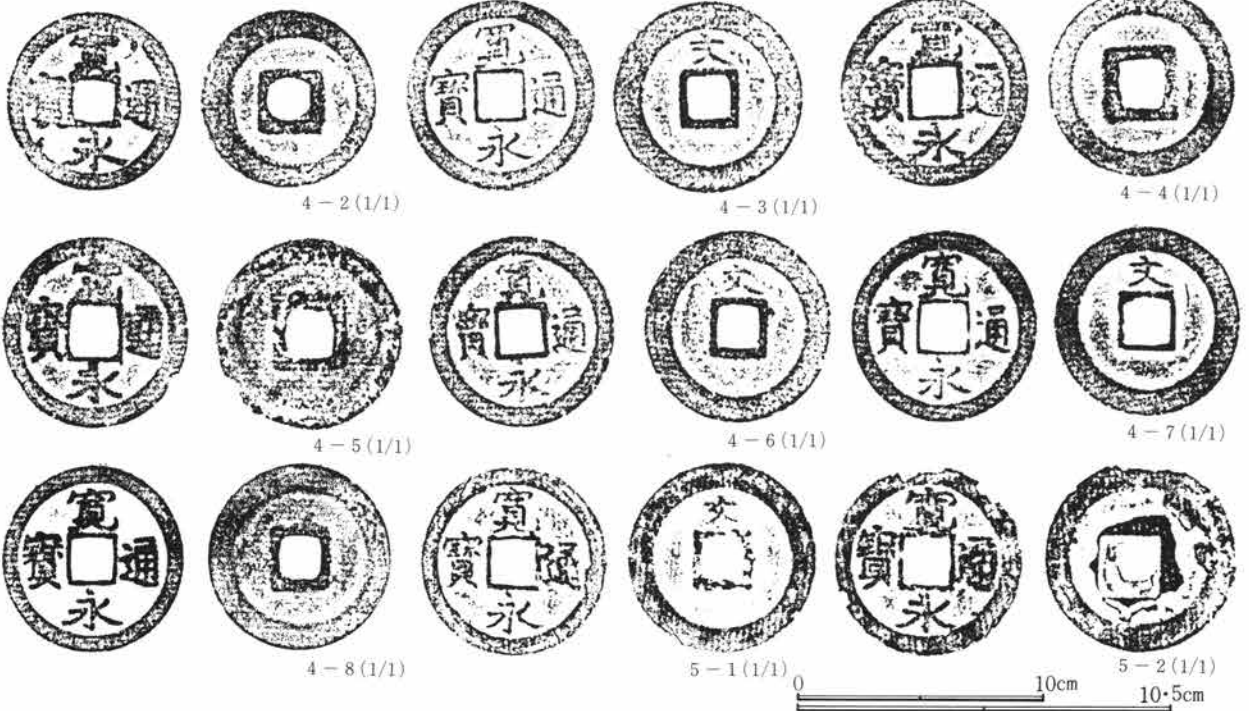
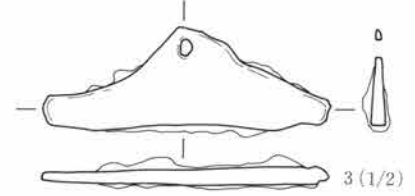
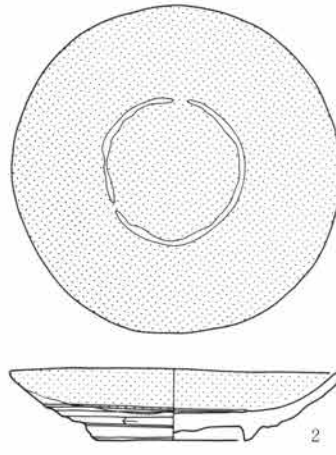
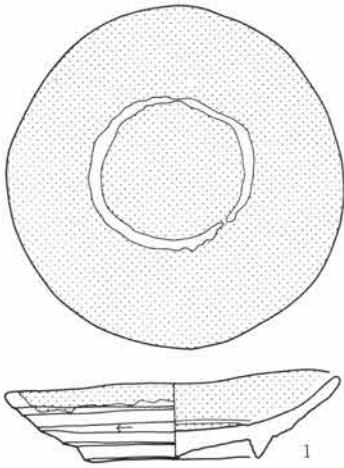
3-4(1/1)



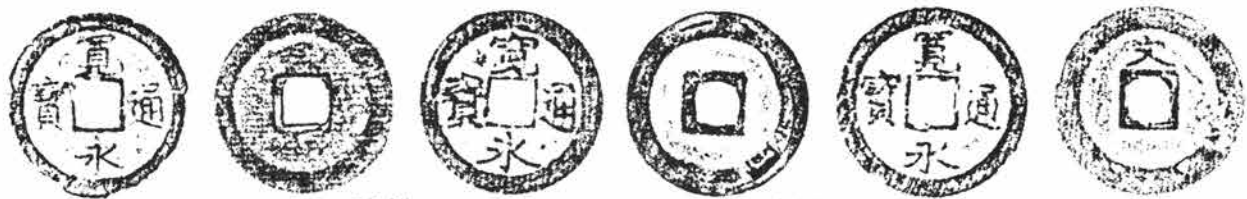
第348图 9·10号土坑出土遺物



12号土坑



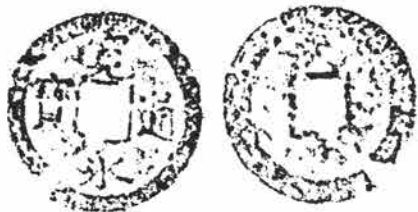
第349図 10・12号土坑出土遺物



5-3(1/1)

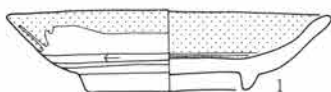
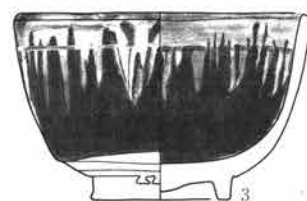
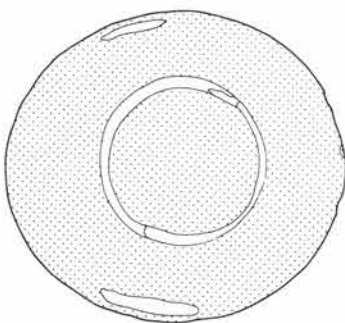
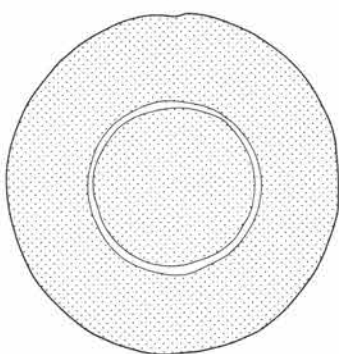
5-4(1/1)

5-5(1/1)

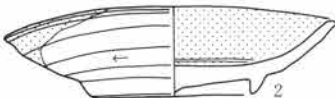


6(1/1)

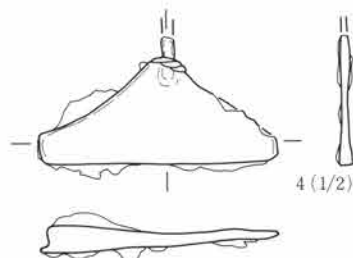
16号土坑



1



2



4(1/2)



5(1/1)



6-1(1/1)



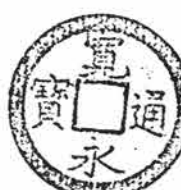
6-2(1/1)



6-3(1/1)



6-4(1/1)



7(1/1)



8-1(1/1)



8-2(1/1)

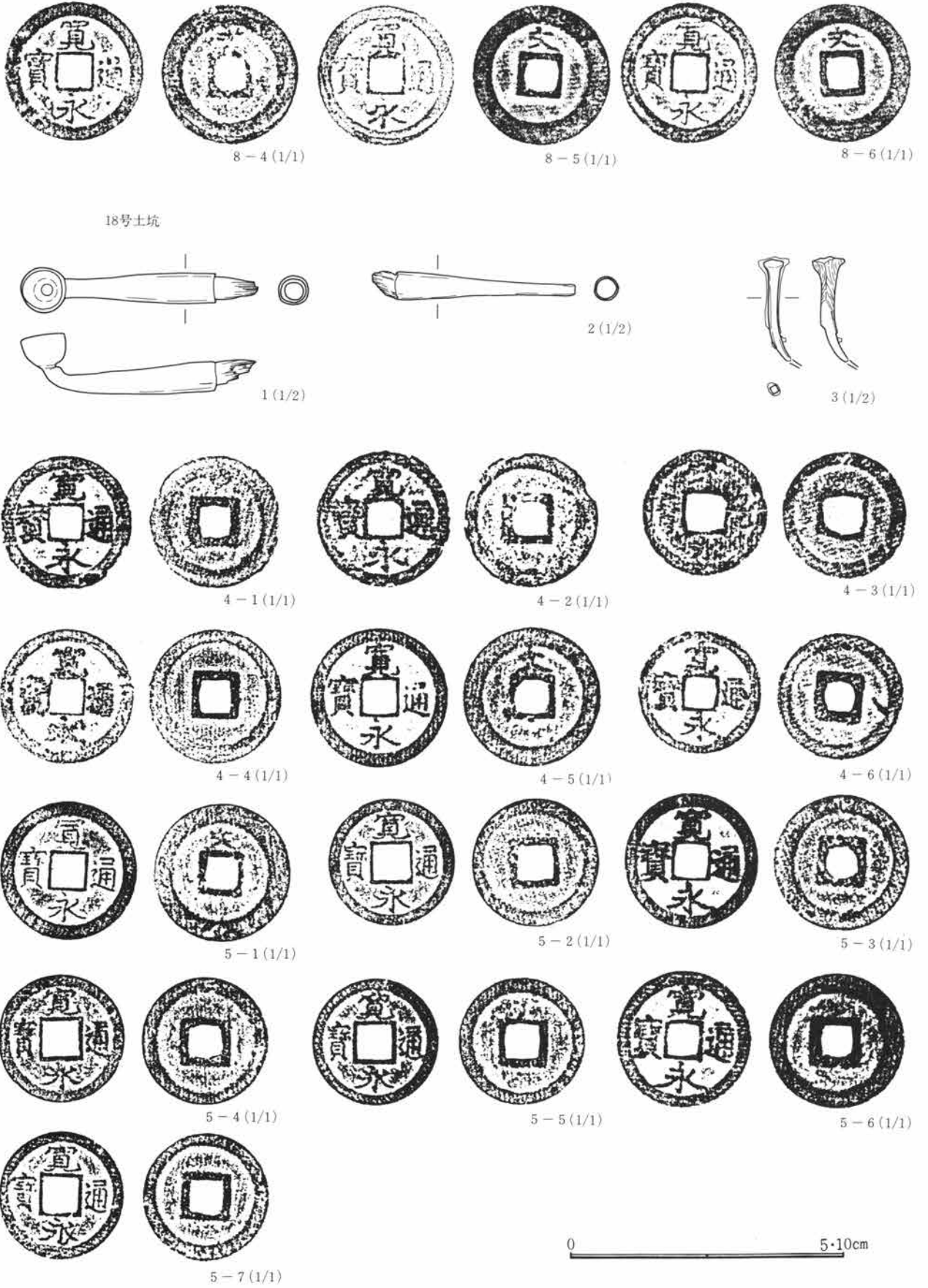


8-3(1/1)

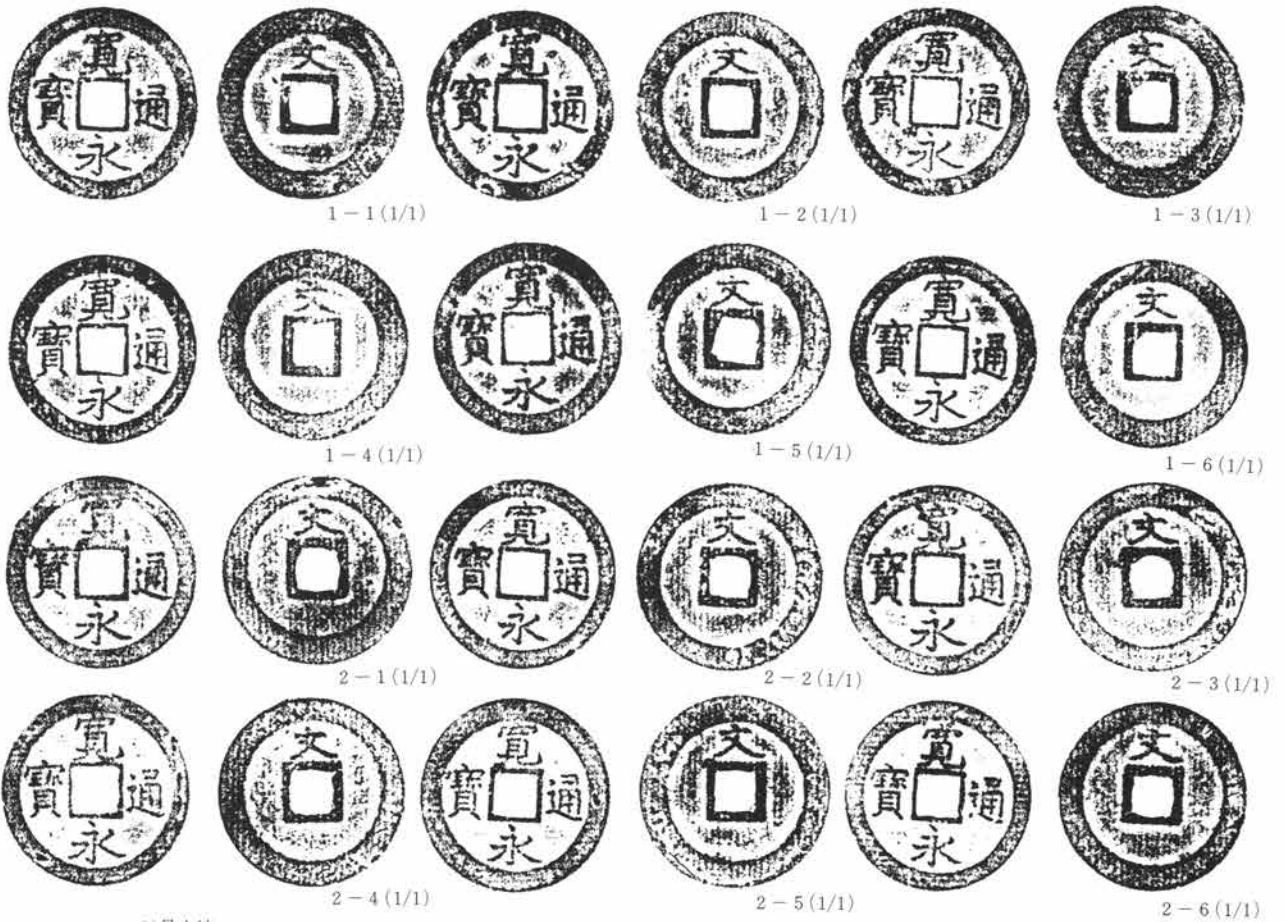


第350图 12·16号土坑出土遺物

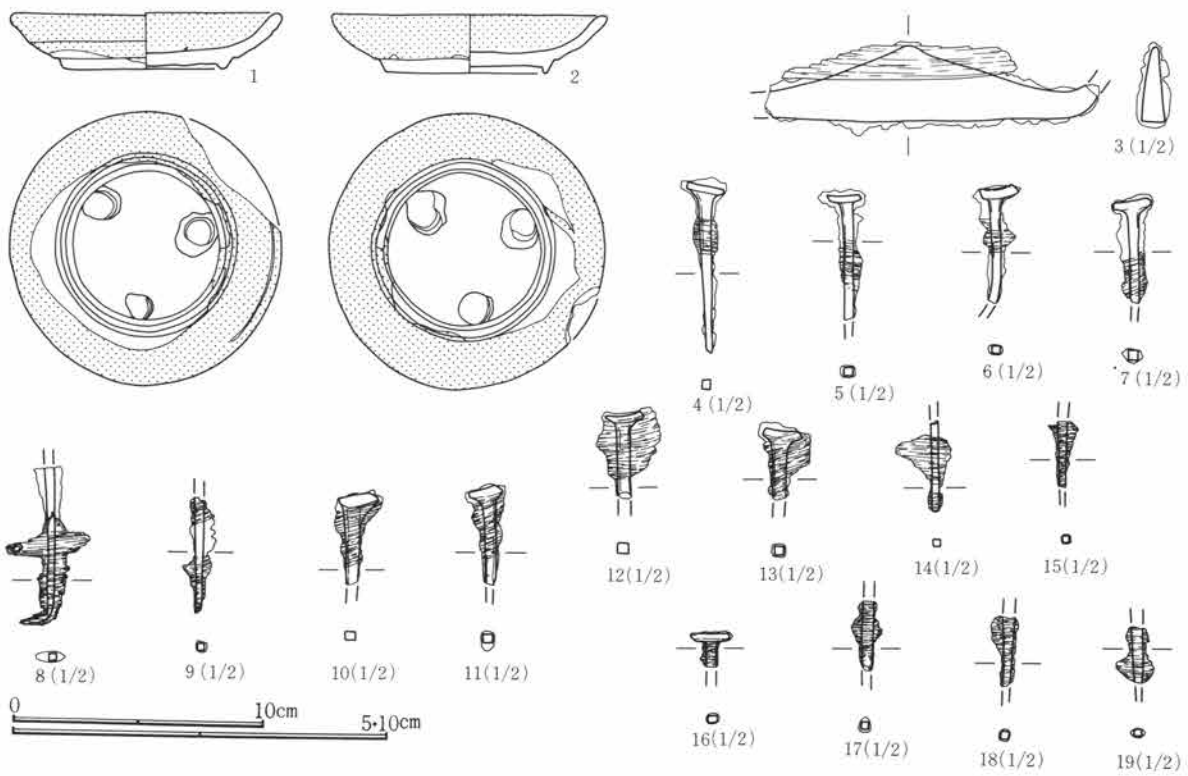
第三章 検出された遺構と出土遺物



第351図 16・18号土坑出土遺物

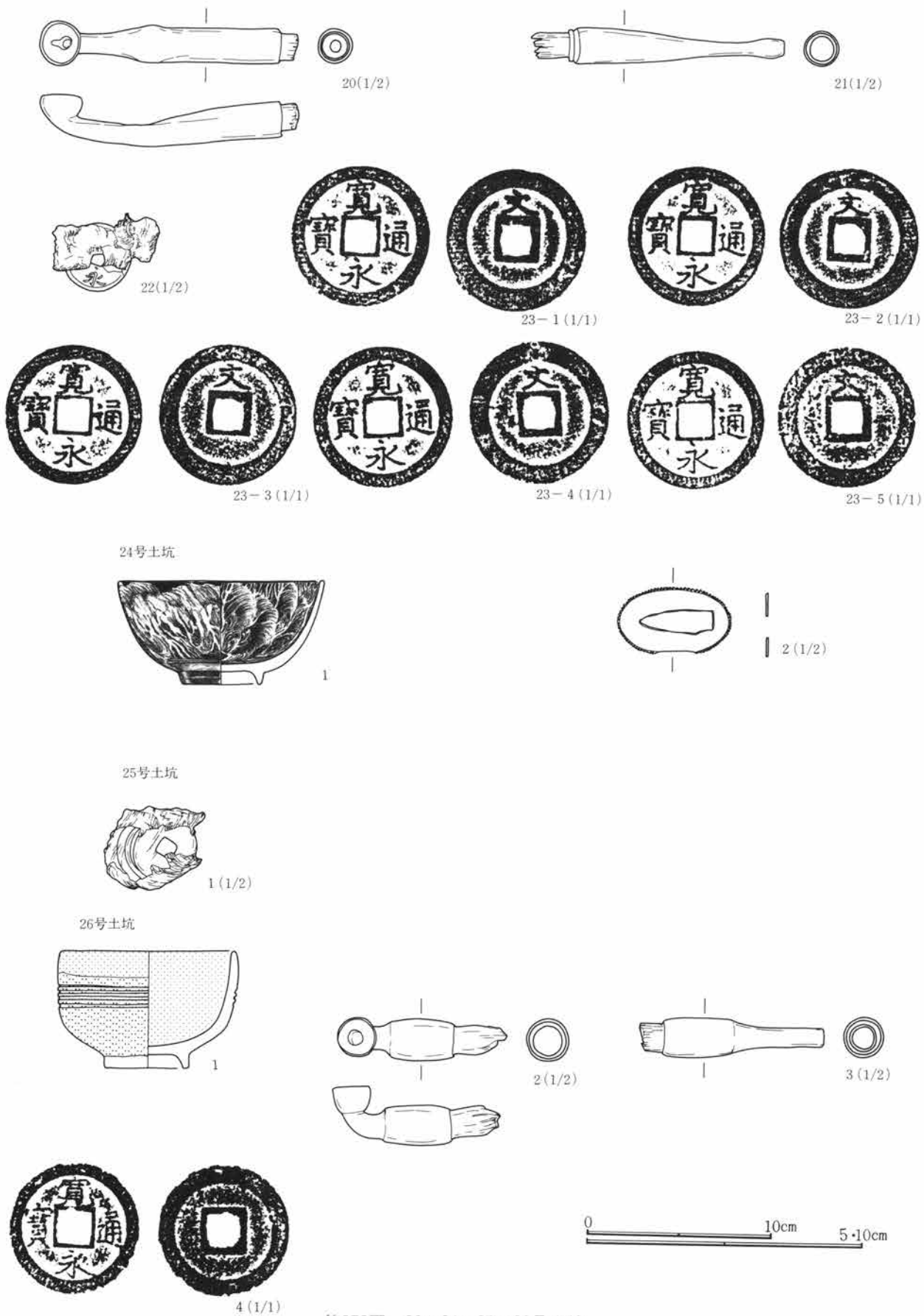


20号土坑



第352图 19·20号土坑出土遺物

第三章 検出された遺構と出土遺物



第353図 20・24・25・26号土坑

土坑出土土器観察表

No.	種別 器種	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	備 考
4 1	陶器 片口鉢	①16.2cm ②5.8cm ③7.9cm ④ほぼ完形	胎土 灰黄 釉 におい黄褐 ③良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整(左) 体部下半回転篋削り 削り出し高台 刷毛目	唐津 18世紀
4 2	陶器 皿	①(13.0cm)②8.0cm ③[2.5cm] ④口~底1/4	胎土 灰白 釉 浅黄 ③良好 ④細 細砂を少量含む	ロクロ調整 灰釉か	
5 1	磁器 皿	①13.2cm ②4.7cm ③3.7cm ④完形	胎土 灰白 釉 明緑灰 ③良好 ④細	ロクロ調整 削り出し高台 輪ハギ 砂 目残る	肥前系青磁 18世紀
5 2	磁器 皿	①13.1cm ②4.4cm ③3.6cm ④ほぼ完形	胎土 灰白 釉 明緑灰 ③良好 ④細	ロクロ調整 削り出し高台 輪ハギ 砂 目残る	肥前系青磁 18世紀
9 1	陶器 碗	①11.6cm ②3.6cm ③6.0cm ④ほぼ完形	胎土 淡橙 釉 暗赤褐 ③良好 ④細	ロクロ調整 打刷毛目	唐津系 18世紀
10 1	土師質土器 皿	①9.7cm ②6.1cm ③2.4cm ④完形	①におい黄橙 ②におい橙 ③酸化 焙 良好 ④細 細砂・パミスを含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	
10 2	土師質土器 皿	①9.0cm ②5.6cm ③2.4cm ④完形	①②におい橙 ③酸化焙 良好 ④細 細砂・パミスを含む	ロクロ調整(左) 底部回転糸切り無調整	
12 1	陶器 皿	①13.2cm ②6.8cm ③3.4cm ④完形	素地 灰白 釉 浅黄 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 体部外面回転篋削り 削り出し高台 灰釉 内面に重ね焼き痕	瀬戸美濃 18C前半
12 2	陶器 皿	①13.2cm ②6.0cm ③2.8cm ④完形	素地 灰白 釉 浅黄 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 体部外面回転篋削り 削り出し高台 灰釉 内面に重ね焼き痕	瀬戸美濃 18C前半
16 1	陶器 皿	①13.2cm ②6.2cm ③3.0cm ④完形	素地 灰白 釉 浅黄 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 体部外面回転篋削り 削り出し高台 灰釉 内面に重ね焼き痕	瀬戸美濃
16 2	陶器 皿	①13.2cm ②6.3cm ③3.5cm ④完形	素地 灰白 釉 浅黄 ③良好 ④細 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 体部外面回転篋削り 削り出し高台 灰釉 内面に重ね焼き痕	瀬戸美濃
16 3	陶器 碗	①11.1cm ②5.4cm ③7.3cm ④完形	素地 灰白 釉 黒褐 明黄褐 灰褐 ③良好 ④細	ロクロ調整(右) 体部下半回転篋削り 削り出し高台	
20 1	陶器 皿	①10.5cm ②6.0cm ③2.2cm ④ほぼ完形	素地 灰白 釉 灰黄 ③良好 ④細 細砂・礫を少量含む	ロクロ調整(右) 体部下半回転篋削り 削り出し高台 灰釉	瀬戸美濃 17 C後~18C前
20 2	陶器 皿	①10.8cm ②6.3cm ③2.3cm ④ほぼ完形	素地 灰白 釉 灰黄 ③良好 ④細 細砂・礫を少量含む	ロクロ調整(右) 体部下半回転篋削り 削り出し高台 灰釉	瀬戸美濃 17 C後~18C前
24 1	陶器 碗	①11.0cm ②4.2cm ③5.5cm ④ほぼ完形	素地 浅黄橙 釉 暗褐 灰 ③良好 ④細	ロクロ調整 打刷毛目	唐津系 18世紀
26 1	陶器 碗	①9.4cm ②4.6cm ③6.2cm ④完形	素地 灰白 釉 明緑灰 褐 ③良好 ④細	ロクロ調整 体部に3条の沈線 削り出 し高台 腰錆	瀬戸美濃 18世紀後半

土坑出土鉄製品観察表

No.	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
9-2	不明	[7.3]	[2.6]	0.7	21.4	両端部欠	木質残存 細長い板状の鉄製品
12-3	火打金	2.8	7.7	0.5	14.4	完形	山型 頂部に透孔あり
16-4	火打金	[3.4]	6.5	0.7	14.3	ほぼ完形	山型 頂部に透孔あり
18-3	角釘	3.8	1.0	0.3	1.7	先端部欠	木質付着 先端部やや曲がる
20-3	火打金	[8.8]	2.0	0.6	26.6	一部欠損	山型 木質一部残存
20-4	角釘	[4.5]	1.0	0.2	2.0	完形	木質付着
20-5	角釘	[3.3]	1.0	0.2	1.4	先端部欠	木質付着
20-6	角釘	[3.1]	1.0	0.2	1.5	先端部欠	木質付着
20-7	角釘	[2.8]	1.0	0.3	1.4	先端部欠	木質付着
20-8	角釘	[4.2]	1.0	0.2	1.7	頭部欠	木質付着
20-9	角釘	[3.0]	0.3	0.2	0.9	頭部欠損	木質付着
20-10	角釘	[2.4]	1.0	0.3	1.4	先端部欠	木質付着
20-11	角釘	[2.7]	0.9	0.3	1.1	先端部欠	木質付着
20-12	角釘	[2.4]	1.0	0.3	1.7	先端部欠	木質付着
20-13	角釘	[1.9]	1.0	0.3	1.3	先端部欠	木質付着
20-14	角釘	[2.4]	0.2	0.2	0.7	頭部欠損	木質付着
20-15	角釘	[1.7]	0.3	0.2	0.3	両端部欠	木質付着
20-16	角釘	[0.9]	1.0	0.2	0.3	先端部欠	木質付着
20-17	角釘	[1.8]	0.3	0.2	0.4	両端部欠	木質付着
20-18	角釘	[1.8]	0.3	0.2	0.4	両端部欠	木質付着
20-19	角釘	[1.5]	0.3	0.2	0.4	両端部欠	木質付着

第三章 検出された遺構と出土遺物

No	器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
4-3	飾り金具	3.8	3.8		6.8	ほぼ完形	表面鍍金 布繊維残存 台座外周破損 輪宝状の飾り金具
4-4	飾り金具	4.0	4.0		7.9	ほぼ完形	表面鍍金 布繊維残存 台座一部欠 輪宝状の飾り金具
4-5	飾り金具	3.8	3.8		6.1	ほぼ完形	表面鍍金 布繊維残存 台座外周破損 輪宝状の飾り金具
4-6	飾り金具	4.0	4.0		9.9	ほぼ完形	表面鍍金 布繊維残存 台座一部欠 輪宝状の飾り金具
4-7	煙管雁首	5.9	1.7	0.1	9.9	完形	羅字残存(篠竹製)
4-8	煙管吸口	5.5	1.1	0.1	3.9	完形	羅字残存(篠竹製) 7と同一か
4-9	飾り金具	4.0	4.0		8.8	ほぼ完形	表面鍍金 布繊維残存 台座残存 輪宝状の飾り金具
4-10	飾り台座	4.0	4.0		2.0	1/2	3~6・9の台座と同一
4-11	銅銭(塊)	5.2	3.2	2.7	43.1		袋入り銅銭11枚が癒着 袋の繊維残存
9-3	銅銭(塊)	3.1	2.6	1.5	38.3		銅銭12枚が癒着 袋の繊維一部残存
18-1	煙管雁首	7.1	1.6	0.1	10.0	完形	羅字一部残存(篠竹製)
18-2	煙管吸口	6.5	1.1	0.1	4.1	完形	羅字一部残存(篠竹製) 1と同一か
20-20	煙管雁首	8.7	1.4	0.1	20.0	完形	羅字一部残存(篠竹製)
20-21	煙管吸口	7.8	1.3	0.1	10.6	完形	羅字一部残存(篠竹製) 20と同一か
20-22	銅銭	4.0	2.5		4.3		袋繊維一部残存
24-2	刀切羽	4.1	2.3	0.1	4.6	完形	
25-1	銅銭	3.9	3.0		18.0		銅銭6枚癒着して離れず 袋繊維一部残存
26-2	煙管雁首	4.3	1.5	0.1	14.3	完形	羅字一部残存(篠竹製)
26-3	煙管雁首	5.8	1.4	0.1	10.0	完形	羅字一部残存(篠竹製)

土坑出土銅銭観察表

No	種別	径 (cm)	孔 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	銭貨名	残存状況	特 徴
4-11-1	銅 銭	2.7	0.8	1.4	3.0	寛永通寶	完形	新寛永
4-11-2	銅 銭	2.3	0.7	1.3	2.6	寛永通寶	完形	新寛永
4-11-3	銅 銭	2.1	0.6	1.1	2.3	寛永通寶	完形	新寛永 背文あり
4-11-4	銅 銭	2.3	0.6	1.3	3.1	寛永通寶	完形	新寛永
4-11-5	銅 銭	2.2	0.6	1.1	2.2	寛永通寶	完形	新寛永 背文あり
4-11-6	銅 銭	2.3	0.6	1.1	2.2	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
4-11-7	銅 銭	2.3	0.6	1.7	3.7	寛永通寶	完形	古寛永か
4-11-8	銅 銭	2.5	0.6	1.3	2.7	寛永通寶	4/5	古寛永
4-11-9	銅 銭	2.3	0.7	1.0	2.2	寛永通寶	完形	新寛永
4-11-10	銅 銭	2.3	0.6	1.4	2.8	寛永通寶	完形	新寛永
4-11-11	銅 銭	2.5	0.6	1.0	3.2	寛永通寶	完形	新寛永
5-3	銅 銭	2.5	0.6	1.6	3.9	寛永通寶	完形	古寛永
5-4	銅 銭	2.5	0.6	1.3	2.8	寛永通寶	完形	古寛永
5-5	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.8	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
5-6	銅 銭	2.5	0.6	1.2	3.2	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
5-7	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
5-8	銅 銭	2.6	0.6	1.4	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
5-9	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.6	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
5-10	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.2	寛永通寶	完形	古寛永
5-11	銅 銭	2.5	0.5	1.3	3.7	寛永通寶	完形	古寛永
5-12	銅 銭	3.0	0.6	1.3	3.2	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
5-13	銅 銭	2.5	0.6	1.2	3.6	寛永通寶	完形	古寛永
5-14	銅 銭	2.6	0.6	1.3	3.5	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
5-15	銅 銭	2.4	0.5	1.1	2.7	寛永通寶	完形	古寛永
5-16	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.7	寛永通寶	完形	古寛永
5-17	銅 銭	2.5	0.5	1.3	3.7	寛永通寶	完形	古寛永
5-18	銅 銭	2.5	0.6	0.3	3.7	寛永通寶	完形	古寛永
9-3-1	銅 銭	2.5	0.6	1.2	3.2	寛永通寶	完形	古寛永
9-3-2	銅 銭	2.4	0.7	0.8	1.7	判読不能	完形	
9-3-3	銅 銭	2.5	0.6	1.5	3.5	寛永通寶	完形	新寛永
9-3-4	銅 銭	2.4	0.6	1.3	3.4	寛永通寶	完形	新寛永
9-3-5	銅 銭	2.4	0.6	1.1	3.0	寛永通寶	完形	古寛永
9-3-6	銅 銭	2.5	0.5	1.4	3.5	寛永通寶	完形	新寛永
9-3-7	銅 銭	2.5	0.6	1.1	2.8	寛永通寶	完形	新寛永
9-3-8	銅 銭	2.3	0.6	1.2	2.6	寛永通寶	完形	新寛永
9-3-9	銅 銭	2.5	0.6	1.1	2.8	寛永通寶	完形	新寛永
9-3-10	銅 銭	2.4	0.6	1.3	2.9	寛永通寶	完形	新寛永

No	種 別	径 (cm)	孔 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	銭貨名	残存状況	特 徴
9-3-11	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.4	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
9-3-12	銅 銭	2.5	0.6	1.5	3.9	寛永通寶	完形	新寛永
10-3-1	銅 銭	2.4	0.6	1.3	3.5	永楽通寶	完形	
10-3-2	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.4	寛永通寶	完形	古寛永
10-3-3	銅 銭	2.4	0.6	1.8	3.7	寛永通寶	完形	新寛永か
10-3-4	銅 銭	2.4	0.5	1.6	3.9	寛永通寶	完形	古寛永
10-4-1	銅 銭	2.4	0.5	1.3	3.4	寛永通寶	完形	古寛永
10-4-2	銅 銭	2.5	0.5	1.5	3.6	寛永通寶	完形	古寛永
10-4-3	銅 銭	2.4	0.5	1.5	3.3	寛永通寶	完形	古寛永
10-4-4	銅 銭	2.5	0.6	1.7	3.8	寛永通寶	完形	古寛永
10-4-5	銅 銭	2.4	0.5	1.5	3.9	寛永通寶	完形	古寛永
10-4-6	銅 銭	2.4	0.5	1.4	4.0	寛永通寶	完形	古寛永
12-4-1	銅 銭	2.5	0.7	1.1	3.4	熙寧元寶	完形	
12-4-2	銅 銭	2.6	0.6	1.2	3.5	寛永通寶	完形	古寛永
12-4-3	銅 銭	2.4	0.6	1.0	2.5	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
12-4-4	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.9	寛永通寶	完形	古寛永
12-4-5	銅 銭	2.5	0.6	1.5	3.7	寛永通寶	完形	古寛永
12-4-6	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
12-4-7	銅 銭	2.5	0.6	1.2	3.1	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
12-4-8	銅 銭	2.5	0.5	1.5	4.4	寛永通寶	完形	古寛永
12-5-1	銅 銭	2.5	0.6	1.7	4.3	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
12-5-2	銅 銭	2.5	0.6	1.7	3.6	寛永通寶	完形	古寛永
12-5-3	銅 銭	2.5	0.6	1.3	2.4	寛永通寶	完形	新寛永
12-5-4	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.6	寛永通寶	完形	新寛永か
12-5-5	銅 銭	2.6	0.6	1.3	3.2	寛永通寶	完形	新寛永
12-6	銅 銭	2.6	0.6	1.7	3.1	寛永通寶	完形	新寛永 一部割れる
16-5	銅 銭	2.4	0.6	1.1	2.6	寛永通寶	完形	古寛永
16-6-1	銅 銭	2.5	0.5	1.5	4.0	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
16-6-2	銅 銭	2.5	0.5	1.5	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
16-6-3	銅 銭	2.4	0.6	1.5	2.6	寛永通寶	外周一部欠	古寛永か
16-6-4	銅 銭	2.4	0.5	1.4	3.4	寛永通寶	完形	古寛永か
16-7	銅 銭	2.5	0.6	1.5	4.0	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
16-8-1	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.4	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
16-8-2	銅 銭	2.5	0.5	1.7	3.5	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
16-8-3	銅 銭	2.5	0.6	1.6	3.3	寛永通寶	完形	古寛永
16-8-4	銅 銭	2.6	0.6	1.3	3.6	寛永通寶	完形	新寛永
16-8-5	銅 銭	2.6	0.6	1.4	3.5	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
16-8-6	銅 銭	2.5	0.6	1.5	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
18-4-1	銅 銭	2.4	0.6	1.2	3.3	寛永通寶	完形	古寛永
18-4-2	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.1	寛永通寶	完形	新寛永か
18-4-3	銅 銭	2.3	0.7	1.3	2.0	寛永通寶	完形	新寛永か
18-4-4	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.4	寛永通寶	完形	古寛永
18-4-5	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.0	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
18-4-6	銅 銭	2.3	0.5	1.3	2.9	寛永通寶	完形	古寛永か
18-5-1	銅 銭	2.5	0.6	1.4	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
18-5-2	銅 銭	2.3	0.6	1.3	3.1	寛永通寶	完形	新寛永
18-5-3	銅 銭	2.5	0.6	1.6	4.7	寛永通寶	完形	古寛永
18-5-4	銅 銭	2.3	0.6	1.4	3.4	寛永通寶	完形	新寛永
18-5-5	銅 銭	2.3	0.6	1.0	2.4	寛永通寶	完形	新寛永
18-5-6	銅 銭	2.5	0.5	1.5	3.8	寛永通寶	完形	古寛永
18-5-7	銅 銭	2.3	0.6	1.1	2.7	寛永通寶	完形	新寛永
19-1-1	銅 銭	2.6	0.6	1.4	3.9	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-1-2	銅 銭	2.5	0.6	1.6	3.6	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-1-3	銅 銭	2.5	0.6	1.5	3.8	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-1-4	銅 銭	2.5	0.5	1.6	4.1	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-1-5	銅 銭	2.6	0.6	1.5	4.4	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-1-6	銅 銭	2.5	0.6	1.5	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-2-1	銅 銭	2.6	0.6	1.4	4.2	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-2-2	銅 銭	2.5	0.5	1.5	4.1	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-2-3	銅 銭	2.6	0.6	1.4	4.1	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」

第三章 検出された遺構と出土遺物

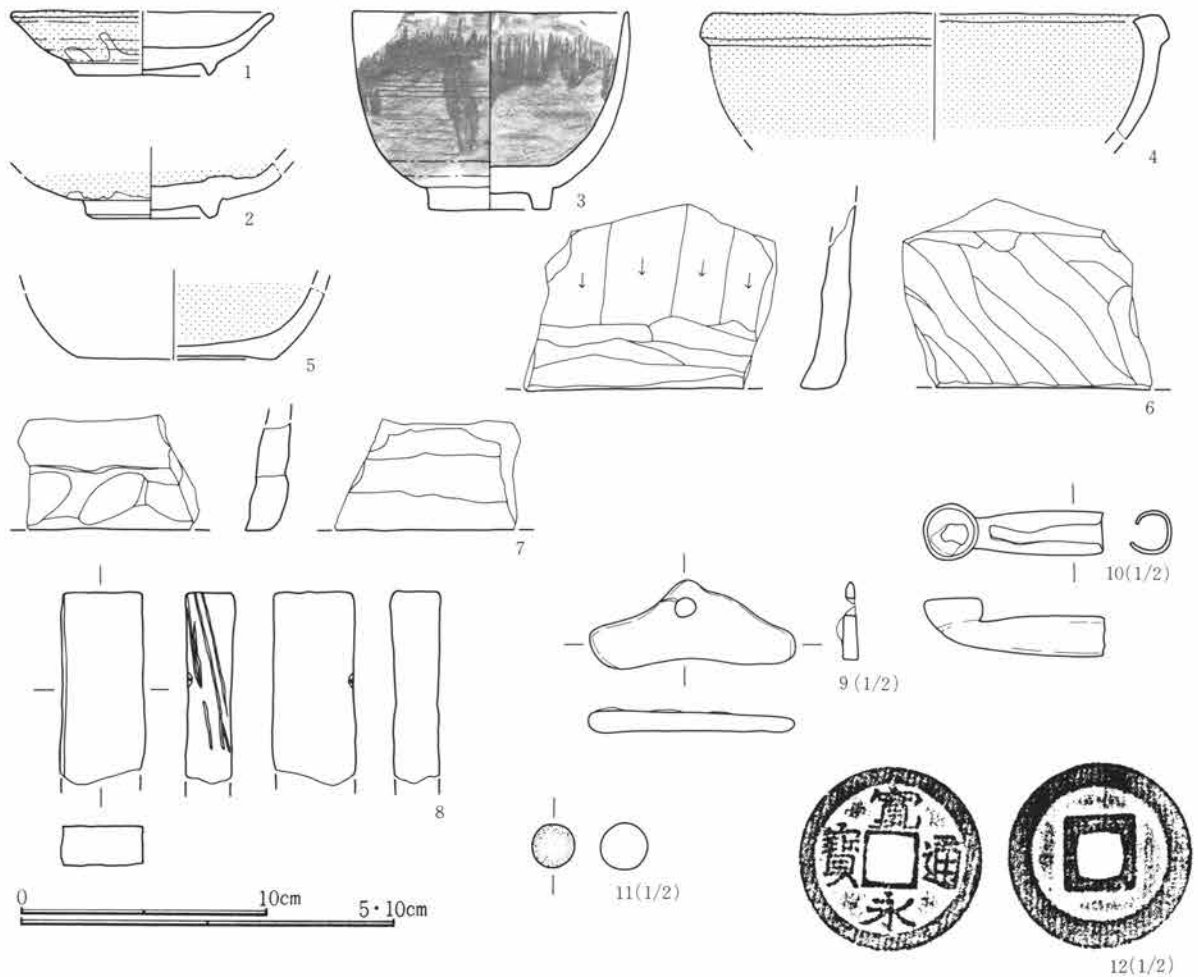
No	種別	径 (cm)	孔 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	銭貨名	残存状況	特徴
19-2-4	銅 銭	2.6	0.6	1.4	4.0	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-2-5	銅 銭	2.6	0.6	1.3	3.4	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
19-2-6	銅 銭	2.5	0.6	1.3	3.1	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
20-23-1	銅 銭	2.6	0.6	1.4	3.6	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
20-23-2	銅 銭	2.5	0.5	1.3	3.7	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
20-23-3	銅 銭	2.5	0.6	1.4	4.1	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
20-23-4	銅 銭	2.6	0.6	1.4	3.5	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
20-23-5	銅 銭	2.5	0.6	1.3	2.9	寛永通寶	完形	新寛永 背文「文」
26-4	銅 銭	2.4	0.6	1.1	2.4	寛永通寶	完形	新寛永

遺構外出土遺物

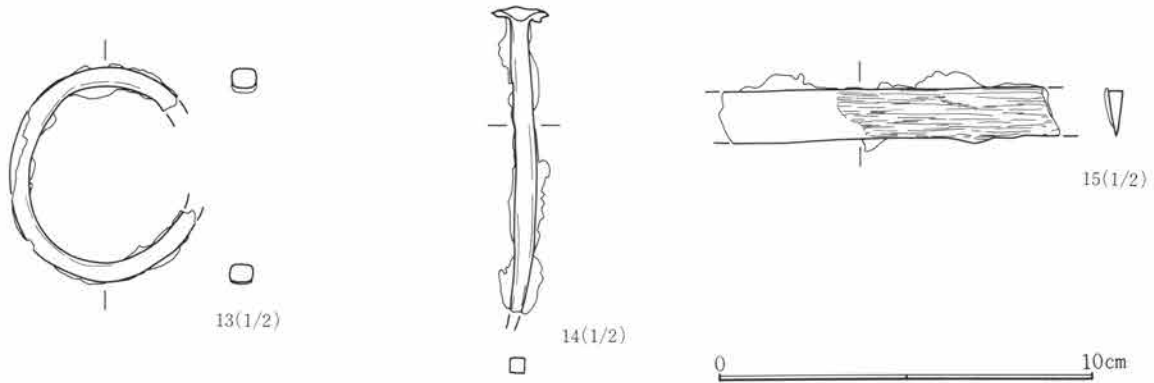
遺構外からも少量ではあるが、遺物が出土している。陶器、磁器、軟質陶器の他、砥石1点、鉄製火打金1点、銅製煙管雁首1点、銅銭（寛永通寶）1点、鉛製鉄砲玉1点が出土している。

出土土器・陶磁器数量表

種別	陶器						磁器		軟質陶器		計
	碗	皿	壺	壺	こね鉢	擂鉢	碗	鍋	焙烙		
点数	56	10	13	3	3	14	15	17	2	133	



第354図 遺構外出土遺物(1)



第355図 遺構外出土遺物(2)

遺構外出土土器観察表

No	種別 器種	出土 位置	法量 ①口径②底径 (cm) ③高さ④残存	①色調(表) ②色調(裏) ③焼成 ④胎土	調 整	備 考
1	陶器 皿	1号暗 渠	①(12.0cm)②(5.8cm) ③2.3cm ④口~底1/3	①灰黄 ②オリーブ黄 ③良好 ④細 細砂を含む	ロクロ調整(右か) 削り出し高台 灰釉か	瀬戸美濃系か
2	陶器 碗	C22- VII2	①- ②(4.8cm) ③- ④底部	素地・釉 灰白 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	ロクロ調整(右) 削り出し高台	志野系の碗か
3	陶器 碗	D8- VII31	①(11.0cm)②4.8cm ③7.7cm ④口~底1/3	素地 灰白 釉 浅黄 オリーブ褐 ③良好 ④細 粗砂を少量含む	ロクロ調整(右か) 削り出し高台	
4	陶器 鉢	D11- VIII31	①(17.8cm)②- ③- ④口~胴1/5	素地 灰白 灰 釉 灰オリーブ ③良好 ④普通 細砂を含む	ロクロ調整 両面にピンホールあり	
5	陶器 鉢	2号谷 津	①- ②(7.6cm) ③- ④底部1/2	素地 橙 釉 褐 ③良好 ④普通 細砂を少量含む	ロクロ調整 底部ナデか	
6	軟質陶器 不明	C20- VII16	器厚9~13mm ④底部片	①明赤褐 ②にぶい黄褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面篋削り 内面指頭によるナデ	
7	軟質陶器 不明	C22- VII22	器厚11~14mm ④底部片	①黒褐 ②褐 ③良好 ④普通 細砂・粗砂を含む	外面オサエ 内面指頭によるナデ	

遺構外出土石器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	石 材	特 徴
8	砥石	1号暗渠	[7.6]	3.3	1.9	85	一部欠損	流紋岩	5面使用 刃ならしキズあり

遺構外出土鉄器観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
9	火打金	8号住居	2.4	5.5	0.6	15.7	完形	山型 頂部に透孔あり 使用による摩耗著しい
13	環状鉄製品	シート1	5.6	[4.9]	0.7	12	一部欠損	
14	角釘	シート11	[8.0]	1.3	0.4	7.8	先端部欠	先端やや曲がる
15	刀子	シート3	9.0	1.4	0.5	14.4	1/3	木質一部残存(鞘か)

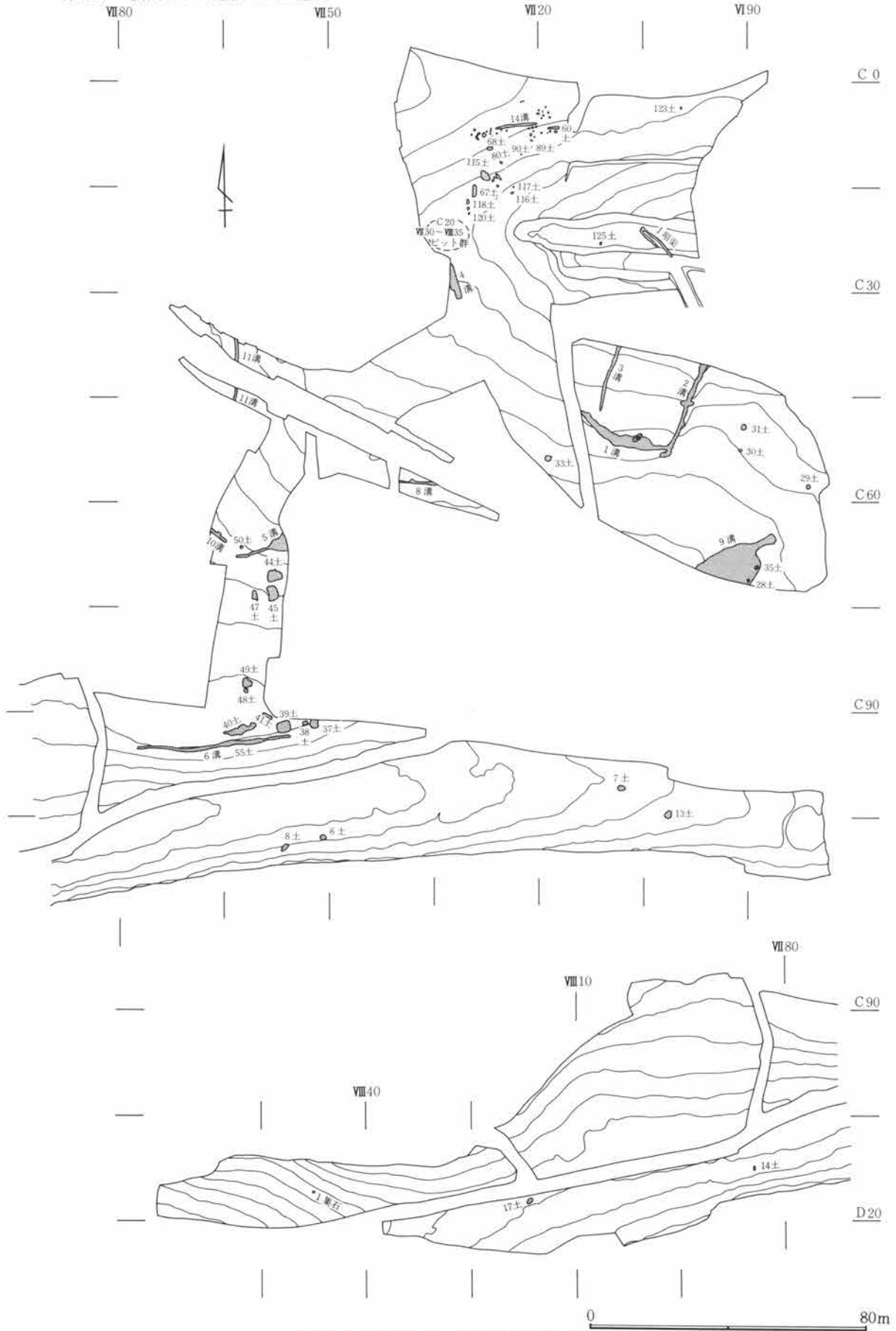
遺構外出土銅・鉛製品観察表

No	器 種	出土位置	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	特 徴
10	煙管雁首	39号住居	4.8	1.5	0.1	6.4	完形	
11	鉄砲玉	1号暗渠	1.2	1.2	1.2	8.4	完形	鉛製

遺構外出土銅銭観察表

No	種 別	出土位置	径 (cm)	孔 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	銭貨名	残存状況	特 徴
12	銅銭	D9-VII60	2.5	0.6	1.2	3.3	寛永通寶	完形	

第三章 検出された遺構と出土遺物



第356図 近代以降・時期不明遺構位置図

第6節 近代以降・時期不明

近代以降・時期不明の遺構は、土坑・溝・暗渠・ピット群が検出されている。

(1) 土坑

土坑は83基検出されている。

①分布 調査区南側やや北寄りに12基集中しており、調査区北側やや東寄りには小規模な土坑が数十基集中している。他は、調査区東側と南側に散在している。

②平面形態 円形が36基で最も多く、続いて楕円形25基、隅丸長方形10基、不正形9基、隅丸方形3基となっている。

③規模 長径0.30～9.30m平均1.26m、短径0.28～3.72m平均0.80m、深さ12～106cm平均37cm、面積0.1～12.4m²平均1.3m²である。

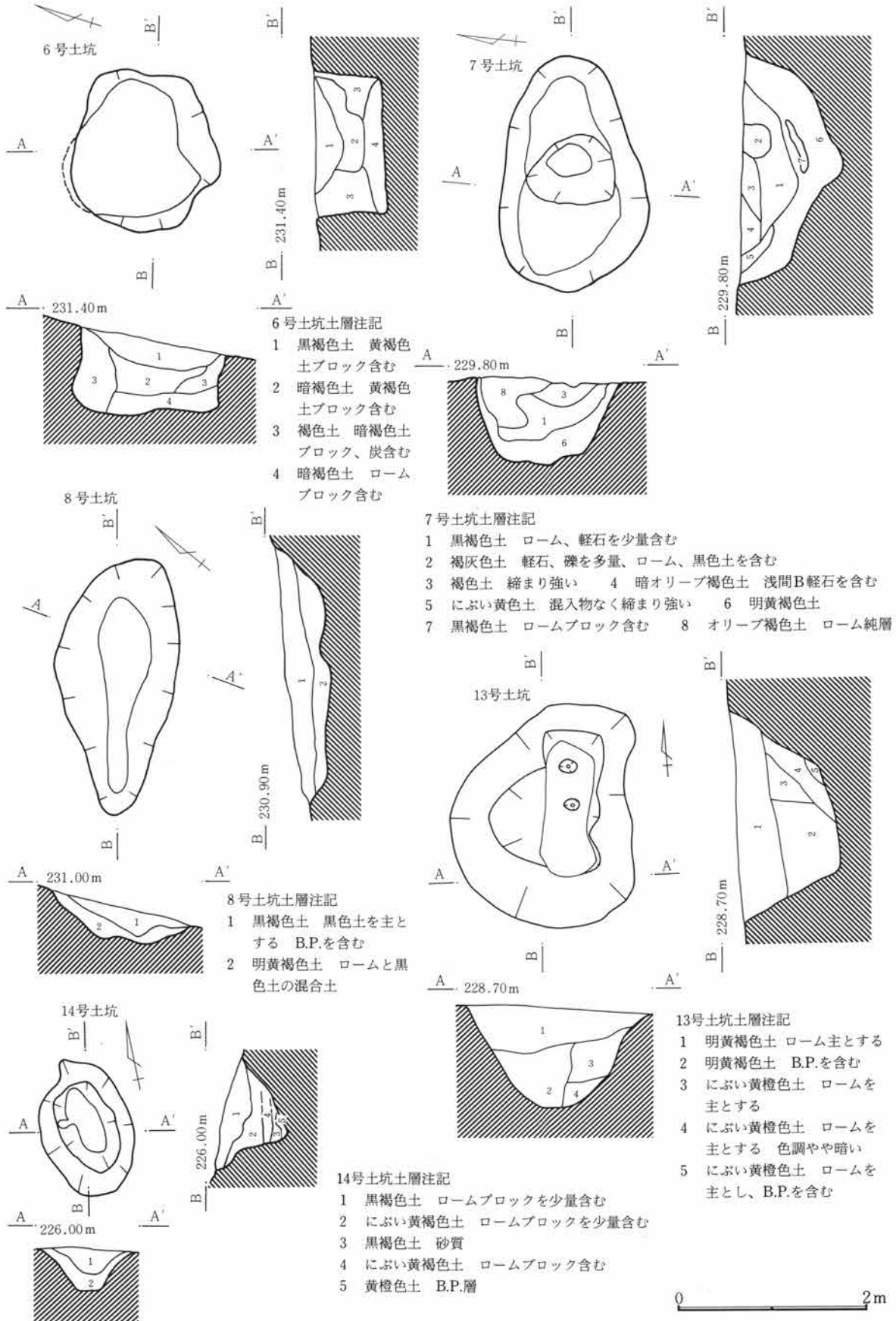
出土遺物がほとんど無く、時期は不明で、性格も不明なものが多い。

近代以降・時期不明土坑一覧表

No.	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	規模(m)	深さ (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	備考
6	D7-VII50~52	なし	楕円形	1.68 × 1.54	44	2.0	N-44'-E	
7	D0-VII7~9	なし	楕円形	2.40 × 1.54	102	2.4	N-73'-W	
8	D8・9-VII55・56	なし	楕円形	2.72 × 1.30	70	2.9	N-63'-E	
11	D54-VII41	なし	不正形	2.28 × 0.34	46	1.8	N-63'-W	
13	D4・5-VII1	なし	楕円形	2.34 × 1.90	106	3.6	N-21'-E	縄文の落とし穴の可能性あり
14	D12-VII84	なし	楕円形	1.48 × 0.96	66	1.0	N-13'-W	
17	D16・17-VII17・18	なし	隅丸長方形	1.96 × 1.22	60	2.1	N-68'-E	
28	C71-VI89・90	なし	隅丸長方形	1.00 × 0.58	38	0.6	N-18'-W	
29	C57・58-VI81・82	なし	楕円形	1.46 × 1.32	62	1.4	N-14'-W	
30	C52-VI91	なし	円形	1.16 × 1.08	24	1.0	N-89'-E	
31	C48・49-VI90・91	なし	円形	1.34 × 1.40	40	1.4	N-84'-W	
33	C53・54-VII18・19	なし	楕円形	1.83 × 1.70	42	2.1	N-62'-E	
35	C69-VII38・39	なし	楕円形	0.85 × 0.73	34	0.5	N-35'-W	
37	C91・92-VII51・52	なし	隅丸方形	2.18 × [2.02]	14	[3.9]	N-3'-E	
38	C91-VII53	なし	楕円形	1.44 × 1.00	12	1.3	N-74'-E	
39	C91・92-VII55~57	なし	隅丸方形	3.60 × 3.00	14	10.6	N-67'-E	
40	C91~93-VII60~64	なし	不正形	9.30 × 2.12	36	12.4	N-74'-E	
41	C90・91-VII58・59	なし	隅丸長方形	2.99 × 1.04	13	2.6	N-58'-W	
44	C69~71-VII56~58	なし	隅丸長方形	4.11 × 3.05	57	10.4	N-80'-E	
45	C72~74-VII57・58	なし	隅丸長方形	4.19 × 2.54	39	9.2	N-17'-W	
47	C72~74-VII60	なし	不正形	3.10 × 1.58	38	3.5	N-29'-W	
48	C86・87-VII61・62	なし	不正形	1.24 × 0.98	44	0.9	N-40'-W	
49	C85・86-VII60~62	なし	不正形	3.20 × 2.48	26	5.9	N-15'-E	
50	C66-VII62	なし	隅丸長方形	1.14 × 0.88	52	0.9	N-60'-E	
54	C86-VII69	なし	円形	0.68 × 0.60	24	0.3	N-79'-E	
55	C94-VII63	6号溝と重複	楕円形	1.02 × [0.82]	35	[0.7]	N-12'-E	
60	C6-VII17~19	なし	隅丸長方形	3.45 × 0.50	25	2.5	N-7'-W	
61	C7-VII20	なし	楕円形	0.58 × 0.49	57	0.2	N-1'-E	
62	C7-VII18	なし	楕円形	0.64 × 0.56	49	0.3	N-83'-W	
63	C7-VII17	なし	円形	0.80 × 0.75	50	0.4	N-53'-W	
64	C7-VII18・19	なし	円形	0.50 × 0.46	39	0.2	N-43'-W	
67	C14~16-VII29・30	なし	隅丸長方形	3.16 × 1.02	48	3.0	N-S	
68	C9-VII26・27	なし	隅丸長方形	1.50 × 0.64	12	0.9	N-86'-W	
69	C7~9-VII27・28	なし	円形	1.18 × 1.00	102	1.0	N-68'-W	
70	C7-VII27	なし	円形	0.40 × 0.36	22	0.1	N-83'-W	
71	C6-VII26・27	なし	円形	0.48 × 0.44	34	0.2	N-82'-W	
72	C6-VII25・26	14号溝と重複	円形	0.48 × 0.40	32	0.1	N-10'-E	

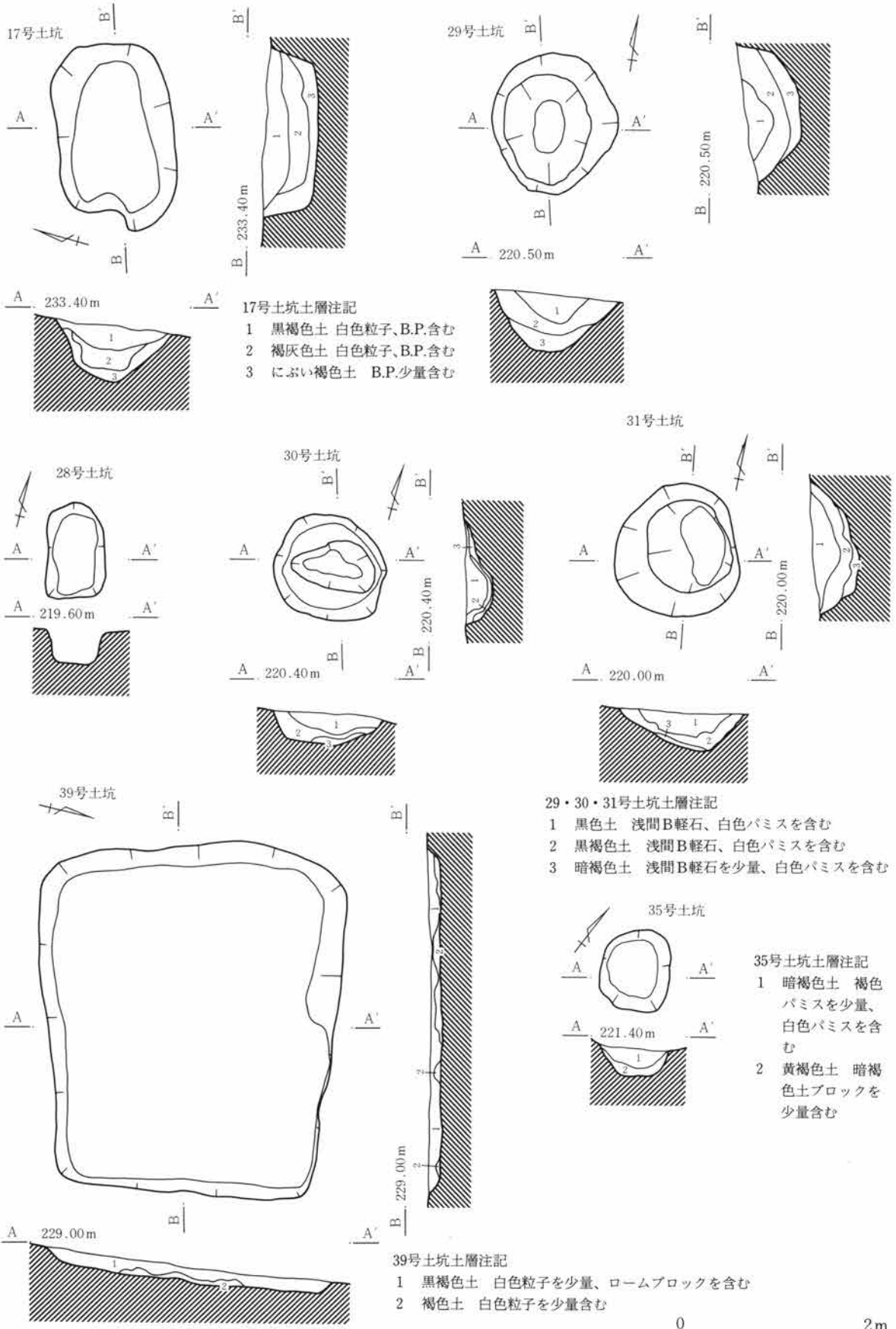
第三章 検出された遺構と出土遺物

No	位置 (Gr)	重複関係	平面形態	規模(m)	深さ (cm)	面積 (㎡)	主軸方位	備考
73	C 6・7-VII25	なし	円形	0.64 × 0.60	26	0.3	N-10°-E	
74	C 7-VII25・26	なし	円形	0.52 × 0.50	22	0.2	N-6°-W	
75	C 7-VII26・27	なし	円形	0.36 × 0.34	24	0.1	N-2°-E	
76	C 7-VII26・27	なし	円形	0.40 × 0.36	38	0.1	N-28°-E	
77	C 7-VII26	なし	円形	0.36 × 0.30	20	0.1	N-26°-E	
78	C 6・7-VII24	なし	円形	0.58 × 0.46	30	0.2	N-36°-E	
80	C 11-VII25	なし	円形	0.76 × 0.70	16	0.4	N-57°-W	
81	C 6-VII21	なし	円形	0.66 × 0.60	16	0.3	N-52°-W	
82	C 6-VII20・21	なし	円形	0.66 × 0.58	16	0.3	N-84°-W	
83	C 6-VII20	なし	円形	0.48 × 0.44	34	0.2	N-17°-E	
84	C 7-VII20・21	なし	円形	0.36 × 0.32	58	0.1	N-82°-E	
85	C 7-VII21	なし	円形	0.62 × 0.54	22	0.3	N-16°-W	
86	C 7-VII20	なし	楕円形	0.48 × 0.30	14	0.1	N-83°-W	
87	C 8-VII21	なし	円形	0.44 × 0.40	28	0.1	N-16°-W	
88	C 8-VII21	なし	円形	0.38 × 0.34	24	0.1	N-86°-E	
89	C 9-VII21	なし	円形	0.40 × 0.32	18	0.1	N-75°-W	
90	C 10-VII22	なし	円形	0.66 × 0.58	30	0.3	N-38°-E	
91	C 13-VII25・26	なし	楕円形	0.46 × 0.30	26	0.1	N-74°-W	
92	C 13-VII25・26	なし	楕円形	1.20 × 0.80	30	0.8	N-25°-W	
93	C 13-VII26	なし	楕円形	0.56 × 0.38	36	0.2	N-13°-E	
94	C 13・14-VII26	なし	円形	0.90 × 0.76	80	0.5	N-40°-E	
95	C 13・14-VII25	なし	楕円形	0.68 × 0.52	38	0.3	N-31°-W	
96	C 14・15-VII25・26	なし	円形	0.70 × 0.60	18	0.3	N-33°-W	
97	C 6・7-VII29	なし	不正形	1.02 × 0.74	34	0.5	N-25°-E	
98	C 7-VII29	なし	円形	0.46 × 0.34	42	0.1	N-9°-E	
99	C 7-VII28	100土坑より古	円形	0.56 × 0.56	18	0.3	N-28°-W	
100	C 7-VII28	99土坑より新	円形	0.46 × 0.44	30	0.2	N-34°-W	
101	C 7・8-VII28・29	なし	円形	0.66 × 0.60	18	0.3	N-67°-W	
102	C 8-VII28・29	なし	楕円形	0.42 × 0.28	18	0.1	N-15°-W	
103	C 8-VII28	なし	楕円形	0.56 × 0.42	18	0.2	N-35°-W	
104	C 6-VII19・20	なし	不正形	1.48 × 0.40	64	0.7	N-88°-W	
105	C 5-VII18	なし	楕円形	0.48 × 0.30	30	0.1	N-73°-W	
106	C 5-VII19	なし	円形	0.30 × 0.28	24	0.1	N-61°-E	
107	C 4-VII20	なし	隅丸長方形	0.58 × 0.34	12	0.2	N-72°-E	
108	C 4・5-VII19	なし	円形	0.48 × 0.38	42	0.1	N-60°-W	
109	C 4-VII19・20	なし	円形	0.38 × 0.36	20	0.1	N-8°-W	
110	C 3-VII19	なし	円形	0.40 × 0.34	14	0.1	N-76°-W	
111	C 4-VII19	なし	楕円形	0.58 × 0.40	46	0.2	N-74°-W	
112	C 4-VII18	なし	楕円形	0.56 × 0.40	60	0.2	N-16°-E	
115	C 12~14-VII27・28	なし	不正形	3.56 × 1.62	82	4.4	N-39°-W	
118	C 16・17-VII29・30	なし	不正形	1.12 × 0.54	46	0.6	N-6°-W	
119	C 18-VII29・30	なし	楕円形	0.92 × 5.60	70	0.4	N-10°-W	
120	C 18・19-VII29・30	なし	楕円形	0.82 × 0.58	34	0.4	N-19°-W	
123	C 3-VI99・VII 0	なし	円形	0.72 × 0.56	20	0.3	N-5°-W	
124	C 15-VII28	なし	隅丸方形	0.52 × [0.48]	18	[0.2]	N-9°-E	
125	C 23・24-VII 7	なし	楕円形	0.76 × 0.36	28	0.2	N-5°-W	

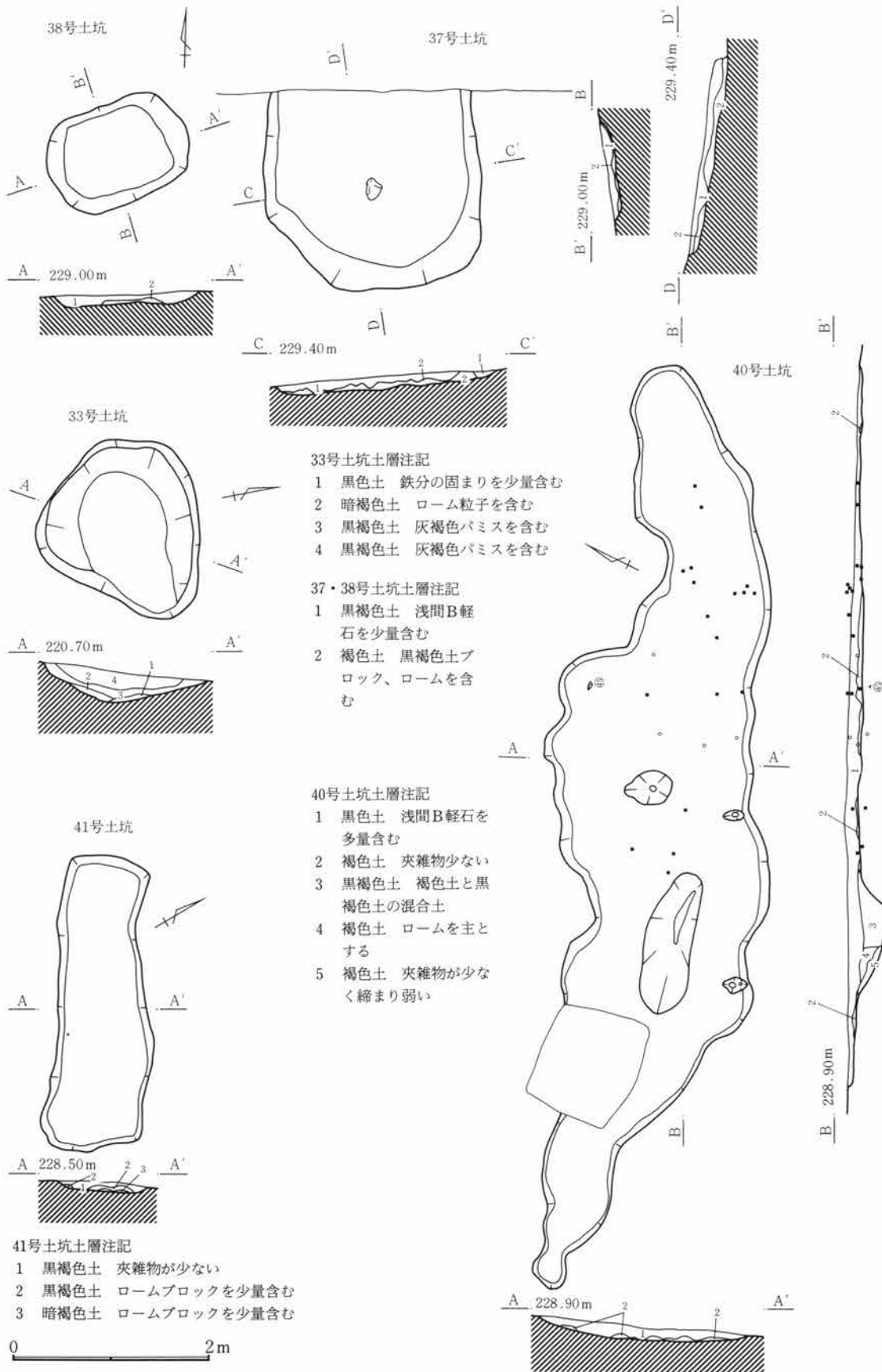


第357図 6・7・8・13・14号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

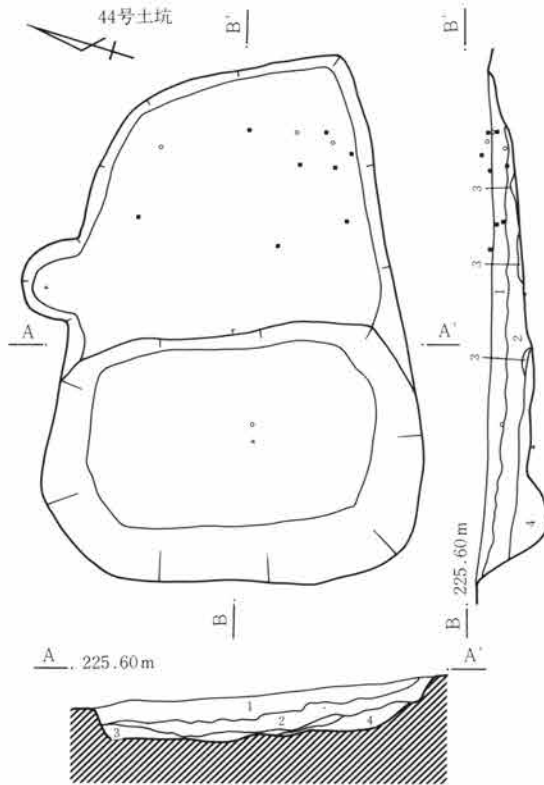


第358図 17・28・29・30・31・35・39号土坑



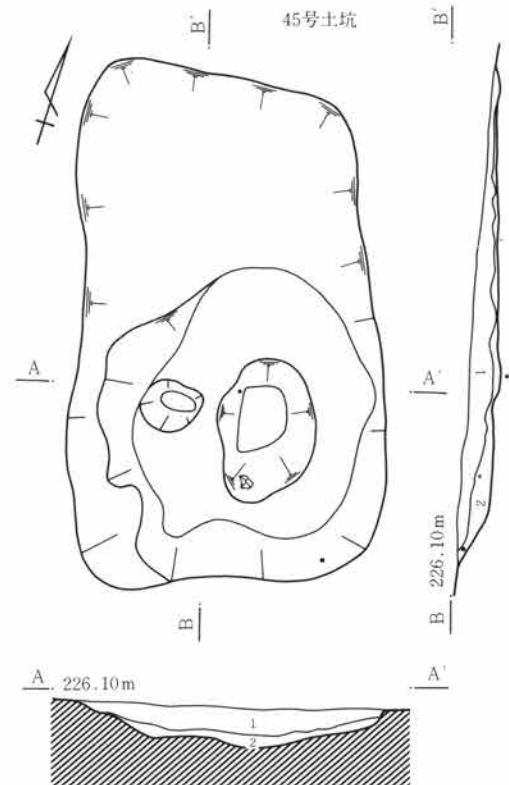
第359図 33・37・38・40・41号土坑

第III章 検出された遺構と出土遺物



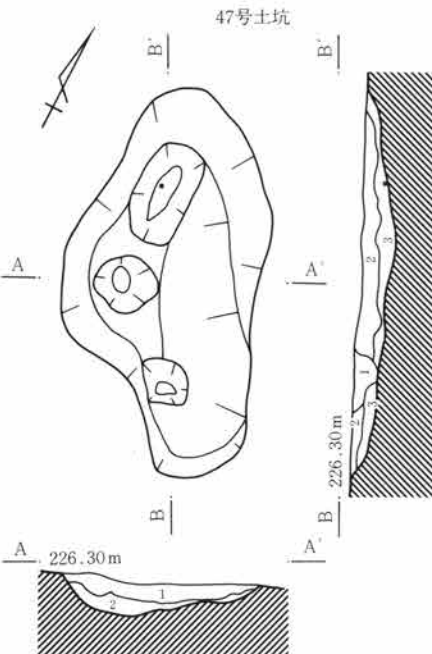
44号土坑土層注記

- 1 黒褐色土 浅間B軽石を多量含む
- 2 暗褐色土 夾雑物が少ない
- 3 灰褐色土 灰白色粘土と黒褐色土ブロックの混合土
- 4 暗褐色土 夾雑物が少ない 締め強い



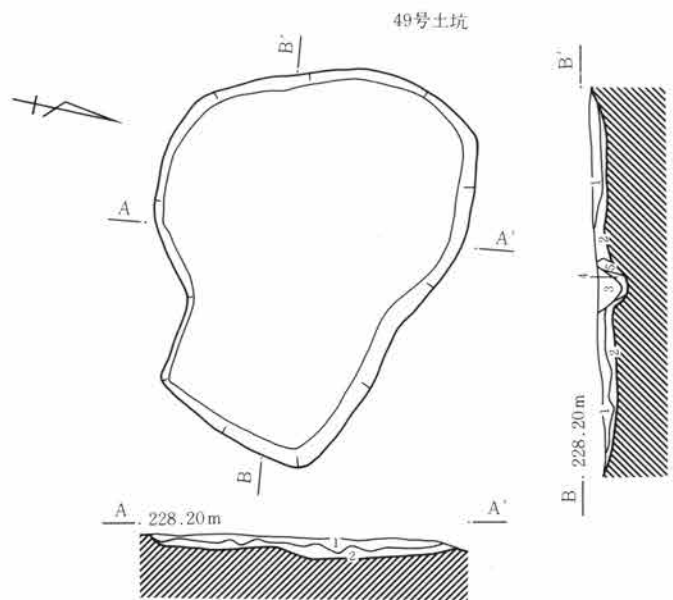
45号土坑土層注記

- 1 黒褐色土 浅間B軽石を少量含む
- 2 暗褐色土 夾雑物が少ない



47号土坑土層注記

- 1 黒褐色土 浅間A軽石を含む
- 2 黒褐色土 浅間B軽石を少量含む
- 3 暗褐色土 夾雑物が少ない

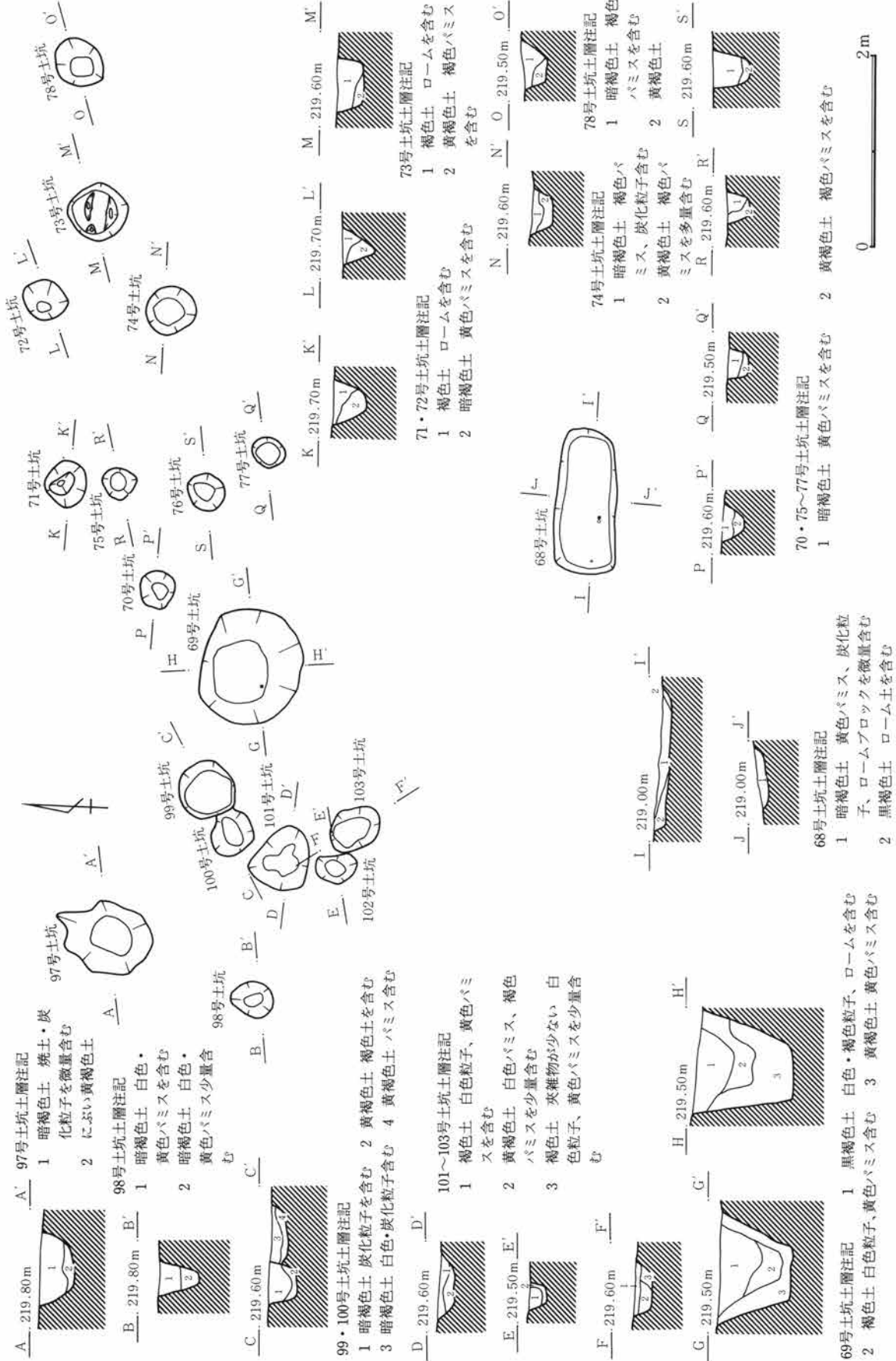


49号土坑土層注記

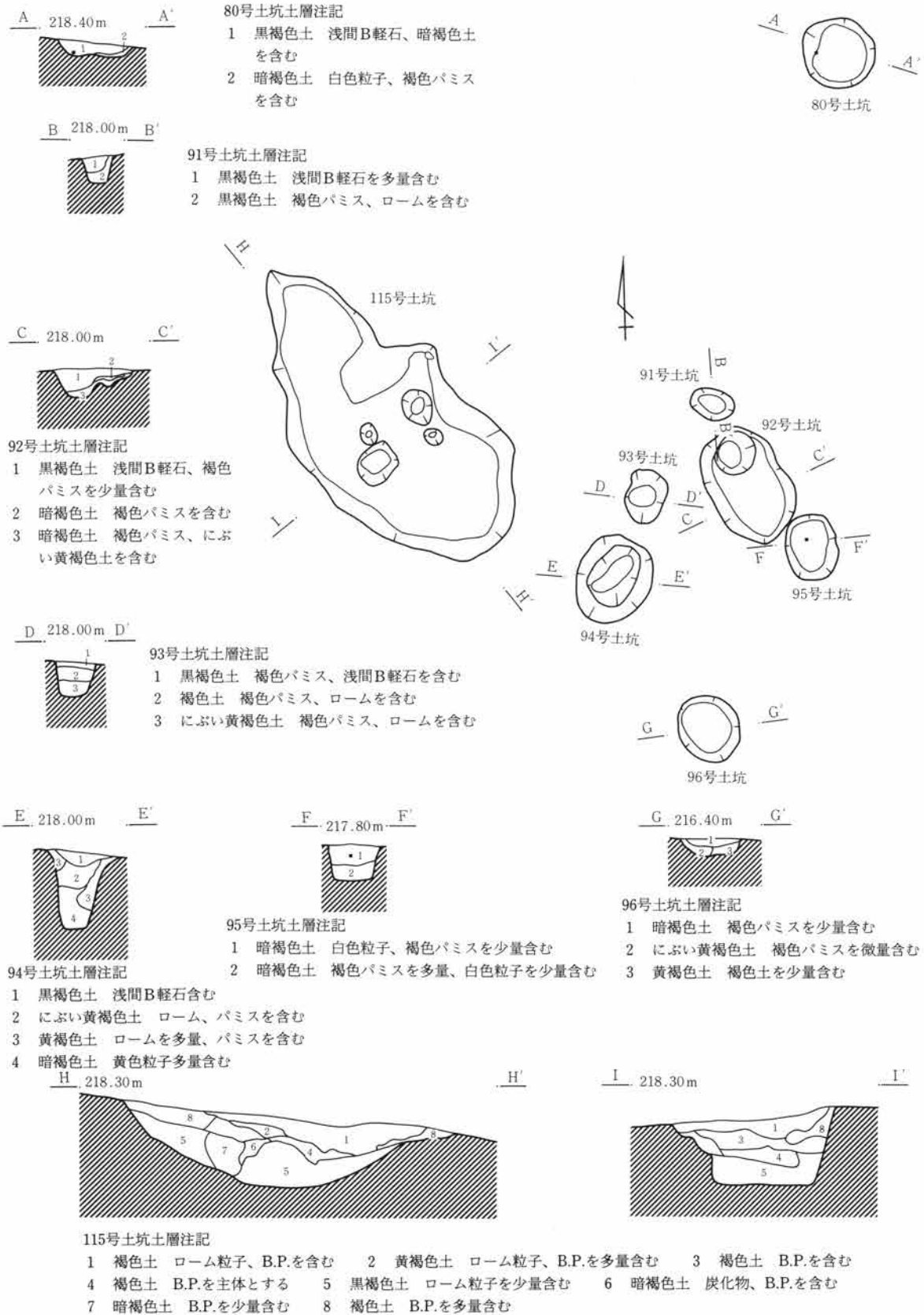
- 1 黒褐色土 浅間B軽石を微量含む
- 2 褐色土 ロームを含む
- 3 黒褐色土
- 4 黒褐色土 色調やや明るい
- 5 にぶい褐色土 ロームを主とする

0 2m

第360図 44・45・47・49号土坑

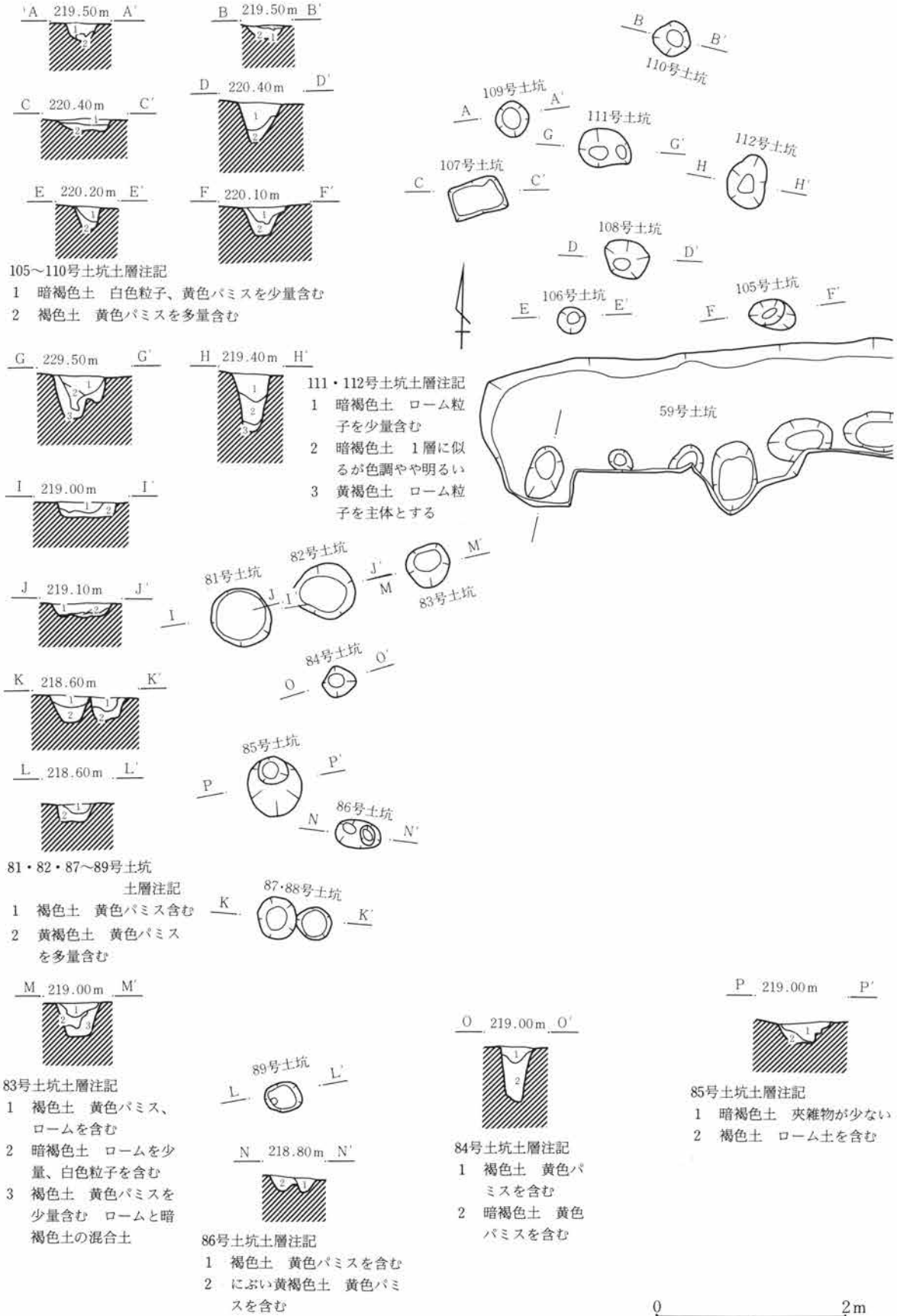


第362図 68～78・97～103号土坑

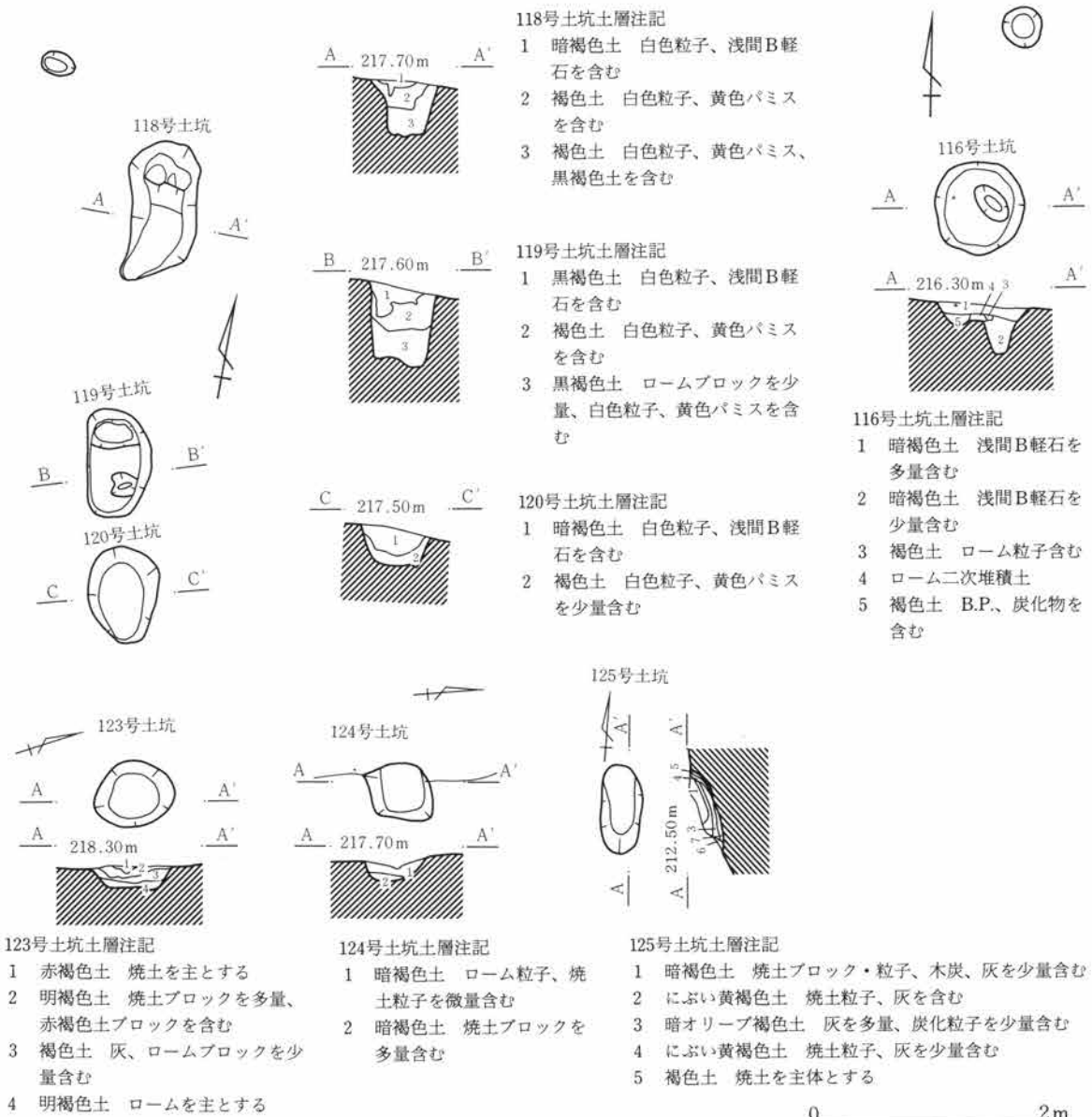


第363図 80・91～96・115号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物



第364図 81~89・105~112号土坑



第365図 116・118・119・120・123・124・125号土坑

第三章 検出された遺構と出土遺物

(2) 溝・暗渠・ピット群

溝

溝は10条（1・2号溝は同一のため1条とする）検出されている。調査区外に続くものが多いため長さの分かるものは少ないが、6号溝が43.9mと長く、14号溝は13.2mである。幅は最小0.24～1.52m平均0.72m、最大0.80～12.56m平均3.12mで、深さ15～120cm平均39cmである。出土遺物がほとんど無いため時期不明で、形態も整然としたものは少なく、性格は不明である。

近代以降・時期不明溝一覧表

No	位置 (Gr)	重複	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	走 向	備 考
1	C46～54-VII4～14	なし	[28.8]	0.70～3.40	40	N-47°-W	2号溝と同一
2	C40～53-VI96～VII1	なし	[28.4]	1.20～2.90	24	N-21°-E	1号溝と同一
3	C38～45-VII8～11	なし	[16.5]	0.56～0.80	16	N-13°-E	
4	C25～30-VI31～34	なし	[10.0]	1.20～2.80	15	N-27°-W	
5	C64～67-VII55～63	なし	[14.8]	0.56～5.40	40	N-73°-E	
6	C93～95-VII55～77	55土坑と重複	43.9	0.24～1.28	32	N-86°-E	
8	C56・57-VII34～40	なし	[6.7]	0.30～1.40	16	N-86°-E	
9	C64～71-VII86～97	3・7・8住より新 28・35土坑と重複	[24.0]	1.52～12.56	120	N-57°-E	
10	C63・64-VII64～68	なし	[6.2]	0.82～1.74	64	N-75°-W	
11	C38～40-VII62～64	なし	[6.2]	0.82～1.04	28	N-1°-W	
14	C5・6-VII20～26	72土坑と重複	13.2	0.44～0.80	16	N-84°-E	

暗渠

2号谷津状遺構の覆土上面に1条検出されている。2条並行して走っており、北側でつながっている。南側は調査区外で不明である。溝状の掘り方の両側に細長い礫を並べ、その上を板状の石で蓋をしている。

近代以降・時期不明暗渠一覧表

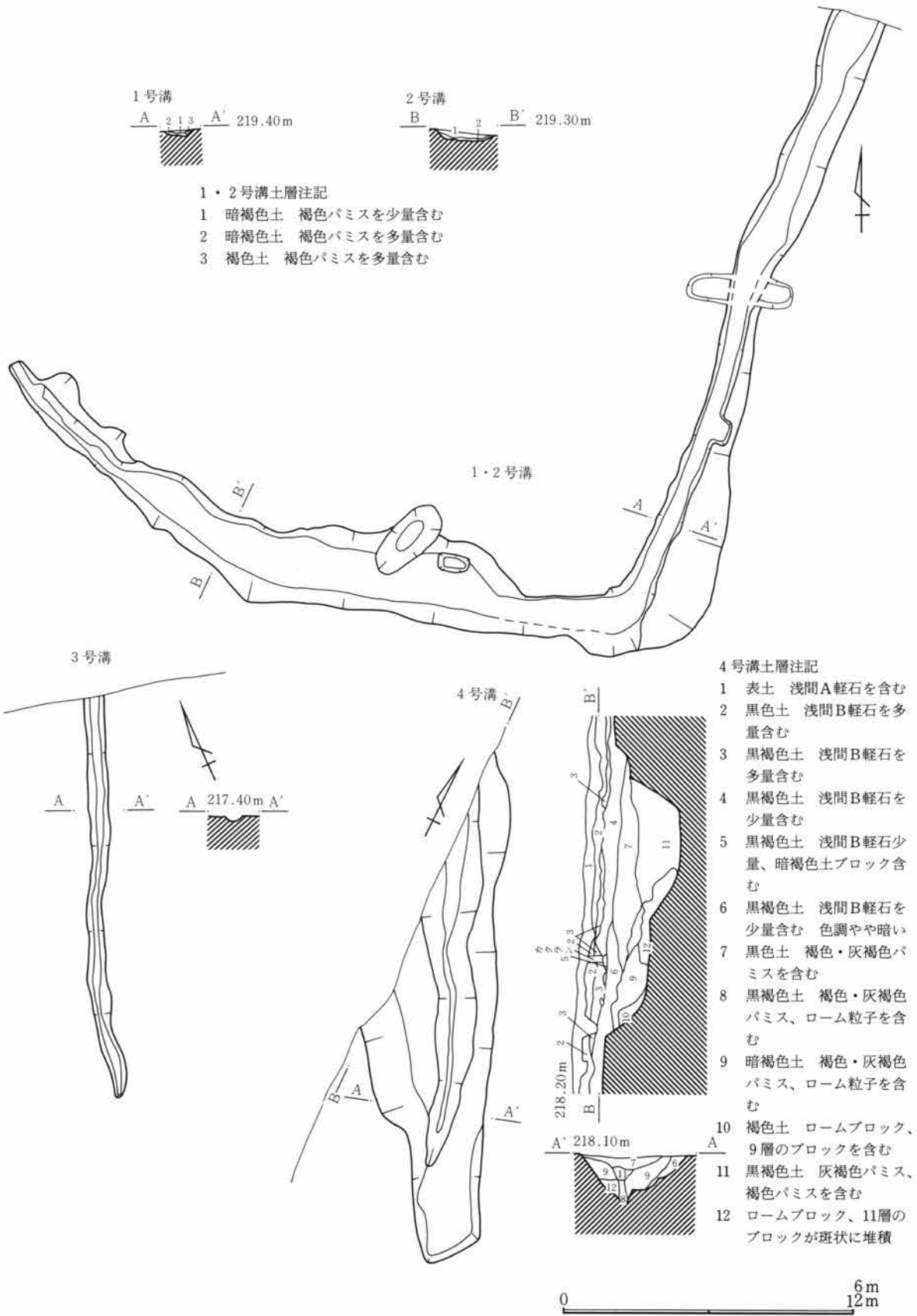
No	位置 (Gr)	重複	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	走 向	備 考
1	C20～24-VII0～5	2谷津より新	12.8	1.30～2.20	36	N-46°-W	

ピット群

C20～23-VII31～35Grに小規模なピットが集中して検出された。全部で31基あり、長径18～40cm平均27cm、短径14～34cm平均24cm、深さ12～76cm平均41cmである。出土遺物は無く、掘立柱建物になる配置にもなっていないため、性格は不明である。

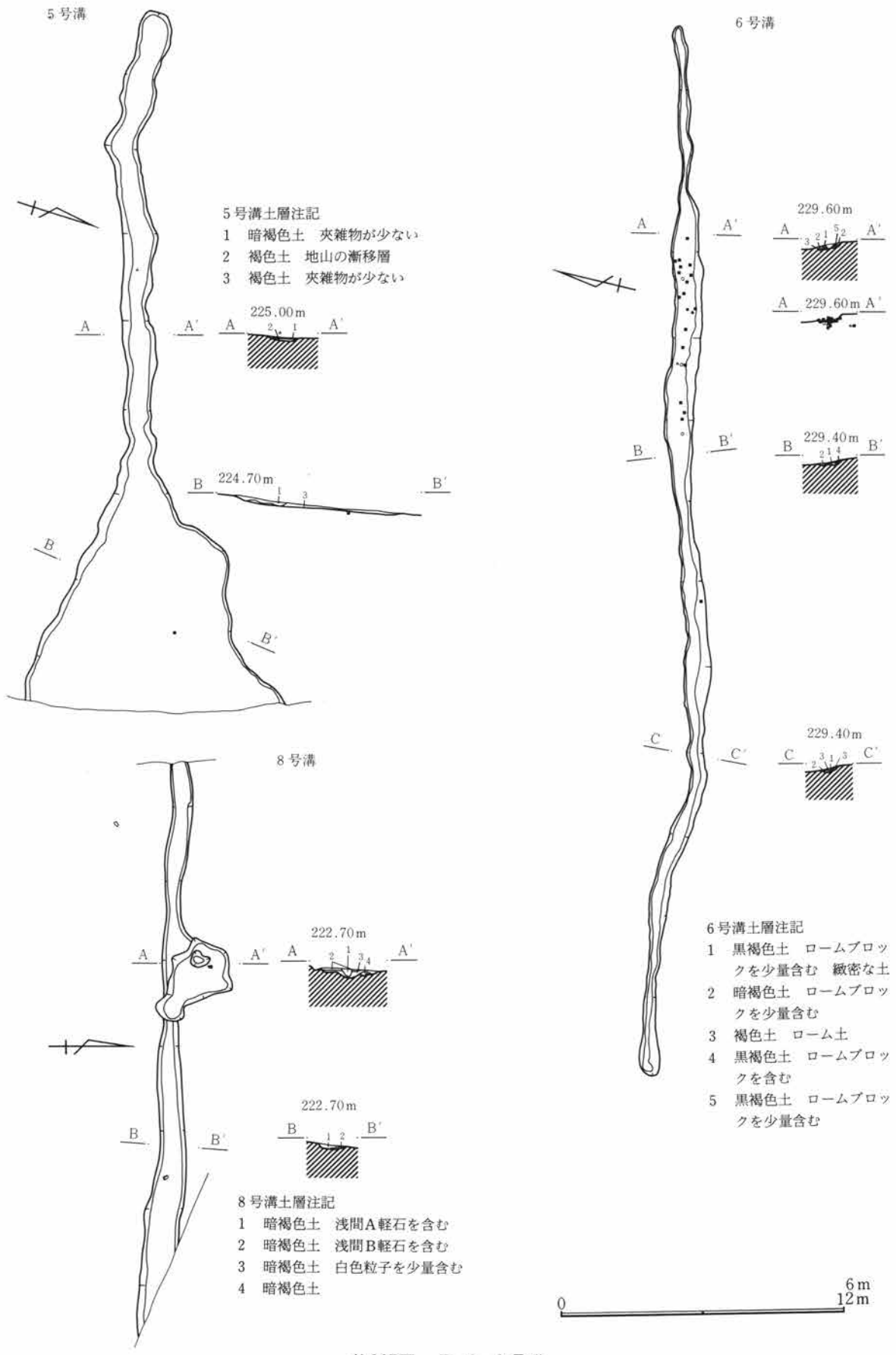
近代以降・時期不明ピット群ピット一覧表

No	位置 (Gr)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	No	位置 (Gr)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	No	位置 (Gr)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	C23-VII32	30	26	46	2	C21-VII32	30	28	42	3	C22-VII32	18	17	42
4	C21～32-VII32	22	15	46	5	C21・22-VII32	29	28	48	6	C21-VII32	24	18	34
7	C20-VII32	28	24	34	8	C20-VII31	24	19	30	9	C20-VII31	20	18	26
10	C20-VII31	28	26	20	11	C20-VII31	25	18	22	12	C22-VII31	30	28	46
13	C20-VII32	18	14	38	14	C21-VII32	32	24	26	15	C22-VII32	25	24	68
16	C20-VII33	32	32	34	17	C20-VII33	40	34	34	18	C20-VII33	30	24	34
19	C21・22-VII33	24	23	28	20	C20-VII33	24	20	72	21	C22-VII33	25	25	54
22	C23-VII33	30	28	54	23	C20-VII33・34	36	34	44	24	C20-VII34	22	22	12
25	C20-VII34	28	27	38	26	C20-VII34	26	22	28	27	C20-VII35	26	22	60
28	C22・23-VII34	22	20	48	29	C23-VII34	28	27	48	30	C22・23-VII34	34	30	76
31	C23-VII34	26	24	34										

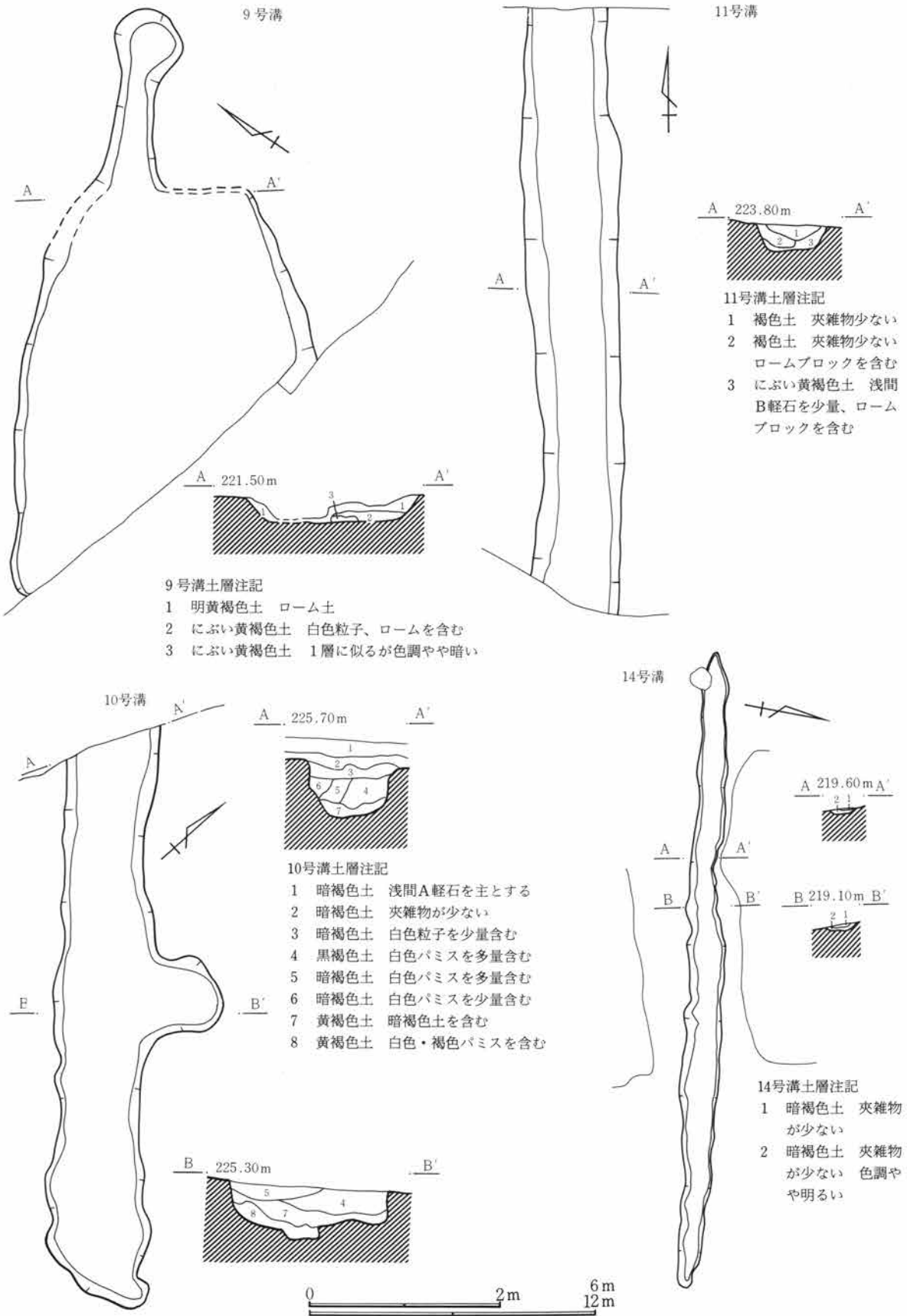


第366図 1・2・3・4号溝

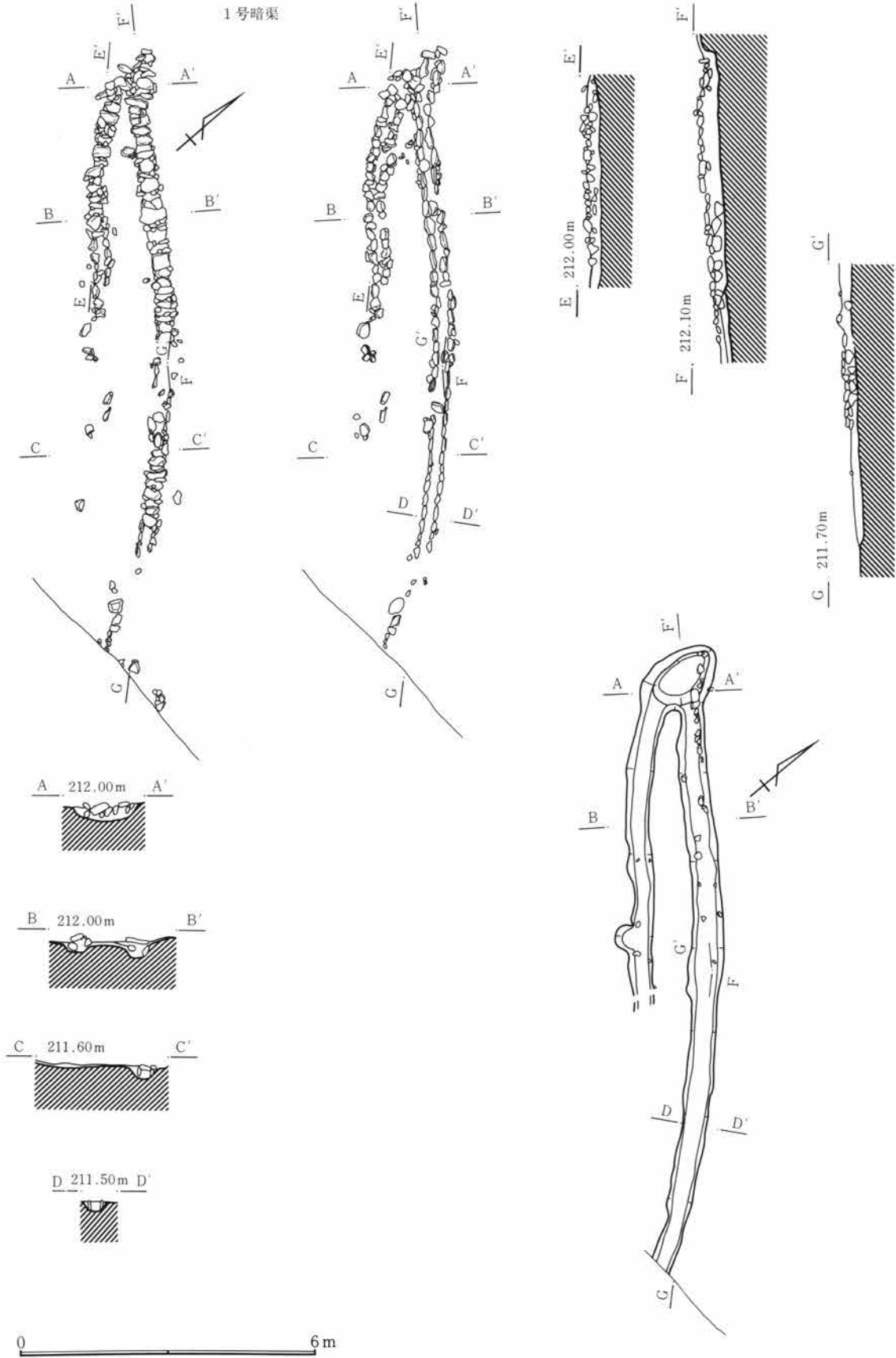
第III章 検出された遺構と出土遺物



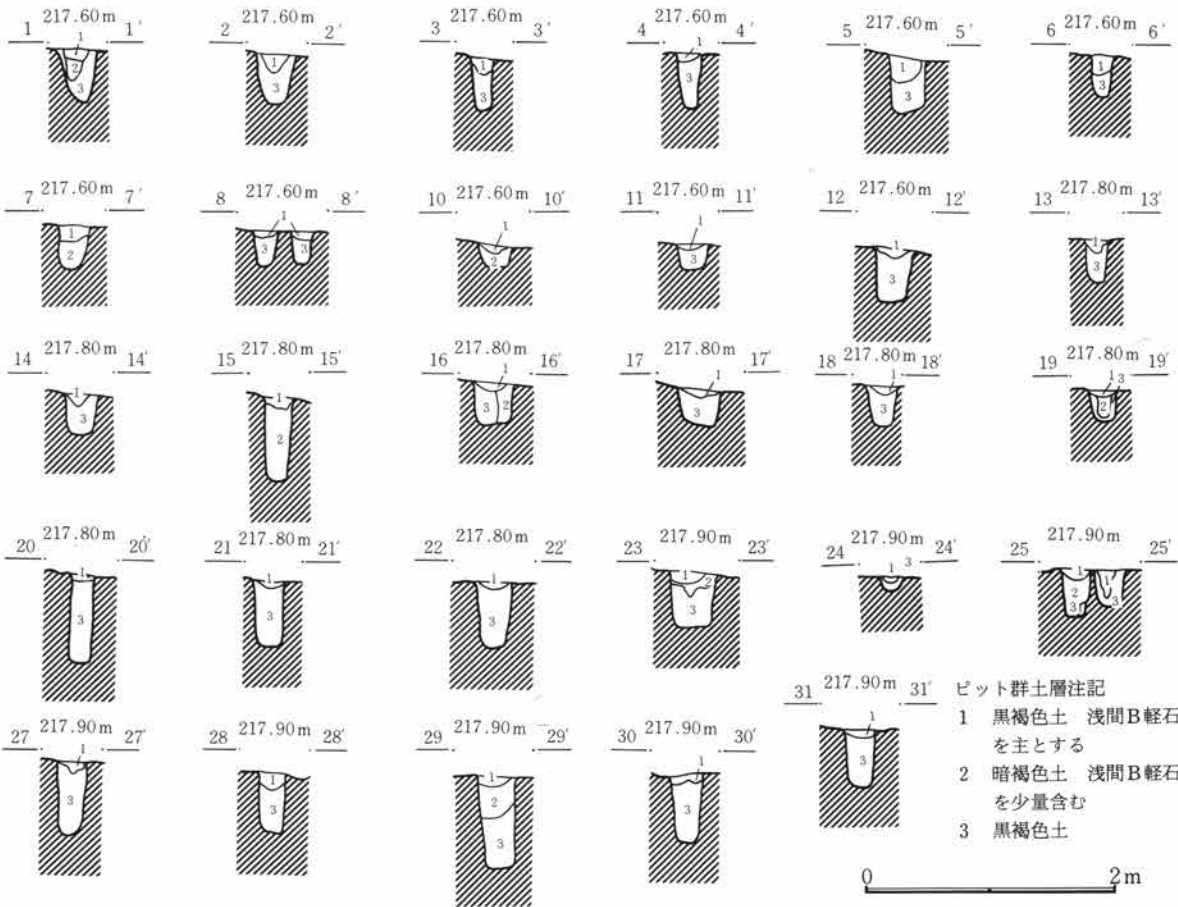
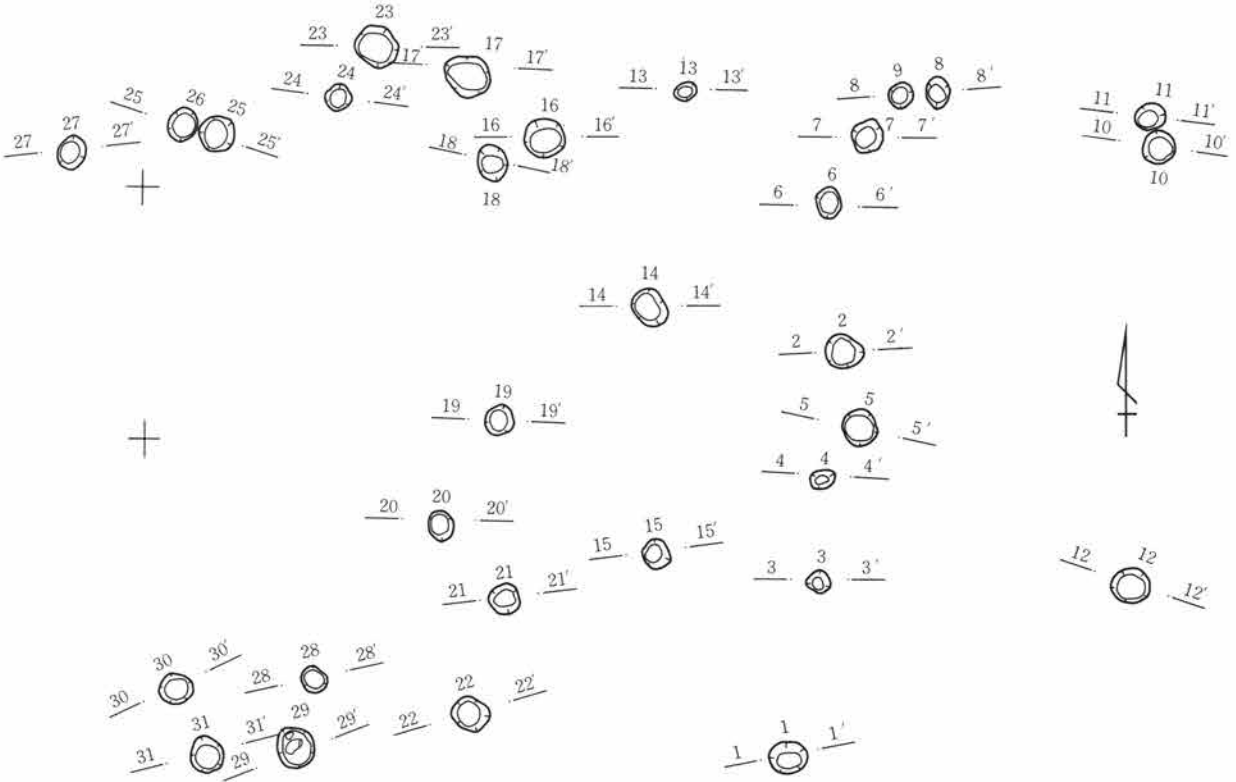
第367図 5・6・8号溝



第368図 9・10・11・14号溝



第369図 1号暗渠



- ピット群土層注記
- 1 黒褐色土 浅間B軽石を主とする
 - 2 暗褐色土 浅間B軽石を少量含む
 - 3 黒褐色土

0 2m

第370図 C 21 VII 33 Gr付近ピット群

第IV章 調査の成果と問題点

第1節 縄文時代～近世の遺構・遺物について

(1) 縄文時代

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡1軒と土坑1基が検出されている。竪穴住居跡は前期諸磯a式期、土坑は確実ではないが、前期黒浜式期と考えられる。遺物は早期～後期まで出土しているが、時期の判明するものの70%は中期中葉～後半（黒浜～諸磯式期）のものであり、他は少量である。ここでは通称「離れ山」丘陵上の他の遺跡との比較も含めて、時期毎の変遷を追ってみることにする。

①早期 遺構はなく、押型文土器が1点出土しているだけである。当遺跡の東側に続く谷に位置する内匠日向周地遺跡⁽¹⁾からは、遺構と考えることはできないが、黒色土中から比較的多数の押型文土器が出土しているため、当遺跡の土器は内匠日向周地遺跡の人々が残したものであろう。

②前期 前期前半の遺構・遺物は当遺跡だけでなく、丘陵上の遺跡からはほとんど出土しておらず、人々の居住活動はなされていなかったと考えられる。前期中葉の黒浜式期になると、当遺跡でも土坑1基が検出されており、遺物も31点とやや多く出土している。丘陵上で当遺跡の東に位置する内匠諏訪前・内匠日影周地遺跡⁽²⁾では、竪穴住居跡2軒と土坑3基が検出され、遺構外から74点の土器が出土している。また更にその東に位置する内匠上之宿遺跡⁽³⁾でも、遺構は検出されていないが土器は100点以上出土しており、丘陵上のこの時期の中心がこれらの遺跡にあることが想定でき、当遺跡は分布の中心から外れていると考えられる。

前期後半は諸磯a式期の竪穴住居跡1軒が検出されている。丘陵上では、他に内匠日影周地・内匠諏訪前遺跡から竪穴住居跡が2軒、土坑が2基検出されており、他に遺構外から27点の土器が出土している。他の遺跡からはこの時期の遺構は検出されていないため、少ないながら分布の中心であると思われる。諸磯b～c式期は当遺跡では遺構は検出されておらず、若干の土器片が出土しているだけである。丘陵上の他の遺跡を見ると、内匠諏訪前遺跡から諸磯b式期の竪穴住居跡1軒が検出されているが、他に遺構は検出されておらず、遺構外出土遺物も14点と少ない。谷を隔てた西側にある下高瀬寺山遺跡⁽⁴⁾では諸磯b～c式期の竪穴住居跡8軒、土坑40基が検出され、遺構外からも多量の土器が出土しており、丘陵上においてこの時期の分布の中心となっている。

③前期末～後期 前期末～中期初頭は、遺構は検出されず土器が3点出土しただけである。内匠諏訪前遺跡からは土坑が12基検出され、遺構外出土遺物も380点と多い。内匠上之宿遺跡からも、土坑1基、埋設土器1基が検出され、遺構外出土遺物は247点出土している。このためこの時期の分布の中心がこれらの遺跡にあり、竪穴住居跡は検出されていないが、比較的頻繁な居住活動がなされていたと考えられる。

中期中葉も遺構はないが遺構外遺物が中期初頭よりやや多く出土している。この時期は、丘陵上でも内匠上之宿遺跡で竪穴住居跡1軒が検出されている以外は遺構は検出されておらず、遺物も非常に少ない。

中期後半以降は遺構は検出されず、土器が、中期後半で7点、後期で2点出土しただけであるため、居住活動はほとんどなされなかったと考えられる。内匠上之宿遺跡では、中期後半～後期前半にかけての竪穴住居跡3軒、土坑100基以上が検出され、遺構外からも40,000点以上の土器が出土しており、時期を細かく区切っても、例えば称名寺II式期の遺構外出土遺物だけでも4,000点以上あり、丘陵上の他の遺跡に比べ圧倒的に多くなっている。これは、長期にわたって連続してあるいは短い断絶期をはさんで断続的に居住活動がなされ

た結果と考えられる。下高瀬寺山遺跡でも数千点の遺構外出土遺物があり、継続して居住活動が営まれた遺跡では遺構外出土遺物もかなり多くなることがわかる。とすると、当遺跡のような遺構外出土土器が少ない遺跡は、長期にわたり連続して居住活動が営まれたとは考えられず、ごく短期間で移動していると思われる。たとえ土器型式が長期にわたっていても、遺物量が少ない場合、居住活動は連続したものではなく、長い断絶期間をはさんで短期間営まれた結果と考えられる。

(2) 弥生時代

弥生時代は、中期の土坑が7基、時期不明の土坑が3基検出されており、遺物は中期765点、後期194点、時期不明478点、計1,437点出土している。

①中期 土坑7基が検出されており、時期は中期後半竜見町式期のものと考えられるが、32号土坑以外は土器は破片しか出土していないため詳しい時期や前後関係は不明である。土坑の性格も不明であるが、形態や遺物出土状況から、再葬墓等の墓壇とは考えられず、貯蔵用あるいは廃棄用等の居住活動に伴う性格の可能性が考えられる。分布は、調査区東端部に3基、南側中央部に3基、南側西端部に1基となっている。遺構外出土遺物の分布も、調査区東端部と南側中央部に多くなっており、土坑の分布とほぼ対応している。遺物出土量は、中期の土器が596点と縄文時代よりもはるかに多くなっており、竪穴住居は検出されていないが、比較的頻繁な居住活動が想定される。土坑が居住活動に関係するものと考えれば、調査区外に住居が存在したとも考えられる。東側の内匠諏訪前・日影周地遺跡からは中期の竪穴住居跡1軒と土坑数基が検出されているが、遺構外出土土器は239点と少なくなっているため、当遺跡で調査区外に住居のある可能性は高い。

②後期 後期は遺構は検出されず、遺構外から土器が194点出土しているだけである。分布を見ると、中期と同様、調査区東端部と調査区南側中央部から多く出土しているが、調査区東端部がやや少なく、調査区北部からやや多く出土している。出土量が少ないため、中期ほどの頻繁な居住活動は考えられないが、中期と同様の分布をしているため、調査区外に遺構のある可能性もある。内匠日影周地遺跡では竪穴住居跡が12軒検出されており、この時期の居住の中心となっている。

(3) 古墳時代前期

遺構は、竪穴住居跡4軒が検出され、遺物は、遺構内から936点、遺構外から170点、計1,106点出土している。

竪穴住居は調査区東端部に集中しており、調査区外に遺構のある可能性もある。4号住と6号住が重複している以外は重複はない。覆土が削平され遺物の出土しなかった6号住を除き、他の3軒は、4号住以外は時期の判明する土器が少ないこともあるが、遺物からは明瞭な時期差は見られない。この3軒は同時存在した可能性も考えられるが、4・5号住間が4m、4・7号住間が5.5mと近いので、3軒とも同時存在していないか、5・7号住が同時存在した可能性が高いと思われる。

この時期の遺構は、丘陵上の他の遺跡では、内匠日影周地遺跡から、竪穴住居跡2軒（1軒は不確定）と方形周溝墓1基が、内匠日向周地遺跡で古墳時代前期末の竪穴住居が1軒検出されているだけである。内匠日影周地遺跡の2軒は、出土遺物が非常に少なく時期がはっきりしないが、当遺跡の住居と近い時期の可能性が高く、内匠日向周地遺跡の1軒は当遺跡のものより新しくなる。この時期は他の時期に比べ遺構は非常に少なく（調査区外に存在することも考えられるが、遺構外出土土器が、当遺跡で170点、内匠日影周地遺跡

第IV章 調査の成果と問題点

でも20点程度と非常に少ないため、その可能性は低いと思われる)、遺構外出土遺物も少ないため、居住はきわめて短期間で終わり、他の場所に移動したと考えられる。

(4) 古墳時代中期～平安時代

①古墳時代中期 古墳時代中期後半～後期初頭にかけては、古墳が7基検出されている(出土遺物がなく時期不明のものもあるが古墳群中にあることから他の古墳とほぼ同時期と考えた)。詳しい時期等は第4節で述べられているので省略するが、時期の判明する遺物の出土している古墳は、1・4・5・6号の4基である。土器を見る限り、この4基にほとんど時期差は見られない。あえて言うならば、1号墳からは埴等の土器が出土しているため、他の古墳より若干古い様相を示しているが、他の3基はほぼ同時期である。埴輪を伴出する古墳は4・5号墳であるが、埴輪から見た時期も土器の時期とほぼ一致している。2基の埴輪もほとんど時期差は見られないが、4号墳からは少数ながら横ハケの円筒埴輪が出土しているのに対し、5号墳からは縦ハケのものしか出土していないため、4号墳の方が若干古い様相を呈している。よって、1号墳→4号墳→5号墳の順序が想定できるが、時期差はほとんどないため確証はない。以上のことから、当遺跡の古墳群は、各古墳間に時期差がないため、多世代に亘って築造された結果の古墳群とは考えられず、何等かの要因で短期間に集中して築造されたものと推定できる。

丘陵上の他の遺跡を見ると、内匠日影周地遺跡で古墳が検出されている。立地は当遺跡のと同じく丘陵の頂部であり、残存状況が悪く詳細は不明であるが、直径25mの円墳である可能性が高い。当遺跡の古墳とは約400mしか離れておらず、立地も同様であるため、何等かの関係が想定される。とすると、時期の判明する遺物は出土していないが、当遺跡の古墳と近い時期であったと推定されよう。しかしながら、当遺跡の古墳から離れて単独で存在しているため、単純に古墳群の一部とすることはできない。また、中期の竪穴住居跡が1軒検出されているが、古墳よりも古い時期になると考えられるため、古墳と直接の関係はないであろう。

②古墳時代後期～奈良時代 古墳時代後期～奈良時代はこの遺跡で最も居住活動の盛んな時期で、竪穴住居跡42軒、土坑13基、溝3条、さらに自然の谷津を利用した水場とその谷頭部から埴輪窯が2基検出された。遺物も、土器が遺構内から約10,000点、2号谷津から約18,000点、遺構外から約10,000点と多量に出土しており、長期にわたって居住活動がなされたことを示している。

遺物による時期区分

竪穴住居出土の遺物から時期を決定する場合には、住居で使用されたものかどうかをはっきりさせなければならないが、このためには出土状態を詳しく検討する必要がある。竪穴住居に遺された遺物は、大きく3種類に分けられると考えられる。

- a 竪穴住居で使用されたものが遺されているもの(遺棄)、床面上・カマド等住居の使用面の出土で完形・半完形のもの。ただし、棚から転落あるいは貯蔵穴に転落した物は、床面から浮いた状態や貯蔵穴覆土中のものである。
 - b 廃絶された住居に他から捨てられたもの(廃棄)、床面および覆土中の出土で完形・半完形に復元できるものあるいは破片。
 - c 住居外の遺物が自然営力や人為的な埋め戻しにより竪穴内に入り込んだもの(流入)、すべての層から出土し、破片の状態である。
- aの場合、遺物の時期は住居の時期を示している。bの場合は住居の時期よりも新しくなるが、これは竪

穴住居が埋没するまでの期間に限られる。cの場合は住居の時期と同時期かそれよりも古くなる。よって住居の時期を決定するためにはaの遺物を使用しなければならないが、通常は竪穴住居廃絶時に必要な物はもち去るため、火災等の要因が無い限りaの遺物が出土することは少ない。このためb・cの遺物も条件により使用することとする。

古墳時代後期～奈良時代の遺物の中で主要な物は、土師器甕・坏・高坏、須恵器甕・坏等であるが、当遺跡では土師器甕は破片が多く、須恵器も少ないため、土師器坏・高坏を中心とし、他の遺物は補助的に使用することとする。

土師器坏は1～6類に分類しているが(第二章第4節(1)参照)、この時期に該当するのは3～6類である。過去の研究から、大きな流れとして3類→4類→5・6類の順に新しくなっていくことが確認される。また各類を出土する住居では、5・6類を除いて各類とも共伴していないため、3類と4類、4類と5・6類を出土する住居の間には比較的長い断絶期が存在していると考えられる。よってこの時期の遺構は、大きく3段階に分けることができる(古い方からⅠ・Ⅱ・Ⅲ段階とする)。第Ⅰ段階の住居は、1～3・8・9・12・16～22・24～27・31・34・36・38～40・46・47・49号住の26軒、第Ⅱ段階は、30・32・41・45住の4軒、第Ⅲ段階は10・11・13・23・28・29・35・42号住の8軒で、14・33・43・44の4軒は出土遺物が非常に少なく時期不明であるが、住居形態等からこの時期であることは間違いない。

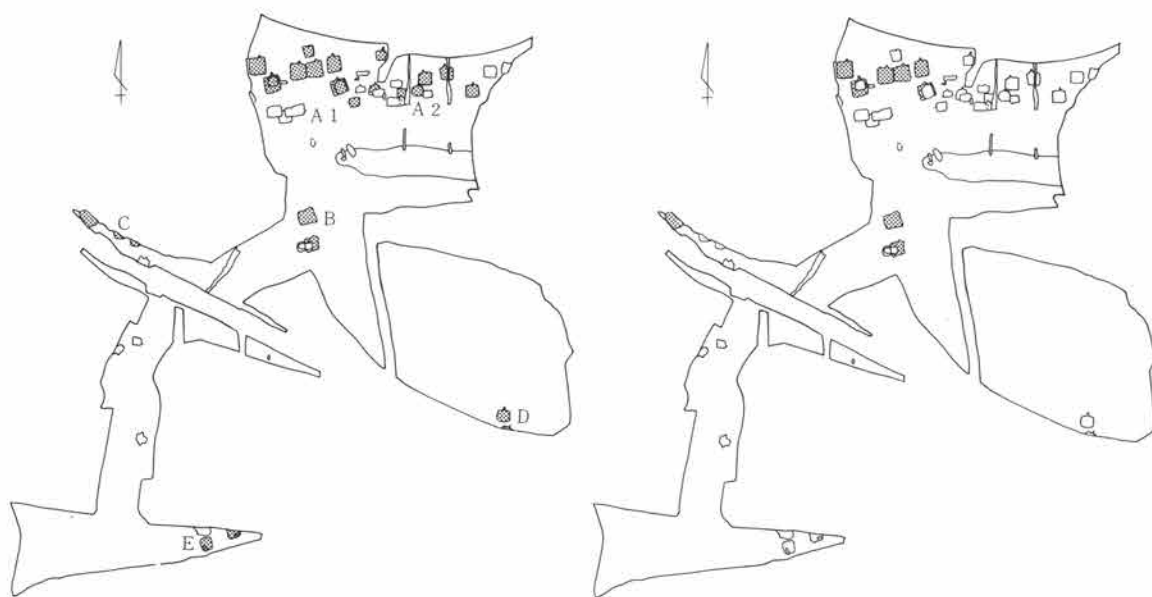
集落の様相

第Ⅰ段階は古墳時代の後期に当たるが、この時代には、子持村の黒井峰遺跡や西組遺跡、渋川市の中筋遺跡等で、火山灰により埋没した集落が検出されており、一時期の集落の様相が判明している⁽⁵⁾。調査面積の最も広い黒井峰遺跡では、竪穴住居1軒と柴垣で囲まれた家屋群(平地式住居・平地式建物・高床式建物・家畜小屋等)が1単位となって6単位検出されており、竪穴住居間の距離は最低で約20m、他は50～100m離れている。中筋遺跡では4軒が1～2m離れて、周堤帯を共有して存在しているものが検出されている。すなわち、この時代の一時期の集落においては、1軒あるいは数軒で1単位の竪穴住居が互いにかかなりの距離を置いて存在し、その間にはこれに伴う他の家屋群が存在していると考えられる。

第Ⅰ段階の住居は、計26軒検出されているが、調査区北側の17軒、中央の2軒、西端部の3軒、東端部の2軒、南側の2軒の5カ所に小群を形成している(順にA～E群とする。調査区が不正形のためいずれの群も調査区外に広がる可能性が高い)。

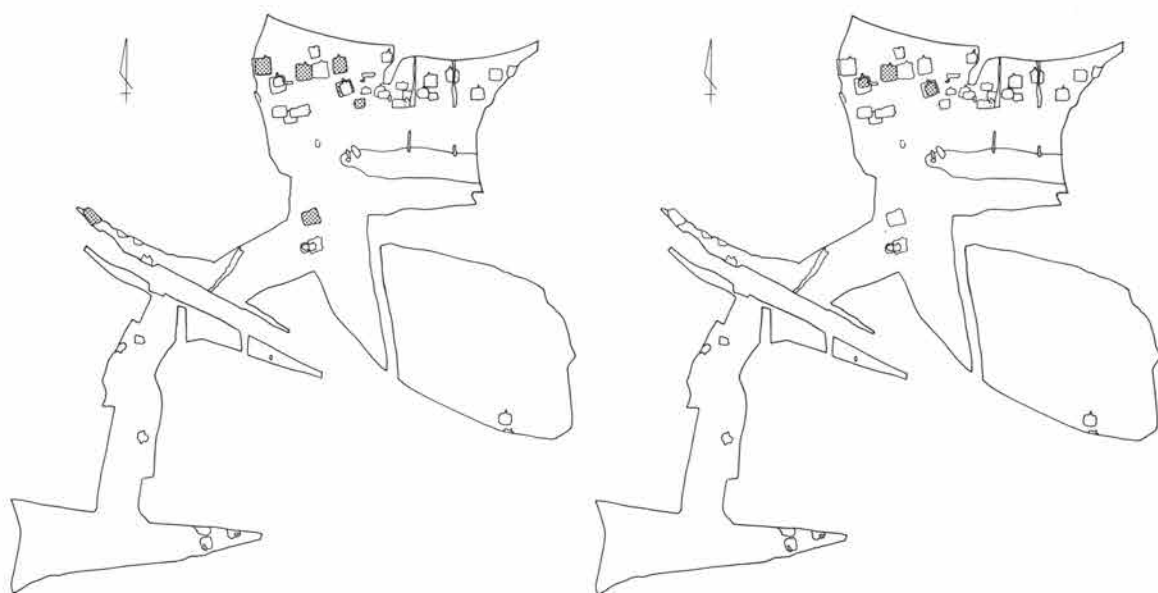
主軸方位は47号住が西方向にあるが、他はすべて北方向にある。また、床面積を見ると、10.6㎡から38.7㎡とかなり差があるが、20㎡以下のものと25㎡以上の大型のものにはっきり分かれる。大型のものは9軒あるが、A群の西側に6軒集中している。これに対し、東側には1軒も検出されていない。すなわち、北側の住居群は、大型住居の集中する西側と大型住居のない東側に分かれると考えられる(47号住から西側をA1群、40・49号住から東側をA2群とする)。

さて、A1群には大型住居6軒と小型住居4軒が存在するが、重複しているもの、近接しているものは同時存在していないため、一時期に同時に存在したものは非常に少なくなると考えられる。A1群の出土遺物を見ると、高坏が出土している住居が多くなっている。高坏は長脚から短脚への変遷が考えられているため、長脚が出土している住居は、短脚が出土しているものより古くなると言える。よって、長脚が出土している、17・18・19・22・47号住は、古い段階に属すると考えられる。また、47号住を除いてすべて大型住居であり、A群の大型住居6軒中4軒から出土している(A群以外でも長脚の高坏の出土しているのは大型住居であり、長脚の高坏と大型住居の密接な関係が窺われる)。短脚が出土しているのは18・24・25号住であるが、18号住



第I段階

第I段階 大型住居

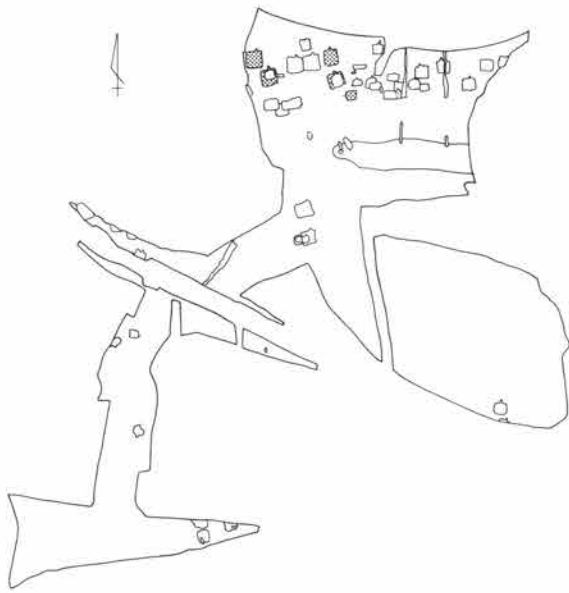


第I段階 長脚高坏出土住居

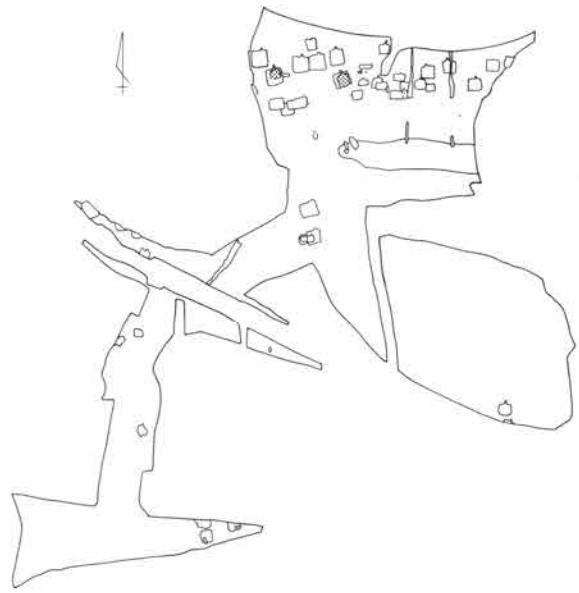
第I段階 短脚高坏出土住居

0 100m

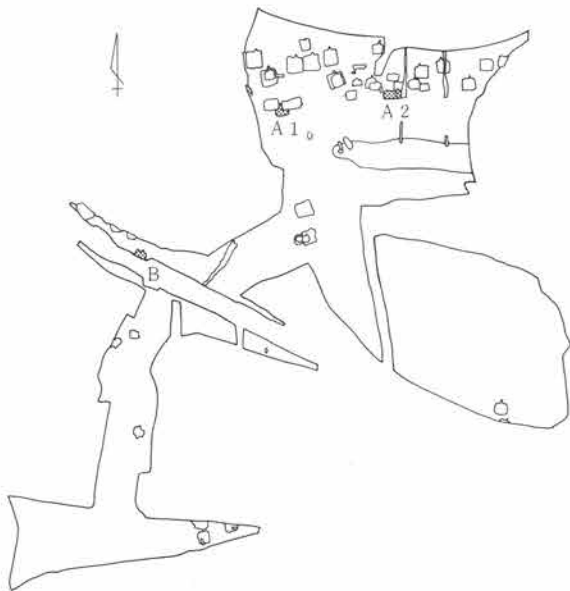
第371図 古墳時代後期～奈良時代集落変遷図(1)



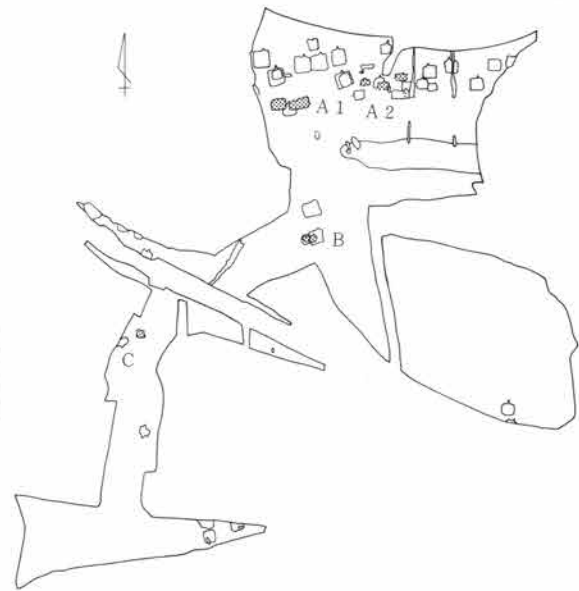
第I段階 A1群 古期



第I段階 A1群 新期



第II段階



第III段階

0 100m

第372図 古墳時代後期～奈良時代集落変遷図(2)

第IV章 調査の成果と問題点

からは長脚も出土しているため、短脚のみ出土しているのは24・25号住の2軒の小型住居である。この2軒はいずれも大型住居と重複し、それより新しくなっている。このことから、A1群では25・26号住の小型住居2軒が最も新しくなると考えられる。18号住は、短脚と長脚が共伴するためこの中間に位置すると考えられる。また、16・21・26号住は出土遺物が少なく詳しい時期は不明であるが、26号住は、25号住より古く、最大径が胴部中位にある古手の長胴甕が出土しているため、古い段階に属すると考えて良いであろう。

さて古い段階の住居を見ると、19・26号住と17・22・47号住の小群に分かれており、小群間は約20mで小群内の住居間は2～4mである。よって小群内で住居が同時存在しているとは考えられず、多くとも小群間で1軒ずつ計2軒同時存在した可能性があるだけであろう。よって少なくとも3期に分かれると考えられる。新しい段階は24・25号住が同時に存在したか、1軒ずつ2期に分かれるかである。16・18・21号住はA1群のほぼ中央にあり、距離的にみてそれぞれ1軒単独で存在していた可能性が高い（16号住は47号住と同時存在した可能性もある）。よってA1群は6～8期に亙っていたと考えられる。

A2群は、出土土器による時期差は殆ど見られないが、西側の40・49号住と東側の34・39号住以外は同時存在する可能性は低く（39号住と46号住は可能性あり）、5期以上に亙っていると考えられる。B～E群の住居はいずれも近接しているため各群内で同時存在は考えられない。各群間の距離は50～150mあるため、各群間ではすべてに同時存在していた可能性があると言える。

このように、第I段階の集落は、A群にほぼ継続的に住居が存在し、6期以上に亙り、一時期には多くても7軒、おそらく3～4軒が同時存在した状況が想定できる。

第II段階の住居は、調査区北側に3軒、中央西寄りに1軒、計4軒検出されているが（順にA群・B群とする）、調査区外に更に遺構の存在する可能性も高い。北側の3軒は、西側の2軒と東側の1軒に分かれる（A1群・A2群とする）ため、3つの群に分かれる。

出土遺物に明確な時期差は見られないため、遺物による時期細分はできない。また主軸方位は、住居の一部しか調査できなかった30号住を除いてすべて北方向であり、この点でも違いは見られない。しかしながら、A1群の30号住と45号住は約15mと近いため同時存在の可能性は低い。A1群とA2群・B群はそれぞれ約50m・80mと離れているため、同時存在の可能性はある。よって、この段階は調査区内だけでも、3軒と1軒あるいは2軒と2軒の最低2時期に分かれる可能性が高い。

第III段階は、調査区北側に5軒、中央やや北寄りに2軒、西側やや南寄りに1軒の計8軒検出されている（順にA～C群とする）。北側の5軒は、西側の2軒と中央の3軒の2カ所に分かれる（A1群・A2群とする）ため、大きく4つの群に分かれる。

この段階も、出土遺物に明確な時期差は見られない。床面積は、A群の28号住が18㎡、29号住が28㎡と他に比べ大きく、他の住居は床面積が10㎡以下と小さい。また、出土遺物はどの住居も比較的多いが、28・29号住が最も多くなっている。主軸方位を見ると、13・29号住が東方向で他は北である（カマドの検出されなかった10号住を除く）。この2軒はいずれも北カマドを東に作り替えており、また、この2軒だけ「玉」の刻書土器が出土している。以上のことから28号住と29号住、13号住と29号住に類似性が認められる。28・29号住は近接しており、同時存在した可能性は考えられない。13・29号住は住居間の距離が100m以上あり、同時存在した可能性が高いと言えよう。主軸方位については、第II段階以前の住居がほとんど北カマドで、東カマドのものは無いのに対し、平安時代の37号住は東カマドであることを考えると、北カマド→東カマドの変遷が想定される。よって、東カマドをもつ13・29号住は、第III段階では最も新しい時期のものになる可能性が高く、北から東へのカマドの作り替えはこの過渡期であることを示していると考えられる。

A 2群の3軒の住居はいずれも3～10mと近接しており、同時存在した可能性は低い。B群の2軒も重複しているため、同時存在していない。

以上のことから、第Ⅲ段階の集落は、最低4時期に分かれ、2～4軒が互いにかかりの距離をおいて散在していた状況が想定できる。

埴輪窯

埴輪窯は自然の谷津（2号谷津状遺構）の谷頭部を利用して築造されている。1・2号の2基検出されているが、1号窯には焼成不良の完形に近い円筒埴輪が多数残されていたのに対し、2号窯からは破片しか出土していない。また、2号谷津状遺構からも、多量の円筒埴輪・朝顔型埴輪・形象埴輪（軀）が出土している。出土状況から見て埴輪窯から廃棄されたものとすることができ、出土量もかなり多くなっている。また、埴輪窯出土の埴輪の調整技法はどれもほぼ同様であるため、1回の焼成においては調整技法の同じ埴輪、あえて言えば同一工人製作によるものが焼成されたと推定できる。さらに、埴輪窯出土の埴輪と、埴輪窯から廃棄されたと考えられる谷津状遺構出土のものとは調整技法に若干の差が見られ、出土量もかなり多くなっているため、1・2号窯での焼成は数回に互っていたと考えられる。

出土埴輪から、埴輪窯の時期は6世紀中～後半と考えられるが、北側の住居群の中には同時期に比定できる竪穴住居もあるため、埴輪工人が居住していたと考えられるが、住居にはそれを示す痕跡は残っていないため、居住した住居を特定することはできない。

③平安時代 平安時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑1基が検出されており、また、奈良時代の13号住居覆土中から八稜鏡等の遺物が出土している。竪穴住居の時期は、出土した灰釉陶器や、いわゆる「コ」の形状口縁部を有する土師器甕が出土していて羽釜が出土していないこと等から、9世紀後半代になると考えられ、土坑は、出土した土師器坏から10世紀後半代と考えられる。また、13号住居出土の八稜鏡は、10世紀後半と考えられる⁽⁶⁾。

竪穴住居は、調査区北側東寄りの古墳～奈良時代の竪穴住居群中にあり、1軒単独で存在している。東側の調査区外に遺構の存在する可能性もあるが、遺構外出土遺物も少ないため、調査区外に多くの遺構があったとは考えられない。丘陵上の他の遺跡からはこの時期の住居は検出されておらず、この時期には居住活動がほとんどなされなかったことを示している。当遺跡に居住した人々も、ごく短期間で別の場所に移動したと考えられる。

平安時代の住居は、田篠上平遺跡⁽⁷⁾・本宿郷土遺跡⁽⁸⁾・南蛇井増光寺遺跡⁽⁹⁾等に見られるように、低地において多数まとまって検出される例が多いが、丘陵上で1～2軒しか検出されない例もある。富岡市内の関越道上越線地域でも、北山茶臼山西古墳⁽¹⁰⁾で1軒、野上塩之入遺跡⁽¹¹⁾で2軒と、単独に近い状態で検出されている。両遺跡とも周囲に住居は存在しない地形である。時期はいずれも9世紀後半代で、当遺跡の住居とほぼ同時期である。両遺跡は、狭い丘陵上で一般的な集落が形成されない地形に立地しているため、以前「離れ国分」⁽¹²⁾と呼ばれていた様に、特異な性格をもった住居と考えられる可能性もある。しかしながら、当遺跡の住居は、古墳～奈良時代の集落と同じ場所に立地しており、特異な性格は考えられないため、1軒単独で存在するのは、むしろこの時期の一般的な集落形態の1つであると考えられる。

さて、土坑も1基単独で存在している。内匠日影周地遺跡では、完形の坏が出土した同様の土坑が5基検出されており、時期もほぼ同時期になると考えられる。形態は円形と楕円形があるが、墓塚の可能性が高いものもあるため、数は少ないが、この時期には丘陵上は墓地としての利用が考えられる。ただし、丘陵上に

第IV章 調査の成果と問題点

は他に同時期の住居が存在する可能性はきわめて低いため、低地に居住した人々が丘陵上を墓地として利用したものであろう。

(3) 近世

近世は墓墳と考えられる土坑が12基検出されている。調査区南端部中央の南に向いた斜面上で、東西9m南北5.5mの範囲に集中して存在しており、墓地を形成している。平面形態は隅丸長方形が8基、楕円形が2基で、隅丸方形が2基と少ないが、長径の平均が1.1mと小さく、深さの平均が80cmと深いため、座棺であった可能性が高い。出土遺物は、陶磁器・土師質土器の碗・皿が9基から出土しているが、5基からは同一器形のものが2枚ずつ出土しており、副葬の一つの形態を示している。すべて皿であるが、種別は陶器・磁器・土師質土器と多岐に亘っており、限定されていない。銅銭は12基中11基から出土しており、さらに10基からは4～12枚の塊で出土している。これには繊維の付着しているものもあるため、銅銭を布袋に入れて副葬していたと考えられる。土坑の時期は出土した陶磁器類から17世紀後半～18世紀代になると考えられる。

丘陵上の他の遺跡では、内匠諏訪前遺跡で浅間A軽石降下（1783年）以前と以後の2つの屋敷が検出されている。軽石降下以前の屋敷は土坑と同時期になる可能性もあるが、距離は約900mと離れており、直接の関係は無いと思われる。内匠諏訪前遺跡からは墓墳も検出されているが、時期的には当遺跡のものより新しくなる。他には丘陵上からは近世の遺構は検出されていないため、当遺跡の墓墳に葬られた人々は別の場所に居住していた可能性が高い。

注

- (1) 現在整理中 縄文時代早期の遺物の他に、古墳時代前期末・後期の竪穴住居、浅間B軽石下水田等が検出されている。
- (2) 木村 収 1992 (3) 新井 仁 1993
- (4) 現在整理中 縄文時代前期の遺構の他に、奈良時代の竪穴住居等が検出されている。
- (5) 石井克巳 1990 大塚昌彦 1988等
- (6) 第IV章第5節参照
- (7) 依田治雄 1988 (8) 井上 太 1981 (9) 斎藤利昭他 1993 伊藤 肇 1994等
- (10) 田口正美 1988 (11) 新井 仁 1991 (12) 中山吉秀 1976

引用参考文献

- 新井 仁 1991 『野上塩之入遺跡・塩之入城遺跡』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
1993 『内匠上之宿遺跡』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
石井克巳 1990 『黒井峰遺跡』『古墳時代の研究 第2巻』 雄山閣出版
伊藤 肇 1994 『南蛇井増光寺遺跡III』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
井上 太他 1981 『本宿・郷土遺跡発掘調査報告書』 富岡市文化財保護協会
大塚昌彦 1988 『中筋遺跡 第2次発掘調査報告書』 渋川市教育委員会
木村 収 1992 『内匠諏訪前遺跡・内匠日影周地遺跡』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
斎藤利昭他 1993 『南蛇井増光寺遺跡II』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
田口正美 1988 『大島上城遺跡・北山茶白山西古墳』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
中山吉秀 1976 『離れ国分考』『古代 61号』 早稲田大学考古学会

第2節 121号土坑出土刻書土器について

東野 治之

121号土坑から、下記のような篋書きをもつ甕の口縁部が出土している。

□野国甘楽郡湍上郷戸主物 (名万呂進カ)
□□□□□

筆画と調整の際の傷とが判別しにくい個所もあり、釈文の確定は困難であるが、一応以上のように読んでおく。年代は、伴出の土器より8世紀中頃から後半と推定されている。

「甘楽郡湍上郷」は、『和名抄』にもみえる上野国の郡郷名であって、その最古の表記例といえ、高山寺本や新出の名古屋市博物館本『和名抄』⁽¹⁾の本文の正しさを裏付けるものである。

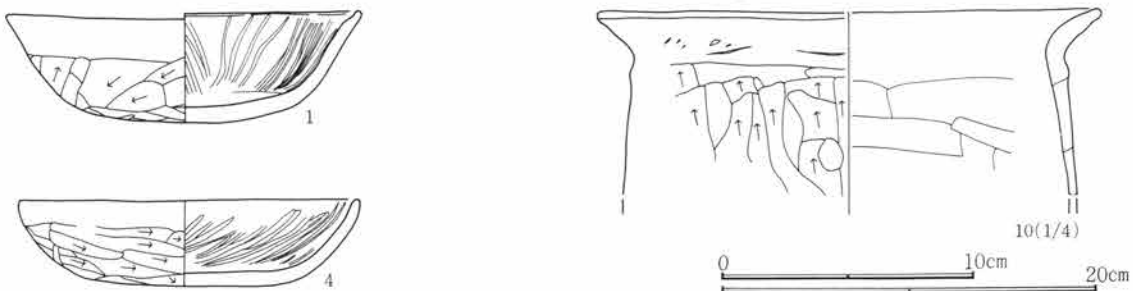
また上野国における物部の分布は、近年出土資料の増加によって、多胡・緑野・群馬各郡における分布が確かめられているが⁽²⁾、この刻書土器によって、8世紀、湍上郷における存在が初めて確認されるのは貴重である。

なお墨書、刻書を問わず、文字をもつ土器の出土例は全国的に珍しくないが、本例のように本貫地名、戸主名の入った例は珍しい。瓦における国郡郷名や戸主名の刻入は、公的負担に関係すると考えられているが⁽³⁾、刻書土器の場合も、同様な事情が考慮されてよいであろう。例えば福岡県大野城市のハセムシ窯跡からは、調の大甕であることを篋書きした8世紀初めの甕の断片が出土しているが、これには国郡里名や貢進者名がみられる⁽⁴⁾調庸純布における墨書銘や貢進物荷札の記載と同性質の資料である。また墨書である点でやや性質は異なるが、千葉県佐原市吉原三王遺跡出土の墨書土器にも、本貫地らしき地名を冠した人名がみえ、在地での公的負担に関係すると推定されている⁽⁵⁾。

いま問題としている刻書土器の場合、税目の記載はなく、出土地が集落跡であることからみて、調庸物などとはかんがえられないが、「戸主」の語の存在も考慮すれば、戸単位に賦課された何らかの貢進物に関わると判断すべきであろう。この土器自体が貢進物であるのか、又は内容物がそうであったのかは不明としても、製作当初から貢進用と意識されていたことは、篋書きという手法から疑いない。在地における賦課の史料として、注目すべきものであり、類例の増加を望みたい。

注

- (1) 名古屋市博物館資料叢書2 1992年
- (2) 松田 猛 「出土文字資料からみた上野国の古代氏族」『地方史研究』243号 1993年
- (3) 森 郁夫 「奈良時代の文字瓦」『日本史研究』136号 1973年
- (4) 倉住靖彦 「福岡県ハセムシ窯跡出土の刻書文字」『日本歴史』500号 1990年
- (5) 栗田則久・石田広美・平川南「千葉県吉原三王遺跡の墨書土器」、『考古学雑誌』71-3、1986年



第373図 121号土坑出土遺物



第374図 121号土坑出土刻書土器

第3節 121号土坑出土の刻字土器の地域史的意義について

関口 功一

はじめに

下高瀬上之原遺跡121号土坑出土の刻字土器は、群馬県下で現在までに若干知られている類例と比較しても文字数が多く、内容もかなり具体的である。付札木簡などに近い性格が想定出来ると思われるが、類例自体が非常に僅少で、今後徐々にそのような例が増加してゆくにしても、相当に貴重なものであるという点には変わりがない。ほぼ殴り書き状態であるうえに、刻字後も若干の器面調整を行って正確な積読を困難なものとしているが、この刻字が本来製作者のメモに相当するもので、完成品に残すことを意図していなかったとすれば、個体毎ほどの頻度では見られなくとも、数個体単位毎に記されていて、製作段階で抹消されてしまうものが多いために、類例がないという事情が想定出来るかもしれないが、確証はない。

積読を中心にした概要については、既に第2節に簡潔に触れる通りであるので、それを踏まえて筆者の当面の問題関心から見た地域史的意義について少しく考えてみたい。

1 上野国甘楽郡湍上郷について

古代の上野国甘楽郡は、一部甘楽郡甘楽町を含む現在の富岡市を中心とした地域である。『和名類聚抄』(以下『和名抄』と略す)によると、都合十三の郷名が知られている。こうした郷数によって想定される郡の規模は、国府所在郡である群馬郡に並び、和銅四(711)年の多胡郡分割以前には、上野国最大の郡であった可能性もある。全国的に見ても「大郡」の類例は少なく⁽¹⁾、表記にやや不確定なものもあるが、現存地名や比定地等の関係を整理してみると第1表のようになる。

甘楽郡・多胡郡によって構成される鑄川流域地域は、群馬県内でも『和名抄』郷名と一致するとみられる地名が比較的良好に残されている⁽²⁾。甘楽郡から分割されたことが明らかな多胡郡の郷を含めて整理し直してみると、都合十七郷(里)以上で構成されていた可能性がある。しかし、これらの半分以上は『和名抄』以前の史・資料がほとんど遺されておらず、本来どの程度の連続性があるのか現状では確認しにくい。今回発

第1表 甘楽郡の郷(「大東急記念文庫本」の配列・表記による)

	『和名抄』以前	『和名抄』郷名	遺称地	比定地	備考
1		貫前	○(神社名)	富岡市一の宮	A (ミヤケ所在地カ)
2		酒甘	○	// 坂井	A
3		丹生	○	// 丹生	A
4		那非	×	// カ	
5		湍下	○	// 瀬下	A
6		宗伎	○(神社名)	// 曾木	A
7	湍上	湍上	×	// 高瀬	C ※(物部氏)
8		有只	○	// 宇田	A
9	那射	那射	○	// 南蛇井	A 上野国府周辺出土瓦銘
10		額部	○	// 額部	C
11	新屋	新屋	○	甘楽町新屋	C 平城京出土木簡(蘇直部氏)
12		小野	○	富岡市小野	B
13		抜鋒	×	// カ	
(参考)	織裳	折茂	○	多野郡吉井町折茂	上野国分寺出土瓦等
多	韓級	辛科	○(神社名)	// 神保	//
胡	矢田	八田	○	// 八田	// ・墨書土器等
郡	大家	大家	×	// 多比良カ	// (ミヤケ所在地カ)

※比定地のA：遺称地と比定地とがほぼ一致、B：遺称地と比定地とが近接または一部重複、C：遺称地と比定地とがあまり関係がない。



第375図 古代甘楽郡模式図

見された「(上) 野国甘楽郡湍上郷…」銘によって、その存在が八世紀前半段階まで遡ることが確実な資料をひとつ加えることになった。遺存地名を中心に模式図的に整理してみたのが第375図である。

この近辺は、最近の急速な都市化の進展があるものの、考古学的には後期の群集墳の分布や、大規模な集落遺跡の存在がかなりの頻度で見られ、「郷」ないしは「里」との対応関係を示すと見られる単位を示す例も少なくない。ここで問題になることは、当該銘文が「上野国甘楽郡」に属することは殆ど疑う余地がないので、その下部単位としての「湍上郷」とどの程度の関係を持っているかということである。瓦や須恵器など、生産地から消費地への移動が前提となっていたり、官衙遺跡で出土する貢進物付札木簡などのように、仮に銘文が存在しても出土地点の性格付けを行う際には扱いにくい事例は確かにある。

上之原遺跡の立地は東の富岡市内匠から続く、幾つかの谷地が切れ込んだ複雑な地形の丘陵上にあって、この流域のやや幅広な河岸段丘上に展開する一般的な集落に比較すると、視覚的にやや特異な印象がある。平地部分を含めた周辺の集落の全体構造が把握されている訳ではないが、調査以前にも確認されたような谷地を取り囲む形で一連の住居跡群が存在し、その大半は丘陵北端によっている。これは、北側平地部分に展開している条里型土地区画を残す水田等への眺望を意識している可能性があり、そうであればこれらの住居跡群に居住していた人々の特殊な地位が想像されるであろう。

また、地形の制約もあるであろうが、同時期には南側は明らかに墓地として意識されているようで、住居跡群の所属が丘陵の南側の地域—「額田(部)郷」の可能性はある—ではないように思われる。その所属を丘陵以北の地域と考えてよければ、鎭川(=鎭「湍」)を挟んで北東側(左岸)が「湍下郷」・丘陵部分を含み地形的にやや上位にある西南側(右岸)が「湍上郷」である可能性はかなり強いだろう。地域の広がりからすると、やや郷の分布が稠密な印象があるが、不明の郷が徐々に判明してくれば、空白地域も埋まってくる可能性がある。

土師器の属性から考えれば、ごく近接した地点で焼成され、①国府・郡家などへの輸送途中に破損して廃棄されたか、②村落内部の祭祀などによる破壊を前提に(村落外で)製作され、使用後に廃棄された、などの可能性がある。②のような場合には、上之原遺跡のやや特異な印象のある立地や、当該資料を出土した遺

構の性格が改めて問題になるかもしれない。また、土器そのものが問題であったのか、あるいはそれに収納されていた内容物が問題であったのかについても情報が無い。国名が記されていることを考慮すれば、上野国地域外を意識していることになると思われるが、貢進物付札木簡並の一般化が出来るかどうかは多少問題がある。

やや歯切れはよくないが、周辺の状況などを勘案すると、上之原遺跡周辺が八世紀中頃に「湍上郷」に含まれていた可能性があり、当該資料はそこで使用・廃棄されたものであったと考えたい。

2 湍上郷と湍下郷

甘楽郡の部分に関する『和名抄』郷名の配列には特別な規則性を見出しにくい。現存地名の分布から考えると北西から東へ向かってややランダムに並んでいるようである。「湍下→宗伎→湍上」という部分に関しては、鑷川左岸を東へ進んだ後、鑷川を挟んで南北に並んだ地域と考えて別に不都合はないが、なお不確定要素も残る。

地名に「上」と「下」という区分が付くことは珍しいものではなく、各時代を通じて相当例が確認出来ると思われるが、「東・西・南・北」や「前・(中)・後」などと共に、非常に機械的な分割を想像させられ、その背後には為政者の政策的意図があったと思われるものがあるように思われる⁽³⁾。特に、「上・(中)・下」型の地域行政区分について『和名抄』段階で整理してみたのが第2表である。

国レベルでは「前・中・後」という区分の例がやや多く、古代以降も東北地方などで準用される傾向がある。「上・下」の場合を含め、「上」または「前」が交通路上で、相対的に中央に近い位置を占めると考えられている。地域的には畿内には見られず、特に「前・中・後」に関しては、ある段階までにヤマト勢力に服属した地域で、未服属の地域と接するような地域に設定されている。一般にそれが、律令制的「国」に先行する「道」を前提とすると考えられているが、「上・下」の場合はそれほど明瞭ではない。いずれにしても、かなり政策的な背景があったと考えられる。

郡レベルでは非常に規則性があり、類型毎に三つに整理できる。第一の型は、時期もすべてが八世紀前半までに収まる「○上・○下」型の分割である。この種の分割は、地域的には大和国を中心とする畿内地域に集中し、遠江国・相模国の場合は例外に近い印象がある。

第二の型は、分割時期は必ずしも明らかではないが、数郡にまたがる程度のかかなり大きな領域的広がりをも、「賀美(上)・那珂(中)・資母(下)」または「賀美・資母」と分割する例である。全国的に分散しているが、東北地方の事例などは、東国地域からの移住の痕跡であろう⁽⁴⁾。やや東海道諸国に多い印象があるが、海上地域の分割によって知られるように、七世紀後半の(国)評里制施行下で実施されたものが多いのではないかと⁽⁵⁾。具体的地名を残すAタイプと、具体的地名を残さないBタイプに細分できるが、恐らくAタイプがやや先行すると思われる。

Aタイプの「上海上・下海上」「上道・下道」は第三の型に含めるべきかもしれない。特にBタイプでは、現実には字面を嫌ってか「資母」郡は存在しないが、それに相当する郡が具体的な名称を与えられているためであろう。武蔵国などでは、配列から見て榛沢郡が男衾郡里りが「資母」郡になるものと思われる。単独で見える場合には「那珂」郡の例が多いが、位置関係に手掛かりを欠くため、「賀美・資母」に相当する郡はほとんどわからない。畿内を中心に見られる「宇治(内)」郡との関係も問題になるが、最近では有力な反対説も存在する⁽⁶⁾。

また第三の型は、九州地方に集中するもので、「上○・下○」型の分割である。これも分割時期は明らかで

第IV章 調査の成果と問題点

はないが、八世紀初頭段階での未服従地域である南部に見られないため、(国) 評里制施行以前であるかもしれない。但し、直接史料で確認は出来ない。

郷レベルでは、国・郡と比較して現地比定が甚だしく困難であるうえ、必ずしも残存状態が良好とは言えないため、法則性は絞りにくいのが相当例を拾うことができる。かなり多様な注記が認められるが、「有上下」

第2表 地域行政区分としての「上・中・下」

a. 国レベル

上	中	下	想定されている大地域
上総国	—	下総国	→フサ …南が上
上野国	—	下野国	→ケノ …西が上
(越前国)	越中国	(越後国)	→コシ …西が前
(備前国)	備中国	(備後国)	→キビ …東が前
(筑前国)	—	(筑後国)	→ツクシ…北が前
(肥前国)	—	(肥後国)	→ヒ …北が前

※伊勢・常陸・伊予各国などにも類例がある。

b. 郡レベル

国	郡	構成郷名	備考
大和	添上	山村・檜中・山邊・楊生・八島・大岡・春日・大宅	※東が上
	添下	村国・佐紀・矢田・鳥貝	
	葛(城)上	日置・高宮・牟婁・桑原・上島・下島・大坂・檜原・神戸・餘戸	※南が上
	葛(城)下	神戸・山直・高領・賀美・蓼田・品治・當麻	
	(磯)城上	辟田・下野・神戸・大市・大神・上市・長谷・忍坂	※東が上
	(磯)城下	賀美・大和・三宅・鏡作・黒田・室原	
河内	堅上	大里・鳥坂・鳥取・津積・巨麻・賀美	※北が上
	堅下		
摂津	(三)島上	濃味・兒屋・真上・服部・高上	※東が上
	(三)島下	新野・宿久・安威・穂積	
遠江	長(田)上	茅原・碧海・長田・川邊・蟾沼・壹志	※北が上
	長(田)下	大田・長野・貫名・伊筑・幡多・大楊・老馬・通限	
伊豆	那可	井田・那賀・石火	
相模	足(柄)上	豪家・櫻井・岡本・伴郡・餘戸・驛家	※北が上
	足(柄)下	高田・和戸・飯田・垂水・足柄・驛家	
武蔵	賀美	新居・小鴨・曾能・中村	※北が上
	那珂(資母)	那珂・中沢・水保・弘紀	
上総	(上)海上	佐三・稻庭・大野・山田・倉橋・福良・嶋穴・馬野	※南が上
	(下)海上	大倉・城上・麻績・布方・軽部・神代・編玉・小野・石田・石井・須賀・横根・三前・三宅・松木・橋川	
常陸	那珂	入野・幡田・安賀・大井・河内・川邊・常石・金隈・日部・志万・阿波・芳賀・石上・鹿嶋・茨城・洗井・那珂・八部・武田	
陸奥	賀美	川嶋・磐瀬・餘戸	移住の結果カ
石見	那珂	都濃・都於・石見・周布・三隅・杵束・伊甘・久佐	
備前	上道	宇治・幡多・可知・上道・財部・居都・日下・那紀・豆田	※東が上
備中	下道	穂太・八田・迹磨・曾能・秦原・水内・釧代・近似・成羽・弟翳・穴田・湯野・川邊・呈妹・田上	
紀伊	那珂	神戸・石手・橋門・那賀・荒川・山崎・埴崎	
阿波	那賀	山代・大野・嶋根・出水・坂野・幡羅・和射・海部	
讃岐	那珂	真野・良野・子松・高篠・櫛无・垂水・喜徳・智多・郡家・柳原・金倉	
筑前	那珂	田来・日佐・那珂・良人・海部・中嶋・三宅・山口・板曳	
	上(朝)座	馬田・青木・歙饗・三城・美囊・城邊・立石	※東が上
	下(朝)座	把伎・壬生・廣瀬・杵田・長淵・河東・三嶋	
筑後	上妻(八女)	太田・三宅・葛野・桑原	※東が上
	下妻(八女)	新居・鹿待・村部	
豊前	上(三)毛	山田・炊江・多布・上身	※北が上
	下(三)毛	山国・大家・麻生・野仲・諫山・穴石・小橋	
日向	那珂	夜開・新居・田嶋・物部	
対馬	上県	伊奈・向日・久須・三根・佐護	※北が上
	下県	賀志・鷓知・玉調・豆配	

◇備考の※は分割後の位置関係を示す。

第3節 121号土坑出土の刻字土器の地域史的意義について

c. 郷レベル

国	郡	上(中)・下	他の構成郷名	備考
山城	葛野	上林・下林	橋頭・大岡・山田・川邊・葛野・川嶋・櫛原・綿代・田邑	(西が上?)
	愛宕	上粟(田)・下粟(田)	蓼倉・栗野・大野・小野・錦部・八坂・鳥戸・愛宕・賀茂・出雲(有上・下)	(北が上)
	宇治	賀美(?)	宇治・大國・岡屋・餘戸・小野・山科・小栗	
	相楽	(上狛)・下狛	水泉・賀茂・大狛・蟹幡・祝園	(南が上)
大和	平群	(?)・那珂(?)	飽波・平群・夜麻・坂門・額田	
	広瀬	上倉・下倉	山守・散吉・下句	(?)
	葛上	上島・下島	日置・高宮・牟婁・桑原・大坂・植原・神戸・餘戸	(?)
	宇智	賀美・那珂・資母	阿陀	(?)
	吉野	賀美・那珂・資母	吉野	(?)
	城下	賀美(?)・(?)	大和・三宅・鏡作・黒田・室原	
	高市	賀美(?)・(?)	巨勢・波多・遊部・檜前・久米・雲梯	
河内	安宿	賀美・資母	尾張	(?)
	波川	賀美(?)・(?)	竹洲・邑智・餘戸・跡部	
	丹比	丹(比)上・丹(比)下	依羅・黒山・野中・三宅・八下・田邑・菅生・土師・狭山	(?)
和泉	大鳥	上神(下神)	大鳥・日部・和田・大村・土師・蜂田・石津・塩穴・深井	
	和泉	上泉・下泉	信太・輕部・坂本・池田・山直・八木・掃守・木嶋	(東が上?)
	日根	賀美(?)・(?)	呼嘯・鳥取	
摂津	豊島	秦上・秦下	驛家・豊島・大明・餘戸・桑津	(?)
	川邊	雄上(雄下)	雄家・餘戸・大神	
	武庫	賀美(?)・(?)	兒屋・武庫・石井・曾祢・津門・廣田・雄田	
	有馬		春木・幡多(有上・下)・羽末・大神・忍壁(有上・下)	
	兎原	賀美(?)・(?)	葦屋・布敷・天敷・津守・賀美・佐才・住吉	
伊勢	河曲	賀美(中跡)・資母	神戸・驛家・海部・川部・深田	(?)
	飯高	上牧・下牧	丹生・英太・立野・神戸・驛家	(?)
尾張	丹羽	上沼・下沼	吾縵・稲木・上春・丹羽・穂積・大桑・前刀・小弓・小野・小口	(?)
甲斐	都留	賀美(?)・(?)	相模・古水・福地・多良・征茂・都留	
武蔵	幡羅	上秦・下秦	廣澤・荏原・幡羅・那珂・霜見・餘戸	(?)
常陸	鹿島	上島カ・下島	白鳥・鹿嶋・高家・三宅・宮前・宮田・中村・松浦・中嶋・輕野・徳宿・幡麻・大屋・諸尾・新居・伊嶋	(?)
	多珂	賀美(?)・(?)	梁津・伴部・高野・多珂・藻嶋・新居・道口	
近江	野洲		三上(有上・下)・敷智・服部・明見・途保・篠原・驛家	
	坂田	上坂・下坂	大原・長岡・細江・朝妻・上丹(生・下丹生)・阿那	(東が上?)
美濃	大野	上狄・下狄	橋妻・大神・明見・三桑・郡家・志麻・大田・石太・栗田・七崎・驛家	(北が上?)
	恵那	絵上・絵下	淡気・安岐・坂本・竹折	(?)
上野	甘菜	端上・端下	賀前・酒甘・那非・宗伎・有只・那射・額部・新屋・小野・抜鉾	(南が上)
下野	塩屋	山上・山下	片岡・阿曾・散伎・餘戸	(?)
陸奥	小田	賀美(?)・(?)	小田・牛甘・石毛・餘戸	
	社鹿	賀美(?)・(?)	碧河・餘戸	
越前	足羽	江上(江下)	安味・額田・足羽・草原・小名・井手・中野・岡本・江沼・野田・上家(下家)・川合・利苺・亘理	
	大野	賀美・資母	大沼・大山・毛屋・出水	(南が上)
加賀	能美	山上・山下	輕海・野身・兎橋	(?)
能登	能登	上日・下日	越嶺・八田・加嶋・与木・熊来・長濱・神戸	(南が上)
越後	魚沼	(?)・那珂(?)	賀祢・苺上・千屋	
丹波	何鹿	賀美(?)・(?)	拜師・八田・吉美・物部・吾雀・高殿・私部・栗村・高津・志麻・文井・小幡・漢部・餘戸・三方	
但馬	出石	(賀美)・資母	小坂・安美・出石・室野・植野・高橋	
伯耆	久米	上神・下神	八代・橋縫・山守・大鴨・小鴨・久米・勝部・神代	()
播磨	飾磨	(高)草上・(高)草下	菅生・餘戸・英賀・伊和・辛室・大野・英保・三野・穴无・印達・巨智・平野・周智	()
	多可	賀美・那珂・資母	荒田・黒田・蔓田	()
	賀茂	上鴨(下鴨)	三重・穂積・川内・酒見・大神・川合・住吉・夷俘	
備後	三次	上(三)次・下(三)次	播次・布努	()
阿波	板野	(山上)・山下	川嶋・井隈・津屋・高野・小嶋・田上・松嶋・餘戸・新屋	
伊予	風早	(?)・那賀(?)	粟井・河野・高田・難波	
筑前	夜須	賀美(?)・(?)	中屋・馬田・雲提・川嶋・栗田	
豊前	上毛	上身(下身)	山田・炊江・多布	
肥後	玉名	(上宅)・下宅	日置・為太・石津・宇部・大町・大水・江田	
	菊池	上甘(下甘)	城野・水嶋・辛家・夜開・子養・山門・亘理・柏原	
	託麻	上嶋(下嶋)	酒井・津守・桑原・波良・漆嶋・三宅・下井	
老岐	老岐	(?)・那賀(?)	風早・可須・田河・鯨伏・潮安・伊宅・伊周	

※石上・日下など部姓に由来するものは除外した。

第IV章 調査の成果と問題点

とするものなどは明らかに『和名抄』の時期以降の分割で、平安時代に盛行する「東・西・南・北」型の分割と類似する。

郡と同様に幾つかの型に分類出来るが、先ず「上・下」型は最も頻度が高い。基本的には郷の前提になる地域の範囲が狭いためか「那珂(中)」はやや例外的である。地域的には畿内近国に集中し、そこから距離が隔たるほど頻度は下がるが、絶無ではなく各地に見られる。恐らく、先進地域から広がっていった比較的新しい時期に属するタイプの分割になるのだろう。

次に「上〇・下〇」型であるが、一郡内に「上・下」が揃って確実な分割を示す例は畿内・東海道・東山道各地域に限られる。「上・下」型同様、先進地域を中心に行われた傾向が認められるが、「上・下」型よりは拡散傾向にある。分割された郷は、本来郡内で最大の郷であったと思われるが、分割以前の名称が判明しない場合が半数程度ある。

更に「〇上・〇下」型は最も頻度が低い。「湍上・湍下」の例も「〇上・〇下」型に含まれるわけだが、上ないし下に対応する地名が忘失された場合と、本来存在しない場合が分別できない事例が少なくない。そうした中では「湍上・湍下」の場合は貴重である。

甘楽郡の含まれる鑓川流域地域は、上野国のなかでも国府にやや親和的な勢力が分布していた可能性があり、国領・公田の設定・維持が周辺地域よりは徹底して実施されたように思われる。それは、『和名抄』郷名を遺す村落の連続性を欠き、一郡単位の荘園を成立させる新田郡地域周辺との著しい性格の相違となっている。「湍上・湍下」の例は、律令制下の保守的勢力内部での相対的に先進性を持った再編成に関する事例として理解出来るのではなかろうか。



第376図 富岡市周辺の字名と条里型方格地割

3 「戸主物部名万呂」について

既に述べたように、上野国内での甘楽郡の持つ地域的な意義は、多胡郡分割以前のそれが鑄川流域という比較的完結性の高い地域的広がりを持っていたことである。史料上で知られる郡領氏族は壬生公氏のみであるが、物部氏もその上部グループは郡領級の在地豪族であったと思われる。伝承では、上野国一の宮の貫前神社を奉祭したのは物部氏であり、後述するように古代上野国西半部を中心に随所にその痕跡を見いだすことができる⁽⁷⁾。

「戸主物部名万呂」を考えるに当たって、従来言われてきていたような鑄川流域が「甘楽郡＝物部、多胡郡＝渡来人」という理解だけでは充分でないという点を、改めて確認しておく必要がある。古代の上野国内の「物部」の分布について、現在までに知られているものを、やや範囲を大きく取って整理してみたのが第3表である⁽⁸⁾。

第3表 上野国の「物部」の分布（矢野論文⁽⁸⁾所載表に加筆）

郡名	郷名	里名	氏名	備考
碓氷				※石上部君氏居住
片岡				
甘楽			物部公蟻淵	『続日本紀』天平神護元・11・1条（←物部改姓）
			物部公牛麻呂	『続日本紀』天平神護二・5・20条（←磯部改姓）
			物部	仁治四年板碑（複数あり）
	湍上		物部マ□□□	戸主（当該資料）
				※貫前神社の祭神は経津主命
多胡	山（字） 八田 八田		物部子□□	上野国分寺出土瓦銘（複数あり）
			（物部郷長）	矢田遺跡出土石製紡錘車刻字
			（物部一八）	矢田遺跡出土石製紡錘車刻字
			物部神社	上野国神名帳 ※穂積神社あり
緑野	小野		物部鳥麻呂	平城宮出土木簡・戸主
那波				※穂積神社あり
群馬	下贄	高田	物部君午足	金井沢碑銘
			（物部私印）	矢中村東遺跡出土銅印銘
吾妻				※上毛野坂本朝臣（←石上部君）氏居住
勢多				
佐位				
新田				※矢田（部）氏居住
山田				
邑楽				※八田郷あり

こうした整理による限り、時期の異なる様々な要素があってその分布はやや拡散しているが、甘楽・多胡両郡のある鑄川流域に分布の中心があり、徐々に密度を薄めながら緑野郡や群馬郡南部にまで広がりを見せている。こうした傾向は、恐らく断続的に北武蔵地域西部にまで伸びているものと思われる。七世紀後半以降密接な関係があったと思われる石上部君氏の分布とも併せ、概ね上野国西部地域を支配する主要な勢力であったと理解出来るだろう⁽⁹⁾。

個々の資料の前後関係に注意してみると、

- ① 金井沢碑銘に見える例（君姓）
- ↓
- ② 当該資料（姓ナシ）
- ↓
- ③ 平城宮出土木簡（姓ナシ）

第IV章 調査の成果と問題点



④ 『続日本紀』の記事（公姓）ないし一連の出土文字資料



⑤ 仁治四年板碑（姓ナシ）

といった序列になるものと思われる。④については、遅くとも平安時代前期までで押さえられ分量的には多いが、史料の編纂時期の問題や、伴出土器編年の幅などの問題があって、厳密に前後関係を判別出来る状態にはない。

当該資料の年代について言えば、国一郡一郷の行政区分になっており、郷里制廃止の天平十二（740）年を上限とする。このことは、伴出した土器の8世紀中葉～後半頃という年代観とも矛盾しないらしい。ごく近接した地点に限っても13号住居跡（2点）・29号住居跡（19点）・42号住居跡（1点）・65号土坑（6点）・2号谷地（8点）などから、確認されているだけでも37点以上の墨書・刻書が知られているという。その圧倒的多数を占めているのが「王（玉）」であり、本資料と「甲」と読めるもの一点以外はすべて「王（玉）」である可能性が強い。これらが、これまで新聞発表され考えられてきているように「生王（=壬生）」という氏族名に関係するものであるとすれば、本資料の性格は非常に微妙なものになる。

「生王（=壬生）」を示す可能性のある墨書・刻書のある土器の年代は、平安時代に属する住居跡等が相対的に少ないという現状では、いずれも奈良時代（8世紀中葉～後半頃）の所産であるという。鑷川流域地域ではこの時期、同時期の上野国としては記事が集中しているのが注意される。

- | | |
|--------------------|---|
| a 天平神護元（765）年11月1日 | 上野国甘楽郡人の中衛物部蟪淵等5人に「物部公」姓を賜う。 |
| b 天平神護二（766）年5月8日 | 上野国に在る新羅人子午足等193人に「吉井連」姓を賜う（参考）。 |
| c 天平神護二（766）年5月20日 | 上野国甘楽郡人の外大初位下礩部牛麻呂等4人に「物部公」姓を賜う。 |
| d 神護景雲三（769）年4月27日 | （上野国）甘楽郡人竹田部荒當・絲井部袁胡等15人に「大伴部」姓を賜う。 |
| e 弘仁三（812）年2月14日 | 上野国甘楽郡大領外従七位下勲六等壬生公郡守が戸口増益によって、特に外従六位下を授けられる。 |

a～dの出典はいずれも『続日本紀』、eの出典は『日本後紀』である。幾つか注目すべき事実関係はあるが、a～dは四年間程度の非常に近接した時期に集中しており、恐らく背後に何らかの関係があったものと思われる。但し、bは甘楽郡や多胡郡といった具体的郡名を記さず、人数が大きいこともあって上野国全体に関係するものであったと思われる。上野国分寺補修用と思われる瓦銘には「吉井連」が見えており、多胡郡周辺にも居住していた可能性は全く否定は出来ない。肩書などから見て、少なくとも八世紀中頃の鑷川流域地域で特殊な意味を持つのは「物部公」姓であったと思われる。

a～dが、単純に見える改賜姓記事であるのに比較すると、eはやや様相が異なる。当時流行の「戸口増益」に伴う昇叙記事である⁽¹⁰⁾が、「勲六等」を帯びることからすれば、八世紀後半の征夷戦争への参加が想定される。本来、地域の有力者の家柄ではあったろうが、恐らくそういった功績の追い風などによって「郡大領」に任命されたものであろう。記事に見える「戸口増益」は、非常に政治的なものであって、事実なのか

虚構なのか問題が残るが、仮に何らかの事実に関係しているのであれば、突然起こったものではなく、郡守の征夷戦争からの帰還後、郡司としての職務の遂行に当たって発生したものであろう。

「戸口増益」が事実であると考えれば、「生王 (=壬生)」を示す可能性のある墨書・刻書のある土器が集中することの意味は大きい。「生王 (=壬生)」氏の人々が、本来「郡大領」の家柄であった「物部公」姓の氏族を、何らかの事情で九世紀初頭頃圧倒した可能性があることを示すと考えられるのではないか。壬生氏の躍進は、郡守の個人的な力量によると思われるが、その後の物部氏と壬生氏との消長については、いずれも存続すること以上に詳細は知り得ない。

そのように見てくると、当該資料が壬生氏の集落跡に小さな破片として廃棄されていたことに積極的な意味が生ずるようにも思われるが、当面明言出来ない。考古資料と史料の取り扱い、特に群馬県地域のような地方を考えるに当たっては禁欲的に過ぎるということはないであろう。その意味で、本資料の性格をむしろ曖昧なものにしてしまったかもしれないが、なお不足する部分については後考に委ねたい。

むすびにかえて

本資料の存在を知らされた時、上信越自動車道建設に伴う一連の調査にかつて関与し、同時期の集落遺跡を発掘して実際に幾つかの文字資料に接した者の一人として、素直に驚きを隠せないものがあつた。しかし冷静に考えれば、この地点は遺跡の地形的条件などの印象と比べて以前から文字資料の出土頻度のやや高い場所であつた。現在の感覚からみれば、かなり比高差のある山林や畑ばかりの丘陵上で、居住など思いもよらない場所であるが、ある時点での上之原遺跡周辺は、かなり多様な人々が、様々な思惑を胸に行き交う地点であつたといえるだろう。現状では的確な性格付けが出来ないが、周辺から検出されている祭祀の痕跡なども併せて総合的に分析する必要を感じさせる⁽¹¹⁾。

本資料の内包する幾つかの問題点に関して、思いつくままに粗雑な整理を試みたが、ここで整理出来たことはいずれも筆者の当面の関心に基づくものであつて、本資料が本来持つ問題点の全てを網羅出来たとは到底言えない。それらのことは、この資料の存在が周知されて後、改めて多くの識者によって論ぜられるであろう。

注

- (1) 拙稿「古代の『山田』について」『東国史論』7 1992年
- (2) 拙稿「鐮川流域の条里的地割」『条里制研究』2 1986年 同「平安中期上野国の一様相」『群馬県史研究』25 1987年など
- (3) 拙稿「長田郡と足柄郡」『史苑』45-1 1986年
- (4) 拙稿「律令国家の東北政策と東国」『史苑』50-2 1990年
- (5) 荒井秀規「相模国足柄評の上下分割をめぐって」(『市史研究あしがら』5 1993年)は、小さな行政区分での上下の分割が地形の高低による場合のあること、この種の郡の分割がいずれも評制下の分割であるなどとする。概ね従うべきであろう。但し、機械的な地域編成を全体として考えようとする場合、筆者自身の課題でもあるが、「○上・○下」と「上○・下○」以外に、本文で整理したような「上・中・下」型の分割も考慮する必要がある。「ナカ」については「ソト」との対応から、全く別個の編成原理があつたかもしれないが、現状では成案を得ていない。
- (6) 岸俊男「たまきはる内の朝臣」『日本古代政治史研究』塙書房 1966年 但し、工藤力男「木簡類による和名抄地名の考察」(『木簡研究』12 1990年)の国語学の立場からの反論もある。
- (7) 松田猛「出土文字資料からみた上野国の古代氏族」『地方史研究』243 1993年
- (8) 矢野建一「鐮川流域の集落遺跡と貫前(按針)・宇藝神社」『矢田遺跡II』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991年所収
- (9) 唐沢保之「古代群馬におけるミヤケの一考察」『研究紀要』12 群馬県立歴史博物館 1991年 関口博幸・関口功一「物部と石上」(前掲注(8)書所収)など
- (10) この点に関しては研究が多いが、例えば佐藤宗諱「平安初期の官人と律令政治の変質」『平安前期政治史序説』東大出版会 1977年
- (11) 津金沢吉茂「内匠日向周地遺跡」『木簡研究』14 1992年

第4節 下高瀬上之原遺跡4号墳、5号墳の出土遺物について

坂口 一・南雲芳昭

1. はじめに

下高瀬上之原遺跡では、円筒埴輪を伴う7基の円墳を確認した。このうち、4号墳からは土師器の坏・埴・壺、須恵器の把手付埴が、5号墳からは土師器の坏・高坏・埴・甕がそれぞれ出土し、これらは円筒埴輪と土師器との平行関係を考える上で良好な資料を提供している。

ところで、群馬県下の円筒埴輪については徐々にその類例が増加し、次第にその様相が明らかになってきた。とはいえ、円筒埴輪と土師器の良好な組合せは依然として少なく、須恵器との組合せはさらに少ないのが現状である。

したがって、ここではこれらの円筒埴輪と土師器・須恵器の様相を検討するとともに、伴出する土師器・須恵器の編年観も含めて、古墳の築造年代に関する若干の推察を試みたい。

2. 埴輪の概要

4号墳 突帯は2条で透孔は円形を呈するものが多く半円形が少量認められる。外面調整は一次調整の縦ハケのみの資料が大勢を占めるが、二次調整の横ハケを有する資料が存在する⁽¹⁾。出土した全体量からみれば横ハケは客体的である。

成形の面では、幅5cm前後の粘土帯を基部とし、その上に巻き上げを行っていると思われる。底面にみられる基部の重ね合わせは5と11、17が他と反対の重ね合わせとなっている。2では2枚の粘土帯を連ねて基部としており、5世紀代に認められる技法の使用が看取される⁽²⁾。突帯位置は幅広の浅い沈線で割り付けをしている。突帯は総じて突出度が強く太くしっかりした造りである。

横ハケは3と15で様相を知ることができる。ともに静止痕は浅い場合が多い。3では胴部の横ハケは3～3.5cm間隔で静止しながら一周している。口縁部の横ハケは判別できる限りでは幅7cmほどの工具を用いて複数回廻っている。静止間隔は一周目が3.5～4.5cm間隔、最終周目が3.5～5cm間隔で最大間隔が5.8cmである。15では胴部は幅8cmほどの工具で一周している。静止間隔は3～3.5cm間隔が多く4cm間隔の箇所もある。口縁部は複数回巡り、3.5～4cmほどの静止間隔である。基底部下端では横ナデを施す例がある。ヘラがきは内外面にみられるが、33のように透孔と絡んで施される例がある。黒斑はなく須恵質を呈する資料がみられるので、窖窯焼成と判断できる。

5号墳 出土資料の中で外面調整は一次調整の縦ハケのみである。透孔は残存部の形状から半円形と円形が推定できる。突帯の形状は基本的に台形を呈し、一部三角形が認められる。丁寧にしっかり造られているが、4号墳資料のような上辺と下辺が器壁から垂直に伸びる突帯はみられない。外面基底部下端に横ナデが施される。成形面では、4号墳と同様に粘土帯を基部とし、巻き上げていくと思われる。1の朝顔形花状部の残存端部は突帯の横ナデが残るが、同所は疑口縁を呈し工程の単位を示している。ヘラがきは外面に認められ、特に2の肩部の平行三角文間を斜線で充填する形状が注目される。また、口縁部外面に赤彩の痕跡が認められるが、口縁部を一周するか否かは残存状態の関係で不明である。資料中に黒斑は認められない。

これら2古墳の編年的視点で特筆されることは、4号墳に認められる横ハケの静止間隔が決して長くはないことである⁽³⁾。また、突帯形状や透孔、基底部最下端の横ナデなどの調整の面でも5世紀に組み込まれるこ

とは間違いない。5号墳では4号墳資料中の突帯形状の一類型が多く認められ、かつ三角形突帯がみられる。透孔や調整面の要素としては4号墳と大差はない。2古墳の資料量の違いがあり一概には言えないところがあるが、両古墳はほぼ同時期の様相を呈しており、どちらかといえば突帯形状において5号墳に後出的要素が看取される。5号墳の出土資料中では横ハケが認められないが、伴うかどうか微妙なところであろう。

3. 土師器と須恵器の概要

4号墳 周溝内から土師器の坏・埴・壺、須恵器の把手付埴が出土する(第257・258図参照)。土師器坏は①彎曲した体部からやや内彎する口縁部に至り、外面に篋削り、内面に放射状の篋研磨を施すもの、②体部と口縁部を画す弱い稜線から外傾気味の口縁部に至り、外面に篋削りを施すものの2種類がある。土師器埴は膨らんだ体部から直線的に外反する頸部に至り、体部下位に篋削りを施す。土師器壺は最大径を中位にもつ膨らんだ体部から外面に弱い段差をもつ口縁部に至り、外面には篋削りを施す。須恵器把手付埴は平底から緩やかに彎曲する体部を経てほぼ直立する口縁部に至り、1条の弱い凸線と凹線で区画した内部に、1条の櫛描波状文を施す。体部下半には横位の篋削りを施す。

これらの土器群は、その出土状況から一括遺物と判断することはできないが、伴出する土器間には大きな型式差が認められない。したがって、これらは円筒埴輪と同様にこの古墳の築造年代を暗示する資料であると考えられる。

5号墳 周溝内から土師器の坏・高坏・埴・甕が出土する(第264・265図参照)。土師器坏は①平底気味の底部から彎曲する体部を経てやや内彎する口縁部に至り、外面に篋削りを施すもの、②丸底から彎曲する体部を経て短く外傾する口縁部に至り、外面に篋削りを施すものの2種類がある。土師器高坏は①大きく開いた裾部から上位が細い直線的な短い脚部を経て大きく外反する坏部に至り、外面と坏部内面に篋研磨を施すもの、②坏部の中位に段差をもつものの2種類がある。土師器埴は球状の体部から外反する頸部に至り、体部外面に篋削り、頸部内外面に篋研磨を施す。土師器甕は膨らみのない胴部から短く外反する口縁部に至り、外面に篋削りを施す。その他にこの古墳からは、周溝内から須恵器高台付埴、羽釜が出土している。

これらの土器群も、その出土状況から一括遺物と判断することはできず、一部に平安時代の土器をも含んでいる。しかし、これらを除けば伴出する土器間に大きな型式差が認められない。したがって、これらも4号墳と同様にこの古墳の築造年代を暗示する資料であると考えられる。

4. 年代的位置付け

これらの埴輪群と土器群の年代的な位置付けを検討してみたい。まず埴輪については、ともに窖窯焼成であることから、太田天神山古墳やお富士山古墳、白石稻荷山古墳、赤堀茶白山古墳などの黒斑を有する埴輪の時期までは遡らないといえる。

窖窯焼成の横ハケあるいは横ハケが客体的といわれる資料で内容の明白なものとしては、今井神社古墳⁽⁴⁾、井出二子山古墳⁽⁵⁾、白藤古墳群の横ハケを持つ一群⁽⁶⁾、「綜覧」記載漏五目牛18号墳⁽⁷⁾などが挙げられる。今井神社古墳資料とは前述の諸要素において変わるところがなく近似した時期であろう。ただし、後出的要素としては4号墳の方が上下辺内彎する方形に近い突帯が貧弱な点が挙げられる。白藤古墳群では、5世紀第3四半期に横ハケを持たない古墳が出現しはじめ、5世紀第4四半期にはすべて縦ハケのみになるという変遷過程をたどる⁽⁸⁾。このことから、4号墳は今井神社古墳にやや後出的でありながらも今井神社古墳や白藤古墳群の横ハケを持つ一群の年代である5世紀第3四半期を中心とした時期と考えておきたい。5号墳はこれと

第IV章 調査の成果と問題点

同様の時期で第4四半期にかかる可能性も残すといえる。今後は埴輪自体の問題としては上野地域における消滅期の横ハケの質と量の様相などが問題となつてこよう。

次に土器群であるが、4号墳の土師器坏は、彎曲した体部と僅かに内彎する口縁部の形状が、坂口が示した古墳時代中期の土器の編年のⅢ段階に位置付けられた土師器坏に近似している⁽⁹⁾。また、5号墳の土師器も、彎曲した体部と僅かに内彎する口縁部の坏、彎曲した体部から短く外傾する口縁部の坏、比較的短脚で大きく外反する坏部に至る高坏の形状から、Ⅲ段階に同定することができる。また、4号墳の須恵器把手付埴は、大きな口径と緩やかに立ち上がる体部の形状などから、陶邑古窯址群における田辺昭三氏による編年のTK-208型式に比定することができよう⁽¹⁰⁾。

一方、坂口編年のⅢ段階は須恵器のTK-208型式～TK-23型式に平行すると想定しており、4号墳の須恵器把手付埴がTK-208型式に比定できることから、これらの平行関係に矛盾するところがない。

したがって、4号墳・5号墳の土師器はⅢ段階に比定され、これは須恵器のTK-208型式～TK-23型式に平行する段階で、5世紀第3四半期を中心とする時期に位置付けることができるものと考えられる。

なお、7号墳から出土している須恵器蓋も、膨らみの少ない天井部とやや外反する口縁部の特徴から、TK-208型式に比定することができ、伴出する円筒埴輪も4号墳・5号墳のものに近似している。

5. おわりに

以上、4号墳・5号墳の円筒埴輪、土師器、須恵器の特徴を列記し、その年代的な位置付けを試みた。前にも記したように、群馬県下における円筒埴輪と土師器・須恵器の良好な組合せは少なく、その平行関係については不明な部分が多い。

こうした意味で、4号墳・5号墳から出土した土師器・須恵器は、一括遺物との認定こそできないものの、円筒埴輪との平行関係を考える上で貴重な資料を提供していると言えよう。したがって、今後はこの古墳から出土した円筒埴輪、土師器、須恵器の特徴を、県下の同時期に位置する古墳の出土遺物と詳細に比較・検討してゆく必要があると考えられる。

注

- (1) 円筒埴輪の基本的理解は次の文献によっている。川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2・4号 1978（『古墳時代政治史序説』1988 塙書房 に再録）
- (2) 荻野敏春「円筒埴輪成形技法の一断面」『福井県考古学会会誌』第2号 1984
- (3) 東国における横ハケの静止間隔については次の文献が論説している。若松良一・山川守男・金子彰男「諏訪山33号墳の研究」1987
- (4) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「荒砥宮川遺跡、荒砥宮原遺跡」1993
黒田晃「円筒埴輪からみた今井神社古墳の築造年代」『研究紀要』9 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- (5) 群馬町教育委員会「二子山古墳」1985
南雲芳昭・若狭徹「保渡田三古墳の埴輪」『埴輪の変遷』北武蔵古代文化研究所 1985
- (6) 粕川村教育委員会「白藤古墳群」1989
- (7) 赤堀村教育委員会「赤堀村地蔵山の古墳」2 1979
- (8) 同報告書中坂口Ⅳ期とされ横ハケを伴うQ-1号墳出土の土器は、Ⅱ期になる可能性がある。
- (9) 坂口「群馬県における古墳時代中期の土器の編年」—共伴関係による土器型式組列の検討—『研究紀要』4 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- (10) 田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981

第5節 13号住居跡出土八稜鏡について

坂井 隆

1. 出土鏡の状態

直径推定7.6cm、内区径5.3cm、縁厚1.5mm、鈕厚4mm、重量15gを測る。外区の5分の3ほどが欠損している。凹面鏡で、鈕には革紐状の繊維が残っている。幅広い縁は摩耗している。鏡背面は、全体に文様の残存状態が悪く、踏み返し鑄造と考えられる。

縁形は、蒲鉾式膨側高縁、界圏は単圏細線、鈕形は截頭円錐形素鈕である。文様は不明確な部分が多いが、外区が飛雲文、内区は向かい合った文様にそれぞれ類似した瑞花と鳥のようなものが認められる。そのため瑞花双鳥文系のものと思われる。

文様の形状と大きさは、貫前神社蔵鏡の中⁽¹⁾に近いものが見られる。

竪穴住居の北壁近くの床より20cmの位置で発見された。すぐ近くで他に鉄刀子・鉄帯金具・銅鈴が出土している。この住居は、土器の年代は8世紀中頃より9世紀初頭までの幅に入ると考えられる。しかし土層状態は、この住居の廃絶後のものになる。

2. 時期と出土状態の特徴

この鏡は直径7.5cm前後の小型鏡で、文様は瑞花双鳥鏡の系統をひくものであり、唐式鏡からの双鳥系の文様構成がかるうじて認められる。厚さは極めて薄く、文様の摩耗も含めて、保存状態の問題もあるが、あまり丁寧な鑄造がなされたとは考えにくい。

瑞花双鳥系の八稜鏡は、日光男体山山頂遺跡出土の134面の鏡の中で117面含まれており、その中で永延2(988)年から永保2(1082)年までのいくつかの紀年銘鏡が知られている⁽²⁾。当遺跡の鏡は、踏み返し鑄造のために文様が明瞭ではないが、もとの鏡はかなり典型的な瑞花双鳥文鏡である可能性はある。とすれば、鏡の年代は10世紀後半とすることができる。しかし住居そのものの年代は、9世紀初頭を下ることは考えにくい。従って、この住居の廃絶後150年もたつて埋納されたものとせざるをえない。

管見では、遺跡出土で年代の推定できる最も古い可能性瑞花双鳥系八稜鏡は、10世紀後半の長野県松本市吉田川西遺跡⁽³⁾と同原村判ノ木沢西遺跡⁽⁴⁾のものがある。両者に比べ上之原鏡は、縁がかなり狭く低い。高く厚い唐式鏡の縁からの発達を考えるなら、上之原鏡は上記2例より古くすることは難しく、150年後の埋納を裏付ける。なお長野県茅野市の構井・阿弥陀堂遺跡の例は、「竪穴住居跡が埋没していく過程の窪地に鏡が置かれていた」としており⁽⁵⁾、同様のことが考えられる。

また、同様の出土状態で共伴した鉄刀子・鉄帯金具・銅鈴との組み合わせは、日光男体山などの自然対象への埋納と同様であり、似た組み合わせの金属製品がいくつかの竪穴住居出土鏡の例と共伴している⁽⁶⁾。そして前述のような年代観より見るならば、竪穴住居の生活そのものとは無関係に、埋納されたと考えられる。高瀬丘陵上のこの遺跡からは、北西2キロに上野国一之宮の貫前神社を望むだけでなく、南西には同神社の神体の一つである稲含山がそびえ、北東方向にははるかに赤城山がのぞめる。つまり、直接には貫前神社の信仰体系の中での埋納と考えられる。

注

- (1) 群馬県立歴史博物館 1980 『群馬の古鏡』のNo89
- (2) 菊池誠一 1987 「平安時代の集落出土鏡の性格—東日本の出土例を中心に」『物質文化』49
- (3) 長野県埋蔵文化財センター 1989 『吉田川西遺跡』中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7
- (4) 長野県教育委員会 1981 『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 茅野市・原村その3』
- (5) 茅野市教育委員会 1983 『構井・阿弥陀堂遺跡』
- (6) 坂井隆 1993 「元総社寺田遺跡・下高瀬上之原遺跡出土の八稜鏡」『元総社寺田遺跡Ⅰ』群馬県埋蔵文化財調査事業団参照

付載 近世土坑出土人骨について

緑 川 順

1. 調査年月日時

平成1年3月8日 午前10時40分から同日午後2時45分までの間

2. 調査場所及び調査人骨

富岡市下高瀬・上之原遺跡の人骨

3. 調査事項

- 1) 出土人骨の性別
- 2) 出土人骨の年齢

4. 調査経過

1) 骨の保存状態と検査(調査)資料

各骨とも、色調は淡茶(土)色を呈して、いずれも骨端、隆起及び縁の一部あるいは全部を欠損しており、硬度は極めて脆い状態であった。従って各個体とも、骨の一部は土中に没したままであったが、更に発掘を進めて調査したとしても、性別判定等の指標となる骨の形態を破壊する畏れがあった。よって調査時の出土状態のままで、しかも出土した主要な骨(頭蓋骨、下顎骨、上腕骨、橈骨、尺骨、寛骨、大腿骨、脛骨及び腓骨等)のみを検査の資料とし以下の検査を行った。

2) 性別及び年齢推定

a 4号

出土した主要な骨は、頭蓋骨、下顎骨、右上腕骨、右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨及び右腓骨である。

性別推定のため頭蓋骨を形態学的に観察したところ、額はやや鉛直型、前頭幅はやや狭く、眉上弓は中等度に発達、眼窩上縁はやや厚く、男性らしい形態であった。また右寛骨に残存する大寛骨切痕角度は小で男性と考えられた。

なお、長管骨(上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨及び腓骨等の長い管状の骨を示す。以下同じ。)は比較的太く、頑丈な感じで男性らしい傾向であった。

年齢推定のために観察可能な残存歯牙(上顎左側の中切歯、側切歯、犬歯、第一小臼歯、第一大臼歯、上顎右側の中切歯、側切歯、犬歯、第一小臼歯、第二小臼歯、第一大臼歯、下顎左側の中切歯、側切歯、犬歯、第一小臼歯、第一大臼歯、下顎右側の中切歯、側切歯、犬歯、第一小臼歯、第二小臼歯)の咬耗状態について観察したところ、年齢と最も相関関係があると言われている切歯の内、下顎左右の中切歯及び下顎右側切歯が象牙質の面状咬耗であった。よって青年期後半から壮年期前半と考えられた。

b 5号

出土した主要な骨は、頭蓋骨、下顎骨(ただし右側のみ)、左上腕骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨である。

性別推定のため頭蓋骨を形態学的に観察したが保存状態が極めて悪く、その判定は不可能であった。しかし、左右寛骨に残存する大寛骨切痕の角度は大で女性と考えられた。

なお、長管骨は比較的細く、繊細な感じで女性らしい傾向であった。

年齢推定のために観察可能な残存歯牙（上顎大白歯*、上顎左側の第1小白歯）の咬耗状態について観察したところ、いずれも歯冠の1/2を咬耗で欠損していた。よって老年期と考えられた。

c 9号

出土した主要な骨は、頭蓋骨、右上腕骨、左右大腿骨、左右腓骨である。

性別推定のため頭蓋骨を形態学的に観察したところ、外後頭隆起の発達は大きく、右乳様突起の発達は中程度で男性の傾向を示していた。

なお、長管骨は比較的太く、頑丈な感じで男性らしい傾向であった。

年齢推定のため観察可能な残存歯牙（上顎左側の側切歯、犬歯、第1小白歯、下顎左側の犬歯、第1小白歯、第2小白歯、第1大白歯、第2大白歯）の咬耗状態について観察したところ、いずれも象牙質に至るやや強度の面状咬耗であった。よって壮年期後半と考えられた。

d 10号

出土した主要な骨は、頭蓋骨、下顎骨(但し右側のみ)、左肩甲骨、左右上腕骨、右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨である。

性別推定のため頭蓋骨を形態学的に観察したところ、外後頭隆起は中等度に発達し、やや女性らしい形態であった。また右寛骨に残存する大寛骨切痕の角度は大で女性と考えられた。

なお、長管骨は比較的細く、繊細な感じで女性らしい傾向であった。

年齢推定のため観察可能な残存歯牙（上顎小白歯*）の咬耗状態について観察したところ、象牙質に至る面状咬耗であった。よって壮年期と考えられた。

e 12号

出土した主要な骨は、頭蓋骨、左右上腕骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨である。

性別推定のため頭蓋骨を形態学的に観察したところ、眉上弓は中等度に発達し、やや男性らしい形態であった。また左右に残存する大寛骨切痕の角度は鋭角で男性と考えられた。

なお、長管骨は比較的太く、頑丈な感じで男性らしい傾向であった。また、観察可能な歯牙は残存せず年齢推定は不可能であった。

f 16号

出土した主要な骨は、頭蓋骨、右上腕骨、右橈骨、右尺骨、左右大腿骨、左右脛骨、右腓骨である。

保存状態が極めて悪く、しかも観察可能な歯牙は残存せず、性別及び年齢推定は不可能であった。

g 18号

出土した主要な骨は、頭蓋骨、下顎骨、左右肩甲骨、左右上腕骨、左右橈骨、左右尺骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨及び頸椎から腰椎までの椎骨群である。

保存状態が極めて悪く性別推定は困難であったが、長管骨は比較的太く、頑丈な感じで、恐らく男性と考えられた。また観察可能な歯牙は残存せず年齢推定は不可能であった。

5. 調査結果

前述の調査経過から以下のとおり推定される。

	性別	年齢
a 4号	男性	青年期後半から壮年期前半（35歳～45歳位）
b 5号	女性	老年期（60歳以上）

付載 近世土坑出土人骨について

c	9号	男性	壮年期後半（45歳～55歳位）
d	10号	女性	壮年期（40歳～55歳位）
e	12号	男性	不明
f	16号	不明	不明
g	18号	おそらく男性	不明

注

- (1) *印は左右側あるいは第1及び第2の区別が困難な歯牙を示す。
- (2) 形態学的観察からの性別推定および咬耗状態からの年齢推定の詳細は、「大島上城遺跡・北山茶臼山西古墳（群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第78集 1988 付載 2号土坑出土の人骨について）」を参照されたい。
- (3) 咬耗状態からの推定年齢はいずれも現代人を基準にしている。よって、各時代の食物の洗浄状態（砂粒等の混入状態）および食物の種類（硬い食物、繊維性食物）により大きく変動する可能性がある。

報 告 書 抄 録

フリガナ	シモタカセウエノハライセキ
書名	下高瀬上之原遺跡
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第27集
シリーズ名	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第177集
編著者名	新井 仁
編集機関	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377 群馬県勢多郡北橘村下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年	西暦1994年3月29日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シモタカセ 下高瀬 ウエノハラ 上之原	トミオカシ 富岡市 シモタカセ 下高瀬	102105	00299	36°19'30"	138°58'15"	19881001 } 19900528	26,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
下高瀬 上之原	集落	縄文時代	竪穴住居	1軒	縄文時代前期～後期 土器・石器類	縄文～近世の複 合遺跡 古墳時代中期の 古墳群から初期 須恵器や縦ハケ の埴輪が出土 県内では藤岡と 太田しかなかった 埴輪窯を検出 口縁部に国郡郷 戸主名を記した 土師器甕が出土 埋没した竪穴住 居中から八稜 鏡・銅鈴・鉸具 等が出土
			土坑	1基		
	墳墓	弥生時代	土坑	10基	弥生時代中期～後期 土器・石器類	
			生産 遺跡	古墳時代 前期	竪穴住居	
	古墳時代 中期 } 平安時代	竪穴住居	47軒		土師器・須恵器・円筒埴輪	
		古墳	7基	朝顔型埴輪・形象埴輪		
	埴輪窯	2基	石製紡錘車・勾玉・管玉・小 玉・玉未製品			
	土坑	14基	溝状遺構	3基	八稜鏡・銅鈴・鉸具・刀子	
			谷津状遺構	1	鉄鏃・鎌	
	井戸	2基	刻書土器・墨書土器			
	近世	土坑	12基	陶磁器・土器・銭貨（寛永通 寶）・煙管他銅製品		
					近代以降 時期不明	
溝状遺構	10条					
暗渠	1条					
ピット群	1					

写 真 图 版



遺跡遠景 (東上空から)



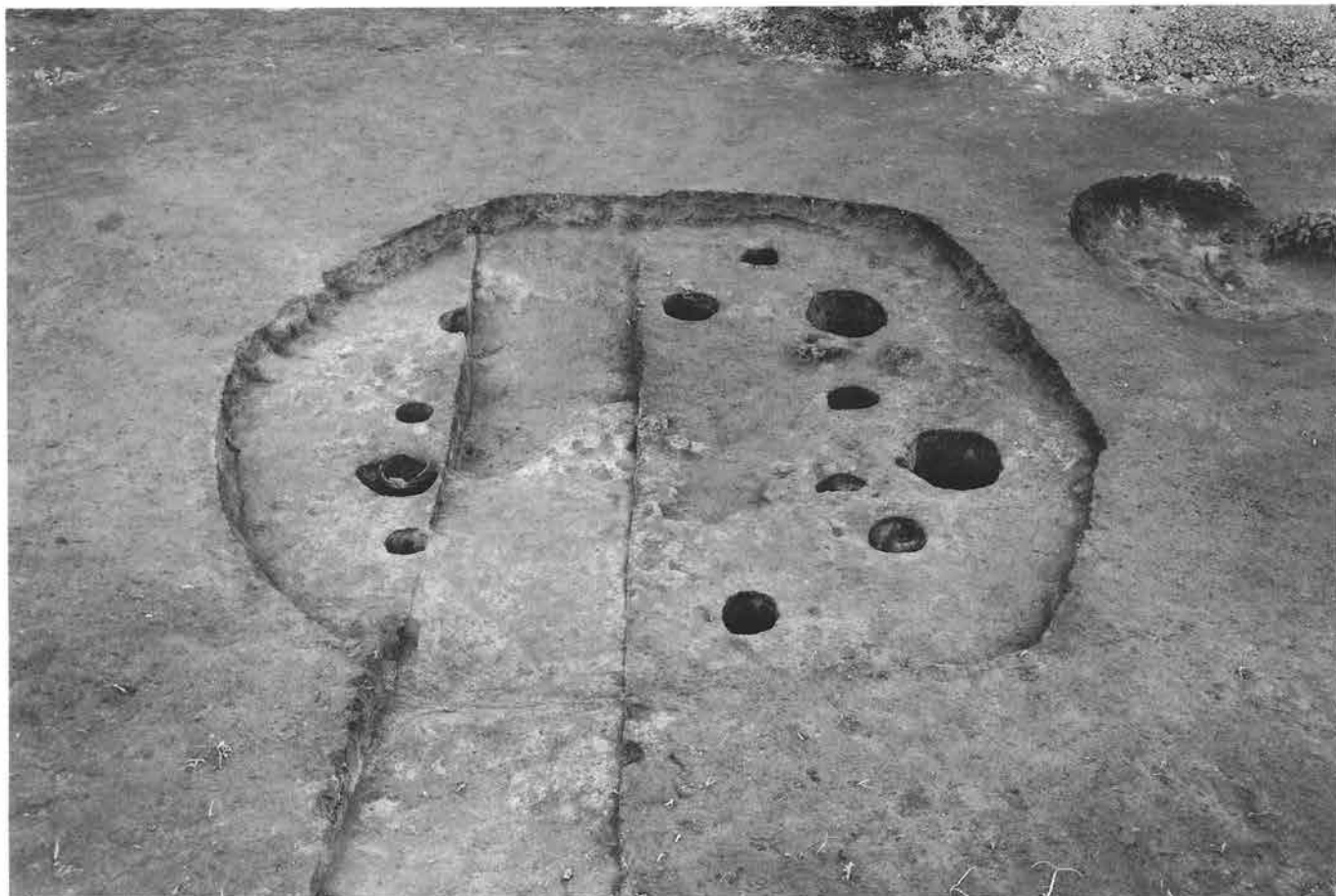
遺跡遠景 (西上空から)



南側調査区古墳群 全景（北上空から）



北側調査区 全景



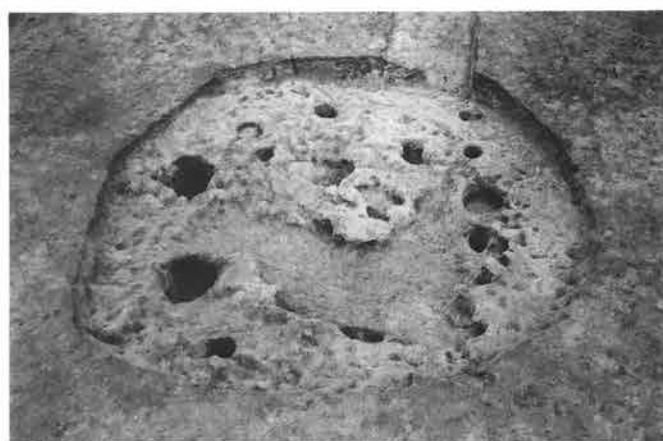
15号住居跡 全景（南から）



15号住居跡 埋設土器（南から）



15号住居跡 1号炉（南から）



15号住居跡 掘り方全景（北から）



34号土坑 全景（西から）



23号土坑 全景（東から）



27号土坑 全景（南から）



32号土坑 全景（北東から）



36号土坑 全景（南から）



42号土坑 全景（北から）



51号土坑 全景（東から）



53号土坑 全景（南東から）



43号土坑 全景（北から）



56号土坑 全景（東から）



57号土坑 全景（東から）



4号住居跡 遺物出土状況（北から）



4号住居跡 北側遺物出土状況（北から）



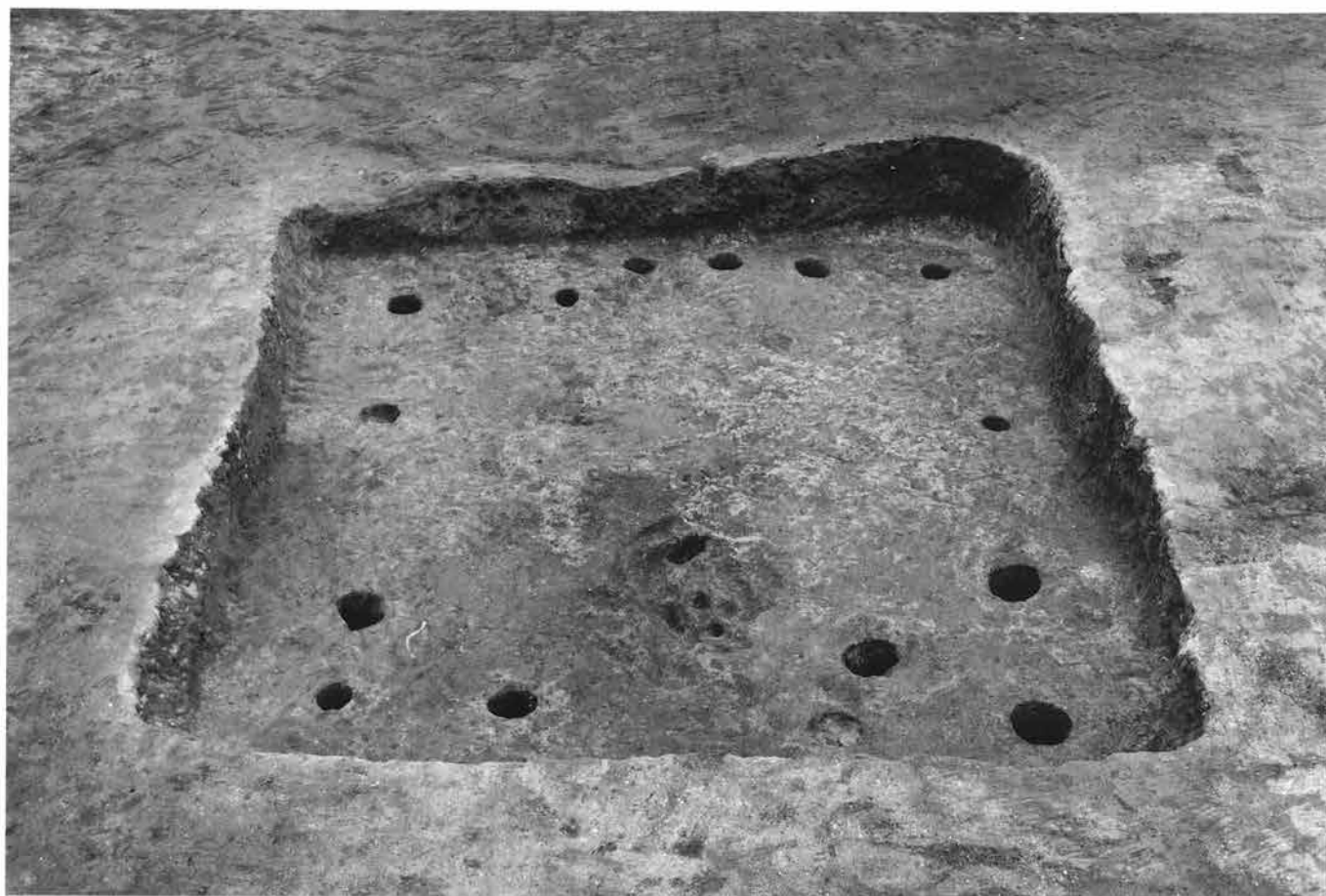
4号住居跡 全景（北から）



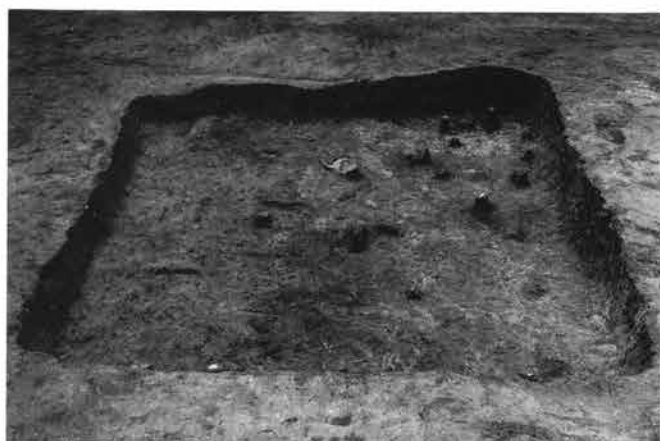
4号住居跡 1号炉 (北から)



4号住居跡 掘り方全景 (北から)



5号住居跡 全景 (北から)



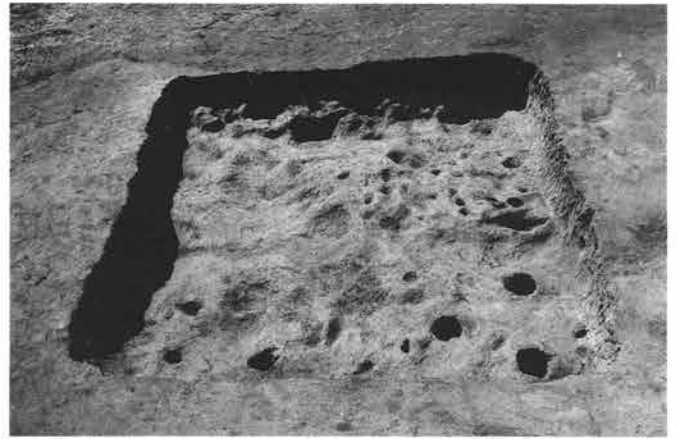
5号住居跡 遺物出土状況 (北から)



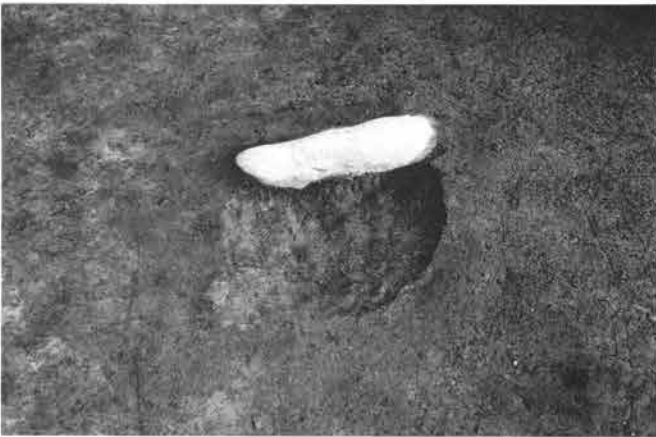
5号住居跡 1号炉 (南から)



5号住居跡 2号炉 (北から)



5号住居跡 掘り方全景 (北から)



6号住居跡 炉 (北から)



6号住居跡 掘り方全景 (北から)



7号住居跡 全景 (北から)



7号住居跡 1号炉 (南から)



7号住居跡 掘り方全景 (北から)



1号住居跡 全景 (東から)



1号住居跡 東壁下遺物出土状況 (西から)



1号住居跡 掘り方全景 (東から)



2号住居跡 全景 (西から)



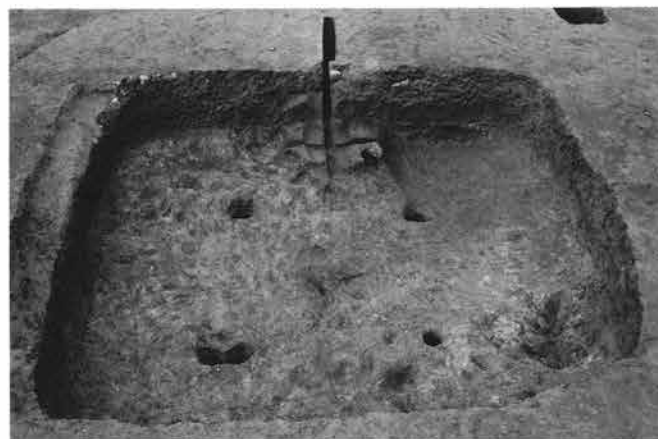
2号住居跡 掘り方全景 (西から)



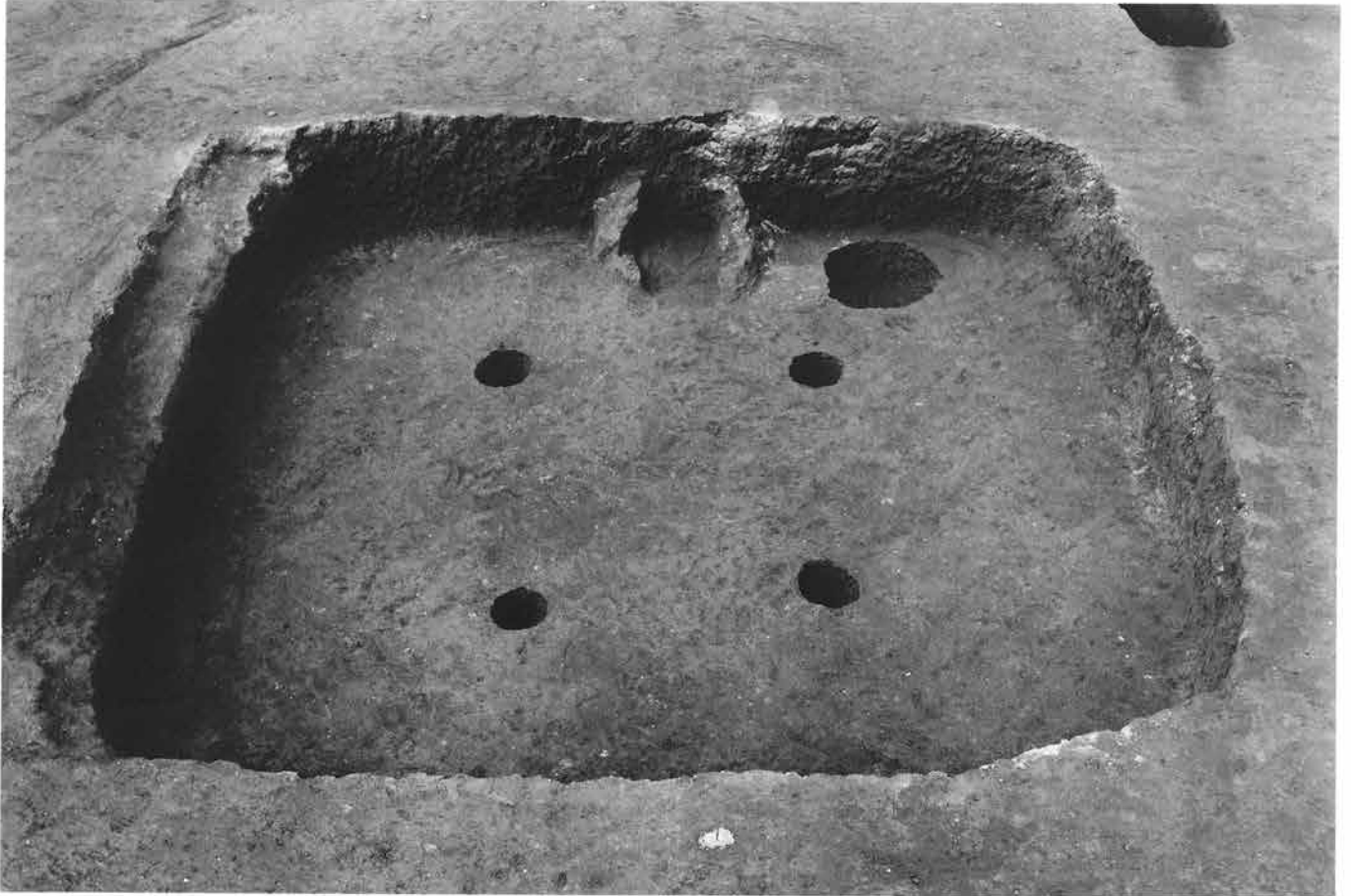
3号住居跡 遺物出土状況 (南から)



3号住居跡 カマド (南から)



3号住居跡 掘り方全景 (南から)



3号住居跡 全景（南から）



8号住居跡 全景（西から）



8号住居跡 カマド（南から）



8号住居跡 掘り方全景（西から）



9号住居跡 遺物出土状況（南から）



9号住居跡 全景（南から）



9号住居跡 カマド（南から）



9号住居跡 掘り方（南から）



10・11・14号住居跡 遺物出土状況（南から）



11号住居跡 カマド左脇遺物出土状況（南から）

図版 12 古墳～平安時代 竪穴住居跡



10・11・14号住居跡 全景（南から）



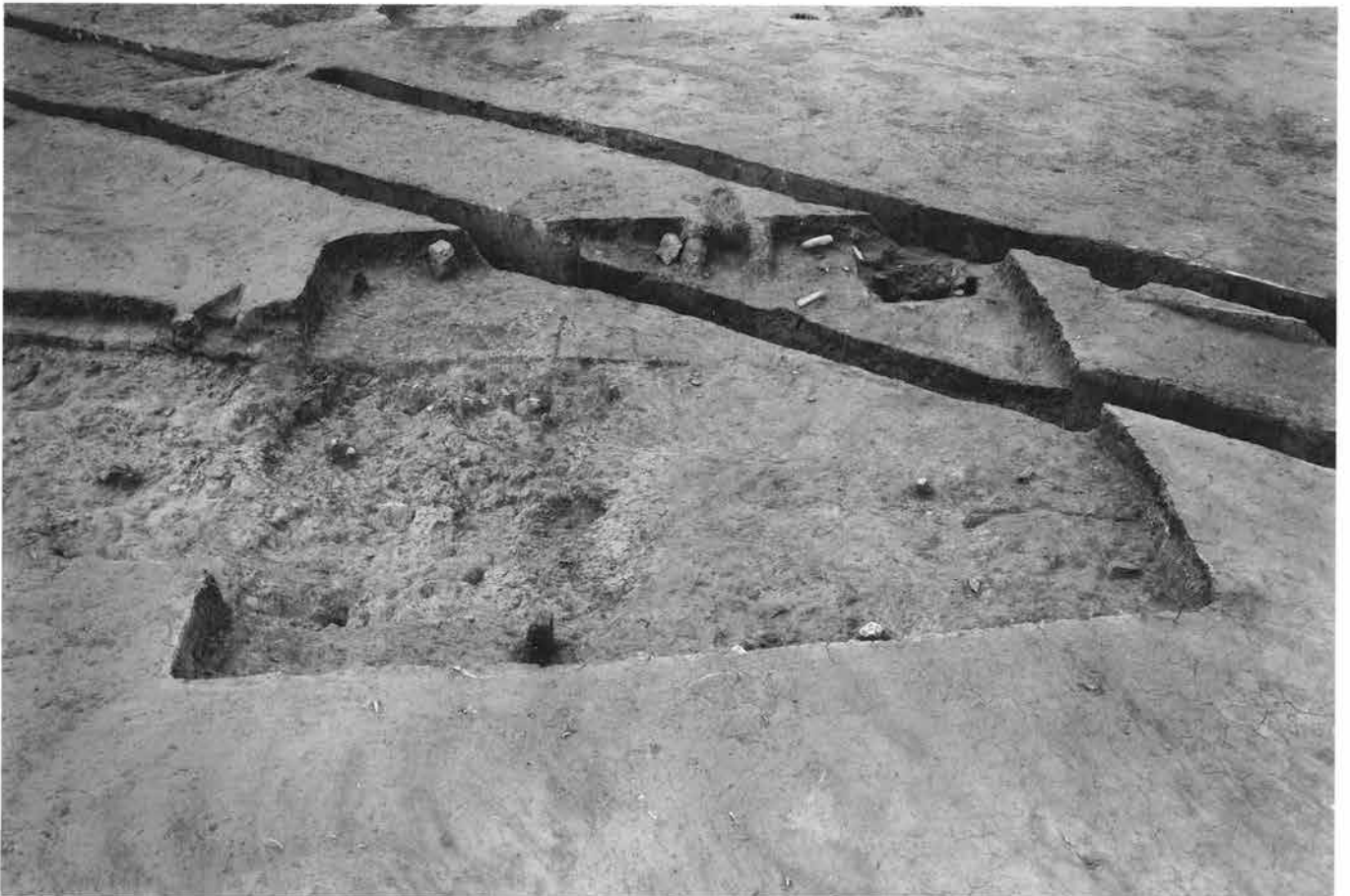
11号住居跡 カマド遺物出土状況（南から）



14号住居跡 カマド（南から）



10・11・14号住居跡 掘り方（南から）



12号住居跡 全景（南から）



12号住居跡 カマド (南から)



12号住居跡 貯蔵穴 (北から)



12号住居跡 掘り方 (南から)



13号住居跡 八稜鏡出土状況 (南から)



13号住居跡 全景 (西から)



13号住居跡 東カマド遺物出土状況 (西から)



13号住居跡 東カマド (西から)



13号住居跡 鉸具・鈴出土状況 (南西から)



13号住居跡 北カマド (南西から)



13号住居跡 掘り方全景 (西から)



16号住居跡 全景（南から）



16号住居跡 カマド（南から）



16号住居跡 貯蔵穴（南から）



16号住居跡 掘り方全景（南から）



17号住居跡 カマド（南から）



17号住居跡 全景（南から）



17号住居跡 掘り方（南から）



18号住居跡 遺物出土状況（西から）



18号住居跡 新カマド（南から）



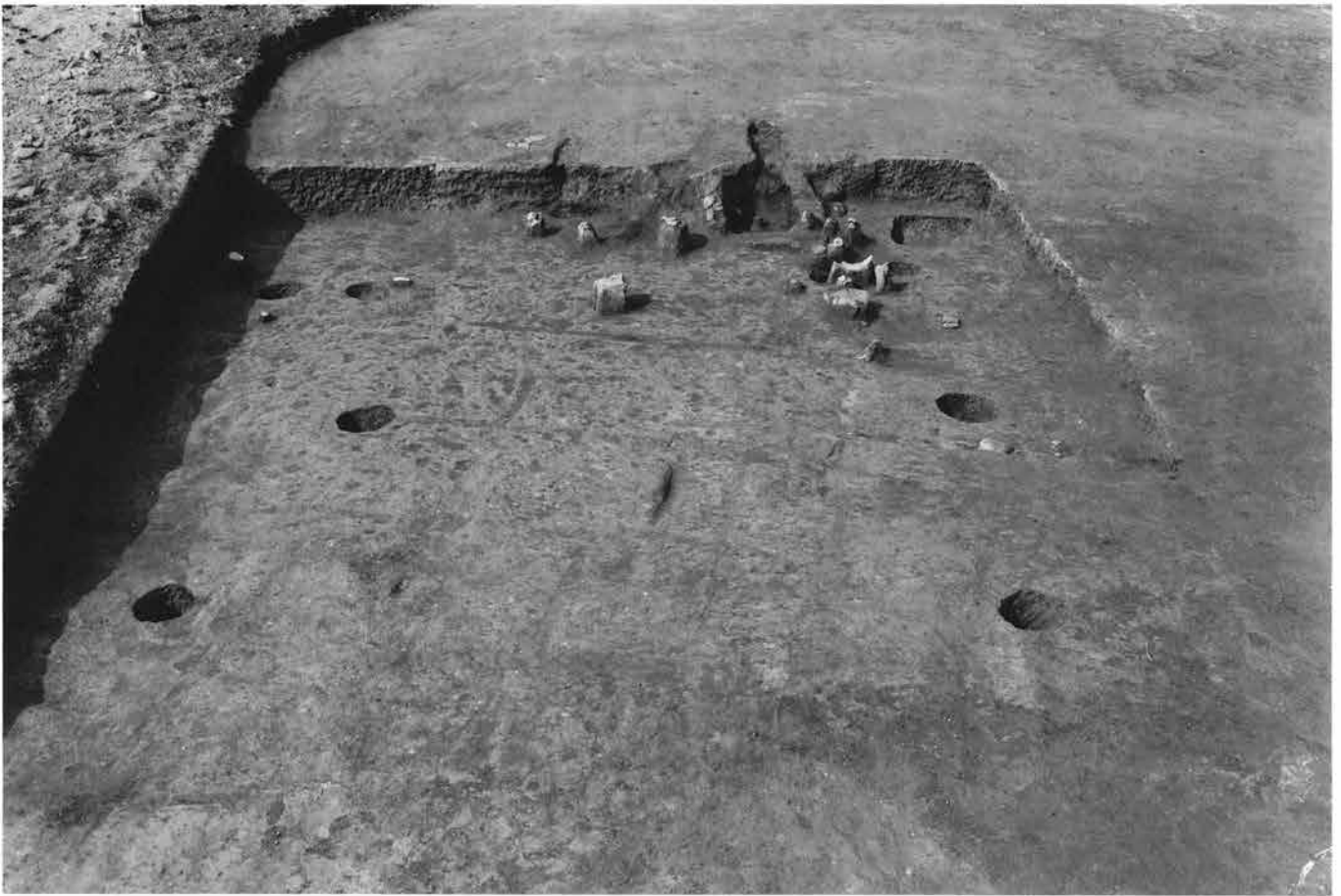
18号住居跡 旧カマド掘り方（南から）



18号住居跡 拡張前全景 (南から)



18号住居跡 掘り方全景 (南から)



19号住居跡 全景 (南から)



19号住居跡 新カマド周辺遺物出土状況 (南から)



19号住居跡 新カマド (南東から)



19号住居跡 旧カマド掘り方 (南から)



19号住居跡 掘り方全景 (南から)



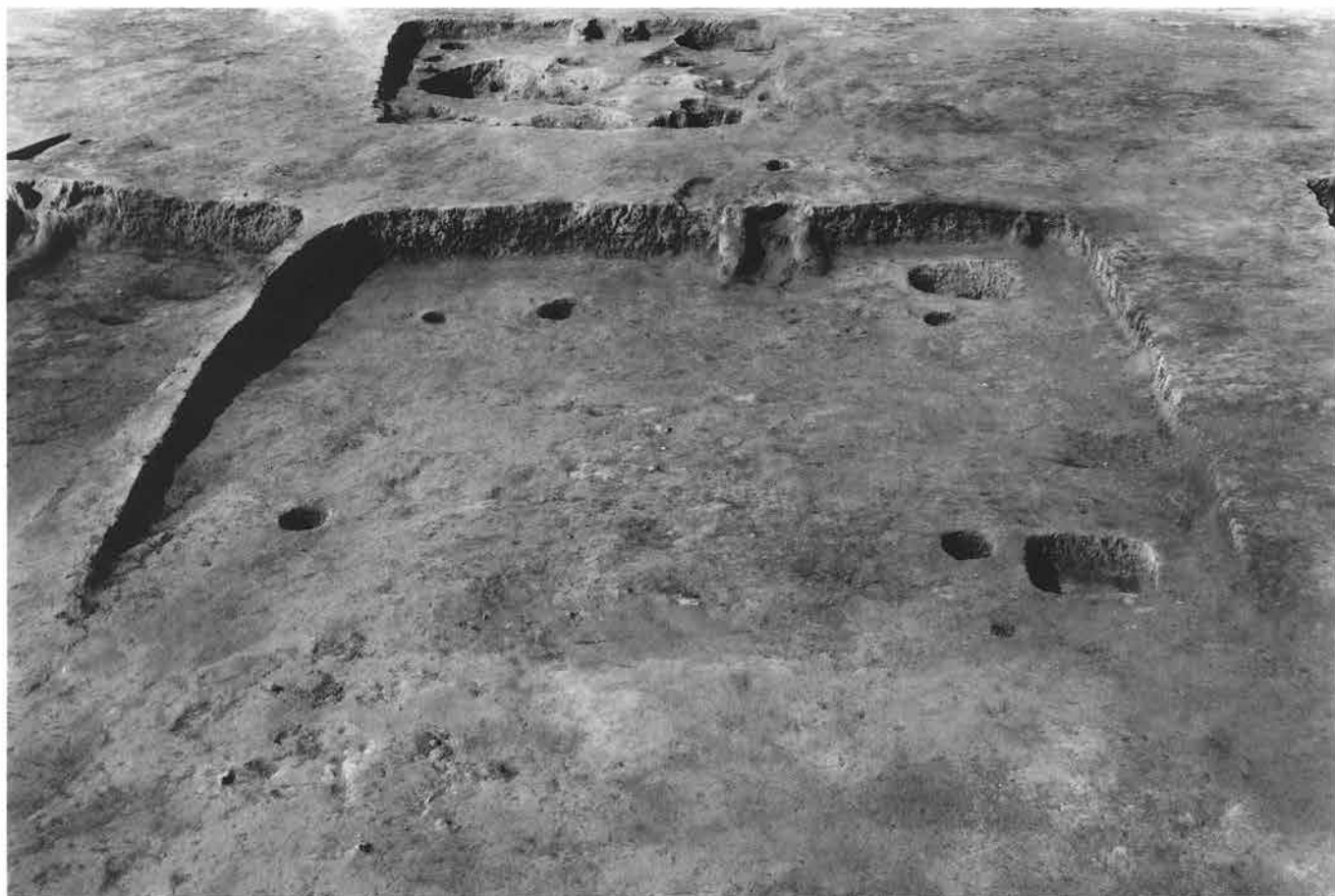
20号住居跡 全景 (南から)



20号住居跡 カマド (南から)



20号住居跡 掘り方全景 (南から)



21号住居跡 全景（南から）



21号住居跡 カマド・貯蔵穴（南から）



21号住居跡 掘り方全景（南から）



22号住居跡 北西部遺物出土状況（北から）



22号住居跡 カマド（南から）



22号住居跡 全景（南から）



22・24号住居跡 掘り方全景（南から）



23号住居跡 全景（南から）



23号住居跡 カマド（南から）



23号住居跡 掘り方全景（南から）



23号住居跡 拡張前全景（南から）



22・24号住居跡 全景（南から）



24号住居跡 カマド (南から)



24号住居跡 貯蔵穴 (南から)



24号住居跡 掘り方 (南から)



25号住居跡 北西部遺物出土状況 (南西から)



25号住居跡 遺物出土状況 (南から)



25号住居跡 炭化材出土状況（南から）



25号住居跡 北東部遺物出土状況（南から）



25号住居跡 全景（南から）



25号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況（南から）



25号住居跡 カマド（南から）



25号住居跡 カマド煙道部



25号住居跡 掘り方全景（南から）



26号住居跡 全景（南から）



26号住居跡 カマド（南から）



26号住居跡 貯蔵穴遺物出土状況（南から）



26号住居跡 掘り方全景 (南から)



27号住居跡 全景 (南から)



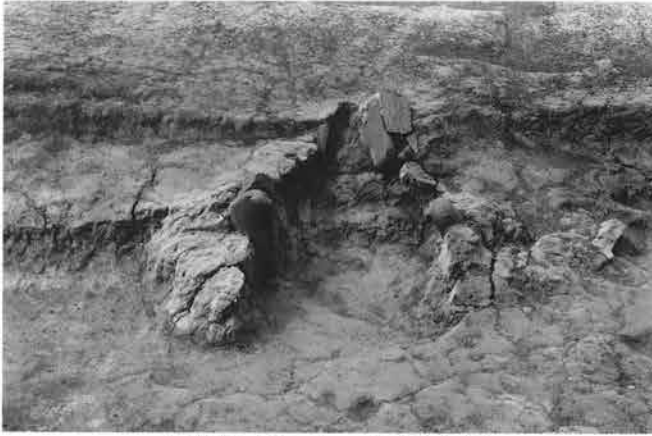
27号住居跡 掘り方全景 (南から)



28号住居跡 カマド付近遺物出土状況 (南西から)



28号住居跡 全景 (南から)



28号住居跡 カマド (南から)



28号住居跡 住居内土坑 (南から)



28号住居跡 掘り方 (南から)



29号住居跡 遺物出土状況 (西から)



29号住居跡 西側遺物出土状況 (南から)



29号住居跡 刻書土器出土状況



29号住居跡 刻書土器出土状況



29号住居跡 全景（西から）



29号住居跡 東カマド（西から）



29号住居跡 掘り方全景（西から）



30号住居跡 全景（東から）



31号住居跡 全景（南から）



31号住居跡 掘り方全景（南から）



32号住居跡 カマド（南から）



32号住居跡 全景（西から）



32号住居跡 掘り方全景 (南から)



33号住居跡 全景 (南から)



33号住居跡 カマド (南から)



33号住居跡 掘り方全景 (南から)



34号住居跡 遺物出土状況 (西から)



34号住居跡 全景 (南から)



34号住居跡 カマド (南から)



34号住居跡 掘り方全景 (南から)



35号住居跡 全景 (南から)



35号住居跡 遺物出土状況 (南から)



35号住居跡 北カマド (南から)



35号住居跡 東カマド (西から)



35号住居跡 掘り方全景 (南から)



36号住居跡 滑石出土状況 (西から)



36号住居跡 全景 (南から)



36号住居跡 カマド（南から）



36号住居跡 カマド右脇滑石出土状況（南東から）



36号住居跡 カマド左脇滑石出土状況（南から）



36号住居跡 掘り方全景（南から）



37号住居跡 全景（南から）



37号住居跡 カマド (西から)



37号住居跡 掘り方全景 (西から)



38号住居跡 全景 (南から)



38号住居跡 カマド (南から)



38号住居跡 掘り方全景 (南から)



39号住居跡 全景（南から）



39号住居跡 カマド（南から）



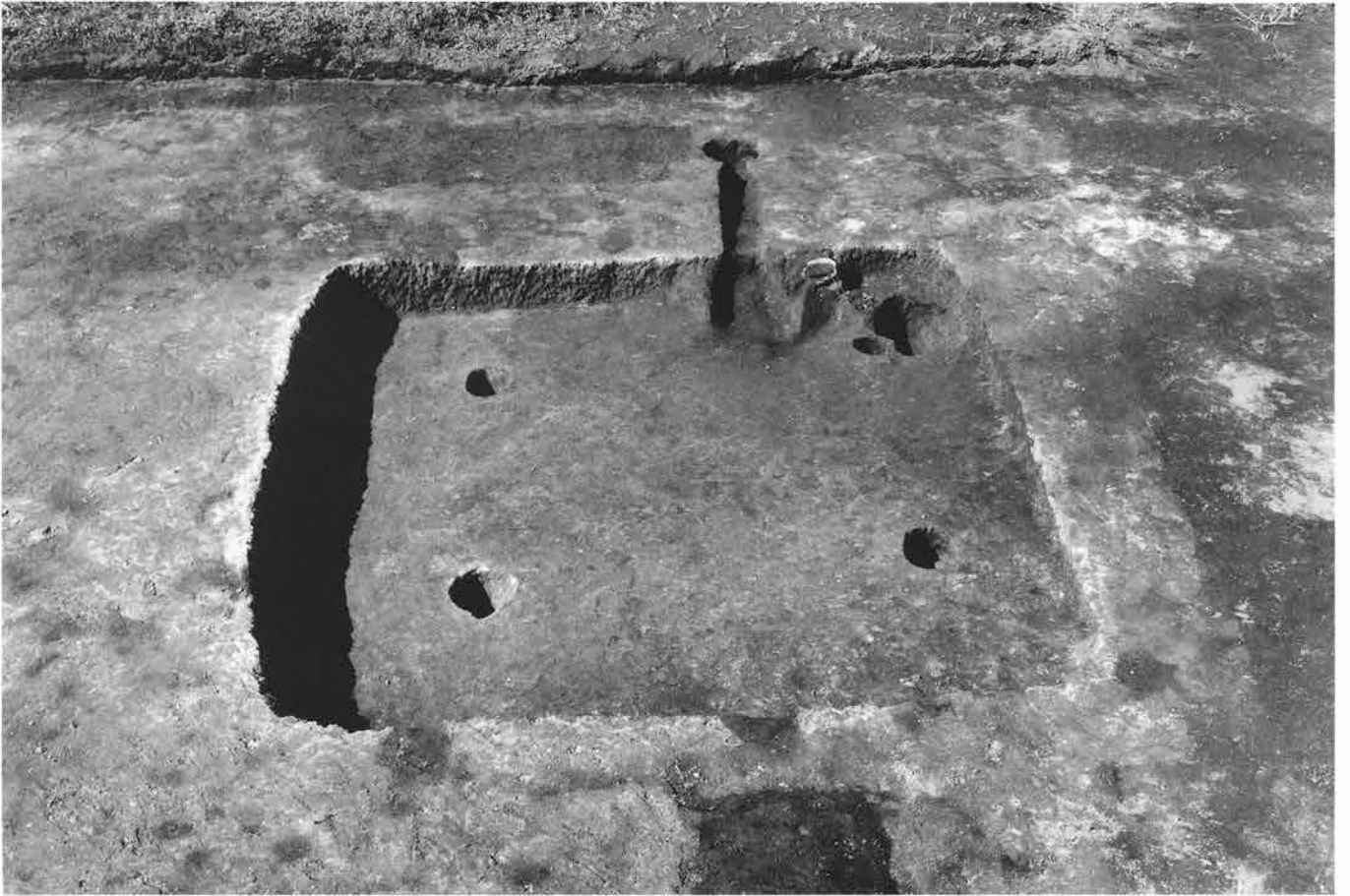
39号住居跡 掘り方（南から）



40号住居跡 カマド（南から）



40号住居跡 カマド右脇遺物出土状況（南から）



40号住居跡 全景（南から）



40号住居跡 掘り方全景（南から）



41号住居跡 全景（南から）



41号住居跡 カマド（南から）



41号住居跡 掘り方全景（南から）



42号住居跡 カマド遺物出土状況 (南から)



42号住居跡 全景 (南から)



42号住居跡 カマド (南から)



42号住居跡 掘り方 (南から)



43号住居跡 全景 (南から)



44号住居跡 カマド (南から)



45号住居跡 南東部遺物出土状況 (南東から)



45号住居跡 全景 (南から)



45号住居跡 炭火材出土状況 (東から)



45号住居跡 掘り方全景 (南から)



46号住居跡 全景（南から）



46号住居跡 カマド（南から）



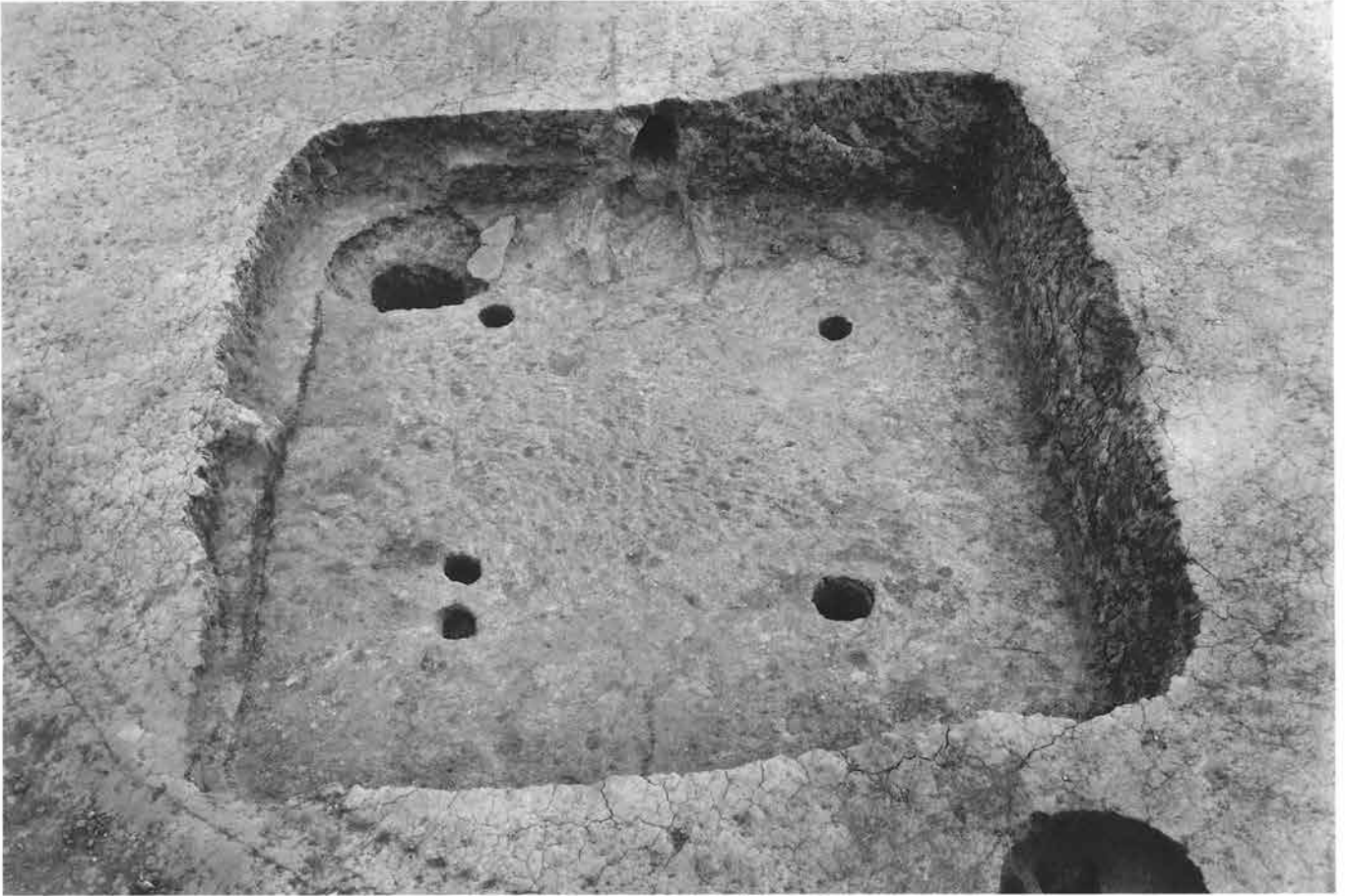
46号住居跡 掘り方全景（南から）



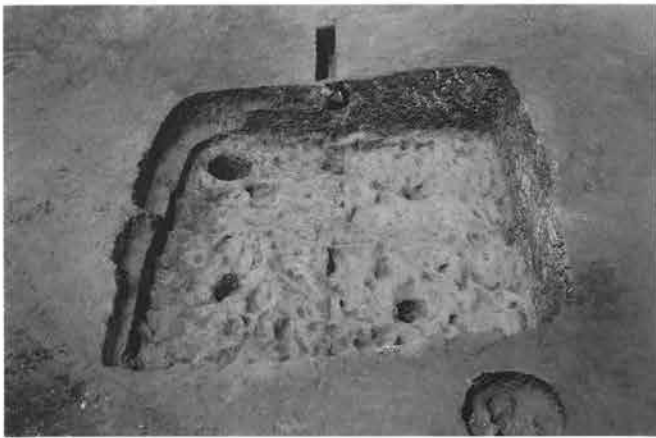
47号住居跡 中央部遺物出土状況（北東から）



47号住居跡 カマド（南から）



47号住居跡 全景（南から）



47号住居跡 掘り方全景（南から）



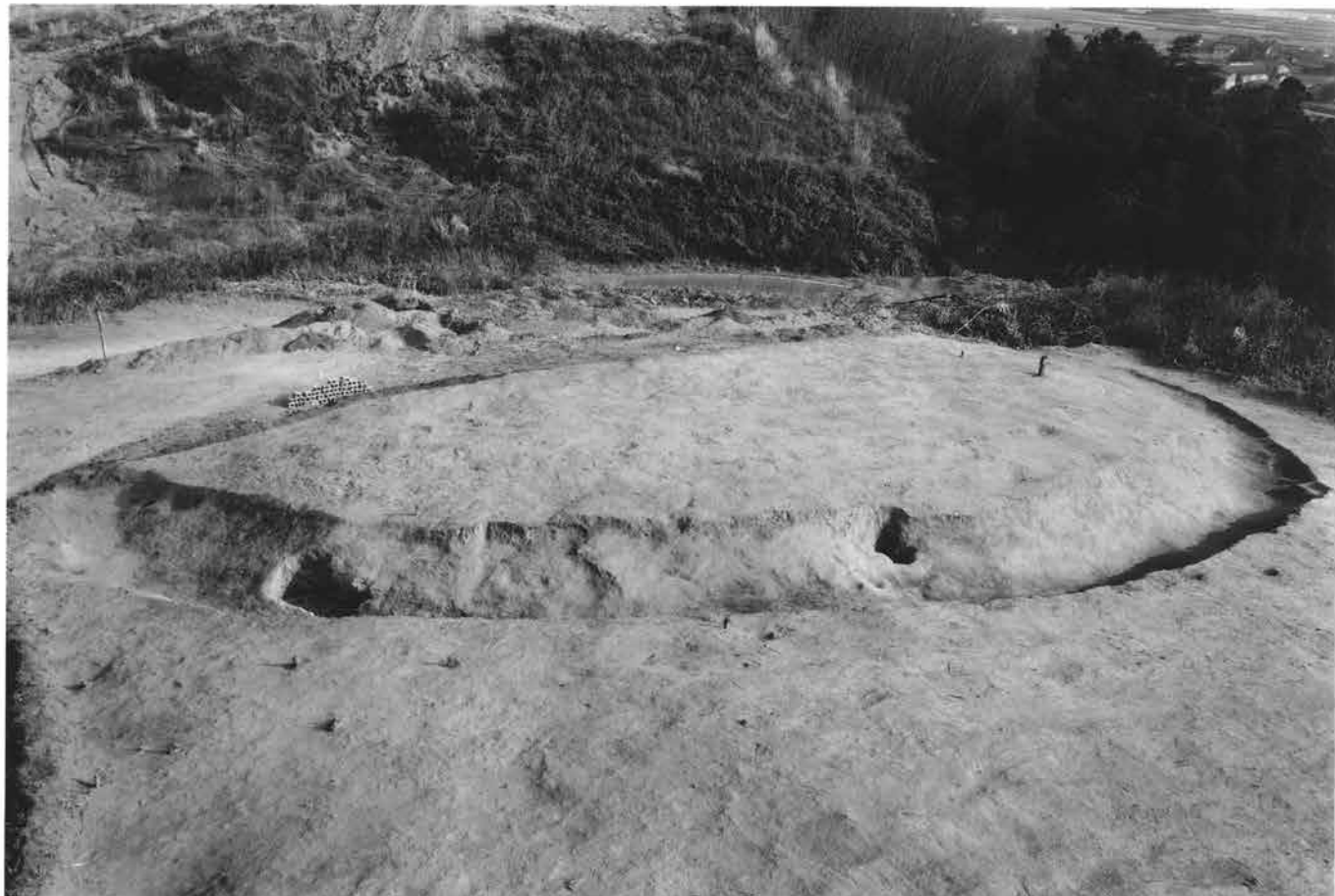
49号住居跡 全景（南から）



49号住居跡 カマド（南から）



49号住居跡 掘り方（南から）



1号墳 全景 (北西から)



1号墳 周溝北西部遺物出土状況 (北から)



1号墳 全景 (空撮)



2号墳 全景 (西から)



2号墳 全景 (空撮)



2号墳 全景（東から）



3号墳 全景（西から）



3号墳 全景 (空撮)



4号墳 遺物出土状況 (西から)



4号墳 周溝北埴輪出土状況



4号墳 周溝西埴輪出土状況



4号墳 全景 (東から)



4号墳 須恵器出土状況



4号墳 全景 (空撮)



4号墳 掘り方 (東から)



5号墳 周溝南西部遺物出土状況



5号墳 全景 (東から)



5号墳 周溝東側遺物出土状況



5号墳 全景 (空撮)



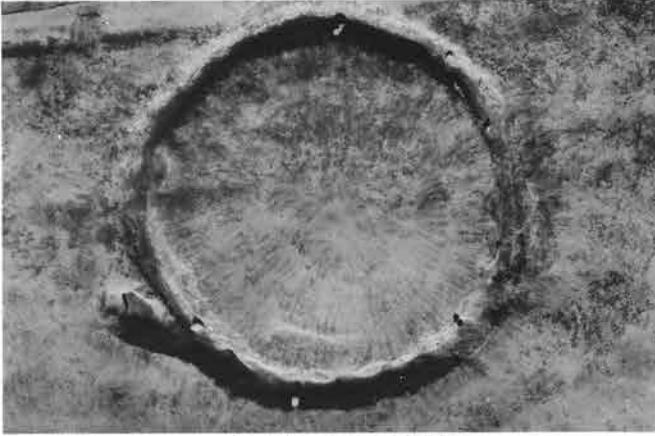
6号墳 全景 (東から)



6号墳 周溝南西部遺物出土状況



同左 拡大写真



6号墳 全景 (空撮)



7号墳 全景 (空撮)



7号墳 全景 (東から)



1・2号埴輪窯 全景 (南から)



1号埴輪窯 北側遺物出土状況 (南から)



1号埴輪窯 全景（南から）



1号埴輪窯 南側遺物出土状況（西から）



1号埴輪窯 遺物出土状況（北から）



1号埴輪窯 掘り方（南から）



2号埴輪窯 全景（南から）



2号埴輪窯 遺物出土状況（北西から）



2号埴輪窯 掘り方（南から）



2号谷津状遺構 埴輪出土状況



同左 拡大



1号土坑 全景 (北から)



2号土坑 全景 (北から)



3号土坑 全景 (北から)



15号土坑 全景 (東から)



21号土坑 全景 (北から)



22号土坑 全景 (北から)



46号土坑跡 全景（南から）



52号土坑 全景（西から）



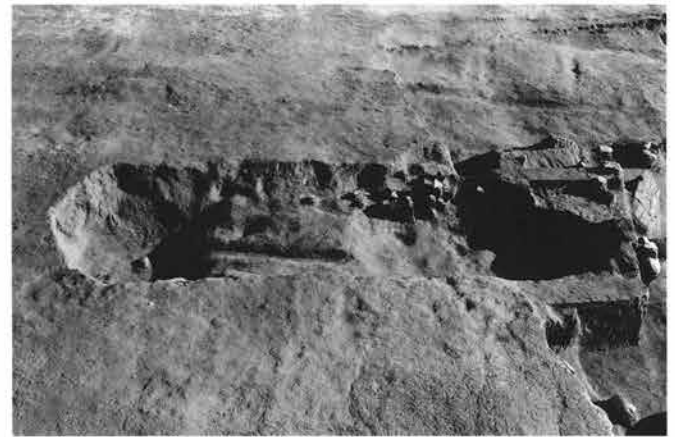
58号土坑 全景（南から）



59号土坑 全景（西から）



65号土坑 遺物出土状況（南から）



65号土坑 全景（北から）



66号土坑 全景（南から）



104号土坑 全景（南から）



7号溝 全景（北東から）



12号溝 全景（北から）



13号溝 全景（北から）



2号谷津状遺構 全景（東上空から）



2号谷津状遺構 全景（南上空から）



2号谷津状遺構 C23VII15Gr 遺物出土状況



同左 拡大



2号谷津状遺構 C20VII15Gr 遺物出土状況



2号谷津状遺構 谷頭部(北西から)



2号谷津状遺構 谷頭部湧水地点(西から)



2号谷津状遺構 谷頭部遺物出土状況



2号谷津状遺構 谷頭部土師器甕出土状況



2号谷津状遺構 底面礫出土状況



2号谷津状遺構 1号井戸 全景 (南から)



2号谷津状遺構 1号井戸 石出土状況 (北から)



2号谷津状遺構 1号井戸 掘り方 (南から)



2号谷津状遺構 2号井戸 遺物出土状況 (南から)



2号谷津状遺構 2号井戸 全景 (北から)



4号土坑 石組出土状況 (西から)



4号土坑 人骨出土状況 (北から)



4号土坑 全景 (西から)



4号土坑 銅製品出土状況 (南から)



5号土坑 石組出土状況 (南から)



5号土坑 全景 (南から)



5号土坑 遺物出土状況 (東から)



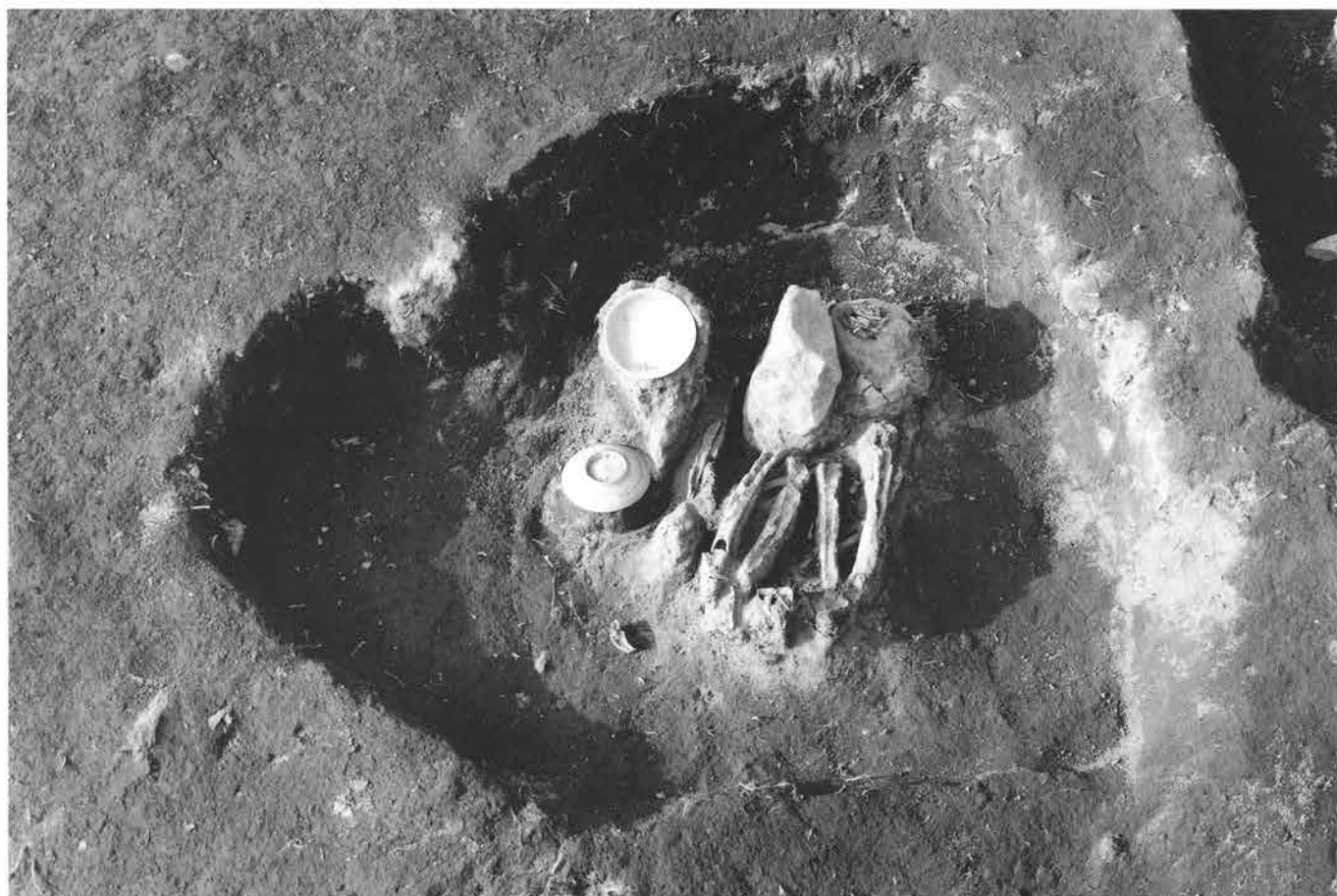
9号土坑 全景 (東から)



10号土坑 全景 (西から)



12号土坑 遺物出土状況 (南から)



12号土坑 全景 (南から)



16号土坑 全景 (南から)



16号土坑 人骨出土状況（南から）



16号土坑 遺物出土状況（南から）



18号土坑 全景（南から）



18号土坑 石組出土状況（東から）



19号土坑 石組出土状況（西から）



19号土坑 全景 (東から)



19号土坑 遺物出土状況 (東から)



20号土坑 上層遺物出土状況 (南から)



20号土坑 下層遺物出土状況 (西から)



20号土坑 全景 (西から)



24号土坑 石組出土状況（北から）



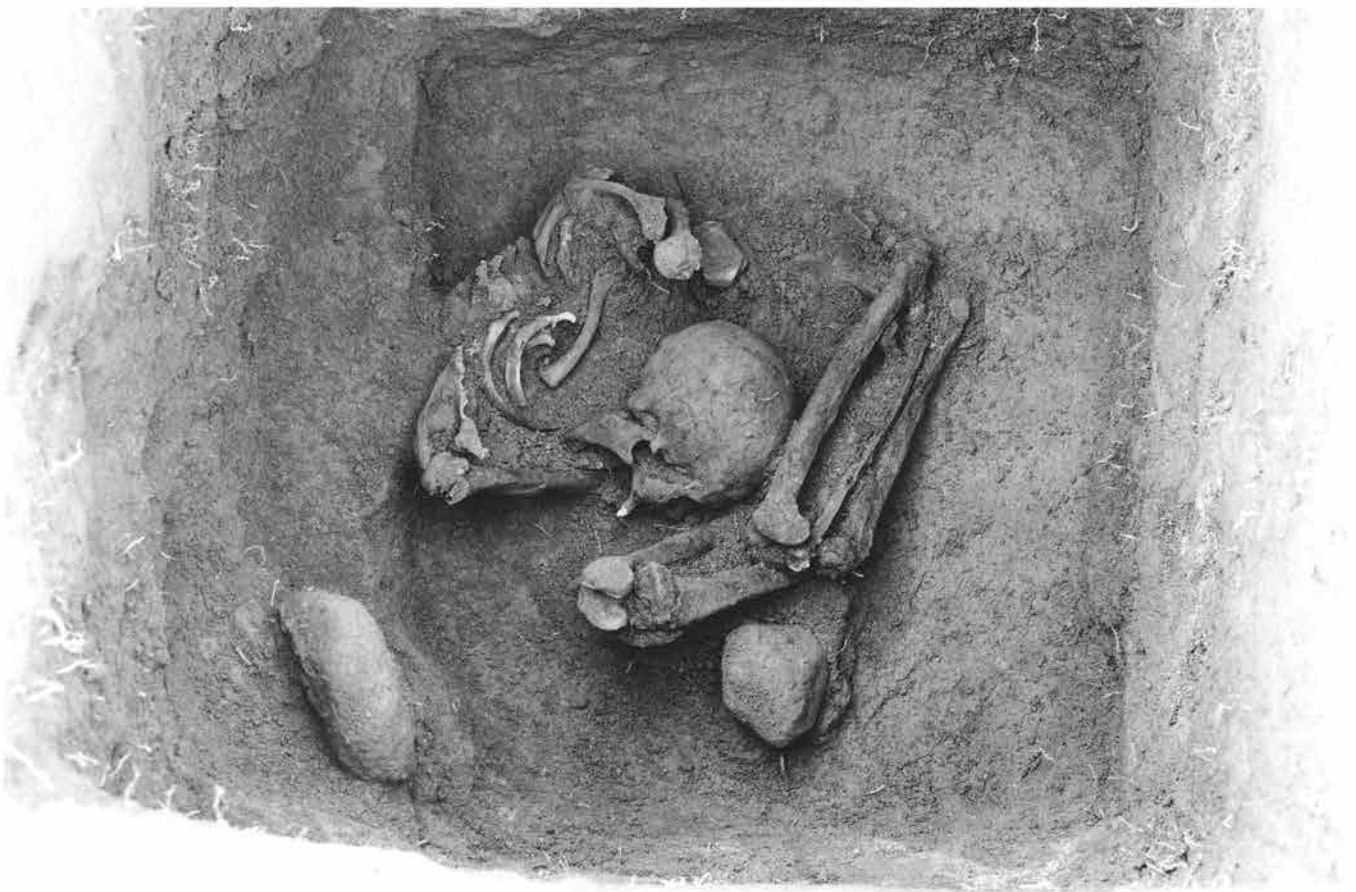
24号土坑 遺物出土状況（東から）



24号土坑 全景（北から）



25号土坑 全景（東から）



25号土坑 人骨出土状況（東から）



26号土坑 全景 (西から)



26号土坑 遺物出土状況 (南から)



6号土坑 全景 (南から)



7号土坑 全景 (北から)



13号土坑 全景 (北から)



17号土坑 全景 (南から)



29号土坑 全景 (東から)



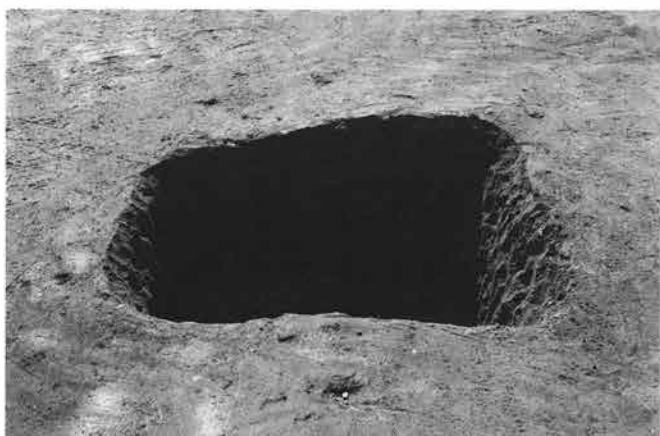
38号土坑 全景 (北から)



39号土坑 全景 (北から)



44号土坑 全景 (北から)



50号土坑 全景 (北から)



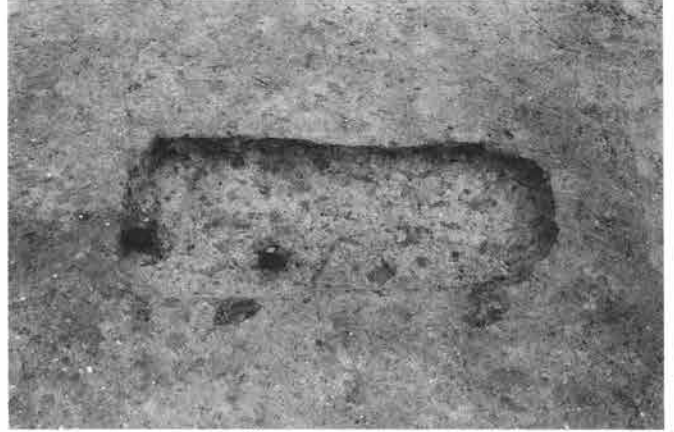
54号土坑 全景 (東から)



55号土坑 全景 (北から)



67号土坑 全景 (東から)



68号土坑 全景 (南から)



69～80号土坑 全景 (東から)



91～96、115号土坑 全景 (東から)



105～112号土坑 全景 (東から)



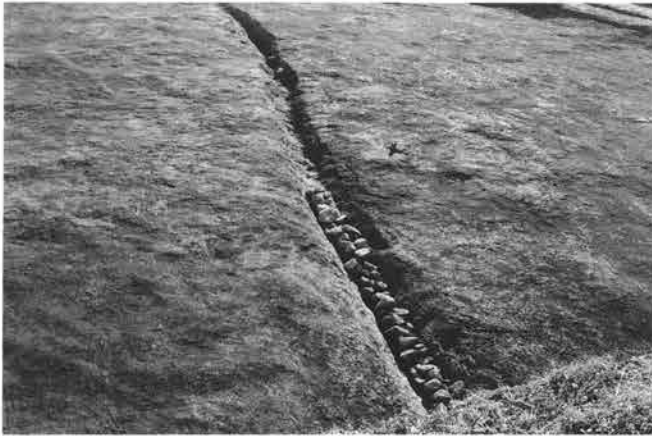
118～120号土坑 全景 (東から)



1号溝 全景 (北東から)



2号溝 全景 (北から)



3号溝 全景 (北から)



6号溝 全景 (東から)



8号溝 全景 (西から)



9号溝 全景



11号溝 全景 (南から)



14号溝 全景 (東から)



1号暗渠 全景 (北西から)



1号暗渠 全景 (上石除去後 北西から)



15住-1



遺構外-30



遺構外-38



遺構外-32



遺構外-15



遺構外-23



遺構外-37



遺構外-19



遺構外-42



15住-3



15住-4



遺構外-31



遺構外-22



遺構外-28



遺構外-39



遺構外-33



遺構外-29



遺構外-27



遺構外-41



遺構外-14



遺構外-20



遺構外-26



遺構外-16



遺構外-25



遺構外-17



遺構外



遺構外-36



遺構外-35



遺構外-34



遺構外-21



遺構外-24



遺構外



遺構外-45



遺構外-44



75



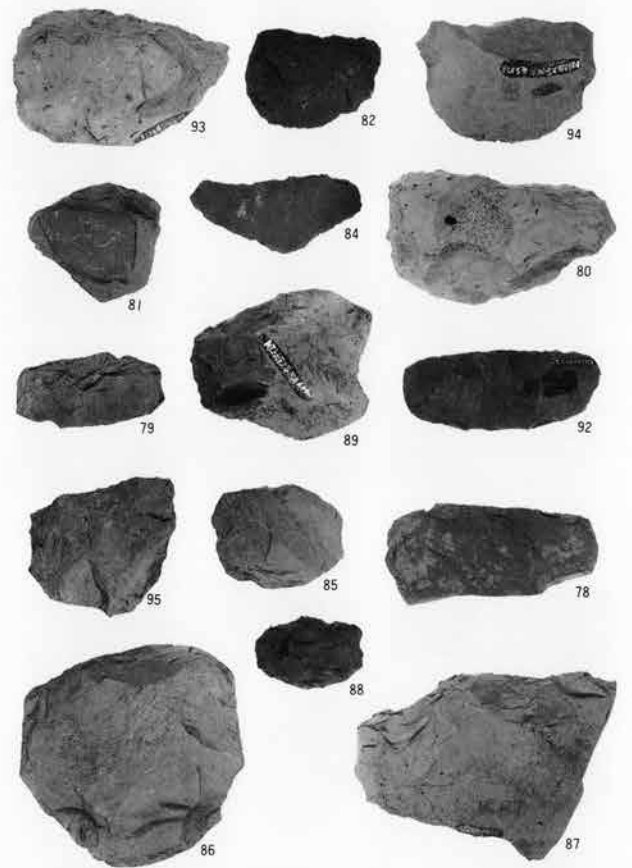
遺構外



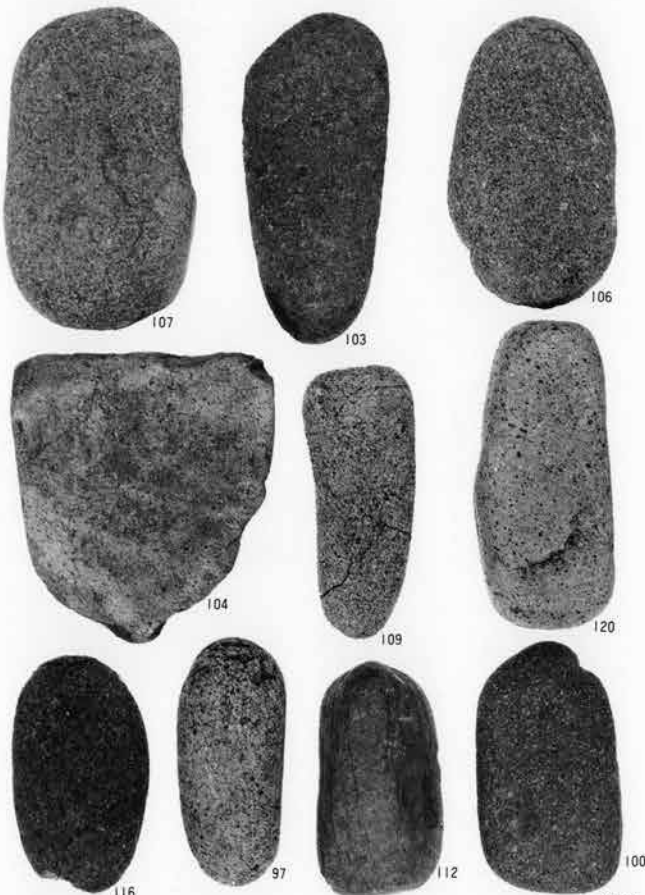
76



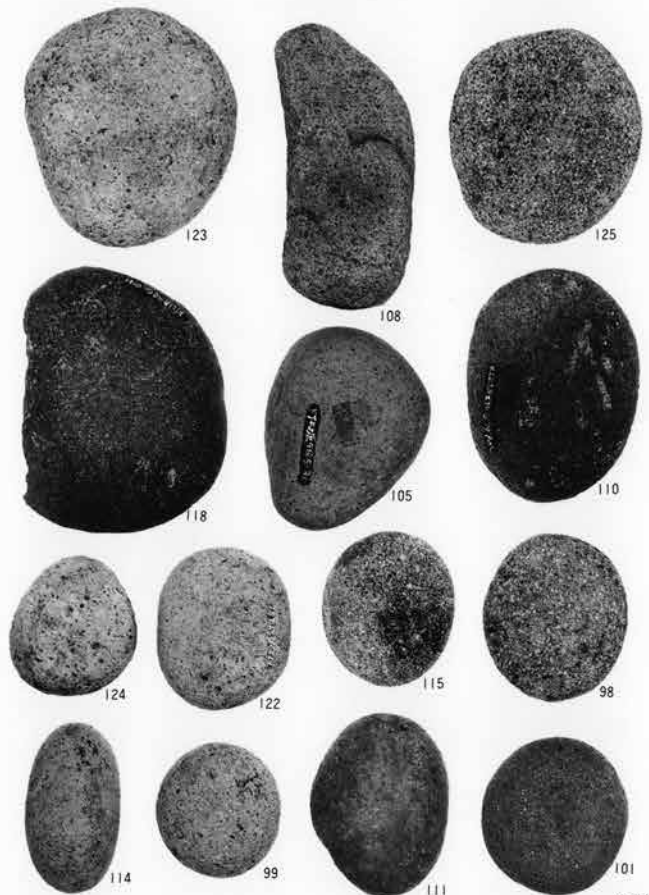
遺構外



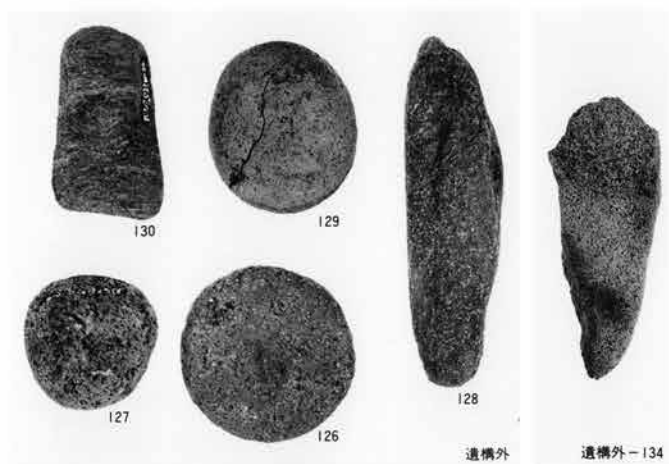
遺構外



遺構外



遺構外



遺構外 遺構外-134



遺構外-138 遺構外-136 遺構外-131



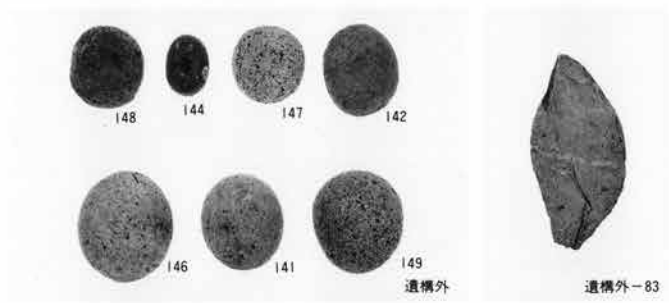
遺構外-135表 遺構外-135裏 遺構外-139



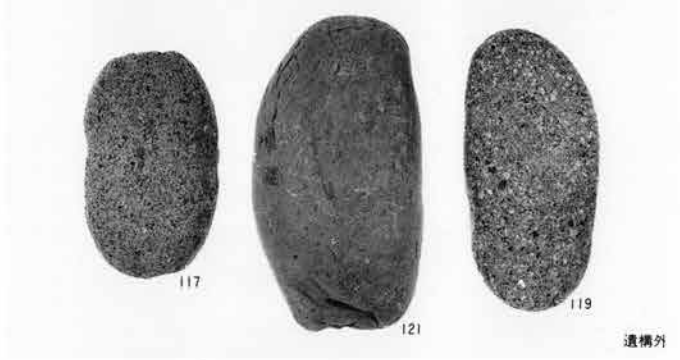
遺構外-137 遺構外-132 遺構外-145



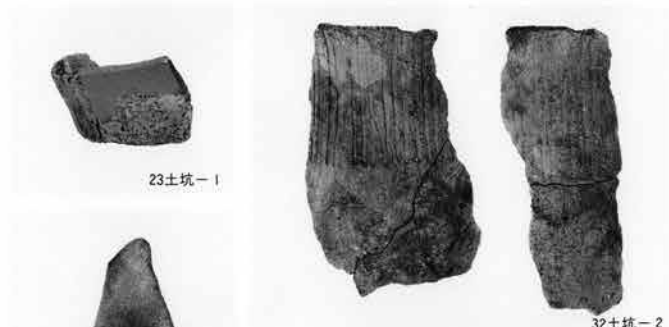
遺構外-133 遺構外-140



遺構外 遺構外-83



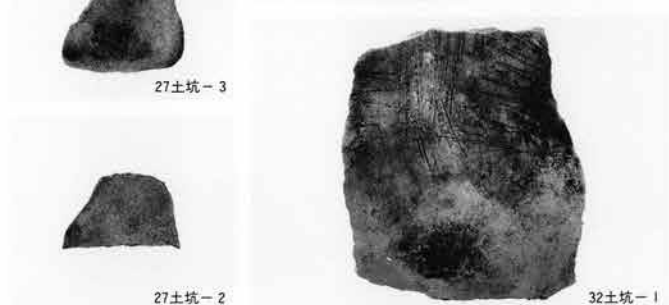
117 121 119 遺構外



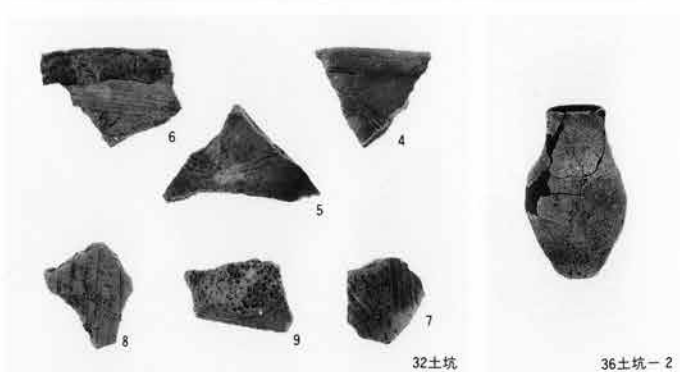
23土坑-1 32土坑-2



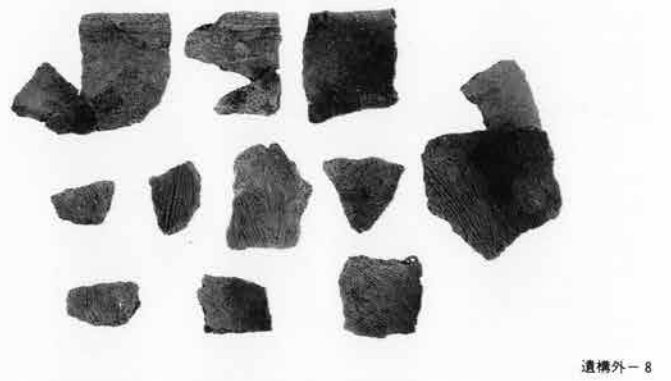
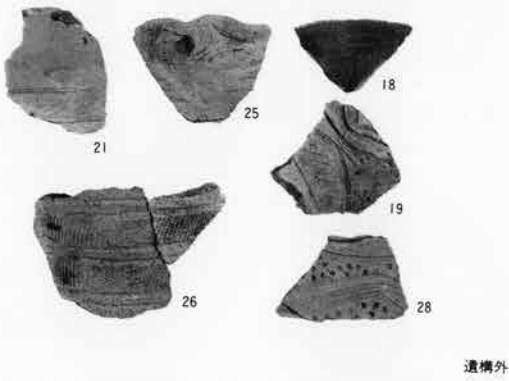
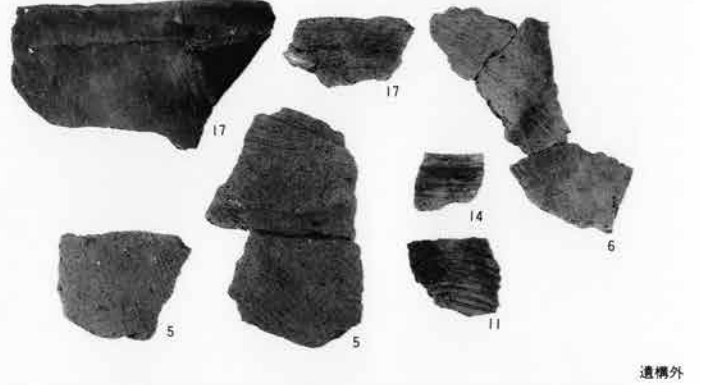
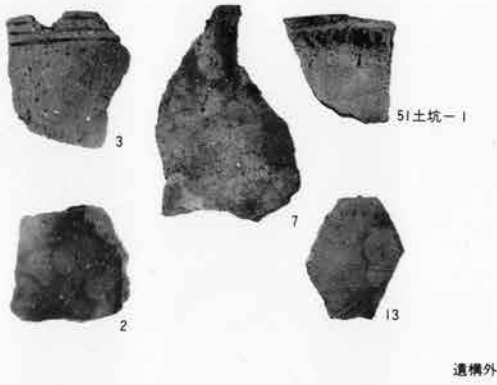
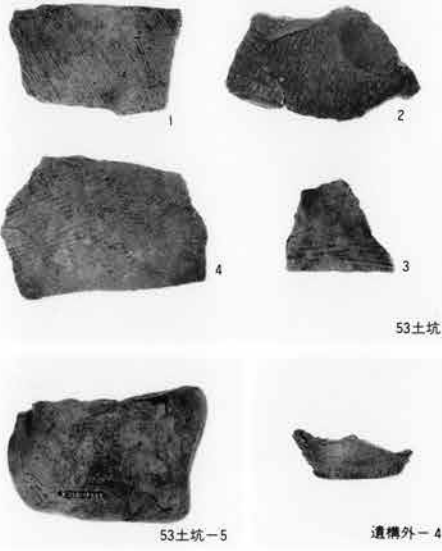
32土坑-3 36土坑-1



27土坑-3 27土坑-2 32土坑-1



32土坑 36土坑-2





4住-4



4住-12



4住-6



4住-14



4住-7



4住-17



4住-11



4住-5



4住-18



4住-13



4住-20



4住-10



4住-16



4住-21



4住-23



4住-22



5住-1



5住-2



5住-4



5住-5



5住-7



5住-3



5住-6



7住-1



1住-1



1住-3



7住-2



1住-2



2住-2



1住-4



2住-4



3住-1



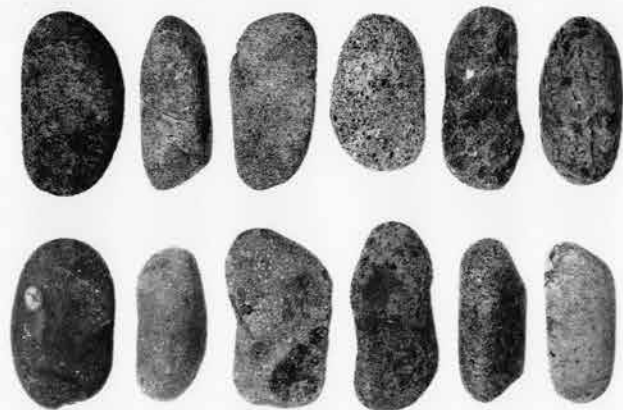
3住-2



3住-4



3住-7



3住-こも編石



3住-こも編石



8住-2



9住-1



9住-4



9住-6



8住-3



9住-2



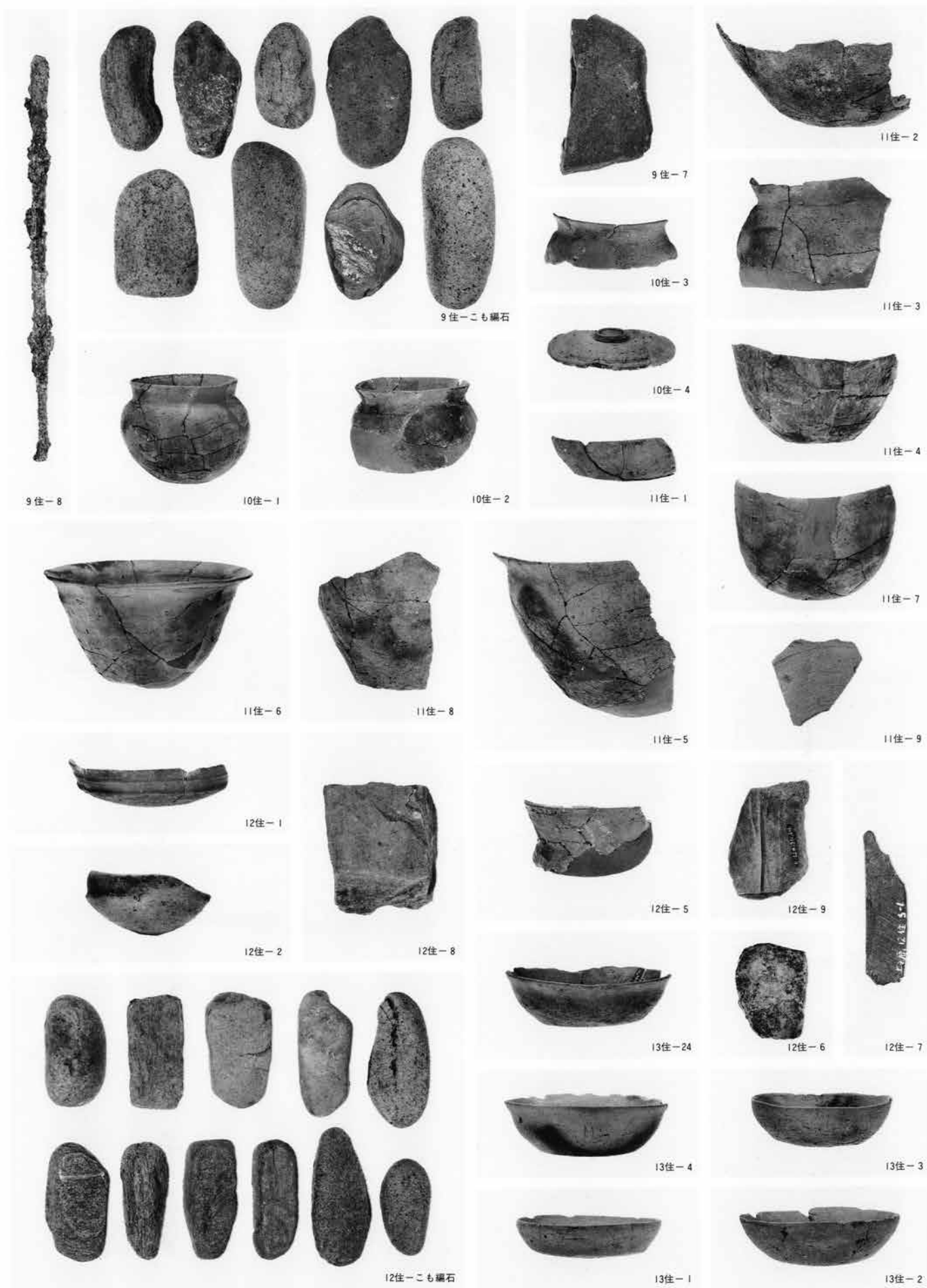
9住-3

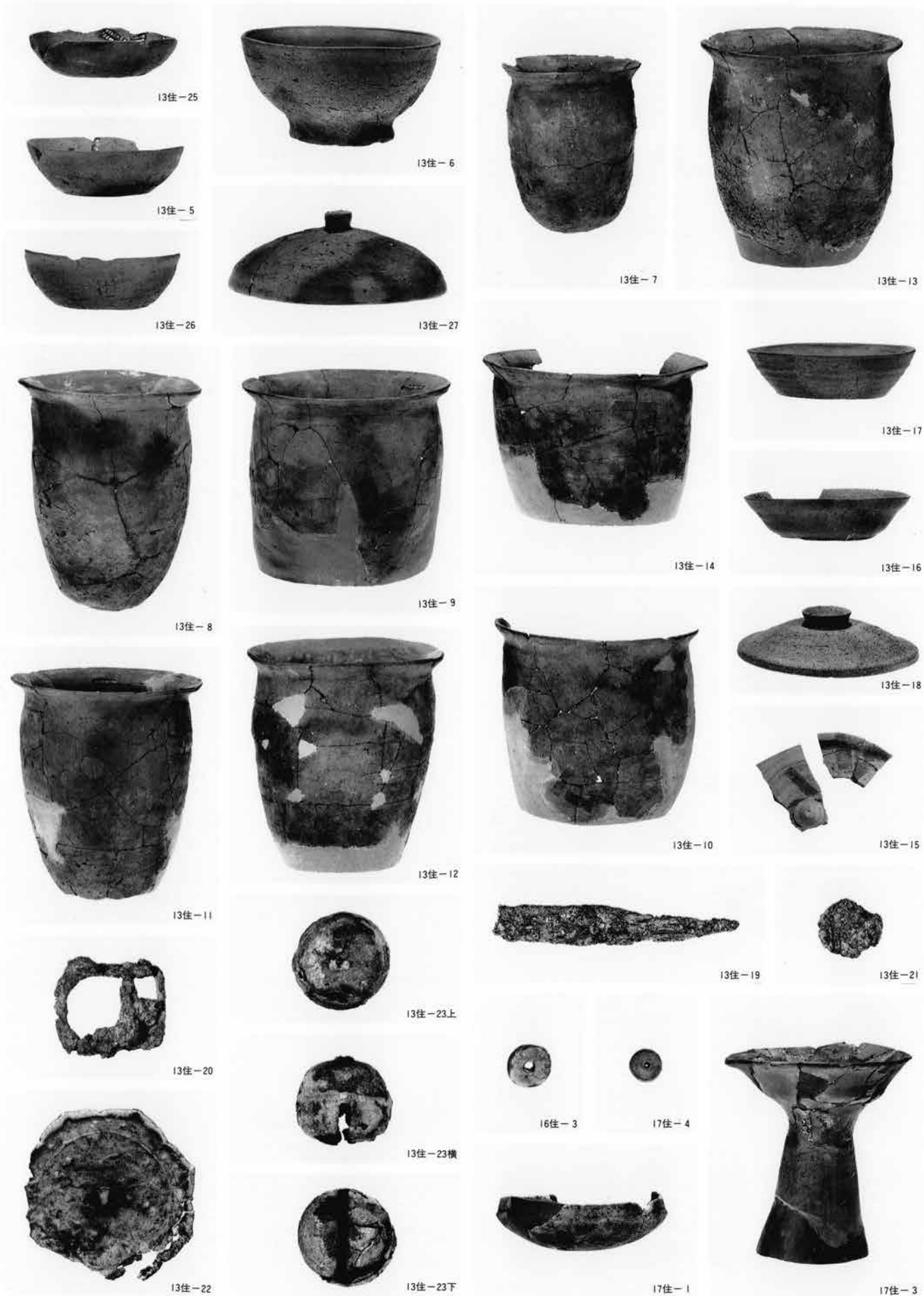


9住-こも編石



9住-こも編石







18住-1



18住-4



18住-7



18住-13



18住-2



18住-5



18住-8



18住-3



18住-6



18住-9



18住-14



18住-10



18住-16



18住-17



18住-22



18住-15



18住-20



18住-こも礫石



18住-滑石



19住-2



19住-1



19住-3



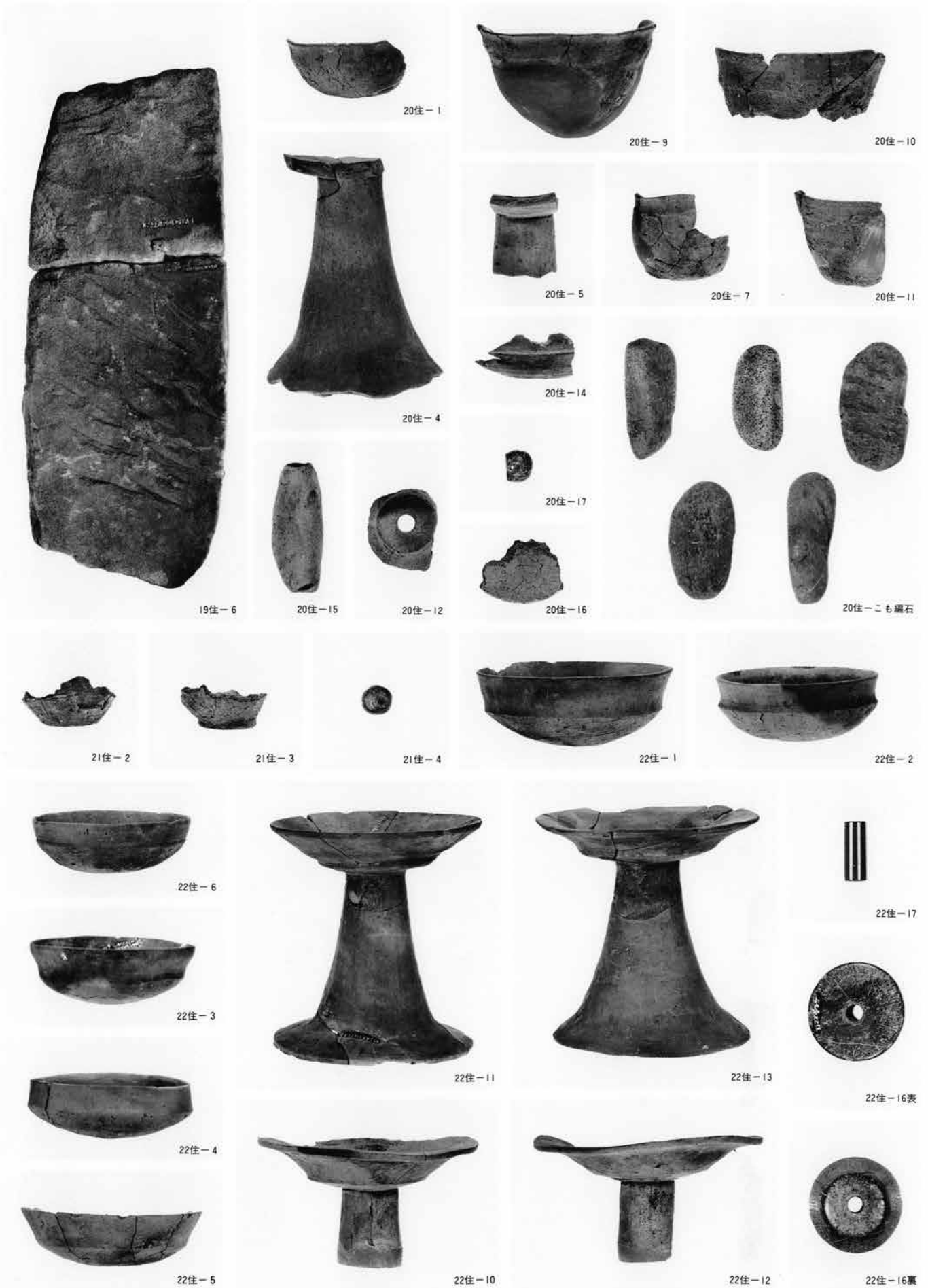
19住-5



19住-4



19住-こも礫石





22住-14



22住-18



22住-19



23住-1



22住-15



23住-4



23住-3



23住-6



24住-1



24住-2



24住-3



24住-4



24住-5



24住-6



23住-2



24住-9



24住-7



24住-16



24住-8



24住-10



24住-13



24住-12



24住-14



24住-18



24住-こも礫石



24住-こも礫石



24住-こも礪石



24住-19



24住-20



25住-1



25住-2



25住-3



25住-4



25住-5



25住-6



25住-7



25住-9



25住-8



25住-10



25住-11



25住-12



25住-13



25住-23



25住-21



25住-16



25住-20



25住-19



25住-25



25住-18



25住-22



25住-26



25住-15



25住-17



25住-28



25住-29



25住-32



25住-30



25住-33



25住-31



25住-こも礪石



25住-滑石



25住-27



26住-2



26住-3



26住-1



26住-4



26住-5



26住-12



26住-15



26住-9



26住-11



26住-8



26住-6



26住-14



26住-13



26住-10



26住-7



26住-こも礪石



27住-1



27住-2



28住-1



28住-4



28住-12



28住-2



28住-9



28住-8



28住-10



28住-10



28住-16



28住-7



28住-11



28住-15



28住-18



28住-二も編石



28住-17



28住-6



28住-3



28住-20



28住-19



29住-7



29住-9



29住-1



29住-22



29住-12



29住-10



29住-20



29住-23



29住-3



29住-13



29住-2



29住-15



29住-25



29住-21



29住-11



29住-16



29住-32



29住-18



29住-30



29住-31



29住-4



29住-24



29住-17



29住-14



29住-19



29住-28



29住-34



29住-27



29住-6



29住-5



29住-44



29住-42



29住-35



29住-38



29住-37



29住-48



29住-47



29住-46



29住-49



29住-41



29住-51



29住-40



29住-50



29住-52



29住-53



29住-59



29住-58



29住-54



29住-55



29住-43



29住-66



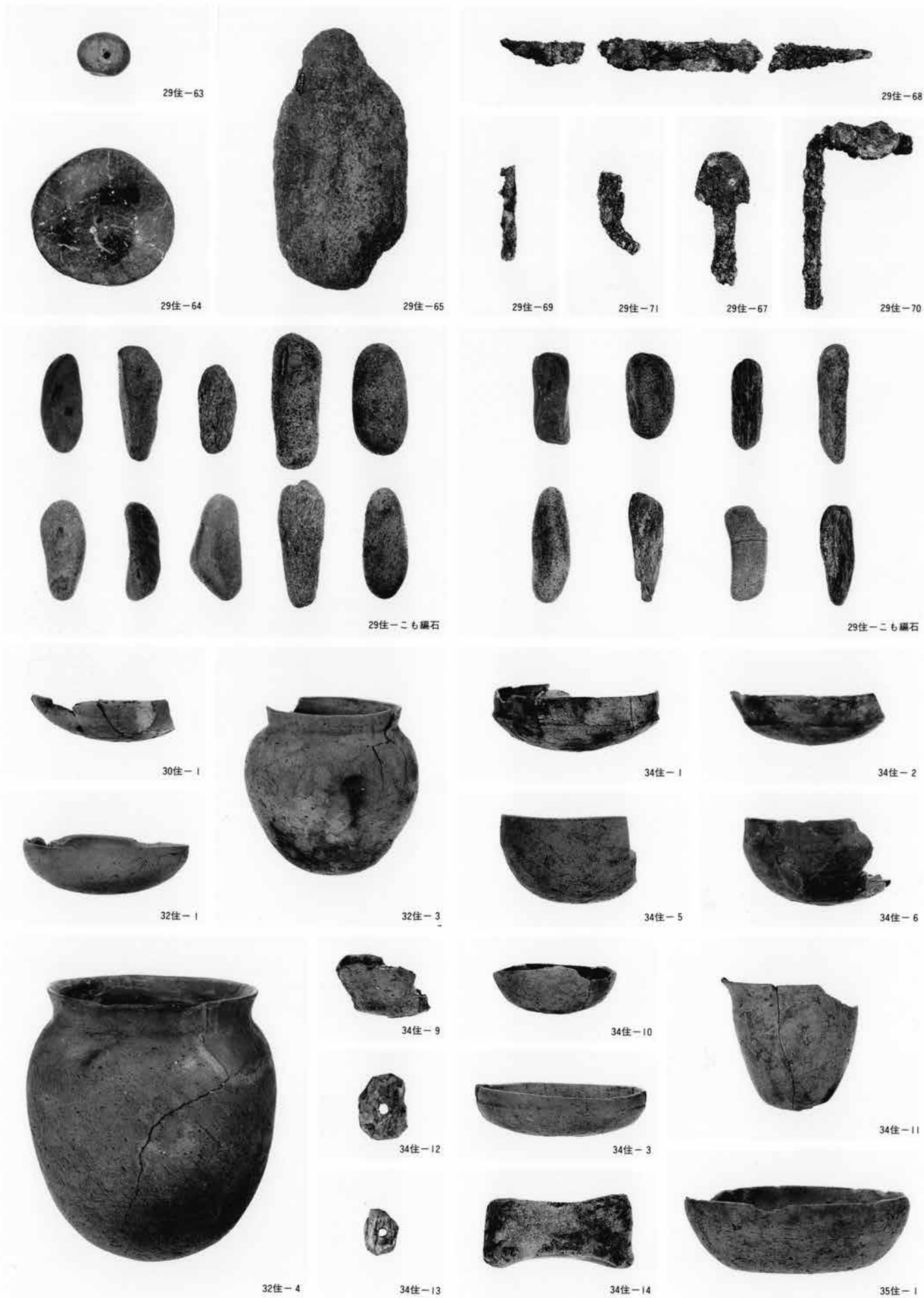
29住-56



29住-57



29住-62





35住-2



35住-3



35住-4



35住-5



35住-6



35住-8



35住-9



35住-10



35住-16



35住-12



35住-11



35住-14



36住-4



35住-15



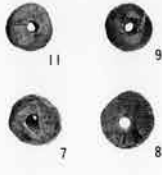
36住-6



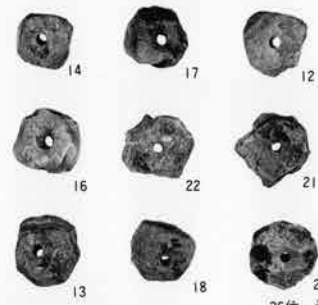
36住-5 表



36住-5 裏



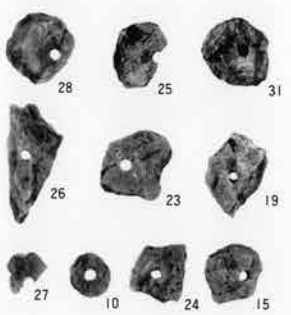
36住-滑石



36住-滑石



36住-40



36住-滑石



36住-滑石



36住-39



37住-1



37住-3



38住-1



37住-5



38住-6



38住-7



38住-4



38住-5



38住-滑石



39住-2



39住-3



39住-1



40住-2



40住-1



41住-5



41住-1



41住-4



41住-2



41住-6



41住-3



41住-7



41住-8



41住-10



41住-9



41住-11



42住-7



42住-4



42住-3



42住-1



42住-2



42住-8



42住-5



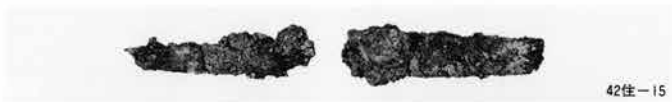
42住-6



42住-11



42住-9

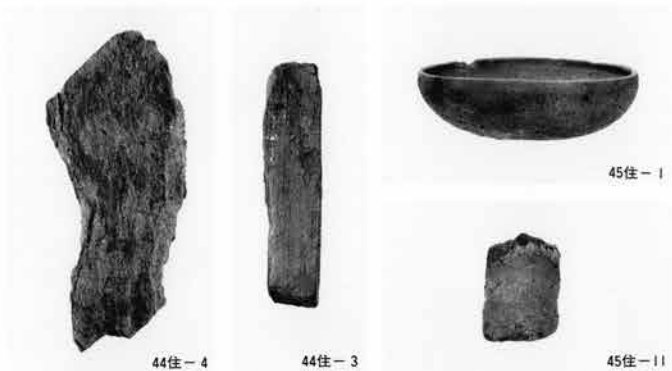


42住-15



42住-14

44住-5

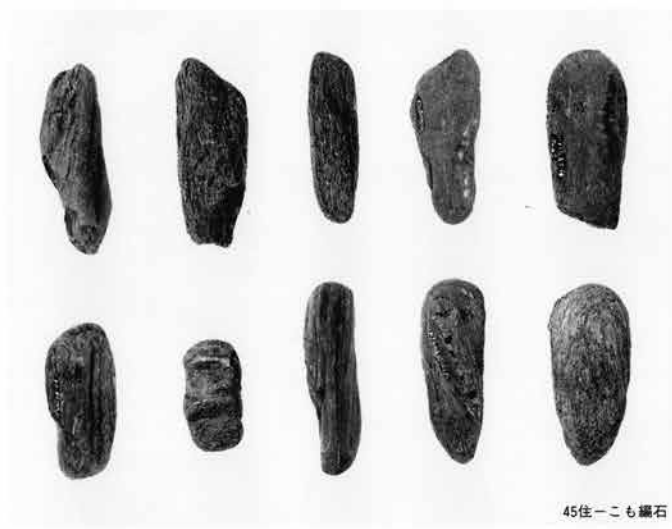


44住-4

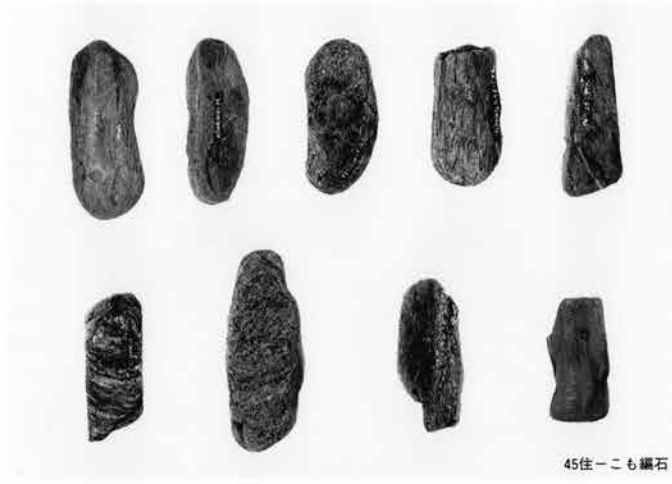
44住-3

45住-1

45住-11



45住-こも礫石



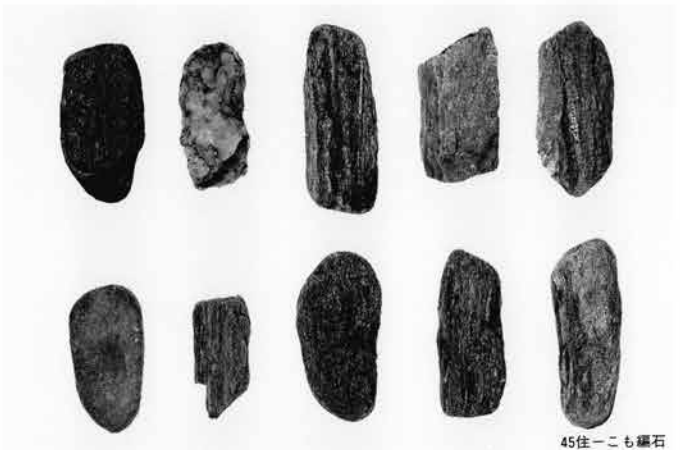
45住-こも礫石



46住-2

46住-4

46住-こも礫石



45住-こも礫石



45住-こも礫石



45住-9

121土坑-10



121土坑-4

121土坑-8

46住-3



47住-2

47住-3



47住-4



47住-6



49住-1



49住-3



47住-5



49住-2



49住-4



49住-6



49住-5



1墳-1



1墳-3



1墳-2



1墳-4



1墳-5



1墳-8



1墳-7裏



1墳-7表



1墳-6表



1墳-6裏



4墳-1



4墳-5



4墳-6



4墳-11



4墳-1



4墳-2



4墳-3



4墳-8



4墳-16



4墳-18



4墳-17



4墳-15



4墳-8



4墳-12



4墳-29



4墳-9



4墳-4



4墳-10



4墳-13



4 墳-23



4 墳-26



4 墳-27



4 墳-24



22



25



4 墳-20



4 墳-19



4 墳-21



30



14



4 墳-46



4 墳-45



4 墳-47

4 墳



4 墳-41



4 墳-42



4 墳-43



5 墳-1



36

33

40

34

39

38

32

35

37

4 墳



4 墳-48



4 墳-28



4 墳-49



5 墳-3



5 墳-2



5 墳-7



5 墳-3



5 墳-15



5 墳-4



5 墳-5



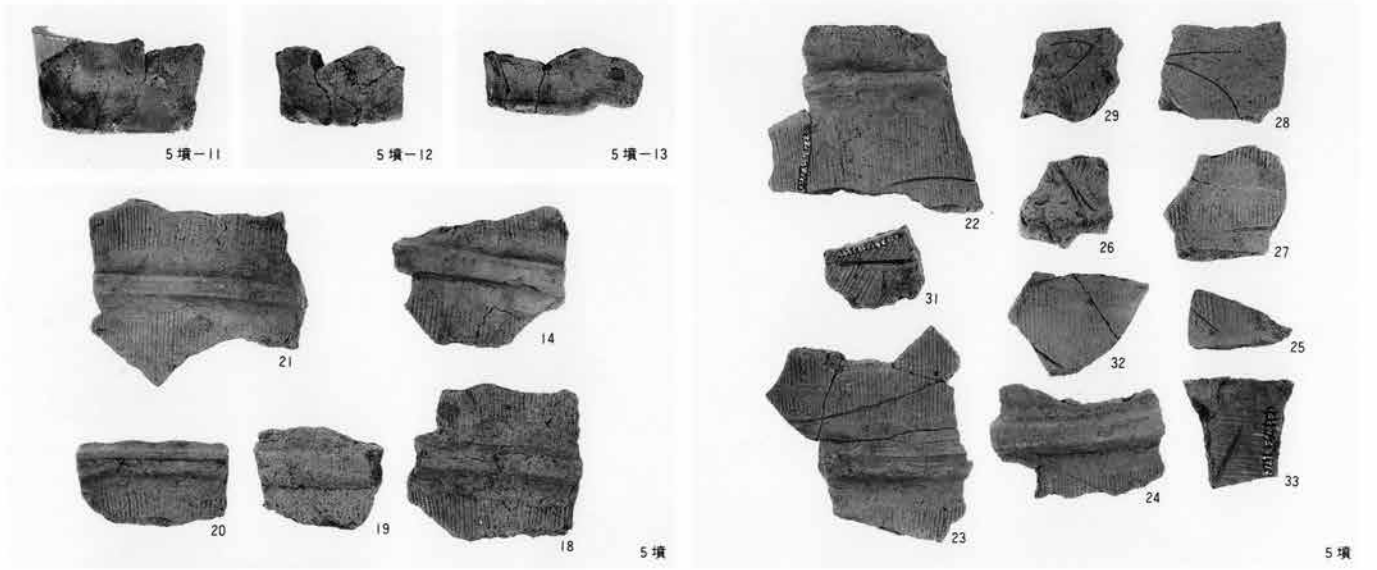
5 墳-8



5 墳-9



5 墳-10





5 墳-37



5 墳-34



5 墳-36



5 墳-54



5 墳-35



5 墳-47



縄文・遺構外-90



5 墳-48



5 墳-49



5 墳-50



5 墳-52



5 墳-51



5 墳-53表



5 墳-53裏



6 墳-8



6 墳-2



6 墳-1



6 墳-3



6 墳-6



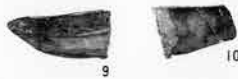
6 墳-7



6 墳-4



6 墳-5



6 墳



6 墳-11



6 墳-12



7 墳-1



2



3



4

7 墳



1窯-1



1窯-3



1窯-9



1窯-5



1窯-7



1窯-6



1窯-8



1窯-10



2窯-1



2窯-2



2窯-3



21土坑-1



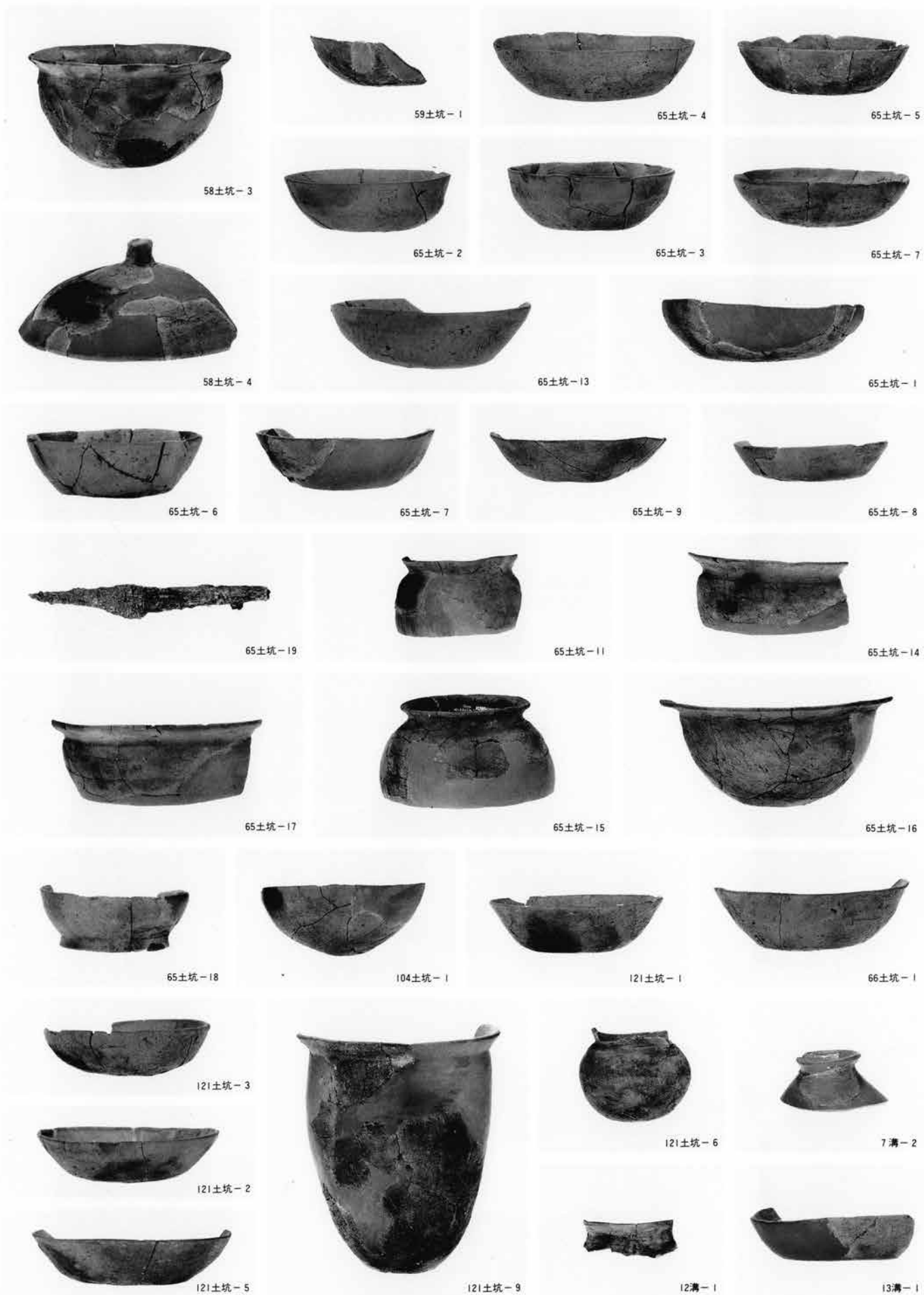
1土坑-1



46土坑-1



52土坑-1





2谷-1



2谷-8



2谷-5



2谷-3



2谷-9



2谷-2



2谷-13



2谷-20



2谷-21



2谷-14



2谷-6



2谷-12



2谷-18



2谷-22



2谷-16



2谷-11



2谷-26



2谷-4



2谷-17



2谷-7



2谷-24



2谷-19



2谷-10



2谷-27



2谷-25



2谷-23



2谷-28



2谷-25



2谷-29



2谷-31正面



2谷-31横



2谷-15



2谷-32正面



2谷-32横



2谷-30



2谷-1



2谷-2



2谷-3



2谷-5



2谷-7



2谷-4



2谷-6



2谷-8



2谷-9



2谷-10



2谷-11



2谷-13



2谷-14



2谷-16



2谷-52



2谷-15



2谷-17



2谷-18



2谷-19



2谷-20



2谷-21



2谷-23



2谷-25



2谷-27



2谷-28



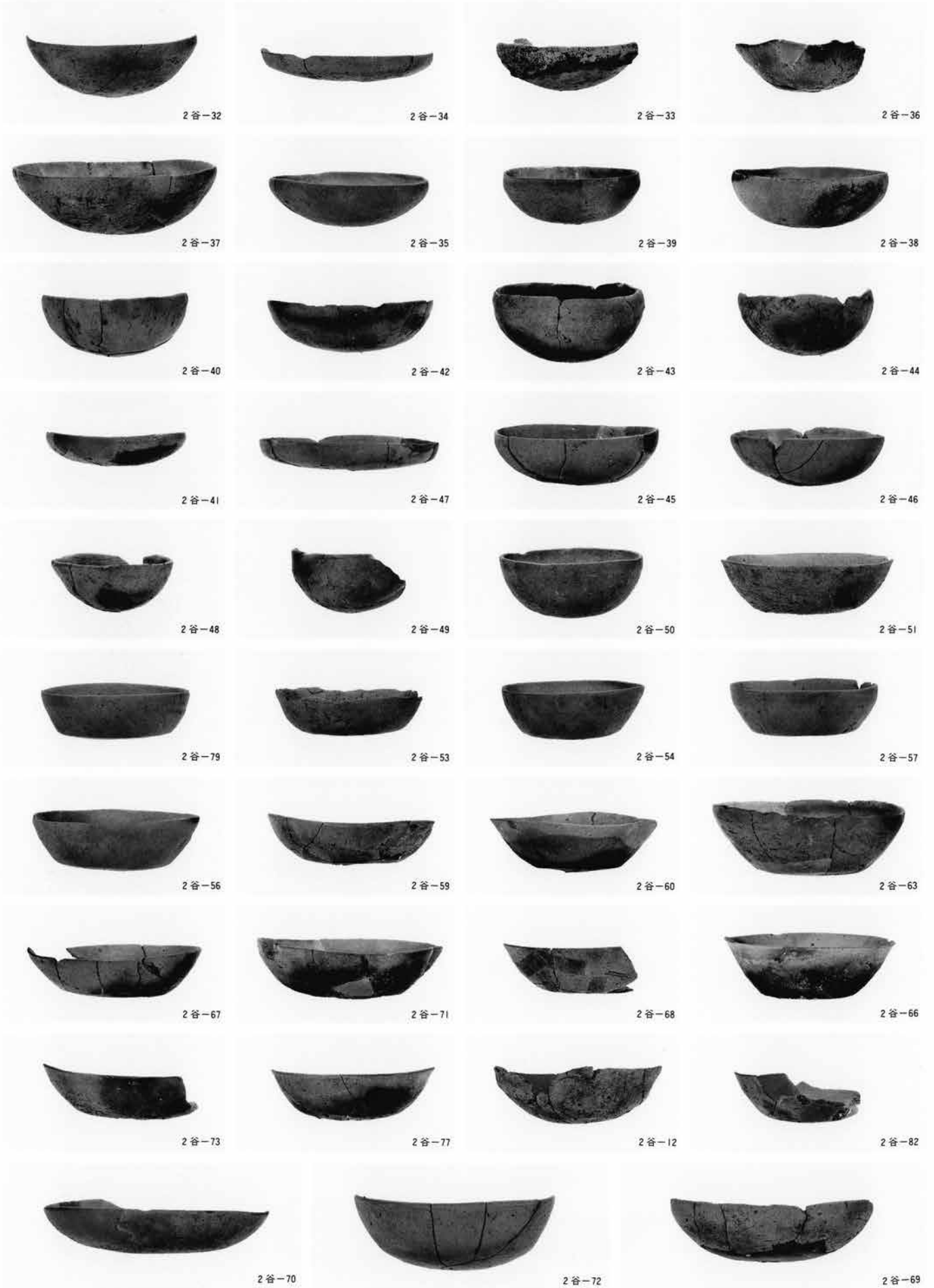
2谷-30

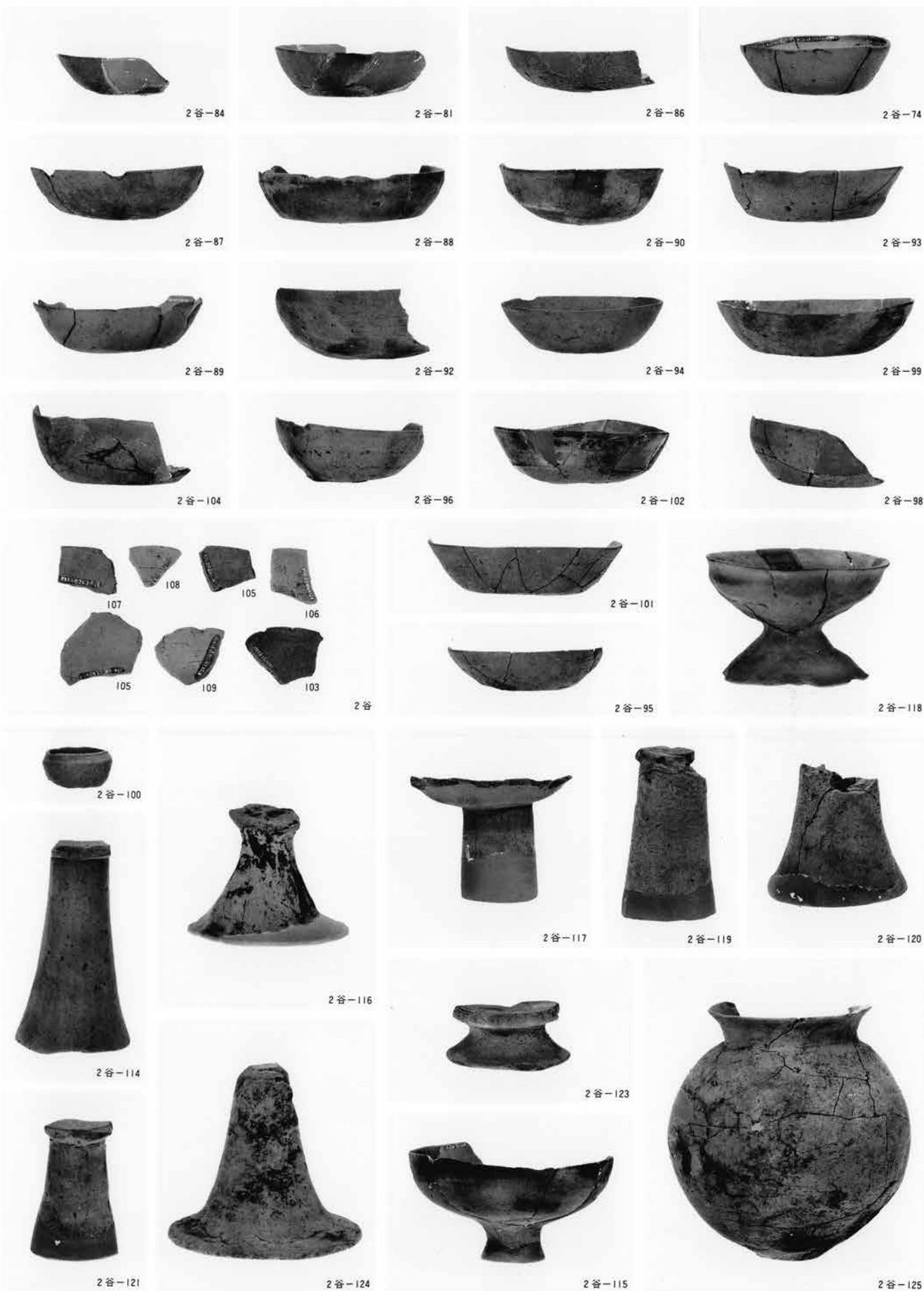


2谷-29



2谷-31







2谷-126



2谷-128



2谷-131



2谷-127



2谷-129



2谷-132



2谷-130



2谷-136



2谷-135



2谷-133



2谷-134



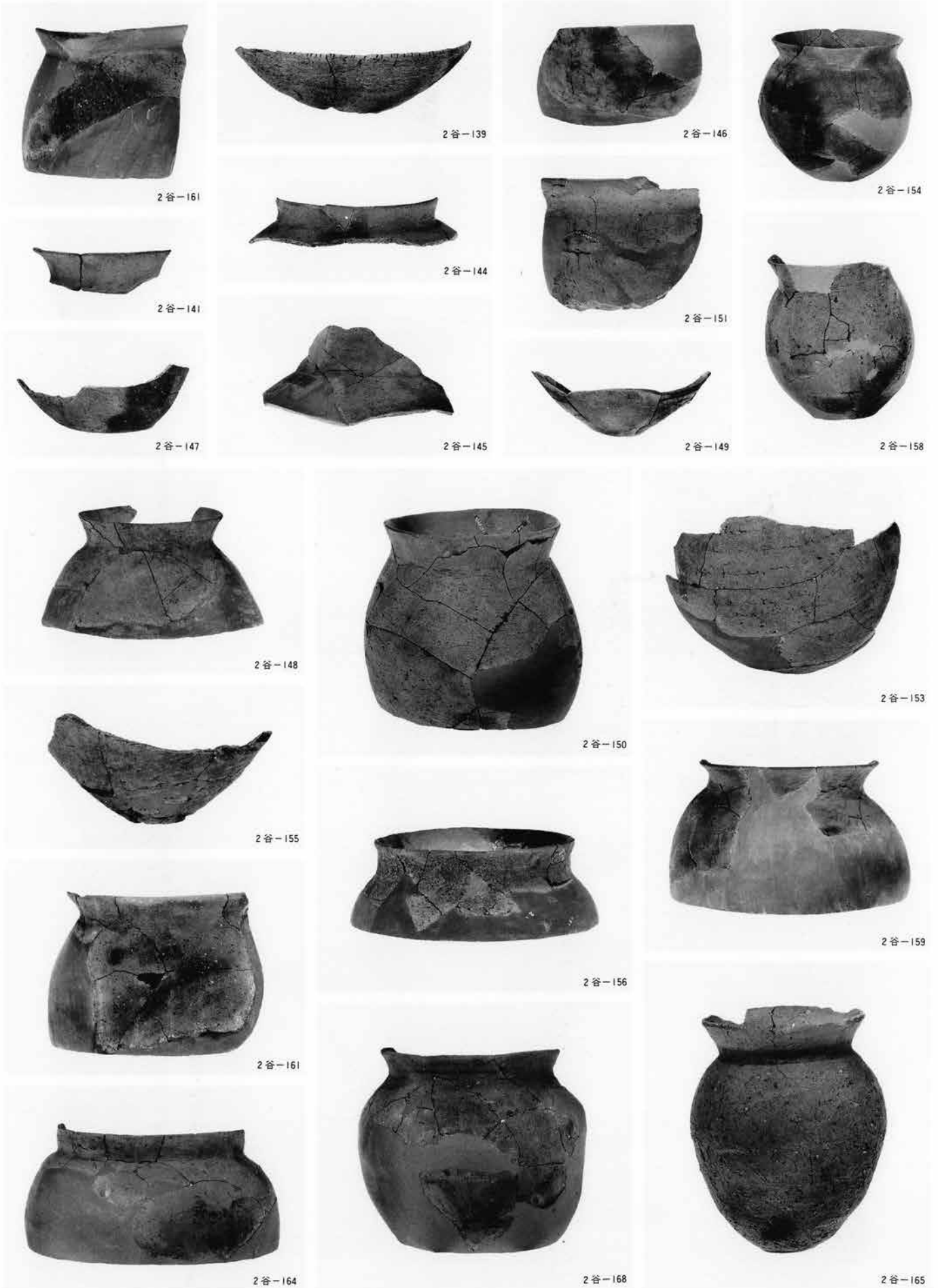
2谷-140

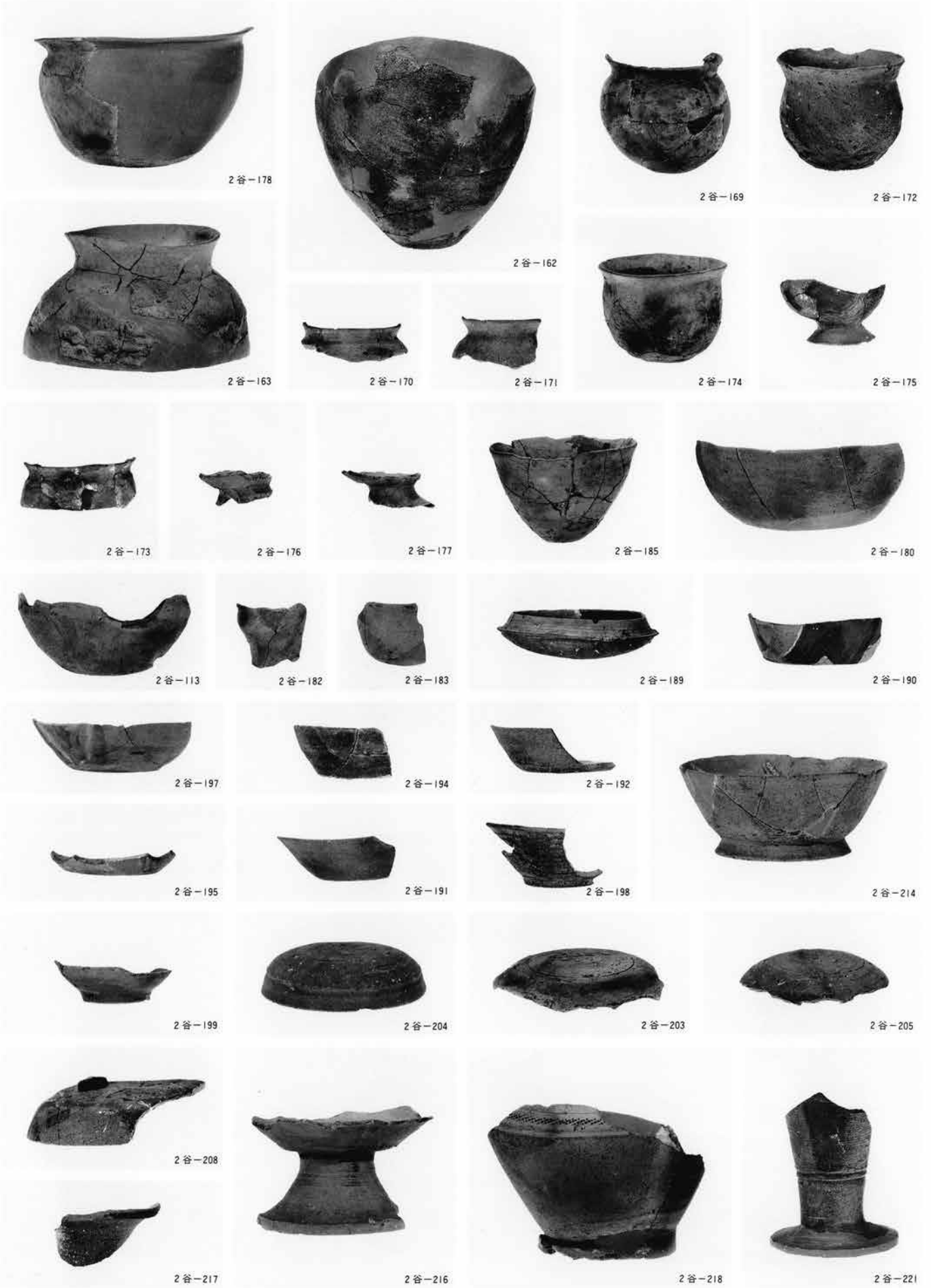


2谷-138



2谷-137







2谷-220



2谷-225



2谷-226



2谷-219



2谷-223



2谷-224



11住-9



2谷-227



233



231



230



2谷-228



2谷-232



229



2谷-234表



2谷-234裏

2谷



2井戸-1



2井戸-2



2井戸-4



2井戸-5



2井戸-3



2井戸-6



遺構外-12



遺構外-17



遺構外-2



遺構外-6



遺構外-10



遺構外-9



遺構外-11



遺構外-25



遺構外-35



遺構外-33



遺構外-20



遺構外-36



遺構外-39



遺構外-34



遺構外-28



遺構外-42



遺構外-46



近世遺構外-8



遺構外-43



遺構外-38



遺構外-59



73



70



71



遺構外-48



遺構外-78



74

遺構外-砥石



67



66



68



63



69



65



62



70



64

遺構外



遺構外-77



4土坑-1



遺構外-75



遺構外-76



4土坑-9



4土坑-4



4土坑-3



4土坑-7



4土坑-8



4土坑-11



5土坑-1



5土坑-2



4土坑-6



4土坑-5



5土坑-3



5土坑-4



5土坑-5



5土坑-6



5土坑-7



5土坑-8



5土坑-9



5土坑-10



5土坑-11



5土坑-12



5土坑-13



5土坑-14



5土坑-15



5土坑-16



5土坑-17



5土坑-18



9土坑-1



9土坑-2



9土坑-3



10土坑-1



10土坑-2



10土坑-3-2



10土坑-3-3



10土坑-3-4



10土坑-3-1



10土坑-4



12土坑-1



12土坑-2



12土坑-3



12土坑-4-1



12土坑-4-2



12土坑-4-3



12土坑-4-4



12土坑-4-5



12土坑-4-6



12土坑-4-7



12土坑-4-8



12土坑-5-1



12土坑-5-2



12土坑-5-3



12土坑-5-4



12土坑-5-5



12土坑-6



16土坑-5



16土坑-1



16土坑-2



16土坑-6-1



16土坑-6-2



16土坑-6-3



16土坑-3



16土坑-4



16土坑-8-4



16土坑-7



16土坑-8-1



16土坑-8-2



16土坑-8-3



16土坑-8-4



16土坑-8-5



16土坑-8-6



18土坑-4-1



18土坑-3



18土坑-1



18土坑-2



18土坑-4-2



18土坑-4-3



18土坑-4-4



18土坑-4-5



18土坑-5



19土坑-1-1



19土坑-1-2



19土坑-1-3



19土坑-1-4



19土坑-1-5



19土坑-1-6



19土坑-2-1



19土坑-2-2



19土坑-2-3



19土坑-2-4



19土坑-2-5



19土坑-2-6



20土坑-1



20土坑-2



20土坑-2-1



20土坑-2-0



20土坑-23-1



20土坑-23-2



20土坑-23-3



20土坑-23-4



20土坑-23-5



20土坑-24



24土坑-1



24土坑-2



25土坑-1



26土坑-1



26土坑-4



26土坑-3



26土坑-2



古墳-平安遺構外-73



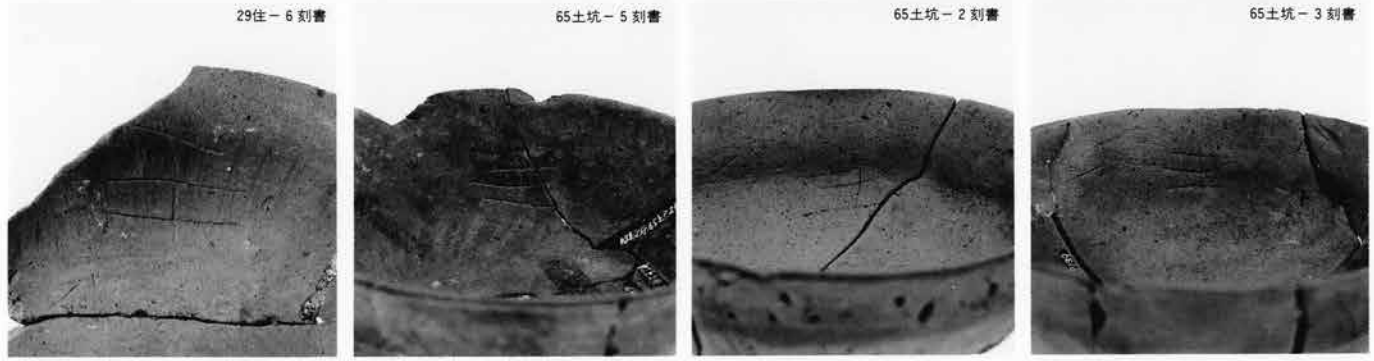
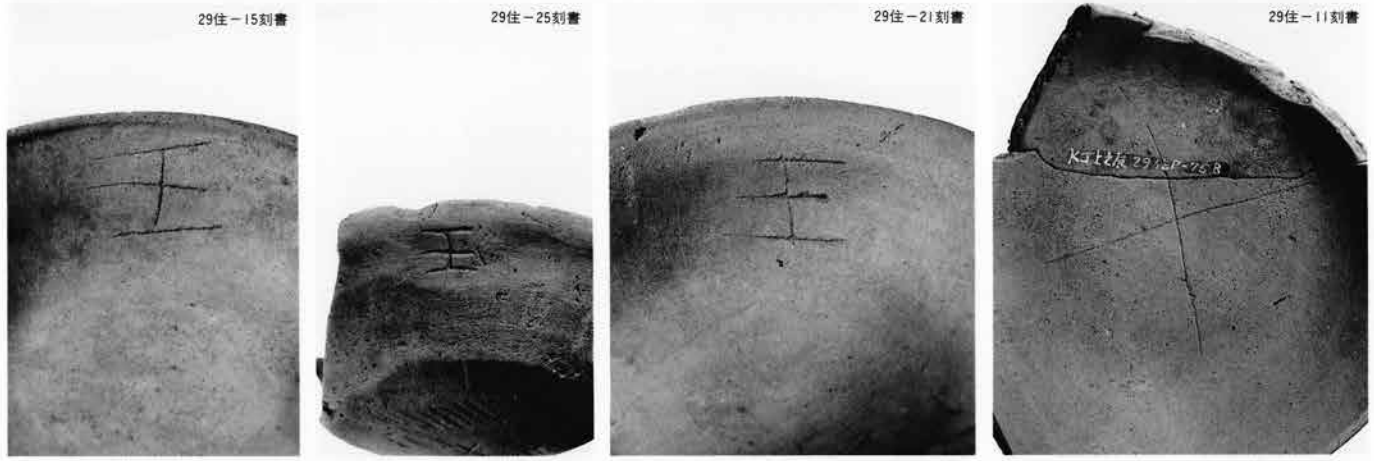
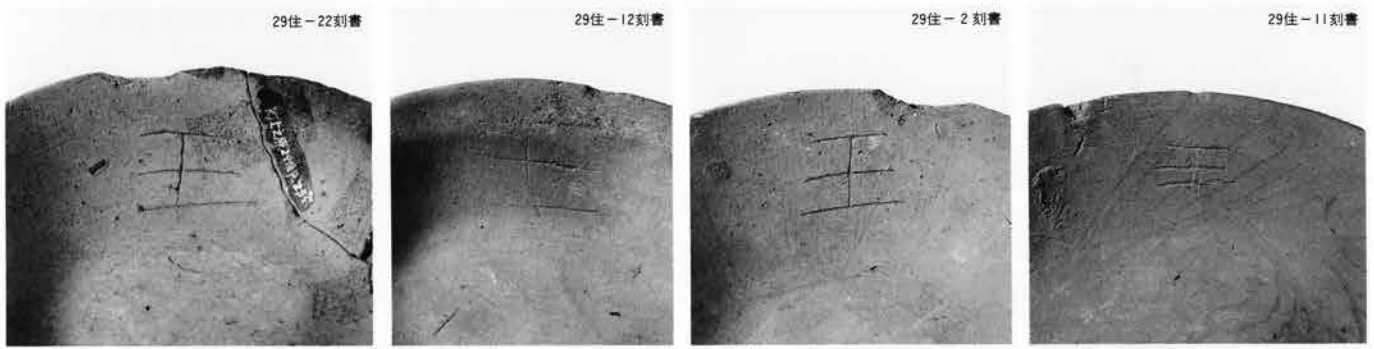
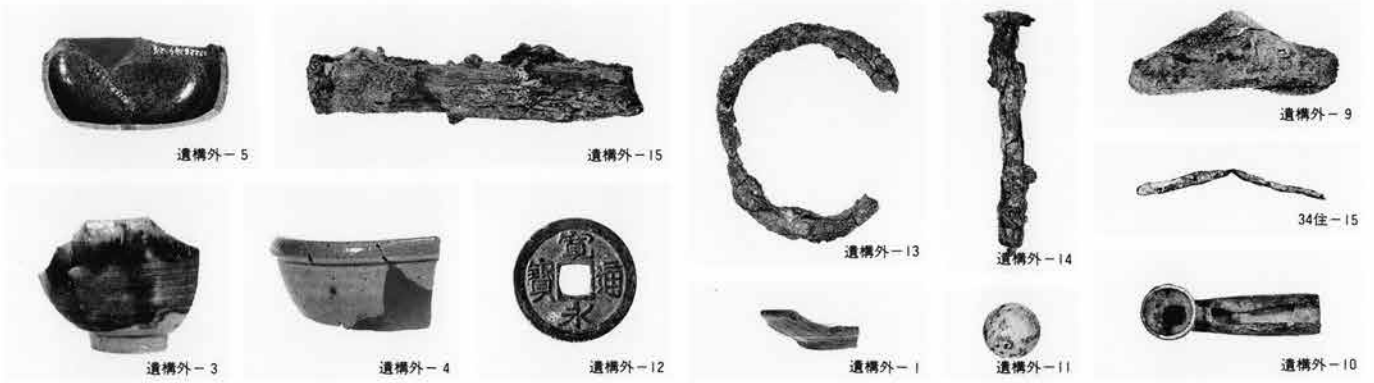
遺構外-6



遺構外-7



遺構外-5



121土坑-10刻书



121土坑-10刻书



65土坑-7刻书



65土坑-6刻书



2谷-75刻书

65土坑-7刻书



2谷-78刻书



2谷-83刻书



2谷-69刻书



121土坑-10刻书



群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第177集

下高瀬上之原遺跡

関越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第27集

平成6年3月19日 印刷

平成6年3月29日 発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村下箱田784-2

電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

勢多郡北橋村下箱田784-2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社

